岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第499集

里古屋遺跡発掘調査報告書

国道397号地域活性化支援事業関連遺跡発掘調査

2007

岩手県大船渡地方振興局土木部
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

里古屋遺跡発掘調査報告書

国道397号地域活性化支援事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県気仙郡住田町の国道397号地域活性化支援事業に関連して平成15～17年度の３ヵ年にわたって発掘調査を実施した、住田町里古屋遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で本遺跡は、縄文時代前期後葉から後期初頭に継続的に集落が営まれ、平安時代には集落、中世には堀跡が構築されていたことが明らかとなりました。中でもこの調査によって得られた出土遺物は、この時期の様相を考える上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県大船渡地方振興局土木部、住田町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年１月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　武田　牧雄

例　言

1．本報告書は、岩手県気仙郡住田町世田米字里古屋8番地の2、11･12番地ほかに所在する里古屋遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2．本遺跡の調査は、国道397号地域活性化支援事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県大船渡地方振興局土木部と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、大船渡地方振興局土木部の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3．本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号はNF14－2005、遺跡略号はSGY－03～05である。

4．野外調査及び室内整理期間、調査担当者は次の通りである。

野外調査　平成15年度　期　間　平成15年4月11日～9月16日
　　面　積　2,288㎡
　　担当者　北田　勲、坂部恵造
　平成16年度　期　間　平成16年5月21日～11月19日
　　面　積　3,011㎡
　　担当者　北田　勲、村田　淳
　平成17年度　期　間　平成17年4月8日～5月13日、6月20日～28日
　　面　積　916㎡
　　担当者　北田　勲、中村絵美
室内整理　平成15年度　期　間　平成15年11月1日～平成16年3月31日
　　担当者　北田　勲、坂部恵造
　平成16年度　期　間　平成16年11月1日～平成17年3月31日
　　担当者　北田　勲、村田　淳
　平成17年度　期　間　平成17年8月1日～平成18年3月31日
　　担当者　北田　勲

5．本報告書の作成は、北田勲・村田淳が本文原稿、遺構・遺物図化、中村絵美・坂部恵造が遺構図化(平成15･17年度整理分)を行った。またⅠ調査に至る経過は大船渡地方振興局土木部、附編 自然科学分析は1をパリノ･サーヴェイ株式会社、2を株式会社古環境研究所、3を第四紀地質研究所、4を古代の森研究舎が行った。全体の編集・校正は北田が行った。項目ごとの文責は文末に氏名を記した。また、必要に応じて編集者が一部加筆した箇所がある(文責記載有)。

6．遺物の分析・鑑定は次の機関等に委託した。

石器・石製品の石材鑑定　：　花崗岩研究会
火山灰同定分析　：　パリノ・サーヴェイ株式会社
放射性炭素年代測定　：　株式会社古環境研究所
黒曜石産地同定分析　：　株式会社第四紀地質研究所
炭化種実同定分析　：　古代の森研究舎

7．座標原点の測量及び空中写真撮影は次の機関に委託した。

座標原点の測量　：　株式会社菊池技研コンサルタント
航空写真撮影　：　東邦航空株式会社

8．本書では、国土地理院発行の以下の地形図･地勢図を使用した。

1/50,000地形図 人首・陸中大原・遠野・盛、1/200,000地勢図 一関

9．野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関・方々から御指導・ご助言をいただいた(敬称略・五十音順)。

相原淳一（宮城県文化財保護課)、菊池隆（住田町)、日下和寿（宮城県白石市教育委員会)、小林正史（北陸短期大学)、三好秀樹（宮城県文化財保護課)、住田町教育委員会

10．発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

11．調査成果の一部については、現地説明会資料（平成15～16年度)・現地公開資料（平成17年度)・遺跡報告会資料（平成16年度)・所報わらびて（109号)・岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成15～17年度）等に発表してきたが、本書の記載内容が優先するものである。

凡　例

1．遺構図の用例は次の通りである（凡例図参照)。

(1) 遺構実測図の縮尺は竪穴住居跡・竪穴住居状遺構の平面・断面図1/60、竪穴住居跡の炉1/30、焼土遺構の平面・断面図1/20、土器埋設遺構の平面・断面図1/20、土坑の平面・断面図1/40、堀跡・溝跡の平面形1/50･1/100、断面形1/60、ピットの平面・断面図1/40、井戸跡の平面・断面図1/40で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

(2) 推定線は破線で表した。また、重複遺構については実線・破線で表した。

(3) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土等にアラビア数字を使用した。

(4) 土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

(5) 遺構図中の「P」は土器、「S」は石器または礫を表している。また、遺物には番号を付した。

2．遺物実測図の用例は次の通りである（凡例図参照)。

(1) 遺物実測図の縮尺は縄文土器1/3、土製品2/3、石器（剥片）2/3、石器（礫）1/3、石製品2/3、土師器･陶磁器1/2、金属製品1/2、銭貨1/1で表した。ただし法量の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

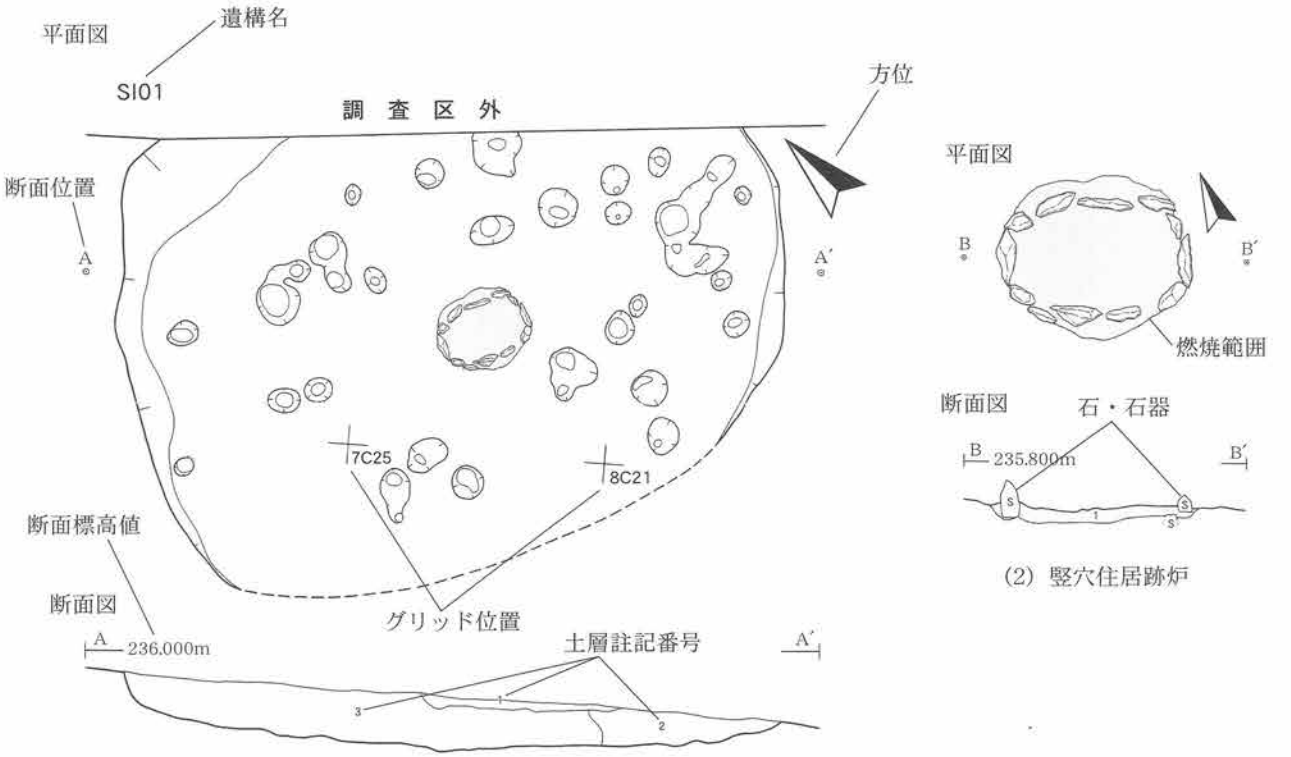
(2) 剥片石器については、折れ面が存在する場合、その部分の実測図も付した。

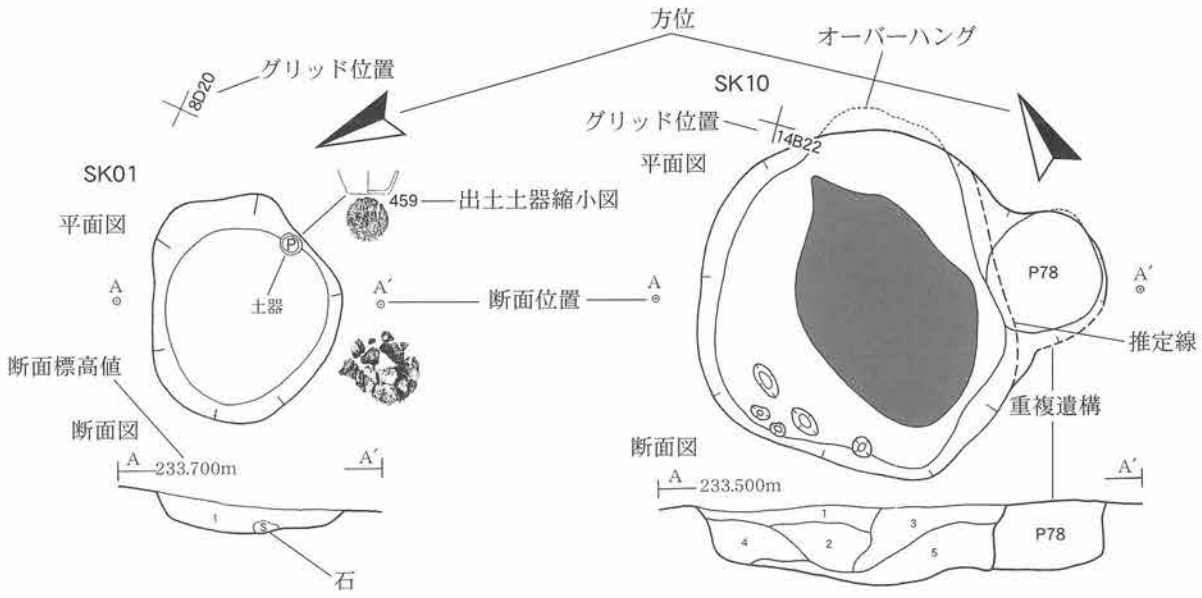
(3) 礫石器の磨痕については、スクリーントーンで示した。また、敲打痕についても、実測図で表現できない場合についてはスクリーントーンで示した。

3．写真図版の用例は次の通りである。

(1) 遺構写真図版については基本的に平面及び断面写真をセットとし、遺構種別に合わせて遺物出土状況などを掲載した。

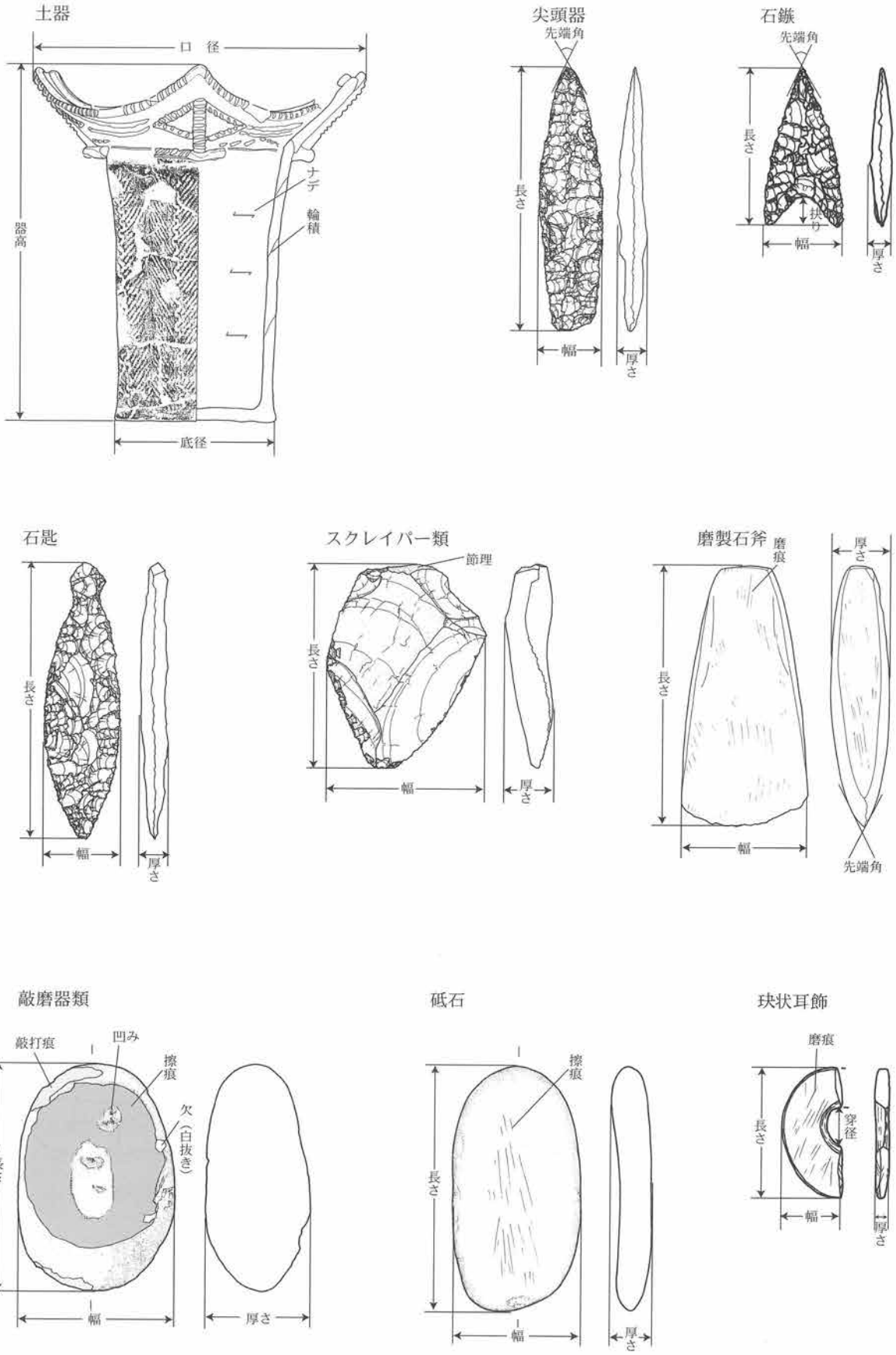
(2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じている。撮影面はほとんどの場合１面のみとしているが、正面のほかに裏面などを撮影し、掲載したものもある。





焼土（強変）　焼土（弱変）　炭化物

遺構　凡例図


土器
口径
器高
ナデ
輪積
底径
尖頭器
先端角
長さ
幅
厚さ
石鏃
先端角
長さ
抉り
幅
厚さ
石匙
長さ
幅
厚さ
スクレイパー類
節理
長さ
幅
厚さ
磨製石斧
磨痕
厚さ
長さ
幅
先端角
敲磨器類
敲打痕
凹み
擦痕
欠（白抜き）
長さ
幅
厚さ
砥石
擦痕
長さ
幅
厚さ
玦状耳飾
磨痕
長さ
穿径
幅
厚さ

遺物　凡例図

目　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2

1　遺跡の位置 …… 2

2　地理的環境 …… 2

3　歴史的環境 …… 3

4　基本層序と調査区内の地形 …… 3

Ⅲ　調査と整理の方法 …… 8

1　野外調査方法 …… 8

（1）グリッド設定 …… 8

（2）年度別調査範囲 …… 8

（3）試掘調査 …… 10

（4）重機及び人力による粗掘・遺構検出 …… 10

（5）遺構の調査方法 …… 11

（6）遺物の取り上げ方 …… 11

2　整理方法 …… 11

（1）遺構 …… 11

（2）遺物（a.土器　b.石器） …… 12

（3）掲載図版の構成 …… 12

3　野外調査経過 …… 12

Ⅳ　遺物分類 …… 15

1　縄文土器 …… 15

2　土製品 …… 20

3　石器 …… 20

4　石製品 …… 25

5　土師器 …… 25

6　陶磁器 …… 25

7　金属製品 …… 25

8　銭貨 …… 25

9　動物遺存体 …… 25

10　植物遺存体 …… 25

Ⅴ 検 出 遺 構 ……26
1 記 述 方 法 ……26
（1）基 本 方 針 ……26
（2）平面・断面形態について（①平面形態 ②断面形態） ……26
（3）図化の方法（①全体図 ②個別図） ……26
2 遺 構 ……34
（1）竪 穴 住 居 跡 ……35
（2）住 居 状 遺 構 ……79
（3）土 坑 ……86
（4）土器埋設遺構 ……108
（5）配 石 遺 構 ……109
（6）焼土跡・炉跡 ……110
（7）堀 跡 ・ 溝 跡 ……116
（8）墓 坑 ……124
（9）井 戸 跡 ……126
（10）石 組 遺 構 ……126
（11）採 掘 坑 ……126
（12）ピ ッ ト ……128
（13）B区14C12～19Ⅲ層上面～上位遺物集中 ……132
Ⅵ 出 土 遺 物 ……133
1 縄 文 土 器 ……133
（1）土器重量分布 ……133
（2）群 別 土 器 ……139
（3）土器の個体数 ……144
（4）土 器 の 容 量 ……145
（5）縄文原体の種類 ……146
（6）縄文原体の幅 ……149
（7）底 部 痕 跡 ……149
2 土 製 品 ……206
（1）土 製 耳 飾 ……206
（2）土器片円盤 ……206
（3）焼 粘 土 塊 ……206
3 石 器 ……212
（1）尖 頭 器 ……212
（2）石 鏃 ……213
（3）石 錐 ……217
（4）石 匙 ……218
（5）篦 状 石 器 ……220
（6）楔 形 石 器 ……221
（7）スクレイパー類 ……222
（8）二次加工ある剥片 ……223
（9）微細剥離痕ある剥片 ……224
（10）石 核 ……225
（11）剥 片 ……226

(12) 石　斧　類 ……231
(13) 礫　器　類 ……233
(14) 敲 磨 器 類 ……235
(15) 礫　石　錘 ……236
(16) 石 皿 台 石 類 ……237
(17) 砥　　石 ……238
(18) 浮　　子 ……239
(19) 球　　石 ……239

4 石　製　品 ……285
(1) 石　棒　類 ……285
(2) 丸　　玉 ……285
(3) 玦 状 耳 飾 ……285
(4) 不明抉入石器 ……286

5 その他の遺物 ……286
(1) 土　師　器 ……286
(2) 陶　磁　器 ……286
(3) 金 属 製 品 ……286
(4) 銭　　貨 ……286
(5) 動 物 遺 存 体 ……287
(6) 植 物 遺 存 体 ……287

Ⅶ 調査のまとめ ……367

1 遺　　構 ……367
(1) 縄 文 時 代 ……367
(2) 平 安 時 代 ……378
(3) 中 世 以 降 ……379

2 遺　　物 ……382
(1) 縄 文 土 器 ……382
(2) 石　　器 ……388

終わりに ……390

引用参考文献・論文 ……390

附編 自然科学分析 ……393
1 火山灰同定分析 ……395
2 放射性炭素年代測定 ……400
3 黒曜石産地同定分析 ……402
4 炭化種実同定分析 ……412

報告書抄録 ……577

表 目 次

第１表　周辺の遺跡分布表 …… 4
第２表　基準点位置 …… 8
第３表　遺構略号表 ……11
第４表　年度別出土土器重量表 ……133
第５表　土器容量集計表 ……145
第６表　縄文原体集計表 ……147
第７表　原体幅計測表 ……149
第８表　底部痕跡分類表 ……150
第９表　尖頭器分類別石材表 ……212
第10表　尖頭器分類別先端角集計表 ……212
第11表　石鏃分類別抉り部集計表 ……213
第12表　石鏃先端角集計表 ……215
第13表　石鏃分類別石材表 ……216
第14表　石錐先端角集計表 ……217
第15表　石錐分類別石材表 ……217
第16表　石匙刃角集計表 ……219
第17表　石匙分類別石材表 ……219
第18表　篦状石器刃角集計表 ……220
第19表　篦状石器分類別石材表 ……220
第20表　楔形石器分類別石材表 ……221
第21表　スクレイパー類刃角集計表 ……222
第22表　スクレイパー類分類別石材表 ……223
第23表　二次加工ある剥片刃角集計表 ……223
第24表　二次加工ある剥片分類別石材表 ……224
第25表　微細剥離痕ある剥片分類別石材表 ……225
第26表　石核分類別石材表 ……226
第27表　剥片石材別個数集計表 ……227
第28表　剥片石材別重量表 ……227
第29表　剥片石材別剥離角計測可能個数 ……231
第30表　剥片石材別剥離角平均 ……231
第31表　石斧類刃角集計表 ……232
第32表　石斧類分類別石材表 ……232
第33表　礫器類分類別石材表 ……235
第34表　敲磨器類分類別石材表 ……236
第35表　敲磨器類分類別個数 ……235
第36表　礫石錘分類別石材表 ……238
第37表　石皿台石類分類別石材表 ……238
第38表　石棒類分類別石材表 ……285
第39表　竪穴住居跡観察表 ……294
第40表　住居状遺構観察表 ……294
第41表　土坑観察表 ……296
第42表　土器埋設遺構観察表 ……296
第43表　配石遺構観察表 ……296
第44表　焼土跡・炉跡観察表 ……297
第45表　堀跡・溝跡観察表 ……297
第46表　墓坑観察表 ……297
第47表　井戸跡観察表 ……297
第48表　ピット観察表 ……298
第49表　遺構内ピット観察表 ……303
第50表　土器観察表 ……306
第51表　土製品観察表 ……352
第52表　尖頭器観察表 ……354
第53表　石鏃観察表 ……354
第54表　石錐観察表 ……357
第55表　石匙観察表 ……357
第56表　篦状石器観察表 ……358
第57表　楔形石器観察表 ……358
第58表　スクレイパー類観察表 ……359
第59表　二次加工ある剥片観察表 ……359
第60表　微細剥離痕ある剥片観察表 ……360
第61表　石核観察表 ……360
第62表　剥片観察表 ……360
第63表　石斧類観察表 ……360
第64表　礫器類観察表 ……361
第65表　敲磨器類観察表 ……361
第66表　砥石観察表 ……362
第67表　礫石錘観察表 ……362
第68表　石皿台石類観察表 ……363
第69表　浮子観察表 ……363
第70表　石棒類観察表 ……363
第71表　丸玉・玦状耳飾・不明抉入石器観察表 ……363
第72表　土師器観察表 ……364
第73表　陶磁器観察表 ……364

第74表　金属製品観察表 ……364
第75表　銭貨観察表 ……364
第76表　産地同定黒曜石観察表 ……365
第77表　気仙郡主要中世城館 ……381
第78表　Ⅳ群土器共伴関係 ……385
第79表　Ⅶ群土器共伴関係 ……387
第80表　石器石材分類別組成表 ……389

図　版　目　次

遺構・遺物凡例図

第１図　岩手県図・遺跡位置図 …… 1
第２図　周辺の遺跡分布図 …… 5
第３図　基本層序模式図 …… 6
第４図　Ⅱ・Ⅲ層分布範囲 …… 6
第５図　基本層序 …… 7
第６図　グリッド配置図 …… 9
第７図　年度別調査配置図 ……10
第８図　Ⅲ群土器器形模式図 ……15
第９図　Ⅳ群土器器形模式図 ……16
第10図　Ⅴ群土器器形模式図 ……17
第11図　Ⅵ群土器器形模式図 ……18
第12図　Ⅶ群土器器形模式図 ……18
第13図　Ⅸ群土器器形模式図 ……19
第14図　石鏃側縁形態模式図 ……20
第15図　石斧Ⅰ類基部形態模式図 ……22
第16図　石斧類刃部形状模式図 ……22
第17図　石斧Ⅰ類欠損状況模式図 ……23
第18図　遺構配置図(全体) ……27
第19図　遺構配置図(Ａ区) ……28
第20図　遺構配置図(Ａ区) ……29
第21図　遺構配置図(Ｂ区) ……30
第22図　遺構配置図(Ｂ区) ……31
第23図　遺構配置図(Ｃ区) ……32
第24図　遺構配置図(Ｃ・Ｄ区) ……33
第25図　SI01竪穴住居跡 ……35
第26図　SI02・03竪穴住居跡 SX02住居状遺構 ……37
第27図　SI04～06竪穴住居跡 ……41
第28図　SI07・08竪穴住居跡 ……43
第29図　SI09・11・12竪穴住居跡 ……45
第30図　SI10・15竪穴住居跡 ……47
第31図　SI13・14竪穴住居跡 ……50
第32図　SI16竪穴住居跡 ……52
第33図　SI17竪穴住居跡 ……54
第34図　SI18・19竪穴住居跡 ……56
第35図　SI20・36竪穴住居跡 ……58
第36図　SI21・24竪穴住居跡 ……60
第37図　SI22・23竪穴住居跡 ……62
第38図　SI25・26・37竪穴住居跡 ……66
第39図　SI25・26竪穴住居跡 ……67
第40図　SI27竪穴住居跡 ……68
第41図　SI28・29竪穴住居跡 ……70
第42図　SI30～33竪穴住居跡 ……73
第43図　SI34・38竪穴住居跡 ……76
第44図　SI34・38竪穴住居跡 ……77
第45図　SI35竪穴住居跡 ……78
第46図　SX01・03住居状遺構 ……80
第47図　SX04・05住居状遺構 ……82
第48図　SX06・07住居状遺構 ……84
第49図　SX08住居状遺構 ……85
第50図　SK01～06土坑 ……88
第51図　SK07～13土坑 ……90
第52図　SK14～20土坑 ……94
第53図　SK21～26土坑 ……97
第54図　SK27～33土坑 ……100
第55図　SK34～38土坑 ……102
第56図　SK39～43土坑 ……105
第57図　SK44～47土坑 ……107
第58図　SR01・02土器埋設遺構 SH01配石遺構 ……109
第59図　SF01～11焼土跡 ……112
第60図　SF12炉跡・SF13～18焼土跡 ……114

第61図　SF19～24焼土跡 ……115
第62図　SD01～03・05・06溝跡 ……117
第63図　SD04堀跡 ……119・120
第64図　SD07堀跡 ……123
第65図　SE01井戸跡 SZ01・02墓坑 ……125
第66図　26C区石組遺構 ……127
第67図　P84・129・131・142・164ピット ……129
第68図　B区14C12～19Ⅲ層上面～上位遺物集中 ……131
第69図　竪穴住居跡出土土器重量図 ……133
第70図　住居状遺構出土土器重量図 ……134
第71図　土坑出土土器重量図 ……134
第72図　土器重量分布図（全体） ……135
第73図　土器重量分布図（Ⅰ層） ……136
第74図　土器重量分布図（Ⅱ層） ……137
第75図　土器重量分布図（Ⅲ層） ……138
第76図　土器容量分布図 ……146
第77図　特徴のある縄文原体 ……148
第78図　掲載土器底部痕跡割合 ……149
第79図　Ⅰ類網代分類模式図（1） ……151
第80図　Ⅰ類網代分類模式図（2） ……152
第81図　SI01～04竪穴住居跡土器 ……153
第82図　SI04～06竪穴住居跡土器 ……154
第83図　SI06竪穴住居跡土器 ……155
第84図　SI06・08竪穴住居跡土器 ……156
第85図　SI07～10・15竪穴住居跡土器 ……157
第86図　SI10～12・15竪穴住居跡土器 ……158
第87図　SI12・13竪穴住居跡土器 ……159
第88図　SI12～14竪穴住居跡土器 ……160
第89図　SI13～16竪穴住居跡土器 ……161
第90図　SI16・17竪穴住居跡土器 ……162
第91図　SI17竪穴住居跡土器 ……163
第92図　SI17竪穴住居跡土器 ……164
第93図　SI17竪穴住居跡土器 ……165
第94図　SI17竪穴住居跡土器 ……166
第95図　SI17・18竪穴住居跡土器 ……167
第96図　SI18・19竪穴住居跡土器 ……168
第97図　SI18・19竪穴住居跡土器 ……169
第98図　SI18～20竪穴住居跡土器 ……170
第99図　SI20～22竪穴住居跡土器 ……171
第100図　SI22・23竪穴住居跡土器 ……172
第101図　SI25竪穴住居跡土器 ……173
第102図　SI26～28竪穴住居跡土器 ……174
第103図　SI28～31竪穴住居跡土器 ……175
第104図　SI30～34竪穴住居跡土器 ……176
第105図　SI34竪穴住居跡土器 ……177
第106図　SI34竪穴住居跡土器 ……178
第107図　SI36～38竪穴住居跡土器 ……179
第108図　SX01～04住居状遺構土器 ……180
第109図　SX05・06住居状遺構土器 ……181
第110図　SX06・07住居状遺構土器 ……182
第111図　SX07住居状遺構土器 ……183
第112図　SK01・03・04・06・08～11・13～17・19土坑土器 ……184
第113図　SK20～27土坑土器 ……185
第114図　SK29～31・34・38～40・45・47土坑土器 ……186
第115図　SR01・02土器埋設遺構 SD04堀跡土器 ……187
第116図　SD04堀跡土器 ……188
第117図　SD04堀跡土器 ……189
第118図　SD04・07堀跡土器 ……190
第119図　P73～75・81・82・84・85・87・121・142・152・164・178・208ピット土器 ……191
第120図　採掘坑・撹乱・Ⅰ層土器（1） ……192
第121図　Ⅰ層土器（2） Ⅱ層土器（1） ……193
第122図　Ⅱ層土器（2） ……194
第123図　Ⅱ層土器（3） Ⅲ層土器（1） ……195
第124図　Ⅲ層土器（2） ……196
第125図　Ⅲ層土器（3） ……197
第126図　Ⅲ層土器（4） ……198
第127図　Ⅲ層土器（5） ……199
第128図　Ⅲ層土器（6） ……200
第129図　Ⅲ層土器（7） ……201
第130図　Ⅲ層土器（8） ……202
第131図　Ⅲ層土器（9） ……203
第132図　Ⅲ層土器（10） ……204
第133図　Ⅲ層土器（11） 撹乱土器（1） ……205
第134図　撹乱土器（2） ……206
第135図　土器底部（1） ……207

第136図　土器底部（２）……208
第137図　土器底部（３）……209
第138図　土器底部（４）……210
第139図　土製品……211
第140図　尖頭器長幅比率……212
第141図　石鏃長幅比率……214
第142図　石錐長幅比率……217
第143図　石匙長幅比率……218
第144図　篦状石器長幅比率……220
第145図　楔形石器長幅比率……221
第146図　スクレイパー類長幅比率……222
第147図　二次加工ある剥片長幅比率……223
第148図　微細剥離痕ある剥片長幅比率……225
第149図　石核長幅比率……226
第150図　剥片長幅比率（１）……228
第151図　剥片長幅比率（２）……229
第152図　剥片長幅比率（３）……230
第153図　石斧類長幅比率……232
第154図　礫器類長幅比率……233
第155図　敲磨器類長幅比率……234
第156図　礫石錘長幅比率……237
第157図　礫石錘重量分布図……237
第158図　石皿台石類長幅比率……237
第159図　砥石長幅比率……238
第160図　球石長幅比率……239
第161図　尖頭器（１）……240
第162図　尖頭器（２）……241
第163図　尖頭器（３）石鏃（１）……242
第164図　石鏃（２）……243
第165図　石鏃（３）……244
第166図　石鏃（４）……245
第167図　石鏃（５）……246
第168図　石鏃（６）石錐（１）……247
第169図　石錐（２）石匙（１）……248
第170図　石匙（２）……249
第171図　石匙（３）……250
第172図　石匙（４）……251
第173図　石匙（５）……252
第174図　篦状石器（１）……253
第175図　篦状石器（２）楔形石器……254
第176図　スクレイパー類（１）……255
第177図　スクレイパー類（２）……256
第178図　スクレイパー類（３）……257
第179図　スクレイパー類（４）二次加工ある剥片（１）……258
第180図　二次加工ある剥片（２）……259
第181図　二次加工ある剥片（３）……260
第182図　二次加工ある剥片（４）……261
第183図　微細剥離痕ある剥片（１）……262
第184図　微細剥離痕ある剥片（２）石核（１）……263
第185図　石核（２）……264
第186図　石核（３）剥片……265
第187図　石斧類（１）……266
第188図　石斧類（２）……267
第189図　石斧類（３）……268
第190図　石斧類（４）……269
第191図　礫器類（１）……270
第192図　礫器類（２）……271
第193図　礫器類（３）敲磨器類（１）……272
第194図　敲磨器類（２）……273
第195図　敲磨器類（３）……274
第196図　敲磨器類（４）……275
第197図　敲磨器類（５）……276
第198図　敲磨器類（６）……277
第199図　敲磨器類（７）……278
第200図　敲磨器類（８）……279
第201図　敲磨器類（９）……280
第202図　砥石 礫石錘（１）……281
第203図　礫石錘（２）……282
第204図　石皿・台石類（１）……283
第205図　石皿・台石類（２）浮子……284
第206図　石棒類長幅比率……285
第207図　石製品（１）……288
第208図　石製品（２）……289
第209図　石製品（３）……290
第210図　陶磁器 金属製品……291
第211図　銭貨……292
第212図　遺構重複関係図……367
第213図　竪穴住居跡柱穴配置想定図（１）……370

第214図　竪穴住居跡柱穴配置想定図（２）……371
第215図　竪穴住居跡柱穴配置想定図（３）……372
第216図　時期別遺構配置図　……377
第217図　調査区の周辺地形　……379
第218図　気仙郡主要中世城館分布図　……380

写真図版目次

写真図版１　調査区全景航空写真（H15年度）……417
写真図版２　調査区全景航空写真（H16年度）　B区遺構密集区……418
写真図版３　現況 基本層序　……419
写真図版４　SI01竪穴住居跡　……420
写真図版５　SI02竪穴住居跡　……421
写真図版６　SI03竪穴住居跡　……422
写真図版７　SI04竪穴住居跡　……423
写真図版８　SI05竪穴住居跡　……424
写真図版９　SI06竪穴住居跡　……425
写真図版10　SI07竪穴住居跡　……426
写真図版11　SI08竪穴住居跡　……427
写真図版12　SI09竪穴住居跡　……428
写真図版13　SI10竪穴住居跡　……429
写真図版14　SI11竪穴住居跡　……430
写真図版15　SI12竪穴住居跡　……431
写真図版16　SI13･14竪穴住居跡　……432
写真図版17　SI15竪穴住居跡　……433
写真図版18　SI16竪穴住居跡　……434
写真図版19　SI17竪穴住居跡　……435
写真図版20　SI18･19竪穴住居跡（１）……436
写真図版21　SI18･19竪穴住居跡（２）……437
写真図版22　SI20竪穴住居跡　……438
写真図版23　SI21竪穴住居跡　……439
写真図版24　SI22竪穴住居跡　……440
写真図版25　SI23竪穴住居跡　……441
写真図版26　SI24竪穴住居跡　……442
写真図版27　SI25竪穴住居跡　……443
写真図版28　SI26竪穴住居跡　……444
写真図版29　SI27竪穴住居跡　……445
写真図版30　SI28竪穴住居跡　……446
写真図版31　SI29竪穴住居跡　……447
写真図版32　SI30･31竪穴住居跡　……448
写真図版33　SI32竪穴住居跡　……449
写真図版34　SI33竪穴住居跡　……450
写真図版35　SI34竪穴住居跡　……451
写真図版36　SI35竪穴住居跡　……452
写真図版37　SI36竪穴住居跡　……453
写真図版38　SI37竪穴住居跡　……454
写真図版39　SI38竪穴住居跡（１）……455
写真図版40　SI38竪穴住居跡（２）……456
写真図版41　SX01住居状遺構　……457
写真図版42　SX02住居状遺構　……458
写真図版43　SX03住居状遺構　……459
写真図版44　SX04住居状遺構　……460
写真図版45　SX05･06住居状遺構　……461
写真図版46　SX07住居状遺構　……462
写真図版47　SX08住居状遺構　……463
写真図版48　SK01～04土坑　……464
写真図版49　SK05～08土坑　……465
写真図版50　SK09～12土坑　……466
写真図版51　SK13～16土坑　……467
写真図版52　SK17～20土坑　……468
写真図版53　SK21～24土坑　……469
写真図版54　SK25～28土坑　……470
写真図版55　SK29～32土坑　……471
写真図版56　SK33～37土坑　……472
写真図版57　SK38～41土坑　……473
写真図版58　SK42～46土坑　……474
写真図版59　SK47土坑 SR01･02土器埋設遺構 SH01配石遺構　……475
写真図版60　SF01～04焼土跡　……476
写真図版61　SF05～08焼土跡　……477
写真図版62　SF09～11焼土跡･SF12炉跡　……478
写真図版63　SF13～16焼土跡　……479

写真図版64　SF17～20焼土跡 ……480
写真図版65　SF21～24焼土跡 ……481
写真図版66　遺物出土状況（１） ……482
写真図版67　遺物出土状況（２） ……483
写真図版68　SD01～03溝跡 ……484
写真図版69　SD04掘跡（１） ……485
写真図版70　SD04掘跡（２） ……486
写真図版71　SD05･06溝跡 ……487
写真図版72　SD07掘跡（１） ……488
写真図版73　SD07掘跡（２） ……489
写真図版74　SZ01･02墓坑 ……490
写真図版75　26C区石組遺構 SE01井戸跡 ……491
写真図版76　SI01～04竪穴住居跡土器 ……492
写真図版77　SI04～06竪穴住居跡土器 ……493
写真図版78　SI06竪穴住居跡土器 ……494
写真図版79　SI06･08竪穴住居跡土器 ……495
写真図版80　SI07～10･15竪穴住居跡土器 ……496
写真図版81　SI10･15･11竪穴住居跡土器 ……497
写真図版82　SI12竪穴住居跡土器 ……498
写真図版83　SI12～14竪穴住居跡土器 ……499
写真図版84　SI13～16竪穴住居跡土器 ……500
写真図版85　SI16･17竪穴住居跡土器 ……501
写真図版86　SI17竪穴住居跡土器 ……502
写真図版87　SI17竪穴住居跡土器 ……503
写真図版88　SI17竪穴住居跡土器 ……504
写真図版89　SI17竪穴住居跡土器 ……505
写真図版90　SI17･18竪穴住居跡土器 ……506
写真図版91　SI17～19竪穴住居跡土器 ……507
写真図版92　SI18･19竪穴住居跡土器 ……508
写真図版93　SI18～20竪穴住居跡土器 ……509
写真図版94　SI18～20･22竪穴住居跡土器 ……510
写真図版95　SI21･22竪穴住居跡土器 ……511
写真図版96　SI23･25竪穴住居跡土器 ……512
写真図版97　SI25･26竪穴住居跡土器 ……513
写真図版98　SI27～29竪穴住居跡土器 ……514
写真図版99　SI30～32竪穴住居跡土器 ……515
写真図版100　SI33･34竪穴住居跡土器 ……516
写真図版101　SI34竪穴住居跡土器 ……517
写真図版102　SI34･36竪穴住居跡土器 ……518
写真図版103　SI37･38竪穴住居跡 SX01～03住居状遺構土器 ……519
写真図版104　SX03～06住居状遺構土器 ……520
写真図版105　SX06･07住居状遺構土器 ……521
写真図版106　SX07住居状遺構 SK01･03･04土坑土器 ……522
写真図版107　SX06･07住居状遺構 SK08～11･13～16土坑土器 ……523
写真図版108　SK17･19～25･27･29～31･34土坑土器 ……524
写真図版109　SK26･34･38～40土坑土器 ……525
写真図版110　SK45･47土坑 SR01土器埋設遺構 SD04堀跡土器 ……526
写真図版111　SR02土器埋設遺構 SD04堀跡土器 ……527
写真図版112　SD04･07堀跡土器 ……528
写真図版113　SD04堀跡土器 ……529
写真図版114　SD04堀跡 P73～75･81･82･84･85･87･121･142･152･164ピット土器 ……530
写真図版115　P164･178･208ピット土器 Ⅰ層土器（１） ……531
写真図版116　Ⅰ層土器（２） Ⅱ層土器（１） ……532
写真図版117　Ⅰ層土器（３） Ⅱ層土器（２） ……533
写真図版118　Ⅱ層土器（３） Ⅲ層土器（１） ……534
写真図版119　Ⅱ層土器（４） Ⅲ層土器（２） ……535
写真図版120　Ⅲ層土器（３） ……536
写真図版121　Ⅲ層土器（４） ……537
写真図版122　Ⅲ層土器（５） ……538
写真図版123　Ⅲ層土器（６） ……539
写真図版124　Ⅲ層土器（７） ……540
写真図版125　Ⅲ層土器（８） ……541
写真図版126　Ⅲ層土器（９） ……542
写真図版127　Ⅲ層土器(10) Ⅳ層直上土器（１） 撹乱出土土器（１） ……543
写真図版128　Ⅲ層土器(11) Ⅳ層直上土器（２） 撹乱出土土器（２） ……544
写真図版129　土器底部（１） ……545
写真図版130　土器底部（２） ……546
写真図版131　土器底部（３） ……547
写真図版132　土製品 ……548
写真図版133　尖頭器（１） ……549

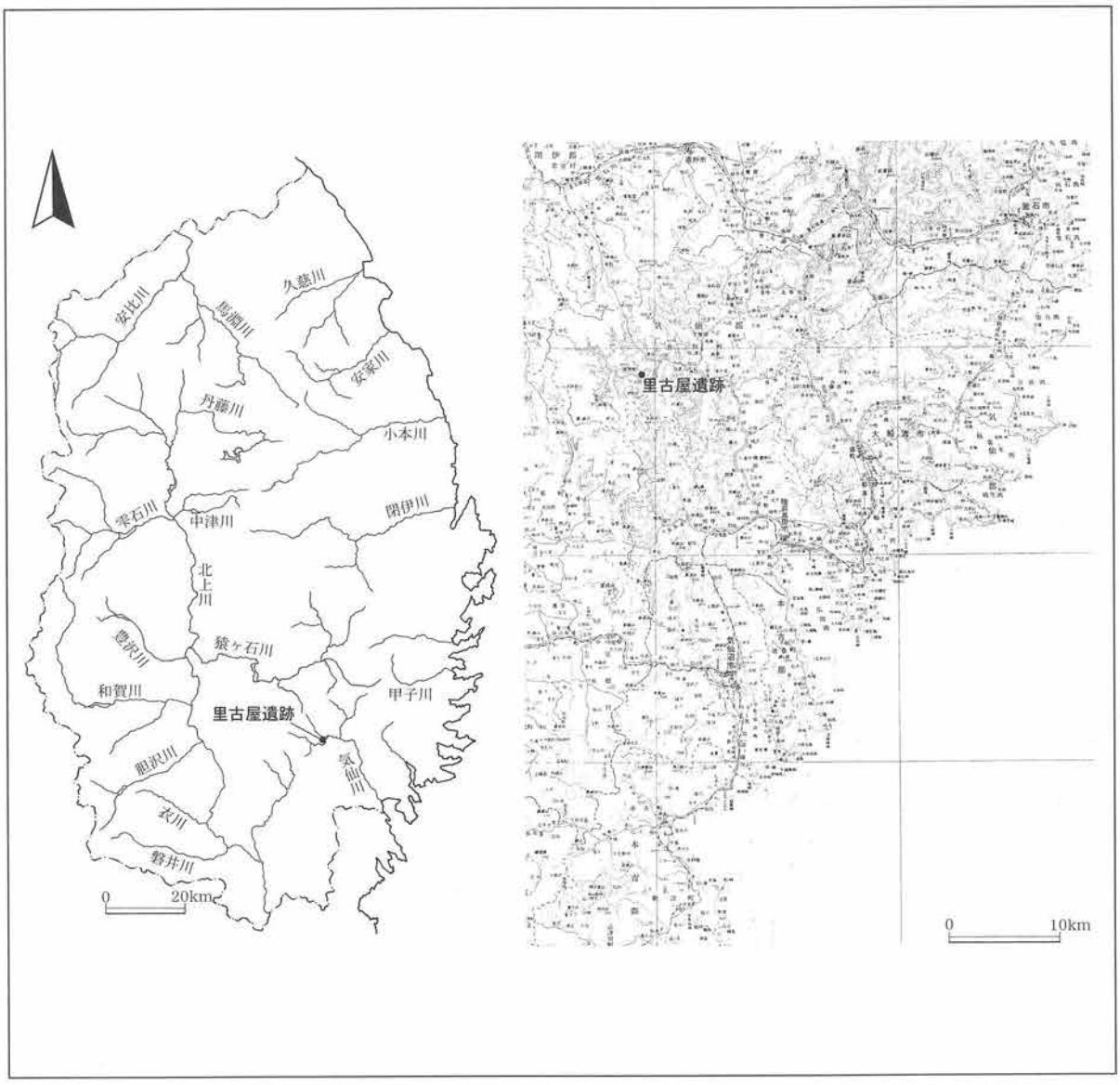
写真図版134　尖頭器（２）石鏃（１）……550
写真図版135　石鏃（２）……551
写真図版136　石鏃（３）石錐（１）……552
写真図版137　石錐（２）石匙（１）……553
写真図版138　石匙（２）……554
写真図版139　石匙（３）……555
写真図版140　石匙（４）篦状石器 楔形石器……556
写真図版141　スクレイパー類（１）……557
写真図版142　スクレイパー類（２）二次加工ある剥片（１）……558
写真図版143　二次加工ある剥片（２）……559
写真図版144　二次加工ある剥片（３）微細剥離痕ある剥片（１）……560
写真図版145　微細剥離痕ある剥片（２）石核（１）……561
写真図版146　石核（２）剥片……562
写真図版147　石斧類（１）……563
写真図版148　石斧類（２）礫器類（１）……564
写真図版149　礫器類（２）……565
写真図版150　礫器類（３）敲磨器類（１）……566
写真図版151　敲磨器類（２）……567
写真図版152　敲磨器類（３）……568
写真図版153　敲磨器類（４）……569
写真図版154　敲磨器類（５）砥石……570
写真図版155　礫石錘 石皿台石類（１）……571
写真図版156　石皿台石類（２）浮子……572
写真図版157　石製品（１）……573
写真図版158　石製品（２）……574
写真図版159　陶磁器・金属製品……575
写真図版160　銭貨……576

Ⅰ　調査に至る経過

里古屋遺跡は、「国道397号地域活性化支援事業」の実施に伴い、その事業区域内に存することから、発掘調査を実施することになったものである。

本事業は、一般国道397号小股～下大股地区において、線形改良を行い安全で円滑な交通環境を確保するものである。当区間は幅員が狭いうえ、急カーブ、急勾配が連続し車輪交通の走行速度や安全走行の低下を招いており、幹線道路の機能が十分に確保されていない。このため、道路改良による安全で円滑な交通環境確保を整備目的とし、本事業を実施することとなった。これに伴って本事業地内に遺跡が存在することから、平成3年度に大船渡地方振興局と岩手県教育委員会生涯学習文化課が協議を行い、本発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

（大船渡地方振興局土木部）



第１図　岩手県図・遺跡位置図

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の位置

里古屋遺跡は岩手県気仙郡住田町世田米字里古屋8番地の2、11・12番地ほかに所在し、国土地理院発行25,000分の1地形図「陸中大原」および「盛」の図幅に含まれ、北緯39度8分37秒、東経141度28分56秒に位置する。遺跡は、住田町役場から西に約8kmの場所にあり、大股川左岸の山体裾部、河川によって形成された堆積段丘の南向き緩斜面上に立地している。標高は218～233mで、現況は宅地・水田・畑地・原野である。

遺跡の位置する住田町の古来からの主生業は農林業であり、かつては産金地帯としても知られた。近世には、仙台藩領と盛岡藩領との藩境の地に位置し、内陸部と気仙沿岸の中継地であり、盛街道や同街道から遠野方面や江刺方面へ向かう道が通る交通上の要地でもあった。調査区の大半の旧地権者であり、調査区に接する菊池家（当主菊池隆氏）には藩境が記されている絵図が現在でも残されている。

現在は住田町の東西に国道107号が、南北に国道340号が通り、世田米で交差する基幹道路となっている。また、国道107号沿いの小股交差点から西へ国道397号が分岐し、この道からは水沢～人首～住田線の主要地方道が分かれている。そして、町の北端部をJR釜石線が通り、町内唯一の鉄道駅舎である上有住駅がある。

遺跡は国道397号と国道107号が交わる小股交差点から、国道397号を奥州市方面へ向かい、2つのトンネルを通って大股郵便局を過ぎた、道路沿い北側に位置する。交差点からは南西に約3kmである。

2　地理的環境

本遺跡の所在する気仙郡住田町は岩手県沿岸南部に位置し、西側に北上山地を望み、東側は釜石市・大船渡市を越えて太平洋に至る。北は夕日山・貞任山、赤羽峠を境に遠野市、東は箱根峠を境に釜石市、南東は五葉山、小松峠・白石峠を境に大船渡市、南は太平山、生出山を境に陸前高田市、南西は内野峠、蛇山・鷹ノ巣山・大鉢森山を境に一関市（旧大東町）、西は物見山（種山）、姥石峠を境に奥州市（旧江刺市）にそれぞれ接している。町の位置は北緯39度19分52秒（極北）～39度5分2秒（極南）、東経141度44分40秒（極東）～141度23分19秒（極西）である。また、面積は335.95km²、東西33.68km、南北19.02kmである。

町面積の91.2%が林野で、北は北上山系の主脈である高清水山（1,013.9m）、貞任山（884.2m）、夕日山（745.9m）などによる分水嶺に沿って遠野市に境し、東は愛染山（1,228.5m）・五葉山（1,341.3m）を主峰とする分水嶺により釜石市に接している。西には種山高原、姥石峠などの北上山地があり、これらの支脈が四方に延びていて、山岳に囲まれている。ただ、高清水山を発源地とし、北東から南に向かって流れる気仙川の流域、及びその支流である坂本川、新切川、火の土川、大股川、中沢川などに沿って段丘が形成され、僅かに平地が開けている。またこれらの河川にはさらに多数の渓流が流入し、アユ、イワナ、ヤマメなどの川魚を多く育んでいる。

本遺跡の所在する里古屋地区には、姥石峠を発源地とし、世田米字小股で南流する小股川（全

長4,200m）と合流する大股川（全長18,600m）が流れている。大股川はさらに世田米字川口で高清水山を発源地とする気仙川（全長26,500m）と合流し、陸前高田市（広田湾）から太平洋に注いでいる。

本遺跡は住田町世田米の里古屋地区に所在し、北側に遠野市境となる荷沢峠、西側に江刺市境となる姥石峠があり、南に判官山（730m）を望む大股川沿いの山体裾部、河川によって形成された堆積段丘上の南向き緩斜面に立地している。

住田町を含む気仙地方の地質について概観すると、その地質年代は大きく古生代・中生代・新生代に3区分され、古生代ではシルル紀・デボン紀・石炭紀・二畳紀、中生代では三畳紀・白亜紀、新生代では第三紀・第四紀の地質が見られる。また、地質構造は西から東に向かって、「日詰－気仙沼構造線」、「遠野－高田構造線」、「氷上構造線」、「土淵－盛構造線」がほぼ南北に走り、北東部には「早池峰構造帯」を挟んで西に「早池峰－五葉山構造線」、東に「盛岡－五葉山構造線」が走っている。

3　歴史的環境

住田町では岩手県教育委員会によると、平成13年4月現在で121遺跡が報告されている。今回掲載しているのは、本遺跡を中心として同心円状に半径10km圏内に位置する縄文時代～近世の遺跡で、計77ヵ所を第2図・第1表に示した（30・31は遠野市、69～77は陸前高田市に所在する遺跡であるが、圏内に入ることから掲載した）。

遺跡の立地している住田町は、町全体の91.2%が林野であり、平野は河川流域に集中している。分布している遺跡もこの平地部分に限られ、本遺跡も大股川左岸の緩斜面地に位置している。また、住田町は岩手県の中でも洞穴遺跡が多いことでも知られている。

今回掲載した計77遺跡のうち、本調査が行われたのは、平成13・14年度に調査が行われた23館遺跡（岩文振第432集）のみである。住田町全域について見れば、蔵王洞穴（蛇王洞洞穴）の調査が1963年に東北大学考古学研究所によって行われ、縄文時代早期の遺物が層位的に検出されたことで学術的に著名である。また、湧清水洞穴や小松洞穴などで本調査が行われ、近年では平成11～14年の間に中和田遺跡（岩文振第355集）、小松Ⅰ遺跡（岩文振第433集）、小松Ⅱ遺跡（岩文振第392集）の調査が当事業団によって行われている。

4　基本層序と調査区内の地形

本遺跡の基本層序は以下の通りである。

第Ⅰ層	現耕作土・表土		層厚10～50cm
第Ⅱ層	黒褐色土	（縄文時代後期遺構検出面）	層厚10～30cm
第Ⅲ層	暗褐色土	（縄文時代前期～中期遺構検出面）	層厚10～30cm
第Ⅳ層	黄褐色粘土質土	（最終遺構検出面）	層厚不明

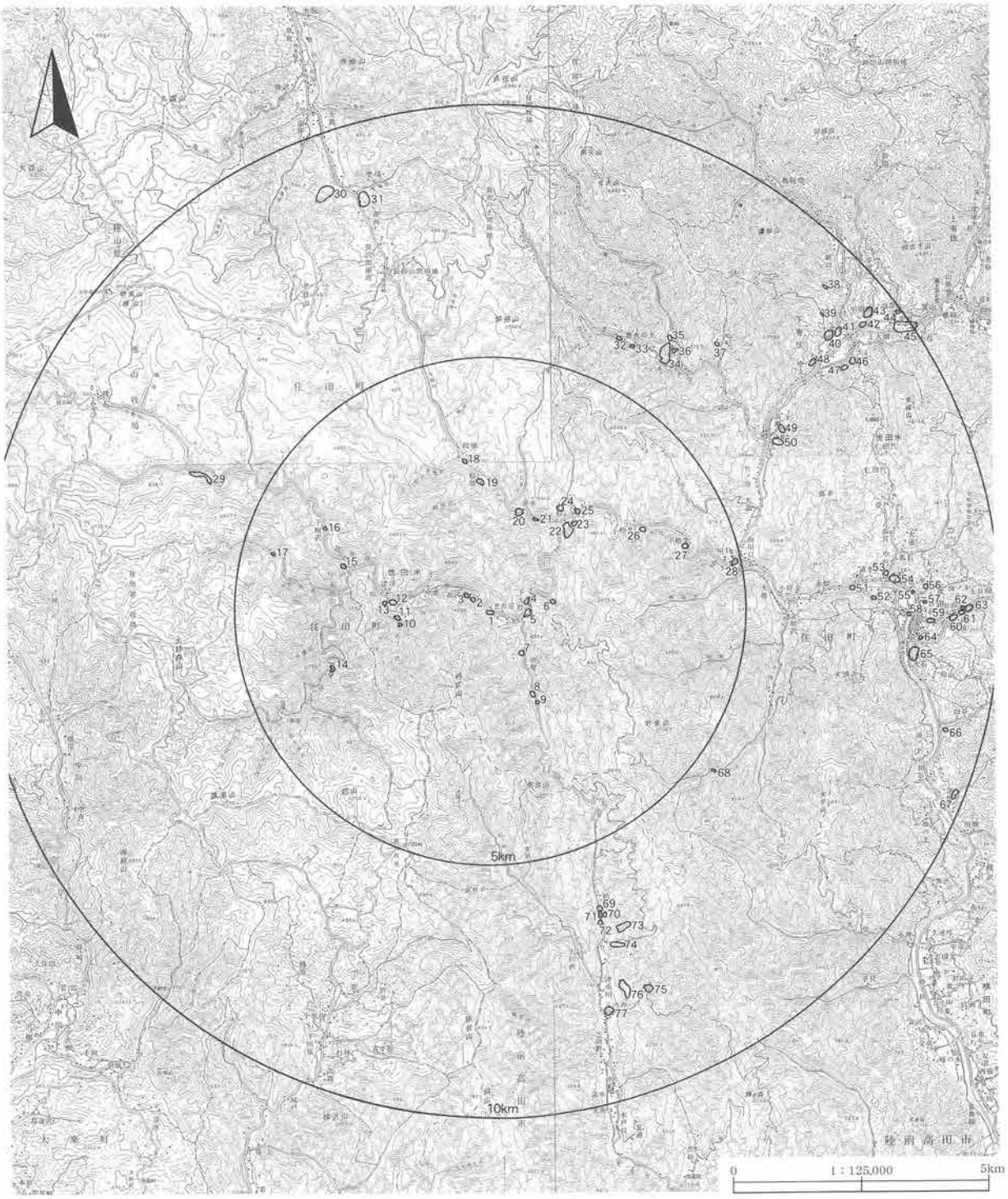
調査区内の地形を概観すると、調査区は南向き緩斜面上にあり、北から南もしくは北東から南西に向かって傾斜しており、現況での標高最高値は239.9m（調査A区）、標高最低値は219.5m（調査D区）である。調査区は北西から南東に約320m、東西に約20mの範囲で、傾斜角度は旧地形が残存している箇所で、約10～12°である。本遺跡は大股川左岸の山体裾部、堆積段丘上の緩斜面

第１表　周辺の遺跡分布表

No.	市町村名	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	住田町	里古屋	集落跡	縄文	縄文土器（前期～後期）	世田米字里古屋	報告遺跡
2	住田町	高屋敷Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	世田米字高屋敷	H10新規
3	住田町	高屋敷Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字高屋敷	水田化　H13津付Ⅰより名称変更
4	住田町	名洞	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字下大股	水田化
5	住田町	下大股	散布地		石器、石槍	世田米字下大股	
6	住田町	すい沢	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字下大股	
7	住田町	折壁	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字下大股	H13奥折壁より名称変更
8	住田町	奥折壁	散布地			世田米字下大股	
9	住田町	奥折壁Ⅱ	洞穴	縄文	縄文土器	世田米字下大股	H13折壁Ⅱより名称変更
10	住田町	蝦夷	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字津村	水田化
11	住田町	猫洞	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	世田米字津村	水田化
12	住田町	津付Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	世田米字津村	H10新規
13	住田町	津付Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字津付	水田化
14	住田町	篠倉沢炯屋跡	製鉄跡	近世		世田米字子飼沢	
15	住田町	洛合	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字子飼沢	水田化
16	住田町	子飼沢高炉跡	製鉄跡	近世		世田米字子飼沢	H13小飼沢高炉跡より名称変更
17	住田町	小牧倉製鉄所跡	製鉄跡	近代		世田米字子飼沢	
18	住田町	笹畑	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字小股	水田化
19	住田町	畷畑	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	世田米字畷畑	水田化
20	住田町	清水	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字小股	水田化
21	住田町	中島	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字小股清水	水田化
22	住田町	高屋敷	散布地	縄文	縄文土器（中期）	世田米字小股	水田化・H11.12.10『館遺跡』として範囲拡大、H13・14『館遺跡』として県埋文調査
23	住田町	館	集落跡			世田米字小股	水田化
24	住田町	小股館（薙野館）	城館跡	中世	郭、堀、腰郭	世田米字小股	水田化
25	住田町	小股	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）	世田米字小股	水田化
26	住田町	上柏里	散布地			世田米字柏里	
27	住田町	下柏里	散布地	縄文	縄文土器	世田米字下柏里	
28	住田町	川口	散布地	縄文	縄文土器	世田米字川口	
29	住田町	栗木鉄山跡	製鉄跡			世田米字子飼沢	H11.5.7県指定史跡
30	遠野市	新谷館	城館跡	中世	帯郭、土塁、平場	小友町字荒谷	
31	遠野市	西館	城館跡	中世	帯郭、土塁	小友町字荷沢	
32	住田町	石神平	散布地			下有住字奥火の土	
33	住田町	中村	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）	下有住字奥火の土	
34	住田町	日門城（判官館）	城館跡	中世	郭、堀	下有住字火の上	
35	住田町	横川	散布地	縄文	縄文土器（後期）	下有住字火の上	
36	住田町	的場	散布地	縄文	縄文土器（後期）	下有住字火の上	
37	住田町	船作Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	上有住船作	H10新規
38	住田町	羽穴	散布地	縄文	縄文土器（後期）	下有住字新切	
39	住田町	苗代沢	散布地	縄文	縄文土器（中期）	下有住字十文字	
40	住田町	外館城（下有住城）	城館跡	中世	本丸、二の丸、郭	下有住字十文字	
41	住田町	十文字	散布地			下有住字十文字	
42	住田町	根岸	散布地			上有住字根岸	水田化
43	住田町	外根岸城（平田館）	城館跡	中世	腰郭	上有住字宇南田	
44	住田町	熊野山常光寺	散布地	縄文	縄文土器（後期）	上有住字中井	
45	住田町	中井	散布地	縄文	縄文土器	上有住字中井	H10新規
46	住田町	菅の下	散布地	縄文	縄文土器（後期）	上有住字大畑	
47	住田町	菅岩洞穴	洞穴	縄文	縄文土器（後期）	上有住字大畑	
48	住田町	中上	散布地	縄文	縄文土器（後期）	下有住字中上	水田化
49	住田町	下清水	散布地	縄文	縄文土器（後期）	下有住字高瀬	水田化
50	住田町	和山館	城館跡	中世		下有住字高瀬	
51	住田町	赤畑	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）	世田米字赤畑	
52	住田町	川向	散布地	縄文	縄文土器（晩期）	世田米字川向	Ｈ２調査
53	住田町	浄福寺	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字柿中村	
54	住田町	上原館城（原城）	城館跡	中世	本丸、二の丸、堀、腰郭	世田米字本町	H13上館原城より名称変更
55	住田町	満蔵寺	散布地	縄文	縄文土器	世田米字本町	
56	住田町	針山	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字松ケ平	半壊
57	住田町	小口洞	散布地	縄文	縄文土器	世田米字小口洞	
58	住田町	光勝寺跡	寺院跡			世田米字川向	
59	住田町	小枝	散布地	縄文	縄文土器	世田米字鉢ケ森	
60	住田町	下日向	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字日向	
61	住田町	上根前	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）	世田米字日向	
62	住田町	中沢上根	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字日向	
63	住田町	上日向	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	世田米字上日向	
64	住田町	大崎	散布地	縄文	縄文土器	世田米字大崎	
65	住田町	世田米城（下館・新城）	城館跡	中世	本丸、腰郭、馬場、屋敷跡	世田米字大崎	
66	住田町	山谷	散布地	縄文	縄文土器	世田米字山谷	
67	住田町	伝桜	散布地	縄文	縄文土器（後期）	世田米字窪田	
68	住田町	鬼丸洞穴	洞穴	縄文	縄文土器（後期）	世田米字合地沢	H13折壁より名称変更
69	陸前高田市	祝洞口古墳	古墳		土器、天王山（クズレ）人骨（女）	矢作町字的場	
70	陸前高田市	宝龍第二岩陰	岩影	不詳		矢作町字的場	
71	陸前高田市	宝龍洞穴	洞穴	縄文・弥生	土器、人骨、動物遺存体	矢作町字的場	
72	陸前高田市	宝龍第一岩陰	岩影	不詳	人骨？	矢作町字的場	
73	陸前高田市	的場館	城館跡	中世	空堀	矢作町字的場	
74	陸前高田市	三の戸館	城館跡	中世	空堀、主郭	矢作町字三の戸	
75	陸前高田市	三の戸沢	集落跡	縄文	磨石、石斧、石剣、炉跡	矢作町字三の戸	
76	陸前高田市	目貫館	城館跡	中世	空堀、主郭	矢作町二日野	
77	陸前高田市	角地	集落跡	縄文	石剣、縄文土器（晩期）	矢作町字三の戸	

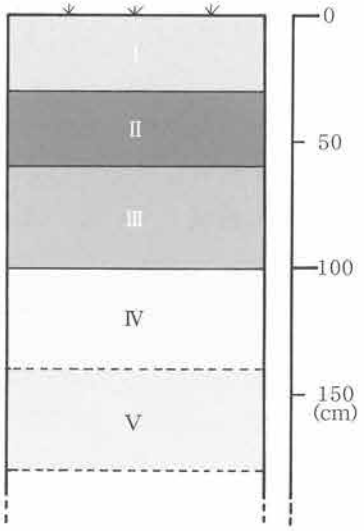
地に立地しているが、調査A区9･10ラインに位置する旧沢地形により東西に分断されている。これは調査C区17･18ラインにも見られ、現在も湧水が沢を形成し、地域の生活用水として利用されている。

調査区の現況地形は宅地、水田、畑地、原野で構成されている。宅地は旧地形である斜面を約2～3m程度削平して建築しており、旧地形上（C区17～19ライン）に形成されていたと思われる遺構はすでに消滅している。また、A区9･10ラインの旧地形はおそらく沢であったと思われるが、



第２図　周辺の遺跡分布図

調査開始時は家屋がまだ建っており、その後調査を行ったところ、下層から近現代と考えられる石垣（沢水を通す溝の側壁）を検出している。この箇所の旧地形は失われているが、遺構は存在していなかったと思われる。水田はB区11･12ライン現況面にあり、造成時の削平により、Ⅰ層（水田耕作土･床土）を除去すると一部のⅢ層を残してⅣ層が露出する状態であった（斜面上側はⅣ層も深く削平し平坦面を作っている）。よって、これより上層面に存在する遺構は残存していない。C･D区21～32ラインまでの国道397号沿い調査区は、国道建設時やそれ以前と思われる攪乱を多く検出した。現況で残っていた旧道は国道が出来る以前に地域住民が使用していた地域道で、地域の方の話では昭和半ばに国道が建設され現在の状況になったということである。旧道箇所は大半がⅣ層まで削平して平坦面を作出しているが、一部はⅡ層などの上に礫混じりの盛土を行った痕跡も確認できた。同じくA区6～8ライン斜面下側も大きく攪乱されており、規模は長さ15m、幅3m、深さ20～50cm程度で、重機の痕跡を残している。

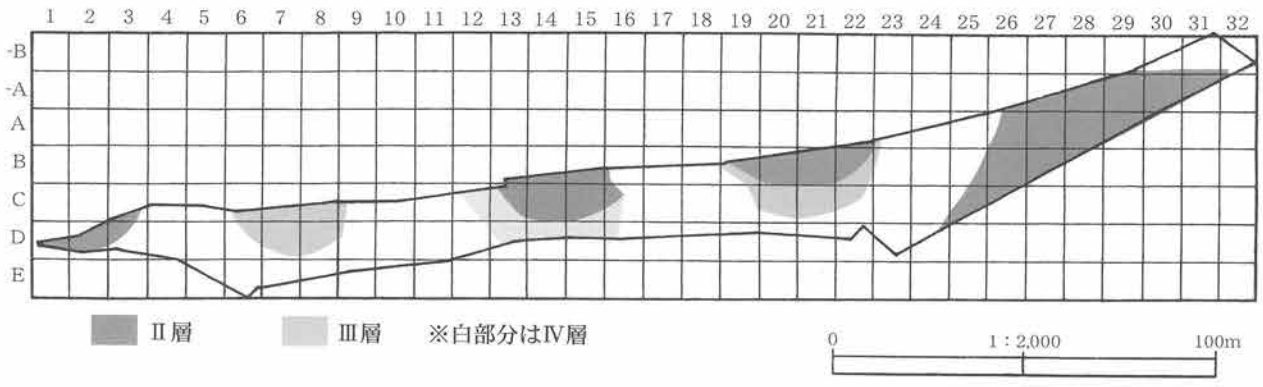


第3図　基本層序模式図

基本層序が良好に残存しているのは、現況が畑地部分のB区13～15ラインで、この箇所からの遺構･遺物出土量が最も多い。また、C区19･20ラインもⅡ層は斜面上側の一部にしか残存していないが、遺存状態は良好である。

層序については、Ⅰ層は昭和20～30年代及びそれ以降による人工的に形成された現耕作土層または表土層で、遺構の残存は皆無である。現況が水田の部分は、水田耕作土が層厚10～20cm、水田床土が層厚10～20cm、盛土が層厚10～50cm堆積している。畑地の部分は層厚10～30cm、原野は層厚20～50cmである。土色は黒褐色が中心であるが、水田などは一部灰黄褐色を呈する。

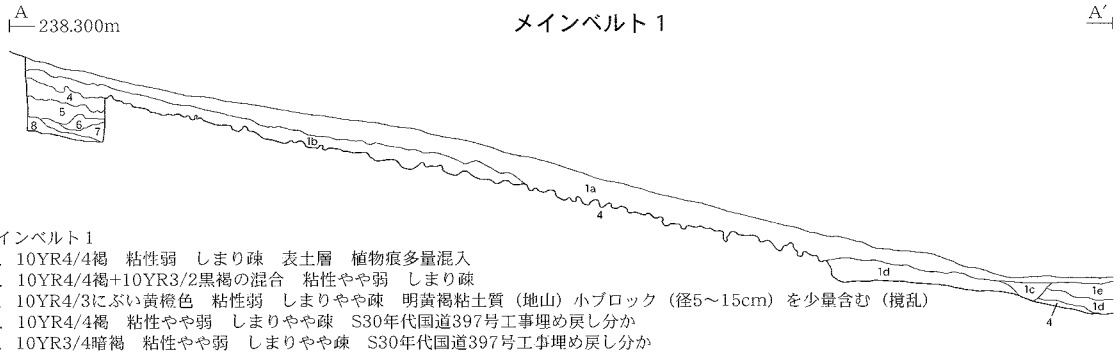
Ⅱ層は黒～黒褐色土主体に構成されており、縄文時代後期の遺物包含層である。Ⅱ層上面での遺構検出は困難であるが、Ⅲ層上面の暗褐色土まで掘り下げるとはっきりと遺構を認識できる。後期の遺物を含むⅡ層が残存しているのは主にB区12～16ラインで、層厚は10～30cmである。斜面下側の堆積は厚くなっているが、これはSD04堀跡が廃棄された後に上部から流れたⅡ層がSD04堆積土内やその上部に堆積したものである。C区19～22ライン斜面上側、D区24～31ライン斜面上側でも黒褐色土が確認されており、土色･土性などが近似する。しかし、B区13～15ラインで出土する遺物とは明らかに異なり、また灰黄褐色テフラを上面に堆積または混入するため、二次堆



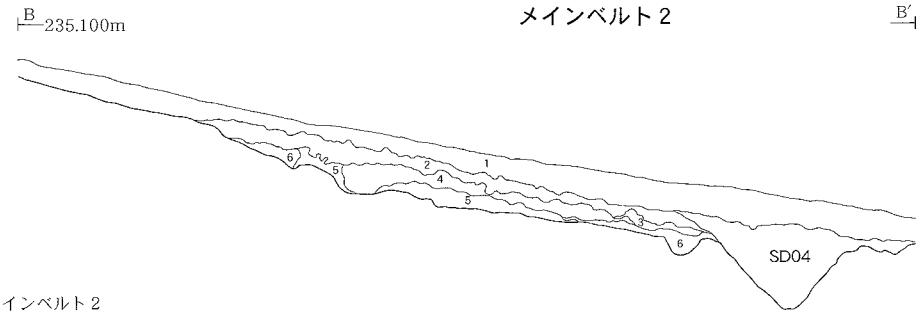
第4図　Ⅱ・Ⅲ層分布範囲

積もしくはⅡ層とは異なる可能性もある。

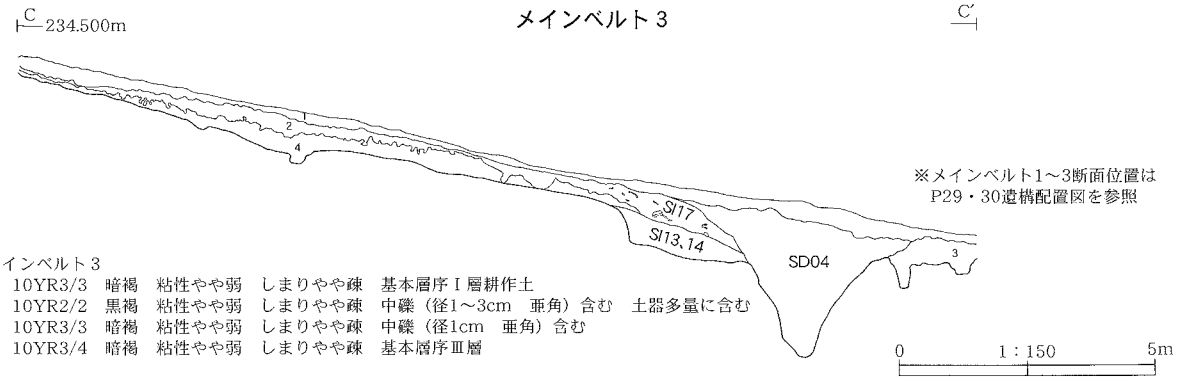
Ⅲ層は暗褐色土主体に構成されており、縄文時代中期の遺物包含層である。本遺跡では最も厚く堆積している層で、分布範囲も広い。A区では削平によりほとんど確認されないが、遺構が比較的多い6～8ライン斜面上側には一部残存している。B区は最も厚く、遺構･遺物ともに出土しており特に13～15ラインは遺物包含層を形成しながら、著しい遺構の重複が確認されている。本層位堆積以降に構築され、廃絶された遺構内にはⅢ層を起源とする暗褐色主体土が堆積している。C区ではⅡ層の堆積が削平の影響で少ない分、本層位中もしくは本層位を起源とする堆積土に覆われた遺構が多い。堆積はB区に比べて薄いが、斜面上側は層厚10cm程度が確認される。D区になると極端に少なくなり、一部に観察されるのみである。全体的に層厚は10～30cm程度、一部に



メインベルト１
1a. 10YR4/4褐　粘性弱　しまり疎　表土層　植物痕多量混入
1b. 10YR4/4褐+10YR3/2黒褐の混合　粘性やや弱　しまり疎
1c. 10YR4/3にぶい黄褐色　粘性弱　しまりやや疎　明黄褐粘土質（地山）小ブロック（径5～15cm）を少量含む（撹乱）
1d. 10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　S30年代国道397号工事埋め戻し分か
1e. 10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　S30年代国道397号工事埋め戻し分か
4. 10YR5/4にぶい黄褐　粘性やや弱　しまりやや密　中礫（径1～3cm　亜角）50％以上含む
5. 10YR6/6明黄褐　粘性中　しまりやや密　中礫（径1～2cm　亜角）50％以上含む
6. 10YR6/6明黄褐+10YR6/4にぶい黄橙　粘性中　しまりやや密　中礫（径1～5cm　亜角）30％以上含む
7. 10YR7/6明黄褐　粘性やや強　しまり密　中礫（径1～5cm　亜角）10％以上含む
8. 10YR8/3浅黄褐　粘土　粘性やや強　しまり密　地山基盤層近く　中～大礫（径1～10cm　亜角）30％以上含む



メインベルト２
1. 10YR4/3　にぶい黄褐　粘性弱　しまりやや疎　中～大礫（径3～20cm　亜角）含む　基本層序Ⅰ層耕作土
2. 10YR2/2　黒褐　粘性やや弱　しまり疎　基本層序Ⅱ層
3. 10YR2/3　黒褐　粘性やや弱～中　しまりやや疎　基本層序Ⅲ層
4. 10YR2/3　黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　基本層序Ⅲ層※17層よりわずかに濃い
5. 10YR3/4　暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　遺構か　基本層序Ⅲ層起源
6. 10YR3/3　暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　遺構か　基本層序Ⅲ層起源



メインベルト３
1. 10YR3/3　暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　基本層序Ⅰ層耕作土
2. 10YR2/2　黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫（径1～3cm　亜角）含む　土器多量に含む
3. 10YR3/3　暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫（径1cm　亜角）含む
4. 10YR3/4　暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　基本層序Ⅲ層

第５図　基本層序

灰黄褐色テフラを混入する箇所も見られる。

Ⅳ層は黄褐色粘土質土であり、遺構検出最終面である（いわゆる地山）。前述のように、A区やB区11･12ライン、C区17～19ライン（宅地分）、19～23ライン斜面下側、D区24～32ライン（旧道分）などではⅠ層直下に本層位が露出する状態であった。調査区の大半は現耕作土･表土直下に本層位の堆積が見られる。これは削平･攪乱の影響を多分に受けているとともに、本遺跡が傾斜地に立地しているため、斜面上側から流入した堆積土などが緩斜面地に堆積し、それ以外は留まらずに斜面下側へ下るということから見られる状況とも考えられる。

Ⅴ層は10～20cmの黄褐色粘土と10～40cmの砂礫が交互に観察される層である。層厚は不明であるが、SD04堀跡を精査した際、壁面に見られた堆積から判断すると、3m近くはあろう。3mの間にはそれぞれの層が各6～8層認められる。本層位には遺構及び遺物は全く含まれておらず、箇所によっては堆積が薄い場合もある。本層位より下層には、岩盤層が存在すると見られる。

Ⅲ　調査と整理の方法

1　野外調査方法

(1) グリッド設定（第6図）

里古屋遺跡の調査区域は北西～南東に約320m、北東～南西に約20mの範囲で、北西～南東を長軸線とする道路幅分の長形の形状を呈している。

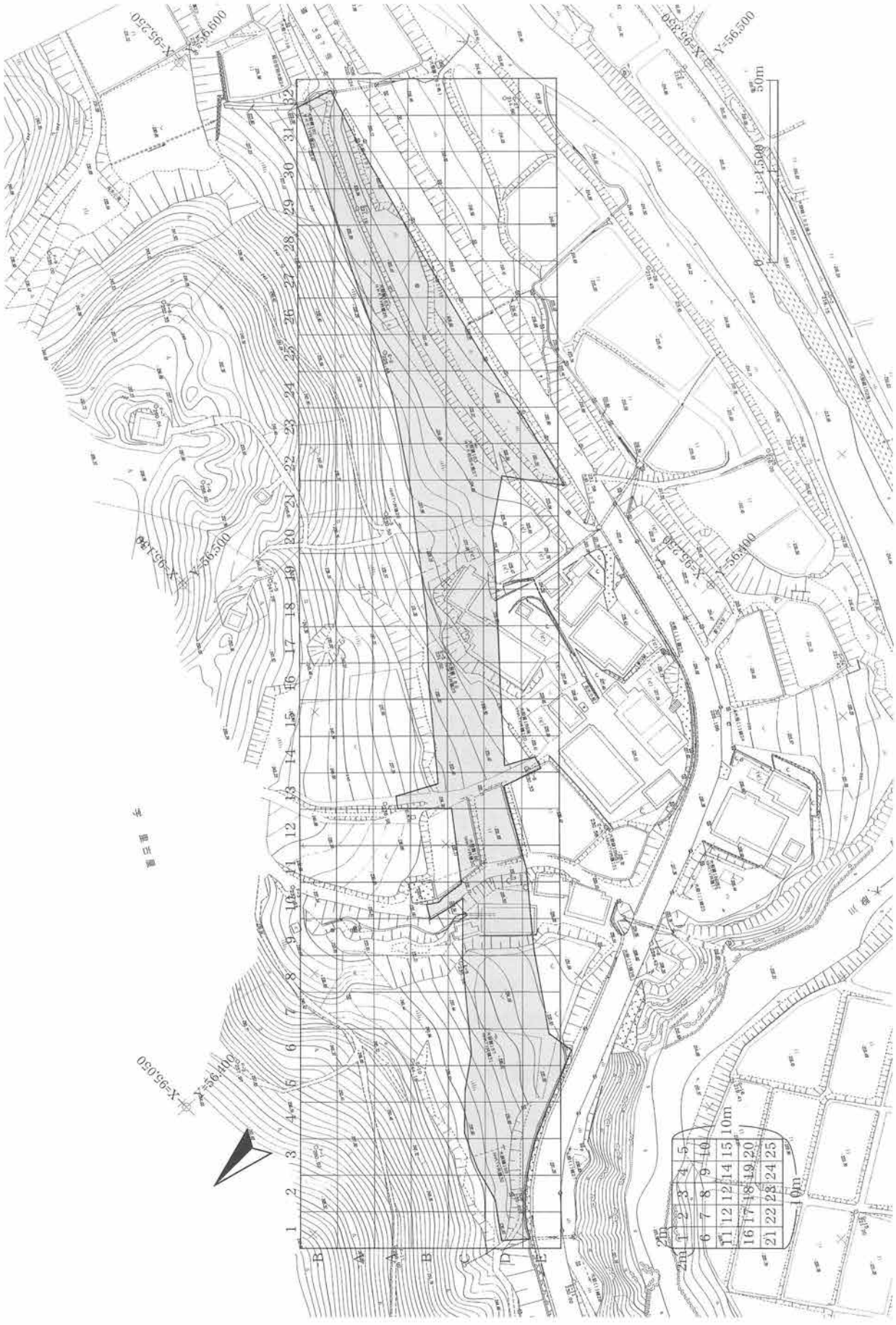
グリッドの設定については平面直角座標第Ⅹ系から基1を起点に時計回りに45°振って基準点1～4を設定し、これを基に調査区全域をカバー出来るようにグリッドを設定した。大グリッド（10×10m）は長軸方向に算用数字1～32、短軸方向にアルファベット大文字A～Eである。また、小グリッドは大グリッドを2×2mで25に分割し、北西隅を起点として、東西方向に1～5・6～10・11～15・16～20・21～25とした（例：1A1グリッド）。なお、基準点の成果値は以下の通りである。

第2表　基準点位置

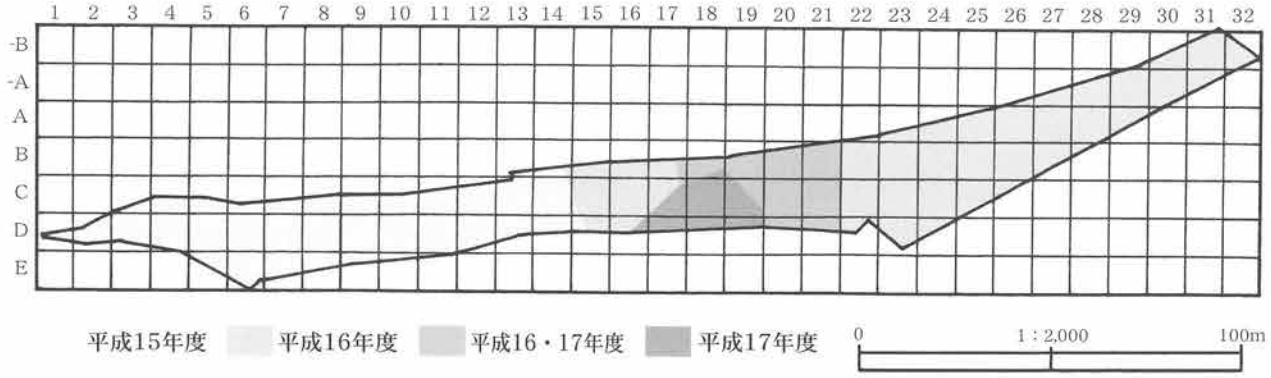
基準点	グリッド	日本測地系			世界測地系		
		X	Y	H	X	Y	H
基1	13D1	－95164.142	56400.000	231.665	－94856.115	56099.482	231.665
基2	6D1	－95114.644	56350.502	236.889	－94806.616	56049.985	236.889
基3	16C1	－95178.284	56428.284	232.041	－94870.257	56127.765	232.041
基4	22C1	－95220.711	56470.711	225.593	－94912.684	56170.191	225.593

(2) 年度別調査範囲（第7図）

里古屋遺跡の調査は平成15～17年度の3ヵ年に亘って行われた。調査面積については、平成15年度2,288㎡、平成16年度3,011㎡、平成17年度916㎡である。調査範囲については、調査A区～B区西（1～14グリッドライン）は平成15年度、調査B区東～D区（15～32グリッドライン）は平成16年度（宅地部分除く）、調査C区（17～21グリッドライン）の平成16年度調査未了分と宅地部分（17～19グリッドライン）は平成17年度に行った。


X=95,250
Y=56,600
X=95,350
Y=56,500
X=95,150
Y=56,500
X=95,250
Y=56,400
X=95,050
Y=56,400
50m
1:1,500
10m
2m

第６図　グリッド配置図



第７図　年度別調査配置図

(3) 試　掘　調　査

最初に、地形の状況と地層の堆積状況、遺構の有無、遺構･遺物集中区域の確認と把握を目的として、任意に約20ヵ所の1～2×4～20ｍトレンチを設定し、人力でトレンチ調査を行った。また合わせて、岩手県教育委員会生涯学習文化課が平成13年12月と平成14年11月の2回行った試掘調査の時に重機により掘削したトレンチも掘り下げを行った。

この結果、現況が原野であったA区はⅠ層表土の下は大半の場合、Ⅳ層が検出されることが分かった。層厚は10～50㎝で、畑地のような柔らかい黒褐色土である。B区西側は現況が水田であるため、近年の造成工事により削平の影響を多く受けている。Ⅰ層は水田耕作土及び水田床土で構成され、直下はⅢ層が一部残るのみでほとんどはⅣ層が露出する。これとは反対に、B区東側は現況が畑地ということもあり、調査区内で最も良好な層序を示していた。表土でも多くの遺物を表採でき、層厚10㎝程度のⅠ層の下には、遺物を多量に包含するⅡ層黒褐色土がある。C区は現況が畑地でB区東側と似た様相を呈するが、Ⅱ層黒褐色土中に砂礫を少量含むため、B区Ⅱ層に比べて若干汚れた黒褐色土を呈する。斜面下側はⅠ層直下にⅣ層が露出し、近年に削平されたと思われ、攪乱も見られる。D区は現況が原野と旧道であり、旧道を挟んで斜面上側は石灰岩の大礫を散在する黒褐色土、下位は黒褐色土上面に灰黄褐色テフラを堆積していた。テフラはかなり広範囲に分布していたが（28～30グリッドライン）、遺物は微量に含まれる程度であった。

試掘の状況からも、遺跡の中心はB区東側からC区にかけてと推測された。しかし、SD04及び07に関しては、県生涯学習文化課の試掘では見つからず、本調査開始後に発見された。

(4) 重機及び人力による粗掘･遺構検出

試掘調査の成果をもとに、トレンチ調査で終了した部分以外の重機が入れる箇所において、Ⅱ層黒褐色土及びⅢ層暗褐色土、Ⅳ層黄褐色粘土質土上面までのⅠ層現耕作土･表土を重機により掘削した。また、重機が入れないB･C区13～16ラインは人力による表土除去を行った。

この後、人力による遺構検出を行い、これによってⅡ層で遺構が検出された箇所に関しては精査を行い、それ以外の区域はさらに下層までの掘り下げを行った。基本的に遺構検出はⅡ層上面･Ⅲ層上面･Ⅳ層上面の3回行い、状況に応じてそれ以外の面での遺構検出を実施した。Ⅳ層以下の状況については、トレンチ箇所の斜面上側と下側などに1×2ｍなどの深掘りを入れて確認を行ったが、Ⅳ層以下からは遺構･遺物とも検出されなかった。

(5) 遺構の調査方法

竪穴住居跡及び住居状遺構の調査は四分法で、その他の遺構については原則的に二分法で行い、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。

遺構については、その性格により分類化した記号を用いた。また、遺構記号は調査を進めていく段階で付記した性格と異なる遺構が検出された場合は、室内整理作業において記号・番号を付け直している。

遺跡・遺構・現場出土遺物の写真撮影については中判PENTAX67（モノクローム）をメインカメラとし、NikonFM2（35㎜、モノクローム・スライドカラー各1台）をサブカメラとして使用した。一部の遺構ではMamiya645（モノクローム・スライドカラー）撮影も実施し、メモ撮影としてデジタルカメラ（2.0メガピクセル）を使用した。加えて、平成15年度は株式会社菊池技研コンサルタント社製フォトエレベータをテスト使用した。

また、平成15年9月4日、平成16年11月17日に各年度の調査区域全体の航空写真撮影を実施した。

第3表　遺構略号表

略号	遺構名
SI	住居跡
SX	住居状遺構
SK	土坑
SF	焼土跡・炉跡
SR	土器埋設遺構
SH	配石遺構
SD	堀跡
SZ	墓坑
SE	井戸跡
P	ピット
－	石組遺構

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、竪穴住居跡炉・焼土跡・遺物微細図などは1/10、その他の遺構も種類や規模により1/10、1/40、1/50、1/100、1/200などの縮尺を用いて遺構実測図（第1原図）を作成した。なお、調査の進行上土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみに留めた遺構もある（竪穴住居跡内ピットなど）。

(6) 遺物の取り上げ方

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位（検出面、上位、中位、下位、床直上、床面、底面、第1回掘り下げ1～10cm、第2回掘り下げ11～20cmなど）を記し、このうち床面、底面出土分については出土位置も記録した。遺構外出土分は小グリッドごとに層位を記し、1A1・Ⅱ層上位などと記載して取り上げた。ただしⅠ層現耕作土・表土出土及び表採については大グリッド名のみのものもある。

2　整　理　方　法

平成15年11月1日～平成16年3月31日（5ヵ月間：整理作業員6名）、平成16年11月1日～平成17年3月31日（5ヵ月間：整理作業員8～10名）、平成17年8月1日～10月31日（3ヵ月間：整理作業員5名）、平成17年11月1日～平成18年3月31日（5ヵ月間：整理作業員1名）の期間で室内整理作業を行った。整理作業は各年度に行い、平成17年度に編集を行った。

(1) 遺　　構

遺構は現場で図化してきた遺構図面を第1原図とし、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が遺構ごとに第2原図を作成し、その上でトレースを行った。

各遺構は、位置・規模・形態などの基礎データを抽出し、遺構一覧表を作成した。遺構図版は各遺構種別に、竪穴住居跡・住居状遺構・土坑・土器埋設遺構・配石遺構・焼土跡・炉跡・堀跡・溝跡・墓

坑･井戸跡･石組遺構･ピットの順で掲載した。

(2) 遺　　物

ａ．土器

水洗乾燥後、収納袋ごとに破片数及び重量計測を行った。次に註記、遺構･層位･グリッドごとに仕分けを行い、接合作業を行った。その後、遺構内出土土器については出土層位ごとに遺構の存続時期に最も近いと考えられる床面･底面･炉体土器等→床直上→堆積土下位→中位→上位→検出面の順で登録を行った。復元作業、掲載遺物の選別、登録作業、実測、拓影、トレース、写真撮影といった手順で行った。

掲載遺物については、遺構床面･底面から出土したものをランク上位とし出来る限り掲載するよう努めた。それ以外については遺構内出土遺物を原則とし、遺構外出土遺物については立体土器・口縁部破片・器形復元可能な破片を優先とし、胴部に特徴的な文様を持つ破片、多量に出土している文様の代表的な破片を掲載した。底部破片については1/2以上残存する場合は1個体扱いとし登録した。また上記の基準を満たさないものでも出来る限り図化し、掲載した。

ｂ．石器

水洗･註記を行った後、担当調査員が全点を観察し、分類･計測･登録作業を行い、一覧表を作成した。その後、分類ごとに代表的な形状を抽出し、実測、トレース、写真撮影を行い、掲載した。

掲載遺物については、器種･分類に選別した石器から全体の形状が明瞭に分かる完形品や黒色粘着物付着など使用痕跡が残存するものを優先し、さらに遺構内を優先に選別して図化した。石器実測に当たっては剥離の場合、リング・フィッシャーは調査員が入れることとし作業の効率化を図った。掲載できなかった石器についても全点について法量計測を行い、点数･重量の計測、石材仕分けを行った。なお、掲載遺物については観察表を作成し掲載したが、不掲載遺物については観察表の掲載を割愛した。ただし、不掲載遺物についても同項目で観察表は作成し、岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

(3) 掲載図版の構成

掲載図版は遺構と遺物を分け、遺構図版は遺構の種別で掲載し(一部重複関係で同一頁に掲載)、遺物図版は土器･土製品･石器･石製品･土師器･陶磁器･金属製品･銭貨など種別で掲載した。

登録番号については、平成15年度出土石器･石製品が0001～、平成15年度出土土器･土製品が1001～、平成16年度出土石器･石製品が2001～、平成16年度出土土器･土製品･陶磁器･鉄製品･銭貨が4001～、平成17年度出土石器･石製品5001～、平成17年度出土土器･土製品が6001～である。これに加えて、掲載遺物については全遺物について通しの掲載番号を付している。

このほかに、図版番号・写真番号も合わせて記載している。観察表の（　）内数値は残存値、〔　〕内数値は推定値である。

3　野外調査経過

平成15年～平成17年の3ヵ年に亘り行われた野外調査の経過を概略する。

平成15年度調査

4月11日（金）　調査開始。
4月14日（月）·15日（火）　試掘。
4月16日（水）～5月7日（水）　重機による表土除去（延べ12日間）。B区（13·14グリッドライン）については既に表土から多量の遺物が採取されるため、人力での表土除去を行う。排土場が狭く、調査区内に排土を仮置きしているため、作業に手間取る。
4月22日（火）　基準点設置。A区精査開始。
6月3日（火）～6日（金）　排土処理のため、ダンプカーで排土を近隣の所定地に運搬を行い、B区調査着手範囲を確保する。B区（13·14グリッドライン）では、斜面下方に深さ2.7mの堀が存在することを確認する（後のSD04堀跡）。
6月9日（月）～6月30日（月）　A区の遺構精査とB区Ⅱ層包含層と遺構の精査を終了。
7月3日（木）～7月29日（火）　A区東端の住宅があった箇所について、試掘トレンチを設定し、人力による遺構·遺物の確認を行うが、旧沢地形を埋め立てており、遺構·遺物は検出されなかった。29日（火）までに埋め戻しを完了。B区Ⅲ層包含層及び遺構精査を行う。
7月9日（水）　委託者及び地権者と協議し、B区13グリッドラインを縦断する通路分について、調査を行う了承を得て、表土除去及びⅡ·Ⅲ層掘削を開始する（～8月22日（金））。
7月23日（水）　遠野市立小友中学校体験学習（生徒7名、引率1名）。
8月後半　天候不順が続く。
8月30日（土）　現地説明会（参加者75名）。
9月4日（木）　航空写真撮影。
9月11日（木）　終了確認。
9月9日（火）～15日（月）　重機による埋め戻し作業。
9月14日（日）～15日（月）　排土場として借地していた水田の復旧作業。
9月16日（火）　現場撤収。平成15年度調査終了（A区·B区14グリッドラインまで）。

平成16年度調査

5月21日（金）　調査開始。
5月21日（金）～5月27日（木）　試掘。
5月26日（水）～28日（金）　B区（15～17グリッドライン）、C区（18グリッドライン）では、前年度調査に引き続き表土から多量の遺物が採取されるため、人力での表土除去を行う。
5月26日（水）～6月7日（月）　重機による表土除去（延べ7日間）。
6月1日（火）～25日（金）　国道397号沿い調査区であるC区（19～23グリッドライン）の精査。
6月2日（水）　基準点設置。
6月29日（火）～7月2日（金）　D区遺構検出及びⅡ層黒褐色土掘削。
6月28日（月）～7月2日（金）　重機による旧道部分の表土除去（延べ5日間）。
6月30日（水）～7月12日（月）　C区遺構検出及びⅡ層黒褐色土掘削。C区の精査開始。
7月14日（水）～7月16日（金）　B区Ⅱ層及びⅢ層上面遺構検出。
7月21日（水）～　B区精査開始。
8月中旬　天候不順続く。
8月30日（月）～9月5日（日）　調査区内にあった住宅の取り壊し。

9月10日（金）～9月17日（金）　住宅撤去に伴い、重機によるB区東側（16･17グリッドライン）盛土除去を行う。
10月～　B区での遺構の重複が著しく、精査数が延びない。このため、10月末での調査終了が困難となる。
10月14日（木）　住田町教育委員会主催種山散策現場見学会（参加者32名）。
10月30日（火）　現地説明会（参加者65名）。
11月1日（月）　本所での室内整理開始。野外調査については11月第3週終了を想定する。
11月15日（月）～19日（金）　重機による埋め戻し作業（次年度継続調査箇所であるB区一部、C区西側は除く）。次年度継続調査箇所については、越冬のため遺構にブルーシートを掛け、その上に重機で土を被せた。
11月17日（水）　航空写真撮影。終了確認。B区17グリッドライン、C区18～20グリッドラインについては今年度での調査終了を断念し、次年度継続調査を行うことに決定。
11月19日（金）　現場撤収。平成16年度調査終了（B区15～16グリッドライン、C区21～23グリッドライン、D区）。

平成17年度調査

4月8日（金）　調査開始。
4月11日（月）　前年度終了時に継続調査箇所へ敷設した土とブルーシートの除去。
4月11日（月）～13日（水）　B区（17グリッドライン）、C区（18～19グリッドライン）の元住宅箇所の試掘及び重機による表土除去を行う（延べ2日間）。17～18C区付近で空洞化した陥没坑を検出し、崩落の危険があること、調査区下位にある湧水（地域の方が生活用水に利用）が止まる恐れがあることから、写真記録と状況確認のみで埋め戻す（約100㎡）。
4月13日（水）～4月22日（金）　前年度調査未了の竪穴住居跡３棟の精査。合わせて、検出遺構の精査。
4月26日（火）～5月2日（月）、11日（水）　調査区北側の山林踏査（城館縄張り図作成）。
5月9日（月）　部分終了確認（電柱設置箇所以外の872㎡についての終了確認。残り44㎡の電柱設置箇所については移設工事終了後に調査を行うことを確認）。
5月10日（火）　現地公開（参加者25名）。
5月13日（金）～6月19日（日）　調査区内（17B区）にある電柱移設のため、調査中断。
6月20日（月）～23日（木）　電柱移設が6月17日（金）に完了。これを受けて、調査再開。精査の結果、電柱下層の遺構は採掘坑であることを確認（直径約8m、深さ3m）。
6月27日（月）　終了確認。
6月28日（火）　現場撤収。平成17年度調査終了。

Ⅳ 遺 物 分 類

今回の調査では縄文土器、土製品、石器、石製品、土師器、陶磁器、金属製品、銭貨、動物遺存体、植物遺存体の各種が出土した。本項では、遺構の帰属時期を想定するために、遺構記載に先駆けて各種遺物の分類を提示する。

1 縄 文 土 器

(1) Ⅰ群 縄文時代早期末葉（赤御堂式相当）

(2) Ⅱ群 縄文時代前期初頭～前葉（大木２式相当）

(3) Ⅲ群 縄文時代前期後葉（大木５式相当）

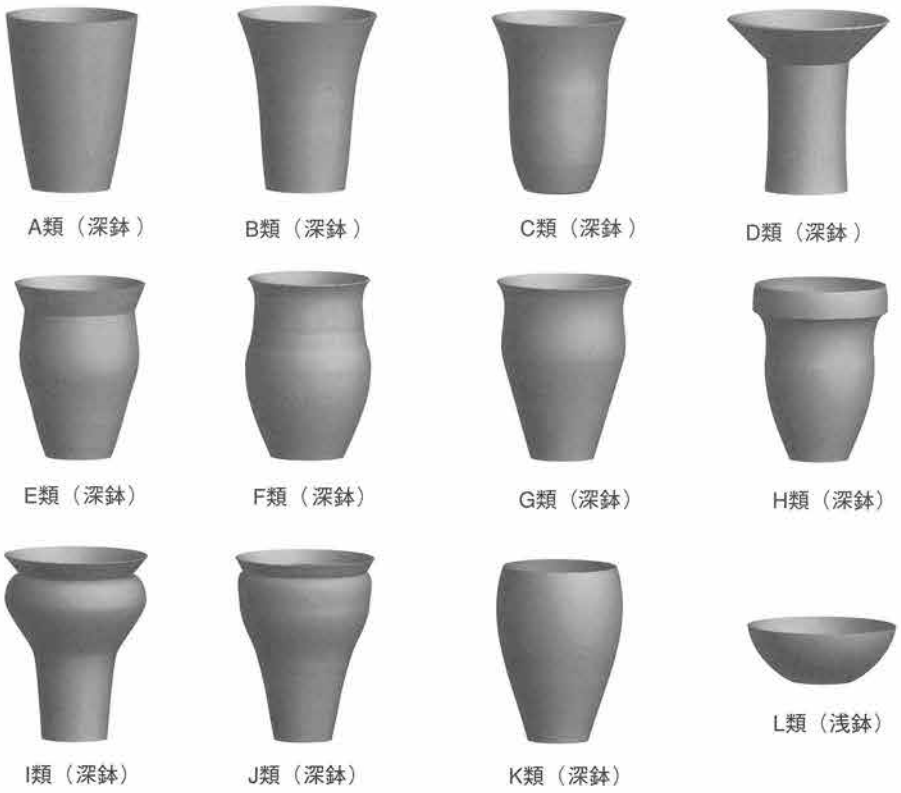
A類（深鉢） 頸部が弱く窄まり、胴が膨らむ器形
B類（深鉢） 底部から口縁にかけて外反する器形
C類（深鉢） 口縁が外反し、頸が大きく括れ、胴が膨らむ器形
　1類 平縁
　2類 大波状
　3類 小波状
　　a 細隆線による小波状や幾何学的意匠を施文するもの
　　b 口縁に円形突起（ドーナツ状）を施すもの
　　c 口端に逆ハート形などの突起を貼り付けるもの
　　d 口端上面に太隆線による小波状を貼り付けるもの
　　e 口縁に鋸歯状貼付を施すもの
　　f 沈線と刺突によって円形意匠を描くもの
　　g 地文のみ施すもの

第８図 Ⅲ群土器器形模式図

(4) Ⅳ群 縄文時代前期末葉～中期前葉（大木６～７式相当）

A類（深鉢） 最大径が口縁にあり、胴が小さく膨らむ器形
B類（深鉢） 最大径が口縁にあり、胴が内傾しながら窄まる器形
C類（深鉢） 最大径が口縁にあり、頸に弱い括れを持ち、胴が小さく膨らむ器形
D類（深鉢） 最大径が口縁にあり、頸に強い屈曲を持ち、胴はほぼ垂直の円筒形を呈する器形
E類（深鉢） 最大径が口縁にあり、外傾した口縁から頸で内傾し、胴央が膨らみながら窄まる器形
F類（深鉢） 最大径は胴央にあり、口縁は外傾し頸で括れ、胴が膨らむ器形
G類（深鉢） 最大径は口縁にあり、外傾した口縁から頸で括れ、胴上位に膨らみを持つ器形
H類（深鉢） キャリパー形を呈するもので、膨らんだ口縁から内湾し、胴が膨らむ器形

Ⅰ類（深鉢）　球胴形を呈するもので、口縁は外反し、胴上位に大きく膨らみを持ち、胴下半はほぼ垂直の円筒形を呈する器形
Ｊ類（深鉢）　口縁は外反し、胴上位に大きく膨らみを持ちながら窄まる壺形の器形
Ｋ類（深鉢）　口縁は内傾し、胴上位に大きく膨らみを持ちながら窄まる器形
Ｌ類（浅鉢）　器高が口径よりも小さくなる器形



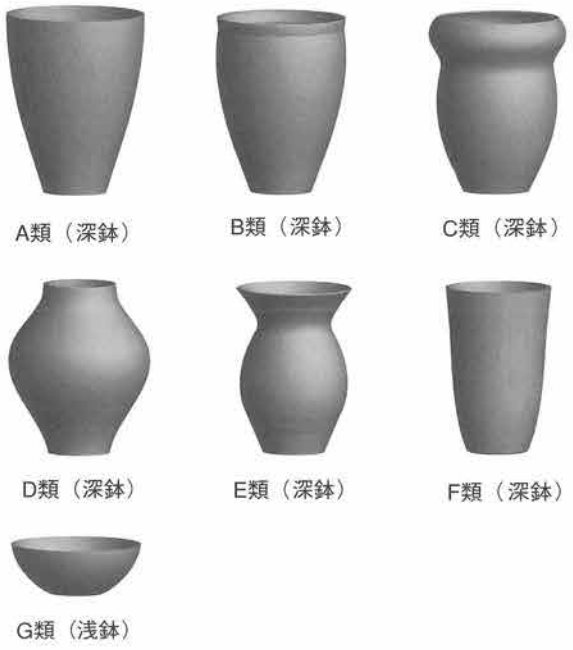
第９図　Ⅳ群土器器形模式図

１類　平縁
２類　大波状
３類　小波状
４類　突起有り
５類　凹み有り
　ａ　複合口縁上に連弧状や縦位･弧状などの短沈線（太）を施すもの
　ｂ　頸部に沈線による平行沈線や波状沈線を施すもの
　ｃ　山形沈線を縦位や横位に連続させるもの
　ｄ　碗状突起を有するもの
　ｅ　縦位の棒状隆帯を貼付けるもの
　ｆ　平行沈線の間に文様を施すもの
　　①　弧状や渦状の文様を施すもの
　　②　縦位や斜位の短沈線を充填するもの
　　③　波状や山形、刺突などの文様表現を行うもの
　　④　弧状などの文様を描き、空間に短沈線を充填するもの
　ｇ　交互刺突を施すもの

h　連続刺突を施すもの
i　原体圧痕を施すもの
j　押引沈線を施すもの
k　沈線による文様表現を行うもの
l　隆線による文様表現を行うもの
m　粘土貼付を施すもの
n　地文のみ
　①　全体に縄文を施すもの
　②　口端付近に狭い無文帯を持つもの
o　無文

(5) Ⅴ群　縄文時代中期中葉（大木８式相当）

A類（深鉢）　胴がわずかに膨らみながら窄まる器形
B類（深鉢）　口径よりも胴径が大きく、小さく膨らんだ胴から徐々に窄まる器形
C類（深鉢）　キャリパー形を呈するもので、膨らんだ口縁から緩く内湾し、胴が膨らむ器形か、緩やかに外傾しながら窄まる器形
D類（深鉢）　壺形を呈するもので、窄まった口縁から胴で大きく膨らむ器形
E類（深鉢）　口縁は外反、大きく内湾した後、胴が膨らむ器形
F類（深鉢）　最大径が口縁にあり、緩やかに窄まる器形
G類（浅鉢）　器高が口径よりも小さくなる器形
　1類　平縁
　2類　大波状
　3類　小波状
　4類　突起有り
　　a　沈線によって文様表現をするもの
　　b　隆線によって文様表現をするもの
　　①　文様帯が口縁部に限られるもの
　　②　文様帯が胴部まで展開されるもの
　　c　隆沈線によって文様表現をするもの
　　d　地文のみ
　　e　無文



第10図　Ⅴ群土器器形模式図

(6) Ⅵ群　縄文時代中期後葉～末葉（大木９～10式相当）

A類（深鉢）　口縁が内傾し、最大径が胴中位にある器形
B類（深鉢）　口縁が内傾し、最大径が口縁直下にある器形
C類（深鉢）　胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反、胴中位が膨らむ器形

D類（深鉢）　口縁直下で短く内湾し、胴上位に軽く膨らみを持ちながら窄まる器形
E類（深鉢）　キャリパー形を呈するもので、膨らんだ口縁から緩く内湾し、胴が膨らむ器形
F類（壺形）　最大径が胴中位にあり、口縁が窄まる壺形の器形
G類（小型）　上記に比べて小型の器形

第11図　Ⅵ群土器器形模式図

1類　平縁
2類　大波状
3類　突起有り
　a　沈線･隆沈線による文様表現が縦位に展開されるもの
　b　沈線による方形や縦長区画内に地文が充填されるもの
　c　沈線や隆沈線による方形･楕円形区画を連続して配置するもの
　d　地文を施文後に沈線による縦長区画を行い、外部は磨り消されるもの
　e　沈線による方形またはJ字状の区画を行い、内部は磨り消されるもの
　f　地文を施文後に沈線による方形区画を行い、外部は磨り消されるもの
　g　口縁に連続刺突が施されるもの
　h　爪状工具による連続刺突が施されるもの
　i　口縁に連続穿孔が施されるもの
　j　沈線や隆線、隆沈線による方形･楕円形区画を連続して配置するもの
　k　地文のみ
　l　上記に含まれないもの

(7) Ⅶ群　縄文時代後期初頭（門前式相当）

A類（深鉢）　口縁が外傾し、胴部に緩い膨らみを持ちながら窄まる器形
B類（深鉢）　最大径は口縁にあり外反、直下は内湾し、胴上～中位に膨らみを持つ器形
C類（深鉢）　胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反、胴中位が膨らむ器形
D類（深鉢）　胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反、胴上位が膨らむ器形
E類（深鉢）　口縁は内傾、胴上位に膨らみを持ち、窄まる器形

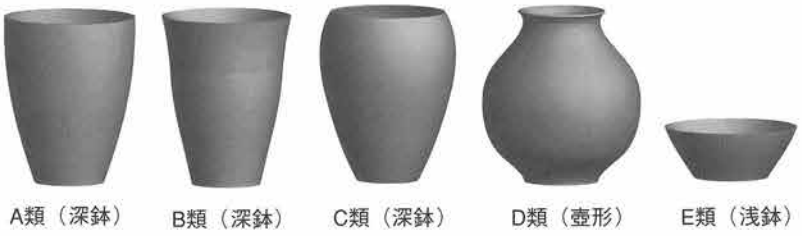
第12図　Ⅶ群土器器形模式図

1類　平縁
2類　大波状
3類　突起有り
　a　口縁に突起から垂下する連鎖状隆線を横位に展開するもの
　b　口縁に連鎖状沈線が横位に展開するもの
　c　連鎖状隆線による文様区画が行われるもの
　d　胴部に磨消技法を用いた曲線的モチーフを展開するもの（ボタン状貼付＋連鎖状隆線）
　e　胴上部に直線的な文様区画を行うもの（接点にボタン状貼付もしくは刺突が施される）
　f　胴部に三角形･倒卵形のモチーフが展開するもの（起点にボタン状貼付もしくは刺突）
　g　突起を有し、二重口縁で胴部にY字状･倒卵形などの磨消技法による円形モチーフを展開するもの
　h　胴部に沈線による曲線的モチーフを展開するもの（起点･接点にボタン状貼付）
　i　隆線による文様区画を行うもの
　j　連続S字状文が施文されるもの
　k　蛇行懸垂文が施文されるもの
　l　口縁（主に複合口縁）に沈線による方形区画や波濤文が配されるもの
　m　地文のみ
　n　上記に含まれないもの

(8) Ⅷ群　縄文時代後期～晩期（大洞式相当等）

(9) Ⅸ群　縄文時代のうち、上記いずれかの時期に含まれるもの

A類（深鉢）　口縁に最大径を持ち、胴がやや膨らみながら窄まる器形
B類（深鉢）　口縁直下で短く内湾し、胴上位に軽く膨らみを持ちながら窄まる器形
C類（深鉢）　口縁は内傾、胴上位に膨らみを持ち、窄まる器形
D類（壺形）　最大径が胴中位にあり、口縁が窄まる壺形の器形
E類（浅鉢）　器高が口径よりも小さくなる器形



第13図　Ⅸ群土器器形模式図

1類　平縁
2類　大波状
3類　突起有り
　a　沈線を施すもの
　b　隆線を施すもの
　c　口縁に沈線を横位に引き、口縁に無文帯、胴に地文を施すもの

d　口縁に無文帯、胴に地文を施すもの
e　地文のみを施すもの
f　無文（ナデやミガキ調整）

2 土 製 品
(1) 耳　　飾
(2) 土 器 片 円 盤
(3) 焼 粘 土 塊

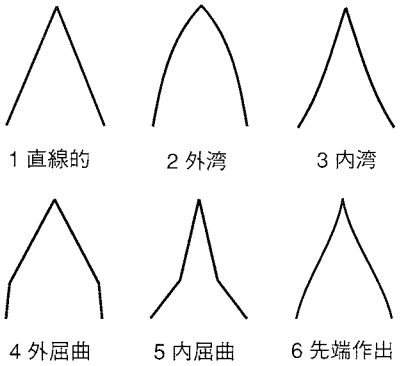
3 石　　器

(1) 尖 頭 器

[平面形態]
Ⅰ　最大幅が上半部にあるもの（鉾形）　　Ⅱ　最大幅が中央部にあるもの（柳葉形）
Ⅲ　最大幅が下半部にあるもの（木葉形）　　Ⅳ　分類不明
[基部形態]
A　尖基形　　B　平基形　　C　円基形　　D不明
[側縁形態]
1　直線的　　2　外湾

(2) 石　　鏃

Ⅰ　有茎
　A　凸基形
　　a　基部に中柄を持つもの
　　b　いわゆる「アメリカ式石鏃」の基部形態を持つもの
　B　尖基形
Ⅱ　無茎
　A　平基
　B　円基
　C　凹基
　　a　内湾　　b　外湾　　c　直線的なV字形になるもの
　　①　抉り/長さが0.15以下のもの
　　②　抉り/長さが0.16以上のもの
　[側縁形態]
　　1直線的　2外湾　3内湾　4外屈曲　5内屈曲　6先端作出



第14図　石鏃側縁形態模式図

※ⅡC類の①・②抉り/長さが0.16以上及び0.15以下となるものについては、長さ及び抉り長さが計測可能な計257点の平均値である（長さを1とした場合の抉りの長さ）。

(3) 石　　錐

Ⅰ　丁寧な二次加工が摘み部までの広範囲に見られるもの

Ⅱ　粗雑な二次加工が錐部のみに集中するもの

石匙

[平面形態]

Ⅰ縦型　　A　尖頭状の先端を有するもの
　　B　側縁に刃部を有するもの
Ⅱ斜型　　A　尖頭状の先端を有するもの
　　B　末端部に刃部を有するもの
Ⅲ横型　　A　平面形が三角状のもの
　　B　平面形が四角状のもの

[二次加工部位]

1　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの
2　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの
3　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの
4　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの

(4) 篦　状　石　器

[平面形態]

Ⅰ　基部から端部にかけて、ほぼ直線的な形態（短冊形）
Ⅱ　端部にかけて幅広になる形態（撥形）

[基部形態]

A　尖頭状を呈するもの
B　基部にやや幅があるもの
C　楕円形を呈するもの

[二次加工部位]

1　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの
2　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの
3　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの
4　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの

(5) 楔　形　石　器

Ⅰ　2個一対の剥離痕をもつもの
Ⅱ　4個二対の剥離痕をもつもの

(6) スクレイパー類･二次加工ある剥片

[平面形態]

Ⅰ　縦長剥片を素材とするもの
Ⅱ　横長剥片を素材とするもの

[二次加工部位]

1　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの

2　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの
3　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの
4　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの

(7) 微細剥離痕ある剥片·剥片

[平面形態]
Ⅰ　縦長剥片を素材とするもの
Ⅱ　横長剥片を素材とするもの
A　剥片背面に大きく自然面が残るもの→自然面が1/2以上（第1工程粗割段階）
B　自然面が打面にわずかに残るなどに留まるもの→自然面が1/2未満（第2工程目的的剥片剥離段階）

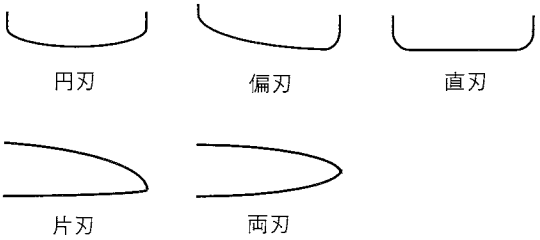
(8) 石　　核

Ⅰ　同一打面から同一作業面に同方向の剥離
Ⅱ　同一作業面に別々の打面から剥離
Ⅲ　同一打面から別々の作業面に同方向の剥離
Ⅳ　稜線上の交互剥離が全周しない
Ⅴ　稜線上の交互剥離がほぼ全周する
ⅥA　別々の作業面に約90°ずれる剥離
ⅥB　別々の作業面に約180°ずれる剥離
ⅥC　古い作業面を打面とする剥離
Ⅶ　両極技法による剥離
分類不可　剥離が不規則に行われているもの、または上記の剥離が組み合わさって認められるもの

(9) 石　斧　類

Ⅰ磨製石斧
A　最大幅が刃部付近にあるもの　　B　最大幅が中央付近にあるもの
1　幅広の平坦面をもつもの
2　やや幅広の平坦面をもつもの
3　平坦面をもたないもの
Ⅱ打製石斧
A　短冊形
B　撥形　　1　握り部有り　　2　握り部無し
C　分銅形
D　寸詰まり
[刃部形状]
a　刃部の平面形が円刃、断面形が両刃のもの
b　刃部の平面形が円刃、断面形が片刃のもの
c　刃部の平面形が偏刃、断面形が両刃のもの
d　刃部の平面形が偏刃、断面形が片刃のもの
e　刃部の平面形が直刃、断面形が両刃のもの

第15図　石斧Ⅰ類基部形態模式図



第16図　石斧類刃部形状模式図

f　刃部の平面形が直刃、断面形が片刃のもの

［Ⅰ類欠損状況（その他は特記）］

1　基部欠損、遺存2/3

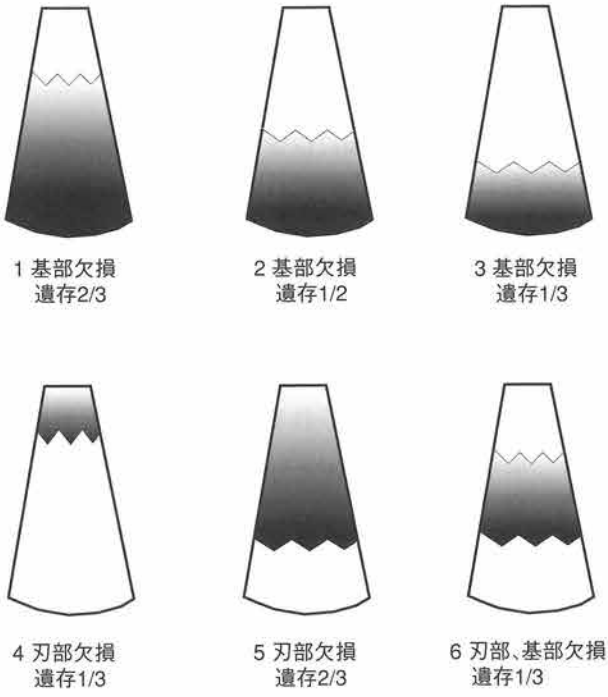
2　基部欠損、遺存1/2

3　基部欠損、遺存1/3

4　刃部欠損、遺存1/3

5　刃部欠損、遺存2/3

6　刃部･基部欠損、遺存1/3



第17図　石斧Ⅰ類欠損状況模式図

（10）礫　器　類

［素材分類］

Ⅰ　礫素材のもの

Ⅱ　大形で厚手の剥片を素材とするもの

［刃部形状］

A　刃部の平面形が円刃、断面形が両刃のもの

B　刃部の平面形が円刃、断面形が片刃のもの

C　刃部の平面形が偏刃、断面形が両刃のもの

D　刃部の平面形が偏刃、断面形が片刃のもの

E　刃部の平面形が直刃、断面形が両刃のもの

F　刃部の平面形が直刃、断面形が片刃のもの

G　刃部の作出位置が素材長軸（側面）で直刃、断面形が主に両刃（剥離）→敲磨器H類の調整段階か

これらに加えて、複合痕跡を伴う場合は①敲打･②磨･③凹･④特殊磨石を付記する。

（11）敲　磨　器　類

［形態分類］

Ⅰ　長/幅が0.87～2.00、厚/幅が0.17～1.08

Ⅱ　長/幅が2.01～2.95、厚/幅が0.35～1.28

Ⅲ　長/幅が3.04～3.52、厚/幅が0.29～1.22

Ⅳ　長/幅が3.49～4.24、厚/幅が0.29～0.85

Ⅴ　長/幅が4.41～4.99、厚/幅が0.39～0.90

Ⅵ　長/幅が5.22～5.61、厚/幅が0.44～0.70

［使用痕跡分類］

A　敲打痕だけを有するもの。Ⅰ類は敲打痕の位置により3細分される。

1　敲打痕が正裏面に位置するもの。

2　敲打痕が端部･側面に位置するもの。

3　敲打痕が正裏面のいずれかと端部･側面のいずれかに位置するもの。

B　敲打痕と磨痕が認められるもの。敲打痕と磨痕の位置により、2細分される。

1　敲打痕が正裏面に位置するもの。

2　敲打痕が端部･側面に位置するもの。

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

a　磨痕が正裏面のいずれかに位置するもの。
b　磨痕が側面に位置するもの。

C　敲打痕と凹痕が認められるもの。敲打痕の位置により、2細分される。なお、凹痕は正裏面のみに位置する。

1　敲打痕が正裏面に位置するもの。
2　敲打痕が端部･側面に位置するもの。

D　磨痕だけが認められるもの。Ⅳ類は磨痕の位置により、3細分される。

1　磨痕が正裏面のいずれかに位置するもの。
2　磨痕が端部･側面に位置するもの。
3　磨痕が正裏面のいずれかと端部･側面のいずれかに位置するもの。

E　磨痕と凹痕が認められるもの。磨痕と凹痕の位置により、3細分される。

1　磨痕が正裏面のいずれかに位置するもの。
2　磨痕が端部･側面に位置するもの。
3　磨痕が正裏面のいずれかと端部･側面のいずれかに位置するもの。

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

a　凹痕が正裏面に位置するもの。
b　凹痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。

F　凹痕だけが認められるもの。Ⅵ類は凹痕の位置により、2細分される。

1　凹痕が正裏面に位置するもの。
2　凹痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。

G　敲打痕と磨痕と凹痕のすべてが認められるもの。

H　いわゆる「特殊磨石」と呼称されるものに近似し、三角柱･四角柱･厚みのある楕円柱状の礫の稜（側面）などに磨痕や剥離を伴う磨痕を持つものである。礫の断面形状と複合する痕跡によって3細分する。

1　断面形が楕円形の礫を素材とする（機能磨面最大2ヵ所）。
2　断面形が三角形の礫を素材とする（機能磨面最大3ヵ所）。
3　断面形が四角形の礫を素材とする（機能磨面最大4ヵ所）。

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

a　稜（側面）1ヵ所に磨痕のみを持つもの。
b　稜（側面）1ヵ所に剥離を伴う磨痕を持つもの。
c　稜（側面）2ヵ所以上に磨痕のみを持つもの。
d　稜（側面）2ヵ所以上に剥離を伴う磨痕を持つもの。
e　稜（側面）2ヵ所以上に磨痕と剥離を伴う磨痕の両者を持つもの。

これらを加えて、複合痕跡を伴う場合は①敲打･②磨･③凹を付記する。

(12) 礫　石　錘

[形態分類]

Ⅰ　長/幅0.16～0.85、厚/幅0.08～0.37
Ⅱ　長/幅0.86～1.47、厚/幅0.18～0.36
Ⅲ　長/幅3.40、厚/幅0.47

[重量分類]

A　重量34.40～310.47g
B　重量391.93～817.40g
[縄掛け作出数]
1　1ヵ所のみ
2　1ヵ所（対）
3　2ヵ所のみ
4　2ヵ所（対）
5　2＋1ヵ所（対）
6　3ヵ所

(13) 砥　　石
(14) 浮　　子
(15) 球　　石
(16) 石 皿 台 石 類

[形態分類]
Ⅰ　加工有り（有縁）　　Ⅱ　加工無し（無縁）

4 石 製 品

(1) 石 棒 類

Ⅰ　反りを持たない剣状のもの（石剣）
Ⅱ　棒状のもの（石棒）

(2) 丸　　玉
(3) 玦 状 耳 飾
(4) 不明抉入石器

5 土 師 器

6 陶 磁 器

7 金 属 製 品

8 銭　　貨

9 動 物 遺 存 体

10 植 物 遺 存 体

V 検出遺構

1 記述方法

(1) 基本方針

個々の遺構を説明するにあたっては、観察表・遺構各説・遺構実測図版・遺構写真図版を用いた。観察表ですべての遺構の記載を行い、遺構各説では観察表で記述できない箇所も含めて記載した。遺構番号は基本的に発掘調査時に付したものを用いているが、室内整理の検討によって当初と異なった性格の遺構であった場合は、種別及び番号を付け直している。

また、土坑とピットについては、調査段階から直径1m以上を土坑、直径1m以下をピットに分けている。遺構内ピットについては、遺構床面･底面から検出されたすべての坑をピットとし、そこから配置や堆積状況を観察した上で柱穴と考えられるものを抜き出している。

(2) 平面・断面形態について

遺構を表現する上で主に、以下のような形態分類基準を用いた。

① 平面形態

円形：長軸･短軸にほとんど差が無く、同心円状の開口部径または底部径を持つもの。

楕円形：長軸･短軸に大きく差があり、円形よりもやや幅広の開口部または底部径を持つもの。

方形：長軸･短軸にほとんど差が無く、隅丸角がある四角形の開口部または底部径を持つもの。

長方形：長軸･短軸に大きく差があり、方形よりも幅広の隅丸角がある四角形の開口部または底部径をもつもの。

不整形：上記の形態に当てはまらず、長軸や短軸などが計測される箇所を複数持つもの。

② 断面形態

皿形：開口部径と底部径の差がほとんど無く、深さが開口部径の約1/3程度のもの。

鍋底形：開口部径に対して、底部径が狭く、壁面がやや外湾しながら立ち上がるもの。

袋形：開口部径に対して、底部径がやや幅広で、壁面がやや内湾しながら立ち上がるもの。

ビーカー形：開口部径と底部径にほとんど差が無く、壁面はほぼ直立しながら立ち上がり、深さが開口部径と同様もしくは以上もの。

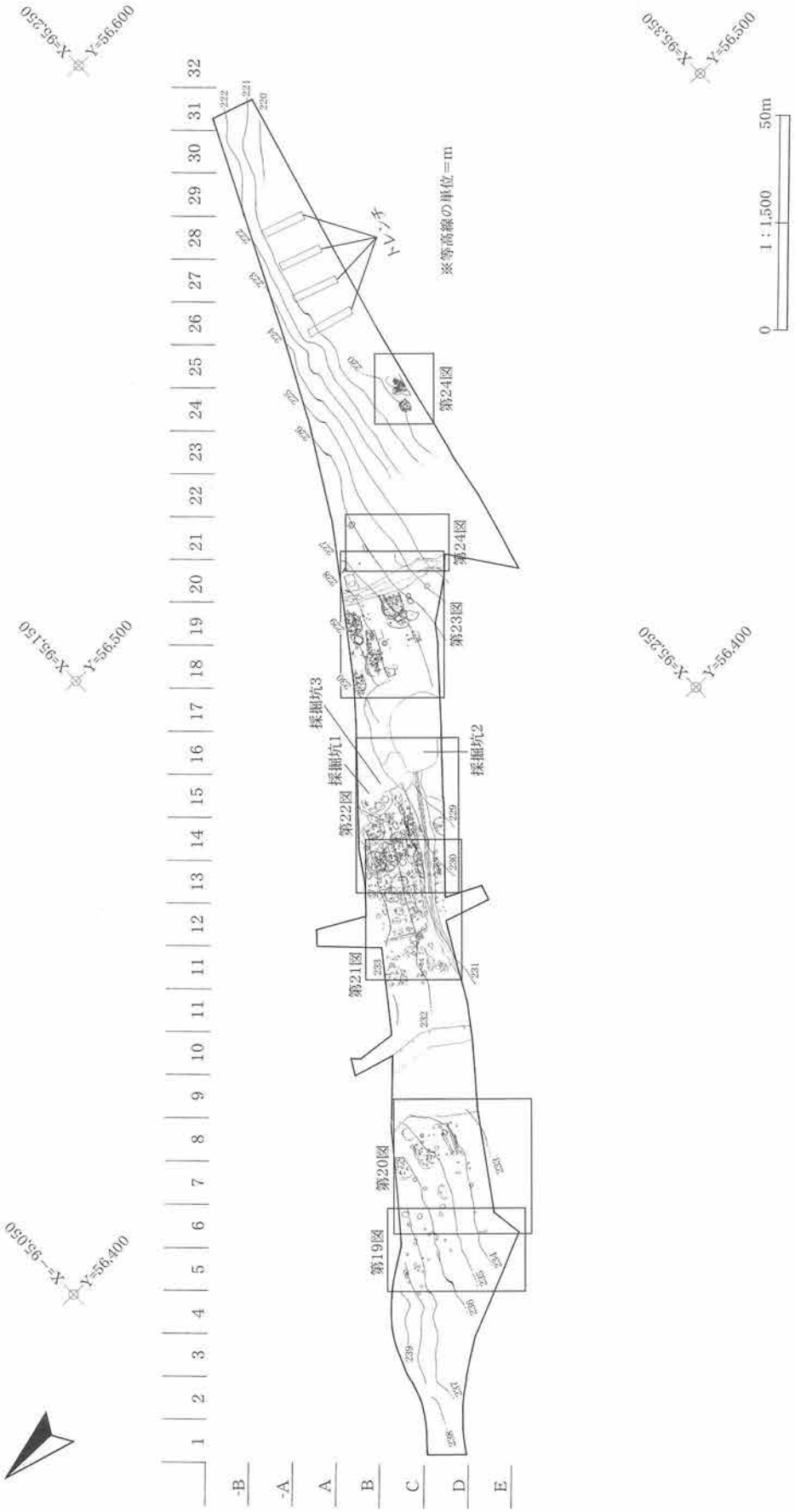
(3) 図化の方法

① 全体図（遺構配置図）

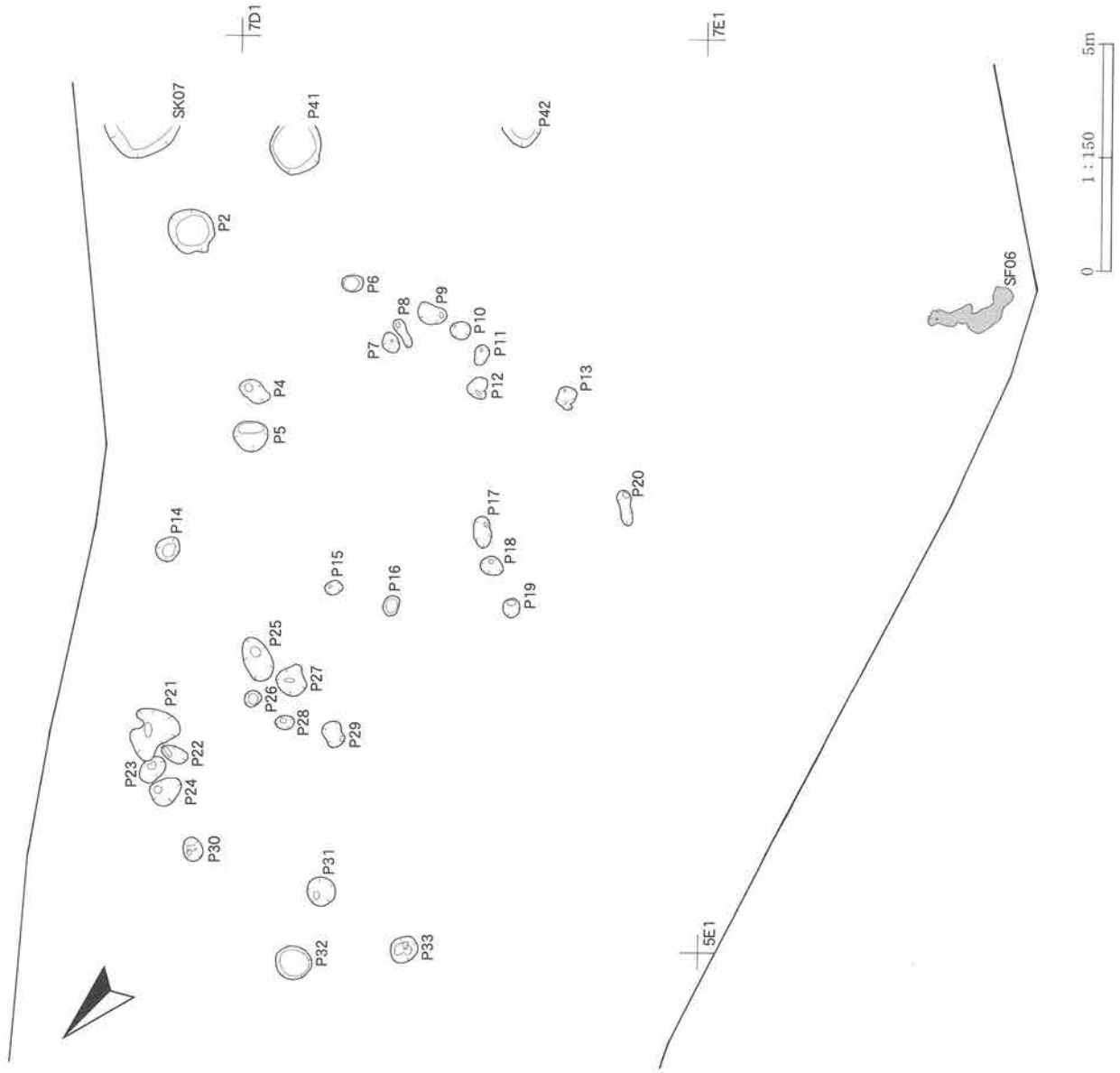
調査区内における遺構配置を示す図面。

② 個別図

遺構を個々に示した実測図。図化にあたっては、平面図・断面図をセットで提示することを基準とした。また、この他にも必要において、遺物出土状況図・エレベーション図を用いた。



第18図　遺構配置図（全体）

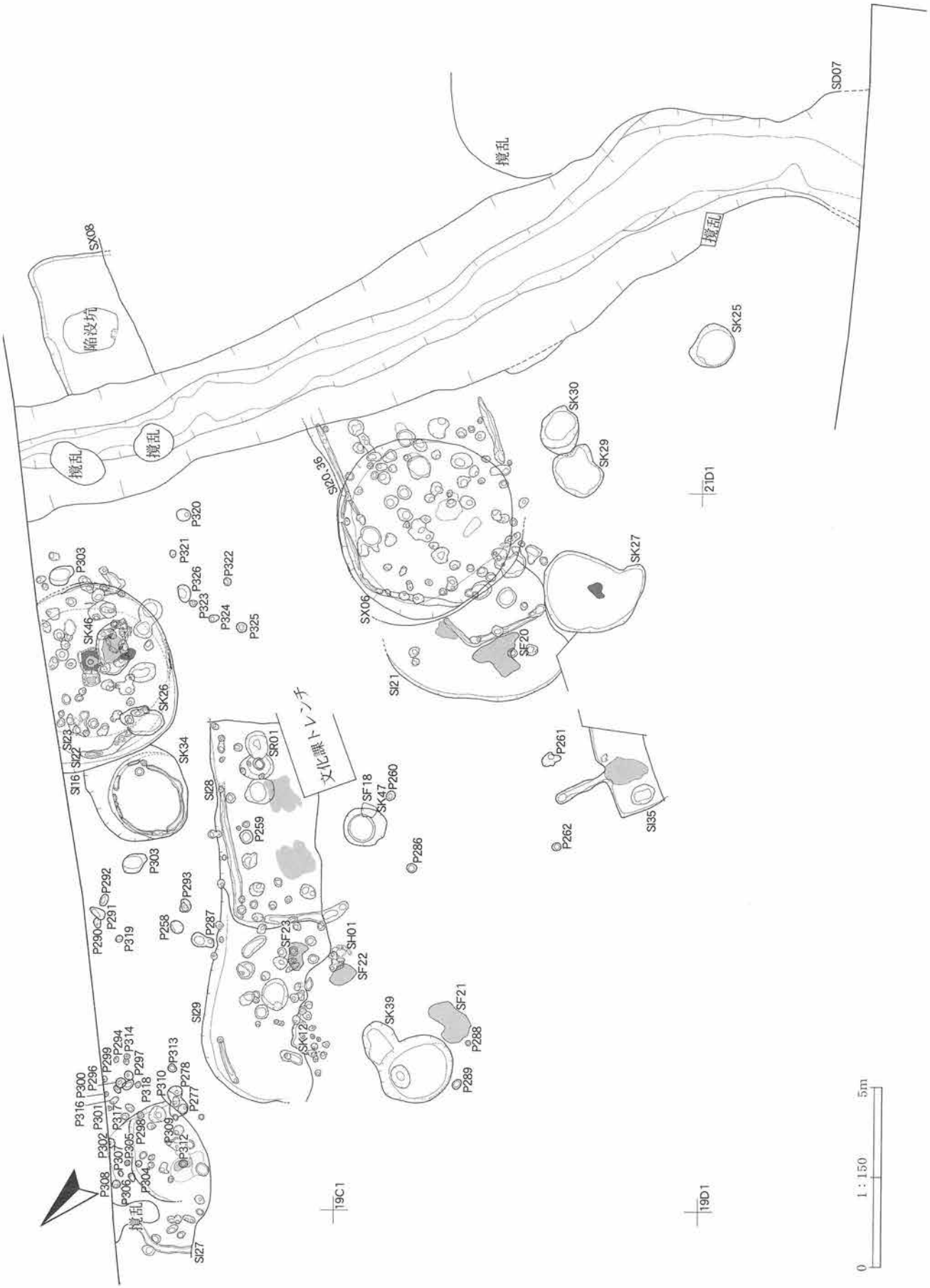


第19図　遺構配置図（A区）

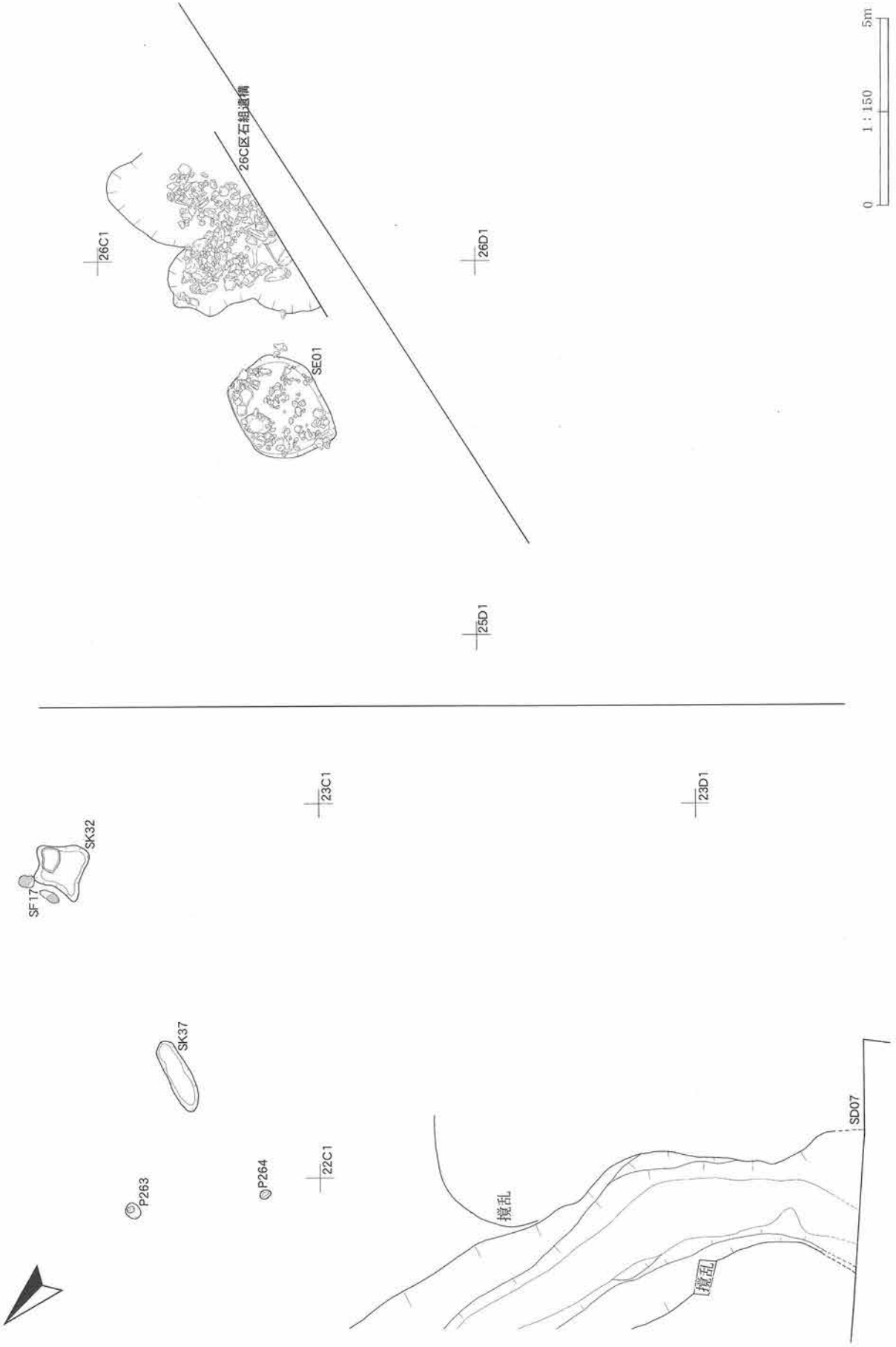
第20図　遺構配置図（A区）

第21図　遺構配置図（B区）

第22図　遺構配置図（B区）



第23図　遺構配置図（C区）



第24図　遺構配置図（C・D区）

2 遺　　構

検出遺構数は、竪穴住居跡38棟、住居状遺構8基、土坑47基、焼土跡・炉跡24基、土器埋設遺構2基、配石遺構1基、墓坑2基、堀跡2条、溝跡5条、井戸跡1基、石組遺構1基、ピット326個、採掘坑3ヵ所である。調査区は旧沢跡部分を挟んでA区（1～10グリッドライン）とB区（11～17グリッドライン）、家屋部分を挟んでC区（18～23グリッドライン）とD区（24～32グリッドライン）に区分される。

遺構の残存状況は現況の地形に大きく影響を受けている。現況は大きく原野・水田・畑地に分けられるが、水田部分は近年の造成工事によりⅣ層上面まで深く削平されており、遺構の残存状況は頗る悪い。一方、原野部分は道路工事の際の土取による攪乱、削平により上面をかなり欠いており、現耕作土面直下でⅣ層上面に到達し、この層位が遺構最終検出面となる。最も良く旧地形を残しているのは畑地部分であり、Ⅰ層現耕作土層中にも縄文時代の遺物が多く表採される。直下のⅡ層黒褐色土層、Ⅲ層暗褐色土層、Ⅳ層黄褐色粘土質土層の上面ではいずれも遺構が検出され、層位中に遺物も多量に包含する層を成している。

調査A区は遺構密度が希薄であり、遺構同士の重複関係は少なく遺構の認識がしやすい。斜面下位は近年の道路工事の影響により大きく削平されており、元地形を留めていない。これに対して、調査B区は遺構密度が高く、遺構同士の重複も著しい。これから遺構プランの判別が極めて困難な箇所もあり、変遷過程などの検討が深く及ばなかった遺構もある。水田部分は削平が著しく、遺構プランも原形を留めているものは少ない。竪穴住居跡などは床面のみが残存するのみである。斜面下位は当初予想していなかった大規模な横堀（SD04）が見つかり、縄文時代の遺構・遺物包含層が密集している箇所を壊して作られている。このSD04堀跡堆積土にはそれ以後に上位層から流れ込んだ遺物を大量に包含していた（土器破片数6,375片・重量110,390g、石器1,521点）。調査C区は中央に大規模な竪堀（SD07）があり、これを境界にして東側は極端に遺構密度が希薄になる。西側の斜面下位には削平により残存僅かだが唯一の平安時代の竪穴住居跡1棟を検出しており、また十和田中掫テフラを堆積土中位に堆積する土坑（縄文時代前期初頭～前葉か）、配石遺構などバラエティに富んでいる。遺構密度は調査B区同様高く、SI16・22・23竪穴住居跡などの著しい重複が見られる遺構もある。調査D区は最も遺構密度が希薄な区域であり、国道397号沿いと山体裾斜面部である。調査区の最も下位である国道397号沿いは黒褐色土（Ⅱ層起源か）の拡がりとその上部に部分的に見られる十和田中掫テフラが観察され、少量の遺物を包含している。黒褐色土は山体裾斜面部には一部に散在するだけであるため、傾斜の緩い道路沿い部分に堆積したものと見られる。山体裾斜面部のほとんどはⅠ層直下にⅣ層が現れ、遺構は皆無である。道路沿いは斜面下位に近年の攪乱が大きく入っており、また旧道のための削平など荒れた状態である。

遺構の検出は調査B・C区が主であり、一部調査A区がある。これは調査D区を除く緩斜面地に占地したためで同一エリアでの重複が著しい。

本項では上記で検出した各遺構について説明を行う。遺構説明については、竪穴住居跡→住居状遺構→土坑→土器埋設遺構→配石遺構→焼土跡・炉跡→堀・溝跡→墓坑→井戸跡→石組遺構→採掘坑→ピット→Ⅲ層上面～上位遺物集中の順で記載する。

(1) 竪穴住居跡

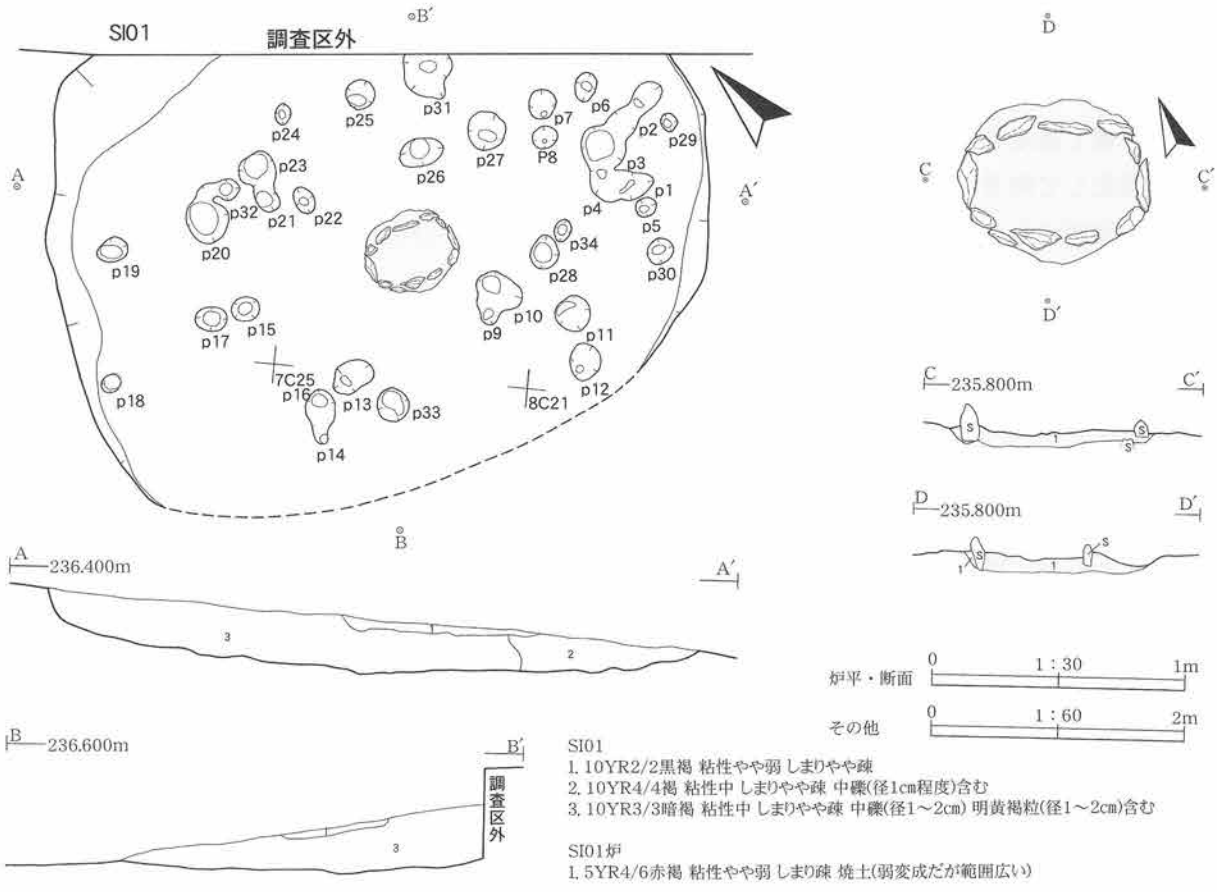
本調査で検出された竪穴住居跡は38棟である。このうち、縄文時代に想定されるのはSI01～34、36～38竪穴住居跡の計37棟、平安時代に想定されるのはSI35竪穴住居跡の1棟である。

竪穴住居跡を説明するために、遺構の位置･検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形、堆積土の状態、壁･床面の状態、遺構に伴うピットと柱穴の判別（配置を検討できたピットは柱穴として抽出）、炉の形態、出土遺物、遺構の帰属時期について記載を行う。

ＳＩ０１竪穴住居跡

遺構（第25図、写真図版4）

［位置･検出状況］調査A区7C20に位置する。Ⅳ層上面で遺構検出をしたところ、調査区境にかかる暗褐色土が楕円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ45cmのところで黄褐色土の床面に達し炉を確認したため、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［重複関係］なし。［規模･平面形］北壁は調査区外にかかり不明である。南壁である斜面下側も元々壁高が低かったと思われるが失われている。長軸は東西方向533cm、短軸は南北方向（392）cm以上の楕円形を呈すると見られる。深さは48cm、床面積は残存値で（14.7）㎡である。［堆積土］暗褐色土主体の3層で構成される。堆積土上部には黒褐色土がモヤ状に拡がり（1層）、上層から下層までほぼ単一に堆積しているが下層になるほど中礫の粒径がやや大きくなる。斜面上位はすぐに山体斜面となるため基本層序Ⅱ層はなく、Ⅲ層主体となる暗褐色土のみが自然



第25図　SI01 竪穴住居跡

堆積したと考えられる。[壁・床面] 北壁は調査区外で確認できない。南壁は残存しておらず、そのまま斜面の傾斜に沿って落ちていく。西壁及び東壁から判断すると床面からは外形しながら緩やかに立ち上がる形状である。壁高は西壁が25cm、東壁が10cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層まで行われている。[ピット・柱穴] 床面から計34個検出した。堆積土からはいずれも本遺構に伴う柱穴と判断される。遺構に対して柱穴数が多いことから、建替えが考えられる（第213図）。[炉] 床面のほぼ中央から石囲炉を1基検出した。炉の規模は75×65cmで楕円形を呈しており、遺構の長軸と同方向に長く構築されている。被熱面は炉の外側まで広がっており、深さは7.5cmで弱変成している。

遺物（第81・169図、写真図版76・137）

[出土状況] 出土土器のうち、3層から59%（1,470g）、床直上～床面からは24.8%（615g）出土している。石器は大半が3層から床面に出土しており、礫器類1点が炉石に転用されている。

[土器] 縄文土器209片（2,480g）を出土している。このうち1～6の6点を掲載した。大半はⅣ群に含まれ、6は床面炉南西から口縁が床面に接する状況で出土した。

[石器] 計16点を出土している。石匙2点、楔形石器1点、二次加工ある剥片1点、剥片8点、礫器類1点、敲磨器類3点で、このうち1059・1062石匙の2点を掲載した。

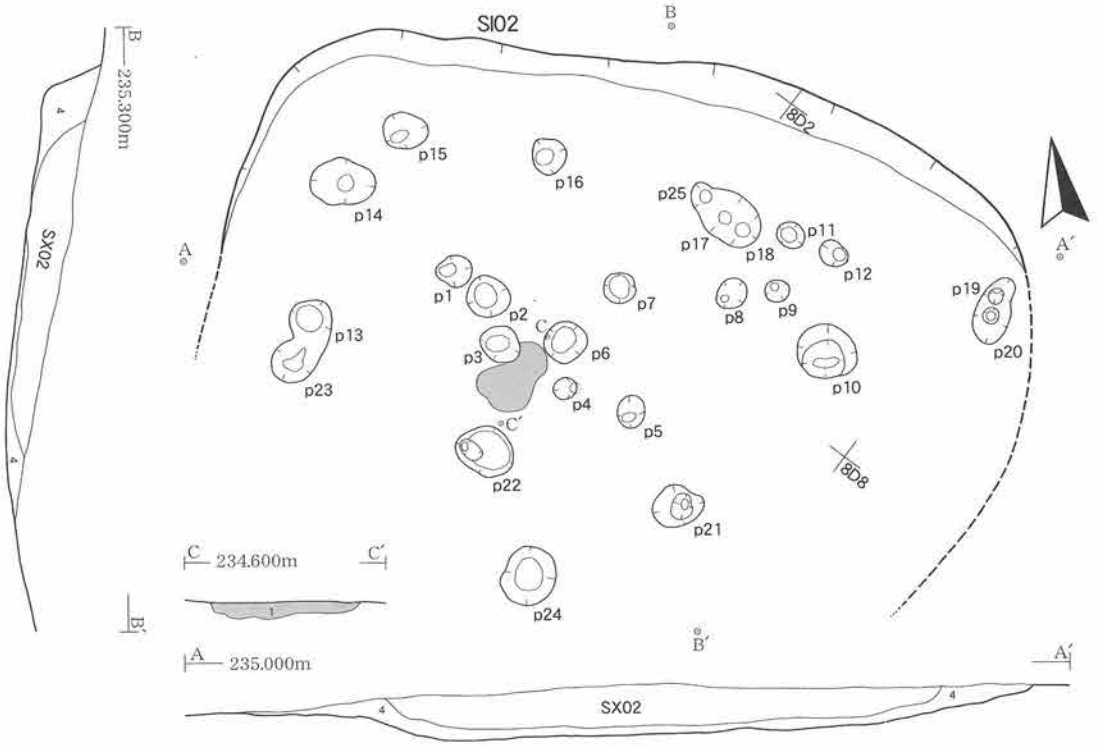
時期　床面から出土した6から、縄文時代中期前葉に想定される。（北田）

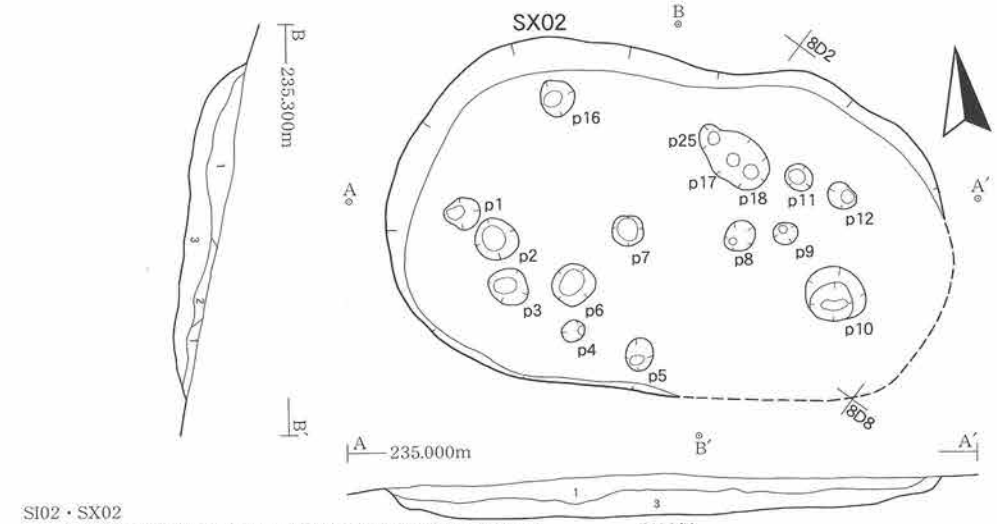
ＳＩ０２竪穴住居跡

遺構（第26図、写真図版5）

[位置・検出状況] 調査A区8D2に位置する。Ⅳ層上面で遺構検出を実施したところ、暗褐色及び褐色が楕円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、本遺構堆積土中にSX02住居状遺構が掘り込まれていることを確認した。床面は検出面から深さ約45cmにあり、Ⅳ層で構成される。また床面中央やや南西寄りに焼土を確認したため、炉と判断し竪穴住居跡を想定して精査を進めた。[重複関係] 本遺構の内側にSX02住居状遺構が構築されており、本遺構が旧期にあたる。SX02住居状遺構のプランは本遺構堆積土内に限られるため、埋没過程で凹んだ落ち込みを利用して構築したと考えられる。[規模・平面形] 長軸は推定値で641cm、短軸は斜面下側の立ち上がりを欠いているため不明であるが、残存値で（375）cmの楕円形を呈すると見られる。深さは39cm、床面積は残存値で（18.5）㎡である。[堆積土] 多くは重複するSX02住居状遺構の堆積土で構成され、本遺構堆積土は褐色土の単一層である。堆積土中には炭化物2%混入している。[壁・床面] 南壁は残存しておらず、そのまま斜面の傾斜に沿って下る。東壁は立ち上がりが判然とせず、不明である。西壁及び北壁から判断すると床面からは外傾しながら緩やかに立ち上がる。壁高は西壁が10cm、北壁が43cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。[ピット・柱穴] 床面から計25個検出した。このうち16個は重複するSX02住居状遺構プラン底面からも検出しているが、両者のどちらを構成する柱穴かは判断できない。少なくとも、本遺構プラン内に含まれる残りの8個は本遺構に伴うものと考えられる。[炉] 床面の中央やや南西寄りに地床炉を1基検出した。炉の規模は60×45cmで、平面形は不整形を呈している。深さは6.5cmで強変成している。

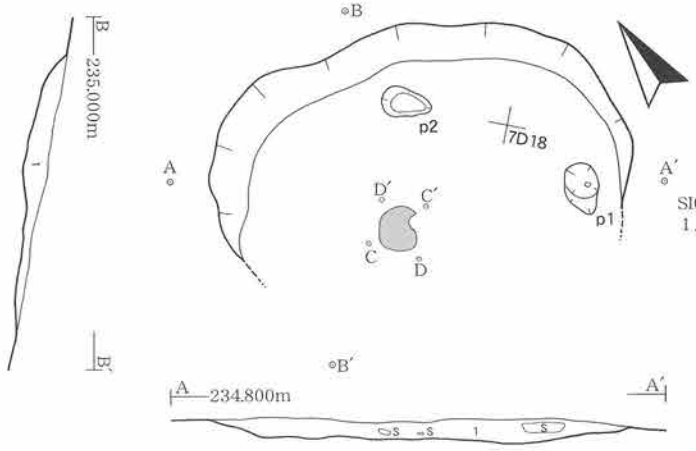
遺物（第81・166・170・171・178図、写真図版76・138・142）





SI02・SX02
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1㎝ 亜角)含む
2．5YR5/8明赤褐 粘性弱 しまりやや密 混入した廃棄焼土
3．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1㎝ 亜角) 炭化物3%含む
4．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまり密 炭化物2%含む 1・3層より粘性強い

SI02炉
1．5YR3/6暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや弱 焼土



SI03炉
1．5YR4/8赤褐 粘性弱 しまり密 焼土
2．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 植物痕

SI03
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm程度)含む

炉断面　0　1：30　1m
その他　0　1：60　2m

第26図　SI02・03 竪穴住居跡　SX02 住居状遺構

［出土状況］大半が床面直上～床面付近から出土している。
［土器］縄文土器315片（3,700g）を出土している。このうち7～17の12点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。
［石器］計25点を出土している。石鏃4点、石匙3点、篦状石器2点、スクレイパー類3点、二次加工ある剥片4点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片8点で、このうち992･993石鏃、1067･1074石匙、1118･1123スクレイパー類の6点を掲載した。
時期　床面出土9から、縄文時代前期末葉に想定される。

ＳＸ０２住居状遺構

遺構（第26図・写真図版42）
［位置･検出状況］調査A区8D2に位置する。Ⅳ層上面で遺構検出を実施したところ、暗褐色及び褐色が楕円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。その結果、外形プランはSI02竪穴住居跡と判明し、その内側に広がるやや小形のプランが存在することを確認した。［重複関係］SI02竪穴住居跡検出プランの内側にSX02住居状遺構が構築されており、本遺構が新期にあたる。本遺構はSI02竪穴住居跡堆積土内に限られるため、埋没過程で凹んだ落ち込みを利用して構築したと考えられる。［規模･平面形］長軸は東西方向445cm、短軸は南北方向273cmの楕円形を呈する。深さは35cm、床面積は（9.1）㎡である。［堆積土］黒褐～暗褐色土主体の３層で構成される。検出面付近の2層は明赤褐色の廃棄焼土が流れ込んで堆積している。上位層には検出面で巨礫を幾つか確認しており（1層上位）、下位層になるほど含有する炭化物量が増加する。埋没は斜面上位からを主体とした自然堆積と見られる。［壁･床面］南壁は残存しておらず、そのまま斜面の傾斜に沿って下る。斜面下側の東壁は確認できないが、上側は残存している。壁はいずれも床面から外傾しながら緩やかに立ち上がる。壁高は東壁13cm、西壁18cm、北壁が30cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。［ピット･柱穴］ピットは床面から計16個検出したが、床面の大半の部分はSI02竪穴住居跡と同一レベルであるためどちらに伴うか不明である。ただし、SI02竪穴住居跡炉を切っているp3と近距離に隣接するp4･6･22は本遺構に伴うと見られる。
遺物（第108･161･162･165･174･180･198図、写真図版103･133･135･140･143）
［出土状況］大半が検出面～堆積土上位から出土している。
［土器］縄文土器253片（2,770g）を出土している。このうち405の1点を掲載した。Ⅳ群に含まれる。
［石器］計32点を出土している。尖頭器2点、石鏃2点、篦状石器2点、楔形石器1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片4点、微細剥離痕ある剥片4点、剥片12点、礫器類1点、敲磨器類3点で、このうち913･916尖頭器、977石鏃、1096篦状石器、1130二次加工ある剥片、1225敲磨器類を掲載した。
時期　縄文時代中期初頭と考えられる。

ＳＩ０３竪穴住居跡

遺構（第26図、写真図版6）

[位置·検出状況] 調査A区7D17に位置する。Ⅳ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が楕円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。検出面から深さ15～18cmのⅣ層で構成される床面に達し、床面中央に焼土跡を確認したため、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。[重複関係] なし。[規模・平面形] 長軸は南北方向335cm、短軸は斜面下側の立ち上がりを欠いているが、東西方向（195）cm以上の楕円形を呈すると見られる。深さは20cm、床面積は（5.5）㎡前後である。[堆積土] 黒褐色土の単一層で構成される。[壁·床面] 斜面下側の南壁は残存しておらず、そのまま斜面の傾斜に沿って下る。壁は西壁·北壁から判断すると床面からは外形しながら緩やかに立ち上がる。壁高は東壁が5cm、西壁が15cm、北壁が15cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層まで行われている。[ピット·柱穴] ピットは床面から計2個検出した。いずれも本遺構の柱穴と考えられる。[炉] 床面の中央からやや西寄りに地床炉1基を検出した。炉の規模は37×36cmで、不整形を呈している。深さは6cmで強変成している。

遺物（第81図、写真図版76）

[出土状況] 出土土器のうち、63.9%（620g）が床直上から出土している。石器のうち、礫石錘は堆積土上位から出土している。

[土器] 縄文土器39片（970g）を出土している。このうち18～20の3点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

[石器] 計4点を出土している。微細剥離痕ある剥片1点、敲磨器類1点、礫石錘2点である。

時期　縄文時代前期末葉に想定される。

ＳＩ０４竪穴住居跡

遺構（第27図、写真図版7）

[位置·検出状況] 調査B区12C17に位置する。現況は水田であり斜面を削平しているため残存は著しく悪い。現耕作土を除去した段階ですでにⅣ層が露出し、また整地のために入れた礫混じりの黒褐色土（層厚10～20cm）が確認された。この層を除去したところ大きく広がる焼土を確認したため遺構を想定し、精査を行った。精査の結果、大きく広がる楕円形（500×235cm）の焼土跡は住居床面に広がるものと判断した。[重複関係] なし。[規模·平面形] 長軸は東西方向500cm、短軸は南北方向235cmの楕円形を呈する焼土跡である。残存する床面範囲は捉えられなかった。焼土跡の深さは14cmで西側は弱変成、中央から東側にかけてが強変成である。[堆積土] 遺構床面付近まで削平されているため、確認できない。[床面] 焼土面が床面とすれば、全体に平坦ではあるが斜面に沿って若干の傾斜があり、西側にも僅かに下っている。壁は残存していない。

遺物（第81·82·137·163·164·176·192図、写真図版76·77·134·141·150）

[出土状況] 純粋な堆積土は確認できないが、遺構範囲から出土した遺物を遺構時期推定のためカウントした。出土遺物の大半は焼土面もしくは焼土面直上から出土している。

[土器] 縄文土器1,439片（23,755g）出土している。このうち21～38の18点を掲載した。Ⅳ·Ⅴ·Ⅶ·Ⅸ群が出土しているが、Ⅶ群の割合が多い。

[石器] 計21点を出土している。石鏃6点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片1点、剥片12点、礫器類1点で、このうち923·931·947石鏃、1112スクレイパー類、1192礫器類を掲載した。

時期　出土遺物から縄文時代後期初頭に想定される。

ＳＩ０５竪穴住居跡

遺構（第27図、写真図版8）

［位置･検出状況］調査B区13C20に位置する。Ⅱ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約7cmのところでやや締まりのあるⅡ層黒褐色土で構成される床面に達し、やや南西寄りに石囲炉を確認したため、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［重複関係］本遺構全体がSI07竪穴住居跡と重複しており、本遺構が新期にあたる。SI07竪穴住居跡は本遺構下層にあるため、連続的な建替えではなく、後続する時期に新たに構築されたと見られる。［規模･平面形］長軸は斜面下側の立ち上がりを欠くが南北方向〔355〕cm、短軸は南東側の立ち上がりを欠くが東西方向〔324〕cmの円形を呈する。深さは17cm、床面積は推定値で〔7.5〕㎡前後である。［堆積土］黒褐色土主体の4層で構成される。径1～3cm前後の中礫を少量含む。床面の一部（中央付近）には明黄褐色砂質土があり、何らかの理由で遺構内に持ち込まれたものと考えられる。［壁･床面］南壁及び西壁は残存しておらず、そのまま斜面の傾斜に沿って下るため確認できない。東壁及び北壁から判断すると床面からは外傾しながら緩やかに立ち上がる。壁高は東壁が7cm、北壁が13cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅡ層中まで行われている。［炉］床面の中央からやや南西寄りの斜面下側で石囲炉を1基検出した。炉の規模は65×54cmで、平面形は円形を呈している。炉の一部は欠損しているが、おそらく6個の亜角礫を使用して構築されたものと考えられる。炉内は全体に極暗赤褐色に変化しており、深さは6.5cmで強変成している。

遺物（第82図、写真図版77）

［出土状況］出土土器のうち、82.6%（2,445g）が3層、13.7%（405g）が炉堆積土である。石器はいずれも3層出土である。

［土器］縄文土器173片（2,960g）を出土している。このうち39～43の5点を掲載した。Ⅳ･Ⅴ･Ⅶ群に含まれるが、Ⅶ群が多い。

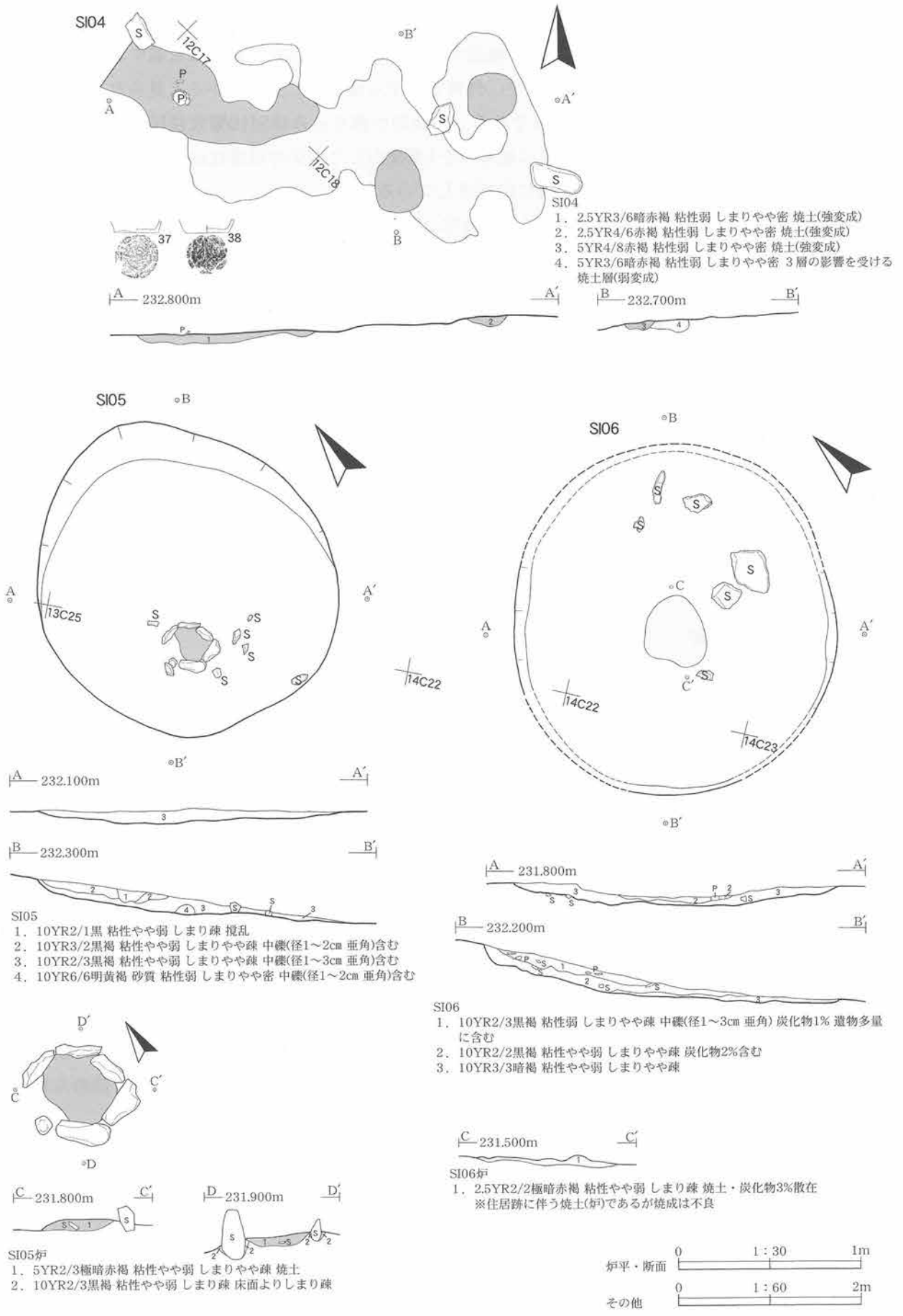
［石器］計13点を出土している。石核1点、剥片10点、敲磨器類2点である。

時期　縄文時代後期初頭に想定される。

ＳＩ０６竪穴住居跡

遺構（第27図、写真図版9）

［位置･検出状況］調査B区14C18に位置する。Ⅱ層上面から段階的に掘り下げを行いⅢ層上面で再検出を行ったところ、遺物を多量に含む黒褐色土が円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約21cmのところでⅢ層で構成される床面に達しほぼ中央に焼土を確認したため、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［重複関係］北東でSI08竪穴住居跡と重複し、本遺構堆積土上位にSI08竪穴住居跡貼床があるため、本遺構が旧期にあたる。また、遺構全体がSI10竪穴住居跡と重複し、本遺構はSI10竪穴住居跡堆積土内に構築されているため、本遺構が新期にあたる。［規模･平面形］平面形は精査の際、斜面上側（北東）を掘り過ぎてしまい確認できないが、斜面下半の状況からほぼ円形を呈すると考えられる。長軸は北東－南西方向〔389〕cm、短軸は北西－南東方向352cmである。深さは22cm、床面積は〔9.8〕㎡前後である。［堆積土］黒褐色土主体の3層で構成される。堆積土1･2層には炭化物粒が微量含まれる。



第27図　SI04～06 竪穴住居跡

また、堆積土中には多量の遺物が確認され、遺物を投棄した可能性も考えられる。[壁・床面] 斜面上側の北壁から東壁は掘りすぎのため確認することができないが、北壁は重複するSI10竪穴住居跡堆積土の状況から壁高は18cm前後で、外傾しながら緩やかに立ち上がると見られる。壁高は残存している西壁が18cm、南壁が4cmである。構築時の掘り込みはSI10竪穴住居跡堆積土中まで行われている。[炉] 床面のほぼ中央に地床炉を1基検出した。炉の規模は80×68cmで、不整形を呈している。深さは5cmで極暗赤褐色に弱変成している。

遺物（第82～84・137・138・163・164・166・168・175・181・186・200図、写真図版77～79・134・135・140・143・146）

[出土状況] 出土土器のうち、70.4%（18,105g）が堆積土中、15.6%（4,010g）が床直上～床面である。石器は15.3%（18点）が床直上～床面である。

[土器] 縄文土器1,525片（25,710g）を出土している。このうち44～68の25点を掲載した。Ⅳ～Ⅶ・Ⅸ群に分けられ、床面直上はほぼⅣ群で占められるが、Ⅶ群の割合が多い。

[石器] 計118点を出土している。尖頭器1点、石鏃10点、楔形石器3点、スクレイパー類4点、二次加工ある剥片4点、微細剥離痕ある剥片2点、石核1点、剥片84点、礫器類1点、敲磨器類6点、礫石錘2点で、922尖頭器、948・964・994・1034石鏃、1098楔形石器、1138二次加工ある剥片、1162・1163剥片、1239敲磨器類を掲載した。

時期　重複関係から、縄文時代後期初頭に想定される。

ＳＩ０７竪穴住居跡

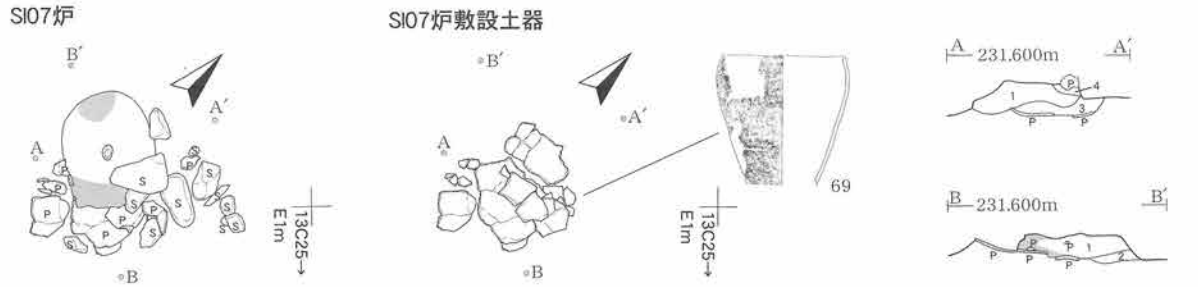
遺構（第28図、写真図版10）

[位置・検出状況] 調査B区13C24に位置する。SI05竪穴住居跡精査後、掘り下げを行ったところ、SI05竪穴住居跡炉のほぼ直下に埋設土器を伴う炉跡を確認したため、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。[重複関係] 本遺構全体がSI05竪穴住居跡と重複しており、本遺構が旧期にあたる。[規模・平面形] 規模は本遺構上位に存在するSI05竪穴住居跡を構築する際に壁などの大半は壊されているため不明である。床面と考えられる範囲には黄褐色粘土質土が部分的に堆積しており、貼床の一部を成していたものと考えられる。[堆積土] SI05竪穴住居跡構築時に破壊され確認できないが、残存部分から黒褐色土主体であったと推定される。[壁・床面] 壁は残存しておらず、不明である。床面はほぼ平坦と考えられ、構築時の掘り込みはⅢ層中まで行われている。床面の一部には黄褐色粘土質土が確認され、貼床の一部と考えられる。[炉] 土器埋設石囲炉を1基検出した。炉の規模は60×43cmで、廃棄した土器を敷き詰めた上に明黄褐色土を貼土として使用し、その周りに石を円形などに並べていたと考えられる。検出段階で炉石は失われていた。炉構築土である明黄褐色土は一部が赤褐色に強変成しており、焼土化している。炉下位に敷き詰められた土器（69）はⅦ群の範疇に入り、縄文時代後期初頭に比定される。

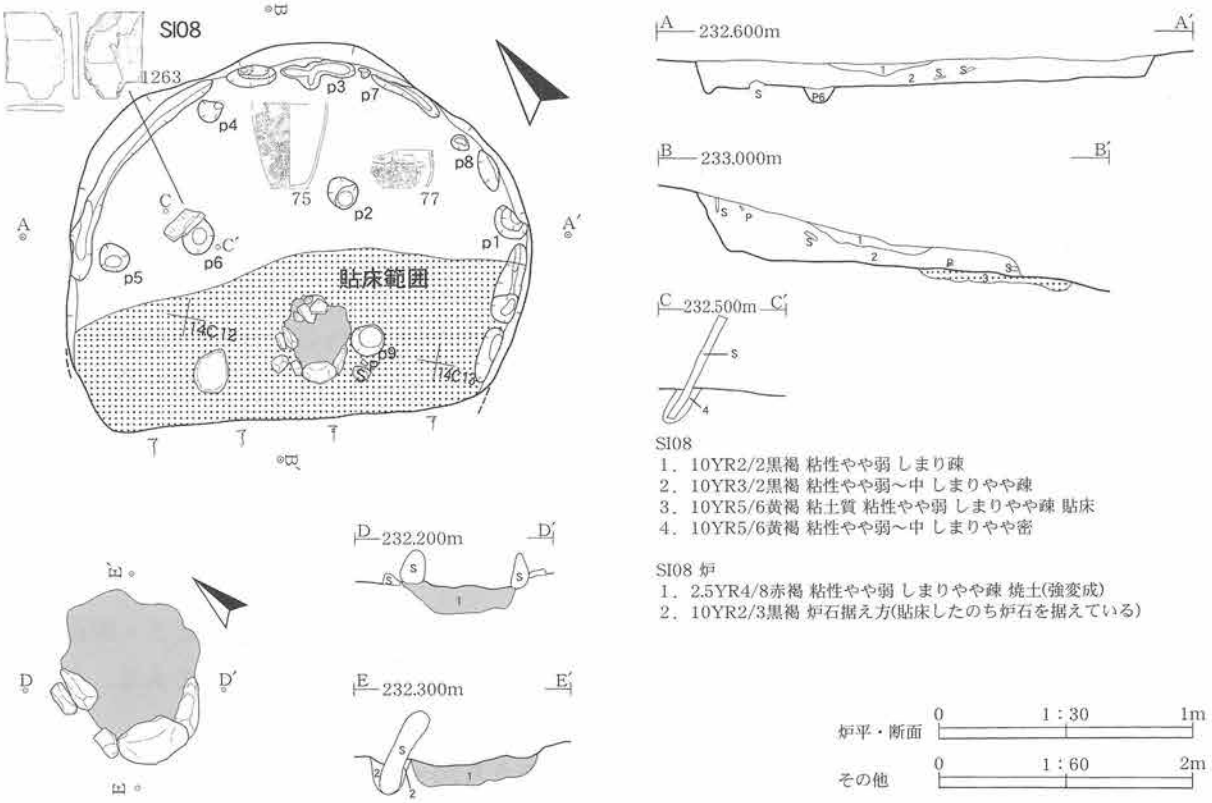
遺物（第85・139図、写真図版80・132）

[出土状況] 出土土器のうち、66.2%（3,170g）が炉埋設土器（69）である。石器は5点が炉堆積土出土、このうち石皿台石類2点はいずれも炉石に転用されている。

[土器] 縄文土器202片（4,790g）を出土している。このうち69の1点を掲載した。Ⅶ群に含まれる。



SI07炉
1．10YR6/6明黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2㎝ 亜角)含む
※炉構築土(貼土)として明黄褐粘土質土を貼り付けている その下には廃棄した土器を敷いている
炉石は壊れているが 1層の一部が2.5YR4/8赤褐に被熱しており(弱～強変成)焼土化している
2．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎
3．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり疎 明黄褐粘土質土を少量含む
4．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 炉石構築土



SI08
1．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎
2．10YR3/2黒褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
3．10YR5/6黄褐 粘土質 粘性やや弱 しまりやや疎 貼床
4．10YR5/6黄褐 粘性やや弱～中 しまりやや密

SI08 炉
1．2.5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
2．10YR2/3黒褐 炉石据え方(貼床したのち炉石を据えている)

第28図　SI07・08 竪穴住居跡

[石器] 計11点を出土している。石鏃1点、剥片6点、敲磨器類2点、石皿台石類2点である。
[土製品] 土器片円盤（885）が1点出土している。
時期　縄文時代後期初頭に想定される。　（北田）

ＳＩ０８竪穴住居跡

遺構（第28図、写真図版11）
[位置･検出状況] 調査B区14C7に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。確認の結果、検出面から深さ30㎝（斜面上部で約40㎝）のところでⅣ層で構成される床面に達し、中央やや南西寄りに石囲炉を確認し

たため竪穴住居跡と判断して精査を進めた。[重複関係] 南西（斜面下側）でSI06竪穴住居跡と重複するが、SI06堆積土上に本遺構貼床があるため、本遺構が新期である。また、その下層のSI10及びSI15竪穴住居跡と重複関係にあるが、いずれよりも本遺構が新期である。北東（斜面上側）ではSI09竪穴住居跡と重複しており、本遺構が新期である。[規模·平面形] 南西（斜面下側）は重複及び掘り過ぎにより確認できない。長軸は北西－南東方向374cm、短軸は南西側の立ち上がりを欠き北東－南西方向（296）cmの円形を呈する。深さは最深部で40cm、床面積は（8.2）㎡である。[堆積土] 黒褐色土主体の2層で構成される。1層は検出面中央に浅く広がる程度で、2層は堆積土の大半を占める。[壁·床面] 南壁は残存しておらず確認できない。残存する壁から判断すると床面からは外傾しながら緩やかに立ち上がる。壁高は東壁が15cm、西壁が20cm、北壁が40cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。また、床面の斜面下半は貼床が構築されており、厚さは5cm前後である。[ピット·柱穴] ピットは計9個検出されており、いずれも柱穴と考えられる。配置に規則性は見られず、7個は壁面付近に散逸的に見られるもの、2個は床面中央付近にある。[炉] 床面の中央やや南西寄りの斜面下側で石囲炉を1基検出した。炉の規模は70×61cmであるが、炉石のほとんどは打ち欠かれている。検出段階では炉の周りに炉石であっただろうと推測される自然礫が散在していた。おそらく円形もしくは楕円形の形態を持つ石囲炉で、8個前後の亜角礫を使用して構築されたものと考えられる。また、石囲部の壁側に大形の礫（石皿台石類から転用）を配置するのはSI05竪穴住居跡と類似する形態である。炉内は全体に赤褐色に変化しており、深さは11cmで強変成している。燃焼具合から長期間の使用も考えられる。[立石] 本遺構床面の中央からやや北側、p6の付近に粘板岩製の1263石皿台石類が床面にやや斜位に差し込まれた状態で出土した。床面には掘り方があり、立石は約15cm差し込まれている。傾斜角は約70°で南方に向かって傾いている。この方向には石囲炉があるため、炉との何らかの関係性が考えられる。

遺物（第84·85·166·205図、写真図版79·80·156）

[出土状況] 出土土器のうち、34%（2,945g）が床直上～床面である。石器は床直上～床面から33.3%（9点）出土しており、うち1点が立石に転用された石皿台石類1点（1263）である。また炉石に石皿台石類1点が転用されている。

[土器] 縄文土器500片（8,660g）を出土している。このうち70～79の10点を掲載した。Ⅳ·Ⅴ·Ⅶ·Ⅸ群に含まれるが、Ⅳ群が多い。

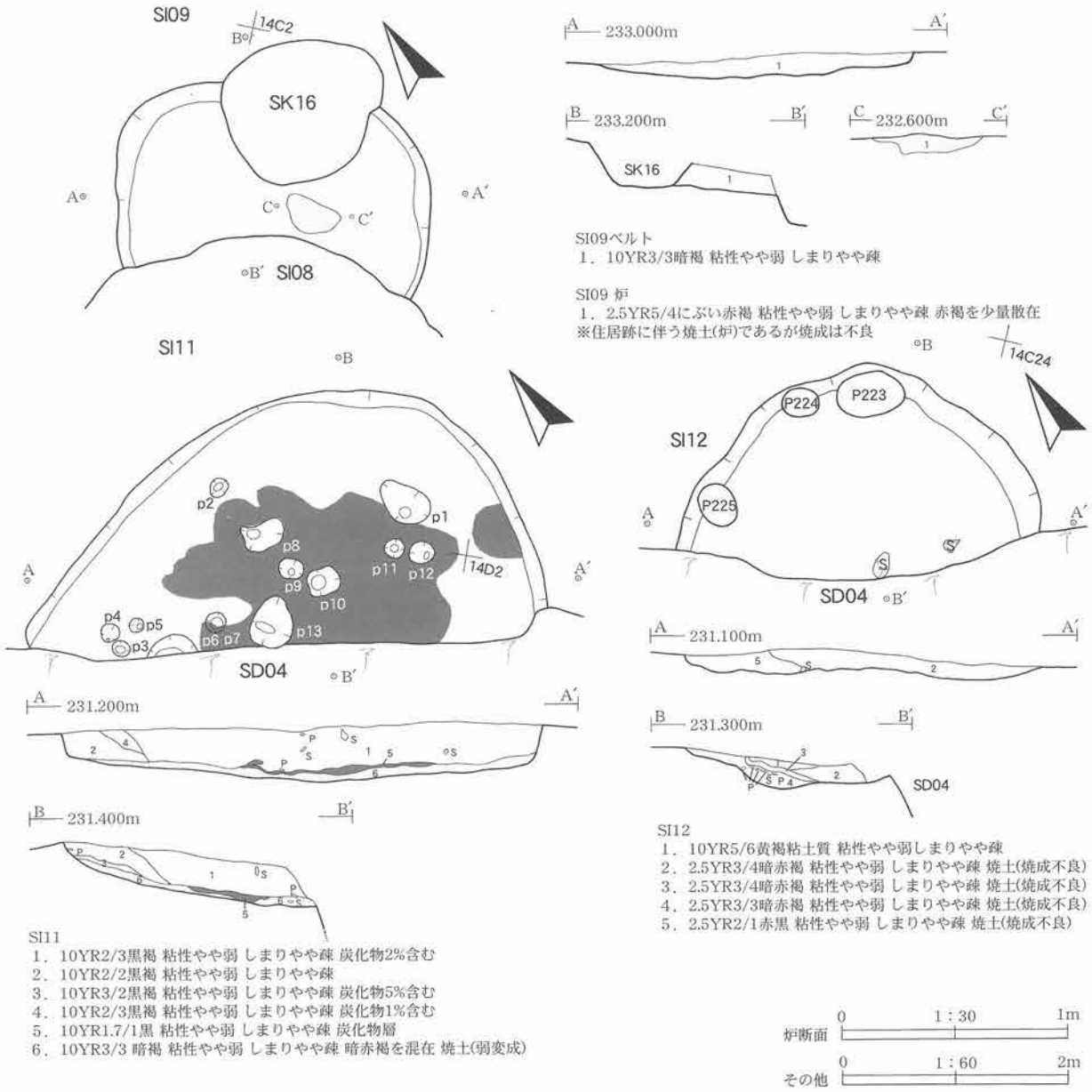
[石器] 計27点を出土している。石鏃2点、二次加工ある剥片1点、剥片10点、敲磨器類8点、礫石錘1点、石皿台石類5点で、このうち995石鏃、1263石皿台石類（立石）を掲載した。

時期　床面からⅦ群土器が出土しているため（77）、縄文時代後期初頭に想定される。

ＳＩ０９竪穴住居跡

遺構（第29図、写真図版12）

[位置·検出状況] 調査B区14C2に位置する。Ⅳ層上面で遺構検出を実施したところ、暗褐色土が円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約20cmのところでⅣ層黄褐色土で構成される床面に達し、地床炉を確認したため竪穴住居跡と判断して精査を進めた。[重複関係] 遺構南西側（斜面下側）でSI08竪穴住居跡と重複するが、本遺構



第29図　SI09・11・12 竪穴住居跡

が旧期である。また、斜面上側の遺構北東側ではSK16土坑と重複しており、これも本遺構が旧期である。[規模・平面形] 遺構南西の斜面下側は重複するSI08竪穴住居跡により確認できない。長軸は北西－南東軸で295cm、短軸は重複のため残存値で（185）cm、平面形は残存部から円形を呈すると見られる。深さは最深部で10cm、床面積は残存値で（2.4）㎡前後である。[堆積土] 暗褐色土の単一層で構成される。[壁・床面] 南壁は前述の通り残存しておらず確認できない。残存する壁から判断すると床面からは外傾しながら緩やかに立ち上がる。壁高は東壁が10cm、西壁が5cm、北壁が約40cm前後あったと見られるが重複により多くを欠いている。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。[ピット・柱穴] 検出されなかった。[炉] 床面の中央からやや南東寄りに地床炉を1基検出した。炉の規模は50×30cmで、平面形は不整形を呈している。燃焼面は全体ににぶい赤褐色に変化しており、深さは8.5cmで弱変成している。

遺物（第85図、写真図版80）

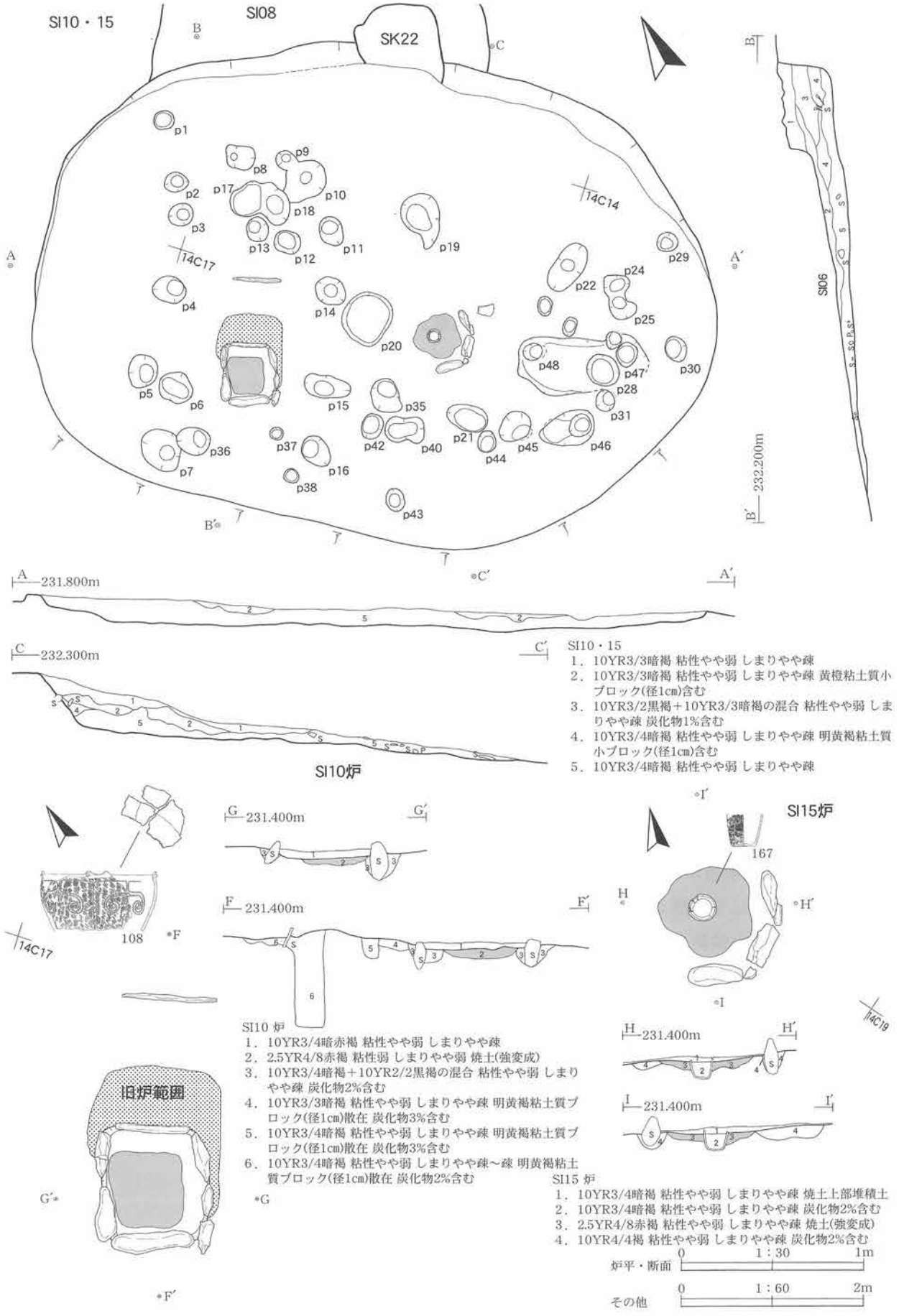
[出土状況] 出土土器のうち、44%（385g）が床直上～床面である。石器はいずれも堆積土出土

である。
［土器］縄文土器104片（875g）を出土している。このうち80～84の5点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。
［石器］計3点を出土している。石鏃2点、剥片1点である。
時期　縄文時代中期前葉に想定される。

ＳＩ１０・１５竪穴住居跡

遺構（第30図、写真図版13・17）
［位置・検出状況］調査B区14C17に位置する。SI06及びSI08竪穴住居跡精査終了後、掘り下げ及び遺構検出を実施したところ、暗褐色土が楕円形に拡がりを見せたため遺構を想定し、重複を視野に入れてセクションベルトを「キ」の字に設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約20cm（斜面上部で約55cm）のところでⅣ層で構成される床面に達し、石囲炉を確認したため竪穴住居跡と判断して精査を進めた。

当初、大型竪穴住居跡を想定して精査を行っていたが、堆積土を除去した段階で少なくとも2棟が重複していることが確認された。この遺構内から炉と柱穴を手がかりに2棟を抽出した。［重複関係］SI10・15竪穴住居跡がそれぞれ重複関係にある。炉の検出状況から炉石がすべて残存するSI10竪穴住居跡が新期、炉石の西半を欠くSI15竪穴住居跡が旧期と見られる。また、その上層のSI06及びSI08竪穴住居跡と重複関係にあるが、いずれも本遺構が旧期である。［規模・平面形］SI15竪穴住居跡については当初検出した大型の竪穴住居跡を想定しており、長軸が〔600〕cm、短軸が（535）cm以上を呈すると考えられる。深さは最深部で55cm、床面積は推定値で〔35.0〕㎡である。またSI10竪穴住居跡はSI15竪穴住居跡内に収まる形となっており、把握することは出来ないが、柱穴配置から少なくとも長軸が〔490〕cm、短軸が〔460〕cmを呈すると考えられる。深さは最深部で45cm、床面積は推定値で〔19.0〕㎡である。［堆積土］暗褐色土主体の5層で構成される。堆積土中に炭化物を微量含む。重複する両遺構の堆積土の相違を検討したが見出すには至らなかった。［壁・床面］SI15竪穴住居跡を想定した遺構プランを考えると、残存する壁は東壁7cm、西壁10cm、北壁55cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、床面は堅緻である。またSI10竪穴住居跡の壁は残存しておらず確認できない。残存する北壁が本遺構のものか、あるいはSI15竪穴住居跡のものかを区別するのは困難である。［ピット・柱穴］全体プラン内にはピットが計48個検出されている。このうちSI10竪穴住居跡に伴うと想定されるピットは10個であり、いずれも柱穴と考えられる。配置は炉を方形に囲むように規則正しく配されている。またこれ以外の39個がSI15竪穴住居跡に伴うと考えられるが、この中にはSI10竪穴住居跡に付属するものも含まれる可能性もある。配置は規則性を見出すまではいかないが、遺構想定プラン床面に散在して見られる。［炉］遺構プラン内で2基の石囲炉を検出した。SI10竪穴住居跡炉の規模は71.5×64.5cmであり、6個の扁平な自然礫を用いて、方形に配されている。また、炉の南東約70cmには炉と並行するように扁平礫が埋設されている。これが何の意味を持つのかは不明だが、何らかの区画として用いられた可能性がある。炉内は全体に暗赤褐色に変化しており、深さは4.5cmで強変成している。一方、SI15竪穴住居跡炉の規模は〔80〕×〔80〕cmであるが、炉を構成する礫のうち残存しているのは東から南にかけての1/3のみである。その他は重複するSI10



第30図　SI10・15 竪穴住居跡

竪穴住居跡造成時に壊されたものと見られる。炉内中央には深鉢土器の底部のみが埋設されており（167）、土器周辺が赤褐色に強変成している。深さは6.5cmである。

遺物（第85･86･89･161･166･172･176･181･195図、写真図版80･81･84･133･139･141･143･151）

［出土状況］出土土器のうち、24.7%（4,670g）が堆積土上位、次いで床直上が21.4%（4,055g）、床面は5.6%（1,065g）である。石器は40.0%（24点）が床直上～床面出土で、このうち石皿台石類1点がSI10炉の北側に埋設転用されている。

［土器］SI10･15竪穴住居跡の合計で縄文土器1,350片（18,929g）を出土している。このうち85～111、167の28点を掲載した。167はSI15竪穴住居跡炉埋設土器である。Ⅳ～Ⅵ群に含まれ、Ⅳ群の割合が多い。

［石器］計60点を出土している。尖頭器1点、石鏃5点、石匙3点、楔形石器1点、スクレイパー類3点、二次加工ある剥片3点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片33点、石斧類4点、礫器類1点、敲磨器類4点、石皿台石類1点で、このうち907尖頭器、996石鏃、1083･1084石匙、1106スクレイパー類、1137二次加工ある剥片、1207敲磨器類を掲載した。

時期　SI10竪穴住居跡は床面出土108から縄文時代中期中葉、重複関係から旧く位置づけられるSI15竪穴住居跡は縄文時代中期前～中葉に想定される。

ＳＩ１１竪穴住居跡

遺構（第29図、写真図版14）

［位置・検出状況］調査B区14D1に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土がSD04堀跡に切られる半円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約40cmのところで床面付近に広がる炭化物と焼土を確認したため、焼失住居を想定し精査を進めた。［重複関係］南半がSD04堀跡と重複し、大きく切られている。このことから本遺構が旧期である。［規模･平面形］南西（斜面下側）は重複により確認できない。長軸は北西－南東方向460cm、短軸も北東－南西方向（225）cm、推定であるが東西方向に長軸を持つ楕円形を呈すると見られる。深さは最深部で49cm、床面積は（7.0）㎡である。［堆積土］黒褐色土主体の計4層と床面に広がる炭化物層及び焼土層各1層の計6層で構成される。堆積土には1～5%の炭化物が散在して観察され、遺構の内側と外側でドーナツ状に様相を異にする。下の2層については急な酸素未供給のために炭化した建材が堆積したものと、燃焼による焼土層と考えられる。堆積土下位の2箇所から出土した炭化物46.03gと22.93gを肉眼鑑定して頂いた結果、いずれもクリ材であった。［壁･床面］南半は残存しておらず確認できない。残存する北半の壁から判断すると床面からは外傾しながら急に立ち上がる。壁高は東壁が40cm、西壁が20cm、北壁が25cmである。床面はほぼ平坦であるが、壁際は斜面下側に向かって緩やかに傾斜する。構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。［ピット･柱穴］ピットは計13個検出されており、柱穴を含むと見られるが不明である。配置に規則性は見られず、床面に散逸的に見られる。［炉］検出されていないが、おそらくSD04堀跡に削平された部分に存在していたと思われる。

遺物（第86･172･184図、写真図版81･139･145）

［出土状況］出土土器のうち、48.9%（2,975g）が堆積土上位、11.8%（715g）が床直上である。石器は、45.8%（11点）が床直上～床面出土である。

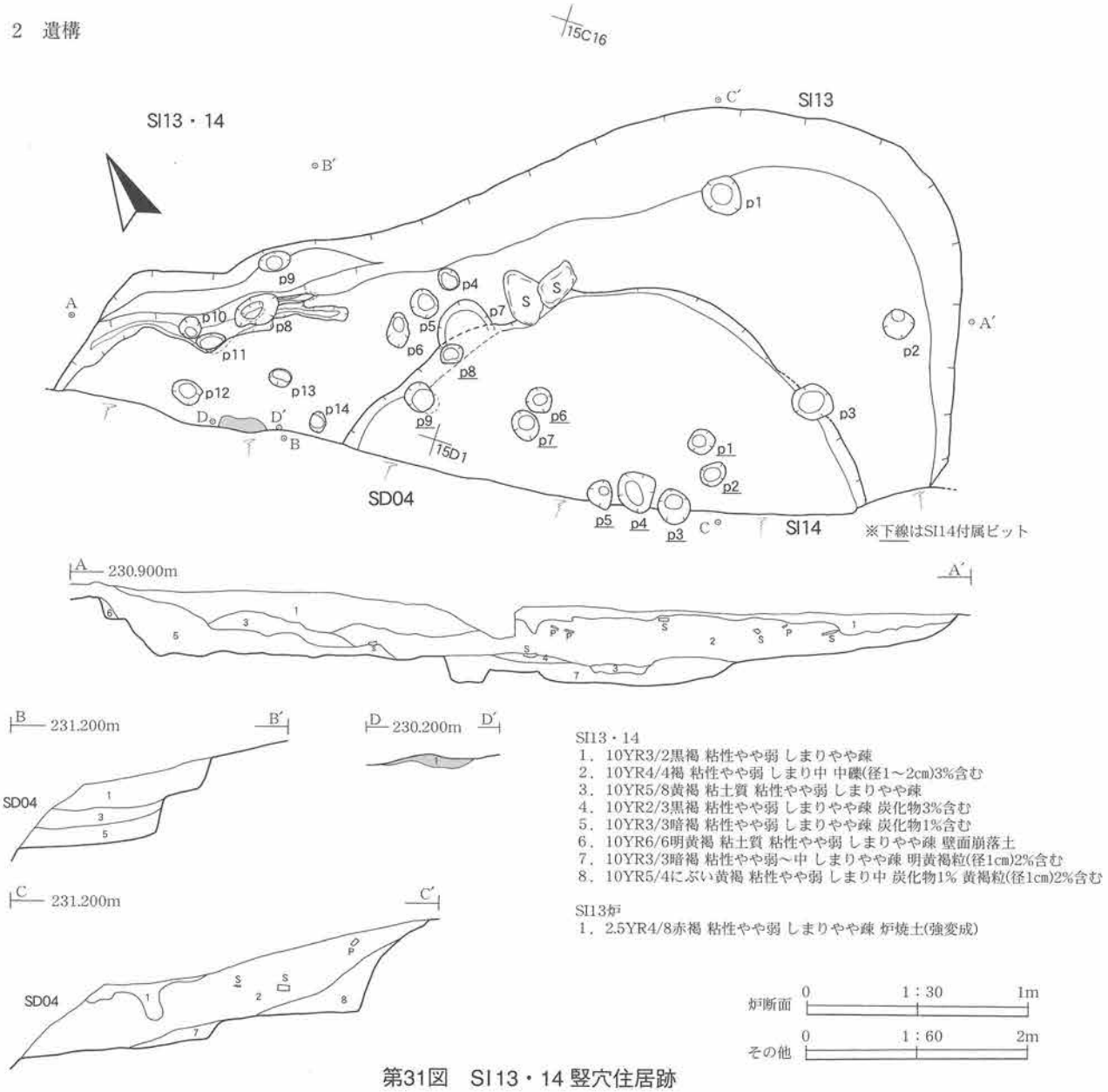
[土器] 縄文土器408片（6,080g）を出土している。このうち112～123の12点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。
[石器] 計24点を出土している。石匙1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片1点、石核1点、剥片19点、敲磨器類1点で、このうち1085石匙、1152石核を掲載した。
時期　縄文時代中期前葉に想定される。

ＳＩ１２竪穴住居跡

遺構（第29図、写真図版15）
[位置･検出状況] 調査B区14C23に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、暗赤褐色土がSD04堀跡に切られる半円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。確認の結果、堆積土全体が焼土層の様相を呈していることから、焼失住居を想定し精査を進めた。[重複関係]　P223～225ピットと重複しており、本遺構が旧期にあたる。また、遺構南半がSD04堀跡と重複しており、大きく切られている。このことから本遺構が旧期である。[規模･平面形] 南（斜面下側）は重複により確認できない。長軸は北西－南東方向323cm、短軸は北東－南西方向（193）cmで、推定であるが円形を呈すると見られる。深さは最深部で26cm、床面積は（3.4）㎡である。[堆積土] 暗赤褐色主体の4層と遺構内堆積土西側の赤黒色1層の計5層で構成される。堆積土の大半については火災の際の上屋部分の崩落により堆積したものと思われる。[壁･床面] 南半は残存しておらず確認できない。残存する壁から判断すると床面からは外傾しながら緩やかに立ち上がる。壁高は東壁が10cm、西壁が10cm、北壁が5cmである。床面は北側が１段高くなり、不安定である。構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。[炉] 検出されていないが、おそらくSD04溝跡に削平された部分に存在していたと考えられる。
遺物（第86･87･169図、写真図版82･83･137）
[出土状況] 出土土器のうち、32.2%（4,745g）が堆積土下位、20.6%（3,030g）が堆積土中～下位、6.7%（985g）が床直上である。石器はいずれも堆積土中出土である。
[土器] 縄文土器482片（14,735g）を出土している。このうち124～135の12点を掲載した。大半がⅣ群に含まれ、Ⅸ群としているものもこれに帰属すると思われる。
[石器] 計7点を出土している。石鏃1点、石匙1点、スクレイパー類1点、剥片1点、石斧類1点、敲磨器類2点で、このうち1063石匙を掲載した。
時期　縄文時代前期末葉に想定される。

ＳＩ１３･１４竪穴住居跡

遺構（第31図、写真図版16･133）
[位置･検出状況] 調査B区15C21に位置する。SD04堀跡・SI17竪穴住居跡精査終了後、Ⅲ層で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が長方形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、床面が2面存在することが分かり、竪穴住居跡2棟が重複関係にあることが確認された（外プラン→SI13･内プラン→SI14）。外プランであるSI13は検出面から深さ約55cmのところでⅣ層で構成される床面に達し、また内プランであるSI14は検出面から深さ約58cmのところでⅣ層黄褐色土で構成される床面に達した。[重複関係] 両遺構はいずれも遺構南半は重複するSD04



第31図　SI13・14 竪穴住居跡

堀跡に大きく切られており、両遺構が旧期である。また、両遺構の重複関係については堆積土の観察から外プランであるSI13竪穴住居跡が旧期、内プランのSI14竪穴住居跡が新期である。検出以前の上層にはSI17竪穴住居跡があり、両遺構が旧期である。SI13竪穴住居跡の東端ではSI31・32・38竪穴住居跡と重複しているが、SI31竪穴住居跡よりは新期、他の2棟よりは旧期にあたる。［規模・平面形］SI13竪穴住居跡（外プラン）は東西に長軸を持つ長方形と考えられ、長軸が（803）cm以上、短軸が（365）cm以上を呈する。深さは最深部で70cm、床面積は残存値で（15.4）㎡である。SI14竪穴住居跡（内プラン）は円形と考えられるが、南半はSD04堀跡に削平されている。規模は長軸が（475）cm、短軸が（200）cmを呈する。深さは最深部で70cm、床面積は推定値で（5.9）㎡である。［堆積土］黒褐色～褐色土主体の8層で構成される。重複関係にある両遺構について、壁の立ち上がりなど堆積土の相違を検討したがこれを見出すには至らなかった。7層は純粋にSI14堆積土と思われるが、2層については遺構廃絶後に壁の崩落があり、SI14内に流れ込んだのではないかと考える。1層は後の堆積によるものと判断できる。［壁・床面］SI13の残存する壁は東壁23cm、西壁59cm、北壁71cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、床面は堅緻である。また、残存する壁は東壁17cm、西壁20cm、北壁15cmである。床面

はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはSI13竪穴住居跡堆積土を掘り抜いてⅣ層中まで行われており、床面は堅緻である。[ピット・柱穴] SI13に伴うものは計14個で、いずれも柱穴と見られる。また、SI14に伴うものは計9個で、こちらも柱穴と見られる。ただし、両遺構にはそれぞれに付属する可能性のあるピットも含んでいる。柱穴配置を想定した（第213図）が、削平されているため不十分である。[炉] SI13床面の西端付近でSD04堀跡に切られる地床炉1基を検出した。炉の規模は43×（14）cm、深さは6cmで強変成している。炉の位置から推定すると、SI14に切られている遺構中央付近にも炉が存在していた可能性もある。SI14にも存在していたと思われるが、遺構南半が削平されているため見つかっていない。

遺物（第87～89・163・165・166・169・192・199図、写真図版83・84・135・137・149）

[出土状況] 出土土器のうち、堆積土上位が36.9%（9,840g）と最も多く、床直上は16.7%（4,460g）、床面は1.6%（425g）である。石器はSI13堆積土下位出土が28.1%（18点）、床直上～床面出土が20.3%（13点）、SI14床直上出土が29.4%（5点）、両遺構出土の堆積土上位が36.8%（39点）、堆積土中位が30.2%（32点）、堆積土下位が16%（17点）、床直上～床面が4.7%（5点）などである。

[土器] SI13・14竪穴住居跡の合計で縄文土器2,105片（26,703g）を出土している。このうちSI13出土136～146、SI14出土147～157、両遺構出土158～166の31点を掲載した。SI13出土はⅣ・Ⅴ・Ⅸ群に含まれ、Ⅳ群が多い。SI14出土はⅣ・Ⅴ群に含まれ、Ⅴ群が多い。SI13出土146は、取り上げミスでSI14に含まれるかもしれない。

[石器] 計187点を出土している。SI13出土は尖頭器1点、石鏃10点、石錐1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片3点、微細剥離痕ある剥片2点、剥片41点、礫器類1点、石斧類1点、敲磨器類3点の計64点で、このうち920尖頭器、965・997石鏃、1189礫器類を掲載した。SI14出土は石鏃6点、石錐1点、石匙3点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片5点の計17点で、このうち1060石匙を掲載した。両遺構出土は石鏃1点、石匙1点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片4点、微細剥離痕ある剥片2点、剥片85点、石斧類3点、敲磨器類6点、礫石錘2点の計106点で、このうち998石鏃、1188・1231敲磨器類を掲載した。

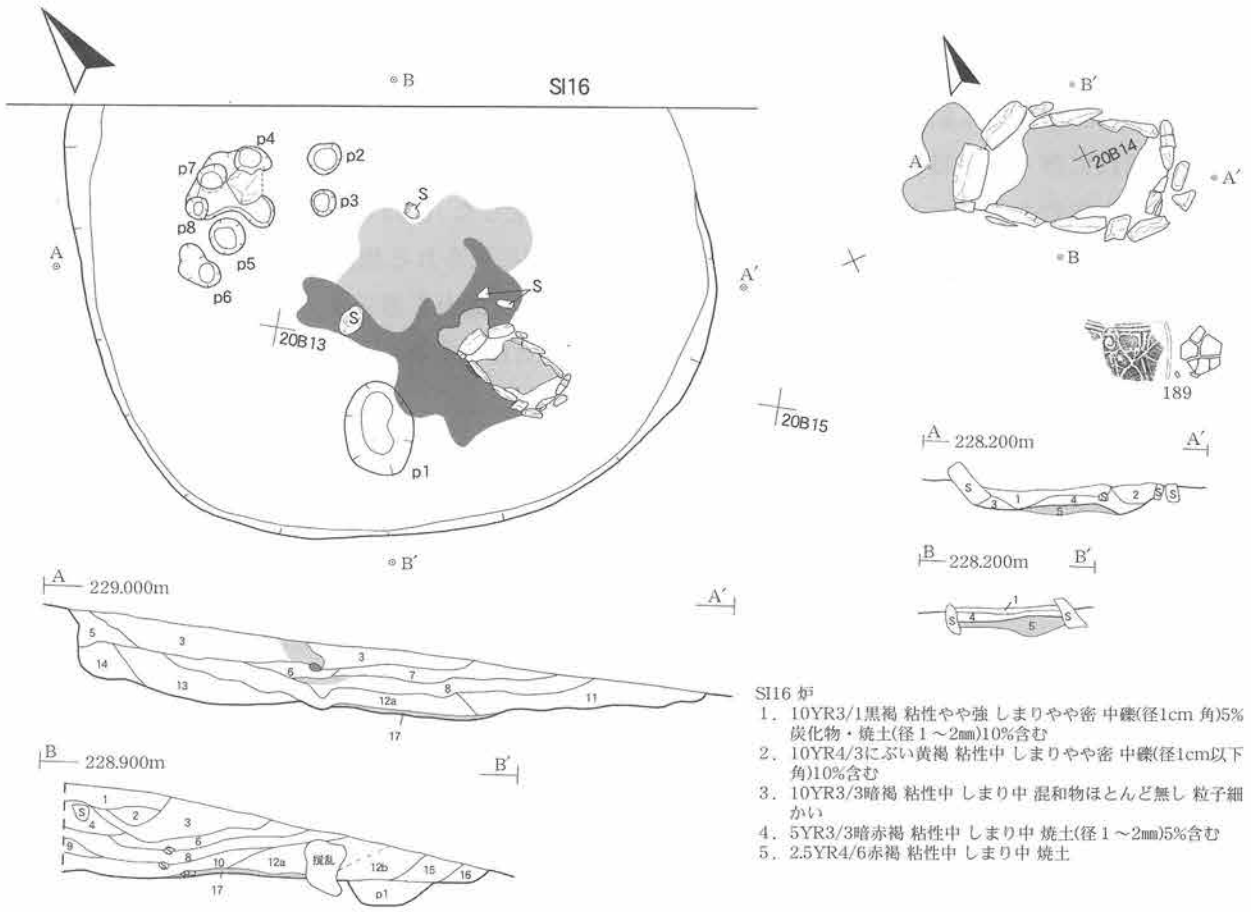
[石製品] 未製品と思われる石棒類が1点出土している。

時期　SI13は縄文時代前期末葉～中期前葉、SI14は縄文時代中期中葉に想定される。

ＳＩ１６竪穴住居跡

遺構（第32図、写真図版18）

[位置・検出状況] 調査C区20B13に位置する。東側は調査区外に至っているが、Ⅲ層上面で黒褐色土の円形として確認された。[重複関係] SI22・23竪穴住居跡、SK34土坑と重複関係にある。このうちSI22・23については同一住居内での建て替え、または炉の作り替えによる可能性があるが、本遺構が最も新期にあたる。また、SK34の南端を若干切っている。[規模・平面形] 北～北東は調査区外、南は削平されているため不明であるが、円形を基調としたプランであり、現存規模は北西－南東方向520×北東－南西方向（343）cmである。軸方向はN－63°－Wである。床面積は残存値（14.0）㎡である。[壁・床面] 南東側は削平、北側は調査区外であるため不明であるが、最も残りの良い西壁は現存高70cmで、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ直立する。床面は中央部分が若干窪んでいるがほぼ水平で、北西壁付近で若干Ⅳ層黄褐色土が露出しているが、ほぼ全域にSI23



SI16 炉
1．10YR3/1黒褐 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径1cm 角)5% 炭化物・焼土(径１～2㎜)10%含む
2．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径1cm以下 角)10%含む
3．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 混和物ほとんど無し 粒子細かい
4．5YR3/3暗赤褐 粘性中 しまり中 焼土(径１～2㎜)5%含む
5．2.5YR4/6赤褐 粘性中 しまり中 焼土

SI16
1．7.5YR3/1黒褐 粘性中 しまりやや密 焼土(径1～3㎜)20%含む
2．10YR7/6明黄褐 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径5～10㎜)10% 7.5YR3/1黒褐35%含む
3．10YR4/4褐 粘性強 しまりやや密 中礫(径1～5cm角・円)20% 焼土・黄粒(径2～3㎜)35%含む 一部に炭化物含む
4．10YR3/2黒褐 粘性やや強 しまりやや密 焼土(径１～3㎜)20%含む
5．10YR3/4暗褐 粘性強 しまりやや密 中礫(径1～5cm 角・円)20% 焼土・黄粒(径2～3㎜)35%含む 一部に炭化物含む
6．10YR4/4褐 粘性強 しまりやや密 細礫・炭化物(径1～2㎜ 角)5%ずつ含む
7．10YR4/4褐 粘性強 しまりやや密 細～中礫(径1cm以下 角)10% 炭化物 3%含む
8．10YR2/1黒 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径1～2cm 角)15% 細礫(径5㎜以下 角)10% 上部に焼土含む
9．10YR4/1褐灰 粘性中 しまりやや密 細～中礫(径3～10㎜)25%含む
10．7.5YR4/4褐 粘性やや強 しまりやや密 焼土(径2～3㎜)20%含む
11．7.5YR3/1黒褐 粘性やや強 しまりやや密 細～中礫(径1～2cm 径5㎜以下 角)15%ずつ含む
12a．10YR3/1黒褐 粘性やや強 しまり中 細～中礫(径1～3cm 径5㎜以下 角)15% 黄粒5%含む 遺物包含
12b．10YR3/2黒褐 粘性やや強 しまり中 細～中礫(径1～3cm 径5㎜以下 角)15% 黄粒5%含む 遺物包含
13．10YR5/4にぶい黄褐 粘性強 しまりやや密 中礫(径1～2cm 角・円)20% 中礫(径3cm以上 角)5% 焼土10%含む
14．10YR4/3にぶい黄褐 粘性強 しまり中 角礫(径1～3cm)15% 2.5Y7/8黄(基本層序Ⅳ層崩落土か)15%含む
15．10YR2/2 黒褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径1～2cm)15%含む
16．10YR3/4暗褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径1～5cm 角)10% 焼土(径2～3㎜)30%含む
17．5YR3/3 暗赤褐 粘性中 しまり中 焼土(強変成)

炉平・断面 0 1：30 1m
その他 0 1：60 2m

第32図　SI16 竪穴住居跡

堆積土が使用されている。これらの層はSI16堆積土より若干しまりがある程度であり、両者の判別は困難な状況であったが、SI23堆積土上面で石囲炉と遺物の面的な拡がりが確認できたためそれを根拠に分層を行った。

［堆積土］堆積土は計17層で構成され、上層がⅡ層由来の黒褐色土、下層がⅢ層由来の暗褐色土が主体となっている。6･8層上面で炭化材および焼土がまとまって検出された（肉眼鑑定の結果、すべてクリ材であった）。そのため、焼失住居である可能性を考慮して炭化材を残しつつ掘り下げを行ったが、炭化材より下層の堆積が厚く、レンズ状であることから自然堆積である可能性が高いと判断した。したがって炭化材の存在を除いて焼失住居と断定できる根拠には乏しいが、床面中央にも広い範囲で焼土と炭化物が分布していることから、失火により罹災した可能性も考えられるため、これについては竪穴住居の廃絶過程を考慮して検討すべき点であろう。［ピット･柱

穴］計8個検出した。床面南東で土坑状のピットを1個検出（p1）、この他は柱穴と見られるが規則性はない。また、床面と堆積土との判別が困難でありこの時点では検出することができなかったが、SI22精査時に検出したピットで本遺構に伴うものも含まれている可能性がある。この場合は、五角形･六角形の配置となる。ただし、床面東側で検出されていないため配置については不明である。［炉］床面中央やや南壁寄りに単室の石囲炉（石組炉）1基を検出した。細長の扁平礫を10個使用して構築されており、平面形はほぼ長方形である。規模は石組みの外縁で96×50cm、燃焼部範囲は40×38cm、深さは8cmで強変成である。なお、石囲炉内の焼土をサンプリングして微細遺物の選別作業を実施したところ、炭化したオニグルミ･クリ･トチノキ、動物遺存体の骨片などが出土している。特にオニグルミの出土量が多い（附編参照）。

遺物（第89･90･165･166･168･178･202図、写真図版84･85･135･136･142･155）

［出土状況］出土土器のうち、2層出土が30.7%（6,245g）と最も多く、次いで3層が30.1%（6,120g）、床直上～床面は18.1%（3,680g）出土している。全体に細片が多く、接合率は低い。石器は、2層出土が46.0%（91点）と多く、次いで3層出土が31.8%（63点）、床直上～床面は6.1%（12点）である。

［土器］縄文土器1,998片（20,365g）を出土している。このうち168～189の計22点を掲載した。Ⅳ･Ⅵ･Ⅸ群が出土しており、大半がⅥ群に含まれる。

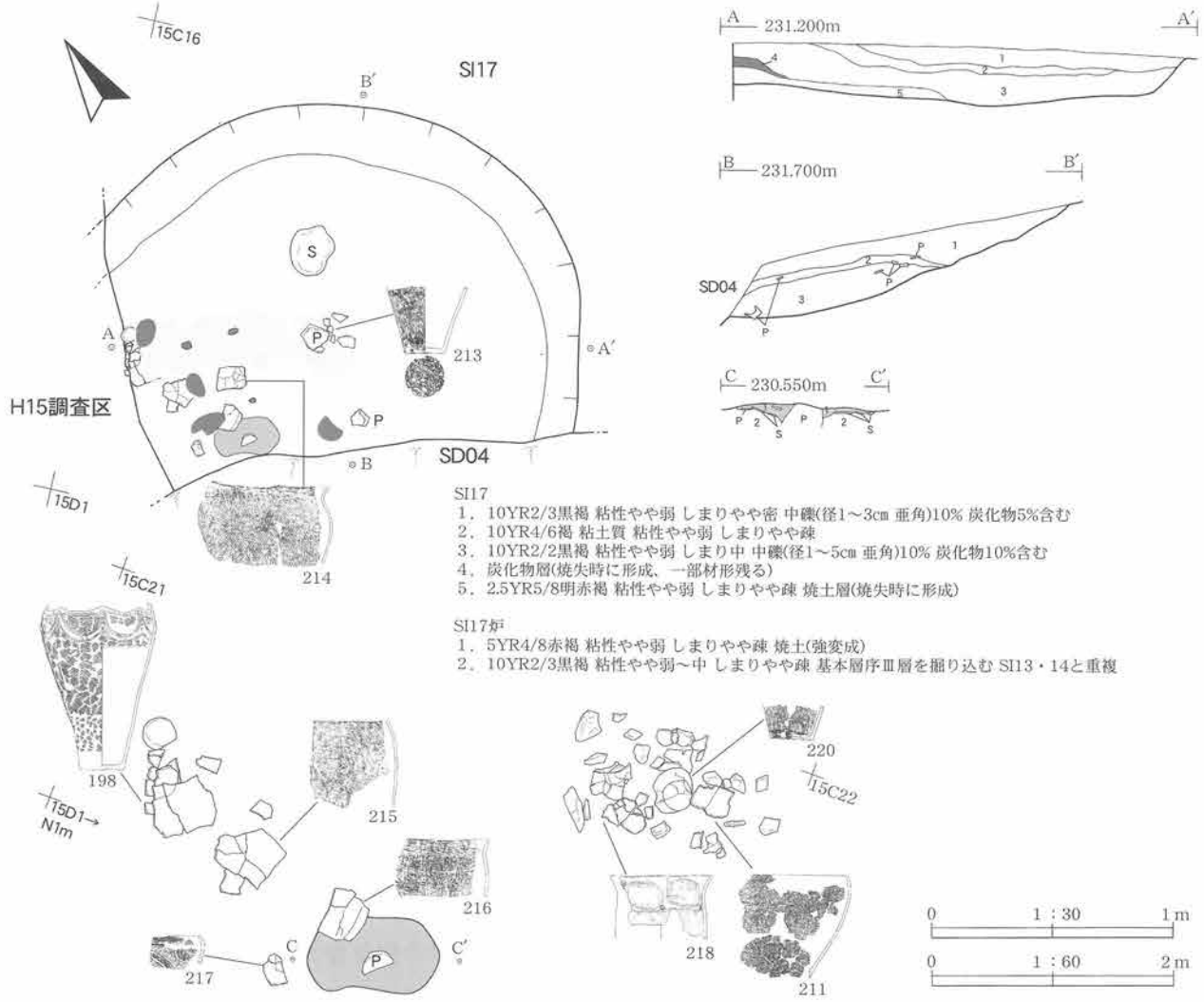
［石器］計198点を出土している。尖頭器1点、石鏃19点、石錐5点、石匙3点、楔形石器1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片7点、微細剥離痕ある剥片1点、石核1点、剥片146点、礫器類2点、石斧類3点、敲磨器類3点、礫石錘4点、石皿台石類1点で、このうち966～969･999石鏃、1044･1045石錐、1119スクレイパー類、1251礫石錘を掲載した。

時期　SI22・23と同一住居であるとすれば、本遺構は拡張を伴う作り替えによるものであり、最も新期にあたる。存続時期については、ピットおよび床面出土土器189がⅥ類に分類されることから、縄文時代中期後葉と考えられる。（村田）

ＳＩ１７竪穴住居跡

遺構（第33図、写真図版19）

［位置･検出状況］調査B区15C21に位置する。SD04堀跡に切られる遺物を多量に含む黒褐色土が半円形に拡がりを見せたため遺構を想定した。確認の結果、検出面から深さ50cmのところでSI13･14竪穴住居跡堆積土（Ⅲ層起源）で構成される床面に達した。遺構プランと焼失住居と考えられる多量の焼土と炭化物が包含されていたため竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［重複関係］南半は重複するSD04堀跡に大きく切られており、本遺構が旧期である。また遺構西側は年度による調査区の境で、平成15年度では検出できずに掘り下げてしまったため、残存していない。下層にはSI13･14竪穴住居跡が存在するが、本遺構が新期である。［規模･平面形］円形と考えられるが、南半はSD04堀跡に削平されている。規模は長軸が北西－南東方向（377）cm、短軸が北東－南西方向（298）cmを呈する。深さは最深部で50cm、床面積は推定値で（7.4）㎡である。［堆積土］黒褐色土主体の5層で構成される。全体に5～10%の炭化物を包含しており、4層は炭化物層、5層は焼土層を呈している。これらの拡がりは床中央直上に1/3程度の面積で拡がっており、炉直上付近が良く燃焼している。炭化物は一部に材が残っており、カヤ状の炭化物も観察できた。以上から本遺構は焼失住居である可能性が高い。なお、炭化材は同定の結果、クリであった。［壁･床面］



第33図　SI17 竪穴住居跡

残存する壁は東壁32cm、北壁33cmであり、いずれも緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、北側は斜面に沿って徐々に傾斜する。構築時の掘り込みはⅢ層中まで行われており、床面はやや軟質である。［炉］床面中央やや南西寄りに土器底部を倒立して設置する55×31cmの地床炉を1基検出した。周りには剥がれた礫や土器を敷き、その上に土を被せている。焼土はこの部分に発達しており、深さは8cmで強変成している。設置された土器底部は安定させるための器台のように使用されたのではないかと考えられる。

遺物（第90～95・136～139・168・173・178・181・188・197・200・205図、写真図版85～91・132・136・137・139・142・143・147・156）

［出土状況］出土土器のうち、堆積土下位～最下位が最も多く29.3%（17,405g）、次いで堆積土上～中位が27.1%（16,120g）、床面は11.4%（6,750g）出土している。出土石器は、堆積土上位出土が最も多く45.9%（184点）で、床面～炉にかけては4.7%（19点）出土している。

［土器］縄文土器2,828片（59,395g）を出土している。このうち190～220の31点を掲載した。Ⅳ～Ⅶ・Ⅸ群が出土しており、大半がⅦ群に含まれる。

［石器］計401点を出土している。尖頭器1点、石鏃24点、石錐6点、石匙2点、楔形石器1点、スクレイパー類4点、二次加工ある剥片14点、微細剥離痕ある剥片1点、石核1点、剥片347点、石斧類6点、礫器類1点、敲磨器類9点、礫石錘1点、浮子1点、球石1点、石皿台石類2点で、このうち1043・

1052·1053石錐、1120スクレイパー類、1135二次加工ある剥片、1173·1174石斧類、1220·1237敲磨器類、1265浮子を掲載した。また、石錐1点、スクレイパー類1点、剥片のうち34点については石材に黒曜石を用いている。

[土製品]土器片円盤を計3点出土している（886～888）。この他に焼粘土塊を計2点出土している（901·902）。

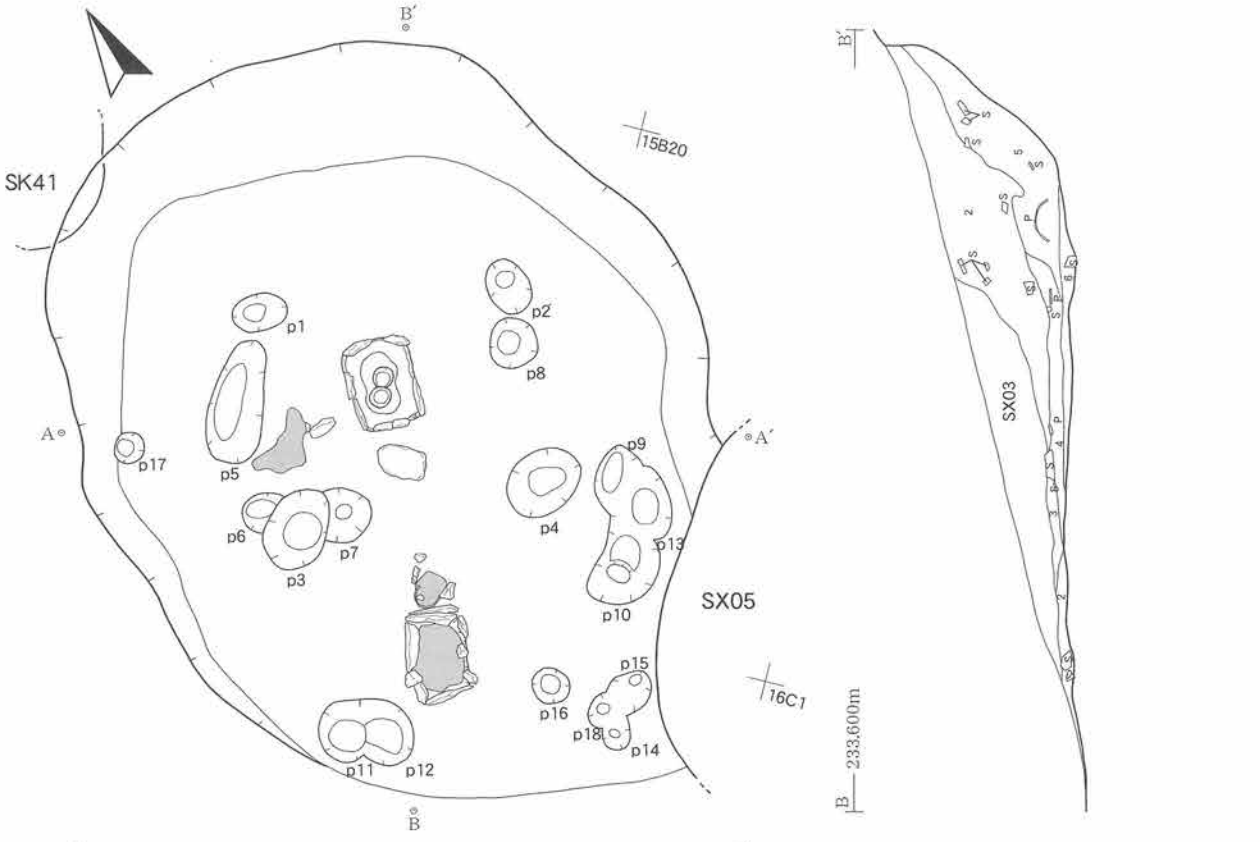
時期　縄文時代後期初頭に想定される。（北田）

ＳＩ１８·１９竪穴住居跡

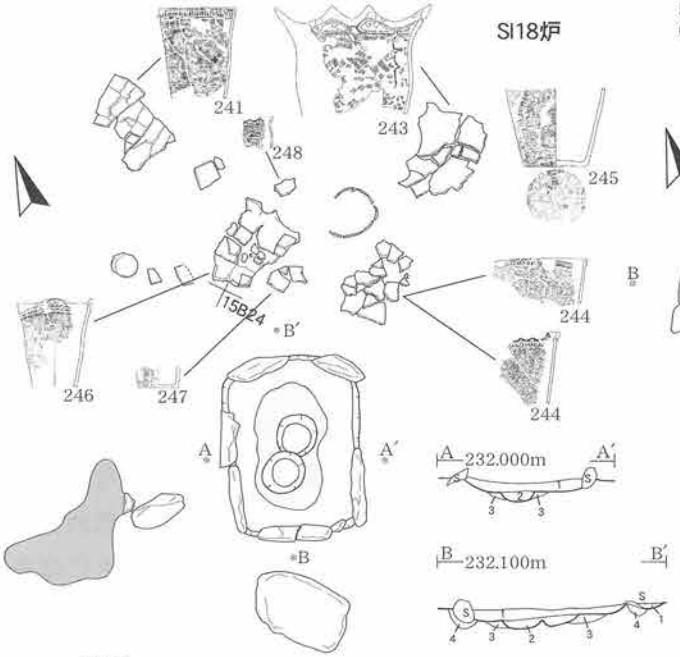
遺構（第34図、写真図版20·21）

[位置·検出状況] 調査B区15B24に位置する。SX03住居状遺構精査時にサブトレンチを入れたところ、下層にⅣ層で構成される床面を検出したため、下層に竪穴住居跡があることを確認していた。全体は黒褐色の楕円形プランで検出面から斜面上側で約100cm、下側で約5～10cmである。当初、遺構プランから竪穴住居跡1棟を想定して精査を進めていたが、床面レベルで異なる炉を2基検出したため、円形住居跡が2棟重複していることが分かった。[重複関係] 両遺構の大半が重複しており、堆積土断面と炉形態からSI19が新期、SI18が旧期である。また、上層のSX03住居状遺構と重複するが、両遺構が旧期である。北西にSK41土坑があり、両遺構が旧期である。[規模·平面形] いずれも円形と考えられ、SI18の規模は長軸が東西方向503cm、短軸が南北方向〔405〕cmを呈する。深さは最深部で103cm（斜面下側10～15cm）、床面積は〔11.6〕㎡である。またSI19の規模は長軸が（432）cm、短軸が〔370〕cmを呈する。深さは最深部で96cm、床面積は推定値で〔13.5〕㎡である。[堆積土] 暗褐色～褐色土主体の6層で構成されるが2～4層まではSI19堆積土と考えられ、SI18堆積土と考えられるのは5·6層である。この層位の境が重複するSI19竪穴住居跡とのプランの境界とも考えられる。[壁·床面] SI18の残存する壁は東壁35cm、西壁18cm、北壁104cmで、北壁の掘り込みが非常に深い。これは斜面を削り平坦地を造成するために掘削されたものである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、北壁付近はⅣ層より下層のⅤ層まで達している。床面は堅緻である。またSI19の残存する壁は東壁35cm、西壁18cmで、北壁は前述の層境を壁とすれば95cmで、観察から崩落していると見られる。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われているが、6層は貼床として敷かれたと考えられる。床面は堅緻である。[ピット·柱穴] 床面には重複する両遺構に伴うピット計18個が検出されている。このうちSI18に伴うと想定したのは4個、SI19に伴うと想定したのは8個である。ただし、この他にも両遺構に付属する柱穴がある可能性もある。柱穴配置を想定した（第213図）が、建物を構成するにはやや不足しており検出できなかった柱穴があるかもしれない。[炉] 床面には南北に並ぶように炉2基を検出した。SI18は床面ほぼ中央に方形の石囲炉を1基検出した。規模は73.5×55cmで、7個の扁平な楕円礫で構成されており、東西の一部を存在していたと思われるが、欠いている。燃焼面は炉の中央付近にあり、深さは3cmで弱変成している。また中央には直径17cm、深さ約4cmの凹みが2箇所確認できた。おそらく土器を固定するために掘られた坑と考えられる。SI19は床面中央からやや南西寄りに土器埋設複式炉を1基検出した。規模は119×51cmで、石組み部の北側に土器の口縁のみを倒立する状態で埋設している。燃焼は石組み部と埋設土器両方が良く熱を受けており、特に石組み部底面は被熱深度10cmと長期にわたり使用されたと見られ、

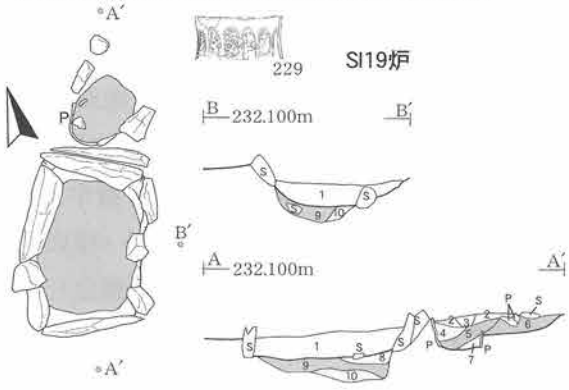
SI18・19



SI18・19
1. 10YR2/3黒褐 粘性弱 しまりやや疎
2. 10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3. 10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
4. 10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり中 中礫(径1～2cm 亜角)5%含む
5. 10YR4/6褐 砂質 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径5～10cm 亜角)10%含む
6. 10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm)3%含む



SI18炉
1. 10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2. 10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
3. 2.5YR4/8赤褐 砂質 粘性やや弱 しまり疎 焼土(弱変成)
4. 10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎



SI19炉
1. 10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む
2. 10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3. 10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 上部遺構による撹乱
4. 5YR3/6暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(弱変成)
5. 5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
6. 5YR4/8赤褐 粘性弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
7. 5YR5/8明赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(弱変成)
8. 5YR2/4極暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(弱変成)
9. 5YR4/6赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
10. 5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(弱変成)

炉平・断面　0　1：30　1m
その他　0　1：60　2m

第34図　SI18・19 竪穴住居跡

強変成している。石組み部は8個の角礫・亜角礫で構成されており、南北は長さ40cmの扁平礫が使用されている。東西の一部も存在していたと思われるが、欠いている。燃焼面は炉の中央付近にあり、被熱深度は約3cmで弱変している。また中央には直径17cm、深さ約4cmの凹みが2箇所確認できた。おそらく土器を固定するために掘られた坑と考えられる。

遺物（第95～98・163・166・190・197・209図、写真図版88・90～93・134・148・158）

[出土状況] 出土土器のうち、床直上～床面から40.7%（10,275g）、SI19炉埋設土器は2.2%（560g）である。石器はSI18が床面から4点、ピット内から3点出土している。SI19は堆積土下位が最も多く64.3%（45点）出土、また炉堆積土内からも7.1%（5点）出土している。

[土器] SI18・19竪穴住居跡の合計で縄文土器1,593片（25,265g）を出土している。このうちSI18出土221～228、SI19出土229、両遺構出土230～248の28点を掲載した。Ⅳ～Ⅶ・Ⅸ群が出土しており、SI18出土はⅣ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ群で、床面からはⅥ群が出土している（227・228）。Ⅶ群の226は流れ込みとも思われる。SI19出土と認められるのは炉埋設土器229であり、Ⅵ群に含まれる。

[石器] SI18は計15点を出土している。石鏃2点、二次加工ある剥片1点、剥片9点、敲磨器類2点、石皿台石類1点である。またSI19は計70点出土している。石鏃10点、石錐1点、二次加工ある剥片2点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片53点、石斧類1点、敲磨器類1点、石皿台石類1点で、このうち932・1000・1001石鏃、1146微細剥離痕ある剥片、1183石斧類を掲載した。

[石製品] 石棒類（1278）が1点出土している。

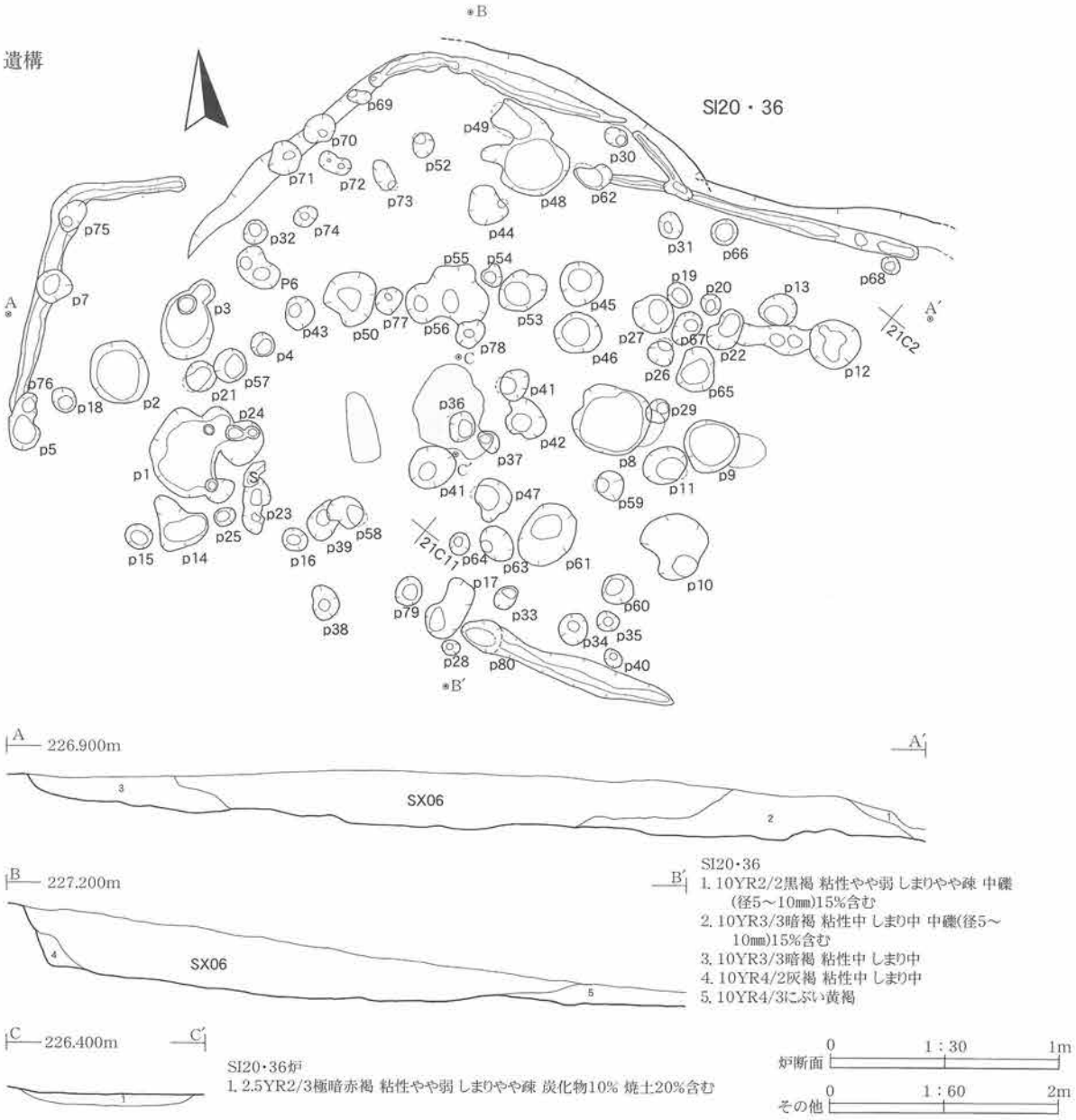
時期　出土遺物の状況などからSI18竪穴住居跡は縄文時代中期前葉、SI19竪穴住居跡は縄文時代中期後葉に位置付けられる。

ＳＩ２０竪穴住居跡

遺構（第35図、写真図版22）

[位置・検出状況] 調査C区21C1に位置する。当初、Ⅲ層上面において黒褐色土の円形プランとして確認されたSX06住居状遺構の直下にほぼ同一のプランとして検出された。[重複関係] SI21・36と重複しているが、切り合い関係から本遺構が新期である。また、SX06と重複しており、本遺構が旧期である。[規模・平面形] 残存は北壁のみであるが、ほぼ円形を基調とするプランであり、規模は長軸〔550〕cm、単軸〔500〕cmと見られる。深さは50cm、床面積は〔14.4〕㎡である。[壁・床面] 北東～北～北西側の一部で残存している。最も遺存状況の良い北壁の残存高は50cmである。床面はSI36ピットも多数検出されており判然としないが、貼床や硬化面は確認できないことからSI36に伴うピットなどを埋め立てて使用していると考えられる。[堆積土] 本遺構とSI36を合わせた断面からは暗褐色土主体の計5層が確認され、このうち本遺構と思われる堆積は4・5層である。堆積土の大半はSX06を掘削する際に削平されており（廃絶後、間もない期間に作られたか）、わずかに北～北西側の壁面付近及び南側に残存するのみである。[ピット・柱穴] SI20及び36プラン内に計80個検出された。ただし、このなかにはSI36及びSX06に伴うものも多く含まれている可能性があるため、明確に本遺構に伴うとできるものはSI36炉を切っているp8・9などである。[炉] 床面中央で地床炉1基が検出されている。規模は87×75cmでいずれも不整形、深さ5cmで弱変成している。

遺物（第98・99・163・167・172図、写真図版93・94・134・139）



第35図　SI20・36竪穴住居跡

［出土状況］堆積土の大半をSX06によって破壊されているため、遺物総量は少ない。本遺構に伴う可能性の高いものはp1出土の249と床面直上出土の256である。石器は堆積土上位から多く出土している。

［土器］縄文土器404片（5,440g）を出土している。このうち249～256の8点を掲載した。Ⅲ・Ⅳ・Ⅸ群が出土しており、大半がⅣ群に含まれる。

［石器］計39点を出土している。石鏃5点、石匙1点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片1点、剥片23点、礫器類2点、敲磨器類3点、礫石錘2点で、このうち933・1015石鏃、1081石匙を掲載した。

時期　床面出土土器256がⅣ群に分類されることから、縄文時代中期初頭と考えられる。（村田）

ＳＩ３６竪穴住居跡

遺構（第35図、写真図版37）

［位置・検出状況］調査C区21C1に位置する。［重複関係］SI20・21、SD07と重複している。東側はSD07に切られており、本遺構が旧期である。また、SI20・21については切り合い関係から本遺構が最も旧期にあたる。［規模・平面形］中央部をSI20、東側をSD07によって破壊されているため

全体は不明であるが、現存規模で東西方向（800）cm、南北方向〔480〕cmの長方形であり、大型竪穴住居跡の可能性がある。軸方向は平面形と周溝の走行方向からN－70°－Wと考えられる。[壁・床面] 北壁の一部が残存するのみであり、壁面の残存状況は極めて悪い。北壁の残存高は25cmで、外傾しながら急に立ち上がる。床面はSI20構築時の影響を受けているため判然としないが、Ⅳ層を掘り込んで構築されており、露出したⅣ層をそのまま床面として使用している。なお、北西～西壁にかけてはSI21により壁が完全に削平されているため、周溝の位置をもとに床面の範囲を判断している。床面積は残存値（26.7）㎡である。[堆積土] 本遺構とSI20を合わせた断面からは暗褐色土主体の計5層が確認され、このうち本遺構と思われる堆積は1～3層である。大部分がSX06・SI20に削平されているため堆積方向などは判断できない。[ピット・周溝] SI20及び36プラン内に計80個検出された。ただし、このなかにはSI20及びSX06に伴うものも多く含まれている可能性があるため、明確に本遺構に伴うとできるものはSI20・SX06プラン外のp2・3・5・7・12・13・18・66・68・75・76などである。また、p3については堆積土中から石器計185点（製品16点、剥片169点）が出土していることから石器埋納ピットとも考えられる。周溝は住居北側と西側、南側の一部で検出されている。北側周溝は多くが削平されているが西側周溝に直交するようにやや外側に膨らみを持って走っている。西側はほぼ直線的である。深さは5～12cmでU字形の断面を呈している。[炉] 床面中央に住居の軸線に沿う形で3基の地床炉が存在する。いずれもp8・9に切られているが規模は62×26cm、34×(13)cm、30×(24)cmで、弱変成している。

遺物（第107・165図、写真図版102・135）

[出土状況] 土器は北側周溝内および削平を免れた東側2層と西側3層からまとまって出土している。石器はp3から185点が一括出土している。

[土器] 縄文土器157片（1,900g）を出土している。このうち373～381の9点を掲載した。大半がⅣ群に含まれる。

[石器] 計210点を出土している。尖頭器1点、石鏃12点、石錐1点、石匙1点、二次加工ある剥片8点、剥片187点で、このうち975石鏃を掲載した。p3出土石器の内訳は、尖頭器1点、石鏃6点、石錐1点、石匙1点、二次加工ある剥片7点、剥片169点で、石鏃1点が凝灰岩と剥片1点が珪質頁岩以外はすべて頁岩製である。

時期　大半を破壊されており全体は不明だが、大型竪穴住居跡である可能性がある。時期については周溝・ピット出土土器377～380がⅣ群に分類されることから縄文時代前期末葉と考えられる。

ＳＩ２１竪穴住居跡

遺構（第36図、写真図版23）

[位置・検出状況] 調査C区20C8に位置する。Ⅲ層上面において暗褐色土の隅丸方形プランとして検出した。[重複関係] SI20・36、SX06と重複している。堆積状況をみると、本遺構はSI36埋没後に構築され、SI20に東側を切られている（SI20想定プラン）ことから、SI20より旧期と判断できる。合わせてSI36より新期、SX06よりも旧期である。[規模・平面形] 南西～南側が削平、また東側がSI20に破壊されているため全体を把握することはできないが、不整円形になるものと思われ、現存規模は南北方向（495）cm、東西方向（390）cmである。[壁・床面] 壁の残存は悪く、最も残りの良い北壁でも17cmである。床面は大部分がⅣ層、東側の一部にSI36堆積土を使用しており、

貼床は敷設されていない。床面積は（11.0）㎡である。［堆積土］上面が大幅に削平されているため堆積土の残存状況は良好とはいえないが、現状では暗褐色土主体の計2層が確認できる。土層観察によると斜面の傾斜に沿って堆積している状況が確認できることから自然堆積であると考えられる。［ピット・柱穴］北壁寄りに2個、西壁寄りに2個の計4個のピットを検出した。いずれかが対になって柱穴を構成する可能性が高いが、床面東側の状況が不明のため断定はできない。［炉］中央北寄りに地床炉を1基検出した。規模は65×39㎝の不整形で深さは4.5㎝、弱変成している。

遺物（第99・207図、写真図版95・155・157）

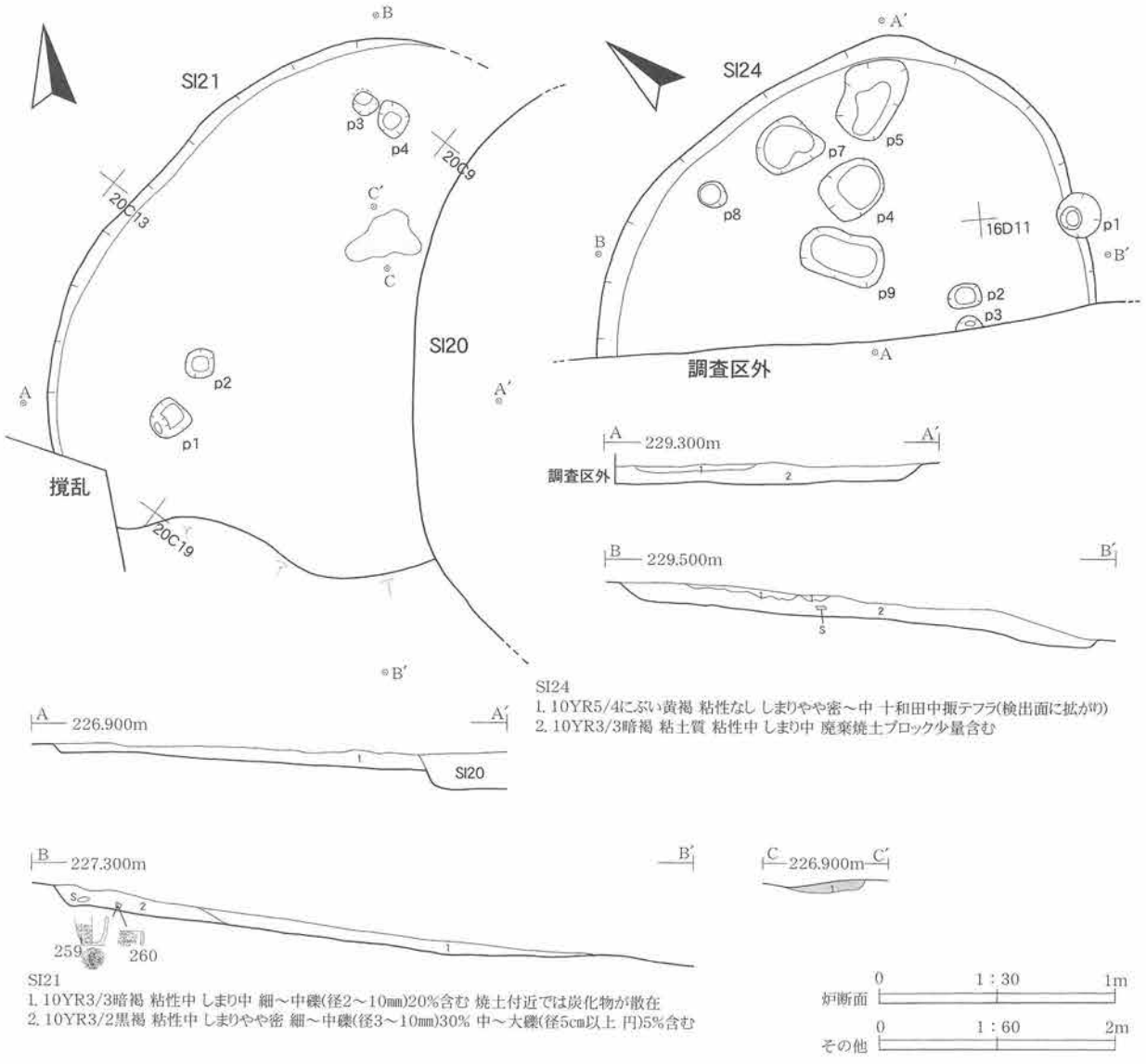
［出土状況］1層を中心に出土しており、堆積土が薄いためいずれも床直上付近である。

［土器］縄文土器200片（2,965g）を出土している。このうち257～261の5点を掲載した。大半がⅨ群であり判然としないが、Ⅳ群も一部含まれる。

［石器］計39点を出土している。石鏃4点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片1点、剥片30点、礫石錘2点である。

［石製品］頁岩製の玦状耳飾（1267）が1点出土している。

時期　縄文時代前期末葉と考えられる。



第36図　SI21・24 竪穴住居跡

ＳＩ２２竪穴住居跡

遺構（第37図、写真図版24）

［位置･検出状況］調査C区20B13･14に位置する。北東～東側は調査区外に至る。［重複関係］SI16・23と重複関係にある。いずれも本遺構より上層にあり、新期にあたる。本遺構を加えたこの3棟はほぼ同一プランを利用して、建替え拡張使用していたものと考えられる。炉は各床面レベルに新たに設置している。3棟の中では本遺構が最も旧期となり、SI22<SI23<SI16という過程が読み取れる。［規模･平面形］南西～南側が不明瞭であるが、遺物の分布状況と柱穴配置をみる限りでは円形を基調としたプランと考えられる。現存規模は長軸が〔540〕cm、短軸が〔420〕cmの円形で、軸方向は炉の長軸からＮ－51°－Ｗである。［壁･床面］壁面についてはSI16・23構築時に削平されておりほとんど残存していないため、高さや立ち上がりの状況については不明である。床面については、北半は掘り込んだⅣ層をそのまま使用しているが、南半は暗褐色土を用いて貼床し、床面を水平に整えている。硬化面は形成されておらず、堆積土との判別は困難であったが、炉および出土遺物の標高値を勘案して分層している。床面積は14.3㎡である。［堆積土］暗褐色土主体の計4層で構成される。SI23堆積土および床面と色調・混和物などの点で酷似している。いずれの層位もほぼ水平に堆積していることからSI23構築時に人為的に埋め戻し（整地）がおこなわれたものと考えられる。［ピット･周溝］ピットは床面全域から計61個検出している。このうちⅣ層を床面としている北側7個はSI16検出で見つかったものである。柱穴配置を想定したが（第214図）、利用されないピットもあるため詳細は不明である。周溝については北西側で一部検出したのみである。［炉］床面中央に土器埋設複式炉（日字形）を1基検出した。規模は108×60.5cmである。主炉と副炉の2室からなり、主炉の中央には土器が埋設されていた（264）。主炉は埋設土器周辺の熱変成が強く深さは6cmで、副炉も強変している。炉石の被熱痕跡は弱い。

遺物（第99･100･163･165･167･168･177･180･195･196･200･202図、写真図版95･134･135･141･143･151･155）

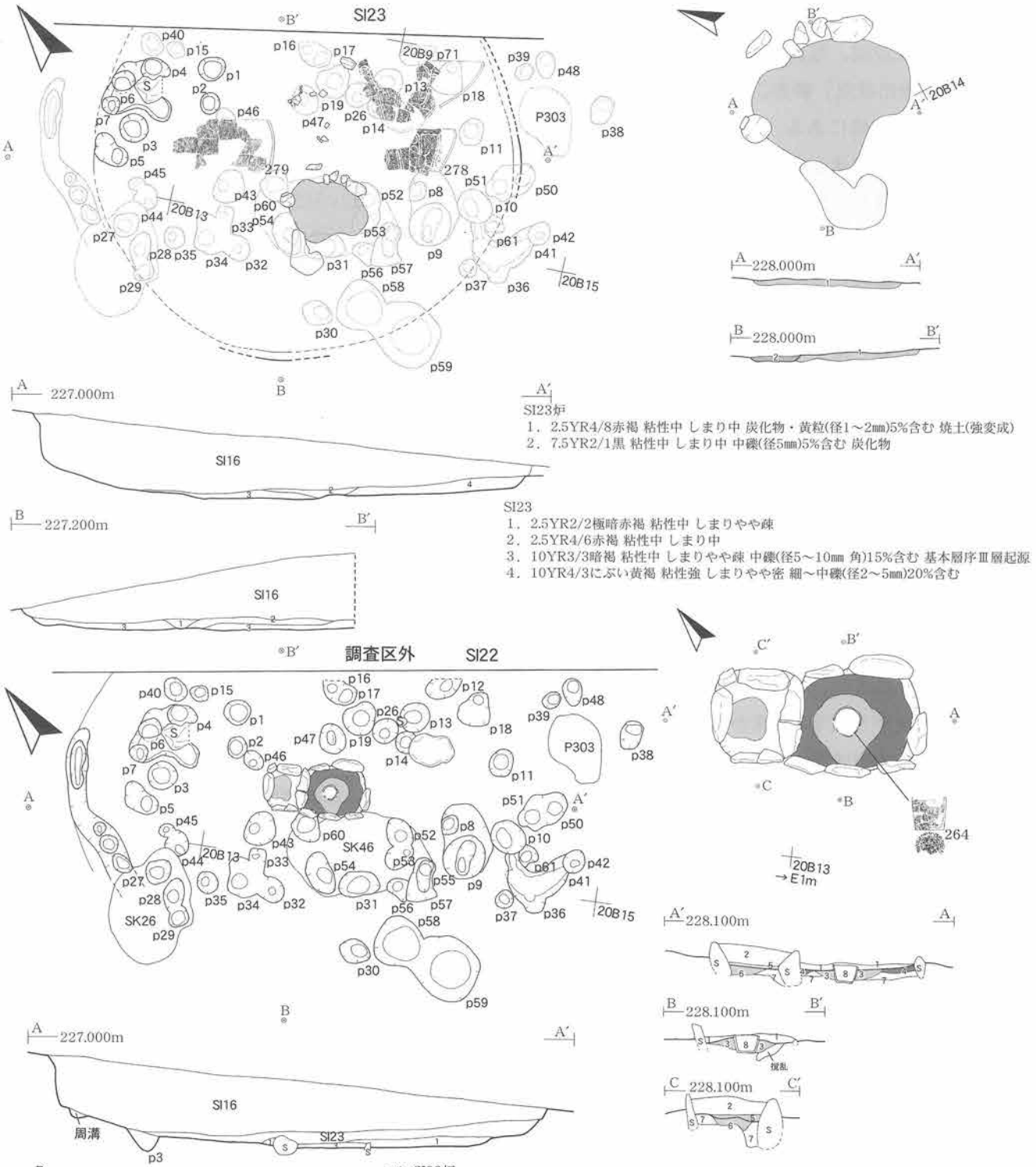
［出土状況］1層を中心に出土しており、堆積土が薄いためいずれも床直上付近である。石器はピット内から21.1%（16点）出土、炉から6.6%（5点）出土している。

［土器］縄文土器1,197片（13,229g）を出土している。このうち262～275の14点を掲載した。大半がⅣ群に含まれる。

［石器］計76点を出土している。石鏃17点、石錐2点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片3点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片41点、敲磨器類5点、礫石錘2点、石皿台石類4点で、このうち941･970･971･1016･1043石鏃、1113スクレイパー類、1131二次加工ある剥片、1214･1240敲磨器類、1253礫石錘を掲載した。

［石製品］石棒未製品とも思われる石棒類が1点出土している。

時期　本遺跡では唯一日字形石組複式炉を設置する竪穴住居跡である。SI16・23と同一住居であるとすれば本遺構が最も旧く規模の小さなものである。時期については、炉埋設土器（264）及び床面出土土器（267など）がⅣ群に分類されること、主炉内からサンプリングした炭化物について放射性炭素年代測定（AMS）の結果、B.P.4350±40という年代が与えられる（附編参照）ことから縄文時代中期前葉と考えられる。



SI23炉
1．2.5YR4/8赤褐 粘性中 しまり中 炭化物・黄粒(径1～2㎜)5%含む 焼土(強変成)
2．7.5YR2/1黒 粘性中 しまり中 中礫(径5㎜)5%含む 炭化物

SI23
1．2.5YR2/2極暗赤褐 粘性中 しまりやや疎
2．2.5YR4/6赤褐 粘性中 しまり中
3．10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径5～10㎜ 角)15%含む 基本層序Ⅲ層起源
4．10YR4/3にぶい黄褐 粘性強 しまりやや密 細～中礫(径2～5㎜)20%含む

SI22炉
1．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径5～20㎜ 角)10%含む
2．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径5～20㎜ 角)5% 焼土10%含む
3．2.5YR5/8明赤褐 粘性中 しまり中 混和物ほとんど無し 焼土(強変成)
4．7.5YR2/1黒 しまり中 粘性中 炭化物
5．2.5YR2/2極暗赤褐 粘性中 しまり中 中礫(径5～10㎜)10% ブロック状焼土30%含む 焼土(強変成)
6．2.5YR4/8赤褐 粘性中 しまり中 焼土(強変成)
7．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 細礫(径1～3㎜) 炭化物・焼土20%含む
8．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 炭化物5%含む

SI22
1．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径1～3cm)5% 炭化物・黄粒(径1～3㎜)10%含む
2．5YR2/2黒褐 粘性やや強 しまり中 焼土粒・炭化物(径1～3㎜)5%含む
3．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径5～20㎜ 角)10%含む
4．2.5Y6/6明黄褐 粘性中 しまり中 中礫(径1cm)5%含む 貼床か 基本層序Ⅳ層起源の土を使用

炉平・断面 0　1：30　1m
その他 0　1：60　2m

第37図　SI22・23 竪穴住居跡

ＳＩ２３竪穴住居跡

遺構（第37図、写真図版25）

［位置･検出状況］調査C区20B13･14付近に位置する。東側は調査区外に至る。［重複関係］SI16･22と重複関係にある。本遺構はSI16下層に位置し、かつSI22床面より高い位置で検出されていることから、SI16とSI22の間に構築されたと考えられる。［規模･平面形］南西～南側が不明瞭であるが、遺物の分布状況と柱穴配置をみる限りでは円形を基調としたプランと考えられる。現存規模は推定で北西－南東方向〔440〕cm、北東－南西方向（335）cm、深さは14cm、軸方向は炉の長軸からＮ－45°－Ｗである。［壁･床面］壁面については、SI16構築時に削平されているため高さや立ち上がりの状況については不明である。床面は北側の一部にⅣ層が見られるが、大半がSI22堆積土のにぶい黄褐色である。硬化面はみられず、色調や混和物なども3･4層と酷似しているため両者の判別は困難であるが、後述する炉および出土遺物の標高値から分層を行っている。床面積は（11.5）㎡である。［堆積土］暗褐色土主体の計4層で構成される。SI16床面と色調・混和物などの点で酷似している。いずれの層もほぼ水平に堆積していることからSI16構築時に人為的に埋め戻し（整地）が行われたものと考えられる。［ピット･柱穴］床面と堆積土との判別が困難であったため床面検出レベルではピットを確認することができなかった。ただし、下層のSI22精査時に床面全域から61個のピットを検出しており、これに本遺構に伴う柱穴が含まれている可能性がある。［炉］中央やや南寄りに81×65cmの範囲で焼土の集中があり、その東側で扁平礫が5個並んだ状態で検出されている。深さ4cmで強変しており、検出された礫を部材とみなしてこの焼土範囲をSI16構築時に一部を残して破壊された石囲炉であるとみなした。

遺物（第100･165･171図、写真図版96･135･138）

［出土状況］床面直上と3･4層を中心に出土している。

［土器］縄文土器438片（5,300g）を出土している。このうち276～281の6点を掲載した。Ⅳ～Ⅵ･Ⅸ群が出土しており、Ⅵ群主体である。

［石器］計25点を出土している。石鏃3点、石匙1点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片20点で、このうち972石鏃、1072石匙を掲載した。

時期　SI16・22と同一プランであるとすれば本遺構はSI22より新期、SI16より旧期である。時期については、床面出土土器278がⅥ群に分類されることから縄文時代中期後葉と考えられる。

ＳＩ２４竪穴住居跡

遺構（第36図、写真図版26）

［位置･検出状況］調査B区15D15に位置する。SD04斜面下側のⅢ層下位で遺構検出を実施したところ、調査区際ににぶい黄褐色テフラ（おそらく十和田中掫テフラ）を含む暗褐色土が半円形プランに拡がりを見せたため遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約17cmで、Ⅳ層で構成される床面に達した。床面がほぼ平坦であることと半円形プランから竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［重複関係］なし。［規模･平面形］遺構は円形と考えられるが、南半は調査区外で確認できない。規模は長軸が北西－南東方向424cm、短軸が北東－南西方向（257）cmを呈する。深さは最深部で19cm、床面積は残存値で（7.3）㎡である。［堆積土］暗褐色土主体の2層で構成される。上部の第1層はにぶい黄褐色のテフラで、他地

点採取テフラの分析から（附編参照）、十和田中掫テフラと見られる。これを除けば単一層構成と言える。［壁･床面］残存する壁は東壁8cm、西壁15cm、北壁13cmであり、いずれも緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、東側は外側に向かいやや傾斜している。構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、床面は堅緻である。［ピット･柱穴］計9個を検出したが、規則性は見られず床面北側にやや偏る。柱穴かは判断できない。［炉］検出されなかったが、調査区外に存在する可能性がある。

遺物（第182図、写真図版144）

［出土状況］石器のみが出土している。ほとんどが床面及び床直上からの出土である。

［石器］計6点を出土している。石匙1点、二次加工ある剥片1点、剥片2点、敲磨器類2点で、1143二次加工ある剥片を掲載した。

時期　上部に観察される十和田中掫テフラの推定降下年代から、縄文時代前期中葉以前とも想定されるが、出土土器がなく不明である。（北田）

ＳＩ２５竪穴住居跡

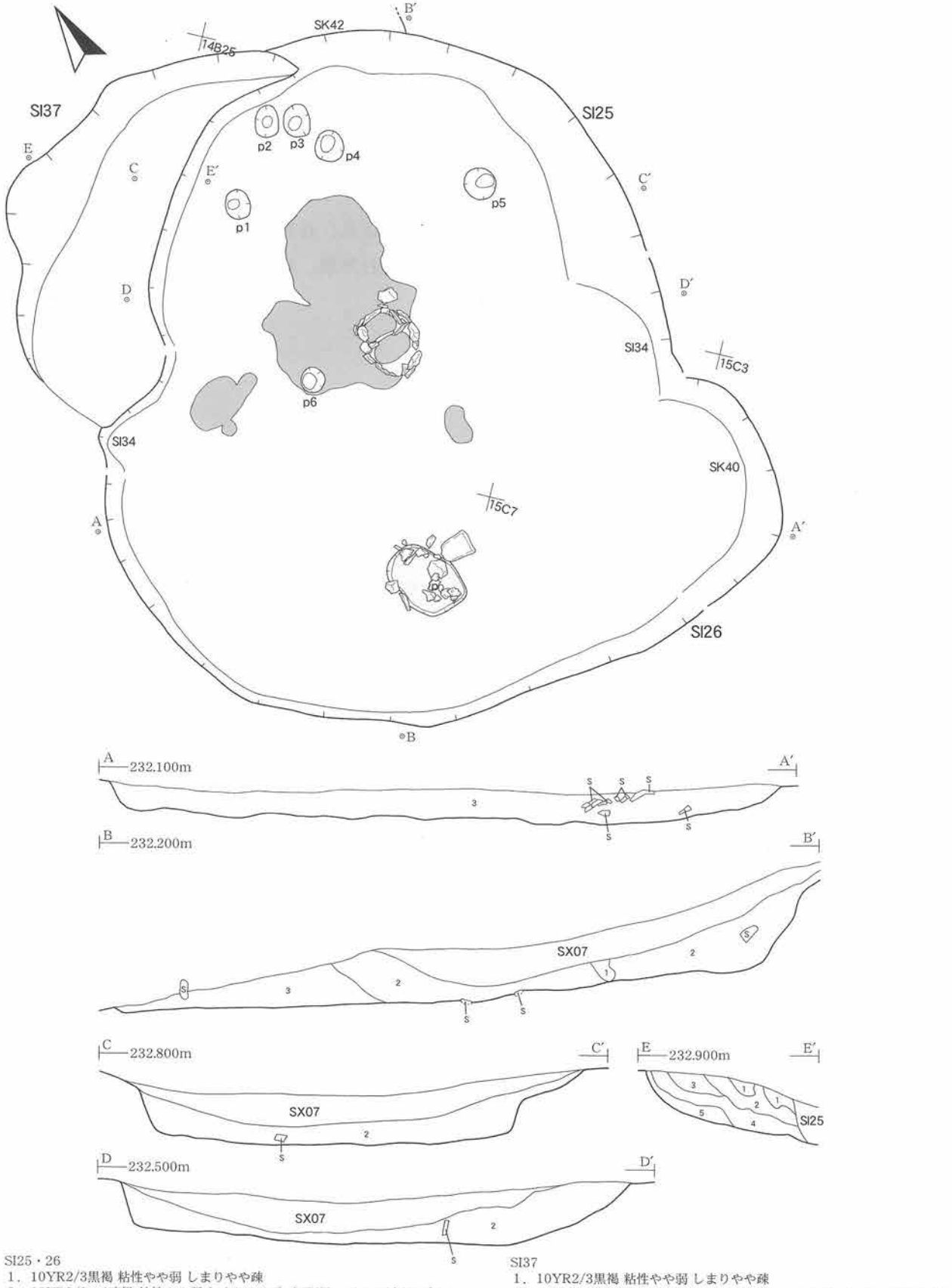
遺構（第38･39図、写真図版27）

［位置･検出状況］調査B区15C1に位置する。SX07住居状遺構精査時にサブトレンチを設定して確認したところ、下層に床面と思われる平坦面を確認した。改めて遺構検出を行ったところ、黒褐色～暗褐色の円形＋楕円形が拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約25cmのところで黒褐色土（SI34･38竪穴住居跡堆積土）で構成される床面に達した。当初から竪穴住居跡2棟を想定して精査を進めた（SI26竪穴住居跡と重複）。［重複関係］南半はSI26竪穴住居跡と重複し、堆積土断面から本遺構が新期にあたる。また、上層にSX04・07住居状遺構が存在し本遺構が旧期である。北西にSI37竪穴住居跡があるが、床面が本遺構に削平され存在しないため本遺構が新期と見られる。また北東のSK42土坑、下層のSI34･38竪穴住居跡よりも新期である。［規模･平面形］円形と考えられ、規模は長軸が東西方向〔550〕cm、短軸が南北方向〔500〕cmを呈する。深さは最深で66cm、床面積は推定値で〔14.6〕㎡以上である。［堆積土］暗褐色土主体の2層で構成されるが、SI26竪穴住居跡とのプランの境界は判別し難く、僅かな炭化物含有率の違いで推定されるのみである。両遺構は近い時期に同様の埋没過程を辿った可能性がある。［壁･床面］残存する壁は東壁56cm、西壁46cm、北壁90cmでいずれも急に立ち上がる。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはSI34竪穴住居跡堆積土である黒褐色土まで行われており、床面の炉より北側に焼土が大きく拡がっている。床面は炉付近が堅緻、周りはやや軟質である。［ピット･柱穴］ピット計6個を検出した。規則性はなく床面北側に偏る傾向がある。ただし、この他にも本遺構に付属するピットが存在した可能性もあるがこの時点では検出できなかった（下層SI34精査時に相当数のピットを検出→六角形か）。［炉］床面中央やや南寄りに77×63cmの複式炉を1基検出した。18個の扁平な亜角礫で構成されており、燃焼面までは8cmの深さがある。燃焼面は燃焼部及び前庭部、炉の北側及び西側に大きく拡がっている。炉内は特に良く燃焼しており、深さ11cmで赤褐色に強変している。床面に拡がる焼土は当初焼失住居とも考えたが、炉の北側のみに見られること、床面に炭化材が残存していないことから何らかの理由で地床炉的に使用したのではないかと考えられる。

遺物（第101・135・137・166・168・189・191図、写真図版96・97・148・149）
［出土状況］出土土器のうち、堆積土下位は23.8%（3,148g）、床直上～床面は17.8%（2,355g）出土している。石器は堆積土出土が大半だが、床面から14.3%（9点）出土、炉堆積土内から22.2%（14点）出土している。
［土器］縄文土器940片（13,208g）を出土している。このうち282～293の12点を掲載した。Ⅲ～Ⅵ・Ⅸ群に含まれ、大半がⅣ群だが、床面からⅤ群291と堆積土下位からⅥ群287が出土している。
［石器］計63点を出土している。石鏃6点、石匙2点、剥片45点、石斧類1点、礫器類3点、敲磨器類2点、石皿台石類4点で、このうち1002・1041石鏃、1180石斧類、1185礫器類を掲載した。剥片45点のうち、22点が黒曜石製である（産地不明）。
時期　縄文時代中期中葉～後葉に想定される。

ＳＩ２６竪穴住居跡

遺構（第38・39図、写真図版28）
［位置・検出状況］調査B区15C6に位置する。SX07住居状遺構精査時にサブトレンチを設定して確認したところ、下層に床面と思われる平坦面を確認した。改めて遺構検出を行ったところ、黒褐色～暗褐色の円形＋楕円形が拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約30cmのところで黒褐色土（SI34・38竪穴住居跡堆積土）で構成される床面に達した。当初から竪穴住居跡2棟を想定して精査を進めた（SI25竪穴住居跡と重複）。［重複関係］北半はSI25竪穴住居跡と重複し、堆積土断面から本遺構が旧期にあたる。また、上層にSX04・07住居状遺構が存在するが本遺構が旧期である。また南東のSK40土坑よりは旧期、下層のSI34・38竪穴住居跡よりは新期である。［規模・平面形］遺構は楕円形プランと考えられ、規模は長軸が東西方向〔600〕cm、短軸が南北方向〔500〕cmを呈する。深さは最深で45cm（南側で7cm）、床面積は推定値で〔16.0〕㎡である。［堆積土］暗褐色土の単一層で構成され、約2%の炭化物を含有する。SI25竪穴住居跡とのプランの境界は判別し難く、僅かな炭化物含有率の違いで推定されるのみである。堆積土に共通点（土色・土性）が見られることから両遺構は近い時期に同様の埋没過程を辿った可能性もある。［壁・床面］残存する壁は西壁24cm、南壁6cmでいずれもやや角度を持って立ち上がる。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはSI34・38竪穴住居跡堆積土である黒褐色土まで行われており、下層住居の堆積土状況から床面にも炭化物を微量含有する。床面は全体にやや軟質であり、炉の状態からも使用期間が短いのかもしれない。［炉］床面中央やや南西寄りに廃棄されたと考えられる炉（83×61cm）を1基検出した。散在する礫と炭化物の集中が見られる楕円形を検出し断面を設定したところ、底面が極暗赤褐色の弱変に被熱していた。礫の散在状況と焼土から何らかの理由で廃棄された石囲炉であると判断した。炉のすぐ東には花崗閃緑岩の石皿台石類が出土している。燃焼面は弱変成で、深さ1cmに満たない。
遺物（第102・135・137・168図、写真図版97）
［出土状況］出土土器のうち、堆積土上位が最も多く40.5%（4,890g）、床直上～床面は8.9%（1,070g）出土している。石器は、炉堆積土内から39.2%（31点）出土しており、また炉石として石皿台石類1点・敲磨器類1点・剥片1点が転用されていたと見られる。
［土器］縄文土器780片（12,085g）を出土している。このうち294～305の12点を掲載した。Ⅳ・Ⅴ・

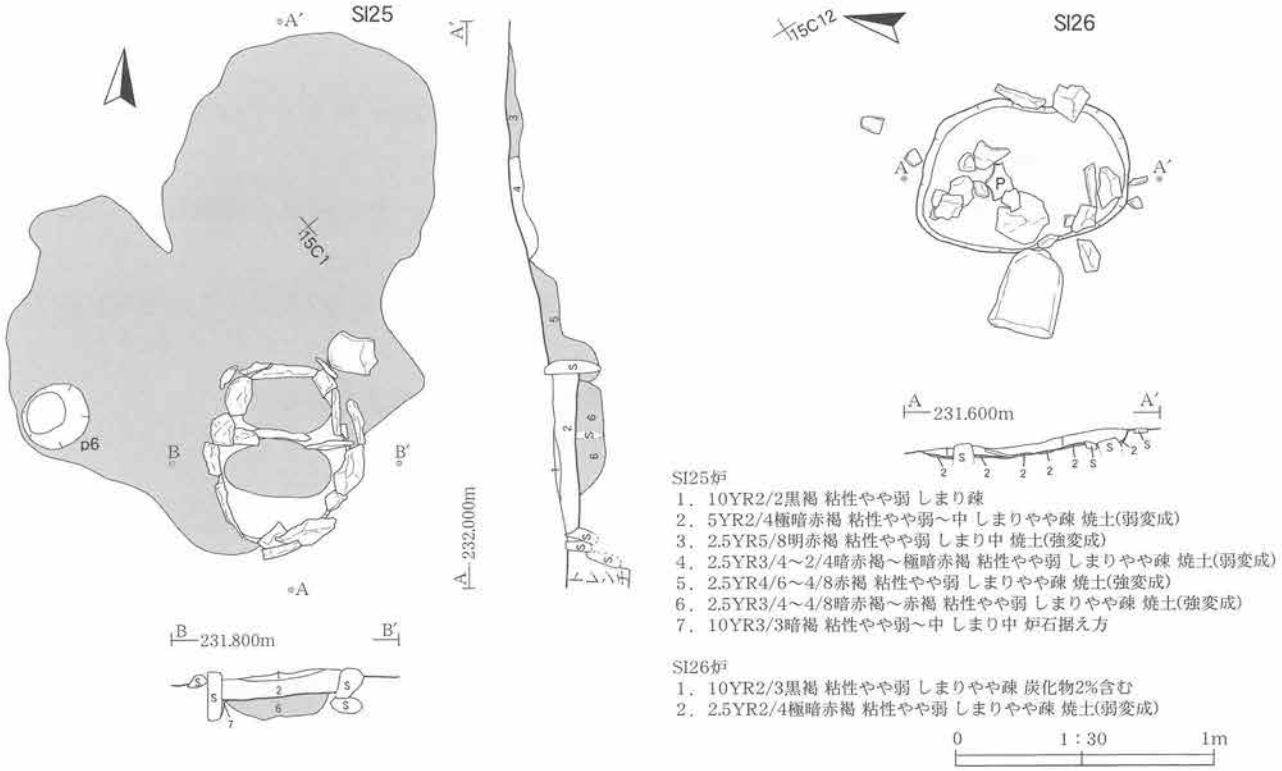


SI25・26
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．10YR3/3～4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～3cm 亜角)3%含む
3．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物2%含む

SI37
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎～中 中礫(径1～2cm 亜角)5%含む
3．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまり中
4．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
5．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～3cm 剥礫)2%含む

0 1：60 2m

第38図 SI25・26・37 竪穴住居跡



第39図　SI25・26竪穴住居跡

Ⅸ群が出土しており、大半がⅣ群に含まれる。堆積土最下位･床直上から、Ⅴ群303･304が出土している。

［石器］計79点を出土している。石鏃5点、石錐1点、楔形石器1点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片2点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片63点、敲磨器類3点、石皿台石類1点で、このうち1024石鏃を掲載した。剥片63点のうち37点が黒曜石製である。

[石製品]石棒未製品とも思われる石棒類が1点出土している。

時期　出土土器と重複関係から、縄文時代中期中葉～後葉に想定される。

ＳＩ３７竪穴住居跡

遺構（第38図、写真図版38）

［位置･検出状況］調査B区14C5に位置する。SI25竪穴住居跡精査時にSI25の西側に遺構の存在を確認した。検出できたのは遺構西側1/4程度であるが、その規模と周辺遺構との重複関係から竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［重複関係］大半はSI25竪穴住居跡と重複し、本遺構床面を破壊していることから本遺構が旧期となる。また、上層にSX04・07住居状遺構が存在するが本遺構が旧期である。遺構プランからSI25下層のSI34とも重複していたと言えるが本遺構が新期である（SI34<SI37<SI25<SX07<SX04)。［規模･平面形］円形と考えられ、規模は長軸が北東－南西方向（430）cm、短軸が北西－南東方向（171）cmを呈する。深さは最深で47cmである。［堆積土］褐～暗褐色土主体の計5層で構成されるが、東はSI25に切られている。［壁･床面］残存する壁は西壁43cm、北壁42cmでいずれも緩やかに立ち上がる。床面は西から東へ緩やかに傾斜しているが、おそらく中央になるにつれて平坦になると見られる。残存する床面はⅣ層を掘り込んで構成して

いるため、堅緻である。床面積は（3.5）㎡である。

遺物（第107･169･201図、写真図版103･137）

［出土状況］出土土器のうち、堆積土中位及び下位が各23.6%（405g）出土している。石器は堆積土下位3点などから出土している。

［土器］縄文土器115片（1,715g）を出土している。このうち382～387の6点を掲載した。大半がⅣ群に含まれるが、堆積土中位からⅤ群383が出土している。

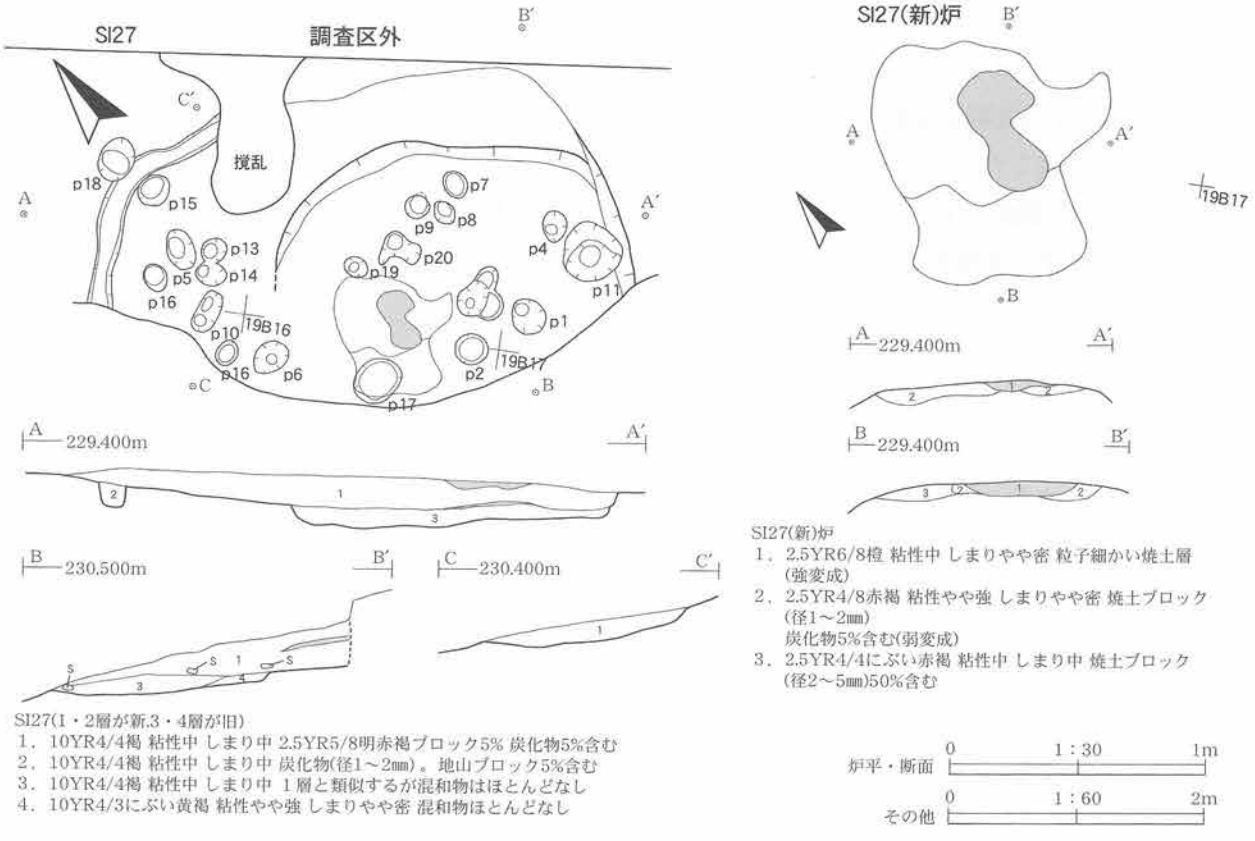
［石器］計5点を出土している。石鏃1点、石匙1点、石斧類1点、敲磨器類2点で、このうち1061石匙、1241敲磨器類を掲載した。

時期　出土遺物及びSI25との重複関係から、縄文時代中期中葉と考えられる。

ＳＩ２７竪穴住居跡

遺構（第40図、写真図版29）

［位置･検出状況］調査C区19B11･15に位置する。当初、Ⅲ層上面において焼土が散布する暗褐色プランとして検出された。［重複関係］重複関係はなく、単独で存在する。ただし、埋め立て・拡張を伴って新旧がある。［規模･平面形］南西～南側が削平されているため全体は不明であるが、新旧ともやや隅丸方形状の楕円形と考えられる。現存規模は旧期が北西－南東方向280㎝、北東－南西方向（210）㎝、深さ42㎝、新期が北西－南東方向（432）㎝、北東－南西方向（261）㎝、深さ24㎝である。床面積は新期が（7.4）㎡、旧期が（4.2）㎡である。［壁･床面］壁の残存は極めて悪



第40図　SI27 竪穴住居跡

く、東壁の一部が残存しているのみである。残存している壁面を見る限り、立ち上がりは緩やかである。床面は全域でⅣ層をそのまま使用しており、貼床は敷設されていない。ただし、新期住居を構築の際は、旧期住居プランは埋め戻されていたと見られる。[堆積土] Ⅲ層由来の暗褐色土主体で構成される。ただし、旧期と新期の堆積土は色調・混和物とも酷似しており、両遺構の判別は困難であった。そのためセクションベルトを残して旧期の床面まで一度に掘り下げを行い、焼土や平坦面のレベルをもとに分層を行った。[ピット・柱穴] 計20個検出されている。明確な柱穴配置は不明であるが、全域に散在している。p5・6・10・12～16・18の9個は拡張された新期住居プランに属すると思われるが、残りの旧期住居プランから検出した11個の帰属は不明である。[炉] 新期住居の床面中央やや南側に98×93cmの範囲で焼土が検出されている。旧期の床面より高い位置で検出されたため、当初は住居廃絶後に流入した二次堆積焼土とみなしていた。しかし、新期の床面と同レベルであることと焼土の形成状況が現地性焼土と同様であることから、最終的には新期に伴う地床炉と判断した。深さは7cmである。

遺物（第102・164～167・183・196図、写真図版98・134・135・145）

[出土状況] 旧期・新期とも1層からの出土である。

[土器] 縄文土器345片（4,140g）を出土している。このうち306～315の10点を掲載した。Ⅲ・Ⅳ・Ⅸ群が出土しており、大半がⅣ群に含まれる。

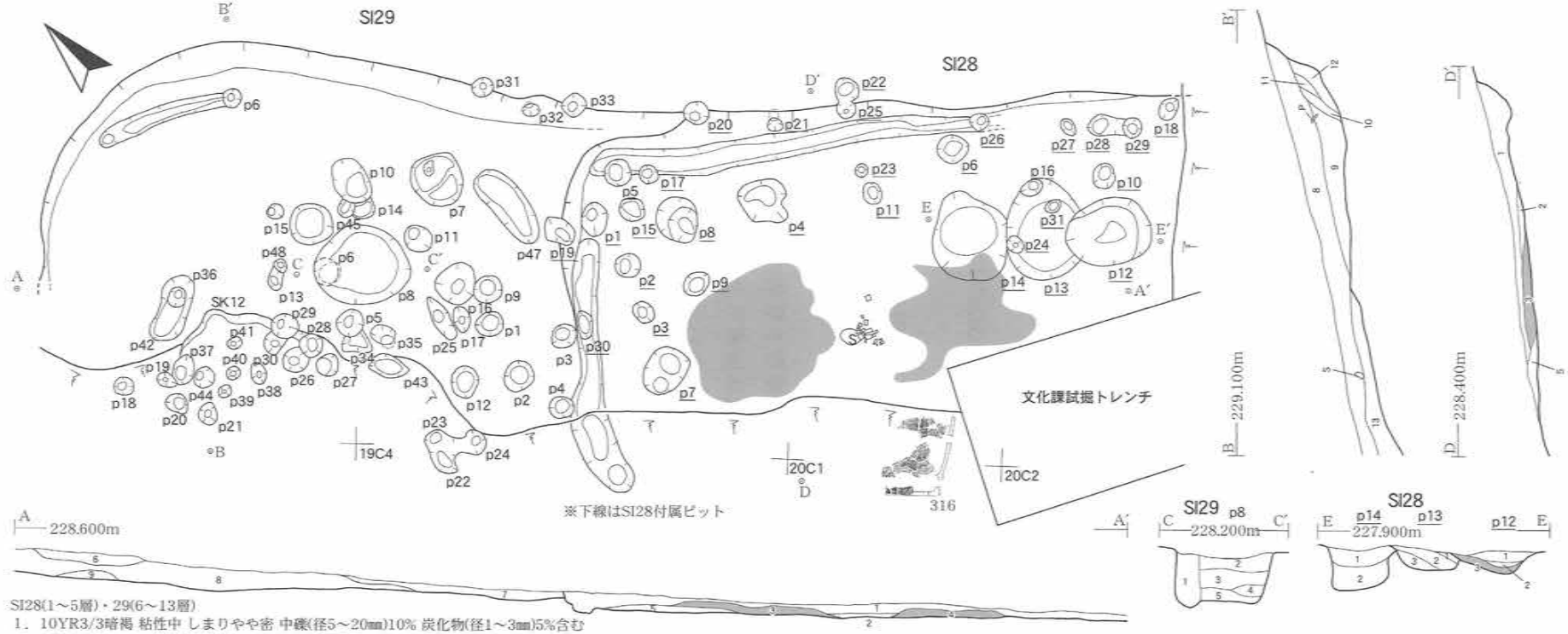
[石器] 計59点を出土している。石鏃15点、石匙2点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片1点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片38点、敲磨器類1点で、このうち961・973・1003・1023石鏃、1215敲磨器類を掲載した。

時期　ここでは重複しているため旧期と新期としているが、規模や形状の点からは同一住居の建て替えである可能性は低いと考えられる。ピット内あるいは床面直上出土土器がないため存続時期については不明といわざるを得ないが、堆積土内出土土器については多くがⅣ群に分類されることから、少なくとも縄文時代前期後葉～中期前葉には廃絶していたものと思われる。　（村田）

ＳＩ２８竪穴住居跡

遺構（第41図、写真図版30）

[位置・検出状況] 調査C区20B21に位置する。当初はSI29とともにⅢ層中で長楕円形の暗褐色プランとして検出された。[重複関係] SI29竪穴住居跡・SR01土器埋設遺構・P259ピットと重複しており、いずれよりも旧期である。[規模・平面形] 南～東側が削平されているため全体は不明であるが、現存規模で東西方向（577）cm、南北方向（280）cmの長方形であり、大型住居の可能性もある。軸方向はN－40°－Wである。[壁・床面] 壁は北壁で26cm残存している以外はほとんど削平されている。下端は周溝と共有しており、周溝外壁からほぼ直線的に立ち上がる。床面は全域でⅣ層を使用していたと思われるが、南（斜面下側）は削平されており不明である。堆積土と床面の判別は比較的容易であるが、床面は全体に締まりは弱く、硬化面は形成されていない。床面積は（12.9）㎡である。[堆積土] 大半が削平されているため非常に薄く、暗褐色土主体の計5層で構成される。遺構中央の1層直下で焼土が138×125・137×115cmの範囲で広がっている状況が確認されている（3・4層）。当初はこれを炉と考えていたが、規模が非常に大きいこと、床面よりやや浮いた位置で検出されていること、断面観察の結果、床面に被熱による影響層が形成されてい



SI28(1～5層)・29(6～13層)
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径5～20㎜)10% 炭化物(径1～3㎜)5%含む
2．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや疎 混和物ほとんどなし(SI28床面)
3．2.5YR4/8～5/8赤褐～明赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(焼失か) 炭化物15%含む
4．2.5YR5/6明赤褐 粘性やや弱 しまり中 焼土(焼失か) 白色粒10%含む
5．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中
6．10YR4/4褐 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径5～10㎜)20%含む 遺物包含
7．10YR3/2黒褐 粘性中 しまりやや密
8．10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径5～20㎜)15% 炭化物(径１～3㎜)10%含む 下位ほど炭化物多い
9．10YR5/8黄褐 粘性中 しまりやや密 黄粒(径2～5㎜)10%含む
10．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径3～10㎜) 炭化物(径１～3㎜)5%含む
11．10YR5/6黄褐 粘性中 しまりやや密 細～中礫(径3～5㎜)5%含む
12．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径5～10㎜)15%含む
13．10YR3/3暗褐 しまり中 粘性中 8層と酷似するが境界に炭化物(径1～3㎜)を層状に含む

SI29
p8
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径3～10㎜)15%含む
2．10YR5/6黄褐 粘性中 しまりやや疎 細～中礫(径3～10㎜)10%含む
3．10YR6/6明黄褐 粘性中 しまりやや疎 炭化物・黄ブロック5%含む
4．10YR6/6明黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm)15%含む
5．10YR6/8明黄褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径1～5㎜)10%含む

SI28
p12
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 焼土・炭化物5%含む やや粒子細かい
2．2.5YR3/3暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土20% 炭化物15%含む
3．2.5YR5/8明赤褐 粘性やや弱 しまり中 中礫(径1～3cm)10%含む 焼土

p13
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径3～5㎜)5% 炭化物5%含む
2．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや疎 細～中礫(径3～10㎜)10% 炭化物・焼土10%含む
3．2.5Y6/6明黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径5～10㎜)10%含む

p14
1．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや疎 細～中礫(径3～10㎜)10% 炭化物・焼土10%含む
2．2.5Y6/6明黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径5～10㎜)10%含む

0 1：60 2m

第41図 SI28・29 竪穴住居跡

ないことから、この焼土は埋没過程で流入した二次堆積焼土と判断した。[ピット・柱穴] 計31個検出している。間隔は一定していないが、p6～10などが柱穴になるものと思われる。p12～14などは貯蔵ピットと思われ、なかでもp12は2・3層に焼土を堆積しており、廃棄焼土ピットと考えられる。[周溝] 壁面に沿ってほぼ直線的に構築されている。

遺物（第102・103・135・164図、写真図版98・134）

[出土状況] ピット・周溝および3・4層直上で主に出土している。

[土器] 縄文土器297片（5,446g）を出土している。このうち316～321の6点を掲載した。Ⅲ・Ⅳ群が出土しており、Ⅲ群が若干多い。

[石器] 計20点を出土している。石鏃7点、石錐1点、楔形石器1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片1点、剥片9点で、このうち960石鏃を掲載した。

時期　縄文時代前期後葉～中期前葉と考えられる。

ＳＩ２９竪穴住居跡

遺構（第41図、写真図版31）

[位置・検出状況] 調査C区19B24に位置する。当初はSI28とともにⅢ層中で長楕円形の黒褐色プランとして検出された。[重複関係] SI28竪穴住居跡・SK12土坑と重複しており、本遺構が新期である。[規模・平面形] 南西が削平・崩落しているため不明であるが、長方形を呈する。規模は北西－南東方向（497）cm以上、北東－南西方向（313）cmである。[壁・床面] 西～南壁は削平・崩落、南東壁はSI28に切られて残存していない。北壁54cm、東壁38cmであり、角度をもってやや直線的に立ち上がる。[堆積土] 暗褐色土主体の計8層で構成される。8層などの暗褐色土はⅢ層起源、9層は壁崩落土と見られる。床面積は（12.0）㎡である。[ピット・柱穴] 計48個を検出した。大半が南側に偏って分布しており、配置に規則性は見られない。柱穴は不明であるが、p8は柱あたりが確認できる。なお、北壁近くに周溝と思われる溝状の掘り込みを確認している。[炉] 堆積土下位で焼土が集中する箇所が２ヵ所あったが、熱変成の度合いも弱いことから炉と判断していない。

遺物（第103・163・164・172・180・181図、写真図版98・134・139・143）

[出土状況] 出土土器のうち、50.9%（1,165g）が床面出土である。石器は88.5%（23点）が1層出土である。

[土器] 縄文土器129片（2,290g）を出土している。このうち322～330の9点を掲載した。Ⅲ・Ⅳ・Ⅸ群が出土しており、Ⅳ群主体である。

[石器] 計26点を出土している。尖頭器1点、石鏃8点、石匙1点、二次加工ある剥片3点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片8点、敲磨器類2点、礫石錘2点で、このうち934・949石鏃、1080石匙、1132・1139二次加工ある剥片を掲載した。

時期　縄文時代中期前葉と考えられる。

ＳＩ３０・３１竪穴住居跡

遺構（第42図、写真図版32）

[位置・検出状況] 調査B区15C19に位置する。SD04堀跡、SI13・14竪穴住居跡精査終了後、遺構

検出を実施したところ、褐色土が長方形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。確認の結果、検出面から深さ46cmのところでⅣ層で構成される床面に達し、焼土を検出したため、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。当初、遺構プランから大型竪穴住居跡1棟を想定していたが、堆積土を除去した段階で少なくとも2棟が重複していることが確認された（壁形状と周溝から）。しかし、ほぼ同一の床面を持つことと住居の拡張に伴う同一プランでの重複であったため、同時に精査を進めた。［重複関係］新旧はSI31が旧期、その後の拡張で新期のSI30が構築されたと見られる。また両遺構の中間にももう1棟の竪穴住居跡が存在したと考えられるが、北側に周溝が残存するのみである（SI31拡張前<SI31拡張後<SI30）。南半は重複するSD04堀跡に大きく切られており、本遺構が旧期である。また、北ではSI32･38竪穴住居跡があり本遺構が旧期、西にSI13竪穴住居跡があり本遺構が旧期である。遺構東側は攪乱による削平を受けている。［規模･平面形］拡張前のSI31については東西に長軸を持つ長方形と考えられ、長軸が〔450〕cm以上、短軸が（220）cm以上を呈する。拡張後のSI31は前形を東に拡げたプランで、長軸が（615）cm以上、短軸が（220）cm以上を呈する。重複するSI30はさらに大形で、東西に長軸を持つ長方形で、長軸が（740）cm以上、短軸が（190）cm以上を呈する。深さはSI30が最深で24cm、SI31が49cm、床面積はSI31（前）が（9.4）㎡以上、SI31（後）が（10.4）㎡以上、SI30が（9.5）㎡以上である。［堆積土］褐色土主体の9層で構成される。新旧は拡張後のSI30が新期となるため、ほとんどが新期住居跡の堆積土である。4層には黄褐色土が水平堆積しており、当初は貼床を想定したが確認できなかった（SI31拡張後の貼床か→そうなれば、新旧が逆転しSI30<SI31拡張前<SI31拡張後となる）。［壁･床面］残存する壁は東壁8cm、西壁17cm、北壁38cmである。床面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、床面は堅緻である。［ピット･柱穴］SI30･31の床面に計33個のピットを検出した。いずれも柱穴と考えられる。柱穴配置を想定した（第215図）が、南半が削平されているため不十分である。想定図ではSI31の拡張前と後、重複するSI30の3つを考えたが、この他にも各々に含まれる柱穴があるかもしれない。軸線はSI30がN－118°－E、SI31がN－127°－Eとやや異なる。［炉］SD04に切られている床面に2基の地床炉を検出した。炉の規模はSI31に伴うと見られる炉が105×（88）cm、深さ4cmで強変、SI30に伴うと見られる炉が211×（64）cm、深さ7cmで強変である。それぞれの炉の間には炭化物の拡がりも確認されており、燃焼範囲がいずれも広いことから失火による燃焼影響の可能性もある。SI30炉の位置には石皿台石類（1264）の設置も見られる。［周溝］SI30･31拡張前･31拡張後のいずれも北及び東壁際に深さ12cm、幅約20cmの周溝が見られる。

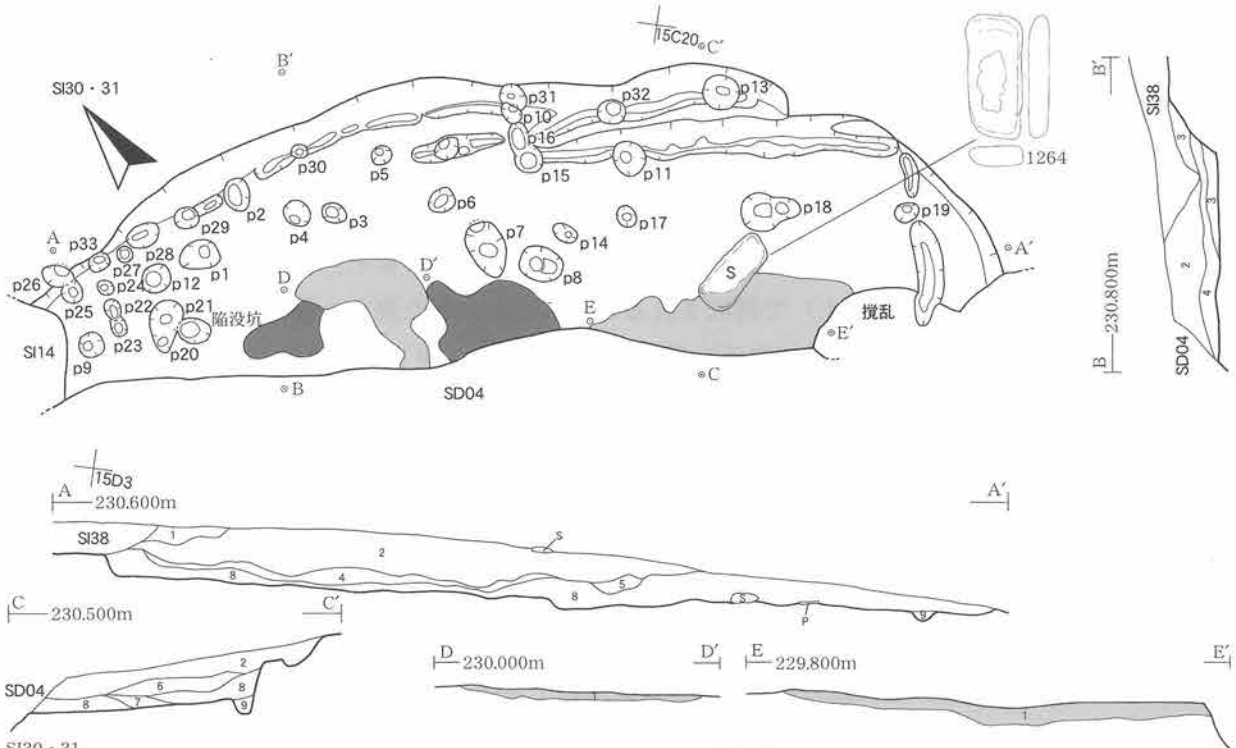
遺物（第103･104･162･204図、写真図版99･133･156）

［出土状況］出土土器のうち、床面から51.3%（1,800g）出土している。石器は堆積土上位が最も多く56.5%（13点）出土している。

［土器］SI30･31竪穴住居跡の合計で縄文土器219片（3,510g）を出土している。このうち331～335の5点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

［石器］計23点を出土している。尖頭器1点、石鏃3点、石匙1点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片1点、剥片11点、礫器類1点、敲磨器類2点、石皿台石類1点で、このうち912尖頭器、1264石皿台石類を掲載した。

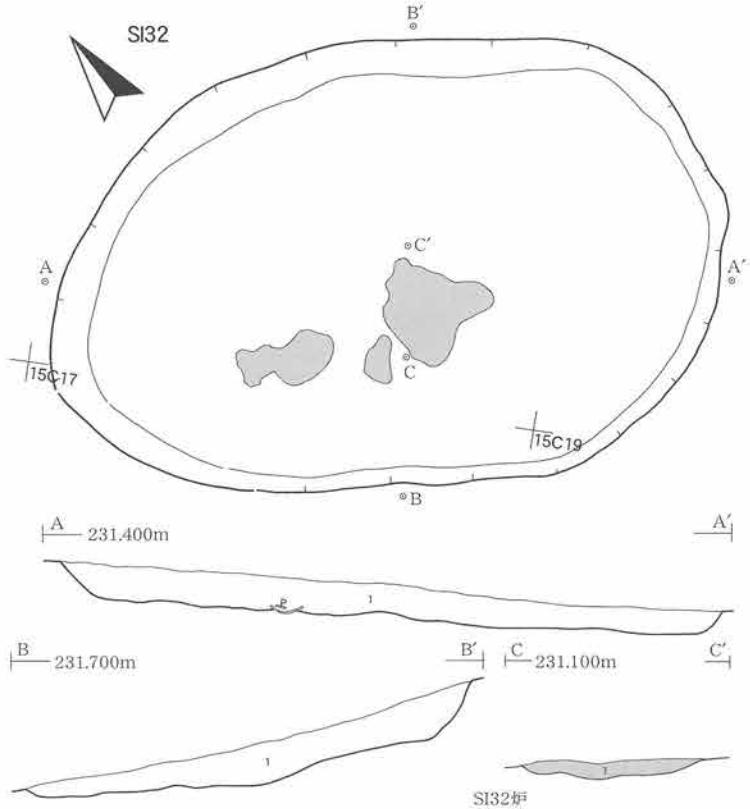
時期　両遺構ともに縄文時代前期末葉と考えられるが、重複関係からSI30がSI31よりも新期で



SI30・31
1．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む
2．10YR4/4～4/6褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む
3．10YR5/8黄褐 粘土質 粘性やや弱 しまりやや疎～中
4．10YR5/6黄褐＋10YR7/6明黄褐 粘土質 粘性やや弱～中 しまり中
5．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまり中
6．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまり中 炭化物3%含む
7．10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
8．10YR4/4～4/6褐 粘土質 粘性やや弱～中 しまりやや疎～中 炭化物2%含む
9．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 明黄褐粘土質ブロック(径1cm)3%含む

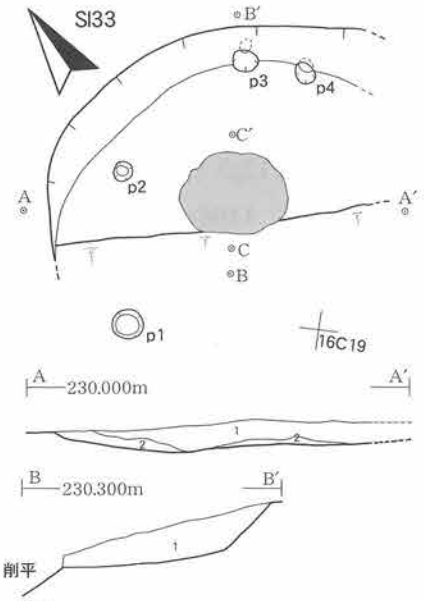
SI30炉
1．5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)

SI31炉
1．5YR5/8明赤褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎 焼土(強変成)



SI32
1．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む

SI32炉
1．5YR5/8明赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)



SI33
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎～中

SI33炉
1．2.5YR4/8赤褐 粘性中 しまりやや疎 焼土(強変成)

炉平・断面　0　1：30　1m
その他　0　1：60　2m

第42図　SI30～33 竪穴住居跡

ある。　（北田）

ＳＩ３２竪穴住居跡

遺構（第42図、写真図版33）

［位置・検出状況］調査B区15C7に位置する。Ⅲ層下位で遺構検出を実施したところ、褐色土が楕円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。確認の結果、検出面から深さ約25cmのところで黒褐色土（SI38堆積土）で構成される床面に達し、また焼土を確認したため、竪穴住居跡を想定して精査を進めた。［重複関係］遺構全体がSI38と重複し、本遺構が新期である。また、西にSI13があり本遺構が新期、南にSI30・31があり本遺構が新期である。［規模・平面形］平面は楕円形と考えられ、規模は長軸が東西方向545cm、短軸が南北方向353cmを呈する。深さは最深で35cm（遺構北）、床面積は12.5㎡である。［堆積土］褐色土の単一層で構成され（Ⅲ層起源）、炭化物を1%含有する。［壁・床面］残存する壁は東壁19cm、西壁26cm、南壁10cm、北壁35cmで、傾斜地に構築しているため、北壁の掘り込みやや深い。床面はほぼ平坦であるが、斜面の傾斜に沿って北がやや高くなる。構築時の掘り込みは黒褐色土（SI38堆積土中）まで行われており、北～東壁、南壁の一部はⅣ層、それ以外は重複する遺構堆積土が壁となる。床面はやや軟質である。［炉］床面ほぼ中央とやや南西寄りに散逸するように3基の地床炉を検出した。それぞれの規模は88×88cm、37×21cm、77×37cmでいずれも不整形である。深さは6cmで強変成している。

遺物（第104・163・167・193・199図、写真図版99・134・150）

［出土状況］土器は堆積土から床面まで散在しており、床面からは25.5%（1,175g）出土している。石器は大半が堆積土上位から出土している。

［土器］縄文土器268片（4,605g）を出土している。このうち336～345の10点を掲載した。大半がⅣ群に含まれる。

［石器］計12点を出土している。石鏃2点、剥片5点、石斧類1点、敲磨器類4点で、このうち942・1024石鏃、1196・1235敲磨器類を掲載した。

時期　縄文時代前期末葉～中期前葉に想定される。

ＳＩ３３竪穴住居跡

遺構（第42図、写真図版34）

［位置・検出状況］調査B区16C14に位置する。暗褐色土が半円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約27cmのところでⅣ層で構成される床面に達し、床面中央に焼土を確認した。床面がほぼ平坦であること、炉を検出したことから竪穴住居跡と判断して精査を進めた。［規模・平面形］円形と考えられるが、南半は削平の影響、また東はトレンチ掘削の際に破壊しており残存していない。規模は長軸が北西－南東方向（273）cm、短軸が北東－南西方向（163）cmを呈する。深さは最深で29cm、床面積は（2.6）㎡である。［堆積土］暗褐色～褐色土主体の2層で構成される。大半は1層で、下部に2層が薄く堆積している。［壁・床面］残存する壁は西壁6cm、北壁28cmであり、いずれも緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、斜面に沿って北（斜面上側）が高くなる。構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、床面は堅緻である。［ピット・柱穴］ピット4個を検出した。いずれも壁に沿うように配置さ

れている。南半は削平の影響で欠いている。[炉] 床面中央に地床炉を1基確認した。規模は85×65cmの楕円形で、深さは12cmで強変成している。遺構規模に対して炉の燃焼範囲が広い。

遺物（第104図、写真図版100）

[出土状況] すべての遺物が堆積土中から出土している。

[土器] 縄文土器133片（2,310g）を出土している。このうち346～354の9点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

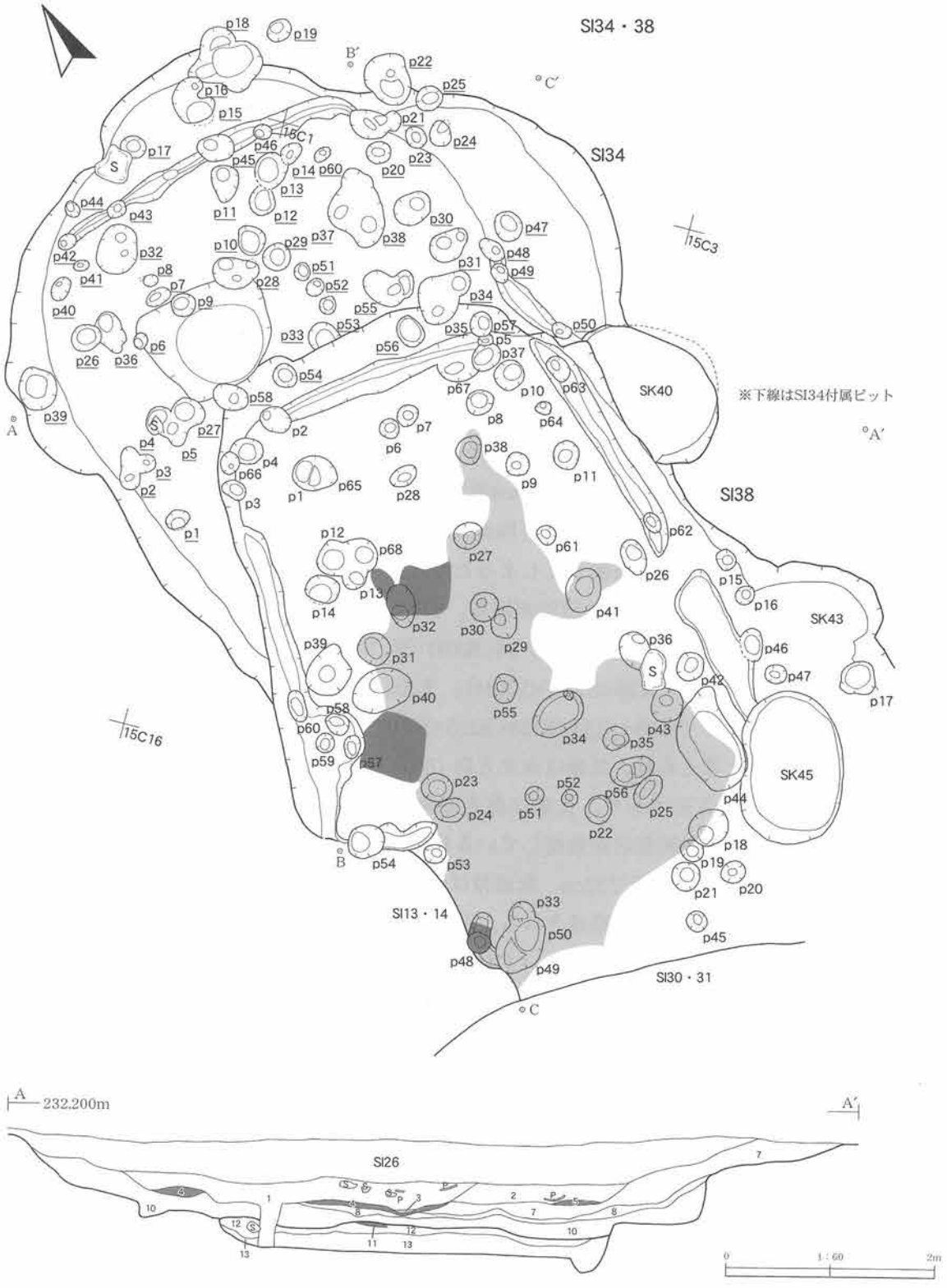
[石器] 計2点を出土しており、石匙1点、剥片1点である。

時期　縄文時代中期前葉に想定される。

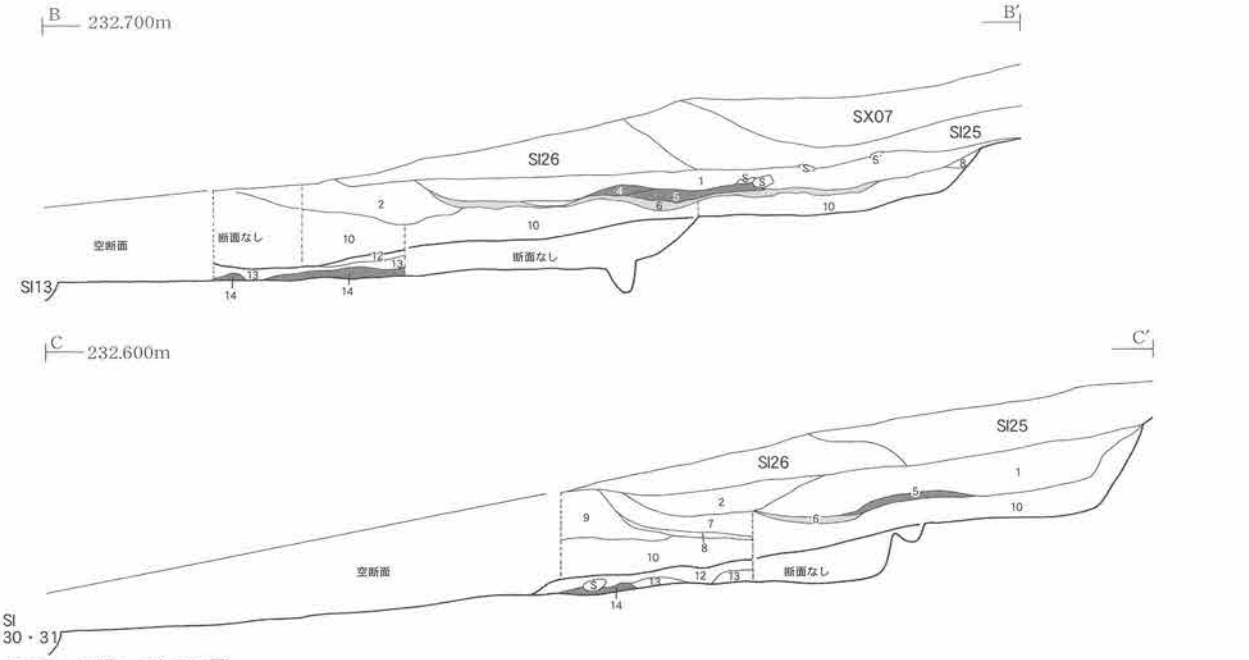
ＳＩ３４・３８竪穴住居跡

遺構（第43・44図、写真図版35・39・40）

[位置・検出状況] 調査Ｂ区15C1～12ほかに位置する。SI25・26・32竪穴住居跡精査時に、サブトレンチを南北方向に設定して下層の状況を確認したところ、北と南で異なる床面レベルを持つⅣ層を確認した。また、南には大きく拡がる焼土も確認したため、竪穴住居跡2棟（もしくはそれ以上）を想定し精査を進めた。当初、遺構プランから竪穴住居跡2棟を想定していたが、掘り下げ後の断面観察の結果、Aベルト西にかかる340cm前後の暗褐色の掘り込み（1層）とA・Cベルトにかかり、前述の掘り込みに切られ、貼床らしき明黄褐色土（8層）を堆積する暗褐色の掘り込みが確認されたことから、検出できずに破壊してしまった竪穴住居跡2棟が存在する可能性がある（炉は確認していない）。[重複関係] 新旧はSI38が旧期、SI34が新期である。SI38はSI13・30・31、SK45と重複しており本遺構が新期、SI25・26・32・34、SX04・07、SK40・43より本遺構が旧期である（SI30・31<SI13<SI38<SI34<SI26<SI25<SX07<SX04）。また、SI34はSI25・26・37、SX04・07、SK40・42より本遺構が旧期である（SI38<SI34<SI26<SI25<SX07<SX04）。[規模・平面形] SI34は南北に長軸を持つ長楕円形と考えられ、長軸は南北方向（554）cm、短軸は東西方向592cmを呈する。SI38は南北に長軸を持つ長方形であり、長軸は南北方向（678）cm、短軸は東西方向500cmを呈する。SI34については拡張前の円形住居が重複している可能性もある。深さはいずれもSI26床面からで、SI34が最深で48cm、SI38が最深で32cm、床面積はSI34が（13.4）㎡、SI38が（24.2）㎡である。[堆積土] 両遺構合わせて、計14層で構成される。SI34は暗褐色土主体の1～12層の12層であり、SI38は暗褐色土主体の13・14層の2層である。いずれもⅢ層起源土で、SI34は4・5層に炭化物含有層、その直下の6層に強変成の焼土層を形成する。また、SI38についても床面直上の14層にクリ炭化物含有層、また断面図にはないが床面直上の床面2/3に強変焼土の拡がりがある。いずれの遺構も炭化物層と焼土層を持つが、SI34は堆積土の中間層に存在するため、遺構に直接関わる堆積ではない。しかし、前述のAベルト西にかかる遺構プラン断面の下位に存在するため、これの床面に形成されたものと思われる。SI38については、床面の広範囲に拡がる焼土と炭化物から焼失住居の可能性がある。[壁・床面] SI34は南壁を検出できずに破壊してしまったため不明である。残存する壁は東壁40cm、西壁27cm、北壁33cmであり、角度をもって急に立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、断面観察から南に向かって若干傾斜する。床面は北壁から200cmはⅣ層で構成されるが、それより南については、SI38堆積土12層上の11層（黄褐粘土質土混じりの暗褐色土で構成される貼床の可能性がある層）で構成されている。床面は、北のⅣ層構成部分は堅緻、南はやや軟



第43図　SI34・38 竪穴住居跡



SI34(1～12層)・38(13.14層)
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm)3% 中～大礫(径1～10cm)2% 炭化物2%含む
2．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 土器少量
3．5YR4/6赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼失焼土(強変成)
4．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物20%含む 炭化物層
5．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物(径5～10mm)5%含む
6．5YR4/6赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼失焼土(強変成)
7．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物3%含む
8．10YR6/8明黄褐 粘土質 粘性やや弱 しまりやや疎～中
9．10YR3/4暗褐　炭化物3～5%含む
10．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎～中 炭化物3%含む
11．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 炭化物10%含む 炭化物層
12．10YR3/4暗褐＋10YR5/6 暗褐＋黄褐 粘土質の混合 粘性やや弱 しまりやや疎 SI34貼床か
13．10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
14．10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや疎 炭化物5%含む

0　1：60　2m

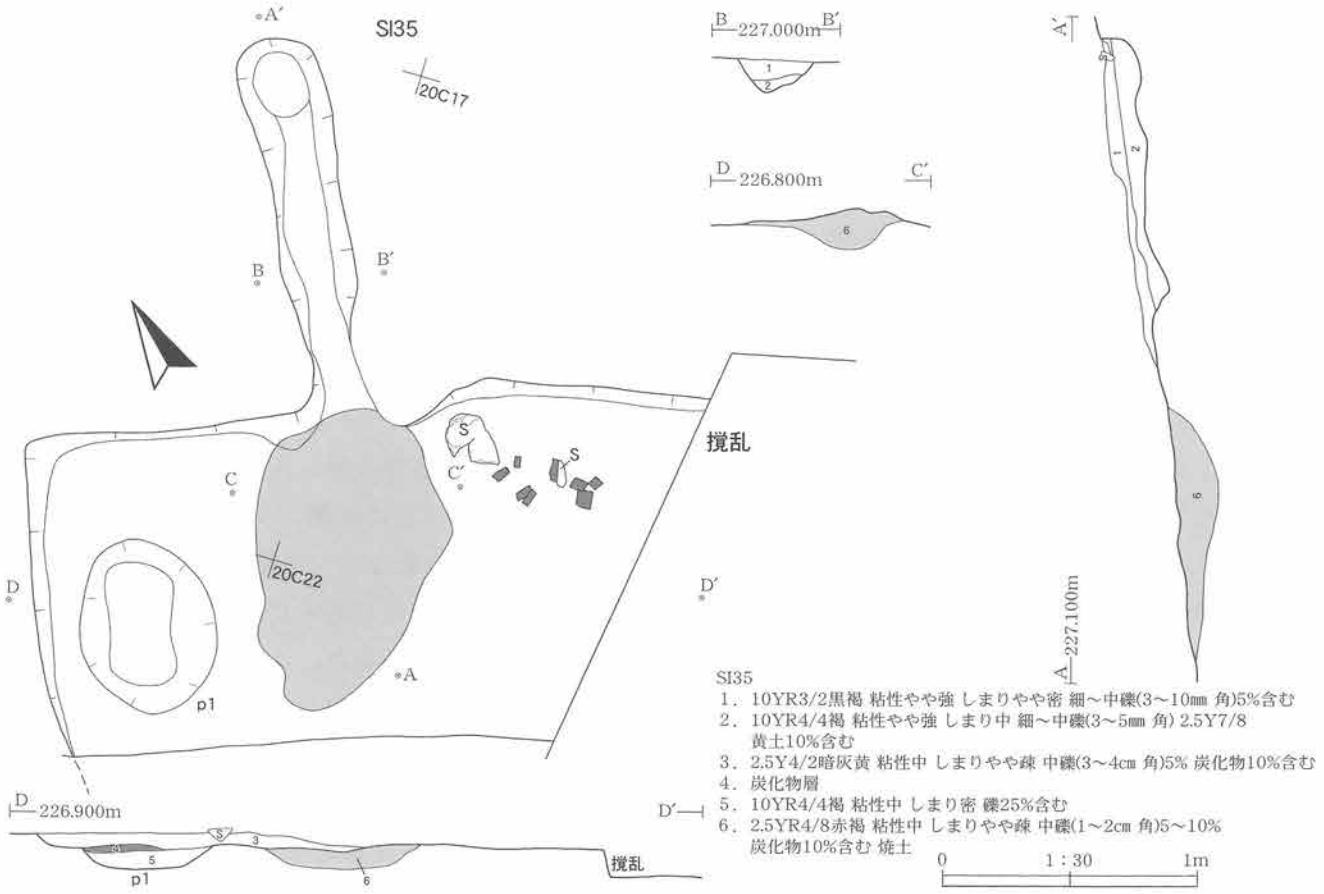
第44図　SI34・38 竪穴住居跡

質である。SI38についても南壁は検出できなかった。残存する壁は東壁43cm、西壁31cm、北壁45cmであり、角度をもって急に立ち上がる。床面は平坦であり、構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われている。よって、床面は堅緻である。［ピット・柱穴］SI34床面に60個、SI38床面に68個のピットを検出した。SI34についてはp59が貯蔵ピットと考えられる他は柱穴と見られる。しかし、この中には上部遺構SI25で検出できなかった分も含み、またSI38床面にあるピットにも本遺構に伴うものも含まれている可能性がある。SI38はいずれも柱穴と見られるが、この中には上部遺構SI25・26・32・34で検出できなかったピットも含まれている可能性がある。柱穴配置を想定した（第215図）が、いずれも南半が存在しないため不十分である。想定図ではSI34については３通り、SI38については２通りの配置案を想定したが、、この他にも各々に含まれる柱穴または配置があるかもしれない。軸線はSI34でN－3°－E、SI38でN－1°－Eとほぼ真北である。［周溝］SI34は北と東の一部に幅12～23cm・深さ8～29cmの断面U字形と、SI38は南西～南以外は残存しており、幅18～44cm・深さ6～14cmの断面U字形である。［炉］いずれの遺構においても検出できなかったが、SI38については床面の広範囲に拡がる焼失焼土部分に存在する可能性がある。

遺物（第104～107・135・164・165・170・175・180・181・193・194図、写真図版100～103・134・135・138・140・143・149・150）

［出土状況］SI34出土土器は大半が堆積土出土であり、床直上～床面出土は21.7%（4,530g）である。SI38出土土器は床直上～床面からが最も多く、25.4%（2,835g）出土している。石器は、SI34出土は1

層出土の49.6%（60点）が最も多い。SI38出土は床直上～床面から26.7%（8点）出土している。
［土器］SI34は縄文土器1,219片（20,835g）、SI38は縄文土器576片（11,170g）を出土している。このうちSI34は355～372の18点、SI38は388～400の13点を掲載した。両遺構出土とも、すべてⅣ群に含まれる。
［石器］SI34は計121点を出土している。石鏃18点、石匙5点、スクレイパー類5点、二次加工ある剥片4点、微細剥離痕ある剥片2点、剥片79点、礫器類1点、石斧類1点、敲磨器類4点、礫石錘2点で、974石鏃、1136二次加工ある剥片、1190礫器類、1201敲磨器類を掲載した。SI38は計30点出土している。石鏃7点、石匙2点、楔形石器2点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片2点、微細剥離痕ある剥片1点、剥片10点、敲磨器類4点、石皿台石類1点で、このうち950･976石鏃、1070石匙、1099楔形石器、1133二次加工ある剥片を掲載した。SI34のうち石鏃1点（月山系）･剥片17点（不明）、SI38のうち剥片1点（不明）が黒曜石製である。
時期　SI34が縄文時代中期前葉、SI38が縄文時代前期末葉に想定される。



第45図　SI35 竪穴住居跡

ＳＩ３５竪穴住居跡

遺構（第45図、写真図版36）
［位置･検出状況］調査C区20C22に位置する。検出面はⅣ層上面である。［重複関係］他遺構との重複関係はないが、東側が近年の改変により大幅に削平されている。［規模･平面形］カマド周辺が残存しているのみであり全形を知ることはできないが、残存している北西隅の状況から方形と

考えられる。現存規模は東西方向（268）cm、南北方向（143）cmである。［壁・床面］壁面はカマド北西隅付近が若干残存しているのみで、現存高は6cmである。床面はⅣ層を使用しており、貼床は敷設されておらず硬化面も確認できなかった。床面積は（11.4）㎡である。［堆積土］黒褐色土主体の計5層で構成される。全体的に炭化物・焼土粒が散在しており、4層のように部分的に層状にまとまっている箇所がある。残存状況は悪いため自然堆積か人為堆積かは判断できない。［ピット・柱穴］北西に土坑状のピットを1個検出している。［カマド］上面が大幅に削平されているため袖の造作などの構造は不明である。ただし、焼土の近辺には被熱した石材が散乱していることから袖の芯材に石が使用されていた可能性はある。焼土は煙道際から122×76cmの範囲に広がっていた。比較的良好に焼成されており、深さは最大で16cmである。煙道の規模は146×33×15cmであり、溝形を呈する。

遺物（第210図、写真図版159）

土器はカマド東側と煙道内堆積土から280g（18片）を出土している。このうち本遺構に伴うと考えられるものは内面黒色処理された土師器坏片1点（1279）のみであり、その他は縄文土器の破片である。石器は9点を出土しているが、いずれも縄文時代と考えられる。

時期　出土遺物が少ないため詳細な時期については不明であるが、おそらく平安時代の竪穴住居跡と考えられる。本調査では唯一の平安時代の遺構である。（村田）

（2）住居状遺構

計8基検出した。竪穴住居跡とほぼ同様の平面形を呈するが、炉や柱穴など竪穴住居跡を構成する要素に欠けている遺構を一括した。このなかには、炉を持たない竪穴住居跡も含んでいる可能性もある。

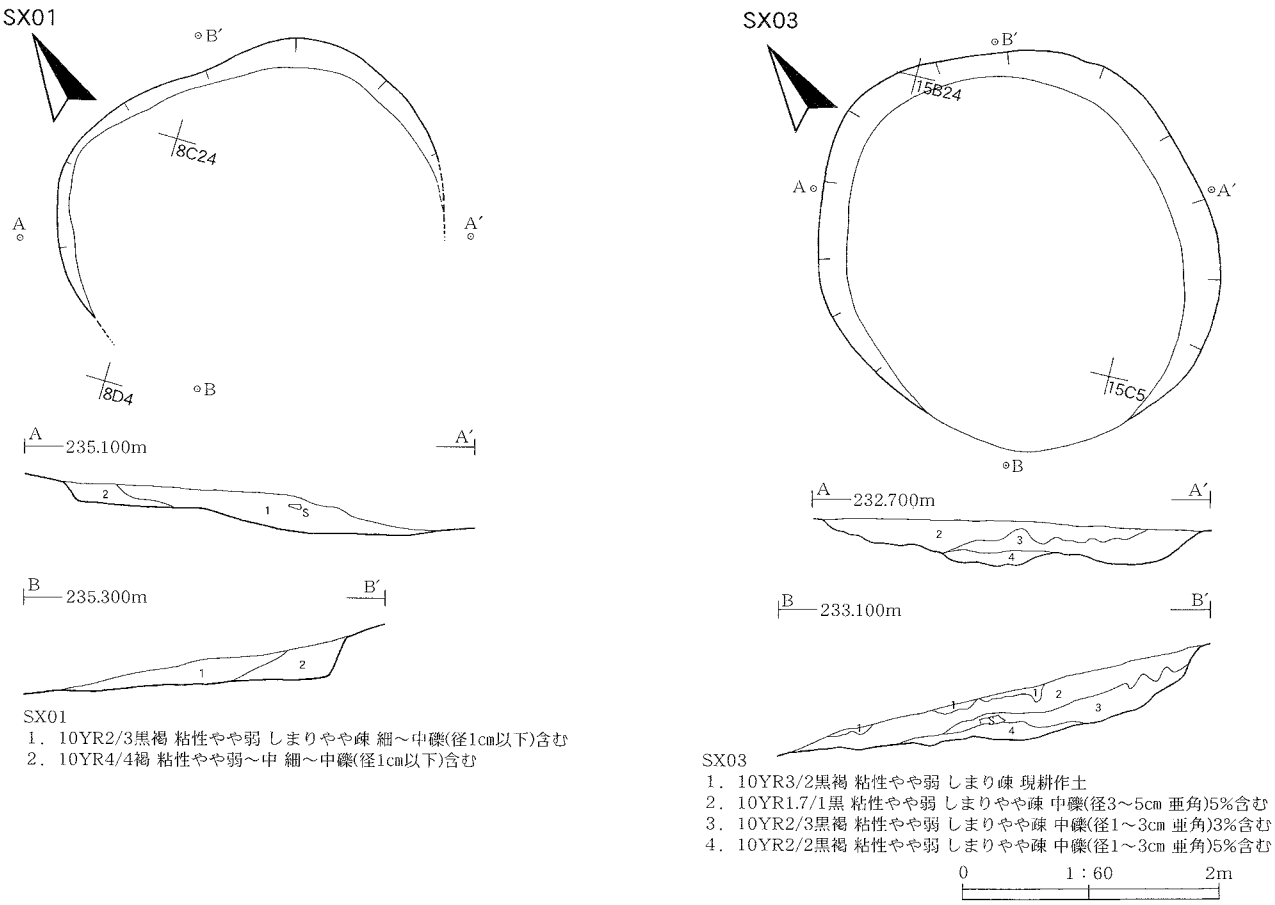
住居状遺構を説明するために、竪穴住居跡とほぼ同様の項目について記載を行う（遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形、堆積土の状態、壁・底面の状態、遺構に伴うピットと柱穴、出土遺物、遺構の帰属時期）。

ＳＸ０１住居状遺構

遺構（第46図、写真図版41）

［位置・検出状況］調査A区8C24に位置する。Ⅳ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形プランに拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ28cmのところでⅣ層で構成される底面に達した。しかし、底面が均等に平坦でないこと、床面施設を持たないことから住居状遺構と想定して精査を進めた。［規模・平面形］平面は東西に長軸を持つ楕円形と考えられ、規模は長軸が東西方向303cm、短軸が南東方向（200）cmである。深さは最深で28cm（斜面上側）、床面積は（4.2）㎡である。［堆積土］黒褐色土主体の2層で構成される。いずれもⅢ層起源土で構成され、細～中礫を含む。［壁・床面］南壁は傾斜あるいは削平の影響で存在しない。残存する壁は東壁5cm、西壁14cm、北壁28cmで、傾斜地に構築しているため、北壁（斜面上側）の掘り込みがやや深い。床面はほぼ平坦であるがやや南（斜面下側）に下っている。構築時の掘り込みはⅣ層まで行われており、床面は堅緻である。

遺物（第108図、写真図版103）



第46図　SX01・03住居状遺構

［出土状況］出土土器及び石器はいずれも1層から出土している。

［土器］縄文土器80片（1,530g）を出土している。このうち401～404の4点を掲載した。すべてⅣ群に含まれる。

［石器］計5点を出土している。スクレイパー類1点、二次加工ある剥片1点、敲磨器類2点、剥片1点である。

時期　出土遺物から縄文時代前期末葉と考えられる。　（北田）

ＳＸ０３住居状遺構

遺構（第46図、写真図版43）

［位置･検出状況］調査B区15B24に位置する。Ⅱ層上面で遺構検出を実施したところ、黒色土が円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。確認の結果、検出面から深さ40cmのところで暗褐色土（SI18･19堆積土）で構成される底面に達したが、底面が均等に平坦でないこと、床面施設を持たないことから住居状遺構と想定して精査を進めた。［重複関係］全体がSI18・19と重複し、本遺構が新期である。［規模･平面形］円形と考えられ、規模は長軸が北東－南西方向317.5cm、短軸が北西－南東方向310cmである。深さは最深で41cm（中央）、床面積は6.2㎡である。［堆積土］黒～黒褐土色主体の4層で構成される。いずれもⅡ層起源土のみで構成され、2～4層には中礫が3～5%含まれる。堆積状況から斜面上位からの自然堆積と考えられる。［壁･床面］南壁は斜面下側のため当初から残存しないと思われる。残存する壁は東壁25cm、西壁20cm、北壁40cmで、傾斜地に構築しているため、北壁（斜面上側）の掘り込みがやや深い。床面は一部平坦であ

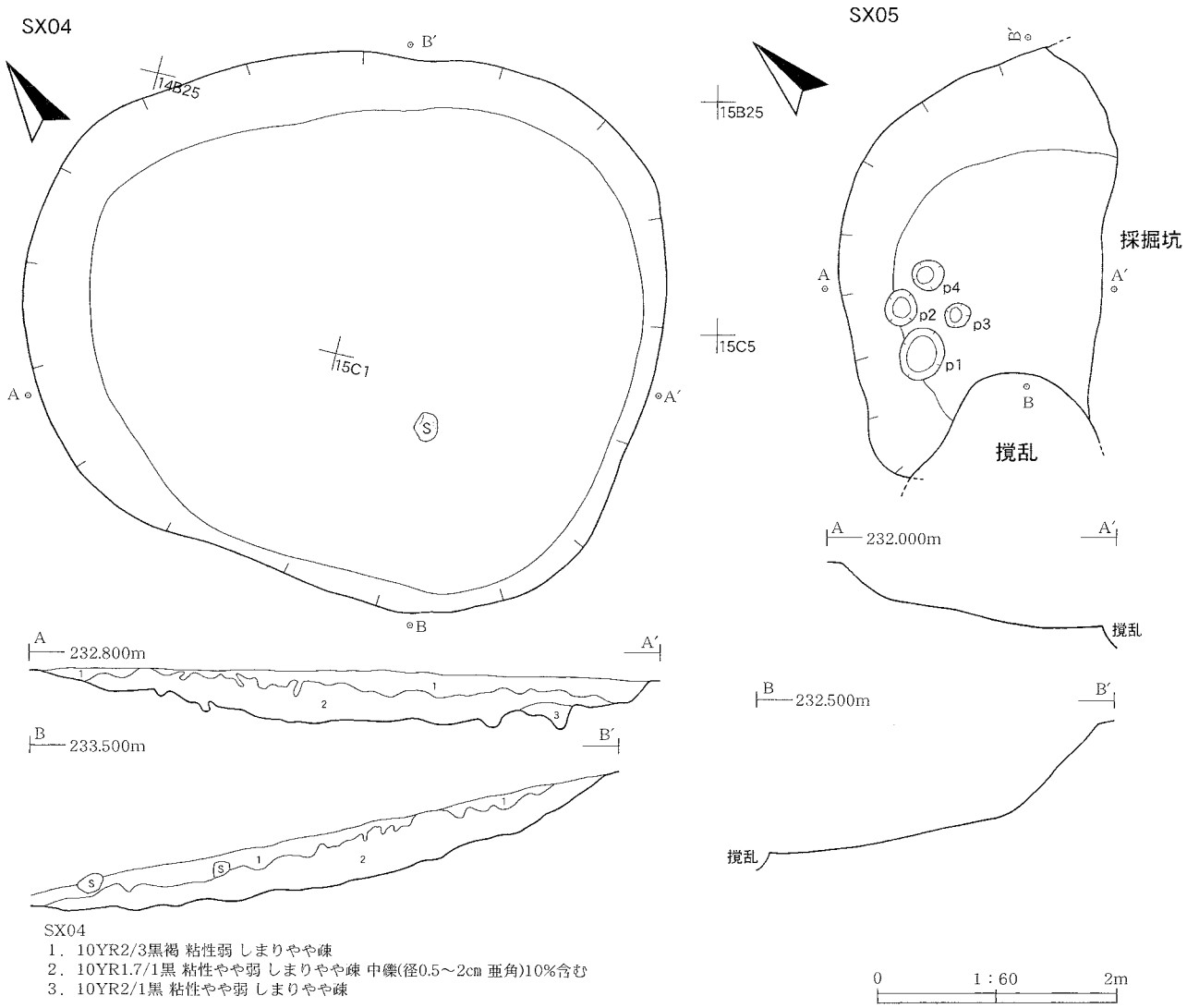
るが全体に凹凸があり中央がやや窪んでいる。構築時の掘り込みは暗褐色土（SI18･19堆積土中）まで行われており、全体の壁は重複する遺構堆積土で構成される。床面はやや軟質である。
遺物（第108･139･167･183図、写真図版103･132･144）
[出土状況] 堆積土を中心に出土しており、床面から出土した土器は18.9%（2,540g）である。
[土器] 縄文土器673片（13,415g）を出土している。このうち406～415の10点を掲載した。Ⅲ～Ⅶ群が出土しており、特に底面からⅥ群が出土している。
[石器] 計10点を出土している。石鏃1点、球石1点、剥片8点で、このうち1017石鏃を掲載した。
[土製品] 土器片円盤（889）を1点出土している。
時期　床面出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

ＳＸ０４住居状遺構

遺構（第47図、写真図版44）
[位置･検出状況] 調査Ｂ区15C1に位置する。Ⅱ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が楕円形プランに拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約35cmのところで暗褐色土（SX07堆積土）で構成される底面に達したが、底面が均等に平坦でないこと、炉などの床面施設を持たないことから住居状遺構と想定して精査を進めた。[重複関係] 全体がSX07と重複し、本遺構が新期である。[規模･平面形] 平面は楕円形と考えられ、規模は長軸が北西－南東方向536cm、短軸が北東－南西方向474cmである。深さは最深で47cm（中央）、床面積は15.4㎡である。[堆積土] 黒～黒褐色土主体の3層で構成される。いずれもⅡ層起源土で構成され、2層には中礫が10%含まれる。[壁･床面] 残存する壁は東壁21cm、西壁20cm、南壁11cm、北壁35cmで、傾斜地に構築しているため、北壁の掘り込みがやや深い。床面は一部平坦であるが、全体に凹凸があり中央が擂り鉢状にやや窪んでいる。構築時の掘り込みは黒褐色土（SX07堆積土中）まで行われており、壁は重複する遺構堆積土及びⅡ層で構成される。床面はやや軟質である。
遺物（第108･135･137･167･175･193･195図、写真図版104･140･147･150･151）
[出土状況] 大半が堆積土から出土しており、土器は床直上が3.8%（680g）、石器は74.3%（168点）が堆積土上位から出土している。
[土器] 縄文土器1,307片（17,840g）を出土している。このうち416～421の6点を掲載した。Ⅴ～Ⅷ･Ⅸ群が出土しており、Ⅶ群主体である。
[石器] 計226点を出土している。石鏃9点、楔形石器2点、スクレイパー類2点、二次加工ある剥片5点、微細剥離痕ある剥片3点、剥片194点、石斧類4点、敲磨器類4点、礫石錘1点、球石2点で、このうち1028石鏃、1100･1104楔形石器、1169･1182石斧類、1195･1209敲磨器類を掲載した。
[石製品] 石棒類が1点出土している。
時期　縄文時代後期初頭と考えられる。

ＳＸ０５住居状遺構

遺構（第47図、写真図版45）
[位置･検出状況] 調査B区16B21に位置する。Ⅲ層下位で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が半円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ



第47図　SX04・05 住居状遺構

約70cmのところでⅣ層で構成される底面に達したが、床面施設を持たないことから住居状遺構と想定して精査を進めた。[重複関係] 東が採掘坑に大きく切られており、本遺構が旧期となる。また、南が攪乱により失われている。北西ではSI19と重複しており、本遺構が新期である。[規模・平面形] 円形と考えられるが大半が重複・削平により失われているため、不明である。規模は長軸が北東－南西方向385cm、短軸が北西－南東方向（222）cmを呈する。深さは最深で111cm（斜面下側）である。床面積は（3.1）㎡である。[堆積土] 未実測のため図化は出来ないが、観察から黒褐色土の単一層と判断できる。全体に小礫を含み、荒れている。[壁・床面] 残存する壁は西壁30cm、北壁80cmで、傾斜地に構築しているため、北壁の掘り込みが深い。床面は一部平坦であるが、南に向かって緩く傾斜している。構築時の掘り込みはⅣ層中まで行われており、一部砂質土で軟質であるが全体には堅緻である。[ピット・柱穴] 計4個検出したが、いずれも西壁に偏っている。柱穴であるかは不明である。

遺物（第109図、写真図版104）

[出土状況] いずれも遺構堆積土中から出土している。

[土器] 縄文土器44片（1,135g）を出土している。このうち422～424の3点を掲載した。すべてⅣ群に含まれる。

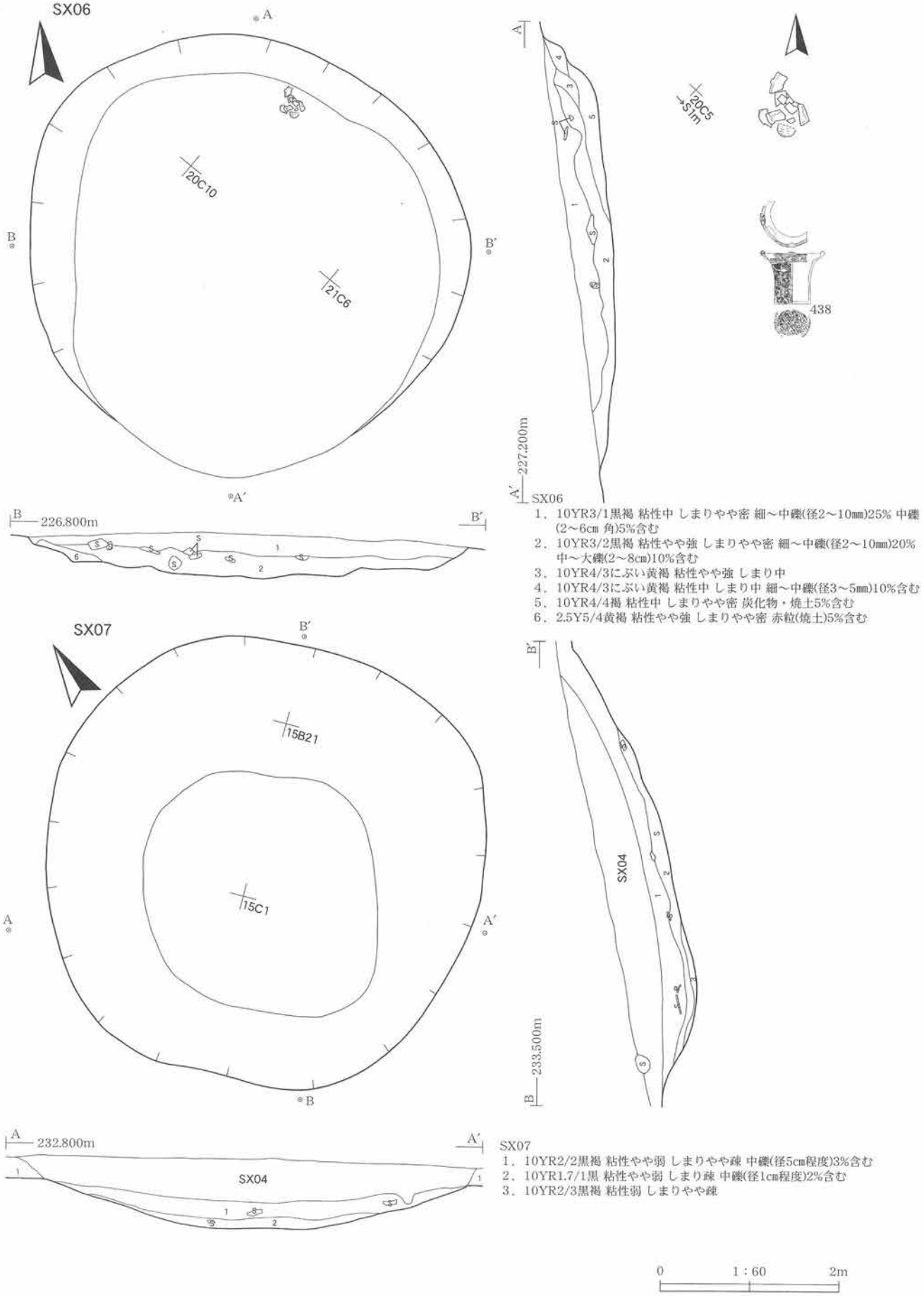
[石器] 計2点を出土している。二次加工ある剥片1点、剥片1点である。
時期　縄文時代中期前葉と考えられる。

ＳＸ０６住居状遺構

遺構（第48図、写真図版45）
[位置・検出状況] 調査C区20C10に位置する。Ⅲ層上面で黒褐色土の円形プランとして検出された。[重複関係] SI20・21・36と重複しているが、本遺構が最も新期である。[規模・平面形] 南が削平されているがほぼ円形を基調としており、規模は長軸が南北方向503cm、短軸が東西方向468cm、深さは52cmである。[壁・床面] 壁面は南壁を除いて比較的残存している。残存する壁は、東壁31cm、西壁30cm、北壁53cmで、外傾しながら緩やかに立ち上がる。全体はやや深めの皿状になるものと思われる。SI20まで掘り込んで構築されており、床面には一部にSI20床面が残存し、その他はⅣ層が使用されている。貼床や硬化面は確認できず、ピットなどの付属施設も検出されなかった。床面積は14.7㎡である。[堆積土] 黒褐色土主体の6層で構成される。1・2層はⅡ層起源の黒褐色土、3～6層はⅢ層起源の暗褐色土である。断面観察によれば、いずれの層もレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。
遺物（第109・110・164・165・169・170・174・176・177・184・190・192・194・195・199・203図、写真図版104・105・134・135・137・140・141・145・148・150・151・155）
[出土状況] 土器の多くは1・2・6層からの出土で、とくに1・2層の境界付近と2層最下位でまとまっている。石器は45.6%（78点）が検出面～1層から出土している。
[土器] 縄文土器1,797片（22,380g）を出土している。このうち425～442の18点を掲載した。Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ群が出土しており、大半がⅣ群である。1層中位のⅦ群426、1層下位のⅥ群428は後の流れ込みと思われる。
[石器] 計171点を出土している。石鏃20点、石錐1点、石匙7点、篦状石器2点、スクレイパー類5点、二次加工ある剥片7点、微細剥離痕ある剥片1点、石核1点、剥片101点、石斧類1点、礫器類3点、敲磨器類12点、礫石錘9点で、このうち957・978石鏃、1054石錐、1065石匙、1091・1094篦状石器、1153石核、1181石斧類、1193礫器類、1200・1206・1232・1236敲磨器類、1254礫石錘を掲載した。
時期　床面付近出土441などがⅣ群に分類されることから、縄文時代中期前葉と考えられる。また、441に付着していた炭化物を採取してAMS測定を行ったところB.P.4800±40という年代が与えられた（附編参照）。　（村田）

ＳＸ０７住居状遺構

遺構（第48図、写真図版46）
[位置・検出状況] 調査B区15C1に位置する。SX04精査終了後、掘り下げ及び遺構検出を実施したところ、SX04よりもやや大きい黒褐色土が円形に拡がりを見せたため遺構を想定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ40cmのところで黒褐色土（SI25・26堆積土）で構成される床面に達した。底面が均等に平坦でないこと、床面施設を持たないことから住居状遺構と想定して精査を進めた。[重複関係] 全体がSI25・26と重複し、本遺構が新期である。また、上層にSX04があり本遺構が旧期である。[規模・平面形] 平面は円形と考えられ、規模は長軸が東西方向490



SX06
1．10YR3/1黒褐 粘性中 しまりやや密 細～中礫(径2～10㎜)25% 中礫(2～6cm 角)5%含む
2．10YR3/2黒褐 粘性やや強 しまりやや密 細～中礫(径2～10㎜)20% 中～大礫(2～8cm)10%含む
3．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中
4．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径3～5㎜)10%含む
5．10YR4/4褐 粘性中 しまりやや密 炭化物・焼土5%含む
6．2.5Y5/4黄褐 粘性やや強 しまりやや密 赤粒(焼土)5%含む

SX07
1．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径5cm程度)3%含む
2．10YR1.7/1黒 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm程度)2%含む
3．10YR2/3黒褐 粘性弱 しまりやや疎

第48図　SX06・07 住居状遺構

cm、短軸が南北方向486cmである。深さは最深で80cm（中央）、床面積は推定値で6.0㎡である。［堆積土］黒褐～黒色土主体の3層で構成される。いずれもⅡ層起源土で構成され、床面黒褐色土（SI25･26堆積土）とは黒色土との差異から分層される。［壁･床面］残存する壁は東壁20cm、西壁20cm、南壁35cm、北壁75cmで、傾斜地に構築しているため北壁の掘り込みがやや深い。床面は中央が最も深くなる擂り鉢形を呈しており、平坦部は床中央付近のみである。構築時の掘り込みは黒褐色土（SI25･26堆積土中）まで行われており、壁は重複する遺構堆積土で構成される。床面はやや軟質である。

遺物（第110･111･136～139･171･178図、写真図版105･106･132･139･142）

［出土状況］出土土器のうち、堆積土上位（主に1層）から62.4%（14,380g）出土しており、下位から底面にかけては徐々に少なくなる。石器は1層中位～下位を中心に出土している。

［土器］縄文土器1,203片（23,030g）を出土している。このうち443～458の16点を掲載した。Ⅳ～Ⅶ･Ⅸ群が出土しており、大半がⅦ群に含まれる。

［石器］計75点を出土している。石鏃2点、石匙2点、篦状石器1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片1点、石核1点、剥片60点、石斧類2点、礫器類1点、敲磨器類3点、石皿台石類1点で、このうち1078石匙、1124スクレイパー類を掲載した。

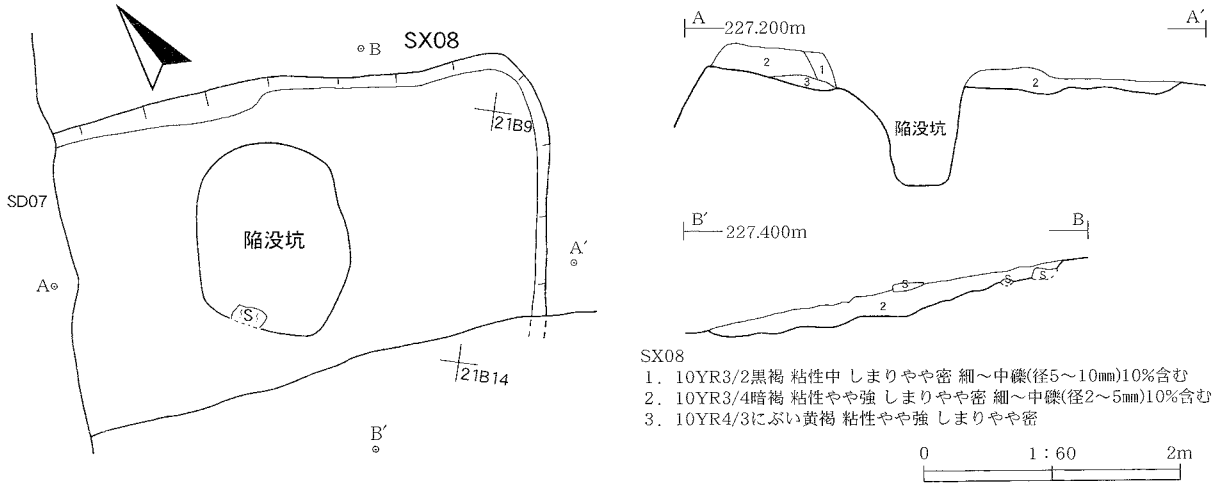
［土製品］土器片円盤（890）を1点出土している。

時期　縄文時代後期初頭と考えられる。　（北田）

ＳＸ０８住居状遺構

遺構（第49図、写真図版47）

［位置･検出状況］調査C区21B8に位置し、Ⅱ層中位で黒褐色土の方形プランとして検出された。［重複関係］西をSD07に切られており、本遺構が旧期である。また、中央に陥没坑がある。［規模･平面形］西～南側が重複･削平により不明であるが、ほぼ方形と考えられる。現存規模は、長軸が北西－南東方向（387）cm、短軸が北東－南西方向（240）cmである。深さは最深で30cm（中央）である。［壁･床面］西壁は重複、南壁は削平により残存していない。残存する壁は北壁9cm、東壁9cmである。床面は斜面下方に向かって緩やかに傾斜している。なお、床面中央には158×120cmの陥没坑があるが、陥没坑内およびその周囲にはSX08堆積土と自然礫（石灰岩）が流入してい



第49図　SX08住居状遺構

ることから、SX08埋没後に形成されたものと判断できる。床面積は（7.8）㎡である。［堆積土］黒褐色土主体の3層で構成される。陥没坑内に流入した堆積土も1･2層と同じ黒褐色土である。
遺物（第134図、写真図版127）
［出土状況］出土土器は堆積土から27.5%（815g）、陥没坑から72.5%（2,150g）出土している。
［土器］陥没坑内に堆積している土器（遺構外としている）であるが、時期推定のためここで扱う。縄文土器215片（2,965g）を出土している。このうち804～808の5点を遺構外として掲載した。Ⅳ･Ⅷ群が出土している。
［石器］石匙1点が出土している。
時期　陥没坑出土土器のなかにⅣ群に分類されるものがあることから、少なくとも縄文時代前期末葉以降と考えられる。（村田）

（3）土　　坑

計47基検出した。土坑を説明するために、遺構の位置･検出状況、他遺構との重複関係、遺構の形状及び規模、堆積土の状態、出土遺物、遺構の帰属時期について記載を行う。

ＳＫ０１土坑

遺構（第50図、写真図版48）
［位置･検出状況］調査A区8D19に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］規模は長軸が東西方向122cm、短軸が南北方向100cmの円形である。断面は皿形、深さ16cmである。［堆積土］暗褐色土の単一層で構成される。
遺物（第112図、写真図版106）
［土器］縄文土器16片（155g）を出土している。このうち459の1点を掲載した。土器内には黒色粘着物質（アスファルトか）が内包されていた。Ⅸ群に含まれる。
時期　縄文時代に想定される。（北田）

ＳＫ０２土坑

遺構（第50図、写真図版48）
［位置･検出状況］調査A区8C17に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］規模は長軸が南北方向100cm、短軸が東西方向95cmの円形である。断面は鍋底形、深さ32cmである。［堆積土］褐色粘土質土の単一層で構成される。
遺物（掲載なし）
［土器］縄文土器5片（60g）を出土している。
時期　縄文時代に想定される。

ＳＫ０３土坑

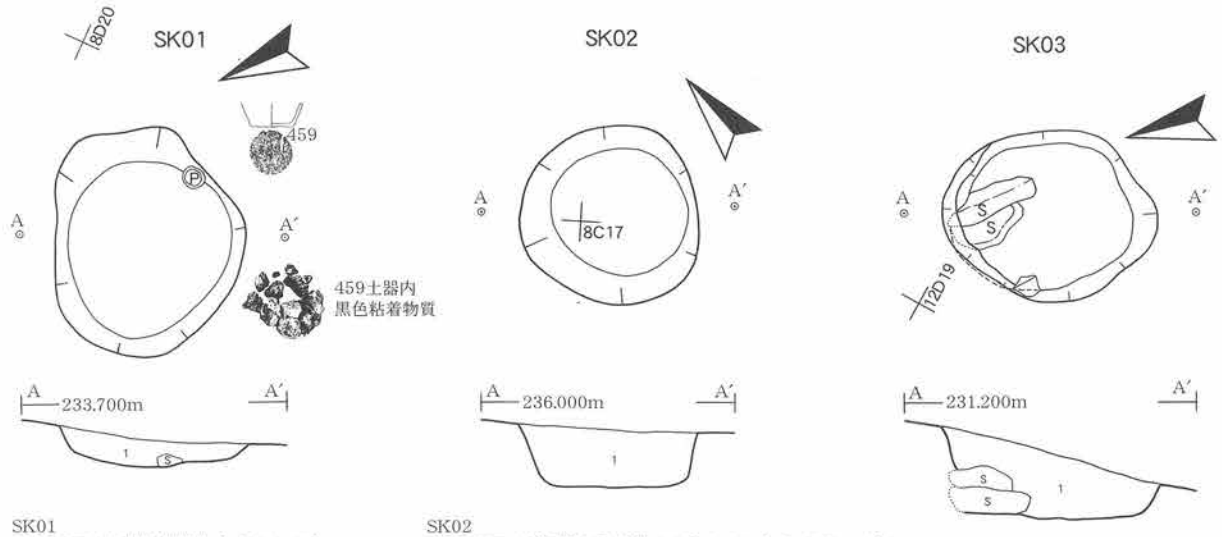
遺構（第50図、写真図版48）
［位置･検出状況］調査B区12D19に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］規模は長軸が南北方向114cm、短軸が東西方向90cmの円形である。断面

は鍋底形、深さ43cmである。[堆積土] 暗褐色土の単一層で構成され、赤褐色の焼土粒（径2cm）や炭化物が微量混入する。
遺物（第112図、写真図版106）
[土器] 縄文土器３片（55g）を出土している。このうち460の１点を掲載した。地文のみでⅨ群に含まれる。
[石器] 計28点を出土している。石鏃１点、二次加工ある剥片２点、剥片24点、敲磨器類１点である。剥片24点のうち、15点が赤色頁岩製である。
時期　縄文時代に想定される。

ＳＫ０４土坑
遺構（第50図、写真図版48）
[位置･検出状況] 調査B区12C20に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の楕円形プランとして検出した。[形状･規模] 規模は長軸が南北方向231cm、短軸が東西方向166cmの楕円形である。断面は逆台形、深さ161cmである。[堆積土] 黒褐色土主体の４層で構成され、２層は炭化物を40%と多量に含む層、３層は上部が暗褐色の焼土層となり、廃棄焼土の流入が見られる。
遺物（第112図、写真図版106）
[土器] 縄文土器97片（995g）を出土している。このうち461･462の2点を掲載した。Ⅴ･Ⅸ群に含まれる。
[石器] 計10点を出土している。石鏃１点、二次加工ある剥片２点、剥片６点、敲磨器類１点である。
時期　縄文時代中期中葉に想定される。

ＳＫ０５土坑
遺構（第50図、写真図版49）
[位置･検出状況] 調査A区8D12に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。[形状･規模] 規模は長軸が北西－南東方向100cm、短軸が北東－南西方向90cmの円形である。断面は袋形、深さ63cmである。最大径は長軸が東西方向115cm、短軸が南北方向112cmの円形である。[堆積土] 暗褐色土主体の8層で構成され、自然堆積と考えられる。
遺物（掲載なし）
[土器] 縄文土器1片（30g）を出土している。
時期　縄文時代に想定される。

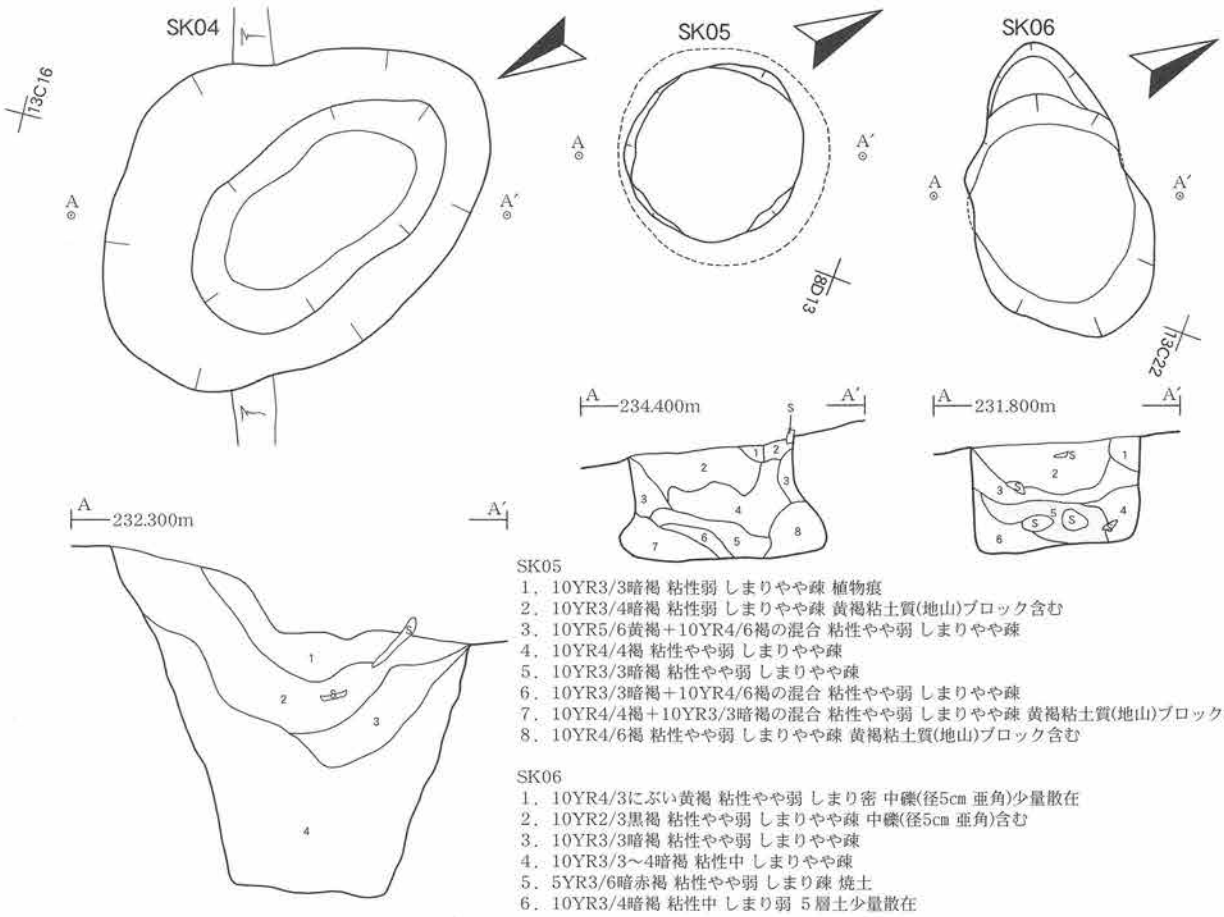
ＳＫ０６土坑
遺構（第50図、写真図版49）
[位置･検出状況] 調査B区13C21に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の不整円形プランとして検出した。[形状･規模] 規模は長軸が東西方向160cm、短軸が南北方向93cmの不整円形である。断面はビーカー形、深さ57cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の６層で構成される。1～3層は自然堆積と思われるが、4～6層については５層の弱変焼土と遺物が一括して検出されることから人為的な廃棄が行われた可能性がある。



SK01
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや疎

SK02
1．10YR4/4褐 粘土質 粘性やや強 しまり密 中礫(径1cm)含む

SK03
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1cm 亜角) 炭化物1％ 焼土小ブロック(径2cm)含む



SK05
1．10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎 植物痕
2．10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 黄褐粘土質(地山)ブロック含む
3．10YR5/6黄褐＋10YR4/6褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎
4．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎
5．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
6．10YR3/3暗褐＋10YR4/6褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎
7．10YR4/4褐＋10YR3/3暗褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎 黄褐粘土質(地山)ブロック含む
8．10YR4/6褐 粘性やや弱 しまりやや疎 黄褐粘土質(地山)ブロック含む

SK06
1．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや弱 しまり密 中礫(径5cm 亜角)少量散在
2．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径5cm 亜角)含む
3．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
4．10YR3/3～4暗褐 粘性中 しまりやや疎
5．5YR3/6暗赤褐 粘性やや弱 しまり疎 焼土
6．10YR3/4暗褐 粘性中 しまり弱 5層土少量散在

SK04
1．10YR2/3黒褐 粘性弱 しまりやや疎
2．10YR2/2黒褐 粘性弱 しまりやや疎 中～大礫(径1～10cm 角) 炭化物40%含む
3．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)含む 上部は5YR3/4暗赤褐に弱変成している 焼土
4．註記なし

0　1：40　1.5m

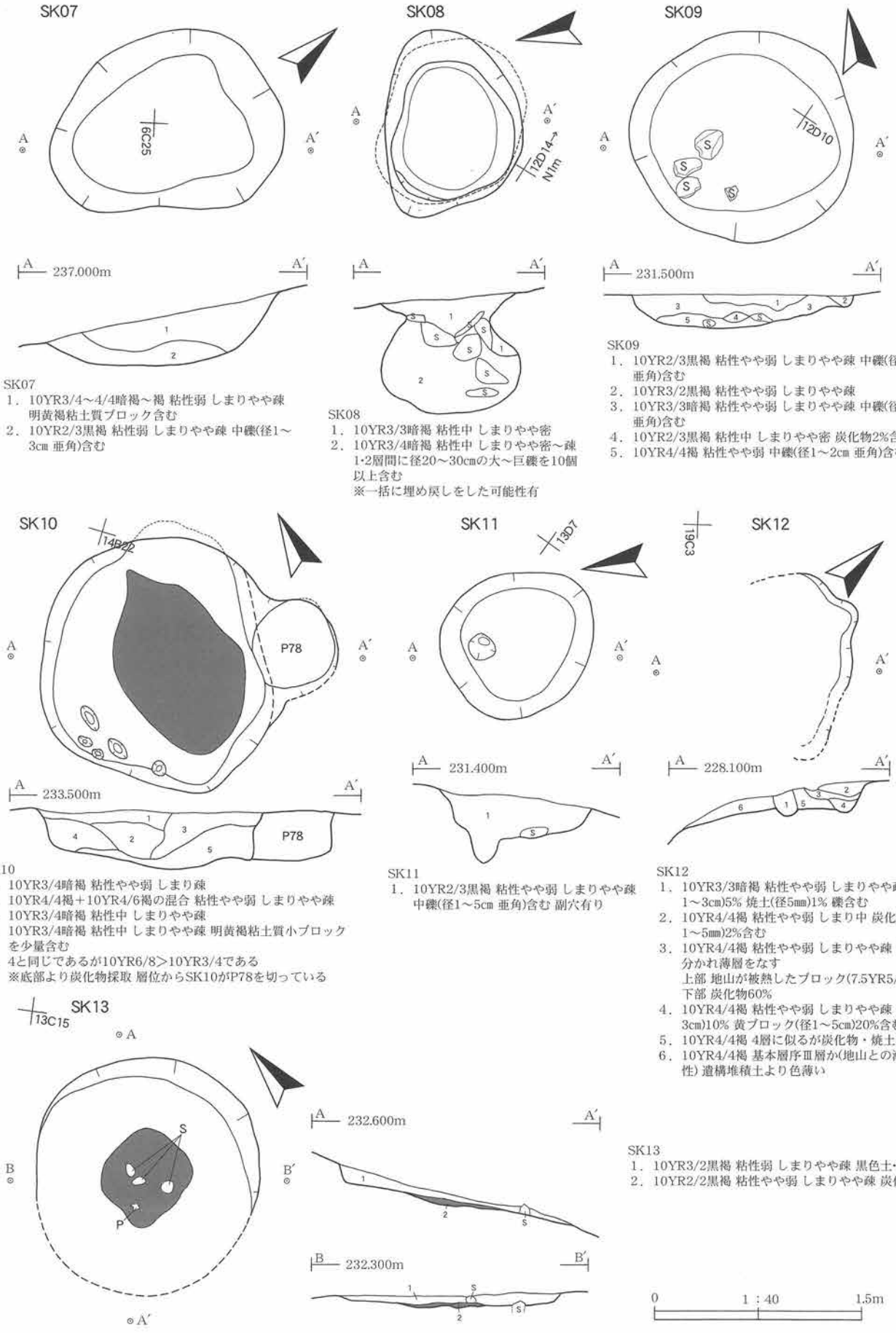
第50図　SK01～06 土坑

遺物（第112・194・198・204図、写真図版107・150・155）
[土器] 縄文土器235片（3,775g）を出土している。このうち463～470の8点を掲載した。Ⅴ・Ⅸ群が出土しており、大半がⅤ群に含まれる。
[石器] 計11点を出土している。剥片6点、礫器類1点、敲磨器類3点、石皿台石類1点で、1199・1228敲磨器類、1260石皿台石類を掲載した。
時期　縄文時代中期中葉に想定される。

ＳＫ０７土坑
遺構（第51図、写真図版49）
[位置・検出状況] 調査A区6C25に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色～褐色の不整円形プランとして検出した。[形状・規模] 規模は長軸が北東－南西方向171cm、短軸が北西－南東方向134cmの不整円形である。断面は皿形、深さ36cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の2層で構成される。1層に明黄褐色粘土質ブロックを含むことから、人為堆積の可能性が考えられる。
遺物　なし。
時期　不明。

ＳＫ０８土坑
遺構（第51図、写真図版49）
[位置・検出状況] 調査B区12D9に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色の略円形プランとして検出した。[形状・規模] 平面形は137.5×102cmの不整円形である。断面形は袋形で深さ82cmを測る。[堆積土] 暗褐色土主体の2層で構成され、人為堆積の可能性も示唆される。
遺物（第112図、写真図版107）
[土器] 縄文土器141片（1,860g）を出土している。このうち471・472の2点を掲載した。いずれもⅦ群に含まれる。
[石器] 計3点を出土している。敲磨器類1点、石皿台石類2点である。
時期　縄文時代後期初頭に想定される。

ＳＫ０９土坑
遺構（第51図、写真図版50）
[位置・検出状況] 調査B区12D10に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランとして検出した。[形状・規模] 規模は長軸が東西方向161cm、短軸が南北方向154cmの円形である。断面は皿形、深さは25cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の5層で構成される。底面付近は、20cm大の礫が見られる。
遺物（第112図、写真図版107）
[土器] 縄文土器33片（405g）を出土している。このうち473の1点を掲載した。Ⅴ群に含まれる。
[石器] 計4点を出土している。剥片3点、敲磨器類1点である。
時期　縄文時代中期中葉に想定される。



SK07
1．10YR3/4～4/4暗褐～褐 粘性弱 しまりやや疎 明黄褐粘土質ブロック含む
2．10YR2/3黒褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～3cm 亜角)含む

SK08
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや密
2．10YR3/4暗褐 粘性中 しまりやや密～疎 1･2層間に径20～30cmの大～巨礫を10個以上含む
※一括に埋め戻しをした可能性有

SK09
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)含む
2．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)含む
4．10YR2/3黒褐 粘性中 しまりやや密 炭化物2%含む
5．10YR4/4褐 粘性やや弱 中礫(径1～2cm 亜角)含む

SK10
1．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまり疎
2．10YR4/4褐＋10YR4/6褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎
3．10YR3/4暗褐 粘性中 しまりやや疎
4．10YR3/4暗褐 粘性中 しまりやや疎 明黄褐粘土質小ブロックを少量含む
5．4と同じであるが10YR6/8＞10YR3/4である
※底部より炭化物採取 層位からSK10がP78を切っている

SK11
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)含む 副穴有り

SK12
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物(径1～3cm)5% 焼土(径5mm)1% 礫含む
2．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまり中 炭化物・焼土 (径1～5mm)2%含む
3．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 上部と下部に分かれ薄層をなす
上部 地山が被熱したブロック(7.5YR5/6)70%
下部 炭化物60%
4．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物(径1～3cm)10% 黄ブロック(径1～5cm)20%含む
5．10YR4/4褐 4層に似るが炭化物・焼土5%含む
6．10YR4/4褐 基本層序Ⅲ層か(地山との漸移層の可能性) 遺構堆積土より色薄い

SK13
1．10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや疎 黒色土･炭化物含む
2．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物5%含む

第51図　SK07～13 土坑

ＳＫ１０土坑

遺構（第51図、写真図版50）

[位置･検出状況] 調査B区14B22に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。[重複関係] 南東でP78と重複関係にあり、本遺構が新期にあたる。また、遺構全体でSK14土坑と重複しており、本遺構が新期にあたる。[形状･規模] 規模は長軸が南北方向187cm、短軸が東西方向153cmの円形である。断面は皿形、深さは41cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の5層で構成される。底面の145×84cmの範囲に炭化物を多量に含有する暗褐色土の拡がりがある。全体に自然堆積と考えられる。

遺物（第112･164図、写真図版107･134）

[土器] 縄文土器32片（345g）を出土している。このうち474･475の2点を掲載した。いずれもⅤ群に含まれる。

[石器] 計3点を出土している。石鏃1点、剥片2点で、このうち951石鏃を掲載した。

時期　縄文時代中期中葉に想定される。

ＳＫ１１土坑

遺構（第51図、写真図版50）

[位置･検出状況] 調査B区13D6に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の不整円形プランとして検出した。[形状･規模] 規模は長軸が北西－南東方向115cm、短軸が北東－南西方向102cmの不整円形である。断面は皿形、深さは50cmである。底面北寄りに20×20cm、深さ17cmの円形の副穴を１個伴う。[堆積土] 黒褐色土の単一層で構成され、自然堆積と考えられる。

遺物（第112図、写真図版107）

[土器] 縄文土器27片（275g）を出土している。このうち476･477の2点を掲載した。Ⅴ･Ⅵ群に含まれる。

[石器] 計2点を出土している。剥片1点、敲磨器類1点である。

時期　縄文時代中期中～末葉に想定される。

ＳＫ１２土坑

遺構（第51図、写真図版50）

[位置･検出状況] 調査C区19B23に位置する。SI29精査終了後に床面に拡がる褐色土の不整円形プランとして検出した。[重複関係] 遺構全体でSI29と重複しており、本遺構が旧期である。[形状･規模] 規模は長軸が北西－南東方向〔120〕cm、短軸が北東－南西方向〔113〕cmの不整円形である。断面は皿形と思われ、深さは22cmである。[堆積土] 褐色土主体の6層で構成される。1層については上部からの攪乱と思われ、2･3層には焼土･炭化物が多量に含まれる。全体はⅢ層起源と考えられる。

遺物（掲載なし）

[土器] 縄文土器10片（115g）を出土している。

時期　縄文時代と考えられる。

ＳＫ１３土坑

遺構（第51図、写真図版51）

［位置･検出状況］調査B区13C15に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］規模は長軸が北東－南西方向〔173〕cm、短軸が北西－南東方向〔161〕cmの円形である。断面は皿形、深さは12cmである。［堆積土］黒褐色土の単一層で構成され、自然堆積と考えられる。

遺物（第112図、写真図版107）

［土器］縄文土器41片（560g）を出土している。このうち478･479の2点を掲載した。いずれもⅦ群に含まれる。

［石器］計3点を出土しており、いずれも剥片である。

時期　縄文時代後期初頭に想定される。

ＳＫ１４土坑

遺構（第52図、写真図版51）

［位置･検出状況］調査B区14B22に位置する。SK10を精査終了後、同遺構底面に楕円形で拡がる炭化物混じりの暗褐色土を検出した。［重複関係］全体でSK10と重複しており、本遺構が旧期にあたる。［形状･規模］規模は長軸が南北方向140cm、短軸が東西方向104cmである。断面はビーカー形、残存する深さは42cmである。SK10構築以前は80cm程度の深さがあったと見られる。［堆積土］暗褐色～褐色土主体の4層で構成され、自然堆積と考えられる。

遺物（第112図、写真図版107）

［土器］縄文土器29片（275g）を出土している。このうち480の1点を掲載した。Ⅳ群に含まれる。

時期　縄文時代中期前葉に想定される。

ＳＫ１５土坑

遺構（第52図、写真図版51）

［位置･検出状況］調査B区14C8に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の略円形プランとして検出した。［重複関係］SI08と重複関係にあり、本遺構が旧期にあたる。［形状･規模］長軸が北東－南西方向149cm、短軸が北西－南東方向125cmの不整円形である。断面は皿形、深さは25cmである。［堆積土］黒褐色土の単一層で構成され、自然堆積と考えられる。

遺物（第112図、写真図版107）

［土器］縄文土器5片（110g）を出土している。このうち481の1点を掲載した。Ⅳ群に含まれる。

時期　縄文時代前期末葉に想定される。

ＳＫ１６土坑

遺構（第52図、写真図版51）

［位置･検出状況］調査B区14C2に位置する。Ⅳ層上面において、SI09竪穴住居跡と重複関係にある黒褐色土の円形プランとして検出した。［重複関係］遺構3/4でSI09竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が新期である。［形状･規模］長軸が東西方向140cm、短軸が南北方向126cmの円形で、

底径が146×135cmと開口径より若干広い。断面はフラスコ形、深さは80cmである。[堆積土] 暗褐色～褐色土主体の11層で構成される。底面やや北寄りに炭化物を多量に含む黒褐色土が32×24cmの範囲に集中して検出されている。堆積状況は自然堆積と考えられる。

遺物（第112図、写真図版107）

[土器] 縄文土器19片（360g）を出土している。このうち482～484の3点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

[石器] 計3点を出土している。スクレイパー類1点、剥片2点で、いずれも凝灰岩製、底直上で検出している。

時期　出土遺物から縄文時代中期前葉に想定される。

ＳＫ１７土坑

遺構（第52図、写真図版52）

[位置･検出状況] 調査B区13C22に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の略円形プランとして検出した。[重複関係] 他ピットと重複関係にあるが、本遺構が旧期にあたる。[形状･規模] 長軸が東西方向113cm、短軸が南北方向94cmの円形である。断面は鍋底形、深さ39cmである。[堆積土] 灰黄褐色土主体の2層で構成され、自然堆積と考えられる。底面付近には10～20cm大の亜角礫が数個見られる。底面は礫が露出しており、荒れている。

遺物（第112図、写真図版108）

[土器] 縄文土器68片（790g）を出土している。このうち485の1点を掲載した。Ⅴ群に含まれる。

時期　縄文時代中期中葉に想定される。

ＳＫ１８土坑

遺構（第52図、写真図版52）

[位置･検出状況] 調査B区12D14に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の楕円形プランとして検出した。[重複関係] 南のP129ピットと重複関係にあり、本遺構が新期にあたる。[形状･規模] 長軸が北東－南西方向133cm、北西－南東方向80cmの楕円形である。断面は鍋底形、深さは59cmである。[堆積土] 褐色土の単一層で構成され、中位に30～50cm前後の巨礫が混入する。

遺物（第204図、写真図版155）

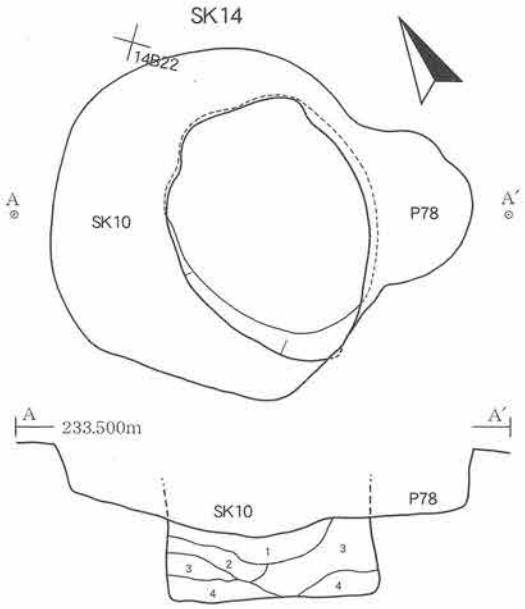
[石器] 計２点を出土している。剥片１点、石皿台石類１点で、このうち1261石皿台石類を掲載した。

時期　縄文時代と考えられる。

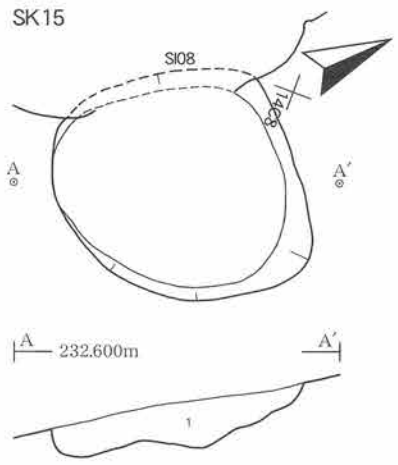
ＳＫ１９土坑

遺構（第52図、写真図版52）

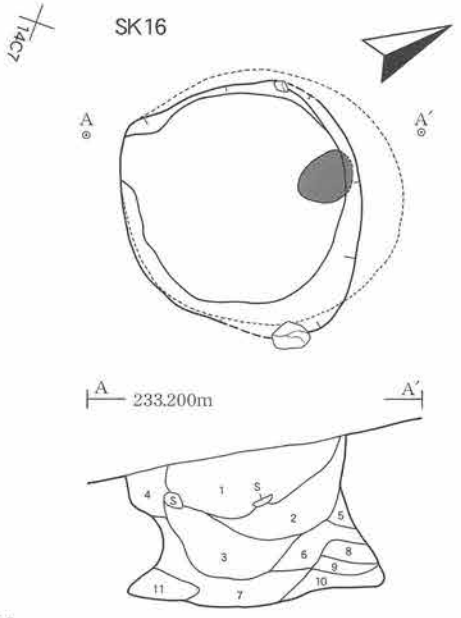
[位置･検出状況] 調査B区13C13に位置する。メインベルト脇に直線上のトレンチを掘削した際、断面を確認中に暗褐色の鍋底形プランを検出した。[形状･規模] 長軸が東西方向〔130〕cm、短軸が南北方向〔61〕cmの楕円形である。断面は鍋底形、深さ55cmである。[堆積土] 暗褐色～褐色土主体の3層で構成され、自然堆積と考えられる。



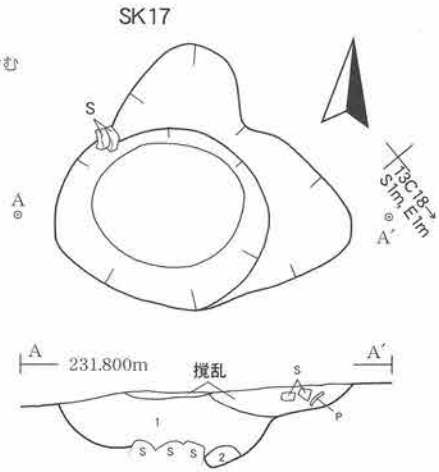
SK14
1．10YR3/4暗褐＋10YR7/8黄橙の混合 粘性中 しまりやや疎 炭化物1%含む
2．10YR4/4～6褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3．10YR6/8明黄褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
4．10YR5/6黄褐＋10YR4/6褐の混合 粘性中 しまりやや疎
※SK14を切ってSK10が作られている(本遺構はSK10より旧期)



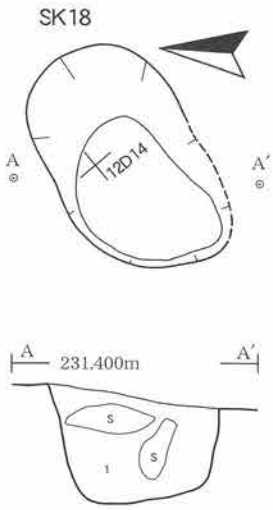
SK15
1．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎



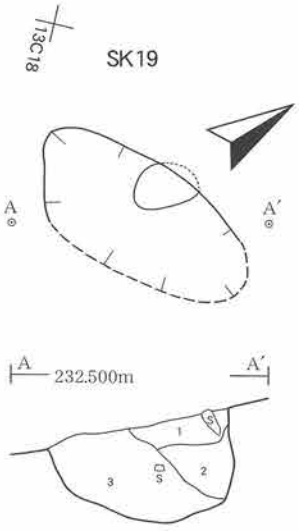
SK16
1．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎
4．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
5．10YR4/6褐＋10YR5/6黄褐の混合 粘性やや弱 しまり疎
6．10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
7．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎　炭化物1%含む
8．10YR6/8明黄褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
9．10YR3/4 暗褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性やや弱～中 しまり疎
10．10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまり疎
11．10YR3/4暗褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性やや弱～中 しまり疎～やや疎 炭化物1%含む



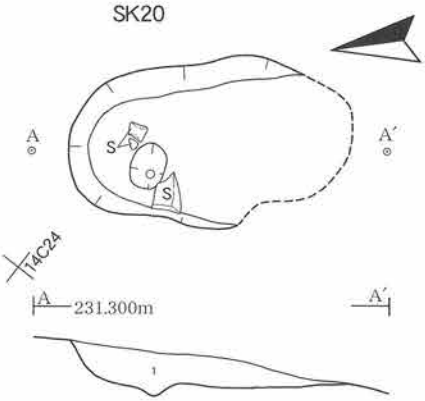
SK17
1．10YR4/2灰黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．10YR2/3黒褐 粘性中 しまりやや疎



SK18
1．10YR4/4褐 粘性中 しまりやや疎



SK19
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
中礫(径1～3cm 亜角)含む
2．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3．10YR3/2黒褐 粘性中 しまりやや疎



SK20
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物2%含む
※堆積土焼成しているか

0　1：40　1.5m

第52図　SK14～20 土坑

遺物（第112図、写真図版108）
［土器］縄文土器30片（870g）を出土している。このうち486･487の2点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。
時期　縄文時代前期末葉に想定される。

ＳＫ２０土坑
遺構（第52図、写真図版52）
［位置･検出状況］調査B区14C24に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の楕円形プランとして検出した。［重複関係］南のSD04堀跡と重複関係にあり、本遺構が旧期にあたる。［形状･規模］長軸が南北方向〔150〕cm、短軸が東西方向90cmの楕円形である。断面は皿形、深さは23cmである。底面北寄りに25×18cm、深さ4cmの副穴を1基伴う。［堆積土］暗褐色土の単一層で構成され、自然堆積と考えられる。
遺物（第113図、写真図版108）
［土器］縄文土器53片（615g）を出土している。このうち488の1点を掲載した。Ⅳ群に含まれる。
［石器］剥片1点を出土している。
時期　縄文時代中期初～前葉に想定される。

ＳＫ２１土坑
遺構（第53図、写真図版53）
［位置･検出状況］調査B区13D2に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の楕円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が北西－南東方向171cm、短軸が北東－南西方向100cmの楕円形である。断面形は溝形、深さは48.5cmである。［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体の4層で構成され、水平堆積している。自然堆積と考えられる。床面南西寄りが最も深くなっている。
遺物（第113図、写真図版108）
［土器］縄文土器29片（515g）を出土している。このうち489～491の3点を掲載した。Ⅴ･Ⅸ群に含まれる。
時期　縄文時代中期中葉に想定される。

ＳＫ２２土坑
遺構（第53図、写真図版53）
［位置･検出状況］調査B区14C7に位置する。SI10･15精査中に、壁面に鍋底形のプランを検出した。［重複関係］全体でSI08･10･15と重複関係にあり、SI08、SI10･15より旧期にあたる。
［形状･規模］長軸が北東－南西方向（86）cm、短軸が北西－南東方向（70）cmの楕円形である。断面形はおそらく皿形で、深さ33cmである。［堆積土］暗褐色～褐色土主体の3層で構成される。1層は上部遺構であるSI08の貼床と考えられ、黄褐色土を敷設している。
遺物（第113図、写真図版108）
［土器］縄文土器1片（10g）を出土しており、この492の1点を掲載した。Ⅸ群に含まれる。
時期　縄文時代に想定される。

ＳＫ２３土坑

遺構（第53図、写真図版53）

［位置･検出状況］調査B区12C18に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が南北方向111cm、短軸が東西方向92cmの円形である。断面形はビーカー形だが、部分的に開口径より底径が広い。深さは63.5cmである。［堆積土］黒褐色～暗褐色土主体の6層で構成され、ほぼ水平な自然堆積と考えられる。

遺物（第113図、写真図版108）

［土器］縄文土器35片（240g）を出土している。このうち493の1点を掲載した。Ⅸ群に含まれる。

［石器］計4点出土している。剥片3点、敲磨器類1点である。

時期　縄文時代に想定される。

ＳＫ２４土坑

遺構（第53図、写真図版53）

［位置･検出状況］調査B区14B24に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が南北方向158cm、短軸が東西方向150cmの円形である。断面形は逆台形（一部袋形）で、西～南底面が外側にやや張り出しており、底径は116×98cm、深さは80cmである。［堆積土］暗褐色～褐色土主体の12層で構成される。自然堆積と考えられる。

遺物（第113図、写真図版108）

［土器］縄文土器131片（2,310g）を出土している。このうち494～497の4点を掲載した。Ⅳ･Ⅶ･Ⅸ群に含まれる。

［石器］計5点を出土しており、石匙1点、剥片4点である。

時期　縄文時代に想定される。

ＳＫ２５土坑

遺構（第53図、写真図版54）

［位置･検出状況］調査C区21D3に位置する。［形状･規模］長軸が南北方向127cm、短軸が東西方向110cmの円形である。断面は不整形で、北から西の底面付近は抉れている。底径は103×94cm、残存高は50cmである。［堆積土］11層で構成され、内側の1～5層は黒褐色土主体、外側の6～11層はにぶい黄褐色土主体と分離される。堆積状況から、外側は壁面の崩落、内側はその後の自然堆積と考えられる。

遺物（第113図、写真図版108）

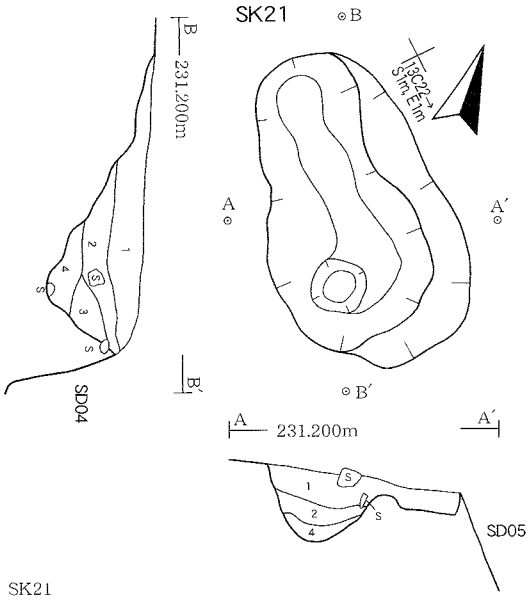
［土器］縄文土器37片（500g）を出土している。このうち498の1点を掲載した。Ⅴ･Ⅸ群に含まれる。

［石器］石鏃1点が出土している。

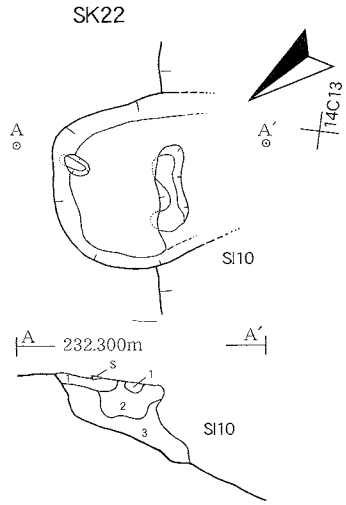
時期　縄文時代と考えられる。　（村田）

ＳＫ２６土坑

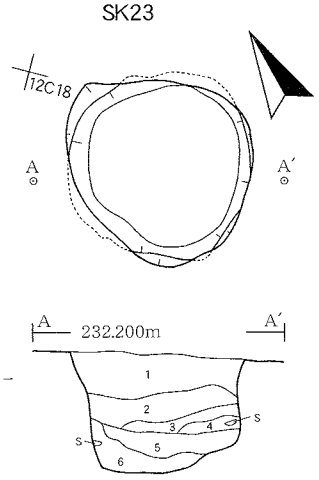
遺構（第53図、写真図版54）



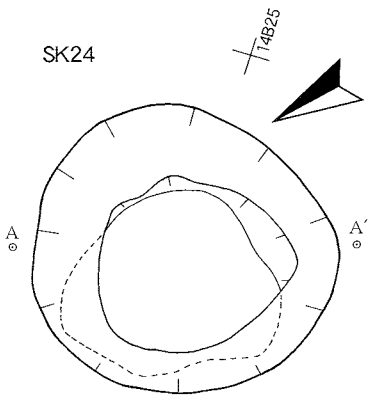
SK21
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)含む
3．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
4．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎

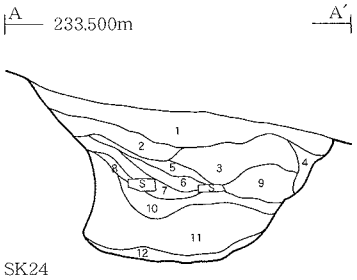


SK22
1．10YR5/6黄褐 粘性やや弱 しまり中 SI08貼床
2．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり中 明黄褐粘土質土を少量散在
3．10YR4/6褐 粘性やや弱 しまりやや密 ※SI08貼床が1層にあることからSI08より旧期 またSI10に切られているため本遺構が旧期である

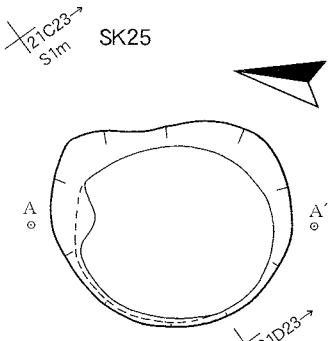


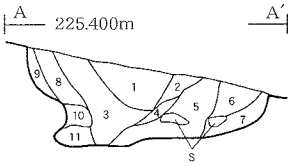
SK23
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎 中礫(径1～3cm 亜角)含む
2．10YR4/6褐 砂質 粘性弱 しまり疎
3．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物2%含む
4．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物5%含む
5．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎 炭化物2%含む
6．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎 炭化物10%含む



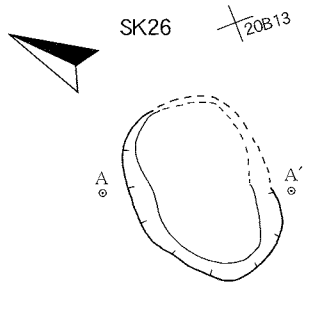


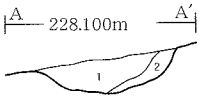
SK24
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
2．5YR3/6暗赤褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎 廃棄焼土混入層
3．10YR4/6褐 粘性やや弱 しまりやや疎
4．10YR4/6褐＋10YR3/2黒褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎
5．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 黄橙粘土質ブロック(径3cm)5%含む
6．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 明赤褐ブロック(廃棄焼土粒)少量含む
7．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm亜角)5%含む
8．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
9．10YR4/6褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
10．10YR5/8黄褐 粘土質 粘性やや弱 しまりやや疎～中
11．10YR3/4暗褐 粘性中 しまり中 黄褐粘土質ブロック(径5cm)3%含む
12．7.5YR5/8明褐 粘土質 粘性中 しまり中



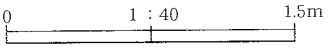


SK25
1．7.5YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや密 細～中礫(径5～15㎜)20%含む
2．2.5Y6/6明黄褐＋7.5YR3/3暗褐の混合 粘性中しまりやや密
3．7.5YR2/2黒褐 粘性やや強 しまりやや密 砂粒(径1～2㎜)5%含む
4．7.5YR3/2黒褐 粘性やや強 しまりやや密
5．7.5YR3/2黒褐 4層と同じだが2.5Y6/8黄ブロック10%含む
6．10YR5/3にぶい黄褐 粘性強 しまりやや密 黄土(径3～5㎜)含む
7．10YR6/8明黄褐 粘性強 しまり密 炭化物5%以下
8．10YR5/3にぶい黄褐 粘性強 しまりやや密 砂粒(径3～5㎜)10%含む
9．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまり中 砂粒(径2～3㎜)5%含む
10．10YR6/4にぶい黄橙 粘性やや強 しまり中
11．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中





SK26
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり中 堆積土中～下位より土器多 基本層序Ⅲ層起源か
2．10YR4/4褐 粘土質 粘性中 しまり中 基本層序Ⅳ層崩落土の可能性有 ※SI22より旧期



第53図　SK21～26 土坑

［位置・検出状況］調査C区20B12に位置する。SI22精査終了後、床面から検出した。［重複関係］SI22と重複しており、本遺構が旧期である。［形状・規模］長軸が北東－南西方向100cm、短軸が北西－南東方向〔75〕cmの楕円形である。断面は皿形で、深さは20cmである。［堆積土］暗褐色土主体の2層で構成され、自然堆積と考えられる。

遺物（第113図、写真図版109）

［土器］縄文土器163片（1,960g）を出土している。このうち499・500の2点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

時期　縄文時代前期末葉と考えられる。（北田）

ＳＫ２７土坑

遺構（第54図、写真図版54）

［位置・検出状況］調査C区20C19に位置する。検出面はSI21検出面及びⅣ層上面である。［重複関係］SI21と重複関係にあり、本遺構がSI21堆積土を掘り込んで構築されているため新期である。［形状・規模］長軸が北東－南西方向278cm、短軸が北西－南東方向225cmの不整円形であり、南が外側に張り出している。断面形は浅い皿形であるが、西～南は削平されており、立ち上がりが明確ではない。残存高は15cmである。［堆積土］灰黄褐色土の単一層である。なお、床面中央には0.46×0.34mの範囲で炭化物が集中している（2層）が、材などの形状を保っておらず、焼土粒なども共伴していない。

遺物（第113図、写真図版108）

［土器］縄文土器78片（1,495g）を出土している。このうち501～503の3点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

［石器］計3点を出土している。石鏃1点、敲磨器類1点、礫石錘1点である。

時期　出土土器がⅣ群に分類されることから縄文時代中期前葉頃には埋没していたと考えられる。（村田）

ＳＫ２８土坑

遺構（第54図・写真図版54）

［位置・検出状況］調査B区15C10に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の不整円形プランとして検出した。［重複関係］SK33と重複しており、本遺構が新期である。［形状・規模］規模は長軸が南北方向127cm、短軸が東西方向110cmの不整円形である。断面は皿形、深さは12cmである。［堆積土］褐色土主体の単一層で構成される。径1～3mmのⅣ層起源土を10%含み、人為堆積の可能性が考えられる。

遺物　なし。

時期　不明。（北田）

ＳＫ２９土坑

遺構（第54図、写真図版55）

［位置・検出状況］調査B区21C16に位置する。検出面はⅣ層上面である。［重複関係］SK30と重複

関係にあり、本遺構が新期である。[形状・規模] 不整円形であり、規模は長軸が北西－南東方向146cm、短軸が北東－南西方向140cmである。断面は不整な浅い皿形で、残存高は14cmである。[堆積土] 黒褐色土の単一層であるが、径5～15mmの中礫15%やⅣ層起源ブロック5%を含み、人為堆積の可能性が考えられる。

遺物（第114図、写真図版108）

[土器] 縄文土器14片（160g）を出土している。このうち504の1点を掲載した。Ⅸ群に含まれる。

[石器] 剥片1点を出土している。

時期　縄文時代中期中葉頃には埋没していたと考えられる。（村田）

ＳＫ３０土坑

遺構（第54図、写真図版55）

[位置・検出状況] 調査C区21C17に位置する。検出面はⅣ層上面である。[重複関係] SK29と重複関係にあり、本遺構が旧期である。[形状・規模] 不整円形であり、規模は長軸が南北方向137cm、短軸が東西方向107cmである。断面は皿形で、残存高は18cmである。[堆積土] にぶい黄褐色土主体の2層で構成される。2層はSK29側に一部見られるのみで、大半が1層である。

遺物（第114図、写真図版108）

[土器] 縄文土器3片（100g）を出土している。このうち505の1点を掲載した。Ⅱ群に含まれる。

[石器] 計2点を出土している。尖頭器1点、剥片1点である。

時期　縄文時代前期初頭と考えられる。

ＳＫ３１土坑

遺構（第54図・写真図版55）

[位置・検出状況] 調査B区15C11に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。[形状・規模] 長軸が北西－南東方向164cm、短軸が北東－南西方向152cmの円形である。断面は皿形、深さは15cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の単一層で構成される。中央はⅣ層がやや盛り上がっている。

遺物（第114図、写真図版108）

[土器] 縄文土器1片（10g）を出土している。このうち506の1点を掲載した。Ⅳ群に含まれる。

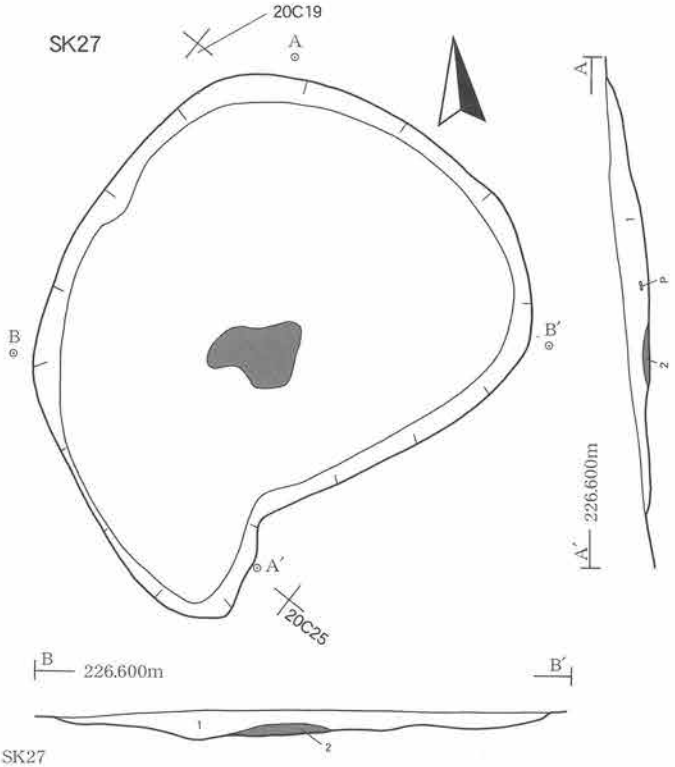
時期　縄文時代前期末葉に想定される。（北田）

ＳＫ３２土坑

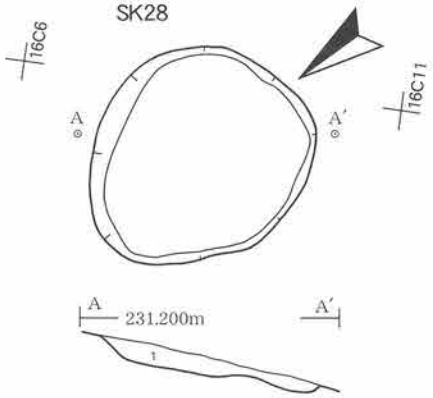
遺構（第54図、写真図版55）

[位置・検出状況] 調査C区22B10に位置し、検出面はⅢ層下位である。[形状・規模] 平面は台形状で、規模は長軸が北西－南東方向148cm、短軸が北東－南西方向138cmである。断面は皿形で、残存高は13cmである。底面東端に68×43cmの副穴状の掘り込みが認められる。[堆積土] 黒褐色土主体の計3層で構成される。2・3層は傾斜に沿って低位へ流れ込んでいることから、自然堆積と考えられる。

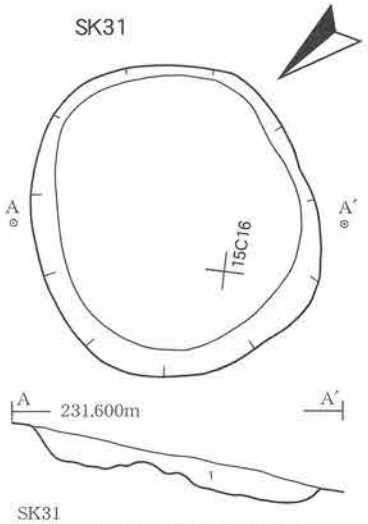
遺物　なし。



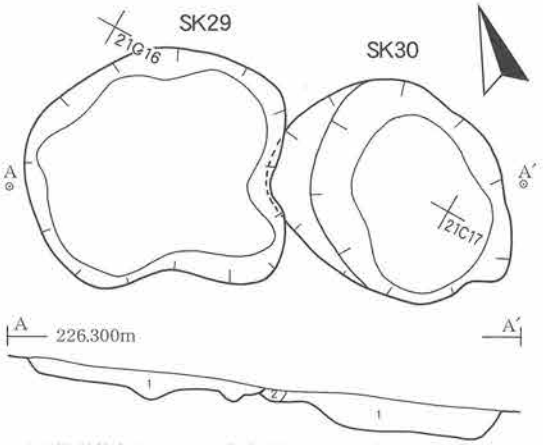
SK27
1．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまり中 粒子やや粗い 細～中礫(3～10㎜)15%含む
2．10YR3/1黒褐 炭化物層



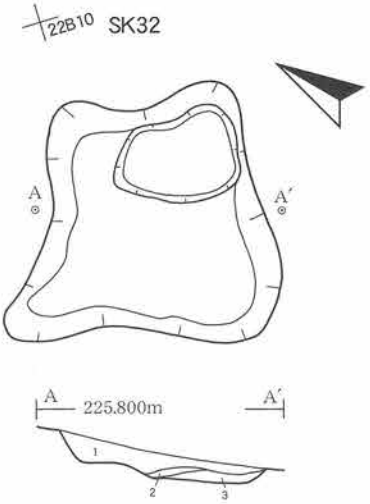
SK28
1．10YR4/4褐 粘性中 しまりやや密 明黄褐粘土質ブロック(径1～3cm)10%含む



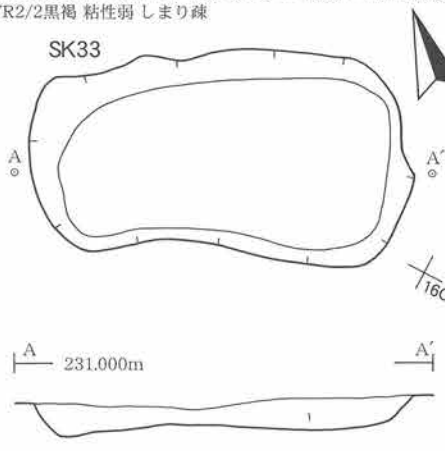
SK31
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり中



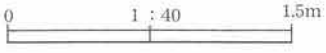
SK29
1．10YR3/2黒褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径5～15㎜ 角)15% 黄ブロック5%含む
SK30
1．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中 中礫(5～15㎜ 角) 炭化物5%含む
2．10YR2/2黒褐 粘性弱 しまり疎



SK32
1．10YR2/2黒褐 粘性中 しまり中 中礫(径5～10㎜ 角)15% 2.5Y7/6明黄褐ブロック25%含む
2．10YR5/4にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中 細～中礫(径3～10㎜)15%含む
3．10YR4/6褐 粘性やや強 しまり中



SK33
1．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎～中



第54図　SK27～33 土坑

時期　不明。　（村田）

ＳＫ３３土坑

遺構（第54図・写真図版56）

[位置･検出状況] 調査B区15C15に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の長方形プランとして検出した。[重複関係] SK28土坑と重複しており、本遺構が旧期である。[形状･規模] 長軸が北東－南西方向202cm、短軸方向が北西－南東方向110cmの長方形である。断面はⅢ形、深さは17cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の単一層で構成される。

遺物　なし。

時期　不明。　（北田）

ＳＫ３４土坑

遺構（第55図、写真図版56）

[位置･検出状況] 調査C区19B11に位置し、検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上面である。[重複関係] 東端をSI16に切られている。[形状･規模] ほぼ正円形に近いプランであり、床面はほぼ水平である。小形の竪穴住居の可能性もある。ただし、6層で焼土がまとまっていたものの、床面に炉と思われる焼土は形成されていない。また、壁面に沿うように幅6～18cmの周溝がほぼ全周している。長軸が北東－南西方向（256）cm、短軸方向が北西－南東方向248cm、深さは30cmである。[堆積土] にぶい黄褐色主体の計9層で構成される。当初は6層がほぼ水平に堆積していることと、その上面で79×64cm、深さ5cmの不整円形で焼土（強変成）が集中していたことから、6・7層上面が底面であるとみなしていた。しかし、壁面崩落土である7層をはじめとするその他の層が、現地形に沿って堆積している状況が確認されたことから、6層を含めていずれも自然堆積であり、底面はⅣ層を掘削して形成された面であると判断した。

遺物（第114図、写真図版108･109･147）

[土器] 縄文土器101片（1,310g）を出土している。このうち、507～512の6点を掲載した。Ⅳ･Ⅸ群が出土しており、大半がⅣ群に含まれる。

[石器] 計5点を出土している。石鏃1点、スクレイパー類1点、剥片2点、石斧類1点で、このうち1170石斧類を掲載した。

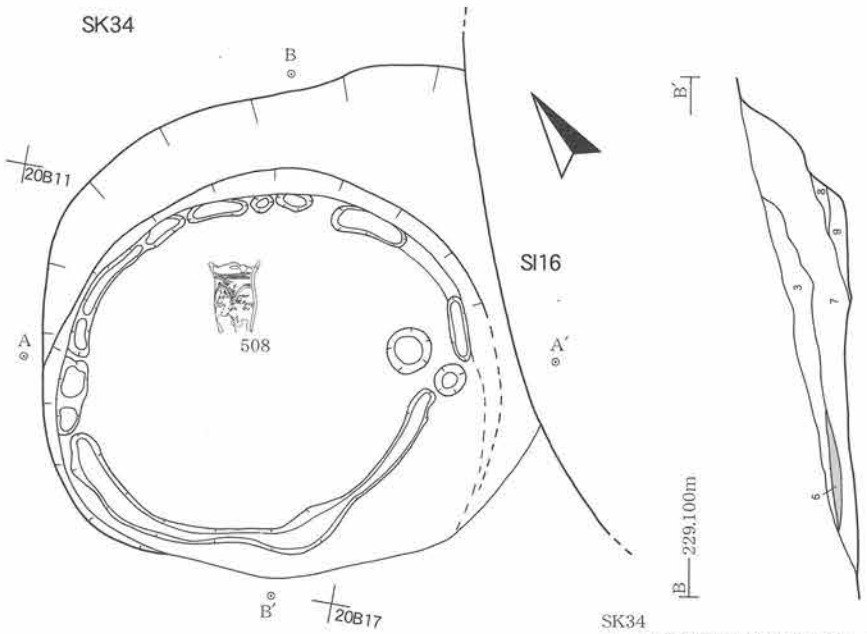
時期　6層出土土器508がⅣ群に分類されることから、少なくとも縄文時代前期末葉～中期前葉には廃絶していたと考えられる。　（村田）

ＳＫ３５土坑

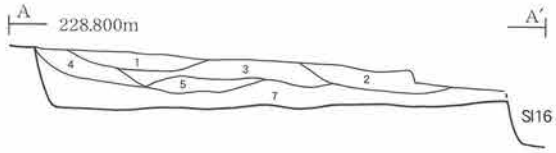
遺構（第55図、写真図版56）

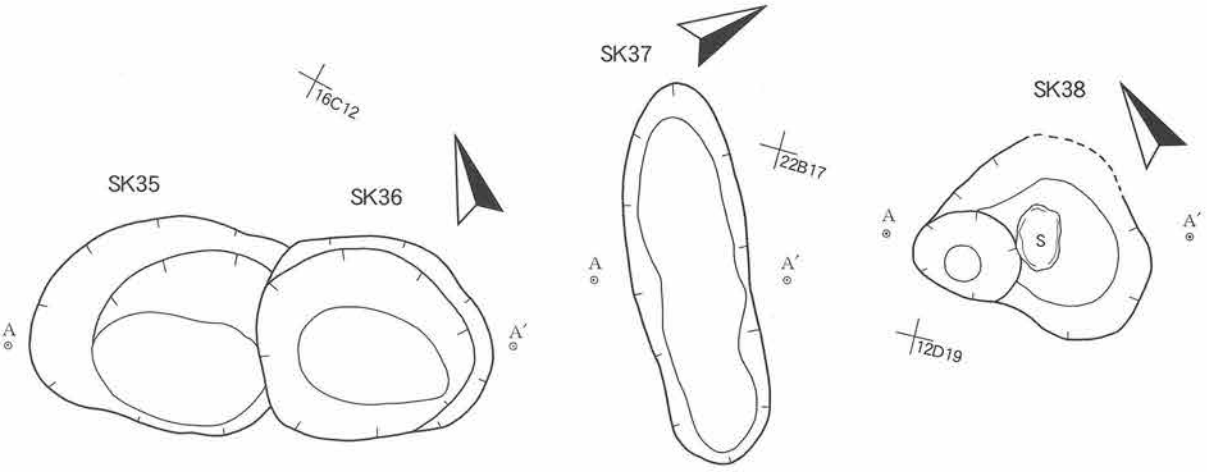
[位置･検出状況] 調査B区16C11に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の楕円形プランとして検出した。[重複関係] SK36土坑と重複しており、本遺構が旧期である。[形状･規模] 長軸が東西方向（120）cm、短軸が南北方向115cmの楕円形である。断面はⅢ形、深さは16cmである。[堆積土] 暗褐色土主体の単一層で構成される。

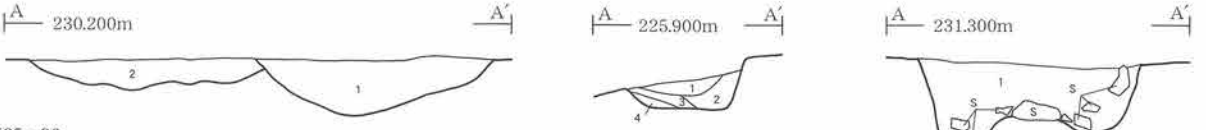
遺物　なし。



SK34
1．2.5Y7/6明黄褐 粘性やや弱 しまり中 中礫(径5～10㎜)20%(基本層序Ⅳ層の流土か)
2．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm程度)15% 赤・黄粒(径1～2㎜)5%含む
3．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 2層と混和物同じ
4．7.5YR3/2黒褐 粘性中 しまりやや疎 2層と同じ混和物に炭化物5%含む
5．7.5YR3/2黒褐 粘性中 しまり中 炭化物10%
6．2.5YR6/8橙 焼土(強変成)
7．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中 黄ブロック5% 黄粒(径1～3㎜)5%含む
8．10YR5/6黄褐 粘性中 しまり疎
9．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまり疎







SK35・36
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中
2．10YR3/4暗褐 粘性中 しまり中

SK37
1．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物5%含む
2．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまり中 黄粒(径1～2㎜)5%含む
3．10YR6/8明黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 10YR2/2黒褐30%含む
4．10YR6/8明黄褐 粘性中 しまり中

SK38
1．5YR3/3暗赤褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm亜角)10%混入
※底部には燃焼面ないため堆積土として混入した可能性大

0　1：40　1.5m

第55図　SK34～38 土坑

時期　不明。　（北田）

ＳＫ３６土坑

遺構（第55図、写真図版56）

［位置･検出状況］調査B区16C12に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の楕円形プランとして検出した。［重複関係］SK35土坑と重複しており、本遺構が新期である。［形状･規模］長軸が東西方向126cm、短軸が南北方向107cmの楕円形である。断面は皿形、深さは29cmである。［堆積土］暗褐色土の単一層で構成される。

遺物　なし。

時期　不明。

ＳＫ３７土坑

遺構（第55図、写真図版56）

［位置･検出状況］調査C区22B17に位置し、検出面はⅢ層下位である。［形状･規模］長軸が東西方向202cm、短軸が南北方向65cmの長楕円形である。断面は逆台形、残存高は28cmである。［堆積土］上層（1層）は黒褐色土、下層（2～4層）は黄褐色土主体の計4層で構成される。

遺物　なし。

時期　不明。　（村田）

ＳＫ３８土坑

遺構（第55図、写真図版57）

［位置･検出状況］調査B区12D14に位置し、検出面はⅣ層上面である。［形状･規模］長軸が東西方向125cm、短軸が南北方向109cmの不整円形である。断面は鍋底形で一部深くなる。残存高は27cm、深いところで58cmである。［堆積土］暗赤褐色土の単一層で構成される。検出時は焼土跡と考えていたが、掘削の結果、土坑に焼土を廃棄したものであることが分かった。底面付近～東にかけては10～20cm大の亜角礫が10個以上、東側から流入している。底面中央には35×23×5cmの扁平礫がある。廃棄焼土と思われる堆積から、人為堆積の可能性が考えられる。

遺物（第114図、写真図版109）

［土器］縄文土器18片(500g)を出土している。このうち、513の1点を掲載した。Ⅶ群に含まれる。

時期　縄文時代後期初頭と考えられる。　（北田）

ＳＫ３９土坑

遺構（第56図、写真図版57）

［位置･検出状況］調査C区19C8に位置する。検出面はⅣ層上面である。［形状･規模］規模は長軸が南北方向214cm、短軸が東西方向181cm、深さは検出面から197cmの円形である。東には長軸が南北方向97cm、東西方向（96）cm、深さは検出面から103cmの楕円形小土坑が付属している。また、底面北寄りにも68×41cm、深さ12cmの楕円形の副穴が検出されている。断面は現状ではほぼ垂直である。ただし、西～南壁は若干オーバーハングしており、堆積土中にも壁面崩落土と思われる

黄褐色土の堆積が確認されることから（22層など）、フラスコ形を呈していた可能性がある。[堆積土] 壁面崩落土またはⅣ層起源の黄褐色土とⅢ層起源の暗褐色土の計22層で構成されているが、厳密には7～22層が本遺構内堆積土である。三角ないしレンズ状に堆積しているものが多く自然堆積と考えられる。なお、遺構内堆積土より上位（3層）で1次堆積と考えられる十和田中掫テフラ層が確認されている。

遺物（第114・165・170・182・183図、写真図版109・135・138・144）

[土器] 縄文土器は189片（2,820g）を出土している。11及び16層からの出土が多い。このうち514～519の6点を掲載した。Ⅱ・Ⅳ・Ⅸ群が出土しており、大半がⅡ群に含まれる。

[石器] 計7点を出土している。このうち979石鏃、1068石匙、1140二次加工ある剥片、1147微細剥離痕ある剥片、1164石斧類を掲載した。

時期　南壁が若干オーバーハングしていることから、貯蔵穴であった可能性がある。存続時期については十和田中掫テフラ堆積時には既に埋没していること、堆積土中～下位から出土した遺物がⅡ群に分類されることから縄文時代早期末葉～前期初葉頃と考えられる。（村田）

ＳＫ４０土坑

遺構（第56図、写真図版57）

[位置・検出状況] 調査B区15C2に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の円形プランとして検出した。[重複関係] SI26、34、38と重複しており、本遺構が旧期である。[形状・規模] 西半は切られており存在しない。長軸は南北方向158cm、短軸は東西方向（93）cmの円形である。断面はビーカー形で、北～東底面が外側にやや張り出している。底面は139×（100）cmで、深さは67cmである。[堆積土] 暗褐色～褐色土主体の4層で構成され、自然堆積と考えられる。3層はⅣ層起源土で、崩落による流入の可能性がある。

遺物（第114図、写真図版109）

[土器] 縄文土器4片（160g）を出土している。このうち520・521の2点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

時期　縄文時代中期前葉に想定される。（北田）

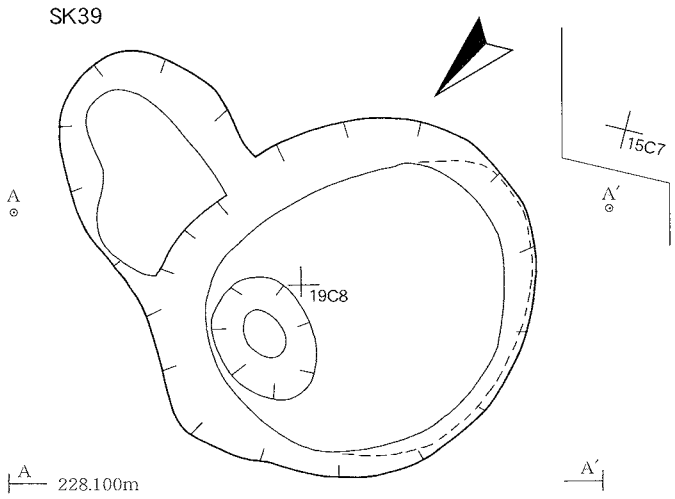
ＳＫ４１土坑

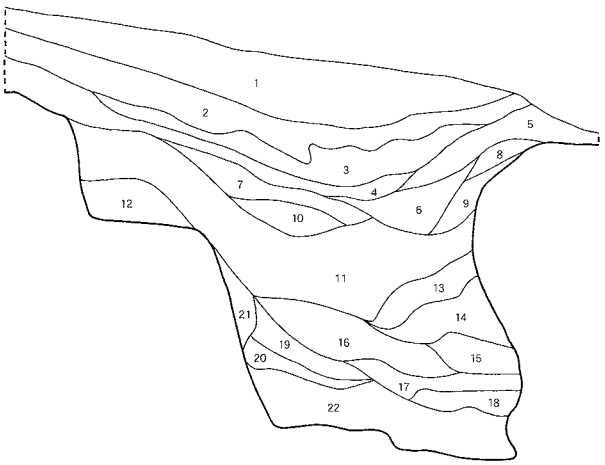
遺構（第56図・写真図版57）

[位置・検出状況] 調査B区15B17に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランとして検出した。[重複関係] SI18、19と重複しており、本遺構が新期である。[形状・規模] 長軸が北東－南西方向133cm、短軸が北西－南東方向116cmの円形である。断面は逆台形、深さは74.5cmである。[堆積土] 黒褐色～褐色土主体の10層で構成され、自然堆積と考えられる。主に斜面上側からの堆積と見られる。

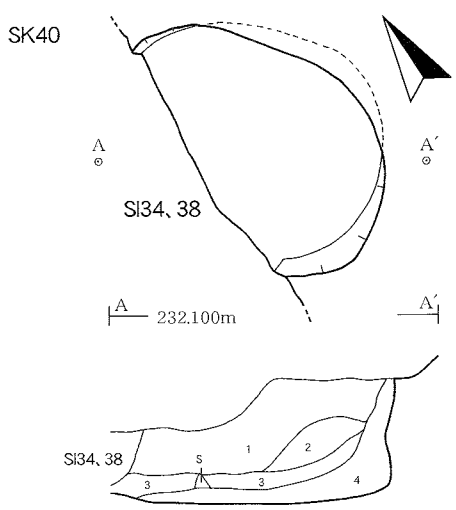
遺物　なし。

時期　SI18、19よりも新期ということから、縄文時代中期後葉以降に想定される。

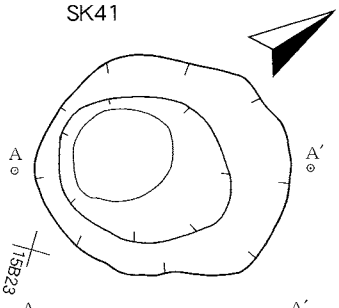


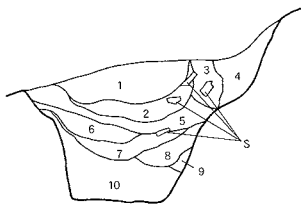


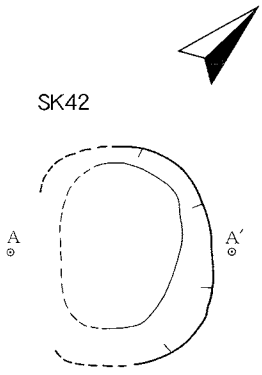
SK39
1．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 中礫(径5～20㎜)15%含む(基本層序Ⅲ層)
2．10YR3/2黒褐 粘性中 しまり中 中礫(径5～10㎜)5%含む 粒子細かい
3．2.5Y8/6黄 粘性中 しまり中 十和田中掫テフラ堆積層
4．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 中礫(径5～20㎜)20% 炭化物5%含む
5．10YR4/4褐 粘性中 しまりやや疎 細～中礫(径3～20㎜)20% 炭化物5%含む
6．10YR4/4褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径3～20㎜)15% 炭化物5%含む
7．10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎 細～中礫(径3～20㎜)15%含む
8．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径5～10㎜)20%含む
9．10YR4/3にぶい黄褐 粘性中 しまり中 中礫(径5～10㎜)10%含む
10．2.5Y5/6黄褐 粘性やや強 しまりやや密 細～中礫(径3～10㎜)15%含む
11．10YR3/3暗褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径5～30㎜)15% 炭化物10%含む
12．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまりやや疎
13．10YR6/4にぶい黄橙 粘性中 しまり中 中礫(径5～30㎜)15%含む
14．2.5Y6/8明黄褐 粘性中 しまり中
15．2.5Y7/8黄 粘性強 しまり密 壁面崩落土
16．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中
17．10YR5/3にぶい黄褐 粘性中 しまりやや疎 細～中礫(径3～5㎜)10%含む
18．2.5Y7/8黄 粘性やや強 しまりやや密
19．10YR5/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中 黄ブロック30%含む
20．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまりやや疎 細～中礫(径3～10㎜)5%含む
21．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまりやや疎 壁面崩落土
22．2.5Y7/8黄 粘土質 粘性強 しまり密

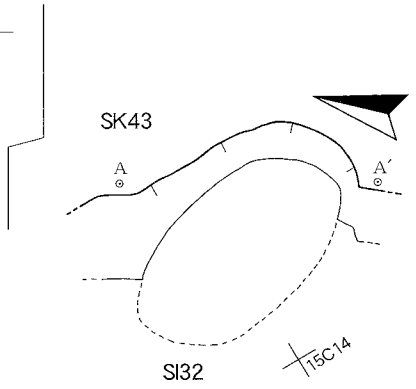


SK40
1．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む
2．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む
3．10YR6/8明黄褐 粘土質 粘性中 しまりやや疎 基本層序Ⅳ層起源
4．10YR4/6褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎

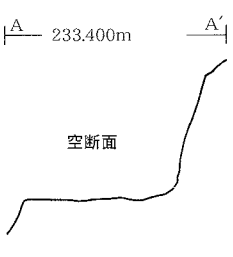


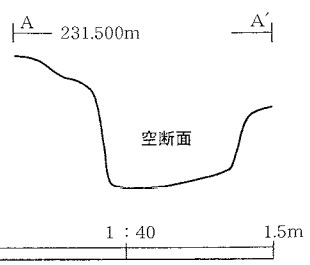


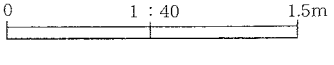




SK41
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎～中
2．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎
3．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
4．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎
5．10YR4/6褐 粘性中 しまりやや疎～中 中礫(径1～3cm亜角)3%含む
6．10YR3/4暗褐 粘性中 しまりやや疎
7．10YR6/8明黄褐 粘性中 しまりやや疎 基本層序Ⅳ層起源
8．10YR3/2黒褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
9．10YR4/6褐 粘性やや弱 しまりやや疎
10．10YR4/4褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径3cm程度 亜角)2%含む







第56図　SK39～43 土坑

ＳＫ４２土坑

遺構（第56図、写真図版58）

［位置･検出状況］調査B区14B19に位置する。SI26精査終了後、北東壁に黒褐色に落ち込む楕円形を検出した。［重複関係］SI26と重複しているが、新旧は不明である。［形状･規模］長軸が北西－南東方向115cm、短軸が北東－南西方向〔90〕cmの楕円形である。断面は逆台形、深さは60cmである。［堆積土］未実測であるが、観察から黒褐色土の単一層と判断できる。

遺物　なし。

時期　不明。

ＳＫ４３土坑

遺構（第56図、写真図版58）

［位置･検出状況］調査B区15C9に位置する。SI38精査終了後、床面南東から暗褐色土の楕円形プランを検出した。［重複関係］SI32、38竪穴住居跡と重複しており、本遺構が旧期である。［形状･規模］長軸が東西方向〔146〕cm、短軸が南北方向〔93〕cmの楕円形である。断面は鍋底形、深さは50cmである。［堆積土］未実測であるが、観察から暗褐色土の単一層と判断できる。

遺物　なし。

時期　SI38よりも旧期ということから、縄文時代中期初頭以前に想定される。

ＳＫ４４土坑

遺構（第57図、写真図版58）

［位置･検出状況］調査B区15C24に位置する。SD04精査中、断面にかかる黒褐～褐色土の楕円形プランを検出した。［重複関係］SD04と重複しており、同遺構埋没過程中に掘削されているため、本遺構が新期である。［形状･規模］長軸が北西－南東方向167cm、短軸が北東－南西方向105cmの楕円形である。断面は円筒形、深さは208cmである。北～東壁は若干抉れている。［堆積土］黒褐～褐色土主体の12層で構成されている。2～6･12層はやや粘土質、7～11層は砂質層で、南はSD04堆積土を壁としているため、この箇所の崩落土も大半を占めている。

遺物　なし。

時期　SD04よりも新期であることから、中世以降に想定される。

ＳＫ４５土坑

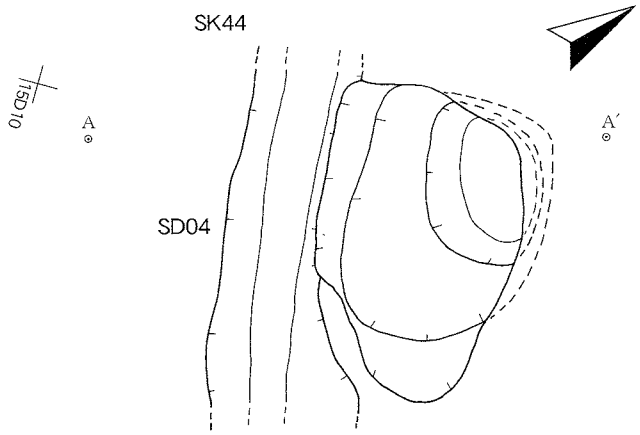
遺構（第57図、写真図版58）

［位置･検出状況］調査B区15C14に位置する。SI32精査終了後、床面北東からにぶい黄褐色土の楕円形プランを検出した。［重複関係］SI32、38と重複しており、本遺構が旧期である。［形状･規模］平面形は長軸が北東－南西方向150cm、短軸が北西－南東方向98cmの楕円形である。断面は皿形、深さは15cmである。［堆積土］にぶい黄褐色土の単一層で構成されている。

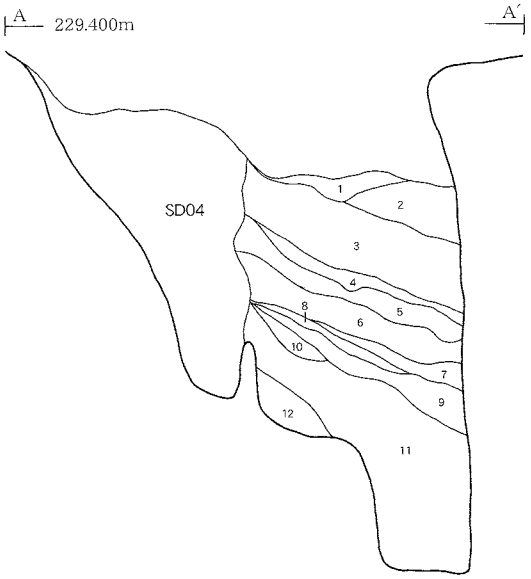
遺物（第114図、写真図版110）

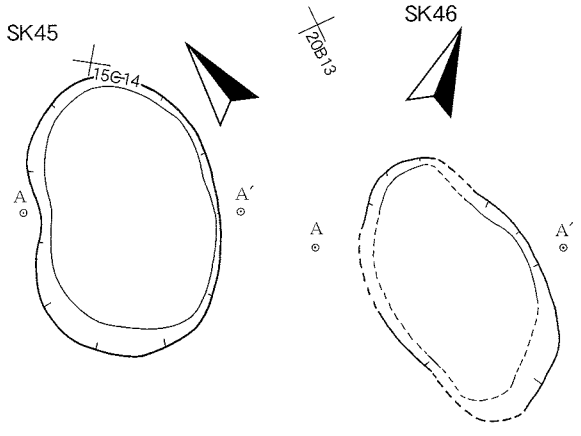
［土器］縄文土器19片（330g）を出土している。このうち522の1点を掲載した。Ⅸ群に含まれる。

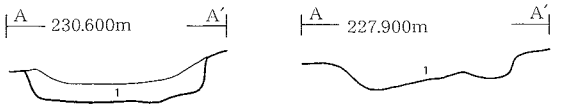
［石器］石匙1点を出土している。



SK44
1．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 明黄褐粘土質粒(径3cm)1%含む
2．10YR5/4にぶい黄橙＋10YR5/6黄褐の混合砂質 粘性やや弱 しまりやや疎 下部に明黄褐粘土質粒(径5～10cm)3%含む
3．10YR5/6黄褐 砂質 粘性弱 しまりやや疎 全体に明黄褐粘土質粒(径5cm)5%含む
4．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
5．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 全体に明黄褐粘土質粒(径2cm)2%含む
6．10YR4/4褐＋10YR6/6明黄褐の混合砂質 粘性やや弱 しまり疎
7．10YR2/3黒褐 粘性中 しまりやや疎
8．10YR6/6明黄褐 砂質 粘性やや弱～中 しまり疎
9．10YR3/4暗褐 砂質 粘性弱 しまり疎
10．10YR5/6黄褐 砂質 粘性弱 しまり疎
11．10YR6/6明黄褐 砂質 粘性弱 しまり疎
12．10YR6/4にぶい黄橙 粘土質 粘性やや強 しまりやや疎

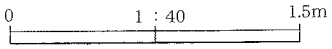


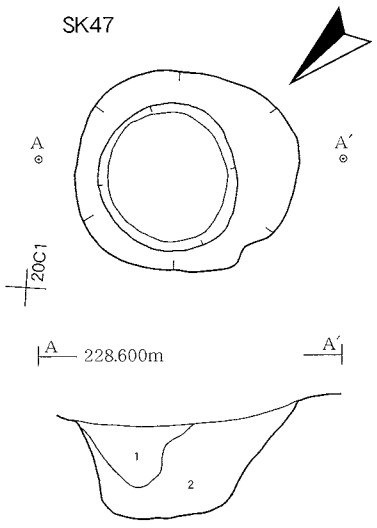




SK45
1．10YR5/3にぶい黄褐 炭化物1%含む

SK46
1．10YR4/4褐 粘性やや弱 しまり中 礫多 炭化物(径1cm)1～2%含む





SK47
1．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 堆積土に中礫(径1～5cm)を多量に含む層
2．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 堆積土に中～大礫(径5～10cm) 30%多量に含む 底面付近から土器出土

第57図　SK44～47 土坑

時期　縄文時代に想定される。

ＳＫ４６土坑

遺構（第57図、写真図版58）

［位置･検出状況］調査C区20B8に位置する。SI22精査終了後、床面南西から褐色土の楕円形プランを検出した。［重複関係］SI16、23、22と重複しており、いずれも本遺構が旧期である。［形状･規模］長軸が北西－南東方向147cm、短軸が北東－南西方向86cmの楕円形である。断面は皿形、深さは15cmである。［堆積土］未実測であるが、掘削前の観察から褐色土の単一層と判断できる。炭化物を1～2%含んでいる。

遺物　なし。

時期　SI22より旧期と出土遺物から、縄文時代中期初頭以前に想定される。

ＳＫ４７土坑

遺構（第57図、写真図版59）

［位置･検出状況］調査C区20C1に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランを検出した。［形状･規模］長軸が北東－南西方向118cm、短軸が北西－南東方向114cmの円形である。断面は逆台形、深さは48cmである。［堆積土］黒褐～暗褐色土主体の2層で構成される。両層ともに中～大礫を多量に含んでいる。

遺物（第114図、写真図版110）

［土器］縄文土器16片（145g）を出土している。このうち、523、524の2点を掲載した。Ⅰ･Ⅸ群が出土しているが、Ⅰ群主体である。

時期　縄文時代早期末葉に想定される。

(4) 土器埋設遺構

計２基検出している。

ＳＲ０１土器埋設遺構

遺構（第58図、写真図版59）

［位置･検出状況］調査C区20B22に位置し、検出面はⅢ層上面（またはSI28検出面）である。［重複関係］SI28と重複しているが、SI28堆積土を掘り込んで構築されている。［埋設状況］掘り方は不明瞭であるが、おそらく土器の形状に沿って35×28cmの範囲を20cm程掘り込み、土器を正置したものと考えられる。［堆積土］土器内には1層黒褐色土が堆積しており、中礫を25%含んでいる。土器内堆積土をサンプリングして微細遺物の選別作業を行ったところ、オニグルミ内果皮破片･剥片が検出されている（附編参照）。

遺物（第115図、写真図版110）

［土器］縄文土器144片（2,655g）を出土している。このうち埋設土器526、堆積土中527の2点を掲載した。いずれもⅣ群に含まれる。

［石器］微細剥離痕ある剥片1点が土器内堆積土から出土している。

時期　埋設土器はⅣ群に属するため、縄文時代中期前葉に構築されたと考えられる。　（村田）

ＳＲ０２土器埋設遺構

遺構（第58図、写真図版59）

［位置･検出状況］調査B区15C17に位置し、検出面はⅢ層上面である。［重複関係］SI32と重複しているが、本遺構が新期である。［埋設状況］Ⅲ層を掘り込んで構築されている。掘り方はⅢ層暗褐色土を埋め戻しているため、かなり不明瞭であるが、若干の締まり具合と土色で分離される。土器の形状に沿って27×25cmの範囲を深さ〔25〕cm掘り窪め、土器を西に傾く斜位したものと考えられる。［堆積土］土器内には黒褐色土が堆積している。土器内堆積土をサンプリングして微細遺物の選別作業を行ったところ、トチノキ種子破片･炭化材･不明動物遺存体（0.05g）･剥片が検出されている（附編参照）。

遺物（第115図、写真図版111）

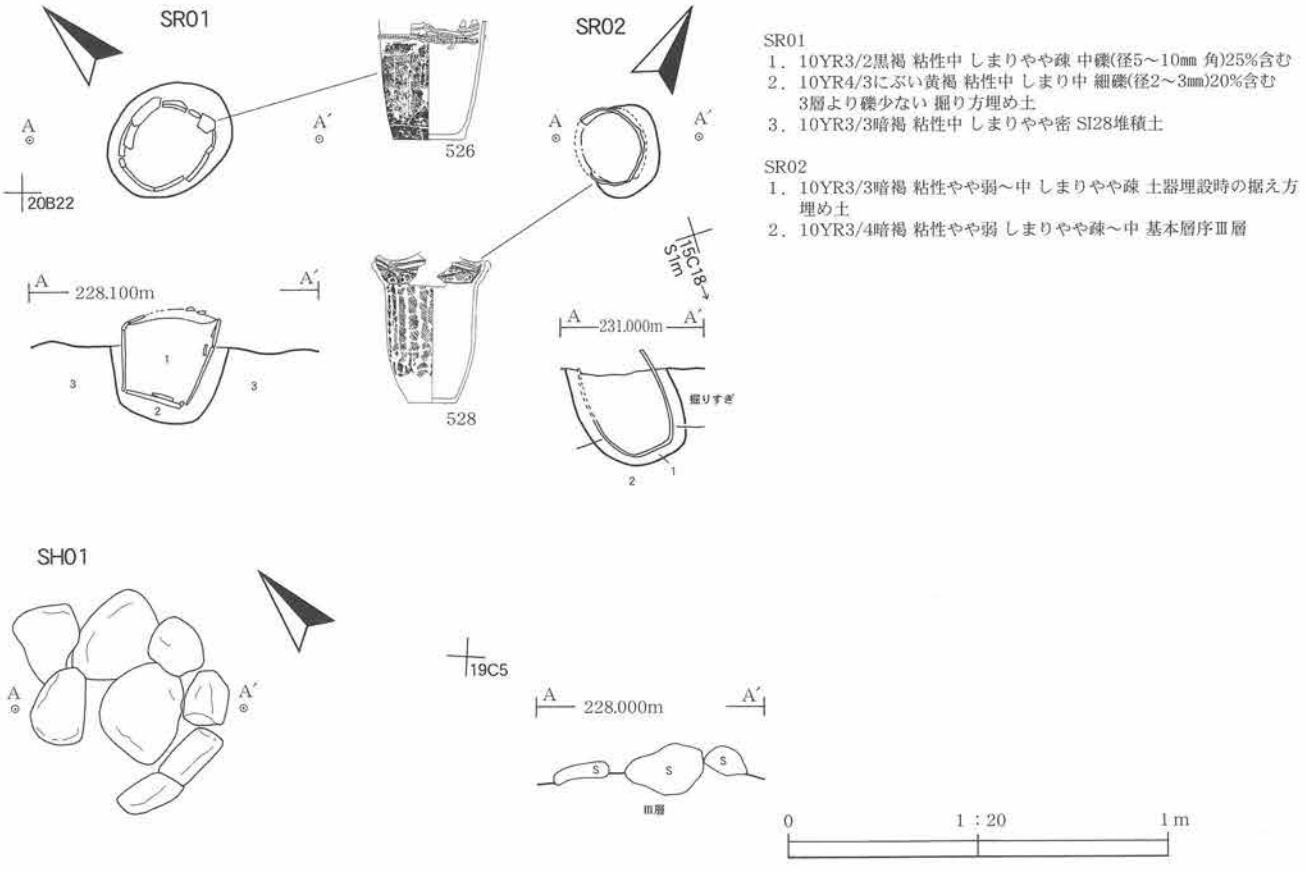
［土器］縄文土器52片（2,135g）を出土している。このうち埋設土器528の1点を掲載した。Ⅳ群に含まれる。
［石器］剥片2点（うち1点は黒曜石製）が土器内堆積土から出土している。
時期　埋設土器はⅣ群に属するため、縄文時代中期前葉に構築されたと考えられる。　（北田）

（5）配石遺構

計１基検出している。

ＳＨ０１配石遺構（第58図、写真図版59）

［位置･検出状況］調査C区19C5に位置し、検出面はⅢ層上面である。［規模･平面形］礫7個を楕円形に配置している。規模は長軸が南北方向63㎝、短軸が東西方向50㎝の楕円形範囲である。［礫］配石に使用した礫は計7個で、いずれも扁平礫（亜角礫）である。石材は、頁岩（在地）3点、ひん岩2点、花崗閃緑岩1点、凝灰岩1点で、このうち台石からの転用が1点、敲打痕が残るもの1点がある。［付属施設］配石の下に下部施設がないかを考慮して確認したが、掘り方やピットなどはなかった。よって、Ⅲ層上面に平面的に設置したものと考えられる。［時期］不明であるが、Ⅲ層上面において検出しているため、縄文時代中期に想定される。　（村田）



第58図　SR01・02 土器埋設遺構　SH01 配石遺構

(6) 焼土跡・炉跡

計24基を検出した。焼土跡は地床炉状、炉跡は石組状である。竪穴住居跡に伴うものである可能性も検討したが、周囲に柱穴等は確認されず、単独の遺構として調査した。焼土跡・炉跡を説明するために、遺構の位置・検出状況、遺構の形状及び規模、被熱痕跡の状況、推定される形成時期について記載を行う。なお、帰属時期については現地性・異地性の別もあることから、ここでは検出層位のみとし、時期不明とする。

ＳＦ０１焼土跡（第59図、写真図版60）

[位置・検出状況] 調査A区8D15に位置する。Ⅳ層上面で検出したが、攪乱の影響を大きく受けている。[形状・規模] 26.5×21.5cmの不整円形で、深さは4cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は良好であるが、植物根による攪乱が著しく残存状態は不良である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。（北田）

ＳＦ０２焼土跡（第59図、写真図版60）

[位置・検出状況] 調査A区8D23に位置する。Ⅳ層上面で検出した。[形状・規模] 26.5×21.5cmの不整円形で、深さは7.5cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は良好である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ０３焼土跡（第59図、写真図版60）

[位置・検出状況] 調査A区8E2に位置する。Ⅳ層上面で検出した。[形状・規模] 29×29cmの不整円形で、深さは3.5cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は良好である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ０４焼土跡（第59図、写真図版60）

[位置・検出状況] 調査B区13D1に位置する。Ⅳ層上面で検出した。[形状・規模] 47.5×37cmの不整円形で、深さは1.5cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は不良で、断面で僅かに確認される程度である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ０５焼土跡（第59図、写真図版61）

[位置・検出状況] 調査B区13C15に位置する。Ⅱ層上面で検出した。[形状・規模] 31.5×27.5cmの不整形で、深さは6cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は良好である。燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ０６焼土跡（第59図、写真図版61）

[位置・検出状況] 調査A区6E13に位置する。Ⅳ層上面で検出した。[形状・規模] 98×34cmの不整長形で、深さは6.5cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は良好である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。また、土器623が遺

構南側で検出されていることから、共伴関係が推察される。

ＳＦ０７焼土跡（第59図、写真図版61）
［位置・検出状況］調査B区14C11に位置する。Ⅱ層下位で検出した。［形状・規模］63.5×38cmの不整形で、深さは6cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は良好で、かなり強変成している。燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

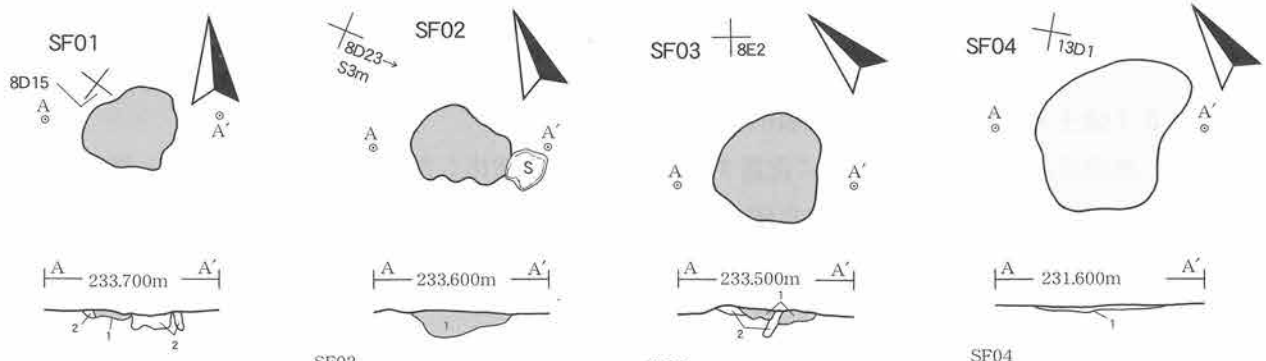
ＳＦ０８焼土跡（第59図、写真図版61）
［位置・検出状況］調査B区13C15に位置する。Ⅱ層下位で検出した。［形状・規模］38×26cmの不整円形で、深さは5.5cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達はやや不良である。SF07焼土跡と近接しており、同一レベルでの検出であることから、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ０９焼土跡（第59図、写真図版62）
［位置・検出状況］調査B区14C17に位置する。Ⅱ層下位で検出した。［形状・規模］19×10cmの不整形で、深さは3cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は不良で、断面で僅かに確認される程度である。燃焼状況から、異地性被熱痕とも考えられる。

ＳＦ１０焼土跡（第59図、写真図版62）
［位置・検出状況］調査B区14C6に位置する。Ⅱ層下位で検出した。［形状・規模］51.5×21.5cmの楕円形で、深さは4cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達はやや不良である。燃焼は弱変成であるが焼成面が広いことから、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ１１焼土跡（第59図、写真図版62）
［位置・検出状況］調査B区14C11に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［形状・規模］39×28.5cmの不整円形で、深さは5cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は良好である。遺構上面及び被熱痕跡内に土器を伴出するため廃棄焼土の可能性がある。しかし、被熱痕がしっかりしているため、現地性被熱痕の可能性がある。

ＳＦ１２炉跡（第60図、写真図版62）
［位置・検出状況］調査B区16B17に位置する。採掘坑上面の暗褐色砂質土で検出した。［形状・規模］左右に巨礫（20～30cm大）を数個積み上げ、その内部を燃焼面としている。燃焼面は礫を設置した面よりも若干下がっており、掘り込んで使用されたと見られる。遺構は斜面に構築されているため、南は傾斜に沿って下がっている。石組部を含む規模は長軸が北西－南東方向100cm、短軸が北東－南西方80cm、両石組部の間の幅は約35cmである。燃焼面は礫設置面から7cm下がったところに形成されている。燃焼範囲は55×37cmの楕円形、深さは13.5cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は良好、強変成している。焼土の斜面上と下に炭化物層が形成されている。燃焼面の上には埋没時に両側から崩れたと見られる礫2個がある。［時期］遺構の構築されている面が、近世以降と見られる採掘坑上面のため、本遺構はそれよりも新期と考えられる。

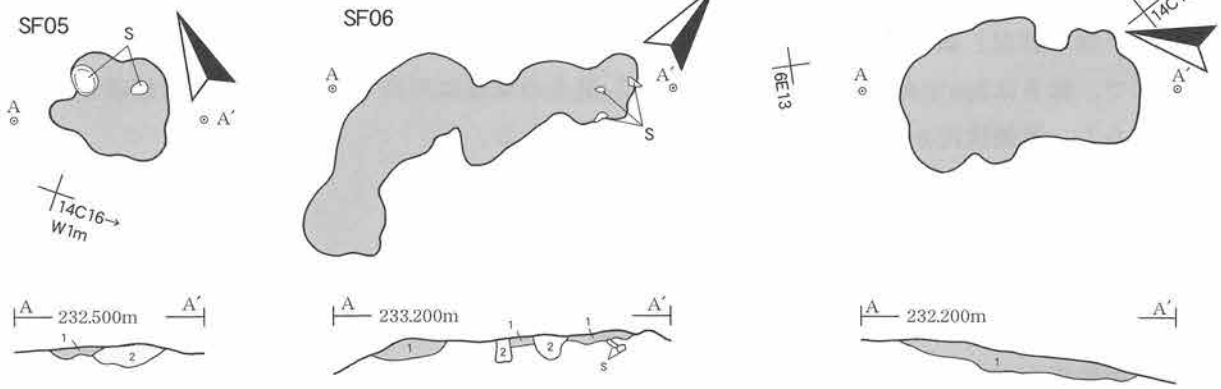


SF01
1．5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや密 焼土(強変成)
2．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 撹乱

SF02
1．5YR5/8明赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)

SF03
1．5YR5/8明黄褐 粘性弱 しまりやや密 焼土(強変成)
2．10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎 植物痕

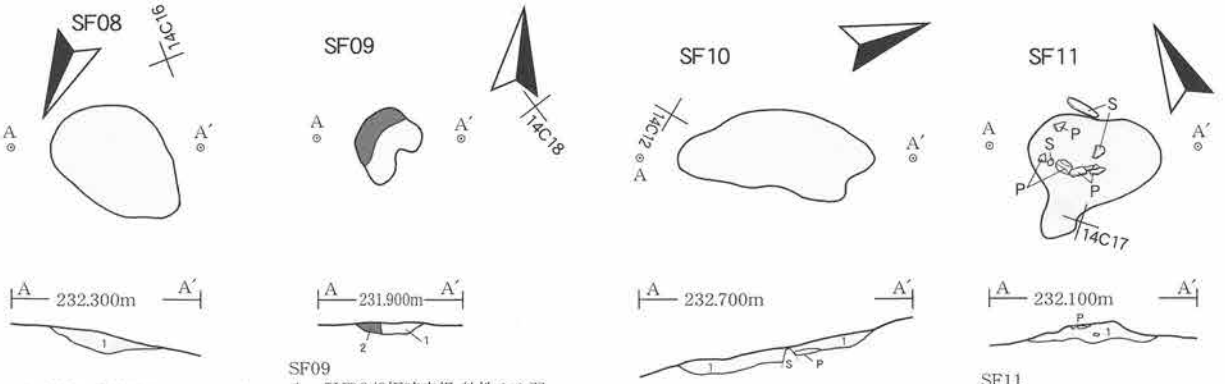
SF04
1．5YR5/6明赤褐 粘性弱 しまり密 焼土(弱変成)
中礫(径1cm 角)多量に含む



SF05
1．5YR3/4暗赤褐 粘性弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
2．5YR2/3極暗赤褐 粘性弱 しまりやや疎 焼土(極弱変成)

SF06
1．5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
2．10YR3/3暗褐 粘性弱 しまり疎 植物痕

SF07
1．5YR4/6赤褐 粘性弱 しまりやや疎

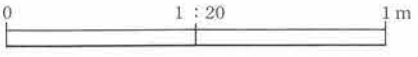


SF08
1．10YR3/4暗赤褐 粘性弱 しまりやや疎

SF09
1．5YR2/3極暗赤褐 粘性やや弱 しまり疎 焼土
2．10YR2/1黒 粘性やや弱 しまり疎 炭化物10%含む

SF10
1．5YR2/4極暗赤褐 粘性やや弱 しまり疎

SF11
1．5YR3/6暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎



第59図　SF01～11 焼土跡

ＳＦ１３焼土跡（第60図、写真図版63）
［位置・検出状況］調査B区13C19に位置する。メインベルト脇に設定したトレンチにかかる状況でで検出した。検出面はⅢ層上面である。［形状・規模］29.5×（24）cmの方形で、深さは2.5cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達はやや不良である。燃焼は弱変成であるが、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ１４焼土跡（第60図、写真図版63）
［位置・検出状況］調査B区14D8に位置する。Ⅳ層上面で検出した。［形状・規模］45.5×37cmの円形で、深さは11cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は良好である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ１５焼土跡（第60図、写真図版63）
［位置・検出状況］調査B区14C21に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［形状・規模］21×15cmの不整形で、深さは7cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達はやや不良である。燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

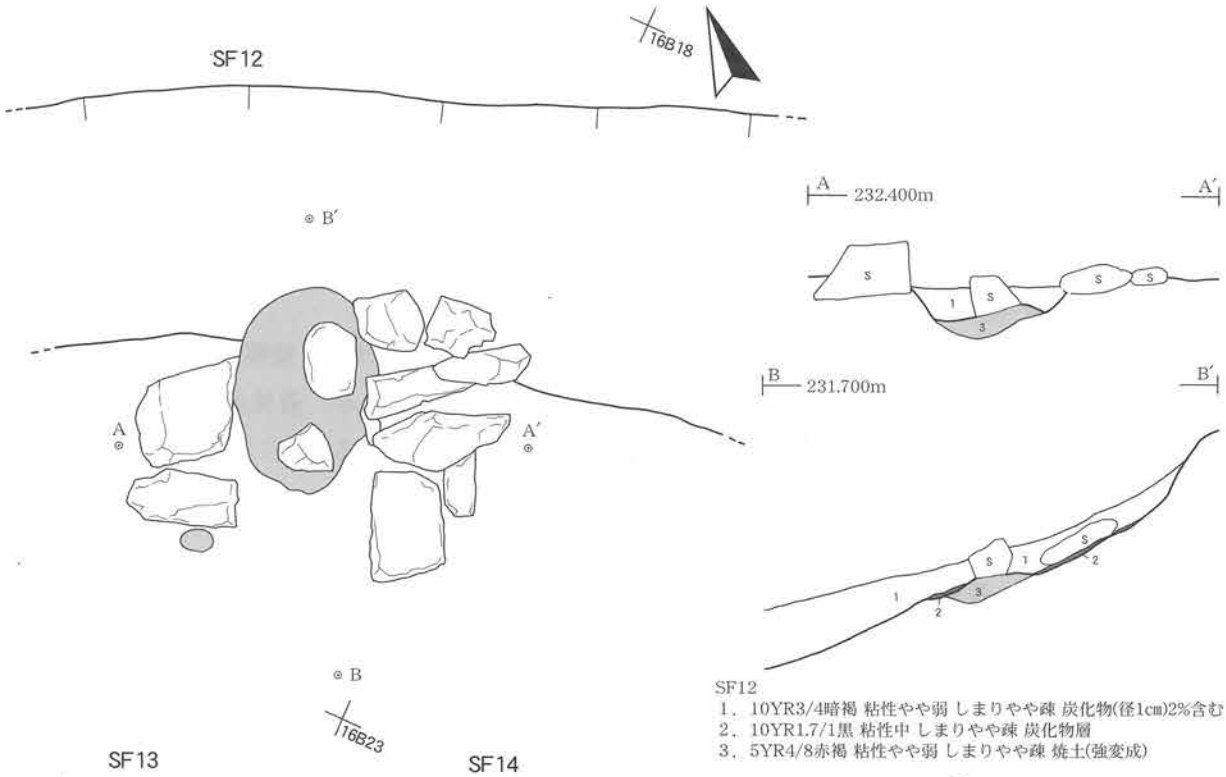
ＳＦ１６焼土跡（第60図、写真図版63）
［位置・検出状況］調査B区12C12に位置する。Ⅳ層上面で検出した。［形状・規模］33×20.5cmの不整形で、深さは3cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は良好である。最終遺構検出面であるⅣ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。

ＳＦ１７焼土跡（第60図、写真図版64）
［位置・検出状況］調査C区22B20に位置し、検出面はⅡ層上面である。［形状・規模］計2基確認された。いずれも平面形は不整円形であり、規模は西が28×13cm、東が21×19.5cmである。
［被熱痕跡の状況］深さは西が6cm、東が3cmである。いずれも弱変成で現地性被熱痕とみなすのは困難である。（村田）

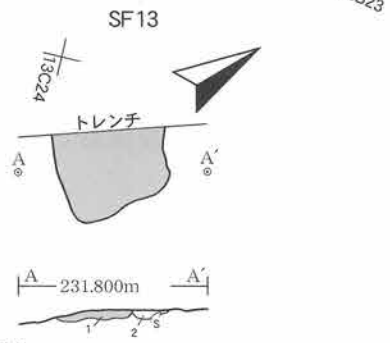
ＳＦ１８焼土跡（第60図、写真図版64）
［位置・検出状況］調査C区20C1に位置し、検出面はⅢ層上位である。［形状・規模］不整円形で、21.5×18.5cmである。［被熱痕跡の状況］深さは３cmで、弱変成である。現地性被熱痕である。

ＳＦ１９焼土跡（第61図、写真図版64）
［位置・検出状況］調査B区15C14に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［形状・規模］53×41cmの不整形で、深さは7cmである。［被熱痕跡の状況］焼土の発達は良好である。他遺構検出面（縄文時代中期）であるⅢ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。（北田）

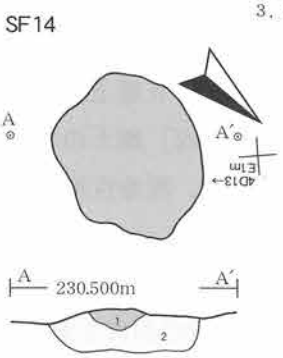
ＳＦ２０焼土跡（第61図、写真図版64）
［位置・検出状況］調査C区20C14に位置し、検出面はSI21堆積土直上である。［形状・規模］不整



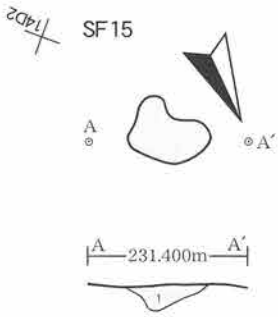
SF12
1．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物(径1cm)2%含む
2．10YR1.7/1黒 粘性中 しまりやや疎 炭化物層
3．5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)



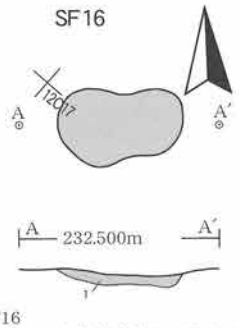
SF13
1．2.5YR3/4暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(弱～強変成)
2．2.5YR2/2極暗赤褐 粘性やや弱 しまり疎 焼土(弱変成)



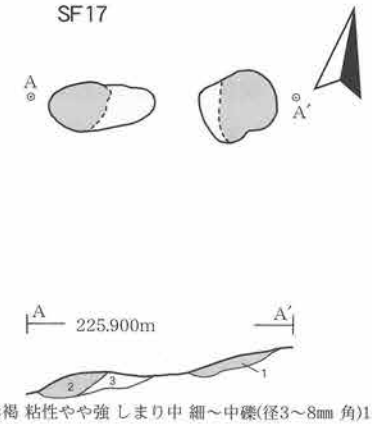
SF14
1．2.5YR5/8明赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(強変成)
2．2.5YR4/4にぶい赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土(弱変成)



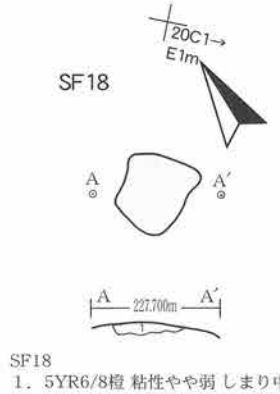
SF15
1．2.5YR3/4暗赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎焼土(弱変成)



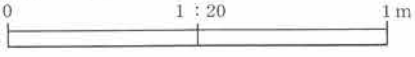
SF16
1．5YR4/8赤褐 粘性やや弱 しまりやや疎 焼土



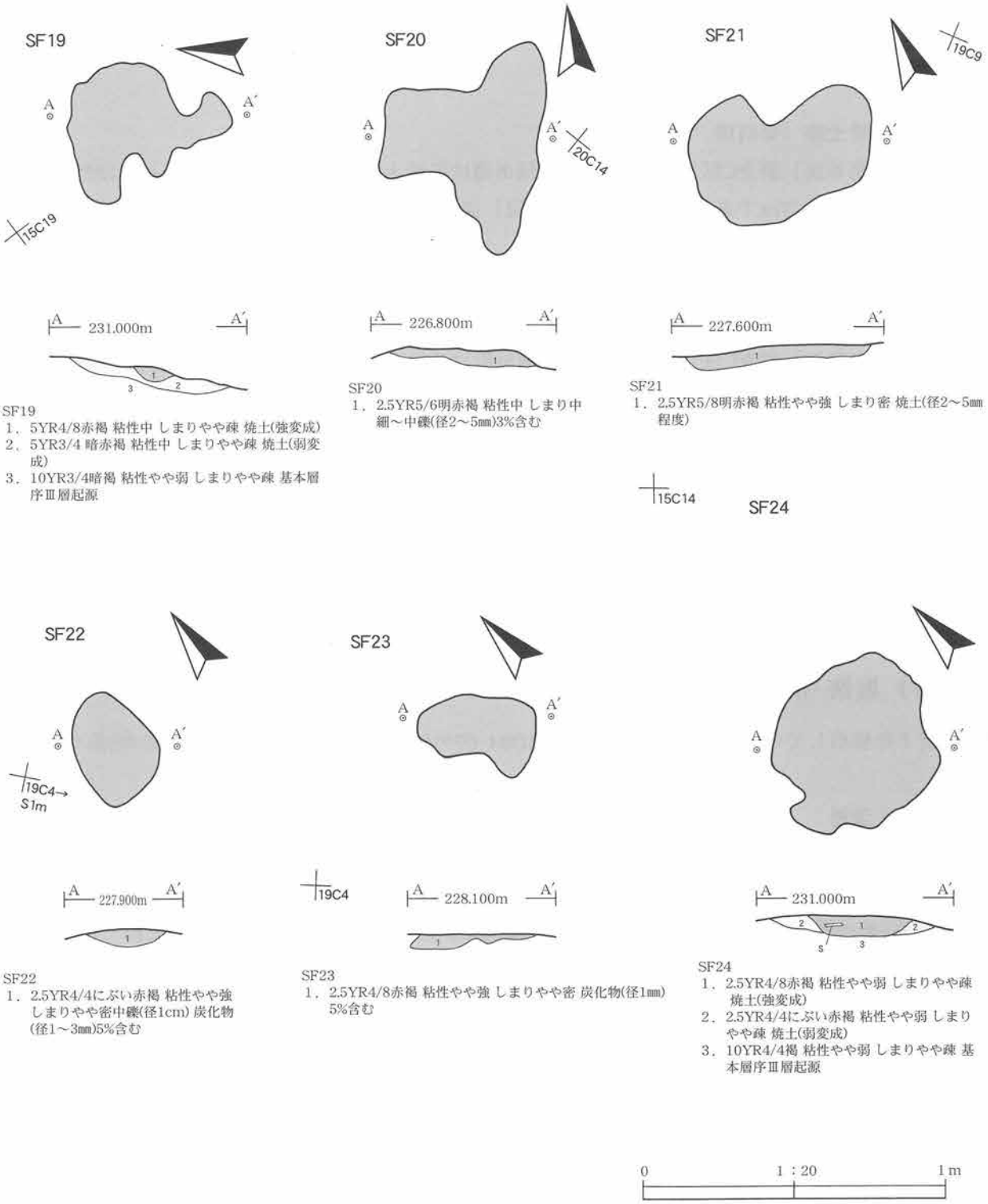
SF17
1．2.5YR5/8明赤褐 粘性やや強 しまり中 細～中礫(径3～8㎜ 角)10% 焼土50% 炭化物10%含む
2．2.5YR4/4 にぶい赤褐 粘性中 しまり中 細～中礫(径3～8㎜ 角)10% 焼土30% 炭化物10%含む
3．2.5YR3/4暗赤褐 粘性中 しまり中 細～中(径3～8㎜ 角)10% 焼土20%含む



SF18
1．5YR6/8橙 粘性やや弱 しまり中 粒子細かく混和物ほとんどなし 焼土(弱変成)



第60図　SF12 炉跡・13～18 焼土跡



第61図　SF19～24 焼土跡

形であり、規模は71.5×52cmである。［被熱痕跡の状況］深さは5cmである。燃焼は比較的良好であり、現地性被熱痕と考えられる。（村田）

ＳＦ２１焼土跡（第61図、写真図版65）

［位置･検出状況］調査C区19C8に位置し、検出面はⅢ層上面である。［形状･規模］不整形であり、

規模は62.5×44cmである。[被熱痕跡の状況] 深さは5.5cm、強変成である。現地性被熱痕と思われる。

ＳＦ２２焼土跡（第61図、写真図版65）
[位置・検出状況] 調査C区19C4に位置し、検出面はⅢ層上面である。[形状・規模] ほぼ円形であり、規模は38×27cmである。[被熱痕跡の状況] 深さは6cmで、強変成である。現地性被熱痕と思われる。

ＳＦ２３焼土跡（第61図、写真図版65）
[位置・検出状況] 調査C区19C4に位置し、検出面はⅢ層上面である。[形状・規模] 不整楕円形であり、規模は39×26cmである。[被熱痕跡の状況] 深さは5cmで、強変成である。現地性被熱痕と思われる。

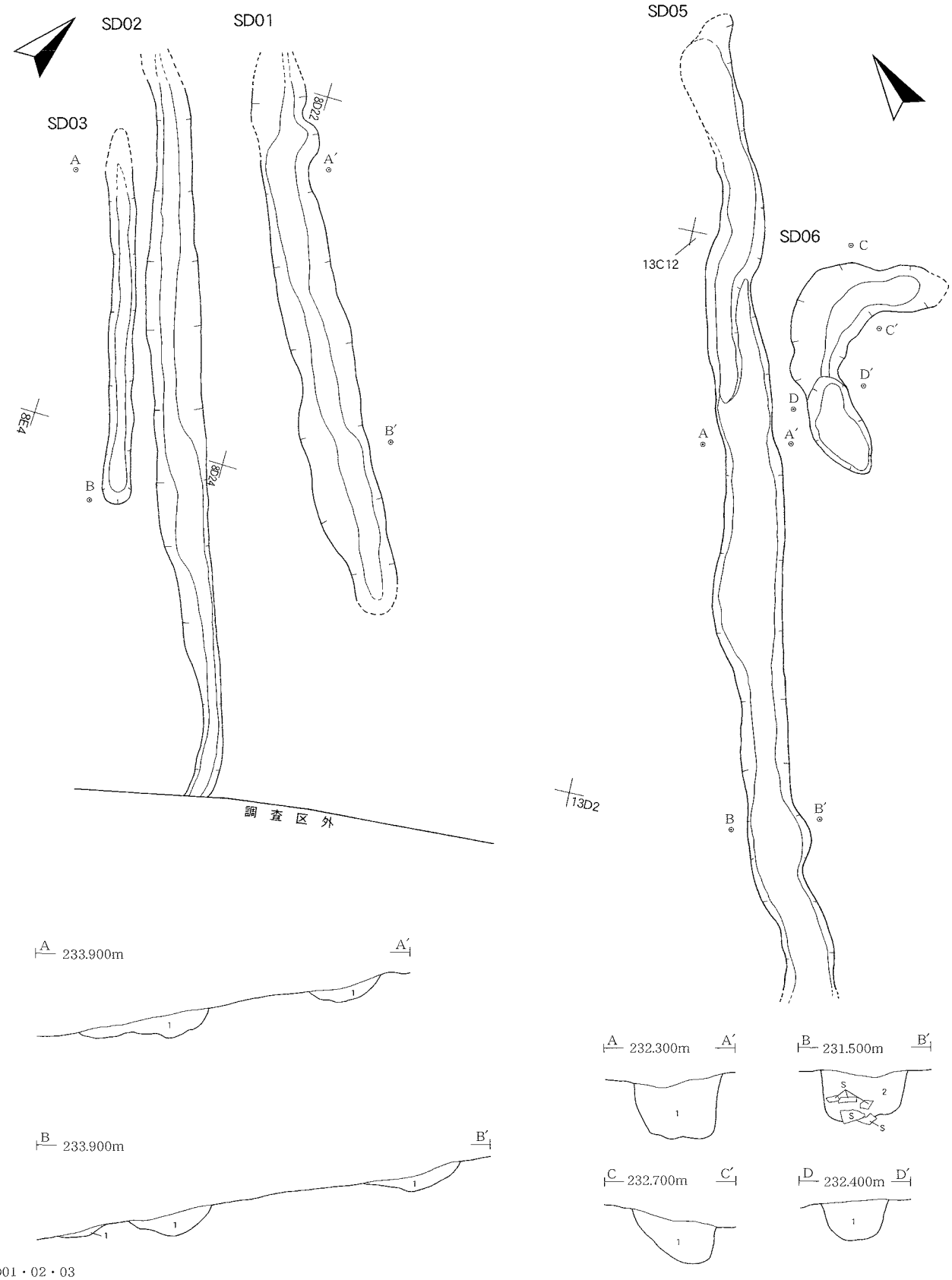
ＳＦ２４焼土跡（第61図、写真図版65）
[位置・検出状況] 調査B区15C14に位置する。Ⅲ層上面で検出した。[形状・規模] 61×53.5cmの不整円形で、深さは7cmである。[被熱痕跡の状況] 焼土の発達は良好である。他遺構検出面（縄文時代中期）であるⅢ層上面の検出であることと燃焼状況から、現地性被熱痕と考えられる。（北田）

(7) 堀跡・溝跡

計７条検出している。このうち、堀跡はSD04・07の2条、溝跡はSD01～03・05・06の5条である。

ＳＤ０１溝跡
遺構（第62図、写真図版68）
[位置・検出状況] 調査A区8D18～19・8D22に位置する。Ⅳ層上面で、北西－南東方向に走る褐色の溝跡3条のうちの1条として検出した（他はSD02・03）。[形状・規模] 長さが北西－南東方向（595）cm、幅が北東－南西方向45～68cmで、北東側は削平の影響で残存していない。断面はⅢ形、深さは10cmである。軸方向はN－55°－Wである。[堆積土] 褐色土の単一層で構成される。Ⅳ層起源の黄褐色ブロックを少量含んでいる。堆積状況は不明である。[付属施設] SD02・03と隣接しており、軸方向がほぼ一致しており、また堆積土が同一であることから同時存在していた可能性がある。
遺物　なし。
時期　不明。　（北田）

ＳＤ０２溝跡
遺構（第62図、写真図版68）
[位置・検出状況] 調査A区8D20・8D22～24に位置する。Ⅳ層上面で、北西－南東方向に走る褐色の溝跡3条のうちの1条として検出した（他はSD01・03）。[形状・規模] 長さが北西－南東方向（778）cm、幅が北東－南西方向20～56cmで、北東側は削平の影響、南東側は調査区外に延びており確認



SD01・02・03
1．10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎 地山小ブロック含む

SD05
1．10YR5/4にぶい黄褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～3cm 亜角)多量に含む 水成堆積か
2．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中～大礫(径5～10cm 亜角)多量に含む 地山との境が不明瞭

SD06
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎

第62図　SD01～03・05・06 溝跡

できない。断面は皿形、深さは16cmである。軸方向はN－43°－Wである。［堆積土］褐色土の単一層で構成される。Ⅳ層起源の黄褐色ブロックを少量含んでいる。堆積状況は不明である。［付属施設］SD01･03と隣接しており、軸方向がほぼ一致しており、また堆積土が同一であることから同時存在していた可能性がある。

遺物　なし。

時期　不明。

ＳＤ０３溝跡

遺構（第62図、写真図版68）

［位置･検出状況］調査A区8D22～24に位置する。Ⅳ層上面で、北西－南東方向に走る褐色の溝跡3条のうちの1条として検出した（他はSD01･03）。［形状･規模］長さが北西－南東方向（393）cm、幅が北東－南西方向25～29cmで、北東側は削平の影響で残存していない。断面は皿形、深さは4cmである。軸方向はN－45°－Wである。［堆積土］褐色土の単一層で構成される。Ⅳ層起源の黄褐色ブロックを少量含んでいる。堆積状況は不明である。［付属施設］SD01･02と隣接しており、軸方向がほぼ一致しており、また堆積土が同一であることから同時存在していた可能性がある。

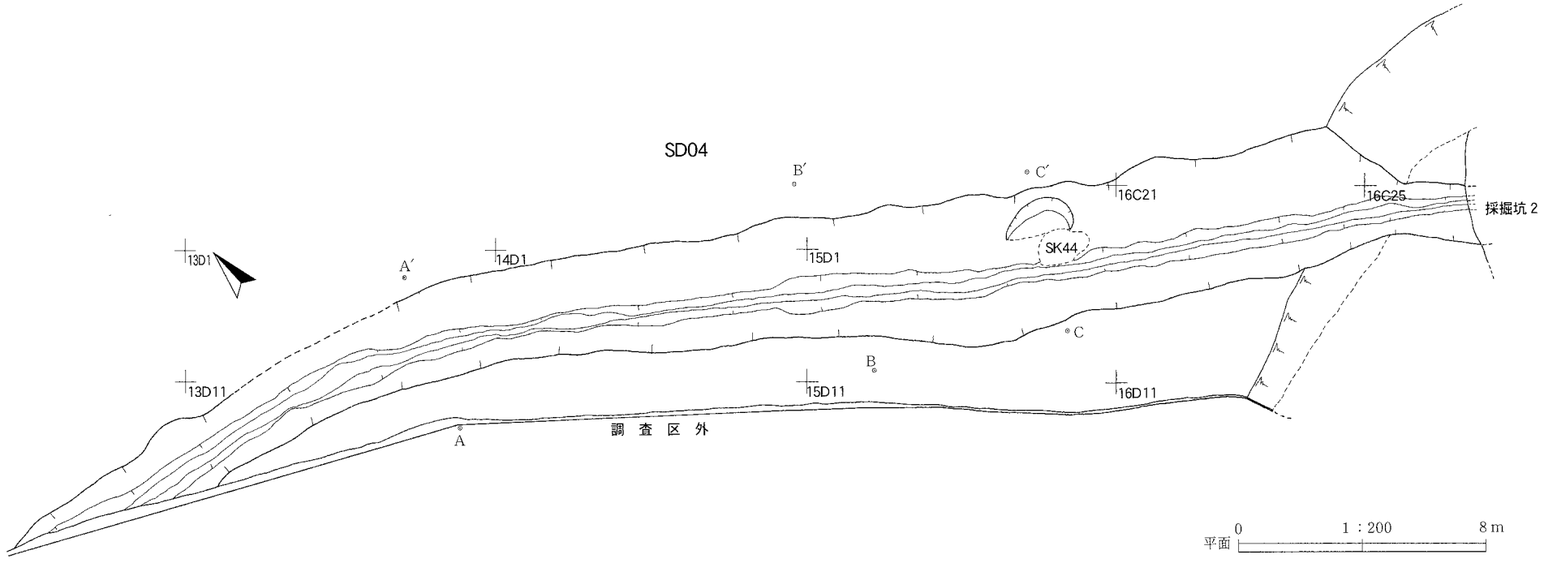
遺物　なし。

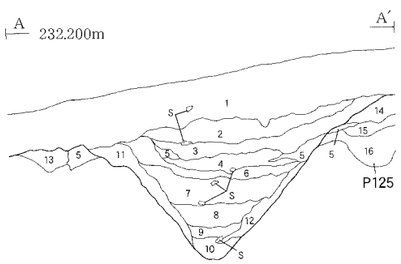
時期　不明。

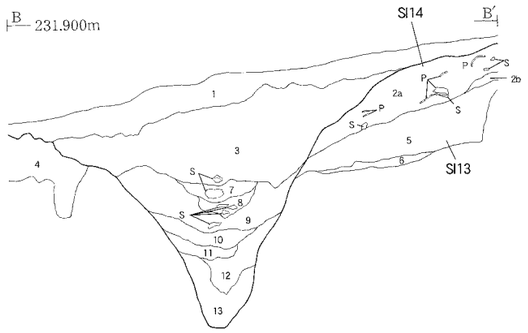
ＳＤ０４堀跡

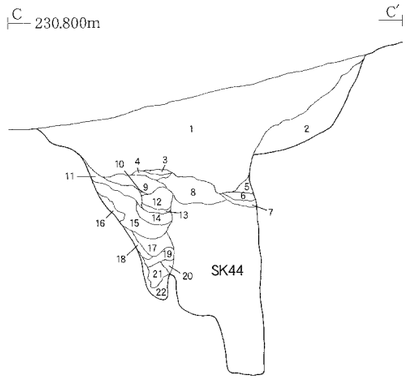
遺構（第63図、写真図版69･70）

［位置･検出状況］調査B区12D～15D･15C･16C･16Dに位置する。表土除去前の試掘トレンチ段階から斜面下側が著しく深くなることは認識していた。表土除去後の遺構検出から、締まりが弱い黒褐色土が北西－南東方向（調査区長軸に沿って）に延びていくことが確認された。3ヵ年分の調査区を遺構が横断しているため、全体は図から把握するに留まるが、各年度の調査から全長は66m、幅は3～7mの黒褐色プランである。各年度に10～20mおきにトレンチを設定し、層位を確認しながら精査を進めた。［形状･規模］長さが東西方向（6600）cm、幅が南北方向300～700cmで、西側は斜面下位方向にカーブしながら調査区外へ延びる。軸方向はN－55°－Wで、西側はN－75°－Wに変化する。断面はV字形、深さは、最深で現況面から309cm（検出面から270cm）である（セクションBで計測）。底面はほぼ一定で、東側に向かって若干傾斜する。［堆積土］西調査区境から15m、35m、45m地点の3箇所にセクションA～Cを設定した。セクションAは計16層、セクションBは計13層、セクションCは計22層である。セクションAはほぼ水平に堆積しており、1層は近年の水田造成による整地層、14～16層は縄文時代の遺物包含層（14･15層はⅡ層、16層はⅢ層）、5･13層は土塁痕跡とも思われる層で、残りの2～4、6～12層が堀堆積土である。2･8層は黄褐色土を流入する層で、8層は砂質土である。セクションBはレンズ状に堆積しており、1層は近年の畑耕作による現表土層、2a･2b層は縄文時代の遺物包含層（2a層はⅡ層、2b層はⅢ層）、5･6層は縄文時代の竪穴竪穴住居跡堆積土（5層はSI13、6層はSI14）、4層は土塁痕跡とも思われる層で、3･7～13層は堀堆積土である。このうち、3層はセクションCの1層と同様に斜面上位からの大規模な一括流入土、7層はⅣ層の二次堆積層、7～13層は斜面上位にある縄文時代の遺物包含層









SD04
セクション1(A-A')
1．10YR4/3にぶい黄褐 粘性弱 しまりやや疎 中～大礫(径3～20cm 亜角)含む 基本層序１層耕作土
2．10YR3/4暗褐＋10YR6/6明黄褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)多量に含む砂層
3．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径１～3cm 亜角)含む
4．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中～大礫(径3～10cm 亜角)少～多量に含む砂層
5．10YR2/2黒褐 粘性中 しまりやや疎
6．10YR2/2黒褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1～3cm 亜角)少～多量に含む
7．10YR2/3黒褐＋10YR2/2黒褐の混合 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)含む
8．10YR4/3にぶい黄褐 粘性弱 しまり疎 砂層
9．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり疎
10．10YR3/3暗褐 粘性中～強 しまり疎 中礫(径1～3cm 亜角)多量に含む
11．10YR2/3黒褐 粘性中～強 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)含む 5･12層とほぼ同じ 基本層序Ⅱ層起源
12．10YR2/1～2/2黒～黒褐 粘性中～強 しまり疎 中礫(径1cm亜角)含む 5･12層とほぼ同じ 基本層序Ⅱ層起源
13．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 1層に近く土壁が削平された痕跡か
14．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 基本層序Ⅱ層
15．10YR2/3黒褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎 基本層序Ⅲ層
16．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 基本層序Ⅲ層

セクション2(B-B')
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 基本層序１層耕作土
2a.10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～3cm 亜角)含む 土器多量混入
2b.10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 基本層序Ⅲ層
3．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)含む
4．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)含む
5．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 SI13(前期後葉か)堆積土
6．10YR4/4褐＋10YR2/3黒褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎
7．10YR6/6明黄褐 二次堆積層 大礫(径10cm 亜角･亜円)含む
8．10YR3/4暗褐 粘性弱 しまり疎 中～大礫(径5～10cm 亜角･亜円)含む
9．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)含む
10．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎 中礫(径1～2cm 亜角)含む
11．10YR2/2～3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 黄褐粘土質ブロック含む
12．10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎
13．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎

セクション3(C-C')
1．10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～5cm 亜角)3%含む
2．10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～3cm)3%含む
3．10YR3/4暗褐 粘性弱～やや弱 しまりやや密
4．10YR3/3暗褐＋10YR7/4にぶい黄橙の混合 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1cm 亜角)2%含む
5．10YR2/3黒褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎
6．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
7．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎～中
8．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまり疎～やや疎 にぶい黄橙粒(径1cm)1%含む
9．10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまりやや密 黄橙ブロック(径3cm)2%含む
10．10YR6/8明黄褐 粘土 粘性やや弱 しまり密
11．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 黄橙粒(径2cm)2%含む
12．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)10%含む
13．10YR7/8黄橙 粘土 粘性中 しまり密
14．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまり中～やや密
15．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり中～やや密 炭化物1%含む
16．10YR5/6黄褐 砂質 粘性やや弱 しまりやや密
17．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 全体に明黄褐を縞状に散在
18．10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 全体に明黄褐ブロック(径1～2cm)5%含む
19．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎
20．10YR3/4暗褐＋10YR6/8明黄褐の混合 粘性やや弱～中 しまりやや疎
21．10YR3/4暗褐＋10YR4/6褐の混合 粘性やや弱～中 しまりやや疎
22．10YR4/4褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性中 しまり中

0　1：80　3ｍ
断面

第63図　SD04 堀跡

や遺構堆積土が崩落及び流入して堆積したものと思われる。セクションCはBと同様にレンズ状に堆積していたと思われるが、埋没中の9～22層が堆積した時点でSK44が掘削された。これにより、断面北側は消失し、さらにその後の埋没過程により本来の層序に乱れが生じている。1･3～8層はSK44埋没後に流入した堆積土、2層はテラス状の窪地に堆積したⅡ層起源土、9～22層は堀堆積土である。このうち、10･13層はⅣ層二次堆積層、16層は壁崩落土層、22層は使用時からの崩落堆積層、残りの9･11･12･14･15･17～21層は斜面上位の遺物包含層（大半がⅢ層起源土、14層はⅡ層起源か）や遺構堆積土が流入して堆積したと見られる。

遺物（第115～118･135～139･161～169･171･172･174～176･178･179･185･189･191･195･197･200～204･207･208･210･211図、写真図版110～112･132～136･139～142･145･147･149･151･154～156･158～160）

[出土状況] 遺物包含層や遺構の重複が著しい14～16グリッドライン下位にある本遺構の堆積土中を中心に多量の遺物が出土している。

[土器] 縄文土器6,406片（110,660g）を出土している。このうち、529～591の63点を掲載した。Ⅳ～Ⅶ･Ⅸ群に含まれる。

[石器] 計1,521点を出土している。尖頭器6点、石鏃90点（うち11点が黒曜石製、その中で小赤沢産3点、月山系産5点、未知3点の産地同定結果）、石錐17点、石匙8点、篦状石器4点、楔形石器4点、スクレイパー類28点、二次加工ある剥片55点、微細剥離痕ある剥片17点、石核10点、剥片1,133点（うち黒曜石製29点で、その中で産地同定した10点が小赤沢産）、石斧類33点、礫器類23点、敲磨器類57点、礫石錘10点、石皿台石類15点、球石1点で、このうち908･914･917･919･921尖頭器、926･935･943～945･952･953･980･981･1004～1006･1018･1019･1022･1025･1026･1029～1031･1035･1036石鏃、1047･1055･1056石錐、1064･1079･1082石匙、1095･1097篦状石器、1101･1105楔形石器、1108･1121･1122･1125･1127スクレイパー類、1128二次加工ある剥片、1154･1155石核、1171･1175･1176石斧類、1186礫器類、1205･1210･1211･1224･1238･1244･1246敲磨器類、1249･1255礫石錘、1262石皿台石類を掲載した。

[石製品] 石棒類が4点出土している。このうち、1272･1274の2点を掲載した。

[土製品] 土器片円盤（891）を1点出土している。

[陶磁器] 9号1袋分出土している。このうち、1280の1点を掲載した。

[銭貨] 計7点出土しており、1293～1298･1303のすべてを掲載した。6点が永楽通寶、1点が寛永通寶で、いずれもセクションCの3層に含まれるものである。

時期　遺物は斜面上位にある遺物包含層及び遺構堆積土からの流入による縄文時代のものが大半を占め、その他の時期としては陶磁器9号1袋分、銭貨7点のみである。本遺構は縄文時代の遺構を含む遺物包含層より上から掘り込んで構築していることから縄文時代のものとは考えられない。当初はSD07と同時期とも思われたが、堆積土と堆積状況から異なる時期に存在した可能性がある。遺構形態と堆積土上位に含まれる近世遺物から、中世もしくは中世～近世に構築され、近世以降に完全に埋没したのではないかと考えられる。

ＳＤ０５溝跡

遺構（第62図、写真図版71）

［位置･検出状況］調査B区13C7･12･17･21に位置する。Ⅳ層上面で、北東－南西方向に走る礫を多量に含むにぶい黄褐色の溝状として検出した。［形状･規模］長さが北東－南西方向（1030）cm、幅が北西－南東方向47～71cmで、南西側はSD04と重複しているため確認できない。断面は鍋底～皿形、深さは37cmである。軸方向はN－25°－Eである。［堆積土］上位がにぶい黄褐色土、下位が黒褐色土主体の2層で構成される。1層は径1～3cmの中礫を多量、2層は径5～10cmの中～大礫を多量に含み、下位ほど多くなる傾向があるため、水成堆積と思われる。2層下位は徐々にⅣ層との境界が不明瞭となる。一括土が堆積しているため短期間に多量の土砂が流入したと思われる。［付属施設］SD06と隣接しており、堆積土が類似しているため、同時存在していた可能性がある。SD04との関係性も考えられるが、不明である。

遺物　なし。

時期　不明。　（北田）

ＳＤ０６溝跡

遺構（第62図、写真図版71）

［位置･検出状況］調査B区13C12･13に位置する。Ⅳ層上面で、東西方向に弧状に走るにぶい黄褐色の溝状として検出した。［形状･規模］長さが東西方向300cm、幅が北西－南東方向などで43～73cmで、溝は東西方向に走っているが、北側に弧状に大きく張り出している。断面は鍋底形、深さは29cmである。［堆積土］にぶい黄褐色土の単一層で構成される。径1～3cmの中礫を多量に含み、下位ほど多くなる傾向があるため、水成堆積と思われる。一括土が堆積しているため短期間に多量の土砂が流入したと思われる。［付属施設］SD05と隣接しており、堆積土が類似しているため、同時存在していた可能性がある。SD04との関係性も考えられるが、不明である。

遺物（掲載なし）

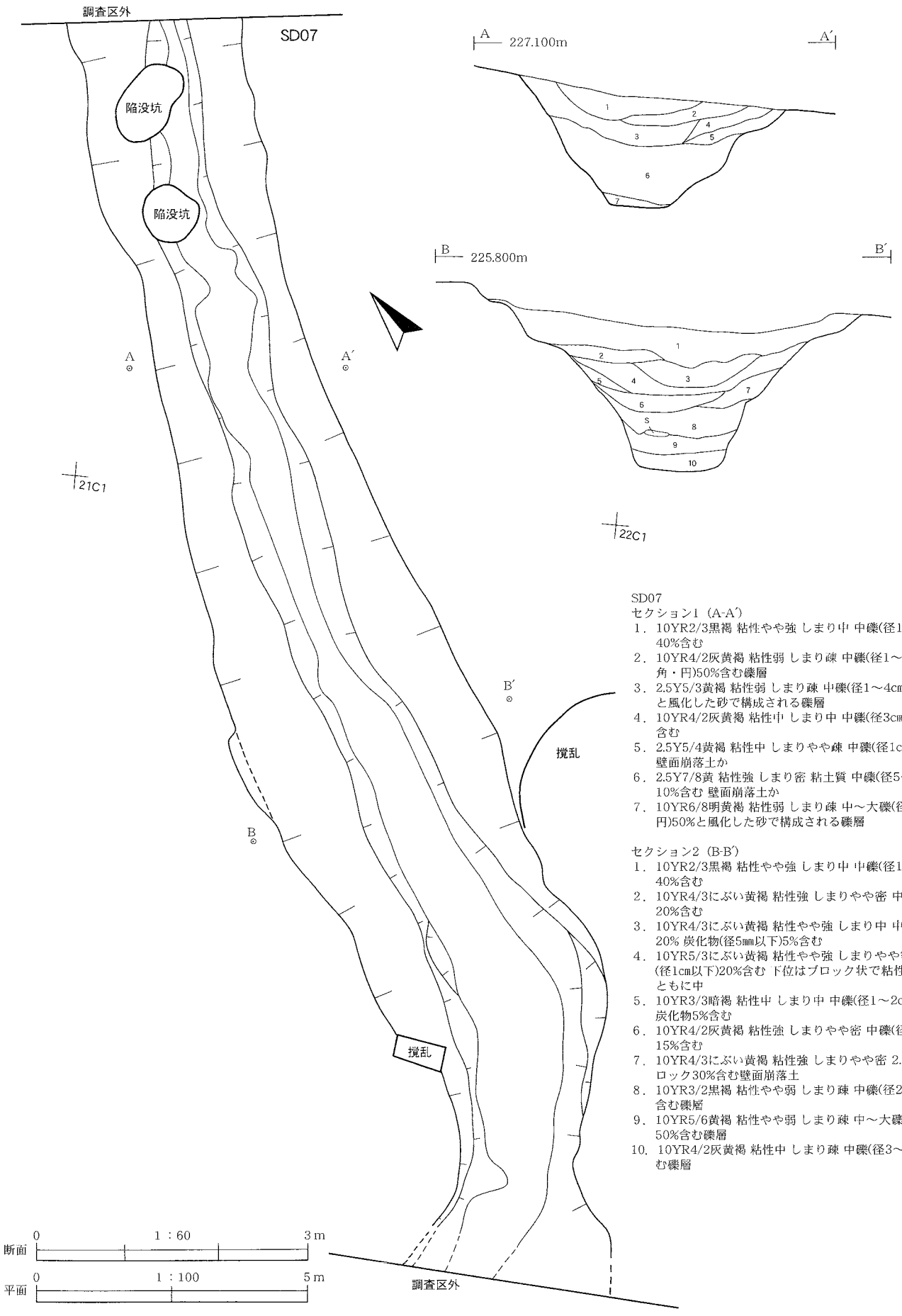
［土器］縄文土器14片（65g）を出土している。

時期　不明。

ＳＤ０７堀跡

遺構（第64図、写真図版72･73･159）

［位置･検出状況］調査C区21B～Cに位置する。Ⅰ層表土除去を行った後、Ⅱ層上面で遺構検出を行ったところ、21B～C区に南北方向（斜面上～下）に大きく縦長に拡がる黒褐色プランを検出した。斜面下位の一部に覗き掘りを入れたところ、逆台形の黒褐色に堆積する断面が表れたため、堀跡を想定して精査を進めた。［形状･規模］長さが南北方向（2420）cm、幅が東西方向219～443cmで、検出分中央がやや幅広になっており、斜面下側が南西方向に折れている。南北は調査区外へ延びている。軸方向はN－23°－Eで、斜面下側はN－40～70°－Eに変化する。断面は逆台形、深さは最深で162cmである。底面は一定ではなく、凹凸が激しく、特に斜面下位は複雑になる。［堆積土］断面を斜面上位と下位に2箇所設定し、確認を行った（セクションA･B）。上位のセクションAは計7層、下位のセクションBでは計10層である。いずれもほぼ平行に堆積しており、砂礫を多く含む。セクションAでは、壁面崩落土と思われる6層黄褐色粘土質土が大半を占める。セクションBでは、やや下位の8層に径3～5cmの中礫を多量に含む黒褐色土があり、それより上位は



SD07
セクション1（A-A´）
1．10YR2/3黒褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径1cm 角)40%含む
2．10YR4/2灰黄褐 粘性弱 しまり疎 中礫(径1～4cm 角・円)50%含む礫層
3．2.5Y5/3黄褐 粘性弱 しまり疎 中礫(径1～4cm 角・円)と風化した砂で構成される礫層
4．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまり中 中礫(径3cm 角)10%含む
5．2.5Y5/4黄褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1cm)10%含む 壁面崩落土か
6．2.5Y7/8黄 粘性強 しまり密 粘土質 中礫(径5～20mm 角)10%含む 壁面崩落土か
7．10YR6/8明黄褐 粘性弱 しまり疎 中～大礫(径3～7cm 円)50%と風化した砂で構成される礫層

セクション2（B-B´）
1．10YR2/3黒褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径1cm 角)40%含む
2．10YR4/3にぶい黄褐 粘性強 しまりやや密 中礫(径1cm)20%含む
3．10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまり中 中礫(径1～3cm)20% 炭化物(径5mm以下)5%含む
4．10YR5/3にぶい黄褐 粘性やや強 しまりやや密 中礫(径1cm以下)20%含む 下位はブロック状で粘性 しまりともに中
5．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり中 中礫(径1～2cm 角)20% 炭化物5%含む
6．10YR4/2灰黄褐 粘性強 しまりやや密 中礫(径5～10mm)15%含む
7．10YR4/3にぶい黄褐 粘性強 しまりやや密 2.5Y7/8黄ブロック30%含む壁面崩落土
8．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径2～5cm)50%含む礫層
9．10YR5/6黄褐 粘性やや弱 しまり疎 中～大礫(径3～8cm)50%含む礫層
10．10YR4/2灰黄褐 粘性中 しまり疎 中礫(径3～5cm)50%含む礫層

第64図　SD07 堀跡

中礫を多量に含むにぶい黄褐色土が主体となる。いずれも水成による自然堆積と考えられる。黒褐色土の流入がセクションAでは1層、セクションBでは1･8層に限られるため、短期間のうちに黄褐色土を主体とした土砂によって埋没した可能性がある。

遺物（第118･174･182･203･210図、写真図版112･140･144･155）

［出土状況］大半が1層黒褐色土からの出土で、まれに礫混じりの黄褐色土中からも含まれる。遺構の存続時期と合致する時期の遺物は出土していない。

［土器］縄文土器164片（2,190g）を出土している。このうち、592･593の2点を掲載した。Ⅸ群に含まれる。

［石器］計36点を出土している。尖頭器1点、石鏃7点、石匙2点、篦状石器1点、スクレイパー類1点、二次加工ある剥片3点、石斧類1点、敲磨器類1点、礫石錘3点で、このうち1092篦状石器、1141二次加工ある剥片、1259礫石錘を掲載した。

［石製品］石棒類が1点出土している。

［陶磁器］1281の1点を掲載した。

時期　当初はSD04堀跡と同時期と思われたが、堆積土と堆積状況から異なる時期に存在した可能性がある。縄文時代の竪穴住居跡を切っており（SI20･36）、また検出面がそれらよりも上位のⅡ層上面であること、堆積土6層から陶磁器1281が出土していることから、中世～近世もしくは近世以降と幅をもって考えておきたい。（村田）

(8) 墓　　坑

ＳＺ０１墓坑

遺構（第65図、写真図版74）

［位置･検出状況］調査A区7D16に位置する。Ⅳ層上面で黒褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が南北方向138cm、短軸が東西方向104cmの楕円形（卵形）である。断面は鍋底形、深さは39.5cmである。［堆積土］暗褐色土主体の3層で構成される。明黄褐色ブロックなどが多く、人為堆積と考えられる。［特記］堆積土下位から少量の骨片が出土している。

遺物　なし。

時期　近世以降に想定される。（北田）

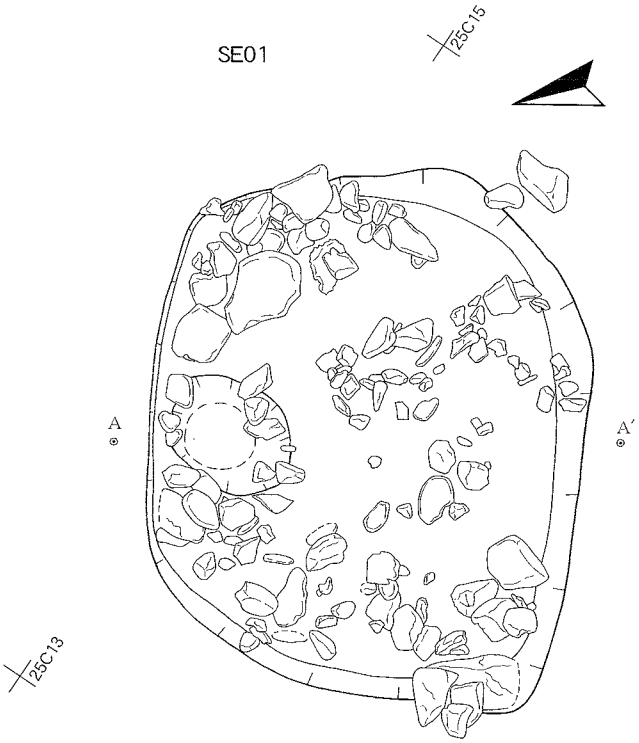
ＳＺ０２墓坑

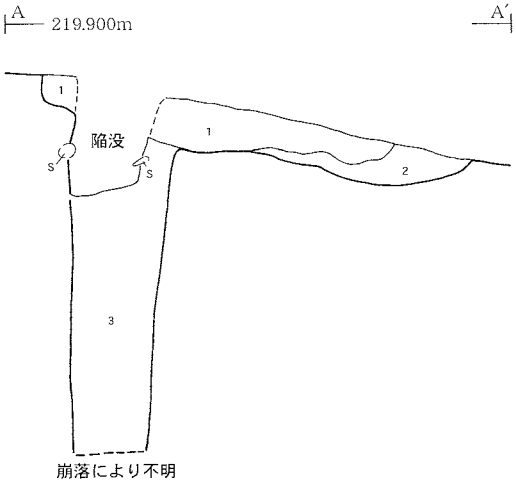
遺構（第65図、写真図版74）

［位置･検出状況］調査B区13C14に位置する。Ⅲ層上面において、散在する礫と黒褐色の方形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が北東－南西方向175cm、短軸が北西－南東方向148cmの方形である。断面は鍋底形、深さは最深で48cmである。［堆積土］黒褐色土の単一層で構成される。掘り込みはⅣ層まで行われているが、黒褐色土一括のみが堆積している。Ⅳ層起源ブロックは見られないが、一括土での埋め戻しと判断した。［礫］底面には扁平礫4個を用いて、「口」形の方形に配置している。［特記］堆積土下位から不明動物遺存体（11.36g）が出土している。

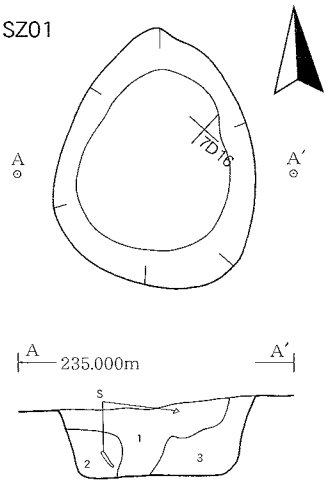
遺物　なし。

時期　近世以降に想定される。

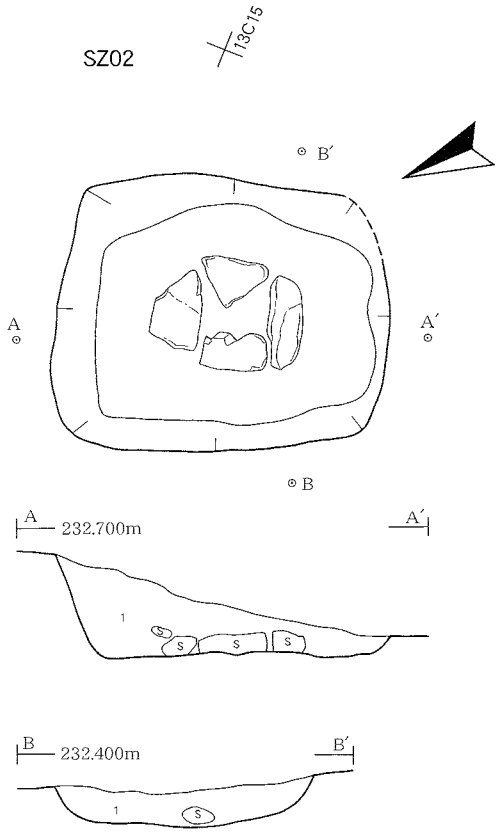




SE01
1．10YR2/3黒褐 粘性やや強 しまりやや密 細～中礫(径3～10㎜ 角)15～25% 灰色砂15%含む
2．2.5Y6/8明黄褐 粘土質 粘性強 しまり密 礫を多量に含む
3．10YR3/1黒褐 粘性中 しまり中 礫との混合層



SZ01
1．10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり疎 明黄褐小ブロック(径1㎝)を斑状に含む
2．10YR3/3暗褐 粘性中 しまり疎 黒褐ブロック(径10㎝)含む
3．10YR4/4褐＋10YR6/8明黄褐の混合 粘性中 しまりやや疎



SZ02
1．10YR2/3黒褐 粘性中 しまり疎
※単一で一括の埋め戻し土

0　1：40　1.5m

第65図　SE01 井戸跡　SZ01・02 墓坑

(9) 井　戸　跡

ＳＥ０１井戸跡

遺構（第65図、写真図版75）

[位置･検出状況] 調査D区25C13･14に位置する。Ⅳ層上面において、陥没坑とその周辺に拡がる黒褐色の方形プランを検出した。[形状･規模] 上部施設の長軸が東西方向282cm、短軸が南北方向228cmの方形である。断面は皿形、深さは32cmである。上部施設底面の北側中央に礫に囲まれた楕円形の開口部がある。この箇所は検出時から陥没する形で開口していた。長軸が北東－南西方向68cm、短軸が北西－南東方向52cmの楕円形である。深さは下部が崩落のため不明であるが、(165) cm以上である（陥没分は62cm)。[堆積土] 上部施設は黒褐色土主体で、多量の細～中礫と砂を混入する。下部には多量の大礫が見られ、一部に明黄褐色粘土質土を貼っている。下部施設は一部崩落しており、黒褐色土と大礫が混合して堆積している。

遺物（掲載なし）

[土器] 縄文土器20片（225g）を出土している。

時期　近世以降に想定される。　（村田）

(10) 石　組　遺　構

26C区石組遺構

遺構（第66図、写真図版75）

[位置･検出状況] 調査D区25C10･15、26C1･2･6･7･11に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の不整形な拡がりとして検出した。南側は調査区外に延びている。[形状･規模] 掘り込みの長軸が東西方向(640) cm以上、短軸が南北方向(343) cm以上の不整形である。掘り込みは形状から3つの不整円形が集合したものと思われ、底面付近には大～巨礫(亜角礫)が多量に散乱していた。断面は深い皿形、深さは最深で60cmである。礫は掘り込み底面付近の一面に散乱しており、範囲は長軸が東西方向410cm、短軸が南北方向(300) cm以上である。礫は積み重なった状態で検出しており、全体的に下部は花崗岩や閃緑岩と思われる巨礫、上部は石灰岩と思われる大～巨礫で、逆位になっているものはない。[堆積土] 3層で構成される。1層はⅣ層再堆積土であり、本遺構掘削時かは不明であるが、本遺構埋没後に東側を何らかの理由で掘削し、また埋め戻したと考えられる。よって、本遺構の純粋な堆積層は2・3層であるが、3層は礫と同一もしくは下位レベルに見られるため、本遺構存続時の人為的な構築土と推測される。2層は遺構廃絶後の堆積土である。遺構の状況から、排水のために石組を行った暗渠跡の可能性があるが、崩落のため原形を留めていない。

遺物　なし。

時期　近世以降に想定される。　（北田）

(11) 採掘坑（第22図）

16C･17C～D･18C～D区にかけて、採掘を目的としたと思われる大規模な掘削坑を検出した。採掘坑は大きく3ヵ所あると思われる。採掘坑1は16C区で3ヵ所のうち最も北側にあり、規模は北東－南西方向7.2m、北西－南東方向8.5m、深さ2.0～2.5mの円形を呈する。採掘坑2は宅地部分の

26C区 石組遺構
1．10YR6/6明黄褐 粘土質 粘性やや弱 しまり密 中礫(径1～5cm)大礫(径5～20cm)30% 撹乱埋め戻し土 地山土を再堆積している
2．10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1～5cm)15% 石組部分崩壊時の堆積土(人為か)
3．10YR3/3暗褐 粘土質 粘性やや弱 しまり中～やや密 粘性が2層より強く人為的な構築土と推測される(礫をほとんど含まない)

0　1：40　1.5m

第66図　26C 区石組遺構

17C～D、18C～D区の3箇所のうち最も南側にあり、規模は北東－南西方向8.6m、北西－南東方向15m前後、深さ1.1～1.5mの楕円形を呈する。採掘坑3は採掘坑1･2の間に重なるようにあり、17C11付近、規模は北東－南西方向5.5m前後、北西－南東方向8.2m、深さ1.0～1.6mの楕円形（不整円形）を呈する。堆積土については、採掘坑1は黒褐色土や褐色土と暗褐色砂礫土、明黄褐色粘土質土の互層を成しており、斜面上位からの自然流入によるものである。採掘坑2は黒褐色土や褐色土主体となるが、人頭大の巨礫を多量に含む一括流入土、採掘坑3は黒褐色土主体で、下位に30～50cm大の巨礫、上～中位に中～大礫を多量に含んでいる。

3ヵ所の採掘坑内には各々竪掘りを行ったと思われる陥没坑も幾つか見られる。また、採掘坑外にも不整形の土坑くずれ的な試掘坑も散在している。

遺構の帰属時期については、縄文時代遺物以外は極少量で不明であるが、中世と思われるSD04堀跡を採掘坑2が切っていること、流入土に近世陶磁器を含むことなどから、近世以降と大きく捉えたい。また、採掘坑の類例として平成2～4年に調査を行った大船渡市猪川館跡があり、計20ヵ所の採掘跡が見つかっている（岩文振第203集）。

（12）ピット（第19～24･67図）

土坑を直径100cm以上とし、それ以下をピットと分類した。検出したピットは計326個である。詳細な検討は行うことが出来なかったが、一部を除き柱穴として使用されたと見られ、何らかのプランを形成するものと思われる。規模には各々ばらつきが見られるが、開口部の平均値は長軸43.7cm、単軸35.3cm、底部の平均値は長軸24.1cm、短軸18.7cm、深さの平均値は30.0cm、底部標高平均値231.409mである。検出層位はⅡ～Ⅳ層上面であり、大半は遺構検出最終面であるⅣ層上面で見つかっている。

本遺跡は、縄文時代、平安時代、中世、近世以降の遺構･遺物が出土しており、本遺構からも縄文土器などを出土するが、これが遺構の存続時期に関わるものか、また後世に流入したものかは不明なため、ここでは帰属時期は不明として扱う。ただし、堆積土、出土遺物は表に記載している。

以下に、柱穴以外の用途が想定されるピットを抜粋した。いずれもピットの中ではやや大きめで、遺物を多量に含んでおり、小型の土坑と見られる。（北田）

Ｐ８４ピット

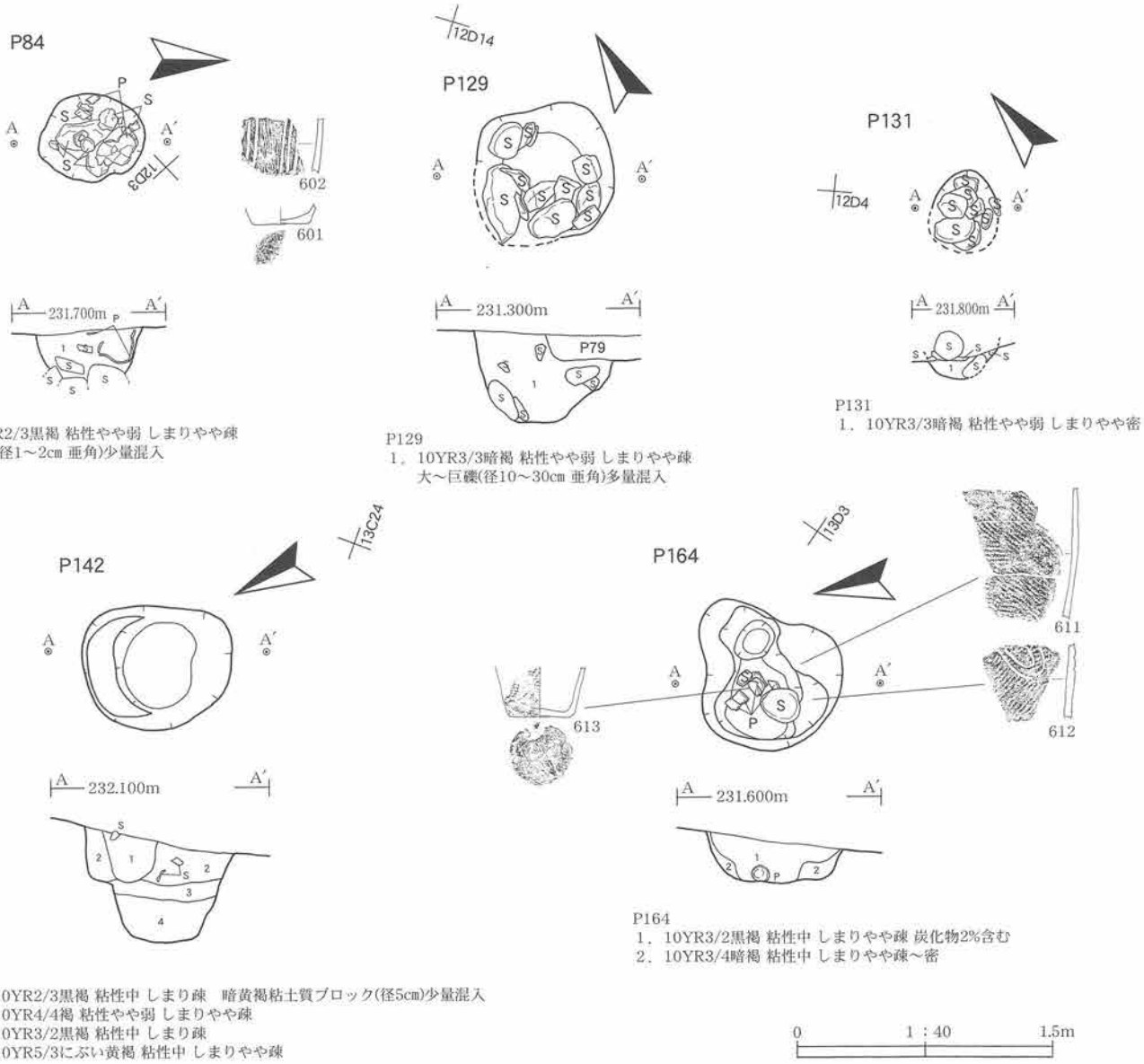
遺構（第67図）

［位置･検出状況］調査B区12D3に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が南北方向63cm、短軸が東西方向52cmの円形である。断面は鍋底形、深さは27cmである。底面は礫混じりのⅣ層で形成される。［堆積土］黒褐色土の単一層で構成され、自然堆積と考えられる。堆積土中に土器や中～大礫を含む。

遺物（第119図、写真図版114）

［土器］縄文土器164片（3,095g）を出土している。このうち601～603の3点を掲載した。Ⅶ･Ⅸ群が出土している。

［石器］計2点を出土している。二次加工ある剥片1点、剥片1点である。



第67図　P84・129・131・142・164 ピット

時期　縄文時代に想定される。

Ｐ１２９ピット

遺構（第67図）

［位置･検出状況］調査B区12D14に位置する。Ⅳ層上面において、暗褐色土の略円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が東西方向83cm、短軸が南北方向78cmの略円形である。断面は鍋底形、深さは52cmである。［堆積土］暗褐色土の単一層で構成される。南半の壁に大～巨礫を8個以上組むような状況で検出した。礫の埋設状況から、人為堆積と考えられる。柱穴の根固め的に使用されたのかもしれないが、柱痕は検出していない。

遺物（掲載なし）

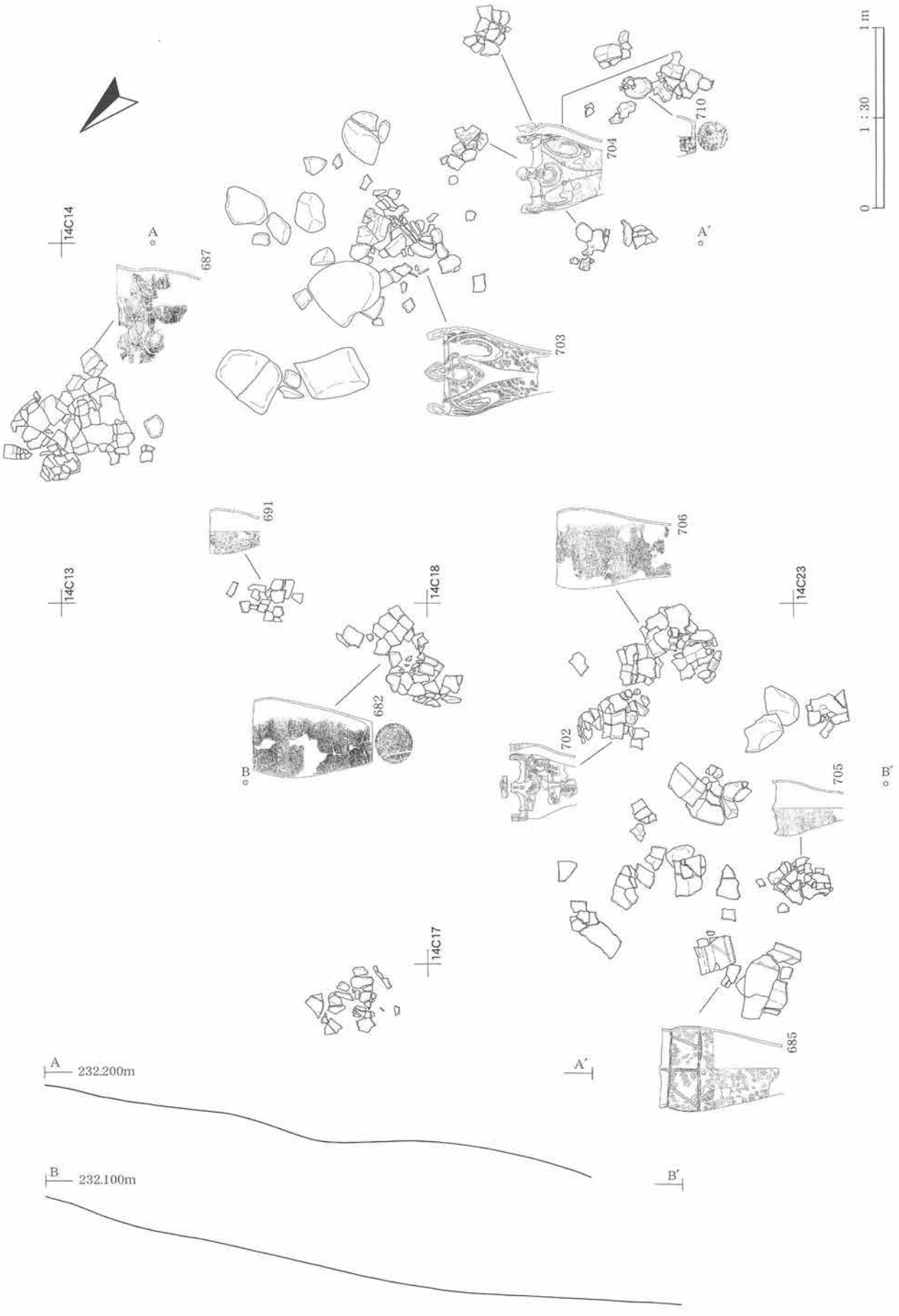
［土器］縄文土器4片（30g）を出土している。

［石器］計5点を出土している。石鏃1点、スクレイパー類1点、剥片3点である。
時期　縄文時代に想定される。

Ｐ１３１ピット
遺構（第67図）
［位置･検出状況］調査B区12D4に位置する。Ⅳ層上面において、大礫が露出し、下部は堆積土上位に埋没する暗褐色の円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が北東－南西方向49cm、短軸が北西－南東方向52cmの円形である。断面は皿形、深さは11cmである。底面はⅣ層である。［堆積土］暗褐色土の単一層で構成される。検出時から露出していた礫の下からピット全体に中～大礫（亜角礫）が7～8個入れられていた。礫の状況から、人為堆積と考えられる。
遺物（掲載なし）
［土器］縄文土器4片（65g）を出土している。
時期　縄文時代に想定される。

Ｐ１４２ピット
遺構（第67図）
［位置･検出状況］調査B区13C19に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色土の楕円形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が北東－南西方向88cm、短軸が北西－南東方向73cmの楕円形である。断面は逆台形、深さは59cmである。北側にテラス状の中段があり、長軸58cm、短軸15cmである。［堆積土］上部は黒褐色、下部はにぶい黄褐色土主体の4層で構成され、自然堆積と考えられる。2～4層については水平堆積しているが、1層は他ピット堆積土の可能性もある。
遺物（第119図、写真図版114）
［土器］縄文土器16片（270g）を出土している。このうち608･609の2点を掲載した。Ⅶ･Ⅸ群が出土している。
時期　縄文時代に想定される。

Ｐ１６４ピット
遺構（第67図）
［位置･検出状況］調査B区13D2に位置する。Ⅳ層上面において、黒褐色の不整形プランとして検出した。［形状･規模］長軸が北東－南西方向96cm、短軸が北西－南東方向88cmの不整形である。北東側に一段下がる小ピット部分があり、独立したピットの可能性もある。この場合は本遺構が88×(70) cm 程度の楕円形プランとなる。断面は逆台形、深さは59cmである。［堆積土］黒褐色土主体の2層で構成される。底面から土器（613）と大礫（円礫）1個が出土している。堆積状況は不明である。
遺物（第119図、写真図版114･115）
［土器］縄文土器33片（870g）を出土している。このうち611～613の3点を掲載した。Ⅶ･Ⅸ群が出土している。
時期　縄文時代に想定される。



第68図　B区 14C12～19Ⅲ層上面～上位遺物集中

（13）B区14C12～19Ⅲ層上面～上位遺物集中（第68図）

調査B区の14C区は遺物が集中して出土した地点である。その中で、特に一括土器を集中して出土した、14C12～19の状況を第68図に示した。範囲は北東－南西方向約4m、北西－南東方向約6mの範囲に見られ、層位はⅡ層黒褐色土下位からⅢ層暗褐色土上面～上位である。同地点は北東から南西に向かって傾斜しており、集中が見られる箇所はその中でも若干緩やかになる地点である。土器の出土状況から自然の営力によって大きく流された痕跡はなく、ほぼ元位置を留めている。出土土器の大半はⅦ群に含まれ、同時期による一括廃棄の可能性が高い。

Ⅵ 出 土 遺 物

今回の調査では縄文土器、土製品、石器、石製品、土師器、陶磁器、金属製品、銭貨、動物遺存体、植物遺存体の各種が出土した。本来ならば全遺物を掲載すべきであるが、紙数と時間の関係上、やむを得ず、一部を掲載するに留まった。掲載基準については、調査員が全遺物に目を通し選別を行った。縄文土器は、遺構内出土のうち遺構の帰属時期を想定できる床面・底面を中心に選別した。遺構外出土は一括廃棄を中心に、器形・文様に時期を想定できる特徴を持つものを優先した。石器は、予め分類を行い、その上で各分類を代表する全形態を掲載した。土・石製品については数量が限られるため、許容される範囲でなるべく掲載した。また、全体の出土数と掲載数の比に大差が出ないようにした。やむを得ず、不掲載となった遺物についても、今回の調査全体の傾向を示すため、計測や観察を行い、数値データとして掲載を行った。

1 縄 文 土 器

(1) 土器重量分布

今回の3ヵ年に亘る調査の結果、第4表年度別出土土器重量表に示した通り、土器は84,669片（重量1,372,033g）、大コンテナ（42×32×30cm）換算で92箱が出土している。このうち、遺構内出土は37,970片（603,021g）、遺構外出土は46,699片（769,012g）である。

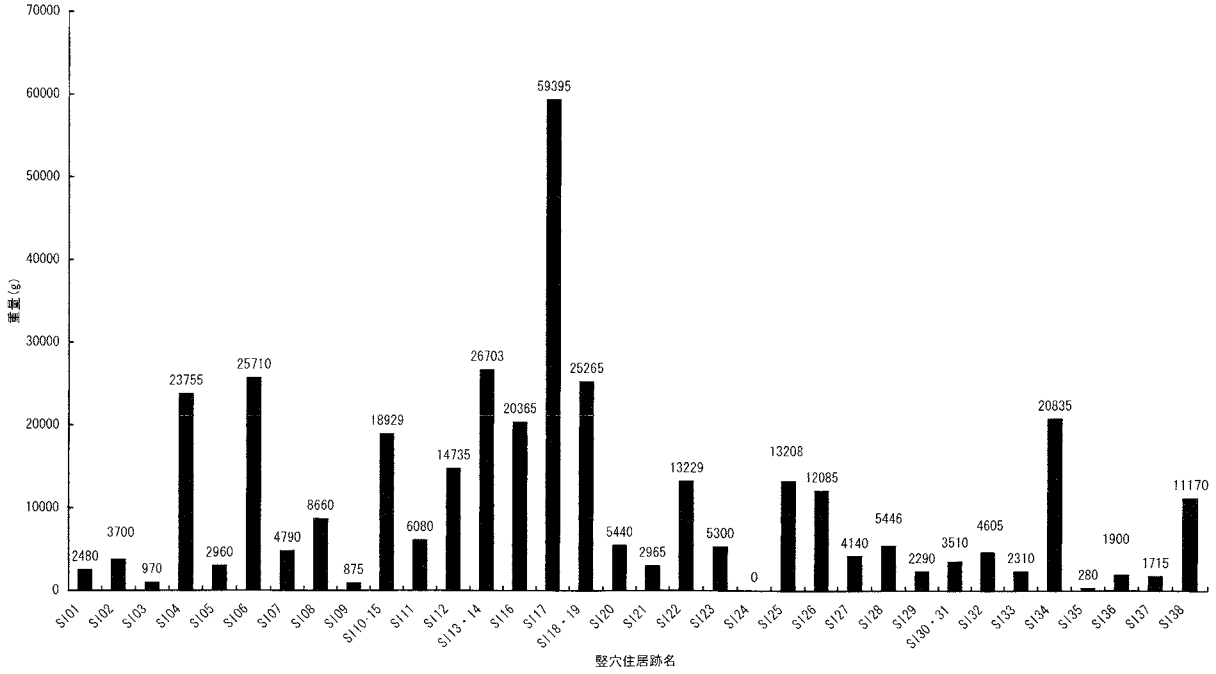
遺構内出土について、特に竪穴住居跡、住居状遺構、土坑に絞ってみる。

竪穴住居跡出土土器重量図を第69図に示した。竪穴住居跡

第4表 年度別出土土器重量表

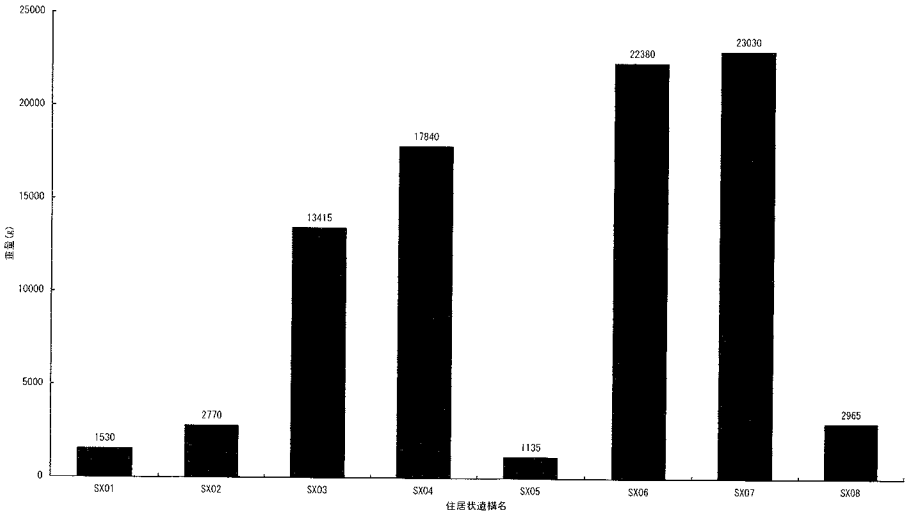
調査年度	破片数	重 量(g)
H 15	44,763	768,169
H 16	37,863	577,498
H 17	2,043	26,366
合 計	84,669	1,372,033

第69図 竪穴住居跡出土土器重量図



からは合計 22,705 片（355,800g）の土器が出土しており、重量から見れば、全体の25.9%、遺構内では59%が出土している。最多はSI17で、2,828片（59,395g）と突出しているが、これを含む SI 06・10～15・18・19・25・26・34・38はいずれもB区14～15グリッドラインに位置し、10kgを超える土器が出土している。またC区20グリッドラインのSI16・22もまとまった量の土器を出土している。

第70図　住居状遺構出土土器重量図

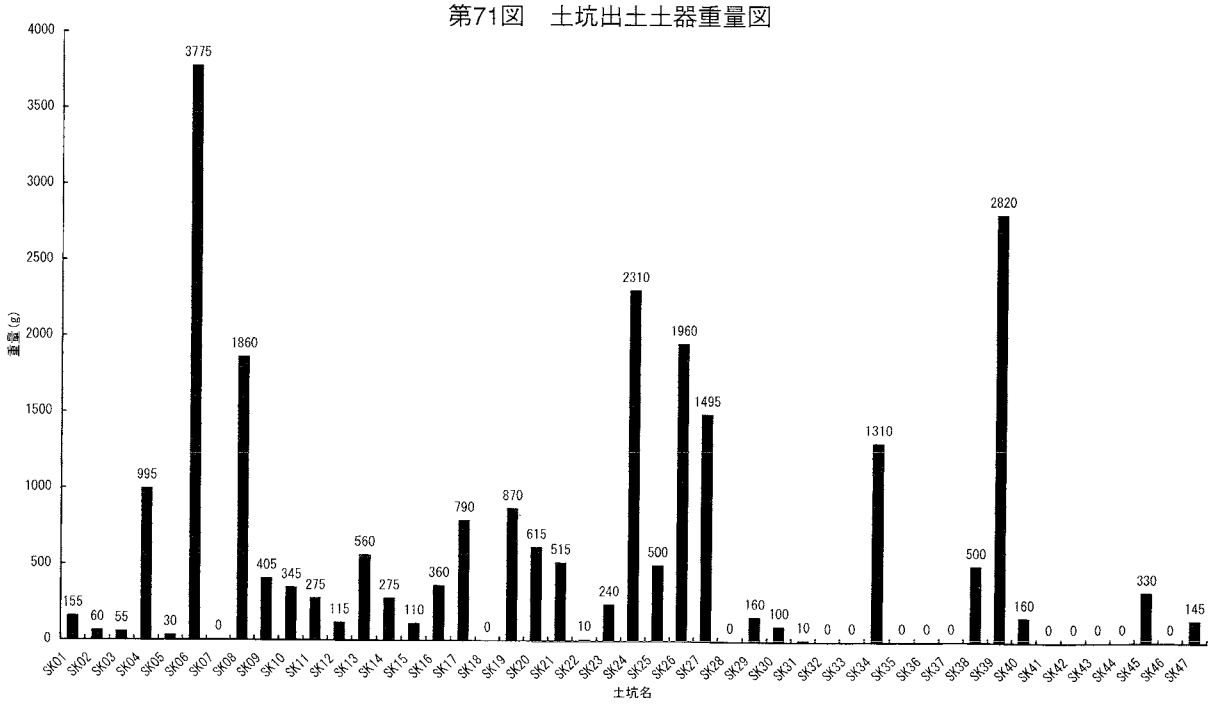


住居状遺構出土土器重量図を第70図に示した。住居状遺構からは合計5,572片（85,065g）の土器が出土しており、重量からは全体の6.2%、遺構内では14.1%を占める。最多はSX07の1,203片（23,030g）、またSX03・04・06も多量の土器を出土している。

土坑出土土器重量図を第71図に示した。土坑からは合計1,684片（24,215g）の土器を出土しており、重量からは全体の1.8%、遺構内では4.0%が出土している。最多はSK06の235片（3,775g）、また1kgを超える土器を出土している土坑もSK06・08・24・26・27・34・39と7基ある。

この他の遺構で突出して土器を出土しているのはSD04で、6,406片（110,660g）を数え、重量からは全体の8.1%、遺構内では18.4%を占める。一遺構からの出土としてはSI17を抜き最多であるが、遺構自体の帰属時期が縄文時代ではなく中世以降に求められるため、そのまま比較することは出来ない。遺構が密集したエリアに横断するように作られているため、廃棄後に斜面上位から多量の土器が流入土

第71図　土坑出土土器重量図

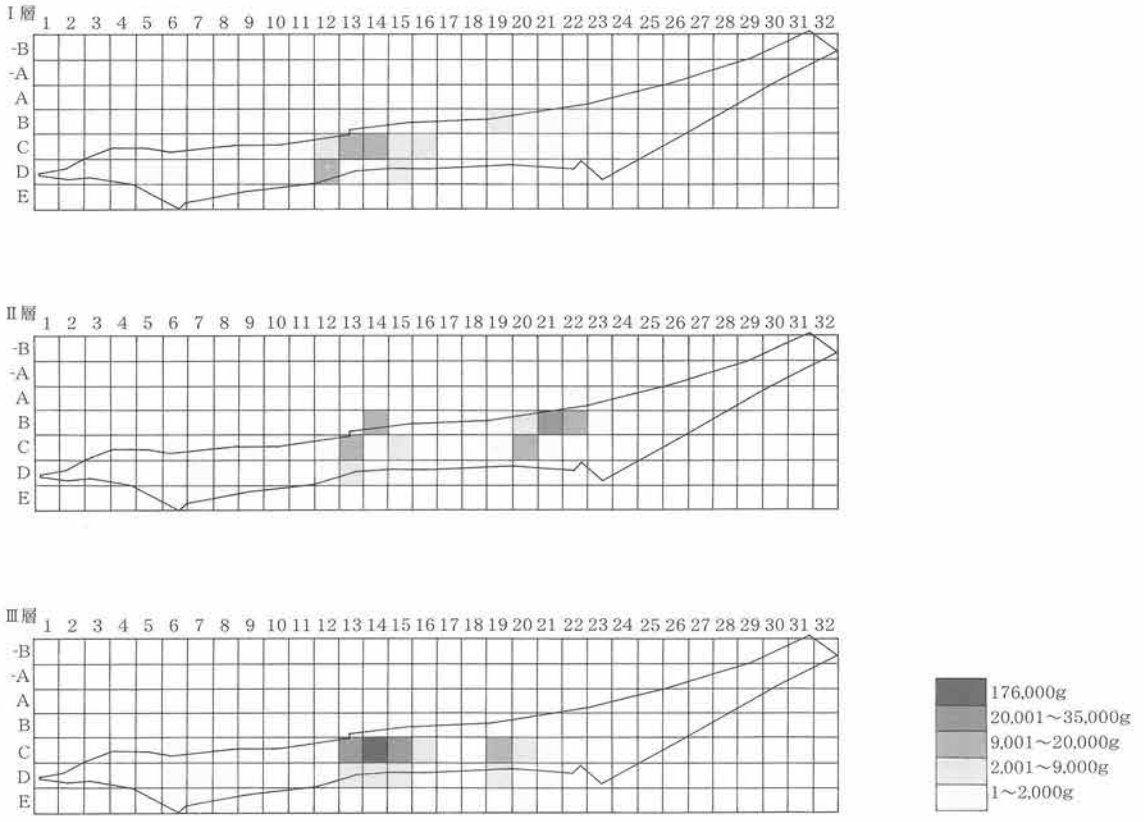


とともに堆積したものと思われる。

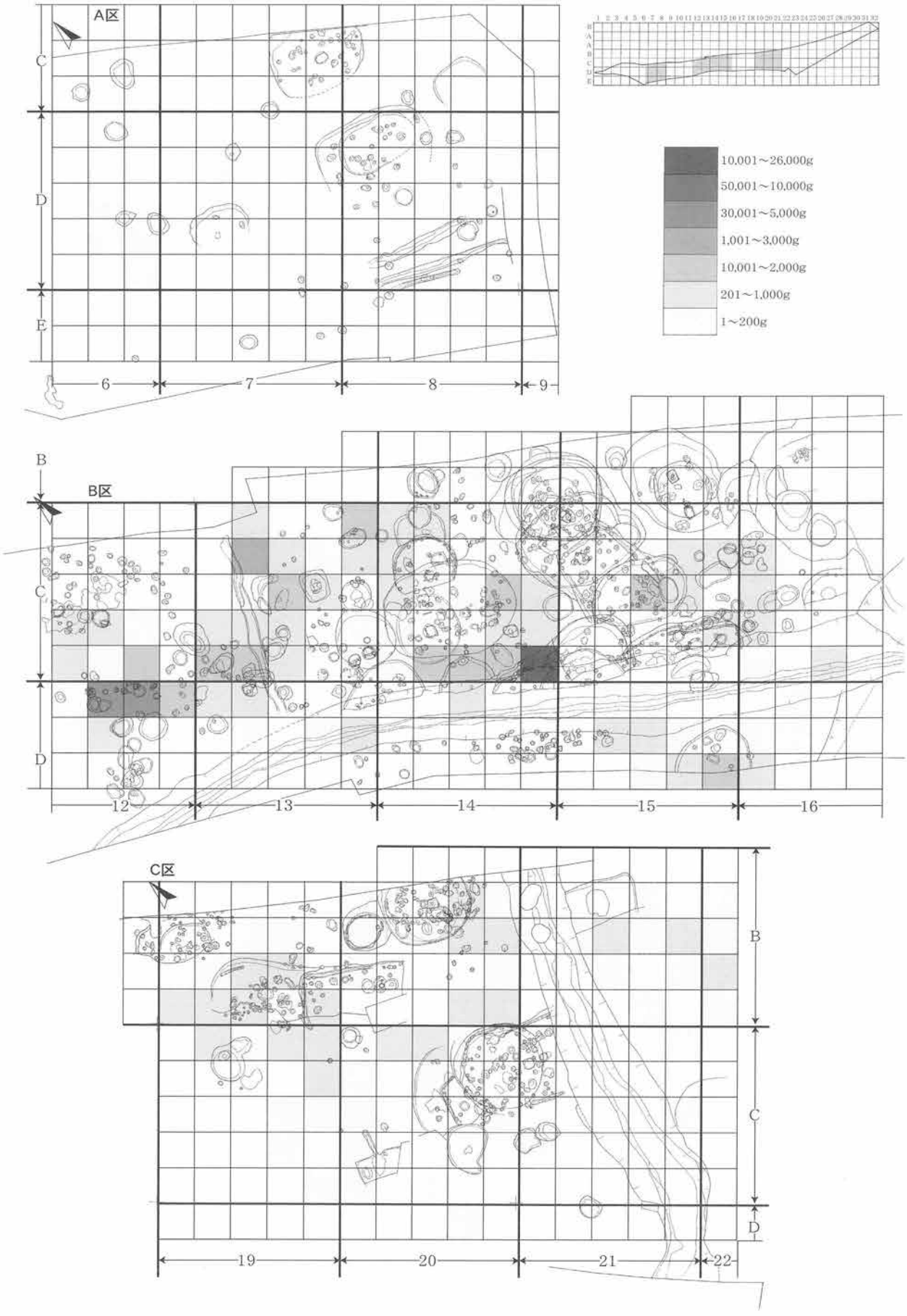
遺構外出土について、第72～75図遺構外出土土器重量分布図を示した。土器が集中して出土しているA～C区の主要な地点を抜粋した分布図で、D区については出土量が少量なため割愛した。

第73図はⅠ層の出土土器分布を示している。A区はⅠ層の下層がほぼⅣ層で占められる状況から削平の影響を受けていると思われるため、Ⅰ層に含まれる土器量も比例して少ない。やはり中心はB区となり、これは下層の遺存状態、遺構量とも当てはまる。1,001～2,000gを出土しているのは、12C～14C区斜面下方を中心とした範囲であり、最も出土しているのは14C25グリッドで7,725g、また12D3グリッドが3,785g、12D4グリッドが3,535gも集中している。C区は1,001g以上出土しているグリッドはなく、詳細なデータを見ても500gを超えるグリッドは存在しない。集中するのは、やはり遺構が検出している箇所で19B区と19C区の境が多い。

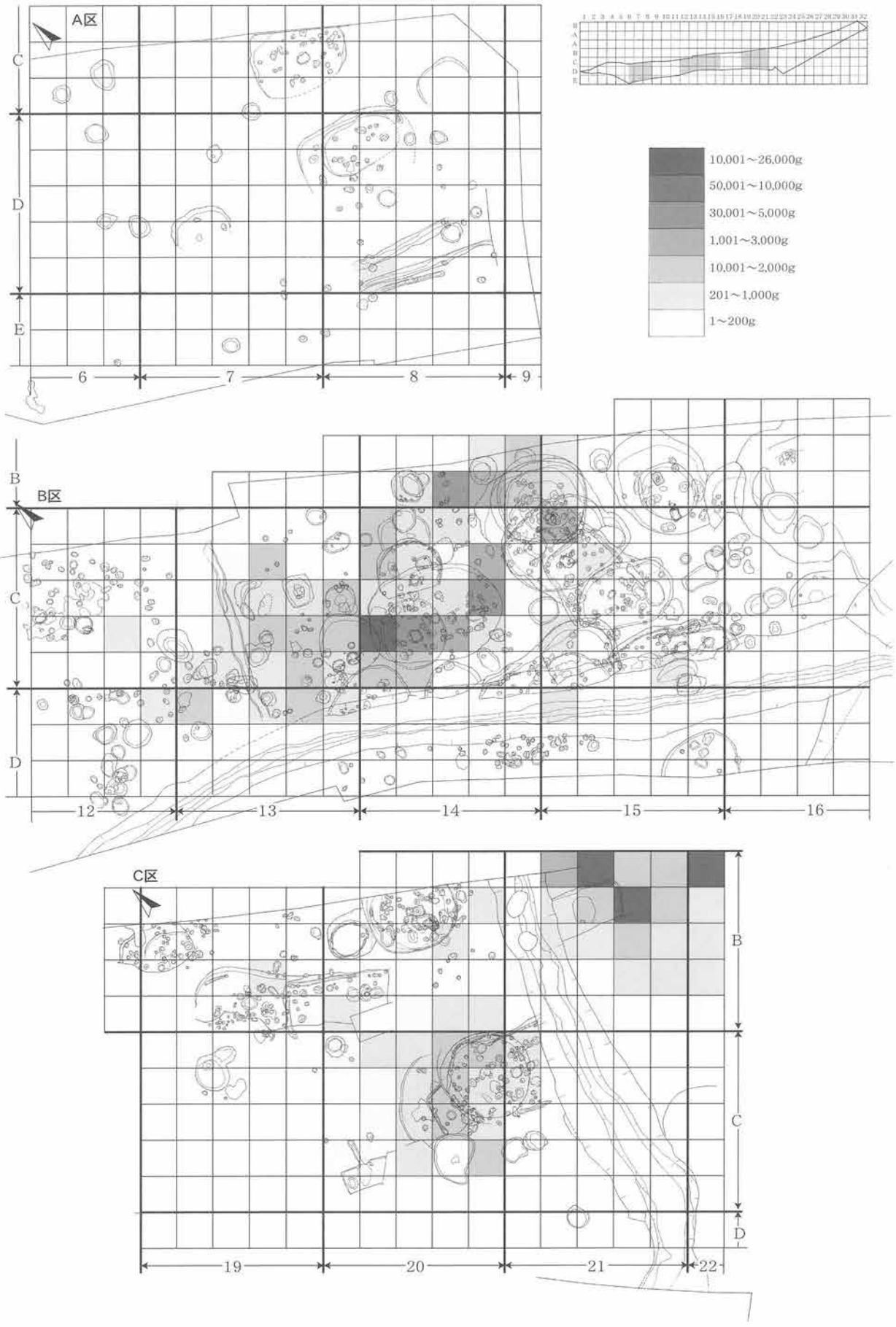
第74図はⅡ層の出土土器分布を示している。A区については、Ⅱ層黒褐色土の残存箇所が限られるため、一部に散在するのみである。最も集中した分布を見せるのはB区で、中でも13C区及び14C区が集中域を形成している。最も集中しているのは14C16グリッドで5,270g、また隣の14C17グリッドも3,590g、14B23グリッドは3,180g、14C14グリッドは3,060gと多く出土している。11～15Dラインに出土が少ないのは、Ⅱ層が形成された後にSD04が作られ、遺構も含めたⅡ層を破壊したので土器量に反映されていないためである（しかし、SD04を構築した当時は多量の遺物が出土したものと考えられる）。C区においては斜面上～中位にⅡ層黒褐色土が残存するのみで、下位には検出されていないため、分布もこれに比例している。最多は21B3グリッドで6,695g、次いで22B1グリッドで6,030g、21B9グリッドで5,470gと21B区斜面上位に集中域が形成されている。



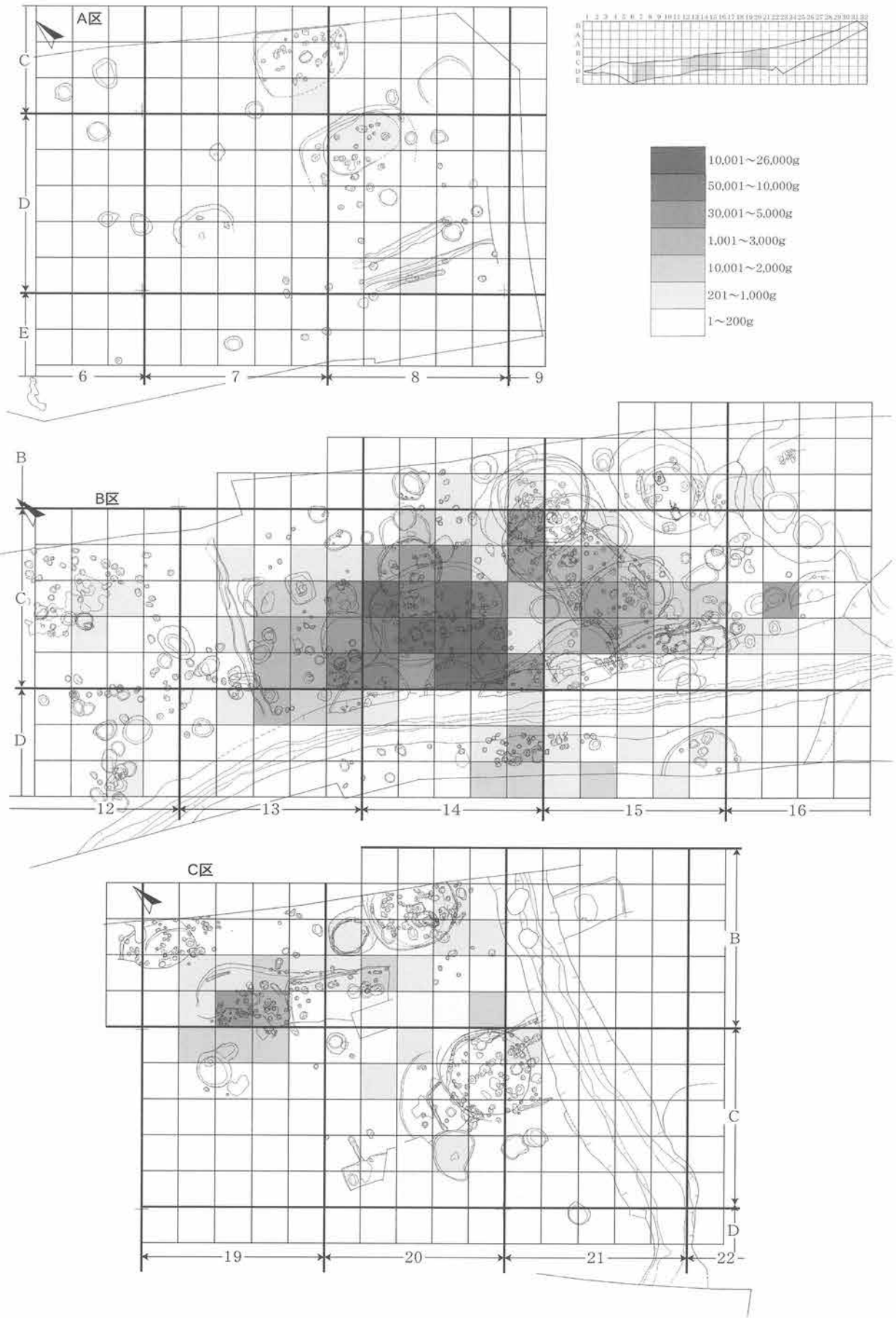
第72図　土器重量分布図（全体）



第73図　土器重量分布図（Ⅰ層）



第74図　土器重量分布図（Ⅱ層）



第75図　土器重量分布図（Ⅲ層）

第75図はⅢ層の出土土器分布を示している。A区については、検出遺構周辺のみにⅢ層が残存するため、分布もこれに比例している。しかし、1,001gを超える出土はなく、SI01·02周辺に少量が散在するのみである。B区は最も多く土器が出土する領域で、特に14C区が著しい。最多は14C13グリッドで25,170g、隣り合う14C17グリッドは20,645g、14C18グリッドは16,095g、14C19グリッドは12,140g、14C23グリッドは15,705g、14C24グリッドは12,665gと2×2m四方の小グリッド1ヵ所から12～25kgの土器を出土している。ただし、斜面下位の13～16DラインはⅡ層の状況と同様でSD04に破壊されているため、極端に出土量が減っている。C区は21～23グリッドラインではほとんど土器が出土していない。これは、山体斜面の傾斜がきつくなり、遺構が構築されていないためである。19～20グリッドラインに関してもB区に比べると極端に出土量が減少しており、最も集中しているのは19B区と19C区の境である。最多は19B23グリッドで3,530g、次いで隣り合う19B24グリッドの2,850gであり、他は散逸的である。

(2) 群　別　土　器

Ⅰ群　縄文時代早期末葉（赤御堂式相当）

計4点を図示した。全体を復元できたものはなく、いずれも破片資料である。文様はどれも地文のみで、797以外はすべて表裏縄文である。274a·bは同一個体と思われるため、一括した。文様は表裏ともに単軸絡条体第1類(L)で、口端には爪状工具による刻みが付けられている。524は表裏ともにLRが施されており、胎土には繊維を含んでいる。525も同様で胎土に繊維を含んでおり、RLが施される。797は唯一尖底の資料で、文様は単軸絡条体第1類(L)、内面は指頭圧痕のみが観察される。出土地点は274がSI22堆積土、524·525はSK47堆積土下位、797が20B15Ⅲ層下位であり、524·525は遺構の帰属時期に符合すると考えられる。

Ⅱ群　縄文時代前期初頭～前葉（大木2式相当）

計8点を図示した。全体を復元できたものはなく、いずれも破片資料である。ただし、798は4破片に分かれているが、同一個体と考えられ、ある程度全形が推定できる。505はLRで「末端に環のついた縄(2つひねり)」が付けられたもの、516はRL斜回転、517は単軸絡条体第1類(L)直立、518は0段多条(2段RL)、519はLR斜回転、800は口縁に「縄につけられた結節(S)」の横回転を施文、801は単軸絡条体第1類(R·L2本一組)である。798は4破片に分かれているが同一個体と見られ、口縁が「縄につけられた結節(S)」、胴が0段多条(2段LR)である。Ⅱ群土器はいずれも胎土に繊維を含んでいる。出土地点は516～519がSK39堆積土下位からまとまって出土しており、この時期に比定される。

Ⅲ群　縄文時代前期後葉（大木5式相当）

全体の器形を推定できるのは3点のみで、他は破片資料である。計20点を図示した。器形を推定できる3点については、317は口縁が外反し、頸が大きく括れ、胴上半が膨らむ器形をしており、3単位の口縁に鋸歯状貼付、頸には刺突のある隆線1条が配される。地文は無節(L)である。727は底部から口縁にかけて外反する器形で、胴上半に細隆線3条を山形に施し、さらに細隆線によって幾何学的な意匠を作っている。795は頸部が弱く窄まり、胴が膨らむ器形をしており、口端に逆ハート形の貼付を1単位施している。その他は器形を推定できる資料は出土していない。施文手法によって7細分される。727のように細隆線による小波状や幾何学的意匠を施文するものは307·636·652·750などに見られ、文様帯は口縁から胴上半に配される。口縁に円形突起(ドーナツ状)を施すものは637·670·681

で、大波状口縁の波頂部に配される。795のように口縁に逆ハート形やM字形の突起を施すものは503・795・811で、文様は口縁上部に集中している。口端上面に太隆線による小波状を貼り付けるものは325・791で、いずれも口縁は肥厚して外反している。口縁に鋸歯状貼付を施すものは307・317・652で、307・652は細隆線による小波状貼り付けを伴い、652は貼り付けではないが3単位で構成される。沈線と刺突によって円形意匠を描くものは、円形突起（ドーナツ状）と同様に棒状工具（円形）によって、垂直方向の連続刺突が行われている。地文のみのものは316・318で、LR・RLを施している。出土地点は、SI20・25・27・28・29やSX03・06などから出土しており、調査C区が中心である。

Ⅳ群　縄文時代前期末葉～中期前葉（大木6～7式相当）

計424点を図示した。器種は深鉢形土器と浅鉢型土器で、器形はA～L類の計12類（深鉢11種類・浅鉢1種類）、口縁形態は1～5類の計5類、文様形態はa～o類の計15類に分けることが出来る。

A類は最大径が口縁にあり、胴が小さく膨らむ器形で、239・241・275・375・526などが見られる。239は4単位と思われる円文下に粘土貼付を行い、長方形文様区画の中に斜位の短沈線を充填している。241は横位の平行沈線2条の間に縦位の短沈線を充填しており、239と類似している。275は横位の平行沈線の間に斜位の短沈線（左傾）が充填され、4単位の粘土貼付がなされている。375はRL縦・斜回転を全面に施文した後、横位沈線1条と山形沈線4条を胴上位に施している。526は羽状（結束第1種LR・RL）縦回転を施文後、刻みのある横位隆線を配して文様帯区画とし、横位押引沈線3条と円形貼付を行っている。

B類は最大径が口縁にあり、胴が内傾しながら窄まる器形で、6・230・246などが見られる。6は口端部に粘土貼付後、LR原体側圧を行い、隆沈線による方形文様区画を行っている。230は全面にRL横回転を施文後、横位隆線1条から4単位のY字状隆線が垂下する。246はLR横回転を施文後、文様帯としてLR原体側圧3条を施している。

C類は最大径が口縁にあり、頸に弱い括れを持ち、胴が小さく膨らむ器形で、343・357・361・372・499・528・768などが見られる。343は波頂部下に連続刺突のある隆線による三角形モチーフを4単位配置し、2～3段の横位連続刺突を施している。357は平行する押引沈線1条と3条の間に横位山形沈線を3～4条充填している。361は口縁文様帯に直線と波状の横位沈線を交互に3段配置している。372は羽状（結束第2種LR・RL）縦位を施文後、各2条の横位平行沈線の間に左右に傾く弧状の短沈線を充填している。499は口縁に段差を持っており、直線と渦巻を合わせた沈線によるモチーフと段差の高い方と低い方のそれぞれ中央に配された渦巻隆帯2個を施している。528はSR02埋設土器で、隆線による文様表現に沿ってLR原体側圧が施されている。768は隆線による文様区画とハ字状・変形Y字状の文様表現がなされている。

D類は最大径が口縁にあり、頸に強い屈曲を持ち、胴はほぼ垂直の円筒形を呈する器形で、438・441などが見られる。438はLR縦回転を施文後、開いた口縁部に沈線による方形文様を描き、4単位の突起（碗状2・四角錐状2）を持っている。441は内面が突帯状をなす4単位の大波状の波頂部から刻みを持つ隆線1条と菱形に配置した隆線を持ち、文様帯のスペースには横位押引沈線を施している。

E類は最大径が口縁にあり、外傾した口縁から頸で内傾し、胴央が膨らみながら窄まる器形で、256・273などが見られる。256は頸に横位隆線1条を持ち、複合口縁の粘土貼付との間に弧状隆線をおそらく4単位で配置、文様帯のスペースには細沈線による幾何学的モチーフが描かれている。273も頸に横位隆線1条を持ち、口縁文様帯を4区画する効果のある縦位隆線2条を4単位配置している。その間には直線と山形沈線をほぼ交互に配置するか、最下段に連続刺突を設けている。

F類は最大径が胴央にあり、口縁は外傾し頸で括れ、胴が膨らむ器形で、124·130·439·500·508·769·770が見られる。124は複合口縁上に太めの縦位短沈線3～4条と円形押圧が交互に巡っている。130は半裁竹管を用いた2本1組の沈線で文様を描いており、複合口縁上及び文様帯は横位波状沈線で埋められている。439は複合口縁上に平行沈線を2条引き、その間に縦位爪状の連続刺突を行っている。500は複合口縁上に連弧状の横位沈線を充填している。508は頸に半裁竹管による横位沈線3条を引き、胴には弧状沈線を2～3条施している。769は複合口縁上と頸横位隆線上に半裁竹管の先端を用いた連続刺突を行い、頸には半裁竹管を用いた横位沈線が引かれる。770は複合口縁上に太めの沈線で連弧状に描き、間には円文を施している。

G類は最大径が口縁にあり、外傾した口縁から頸で括れ、胴上位に膨らみを持つ器形で、131·243·371などが見られる。131は4単位の大波状で、複合口縁上に太めの横位山形沈線1条が描かれている。243は2個一対の波頂部を持つ4単位の大波状で、隆線による文様表現とこれに沿うLR原体側圧が施される。371は波頂部が凹状を呈する4単位の大波状で、口縁文様帯には山形を基本とした沈線による文様表現がなされている。

H類はいわゆるキャリパー形を呈するもので、膨らんだ口縁から内湾し、胴が膨らむ器形で、480·788がある。480は口縁文様帯にV字状の隆線を施し、これに沿うLR原体側圧と渦巻文を描いている。788は口縁文様帯にLR原体側圧を横位に6条施している。480については後続するⅤ群に伴う可能性もある（VC類）。

I類はいわゆる球胴形を呈するもので、口縁は外反し、胴上位に大きく膨らみを持ち、胴下半はほぼ垂直の円筒形を呈する器形で、290·633などが見られる。290は沈線·隆沈線による文様表現を行い、部分的に交互刺突文を施している。633は頂部を2個持つ4単位の突起を持ち、横位沈線7条と突起下に弧状粘土貼付を行っている。

J類は口縁が外反し、胴上位に大きく膨らみを持ちながら窄まる壺形の器形で、783などが見られる。783は横位平行隆線1条と2条の間に縦位の山形隆線を貼り付けている。

K類は口縁が内傾し、胴上位に大きく膨らみを持ちながら窄まる器形で、728などが見られる。728は縦位に垂下する山形沈線から来るモチーフが描かれている。

L類は浅鉢形土器で、器高が口径よりも小さくなる器形である。240·365などが見られる。240は2個一対の山形突起を4単位持ち、口縁にLR原体側圧を横位に3条施される。365は4単位と思われる山形突起を持ち、胴は横位ナデ調整、横位の平行隆線3条の間に交互刺突がなされている。

Ⅴ群　縄文時代中期中葉（大木8式相当）

計96点を図示した。器種は深鉢形土器と浅鉢形土器で、器形はA～G類の計7類、口縁形態は1～4類の計4類、文様形態はa～e類の計5類に分けることが出来る。

A類は胴がわずかに膨らみながら窄まる器形で、631が該当する。口縁に沿う断面三角形で突帯状の隆線1条が付けられ、胴には0段多条（2段RL）縦回転が施される。

B類は口径よりも胴径が大きく、小さく膨らんだ胴から徐々に窄まる器形で、108·698などが見られる。108はLR縦回転を全面に施した後、突起間に4単位の隆線による懸垂文を描き、突起下には垂下する蛇行隆線1条が付けられる。698は0段多条（2段LR）縦回転を施文後、縦位に2～3条の隆線を垂下させ、途中に渦巻状や棘状モチーフを作出している。

C類はいわゆるキャリパー形を呈するもので、膨らんだ口縁から緩く内湾し、胴が膨らむ器形か、なだらかに外傾しながら窄まる器形で、291·542·591などが見られる。291は口縁に隆沈線による横位

S字状に棘状モチーフを加え、胴は沈線による渦巻文が描かれる。542は口縁キャリパー部に隆線による横位蕨状文を施し、591は口縁キャリパー部に隆沈線による横位S字状に棘状モチーフを加えたものを施している。

D類は壺形を呈するもので、窄まった口縁から胴で大きく膨らむ器形である。555や556などが該当する。555は沈線による文様表現後に周囲を磨り消すものである。556は出土土器の中で最大であり、器高66.5㎝、容量約64lである。口縁には4単位の橋状突起、胴上位には沈線による渦巻文(左巻き)を主体とし、その間に渦巻文(左巻き+右巻き)を配置している。

E類は口縁が外反、大きく内湾した後、胴が膨らむ器形で、165がある。口縁は4単位の大波状で、頸部には横位に沈線6条が引かれる(うち、1条は波状)。胴はLR縦回転を施文後、沈線による蕨状・渦巻状モチーフが描かれる。

F類は最大径が口縁にあり、緩やかに窄まる器形で、107がある。口縁端部に隆線を横位に施文し、1単位と思われる中空突起を配置している。

G類は浅鉢形土器で、467がある。口縁よりも胴中位が膨らむ器形をしており、胴には単軸絡条体第1類R横回転を施文している。

Ⅵ群　縄文時代中期後葉～末葉(大木9～10式相当)

計47点を図示した。器種は、G類小型土器以外は深鉢形土器で、器形はA～G類の計7類、口縁形態は1～3類の計3類、文様形態はa～l類の計12類に分けることが出来る。

A類は口縁が内傾し、最大径が胴中位にある器形で、412・451・817がある。412・451が単軸絡条体第1類L縦及び斜回転、817が無節L縦回転がなされるものである。

B類は口縁が内傾し、最大径が口縁直下にある器形で、179・189・228・278などが見られる。179は沈線による縦長楕円形区画後に地文(LR)を充填している。189はLR縦回転を全面に施文した後、隆沈線による渦巻文から垂下する縦位モチーフを配置している。228は隆線による円形もしくは楕円形区画後に地文(RLR)を充填し、さらに縦位に垂下する沈線を描いている。278はLR縦回転を全面に施文した後、隆沈線による縦位渦巻文・∩状文・A状文を施している。

C類は胴上部で軽く湾曲し、口縁が緩やかに外反、胴中位が膨らむ器形で、171・227・229・410などが見られる。171はLR縦回転を施した後、沈線による∩状文・A状文を描いている。227はRL縦回転を施文後、沈線による縦位楕円形区画を行い、周囲を磨り消している。波頂部からは隆線による縦位楕円形モチーフを垂下させている。229はLR縦回転を施文後、沈線による縦位楕円形区画を行い、周囲を磨り消している。楕円形区画上部は交互に緩い渦巻文を呈している。410はLR縦回転を全面に施文後、沈線による縦位楕円形区画、その後磨り消しを行っている。

D類は口縁直下で短く内湾し、胴上位に軽く膨らみを持ちながら窄まる器形で、200や205が見られる。200は口縁に無文帯を作り、胴はRL縦回転を施している。205は単軸絡条体第1類R縦回転を器面全体に施した後、山形突起から派生するL字状文を描き、内部は磨り消しを行っている。この時、各L字状文は連結されない。

E類はいわゆるキャリパー形を呈するもので、膨らんだ口縁から緩く内湾し、胴が膨らむ器形で、182・186が該当する。この2点は類似しているが別個体であり、いずれも口縁のキャリパー部のみが残存している。両者は地文(RLR)を施した後、沈線による方形や楕円形区画を行い、周囲を磨り消している。口縁には上斜方向から2段の連続刺突を行い、4単位と思われる橋状突起を付している。

F類は最大径が胴中位にあり、口縁が窄まる壺形の器形で、54がある。無文のため、どの群に入れ

るべきか考えたが、A・G類との類似点、内面に鍔状突起を有することからここに分類した。

G類は小型土器で、89がある。89はA類と類似した器形を持つが、極端に小型であるため（器高6.4cm）、ここに分類した。文様はLR縦回転を全面に施した後、沈線によるJ字状文を描き、内部は磨り消している。その後、口縁に横位の連続穿孔を行っている。

器形は不明だが、文様形態hに分類した191・418・476・558の計4点は本遺跡では異系統である。

Ⅶ群　縄文時代後期初頭（門前式相当）

計99点を図示した。器種はいずれも深鉢形土器で、器形はA～F類の計6類、口縁形態は1～3類の計3類、文様はa～n類の計14類に分けることが出来る。

A類は口縁が外傾し、胴部に緩い膨らみを持ちながら窄まる器形で、226・448・623などに見られる。口縁形態は623以外が突起を持ち、448はやや大きめな4単位の山形突起に貫通孔を持つ。文様に着目すると、226は口縁に連鎖状隆線1条が横位に走り突起部で立ち上がる。448は口縁部に沈線による方形区画、突起下には磨消による倒卵形モチーフが配され、突起間の胴部には蛇行懸垂文が描かれる。453は突起下に磨消による菱形モチーフが描かれ、屈曲点にはボタン状貼付が施される。623は文様帯が複合口縁上に限られ、沈線による方形区画と接点に2ヵ所の刺突を持つ。

B類は最大径は口縁にあり外反、直下は内湾し、胴上～中位に膨らみを持つ器形で、45・204・576・700である。口縁形態は45・700が突起を有し、204は大波状である。45は磨消によるJ字状を基本とする文様が描かれ、胴央部には文様区画線が引かれる。ボタン状貼付や刺突も多用される。204は波頂部下に磨消によるJ字状などの三角形モチーフが描かれ、文様接点にはS字状文が配されるが蛇行懸垂文には成り切れていない。700は口縁に横位の連鎖状隆線1条、突起下では連鎖状隆線が縦位に2条のみの箇所が2単位とさらに口縁部に接する半円状の連鎖状隆線2条が施される箇所が2単位となる。

C類は胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反、胴中位が膨らむ器形で、194・449・687などがある。口縁形態は、449・687など突起を有するものが主体である。194は突起を中心に展開され、磨消による変形Y字状モチーフが描かれ、文様接点や屈曲点にボタン状貼付が施される。449は磨消による横位S字状文が連結したモチーフで、突起間に短い連鎖状隆線が配される。687も同様で、突起から文様展開し、変形逆Y字状（三角形モチーフ直前か）を描き、突起間には連鎖状隆線が施される。

D類は胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反、胴上位が膨らむ器形で、685が該当する。685は文様帯を直線的なモチーフで区画し、突起下には縦位に連鎖状隆線を4単位配置、文様接点には必ずボタン状貼付を施している。

E類は口縁が内傾、胴上位に膨らみを持ち、窄まる器形で、69・193・198・209・447・702～706などが見られる。口縁形態は、193・447・702～704のような4単位の中空突起を持つもの、705のような山形突起を持つものが主体を占め、198のような大波状も存在する。69や209は地文のみであるが、いずれも単軸絡条体第5類（R）が施されている。出土土器のうち、単軸絡条体第5類が施されるものの大半は本群に含まれると見られる。198は8単位の大波状で、波頂部には貫通孔1個と縦位に2～3個の刺突が施される。波頂部から垂れ下がるように弧状モチーフが隆線による磨消区画で描かれる。また、隆線上には一部に原体圧痕が見られる。193・447・550・702～704は中空突起を持つ形態である。193は突起を中心に文様展開し、磨消によるY字状と倒卵形モチーフを合わせて4単位配置する。447は文様が把手（突起）ではなく、把手間の山形突起を中心に倒卵形に文様展開している。この場合、把手はやや小型化を呈する。550も同様で、小型化した把手間の山形突起を中心に倒卵形に文様展開している。702は把手中心に磨消によるY字状の文様を描き、突起下には半円状モチーフが施される。これは704

も同様で、把手についても小型化、捻りを加えた形態となる。703は最も典型的な形態であるが、これも文様の中心が把手間の突起を中心としつつある展開である。

Ⅷ群　縄文時代後期～晩期（大洞式相当等）

計9点を図示した。器種は浅鉢形土器、深鉢形土器、壺形土器、蓋形土器と思われるが、いずれも小片であり、全体の器形が分かる資料はない。群別の時期を後期～晩期と大きく括ったのは、本遺跡の主体となる時期から外れていること、極めて少数の出土に限られることからである。

Ⅸ群　縄文時代のうち、上記いずれかの時期に含まれるもの

計112点を図示した。器種は深鉢形土器と浅鉢形土器が出土しており、器形は深鉢形土器がA～D類の計4類、浅鉢形土器がE類の計1類、口縁形態は1～3類の計3類、文様はa～f類の計6類に分けることが出来る。

A類は口縁に最大径を持ち、胴がやや膨らみながら窄まる器形で、75や284が見られる。いずれも地文のみを施文するものであり、75がRL、284がLRを縦回転させるものである。

B類は口縁直下で短く内湾し、胴上位に軽く膨らみを持ちながら窄まる器形で、531や624が見られる。いずれも地文のみを施文するものであり、531は口縁に無文帯を残し、胴にLR斜回転を施文、624は全体にLR縦回転を施文するものである。

C類は口縁が内傾、胴上位に膨らみを持ち、窄まる器形で、49･55･206･211･215･279･590･686･691などが見られる。215･691は無節L縦回転、49･55･686はLR縦回転、279はRLR斜回転、206は0段多条(2段LR)縦回転、211は単軸絡条体第1類R縦回転、590は単軸絡条体第1類L斜回転である。

D類は最大径が胴中位にあり、口縁が窄まる壺形の器形で、173や195が該当する。いずれも無文であり、横位ナデ調整がなされている。残存部位からやや小型の土器と思われる。

E類は器種が浅鉢形土器のものである。164･222･294･295･494がある。いずれも口縁形態は平縁である。164･295･494はLR横回転、222はLR縦回転、294はナデ調整(横)がなされている。

(3) 土器の個体数

遺跡内から出土した土器個体数を算出することにより、集落の存続時期にどのくらいの土器が使用または廃棄されたのかを推定することを試みた。対象とするのは今回の調査で出土した土器84,669片(重量1,372,033g)である。

まず、土器個体数の算出方法であるが、以下の2方法を試みた。なお、出土土器の器種は大半が深鉢形土器であるため、今回は小形土器･浅鉢形土器などの他器種を考慮せず、すべてを深鉢形土器として算出した。

① 出土土器の総重量を接合･復元した完形土器の平均重量で割り、個体数を求める方法。
② 土器底部の個数をカウントすることにより、個体数を求める方法。

①重量算出法

今回の調査で出土した土器の総重量は先述した通り、1,372,033gである。これを接合･復元した土器の平均重量で割るわけであるが、整理段階で口縁から底部までを完全に復元できた資料はごく少数に限られる。平均重量を算出するために用いた土器は、171･198･200･206･230･239･273･372･375･438･441･526･623･703･705･768の16点である。この中には略完形資料も含まれるが、その場合は欠けている部

分の範囲を他部分の破片重量を当てはめて割り出した。16点の重量範囲は800～4,700gで、1個体平均重量は2,354gである。
遺跡内出土土器総重量：1,372,033g ÷ 復元土器平均重量2,354g = 582.8517≒583個体

②底部個数集計法

今回の調査で出土した土器底部の総数は、掲載･不掲載の合計で2,021点である。これは、接合作業を行い、接合する底部破片は接着し、同一個体と思われる破片はダブルカウントしないという約束のもと算出した合計数である。しかし、これをそのまま個体数とすることは出来ない。なぜなら、全体の接合作業後に改めて復元土器以外の土器底部のみの接合作業を再度行ったが、その際に作業スペースと時間の関係上、隣接しないグリッド･遺構間の接合を試みていないこと、またもし同一個体であってもまったく接合箇所がなく、特徴がない場合は同一個体としていないことなどがあるからである。

そこで、先述の底部合計数のうち、全体の1/2以上を残存している底部を1個体とする約束を新たに決めた。これは1/2以上の破片同士は同一個体とはならないからである。これにより、底部総数の中でもより個体数に近い最小値を算出することが出来た。

土器底部の1/2残存個体数は、底部数を分母、さらに1/2残存底部数を分子とすると、掲載土器は57/83、不掲載の遺構内土器は104/1,032、不掲載の遺構外土器は97/906となる（底部資料のみを掲載した資料については整理の都合上、不掲載土器に含まれている）。
57＋104＋97＝258個体
よって、底部個数から算出できた最小個体数は、258個体である。

以上、2方法により出土土器の個体数を求めた。①の方法では583個体、一方②の方法では258個体と両者には倍以上の開きがある。今回の算出法の精度については、①では復元土器の数が増えればその精度は増すし、②では底部のみを手がかりとしているため、底部のない復元土器は1個体とカウントされないという欠点がある。この2方法のほかに口縁破片数による個体数調査も行ったが、特にⅣ～Ⅶ群土器については口縁部形態に個体差があり、口縁部破片の1片を見ても同一個体か、また別個体かを判断するには至らなかった経緯がある。報告者としては、この2方法のうち、②がより最小個体数を表すには適していると考えているが、接合復元により時間をかけ、いくつかの方法をクロスマッチさせることにより実数に近づけるのではないかと思う。

(4) 土器の容量

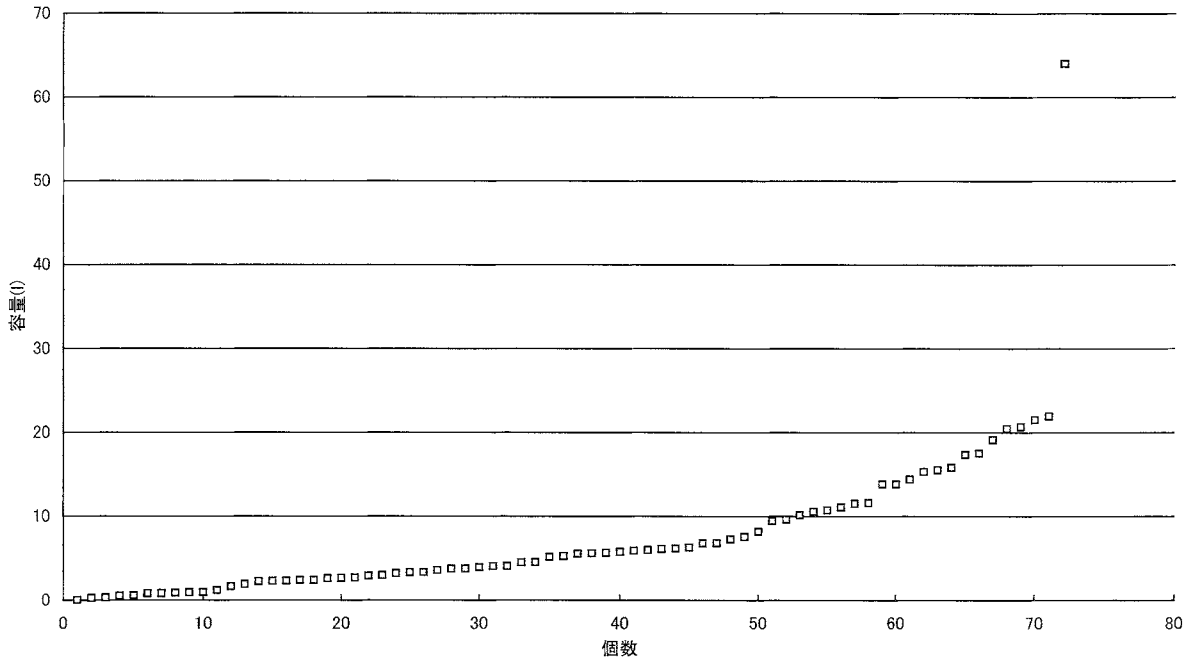
本遺跡ではⅠ～Ⅸ群に分けられる土器が出土しており、時期幅を見ると縄文時代早期末葉～晩期に捉えられる。この中で、掲載土器の中から土器の容量について着目するには、完形かもしくは器形全体を把握することが可能である略完形の土器に限られる。この点から、掲載土器中72点のみが計測可能である。よって、このデータが遺跡全体の土器容量の傾向を示しているのではないことは留意する必要がある。

第5表　土器容量集計表

群	測定点数	範囲 (l)	平均 (l)
Ⅲ	1	5.54	5.54
Ⅳ	33	0.32～15.35	5.06
Ⅴ	7	0.84～64.03	14.11
Ⅵ	4	0.04～6.83	2.89
Ⅶ	16	3.93～21.95	11.26
Ⅸ	11	0.28～21.53	8.36
計	72	0.04～64.03	7.71

第5表に容量が測定可能な72点についての土器容量集計表を示した。Ⅰ･Ⅱ･Ⅷ群については、器形全体を把握できない破片資料のため提示できない。
最も多くのデータが得られたのはⅣ群で、33点につ

第76図　土器容量分布図



いて計測可能である。0.32～15.35lの範囲で見られ、平均で5.06lである。分布を見ると、大きく0.32～3.60lに17点、4.53～8.19lの11点、10.17～15.35lの5点の3範囲に括られ、これにサイズクラスを当てはめれば小型、中型、大型となる。

Ⅴ群は7点について計測可能であり、0.84～64.03lの範囲で見られ、平均で14.11lである。しかし、これは突出している64.03lに引き上げられた平均値である。422の64.03lは全体を見ても突出した値であり、特大型と言える。

Ⅶ群は16点について計測可能であり、3.93～21.95lの範囲で見られ、平均で11.26lである。分布を見ると、3.93～5.91lに6点、9.64～11.61lに4点、14.41～21.95lに6点の3範囲に括られ、Ⅳ群と同様にサイズクラスに当てはめれば小型、中型、大型となる。

Ⅲ・Ⅵ群については測定点数が少ない。Ⅸ群については、いずれの群に入るか不明な土器のため詳細は控える。

72点全体について見ると、0.04～64.03l の範囲に認められ、平均で 7.71l である。第76図に容量順に並べた土器容量分布図を示した。前述した通り、64.03lの1点については突出している。その他については大きな断絶は見られないが、343の8.19lと795の9.47lの間、467の11.61lと193･356の13.85lの間に若干の断絶が認められる。

(5) 縄文原体の種類

掲載土器に施文される縄文原体を分類し、集計した(第6表)。掲載土器819点のうち(土器底部のみ掲載を除く)、縄文が施文されているものが573点(69.9%)、縄文以外が施文されているものが244点(29.8%)、不明が2点(0.3%)である。

縄文原体は掲載分で34種あり、最も多いのは単節斜縄文LRが300点(52.4%)、次いで単節斜縄文RLが82点(14.3%)、単軸絡条体第1類Rが38点(6.6%)、無節斜縄文Lが25点(4.4%)、単軸絡条体第1類Lが24点(4.2%)と縄文施文土器では単節LRが半数以上となる。

第6表　縄文原体集計表（掲載土器分のみ）

		群									合計
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	
縄文原体	L			1	9		1	8		6	25
	R							1		1	2
	LR	1	2	4	152	53	16	31	6	35	300
	RL	1	1	3	28	15	12	13		9	82
	LRL				2						2
	RLR				2	4	4	2		1	13
	附加条R＋R				3						3
	1個体に2種類の原体				2	1	1			1	5
	単軸絡条体第1A類（L）				1						1
	単軸絡条体第1A類（R）									1	1
	単軸絡条体第1類（l）									1	1
	単軸絡条体第1類（r）				1					2	3
	単軸絡条体第1類（L）	2	1	5	7		3	1		5	24
	単軸絡条体第1類（R）				16	2	1	4		15	38
	単軸絡条体第1類（LR）				1						1
	単軸絡条体第1類（RL）									1	1
	単軸絡条体第1類（R･L 2本一組）		1								1
	単軸絡条体第1類（RL太R細）									1	1
	単軸絡条体第1類（0段多条L＋無節L）									1	1
	単軸絡条体第5類（L）									1	1
	単軸絡条体第5類（R）				4			9		2	15
	単軸絡条体第5類（LR）									1	1
	縄につけられた結節		2		2						4
	羽状（結束第1種無節L･L）				1						1
	羽状（結束第1種無節L･LR）				1						1
	羽状（結束第1種無節L･RL）									1	1
	羽状（結束第1種LR･RL）				8						8
	羽状（結束第1種LR･LR）				3						3
	羽状（結束第1種LR･L）				1						1
	羽状（結束第2種LR･LR）				1						1
	羽状（結束第2種LR･RL）				4						4
	0段多条（2段LR）				4	3		4		2	13
	0段多条（2段RL）		1		2	2		6			11
	0段多条（3段RLR）				1		1			1	3
	櫛目				1						1
	無文（ナデ）ほか			7	165	16	8	20	3	24	243
	摩耗				2						2
合計		4	8	20	424	96	47	99	9	112	819

群別に見ると、縄文施文土器のなかではⅣ群が256点（44.8%）と最も多く、次いでⅨ群が88点（15.4%）、Ⅴ群が80点（14%）、Ⅶ群が79点（13.8%）と続く。

LR･RLの単節斜縄文についてはほぼ全群を通して見られるが、やはりⅣ群が突出しており、Ⅴ～Ⅶ･Ⅸ群が続く。LRL･RLRの複節斜縄文はⅢ群以前には全く見られず、Ⅳ～Ⅶ群に集中しており、Ⅷ群には姿を消すようである。

また「本来の縄の周囲に他の条を巻き絡げた工作物を回転押捺したもの」（山内 1979）である附加条は、太い無節Rに細い無節Rを絡めた（ややいっしょに撚った）原体を施文した土器が3点あるが、いずれもⅣ群に含まれる。

1個体につき、2種類の縄文原体を用いた土器が5点あり、Ⅳ群2点、Ⅴ群1点、Ⅵ群1点、Ⅸ群1点である。Ⅳ群は単節LRと羽状（結束第1種LR･RL）を用いた343、単節LRと単節RLを用いた521、

Ⅴ群は無節Lと単節RLを用いた197、Ⅵ群は複節RLRと単節LRを用いた287、Ⅸ群は単節LRと0段多条（2段LR）を用いた624が含まれる。

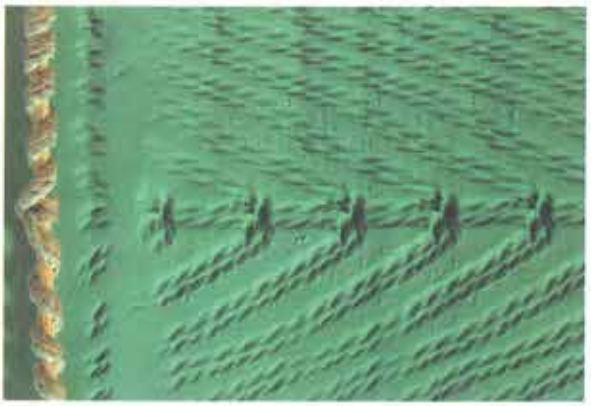
単軸絡条体については、第ⅠA類が2種、第1類が9種、第5類が3種の計90点がある。最も多いⅣ群では、第1類r、第1類L、第1類R、第1類LR、第5類Rの5種が見られ、第1類Rが16点と突出している。Ⅰ～Ⅲ群には第1類L主体で施文されており、複雑なものは見られない。第5類については3種が見つかっているが、Ⅳ・Ⅶ・Ⅸ群に含まれるのみであり、不掲載土器を観察しての報告者の印象では、本格的に用いられたのはⅦ群と思われる。

縄に付けられた結節とは、「縄の条のうち一方が他方を縒って結節を作る場合と、縄自身で結節を作る場合がある」（山内 1979）もので、いわゆる不整撚糸文である。Ⅱ群2点、Ⅳ群2点の計4点が見られ、Ⅱ群の2点は口縁部に文様として意図的に付けられたもの、Ⅳ群の2点は胴部に偶発的に付いたものと思われる。

羽状縄文は計8種が観察され、結束第1種が6種、結束第2種が2種の計20点見られる。ほぼすべてがⅣ群土器に施文されており、第1種L＋RLの1点のみがⅨ群に含まれる。最も多いのは第1種LR＋RLの8点で、第2種LR＋RLが4点、第1種LR＋LRが3点と続く。

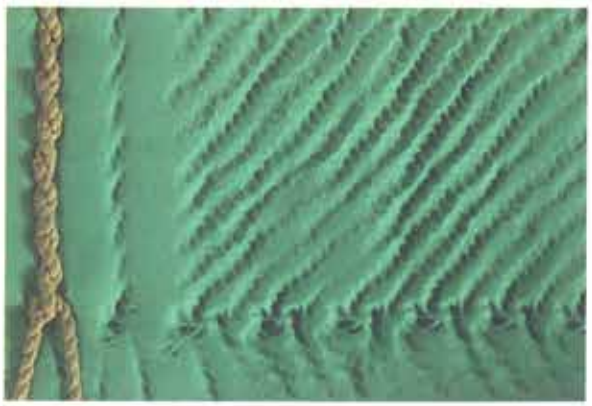
0段多条は計3種が観察され、計27点に見られる。Ⅲ群以前では、Ⅱ群の1点のみに留まり、その主体はⅣ～Ⅶ群である。Ⅳ群では2段LRが4点、2段RLが2点、3段RLRが1点と3種すべてがみられるが、Ⅴ・Ⅶ群では2段のみ、Ⅵ群では3段のみに限定される。

附加条 LRL（太いRと細いRをLに一緒に撚る）
例：275、508、547



単軸絡条体第ⅠA類（太いRと細いRを2本1組に巻き付けるもの）
例：511 など

太い無節Lに細い無節Lが直線となるように絡めたもの
例：392、460、691 など



開端自条結節
例：500、633 など

第77図　特徴のある縄文原体

特徴的な縄文原体としては、前述した275·508·547に施文される附加条（太R＋細R）のほか、392·460·691に施文される無節斜縄文Lに縦に直線上の細いLを挟むもの、511に施文される単軸絡条体第ⅠA類で太Rと細Rを一緒に巻き付けるものがある（第77図参照）。

結節は、基本的に器面に見られる状態がS字状とZ字状の2種があり、左巻きか右巻きかによる。結節は掲載土器のうち計65点に観察される。主体はZ字状（右巻き）で43点（66.15%）、S字状（左巻き）は13点（20.0%）で両者とも方端に見られる。この他に、両端にS字状またはZ字状があるもの、固結びされているものがある。群別に観察すると、Ⅳ群が最も多く53点（81.54%）あり、すべての結節が認められる。次いで、Ⅴ群3点、Ⅱ群2点と続くが少ない傾向にある。

また、稀に末端に環（Loop）の付いた縄がある。これは「条の閉じた端に、条の撚を強めて環を二つ作り付け、後条を撚合わせた縄」（1979　山内）であり、掲載土器中12点に観察される。環が1つ作られるものが384·439の2点でいずれもⅣ群に含まれる。また環が2つ作られるものは203·239·241·296·371·499·534·720·758·759の10点で、759の1点がⅤ群の他はすべてⅣ群に含まれる。

（6）縄文原体の幅

掲載土器に施文される縄文原体の幅について計測を行った（第7表参照）。縄文施文土器572点中435点について計測可能である。分布範囲を見ると、1.5～6.5cmの範囲に収まる。Ⅰ～Ⅲ群については計測点数が少ないため、直接比較は出来ないが平均3.0～3.5cmなのに対して、Ⅳ群は平均2.9cm、Ⅴ群は平均2.6cm、Ⅵ群は平均2.9cmと若干短くなる。Ⅳ群は分布範囲が1.5～6.5cmと幅広いことから、施文土器によってばらつきがあると考えられる。Ⅶ群になると、平均3.1cmと増すが、Ⅷ群は1.0～3.2cmの範囲で平均2.1cmと最短になる。

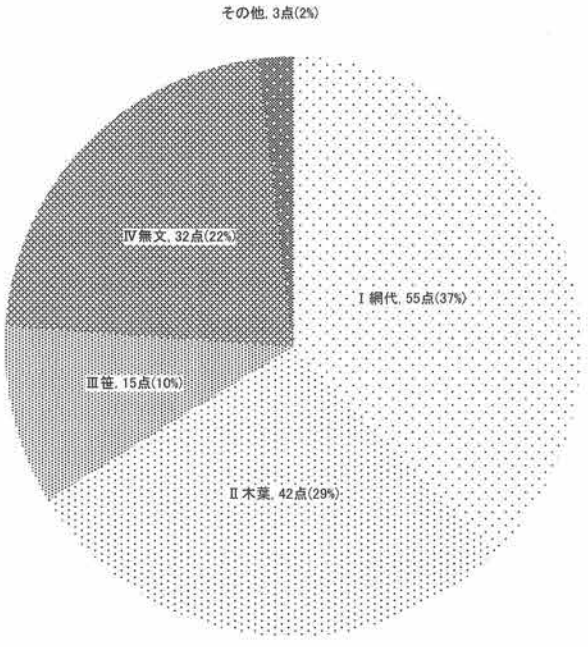
第7表　原体幅計測表

群	計測点数	分布範囲（cm）	平均（cm）
Ⅰ	1	3.5	3.5
Ⅱ	8	2.0～4.5	3.5
Ⅲ	8	2.0～4.0	3.0
Ⅳ	189	1.5～6.5	2.9
Ⅴ	62	1.5～5.0	2.6
Ⅵ	29	1.5～5.0	2.9
Ⅶ	63	1.5～5.0	3.1
Ⅷ	4	1.0～3.2	2.1
Ⅸ	71	2.0～4.5	3.0

（7）底部痕跡

掲載土器の底部に残される痕跡について集計·分類を行い、その結果を第78図掲載土器底部痕跡割合にまとめた。掲載土器中、底部が残存している資料は計147点である。最も多いのはⅠ類網代で55点（37%）、次いでⅡ類木葉が42点（29%）と続く。土器分類に基づくと、Ⅰ類網代はⅡ～Ⅴ·Ⅸ群ほかに見られ、Ⅱ類木葉はⅣ·Ⅵ·Ⅶ·Ⅸ群ほか、Ⅲ類笹はⅨ群ほか、Ⅳ類無文（ナデ調整など）はⅢ～Ⅶ·Ⅸ群ほかに見られる。この中でⅨ群が多く見られるのは、出土した土器底部の接合率が低く、底部のみを

第78図　掲載土器底部痕跡割合



第8表　底部痕跡分類表

Ⅰ　網代

分類	緯（ヨコ）				経（タテ）				送り
A	1本越え	1本潜り			1本潜り	1本越え			
B 1	1本潜り	2本越え			1本越え	2本潜り			右1本送り
B 2	1本越え	2本潜り			1本潜り	2本越え			左1本送り
C	2本潜り	1本越え	1本潜り	1本越え	1本越え	1本潜り	2本越え	1本潜り	左1本送り
D	2本潜り	2本越え			2本越え	2本潜り			右1本送り
E	3本潜り	3本越え			3本越え	3本潜り			左1本送り
	1本越え	1本潜り			1本潜り	1本越え			
F	3本潜り	3本越え			1本越え	1本潜り	4本越え		
					1本潜り	1本越え	4本潜り		
G	4本越え	4本潜り			4本潜り	4本越え			左2本送り
H	6本潜り	2本越え			3本越え	1本潜り			左2本送り
I	雷文								
J 1	籠目編み								
J 2	籠目編み								
K	スダレ状圧痕								
L	不規則								

Ⅱ　木葉

Ⅲ　笹

Ⅳ　無文（ナデ･ケズリ調整など）

掲載したことにより、帰属時期が不明なものが多く含まれたことによる。また「ほか」については、群を問わず特徴的な土器底部のみを抽出したことによる(820～883)。

底部痕跡の中で、特徴的な痕跡であるⅠ類網代について分類を行った。網代の痕跡が残る掲載土器55点のうち、編み方が判別出来たのは40点である。

第79･80図網代分類模式図に判別出来た14種類の編み方を示した。

最も単純なA類「1本越え　1本潜り」に編まれているものは、213･264･820～824の7点に認められ、264はⅣ群に含まれる。822～824の3点については、後にナデ調整がなされている。

B類はB1類「1本潜り　2本越え　1本送り」とB2類「1本越え　2本潜り　1本送り」に分けられる。両者は同じ網代を用いるが、「表･裏」のどちらを使用しているかによって痕跡に違いがある。B1類は21･50･565･825の4点、B2類は294･593･826～828の5点に認められる。

C類「2本潜り　1本越え　1本潜り　1本越え　1本送り」は829の1点に認められる。

D類「2本潜り　2本越え　1本送り」は23･830の2点に見られる。

E類は1個体の底部に2種の網代を持つものである。大半を占めるのは「3本潜り　3本越え　1本送り」であるが、一部にA類「1本越え　1本潜り」を合わせ持っている。831の1点に認められる。

F類は緯(ヨコ)の編み方が「3本潜り　3本越え」、経(タテ)の編み方が「1本越え　1本潜り　4本越え」と「1本潜り　1本越え　4本潜り」を行うものである。832の1点に認められる。

G類「4本越え　4本潜り　2本送り」は269･315･833～835の5点に認められる。834･835の2点については、後にナデ調整がなされている。

H類は緯(ヨコ)の編み方が「6本潜り　2本越え」、経(タテ)の編み方が「3本越え　1本潜り」の左2本送りを行うもので、258の1点が認められる。後にナデ調整が行われている。

Ⅰ類は荒木ヨシ氏の「縄文式時代の網代編み(第3報･完結)」(荒木 1971)に示されている33「雷文」に似る模様である。37の1点に認められる。

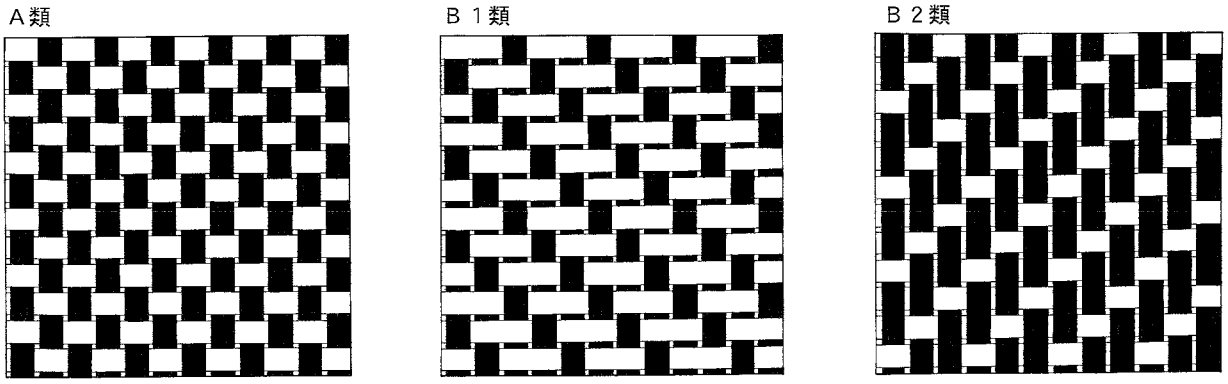
J類は荒木ヨシ氏の「縄文式時代の網代編み（第3報・完結）」（荒木 1971）に示されている38「籠目編み」で、違いによりJ1類とJ2類に分けられる。J1類は197・365・372・487・625・733・836の7点に認められる。このうち、365・372・487の3点はⅣ群、197の1点はⅤ群に含まれる。J2類は837の1点に認められる。

K類は渡辺誠氏の「スダレ状圧痕の研究」（渡辺 1976）に示されているスダレ状圧痕で、354・438・838の3点に認められる。このうち、354・438の2点については、Ⅳ群に含まれる。

L類は非常に不規則な編み方をする編み物の痕跡を残すもので、839の1点に認められる。

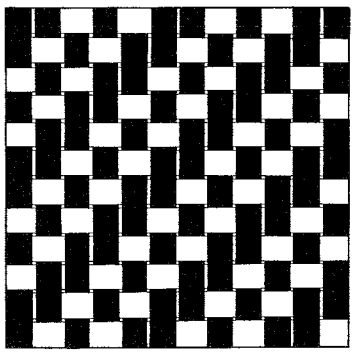
観察できたのは掲載土器のみではあったが、14種類の編み方が確認された。しばしば観察された、後のナデやケズリ調整された分を含めれば、もっと多くの土器製作に編み物が使用されたと考えられる。土器製作のためにわざわざ編み物を作ったのか、或いは廃棄する編み物の2次的使用だったのかは今回明らかに出来ないが、選択肢として編み物、木葉、笹（後者2つは土器製作の季節や遺跡周辺の植生にもよる）などがあったのは確かである。

網代については、種類は不明であるがⅡ群に含まれる土器にも痕跡が残されているため、この時期にはすでに出現していたと見られる。A・J1・K類についてはⅣ群には多く観察され、J1類はⅤ群にも認められる。

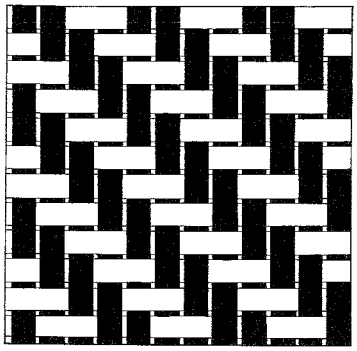


第79図　Ⅰ類網代分類模式図（1）

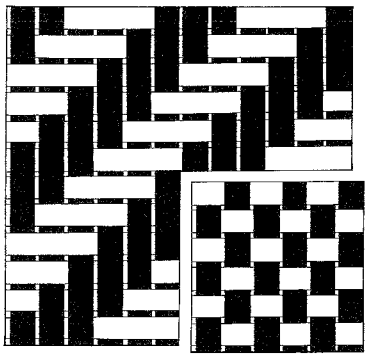
C類



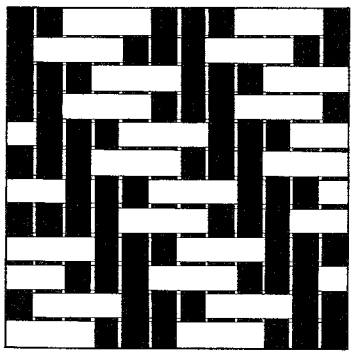
D類



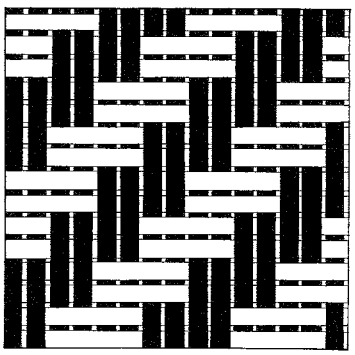
E類



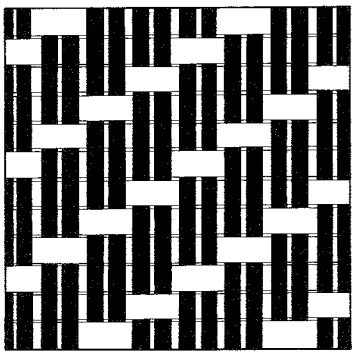
F類



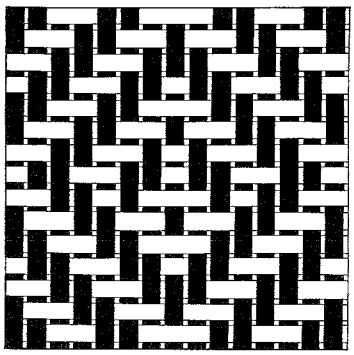
G類



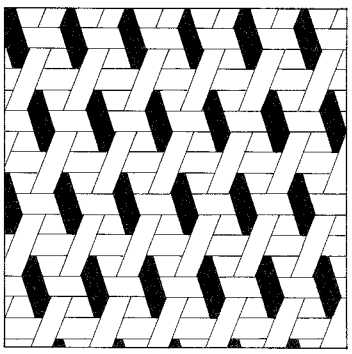
H類



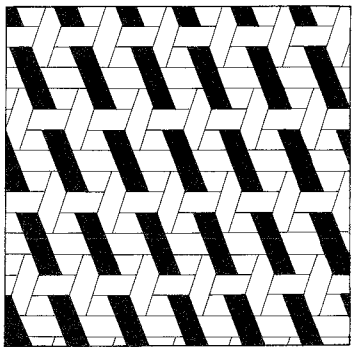
I類



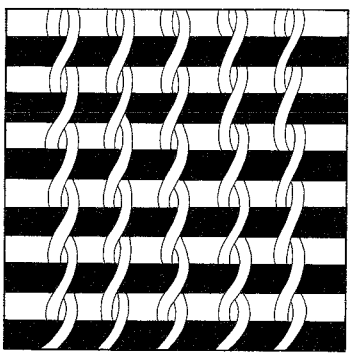
J 1類



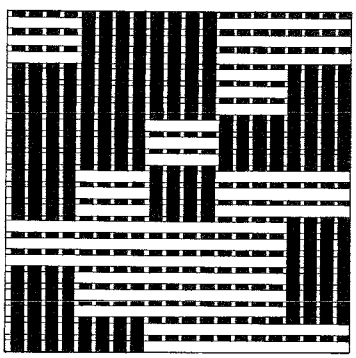
J 2類



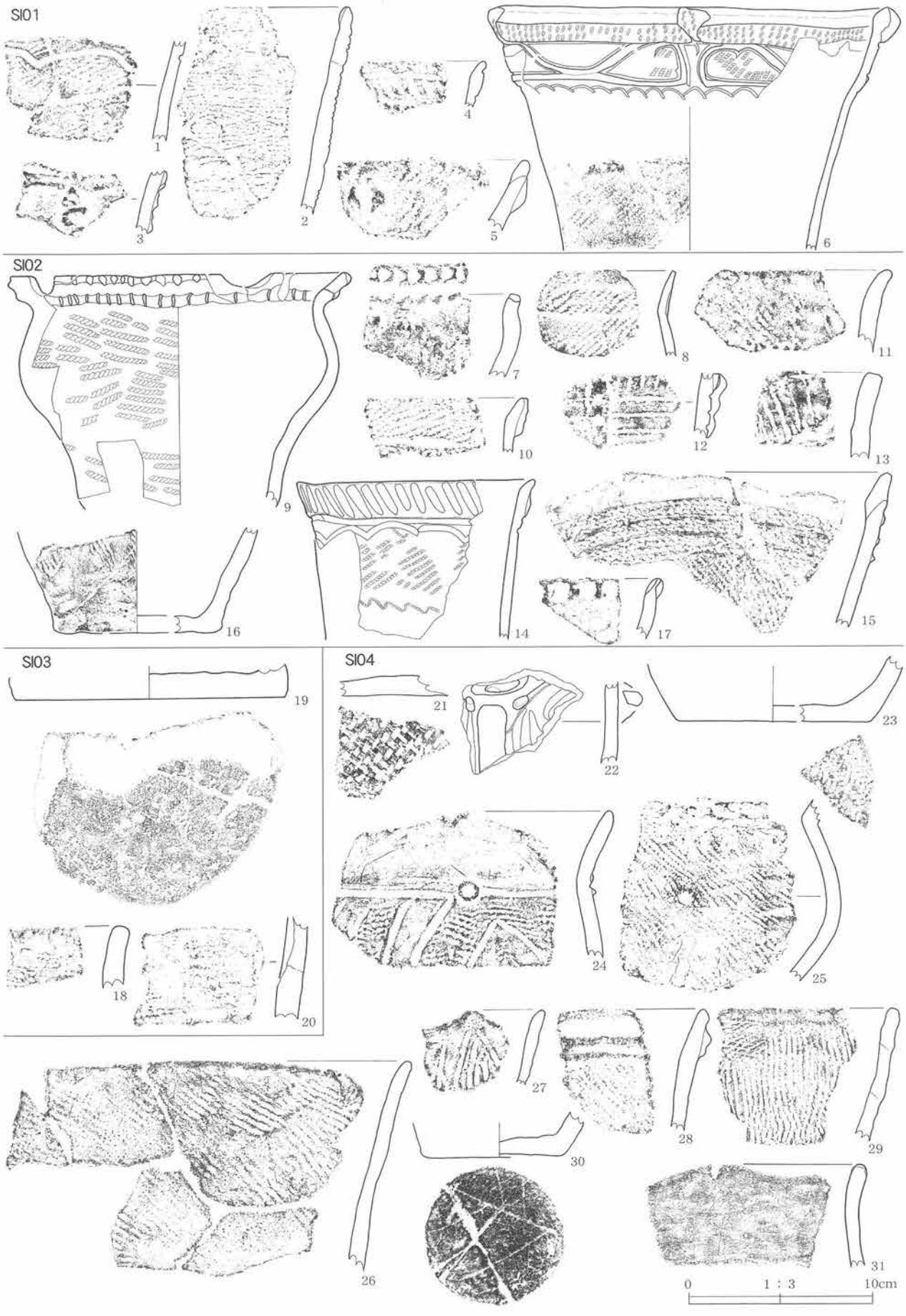
K類



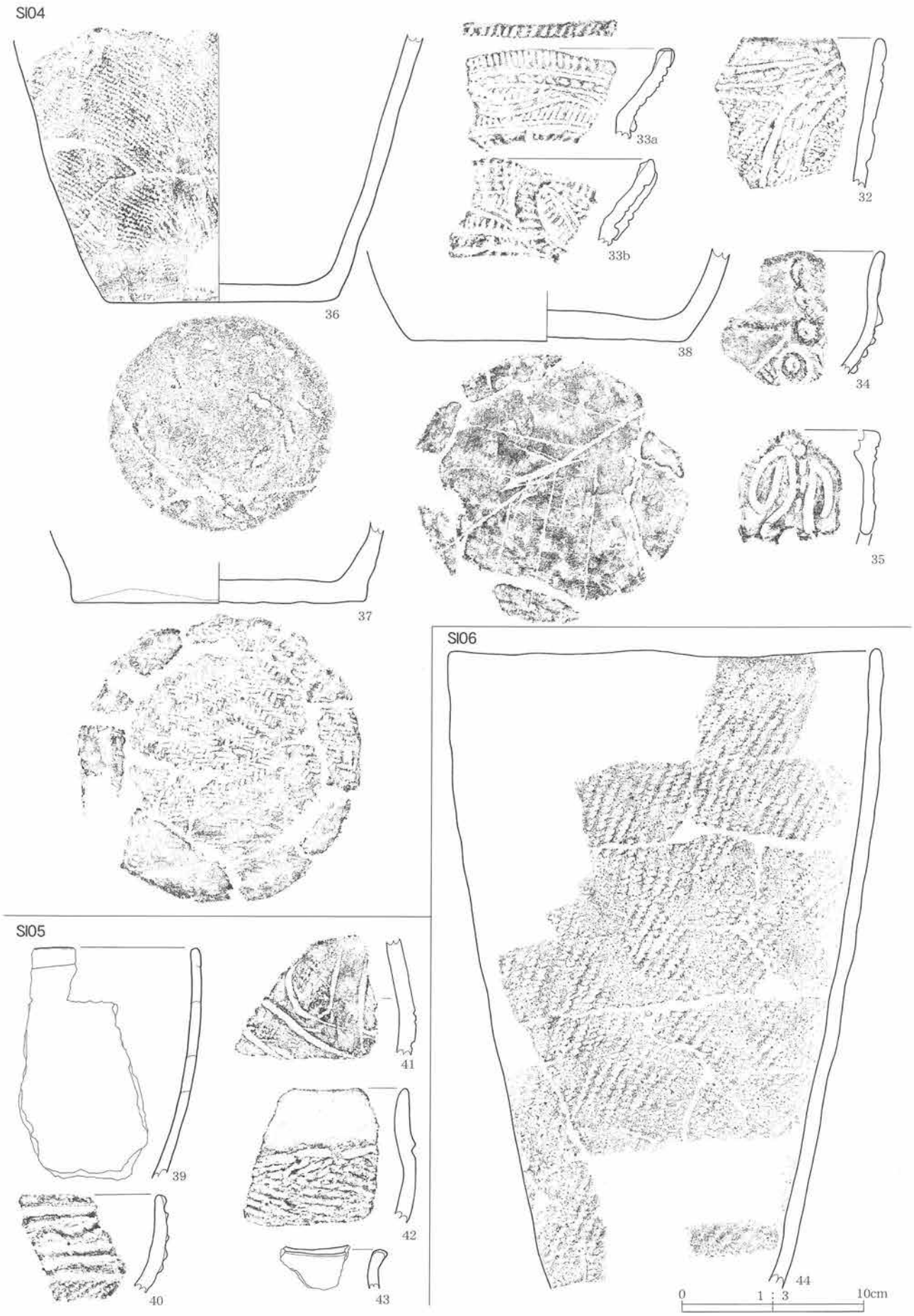
L類



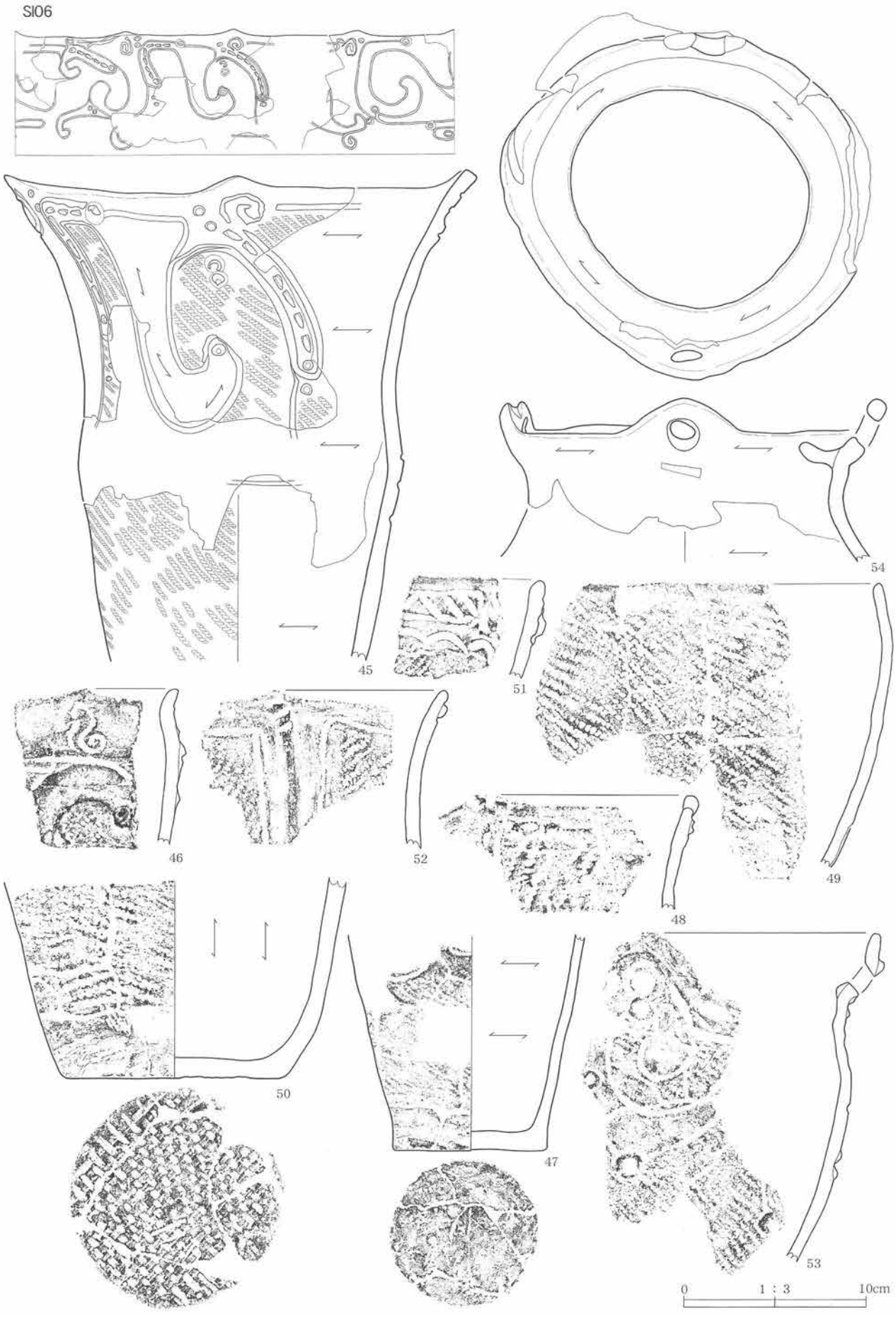
第80図　Ⅰ類網代分類模式図(2)



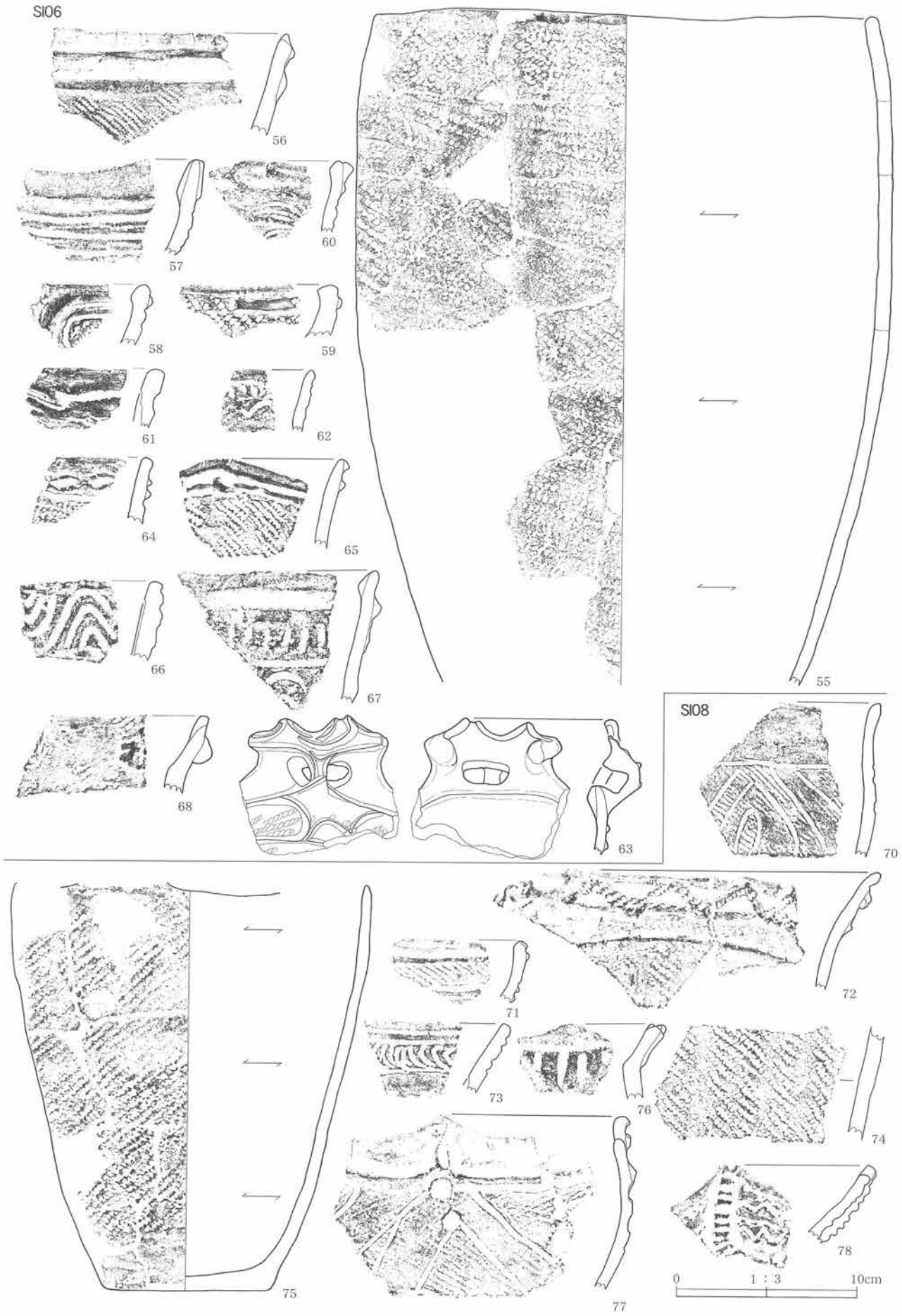
第81図　SI01～04 竪穴住居跡土器



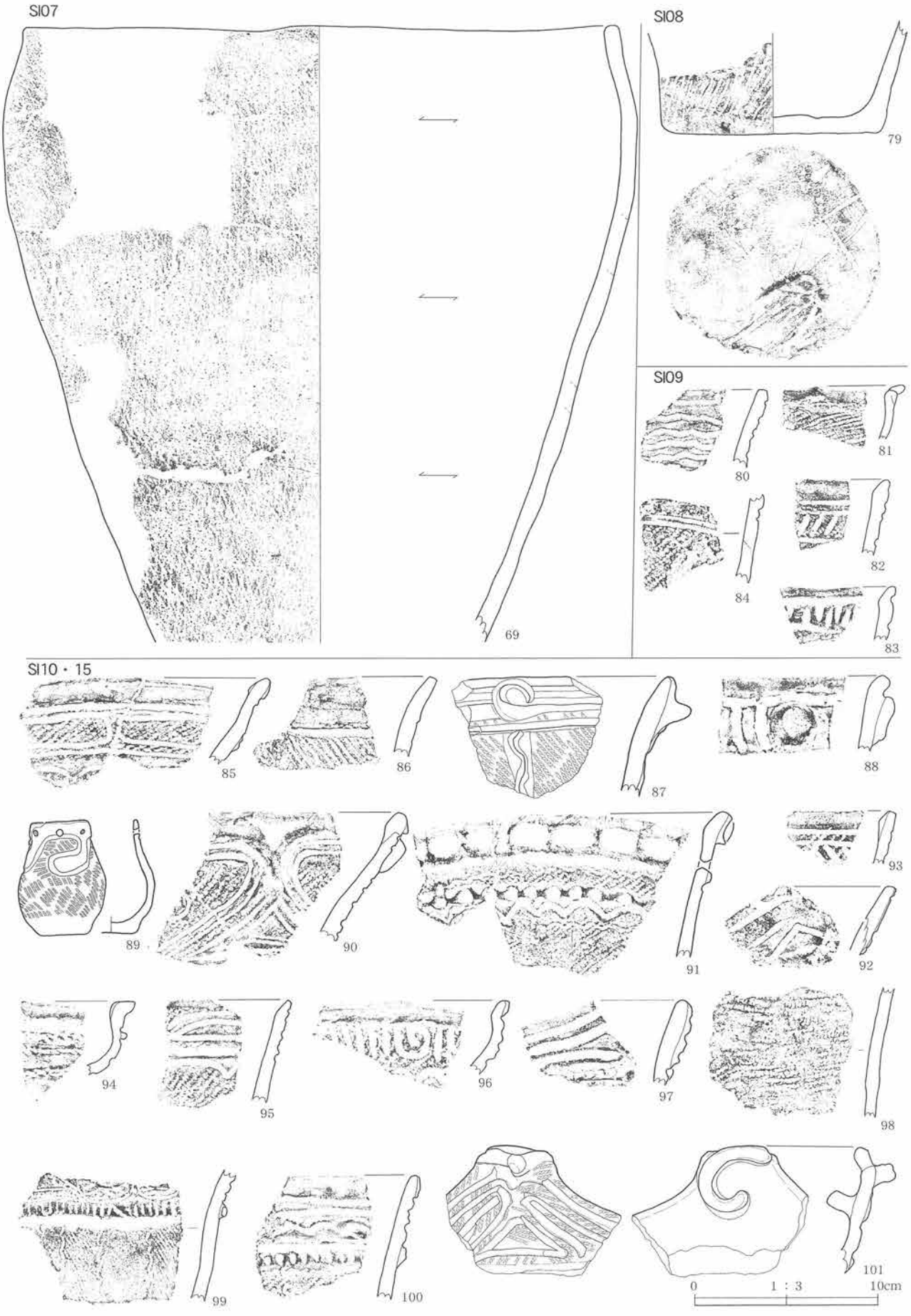
第82図　SI04～06 竪穴住居跡土器



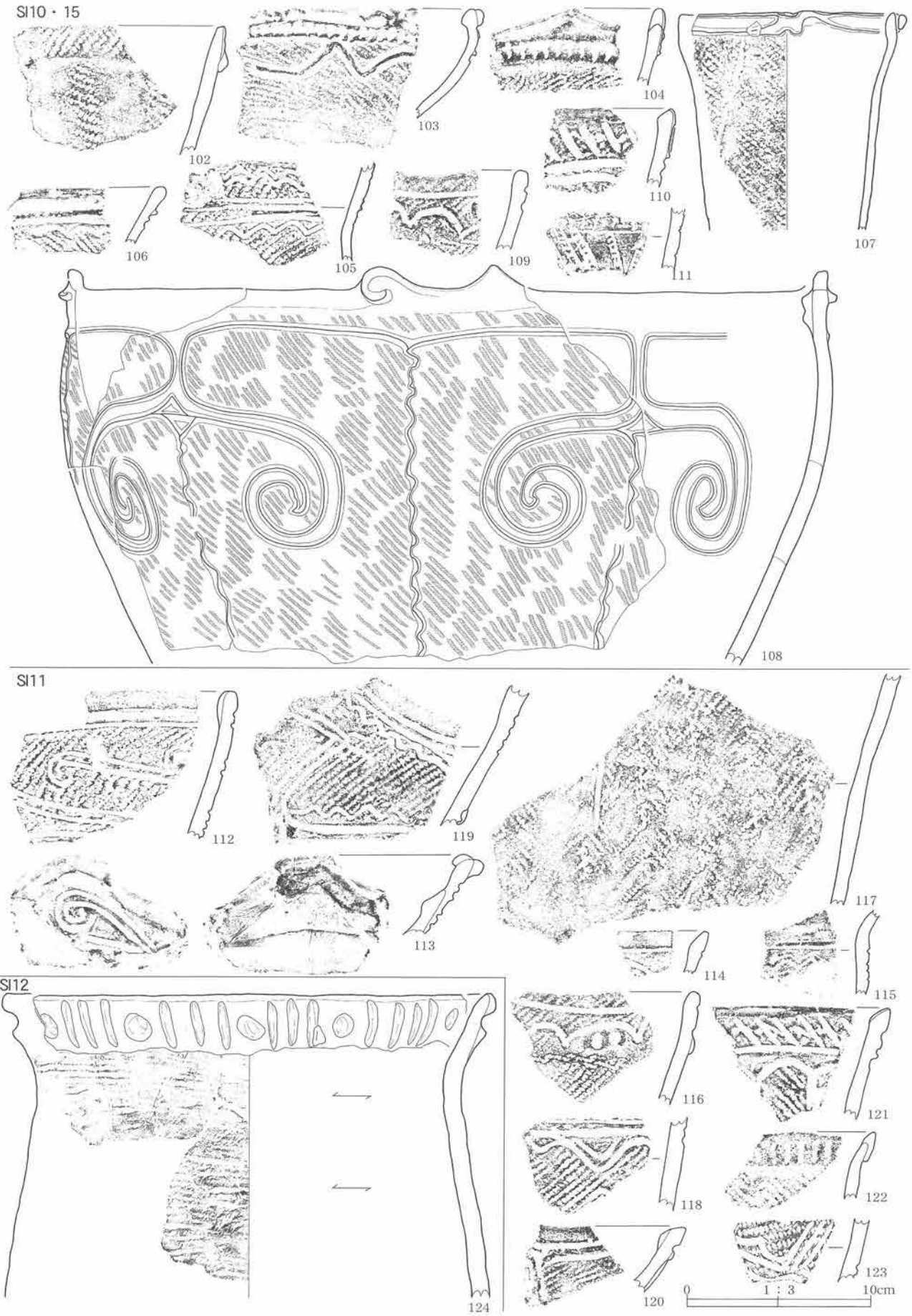
第83図　SI06 竪穴住居跡土器



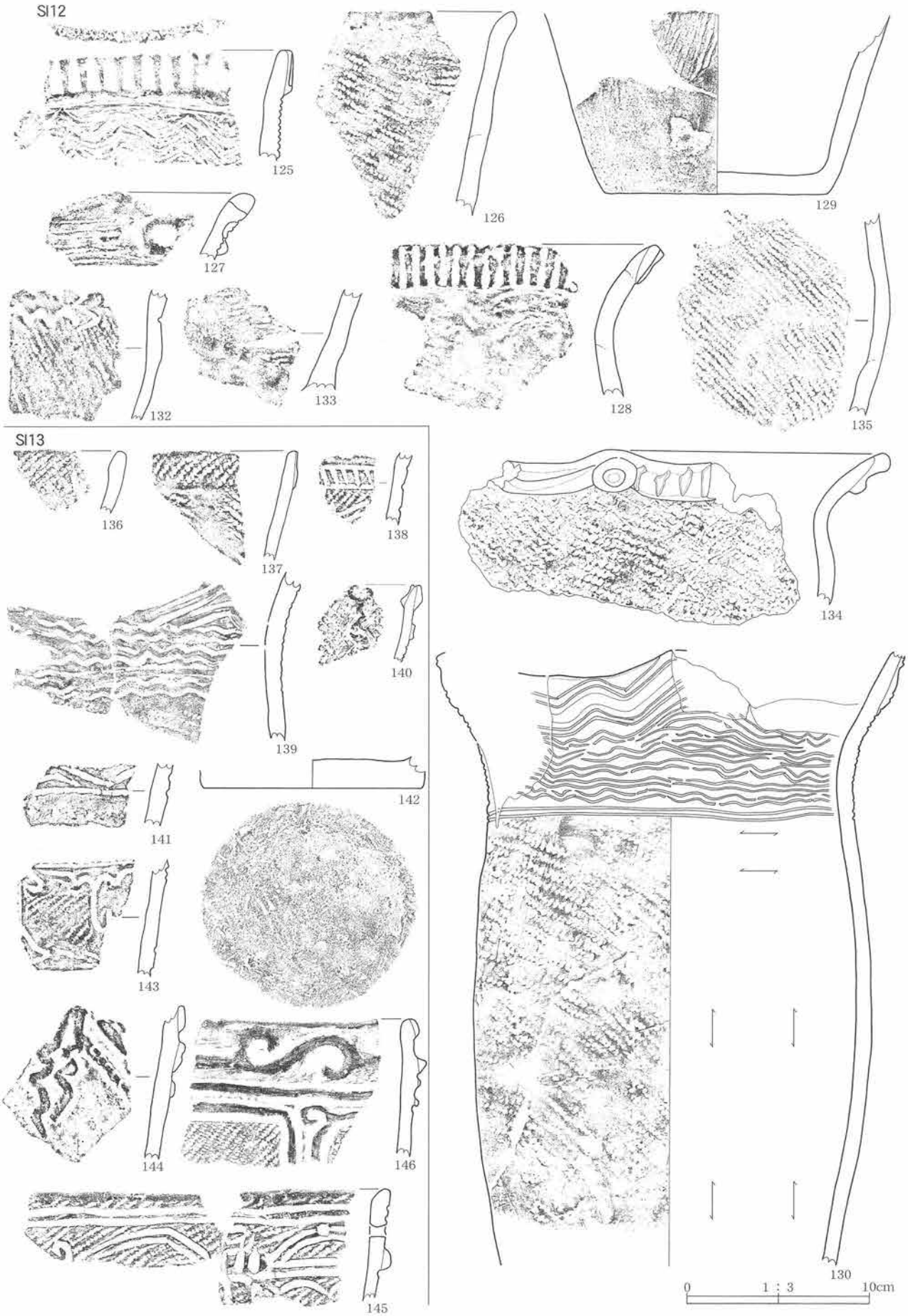
第84図　SI06・08 竪穴住居跡土器



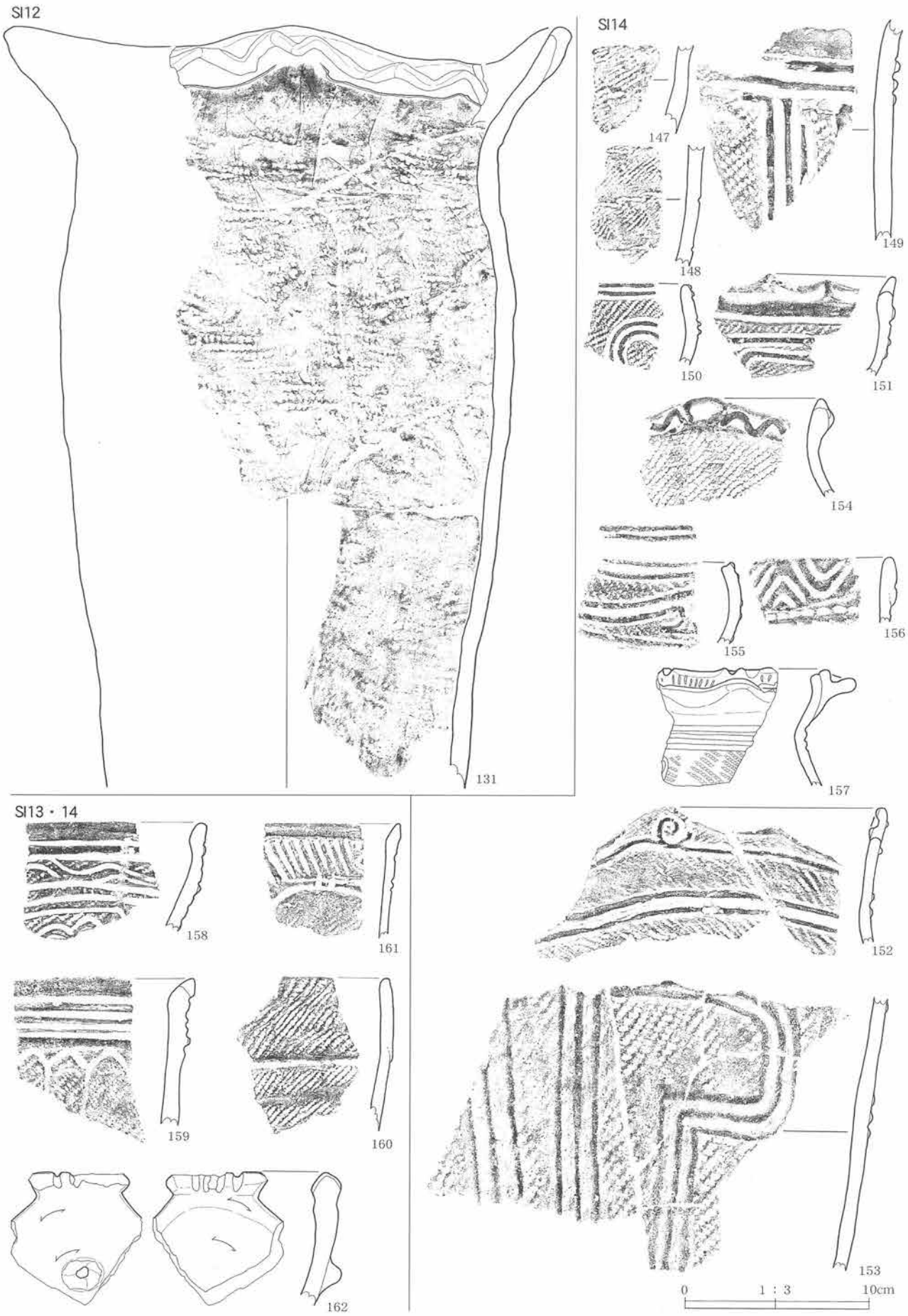
第85図　SI07～10・15 竪穴住居跡土器



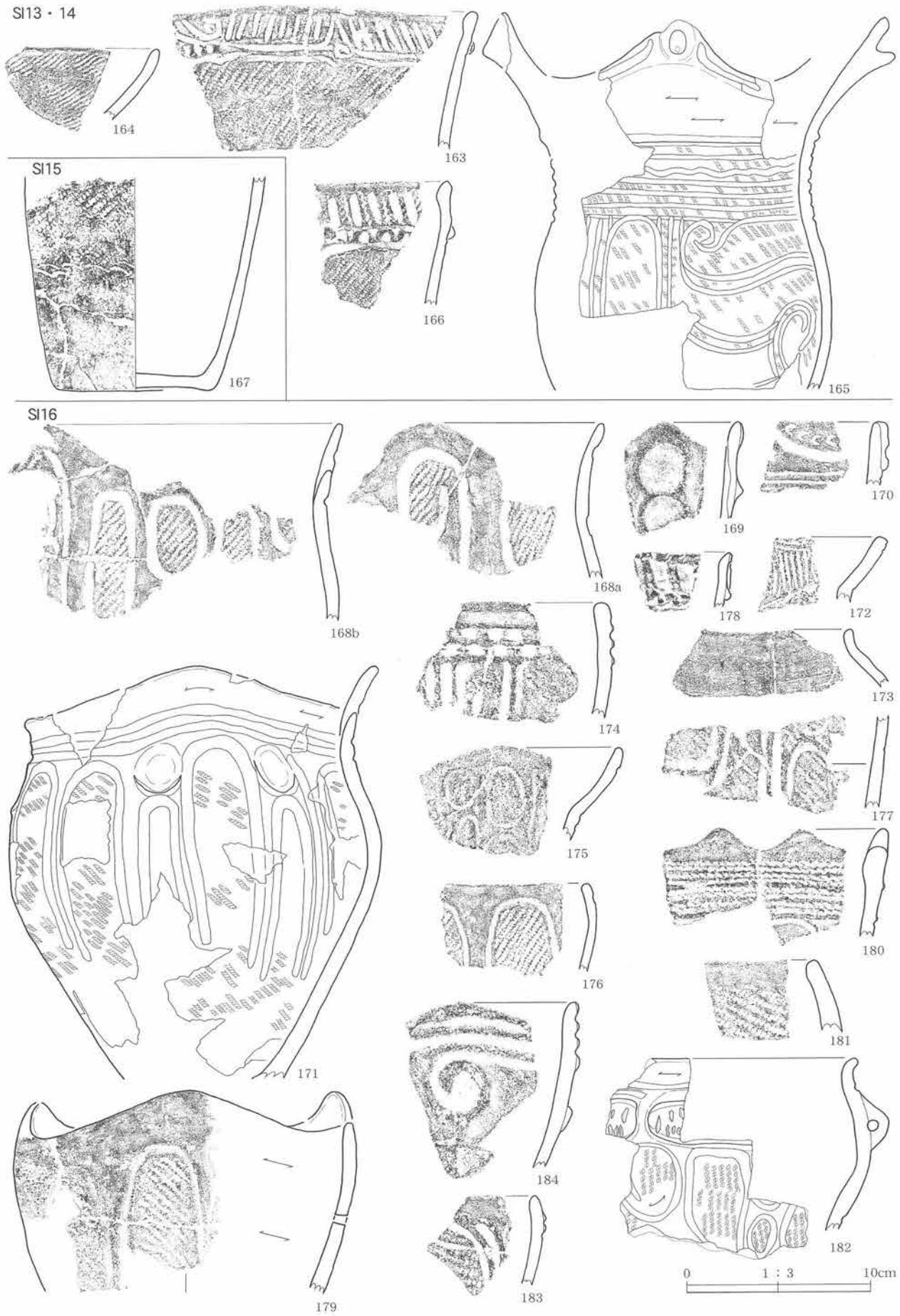
第86図　SI10～12・15 竪穴住居跡土器



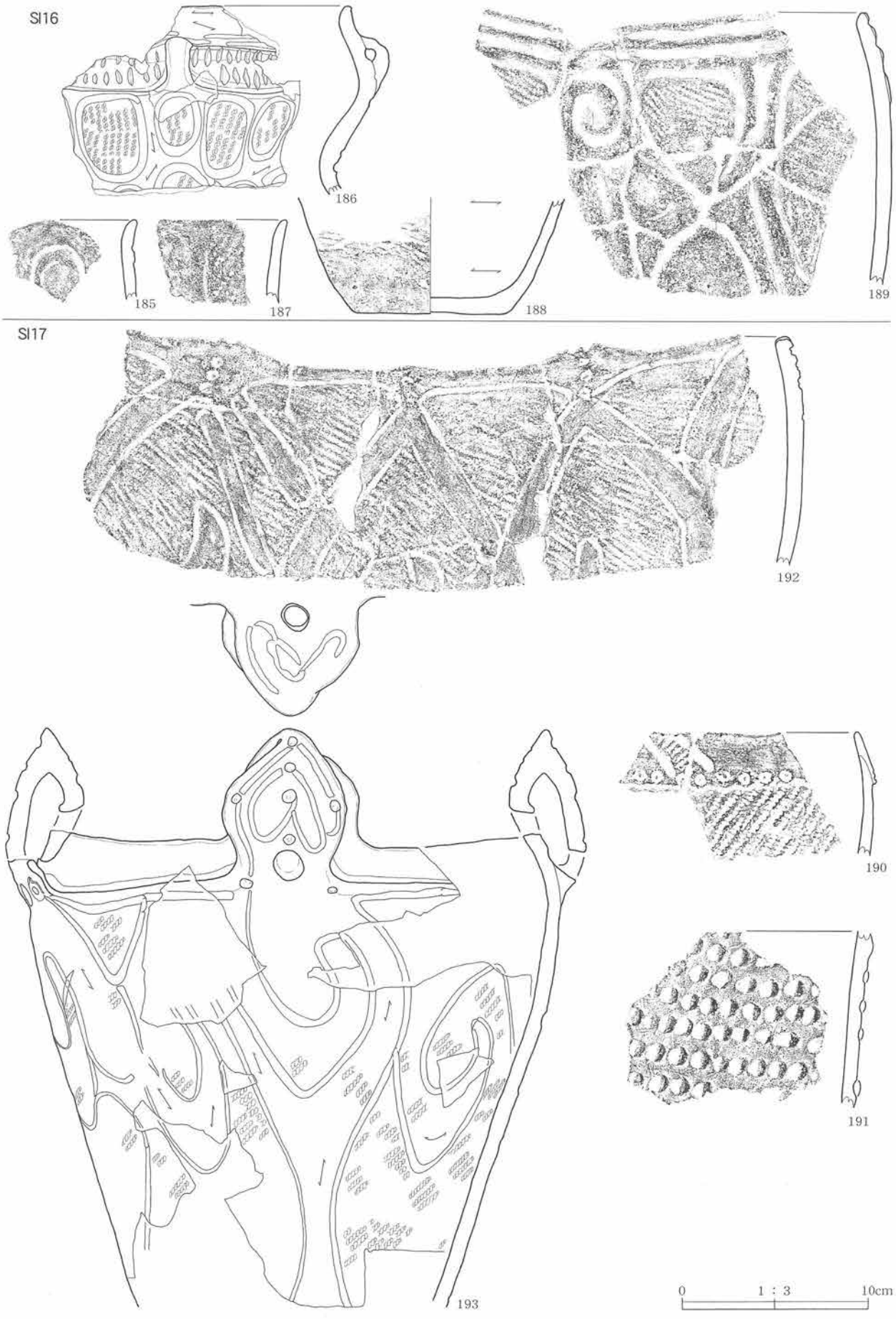
第87図　SI12・13 竪穴住居跡土器



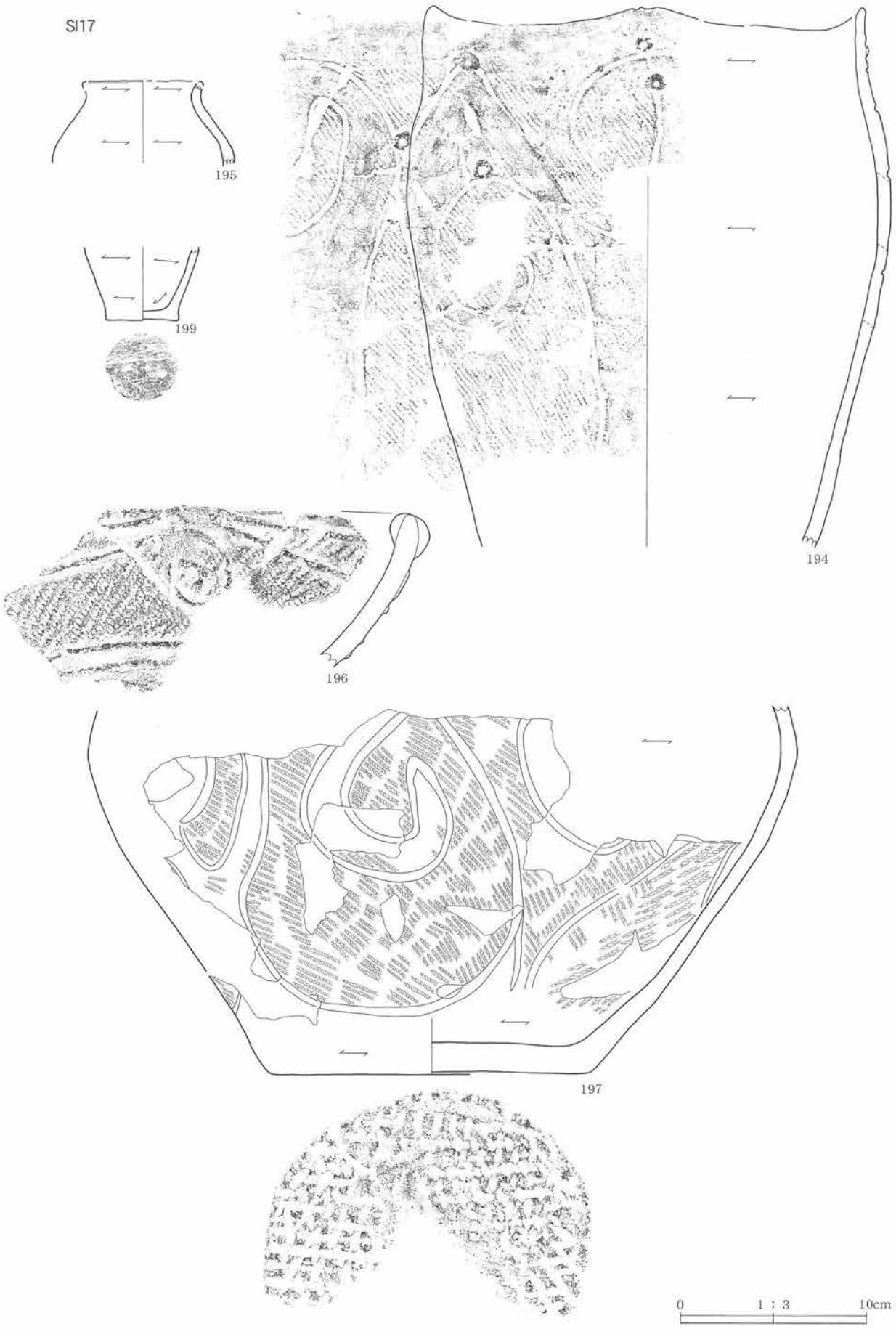
第88図　SI12～14 竪穴住居跡土器



第89図　SI13～16 竪穴住居跡土器

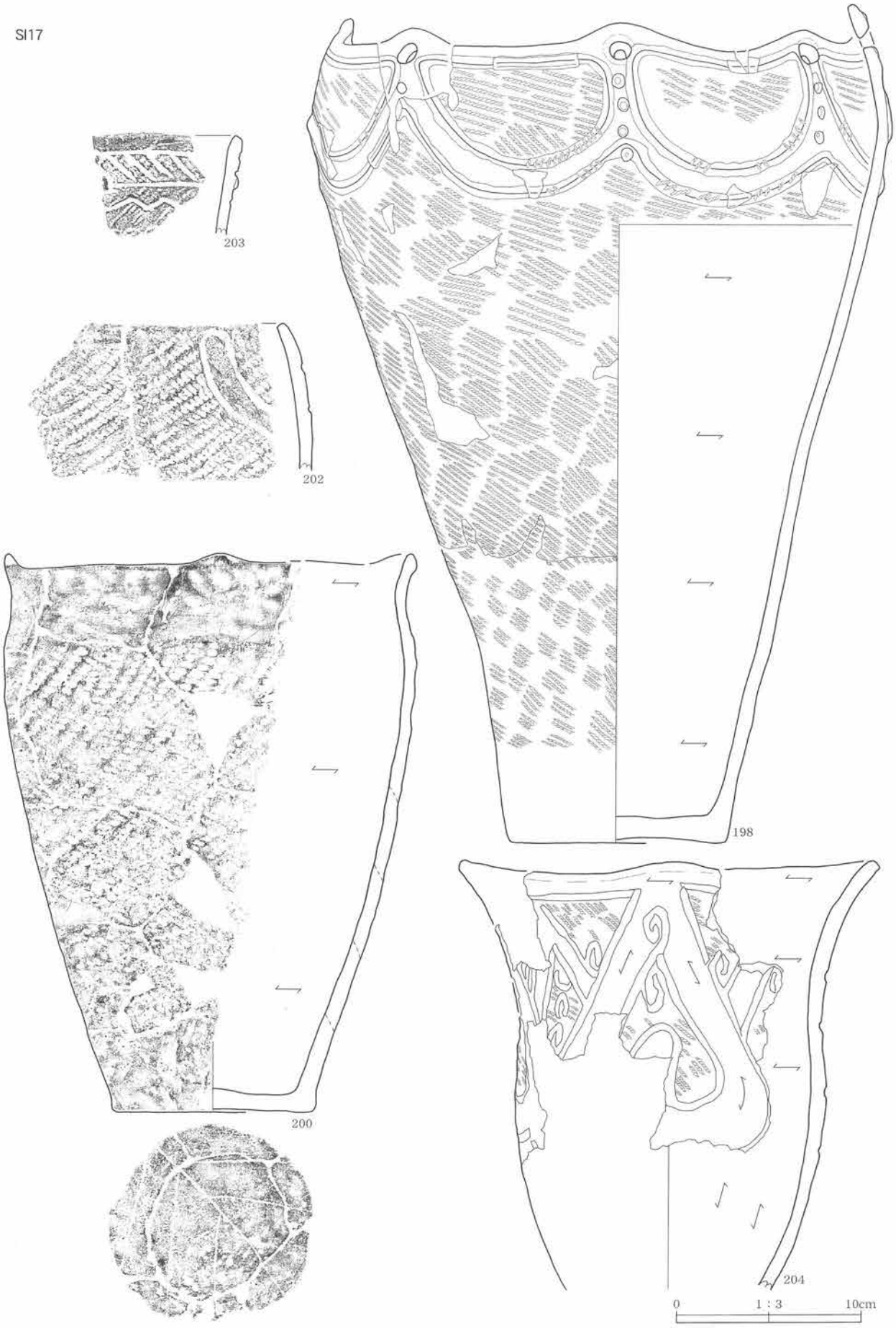


第90図　SI16・17 竪穴住居跡土器

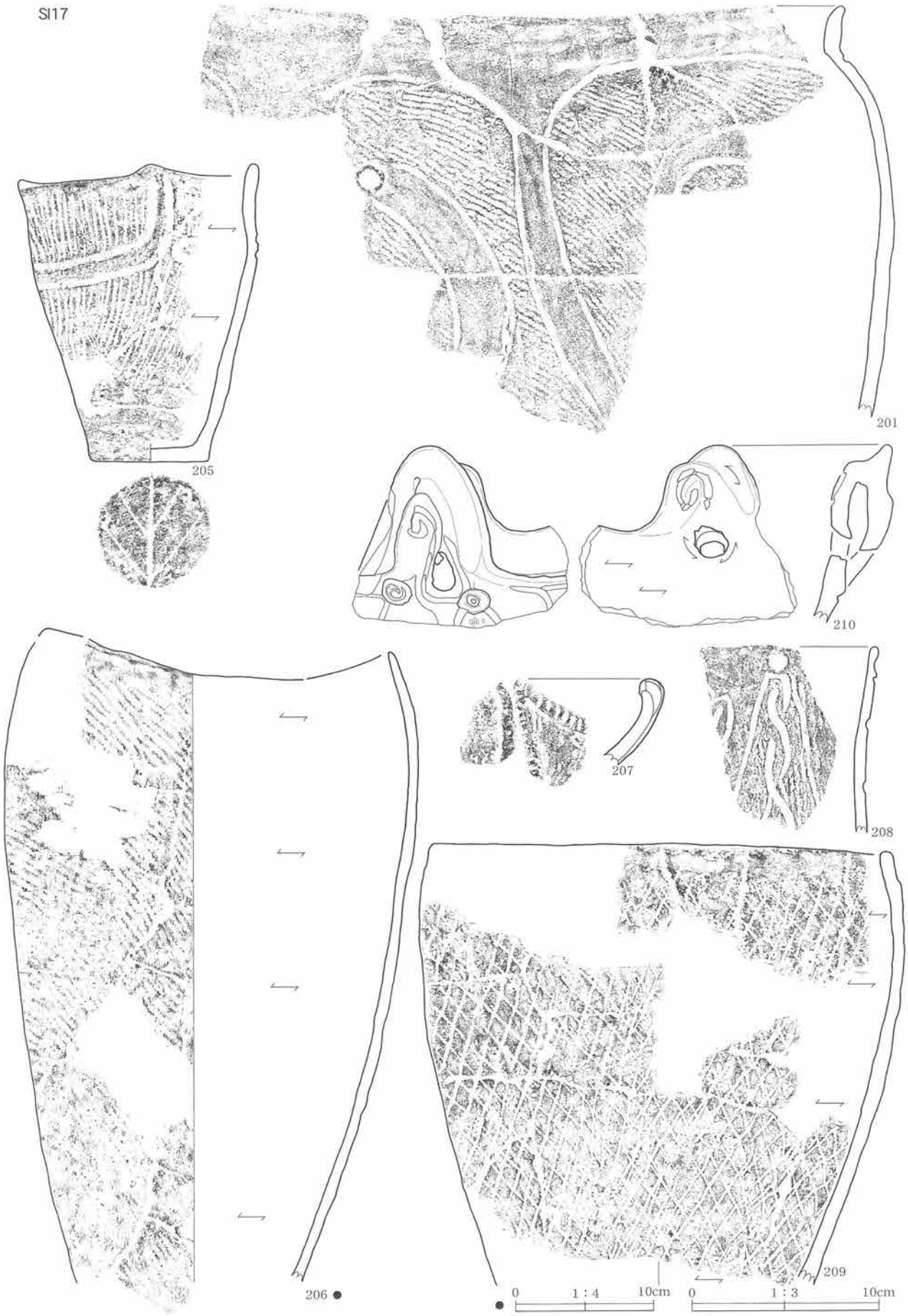


第91図　SI17 竪穴住居跡土器

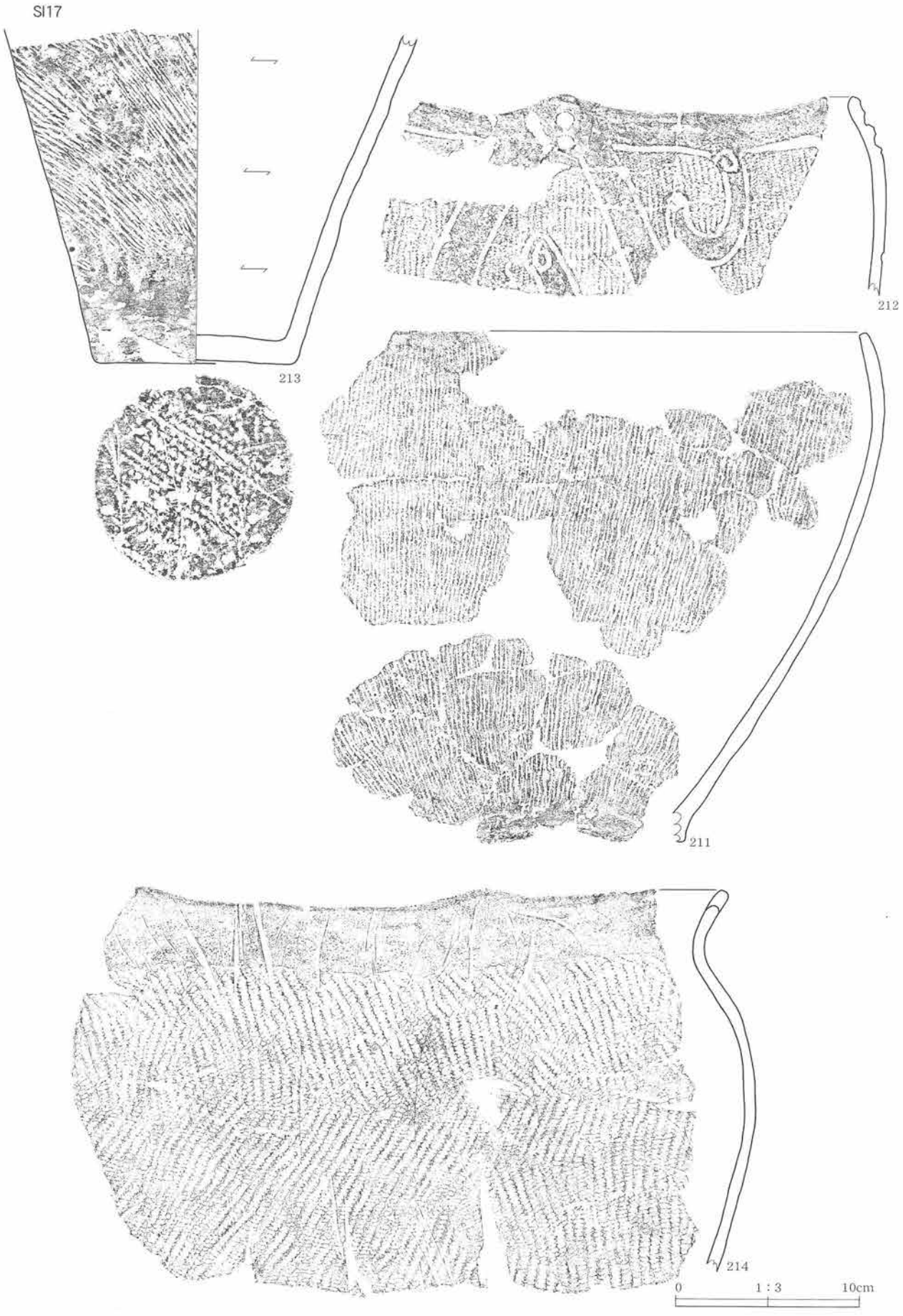
SI17



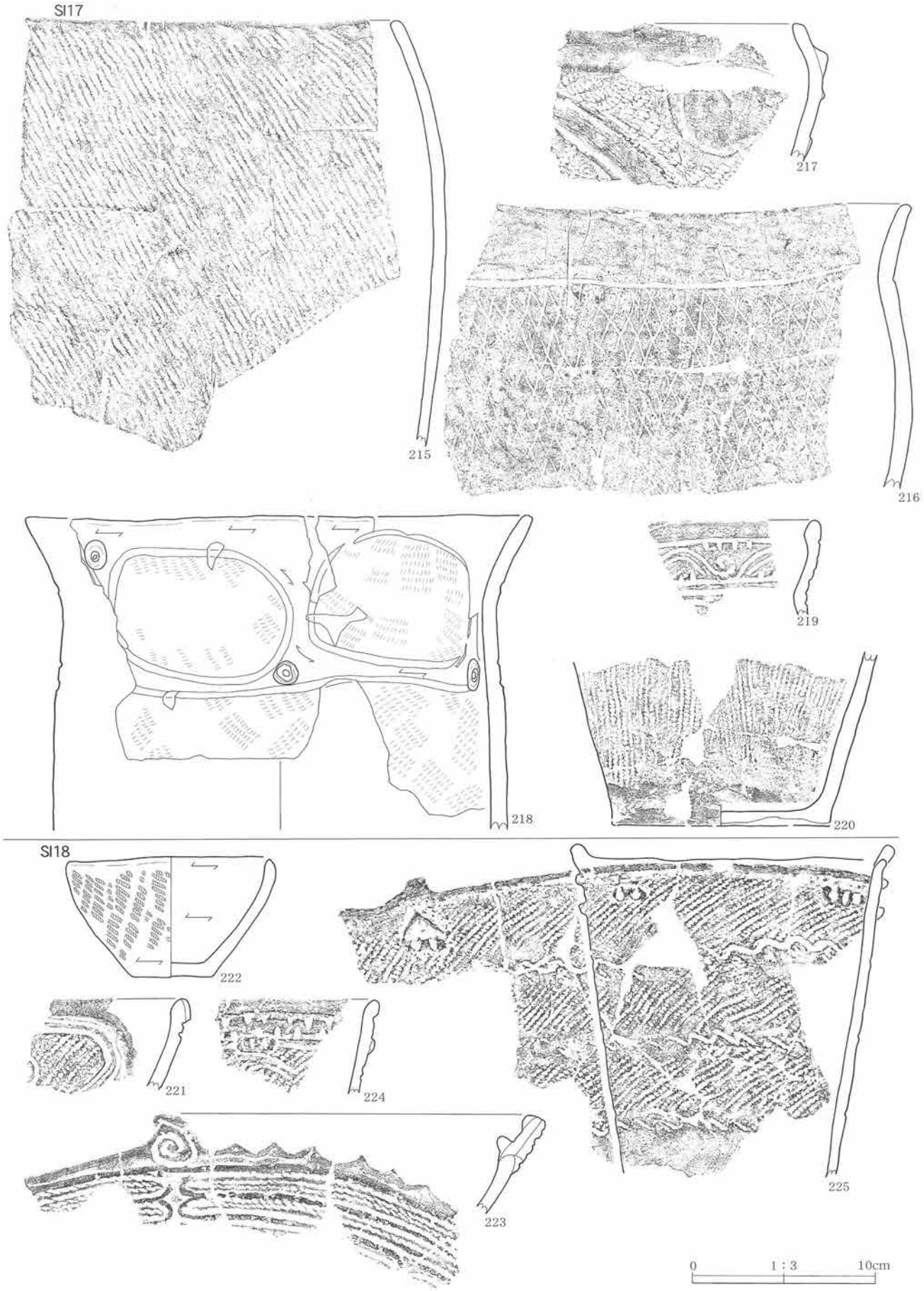
第92図　SI17 竪穴住居跡土器



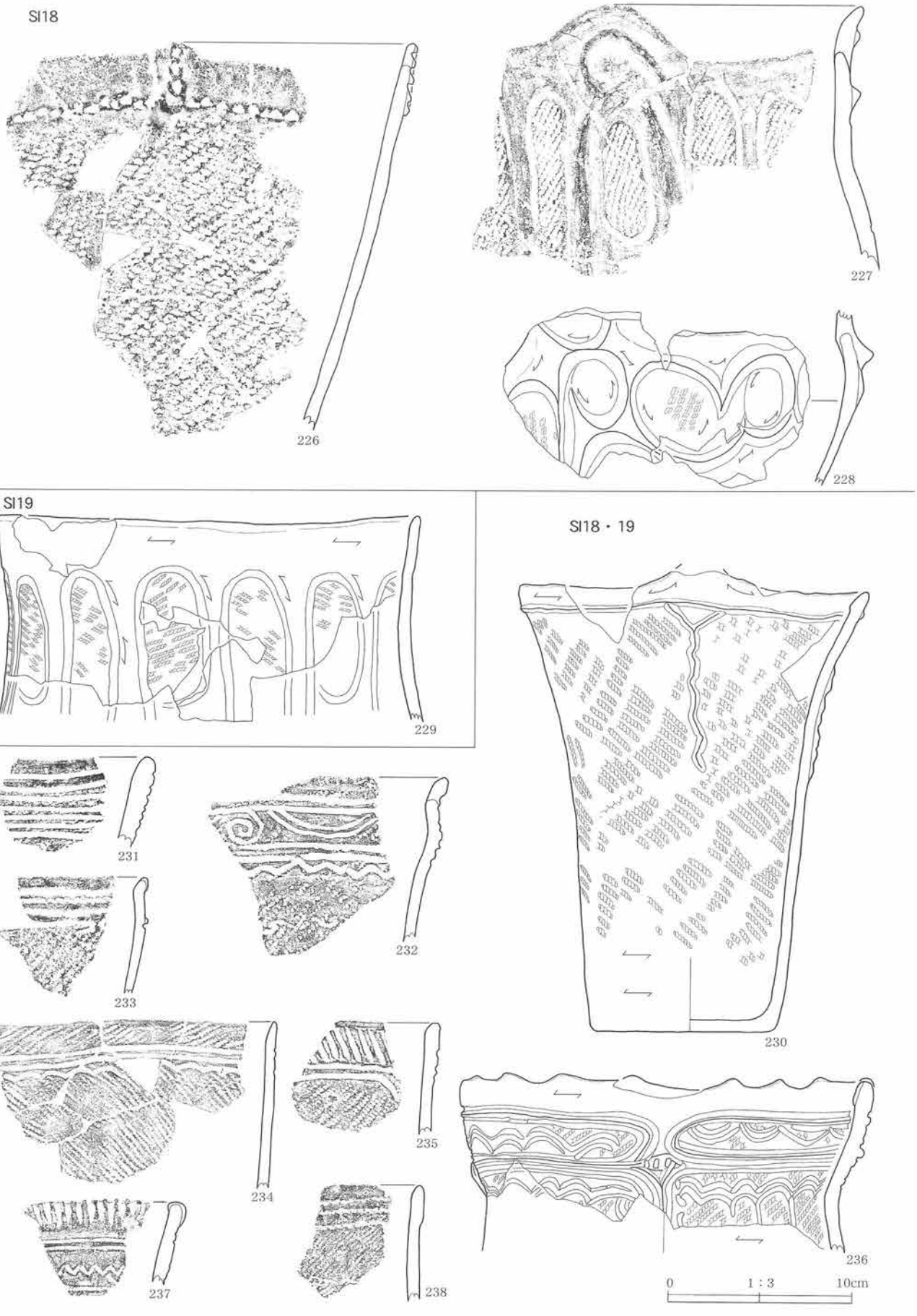
第93図　SI17 竪穴住居跡土器



第94図　SI17 竪穴住居跡土器

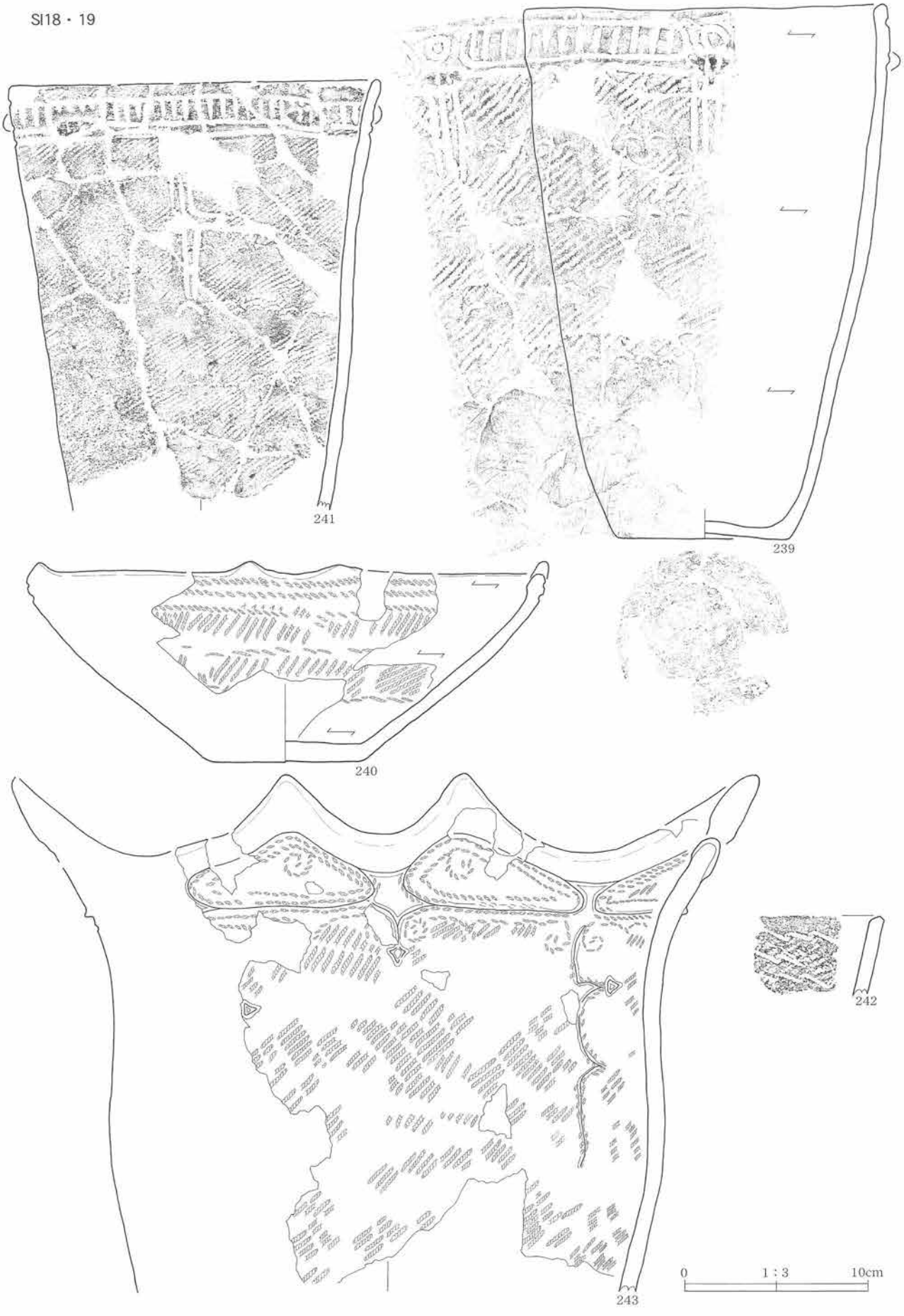


第95図　SI17・18 竪穴住居跡土器



第96図　SI18・19 竪穴住居跡土器

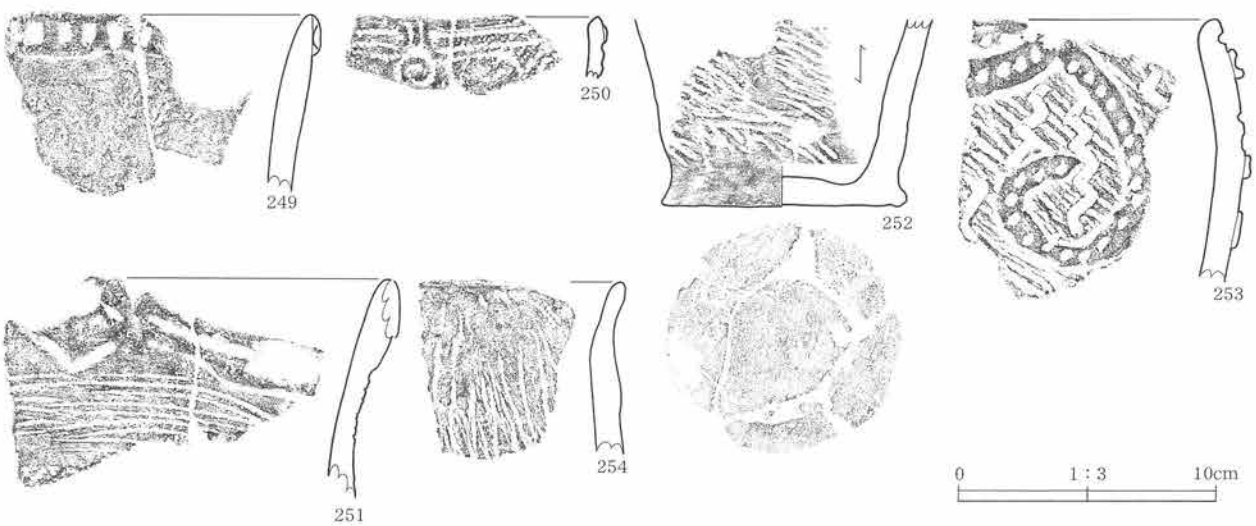
SI18・19



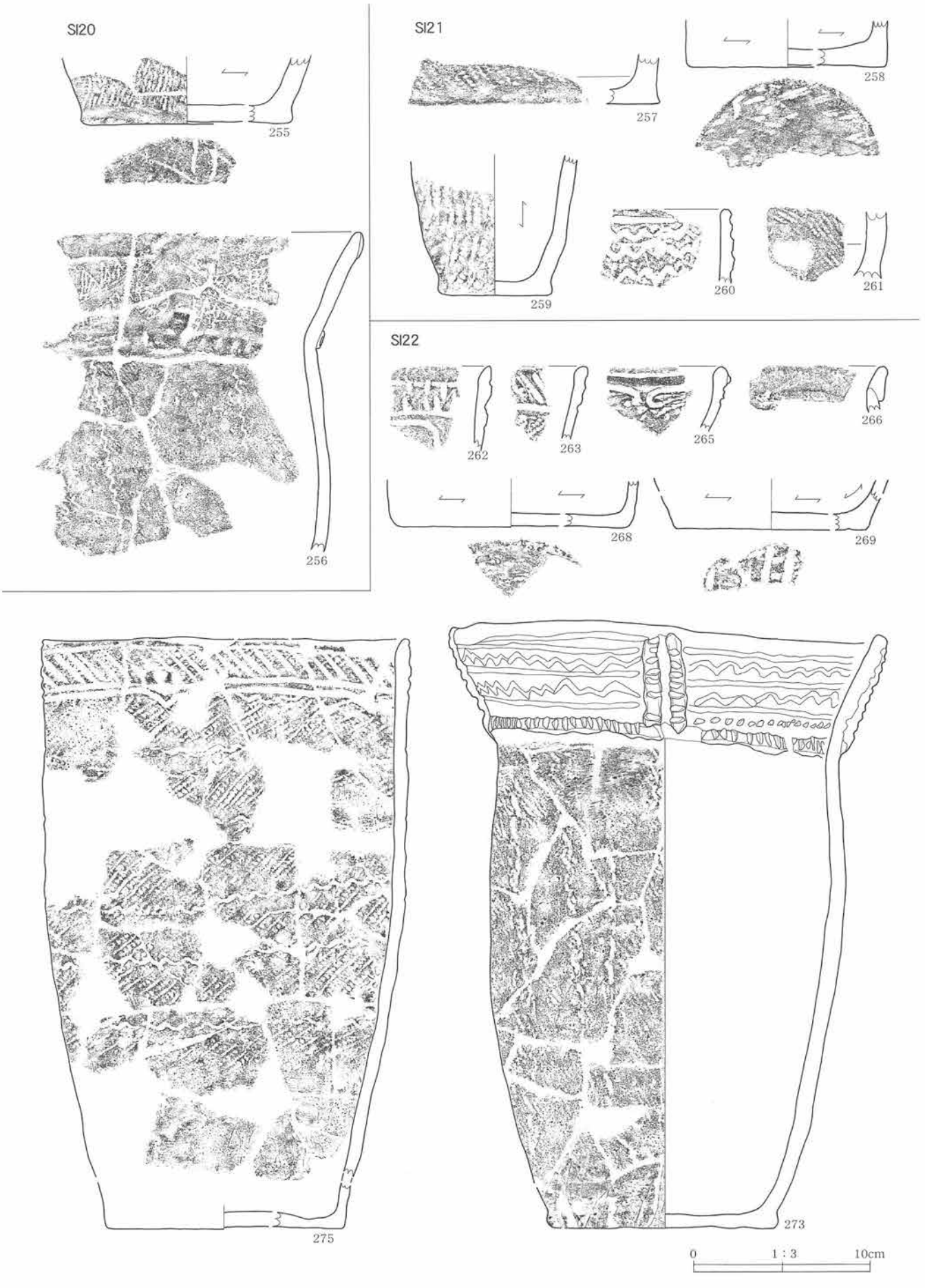
第97図　SI18・19 竪穴住居跡土器

SI18・19

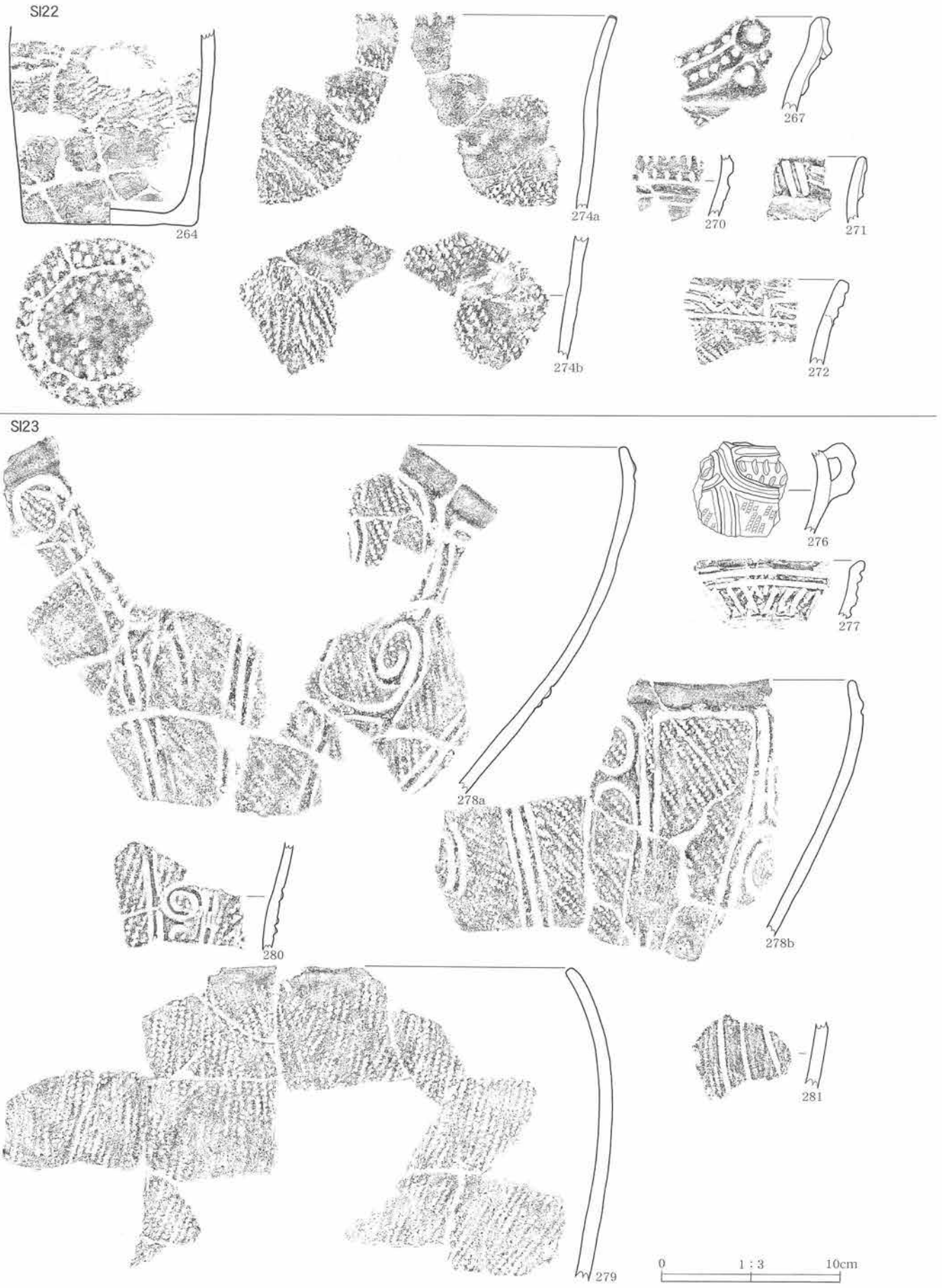
SI20



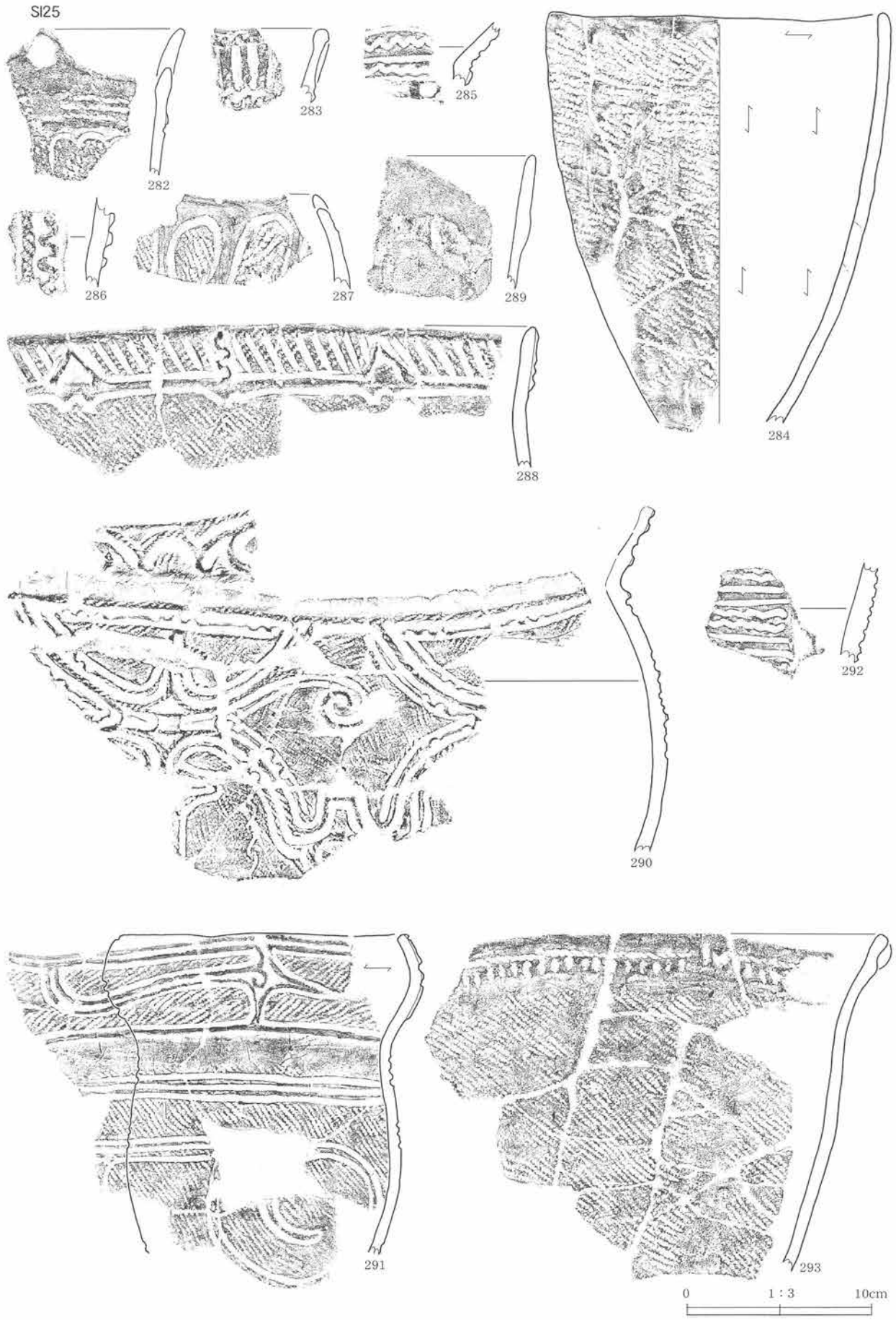
第98図　SI18～20 竪穴住居跡土器



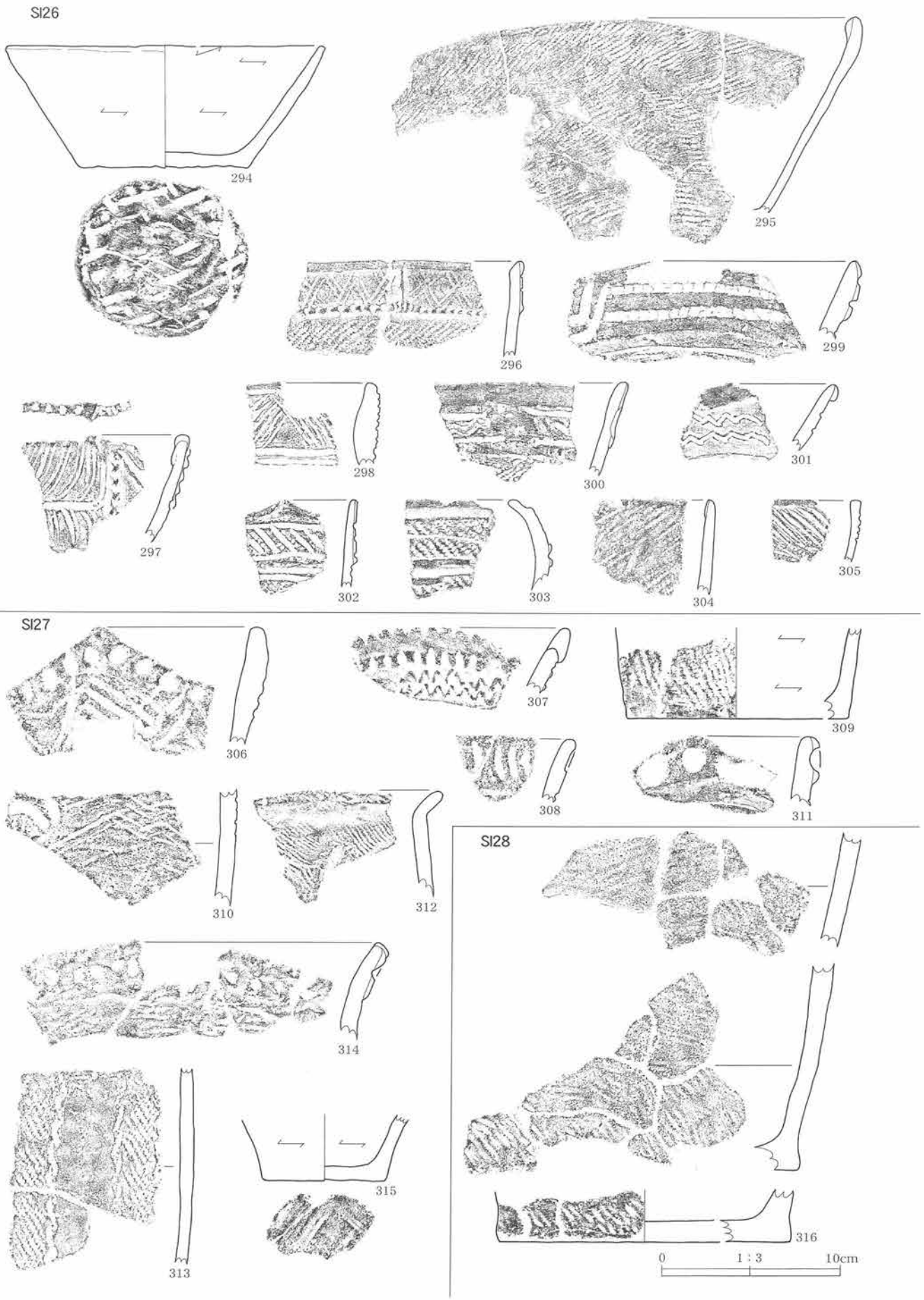
第99図　SI20～22 竪穴住居跡土器



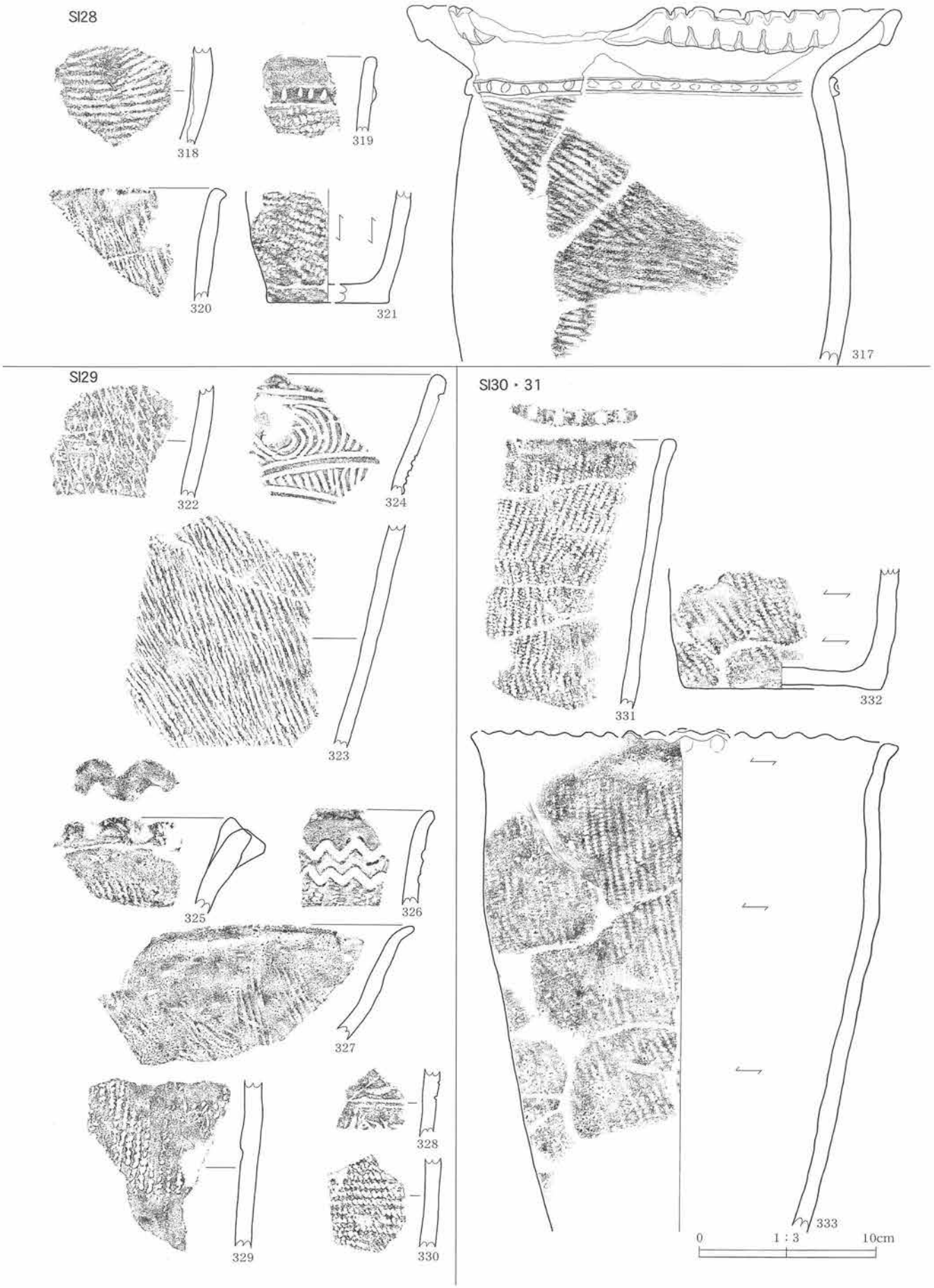
第100図　SI22・23 竪穴住居跡土器



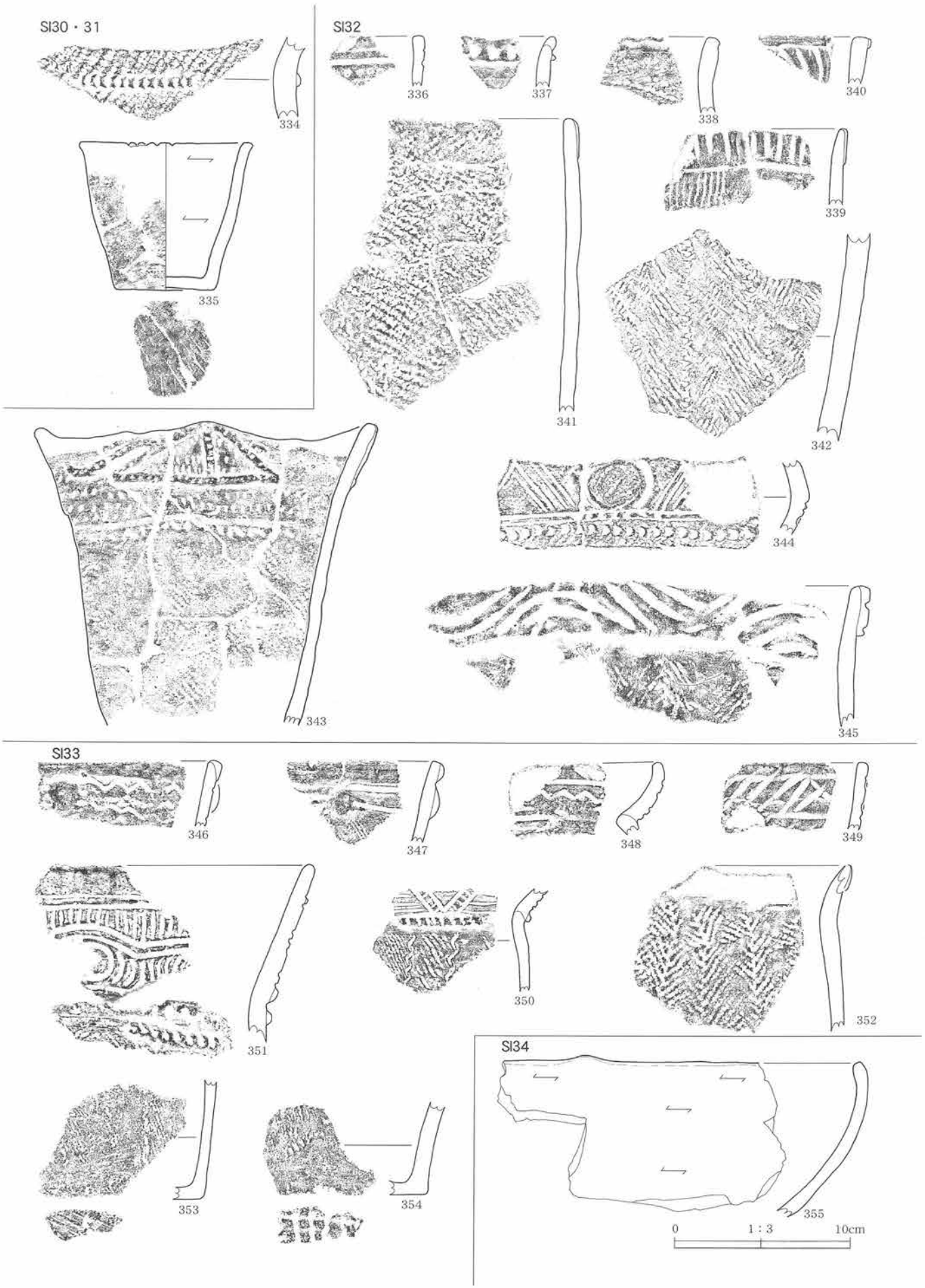
第101図　SI25 竪穴住居跡土器



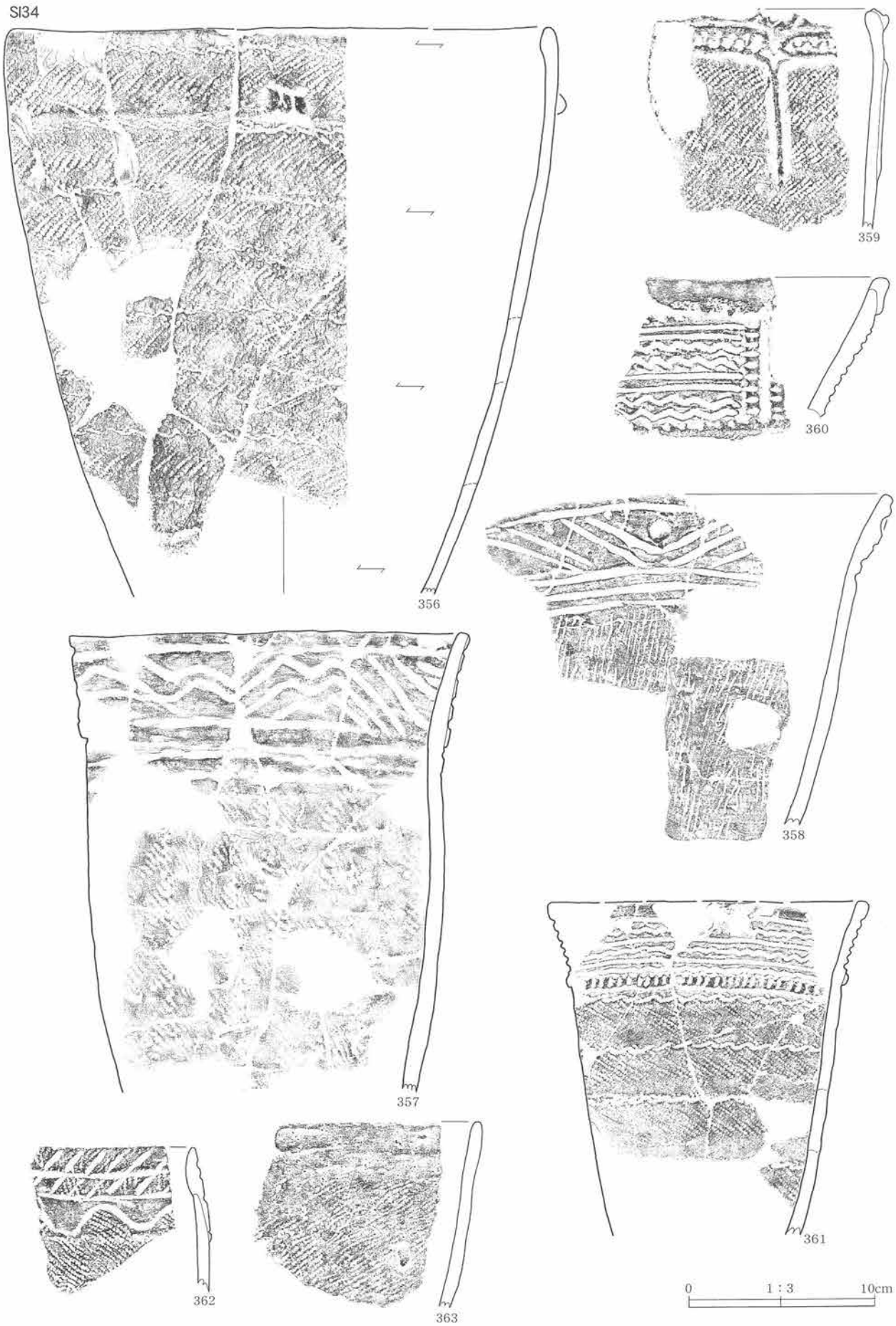
第102図　SI26～28 竪穴住居跡土器



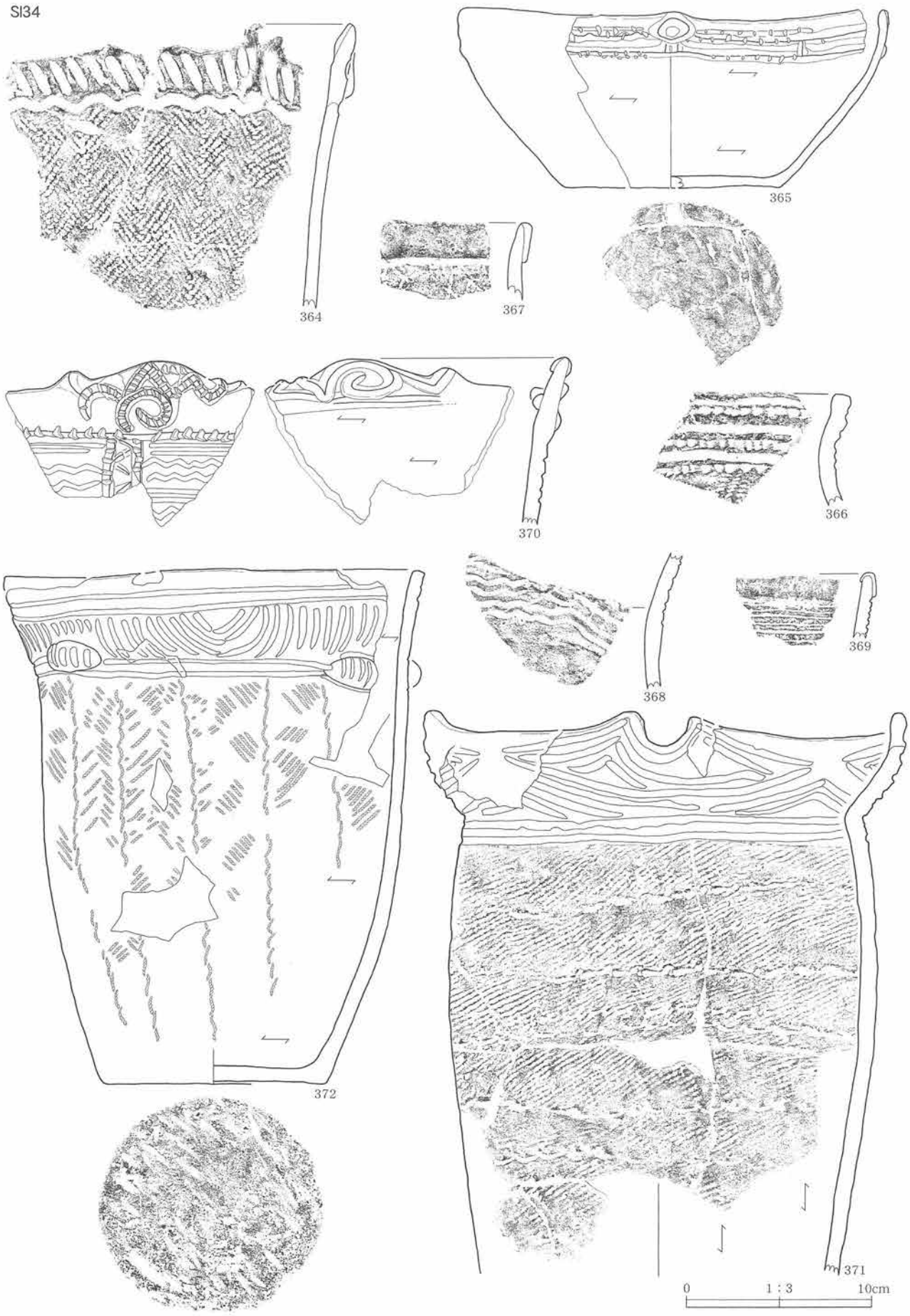
第103図　SI28～31 竪穴住居跡土器



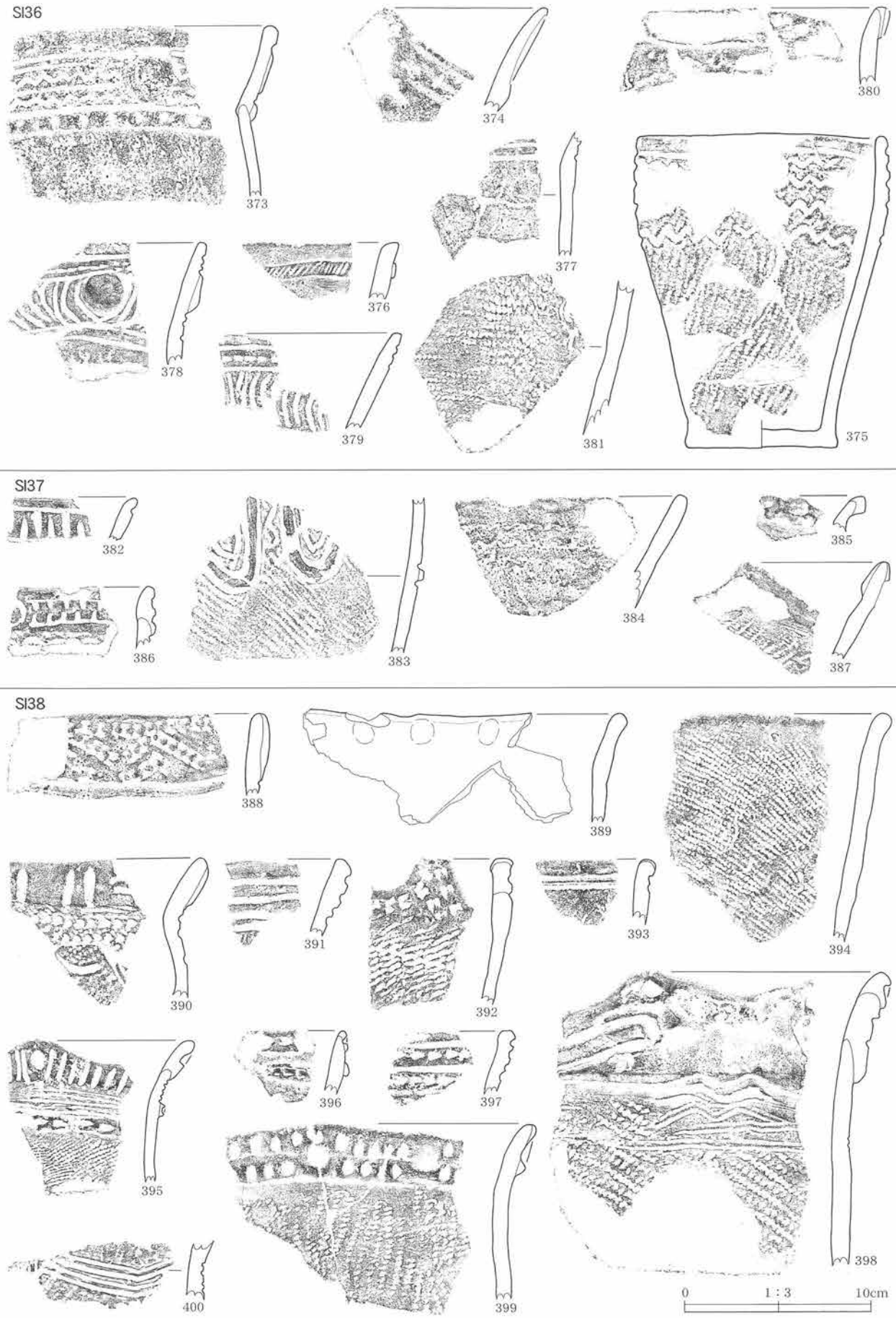
第104図　SI30～34 竪穴住居跡土器



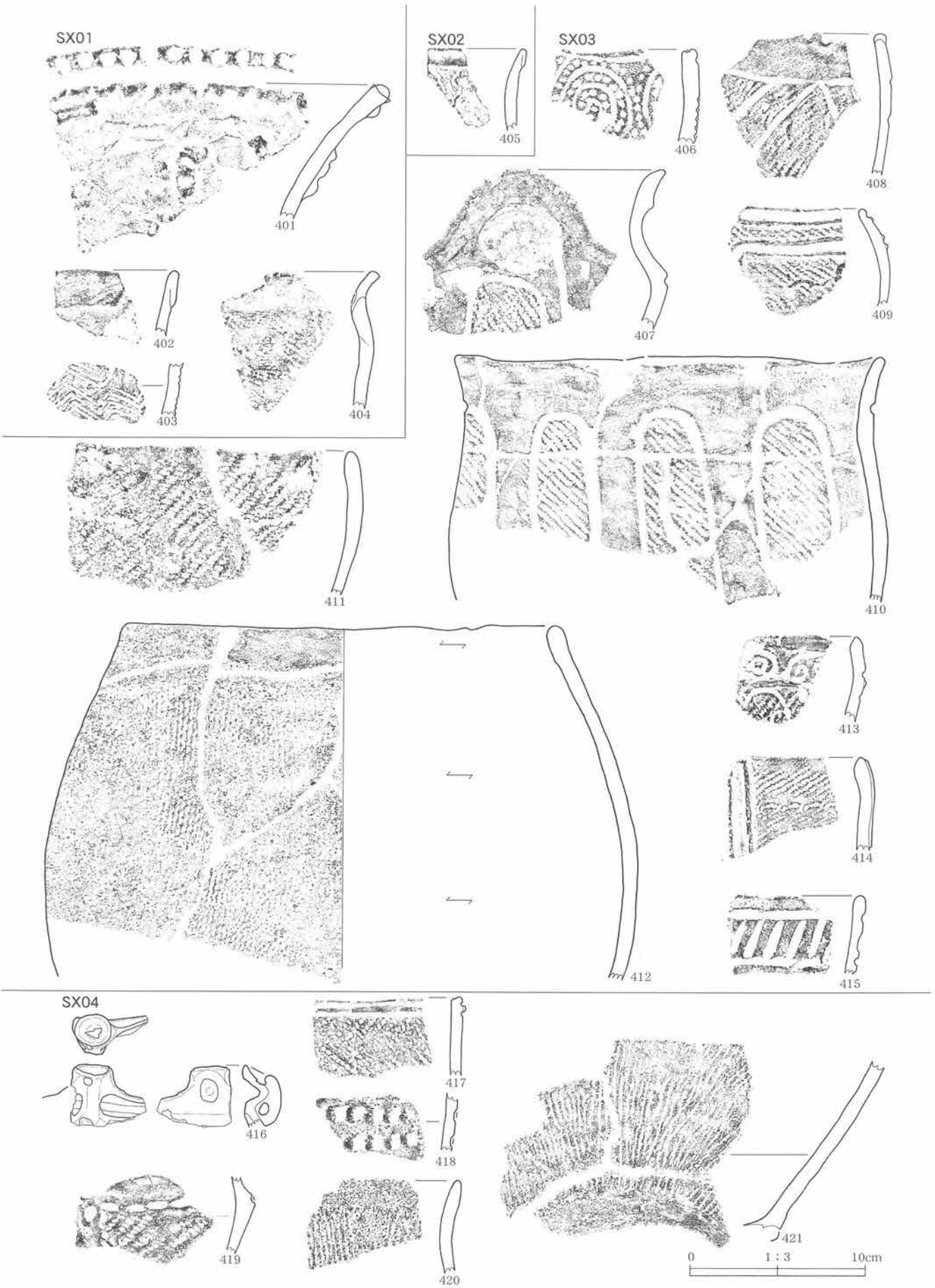
第105図　SI34 竪穴住居跡土器



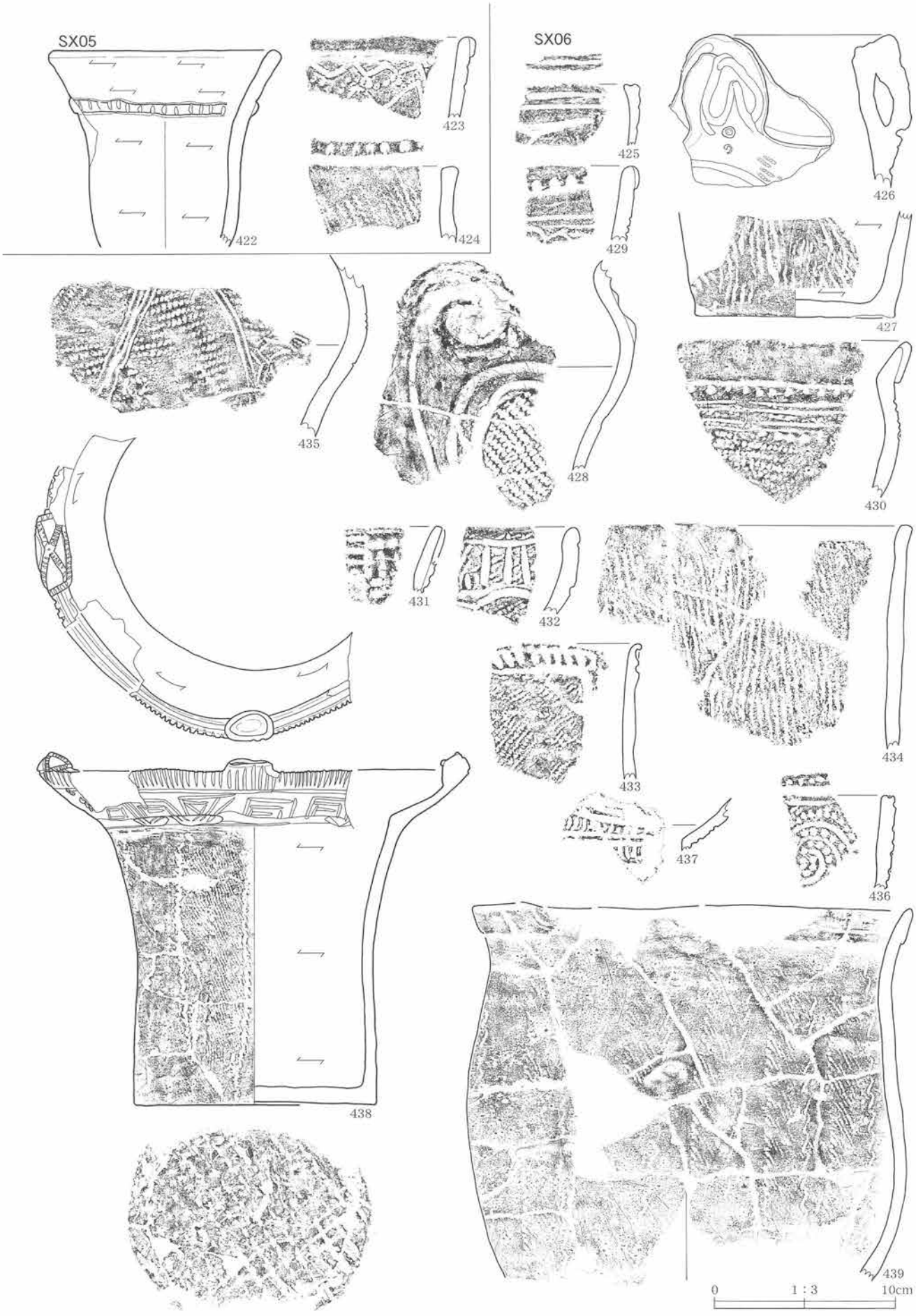
第106図　SI34 竪穴住居跡土器



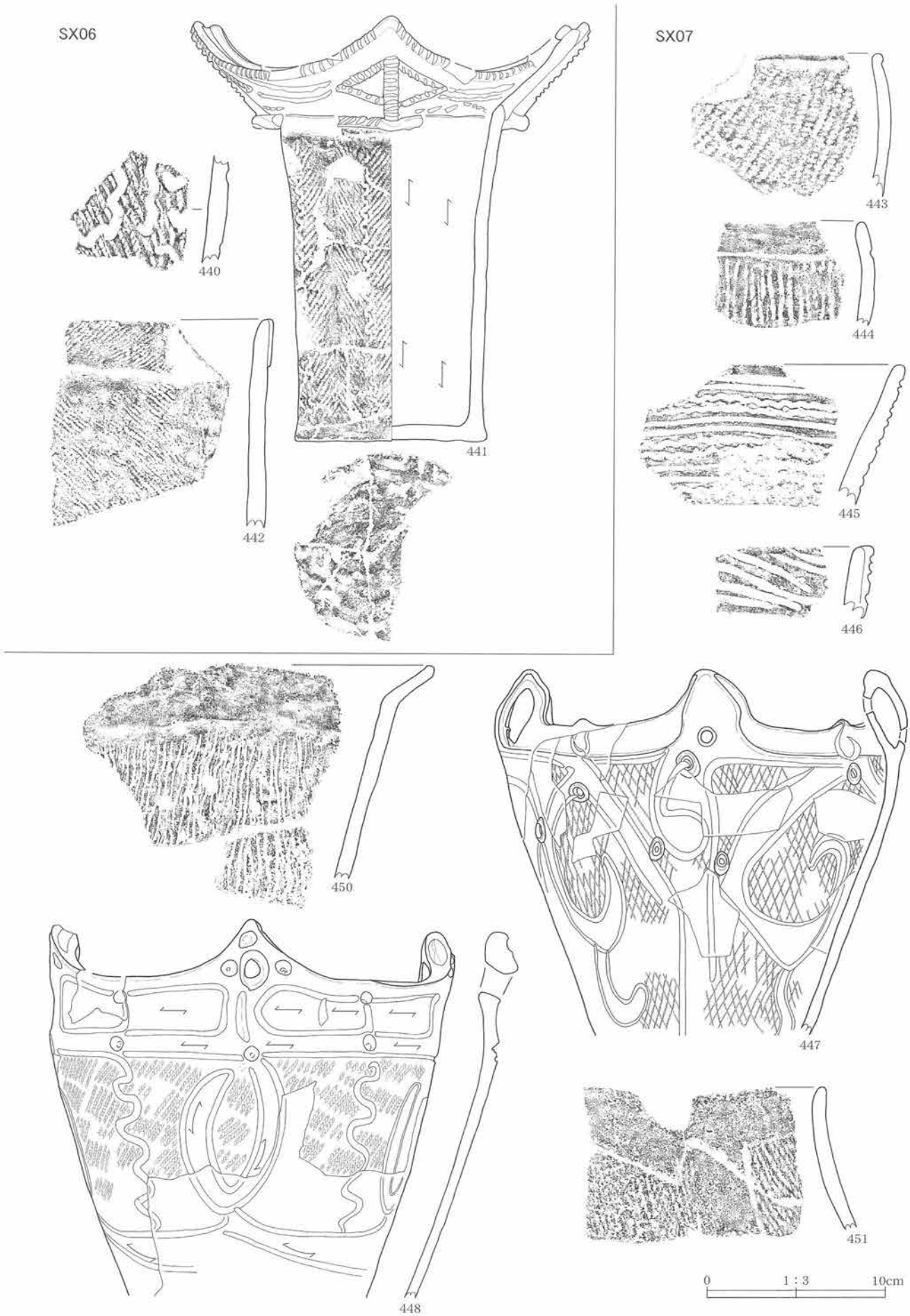
第107図　SI36～38 竪穴住居跡土器



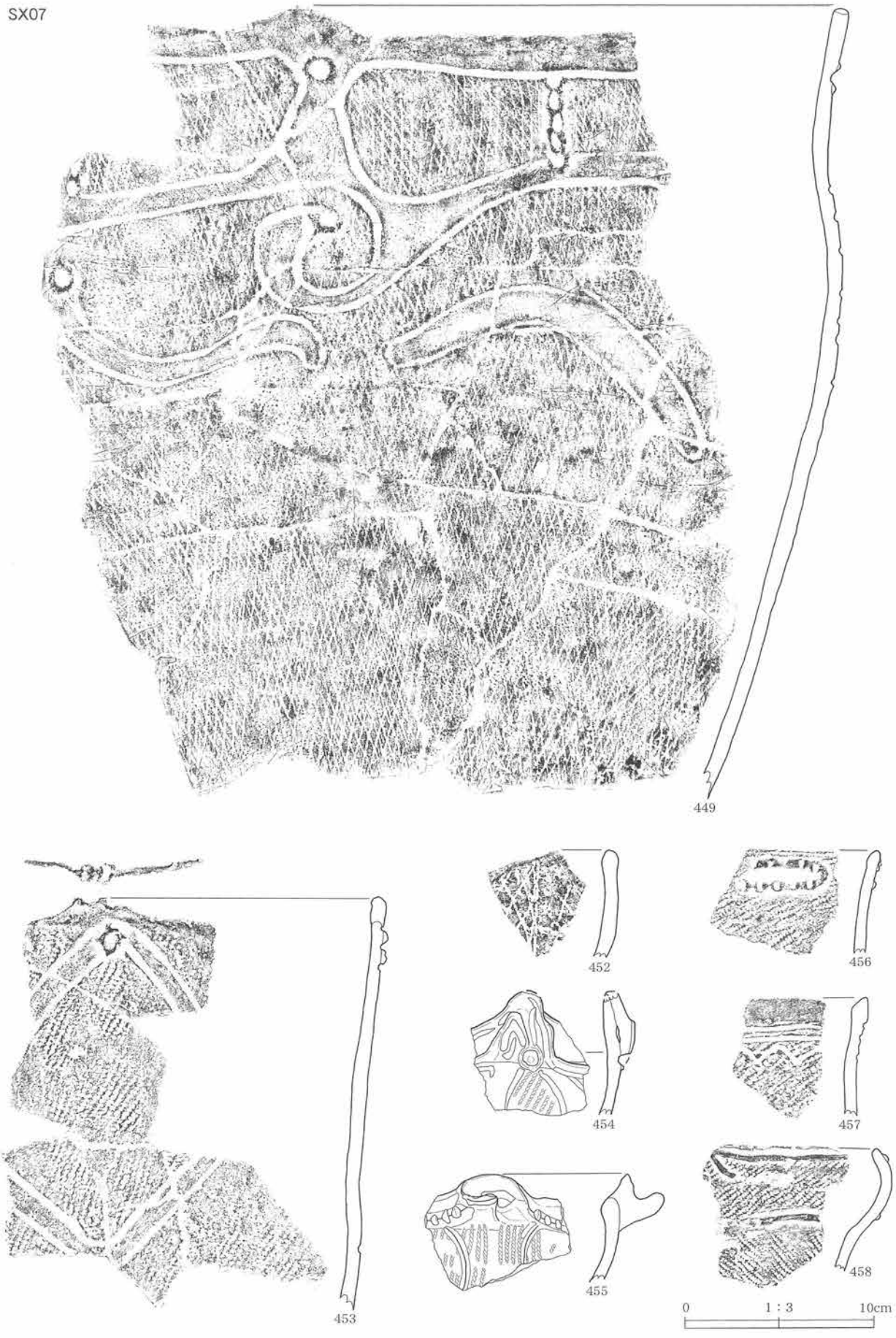
第108図　SX01～04 住居状遺構土器



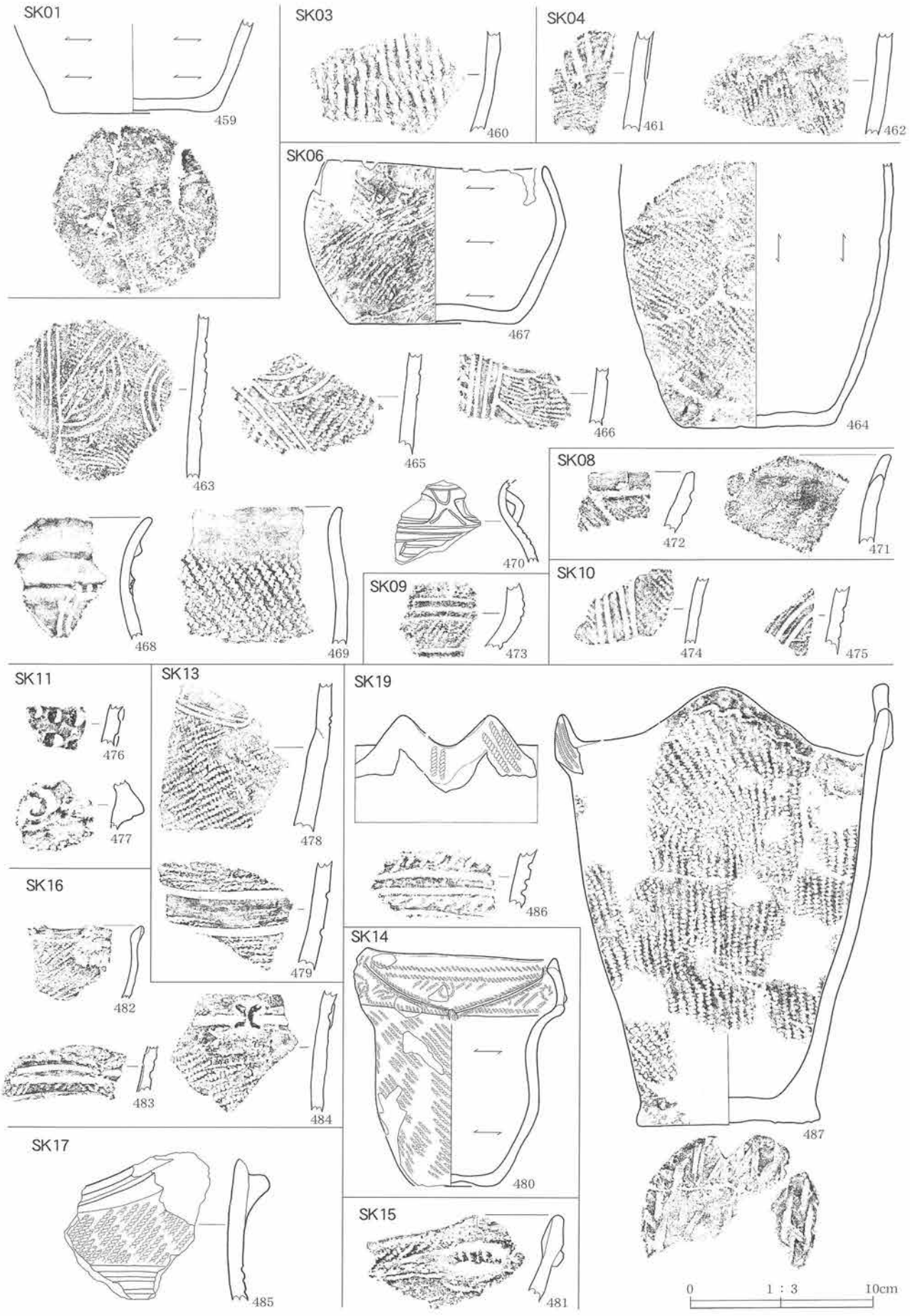
第109図　SX05・06 住居状遺構土器



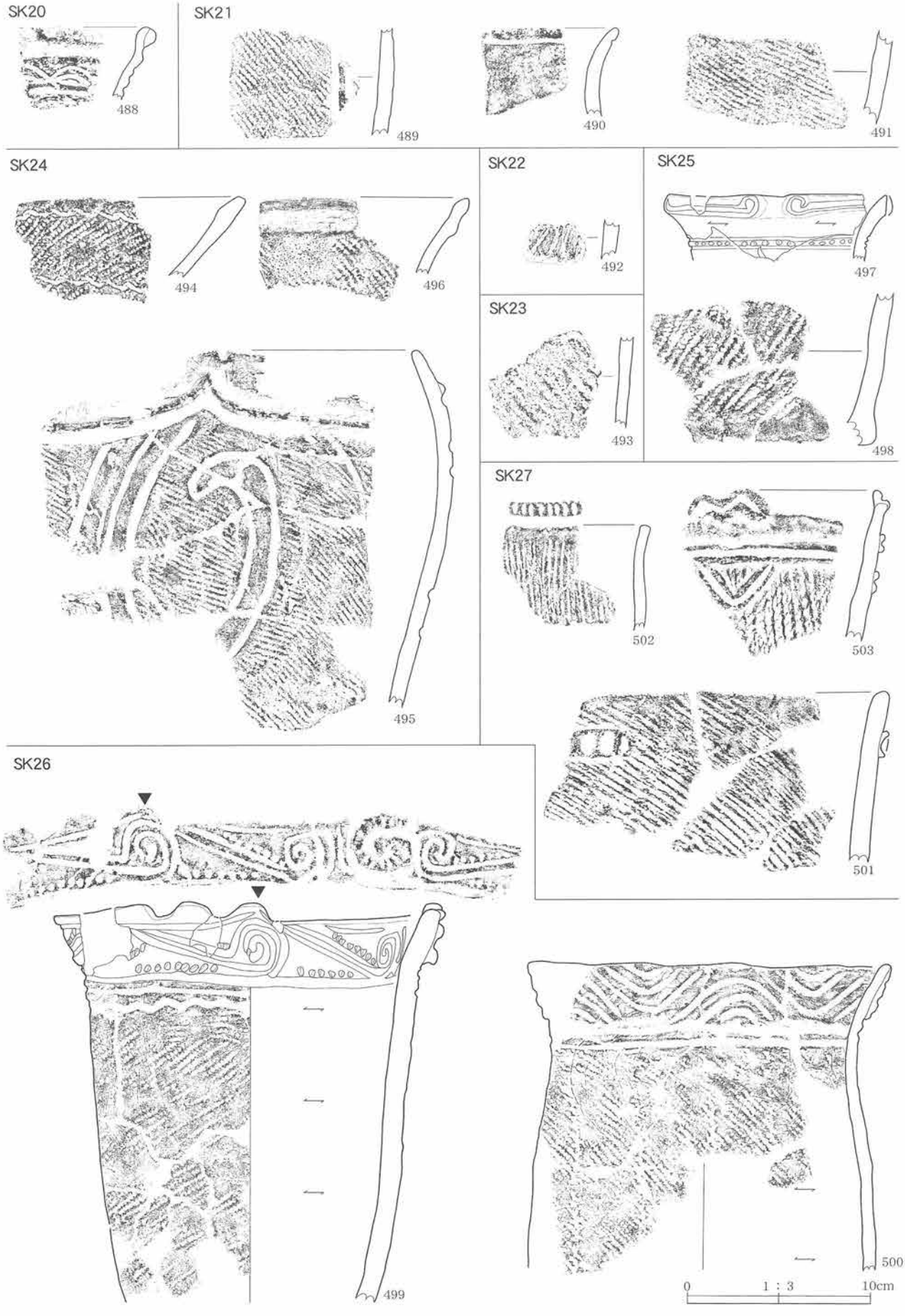
第110図　SX06・07 住居状遺構土器



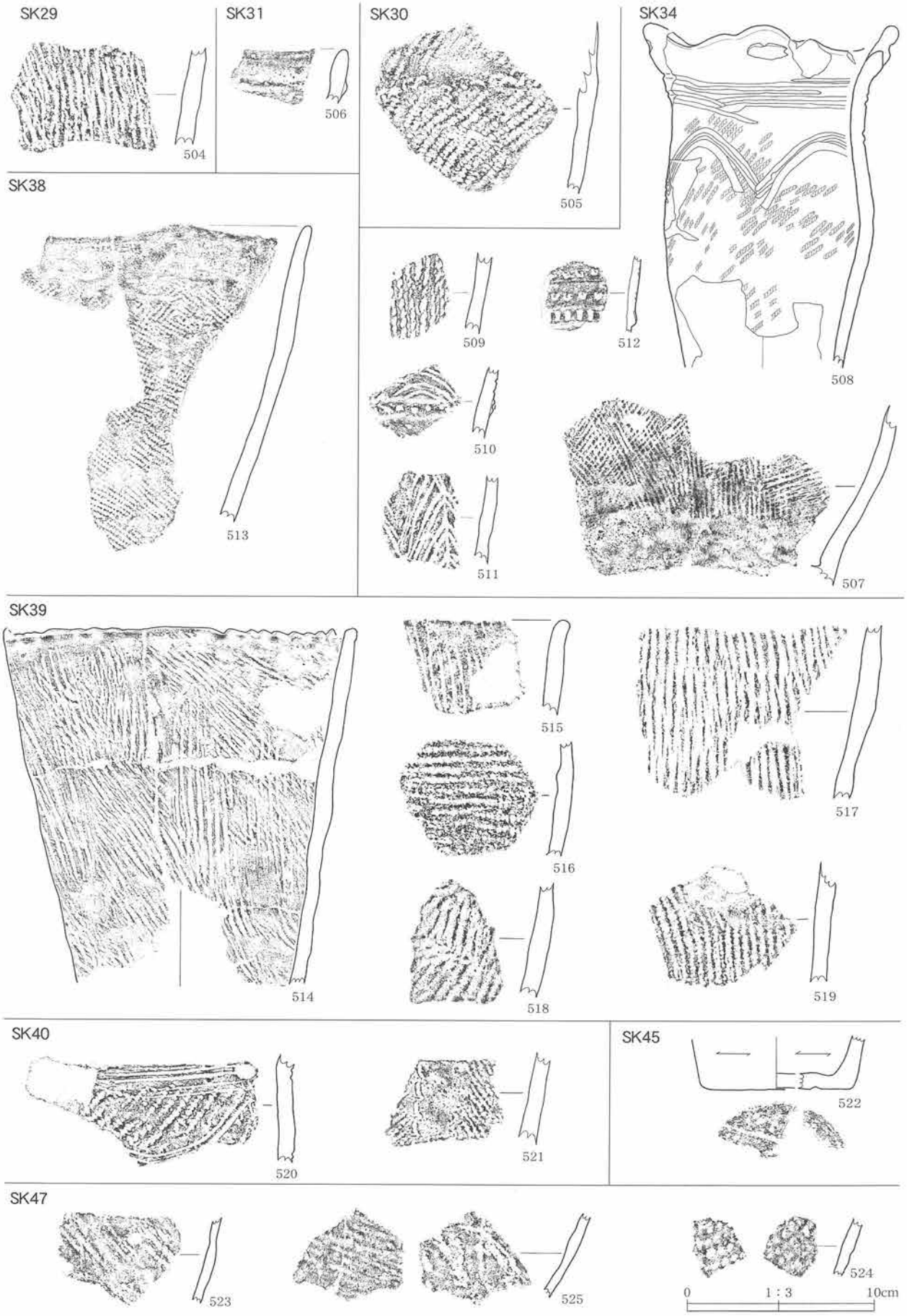
第111図　SX07 住居状遺構土器



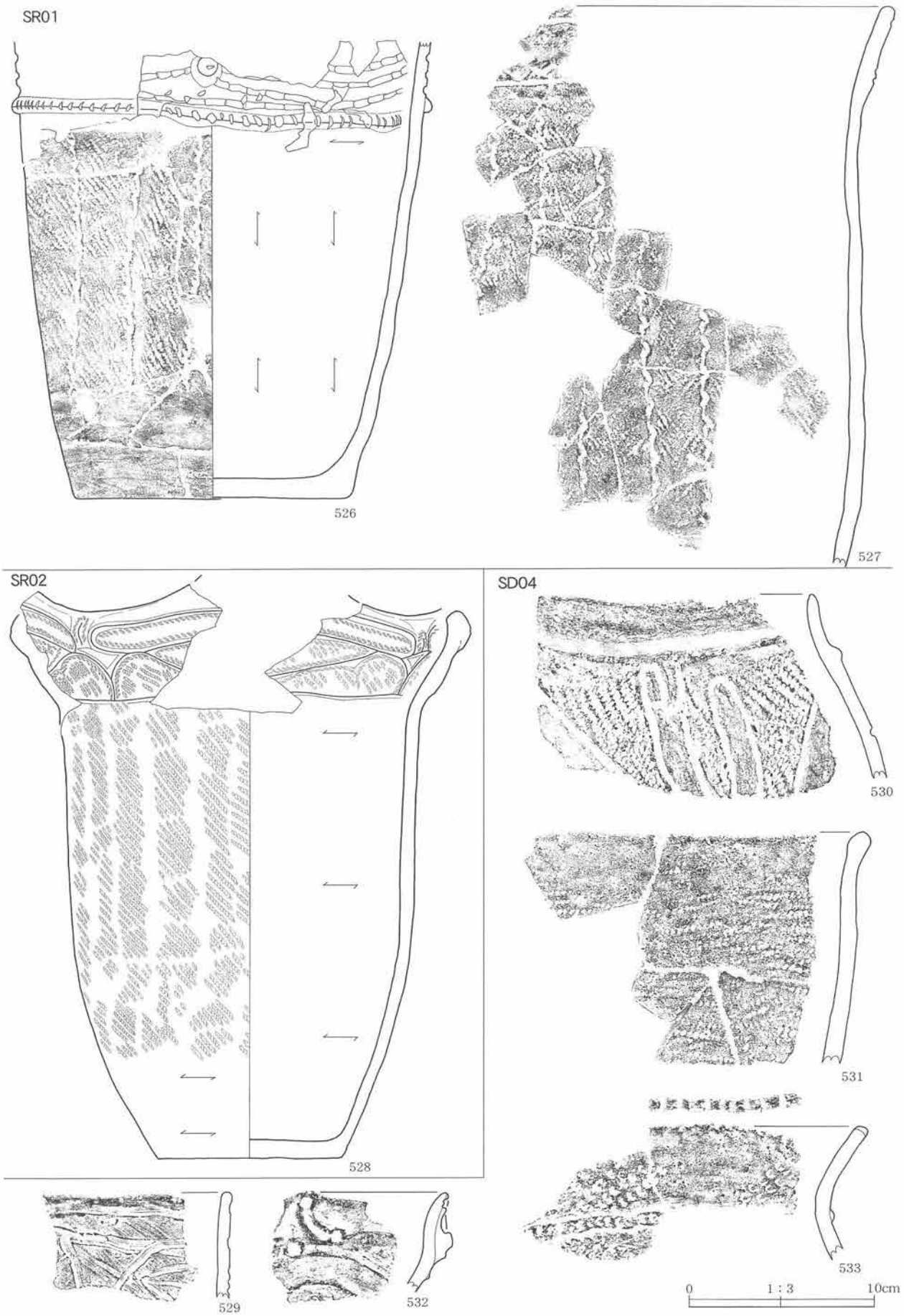
第112図　SK01・03・04・06・08～11・13～17・19 土坑土器



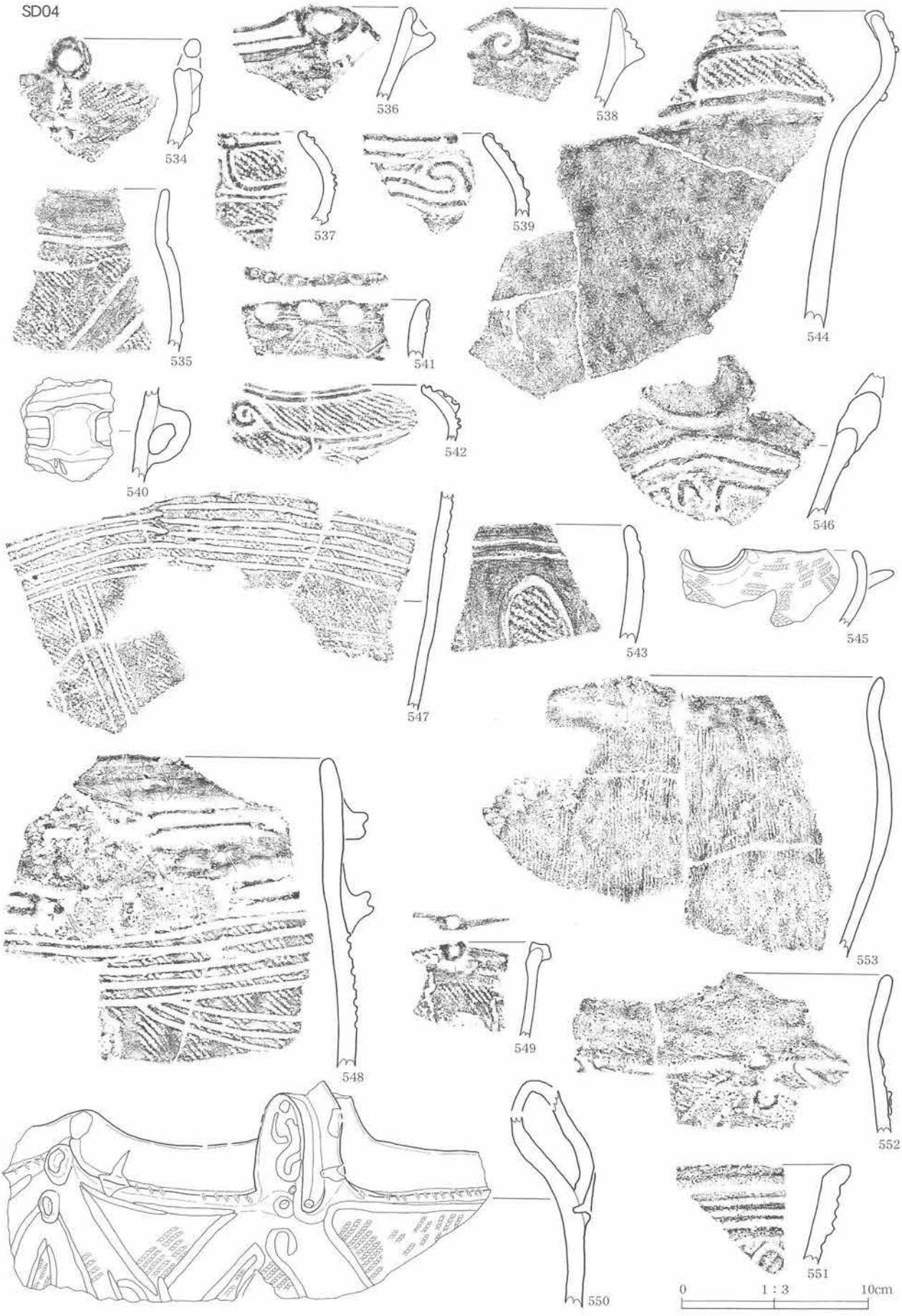
第113図　SK20～27 土坑土器



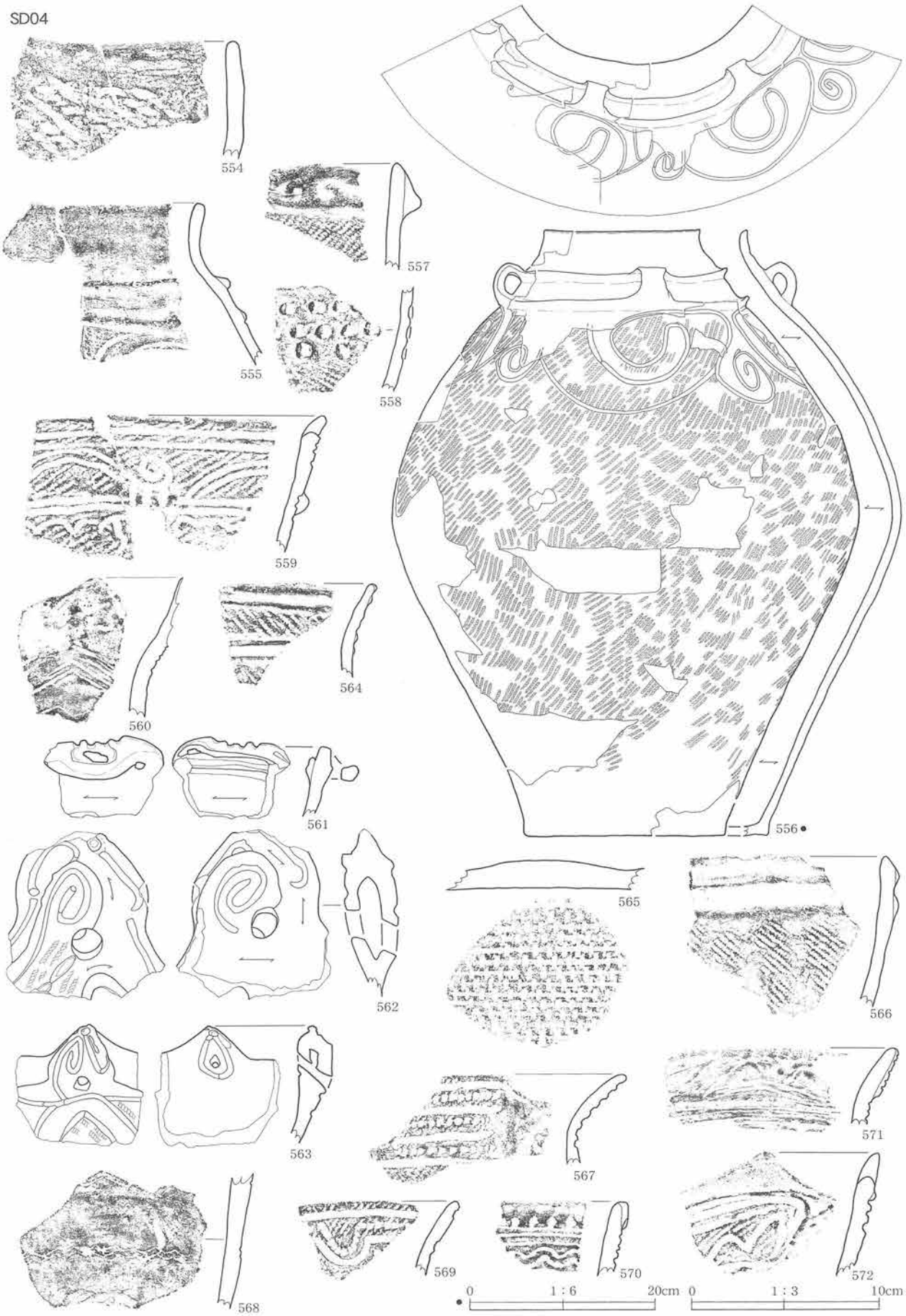
第114図　SK29～31・34・38～40・45・47 土坑土器



第115図　SR01・02 土器埋設遺構　SD04 堀跡土器

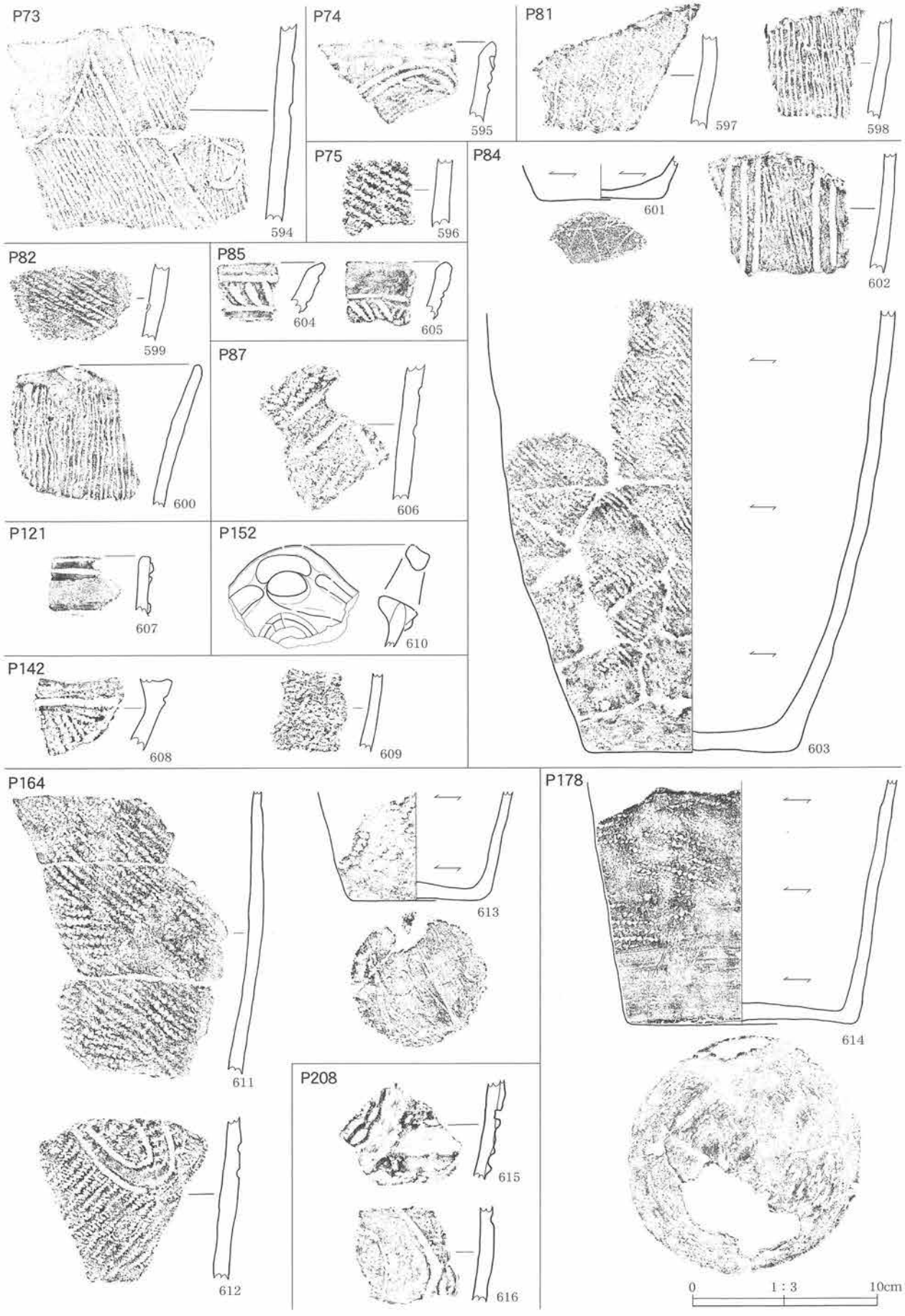


第116図　SD04 堀跡土器

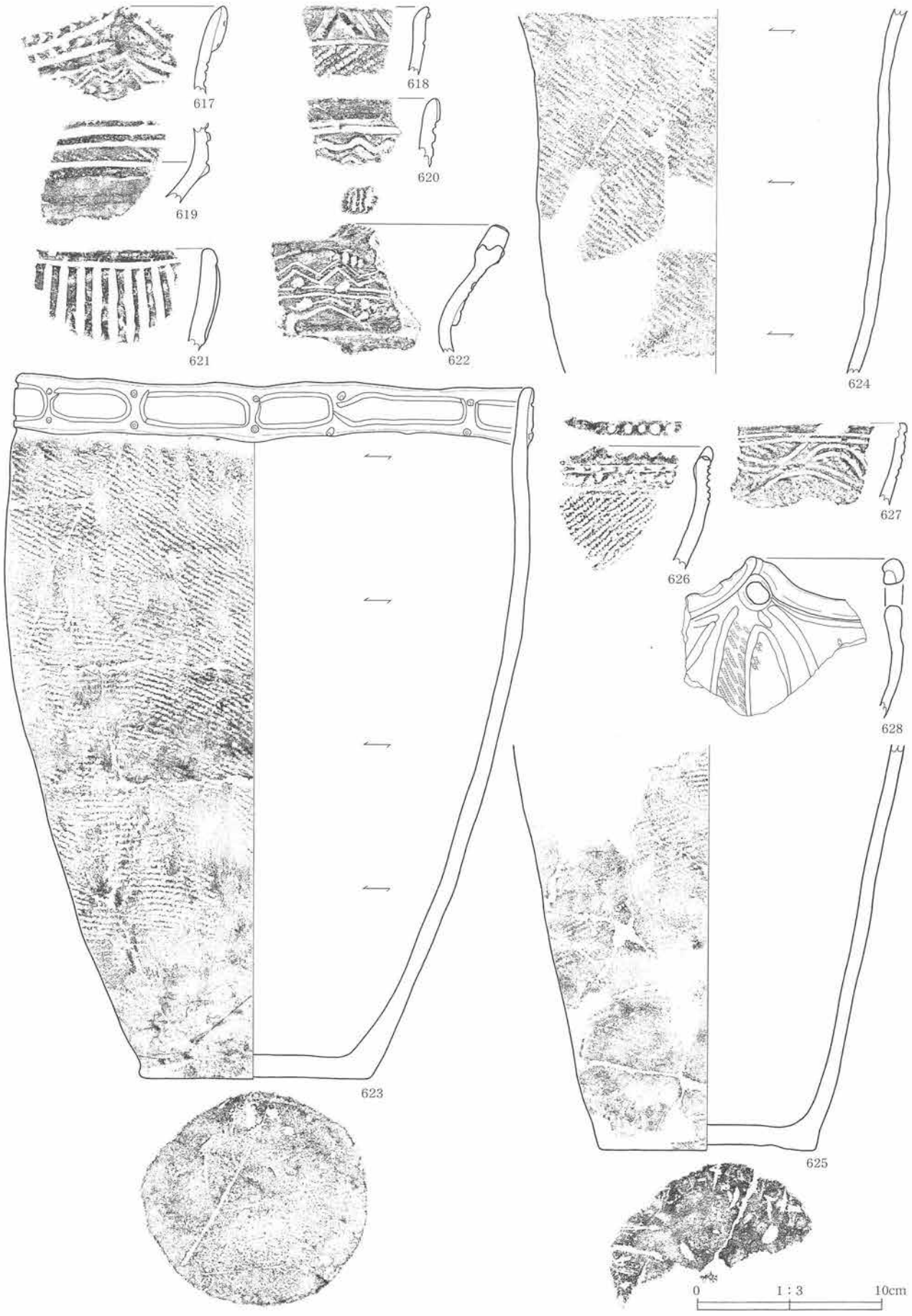


第117図　SD04 堀跡土器

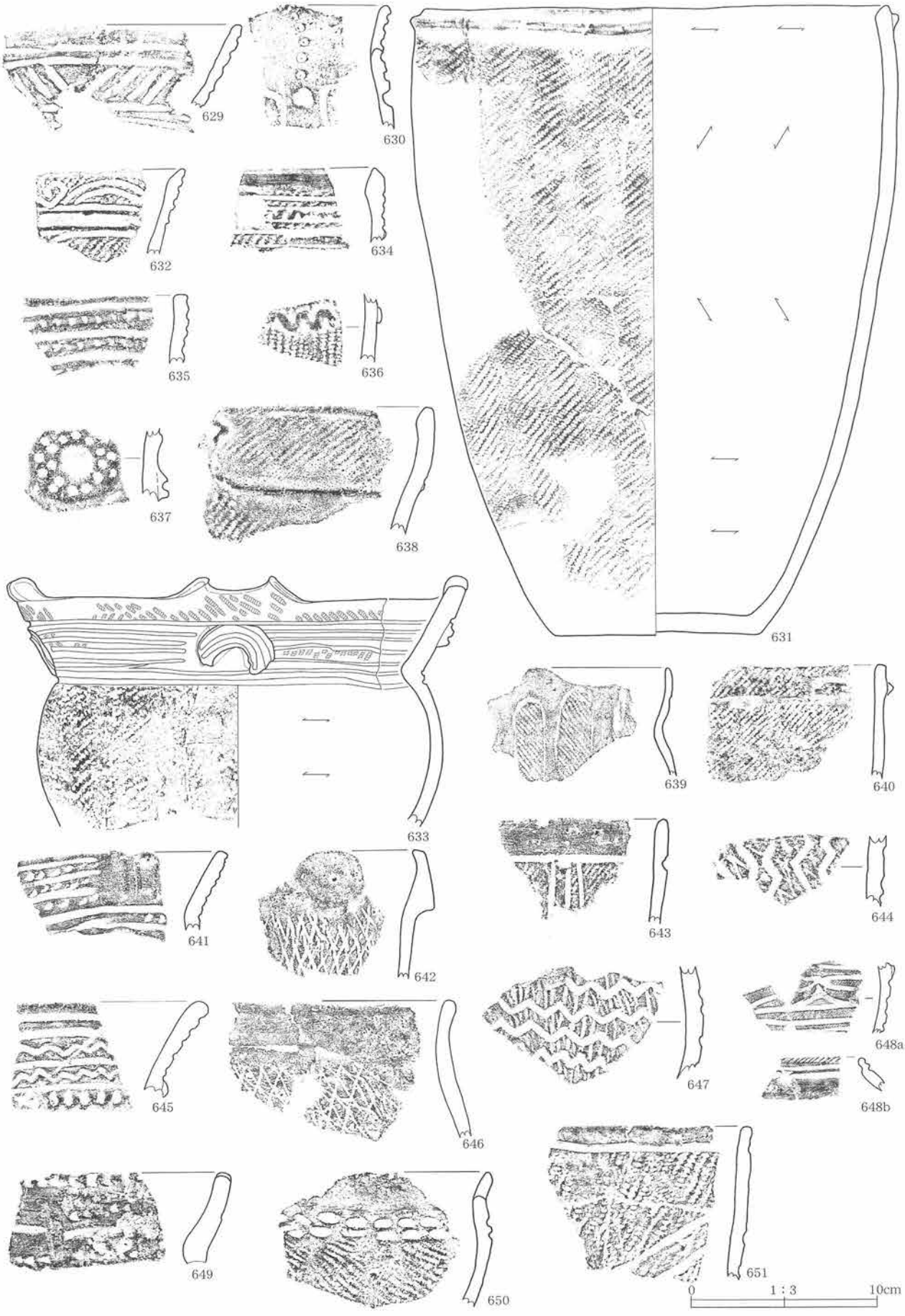
第118図　SD04・07 堀跡土器



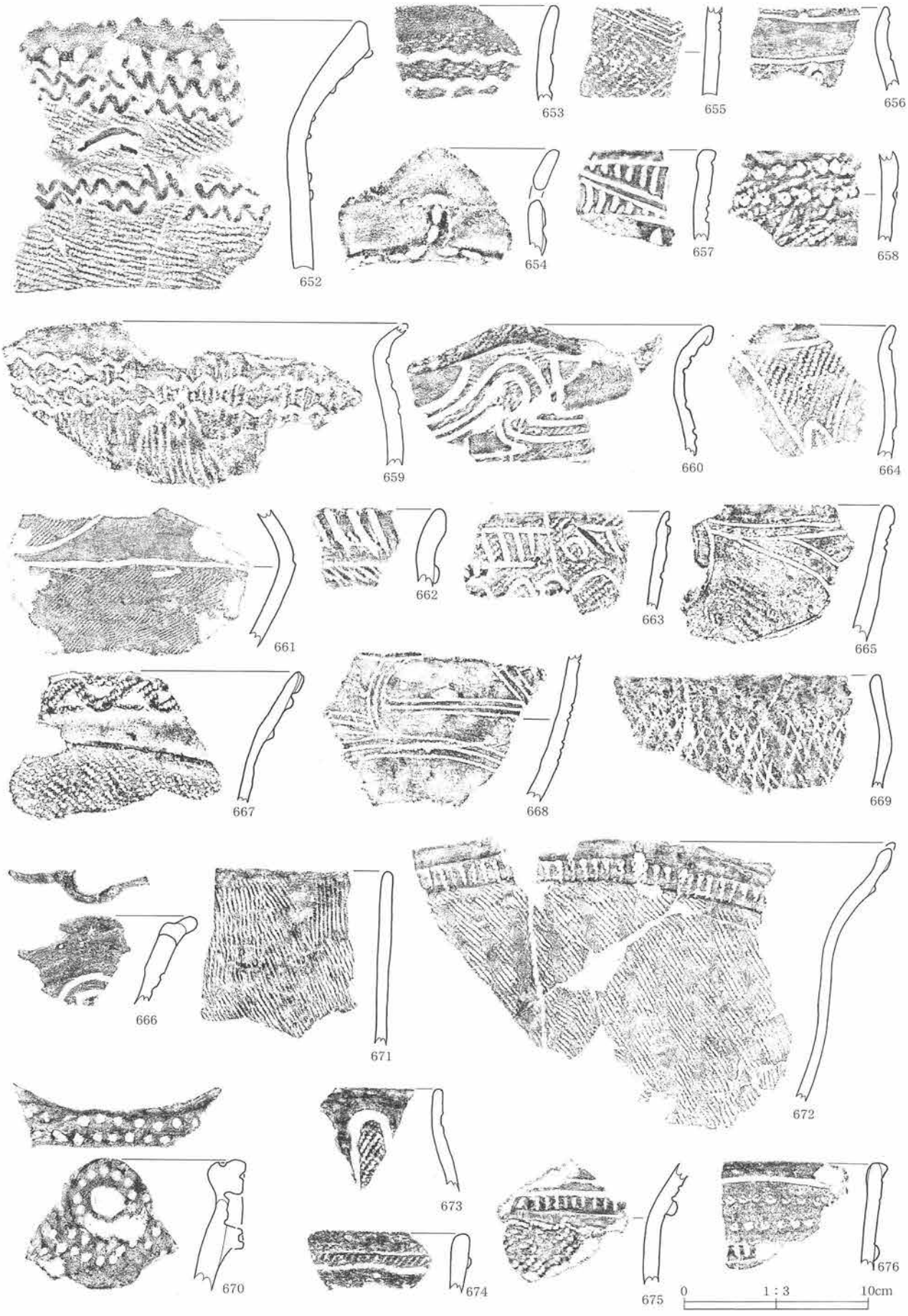
第119図　P73～75・81・82・84・85・87・121・142・152・164・178・208 ピット土器



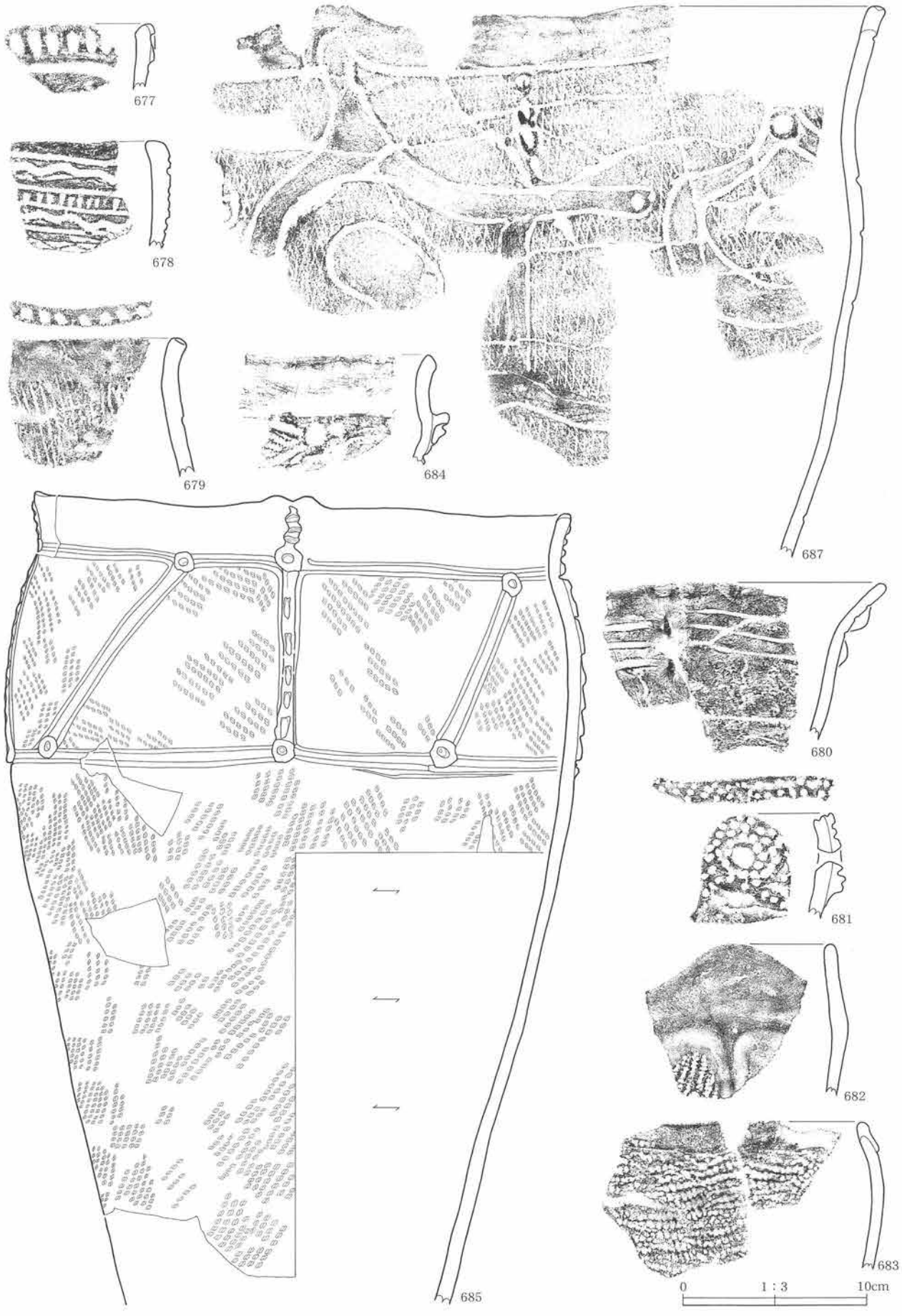
第120図　採掘坑・撹乱・Ⅰ層土器(1)



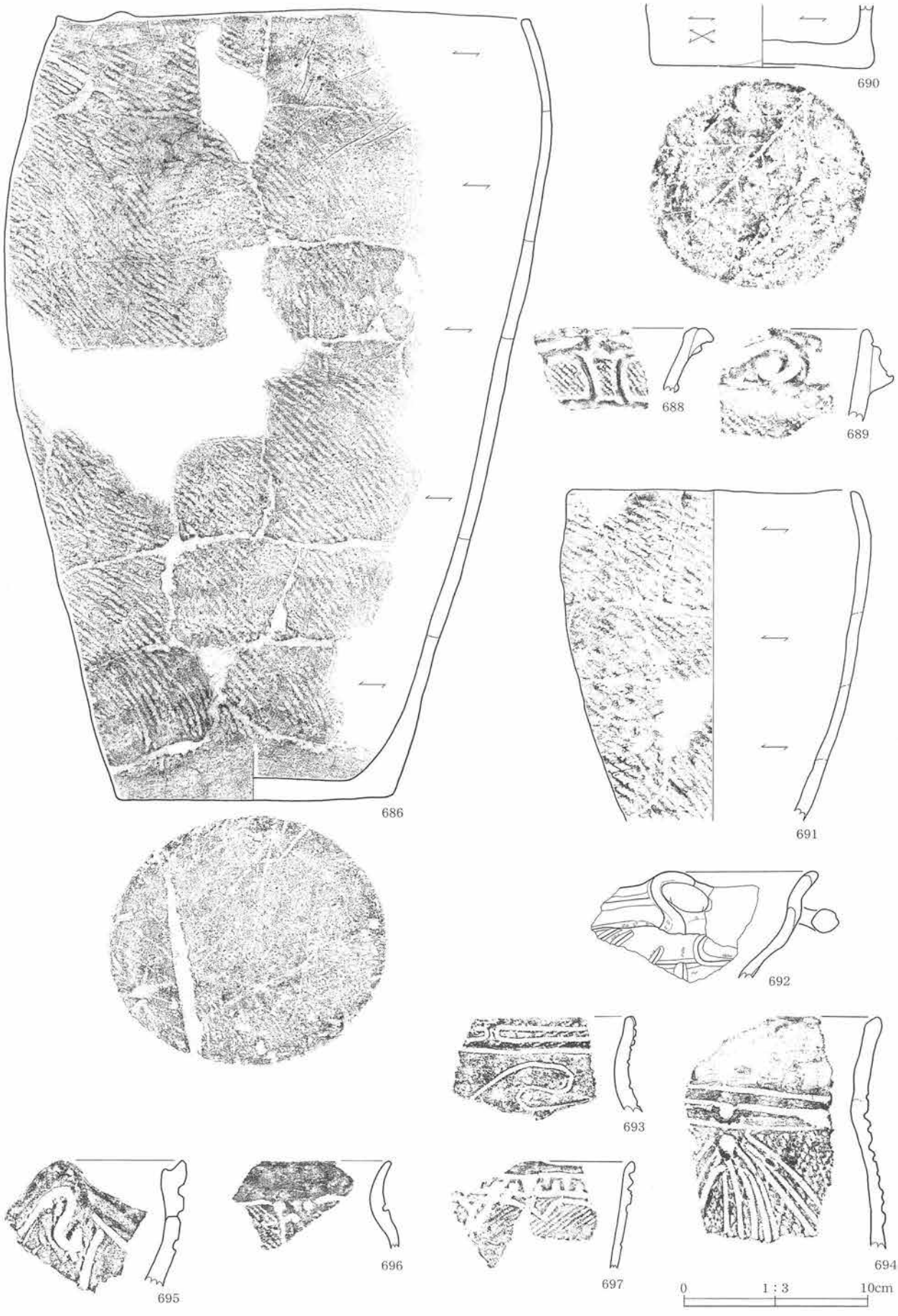
第121図　Ⅰ層土器(2)　Ⅱ層土器(1)



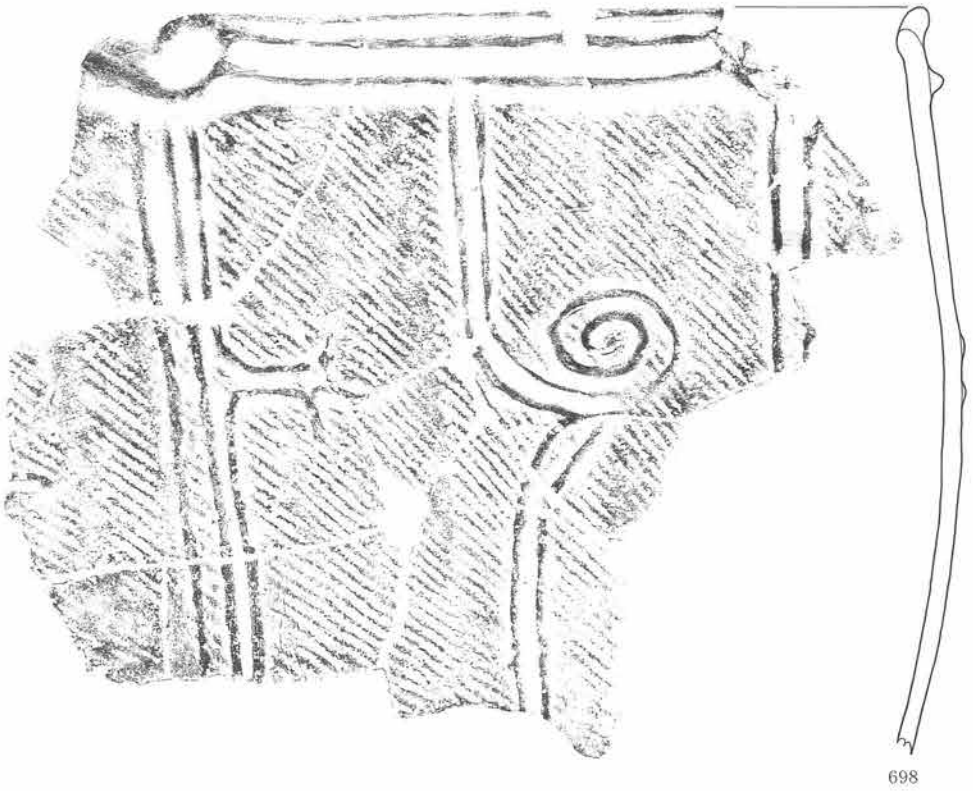
第122図　II層土器(2)

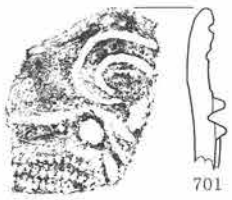


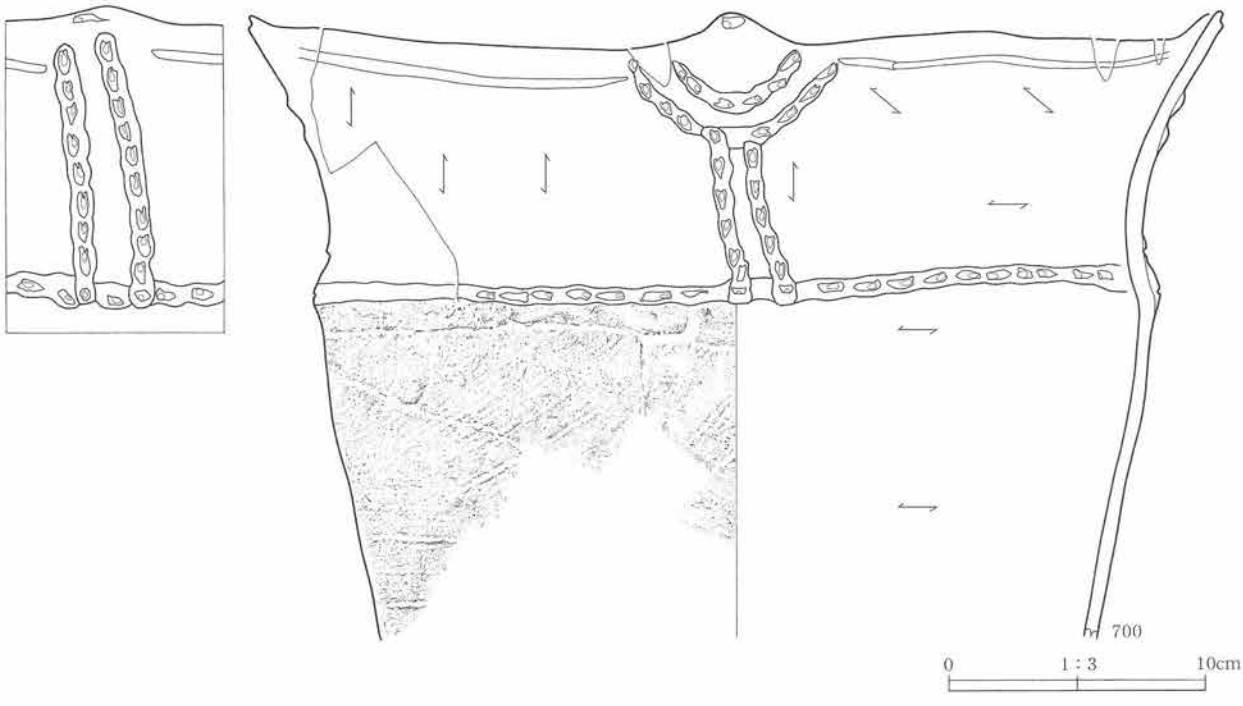
第123図　Ⅱ層土器(3)　Ⅲ層土器(1)



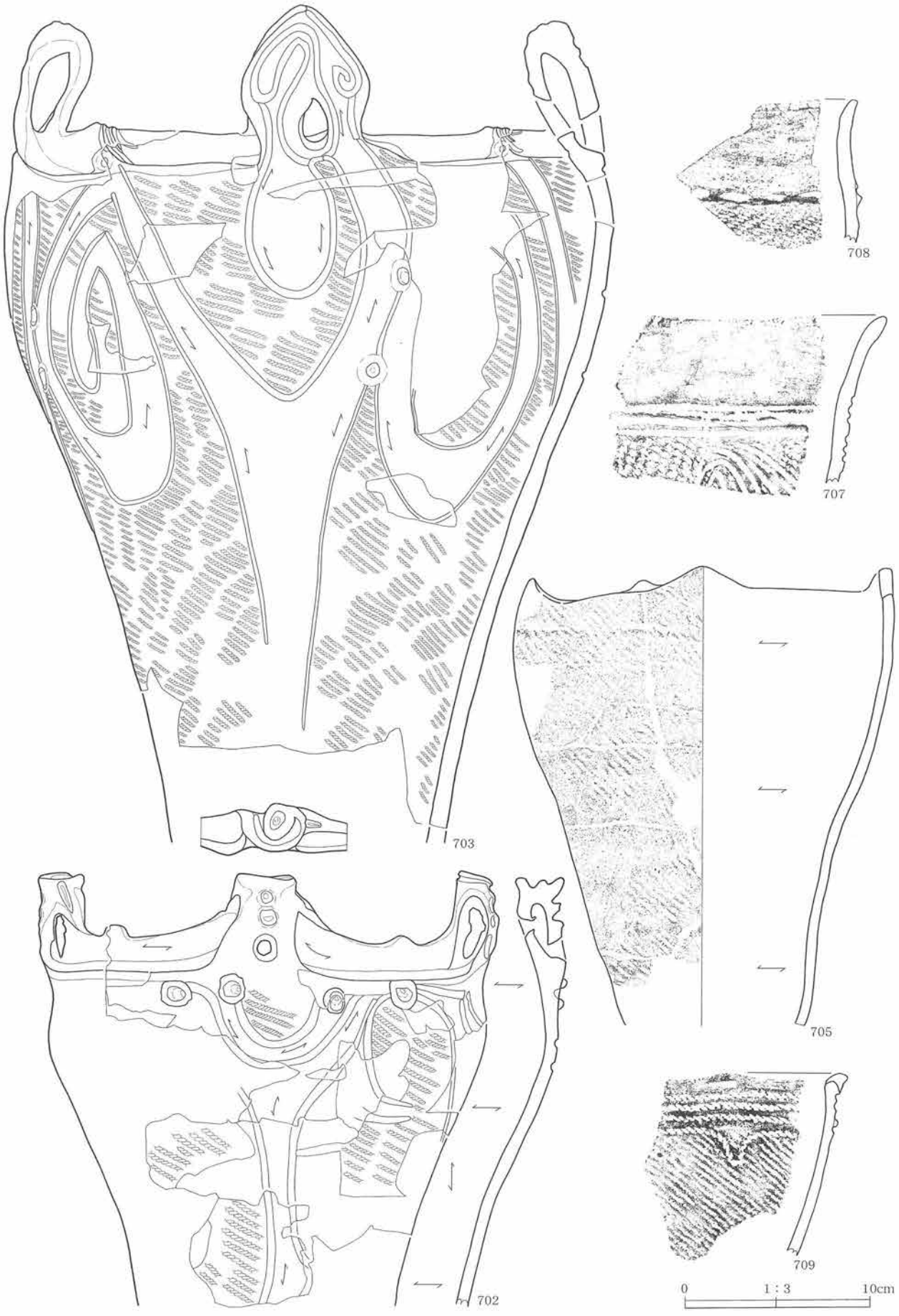
第124図　Ⅲ層土器(2)



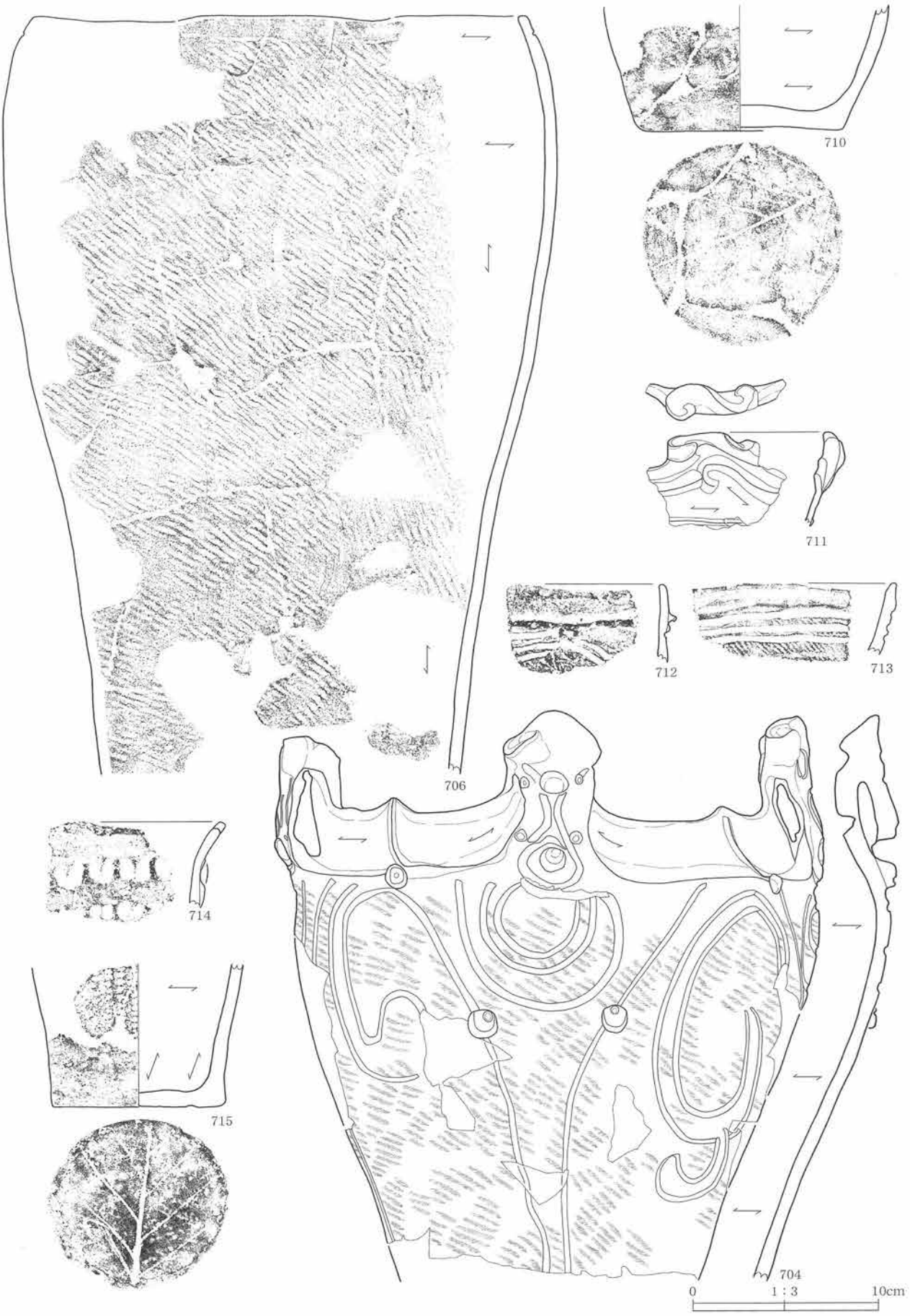




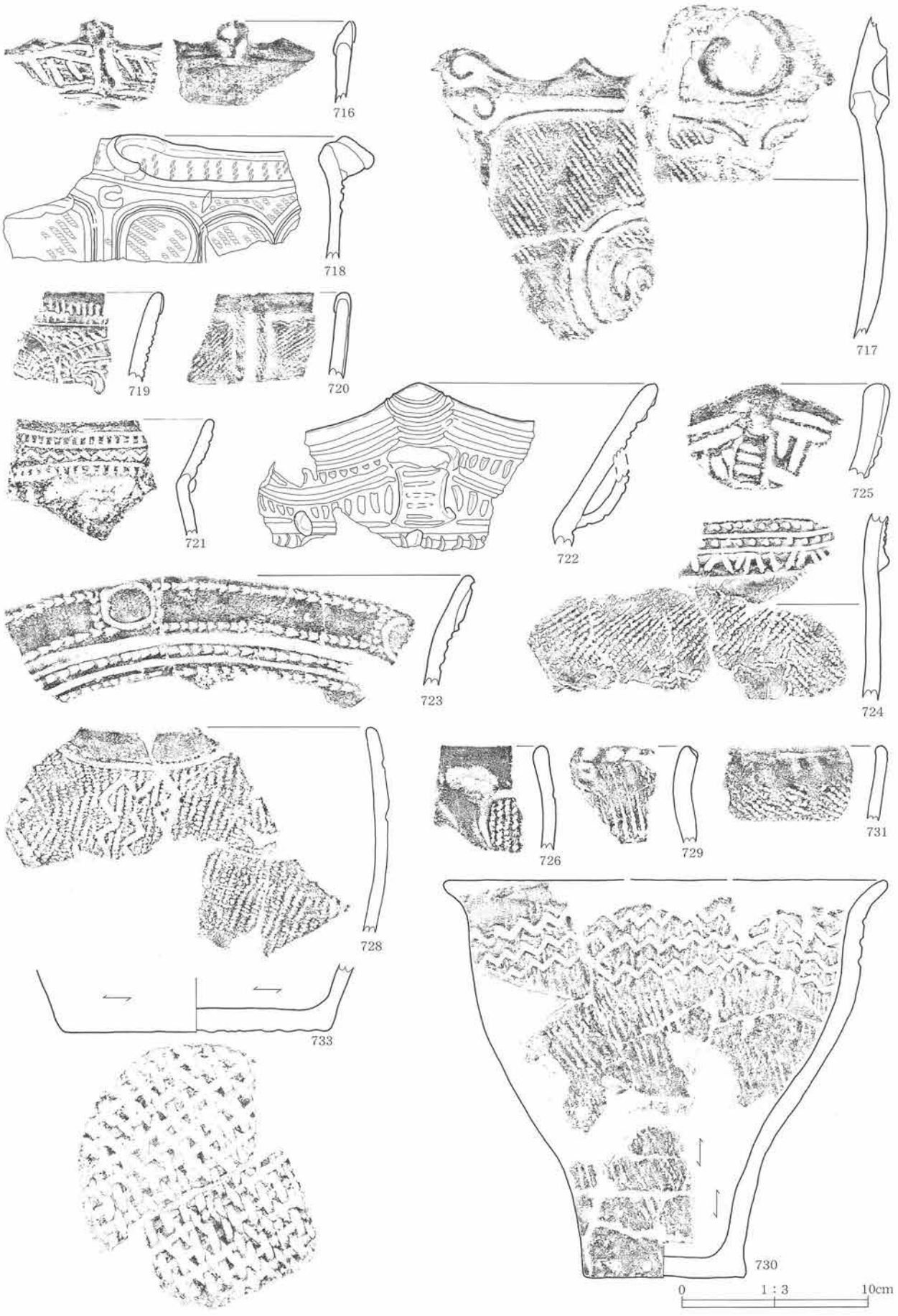
第125図　Ⅲ層土器(3)



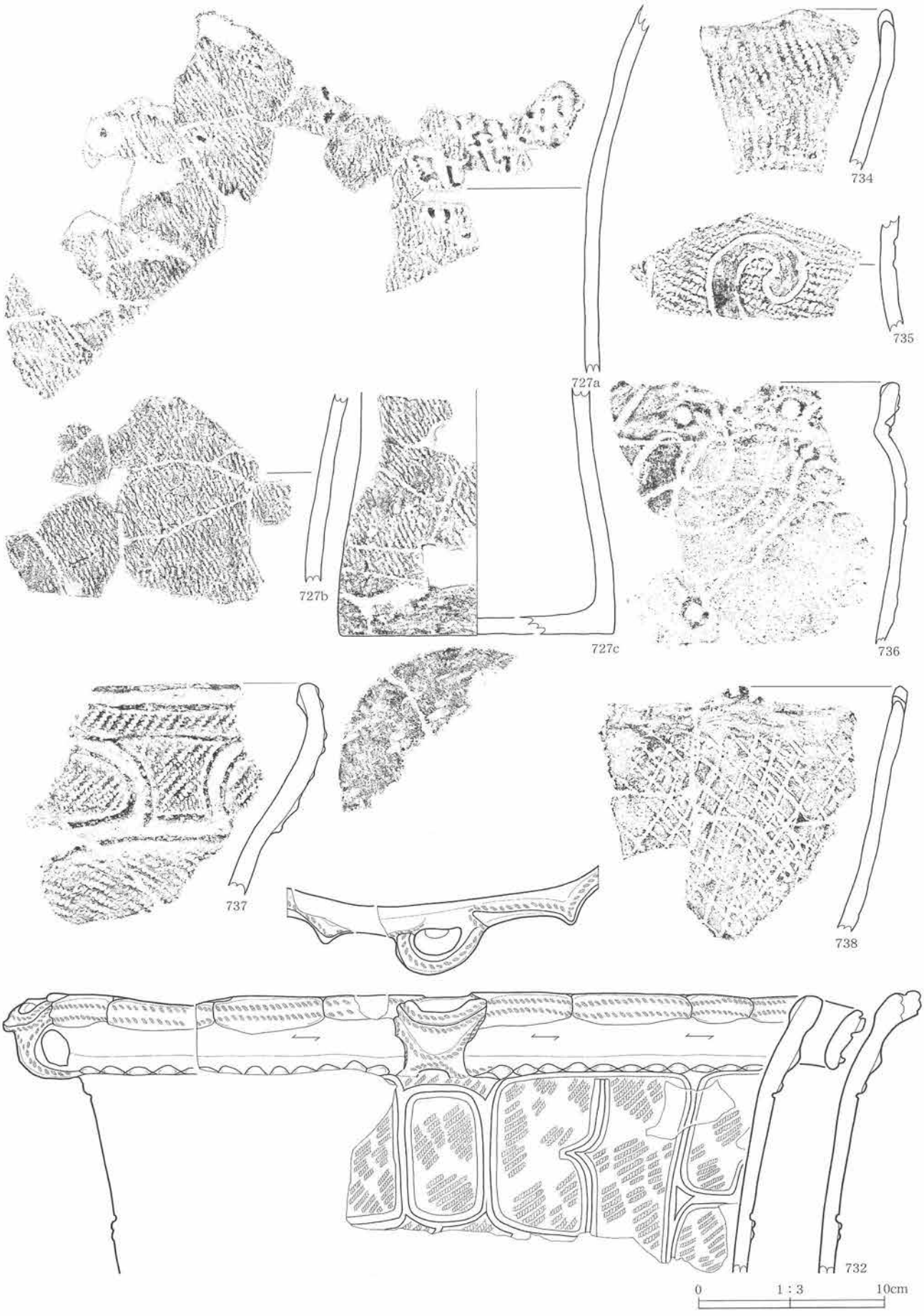
第126図　III層土器(4)



第127図　Ⅲ層土器(5)



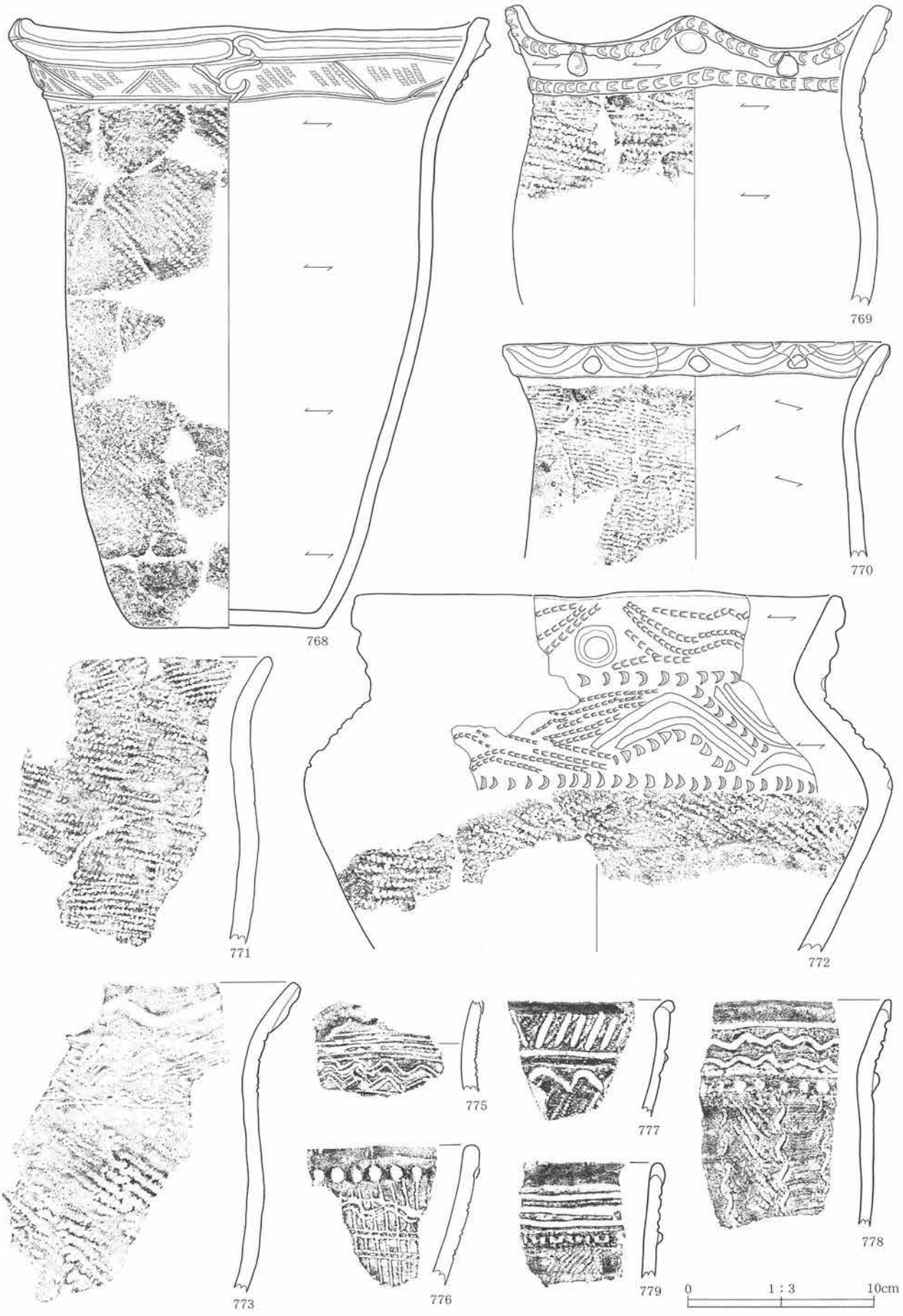
第128図　III層土器(6)



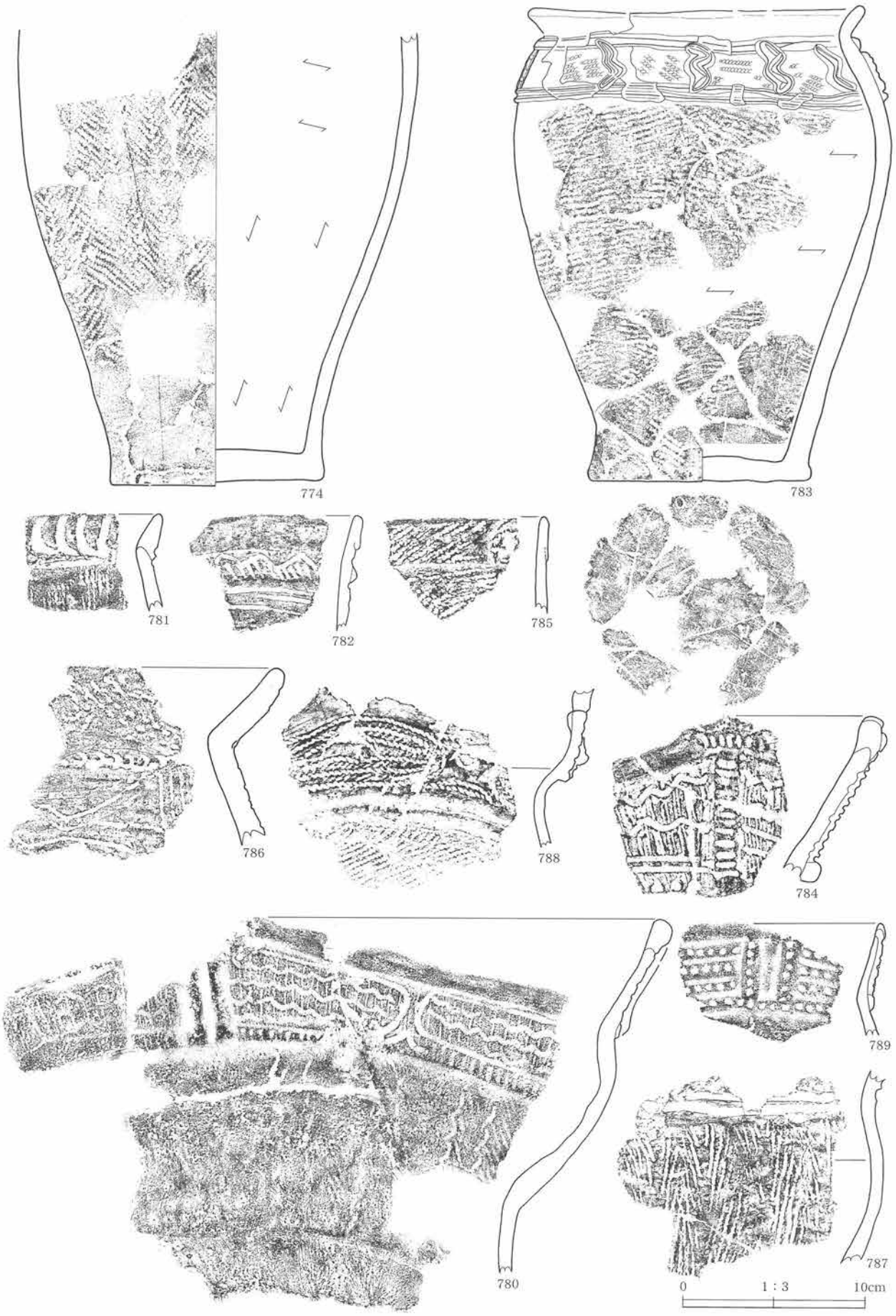
第129図　Ⅲ層土器(7)

739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
0
1：3
10cm

第130図　Ⅲ層土器(8)

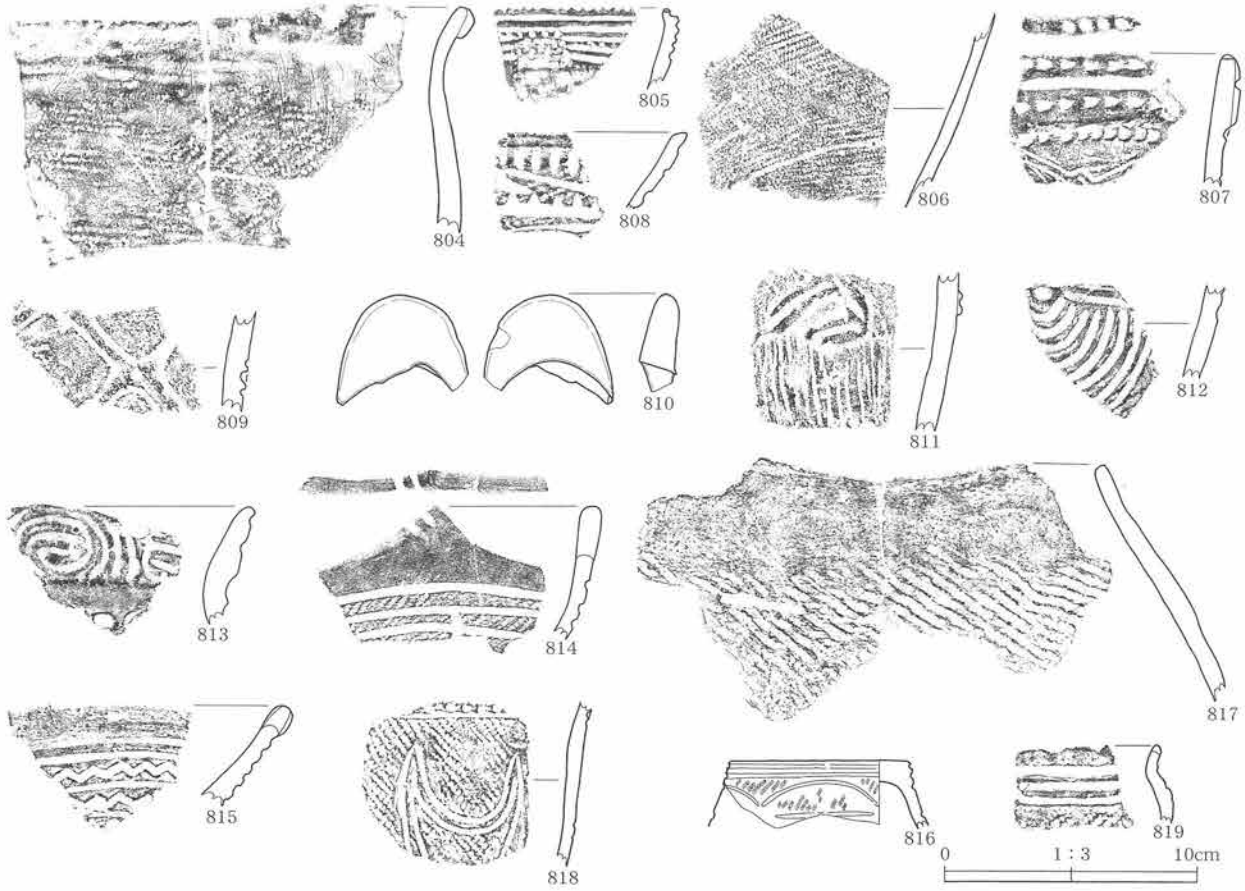


第131図　Ⅲ層土器(9)



第132図　Ⅲ層土器(10)

第133図　Ⅲ層土器(11)　攪乱土器(1)



第134図　攪乱土器(2)

2　土　製　品

(1) 土　製　耳　飾

1点のみ出土している。884は滑車形をしており、中は円形に直径0.55㎝の穿孔が空けられている。内面には赤色顔料を塗布したと思われる痕跡がある。

(2) 土 器 片 円 盤

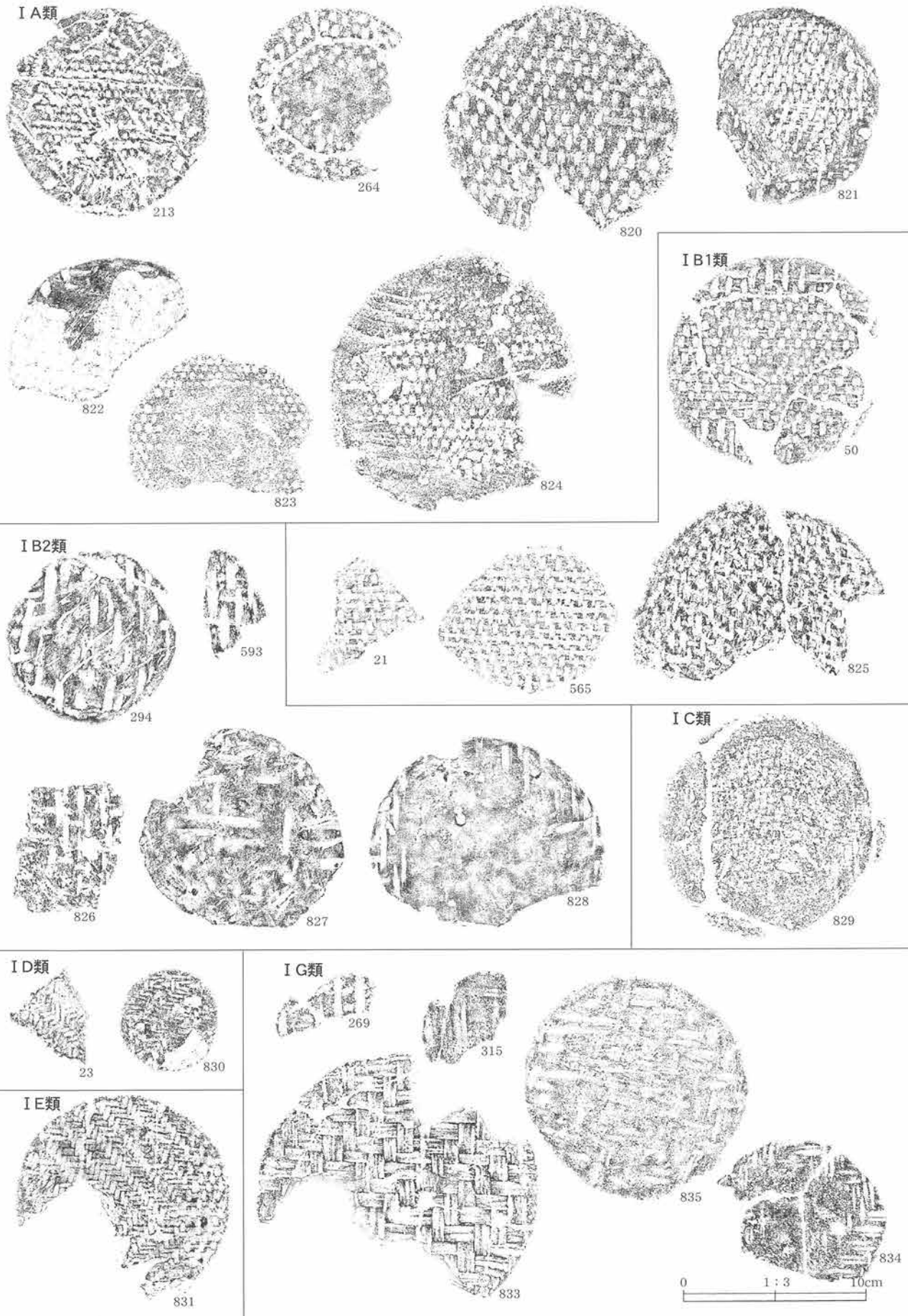
計16点出土しており、全点を図示した。遺構内出土が7点、遺構外出土が9点で、すべてB区からの出土である。土器片円盤は土器片を円盤状に加工したもので、元々は土器の一部を成していたものが廃棄された後に利用されたものと見られる。周囲には、明確ではないがナデ成形の痕跡も見られる。

法量値の平均は、最大長4.4㎝、最大幅4.2㎝、最大厚0.8㎝、重量18.1gで、最大は土器底部を転用した899で、最大長7.9㎝、最大幅7.4㎝、最大厚1.0㎝、重量51.29ｇである。

文様については、素材となる土器片に描かれているそのもので、地文のみのものが大半で特徴はない。この中で889は磨消技法を用いており、胎土の状況からⅦ群土器を再利用したものと思われる。899については、土器底部を再利用しており、網代のＩK類スダレ状圧痕が認められる。

(3) 焼　粘　土　塊

計5点出土しており、写真のみを掲載した。遺構内出土が2点(SI17)、遺構外出土が3点で、すべて15D区付近に出土している。いずれも不整形をしており、サイズは903･904がやや大きめ、残りもほぼ同サイズである。


ⅠA類
213
264
820
821
822
823
824
ⅠB1類
50
ⅠB2類
294
593
21
565
825
826
827
828
ⅠC類
829
ⅠD類
23
830
ⅠG類
269
315
835
834
ⅠE類
831
833
0
1：3
10cm

第135図　土器底部(1)

ⅠF類

ⅠH類

Ⅰ類

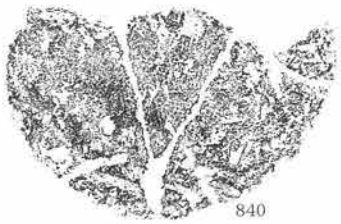
ⅠJ1類

ⅠK類

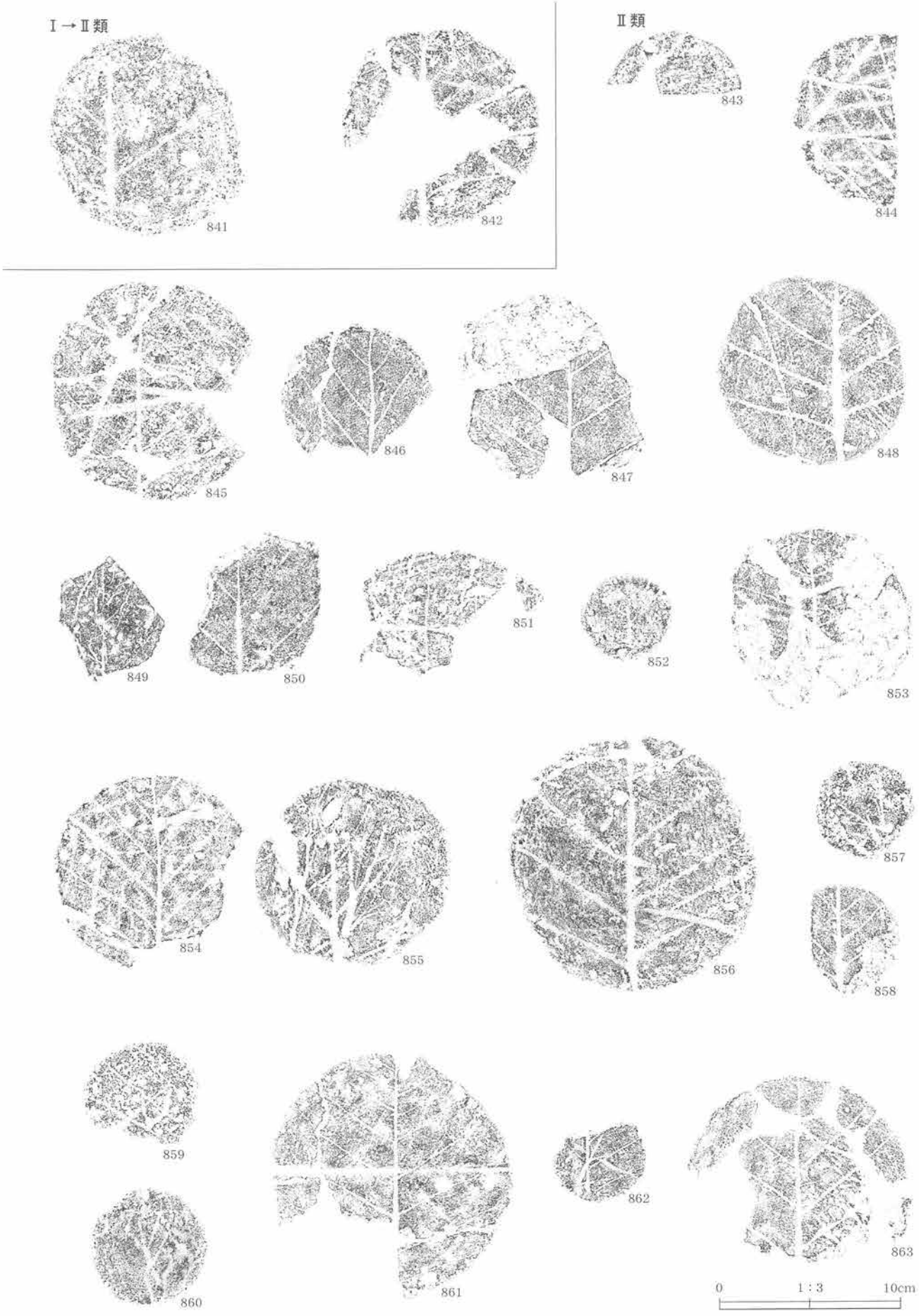
ⅠJ2類

ⅠL類

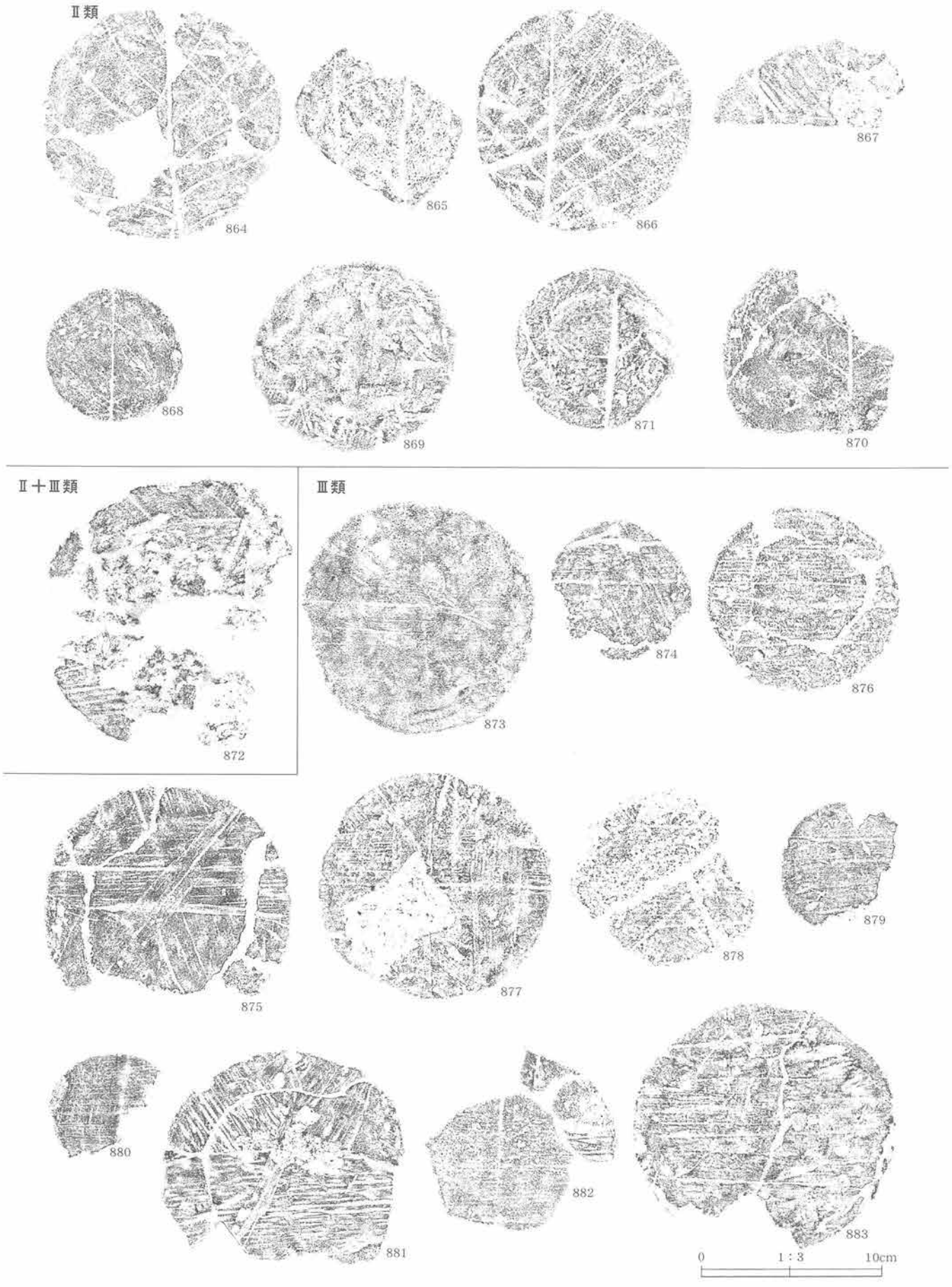
不明（Ⅰ→Ⅱ→Ⅳ？）



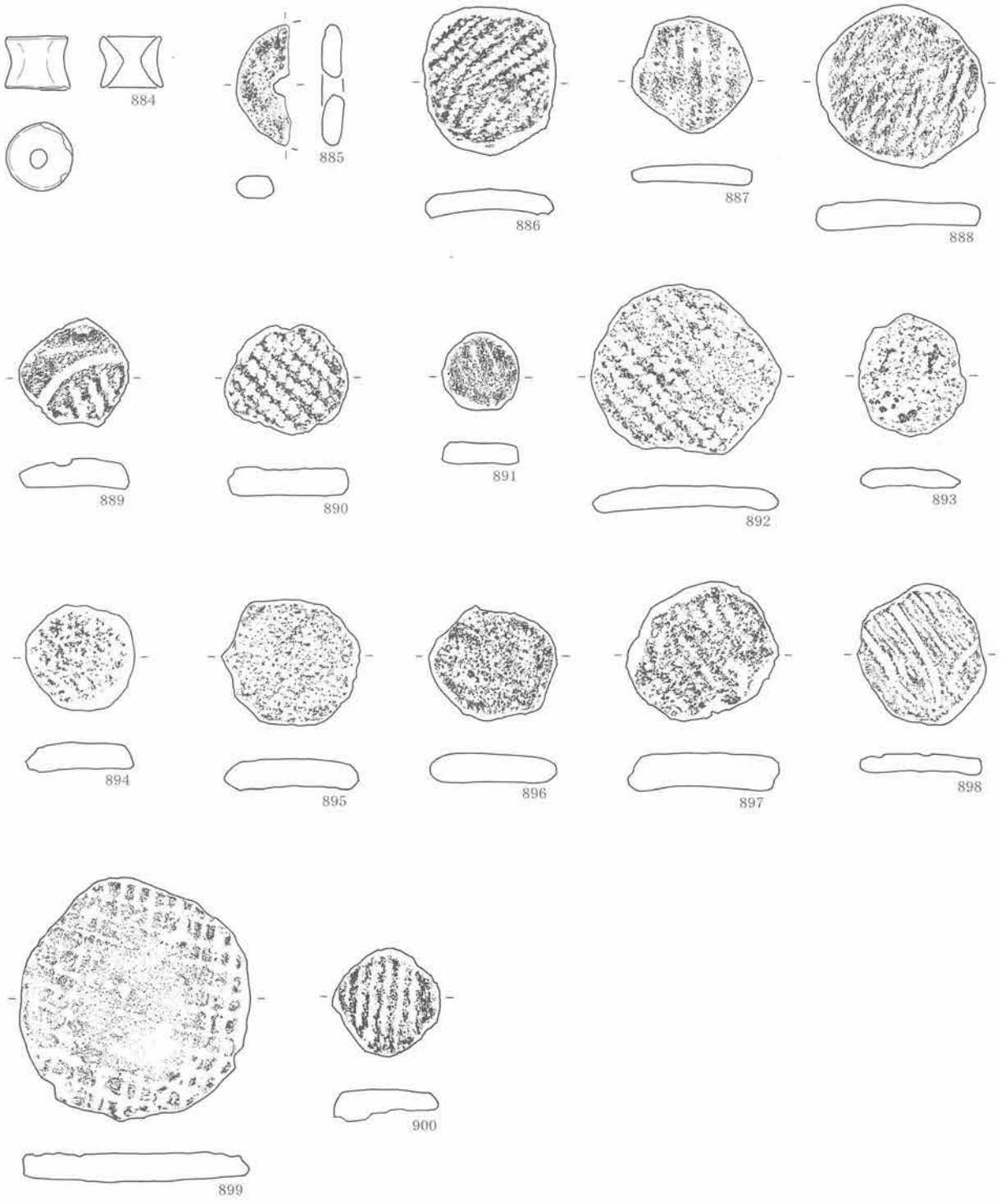
第136図　土器底部(2)


Ⅰ→Ⅱ類
Ⅱ類
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
0
1：3
10cm

第137図　土器底部(3)


Ⅱ類
Ⅱ＋Ⅲ類
Ⅲ類
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
0
1：3
10cm

第138図　土器底部(4)


884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
0
1：2
10cm

第139図　土製品

3 石　　器

(1) 尖 頭 器

先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた石器を尖頭器とした。基本的に長さ5cm以上を尖頭器としたが、残存がそれ以下でも形態からそれを満たすと思われるものも含めた。計26点出土しており、このうち17点を図示した（掲載率65.39%）。遺構内出土が18点（SI出土8点、SX出土2点、SK出土1点、SD出土7点）、遺構外出土が8点である。

全体的な平面形態に着目して観察すると、最大幅が作出される位置によって3形態が抽出され、分類できる。最大幅が上半部にあるもの（Ⅰ類）が1点、最大幅が中央部にあるもの（Ⅱ類）が13点、最大幅が下半部にあるもの（Ⅲ類）が4点で、この他にいずれかに分類されるかもしくは別形態と思われるもの（Ⅳ類）が8点である。

さらに基部形態のみに着目すると、さらに3形態に細分できる。尖基形（A類）10点、平基形（B類）4点、円基形（C類）5点、不明（D類）7点である。

加えて、側縁形態を見ると、2形態に細分できる。判別できるのは23点で、側縁が直線的なもの（1類）6点、側縁が外湾するもの（2類）17点である。

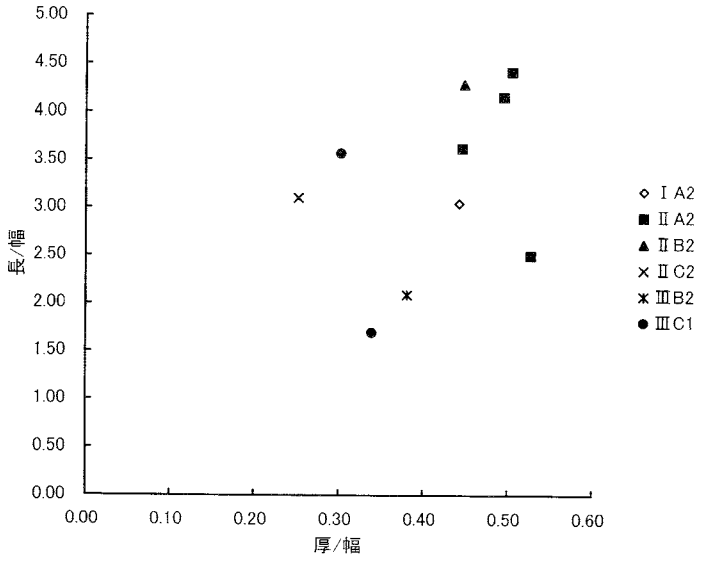
以上の分類を合わせて見ると、第9表分類別石材表の分類ごとの出土点数で分かるようにⅡA2類が最も多く5点、次いでⅡD2類3点と、多くがⅡ類で占められている。

出土地点はB～C区までと広く、本遺跡の主体的な形態と考えられる。Ⅰ類は1点のみ出土しており、他形態とは一線を画する特異なものである。Ⅲ類は4点と少ないが、最も遺構が集中するB区中央から出土しておらず、A区、B区西、C区に見られる。

第9表　尖頭器分類別石材表

		石材				計
		頁岩	頁岩（在地）	赤色頁岩	珪化木	
分類	ⅠA2	1				1
	ⅡA1	1				1
	ⅡA2	4	1			5
	ⅡB2	1				1
	ⅡC2		1			1
	ⅡD1	1	1			2
	ⅡD2	3				3
	ⅢA2	1				1
	ⅢB2	1				1
	ⅢC1	1	1			2
	ⅣA1	1				1
	ⅣA	1				1
	ⅣB2	2				2
	ⅣC			1	1	2
	ⅣD2	2				2
計		20	4	1	1	26

第140図　尖頭器長幅比率



第10表　尖頭器分類別先端角集計表

	31～35°	36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	86～90°	計
ⅠA2							1			1
ⅡA2		2		1				1		4
ⅡB2		1								1
ⅡC2									1	1
ⅡD1			1							1
ⅡD2						3				3
ⅢB2					1					1
ⅢC1		1		1						2
ⅣA1	1									1
ⅣD2								2		2
計	1	4	1	2	1	3	1	3	1	17

法量について観察するために、第140図長幅比率を作成した。縦軸に厚/幅、横軸に長/幅を設定し、指数による比較を行った。10点について計測可能である。最も顕著に表れたのはⅡA2類で、長/幅2.50～4.42、厚/幅0.45～0.53に集中した。これはある種の規格性を示していると見られる。その他についてはデータが少ないことから何とも言えないが、大きく捉えれば長/幅1.50以上、厚/幅0.25以上は必要であったとも考えられる。また先端角について見ると、17点が計測可能である。第10表分類別先端角集計表にあるように、便宜的に5°単位で区切ると31～90°までと幅広い。このうち、36～40°、56～60°、66～70°などに小ピークが見られる。また分類ごとにはⅡA2、ⅡB2類はピークが前半に見られ、またⅡD2類に限ってはいずれも56～60°の範囲内にある。

石材については、第9表にまとめた通りである。ほとんどが頁岩質のものであり、一部珪化木が含まれる。製作･加工のし易さと石材獲得量が選択された理由であろうか。

時期については出土した遺構や層位、伴出土器との関連を考慮しなければならないが、Ⅱ･Ⅲ類についてはⅣ～Ⅴ･Ⅶ群土器を伴出しており、Ⅰ類はⅢ～Ⅵ群土器を伴出するⅢ層下位から出土している。

(2) 石　　鏃

先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた、扁平の石器を石鏃とした。基本的に長さ5㎝未満のものを石鏃としたが、それ以上でも形態から石鏃と認められるものも含んでいる。計568点出土しており、このうち121点を図示した(掲載率21.3%)。遺構内出土が364点(SI出土216点、SX出土34点、SK出土8点、SF出土1点、SD出土98点、P出土7点)、遺構外出土が204点である。

茎部の有無により、2形態に大別される。有茎(Ⅰ類)が17点、無茎(Ⅱ類)が534点で、また欠損により分類不明なもの(Ⅲ類)が17点である。

さらにそれぞれの基部形態について詳しく見ると、Ⅰ類は凸基形(A類)と尖基形(B類)に分けられ、A類は6点、B類は11点である。これを側縁形態について細別すると、直線的なもの(1類)が2点、外湾するもの(2類)が3点、内湾するもの(3類)が1点で、このうち1点はいわゆる「アメリカ式石鏃」の要素を持つ。

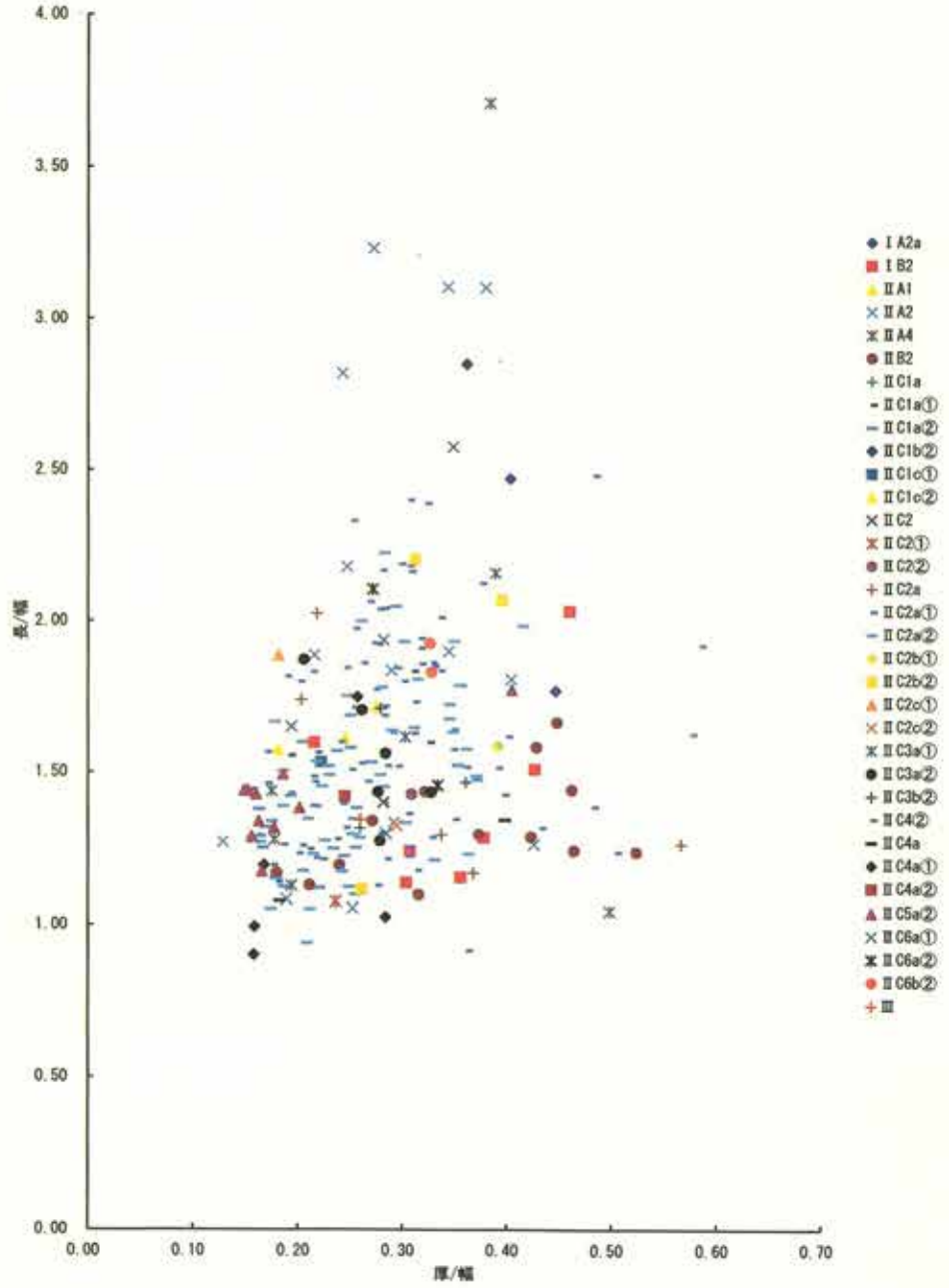
本遺跡の主体的な形態であるⅡ類は基部形態から、平基形(A類)、円基形(B類)、凹基形(C類)の3形態に分けられる。数量はA類34点、B類21点、C類479点とC類が突出している。

A類を側縁形態に着目して細分すると、直線的なもの(1類)1点、外湾するもの(2類)31点、外屈曲するもの(4類)2点に分けられる。またB類は全点が外湾する側縁形態を持っている。C類については数量も突出して多く、最も多様な側縁形態があり、直線的

第11表　石鏃分類別抉り部集計表

分類		指数(抉り/長さ) 0.01～0.05	0.06～0.10	0.11～0.15	0.16～0.20	0.21～0.25	0.26～0.30	0.31～0.35	0.36～0.40	計
	ⅡC1a①	2	2	3						7
	ⅡC1a②				5	4	2			11
	ⅡC1b②					1				1
	ⅡC1c①			2						2
	ⅡC1c②				2					2
	ⅡC2①	1	1	1						3
	ⅡC2②					1				1
	ⅡC2a	2	1	1						4
	ⅡC2a①	17	43	40			1			101
	ⅡC2a②				37	19	13	3		72
	ⅡC2b①			1						1
	ⅡC2b②				2	2				4
	ⅡC2c①			1						1
	ⅡC2c②				2					2
	ⅡC3a①	2	3	1						6
	ⅡC3a②		1		4	2				7
	ⅡC3b②				1					1
	ⅡC4②						1			1
	ⅡC4a			1						1
	ⅡC4a①	3	2	2						7
	ⅡC4a②							1		1
	ⅡC5a②				5	5	2		1	13
	ⅡC6a①			4						4
	ⅡC6a②				1	1				2
	ⅡC6b②					1	1			2
計		27	53	57	59	36	20	4	1	257

第141図 石鏃長幅比率



なもの40点、外湾するもの346点、内湾するもの(3類)24点、外屈曲するもの11点、内屈曲するもの(5類)48点、先端を意図的に作出するもの(6類)10点である。抉り部形態について見ると、内湾するもの(a類)、U字形を成すもの(b類)、直線的なV字形を成すもの(c類)に分けられる。これに加えて、長さを1とした場合の抉りの長さを表すために抉り/長さが0.16以上を「深い」(①)、0.15以下を「浅い」(②)としてカウントすると以下の通りである(これは長さ及び抉り長さが計測可能な計257点の平均値である)。1a類32点(①7点、②11点、不明14点)、1b類3点(②1点、不明2点)、1c類5点(①2点、②2点、不明1点)、2類25点(①3点、②1点、不明21点)、2a類287点(①101点、②72点、不明114点)、2b類14点(①1点、②4点、不明9点)、2c類20点(①1点、②2点、不明17点)、3類1点(不明1点)、3a類20点(①6点、②7点、不明7点)、3b類1点 (②1点)、3c類2点(不明2点)、4類1点(②1点)、4a類10点(①7点、②1点、不明2点)、5類3点(不明3点)、5a類39点(②

第12表　石鏃先端角集計表

	25～30°	31～35°	36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	81～85°	86～90°	91～95°	96～100°	101～105°	106～110°	111～115°	116～120°	121～125°	136～140°	計
ⅠA1a						1																1
ⅠA2a				1			1															2
ⅠB1				1																		1
ⅠB2				2	1		1	2	1	2						1						10
ⅡA1			1																			1
ⅡA2		7		3	2	1	1	1	3	2				1		1	1				1	24
ⅡA4			1											1								2
ⅡB2	1				1	1	1	1	2	2	1	3	2	1	1		2	1	1			21
ⅡC1a	2	1	2		1																	6
ⅡC1a①		2	2	2	1																	7
ⅡC1a②			2	4	3	1							1									11
ⅡC1b②	1																					1
ⅡC1c①		1	1																			2
ⅡC1c②			1		1																	2
ⅡC2		1	3	2	2		1	1	1	1	1	1										14
ⅡC2①					1				1	1												3
ⅡC2②							1															1
ⅡC2a	2	8	6	1	10	8	3	1	1	2		4							1			47
ⅡC2a①	1	3	13	15	17	14	7	8	7	6	3	3			3				1			101
ⅡC2a②		1	7	8	7	11	11	9	4	8	2	1	1	1						1		72
ⅡC2b				1	1																	2
ⅡC2b①							1															1
ⅡC2b②			2		1		1															4
ⅡC2c			2	2	2	2		1														9
ⅡC2c①			1																			1
ⅡC2c②								1	1													2
ⅡC3a	2																					2
ⅡC3a①	1	3			1				1													6
ⅡC3a②	3	1			1				2													7
ⅡC3b②			1																			1
ⅡC4②							1															1
ⅡC4a						1						1										2
ⅡC4a①						3		2		1	1											7
ⅡC4a②									1													1
ⅡC5				1						1												2
ⅡC5a		2	2		1																	5
ⅡC5a②	1	3	4	2	1	1					1											13
ⅡC5c						1																1
ⅡC6a		1																				1
ⅡC6a①	1			3																		4
ⅡC6a②			2																			2
ⅡC6b②			1		1																	2
Ⅲ	1		2		1	1	2	1				1										9
Ⅲ1			1																			1
Ⅲ2								1	1													2
Ⅲ5								1														1
計	16	34	57	48	57	46	32	30	26	26	9	14	4	4	4	2	3	1	3	1	1	418

13点、不明26点)、5c類6点(不明6点)、6a類8点(①4点、②2点、不明2点)、6b類2点(②2点)である。第11表に分類別抉り部集計表を示した。抉り/長さが0.16以上ある「深い」ものを抽出すると120点で2a類が最も多く(101点)、また0.15以下の「浅い」ものは137点でこれも2a類が最多である(72点)。抉り指数が集中しているのは0.06～0.10、0.11～0.15、0.16～0.20の3範囲で、計測可能な計257点の65.76%(169点)を占める。

以上の分類から、本遺跡の主体的な形態は287点を出土しているⅡC2a類である。ⅡC2a類の出土地点・層位を見ると、調査A～D区いずれからも出土しているが、特に調査B～C区の遺構内から出土している。出土層位はⅠ～Ⅲ層下位までと幅広い。

法量について観察するために、第141図に長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。254点について計測可能である。特徴的な偏りは見られないが、長/幅1.00～2.50、厚/幅0.15～0.60の範囲に大半が収まる。これはこの範囲に収まることが石鏃の機能として必要であったからに他ならない。さらに先端角について見ると(第12表先端角集計表を参照)、36～40°、

第13表　石鏃分類別石材表

		石材										計
		頁岩	頁岩(在地)	赤色頁岩	珪質頁岩	粘板岩	凝灰岩	玉髄	石英	黒曜石	珪化木	
分類	ⅠA1a	1									1	2
	ⅠA2a	2										2
	ⅠA2b	1										1
	ⅠA3a			1								1
	ⅠB1	1										1
	ⅠB2	4		3				1		1	1	10
	ⅡA1	1										1
	ⅡA2	20	1		3	1		2		4		31
	ⅡA4	1									1	2
	ⅡB2	13		7	1							21
	ⅡC1a	12								2		14
	ⅡC1a①	7										7
	ⅡC1a②	8		1	1			1				11
	ⅡC1b	2										2
	ⅡC1b②	1										1
	ⅡC1c	1										1
	ⅡC1c①	2										2
	ⅡC1c②	2										2
	ⅡC2	19						1		1		21
	ⅡC2①	2								1		3
	ⅡC2②	1										1
	ⅡC2a	91	1	4	1	1	4	4	1	6	1	114
	ⅡC2a①	82		6	3		2	1		6	1	101
	ⅡC2a②	48	1	3	3		2	2		13		72
	ⅡC2b	8								1		9
	ⅡC2b①	1										1
	ⅡC2b②	4										4
	ⅡC2c	15			1					1		17
	ⅡC2c①	1										1
	ⅡC2c②	2										2
	ⅡC3			1								1
	ⅡC3a	5		1	1							7
	ⅡC3a①	5		1								6
	ⅡC3a②	6		1								7
	ⅡC3b②	1										1
	ⅡC3c	2										2
	ⅡC4②	1										1
	ⅡC4a			1				1				2
	ⅡC4a①	4			1			2				7
	ⅡC4a②	1										1
	ⅡC5	2			1							3
	ⅡC5a	18		8								26
	ⅡC5a②	8		4	1							13
	ⅡC5c	4		1	1							6
	ⅡC6a	2										2
	ⅡC6a①	4										4
	ⅡC6a②	2										2
	ⅡC6b②	2										2
	Ⅲ	6		4						2		12
	Ⅲ1	1										1
	Ⅲ2	2			1							3
	Ⅲ5				1							1
計		429	3	47	20	2	8	15	1	38	5	568

41～45°、46～50°、51～55°にピークがある。特に36～40°と46～50°は高く各57点カウントされる。出土数が最も多いⅡC2a・ⅡC2a①・ⅡC2a②類もこの傾向に合致する。

使用石材については第13表分類別石材表を参照されたい。一見して分かるように、頁岩がその大半を占めており、全体の75.53％、頁岩・頁岩(在地)・赤色頁岩・珪質頁岩の頁岩質石材を合わせると87.85％(499点)に及ぶ。この中で特徴的なのは他器種ではほとんど見られない黒曜石が38点に使用されている点である。推定される産地は附編の産地同定分析に譲るが、遺跡近隣では産出されない石材である。

時期については出土地点・層位ともに満遍なく出土しているため不明である。ただし、ⅡC5・ⅡC5a・ⅡC5a②・ⅡC5c類は調査B区(特に14・15グリッド)中心に出土しており、またⅦ群土器を伴出する印象を受けた。また、SI02、10・15、16、19、22、23、25・26、27、34、36などではⅡC2a・ⅡC2a①・ⅡC2a②類が主体的に出土している。

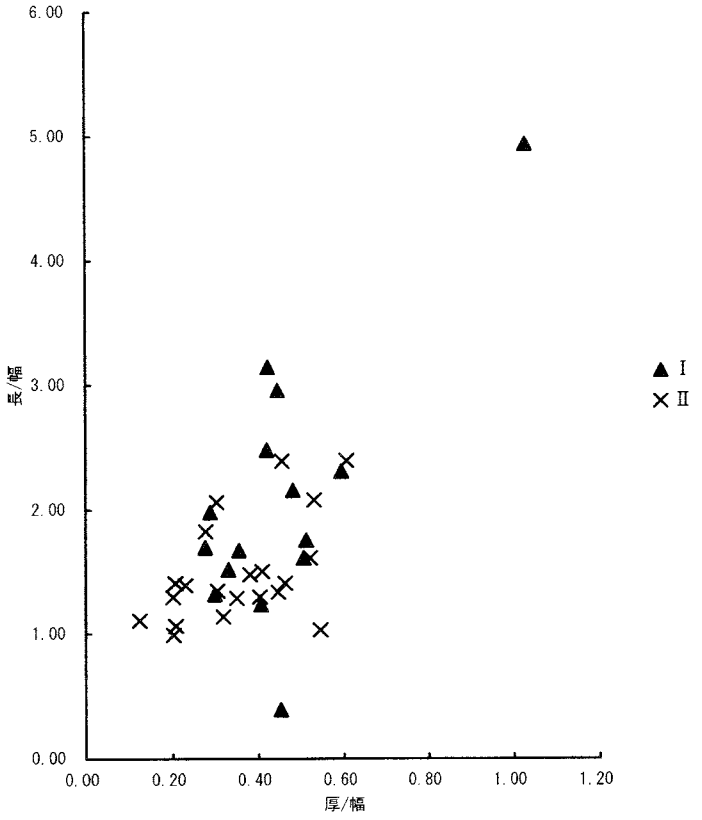
(3) 石　　錐

剥片の尖頭状の端部に両側縁から二次加工が施された石器を石錐とした。計55点出土しており、14点を図示した(掲載率25.46%)。遺構内出土が37点(SI出土19点、SX出土1点、SD出土17点)、遺構外出土が18点である。

二次加工の頻度によって2形態に分けた。丁寧な二次加工が摘み部までの広範囲に見られるもの(Ⅰ類)が26点、粗雑な二次加工が錐部のみに集中するもの(Ⅱ類)が29点である。

出土地点・層位から見ると、Ⅰ類はB区東～C区西にかけて、Ⅱ類も同様であるが特にB区東(14～15区)から多く出土している。出土層位はⅠ～Ⅲ層下位までと幅広い。

第142図　石錐長幅比率



第14表　石錐先端角集計表

	21～25°	26～30°	31～35°	36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	81～85°	86～90°	91～95°	96～100°	101～105°	計
Ⅰ		3	3	3	3	3		3				1		1	1		1	22
Ⅱ	1		3	1	2	2	3	3	1	2	1	1	2	2	1			25
計	1	3	6	4	5	5	3	6	1	2	1	2	2	3	2		1	47

法量について観察するために、第142図長幅比率を作成した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。36点について計測可能である。Ⅰ類は縦長形状のため、数値が縦に延びているが、一方Ⅱ類は長/幅0.99～2.39、厚/幅0.12～0.61の範囲に収まり、形状は寸づまりである。また先端角に着目すると(第14表先端角集計表を参照)、47点について計測可能で、かなりのばらつきが見られる。Ⅰ類は26～105°の範囲で見られるが、特に26～60°の範囲に集中している。ただし、大きなピークはなく、平均的である。Ⅱ類は21～95°まで見られており、中でも31～60°の範囲にピークが集中する。先端角はⅠ類とⅡ類の間に差は認められない。

使用石材については第15表分類別石材表に示した。全体の88.28%を頁岩が占めている。分類間で差は見られないが、黒曜石2点が使用されている。

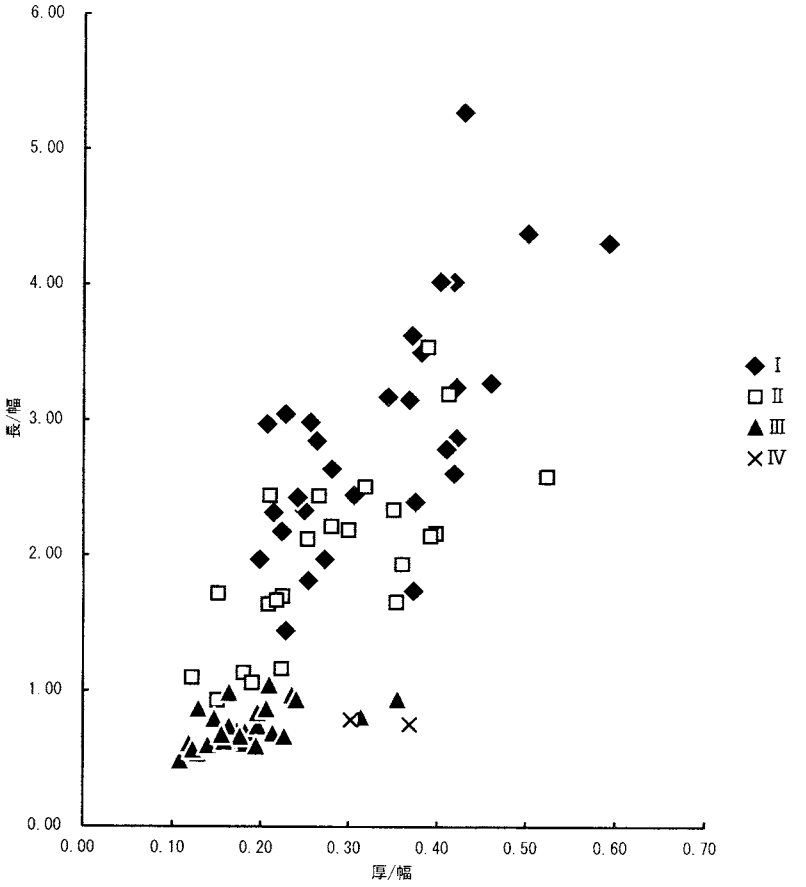
時期については出土地点・層位ともに多様であるが、Ⅰ類はⅣ～Ⅶ群土器を共伴する場合が多く、またⅡ類はⅣ・Ⅵ・Ⅶ群土器を伴うことが多い。

第15表　石錐分類別石材表

	頁岩	赤色頁岩	珪質頁岩	黒曜石	珪化木	計
Ⅰ	22		2	1	1	26
Ⅱ	26	2		1		29
計	48	2	2	2	1	55

(4) 石　　匙

第143図　石匙長幅比率



摘み状の突起を一端に有し、スクレイパー類と同様の刃部を作出している石器を石匙とした。計111点出土しており、33点を図示した(掲載率29.73%)。遺構内出土が63点(SI出土38点、SX出土10点、SK出土4点、SD出土10点、P出土1点)、遺構外出土が48点である。

摘み部を上にして置き、抉り部が水平になるようにした場合(摘み部の軸を垂直に位置させた場合)、形状が縦長の形になるものをⅠ類、斜めに長くなるものをⅡ類、横長になるものをⅢ類とした。Ⅰ類は48点(43.24%)、Ⅱ類は24点(21.62%)、Ⅲ類は39点(35.14%)である。

さらに刃部の平面形態と二次加工部位の作出角度(刃角)に着目する。片面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの(1類)、同様に刃角が59°以下のもの(2類)、両面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの(3類)、同様に刃角が59°以下のもの(4類)の4分類である。ただし、刃角は計測箇所によって差が生じるため、3ヵ所以上を計測した平均値とした。

Ⅰ類は尖頭状の先端を有するもの(A類)が11点、縦長の側縁に刃部を有するもの(B類)が25点、不明が12点である。このうち、ⅠA類は1類が1点、2類が1点、3類が5点、4類が4点、ⅠB類は1類が4点、2類が12点、3類が5点、4類が4点である。縦長形状で長軸に刃部を持つ形態は59°以下の片面加工が多く、また縦長形状で尖頭状の先端を有する形態は尖頭器の如く両面加工を施す例が多い。

Ⅱ類は尖頭状の先端を有するもの(A類)が9点、摘み部が作出されている反対側の長軸に刃部を有するもの(B類)が14点、不明が1点である。このうち、ⅡA類は1類が1点、2類が3点、3類が3点、4類が2点、ⅡB類は2類が3点、3類が5点、4類が6点である。斜長形状で長軸に刃部を有する形態は刃角が散逸的であるが、両面加工される傾向がある。

Ⅲ類は平面形が三角形状を呈するもの(A類)が19点、平面形が四角形状を呈するもの(B類)が12点、不明が3点である。このうち、ⅢA類は1類が2点、2類が1点、3類が9点、4類が7点、ⅢB類

は1類が2点、2類が3点、3類が5点、4類が2点である。横長形状で長軸に刃部を有する形態のうち、三角形状を成すものは両面加工を主体とする傾向がある。

法量について観察するために、第143図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。84点について計測可能である。Ⅰ～Ⅲ類は平面形態に比例して、3傾向に分かれる。Ⅰ類は長/幅1.44～5.28、厚/幅0.20～0.59と縦長の範囲、Ⅱ類は長/幅0.93～3.54、厚/幅0.12～0.52と斜長の範囲、Ⅲ類は長/幅0.49～1.05、厚/幅0.11～0.35と横長の範囲になる。単なる形状だけでなく、法量値からも明確な規格性が認められる。また類型ごとの刃角に着目すると（第16表刃角集計表）、Ⅰ類のピークは51～60°の範囲にあり、特に56～60°が高い。また両面加工する程、角度が増す傾向にある。Ⅱ類は平均的であるが、51～55°にピークがある。またA·B類ともに3類は61～70°に収まり、両面加工で60°以上の刃角を持つものが中心となる。

使用石材については第17表分類別石材表に示した通りである。全体の86.49%（96点）を頁岩が占める。Ⅱ類は、頁岩以外は頁岩（在地）1点のみである。またデイサイトや玉髄はⅢ類のみに認められる。

時期については、出土地点が調査A区東～D区西と遺構が集中しているエリアと同一のため、混在している可能性が高い。Ⅰ類は調査A区東～C区西のSIやSKなどの遺構内と遺構外のⅢ層を中心に出土している。またⅡ類も同様に調査A区東～C区中央のSIやSX、SKなどの遺構内と遺構外のⅢ層を中心に出土している。Ⅲ類は調査A区東～C区東のSIやSXなどの遺構内とⅡ～Ⅳ層を中心に出土している。遺構内堆積土から出土しているものは、その遺構埋没時に混入した可能性があるため、遺構存続時～埋没後の一定期間と大きく捉える。

第16表　石匙刃角集計表

分類	31～35°	36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	81～85°	計
Ⅰ					3	5	2					10
ⅠA1							1					1
ⅠA2					1							1
ⅠA3							2		1	1	1	5
ⅠA4				1	3							4
ⅠB1							1	2			1	4
ⅠB2			2	4	3	3						12
ⅠB3								2	2	1		5
ⅠB4			1			3						4
Ⅱ				1								1
ⅡA1								1				1
ⅡA2					2	1						3
ⅡA3							1	2				3
ⅡA4					1	1						2
ⅡB2			2		1							3
ⅡB3							4	1				5
ⅡB4				4	2							6
Ⅲ						1						1
ⅢA1							1		1			2
ⅢA2					1							1
ⅢA3							4	2	3			9
ⅢA4	1				4	2						7
ⅢB1							1	1				2
ⅢB2		1	1	1								3
ⅢB3						1	2		2			5
ⅢB4				2								2
Ⅳ					1	2				1		4
計	1	1	6	13	22	19	19	11	9	3	2	106

第17表　石匙分類別石材表

分類	頁岩	頁岩（在地）	赤色頁岩	珪質頁岩	凝灰岩	デイサイト	玉髄	計
Ⅰ	11		1					12
ⅠA1	1							1
ⅠA2	1							1
ⅠA3	4				1			5
ⅠA4	4							4
ⅠB1	3		1					4
ⅠB2	10		1	1				12
ⅠB3	5							5
ⅠB4	3	1						4
Ⅱ	1							1
ⅡA1	1							1
ⅡA2	3							3
ⅡA3	3							3
ⅡA4	2							2
ⅡB2	3							3
ⅡB3	4	1						5
ⅡB4	6							6
Ⅲ	3							3
ⅢA1	2							2
ⅢA2						1		1
ⅢA3	8					1		9
ⅢA4	5		2					7
ⅢB							1	1
ⅢB1	2							2
ⅢB2	3							3
ⅢB3	4			1				5
ⅢB4	1				1			2
Ⅳ	3		1					4
計	96	2	6	2	2	2	1	111

(5) 篦　状　石　器

左右の側縁がほぼ対称で基部側が狭く、刃部側に広がりを持つ石器を篦状石器とした。計16点出土しており、このうち7点を図示した(掲載率43.75%)。遺構内出土が12点(SI出土2点、SX出土5点、SD出土5点)、遺構外出土が4点である。

平面形態に着目すると、2形態に大別される。基部から端部にかけて、ほぼ直線的な形態の短冊形となるもの(Ⅰ類)が8点、端部にかけて幅広になる形態の撥形(Ⅱ類)が8点である。

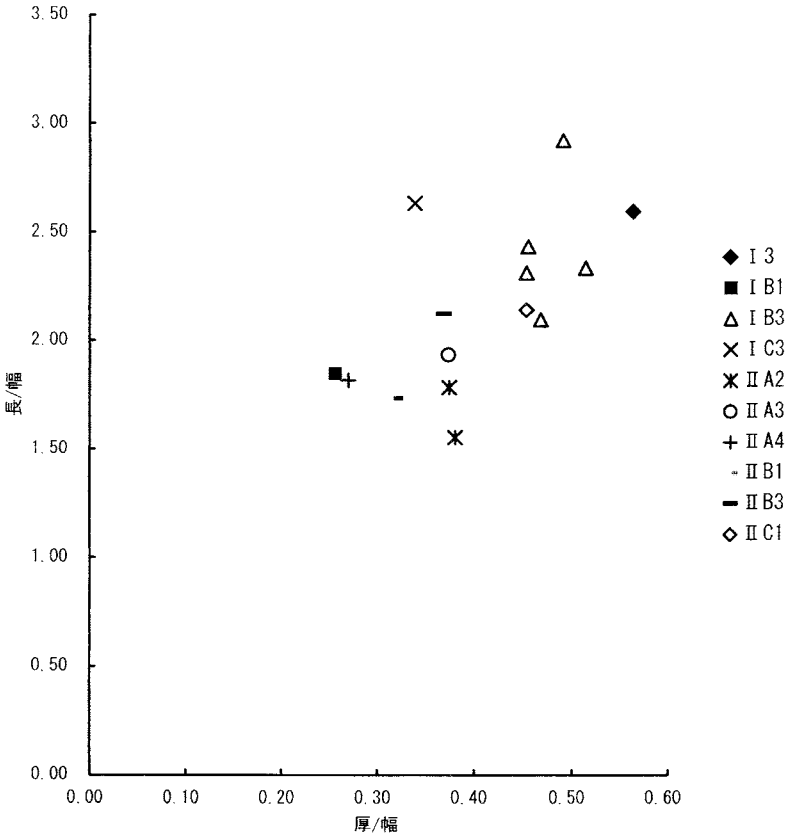
さらに基部形態について見ると、Ⅰ類は基部にやや幅があるもの(B類)が6点、基部が楕円形を呈するもの(C類)が1点、不明が1点に分けられる。Ⅱ類は基部が尖頭状を呈するもの(A類)が4点、B類が2点、C類が1点である。

上記の分類を作出された刃部の角度(刃角)に着目する。片面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの(1類)、同様に刃角が59°以下のもの(2類)、両面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの(3類)、同様に刃角が59°以下のもの(4類)の4分類である。ただし、刃角は計測箇所によって差が生じるため、3ヵ所以上を計測した平均値とした。

ⅠB類は1類が1点、3類が5点、ⅠC類は3類が1点であり、基部にやや幅がある短冊形(長方形)は両面加工で60°以上の刃角が主体となる。またⅡA類は2類が2点、3類が1点、4類が1点、ⅡB類は1類が1点、3類が2点、ⅡC類は1類が1点となり、ⅡB類は片面・両面に関わらず刃角が60°以上となる。

法量について観察するために、第144図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。

第144図　篦状石器長幅比率



第18表　篦状石器刃角集計表

		刃角										計
		41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	81～85°	86～90°	
分類	Ⅰ3						1					1
	ⅠB1				1							1
	ⅠB3					1	1	2			1	5
	ⅠC3					1						1
	ⅡA2	1	1									2
	ⅡA3					1						1
	ⅡA4	1										1
	ⅡB1						1					1
	ⅡB3						2					2
	ⅡC1							1				1
計		2	1		1	3	5	3			1	16

第19表　篦状石器分類別石材表

		石材			計
		頁岩	頁岩(在地)	砂岩	
分類	Ⅰ3	1			1
	ⅠB1			1	1
	ⅠB3	5			5
	ⅠC3	1			1
	ⅡA2	2			2
	ⅡA3	1			1
	ⅡA4		1		1
	ⅡB1	1			1
	ⅡB3	2			2
	ⅡC1			1	1
計		13	1	2	16

15点について計測可能である。出土数が少量のため一概に言えないが、ⅠB3類は長/幅2.10～2.92、厚/幅0.45～0.51の範囲に収まる。またⅡA2類は長/幅1.56～1.78、厚/幅0.37～0.38と定形的である。全体に見れば、長/幅1.56～2.92、厚/幅0.26～0.56と、長幅比が1:5～6程度になる傾向がある。

使用石材については第19表分類別石材表に示した。全体の81.25%(13点)が頁岩である。ⅠB1類とⅡC1類については砂岩が選択されており、ⅡA4類は在地系頁岩が使われている。

時期については、ⅠB3・ⅡA2・ⅡB3類がSI02やSX06から出土しており、Ⅳ群土器と共伴していることから、これらはこの時期に求められる。

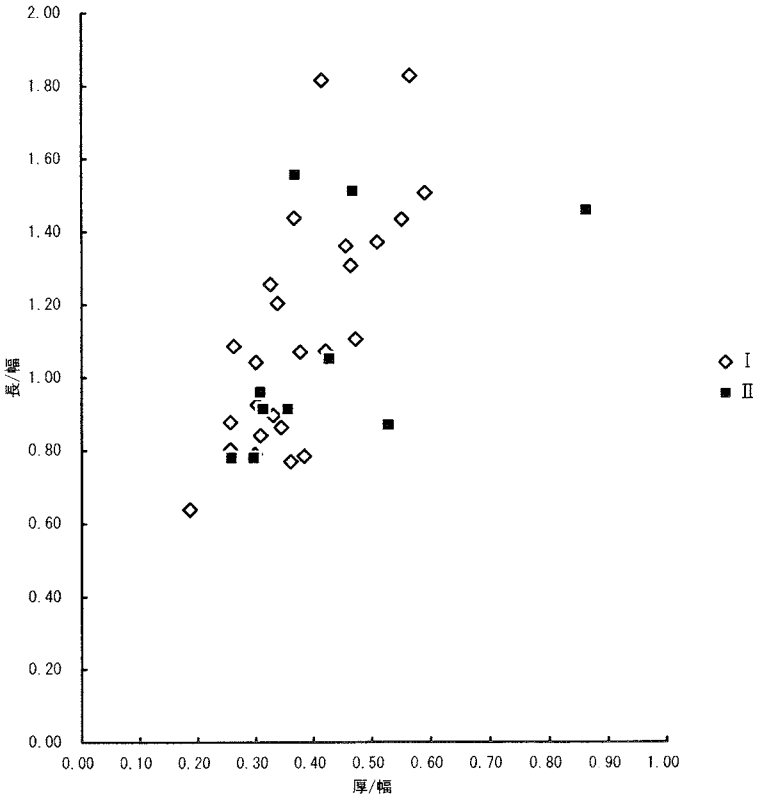
(6) 楔　形　石　器

両極剥離痕と2個一対または4個二対の刃部を有する石器を楔形石器とした。剥片生産時の両極打法の痕跡のみが残された剥片はここには含んでいない。計35点出土しており、8点を図示した(掲載率22.86%)。遺構内出土が19点(SI出土11点、SX出土3点、SD出土4点、P出土1点)、遺構外出土が16点である。

刃部の作出位置から2形態に分けられる。2個一対の剥離痕を持つもの(Ⅰ類)が25点、4個二対の剥離痕を持つもの(Ⅱ類)が10点である。

出土地点・層位を見ると、Ⅰ類を出土しているのはSI01・06・10・15・17・26・28・38などであり、Ⅲ～Ⅶ群土器を伴出している。特にⅣ群土器を伴う場合が多い。Ⅱ類を出土しているのはSI06・16などで、Ⅵ・Ⅶ群土器を伴っている。

第145図　楔形石器長幅比率



法量について観察するために、第145図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。全点について計測可能である。Ⅰ類は数値が縦に延びており、長/幅0.64～1.83、厚/幅0.19～0.59の範囲となる。またⅡ類は長/幅が0.78～1.56、厚/幅が0.26～0.86と長/幅の数値が大きい3点以外は狭い範囲に集中する傾向がある。

第20表　楔形石器分類別石材表

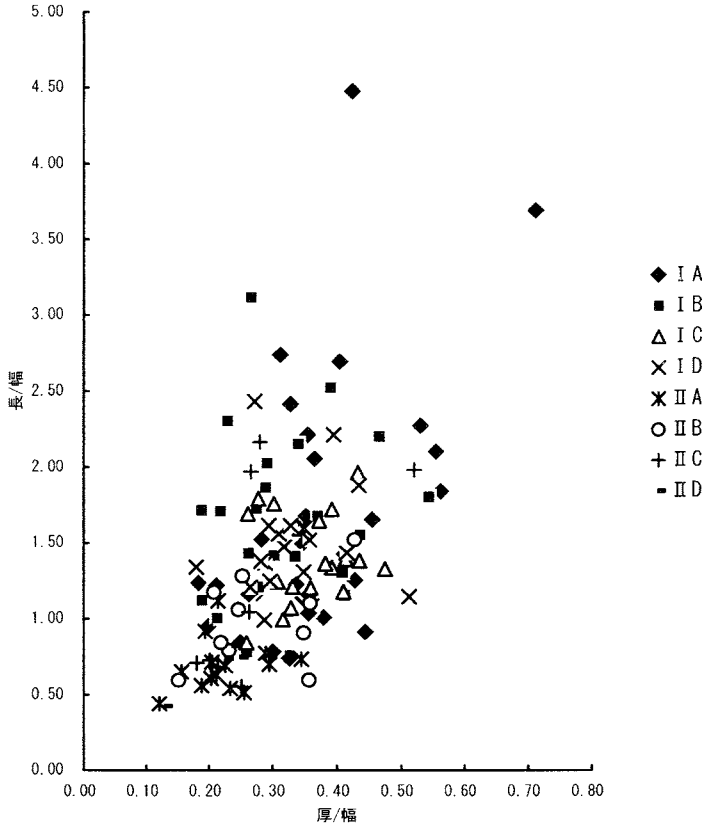
	頁岩	赤色頁岩	珪質頁岩	チャート	黒曜石	珪化木	玉髄	計
Ⅰ	15	4	1	1	2	1	1	25
Ⅱ	7	2			1			10
計	22	6	1	1	3	1	1	35

使用されている石材については第20表分類別石材表に示した。全体の22点(62.86%)が頁岩であるが、他器種に比較すると頁岩が占める割合は低い。その分、チャートや黒曜石、玉髄など硬質な石材が目立つ。

(7) スクレイパー類

定形石器以外で、機能部として刃部を有し、切る、削る、掻く作業に使用されたと見られる石器をスクレイパー類とした。計151点出土しており、22点を図示した(掲載率14.57%)。なお、二次加工ある剥片も同様の機能が考えられるが、全縁辺の1/2以上に二次加工が施されている場合を本分類とし、それ以下を二次加工ある剥片とした(加工の積極性)。遺構内出土が84点(SI出土40点、SX出土10点、SK出土3点、SD出土29点、P出土2点)、遺構外出土が67点である。

第146図　スクレイパー類長幅比率



素材である剥片の形状から2形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの(Ⅰ類)が104点、横長の剥片を素材とするもの(Ⅱ類)が47点である。

石匙と同様に刃部の平面形態と二次加工部位の作出角度(刃角)に着目する。片面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの(A類)、同様に刃角が59°以下のもの(B類)、両面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの(C類)、同様に刃角が59°以下のもの(D類)の4分類である。ただし、刃角は計測箇所によって差が生じるため、3ヵ所以上を計測した平均値とした。

第21表　スクレイパー類刃角集計表

		石材									計
		36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	
分類	ⅠA					2	12	12	6	5	37
	ⅠB	1	2	4	11	8					26
	ⅠC						10	8	3	2	23
	ⅠD	2	3	1	7	5					18
	ⅡA					2	3	8	2	4	19
	ⅡB		1	3	5	3					12
	ⅡC					1	2	2	3	1	9
	ⅡD				6	1					7
計		3	6	8	29	22	27	30	14	12	151

Ⅰ類はA類が37点、B類が26点、C類が23点、D類が18点である。いずれの形態もバランス良く出土しているが、A類の出土数が若干多い。二次加工の作出箇所は、片面加工が63点、両面加工が41点と縦長剥片を用いる場合は片面加工の割合が大きい。Ⅱ類はA類が19点、B類が12点、C類が9点、D類が7点である。Ⅰ類に比べて全体に少ないが、Ⅰ類と同様にA類が最も多い。二次加工の作出箇所は片面加工が31点、両面加工が16点と横長剥片を用いる場合も片面加工の割合が大きい。

法量について観察するために、第146図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。128点について計測可能である。Ⅰ・Ⅱ類は平面形状が縦長と横長に分かれるため、結果も明確に2傾向が表された。Ⅰ類は長/幅0.74～4.48、厚/幅0.18～0.71と縦長の範囲、Ⅱ類は長/幅0.42～2.17、厚/幅0.12～0.52と横長の範囲である。また分類ごとの刃角に着目すると(第21表刃角集計表)、Ⅰ類のピークは51～70°の範囲にあり、特に66～70°の値が高い。

使用石材については第22表分類別石材表に示した。全体の80.13%(121点)を頁岩が占める。ただし、頁岩質石材(頁岩、在地頁岩、赤色頁岩、珪質頁岩)とすると、94.04%(142点)となり、ほとんどを占める。他にも粘板岩、デイサイト、珪化木、黒曜石、凝灰岩、砂岩があり、少ないながらも多様と言える。

第22表　スクレイパー類分類別石材表

		石材										計
		頁岩	頁岩(在地)	赤色頁岩	珪質頁岩	粘板岩	デイサイト	珪化木	黒曜石	凝灰岩	砂岩	
分類	ⅠA	30	3	2	2							37
	ⅠB	21		2		1	1			1		26
	ⅠC	18		2				1	1	1		23
	ⅠD	14		2	1						1	18
	ⅡA	15	1	1	1			1				19
	ⅡB	9	1		1			1				12
	ⅡC	8			1							9
	ⅡD	6		1								7
計		121	5	10	6	1	1	3	1	2	1	151

時期については、出土地点・層位と共伴土器から推定される。Ⅰ・Ⅱ類ともにほぼ調査Ｂ区から出土しており、一部Ｃ区、微量Ａ・Ｄ区からの出土である。Ⅰ類はＡ・Ｂ・Ｄ類がⅣ～Ⅶ群土器、Ｃ類はⅢ～Ⅶ群土器を伴っており、特にⅣまたはⅦ群土器と共伴関係にある場合が多い。またⅡ類はＡ・Ｂ・Ｄ類がⅣ～Ⅴ群土器、Ｃ類がⅣ及びⅦ群土器を伴っている。

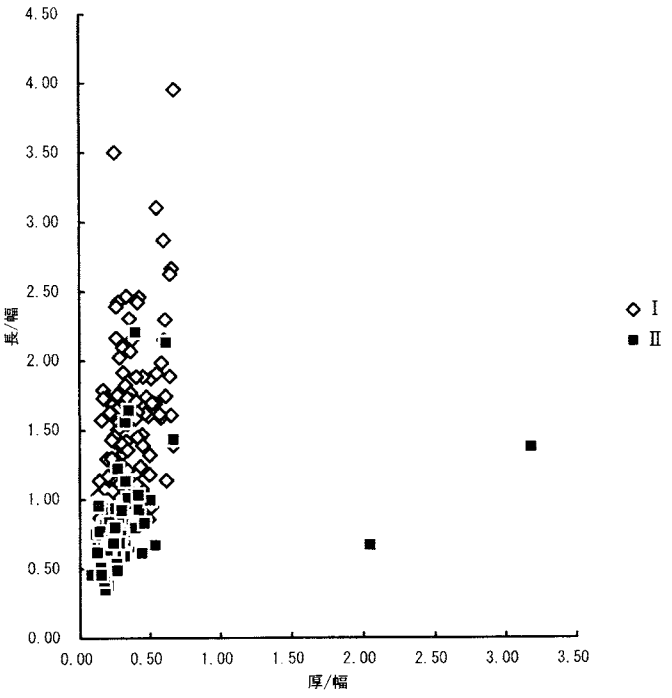
(8) 二次加工ある剥片

スクレイパー類に比べて刃部の作出範囲が狭い(全縁辺の1/2未満)が、同様の機能を有する石器を二次加工ある剥片とした(加工の積極性)。計274点出土しており、18点を図示した(掲載率6.57%)。遺構内出土が165点(SI出土79点、SX出土19点、SK出土5点、SF出土1点、SD出土58点、SZ出土1点、P出土2点)、遺構外出土が109点である。

素材である剥片の形状から2形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの(Ⅰ類)が169点、横長の剥片を素材とするもの(Ⅱ類)が103点、分類不明が2点である。

スクレイパー類と同様に刃部の平面形態と二次加工部位の作出角度(刃角)に着目する。片面に二次加工を施し、その刃

第147図　二次加工ある剥片長幅比率



第23表　二次加工ある剥片刃角集計表

		石材																計
		26～30°	31～35°	36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	81～85°	86～90°	91～95°	96～100°	101～105°	
分類	ⅠA							3	19	18	9	6	3		1		1	60
	ⅠB	1	3	6	9	14	12	19										64
	ⅠC								6	8	2	1	1					18
	ⅠD			2	3	6	12	4										27
	ⅡA							4	10	11	10	3	3	2	1	1		45
	ⅡB			1	2	11	9	10										33
	ⅡC								2	6	4		1	1				14
	ⅡD					2	3	6										11
計		1	3	9	14	33	36	46	37	43	25	10	8	3	2	1	1	272

角が60°以上のもの（A類）、同様に刃角が59°以下のもの（B類）、両面に二次加工を施し、その刃角が60°以上のもの（C類）、同様に刃角が59°以下のもの（D類）の4分類である。ただし、刃角は計測箇所によって差が生じるため、3ヵ所以上を計測した平均値とした。

Ⅰ類はA類が60点、B類が64点、C類が18点、D類が27点である。一見して分かるように片面加工が124点、両面加工が45点と約3:1の比になっている。Ⅱ類はA類が45点、B類が33点、C類が14点、D類が11点である。こちらも片面加工が78点、両面加工が25点で約3:1の比である。

法量について観察するために、第147図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。181点について計測可能である。Ⅰ類は長/幅0.56～3.95、厚/幅0.13～0.68と縦長の範囲、Ⅱ類は長/幅0.35～2.21、厚/幅0.08～3.18で2点以外はⅠ類の長/幅範囲の低い位置に集中している。Ⅰ類は特にⅠB類が縦長の範囲になる傾向があり、次いでⅠA類である。またⅡB・ⅡC類などは特に範囲が限られる。また分類ごとの刃角について見ると、Ⅰ類のうちA・B類の片面加工は56～70°の範囲にピークがあり、また両面加工のC類は61～70°の範囲、D類は51～55°の範囲にピークがある。Ⅱ類のうち片面加工のA類のピークは61～75°、B類は46～60°の範囲、両面加工になると全体数は減るが、C類は66～70°、D類は56～60°の範囲が高い。

第24表に分類別石材表を示した。全体の72.63%（199点）を頁岩が占める。次いで、赤色頁岩が12.77%（35点）である。頁岩質石材をまとめると、249点となり全体の90.88%を占めるようになる。

第24表　二次加工ある剥片分類別石材表

		石材											計
		頁岩	頁岩（在地）	珪質頁岩	赤色頁岩	粘板岩	デイサイト	凝灰岩	珪化木	黒曜石	瑪瑙	玉髄	
分類	ⅠA	41	2		10		1	1	2			3	60
	ⅠB	52	2		7	1				1		1	64
	ⅠC	13	1		3				1				18
	ⅠD	17	1	1	4		1		1	1		1	27
	ⅡA	34	2	2	5	1					1		45
	ⅡB	26		1	1			2	1	1		1	33
	ⅡC	7	1	1	3			1		1			14
	ⅡD	8		1	2								11
	不明	1								1			2
計		199	9	6	35	2	2	4	5	5	1	6	274

時期については、出土地点・層位と共伴土器から推定される。ⅠA・ⅠB類は調査A～C区西まで見られ、Ⅳ～Ⅶ群土器を伴っており、中でもⅣ群土器が多い。ⅠC類はほとんどが調査B区出土で、Ⅳ～Ⅶ群土器、特にⅣ群土器を伴っている。ⅠD類は調査A～C区西で見られ、Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ群土器を伴う。ⅡA・ⅡB・ⅡC類は調査A～C区西で見られ、Ⅲ～Ⅶ群土器を伴い、特にⅣ群土器が多い。ⅡD類は調査B～C区西出土で、Ⅵ・Ⅶ群土器を伴う。

(9) 微細剥離痕ある剥片

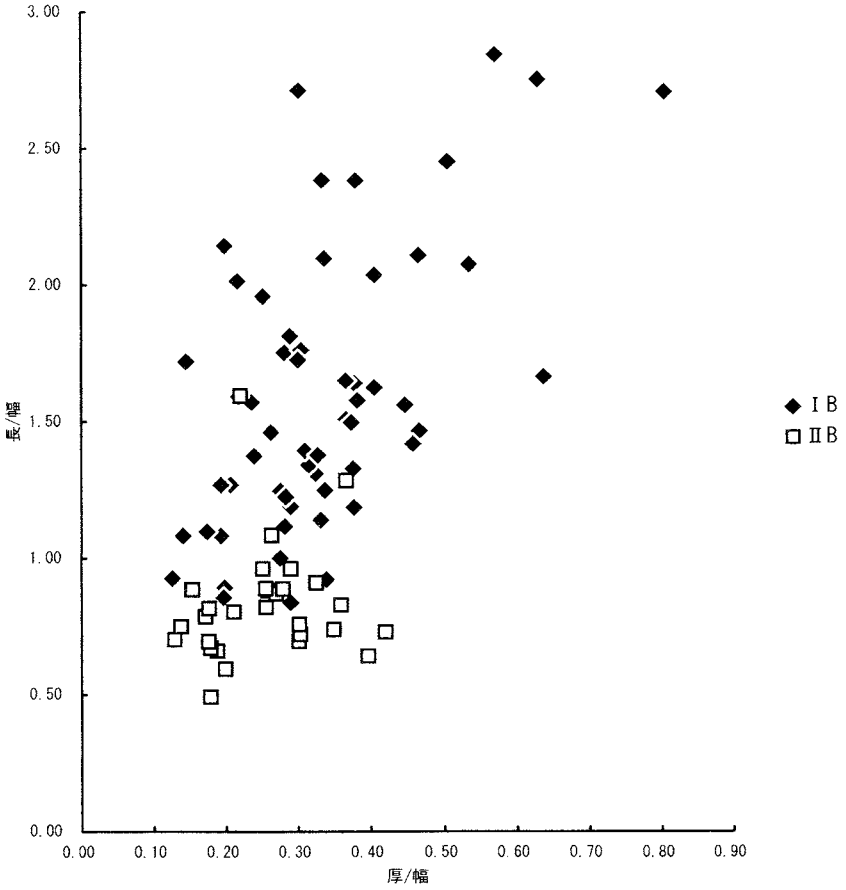
剥片剥離工程において産出された石器製作に不適な剥片であるが、縁辺部に微細な剥離痕が観察される剥片を微細剥離痕ある剥片とした。計96点出土しており、6点を図示した（掲載率6.25%）。遺構内出土が47点（SI出土20点、SX出土8点、SK出土1点、SR出土1点、SD出土17点）、遺構外出土が49点である。

明確な刃部を形成していないことから、剥片剥離工程のどの段階で産出された剥片かに重点をおいた。これはどの段階で二次加工を行うことを決め、それ以外の剥片（石屑）をどのように選択したかによる。

まず素材である剥片の形状から2形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの（Ⅰ類）が62点、横長の剥片を素材とするもの（Ⅱ類）が34点である。

さらに自然面が剥片背面など1/2以上に残存する剥片剥離第1工程（粗割段階）で産出された剥片をＡ類、自然面が打面側にわずかに残存するなど1/2未満に留まる剥片剥離第2工程（剥片剥離段階）で産出された剥片をＢ類とする。

第148図　微細剥離痕ある剥片長幅比率



Ｉ類はＡ類が少なく１点、Ｂ類が61点と主体的である。またⅡ類はＡ類が出土しておらず、Ｂ類のみが34点である。この両者を見ると粗割段階の剥片はそのまま放棄され、剥片剥離段階で産出された剥片のみを主体的に扱っていることが分かる。

第148図長幅比率を作成し、法量の相違を観察した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。86点について計測可能である。表示できたのは、ＩＢ･ⅡＢ類の２形態のみである。ＩＢ類は長/幅0.84～2.84、厚/幅0.13～0.80と縦長に広い範囲であるのに対し、ⅡＢ類は長/幅0.49～1.59、厚/幅0.13～0.42と狭い範囲に集中する。

使用石材については第25表分類別石材表に示した。全体の82.29%（79点）を頁岩が占める。頁岩質石材と範囲を広げると92点が該当する。

第25表　微細剥離痕ある剥片分類別石材表

		石材						計
		頁岩	頁岩（在地）	赤色頁岩	珪質頁岩	凝灰岩	玉髄	
分類	ＩＡ	1						1
	ＩＢ	49	3	6	1	1	1	61
	ⅡＢ	29	1	2		2		34
計		79	4	8	1	3	1	96

時期については、出土地点･層位と共伴土器から推定される。ＩＡ類は１点のみの出土であるが、Ⅲ～Ⅳ群土器を伴出している。またＩＢ･ⅡＢ類は調査Ａ～Ｃ区西で出土しており、Ⅳ～Ⅶ群土器を伴っている。両者共にⅣ群土器を特に伴出している。

（10）石　　核

剥片剥離作業が行われて産出されたと考えられるすべての残核を石核とした。計38点出土しており、10点を図示した（掲載率26.32%）。遺構内出土が17点（SI出土5点、SX出土2点、SD出土10点）、遺構外出土が21点である。

今回は整理時間の都合上、石核及び剥片の接合は行えなかった。よって、本遺跡の剥片剥離作業については石核から類推するに留めたい。なお、石核の分類については新潟県清水上遺跡（新潟県教委1990）、新潟県アチヤ平遺跡上段（新潟県・朝日村教委 2002）を用いた。

剥離作業の手順から７分類され、いずれにも当てはまらないものを分類不可とした（13点）。第26表に石核分類別石材表と各石材の重量平均を示した。Ⅰ類は同一打面から同一作業面に同方向の剥離を行うもので、４点（10.53%）である。黒曜石（1161）、玉髄の硬質な２点は小さいが、頁岩を用いた２点は大きく残されており、石器製作には不向きであったのかもしれない。Ⅱ類は同一作業面に別々の打面から剥離を行うもので、２点（5.26%）である。赤色頁岩、頁岩に用いられている。Ⅲ類は同一打面から別々の作業面に同方向の剥離を行うもので、３点（7.89%）である。黒曜石１点と赤色頁岩２点に見られ、特に黒曜石（1159）に顕著に表れている。Ⅳ類は稜線上の交互剥離が全周しないもので、２点（5.26%）である。珪化木と頁岩に見られるが、頁岩は2141.53gと大きい。Ⅴ類は稜線上の交互剥離がほぼ全周するもので、頁岩の２点に認められる。Ⅵ類はさらに３細分される。ⅥA類は別々の作業面に約90°ずれる剥離を行うもので、赤色頁岩の２点に見られる。ⅥB類は別々の作業面に180°ずれる剥離を行うもので、頁岩（1156）の１点に認められる。ⅥC類は古い作業面を打面とする剥離で、４点（10.53%）に見られる。赤色頁岩２点、頁岩、珪化木各１点である。Ⅶ類は両極技法による剥離で、５点（13.16%）に見られ、分類可能な中では最も多い。石材は、黒曜石２点、珪化木、赤色頁岩、玉髄各１点で、比較的硬質で小型の原石を剥離する場合に用いられている。

第26表　石核分類別石材表

		石材						計
		珪化木	珪質頁岩	黒曜石	赤色頁岩	頁岩	玉髄	
分類	Ⅰ			1（7.80）		2（571.07）	1（9.57）	4（588.44）
	Ⅱ				1（22.00）	1（16.09）		2（38.09）
	Ⅲ			1（12.40）	2（18.43）			3（30.83）
	Ⅳ	1（8.68）				1（2141.53）		2（2150.21）
	Ⅴ					2（37.07）		2（37.07）
	Ⅵ	1（7.29）			4（69.46）	2（119.51）		7（196.26）
	Ⅶ	1（10.02）		2（17.77）	1（7.41）		1（8.75）	5（43.95）
	不可		1（76.36）	1（34.68）	4（44.24）	6（81.81）	1（105.26）	13（342.35）
計		3（25.99）	1（76.36）	5（72.65）	12（161.54）	14（2967.08）	3（123.58）	38（3427.2）
範囲		7.29－10.02	76.36	7.80－34.68	2.09－44.03	3.93－2141.53	8.75－105.26	
平均		8.66	76.36	14.53	13.46	211.93	41.19	

（11）剥　　片

剥片剥離作業において産出された石器製作に不適な剥片や加工の施される属性を有した剥片を一括した。計4,773点出土しており、このうち粘性のある黒色物が付着した２点のみを図示した（掲載率0.42%）。また、石材が黒曜石のうち38点は蛍光X線による非破壊の産地同定試料として抽出している（附編　自然科学分析）。

剥片の形状により２形態に分けられる。打点または打点方向を直上に置いた場合、剥離方向が縦に長い（幅よりも長さの値が大きい）剥片をⅠ類、剥離方向が横に長い（長さよりも幅の値が大きい）剥片をⅡ類とした。Ⅰ類は2,909点、Ⅱ類は1,864点出土している。

石材の選択性と遺跡内に持ち込む仕事量を観察するために、第27表石材別個数集計表と第28表石材別重量表を示した。石材種は13種類あり、頁岩、頁岩（在地）、赤色頁岩、珪質頁岩、凝灰岩、砂

岩、玉髄、石英、チャート、黒曜石、珪化木、デイサイト、細粒閃緑岩である。なお、剥片の石材分類については担当者による肉眼観察にて行ったものである。また頁岩（在地）については、遺跡周辺に見られる剥片剥離にあまり適さない粗い頁岩をあえて「在地」として分類した。

第27表　剥片石材別個数集計表

	Ⅰ類	Ⅱ類	計
玉髄	22	16	38
チャート	1		1
デイサイト	1		1
細粒閃緑岩	1		1
珪化木	43	40	83
黒曜石	196	136	332
石英	6	4	10
赤色頁岩	413	314	727
砂岩	2	2	4
頁岩	919	821	1740
頁岩（在地）	1024	282	1306
珪質頁岩	243	208	451
凝灰岩	38	41	79
計	2909	1864	4773

Ⅰ類とⅡ類の石材を見ると、ほとんどの石材にも両分類が見られるが、1点のみの出土であるチャート、デイサイト、細粒閃緑岩はⅠ類のみに認められる。個数はⅠ類では頁岩（在地）と頁岩が突出しており、赤色頁岩、珪質頁岩がそれに次ぐ。またⅡ類は頁岩が突出しており、その後に赤色頁岩、頁岩（在地）、珪質頁岩となる。いずれの分類も頁岩質石材が上位を占めており、頁岩·頁岩（在地）·赤色頁岩·珪質頁岩を合わせた値は、Ⅰ類では89.34%（2,599点）、Ⅱ類は87.18%（1,625点）と高い。

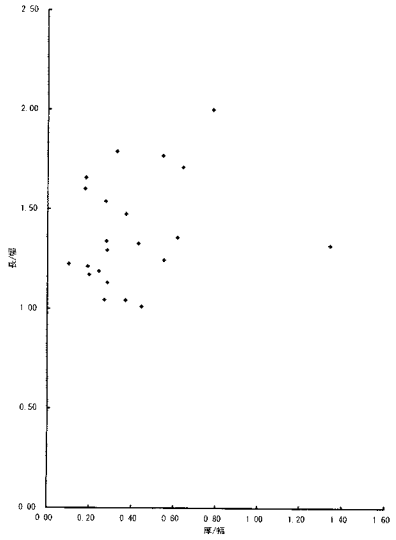
第28表　剥片石材別重量表

	Ⅰ類	Ⅱ類	計
玉髄	23.26	10.96	34.22
チャート	7.71		7.71
デイサイト	456.9		456.9
細粒閃緑岩	202.89		202.89
珪化木	302.65	209.57	512.22
黒曜石	107.29	104.5	211.79
石英	71.99	38.59	110.58
赤色頁岩	752.67	564.37	1317.04
砂岩	100.86	362.58	463.44
頁岩	3594.75	3026.13	6620.88
頁岩（在地）	66217.03	17762.29	83979.32
珪質頁岩	899.71	768.33	1668.04
凝灰岩	98.15	98.86	197.01
計	72835.86	22946.18	95782.04

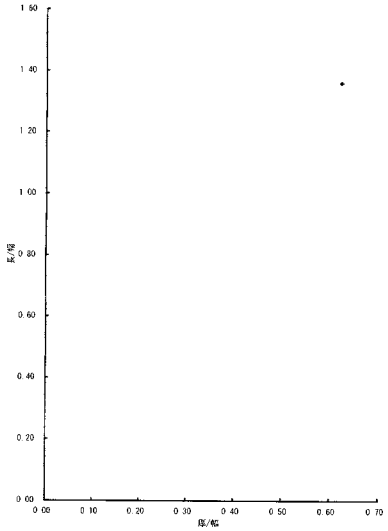
これを重量について見ると、Ⅰ類は72835.86g、Ⅱ類は22946.18gと約3.2：1の開きがある。個数との関係からⅠ類は1点平均28.03gであるのに対して、Ⅱ類は1点平均14.12gとⅠ類の1/2の重量しかない。これはⅠ類が大きめの剥片を産出していることを示している。また石材ごとに総重量を観察すると、頁岩（在地）が突出しており、Ⅰ類が66217.03g、Ⅱ類が17762.29g、計83979.32gである。他の石材が1,000g台であるのに対し、多量に遺跡内に持ち込まれた背景には①剥片にあまり適さない粗い石材、②個数も多いが、1点に対する重量が大きい、③遺跡近傍によく見られる石材ということを鑑みれば、主に礫石器などに用いるために在地の河原などから遺跡内に搬入されたと見ることが自然である。次いで、頁岩6620.88g、珪質頁岩1668.04g、赤色頁岩1317.04g、珪化木512.22gの順で重量が大きい。1点平均では、頁岩（在地）64.30g、頁岩3.81g、珪質頁岩3.70g、赤色頁岩1.81g、珪化木6.17gとなり、頁岩（在地）が突出しているのは一見して認められ、質量が大きい。また珪化木もやや大きめを搬入している。赤色頁岩は質量が小さい値が出ているが、資料を実見しても小さめのものが多数を占める。

法量について観察するために、第150～152図に石材別長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。全点について計測可能である。Ⅰ類は頁岩（在地）が最も広範囲で長/幅1.00～7.38、厚/幅0.03～2.93で縦長の範囲、次いで頁岩は長/幅1.00～8.51、厚/幅0.07～7.79（集中は2.50）で縦長の範囲、赤色頁岩は長/幅1.00～9.06、厚/幅0.05～2.79などである。黒曜石は長/幅0.62～9.17、厚/幅0.05～1.36の範囲で厚さが薄い。Ⅱ類は赤色頁岩が最も広範囲で長/幅0.11～1.00、厚/幅0.02～5.27の範囲、次いで頁岩は長/幅0.06～1.00、厚/幅0.01～3.15の横長の範囲である。黒曜石は長/幅0.25～1.99（集中は1.00）、厚/幅0.02～2.29（集中は0.77）に収まる。

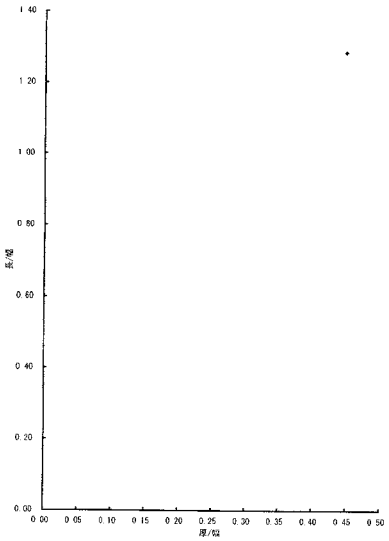
剥片Ⅰ類－玉髄



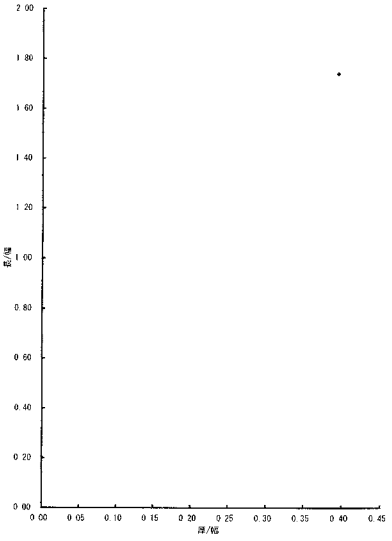
剥片Ⅰ類－チャート



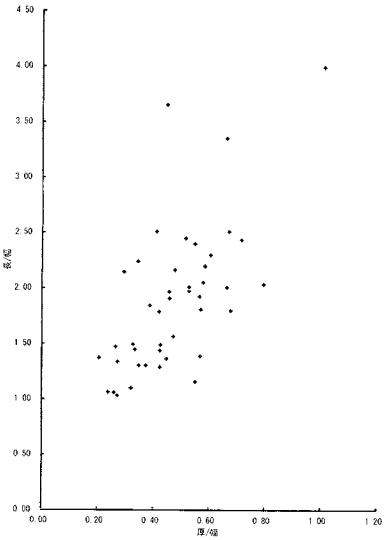
剥片Ⅰ類－デイサイト



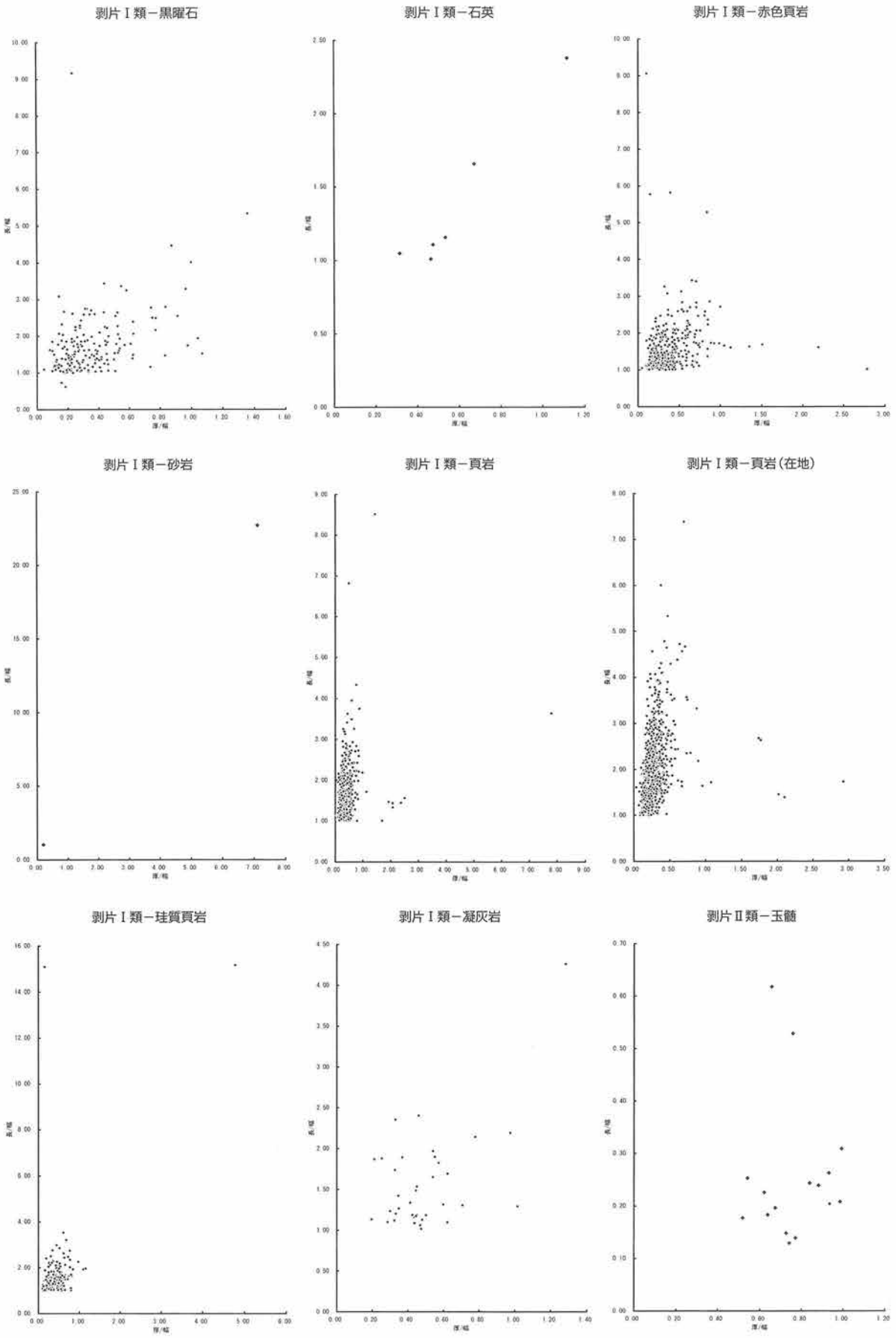
剥片Ⅰ類－細粒閃緑岩



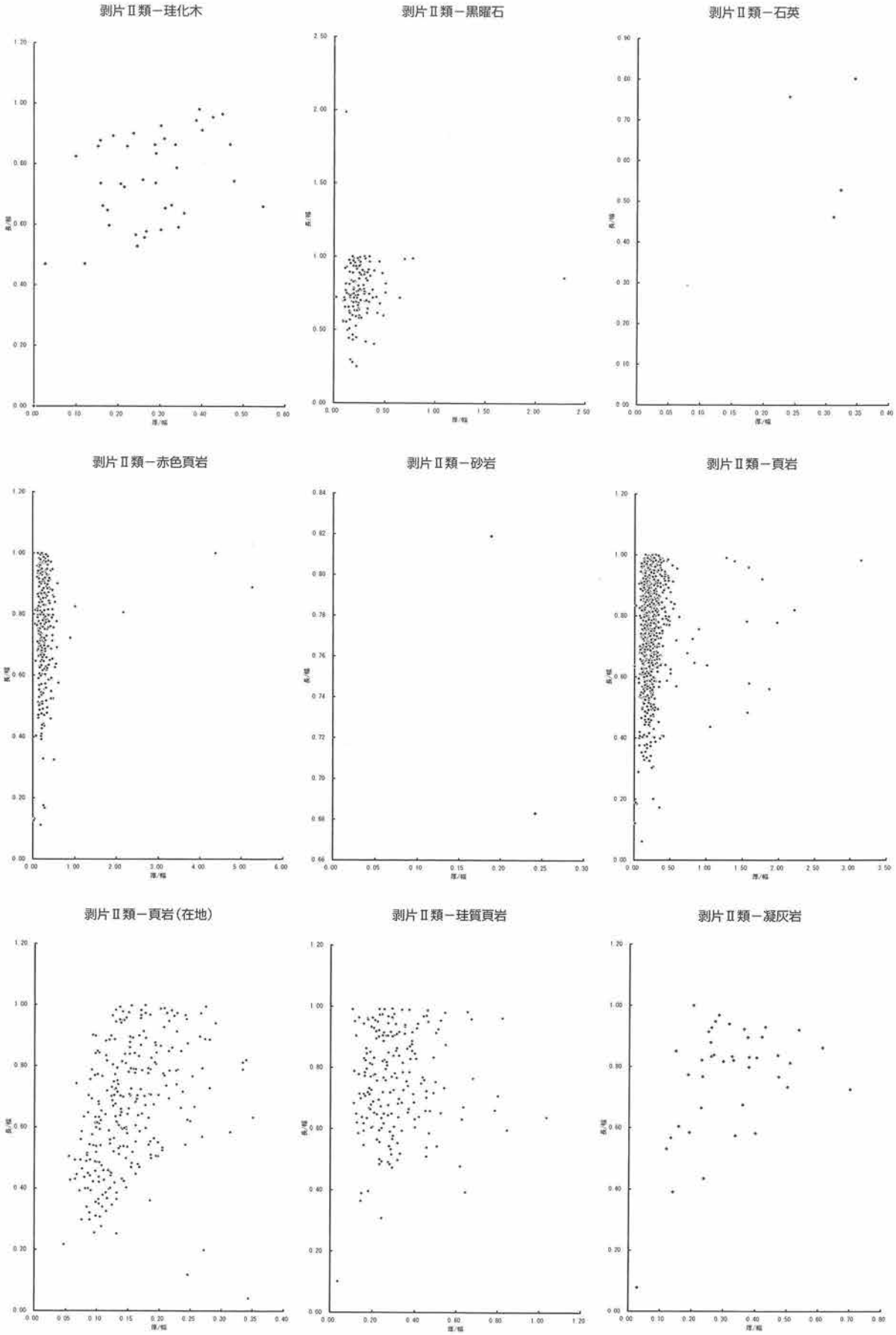
剥片Ⅰ類－珪化木



第150図　剥片長幅比率(1)



第151図　剥片長幅比率(2)



第152図　剥片長幅比率(3)

剥片剥離作業時の打面の傾斜と打撃の角度を観察するために剥離角の計測を行い、第29・30表に示した。計測方法は、プロトラクターを用いて行い、打面と打点、主要剥離面の接する点を結んだ角度を計測した。この場合、本来であればバルブ末端に計測点を置くべきであるが、計測作業の工程上捉えにくい場合があるため、バルブが存在する場合はこれもいっしょに計測している。よって、導き出された計測値は剥離角＋二次的属性（バルブなどの影響）の場合があることを付け加える。剥片4,773点中1,352点（Ⅰ類701点、Ⅱ類651点）について計測可能である。

第29表　剥片石材別剥離角計測可能個数

	Ⅰ類	Ⅱ類	計
玉髄	6	9	15
珪化木	5	8	13
黒曜石	43	42	85
赤色頁岩	141	117	258
頁岩	375	352	727
頁岩（在地）	49	34	83
珪質頁岩	74	79	153
凝灰岩	7	10	17
砂岩	1		1
計	701	651	1352

第30表　剥片石材別剥離角平均

	Ⅰ類	Ⅱ類	総平均
玉髄	113.8	112.2	113
珪化木	101.5	108.6	105.05
黒曜石	102.6	106.1	104.35
赤色頁岩	108.1	107.8	107.95
頁岩	111.1	111.7	111.4
頁岩（在地）	105.3	108.2	106.75
珪質頁岩	108.7	109.6	109.15
凝灰岩	111.6	105.6	108.6
砂岩	79		79
総平均	104.6333333	108.725	106.6791667

第30表に石材別剥離角平均を示した。Ⅰ類の平均は104.63°、Ⅱ類は108.73°である。石材別に見ると、差が大きいのは珪化木で、Ⅰ類は101.5°、Ⅱ類は108.6°、黒曜石はⅠ類が102.6°、Ⅱ類が106.1°、頁岩（在地）はⅠ類が105.3°、Ⅱ類が108.2°といずれもⅡ類の角度が大きい。これに対して、凝灰岩はⅠ類が111.6°、Ⅱ類が105.6°とⅠ類が大きくなっている。角度は総平均で106.68°であり、直接打撃によると思われるものが多数を占める。

(12) 石　斧　類

器面全体または一部を研磨・敲打、剥離などで成形した刃部を有する斧形の石器を石斧類として一括した。計109点出土しており、20点を図示した（掲載率18.35％）。遺構内出土が66点（SI出土23点、SX出土7点、SK出土2点、SD出土34点）、遺構外出土が43点である。

成形段階の敲打・剥離・研磨などの加工から2形態に分けられる。器面全体を研磨して成形している斧形石器（磨製石斧）がⅠ類で20点、敲打・剥離のみで成形している斧形石器（打製石斧）がⅡ類で89点である。いわゆる石鍬と呼ばれるものについても、今回はⅡ類に含めた。

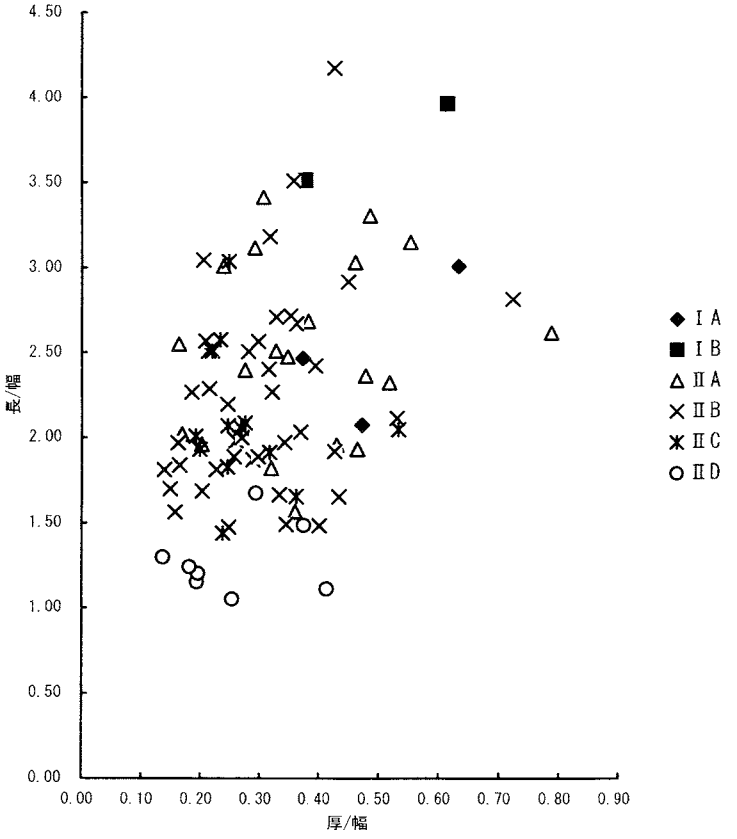
Ⅰ類について細分すると、最大幅が刃部付近にあるもの（A類）が18点、最大幅が中央付近にあるもの（B類）が2点である。さらにやや幅広の平坦面を持つものが2点ある。Ⅱ類は、短冊形をするもの（A類）が22点、撥形をするもの（B類）が44点、分銅形をするもの（C類）が14点、寸詰まりになるもの（D類）が9点である。B類はグリップあり（1類）が38点とグリップなし（2類）が6点に分けられる。

刃部形状に着目すると、Ⅰ類のうち平面形が円刃のものは9点、直刃は1点、偏刃は2点、不明は8点で、断面形は両刃12点、不明8点に分けられる。またⅡ類のうち平面形が円刃のものは35点、直刃は17点、偏刃は30点、不明は7点で、断面形は片刃31点、両刃50点、不明8点となる。Ⅰ類は円刃で両刃の刃部形状が主体となり、まれに直刃・偏刃が見られる。Ⅱ類はⅠ類よりも平面形に種類があ

り、円刃・偏刃がやや多く、断面形についても両刃がやや多いが両形態とも見られる。

法量を観察するために、第153図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。86点（Ⅰ類5点、Ⅱ類81点）について計測可能である。Ⅰ類については数量が少ないため明確には比べられないが、ⅠA類は長/幅2.07～3.01、厚/幅0.37～0.63、ⅠB類は長/幅3.51～3.96、厚/0.38～0.61の範囲にまとまる。またⅡ類はⅡA類が長/幅1.57～3.41、厚/幅0.16～0.79、ⅡB類が長/幅1.48～4.17、厚/幅0.14～0.72、ⅡC類が長/幅1.44～3.04、厚/幅0.19～0.53、ⅡD類が長/幅1.05～1.68、厚/幅0.14～0.41の範囲に収まり、ⅡD類はやや小さめ、ⅡA～C類はほぼ同じサイズとなる傾向である。また分類ごとの刃角について見ると（第31表刃角集計表）、Ⅰ類のピークは66～70°、Ⅱ類のピークは41～45°、51～60°で、特に51～55°に集中している。この他にⅠ類については基部幅（10点計測可能）と刃部幅（11点計測可能）も計測しており、基部幅は0.87～2.87cm（平均1.55cm）、刃部幅は2.66～8.99cm（平均4.33cm）にまとまっている。

第153図　石斧類長幅比率



第31表　石斧類刃角集計表

	26～30°	31～35°	36～40°	41～45°	46～50°	51～55°	56～60°	61～65°	66～70°	71～75°	76～80°	81～85°	86～90°	91～95°	計
Ⅰ				1		2		2	4		2	1	1	1	14
Ⅱ	1	2	6	10	7	11	10	6	8	6	6	2	4	2	81
計	1	2	6	11	7	13	10	8	12	6	8	3	5	3	95

第32表　石斧類分類別石材表

		石材										計
		頁岩（在地）	凝灰岩	細粒花崗閃緑岩	細粒斑糲岩	細粒閃緑岩	砂岩	蛇紋岩	粘板岩	斑糲岩	ひん岩	
分類	ⅠA	1	2	1	1	5	1	3		2	2	18
	ⅠB					1	1					2
	ⅡA	20					1			1		22
	ⅡB	39					3		2			44
	ⅡC	14										14
	ⅡD	9										9
計		83	2	1	1	6	6	3	2	3	2	109

第32表に分類別石材表を示した。全体の76.15%（83点）を頁岩（在地）が占める。これはⅡ類の82点が影響しており、Ⅰ類は1点しか使用されていない。Ⅰ類は細粒閃緑岩5点・蛇紋岩3点が多い。蛇紋岩は本遺跡の石器全体を見ても他には使用されておらず、石斧類Ⅰ類のみに使用される特殊な石材と見られ、搬入された可能性もある。

時期については、出土地点・伴出土器から推定される。ⅠA類は主に調査B区に見られ、Ⅳ・Ⅶ群土器を伴う。ⅡA類は調査B区～C区西に見られ、Ⅳ～Ⅶ群土器を伴い、特にⅣ群土器が多い。ⅡB類は調査B区～D区まで見られ、Ⅳ～Ⅶ群土器を伴う。調査D区－28A11グリッド黒色土中から2点がまとまって見つかっている。ⅡC類は調査B区～C区西に見られ、Ⅳ～Ⅶ群土器を伴っている。ⅡD類は調査B区のみで見られ、Ⅵ・Ⅶ群土器を伴う。

(13) 礫　器　類

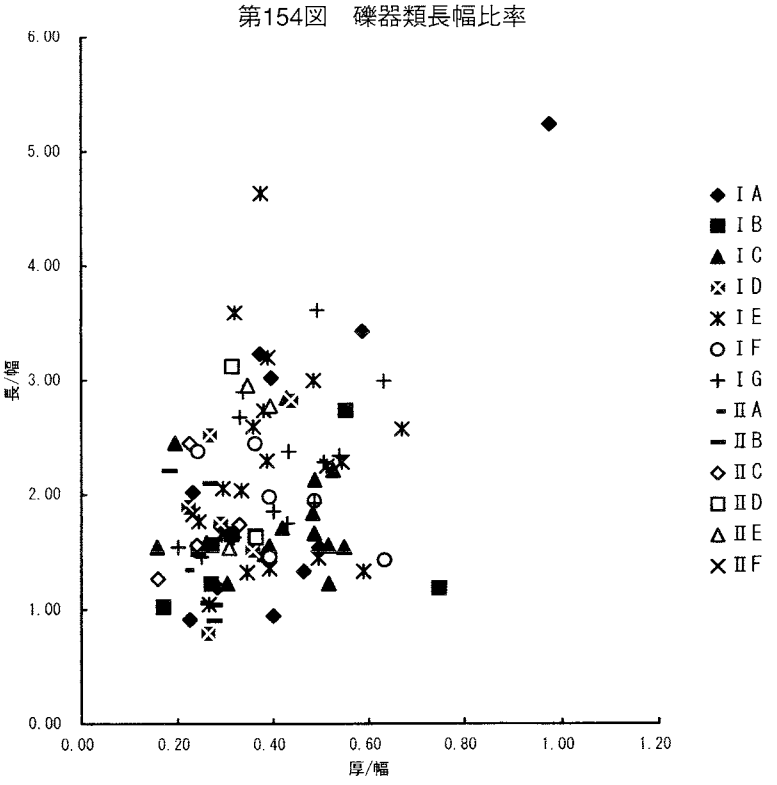
礫または大形で厚手の剥片の一部に、片面・両面から二次加工を施し、刃部を作り出した石器を礫器類とした。計98点出土しており、11点を図示した（掲載率11.23%）。遺構内出土が52点（SI出土18点、SX出土7点、SK出土2点、SD出土23点、P出土2点）、遺構外出土46点である。

素材の性格から2形態に分けられる。礫素材のもの（Ⅰ類）が81点、大形で厚手の剥片を素材とするもの（Ⅱ類）が17点である。また刃部の形状から7細分される。刃部の平面形が円刃、断面形が両刃のものがA類、平面形が円刃、断面形が片刃のものがB類、平面形が偏刃、断面形が両刃のものがC類、平面形が偏刃、断面形が片刃のものがD類、平面形が直刃、断面形が両刃のものがE類、平面形が直刃、断面形が片刃のものがF類、また刃部の作出位置が素材の長軸（側面）で、直刃、断面形が主に両刃となる特殊磨石の調整段階もしくはそれのみで完成形となるものがG類とした。また、これに付け加えて、①敲打、②磨、③凹、④特磨（側面などの細長い範囲に剥離や磨りの痕跡がある）の痕跡を併せ持つ場合は、これを付記した。

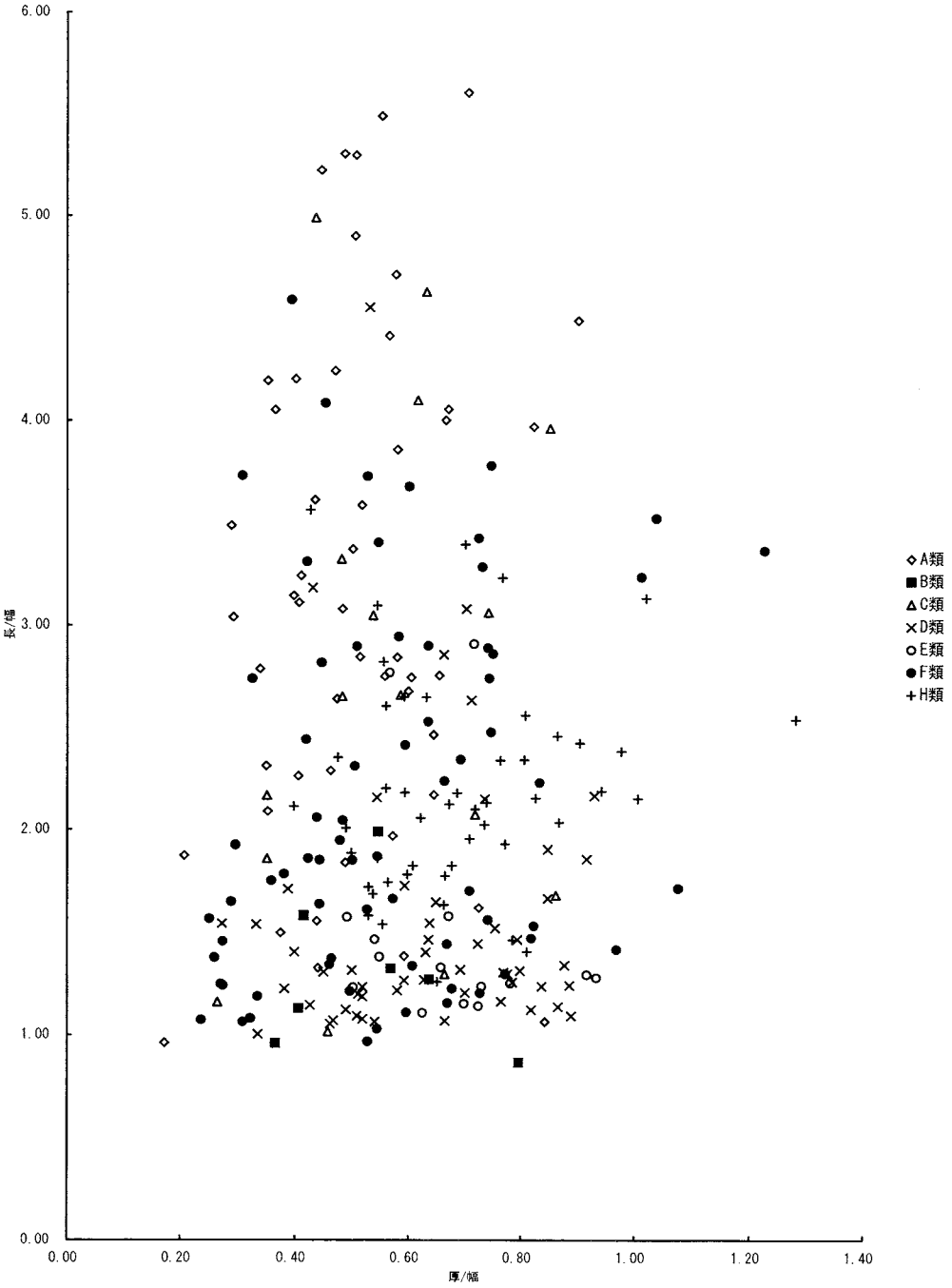
ⅠA類は10点、ⅠB類は8点、ⅠC類は15点、ⅠD類は6点、ⅠE類は19点、ⅠF類は6点、ⅠG類は17点であり、またⅡA類は3点、ⅡB類は4点、ⅡC類は4点、ⅡD類は2点、ⅡE類は3点、ⅡF類は1点である。全体に見ると、Ⅰ類の比率が高く82.65%を占める。Ⅰ類はA・C・E類、特にC・E類の断面形が両刃になるものの数量が多く、主体的である。またⅡ類はⅠ類に比べて少ないが、バランス良く6種類が出土している。

複合痕跡を持つものは、ⅠA類、ⅠC類、ⅠE類、ⅠG類の4種で確認されており、いずれも礫素材のものである。ⅠA類は

第154図　礫器類長幅比率



第155図　敲磨器類長幅比率



①が1点、ＩＣ類は③が2点、他は各1点ずつ、ＩＦ類は最も複合しており、①2点、①＋②1点、①＋③1点、②＋④1点、③1点、④1点である。ＩＧ類は③3点、②＋④1点である。

法量を観察するために、第154図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。94点について計測可能である。全体に密集する傾向があり、サイズに変化はあまり見られない。ただし、Ｉ類の方が若干大きめにまとまるようである。

第33表に分類別石材表を示した。全体の83.67%（82点）を頁岩（在地）が占める。次いで、砂岩が多い。ＩＡ類の石材は4種類で多いが、他はほとんどが上位2種類のみである。特にⅡ類は剥片

第33表　礫器類分類別石材表

		石材				計
		頁岩（在地）	細粒閃緑岩	砂岩	デイサイト	
分類	ⅠA	6	1	2	1	10
	ⅠB	7		1		8
	ⅠC	13		2		15
	ⅠD	5		1		6
	ⅠE	16		2	1	19
	ⅠF	5		1		6
	ⅠG	14		3		17
	ⅡA	3				3
	ⅡB	3		1		4
	ⅡC	4				4
	ⅡD	2				2
	ⅡE	3				3
	ⅡF	1				1
計		82	1	13	2	98

第35表　敲磨器類分類別個数

分類					小計	合計
Ⅰ	A	2			9	141
		3			1	
	B	1	a		1	
		2	a		4	
			b		2	
	C	1			1	
		2			4	
	D	1			38	
		2			6	
		3			3	
	E	1	a		9	
			b		1	
		2	a		1	
		3	a		2	
	F	1			37	
		2			2	
	G				2	
	H	1	a		2	
			b		4	
			c		1	
		2	a		3	
			b		2	
		3	a		3	
			b		2	
			d		1	
Ⅱ	A	2			14	72
	C	2			4	
	D	1			3	
		3			1	
	E	1	a		2	
	F	1			17	
		2			3	
	G				2	
	H	1	a		3	
			b		4	
		2	a		6	
			b		9	
		3	b		2	
			c		1	
			e		1	
Ⅲ	A	2			5	22
		3			1	
	C	2			3	
	D	1			2	
	F	1			4	
		2			3	
	H	2	a		1	
			c		1	
		3	c		1	
			d		1	
Ⅳ	A	2			11	20
		3			1	
	C	2			2	
	F	1			5	
	H	1	b		1	
Ⅴ	A	2			4	8
	C	2			2	
	D	1			1	
	F	1			1	
Ⅵ	A	1			1	5
		2			4	
不明	A	1			1	107
		2			12	
	C	2			12	
	D	1			7	
	E	1	a		4	
	F	1			48	
		2			2	
	G				2	
	H	1	a		2	
			d		1	
		2	a		2	
			b		3	
			c		1	
			e		2	
		3	a		4	
			b		3	
			c		1	
合計					375	375

を素材とするため、剥離しやすい頁岩（在地）が多数を占める。

時期については、出土地点・伴出土器から推定される。ⅠA～ⅠC・ⅠE・ⅠF類は調査B区～C区西で出土しており、ⅠA類はⅦ群土器、ⅠB・ⅠC・ⅠE・ⅠF類はⅣ群土器を伴出することが多い。またⅠD・ⅠG類は調査A区東～C区西に見られ、Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ群土器を伴う。Ⅱ類は推定される遺構からの出土が少ないが、ⅡD類はSX06・07から出土し、Ⅳ・Ⅶ群土器を伴い、ⅡE類はSX06からⅣ群土器と共に出土する。

(14) 敲　磨　器　類

礫の表面に残された使用痕跡を敲打痕、磨痕、凹痕の3種類に規定し、これらの痕跡のいずれかが認められるものを敲磨器類とした。計375点出土しており、33点を図示した（掲載率8.8％）。遺構内出土が182点（SI出土87点、SX出土23点、SK出土9点、SD出土57点、SZ出土1点、P出土5点）、遺構外出土193点である。

使用痕跡のある礫について、まず第155図長幅比率を作成し、大きさから形態的に分類した。形態的なまとまりとして、6傾向が得られた。Ⅰ類が長/幅0.87～2.00、厚/幅が0.17～1.08中心で141点、Ⅱ類が長/幅2.01～2.95、厚/幅0.35～1.28中心で72点、Ⅲ類が長/幅3.04～3.52、厚/幅0.29～1.22中心で22点、Ⅳ類が長/幅3.49～4.24、厚/幅0.29～0.85中心で20点、Ⅴ類は長/幅4.41～4.99、厚/幅0.39～0.90中心で8点、Ⅵ類は長/幅5.22～5.61、厚/幅0.44～0.70中心で5点、欠損のため計測不能なものが107点である。

これを踏まえた上で、使用痕跡による分類を行った。使用痕跡（敲打痕・磨痕・凹痕）の組み合わせにより8分類できる。A類は敲打痕だけを有するもので64点、B類は敲打痕と磨痕が認められるもので7点、

C類は敲打痕と凹痕が認められるもので28点、D類は磨痕だけが認められるもので61点、E類は磨痕と凹痕が認められるもので19点、F類は凹痕だけが認められるもので最も多く122点、G類は敲打痕と磨痕、凹痕のすべてが認められるもので6点、H類はいわゆる「特殊磨石」と呼称されるもので68点である。F類が全体の32.53％を占め、A･D･H類が約16～18％でこれに続く。

また、それぞれについて細分類を行った（第35表　分類別個数）。A類は2類が50点で78.13％と主体を占める。B類は全体数が少ないが、2a類4点と多い。C類は2類が28点中27点と圧倒する。D類は1類が全体の83.61％（51点）と最も多い。E類は1a類が19点中15点と多く、2b･3b類は出土していない。F類は全体の91.8％を1類が占める。G類は全体で6点と少ない。H類は2類が44.18％（30点）と多く、3類が20点、1類が18点である。内訳は2b類が14点、2a類が12点と多く、1b類9点、1a･3a･3b類7点と続く。

第34表　敲磨器類分類別石材表

		石材																	計
		頁岩	頁岩（在地）	砂岩	礫岩	斑岩	安山岩	玄武岩	火山礫凝灰岩	凝灰岩	細粒花崗閃緑岩	花崗閃緑岩	閃緑岩	デイサイト	粘板岩	斑糲岩	ひん岩	ふん岩	
分類	A		45	14									1	1	2		1		64
	B		4	1								1		1					7
	C		19	8														1	28
	D	1	16	15	1	1	4	1		4		5	3	1		2	2	5	61
	E		5	9		1				2							2		19
	F	1	48	33	1	1	2			21		3	2		2			8	122
	G		5				1												6
	H		17	31		1	1		2		1	1	2	4			4	4	68
計		2	159	111	2	4	8	1	2	27	1	10	8	7	4	2	9	18	375

第34表に分類別石材表を示した。最も多いのは頁岩（在地）で、42.4％（159点）を占める。次いで、砂岩が29.6％（111点）、凝灰岩が7.2％（27点）である。分類別に見ると、すべてにおいて頁岩（在地）と砂岩が最多であるが、F類は凝灰岩･ふん岩の占める割合が高い。火山礫凝灰岩･細粒花崗閃緑岩はH類、玄武岩･斑糲岩はD類のみに見られる。

時期については、出土地点･伴出土器から推定される。A･F類は調査B～C区西に見られ、Ⅲ～Ⅶ群土器、特にⅣ群土器を伴っている。B･C･E類は調査B～C区西で、Ⅳ群土器を伴い、D類は調査A～D区西まで広く見られ、Ⅳ～Ⅶ群土器を伴出している。G類は調査B区中心に出土しており、Ⅳ群土器を伴う。H類は調査A～C区西に見られ、Ⅳ～Ⅶ群土器を共伴している。

（15）礫　石　錘

礫の両側縁または片側縁を打ち欠き、「紐掛け」を作出したと考えられるものを礫石錘とした。計90点出土しており、11点を図示した（掲載率12.22％）。遺構内出土が48点（SI出土22点、SX出土11点、SK出土1点、SD出土13点、P出土1点）、遺構外出土42点である。

打ち欠きが行われ、形態が礫石錘と考えられる資料について、まず第156図長幅比率を作成し、大きさから分類した。全点について計測可能である。この表から形態的なまとまりとして、3傾向が得られた。Ⅰ類が長/幅0.16～0.85、厚/幅0.08～0.37中心で74点、Ⅱ類が長/幅0.86～1.47、厚/幅0.18～0.36中心で16点、Ⅲ類が長/幅3.40、厚/幅0.47で1点である。

これに合わせて、第157図重量分布図を作成し、重量から分類した。全点について計測可能である。これから重量のまとまりとして2傾向が得られた。A類が重量34.40～310.47g、B類が重量391.93～817.40gである。ⅠA類70点、ⅠB類4点、ⅡA類13点、ⅡB類2点、ⅢB類1点で、ⅠA類が突出し

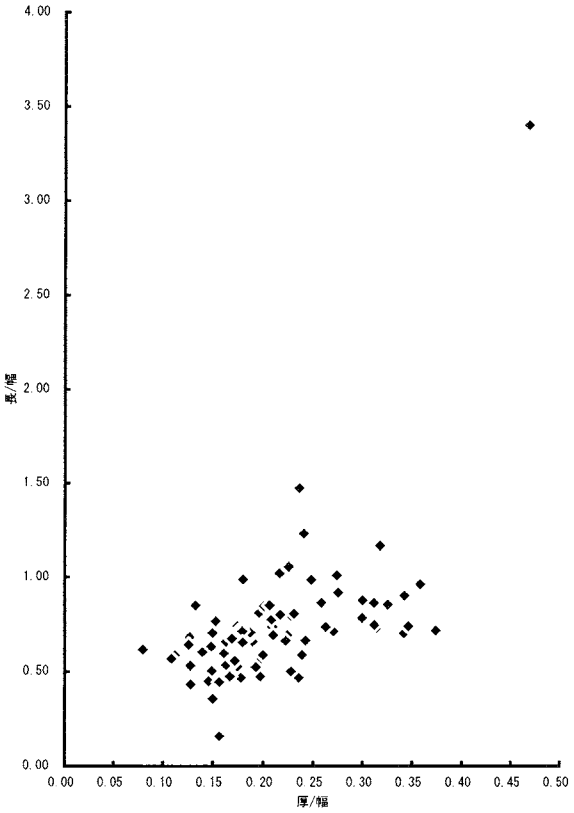
ており、ⅡA類がこれに次ぐ。

これを踏まえて、「紐掛け」の作出数で6細分する。片側縁1ヵ所（1類）、両側縁に対に1ヵ所（2類）、片側縁2ヵ所（3類）、両側縁に対に2ヵ所（4類）、両側縁に対に2＋1ヵ所（5類）、片側縁3ヵ所（6類）に分けられる。ⅠA類は1類9点、2類50点、3類1点、4類6点、5類4点と両側縁に対に1ヵ所あるものが主体を占める。ⅠB類は1類1点、2類3点と2類型のみ出土している。ⅡA類は1類3点、2類8点、5類1点、6類1点の4類型が出土しており、これも両側縁に対に1ヵ所あるものが多い。ⅡB類は2類1点、ⅢB類は2類1点である。全体に見ると、2類が71.11％（64点）と多く、1類が14.44％（13点）が続く。

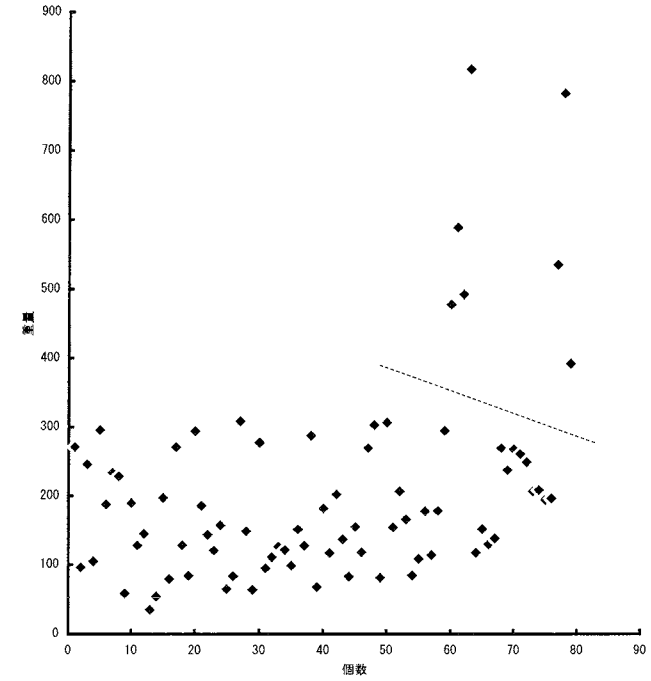
第36表に分類別石材表を示した。全体の75.56％（68点）を頁岩（在地）が占める。次いで、砂岩が多い。

時期については、出土地点・伴出土器から推定される。Ⅰ類はほとんどが調査B区～C区西から出土しており、Ⅳ群土器を伴出することが多い。Ⅱ類も同じ傾向が見られ、Ⅳ・Ⅵ群土器を伴う。

第156図　礫石錘長幅比率



第157図　礫石錘重量分布図



(16) 石皿台石類

片面、あるいは両面に使用痕跡（敲打痕・擦痕）が認められる扁平礫で、擦るまたは敲く際の台として使用されたと考えられるものを石皿台石類とした。計69点出土しており、5点を図示した（掲載率7.25％）。遺構内出土が49点（SI出土24点、SX出土1点、SK出土4点、SD出土15点、SZ出土3点、P出土2点）、遺構外出土が20点である。

使用面の加工方法から2形態に分けられる。Ⅰ類は縁に段差を有するもので4点、Ⅱ類は縁に段差を持たないもの（無加工）で65点である。

Ⅰ類のうち、完形は皆無である。いずれも使用面の中央に大きな凹みがあり、擦痕が観察される。1260は底に脚が付いており、残存位置から4個あったと考えられる。Ⅱ類は完形31点、欠損品34点

で、完形の最大は1264の65.65×30.50㎝、重量40.5kgである。法量値から重量を比べると、Ⅱ類は10kgを超えるものが17点に対して、Ⅰ類は完形がなく推定であるが、Ⅱ類に比べると小さい。

第37表に分類別石材表を示した。Ⅱ類は砂岩が29.2％（19点）、ふん岩が21.5％（14点）と多く利用されている。Ⅰ類が砂岩、凝灰岩に偏っているのは、加工に適していることから選択されたと思われる。

第36表　礫石錘分類別石材表

		石材						計
		頁岩	頁岩（在地）	粘板岩	砂岩	デイサイト	ひん岩	
分類	ⅠA		55	3	9	2	1	70
	ⅠB		4					4
	ⅡA	1	8		3	1		13
	ⅡB		1		1			2
	ⅢB				1			1
計		1	68	3	14	3	1	90

時期については不明なものが多いが、Ⅰ類の1260はⅤ群土器を伴出し、Ⅱ類は各時期に見られる。また、Ⅱ類は使用後に炉石に転用される例（SI18･22･25･26）、立石として用いられる例（SI08出土1263）が認められる。

第37表　石皿台石類分類別石材表

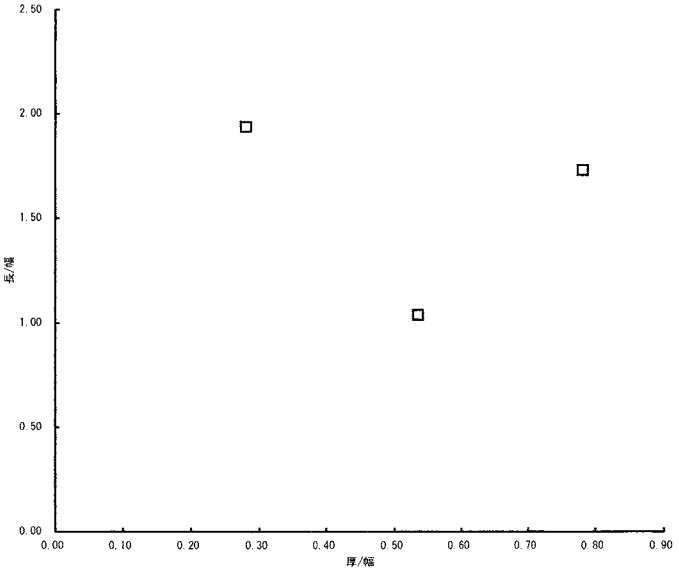
		石材													計
		砂岩	凝灰岩	花崗閃緑岩	細粒花崗閃緑岩	閃緑岩	デイサイト	粘板岩	花崗斑岩	斑糲岩	ひん岩	ふん岩	頁岩（在地）	斑岩	
分類	Ⅰ	2	2												4
	Ⅱ	19	4	3	1	3	1	3	1	1	7	14	6	2	65
計		21	6	3	1	3	1	3	1	1	7	14	6	2	69

(17) 砥　　石

礫の表面に溝状･帯状などの平面上の痕跡が認められるものを砥石とした。計3点出土しており、全点を図示した（掲載率100％）。遺構内出土が1点（SD出土1点）、遺構外出土が2点である。

第159図長幅比率を示したが、特にまとまる傾向は見出せない。3点の範囲は長/幅1.04～1.94、厚/幅0.28～0.78である。

第159図　砥石長幅比率



痕跡については、いずれも縦長礫の広い面（正面･裏面）を用いており、1248は右側面にも観察される。1246と1247は正面長軸と同方向に線状の擦痕があり、1246は端部に一部敲打痕、1247は裏面にアバタ状の凹痕を持つ。1248は著しく使用されており、正面には長軸に対して左斜方向に溝状･帯状の擦痕、また磨面も観察できる。右側面･裏面にも長軸に対して左斜方向に溝状の擦痕が残る。さらに端部には敲打による衝撃剥離痕が見られる。

使用石材は3例とも異なり、頁岩（在地）、砂岩、凝灰岩が用いられている。

時期については、出土地点もそれぞれ異なり、見出されない。

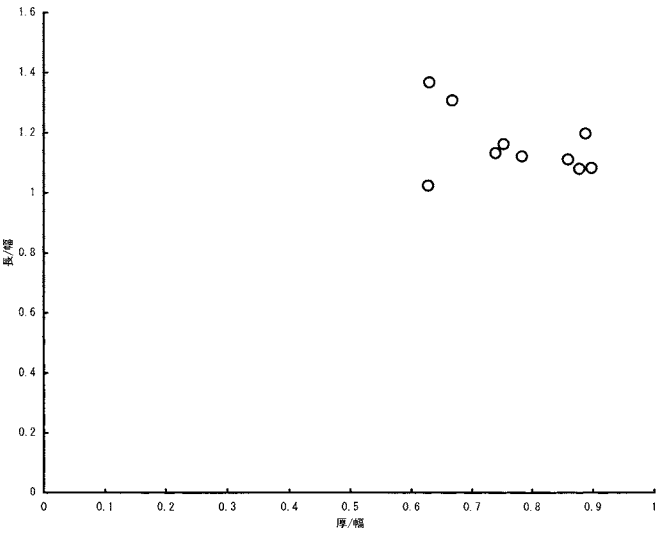
(18) 浮　　子

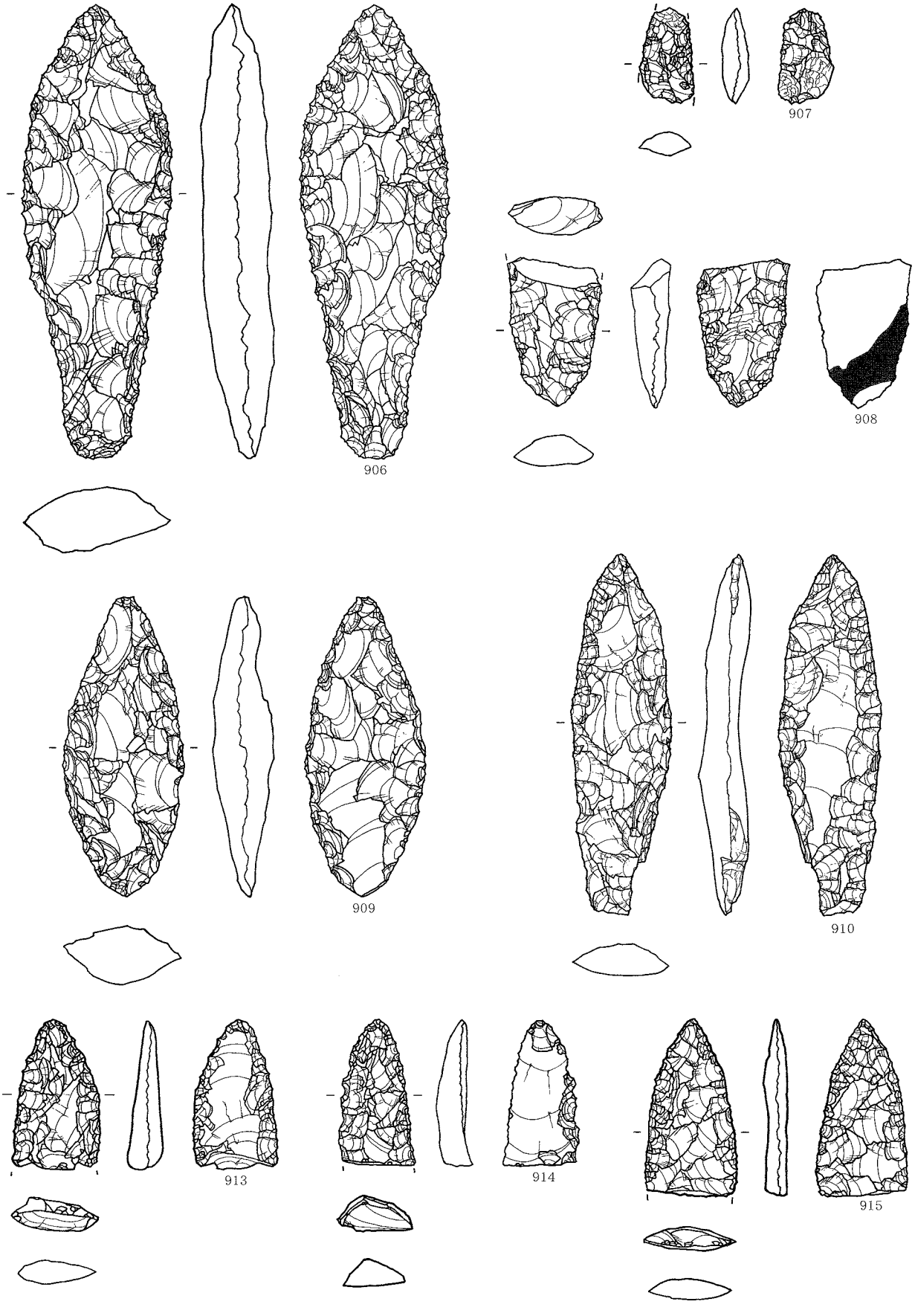
軽石などの水に浮く石材で、孔を穿った礫を浮子とした。掲載した1点のみの出土である(掲載率100%)。出土地点はSI 17である。1265は正面の上から1/3のところに、貫通孔が1ヵ所空けられている。形状は不整円形で、重さは332.43gと大きさの割にかなり軽い。使用石材は軽石である。

(19) 球　　石

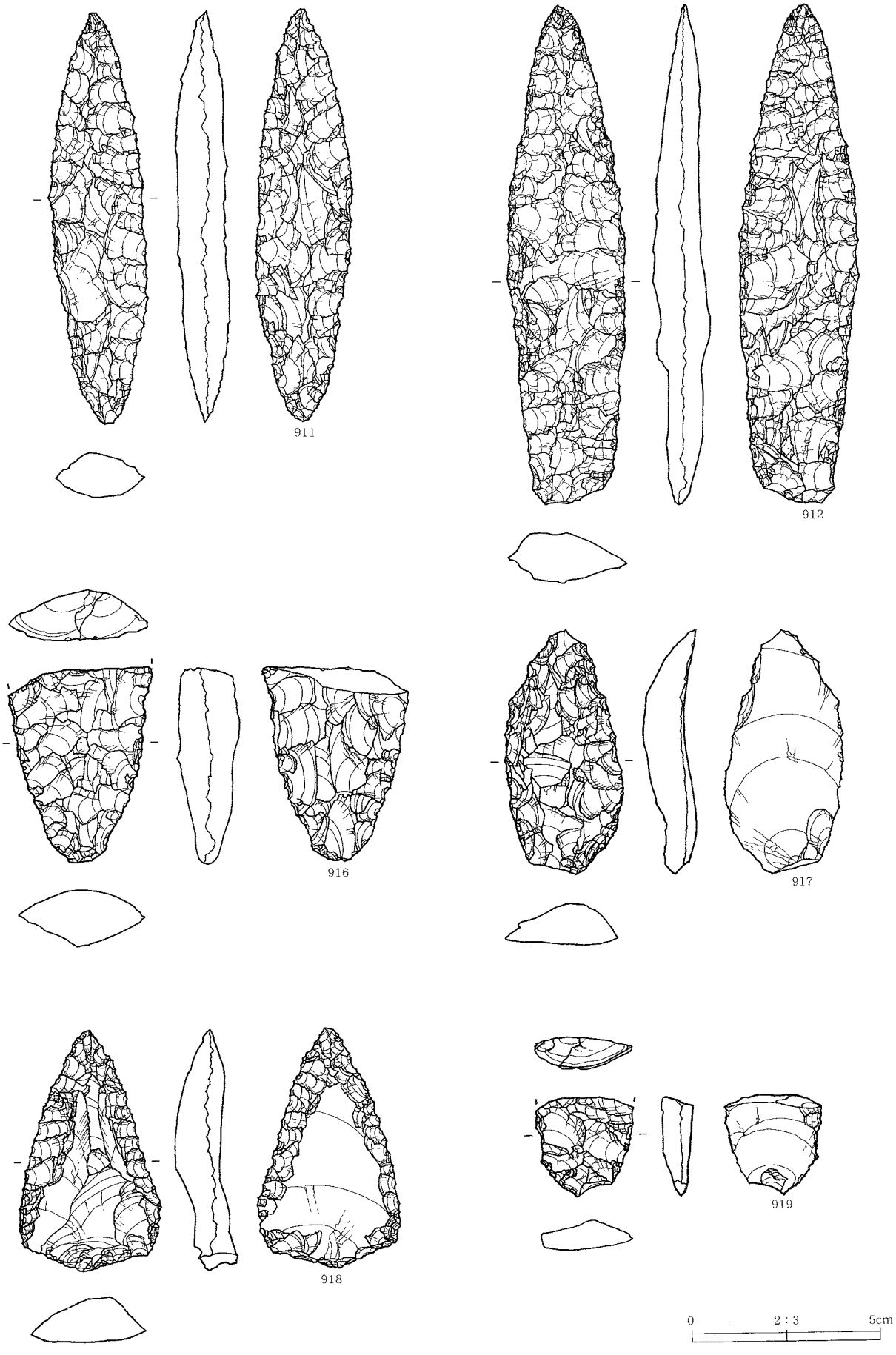
敲打・研磨により球状に成形されたもの、もしくは原石のままで球状の礫を球石とした。計10点出土している。当初は石器として登録するか思案したが、同形状の礫に若干の成形加工が認められるものも出土したため、「球石」とした。加工痕が認められるものは4点、原礫は6点である。第160図に長幅比率を示した。長/幅1.02～1.37、厚/幅0.63～0.90の範囲にまとまり、ほぼ同サイズと言える。石材は、花崗閃緑岩3点、溶結凝灰岩3点、砂岩2点、チャート・デイサイト各1点である。

第160図　球石長幅比率

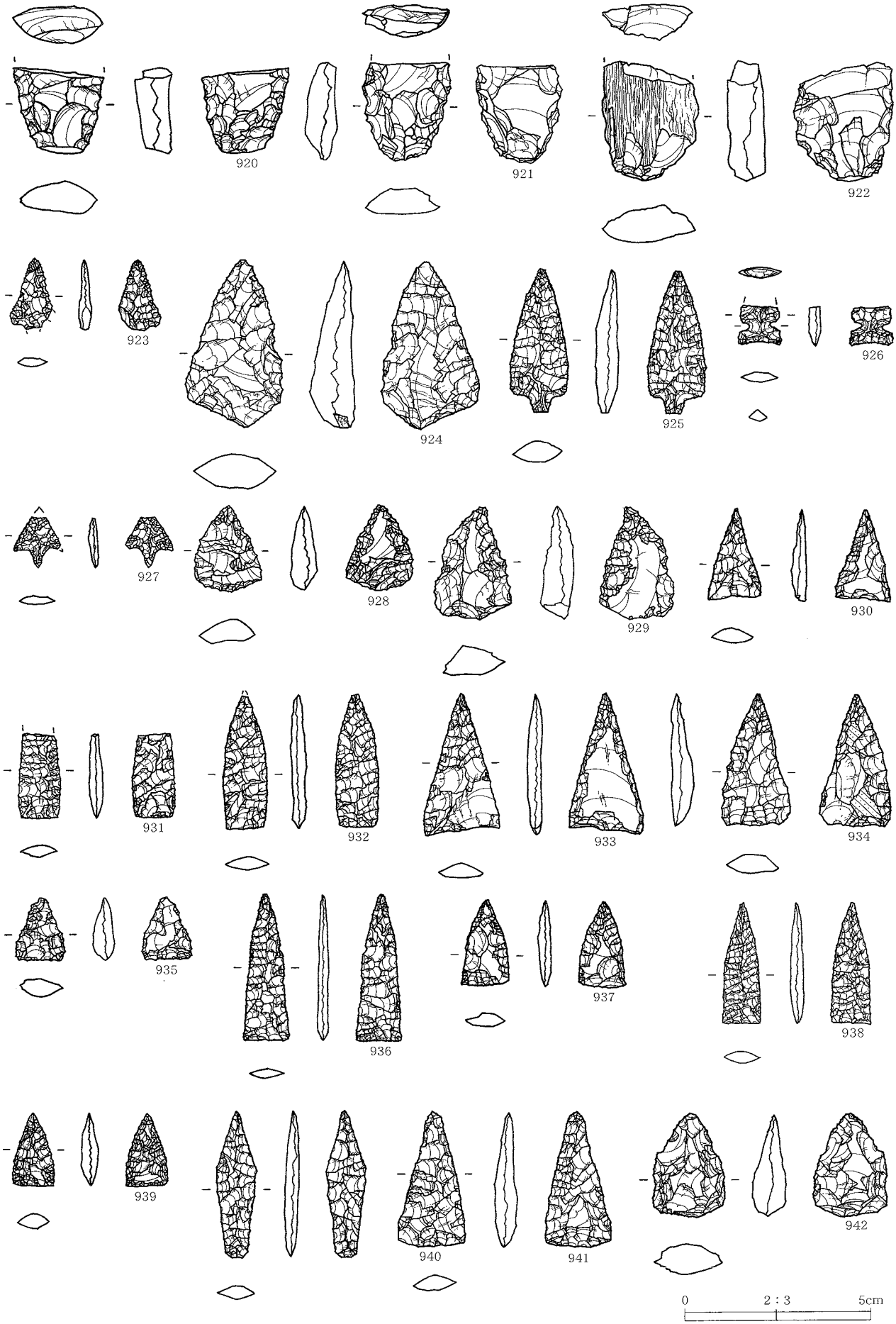




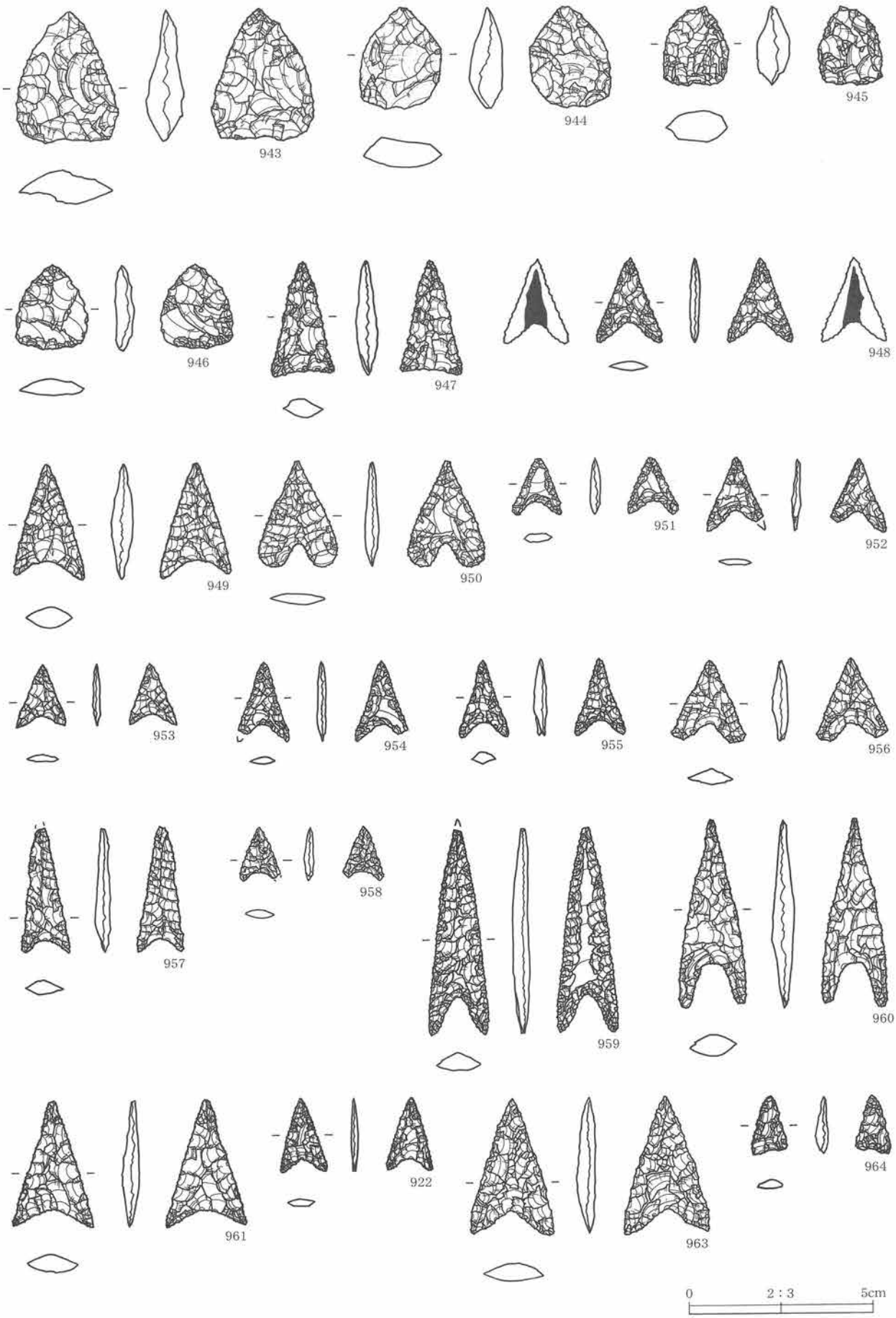
第161図　尖頭器(1)



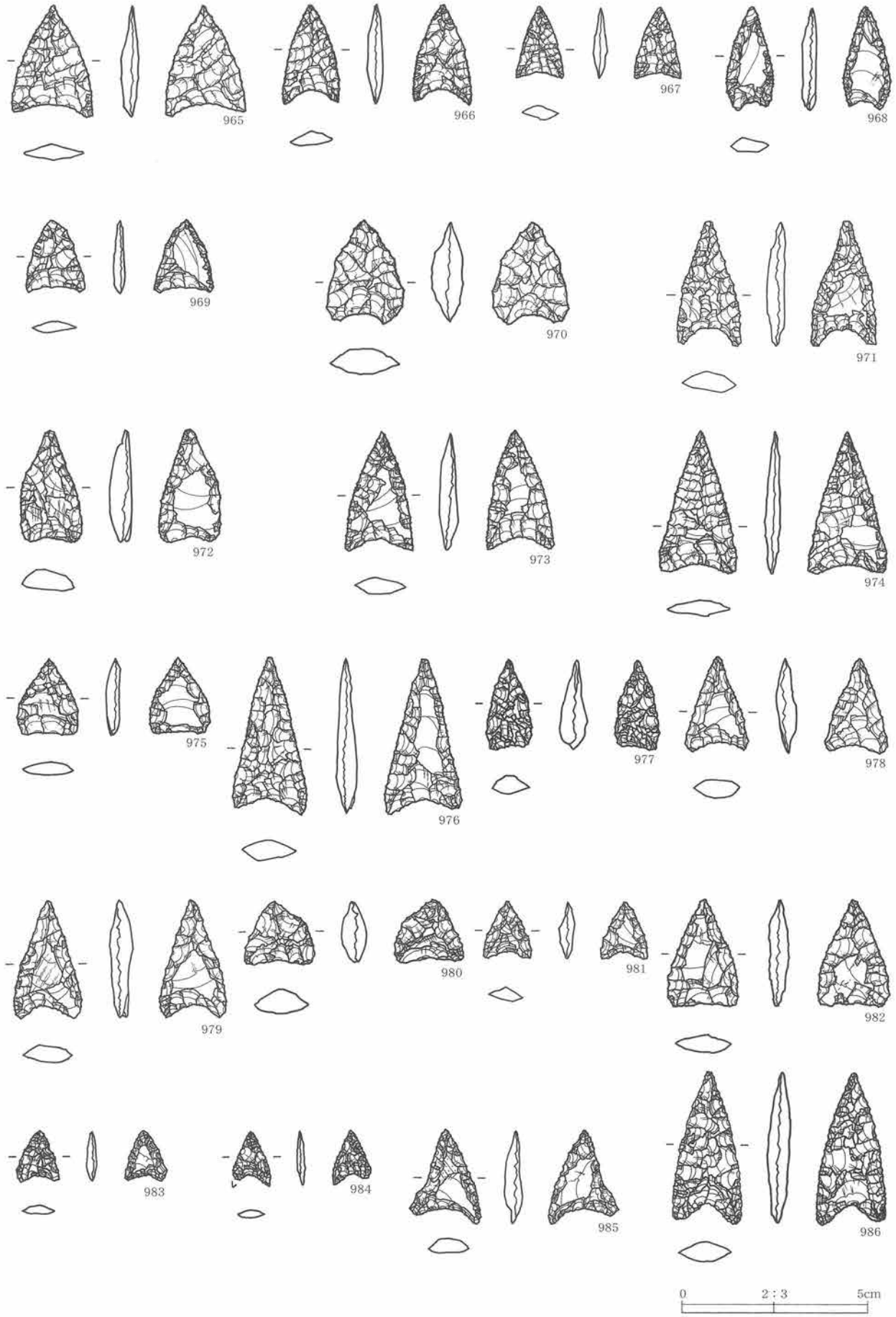
第162図　尖頭器(2)



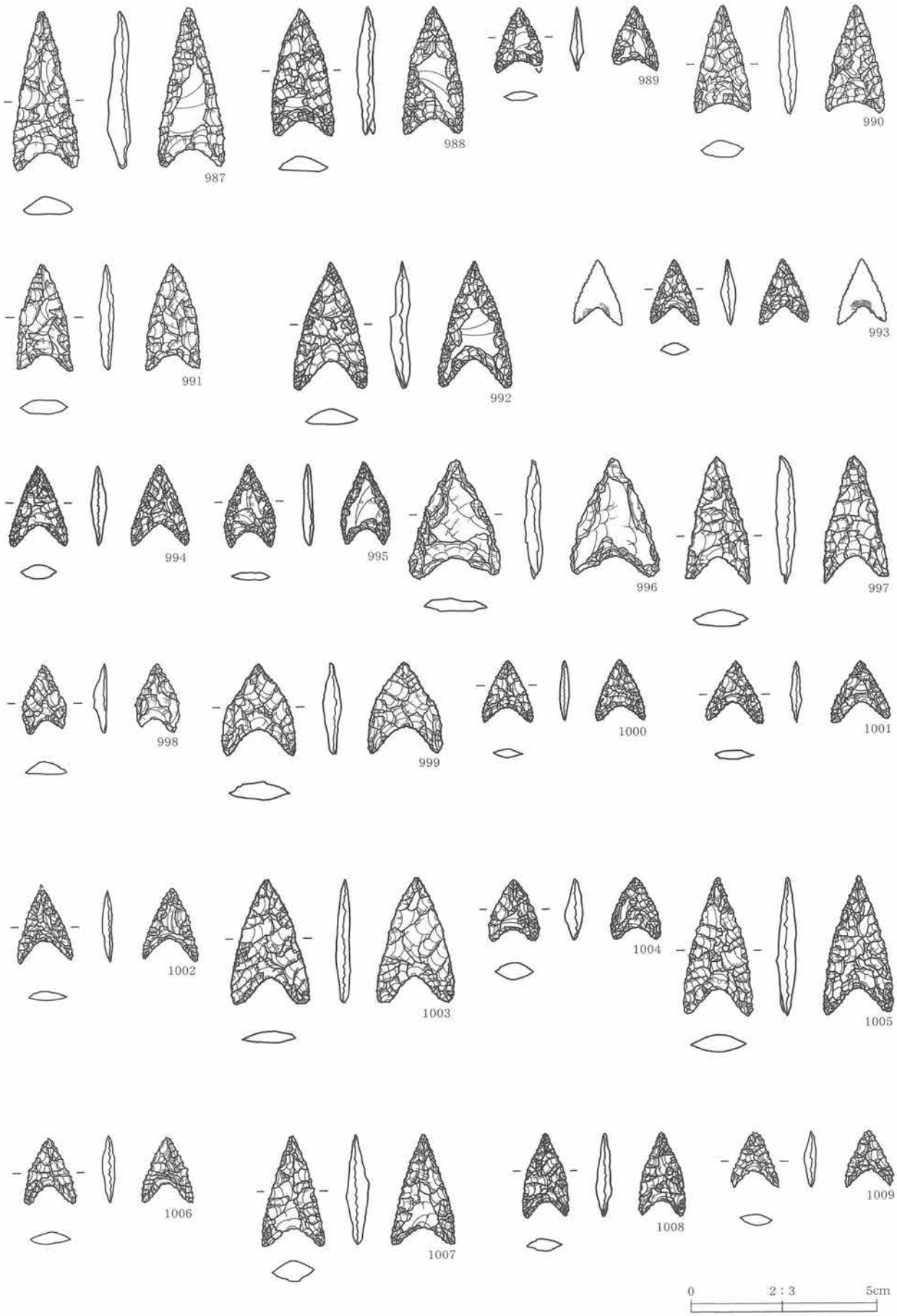
第163図　尖頭器(3)　石鏃(1)


943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
960
961
922
963
964
0
2：3
5cm

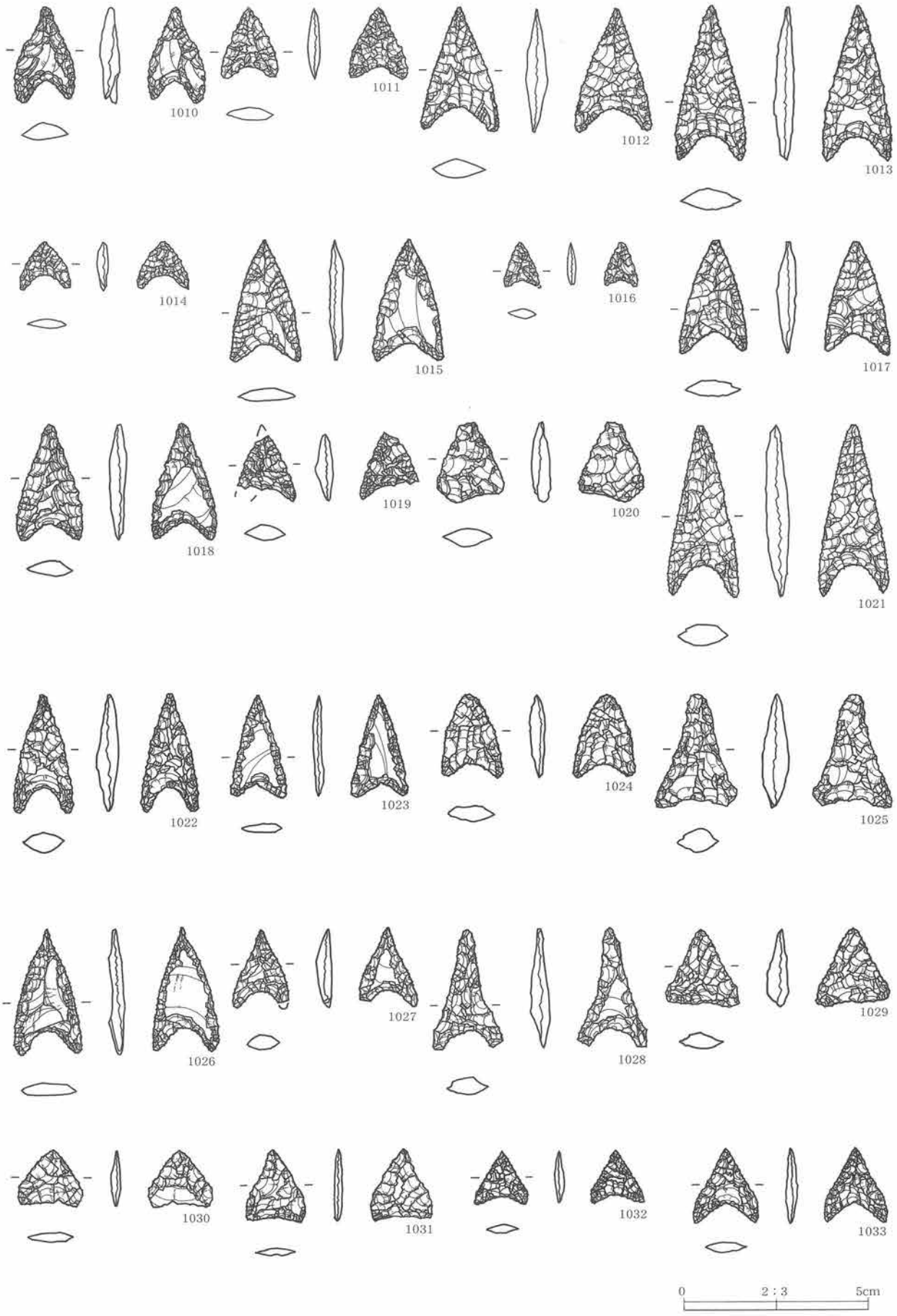
第164図　石鏃(2)


965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
0
2：3
5cm

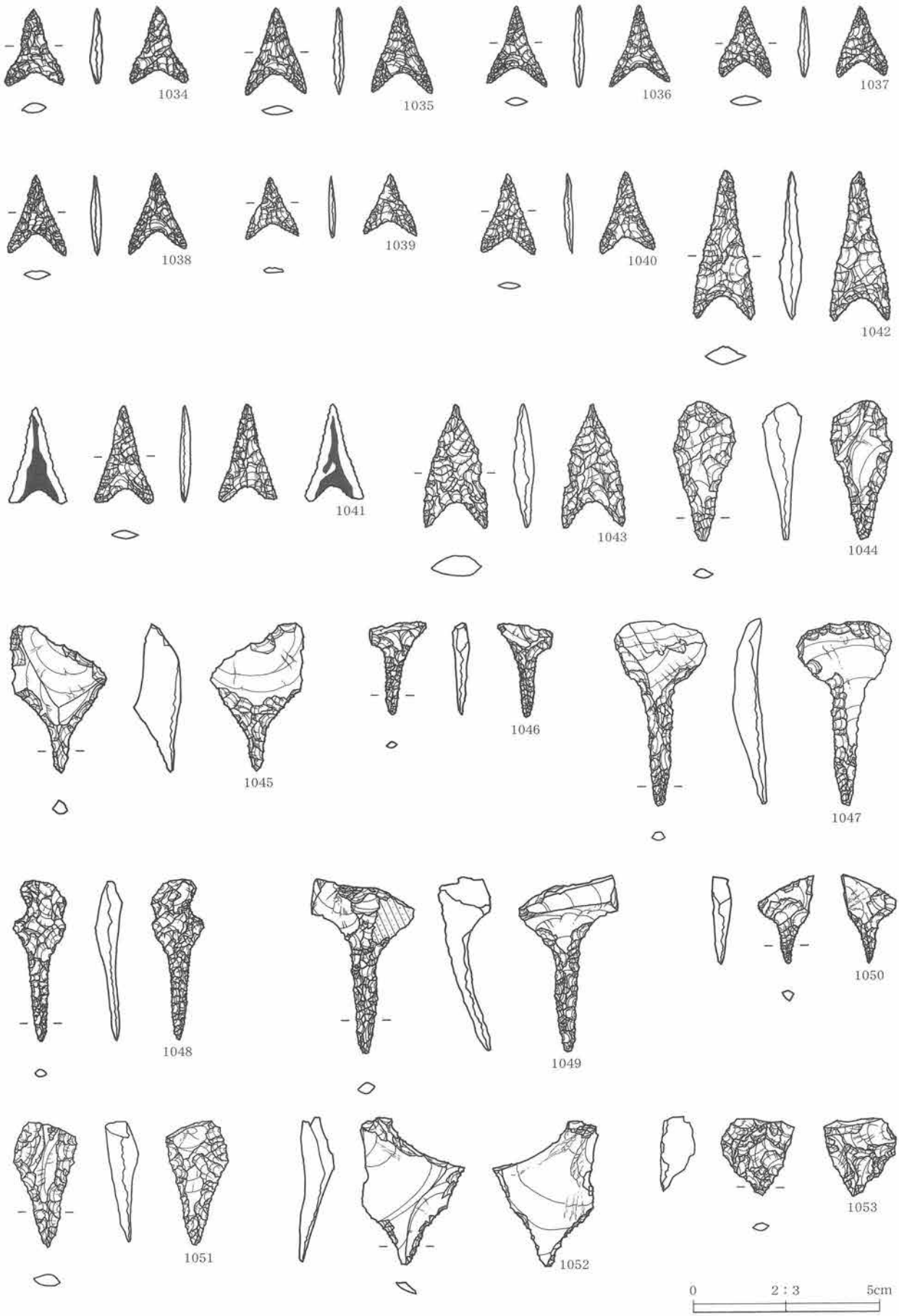
第165図　石鏃(3)


987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
0
2：3
5cm

第166図　石鏃(4)

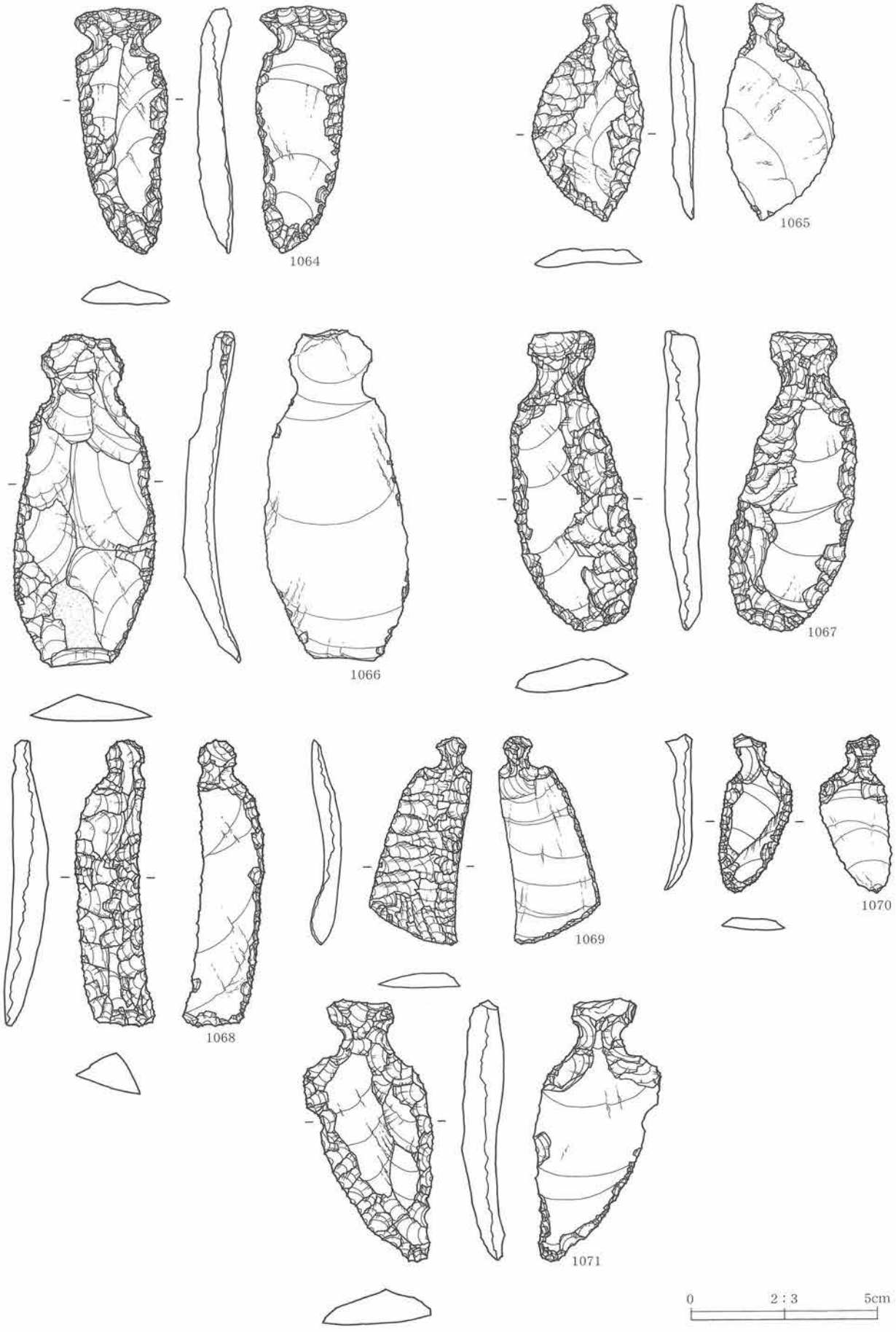

1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
0
2：3
5cm

第167図　石鏃(5)

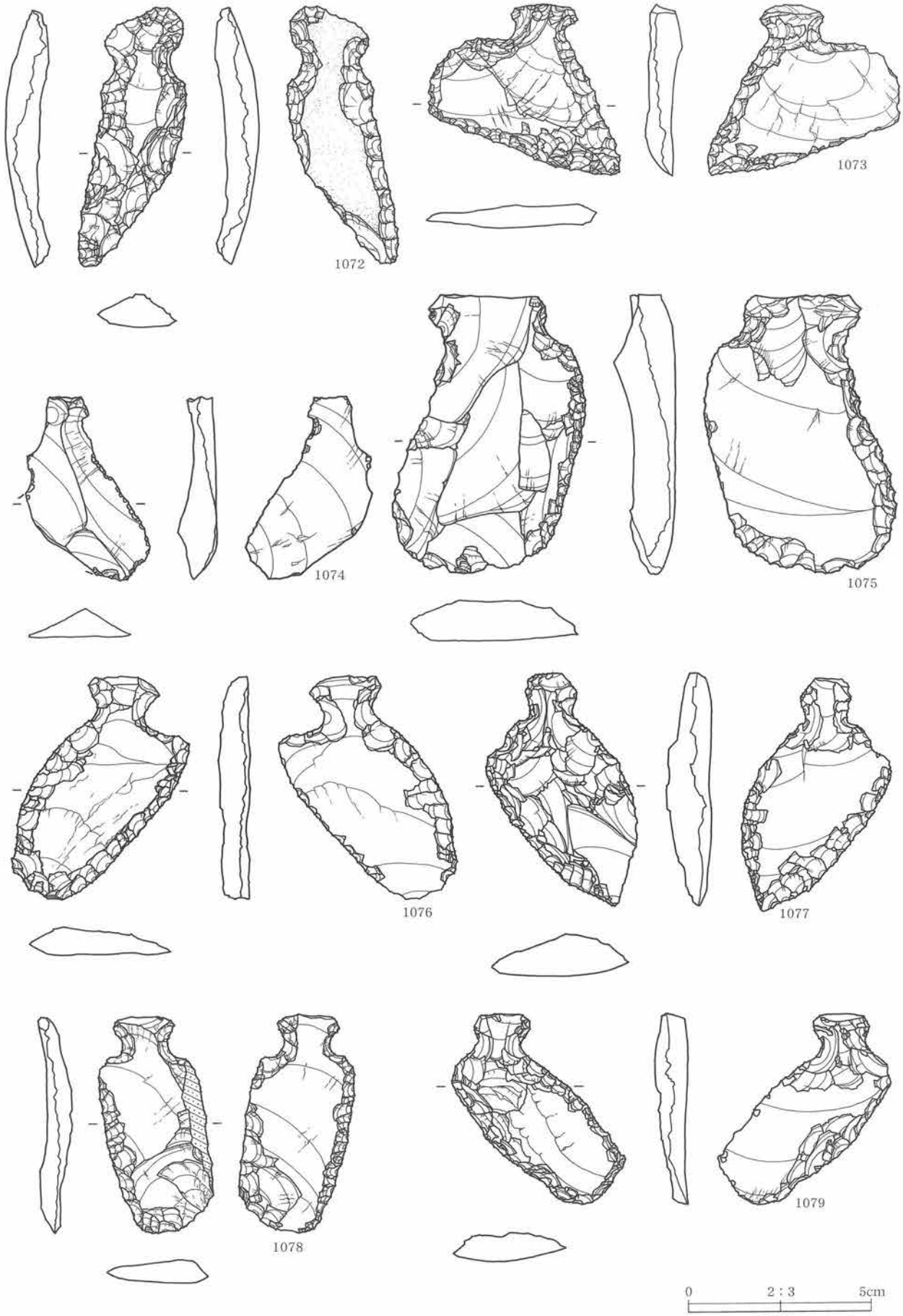


第168図　石鏃(6)　石錐(1)

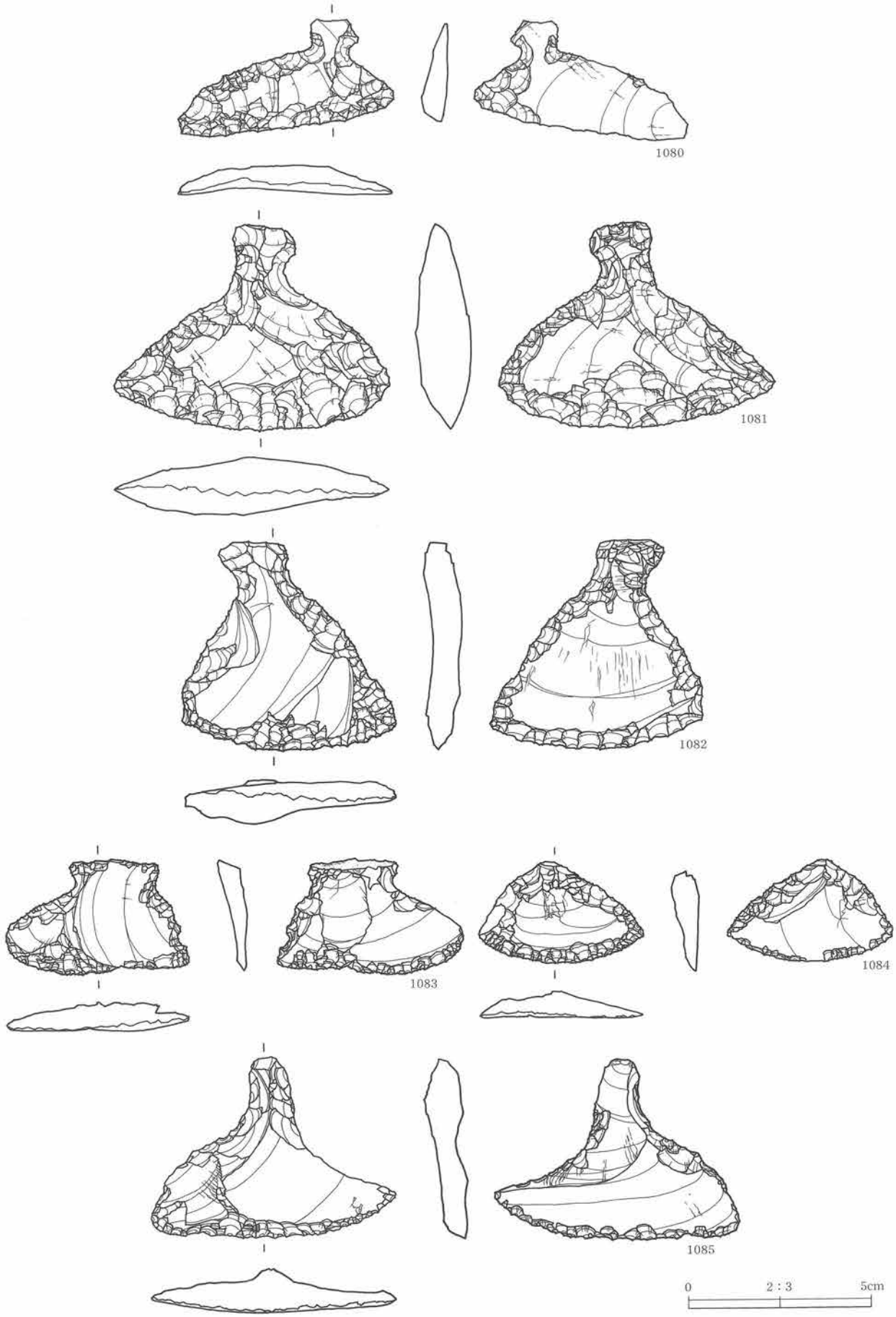
第169図　石錐(2)　石匙(1)



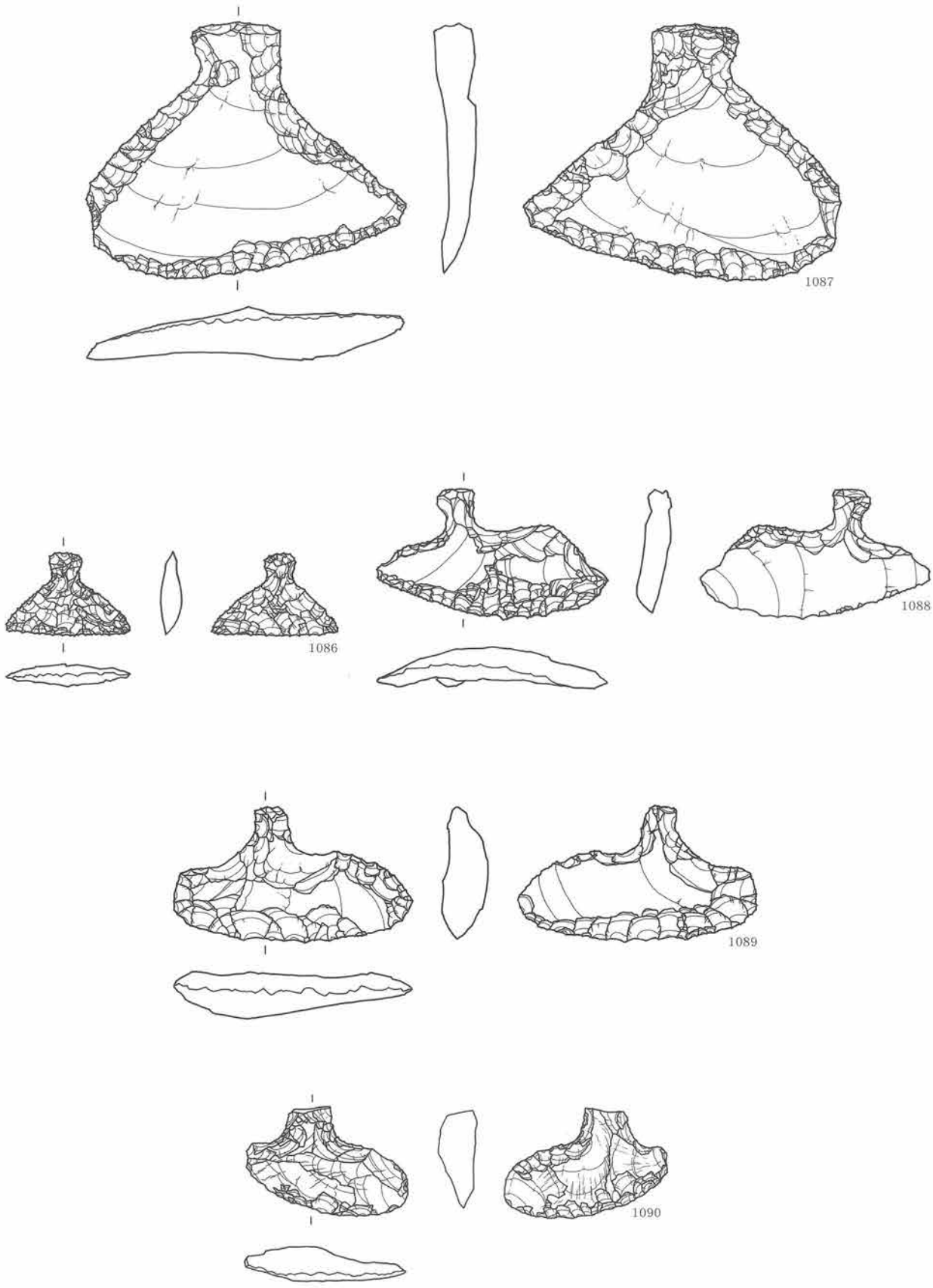
第170図　石匙(2)



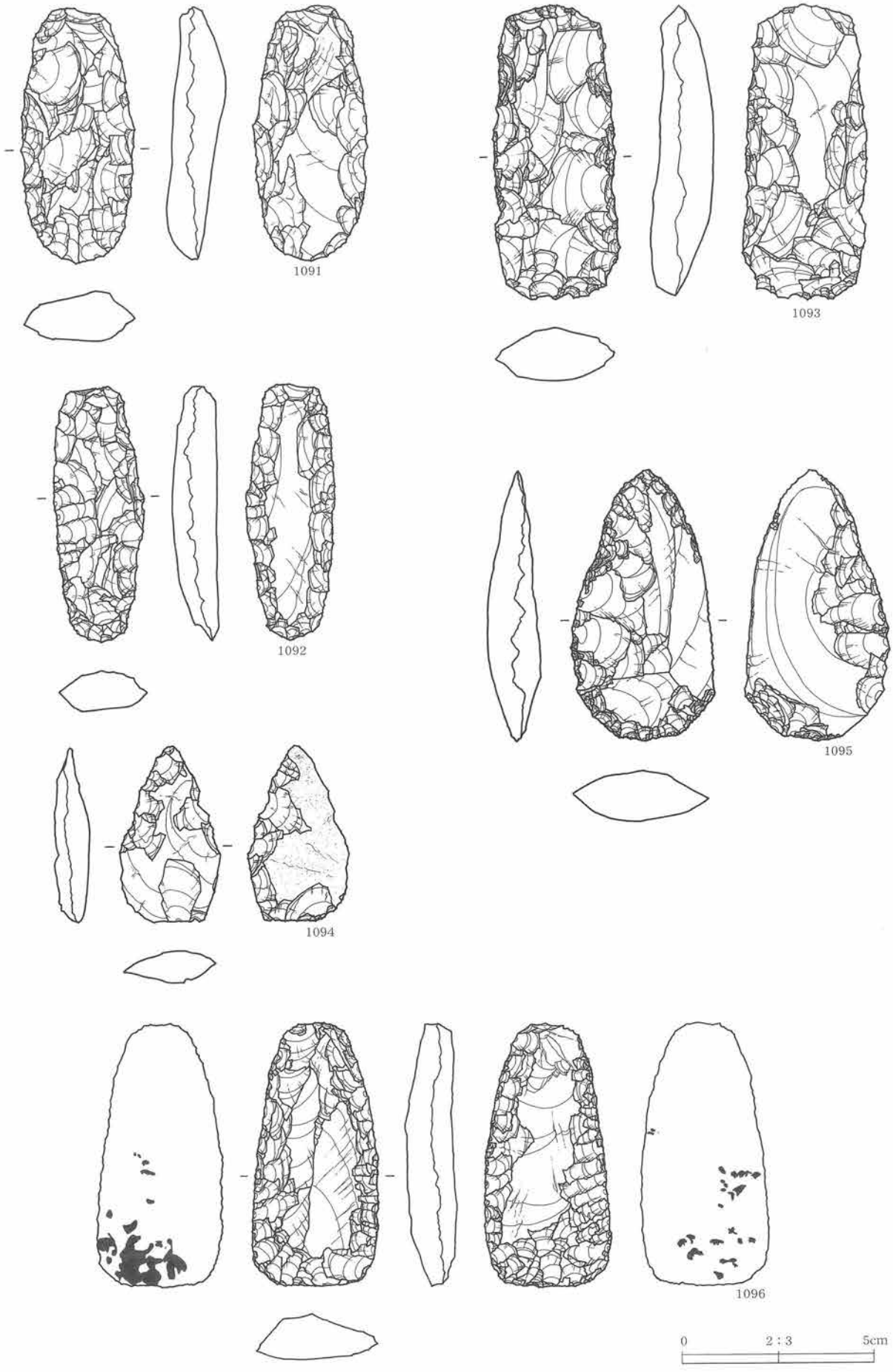
第171図　石匙(3)



第172図　石匙(4)

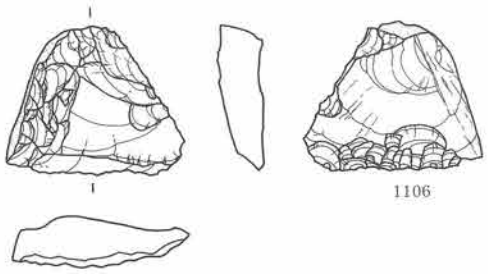


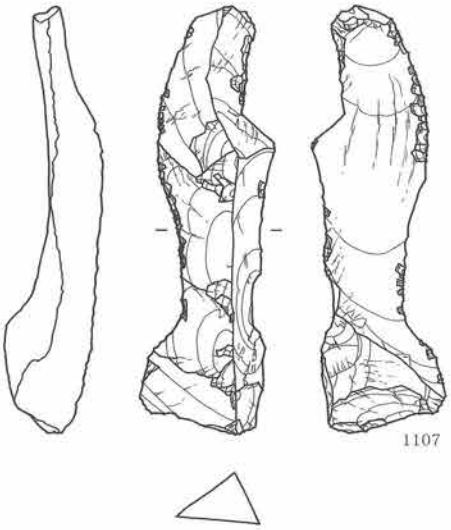
第173図　石匙(5)

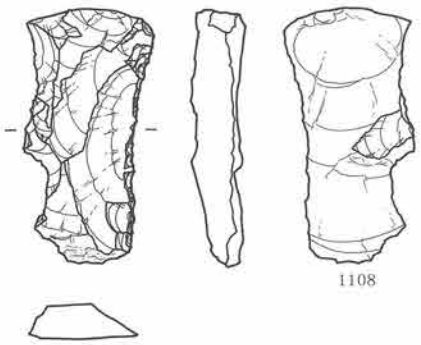


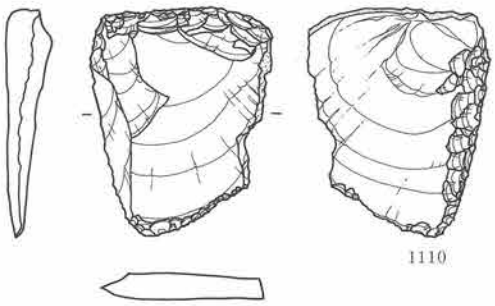
第174図　篦状石器(1)

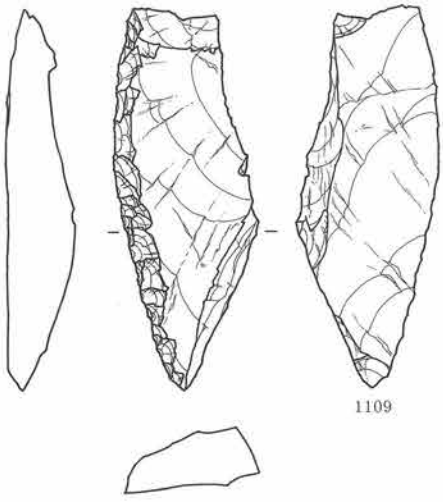
第175図　篦状石器(2)　楔形石器

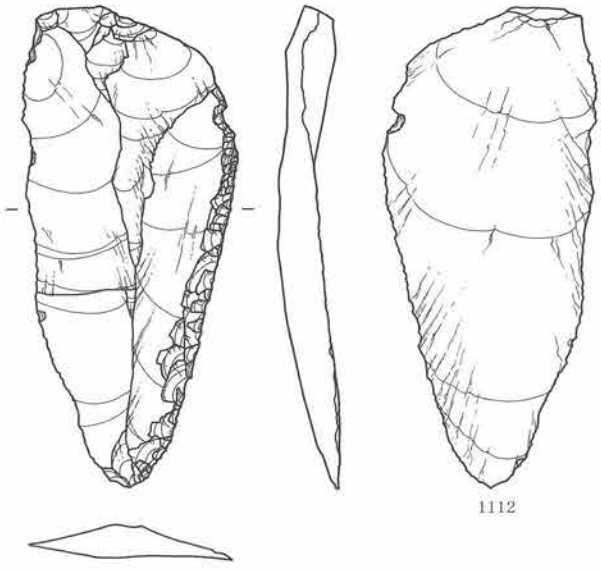

1106

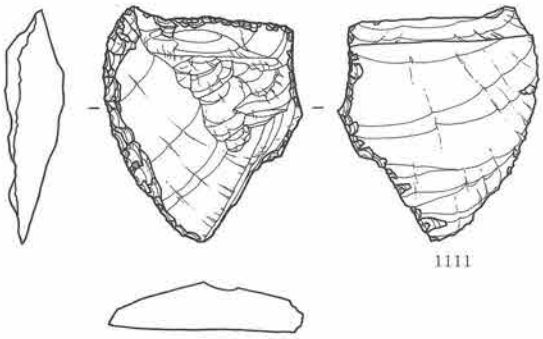

1107


1108


1110

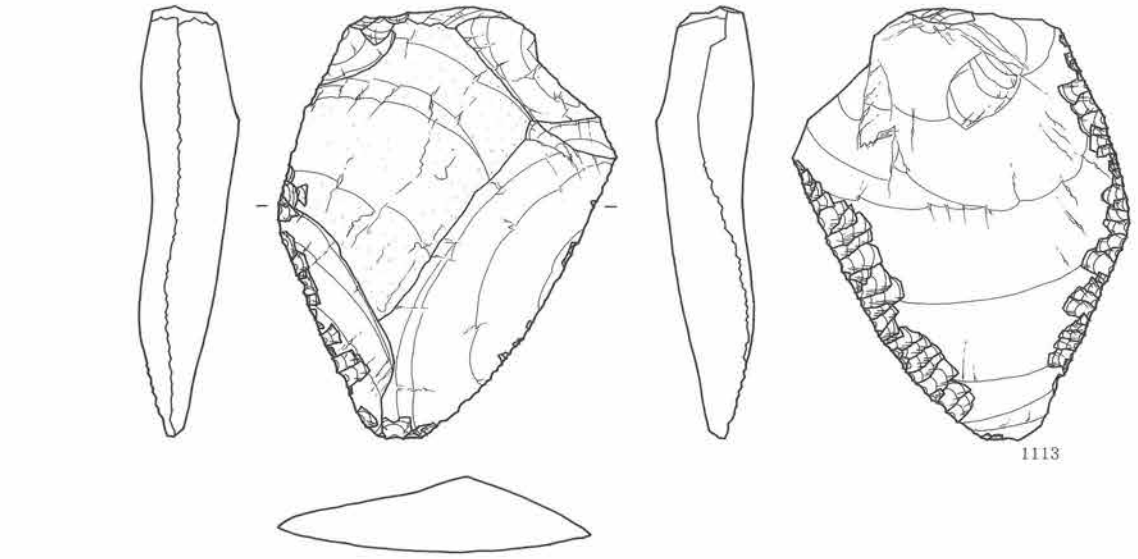

1109

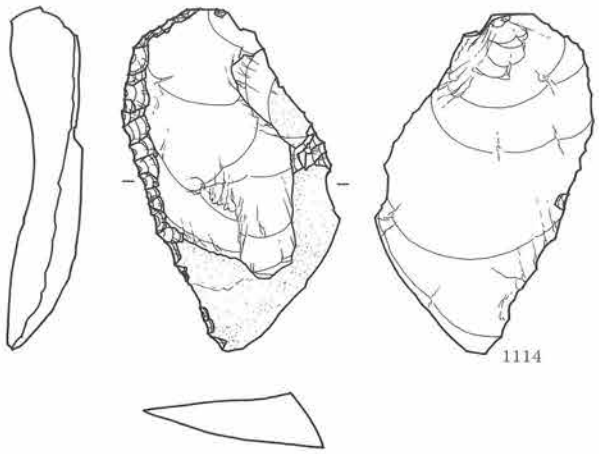

1112

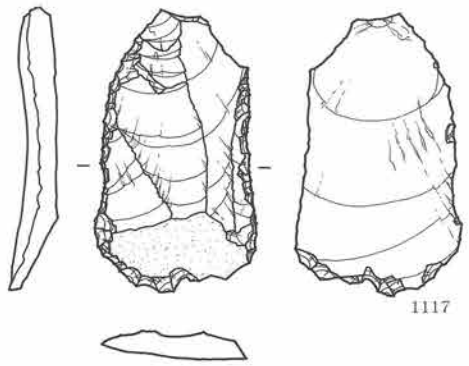

1111

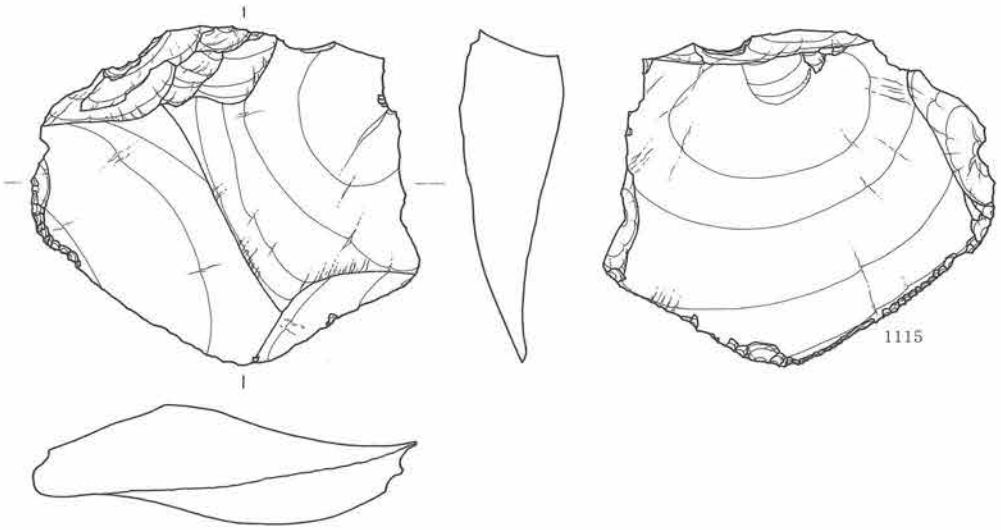
0　2：3　5cm

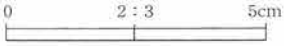
第176図　スクレイパー類(1)



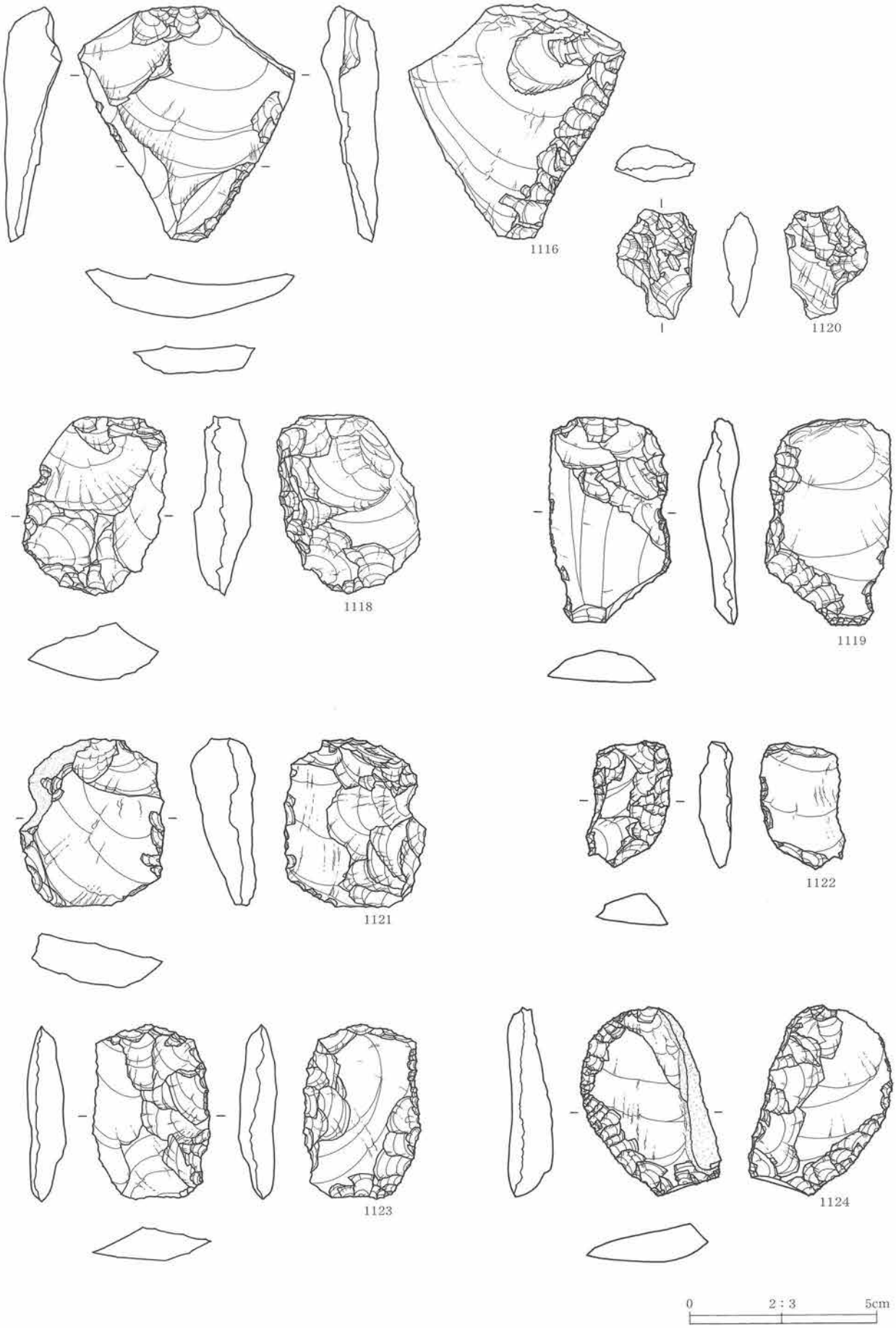




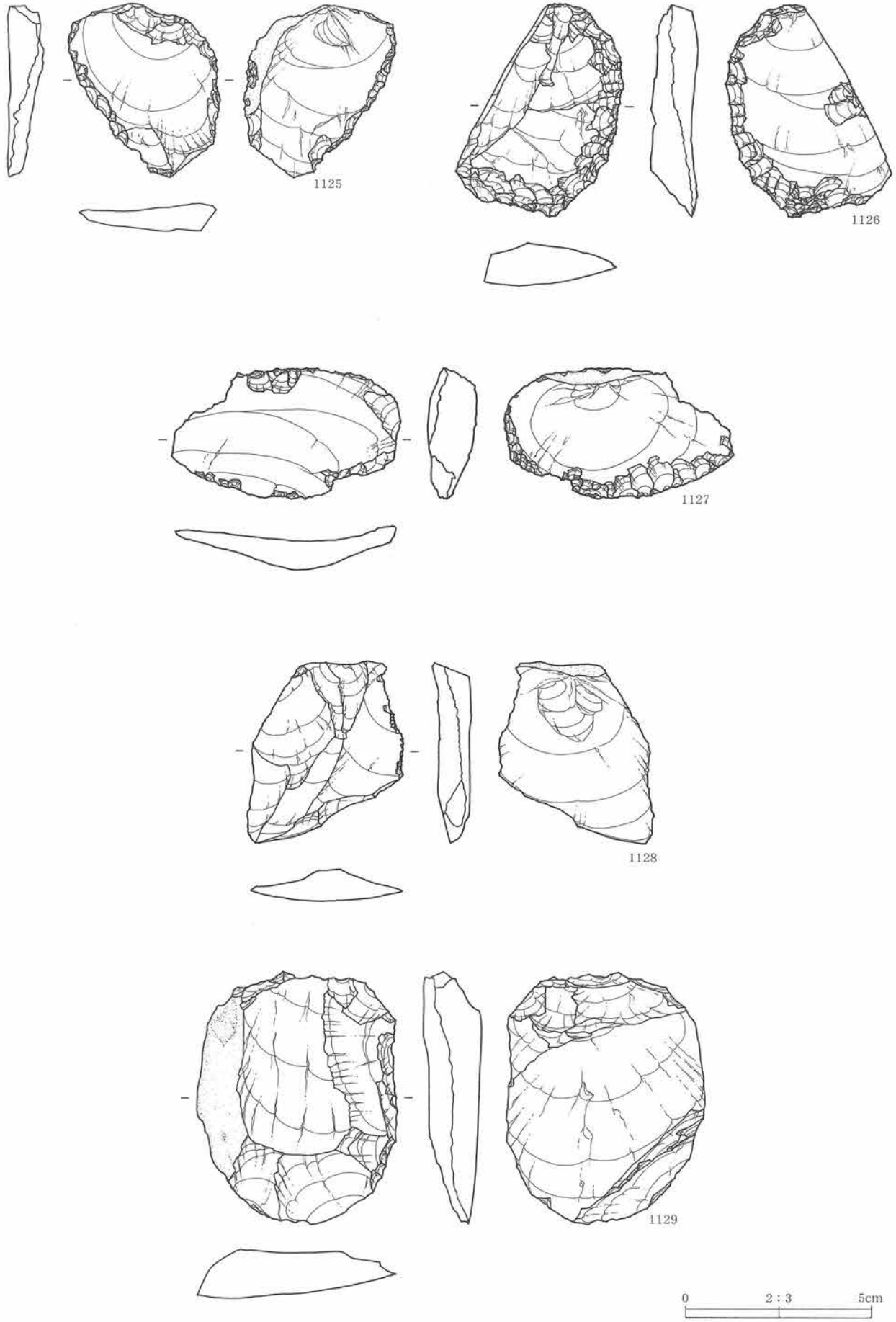




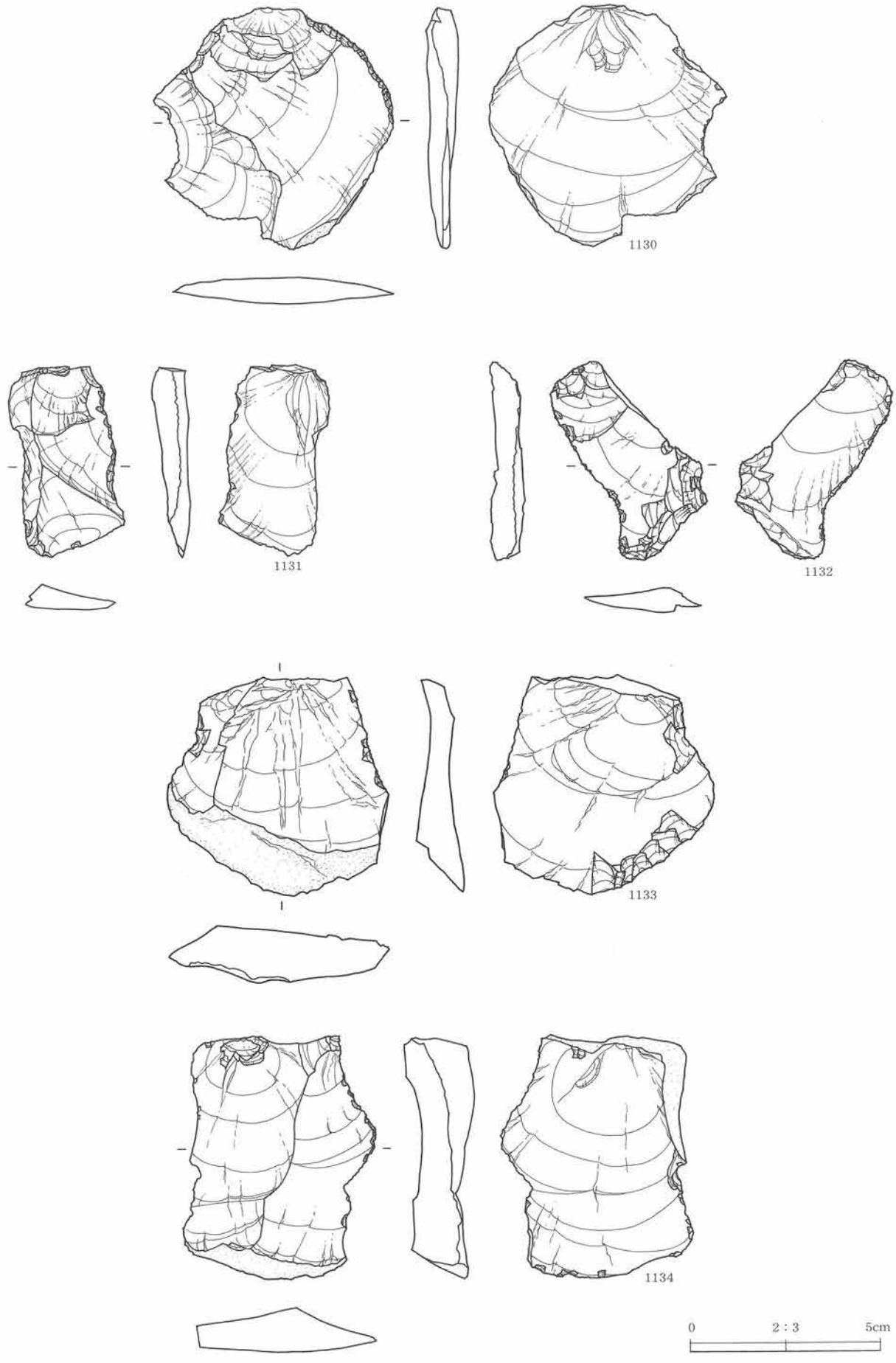
第177図　スクレイパー類(2)



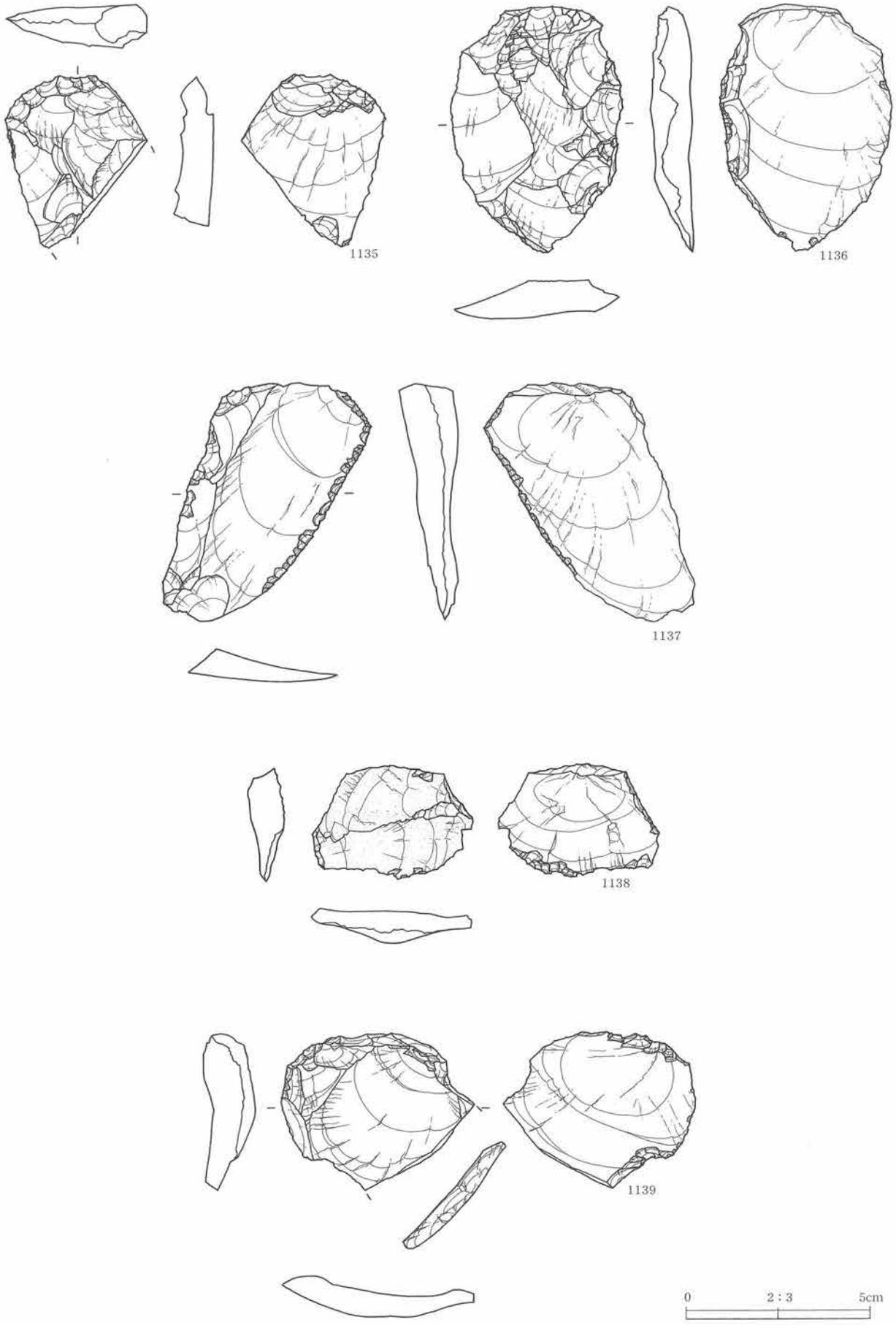
第178図　スクレイパー類(3)



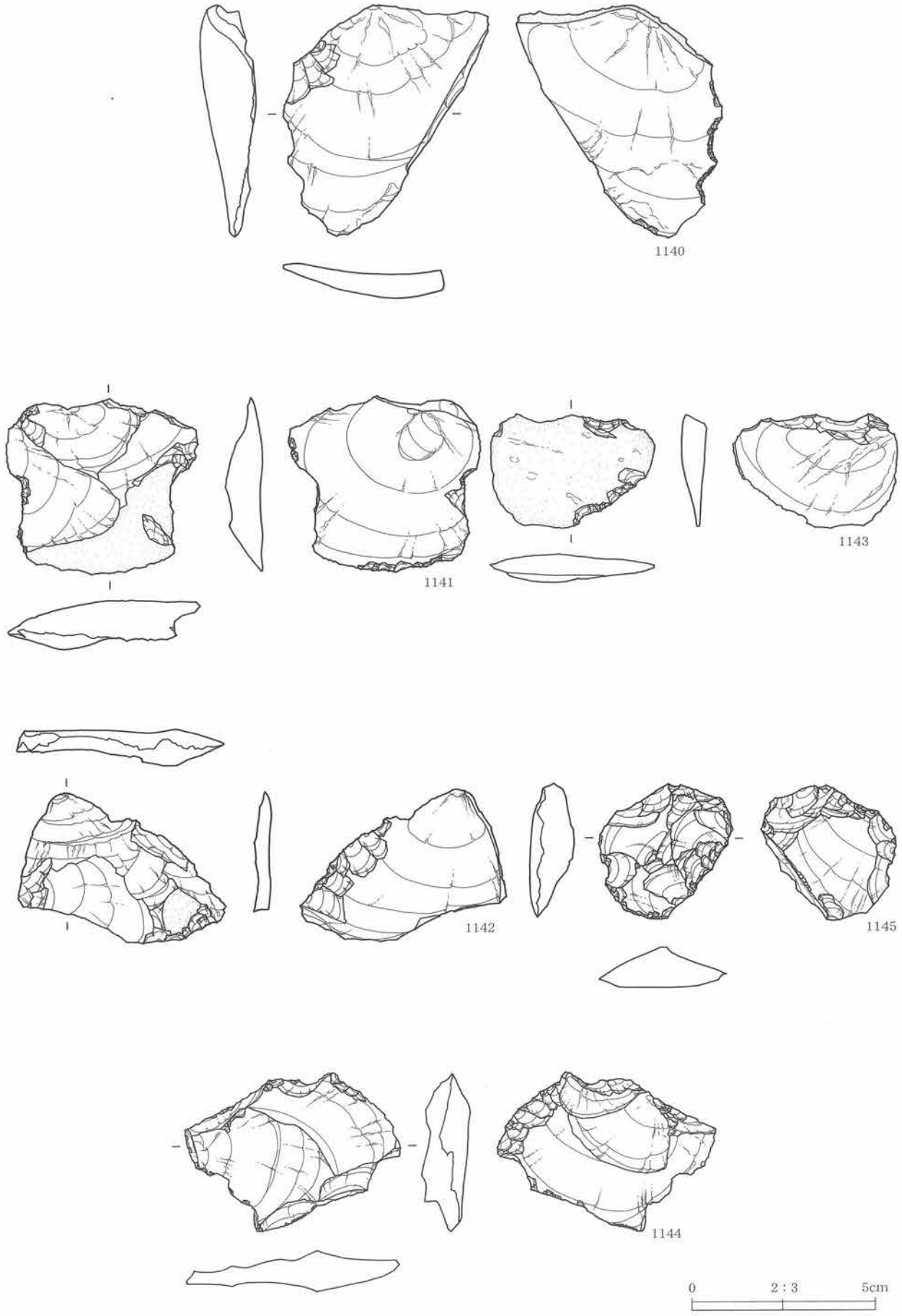
第179図　スクレイパー類(4)　二次加工ある剥片(1)



第180図　二次加工ある剥片(2)



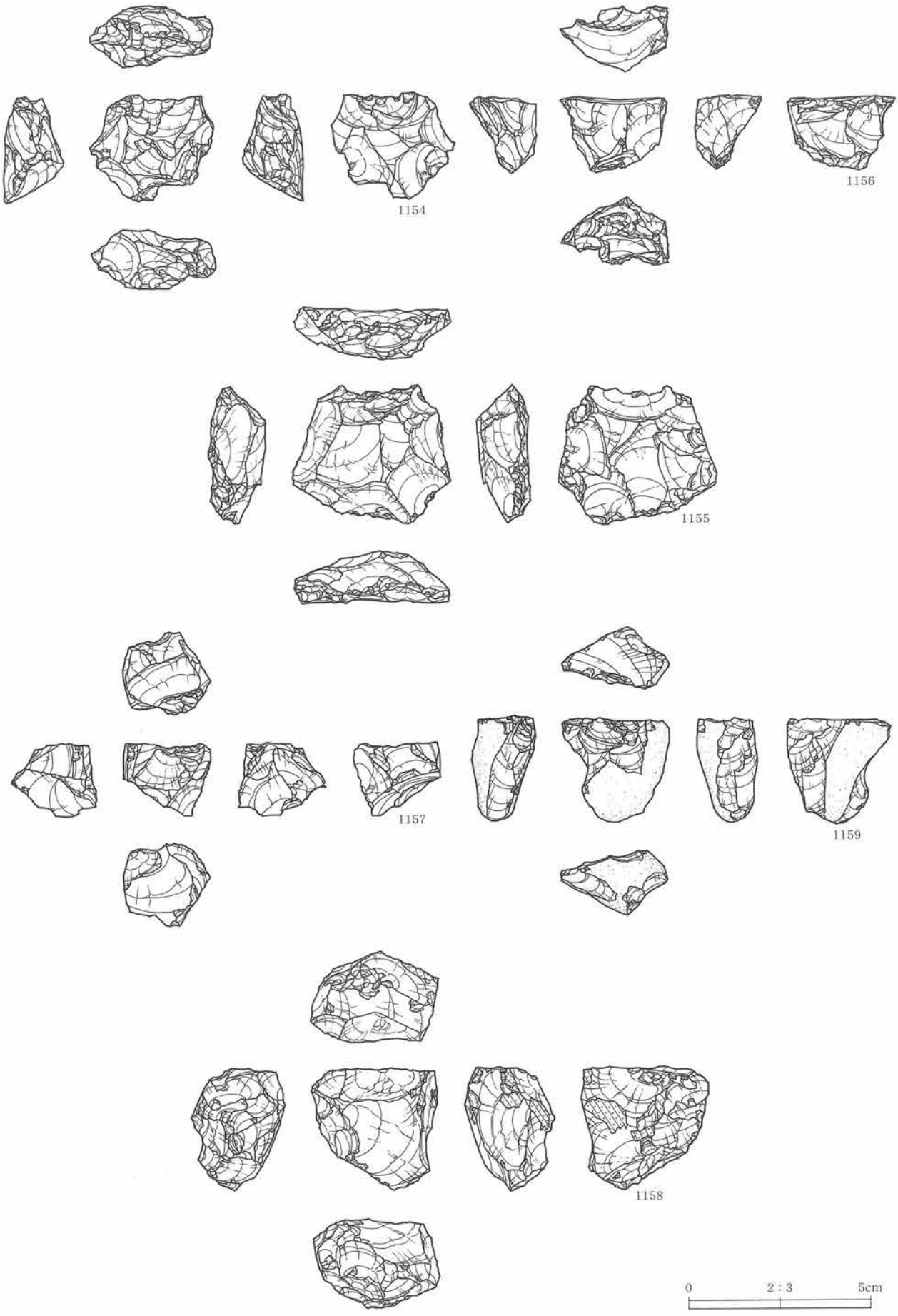
第181図　二次加工ある剥片(3)



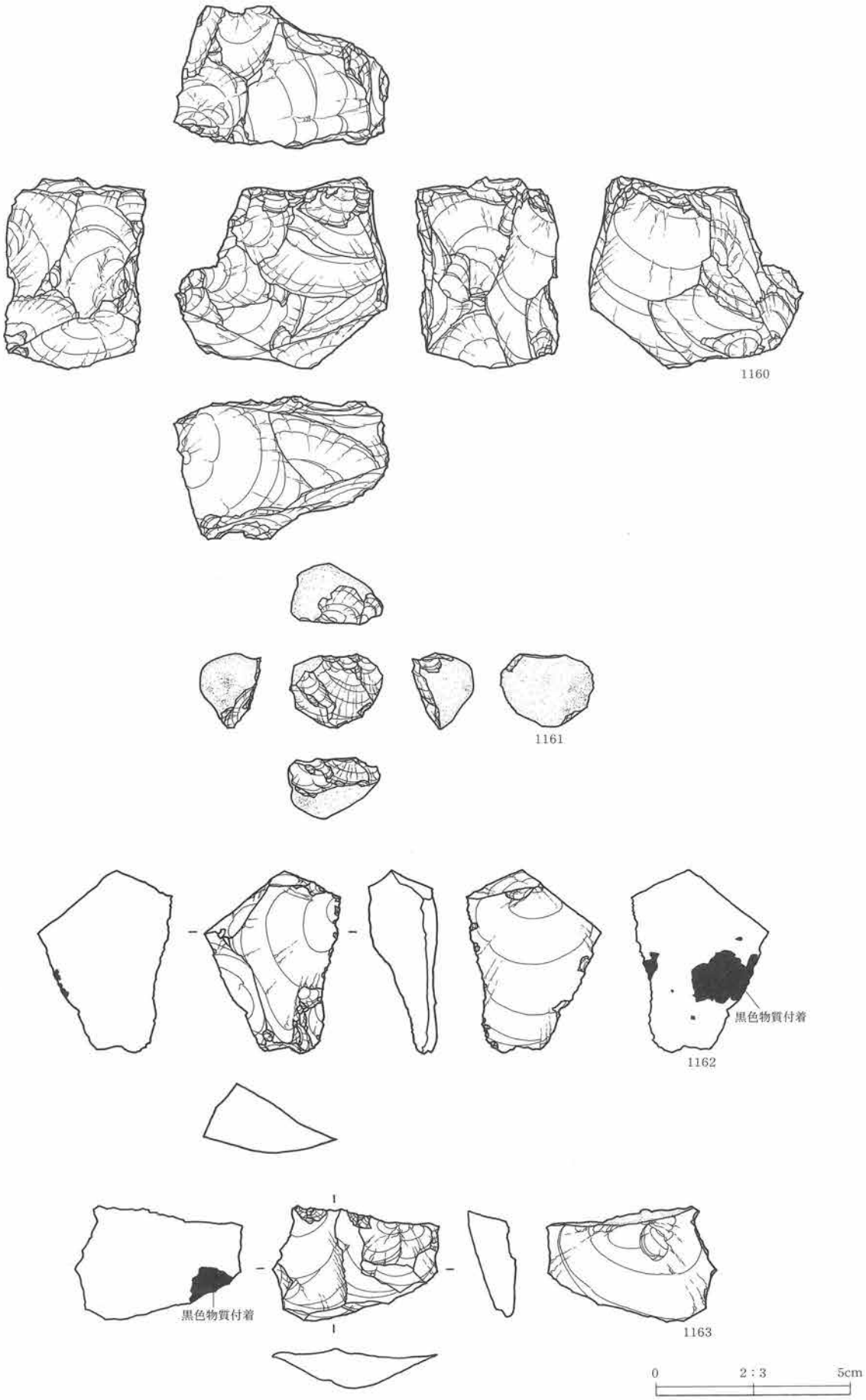
第182図　二次加工ある剥片(4)

第183図　微細剥離痕ある剥片(1)

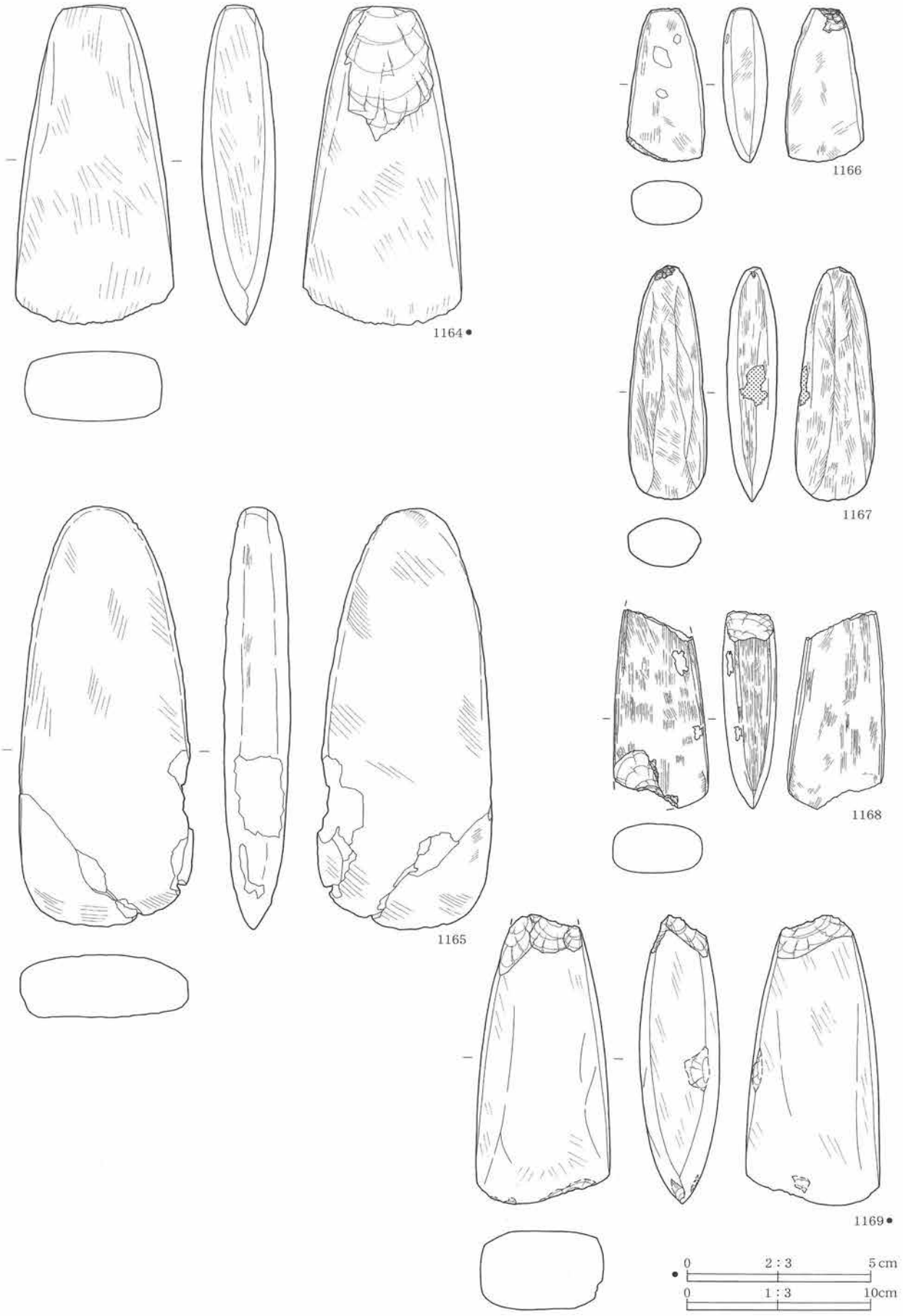
第184図　微細剥離痕ある剥片(2)　石核(1)



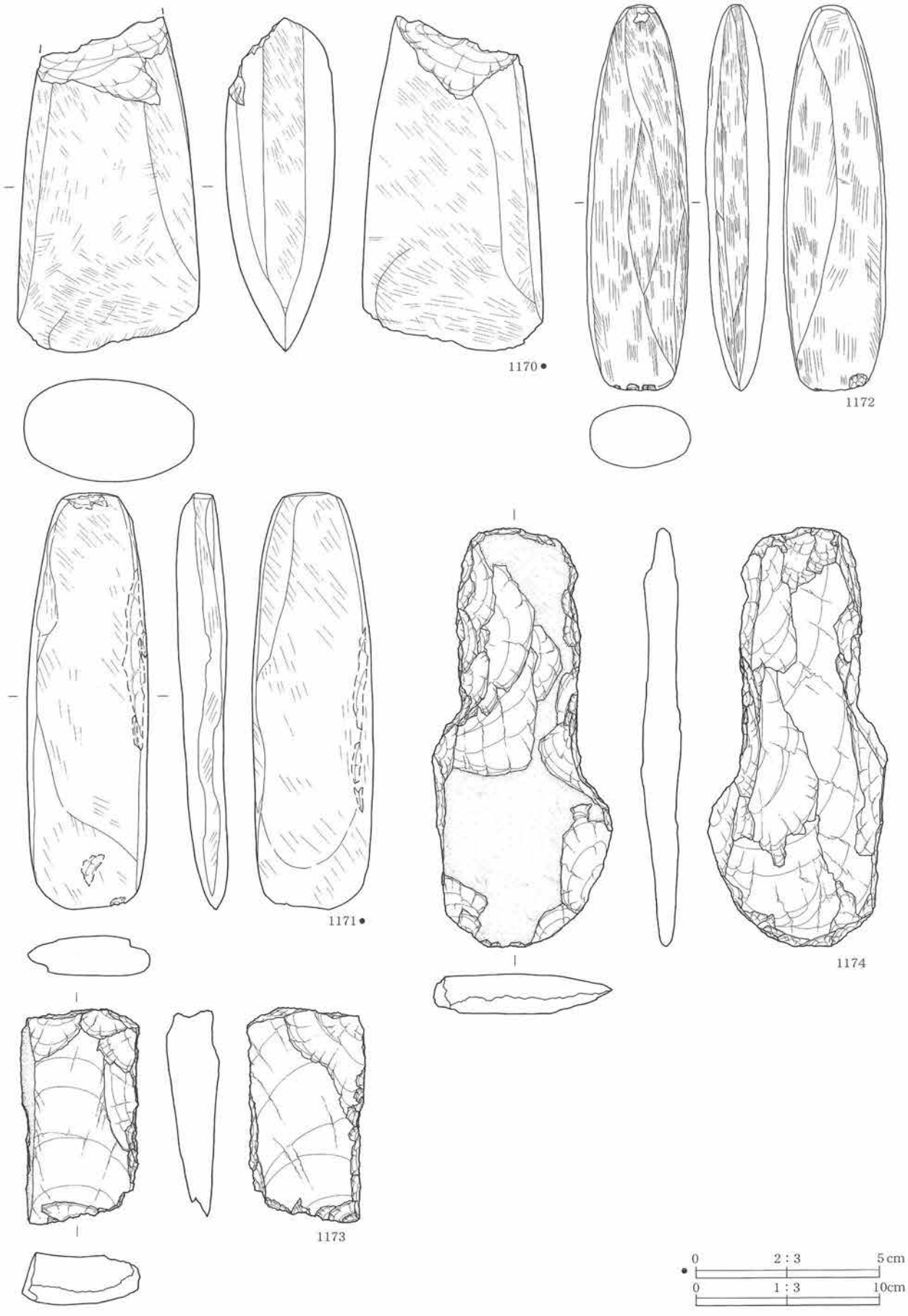
第185図　石核(2)



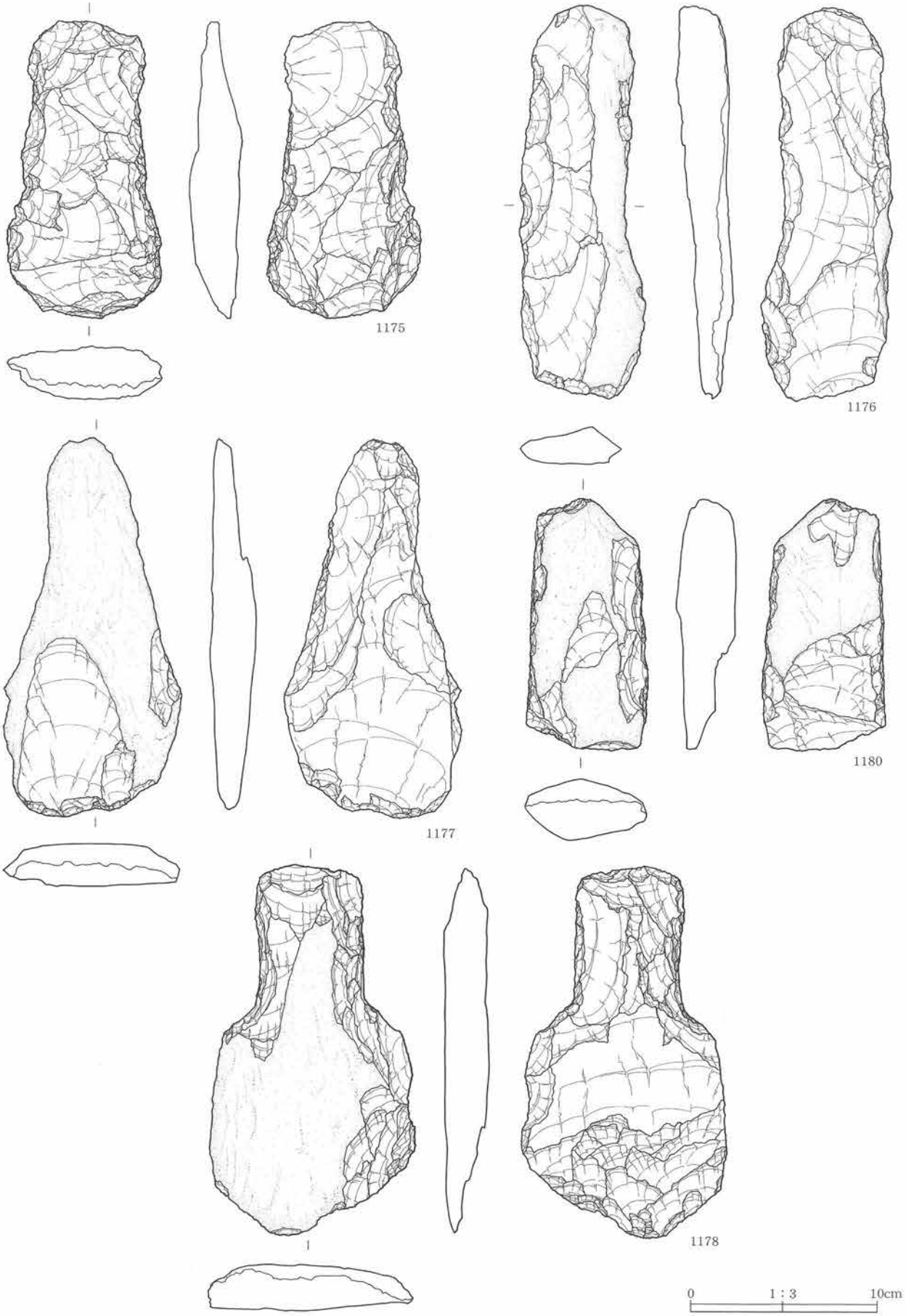
第186図　石核(3)　剥片



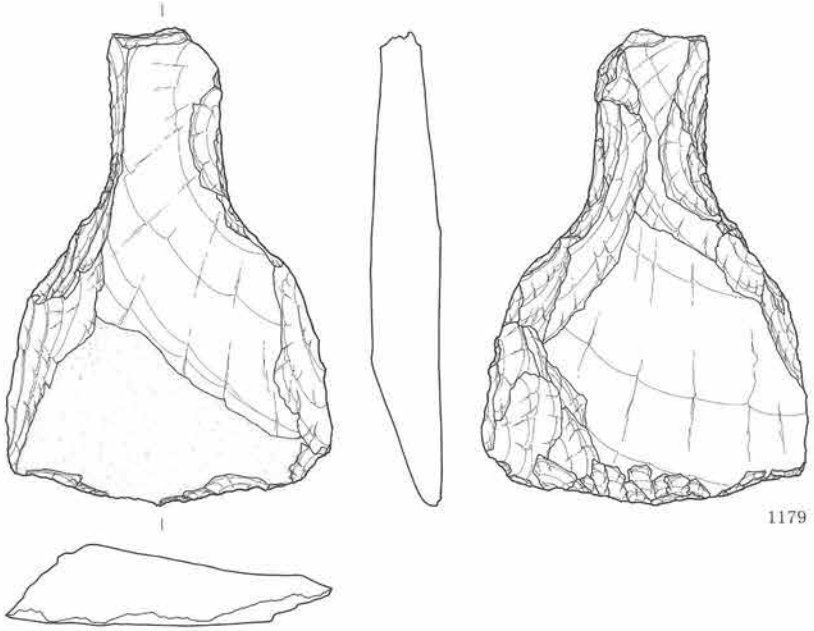
第187図　石斧類(1)

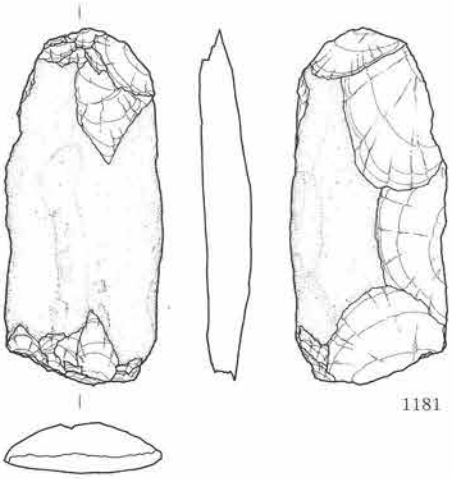


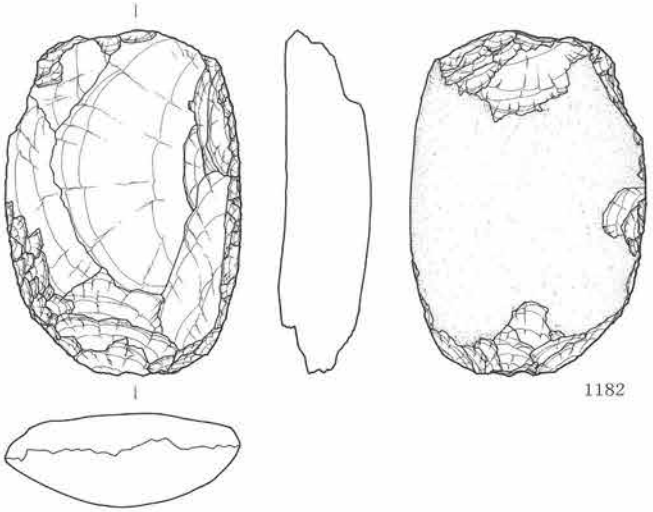
第188図　石斧類(2)

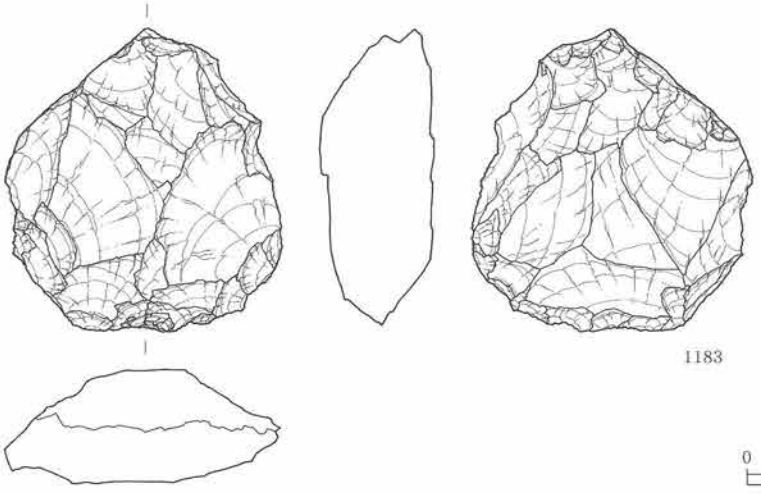


第189図　石斧類(3)

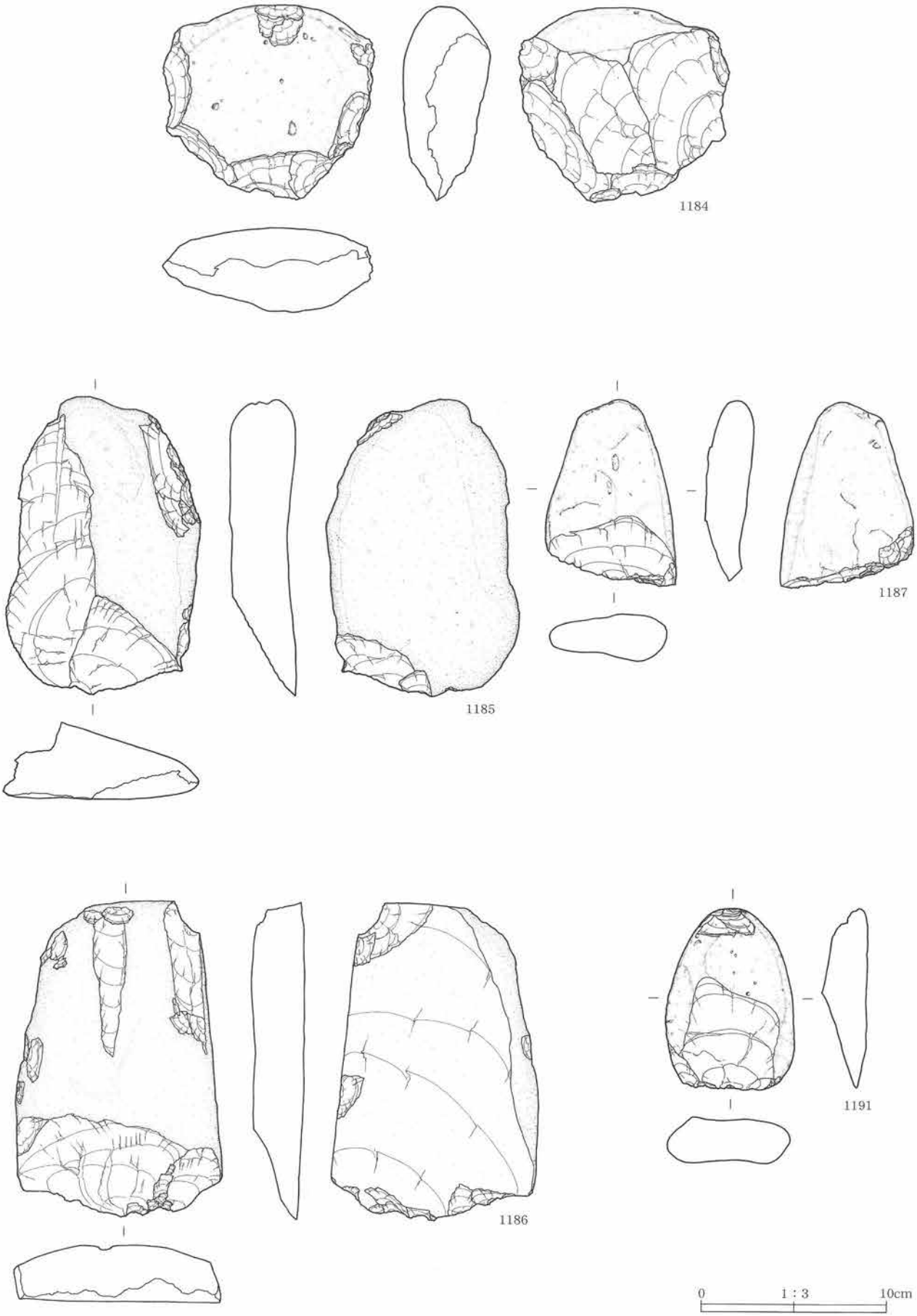




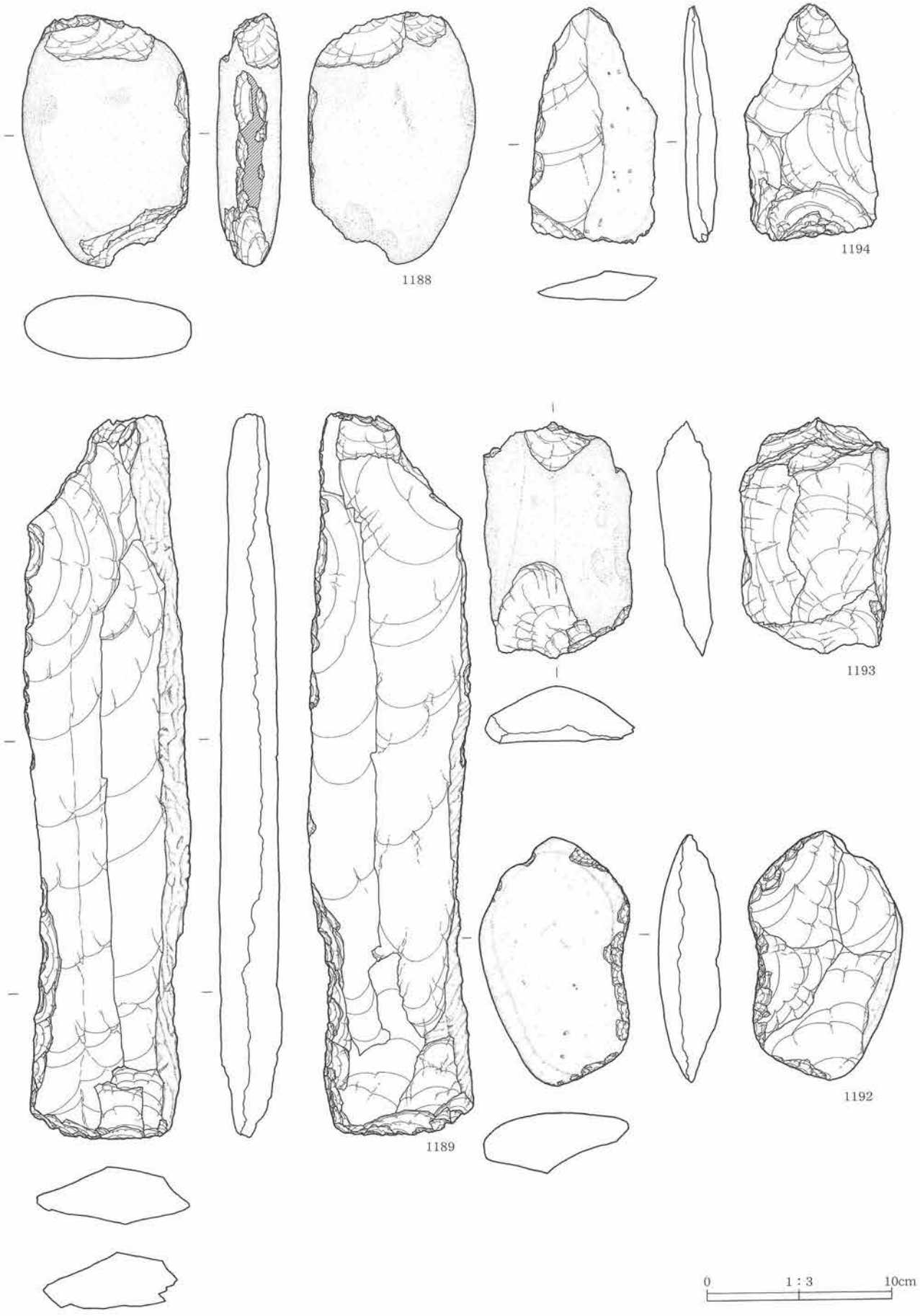




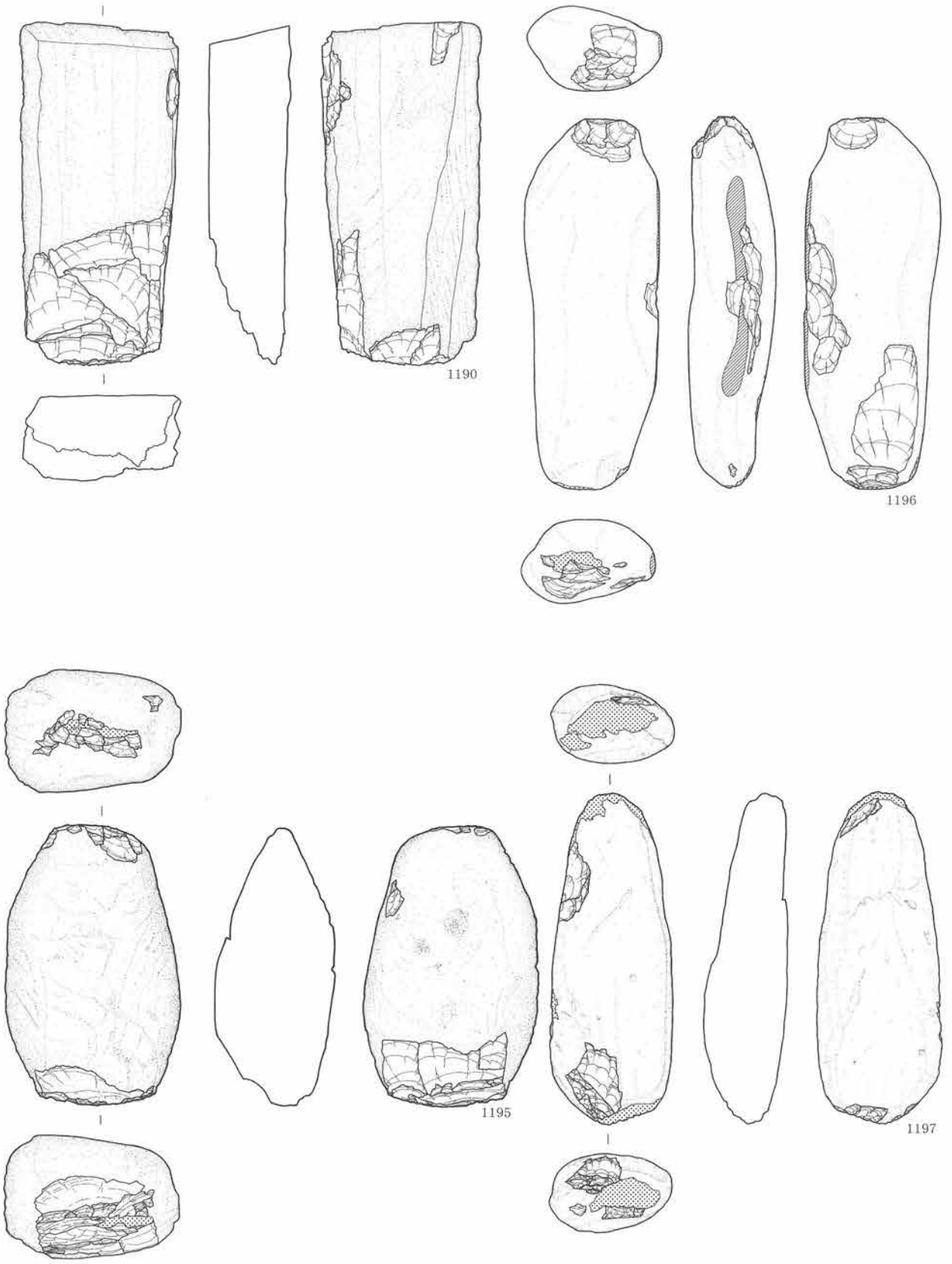
第190図　石斧類(4)



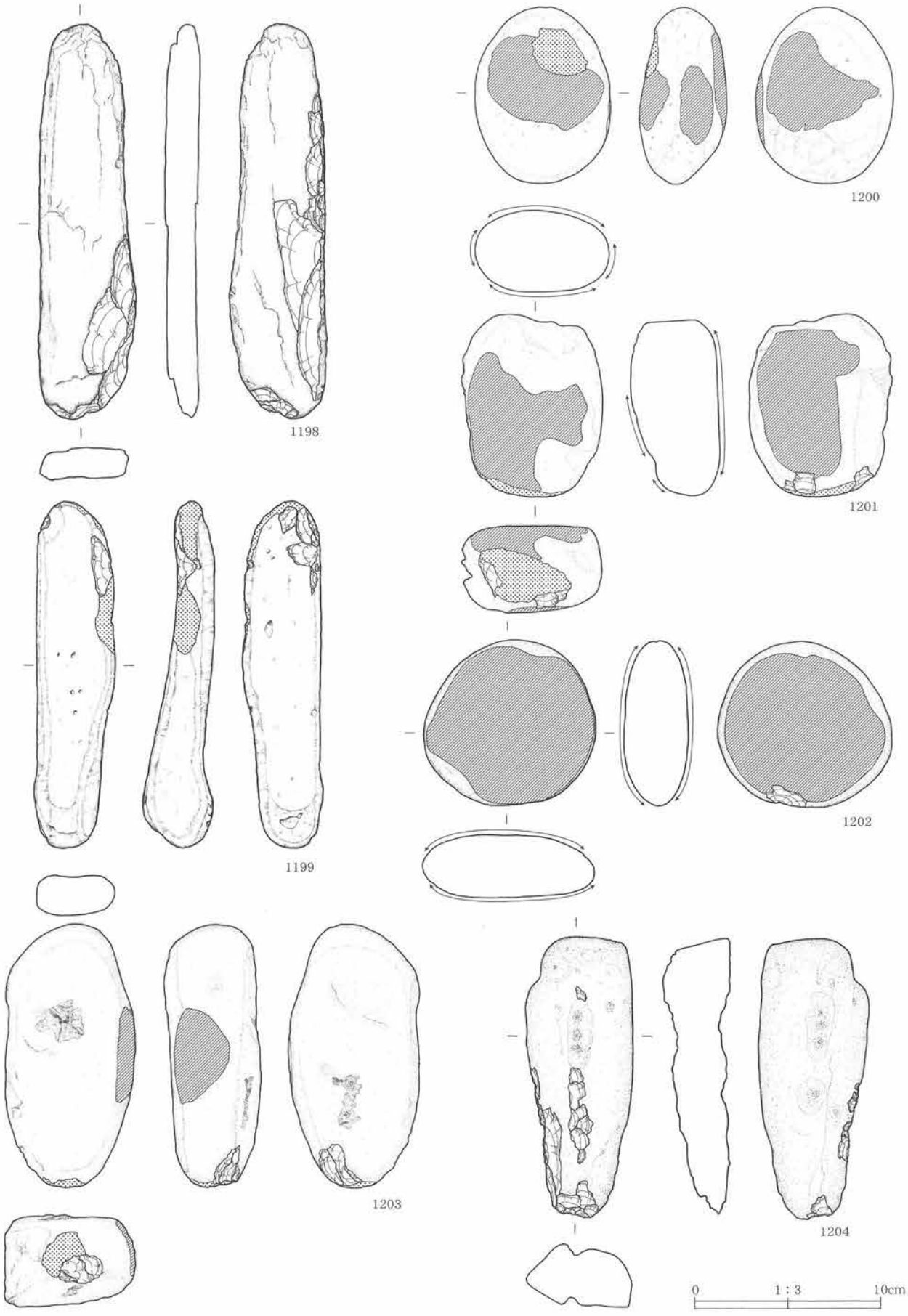
第191図　礫器類(1)



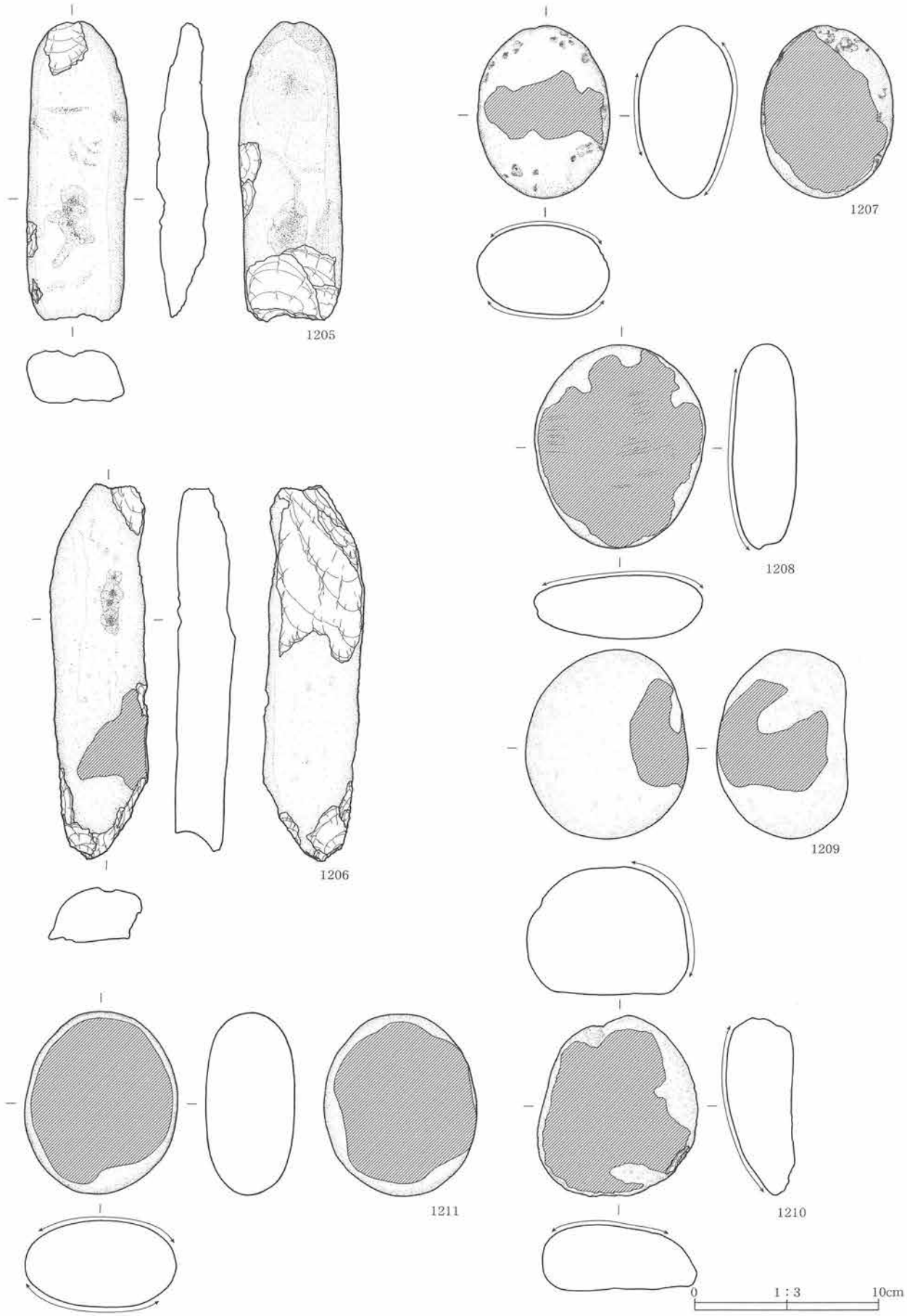
第192図　礫器類(2)



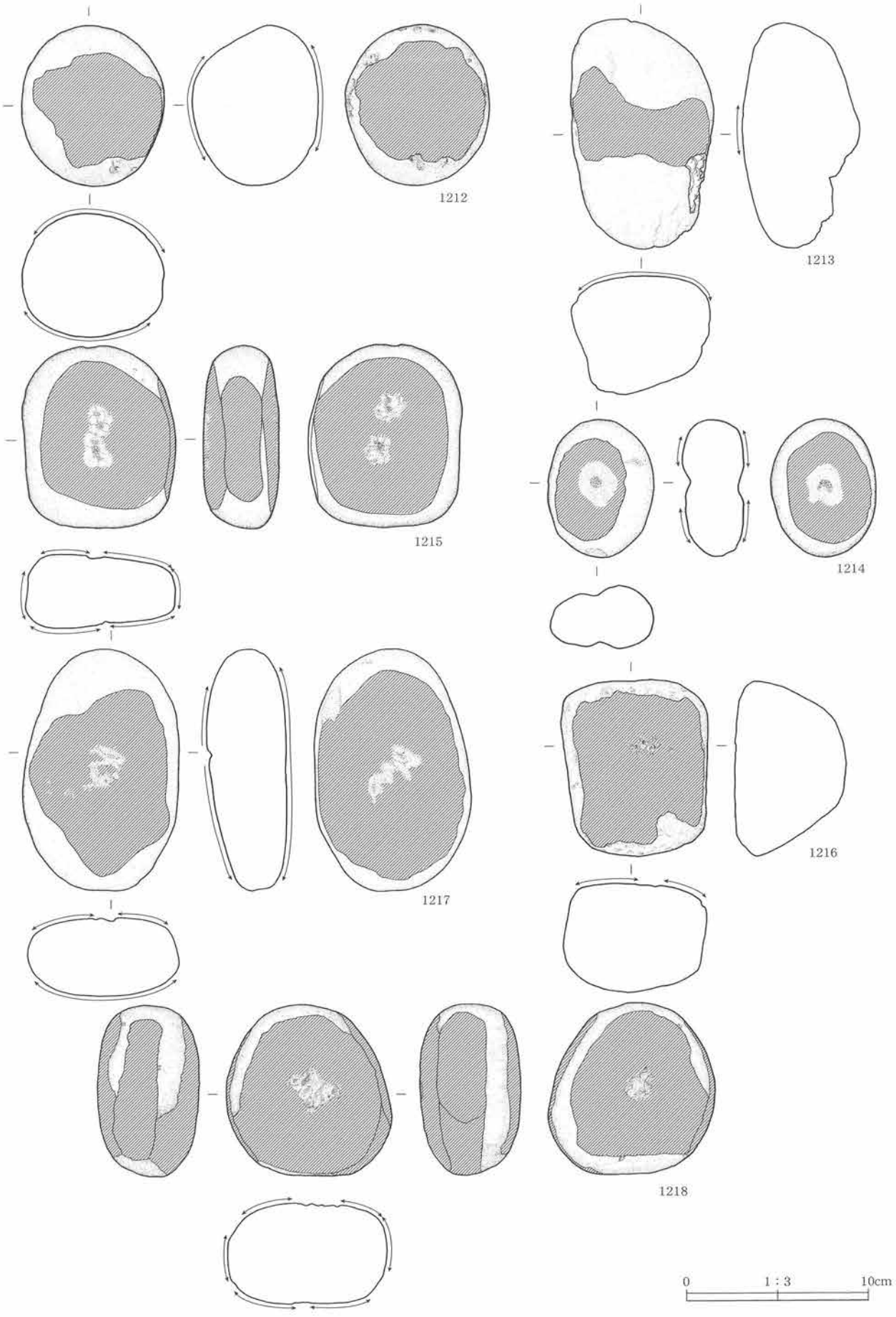
第193図　礫器類(3)　敲磨器類(1)



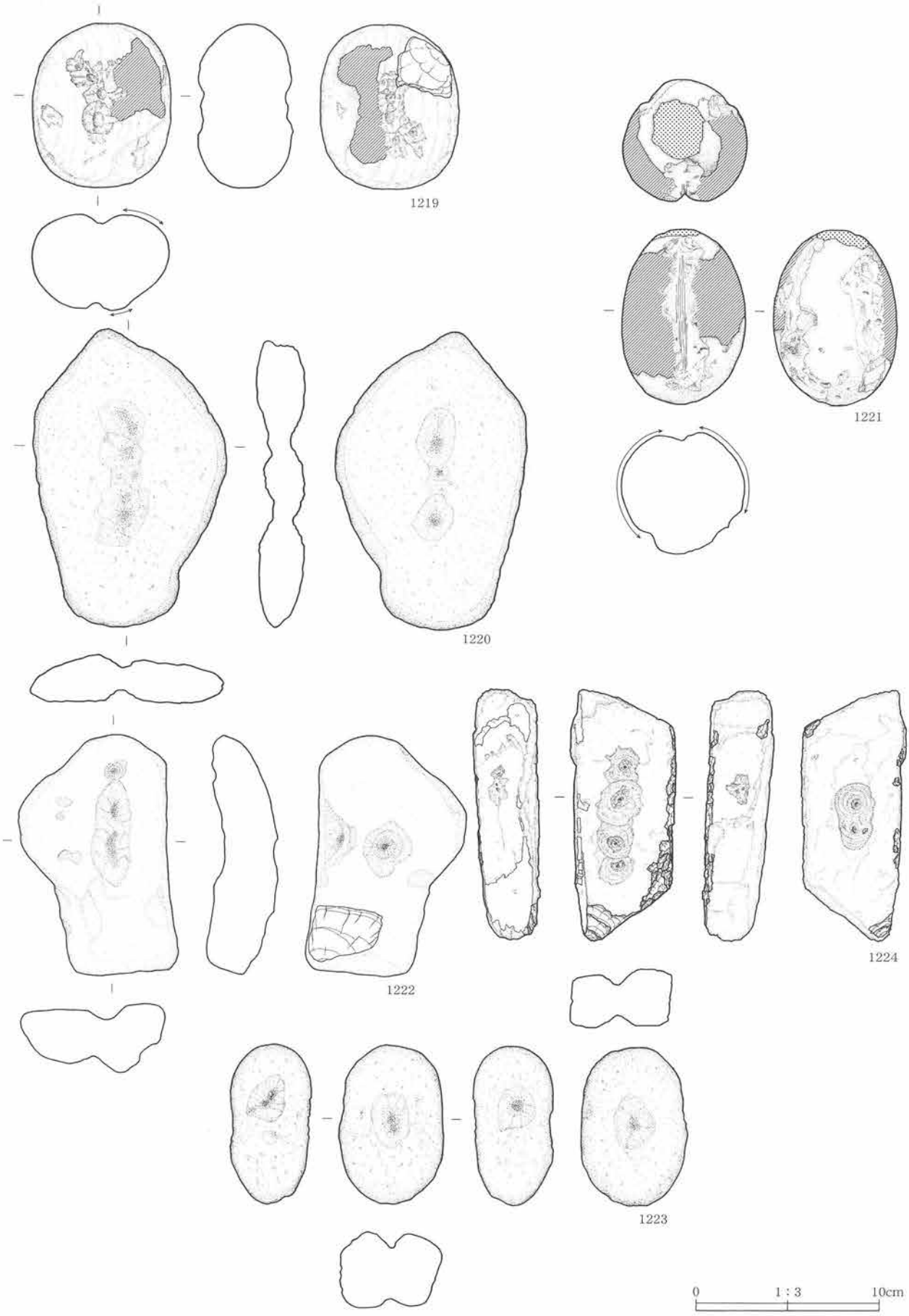
第194図　敲磨器類(2)



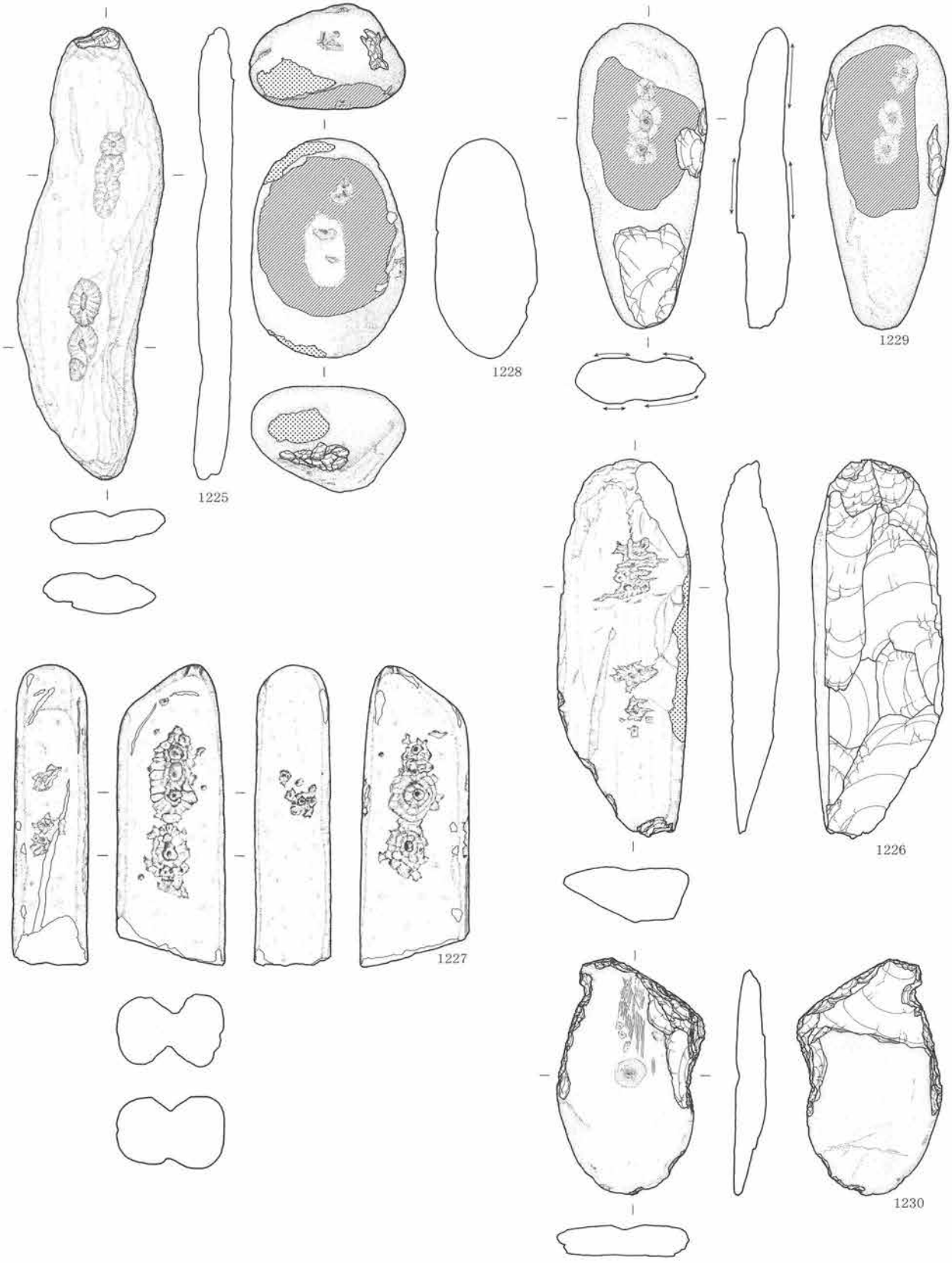
第195図　敲磨器類(3)



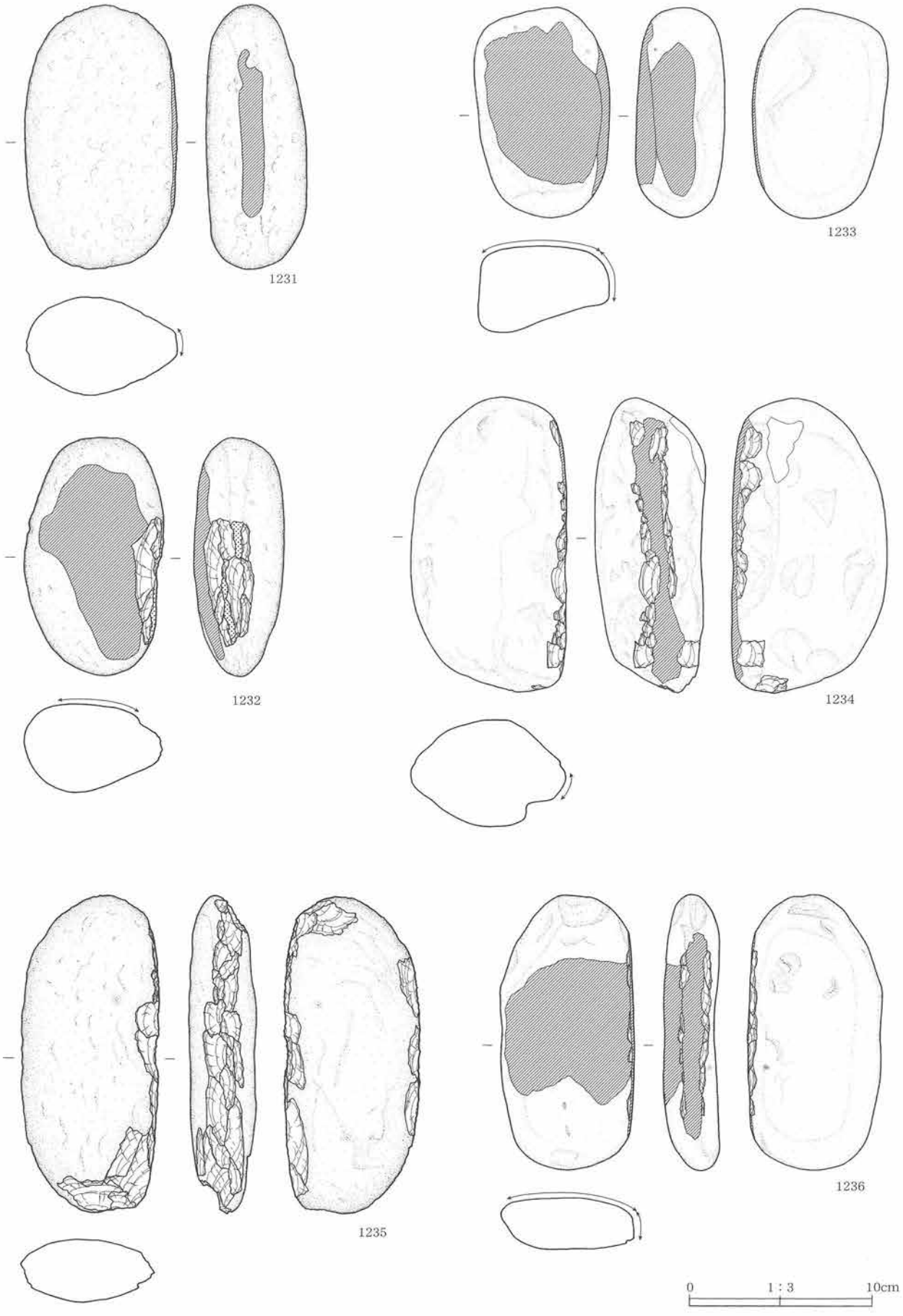
第196図　敲磨器類(4)



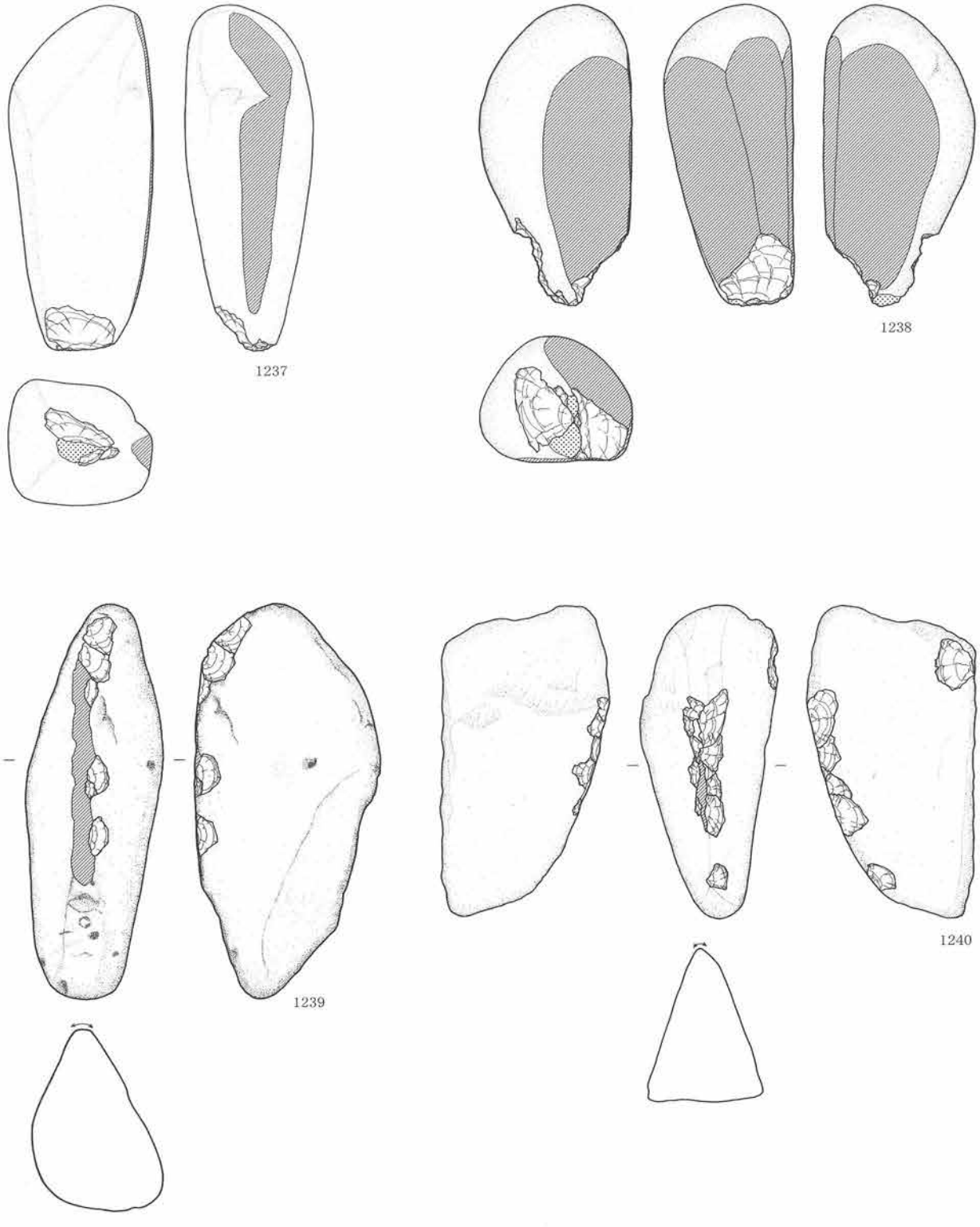
第197図　敲磨器類(5)



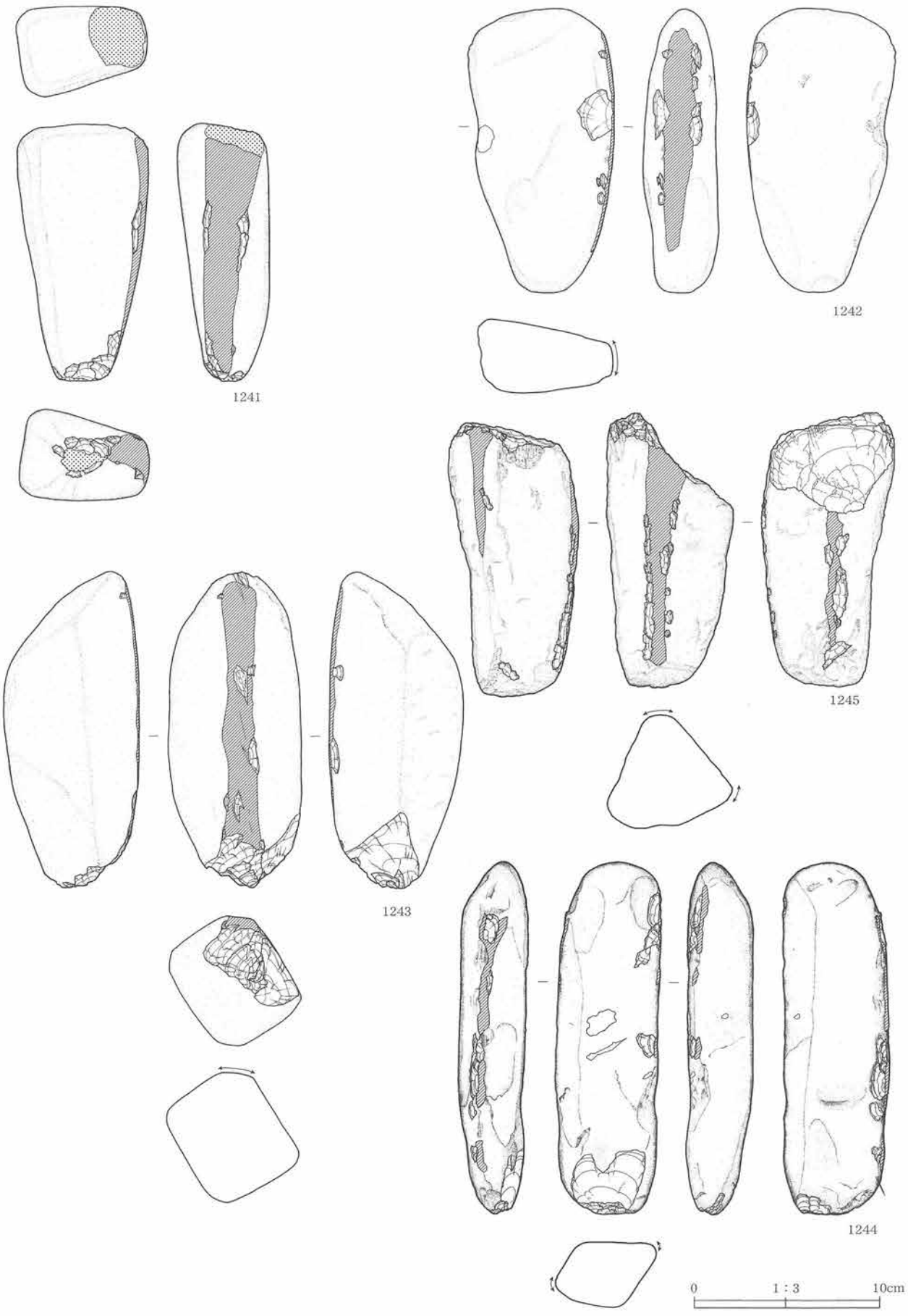
第198図　敲磨器類(6)



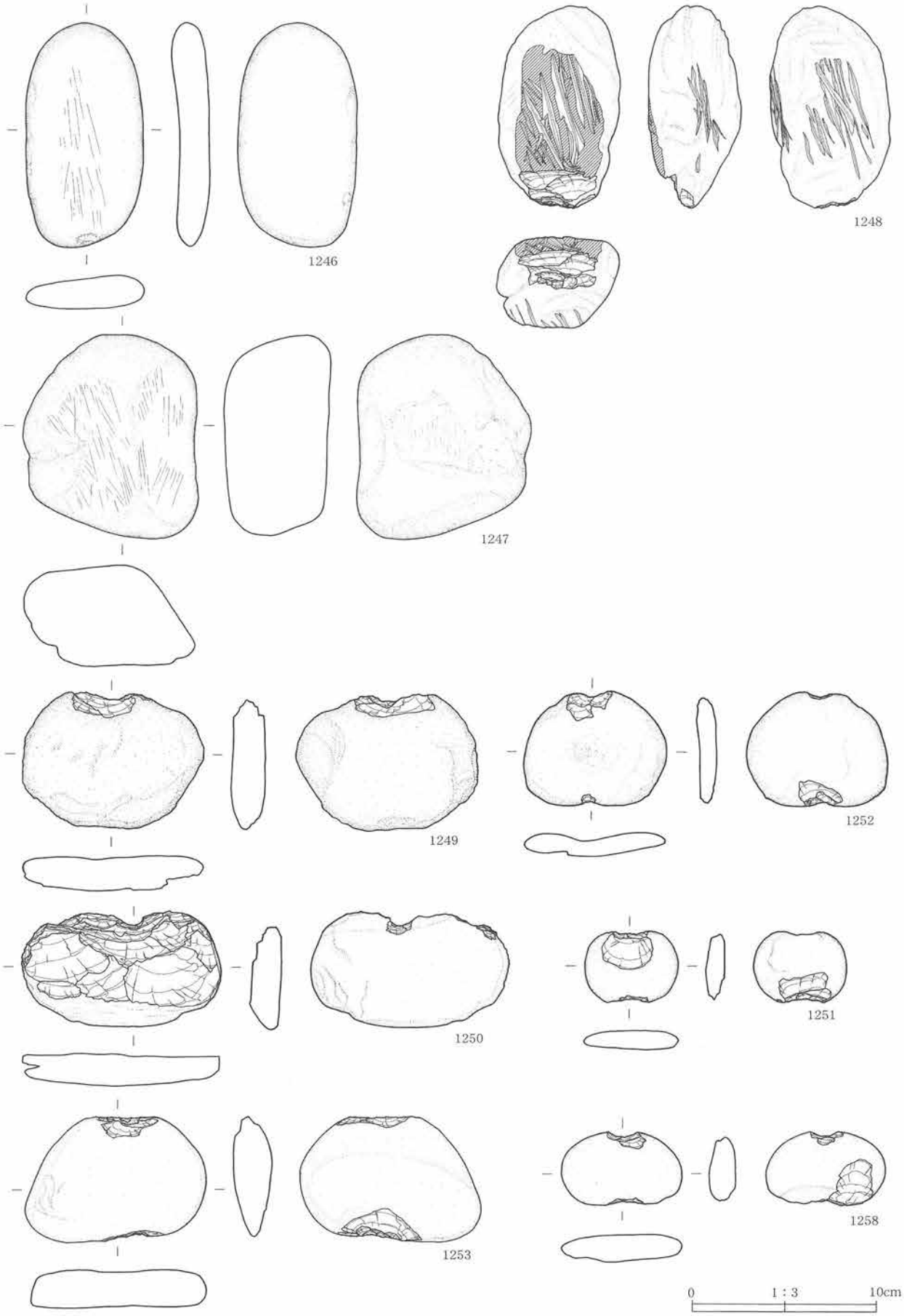
第199図　敲磨器類(7)



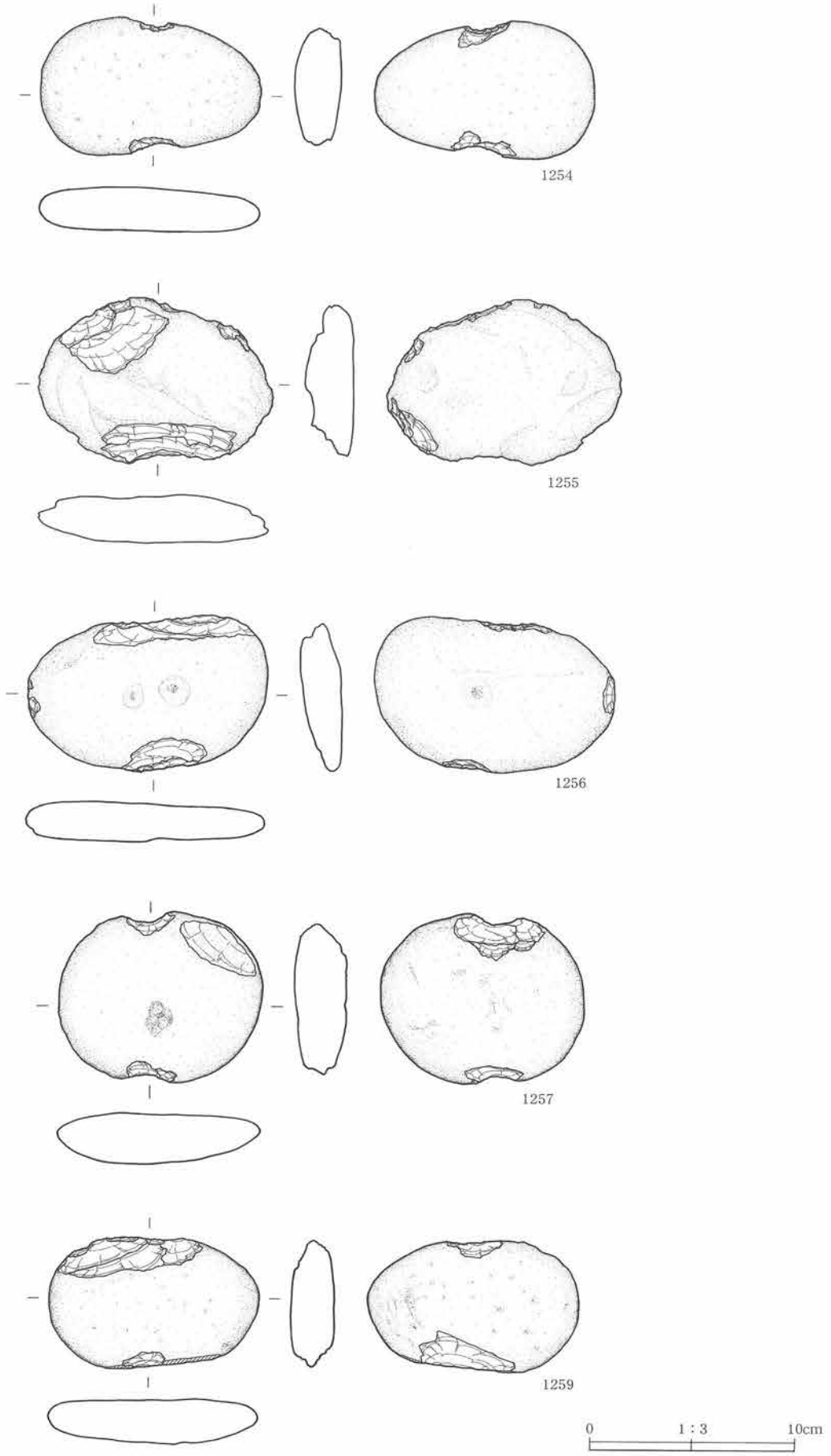
第200図　敲磨器類(8)



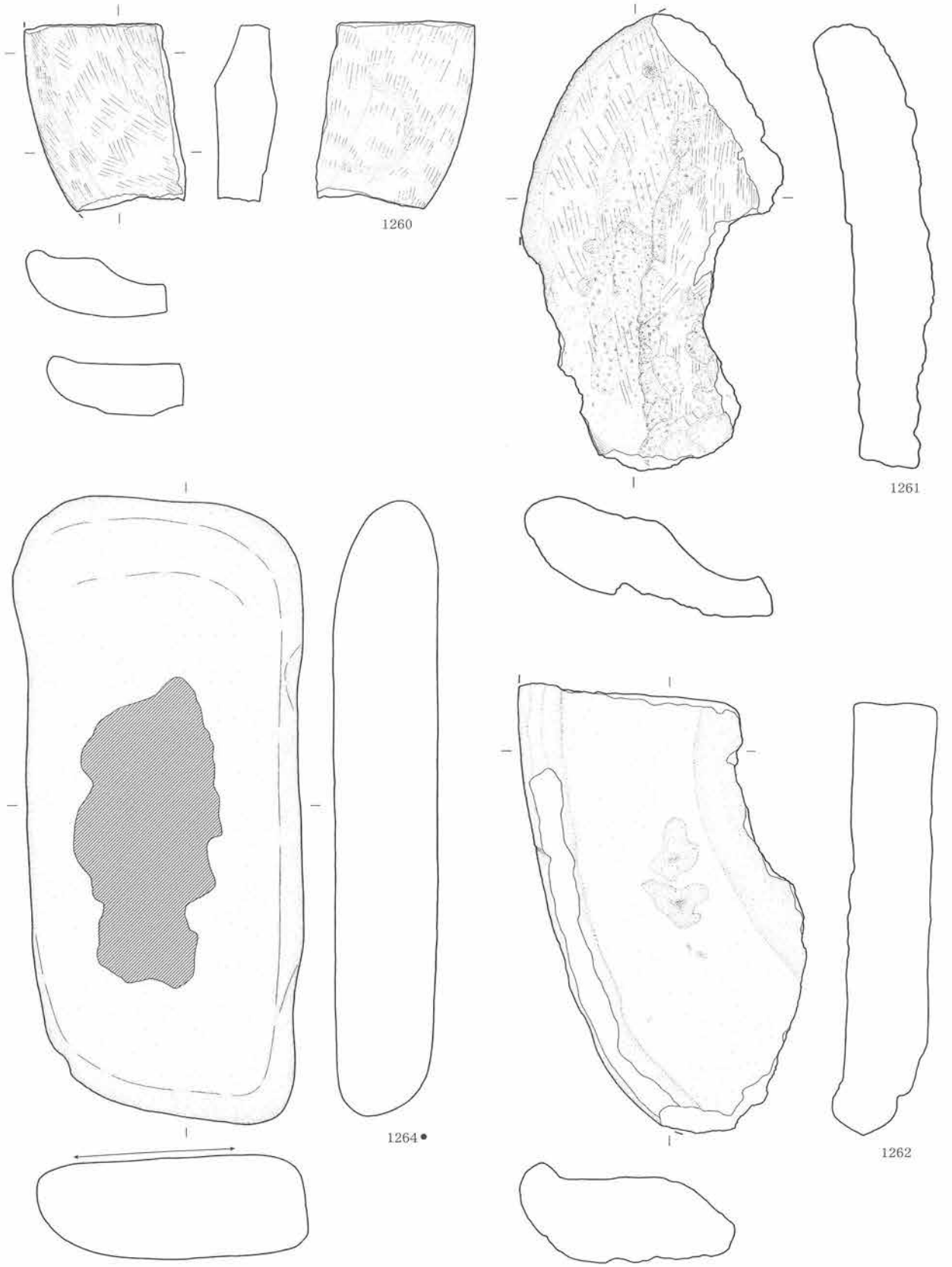
第201図　敲磨器類(9)



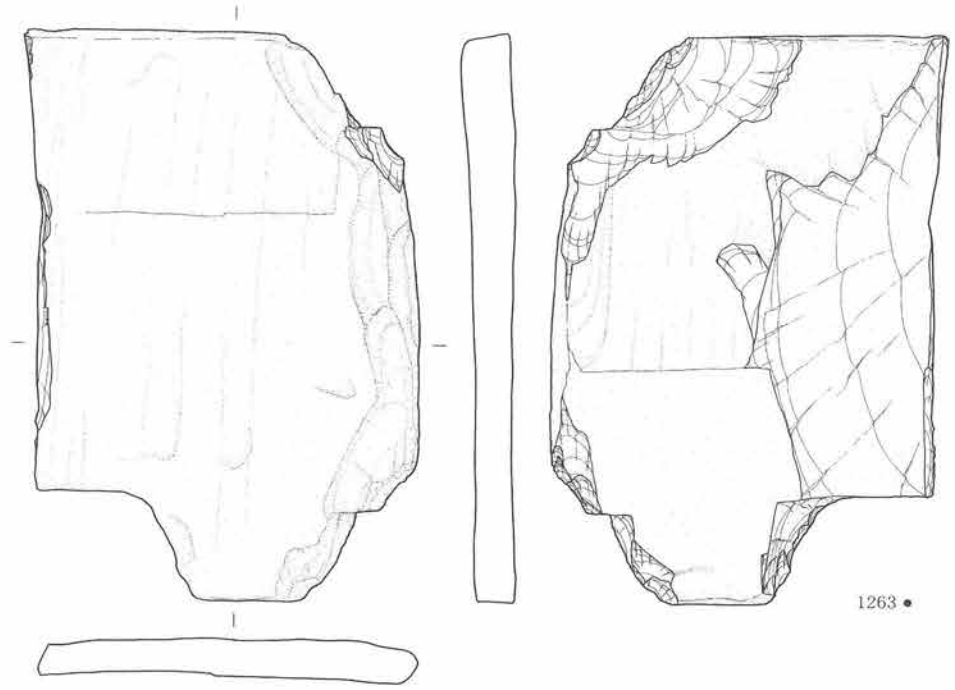
第202図　砥石　礫石錘(1)

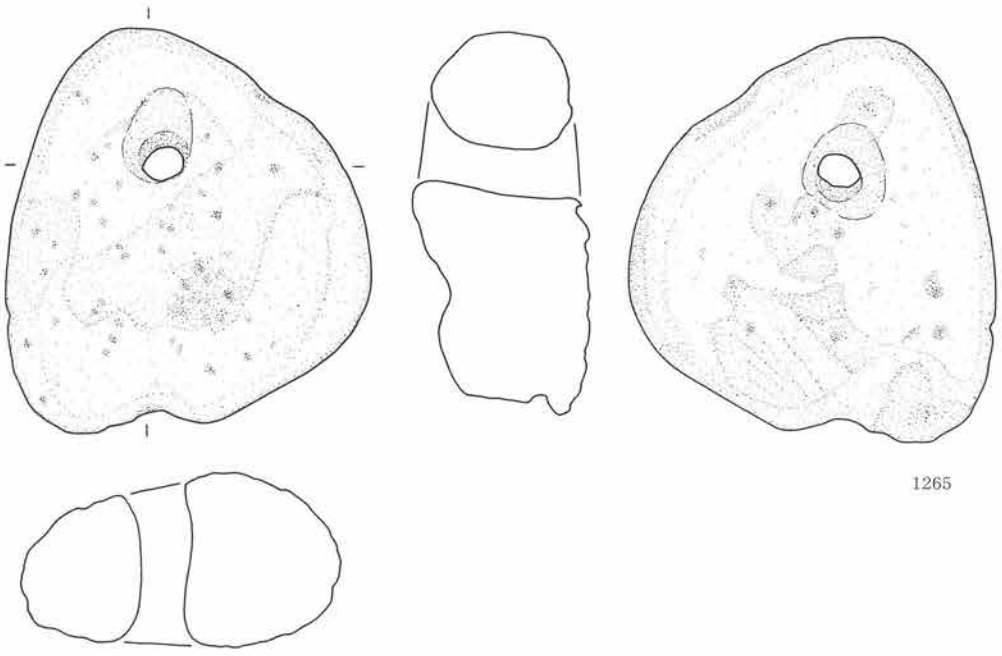


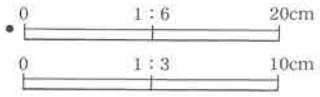
第203図　礫石錘(2)



第204図　石皿台石類(1)







第205図　石皿台石類(2)　浮子

4 石　製　品

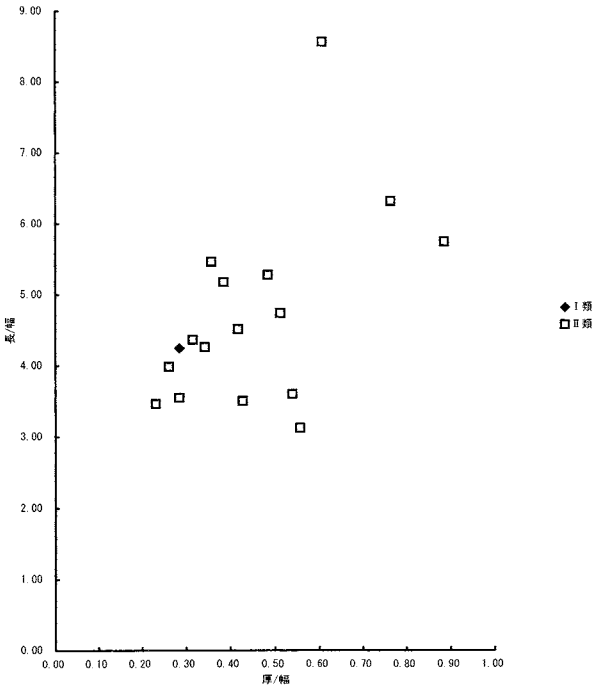
(1) 石　棒　類

棒状の素材礫に敲打や剥離、研磨などにより成形したもので、反りを持たない剣状のもの、反りがある刀状のもの、棒状のものを石棒類として一括した。計24点出土しており、9点を図示した(掲載率37.5%)。遺構内出土が10点(SI出土4点、SX出土1点、SD出土5点)、遺構外出土が14点である。

形状と成形方法により2形態に分けられる。Ⅰ類は反りを持たず、剣状に研磨を加えたもの(石剣)が4点、Ⅱ類は反りを持たず、棒状に剥離やその後研磨を加えたもの(石棒)が20点である。

法量について観察するために、第206図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。17点について計測可能である。Ⅱ類は長/幅3.13～8.56、厚/幅0.23～0.88の範囲に見られる。最も大形のものは長/幅8.56、厚/幅0.61と突出した値となっている。Ⅰ類は1点のみ計測可能のため、比較できない。

第206図　石棒類長幅比率



第38表　石棒類分類別石材表

	頁岩	頁岩(在地)	粘板岩	砂岩	計
Ⅰ		3	1		4
Ⅱ	1	13	5	1	20
計	1	16	6	1	24

使用石材については第38表分類別石材表に示した通りである。24点中16点が頁岩(在地)で占められる。次いで粘板岩6点が多い。

時期については、出土地点と層位･共伴土器から推定される。Ⅰ類は調査C区を中心に見つかっており、Ⅱ層及びⅢ層から出土している。Ⅱ類は調査B区～C区西から出土しており、主にⅣ群土器を伴っている。

(2) 丸　　玉

敲打と研磨により丸形に成形を施し、中心に穿孔を行ったものを丸玉とした。1点出土しており、全点を図示した(掲載率100%)。遺構外出土で、19B16Ⅰ層からである。

裏面には発掘時に付いたガジリ痕がある。表面には若干磨り残しが見られるが、丁寧に研磨されている。石材は軟質の滑石であるため、キズが付きやすい。直径は約2cm、厚さは約1cmで、中央に直径6mmの穿孔がされている。垂飾品として使用されたと見られる。

(3) 玦状耳飾

敲打と研磨により円盤形に成形を施し、中心に穿孔を行い、そのうちの1ヵ所に切れ目を入れたも

のを玦状耳飾とした。計2点出土しており、全点を図示した(掲載率100％)。遺構内出土がSI21の1点、遺構外出土が攪乱から1点である。

いずれも欠損品で、縦に半分を欠いている。直径は約3㎝前後、貫通孔は0.86～0.87㎜である。厚さは0.37～0.38ということから鑑みれば、使用法を考えると装着するおそらく耳たぶに縦1.5㎝以上、幅0.4㎜以上の孔が空けられていたということである。重量は推定で5ｇ程度だと思われる。

石材はいずれも頁岩で、丁寧に研磨整形されている。

(4) 不明抉入石器

剥離による成形を全周に施し、一部に抉りを入れたものを不明抉入石器とした。石錘など石製品ではない可能性もあるが、ここに分類した。1点出土しており、全点を図示した(掲載率100％)。遺構外の13Ｄ9Ｉ層から出土している。

右側縁に幅2.93㎝、深さ1.0㎝の抉入がなされている。石材は頁岩である。

5　その他の遺物

上記の縄文時代遺物以外に、平安～近代と考えられる遺物が各少量出土している。内訳は、土師器、陶磁器、金属製品、銭貨である。また、縄文～近代の遺構･地点から出土した動植物遺存体についても本項に記載した。

(1) 土　師　器

1点出土(1279)しており、全点を図示した(掲載率100％)。SI35床面から出土しており、坏体部下半の破片である。内面は黒色処理後に縦にミガキ調整が施されている。

(2) 陶　磁　器

計11点を図示した。図示したうち、陶器は6点、磁器は5点である。陶器の器種は飲食器の碗類(1280･1281)、貯蔵具の甕類(1289)、調理具の擂鉢類(1286～1288)である。磁器の器種は飲食器の碗類(1282)、皿類(1283～1285)と花生かと思われるもの(1290)である。大半がＩ層からの出土であるが、SD07から出土している1281碗類は鉄釉の天目茶碗片と見られ、時期が古くなる可能性もあるが小片のため不明である。

(3) 金　属　製　品

計4点出土しており、2点を図示した(掲載率50％)。掲載したものは1291包丁と思われる刃物、1292煙管(雁首)である。他に釘、鉄鍋片かと思われるものがある。時期は出土層位がいずれもＩ層であるため不明であるが、形状から近世以降と考えられる。

(4) 銭　　貨

計15点出土しており、全点を図示した(掲載率100％)。中世銭が永楽通寶7点、元豊通寶1点、祥符通寶1点、近世銭が寛永通寶4点、不明が2点である。中世銭のうち永楽通寶は、SD04堆積土上位から5点が固着した状態で出土している(永楽通寶3点＋不明2点)。寛永通寶3点は古寛永2点と新寛永1点に分けられる。また、寛永通寶の四文銭(11波)が出土しており、初鋳1768年から最も新しい。

(5) 動物遺存体

遺構内堆積土や炉焼土、埋設土器内土壌を中心に、70地点で土壌サンプルの採取を行った。土壌サンプルの水洗には1㎜メッシュ篩を使用し、フローテーションを行った後、肉眼及びルーペ下で選別を行った。なお、土壌採取量については不手際により、記録はない。

選別できた資料の総数は、1㎜以上を1個とカウントすれば計4,994個(乾燥重量139.67g)である。70地点から採取した資料のうち、11地点の資料については小数点2桁まで計ることが出来る重量計でも測定不能であった。残りの59地点のうち最も多く出土したのは、採掘坑1の1,166個(乾燥重量39.13g)で、次いで26C区石組遺構堆積土に含まれていた239個(乾燥重量36.58g)などであった。縄文時代の竪穴住居跡では、SI12床直上から118個(乾燥重量0.66g)、SI11堆積土下位から106個(乾燥重量0.48g)、SI17下層焼土から534個(乾燥重量3.72g)、SI26炉から446個(乾燥重量3.15g)などが出土している。

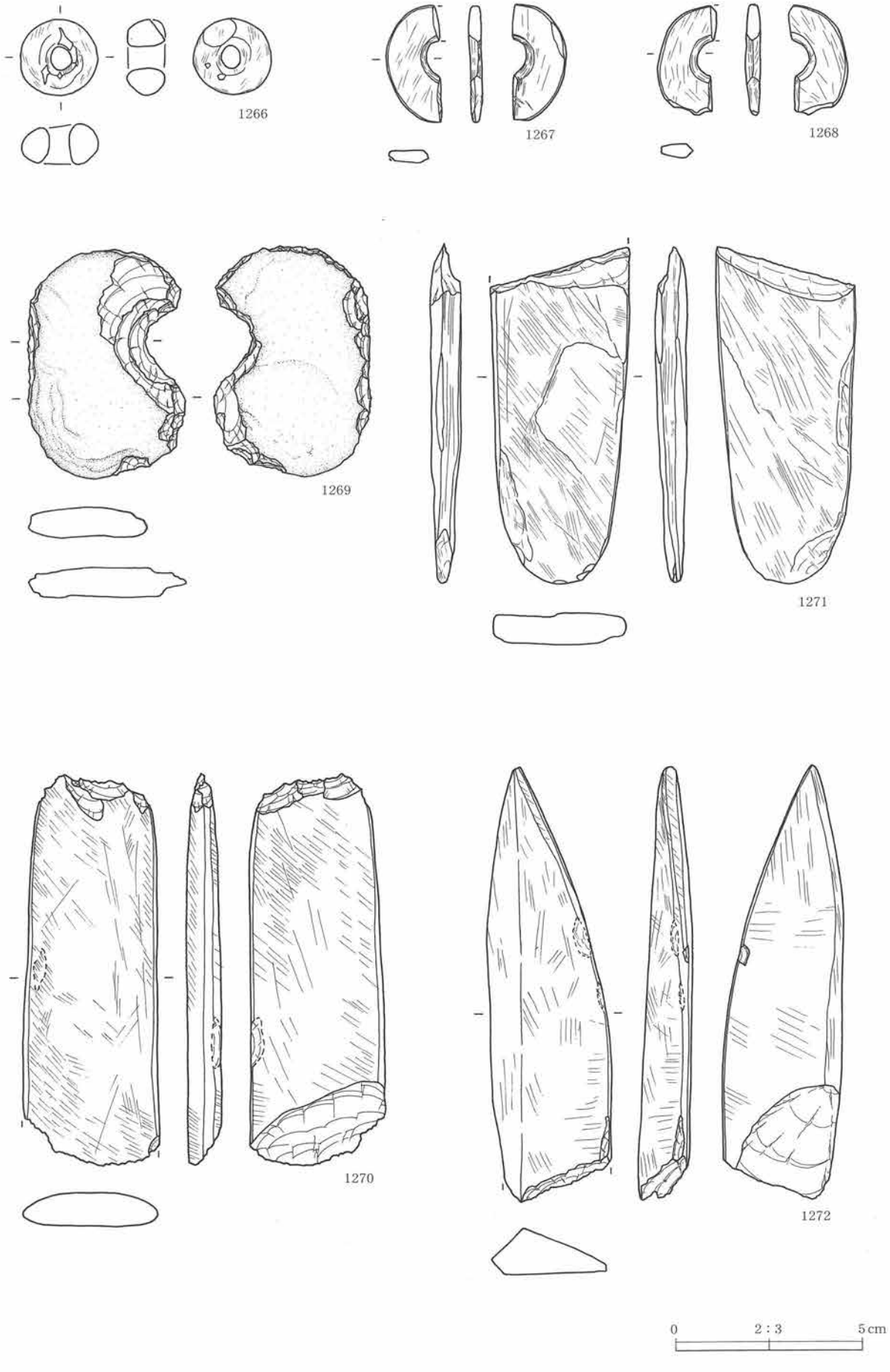
出土した資料に対しての同定は、細片が多数を占めるため同定が困難であると判断したことと、予算の都合上行うことは出来なかった。選別した資料と計測データはすべて岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

(6) 植物遺存体

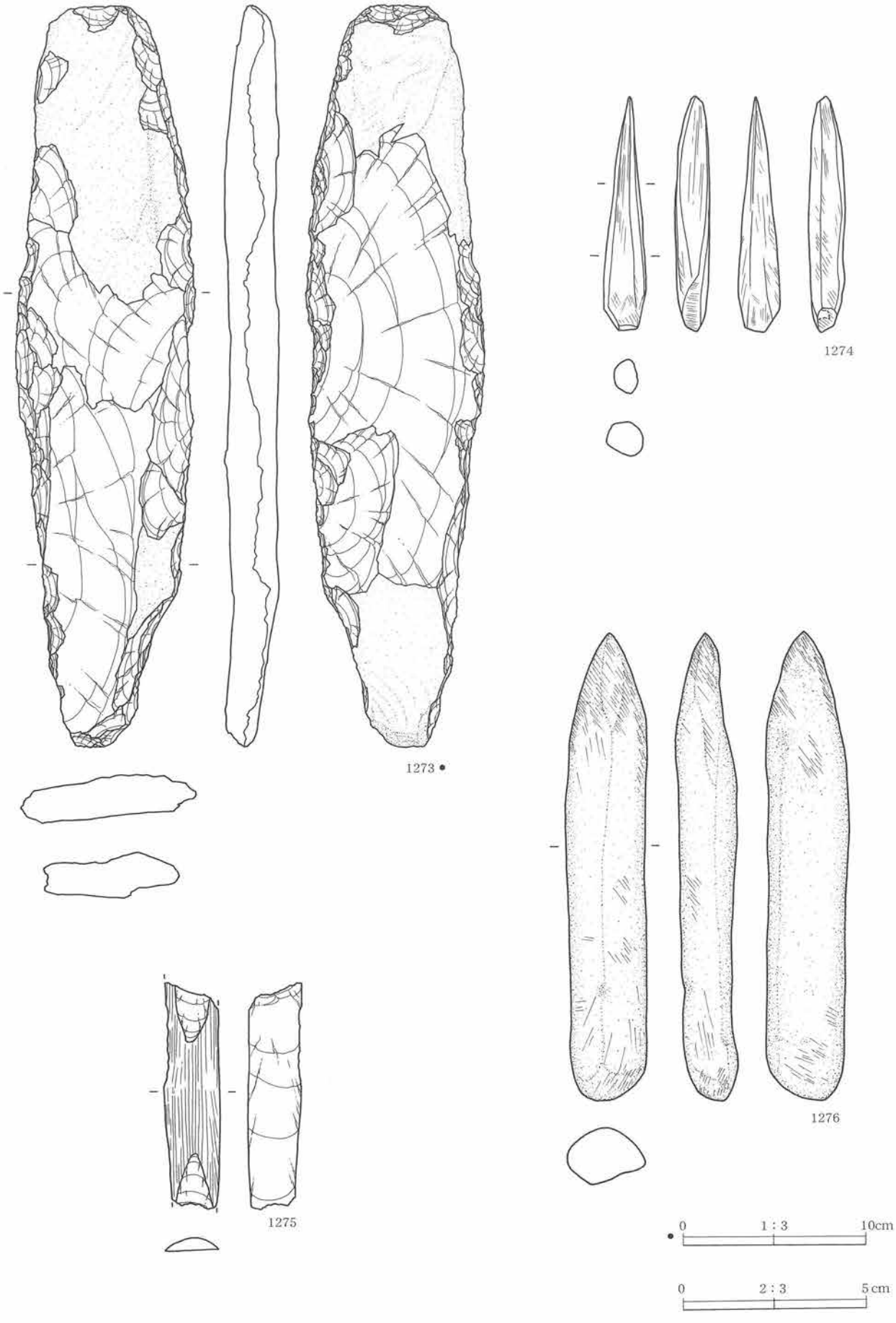
遺構内堆積土や炉焼土、埋設土器内土壌を中心に、129地点で土壌サンプルの採取を行った。土壌サンプルの水洗には1㎜メッシュ篩を使用し、フローテーションを行った後、肉眼及びルーペ下で選別を行った。なお、土壌採取量については不手際により、記録はない。

選別できた資料の総数は、1㎜以上を1個とカウントすれば計8,766粒(乾燥重量65.58g)である。129地点から採取した資料のうち、44地点の資料については小数点2桁まで計ることが出来る重量計でも測定不能であった。残る85地点から採取した資料のうち、直径5㎜以上の植物遺存体が選別出来る15地点について、試料同定を行った(附編　自然科学分析)。同定を行った試料の総数は計664粒(乾燥重量56.41g)である。なお、同定を行っていない資料と計測データはすべて岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

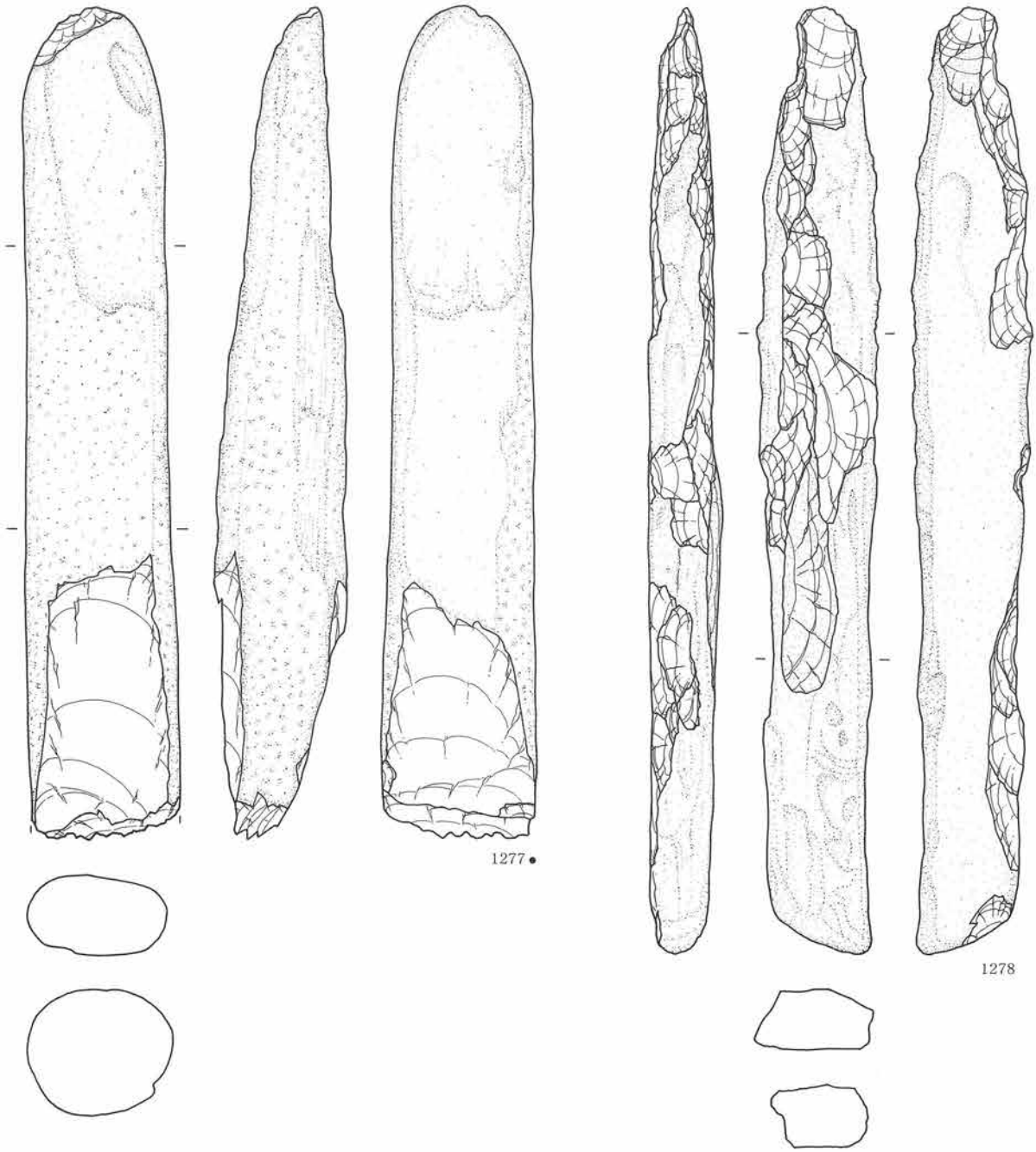
試料の同定結果については附編を参照願いたい。15地点の試料のうち、8試料がSI16住居跡出土、その他はSI15･17･38が各1試料、SR01･02が各1試料、SK06･23が各1試料である。最も多くの植物遺存体を出土したSI16では、炉及び床面から多量のクリ種子を出土している。大半は破片となって出土しているが、炉から2点、堆積土最下層付近から1点の完形も認められる。ほかにSI38やSK23などからはオニグルミ内果皮破片が少量、SI16からはトチノキ種子破片も少量見つかっている。



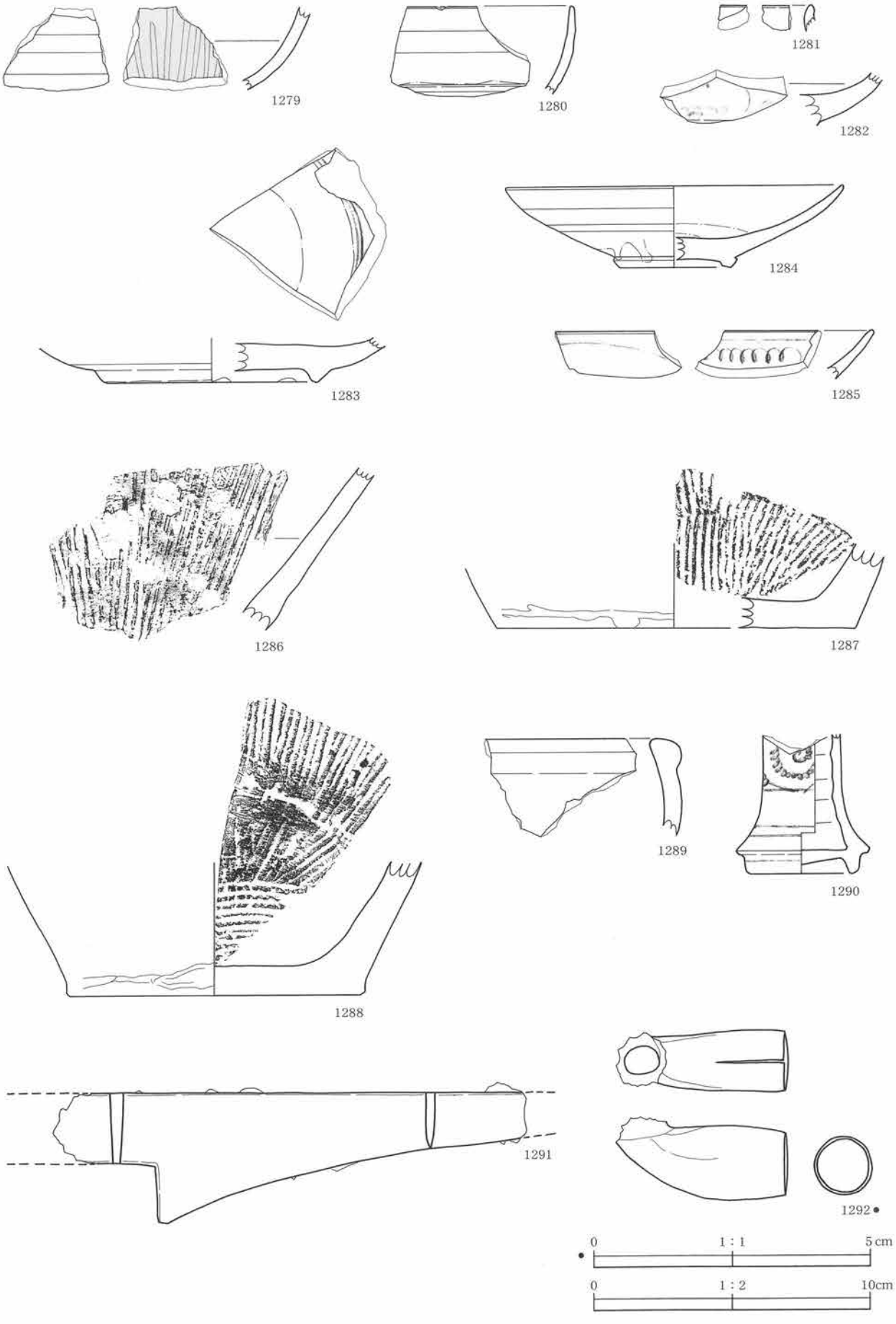
第207図　石製品(1)



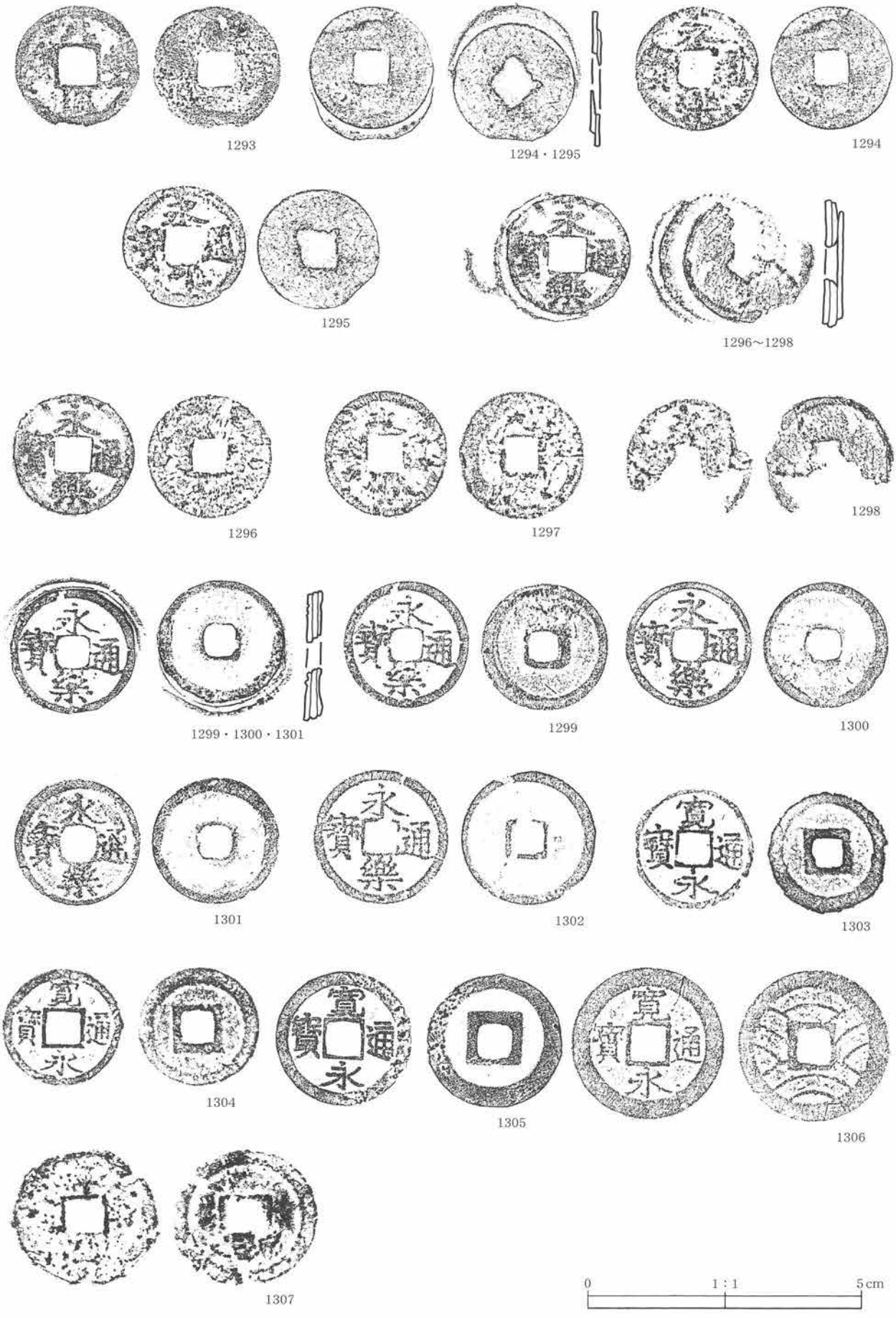
第208図　石製品(2)



第209図　石製品(3)



第210図　陶磁器　金属製品


1293
1294・1295
1294
1295
1296～1298
1296
1297
1298
1299・1300・1301
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
0
1：1
5cm

第211図　銭貨

観　察　表

(1)　出土位置は遺構を４分割している場合、北東をQNE、北西をQNW、南東をQSE、南西をQSWで示している。また、遺構を２分割している場合、北半をHN、東半をHE、南半をHS、西半をHWで示している。
(2)　法量は、（　）は欠損している場合の残存値、〔　〕は全形が想定できる場合の推定値を示している。
(3)　土器の胎土については、表面観察のみで行っている。金･黒は雲母、透明（長石）、白（不透明､石英）､繊維、細礫などで表示し、算用数字は面積割合（%）を示している。
(4)　土器の底部残存率については、完形を100%とし、5%刻みで表した（360°を10分割し、底部径を当てはめるもの）。
(5)　土器の容量計測については、北陸短期大学に協力して頂いた。
(6)　石器の法量値は、定形石器は実測図の通り、不定形石器は打点を上方とした時の数値で示している。
(7)　石器の刃部の記載について、形状は尖頭器･石鏃･石錐などの先端部を有するものは「先」とし、先端角を表示している。また、そのほかは平面･断面形状を記載し、刃部角度を3ヵ所以上計測した平均値を表示している。
(8)　石斧類について、自然面がある場合は欄に○、欠損の度合いは1～6で表示している。
(9)　敲磨器類について、機能部の記載は、磨面部は各部位の面数、敲部は各部位の主に観察される敲打箇所数、凹部は各部位の凹痕数をそれぞれ表示している。
(10)　玦状耳飾については特徴欄に内径値を記載している。

第39表　竪穴住居跡（SI）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）					堆積土の状況	床面積（㎡）	平面形	炉				被熱痕跡の状況
				上端		下端		深さ				形態	規模(cm)			
				長軸	短軸	長軸	短軸						長軸	短軸	深さ	
SI	01	7C20	Ⅳ層上面	533.0	(392.0)	520.0	(325.0)	48.0	3層	(14.7)	楕円形	石囲炉	75.0	65.0	7.5	弱変成
SI	02	8D2	Ⅳ層上面	641.0	(375.0)	641.0	(350.0)	39.0	1層	(18.5)	楕円形	地床炉	60.0	45.0	6.5	強変成
SI	03	7D17	Ⅳ層上面	335.0	(195.0)	307.0	(162.0)	20.0	1層	(5.5)	楕円形	地床炉	37.0	36.0	6.0	強変成
SI	04	12C13	Ⅳ層上面	(500.0)	(235.0)	–	–	14.0	4層	不明	楕円形か	–	–	–	–	–
SI	05	13C20	Ⅱ層上面	〔355.0〕	〔324.0〕	324.0	311.0	17.0	4層	〔7.5〕	円形	石囲炉	65.0	54.0	6.5	強変成
SI	06	14C17	Ⅲ層上面	〔389.0〕	352.0	〔369.0〕	330.0	22.0	3層	〔9.8〕	円形	地床炉	80.0	68.0	5.0	弱変成
SI	07	13C25	SI05下層	–	–	–	–	–	–	–	–	土器埋設石囲炉	60.0	43.0	7.0	強変成
SI	08	14C7	Ⅲ層上面	374.0	(296.0)	365.0	(285.0)	40.0	4層	(8.2)	円形	石囲炉	70.0	61.0	11.0	強変成
SI	09	14C2	Ⅳ層上面	295.0	(185.0)	268.0	(162.0)	10.0	1層	(2.4)	円形	地床炉	50.0	30.0	8.5	弱変成
SI	10	14C17	SI06·08下層	〔490.0〕	〔460.0〕	〔470.0〕	–	45.0	5層	〔19.0〕	円形	石囲炉	71.5	64.5	4.5	強変成
SI	11	14D1	Ⅲ層上面	460.0	(225.0)	445.0	(217.0)	49.0	6層	(7.0)	楕円形	–	–	–	–	–
SI	12	14C23	Ⅲ層上面	323.0	(193.0)	285.0	(170.0)	26.0	5層	(3.4)	円形	–	–	–	–	–
SI	13	15C21	SI17下層	(803.0)	(365.0)	784.0	(318.0)	70.0	8層	(15.4)	長方形	地床炉	43.0	(14.0)	6.0	強変成
SI	14	15C21	SI17下層	(475.0)	(200.0)	452.0	(190.0)	70.0	8層	(5.9)	円形	–	–	–	–	–
SI	15	14C13	SI06·08下層	〔600.0〕	(535.0)	–	(505.0)	55.0	5層	〔35.0〕	楕円形	土器埋設石囲炉	〔80.0〕	〔80.0〕	6.5	強変成
SI	16	20B8	Ⅲ層上面	520.0	(343.0)	490.0	(338.0)	70.0	17層	(14.0)	円形	石囲炉	96.0	50.0	8.0	強変成
SI	17	15C21	Ⅱ層上面	(377.0)	(298.0)	(293.0)	(253.0)	50.0	5層	(7.4)	円形	土器埋設地床炉	55.0	31.0	8.0	強変成
SI	18	15B19	SX03下層	503.0	〔405.0〕	433.0	〔311.0〕	103.0	6層	〔11.6〕	円形	石囲炉	73.5	55.0	3.0	弱変成
SI	19	15B24	SX03下層	(432.0)	〔370.0〕	(405.0)	–	96.0	6層	〔13.5〕	円形	土器埋設複式炉	119.0	51.0	10.0	強変成 弱変成
SI	20	20C10	SX06下層	〔550.0〕	〔500.0〕	–	–	50.0	5層	〔14.4〕	円形	地床炉	87.0	75.0	5.0	弱変成
SI	21	20C13	Ⅲ層上面	(495.0)	(390.0)	–	(373.0)	18.0	2層	(11.0)	不整円形	地床炉	65.0	39.0	4.5	弱変成
SI	22	20B8	SI23下層	〔540.0〕	〔420.0〕	–	–	10.0	4層	14.3	円形	土器埋設複式炉	108.0	60.5	6.0	強変成
SI	23	20B8	SI16下層	〔440.0〕	(335.0)	420.0	(327.0)	14.0	4層	(11.5)	円形	地床炉	81.0	65.0	4.0	強変成
SI	24	15D10	Ⅲ層下位	424.0	(257.0)	400.0	(240.0)	19.0	2層	(7.3)	円形	–	–	–	–	–
SI	25	15B21	SX07下層	〔550.0〕	〔500.0〕	–	–	66.0	3層(2)	〔14.6〕	円形	複式炉	77.0	63.0	11.0	強変成
SI	26	15C6	SX07下層	〔600.0〕	〔500.0〕	–	–	45.0	3層(1)	〔16.0〕	楕円形	石囲炉	83.0	61.0	1.0	弱変成
SI	27(新)	19B11	Ⅲ層上面	(432.0)	(261.0)	(411.0)	–	24.0	4層(2)	(7.4)	楕円形	地床炉	98.0	93.0	7.0	強変成 弱変成
SI	27(旧)			280.0	(210.0)	267.0	(198.0)	42.0	4層(2)	(4.2)	楕円形	–	–	–	–	–
SI	28	20B21	Ⅲ層	(577.0)	(280.0)	(557.0)	(270.0)	14.0	5層	(12.9)	長方形	–	–	–	–	–
SI	29	19B24	Ⅲ層	(497.0)	(313.0)	(487.0)	(289.0)	50.0	8層	(12.0)	長方形	–	–	–	–	–
SI	30	15C20	Ⅲ層下位	(740.0)	(190.0)	(720.0)	(174.0)	24.0	9層	(9.5)	長方形	地床炉	(211.0)	(64.0)	7.0	強変成
SI	31(前)	15C19	Ⅲ層下位	〔450.0〕	(220.0)	–	(180.0)	49.0	9層	(9.4)	長方形	地床炉	105.0	(88.0)	4.0	強変成
SI	31(後)			(615.0)	(220.0)	(585.0)	(195.0)	49.0		(10.4)	長方形					
SI	32	15C13	Ⅲ層下位	545.0	353.0	499.0	307.0	35.0	1層	12.5	楕円形	地床炉	88.0	88.0	6.0	強変成
												地床炉	77.0	37.0	–	強変成
												地床炉	37.0	21.0	–	強変成
SI	33	16C13	Ⅲ層下位	(273.0)	(163.0)	(268.0)	(135.0)	29.0	2層	(2.6)	円形	地床炉	85.0	65.0	12.0	強変成
SI	34	15C1	SI25下層	(554.0)	592.0	–	516.0	48.0	12層	(13.4)	長楕円形	–	–	–	–	–
SI	35	20B22	Ⅳ層上面	(268.0)	(143.0)	(252.0)	(135.0)	6.0	6層	(11.4)	方形	カマド	122.0	76.0	16.0	強変成
SI	36	20C10	SX06下層	(800.0)	〔480.0〕	(780.0)	〔450.0〕	33.0	5層	(26.7)	長方形	地床炉	62.0	26.0	–	弱変成
												地床炉	34.0	(13.0)	–	弱変成
												地床炉	30.0	(24.0)	–	弱変成
SI	37	14B24	SI25壁面	(430.0)	(171.0)	(392.0)	(87.0)	47.0	5層	(3.5)	円形	–	–	–	–	–
SI	38	15C12	SI34下層	(678.0)	500.0	(638.0)	437.0	32.0	2層	(24.2)	長方形	–	–	–	–	–

第40表　住居状遺構（SX）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）					堆積土の状況	床面積（㎡）	平面形	柱穴		重複関係	時期
				上端		下端		深さ				数	配置		
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SX	01	8C24	Ⅳ層上面	303.0	(200.0)	280.0	(180.0)	28.0	2層	(4.2)	楕円形	–	–		縄文時代前期末葉
SX	02	8D2	Ⅳ層上面	445.0	273.0	423.0	245.0	35.0	3層	(9.1)	楕円形	16	不明	SI02より新	縄文時代前期末葉～中期前葉
SX	03	15B24	Ⅱ層上面	317.5	310.0	298.0	259.0	41.0	4層	6.2	円形	–	–	SI18·19より新	縄文時代中期後葉
SX	04	15B21	Ⅱ層上面	536.0	474.0	467.0	413.0	47.0	3層	15.4	楕円形	–	–	SX07より新	縄文時代後期初頭
SX	05	16B21	Ⅲ層下位	385.0	(222.0)	262.0	(177.0)	111.0	–	(3.1)	円形	4	不明	SI19より新	縄文時代中期前葉
SX	06	20C10	Ⅲ層上面	503.0	468.0	450.0	406.0	52.0	6層	14.7	円形	–	–	SI20·36より新	縄文時代中期前葉
SX	07	15B21	SX04下層	490.0	486.0	304.0	263.0	80.0	3層	6.0	円形	–	–	SI25·26より新、SX04より旧	縄文時代後期初頭
SX	08	21B8	Ⅱ層中位	(387.0)	(240.0)	(325.0)	(276.0)	30.0	3層	(7.8)	方形	–	–	SD07より旧	縄文時代

柱穴		周溝	重複関係	時期	備考
数	配置				
34	五角形、六角形	−	−	縄文時代中期前葉	H15調査
25	長方形	−	SX02より旧	縄文時代前期末葉～中期前葉	柱穴はSX02と共通・H15調査
2	不明	−	−	縄文時代前期末葉	H15調査
−	−	−	−	縄文時代後期初頭	プラン不明の為、焼土範囲のみ・H15調査
−	−	−	SI07より新	縄文時代後期初頭	H15調査
−	−	−	SI08より旧、SI10・15より新	縄文時代後期初頭	H15調査
−	−	−	SI05より旧	縄文時代後期初頭	H15調査
9	不規則	有	SI06・09・10・15より新	縄文時代後期初頭	H15調査
−	−	−	SI08・SK16より旧	縄文時代中期前葉	H15調査
48(10)	方形、五角形	−	SI15より新、SI06・08より旧	縄文時代中期中葉	柱穴・堆積土はSI15と共通・H15調査
13	不規則	−	SD04より旧	縄文時代中期前葉	H15調査
−	−	−	SD04より旧	縄文時代前期末葉	H15調査
14	長方形	有	SI31より新、SI14・17・32・38・SD04より旧	縄文時代前期末葉～中期前葉	SI14と共通の層・H15調査
9	不明	−	SI13より新、SI17・SD04より旧	縄文時代中期中葉	SI13と共通の層・H15調査
48(8)	長方形	−	SI06・08・10より旧	縄文時代中期前～中葉	柱穴・堆積土はSI10と共通・H15調査
8	五角形、六角形	−	SI22・23・SK34より新	縄文時代中期後葉	H16調査
−	−	−	SI13・14より新、SD04より旧	縄文時代後期初頭	H16調査
18(4)	方形	−	SI19・SX03・SK41より旧	縄文時代中期前葉	柱穴・堆積土はSI19と共通　炉中央に土器設置痕有・H16調査
18(4)	方形	−	SI18より新、SX03より旧	縄文時代中期後葉	柱穴・堆積土はSI18と共通・H16調査
80	円形	有	SI21・36より新、SX06より旧	縄文時代中期初頭	柱穴・堆積土はSI36と共通・H16調査
4	不明		SI36より新、SI20・SX06より旧	縄文時代前期末葉	H16調査
61	六角形	有	SI16・23より旧	縄文時代中期前葉	柱穴はSI23と共通・H16～17調査
61	不明	−	SI22より新、SI16より旧	縄文時代中期後葉	柱穴はSI22と共通・H16調査
9	不規則	−	−	縄文時代	H16調査
6	六角形	−	SI26・34・37・38・SK42より新、SX04・07より旧	縄文時代中期中葉～後葉	H16調査
−	−	−	SI34・38より新、SI25・SX04・07・SK40より旧	縄文時代中期中葉～後葉	H16調査
20	不規則	− −	−	縄文時代前期後葉～中期前葉	H16調査
31	長方形	−	SI29・SR01・P259より旧	縄文時代前期後葉～中期前葉	H16・17調査
48	斜面下側に偏る	−	SI28・SK12より新	縄文時代中期前葉	H16・17調査
33	長方形	−	SI31より新、SI13・32・38・SD04より旧	縄文時代前期末葉	柱穴と堆積土はSI31と共通・H16調査
33	長方形	− −	SI30より新、SI31(後)・SD04より旧 SI30・31(前)より新、SD04より旧	縄文時代前期末葉 縄文時代前期末葉	柱穴と堆積土はSI30と共通・H16調査 H16調査
−	−	− − −	SI13・30・31・38より新	縄文時代前期末葉～中期前葉	H16調査
4	不明	−	−	縄文時代中期前葉	H16調査
60	長方形	有	SI38より新、SI25・26・37・SX04・07・SK40・42より旧	縄文時代中期前葉	H16調査
1	不明	−		平安時代	煙道の規模、長さ146cm・幅33cm・深さ15cmの溝形・H16調査
80	長方形	有	SI21・36・SX06・SD07より旧	縄文時代前期末葉	柱穴・堆積土はSI20と共通・H16調査
−	−	−	SI34より新、SI25・SX04・07より旧	縄文時代中期中葉	H16調査
68	長方形	有	SI13・30・31・SK45より新、SI25・26・32・34・SX04・07・SK40・43より旧	縄文時代前期末葉	床面の燃焼範囲、515×358cm(強変成)・H16調査

備考
H15調査
SI02と柱穴は共通・H15調査
H16調査
H16調査
H16調査
H16調査
H16調査
H16調査

第41表　土坑（SK）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）					底面標高（m）	形状		堆積土の状況	重複関係	時期	備考
				上端		下端		深さ		平面形	断面形				
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SK	01	8D19	Ⅳ層上面	122.0	100.0	94.0	86.0	16.0	233.351	円形	皿形	1層	－	縄文時代	H15調査
SK	02	8C12	Ⅳ層上面	100.0	95.0	70.0	67.0	32.0	235.540	円形	鍋底形	1層	－	縄文時代	H15調査
SK	03	12D19	Ⅳ層上面	114.0	90.0	88.0	77.0	43.0	230.580	円形	鍋底形	1層	－	縄文時代	H15調査
SK	04	12C20	Ⅳ層上面	231.0	166.0	116.0	53.0	161.0	230.270	楕円形	逆台形	4層	－	縄文時代中期中葉	H15調査
SK	05	8D12	Ⅳ層上面	100.0	90.0	114.0	113.0	63.0	233.563	円形	袋形	8層	－	縄文時代	H15調査
SK	06	13C21	Ⅳ層上面	160.0	93.0	96.0	86.0	57.0	231.010	不整円形	ビーカー形	6層	－	縄文時代中期中葉	H15調査
SK	07	6C20	Ⅳ層上面	171.0	134.0	130.0	89.0	36.0	236.335	不整円形	皿形	2層	－	縄文時代	H15調査
SK	08	12D9	Ⅳ層上面	137.5	102.0	124.5	97.0	82.0	230.526	不整円形	袋形	2層	－	縄文時代後期初頭	H15調査
SK	09	12D9	Ⅳ層上面	161.0	154.0	135.0	125.0	25.0	231.070	円形	皿形	5層	－	縄文時代中期中葉	H15調査
SK	10	14B22	Ⅳ層上面	187.0	153.0	193.0	151.0	41.0	232.832	円形	皿形	5層	SK14・P78より新	縄文時代中期中葉	H15調査
SK	11	13D6	Ⅳ層上面	115.0	102.0	84.0	77.0	50.0	230.842	不整円形	皿形	1層	－	縄文時代中期中～末葉	H15調査
SK	12	19B23	SI29床面	〔120.0〕	〔113.0〕	〔117.0〕	〔98.0〕	22.0	229.605	不整円形	皿形	6層	－	縄文時代	H17調査
SK	13	13C15	Ⅳ層上面	〔173.0〕	〔161.0〕	〔163.0〕	156.0	12.0	232.165	円形	皿形	2層	－	縄文時代後期初頭	H15調査
SK	14	14B22	SK10底面	140.0	104.0	127.0	105.0	42.0	232.565	円形	ビーカー形	4層	SK10より旧	縄文時代中期前葉	H15調査
SK	15	14C8	Ⅳ層上面	149.0	125.0	122.0	197.0	25.0	232.182	不整円形	皿形	1層	－	縄文時代前期末葉	H15調査
SK	16	14C2	Ⅳ層上面	140.0	126.0	147.0	135.0	80.0	232.048	円形	フラスコ形	11層	－	縄文時代中期前葉	H15調査
SK	17	13C17	Ⅳ層上面	113.0	94.0	80.0	66.0	39.0	231.243	円形	鍋底形	2層	－	縄文時代中期中葉	H15調査
SK	18	12D14	Ⅳ層上面	133.0	80.0	83.0	56.0	59.0	230.580	楕円形	鍋底形	1層	－	縄文時代	H15調査
SK	19	13C13	Ⅳ層上面	〔130.0〕	〔61.0〕	〔35.0〕	23.0	55.0	231.558	円形	鍋底形	3層	－	縄文時代前期末葉	H15調査
SK	20	14C24	Ⅳ層上面	〔150.0〕	90.0	〔138.0〕	74.0	23.0	230.847	楕円形	皿形	1層	－	縄文時代中期初～前葉	H15調査
SK	21	13C22	Ⅳ層上面	171.0	100.0	135.0	35.0	48.5	230.369	楕円形	溝形	4層	－	縄文時代中期中葉	H15調査
SK	22	14C7	SI10・15壁面	(86.0)	(70.0)	72.0	(65.0)	33.0	231.824	楕円形	皿形	3層	－	縄文時代	H15調査
SK	23	12C18	Ⅳ層上面	111.0	92.0	84.0	83.0	63.5	231.434	円形	ビーカー形	6層	－	縄文時代	H15調査
SK	24	14B24	Ⅳ層上面	158.0	150.0	〔115.0〕	〔94.0〕	80.0	232.321	円形	逆台形	12層	－	縄文時代	H16調査
SK	25	21C23	Ⅳ層上面	127.0	110.0	104.0	91.0	50.0	224.437	円形	不整形	11層	－	縄文時代	H16調査
SK	26	20B12	SI22床面	100.0	〔75.0〕	90.0	〔55.0〕	20.0	227.724	楕円形	皿形	2層	－	縄文時代前期末葉	H17調査
SK	27	20C19	SI21検出面	278.0	225.0	265.0	207.0	15.0	226.242	不整円形	皿形	2層	SI21より新	縄文時代中期前葉	H16調査
SK	28	15C10	Ⅳ層上面	127.0	110.0	115.0	94.0	12.0	230.802	不整円形	皿形	1層	SK33より新	縄文時代	H16調査
SK	29	21C16	Ⅳ層上面	146.0	140.0	128.0	102.0	14.0	225.945	不整円形	皿形	1層	SK30より新	縄文時代中期中葉	H16調査
SK	30	21C16	Ⅳ層上面	137.0	107.0	93.0	67.0	18.0	225.750	不整円形	皿形	2層	SK29より旧	縄文時代前期初～前葉	H16調査
SK	31	15C11	Ⅳ層上面	164.0	152.0	145.0	130.0	15.0	231.123	円形	皿形	1層	－	縄文時代前期末葉	H16調査
SK	32	22B10	Ⅲ層下位	148.0	138.0	122.0	116.0	13.0	225.330	台形	皿形	3層	－	不明	H16調査
SK	33	15C10	Ⅳ層上面	202.0	110.0	174.0	90.0	17.0	230.638	長方形	皿形	1層	SK28より旧	不明	H16調査
SK	34	20B11	Ⅲ層下位～Ⅳ層上面	(256.0)	248.0	219.0	205.0	30.0	228.330	円形	ビーカー形	9層	SI16より旧	縄文時代前期末葉～中期前葉	H16調査
SK	35	16C11	Ⅳ層上面	(120.0)	115.0	91.0	54.0	16.0	229.758	楕円形	皿形	1層	SK36より旧	不明	H16調査
SK	36	16C16	Ⅳ層上面	126.0	107.0	82.0	50.0	29.0	229.689	楕円形	皿形	1層	SK35より新	不明	H16調査
SK	37	22B16	Ⅲ層下位	202.0	65.0	178.0	45.0	28.0	225.390	長楕円形	逆台形	4層	－	不明	H16調査
SK	38	12D14	Ⅳ層上面	125.0	109.0	80.0	58.0	58.0	224.346	不整円形	鍋底形	1層	－	縄文時代後期初頭	H16調査
SK	39	19C8	Ⅳ層上面	214.0	181.0	179.0	146.0	197.0	225.460	円形	フラスコ形	22層	－	縄文時代早期末葉～前期初葉	H16調査
SK	40	15C3	Ⅳ層上面	158.0	(93.0)	142.0	(102.0)	67.0	231.044	円形	ビーカー形	4層	SI26・34・38より旧	縄文時代中期前葉	H16調査
SK	41	15B17	Ⅳ層上面	133.0	116.0	55.0	49.0	74.5	232.180	円形	逆台形	10層	SI18・19より新	縄文時代中期後葉以降	H16調査
SK	42	14B25	SI26壁面	115.0	〔90.0〕	87.5	〔63.5〕	60.0	232.430	楕円形	逆台形	－	－	不明	H16調査
SK	43	15C9	SI38床面	〔146.0〕	〔93.0〕	〔124.0〕	〔70.0〕	50.0	230.668	楕円形	鍋底形	－	SI32・38より旧	縄文時代中期初頭以前	H16調査
SK	44	15D5	SD04堆積土	167.0	105.0	68.0	〔38.0〕	208.0	227.008	楕円形	円筒形	12層	－	中世以降	H16調査
SK	45	15C14	SI32床面	150.0	98.0	130.0	87.0	15.0	230.175	楕円形	皿形	1層	SI32より旧	縄文時代	H16調査
SK	46	20B8	SI22床面	147.0	86.0	125.0	73.0	15.0	227.612	楕円形	皿形	－	－	縄文時代中期初頭以前	H17調査
SK	47	20C1	Ⅳ層上面	118.0	114.0	68.0	63.0	48.0	227.212	円形	逆台形	2層	－	縄文時代早期末葉	H17調査

第42表　土器埋設遺構（SR）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）					堆積土の状況	掘り方の形状		土器の設置状況	重複関係	時期	備考
				上端		下端		深さ		平面形	断面形				
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SR	01	20B17	Ⅲ層上面	35.0	28.0	21.0	－	20.0	2層	円形	鍋底形	正位	SI28より新	縄文時代中期前葉	H15調査
SR	02	15C17	Ⅲ層上面	27.0	25.0	15.0	－	〔25.0〕	1層	円形	鍋底形	やや斜位	SI32より新	縄文時代中期前葉	H15調査

第43表　配石遺構（SH）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）		設置標高（m）	設置条件	重複関係	時期	備考
				長軸	短軸					
SH	01	19C4	Ⅲ層上面	64.0	47.0	227.820	扁平礫7個を楕円形に配置	－	縄文時代中期前葉	H16調査

第44表　焼土跡・炉跡（SF）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）			平面形	被熱痕跡の状況	時期	備考
				長軸	短軸	深さ				
SF	01	8D15	Ⅳ層上面	26.5	21.5	4.0	不整円形	強変成	縄文時代	H15調査
SF	02	8D23	Ⅳ層上面	26.5	21.5	7.5	不整円形	強変成	縄文時代	H15調査
SF	03	8E2	Ⅳ層上面	29.0	29.0	3.5	不整円形	強変成	縄文時代	H15調査
SF	04	13D1	Ⅳ層上面	47.5	37.0	1.5	不整円形	弱変成	縄文時代	H15調査
SF	05	13C15	Ⅱ層上面	31.5	27.5	6.0	不整形	強変成 弱変成	縄文時代	H15調査
SF	06	6E13	Ⅳ層上面	98.0	34.0	6.5	不整長形	強変成	縄文時代	H15調査
SF	07	14C11	Ⅱ層下位	63.5	38.0	6.0	不整形	強変成	縄文時代	H15調査
SF	08	13C15	Ⅱ層下位	38.0	26.0	5.5	不整円形	弱変成	縄文時代	H15調査
SF	09	14C17	Ⅱ層下位	19.0	10.0	3.0	不整形	弱変成	縄文時代	H15調査
SF	10	14C6	Ⅱ層下位	51.5	21.5	4.0	楕円形	弱変成	縄文時代	H15調査
SF	11	14C11	Ⅲ層上面	39.0	28.5	5.0	不整円形	弱変成	縄文時代	H15調査
SF	12	16B17	採掘坑上面	55.0	37.0	13.5	楕円形	強変成	近世以降か	H15調査・石組を持つ
SF	13	13C19	Ⅲ層上面	29.5	(24.0)	2.5	方形	強変成 弱変成	縄文時代	H15調査
SF	14	14D13	Ⅳ層上面	45.5	37.0	11.0	円形	強変成 弱変成	縄文時代	H15調査
SF	15	14C21	Ⅲ層上面	21.0	15.0	7.0	不整形	弱変成	縄文時代	H15調査
SF	16	12C12	Ⅳ層上面	33.0	20.5	3.0	不整形	強変成	縄文時代	H15調査
SF	17	22B9	Ⅱ層上面	28.0	13.0	6.0	不整円形	強変成 弱変成	縄文時代	H16調査
				21.0	19.5	3.0				
SF	18	20C1	Ⅲ層上面	21.5	18.5	3.0	不整円形	弱変成	縄文時代	H16調査
SF	19	20C12	Ⅲ層上面	53.0	41.0	7.0	不整形	強変成 弱変成	縄文時代	H16調査
SF	20	20C13	SI21堆積土直上	71.5	52.0	5.0	不整形	強変成	縄文時代	H16調査
SF	21	19C8	Ⅲ層上面	62.5	44.0	5.5	不整形	強変成	縄文時代	H16調査
SF	22	19C4	Ⅲ層上面	38.0	27.0	6.0	円形	強変成	縄文時代	H16調査
SF	23	19B24	Ⅲ層上面	39.0	26.0	5.0	不整楕円形	強変成	縄文時代	H16調査
SF	24	15C14	Ⅲ層上面	61.0	53.5	7.0	不整円形	強変成 弱変成	縄文時代	H16調査

第45表　堀・溝跡（SD）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	種別	規模（cm）						形状		軸方向	堆積土の状況	重複関係	時期	備考
					上端		下端		深さ	底面標高（m）	平面形	断面形					
					長軸	短軸	長軸	短軸									
SD	01	8D18,19,22	Ⅳ層上面	溝	(595.0)	68.0	(580.0)	31.0	10.0	233.484	溝形	皿形	N−55°−W	1層	−	不明	H15調査
SD	02	8D20,22～24	Ⅳ層上面	溝	(778.0)	56.0	(778.0)	31.0	16.0	233.208	溝形	皿形	N−43°−W	1層	−	不明	H15調査
SD	03	8D22～24	Ⅳ層上面	溝	(393.0)	29.0	(344.0)	18.0	4.0	233.206	溝形	皿形	N−45°−W	1層	−	不明	H15調査
SD	04	12D～15D,15C,16C,16D	Ⅱ層上面	堀	4940.0	466.0	4450.0	62.0	309.0	225.721	溝形	V字形	N−55°−W～N−75°−W	13～22層	SI11～14、30・31より新 SK44より旧	中世か	H15～17調査
SD	05	13C7,12,17,21	Ⅳ層上面	溝	(1030.0)	71.0	(810.0)	58.0	37.0	230.974	溝形	鍋底～皿形	N−25°−E	2層	−	不明	H15調査
SD	06	13C12,13	Ⅳ層上面	溝	300.0	73.0	258.0	40.0	29.0	231.948	溝形	鍋底形	−	1層	−	不明	H15調査
SD	07	21B～C	Ⅱ層上面	堀	(2420.0)	443.0	(2420.0)	158.0	162.0	221.999	溝形	逆台形	斜面上側N−23°−E.斜面下側N−40～70°−E	7～10層	SI36、SX08より新	中世か	H16調査

第46表　墓坑（SZ）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）						形状		堆積土の状況	重複関係	時期	備考
				上端		下端		深さ	底面標高（m）	平面形	断面形				
				長軸	短軸	長軸	短軸								
SZ	01	7D16	Ⅳ層上面	138.0	104.0	96.0	79.0	39.5	234.380	台形	鍋底形	3層	−	近世以降か	H15調査
SZ	02	13C14	Ⅲ層上面	175.0	148.0	146.0	116.0	48.0	232.010	方形	鍋底形	1層	−	近世以降か	底面に扁平礫4個を方形に配置・H15調査

第47表　井戸跡（SE）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	検出層位	上部施設の規模（cm）					下部施設の規模（cm）					堆積土の状況	形状		重複関係	時期	備考
				上端		下端		深さ	上端		下端		深さ		平面形	断面形			
				長軸	短軸	長軸	短軸		長軸	短軸	長軸	短軸							
SE	01	25C14	Ⅳ層上面	282.0	228.0	252.0	212.0	32.0	68.0	52.0	38.0	35.0	(165.0)	3層	方形	皿形	−	近世以降	H16調査

第48表　ピット（P）観察表

種別	番号	位置（グリッド）	規模（cm）					底面標高（m）	堆積状況		出土遺物
			上端		下端		深さ		層位	主体堆積土	
			長軸	短軸	長軸	短軸					
P	1	8D3	72.0	65.0	49.0	43.0	15.8	233.409	1	10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや疎 黄橙ブロック(径1cm)微量含む	
P	2	6C22	97.0	96.0	75.0	66.0	48.0	237.398	2	1.10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 程度)多量含む 2.10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 程度)少量含む	
P	3	7D8	98.0	83.0	18.0	12.0	61.3	234.914	1	10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 褐色土を縞状に含む	土器1片(15g)
P	4	6D1	65.0	42.0	18.0	15.0	6.5	236.545	2	1.10YR2/3黒褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む 2.10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	5	6D2	72.5	66.0	58.0	19.5	27.8	236.382	1	10YR4/6褐 粘性弱 しまりやや密	
P	6	6D8	36.0	31.5	32.0	28.5	不明	不明	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)微量含む	
P	7	6D7	48.0	35.5	6.0	4.0	27.3	235.570	3	1.10YR3/3暗褐 粘性弱 しまり疎 2.10YR6/6明黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎 3.10YR4/6褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	8	6D7	66.0	27.5	11.5	11.0	21.3	235.477			
P	9	6D12	68.5	45.0	12.0	8.5	27.8	235.300	1	10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや密	
P	10	6D12	45.5	39.0	8.0	6.0	20.0	235.350	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	11	6D12	45.5	31.5	7.0	6.0	26.0	235.135	1	10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	12	6D12	48.0	46.0	15.0	4.5	44.0	235.090	1	10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	13	6D17	49.5	45.0	6.0	5.0	21.0	234.880	2	1.10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR4/6褐 粘性やや弱 しまりやや密	
P	14	5C25	56.0	50.0	30.0	22.0	20.0	236.935	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	15	5D9	39.5	32.5	10.0	6.0	18.0	236.210	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり疎	
P	16	5D9	45.5	30.0	32.0	31.0	33.5	235.835	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	17	5D15	66.0	38.0	12.0	8.0	22.0	235.415	1	10YR4/4褐 粘性弱 しまり疎	
P	18	5D15	50.5	39.5	10.0	9.5	31.5	235.385	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまり疎 黄褐ブロック(径2cm)少量含む	
P	19	5D14	40.0	38.0	20.0	11.0	20.0	235.405	1	10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	20	5D25	76.5	32.0	16.0	10.0	22.5	234.615	1	10YR4/4褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	21	5C23	112.5	100.0	32.0	16.5	38.0	237.240	2	1.10YR2/2黒褐 粘性中 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む 2.10YR5/6黄褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	22	5C23	60.0	31.0	26.0	8.0	27.0	237.185	1	10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	23	5C22	64.0	46.0	19.5	14.0	26.0	237.335	2	1.10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む 2.10YR4/6褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	24	5C22	68.5	55.0	18.0	16.0	29.8	237.247	2	1.10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む 2.10YR4/6褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	25	5D4	98.0	58.0	26.0	21.5	44.5	236.500	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	26	5D3	38.0	32.0	24.0	22.0	33.0	236.665	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	27	5D3	69.0	63.0	21.5	10.0	30.5	236.495	1	10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	28	5D3	39.5	30.5	14.0	11.5	31.5	236.555	2	1.10YR3/2黒褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む 2.10YR3/4暗褐 粘性中 しまりやや疎	
P	29	5D8	61.0	46.0	12.0	11.5	55.0	236.050	1	10YR3/3暗褐 粘性中 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)微量含む	
P	30	5C22	50.0	42.0	14.0	10.0	33.0	237.170	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	31	5D1	62.0	61.0	15.0	13.0	47.0	236.430	1	10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	32	4D5	77.0	74.0	63.0	61.0	26.0	236.885	1	10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	33	5D6	62.0	52.0	36.0	34.0	29.5	236.230	1	10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	34	8D4	90.0	79.0	78.0	49.0	38.5	234.060	1	10YR6/6明黄褐 粘性弱 しまり密 地山再堆積か(人為か)地山に似た土質だがちょっと暗い	
P	35	8D15	60.0	58.0	50.0	43.0	23.5	233.375	2	1.10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	36	8D11	48.0	30.0	10.0	9.0	29.3	234.157	2	1.10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR3/3暗褐 粘性弱 しまり疎黄褐地山ブロック少量含む	
P	37	8D12	32.0	30.0	21.0	20.0	50.7	233.785	2	1.10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR4/6褐 粘性やや弱 しまりやや密	
P	38	8D11	29.0	26.0	10.0	8.0	29.1	234.040	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや密	
P	39	8D21	40.0	36.0	18.0	14.0	69.5	232.890	1	10YR3/4暗褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	40	8E6	49.0	40.0	24.0	16.0	84.0	232.350	2	1.10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 柱痕 2.10YR4/6褐＋10YR5/6黄褐の混合 粘性弱 しまりやや密 柱あたり(埋め土)	
P	41	6D4	128.0	105.0	106.0	86.0	26.5	235.915	1	10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	42	6D20	110.0	85.0	60.0	54.0	34.5	234.710	3	1.10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR3/4暗褐＋10YR4/6褐の混合粘性弱 しまり密 3.10YR4/6褐 粘性弱 しまり密	
P	43	7E8	96.0	80.0	70.0	54.0	47.5	232.630	2	1.10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR2/3黒褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性弱 しまりやや密	
P	44	6E10	38.0	35.0	14.0	13.0	47.0	231.945	1	10YR3/4暗褐＋10YR6/8明黄褐の混合 粘性やや弱 しまりやや密	
P	45	8D17	36.0	32.0	13.0	12.5	38.2	233.555	1	10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径5cm 亜角)少量含む	礫石錘1点
P	46	8C22	80.0	64.0	54.0	30.0	65.8	234.417	3	1.10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 明黄褐粘土質ブロック(径5cm)少量含む 2.10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 明黄褐粘土質ブロック(径5cm)多量含む 3.10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	47	8D9	34.0	24.0	10.0	8.0	21.3	233.894	2	1.10YR3/4褐 粘性弱 しまりやや密 2.10YR6/8明黄褐 粘性弱 しまり密 暗褐土を含む	
P	48	8D14	24.0	21.0	14.0	12.0	36.1	233.607	1	10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや密	
P	49	8D19	22.0	21.0	16.0	14.0	44.1	233.226	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	50	8D24	32.0	24.0	19.0	14.0	38.0	232.944	1	10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや密	
P	51	8D19	31.0	23.0	12.0	11.0	31.2	233.256	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	52	8D19	40.0	30.5	12.0	10.0	74.0	232.840	2	1.10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物2%含む 2.10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物2% 明黄褐土含む	
P	53	8D20	33.0	30.0	21.0	16.0	30.5	233.145	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	54	8D25	42.0	36.0	20.0	19.5	81.5	232.340	2	1.10YR3/4暗褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎 2.10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	55	8D22	44.0	40.0	13.5	12.0	79.8	232.827	1	10YR4/6褐＋10YR6/6明黄褐の混合 粘性やや弱 しまりやや疎	

種別	番号	位置（グリッド）	規模（cm）						堆積状況		出土遺物
			上端		下端		深さ	底面標高（m）	層位	主体堆積土	
			長軸	短軸	長軸	短軸					
P	56	8D22	24.0	23.5	13.5	12.0	17.0	233.380	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎	
P	57	8E2	50.0	42.0	16.0	14.0	67.8	232.647	2	1.10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 2.10YR6/8明黄褐 粘土質粘性やや弱 しまりやや疎 掘り上げた､層で埋めている	
P	58	7E10	44.5	37.0	18.0	17.5	60.2	232.598	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	59	7E4	44.0	36.0	9.5	9.0	52.5	233.180	1	10YR4/4～6褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	60	7D24	38.0	32.0	16.0	8.0	60.5	233.185	2	1.10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 2.10YR4/4褐 粘性やや弱しまりやや疎	
P	61	12C6	48.5	47.0	28.0	24.0	60.8	232.227	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)少量含む	
P	62	12C6	44.0	42.0	34.0	26.0	53.0	232.335	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)少量含む	
P	63	12C6	36.0	32.0	30.0	27.5	24.5	229.550	1	10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	
P	64	12C8	36.5	28.0	27.0	20.0	45.0	232.235	1	10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや密	
P	65	12C8	28.0	26.0	17.0	16.5	20.7	232.425	1	10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	
P	66	12C8	44.0	38.0	34.0	30.0	32.0	232.350	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや密	
P	67	12C8	50.0	41.5	25.0	20.0	53.3	232.132	2	1.10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む 2.10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや密	
P	68	12C9	32.0	28.0	20.0	18.5	27.2	232.380	2	1.10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや疎 中礫(径1～5cm 亜角)少量含む 2.10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	
P	69	12C9	42.0	41.5	26.0	9.5	34.8	232.307	1	10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	
P	70	12C9	46.0	40.0	22.0	20.0	53.0	232.080	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや弱 中礫(径1～3cm 亜角)少量含む	
P	71	12C14	46.5	32.0	19.0	16.0	29.0	232.195	1	10YR3/3暗褐 粘性弱 しまりやや密 中礫(径1～3cm 亜角)少量含む	
P	72	13C21	46.0	38.0	26.0	24.0	63.1	231.037	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1cm以下 亜角)少量含む	土器3片(25g)
P	73	12C25	89.5	78.5	66.0	60.0	44.7	231.208	3	1.10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物1%含む 2.10YR2/3黒褐 粘性中 しまりやや疎 炭化物1%含む 3.10YR3/4暗褐 粘性中 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	土器2片(190g)→594
P	74	12C23	54.0	40.0	24.0	20.0	48.3	231.185	1	10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	土器10片(110g)→595
P	75	12D2	68.0	60.5	34.0	30.0	87.3	230.765	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む 中～大礫(径10cm以下)微量含む	土器9片(115g)、礫器、石皿･台石類各1点
P	76	13C17	50.0	42.0	30.0	26.0	38.4	231.414	1	10YR2/3黒褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	土器14片(110g)、敲磨器類1点
P	77	13C4	120.0	85.0	99.0	68.0	35.0	233.105	3	1.10YR4/6褐 粘性中 しまりやや疎 斑点状に明黄褐粘土質小ブロック(径1cm)を少量含む 2.10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎 3.10YR3/4暗褐＋10YR7/8黄橙の混合 粘性やや弱～中 しまりやや疎	
P	78	14B22	〔78.0〕	〔75.0〕	〔65.0〕	〔60.0〕	47.4	233.000	1	10YR3/4暗褐 粘性中 しまり疎 褐粘土質小ブロック小量散在	石匙1点
P	79	12D14	91.0	83.0	83.0	73.0	18.0	231.038	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	80	12D9	80.0	75.0	72.0	60.0	15.2	231.166	1	10YR3/3暗褐 粘性中 しまりやや疎	土器1片(20g)
P	81	12D3	94.0	80.0	60.0	40.0	101.8	230.580	2	1.10YR3/4暗褐 粘性弱 しまりやや疎 2.10YR4/4褐 粘性中 しまりやや密 中礫(径1～3cm 亜角)少量含む	土器40片(535g)→597･598、敲磨器類2点
P	82	12D3	70.0	60.0	58.0	50.0	16.5	231.405	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	土器59片(680g)→599･600
P	83	13C5	155.0	100.0	145.0	93.0	35.6	232.742	3	1.10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 2.10YR3/3暗褐 粘性中しまりやや疎 3.10YR4/6褐 粘土質 粘性中 しまりやや疎	土器17片(250g)、敲磨器類1点
P	84	12D3	63.0	51.0	49.5	40.5	33.2	231.300	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	土器164片(3095g)→601～603、二次加工1点
P	85	12C17	84.0	79.0	52.0	51.0	33.2	231.940	2	1.10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎 2.10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	土器19片(190g)→604･605
P	86	14C3	34.0	24.0	16.0	7.0	25.9	232.250	1	10YR2/2黒褐 粘性弱 しまりやや疎	土器4片(45g)
P	87	14C9	38.0	30.5	20.0	18.0	73.0	231.370	1	10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	土器9片(110g)→606
P	88	14C20	26.0	22.0	8.5	4.0	17.7	231.318	1	10YR4/3にぶい黄褐 粘性弱 しまり疎	
P	89	14C23	26.5	25.5	20.0	18.5	21.0	231.225	1	10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまり疎	
P	90	14C8	30.0	27.0	12.0	7.5	30.5	232.060	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまり疎	
P	91	13D1	46.0	30.0	14.0	13.5	68.6	230.695	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	
P	92	13D6	35.0	26.0	8.0	7.5	43.4	230.745	1	10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	93	12D5	27.0	24.0	10.0	9.5	37.2	230.989	1	10YR4/3にぶい黄褐 粘性やや弱 しまりやや疎	土器1片(10g)
P	94	12D5	39.5	20.0	6.5	6.0	15.2	231.322	1	10YR3/2黒褐 粘性弱 しまりやや疎	土器4片(25g)
P	95	12C25	38.0	26.0	10.0	8.0	18.1	231.455	1	10YR2/3黒褐 粘性弱 しまりやや疎	土器1片(10g)
P	96	12C25	28.0	26.0	12.0	7.5	46.8	231.168	2	1.10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎 2.10YR5/3にぶい黄褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1～2cm 亜角)少量含む	土器3片(25g)、スクレイパー、二次加工各1点
P	97	13C21	52.0	39.0	22.0	12.0	19.5	231.371	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	98	12D4	90.0	63.0	60.0	48.0	19.2	231.402	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1cm 亜角)少量含む	土器8片(80g)
P	99	12D4	55.0	44.0	40.0	36.0	24.1	231.342	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中礫(径1cm 亜角)少量含む	土器1片(10g)
P	100	12D4	39.5	36.0	30.0	29.0	34.0	231.217	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや密 中～大礫(径5～20cm 亜角)少量含む	土器2片(15g)
P	101	12D4	58.0	46.0	34.0	27.0	38.0	231.070	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや密	土器2片(10g)、礫器1点
P	102	12D5	35.0	32.0	23.0	12.0	16.9	231.218	1	10YR4/4褐 粘性弱 しまりやや密	土器2片(25g)
P	103	12C24	30.0	22.0	20.0	16.0	21.0	231.390	1	10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	104	12C11	〔36.0〕	〔16.0〕	不明	不明	〔44.1〕	232.146	1	10YR3/3暗褐 粘性弱しまりやや疎 中礫(径1cm 亜角)少量含む	
P	105	12C12	36.0	28.0	23.0	16.0	40.9	232.168	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	106	12C12	26.0	23.0	18.0	14.0	49.0	232.057	1	10YR3/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	107	12C7	29.0	24.0	22.0	12.0	19.7	232.493	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	108	12C7	36.0	20.0	16.0	8.0	17.3	232.559	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎	
P	109	12C7	18.5	16.5	9.5	8.0	18.6	232.497	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	110	12C7	34.0	24.5	14.0	13.0	22.4	232.395	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	111	12C9	24.0	23.0	18.0	12.0	22.5	232.330	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	112	12C14	40.0	32.0	14.0	10.0	26.8	232.244	1	10YR2/2黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	113	12C14	28.0	12.0	17.0	8.0	17.6	232.285	1	10YR2/3黒褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	114	12C10	46.0	26.0	18.0	9.0	28.1	232.543	1	10YR3/3暗褐 粘性やや弱～中 しまりやや疎	

種別	番号	位置(グリッド)	規模(cm)						堆積状況		出土遺物
			上端		下端		深さ	底面標高(m)	層位	主体堆積土	
			長軸	短軸	長軸	短軸					
P	115	12C10	18.0	14.0	10.0	9.5	31.0	232.690	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	116	12C15	20.0	15.5	7.5	7.0	19.0	232.383	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	117	12C15	36.0	30.0	18.0	14.0	25.3	232.193	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	118	12C15	34.0	24.0	22.0	8.0	20.5	232.137	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	119	12C20	43.0	34.0	24.0	18.0	53.4	231.701	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	120	12C10	30.0	29.5	16.0	14.0	29.1	232.450	1	10YR3/3暗褐　粘性弱　しまりやや密	
P	121	13C22	76.0	74.0	49.0	42.0	43.8	231.210	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫(径1cm以下 亜角)少量含む	土器18片(180g)→607
P	122	13C22	38.0	23.0	14.0	13.5	52.9	230.997	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎～やや密	土器1片(5g)
P	123	13C21	31.0	29.5	18.0	17.5	26.9	231.273	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや密　中礫(径1cm以下 亜角)少量含む	土器1片(15g)
P	124	13C21	(32.0)	24.0	14.0	12.0	34.0	231.167	1	10YR4/3にぶい黄褐　粘性やや弱～弱　しまりやや疎	
P	125	13C16	34.0	26.0	26.0	14.5	22.3	231.545	1	10YR3/4暗褐　粘性弱　しまりやや密	
P	126	12C25	32.0	30.0	17.0	14.0	43.0	231.135	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫(径1～2cm亜角)少量含む	土器6片(60g)
P	127	12D5	38.0	30.0	16.0	15.5	28.2	231.238	1	10YR3/4暗褐　粘性弱　しまりやや密	
P	128	12D3	28.0	25.0	18.0	12.0	32.3	231.257	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや密　中礫(径1cm以下 亜角)少量含む	
P	129	12D14	80.0	76.0	60.0	50.0	65.2	230.569	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　大～巨礫　径10～30cm位 亜角)多量含む	土器4片(30g)、石鏃2点
P	130	12C20	(55.0)	(35.0)	(45.0)	(30.0)	(19.3)	231.866	1	10YR3/3暗褐　粘性弱　しまりやや疎	土器1片(30g)
P	131	12C24	54.0	38.0	35.0	23.0	24.0	231.348	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや密	土器4片(65g)
P	132	14C1	65.0	64.0	56.0	54.0	27.5	232.654	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり疎 明黄褐土(径3cm)少量散在	
P	133	12C11	(34.0)	22.0	14.0	12.0	14.5	232.521	1	10YR3/2黒褐　粘性やや　しまりやや疎	土器1片(5g)
P	134	12C7	38.0	(35.0)	28.0	20.0	16.6	232.506	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	135	12C13	28.0	26.0	11.0	10.0	12.8	232.392	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器1片(30g)
P	136	12C8	36.0	27.0	13.0	10.0	16.8	232.370	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	137	12C12	28.0	22.0	24.0	18.0	20.0	232.361	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	138	12C12	34.0	30.0	28.0	24.0	4.9	232.431	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	139	12C17	43.0	30.0	14.0	7.5	52.8	231.767	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱～中　しまりやや疎	土器2片(30g)
P	140	12C18	30.0	26.0	8.0	7.5	49.8	231.802	1	10YR3/2黒褐　粘性弱 しまりやや疎	
P	141	13C18	48.0	40.0	42.0	14.0	70.9	231.529	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱～弱　しまりやや疎 中礫(径1cm亜角)少量含む	
P	142	13C18	86.0	73.0	47.0	41.0	96.9	230.902	4	1.10YR2/3黒褐　粘性中　しまり疎 暗黄褐粘土質ブロック(径5cm)少量含む 2.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　3.10YR3/2黒褐　粘性中 しまり疎　4.10YR5/3にぶい黄褐　粘性中　しまりやや疎	土器16片(270g)→608･609
P	143	13C3	30.0	29.0	18.0	17.0	22.5	232.977	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	144	13C4	28.0	18.0	10.0	6.0	14.5	232.951	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	145	13C4	20.0	19.5	14.0	13.0	8.5	233.104	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	146	13C8	17.0	16.5	12.0	8.0	17.6	232.438	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	147	13C8	24.0	23.0	22.0	8.0	21.9	232.487	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	148	13C10	18.0	16.0	6.0	4.5	13.8	232.250	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	149	13C15	28.0	25.0	14.0	13.0	18.3	232.027	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	150	13C15	24.0	23.0	17.0	9.5	18.5	231.983	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	151	13C15	20.0	19.0	16.0	14.0	16.7	231.996	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	152	13C15	40.0	31.0	33.0	20.0	17.3	231.970	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまり疎	土器4片(110g)→610
P	153	13C14	17.0	16.0	8.0	6.0	20.0	231.739	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	154	13C19	21.0	20.5	10.0	6.0	23.6	231.526	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	155	13C19	18.0	14.0	5.0	4.5	17.5	231.679	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	156	13C19	34.0	16.0	26.0	10.0	23.3	231.489	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	157	13C15	17.0	14.0	6.0	5.0	15.4	231.696	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	158	13C19	36.0	26.0	12.0	10.0	24.3	231.528	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	159	13C15	46.0	38.0	46.0	12.0	32.1	231.696	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまり疎	
P	160	13C19	51.0	50.0	30.0	28.0	36.2	231.158	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物1%含む	
P	161	13C24	54.0	50.0	34.0	10.0	37.6	231.012	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	162	13C24	(40.0)	30.0	(33.0)	22.0	16.9	231.408	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	163	13C24	(70.0)	55.0	24.0	16.0	33.3	231.050	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物1%含む	土器4片(75g)
P	164	13D2	95.0	86.0	23.0	18.0	65.4	230.765	2	1.10YR3/2黒褐　粘性中　しまりやや疎　炭化物2%含む　2.10YR3/4暗褐　粘性中　しまりやや疎～密	土器33片(870g)→611～613
P	165	13D13	32.0	26.0	20.0	16.0	18.9	231.003	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	166	13D13	37.0	(30.0)	26.0	(22.0)	36.5	230.688	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	石鏃1点
P	167	12D13	98.0	66.0	86.0	44.0	55.2	230.633	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器1片(10g)、石鏃、楔形石器各1点
P	168	12D4	44.0	28.0	16.0	14.0	39.0	231.202	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎～やや密	
P	169	12D4	36.0	34.0	28.0	24.0	55.4	230.957	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	170	12D3	28.5	27.5	26.0	23.0	36.5	213.257	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎～やや密	
P	171	12C22	36.0	28.0	28.0	24.0	30.4	231.372	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	172	12D13	42.0	30.0	30.0	20.0	25.6	231.010	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	173	12D25	25.0	18.0	17.0	14.0	37.1	231.297	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	174	13C25	76.0	72.0	66.0	62.0	26.3	231.033	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器12片(160g)
P	175	12C25	76.0	66.0	62.0	58.5	13.4	231.089	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器1片(15g)
P	176	13D4	80.0	74.0	40.0	39.0	80.2	230.239	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱～中　しまり疎	
P	177	15D6	28.0	24.0	14.0	11.0	23.0	229.550	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	178	14D10	28.0	25.0	21.0	19.5	30.5	229.555	1	10YR4/4褐 粘性やや弱 しまりやや疎	土器7片(135g)→614、剥片石器4点
P	179	14D9	32.0	30.0	16.0	14.0	38.0	229.665	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	
P	180	14D8	20.0	18.0	13.0	12.0	17.8	230.050	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまりやや疎	

種別	番号	位置（グリッド）	規模（cm）						堆積状況		出土遺物
			上端		下端		深さ	底面標高（m）	層位	主体堆積土	
			長軸	短軸	長軸	短軸					
P	181	14D7	24.0	23.0	15.0	14.0	19.5	230.005	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	182	14D7	82.0	46.0	40.0	30.0	61.6	229.710	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	183	14D6	54.0	31.0	28.0	26.0	35.5	230.018	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器4片（95g）
P	184	14D15	19.5	16.0	16.0	14.0	20.7	230.260	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器7片（100g）
P	185	14D15	65.0	46.0	46.0	32.0	36.1	230.133	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器9片（100g）
P	186	14D15	36.0	21.0	10.0	5.0	24.0	230.250	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	187	14D11	32.0	20.0	20.0	16.0	15.0	230.266	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	188	14D11	58.0	52.0	48.0	43.0	35.1	230.016	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器4片（50g）
P	189	15D6	24.0	16.0	16.0	14.0	17.5	229.557	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	190	15D6	22.0	18.0	8.5	8.0	17.7	229.555	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	191	15D6	26.0	16.0	4.0	3.5	16.0	229.620	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	192	14D10	32.0	29.0	26.0	22.0	34.8	229.430	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	193	14D10	21.0	19.5	15.0	14.0	21.9	229.568	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	194	14D10	50.0	20.0	10.0	8.5	29.9	229.488	3	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　2.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　10YR4/6褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器2片（75g）
P	195	14D10	38.0	20.0	16.0	14.0	36.8	229.484	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物2%含む	
P	196	14D10	22.0	20.0	14.5	14.0	31.8	229.535	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	197	14D10	20.0	18.5	12.0	10.0	14.2	229.740	3	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　2.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　3.10YR4/6褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器5片（70g）
P	198	14D15	40.0	34.0	32.0	18.0	46.8	229.355	1	10YR4/4褐　粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物2%含む	
P	199	14D8	32.0	30.0	26.0	24.0	20.5	229.960	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	200	14B23	44.0	26.0	12.0	11.0	36.5	232.990	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	201	14B23	34.0	28.0	16.0	10.0	37.1	232.844	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	202	14B23	40.0	22.0	17.0	13.0	9.5	232.920	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	203	14B23	21.0	20.0	14.0	12.0	23.0	232.750	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	204	14C3	34.0	28.0	20.0	6.0	16.5	232.585	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	205	14C3	22.0	20.0	16.0	14.0	11.0	232.595	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	206	14C3	38.0	18.0	10.0	6.0	18.7	232.523	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	207	14C7	32.0	26.0	24.0	16.0	18.2	232.765	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	208	14C4	75.0	48.0	30.0	22.0	109.6	231.563	3	1.10YR1.7/1黒　粘性やや弱　しまり疎　2.10YR1.7/1黒＋10YR5/6黄褐の混合　粘性やや弱　しまりやや疎～疎　3.10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまり疎	土器13片（180g）→615･616
P	209	14C9	60.0	40.0	14.0	10.0	63.1	231.466	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器6片（105g）
P	210	14C9	36.5	35.5	24.0	23.0	33.7	231.740	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器5片（65g）
P	211	14C19	84.0	71.0	74.0	50.0	23.9	231.057	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器10片（140g）、石鏃1点→1007、石皿・台石類1点
P	212	13C25	48.0	41.5	28.0	25.0	30.3	230.996	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり疎	土器10片（150g）
P	213	13C20	37.0	36.5	28.0	27.0	19.1	231.179	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまり疎	土器1片（10g）
P	214	13D3	88.0	82.0	34.0	32.0	103.4	230.120	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎 中礫（径1～5cm亜角）少量含む	土器3片（40g）
P	215	13D3	48.0	40.0	30.0	29.0	57.2	230.442	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	216	13D4	24.0	23.0	20.0	18.0	8.9	230.920	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	217	13D3	26.0	22.0	18.0	16.5	14.8	230.860	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	218	12C12	82.0	76.0	66.0	43.0	56.4	231.746	2	1.2.5YR3/4暗赤褐　粘性やや弱　しまりやや疎 焼土（弱変成）　2.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫（径1～2cm亜角）少量含む	
P	219	12C12	34.5	22.0	20.0	17.0	21.1	232.117	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器1片（10g）
P	220	12C12	30.0	20.0	11.0	8.5	24.6	232.006	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	221	12C17	27.0	24.0	20.0	18.0	23.3	232.157	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	222	12C13	32.0	27.0	24.0	18.0	22.8	232.898	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器2片（20g）
P	223	14C23	58.0	40.0	26.0	20.0	15.8	230.662	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器12片（520g）
P	224	14C24	30.0	25.0	19.0	17.0	14.5	230.731	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	225	14C22	40.0	30.0	34.0	24.0	16.9	230.692	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器2片（20g）
P	226	14C8	22.0	16.0	14.0	12.0	18.2	232.066	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	227	14C8	24.0	21.0	15.0	14.0	43.5	231.813	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	228	14C8	25.0	20.0	14.0	12.0	49.6	231.784	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	229	14C3	32.0	28.0	25.0	22.0	29.2	232.328	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	230	14C19	35.0	32.0	12.0	10.0	23.6	230.905	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	231	14C20	24.0	16.0	16.0	10.0	17.4	230.906	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	232	14D14	27.0	24.0	21.0	18.0	37.1	229.526	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物2%含む	
P	233	14D14	28.0	24.0	14.0	12.0	47.7	229.454	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	234	14D9	26.0	24.0	16.0	14.0	34.0	229.634	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	235	14D9	25.0	24.0	18.0	13.0	29.4	229.593	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	236	14D9	24.0	20.5	13.0	10.0	22.2	229.698	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	237	14D10	23.0	21.0	16.0	13.5	25.3	229.668	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	238	14D9	24.0	22.0	16.5	12.0	55.3	229.432	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	239	14D9	24.0	16.0	16.5	12.0	42.8	229.517	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	240	14D9	30.0	22.0	20.0	14.5	23.5	229.817	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	241	14D10	24.0	10.0	12.0	6.0	23.6	229.581	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	242	14D10	23.5	16.0	16.0	6.5	6.6	229.759	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	243	15D6	36.0	30.0	18.0	14.0	55.7	229.188	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	244	15D6	40.0	30.0	35.0	25.0	32.0	229.435	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎 黄褐粘土質ブロック（径10cm）含む	
P	245	15D6	22.0	20.0	12.0	10.0	27.5	229.470	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	246	15D6	28.0	23.0	16.0	13.0	25.2	229.468	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	247	15D7	〔22.0〕	〔13.0〕	〔13.0〕	〔6.0〕	20.2	229.238	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	248	16C16	68.0	66.0	49.0	43.0	7.7	230.100	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎 中礫（径1～3cm）30%含む	土器1片（10g）
P	249	16C11	73.0	71.0	53.0	50.0	4.6	230.395	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎 中礫（径1～3cm）30%含む	土器5片（45g）
P	250	15C20	64.0	64.0	45.0	44.0	8.6	230.400	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎 中礫（径1cm）5%含む	土器3片（45g）

種別	番号	位置(グリッド)	規模(cm)					底面標高(m)	堆積状況		出土遺物
			上端		下端		深さ		層位	主体堆積土	
			長軸	短軸	長軸	短軸					
P	251	15C20	67.0	66.0	39.0	37.0	6.0	230.425	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器1片(10g)、石鏃1点、剥片石器2点
P	252	15C20	68.0	54.0	51.0	40.0	2.3	230.192	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	253	15C19	81.0	(53.0)	63.0	(38.0)	5.7	230.328	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫(径1cm)5%含む	
P	254	15C19	65.0	60.0	44.0	43.0	3.6	230.549	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫(径1cm)5%含む	土器1片(10g)
P	255	16C6	74.0	72.0	57.0	51.5	6.1	230.978	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫(径1～2cm)15%含む	
P	256	15C10	71.0	58.0	55.0	42.0	3.4	231.216	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　中礫(径1～2cm)15%含む	石鏃1点
P	257	15C10	60.0	59.0	42.0	40.0	6.4	231.318	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	258	19B14	38.0	32.0	23.0	9.0	51.9	228.336	2	1.10YR3/3暗褐　粘性中　しまりやや密　砂粒(径1～2mm)5%含む 2.2.5Y5/4黄褐　粘性強　しまり中　中礫(径1～3cm)15%含む	
P	259	20B16	39.0	36.0	22.0	20.0	23.4	227.775	3	1.10YR2/2黒褐　粘性中　しまり中　混和物ほとんどなし　2.10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまり中　砂質　3.10YR4/3にぶい黄褐　粘性強　しまりやや密　細～中礫(径3～10mm)10%含む	土器7片(75g)、石鏃1点→982
P	260	20C6	27.0	24.0	12.0	12.0	19.7	227.162		註記なし	
P	261	20C17	54.0	38.0	17.0	16.0	22.0	226.650		註記なし	土器1片(15g)
P	262	20C16	24.0	24.0	15.0	15.0	11.5	226.879		註記なし	
P	263	21B15	45.0	35.0	9.0	7.0	21.0	226.070		註記なし	
P	264	21B25	30.0	25.0	22.0	9.0	6.0	225.520		註記なし	
P	265	14C10	23.0	22.0	14.0	11.0	8.5	232.025	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　Ⅱ層からの掘り込み(SX07に付属か)	
P	266	14C10	26.0	25.0	18.0	14.0	28.2	231.700	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎(SX07に付属か)	土器9片(180g)
P	267	15C2	33.0	25.0	17.0	16.0	40.0	231.532	1	10YR2/2～3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎(SX07に付属か)	土器3片(10g)
P	268	15C15	78.0	38.0	18.0	14.0	16.8	230.133	1	10YR3/4暗褐　粘性中　しまりやや疎(Ⅲ層起源)	
P	269	16C6	76.0	50.0	15.0	9.0	45.3	230.242	1	10YR3/2黒褐　粘性中　しまりやや疎(Ⅲ層起源か)	土器7片(110g)
P	270	16C7	33.0	30.0	24.0	23.0	3.2	230.144	1	10YR3/4暗褐　粘性中　しまりやや疎(Ⅲ層起源)	
P	271	16C17	76.0	60.0	43.0	33.0	16.3	229.242	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎Ⅲ層起源)	
P	272	16C16	68.0	58.0	34.0	25.0	17.6	229.433	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎(Ⅱ層起源)	
P	273	16C16	58.0	45.0	15.0	14.0	21.4	229.774	1	10YR4/3にぶい黄褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	274	16C16	79.0	64.0	28.0	15.0	19.8	229.715	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　中礫(径1～2cm)3%含む	
P	275	15C20	40.0	40.0	27.0	25.0	10.3	230.164	1	10YR4/6褐　粘性弱　しまり中	
P	276	15C20	46.0	35.0	31.0	24.0	8.9	230.155	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中	
P	277	19B12	53.0	(45.0)	9.0	8.0	33.8	228.723		註記なし	
P	278	19B12	42.0	(40.0)	10.0	10.0	34.3	228.781	1	5Y8/6黄　粘性中　しまり中　十和田中掫テフラ10%含む	
P	279	16C1	50.0	42.0	28.0	21.0	13.3	230.853	2	1.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　2.10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器31片(470g)
P	280	16C1	90.0	75.0	28.0	26.0	56.9	230.597	1	10YR2/3黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	281	16C6	86.0	51.0	23.0	14.0	44.6	230.472	1	10YR4/4褐　粘土質　粘性やや弱　しまりやや疎	土器1片(5g)
P	282	16C6	48.0	47.0	39.0	38.0	15.3	230.842	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	土器4片(95g)
P	283	15D7	65.0	58.0	38.0	33.0	27.7	229.468	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり中　10YR6/8明黄褐粘土質(径1～2cm)2%含む	
P	284	15D7	32.0	28.0	15.0	14.0	41.6	229.375	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	285	15D7	32.0	30.0	19.0	13.0	59.0	229.229	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	286	19C10	27.0	25.0	17.0	16.0	25.8	227.136	1	10YR2/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎　混和物なし	
P	287	19B19	63.0	40.0	30.0	23.0	13.0	228.480	1	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中 炭化物(径5mm)1%　黄ブロック(径1cm以下)5%　礫含む	
P	288	19C8	15.0	14.0	8.0	7.0	12.5	227.088	3	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりややあり　他層より礫多く径大きい(～5cm) 2.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック20%　礫含む 3.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック40%含む　礫ほとんど含まない	
P	289	19C7	28.0	22.0	20.0	16.0	19.2	226.887	2	1.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径1cm程度)10%含む 2.黄ブロックの入らない1層	
P	290	19B9	32.0	21.0	8.0	4.0	22.6	229.101	2	1.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック10%含む(全体的に礫少ない)　2. 1層と似る	
P	291	19B10	47.0	26.0	28.0	13.0	16.0	229.075	2	1.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径5mm)2%含む 2.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック15%含む(全体的に礫少ない)	
P	292	19B10	34.0	19.0	18.0	8.0	8.2	229.073	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径3cm程度)15%含む	
P	293	19B15	37.0	30.0	10.0	6.0	33.3	228.333	2	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径5mm)2% 礫含む 2.10YR5/6黄褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック70%　10YR4/4褐ブロック30%　礫含む	
P	294	19B13	17.0	14.0	4.5	3.0	19.3	229.229	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物(径1cm)1%　焼土(径5mm)1%含む	
P	295	19B13	17.0	14.0	6.0	6.0	30.4	229.080	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径5mm)5%含む	
P	296	19B12	28.0	28.0	13.0	8.0	7.9	229.312	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径5mm)2%含む　礫多い	
P	297	19B12	27.0	23.0	8.0	7.0	13.0	229.118	2	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径1cm)含む　2.10YR4/4褐　粘性中　しまりやや疎　黄ブロック(径5mm)2%含む	
P	298	19B11	20.0	17.0	10.0	9.0	23.2	229.019	1	10YR4/4褐　やや黒味強い　粘性やや弱　しまり中　地山ブロック(径1mm)1%含む	
P	299	19B7	16.0	(9.0)	2.0	2.0	19.1	229.253	2	1.10YR4/4褐　粘性中　しまりやや疎　黄ブロック(径0.5～1cm)5%　炭化物(径1cm)1%　礫含む　2.1層に似るが黄ブロック少ない	
P	300	19B7	13.0	(11.0)	3.0	2.5	11.2	229.303	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径5mm)5%　炭化物(径5mm)1%含む	
P	301	19B7	11.0	10.0	5.0	2.0	7.9	229.357	1	P300と似るが炭化物多い(2%)	
P	302	19B6	27.0	(13.0)	10.0	(2.0)	8.2	229.373	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径1cm)1%　炭化物(径5mm)2%　礫・土器片含む	
P	303	20B9	73.0	53.0	57.0	33.0	31.1	227.591		註記なし	敲磨器類1点

種別	番号	位置（グリッド）	規模（cm）						堆積状況		出土遺物
			上端		下端		深さ	底面標高（m）	層位	主体堆積土	
			長軸	短軸	長軸	短軸					
P	304	19B11	20.0	17.0	6.0	5.0	13.0	229.065	1	10YR4/4褐　粘性弱　しまりやや疎　炭化物(径5mm)　黄ブロック(径5mm)1%含む	
P	305	19B11	16.0	13.0	8.0	8.0	17.1	229.194	2	1.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中 中礫(1cm程度)多く含む 2.10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎	
P	306	19B11	23.0	17.0	5.5	5.0	19.8	229.165	1	P304に似る	
P	307	19B11	15.0	12.0	4.0	4.0	10.1	229.313	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　礫多い(P305の1層と同じ位)黄ブロック(径5mm) 5%　炭化物(径5mm) 1%含む	
P	308	19B11	20.0	20.0	13.0	5.0	12.8	229.380	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまりやや疎　黄ブロック(径5mm)5%　炭化物(径5mm)1%含む	
P	309	19B12	15.0	14.0	8.0	8.0	5.6	229.938	1	10YR4/4褐　粘性やや弱　しまり中　混和物なし	
P	310	19B12	31.0	20.0	8.0	6.0	25.4	229.773	1	10YR4/4褐　明るい黄褐に近い　粘性やや弱　しまり中　炭化物・赤粒(径5mm)1%　黄ブロック(径1～2cm)10%含む	
P	311	19B17	15.0	14.0	10.0	8.0	10.1	229.816	1	P304に似る	
P	312	19B11	25.0	20.0	16.0	12.0	9.1	228.926	2	1.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物(径1～2cm) 15%　焼土(径1cm)5%　黄ブロック(径1～2cm)20%含む 2.10YR4/4褐　粘性弱　しまりやや疎　砂質　黄ブロック(径5mm) 10%含む	
P	313	19B12	22.0	21.0	16.0	15.0	20.9	228.783	2	1.10YR4/4褐　やや黒味強い　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径5mm)10%　炭化物(径1cm)2%　赤色粒(径5mm)1%含む　石より南側に多いが分層はできなかった　2.10YR4/4褐　やや黒味強い　粘性やや弱　しまり中　黄ブロック(径1～3cm) 30%含む	
P	314	19B13	18.0	14.0	8.0	8.0	15.4	230.127	1	10YR3/4暗褐 粘性やや弱 しまり中	
P	315	19B12	36.0	23.0	22.0	11.0	13.5	230.179	2	1.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物(径5mm)1%含む 2.10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎　炭化物(径5mm)3%含む(底部の方がより多い)	
P	316	19B12	23.0	14.0	11.0	5.0	17.3	230.192	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　炭化物(径5mm)1%含む	
P	317	19B7	25.0	16.0	6.5	5.0	22.0	230.152	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり中	
P	318	19B12	17.0	15.0	12.0	11.0	14.5	229.084	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中　赤粒(径1cm)1%　炭化物(径1cm)2%　礫・土器含む	
P	319	19B14	22.0	20.0	11.0	10.0	33.7	228.855	1	10YR3/2黒褐　粘性強　しまり密　黄ブロック30%含む	
P	320	20B15	40.0	34.0	11.0	10.0	30.8	226.879	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや強　中礫(径1～2cm)20%含む	
P	321	20B15	21.0	18.0	10.0	8.5	30.6	227.132	1	10YR3/2黒褐　粘性やや弱　しまりやや疎～中	
P	322	20B19	22.0	22.0	15.0	9.0	19.3	227.134	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり中～やや強	
P	323	20B14	21.0	19.0	9.5	7.5	15.6	227.281	1	10YR3/3暗褐　粘性やや弱　しまり中	
P	324	20B19	29.0	20.0	10.5	10.5	15.9	227.362	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまり中	
P	325	20B19	28.0	27.5	15.0	12.0	13.9	227.292	1	10YR3/4暗褐　粘性やや弱　しまりやや疎～中	
P	326	20B14	51.0	35.0	29.0	11.0	20.7	227.297		註記なし	

第49表　遺構内ピット(p)観察表

遺構名		種別	番号	規模（cm）						備考
種別	番号			上端		下端		深さ	底面標高（m）	
				長軸	短軸	長軸	短軸			
SI	01	P	1	45.0	25.0	14.0	5.0	23.1	235.415	
		P	2	50.0	19.0	8.5	5.5	23.5	235.485	
		P	3	35.0	33.0	25.0	23.5	24.7	235.401	
		P	4	25.0	23.0	8.0	5.0	34.9	235.297	
		P	5	17.0	14.5	7.5	5.5	19.2	235.460	
		P	6	24.0	17.0	10.0	5.0	20.1	235.545	
		P	7	26.0	20.0	6.0	3.0	21.5	235.450	
		P	8	21.0	17.0	4.0	3.0	22.3	235.683	
		P	9	20.0	15.0	9.0	6.0	17.7	235.442	
		P	10	38.0	24.0	16.0	13.0	53.1	235.095	
		P	11	27.0	26.0	16.0	6.0	17.8	235.452	
		P	12	28.0	25.0	6.0	5.0	30.0	235.305	
		P	13	34.0	23.5	10.0	5.0	36.3	235.276	
		P	14	15.0	10.0	3.0	2.5	29.6	235.354	
		P	15	23.0	18.0	12.0	10.0	20.1	235.484	
		P	16	35.0	25.0	14.0	10.0	62.0	235.040	
		P	17	26.0	21.0	5.0	4.5	17.2	235.526	
		P	18	16.0	15.0	14.0	12.0	28.5	235.473	
		P	19	25.0	18.0	20.0	10.0	16.3	235.678	
		P	20	37.0	33.0	25.0	23.0	36.8	235.332	
		P	21	25.0	16.0	14.0	12.5	26.6	235.370	
		P	22	23.0	14.0	8.0	5.0	22.0	235.418	
		P	23	30.0	29.0	22.0	18.0	16.5	235.549	
		P	24	16.0	11.0	7.0	6.0	9.5	235.619	
		P	25	25.0	22.0	15.0	9.0	18.5	235.485	
		P	26	36.0	23.0	16.0	15.0	45.1	235.208	
		P	27	34.0	32.0	15.0	7.5	50.7	235.183	
		P	28	27.0	22.0	16.0	13.0	39.1	235.228	
		P	29	15.0	12.0	7.0	6.0	6.5	235.671	
		P	30	22.0	17.0	13.0	7.0	9.3	235.557	
		P	31	47.0	45.0	13.0	8.0	47.2	235.197	
		P	32	19.0	18.0	10.0	9.0	20.7	235.490	
		P	33	27.0	25.0	22.0	14.0	14.7	235.513	
		P	34	18.0	13.0	8.0	6.5	15.2	235.503	
SI・SX	02	P	1	29.0	24.0	15.0	9.0	47.2	234.040	
		P	2	35.0	34.0	20.0	17.0	19.0	234.260	
		P	3	34.0	29.0	17.0	12.0	15.8	234.277	
		P	4	20.0	16.0	8.0	7.0	21.5	234.253	
		P	5	27.0	21.0	13.0	7.0	14.3	234.322	
		P	6	35.0	32.0	24.0	17.0	12.8	234.327	
		P	7	28.0	25.0	20.0	15.0	11.0	234.390	
		P	8	27.0	24.0	7.0	6.0	8.4	234.420	
		P	9	20.0	17.0	7.0	6.0	15.0	234.380	
		P	10	58.0	46.0	22.0	6.0	26.5	234.200	
		P	11	23.0	18.0	14.0	10.0	19.0	234.390	
		P	12	24.0	19.0	12.0	9.0	25.7	234.328	

遺構名		種別	番号	規模（cm）						備考
種別	番号			上端		下端		深さ	底面標高（m）	
				長軸	短軸	長軸	短軸			
SI・SX	02	P	13	47.0	(40.0)	22.0	21.0	19.7	234.405	
		P	14	54.0	37.0	14.0	12.0	29.0	234.355	
		P	15	36.0	28.0	15.0	7.0	15.3	234.557	
		P	16	32.0	27.5	15.0	11.0	27.3	234.296	
		P	17	40.0	(25.0)	10.0	9.0	73.5	234.175	
		P	18	38.0	(30.0)	13.0	11.5	39.0	234.190	
		P	19	21.0	(20.0)	8.0	5.0	44.3	234.245	
		P	20	33.0	(20.0)	10.0	8.0	38.5	234.260	
		P	21	42.0	34.0	8.0	6.0	28.0	234.145	
		P	22	48.0	39.0	7.0	4.0	18.5	234.240	
		P	23	34.0	(35.0)	21.0	14.0	12.8	234.372	
		P	24	47.0	44.0	26.0	22.0	26.0	234.120	
		P	25	22.0	(20.0)	10.0	10.0	55.8	234.127	
SI	03	P	1	42.0	27.0	5.0	4.0	49.1	233.972	
		P	2	39.0	24.0	28.5	1.5	5.1	234.433	
SI	08	P	1	31.0	20.0	12.0	5.0	41.8	231.805	
		P	2	26.0	23.0	13.0	12.0	30.5	231.853	
		P	3	59.0	22.0	52.0	13.0	14.5	232.144	
		P	4	20.0	18.5	9.0	6.5	18.2	232.074	
		P	5	24.0	21.0	13.0	9.0	21.9	231.986	
		P	6	31.0	25.0	14.0	11.0	14.2	232.044	
		P	7	11.0	8.0	7.5	4.0	11.7	232.138	
		P	8	15.0	12.0	10.0	5.0	12.6	232.096	
		P	9	28.0	24.0	19.0	16.0	34.8	231.718	
SI	10・15	P	1	24.0	21.0	19.0	16.0	21.6	231.201	
		P	2	27.5	21.0	15.0	13.0	58.2	230.826	
		P	3	27.5	24.0	14.0	12.5	36.6	230.973	
		P	4	38.0	30.0	18.0	17.0	56.1	230.730	
		P	5	39.0	31.0	20.0	15.0	52.4	230.701	
		P	6	39.0	35.0	32.0	16.0	39.6	230.826	
		P	7	53.0	41.0	18.0	16.0	68.9	230.606	
		P	8	34.0	24.0	9.0	7.0	37.7	231.054	
		P	9	23.0	22.0	10.0	9.0	49.4	230.918	
		P	10	(55.0)	45.0	15.0	12.0	69.0	230.667	
		P	11	41.0	16.0	18.0	13.0	47.2	230.863	
		P	12	29.0	24.5	20.0	16.0	32.3	230.969	
		P	13	29.0	25.0	15.0	13.0	36.6	230.915	
		P	14	38.0	31.0	16.0	15.0	58.1	230.703	
		P	15	50.0	26.0	23.0	16.0	56.7	230.687	
		P	16	37.0	25.0	21.0	18.0	60.7	230.633	
		P	17	40.0	(35.0)	35.0	33.0	6.9	231.252	
		P	18	49.0	(35.0)	21.0	20.0	70.3	230.615	
		P	19	62.0	18.0	33.0	23.0	51.9	230.843	
		P	20	58.0	51.0	51.0	43.0	15.2	231.124	
		P	21	46.0	28.0	34.5	22.0	24.0	230.978	
		P	22	60.0	29.0	15.0	12.0	73.2	230.625	

遺構名		種別	番号	規模(cm)						備考
				上端		下端		深さ	底面標高(m)	
種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸			
		P	23	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	24	(31.0)	16.0	12.0	12.0	43.9	230.951	
		P	25	24.0	15.0	13.0	13.0	54.2	230.863	
		P	26	14.0	17.0	11.0	11.0	42.0	230.903	
		P	27	13.0	14.0	11.0	11.0	33.9	230.973	
		P	28	33.0	38.0	24.0	24.0	29.5	230.990	
		P	29	21.0	14.0	13.0	13.0	14.0	231.400	
		P	30	24.0	22.0	17.0	17.0	29.8	231.163	
		P	31	22.0	15.0	12.0	12.0	65.0	230.630	
		P	32	17.0	14.0	12.0	12.0	39.4	230.942	
		P	33	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	34	–	–	–	–	–	–	欠番
SI	10・15	P	35	31.0	22.0	17.0	17.0	70.4	230.522	
		P	36	31.0	14.0	7.5	7.5	34.6	230.816	
		P	37	13.0	12.0	11.0	11.0	12.3	231.105	
		P	38	15.0	13.0	12.0	12.0	9.2	231.113	
		P	39	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	40	28.0	32.0	21.0	21.0	51.3	230.672	
		P	41	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	42	32.0	22.0	18.0	18.0	–	–	
		P	43	21.0	16.0	13.0	13.0	13.7	230.889	
		P	44	21.0	18.0	13.5	13.5	18.3	230.988	
		P	45	31.0	23.0	16.0	16.0	55.4	230.639	
		P	46	39.0	16.0	14.5	14.5	50.4	230.588	
		P	47	23.0	19.0	18.0	18.0	28.6	230.957	
		P	48	19.0	18.0	15.0	15.0	22.9	230.944	
		P	1	33.0	10.0	9.5	9.5	39.9	230.362	
		P	2	15.0	9.0	6.0	6.0	33.0	230.463	
		P	3	14.0	9.0	6.5	6.5	5.7	230.578	
		P	4	17.0	2.5	2.0	2.0	15.2	230.526	
		P	5	12.0	5.0	4.0	4.0	9.0	230.543	
		P	6	–	–	–	–	27.8	230.240	
SI	11	P	7	16.0	11.0	10.0	10.0	10.2	230.500	
		P	8	23.0	12.0	8.0	8.0	56.9	230.123	
		P	9	18.0	7.0	6.0	6.0	20.8	230.334	
		P	10	23.0	13.0	12.5	12.5	45.1	230.085	
		P	11	17.0	8.0	6.0	6.0	12.8	230.530	
		P	12	20.0	6.0	4.0	4.0	39.9	230.276	
		P	13	38.0	18.0	7.0	7.0	15.1	230.413	
		P	1	26.0	18.0	17.0	17.0	31.9	227.610	
		P	2	19.0	15.0	13.0	13.0	12.3	227.817	
		P	3	27.0	17.0	15.0	15.0	31.2	227.672	
		P	4	21.0	17.0	15.0	15.0	41.8	227.546	
		P	5	25.0	15.0	11.0	11.0	23.3	227.828	
		P	6	18.0	17.0	17.0	17.0	47.6	227.597	
		P	7	18.0	11.0	6.5	6.5	31.8	227.715	
		P	8	18.0	13.5	10.0	10.0	58.8	227.137	
		P	9	41.5	15.0	8.0	8.0	51.9	227.238	
		P	10	31.0	21.5	13.0	13.0	37.7	227.413	
		P	11	24.0	15.5	15.0	15.0	17.0	227.716	
		P	12	28.0	15.0	10.0	10.0	47.0	227.397	
		P	13	30.0	18.0	13.5	13.5	53.2	227.397	
		P	14	(15.0)	12.0	11.0	11.0	20.2	227.635	
		P	15	17.0	11.0	9.0	9.0	15.1	227.798	
		P	16	(20.0)	10.0	9.5	9.5	44.3	227.393	
		P	17	(20.0)	15.0	11.5	11.5	42.6	227.388	
		P	18	34.0	10.5	9.0	9.0	43.5	227.466	
		P	19	33.0	17.0	16.0	16.0	38.1	227.447	
		P	20	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	21	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	22	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	23	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	24	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	25	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	26	24.0	10.0	9.0	9.0	17.0	227.662	
		P	27	25.0	14.0	13.0	13.0	44.9	227.369	
		P	28	21.0	13.0	11.5	11.5	19.9	227.542	
SI	22	P	29	(20.0)	14.0	13.0	13.0	26.5	227.460	
		P	30	25.0	17.0	12.5	12.5	35.0	227.330	
		P	31	26.0	24.0	17.0	17.0	32.9	227.419	
		P	32	24.0	8.0	7.0	7.0	36.0	227.364	
		P	33	18.0	8.0	5.0	5.0	55.0	227.263	
		P	34	(36.0)	16.0	15.0	15.0	48.5	227.315	
		P	35	20.0	10.0	8.0	8.0	35.0	227.315	
		P	36	22.0	(11.0)	9.0	9.0	21.5	227.433	
		P	37	17.0	11.0	9.0	9.0	33.2	227.422	
		P	38	22.0	16.0	10.0	10.0	32.7	227.810	
		P	39	16.0	12.0	10.0	10.0	29.0	227.635	
		P	40	22.0	13.5	11.5	11.5	–	–	
		P	41	(55.0)	(57.0)	40.0	40.0	38.3	227.375	
		P	42	21.0	9.5	7.0	7.0	19.0	227.475	
		P	43	31.0	12.0	11.0	11.0	71.9	227.184	
		P	44	24.0	11.5	8.0	8.0	27.7	227.723	
		P	45	14.0	6.0	5.0	5.0	19.6	227.758	
		P	46	17.0	8.0	7.0	7.0	38.0	227.533	
		P	47	27.0	–	–	–	55.8	227.258	
		P	48	20.0	13.0	12.0	12.0	–	–	
		P	49	–	–	–	–	–	–	
		P	50	(27.0)	15.0	13.5	13.5	–	–	
		P	51	(30.0)	15.5	15.0	15.0	–	–	
		P	52	26.0	12.0	11.0	11.0	28.3	227.438	
		P	53	24.0	7.0	6.0	6.0	17.9	227.418	
		P	54	26.0	18.0	13.0	13.0	–	–	
		P	55	14.0	12.0	12.0	12.0	35.4	227.233	
		P	56	21.0	10.0	9.0	9.0	24.0	227.452	
		P	57	32.0	12.0	12.0	12.0	48.3	227.233	

遺構名		種別	番号	規模(cm)						備考
				上端		下端		深さ	底面標高(m)	
種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸			
		P	58	51.0	(50.0)	36.0	34.0	27.1	227.416	
		P	59	72.0	60.0	39.0	39.0	27.1	227.416	
SI	22	P	60	32.0	27.0	19.0	15.0	44.0	227.411	
		P	61	(20.0)	(19.0)	13.0	10.0	22.4	227.525	
		P	62	–	–	–	–	–	–	欠番
		P	1	48.0	40.0	14.0	11.0	18.0	228.463	
		P	2	30.0	22.0	18.0	16.0	17.0	228.633	
		P	3	25.0	(12.0)	8.0	4.0	12.0	229.651	
		P	4	54.0	48.0	35.0	33.0	19.0	228.742	
SI	24	P	5	76.0	53.0	52.0	27.0	20.0	228.728	
		P	6	52.0	(30.0)	38.0	(20.0)	9.0	228.840	
		P	7	31.0	30.0	20.0	(15.0)	9.0	228.827	
		P	8	26.0	22.0	18.0	17.0	13.0	228.941	
		P	9	73.0	45.0	57.0	28.0	11.0	228.800	
		P	1	32.0	27.0	13.0	10.0	32.0	231.370	
		P	2	35.0	25.0	13.0	11.0	20.0	231.654	
SI	25	P	3	36.0	28.0	17.0	13.0	41.0	231.494	
		P	4	33.0	32.0	19.0	15.0	40.0	231.440	
		P	5	35.0	34.0	19.0	14.0	33.0	231.483	
		P	6	37.0	36.0	18.0	15.0	40.0	231.300	
		P	1	30.0	27.0	11.0	10.0	51.8	288.832	
		P	2	25.0	24.0	20.0	18.0	9.6	229.232	
		P	3	44.0	36.0	9.0	6.0	38.1	228.969	
		P	4	25.0	19.0	9.0	8.0	25.3	229.185	
		P	5	33.0	21.0	18.0	12.0	43.6	229.050	
		P	6	30.0	23.0	9.0	8.0	16.4	229.056	
		P	7	39.0	31.0	30.0	25.0	22.4	229.195	
		P	8	21.0	16.0	13.0	9.0	29.4	229.050	
		P	9	20.0	19.0	17.0	8.0	17.7	229.178	
SI	27	P	10	35.0	18.0	10.0	10.0	22.1	229.068	
		P	11	46.0	45.0	17.0	15.0	39.6	229.069	
		P	12	23.0	18.0	15.0	15.0	23.1	229.237	
		P	13	21.0	19.0	12.0	10.0	21.4	229.186	
		P	14	25.0	18.0	10.0	8.0	33.7	229.040	
		P	15	27.0	23.0	20.0	14.0	27.3	229.264	
		P	16	21.0	16.0	15.0	11.0	25.7	228.977	
		P	17	40.0	31.0	30.0	25.0	15.2	229.048	
		P	18	35.0	27.0	24.0	17.0	33.1	229.306	
		P	19	20.0	16.0	8.0	6.0	19.1	229.021	
		P	20	30.0	29.0	12.0	11.0	22.1	229.032	
		P	1	31.0	25.0	11.0	10.0	50.6	227.398	
		P	2	23.0	22.0	14.0	9.0	23.4	227.618	
		P	3	23.0	18.0	11.0	8.5	5.9	227.835	
		P	4	51.0	44.0	29.0	18.0	55.7	227.391	
		P	5	25.0	24.0	15.0	12.0	20.6	227.691	
		P	6	30.0	27.0	17.0	14.0	35.2	227.583	
		P	7	46.0	35.0	14.0	13.0	40.8	227.391	
		P	8	45.0	40.0	18.0	11.0	29.9	227.534	
		P	9	27.0	22.0	16.0	12.5	17.3	227.647	
		P	10	23.0	21.0	13.0	11.0	45.7	227.411	
		P	11	21.0	17.0	12.0	9.0	37.6	227.524	
		P	12	80.0	62.0	29.0	19.0	29.5	227.518	
		P	13	94.0	(76.0)	63.0	(56.0)	35.7	227.510	
		P	14	87.0	74.0	53.0	44.0	51.1	227.326	
		P	15	25.0	22.0	19.0	12.0	37.1	227.461	
SI	28	P	16	22.0	15.0	9.0	8.0	31.4	227.553	
		P	17	19.0	17.0	9.0	8.0	22.3	227.668	
		P	18	23.0	16.0	7.0	7.0	24.3	227.686	
		P	19	32.0	24.0	15.0	7.5	47.9	227.542	
		P	20	24.0	21.0	9.5	8.0	29.1	228.040	
		P	21	14.0	12.0	11.0	9.0	39.3	227.831	
		P	22	23.0	22.0	15.0	10.0	11.2	228.166	
		P	23	13.0	12.0	6.0	5.0	10.4	227.807	
		P	24	17.0	14.0	4.5	4.0	20.4	227.513	
		P	25	19.0	17.0	4.0	3.0	20.4	227.972	
		P	26	18.5	17.0	8.5	7.0	34.6	227.585	
		P	27	18.0	12.0	9.0	6.0	24.7	227.687	
		P	28	21.0	(18.0)	16.0	12.0	9.2	227.845	
		P	29	19.0	17.0	10.0	9.0	12.3	227.786	
		P	30	26.0	15.0	17.0	9.0	19.2	227.685	
		P	31	16.0	11.0	9.0	6.5	12.5	227.405	
		P	1	26.0	22.0	16.0	14.0	21.0	227.740	
		P	2	30.0	26.0	17.0	16.0	24.0	227.660	
		P	3	25.0	22.0	13.0	11.0	24.0	227.590	
		P	4	23.0	20.0	13.0	12.0	33.0	227.910	
		P	5	26.0	25.0	11.0	8.0	45.0	227.520	
		P	6	41.0	38.0	27.0	25.0	38.0	227.670	
		P	7	52.0	48.0	29.0	15.0	49.0	227.610	
		P	8	90.0	73.0	73.0	67.0	49.0	227.560	
		P	9	27.0	25.0	14.0	14.0	42.0	227.570	
		P	10	44.0	32.0	22.0	18.0	89.0	227.701	
		P	11	28.0	24.0	11.0	9.5	50.0	227.560	
		P	12	30.0	25.0	19.0	15.0	31.4	227.640	
SI	29	P	13	(22.0)	15.0	10.0	6.0	57.0	227.421	
		P	14	(19.0)	(15.0)	(16.0)	10.0	10.2	227.931	
		P	15	16.0	14.0	7.0	6.5	56.0	227.562	
		P	16	39.0	35.0	15.0	10.0	54.5	227.429	
		P	17	24.0	16.0	7.0	5.5	22.5	227.709	
		P	18	18.0	16.0	9.0	7.0	14.2	227.731	
		P	19	19.0	13.0	5.0	4.0	10.2	227.734	
		P	20	21.0	17.0	11.0	10.5	15.8	227.650	
		P	21	21.0	17.0	7.0	6.0	22.7	227.527	
		P	22	(33.0)	(18.0)	18.0	9.0	20.1	227.467	
		P	23	20.0	15.0	11.0	9.0	33.0	227.406	
		P	24	24.0	(22.0)	9.0	7.5	24.6	227.543	
		P	25	45.0	16.0	11.0	9.0	46.8	227.274	

遺構名		種別	番号	規模(cm)						備考
				上端		下端		深さ	底面標高	
種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸		(m)	
		P	26	25.0	22.0	10.0	8.0	40.1	227.388	
		P	27	20.0	20.0	16.0	14.0	6.0	227.738	
		P	28	22.0	22.0	12.0	9.0	30.1	227.497	
		P	29	26.0	23.0	9.0	5.0	52.5	227.434	
		P	30	(18.0)	17.0	7.0	6.0	17.1	227.636	
		P	31	20.0	17.0	6.0	5.5	14.5	228.381	
		P	32	17.0	11.0	7.0	6.0	31.5	228.020	
		P	33	21.0	19.0	10.0	8.0	16.2	228.280	
		P	34	28.0	23.0	17.0	16.0	21.6	227.717	
		P	35	22.0	17.0	13.0	11.0	33.6	227.585	
		P	36	[40.0]	29.0	7.0	7.0	49.4	227.509	
SI	29	P	37	28.0	19.0	12.0	9.0	11.7	227.719	
		P	38	21.0	14.0	6.0	4.5	7.0	228.718	
		P	39	12.0	10.0	4.0	3.0	16.7	227.577	
		P	40	13.0	12.0	6.0	5.0	20.8	227.562	
		P	41	14.0	10.0	5.0	4.0	16.0	227.612	
		P	42	[40.0]	29.0	(30.0)	18.0	45.9	227.541	
		P	43	38.0	21.0	26.0	13.0	32.8	227.542	
		P	44	20.0	19.0	8.0	6.0	17.6	227.595	
		P	45	(15.0)	14.0	(12.0)	6.0	24.8	227.764	
		P	46	18.0	17.0	7.0	6.0	17.1	227.932	
		P	47	81.0	32.0	71.0	21.0	43.0	227.660	
		P	48	13.5	11.0	5.0	5.0	30.8	227.674	
		P	1	32.0	24.0	10.0	8.0	16.0	229.735	
		P	2	27.0	20.0	18.0	10.0	26.0	229.694	
		P	3	21.0	17.0	10.0	8.0	14.0	229.781	
		P	4	23.0	22.0	8.0	6.0	30.0	229.654	
		P	5	18.0	16.0	7.0	6.0	18.0	229.950	
		P	6	23.0	20.0	14.0	7.0	12.0	229.778	
		P	7	47.0	29.0	15.0	12.0	24.0	229.525	
		P	8	35.0	28.0	22.0	13.0	47.0	229.316	
		P	9	21.0	20.0	8.0	7.0	18.0	229.780	
		P	10	19.0	14.0	8.0	6.0	19.0	229.773	
		P	11	30.0	25.0	11.0	9.0	30.0	229.487	
		P	12	25.0	23.0	12.0	12.0	30.0	229.639	
		P	13	29.0	29.0	10.0	7.0	36.0	229.691	
		P	14	21.0	9.0	6.0	6.0	30.0	229.454	
		P	15	[25.0]	22.0	14.0	13.0	30.0	229.739	
SI	30・31	P	16	[25.0]	16.0	19.0	9.0	25.0	229.702	
		P	17	17.0	16.0	7.0	7.0	30.0	229.481	
		P	18	47.0	31.0	14.0	12.0	35.0	229.205	
		P	19	20.0	17.0	7.0	7.0	33.0	229.412	
		P	20	[20.0]	14.0	8.0	8.0	14.0	229.753	
		P	21	27.0	[25.0]	9.0	9.0	19.0	229.767	
		P	22	18.0	13.0	11.0	5.0	10.0	229.852	
		P	23	(13.0)	12.0	8.0	7.0	20.0	229.777	
		P	24	13.0	12.0	6.0	6.0	14.0	229.836	
		P	25	(16.0)	17.0	8.0	7.0	12.0	229.878	
		P	26	25.0	17.0	12.0	11.0	21.0	229.895	
		P	27	14.0	13.0	7.5	7.0	8.0	229.914	
		P	28	27.0	20.0	14.0	5.0	6.0	229.917	
		P	29	19.0	19.0	10.0	9.0	25.0	229.708	
		P	30	13.0	12.0	6.0	5.0	30.0	229.638	
		P	31	23.0	23.0	6.0	4.0	9.0	229.949	
		P	32	22.0	19.0	13.0	12.0	21.0	229.864	
		P	33	18.0	14.0	10.0	6.0	18.7	229.811	
		P	1	25.0	25.0	19.0	18.0	11.0	229.223	
SI	33	P	2	17.0	16.0	9.0	8.0	20.0	229.481	
		P	3	20.0	18.0	12.0	10.0	33.0	229.565	
		P	4	19.0	16.0	12.0	10.0	30.0	229.476	
		P	1	24.0	18.0	14.0	12.0	34.0	230.824	
		P	2	42.0	19.0	9.0	6.0	14.0	231.090	
		P	3	33.0	18.0	6.0	5.0	7.0	231.085	
		P	4	30.0	[23.0]	20.0	15.0	12.0	230.994	
		P	5	[25.0]	[25.0]	13.0	10.0	25.0	230.842	
		P	6	17.0	13.0	9.0	8.0	25.0	230.945	
		P	7	25.0	16.0	13.0	7.0	45.0	230.755	
		P	8	14.0	12.0	5.0	5.0	27.0	230.975	
		P	9	24.0	24.0	15.0	12.0	37.0	230.882	
		P	10	30.0	27.0	22.0	19.0	40.0	230.804	
		P	11	37.0	27.0	14.0	13.0	25.0	230.985	
		P	12	27.0	25.0	20.0	16.0	30.0	230.924	
		P	13	35.0	30.0	24.0	20.0	26.0	230.980	
		P	14	24.0	17.0	9.0	5.0	14.0	231.112	
		P	15	36.0	[25.0]	25.0	25.0	50.0	230.963	
		P	16	30.0	18.0	7.0	5.0	5.0	231.486	
		P	17	25.0	23.0	13.0	12.0	6.0	231.415	
SI	34	P	18	68.0	65.0	40.0	30.0	30.0	231.275	
		P	19	25.0	21.0	12.0	10.0	36.0	231.430	
		P	20	24.0	22.0	12.0	8.0	17.0	231.055	
		P	21	48.0	28.0	20.0	10.0	8.0	231.028	
		P	22	52.0	40.0	25.0	19.0	27.0	231.263	
		P	23	22.0	18.0	11.0	8.0	8.0	231.203	
		P	24	25.0	22.0	15.0	8.0	23.0	231.005	
		P	25	27.0	24.0	16.0	11.0	21.0	231.423	
		P	26	30.0	21.0	18.0	15.0	20.0	231.156	
		P	27	32.0	[30.0]	19.0	18.0	38.0	230.742	
		P	28	45.0	32.0	13.0	11.0	46.0	230.702	
		P	29	28.0	27.0	17.0	14.0	10.0	231.020	
		P	30	38.0	31.0	14.0	13.0	26.0	230.863	
		P	31	41.0	32.0	13.0	13.0	36.0	230.719	
		P	32	49.0	39.0	11.0	10.0	49.0	230.787	
		P	33	(23.0)	29.0	(14.0)	17.0	13.0	230.888	
		P	34	[25.0]	25.0	14.0	14.0	63.0	230.565	
		P	35	47.0	39.0	12.0	10.0	48.0	230.388	
		P	36	42.0	30.0	17.0	14.0	35.8	230.988	

遺構名		種別	番号	規模(cm)						備考
				上端		下端		深さ	底面標高	
種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸		(m)	
		P	37	58.0	[35.0]	15.0	10.0	28.0	230.852	
		P	38	40.0	[35.0]	17.0	16.0	45.0	230.584	
		P	39	43.0	37.0	23.0	20.0	15.0	231.392	
		P	40	25.0	17.0	6.0	5.0	33.0	231.150	
		P	41	15.0	11.0	5.0	5.0	13.0	231.270	
		P	42	19.0	15.0	6.0	5.0	20.0	231.230	
		P	43	18.0	15.0	7.0	6.0	31.0	231.076	
		P	44	17.0	14.0	9.0	8.0	21.0	231.270	
		P	45	36.0	26.0	13.0	11.0	39.0	230.894	
		P	46	17.0	15.0	8.0	7.0	31.0	230.990	
		P	47	30.0	26.0	18.0	13.0	28.0	230.907	
SI	34	P	48	28.0	18.0	9.0	7.0	8.0	231.049	
		P	49	20.0	17.0	8.0	6.0	28.0	230.855	
		P	50	20.0	13.0	7.0	5.0	29.0	230.787	
		P	51	18.0	15.0	12.0	8.0	35.0	230.792	
		P	52	18.0	16.0	8.0	5.0	8.0	231.045	
		P	53	18.0	15.0	10.0	9.0	6.0	231.038	
		P	54	19.0	16.0	10.0	8.0	41.0	230.658	
		P	55	46.0	35.0	14.0	8.0	43.0	230.660	
		P	56	31.0	24.0	25.0	18.0	20.0	230.647	
		P	57	24.0	22.0	12.0	10.0	29.0	230.687	
		P	58	35.0	25.0	10.0	8.0	29.4	230.664	
		P	59	125.0	100.0	83.0	75.0	30.5	230.884	
		P	60	18.0	12.0	6.5	4.0	22.8	231.026	
		P	1	35.0	[25.0]	20.0	15.0	36.0	230.056	
		P	2	30.0	24.0	8.0	8.0	47.0	230.344	
		P	3	23.0	18.0	13.0	9.0	6.0	230.700	
		P	4	32.0	26.0	18.0	16.0	8.0	230.697	
		P	5	15.0	12.0	8.0	4.0	22.0	230.595	
		P	6	21.0	19.0	11.0	10.0	5.0	230.732	
		P	7	23.0	19.0	10.0	8.0	15.0	230.632	
		P	8	28.0	25.0	16.0	15.0	40.0	230.348	
		P	9	23.0	23.0	8.0	8.0	47.0	230.265	
		P	10	30.0	26.0	18.0	15.0	46.0	230.295	
		P	11	29.0	27.0	15.0	12.0	18.0	230.501	
		P	12	36.0	[35.0]	21.0	20.0	35.0	230.354	
		P	13	24.0	[20.0]	16.0	12.0	30.0	230.317	
		P	14	33.0	27.0	21.0	18.0	7.0	230.302	
		P	15	22.0	18.0	8.0	5.0	29.0	230.240	
		P	16	20.0	18.0	9.0	9.0	14.0	230.472	
		P	17	37.0	35.0	26.0	21.0	3.0	230.604	
		P	18	38.0	34.0	18.0	15.0	33.0	229.935	
		P	19	24.0	20.0	15.0	15.0	40.0	230.230	
		P	20	24.0	22.0	10.0	8.0	15.0	230.058	
		P	21	28.0	28.0	14.0	13.0	5.0	230.328	
		P	22	28.0	26.0	19.0	18.0	53.0	229.910	
		P	23	30.0	28.0	17.0	17.0	37.0	230.005	
		P	24	29.0	23.0	18.0	13.0	11.0	230.392	
		P	25	36.0	22.0	22.0	9.0	20.0	230.073	
		P	26	35.0	24.0	16.0	13.0	10.0	230.202	
		P	27	30.0	25.0	13.0	12.0	27.0	230.264	
		P	28	28.0	18.0	13.0	8.0	8.0	230.660	
		P	29	32.0	25.0	12.0	12.0	37.0	230.130	
		P	30	29.0	27.0	10.0	9.0	16.0	230.324	
		P	31	33.0	32.0	22.0	15.0	39.0	230.178	
		P	32	42.0	26.0	17.0	14.0	36.0	230.237	
		P	33	26.0	20.0	18.0	12.0	20.0	230.113	
SI	38	P	34	56.0	37.0	43.0	27.0	10.0	230.380	
		P	35	25.0	24.0	14.0	10.0	24.0	230.282	
		P	36	(38.0)	28.0	12.0	8.0	38.0	230.202	
		P	37	31.0	24.0	21.0	14.0	25.5	230.555	
		P	38	29.0	24.0	17.0	13.0	20.0	230.540	
		P	39	52.0	45.0	17.0	15.0	17.0	230.414	
		P	40	59.0	41.0	23.0	18.0	64.0	229.920	
		P	41	44.0	33.0	20.0	17.0	51.0	230.065	
		P	42	28.0	27.0	15.0	12.0	30.0	230.200	
		P	43	34.0	30.0	14.0	10.0	40.0	230.158	
		P	44	92.0	54.0	70.0	36.0	22.0	230.276	
		P	45	22.0	20.0	12.0	8.0	13.0	230.210	
		P	46	33.0	25.0	20.0	15.0	28.5	230.114	
		P	47	22.0	19.0	9.0	7.0	30.0	230.288	
		P	48	23.0	22.0	12.0	11.0	24.0	230.130	
		P	49	42.0	[35.0]	21.0	21.0	25.0	230.052	
		P	50	[40.0]	39.0	29.0	24.0	30.0	230.037	
		P	51	19.0	18.0	9.0	9.0	23.0	230.228	
		P	52	18.0	17.0	8.0	7.0	23.0	230.234	
		P	53	22.0	19.0	10.0	8.0	29.0	230.242	
		P	54	37.0	32.0	20.0	18.0	44.0	230.063	
		P	55	28.0	23.0	12.0	11.0	51.0	229.984	
		P	56	44.0	28.0	21.0	17.0	22.0	230.262	
		P	57	22.0	16.0	14.0	8.0	29.0	230.315	
		P	58	24.0	20.0	15.0	10.0	53.0	230.070	
		P	59	20.0	18.0	12.0	8.0	40.0	230.215	
		P	60	32.0	17.0	19.0	10.0	29.0	230.328	
		P	61	20.0	18.0	10.0	8.0	24.0	230.370	
		P	62	22.0	15.0	12.0	7.0	27.0	230.318	
		P	63	27.0	19.0	11.0	7.0	20.5	230.532	
		P	64	16.0	15.0	6.0	6.0	34.0	230.385	
		P	65	37.0	[30.0]	20.0	10.0	37.0	230.400	
		P	66	22.0	18.0	5.0	5.0	7.0	230.717	
		P	67	(40.0)	[30.0]	20.0	12.0	20.0	230.608	
		P	68	38.0	[30.0]	18.0	17.0	34.5	230.352	
		P	1	48.0	45.0	33.0	25.0	11.0	231.177	
SX	05	P	2	33.0	27.0	18.0	15.0	6.0	231.302	
		P	3	23.0	21.0	13.0	10.0	11.0	231.205	
		P	4	28.0	27.0	16.0	14.0	13.0	231.225	

第50表　土器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
1	81	76	SI	01	QNW 不明		3 1	4	深鉢	ⅣA-k	胴上半	−	−	(5.7)	0.7	−	地文→沈線1条(横位・弧状)
2	81	76	SI	01	p14 不明	堆積土	4 1	5	深鉢	ⅣA1n ①	口縁～胴上半	−	−	(11.8)	0.9	平縁・口端内面複合口縁	地文→沈線(横位・平行+渦巻・文様状・半裁竹管)
3	81	76	SI	01	QSW	3層中位		1	深鉢	Ⅳ-−-l	胴上半	−	−	(3.5)	0.7	−	隆線1条(横位・直線)+隆線1条(縦位・波状)→沈線1条(横位・直線・押引・左から右へ)
4	81	76	SI	01	QSE	3層中位		1	深鉢	Ⅳ-1f ②	口縁	−	−	(2.6)	0.7	平縁	並行して横走する沈線の間に左傾する斜位の沈線を充填(口縁文様)
5	81	76	SI	01	QSE	3層中位		1	深鉢	Ⅳ-1m	口縁	−	−	(4.1)	0.9	平縁・内面複合口縁	地文→粘土貼付(中央縦位刻み)
6	81	76	SI	01	QSW 不明	床面 3層	21 1 4	26	深鉢	ⅣB1i	口縁～胴上半	21.5	−	(13.5)	0.5	平縁	地文→口端部に粘土貼付後、原体圧→粘土貼付(4単位)→半裁竹管による方形区画隆沈線→弧状沈線による文様帯区画(横位)
7	81	76	SI	02		検出面		1	深鉢	Ⅳ-1o	口縁	−	−	(4.6)	1.0	平縁・口端上面刻み(爪状)	指頭圧痕→ナデ(横)
8	81	76	SI	02	p5	堆積土上位		1	深鉢	ⅣG1n ①	口縁	−	−	(4.8)	0.5	平縁・折り返し口縁	地文
9	81	76	SI	02	QNE	床面		8	深鉢	ⅣI51	口縁～胴	(8.2)	−	(12.9)	0.8	平縁・凹み(4単位か)・口端上面刻み(棒状工具)	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)
10	81	76	SI	02	QNE	1層直上		1	深鉢	Ⅳ-1n ①	口縁	−	−	(3.1)	0.7	平縁・複合口縁	地文
11	81	76	SI	02	QNE	1層		1	深鉢	ⅣG1n ①	口縁	−	−	(4.7)	1.0	平縁	地文
12	81	76	SI	02	QNE	1層		1	深鉢	ⅣE1e	口縁付近	−	−	(3.7)	0.8	平縁・複合口縁	頸:沈線3条以上(横位・平行)→隆線1条(縦位・直線)+隆線上刻み(横位)→刻み(縦位)
13	81	76	SI	02	QSW	1層		1	深鉢	Ⅳ-1n ①	口縁	−	−	(4.8)	1.0	平縁	地文
14	81	76	SI	02	QSW QNW QNE ベルト	1層 1層上位 1層 堆積土上位	2 2 1 1	6	深鉢	ⅣA1f ②	口縁～胴	(13.0)	−	(8.8)	0.5	平縁・複合口縁	地文→沈線1条(横位・直線)→横位沈線と口端の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→沈線1条(横位・弧状)
15	81	76	SI	02	QSW QNE	1層 1層直上	3 1	4	深鉢	Ⅳ-1i	口縁	−	−	(9.9)	1.2	平縁・内面複合口縁・山形突起2個1単位	地文→口:文様帯粘土貼り足しやや肥厚→隆線(方形区画)+原体圧
16	81	76	SI	02	QSW	3層中位		2	深鉢	Ⅳ-−-n ①	底	−	(9.2)	(5.7)	0.9	−	地文・底部外側にやや張り出し
17	81	76	SI	02	QNW	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-1o	口縁	−	−	(3.5)	0.7	平縁・指頭痕(2本指で交互に摘んでいる)	ナデ(横)
18	81	76	SI	03		床中央直上		1	深鉢	Ⅳ-1n ①	口縁	−	−	(3.6)	1.2	平縁・やや肥厚	地文
19	81	76	SI	03		床中央直上		2	深鉢	Ⅳ-−-n ①	底	−	−	(1.8)	2.0	−	−
20	81	76	SI	03	QSW	床直上		1	深鉢	Ⅳ-−-n ①	胴下半	−	−	(5.7)	1.3	−	地文
21	81	76	SI	04	QNW	検出面		1	深鉢	Ⅸ-−-−	底	−	−	−	1.0	−	−
22	81	76	SI	04	QNW	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ-−-a	胴上半	−	−	(5.8)	0.7	−	隆線2条(縦位・平行)+隆線間ナデ調整→突起→突起脇刺突2個(円形・垂直方向)→沈線(縦位・文様表現)
23	81	76	SI	04	QNW	堆積土		1	深鉢	Ⅸ-−-f	底	−	−	(3.2)	1.0	−	ナデ(横)
24	81	76	SI	04	QNE	堆積土		1	深鉢	Ⅶ-2f	口縁	−	−	(8.2)	0.8	大波状・波頂部刻み1個	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線(文様区画)→磨消→ボタン状貼付+刺突1個(円形・垂直方向・竹管)
25	81	76	SI	04	QNW	堆積土		1	深鉢	ⅣJ-n ①	胴	−	−	(10.0)	0.9	−	地文
26	81	76	SI	04	ベルトB QNW	1層 堆積土	4 1	5	深鉢	ⅣA1n ①	口縁～胴	−	−	(12.2)	0.9	平縁	地文
27	81	76	SI	04	ベルトA	1層		1	深鉢	ⅦC3j	口縁	−	−	(4.3)	0.6	平縁・山形突起	沈線(縦位・突起下に楕円形区画)
28	81	76	SI	04	QNW	堆積土		1	深鉢	Ⅴ-1b	口縁	−	−	(6.9)	1.0	平縁・突帯状	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上沈線1条(横位・直線)
29	81	76	SI	04	QNW 不明	堆積土	1 1	2	深鉢	Ⅳ-1n ①	口縁	−	−	(7.7)	0.8	平縁・やや肥厚	地文 輪積み(内面上・外面下)
30	81	76	SI	04	QNW	堆積土	2	3	深鉢	Ⅸ-−-f	底	−	−	(1.9)	1.0	−	ナデ(横)
31	81	76	SI	04	QNW	検出面		1	深鉢	Ⅶ-2h	口縁	−	−	(5.6)	0.9	大波状・波頂部刻み1個	ナデ(横)
32	82	77	SI	04	QNW	堆積土		3	深鉢	Ⅶ-1d	口縁	−	−	(8.5)	0.7	平縁	地文→沈線(文様区画)→連鎖状隆線(縦位・弧状)
33	82	77	SI	04	QNW	堆積土 堆積土下位	2 1	3	深鉢	ⅣE1f ④	口縁	−	−	(5.6)	1.2	平縁・複合口縁・口端上面刻み	口端内外面粘土貼付により肥厚→沈線(半裁竹管横位)→沈線間、連続刺突(竹管斜位)→短沈線(縦位)→沈線(半裁竹管波状)→口～頸:隆帯貼付(隆帯上刻み)
34	82	77	SI	04	ベルトB	1層		2	深鉢	Ⅶ-2f	口縁	−	−	(7.2)	0.7	大波状	地文→沈線(文様区画)→磨消→ボタン状貼付→隆線1条(横位・直線)より上は無文帯→波頂部から垂下する連鎖状隆線1条(縦位)
35	82	77	SI	04	QNW	堆積土下位		1	深鉢	ⅦE3g	口縁	−	−	(6.4)	0.7	中空突起	沈線(文様表現)+連鎖状沈線→刺突1個(円形・垂直方向・竹管)
36	82	77	SI	04	QSW 不明	堆積土	15 5	20	深鉢	Ⅸ-−-e	胴下半～底	−	12.7	(15.2)	0.9	−	地文→底付近ナデ(横)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	外面ススやや少量	LR	右	横	2.5	−	透2 金2	5YR 4/6 赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横斜	3.0	−	透2 黒1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.3	−	白1 黒1	5YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	側圧LR LR	右	横	1.6	−	透5	10YR 4/1 褐灰	10YR 7/2 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 8/6 浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.0	−	白1 透2	7.5YR 7/2 明褐灰	7.5YR 5/2 灰褐		
ナデ(横・胴下半は縦)	−	−	LR	横	斜	3.0	−	透1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 6/1 褐灰		容量1.90ℓ
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.5	−	透2 金3	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)・指頭圧痕	−	−	LR	左	縦	2.0	−	白1 透2	5YR 3/4 暗赤褐	5YR 4/8 赤褐		
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	透2	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙		
剥落	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	−	−	透3	5YR 4/3 にぶい赤褐	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	3.0	有(Z)	透2	7.5YR 5/2 灰褐	7.5YR 5/2 灰褐		
ナデ(横)	−	外面ススやや少量	LR圧痕 LR	左	縦	3.2	有(S)	白1 透1	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/4 にぶい黄橙		
ナデ(縦)	指頭圧痕＋網代(Ⅰ)	−	単軸絡条体第1類(R)	左	斜	1.5	−	白1 透1	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 6/2 灰黄褐	15	
指頭圧痕	−	外面ススやや少量	−	−	−	−	−	透2	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	−	−	白1 透1	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 7/4 にぶい黄橙		
指頭圧痕	指頭圧痕・ナデ調整(植物繊維痕)	−	−	−	−	−	−	透2	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 8/3 浅黄橙	40	
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	3.0	−	透1 繊維少量	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 8/4 浅黄橙		
ナデ	網代(ⅠB1)	−	−	−	−	−	−	透2	5YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/6 橙	15	
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	網代(ⅠD)	−	−	−	−	−	−	透2	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙	20	
ナデ(横)	−	−	LR	右 左 横	横 縦 斜	2.5	−	透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ミガキ(横)	−	外面ススやや少量	RL	左	横	3.0	−	白1 透1	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	−	無節(L)	左	縦	3.5	−	透3	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	5YR 4/6 赤褐	5YR 4/4 にぶい赤褐		
ナデ(縦)	−	−	LR	左	縦	2.8	−	透3	7.5YR 5/2 灰褐	7.5YR 6/2 灰褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.5	−	透2	5YR 7/6 橙	5YR 6/6 橙		
指頭圧痕・剥落	木葉(Ⅱ)	−	−	−	−	−	−	白1 透1	2.5YR 4/6 赤褐	2.5YR 5/6 明赤褐	100	
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 金3 黒1	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/4 にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススごく微量	RL	右	縦	−	−	白1 透1	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 5/8 黄褐		
ナデ(横)	−	−	無節(L)	左	−	−	−	白2	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 4/4 褐		
ナデ(縦)・黒斑有	ナデ・果実痕か	−	LR	左	縦	3.0	有(S)	透1 金3	5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 7/4 にぶい橙	100	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	接合破片数		器種	分類	残存位置	法量(cm)				口端部	外面調整・施文など
			番号	番号	位置(グリッド)		内訳数	総数				口径	底径	器高	厚さ		
37	82	77	SI	04	炉 QSW	堆積土 堆積土 焼土面埋設土器	6 5 3	14	深鉢	Ⅸ- - f	底	−	(16.0)	(3.6)	1.2	−	ナデ(横)
38	82	77	SI	04	QSW 不明	焼土面埋設土器	9 2	11	深鉢	Ⅸ- - e	底	−	15.0	(5.3)	1.1	−	地文・底付近ナデ(横)
39	82	77	SI	05	QSW 不明	1層	5 1	6	深鉢	Ⅳ A1o	口縁～胴	−	−	(13.0)	0.6	平縁・折り返し口縁	ナデ(横) 輪積(輪積幅1.5～2.0cm・上凹、下凸)
40	82	77	SI	05		1層		1	深鉢	Ⅴ- 1 b ①	口縁	−	−	(5.6)	0.8	平縁・折り返し口縁	地文→隆線1+2条(横位・平行)の間に隆線(横位・波状)
41	82	77	SI	05		1層		1	深鉢	Ⅶ- - h	胴	−	−	(6.7)	0.8	−	地文→沈線(区画)→磨消 黒斑有
42	82	77	SI	05	炉	焼土内		1	深鉢	Ⅶ- 2 b	口縁	−	−	(7.9)	0.8	大波状	口縁無文帯→地文→無文帯と地文の間に連鎖状沈線(横位)
43	82	77	SI	05	炉	焼土内		1	深鉢	Ⅴ- 2 e	口縁	−	−	(2.5)	0.6	大波状か	ナデ(横)
44	82	78	SI	06	QNW 不明	1層	29 6	35	深鉢	Ⅳ A1n ①	口縁～胴下半	−	−	(33.3)	0.8	平縁	地文 輪積(輪積幅4.0～5.0cm)
45	83	78	SI	06	QNE 不明	1層	34 5	39	深鉢	Ⅶ B3d	口縁～胴下半	26.5	−	(27.7)	0.8	平縁・山形突起	地文→沈線(J字区画・文様帯区画)→磨消→連続刺突(縦位)→ボタン状貼付(刺突押さえ)→山形突起下に渦巻文→刺突(円形・文様起点と終点)
46	83	77	SI	06	 不明	1層	1 1	2	深鉢	Ⅶ - 3 i	口縁	−	−	(3.8)	0.8	平縁・山形突起	口縁無文帯→地文→無文帯と地文の間に隆線1条(横位・直線)→隆線(円形区画)→磨消→ボタン状貼付→山形突起下に沈線(渦巻)
47	83	78	SI	06	QNE 不明	1層	20 20	40	深鉢	Ⅶ- - h	胴下半～底	−	8.3	(12.1)	0.6	−	地文→沈線(文様帯区画)→底付近ナデ(横) 輪積(輪積幅1.5cm・平行)
48	83	77	SI	06	QNE 不明	1層	2 5	7	深鉢	Ⅶ C3a	口縁	−	−	(5.7)	0.7	平縁・山形突起(刻み2個)	地文→山形突起から出る連鎖状隆線(縦・横位)
49	83	77	SI	06	QNW 不明	1層	7 2	9	深鉢	Ⅸ C1e	口縁～胴	−	−	(16.3)	0.7	平縁	地文
50	83	78	SI	06	QNE 不明	1層 床直上	14 1 2	17	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	−	12.0	(11.4)	1.0	−	地文→底付近ナデ(横)
51	83	78	SI	06	ベルト	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ A1f ②	口縁	−	−	(5.7)	0.8	平縁	地文→粘土貼付(刻み2個・棒状工具)→沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾+右傾)充填→文様帯と地文の間に沈線1条(横位・弧状)
52	83	78	SI	06		1～2層		1	深鉢	Ⅵ D3b	口縁	−	−	(8.7)	0.8	平縁・山形突起	沈線(方形区画)→地文(方形区画内充填)→山形突起から出る隆線(縦位)→山形突起直下に刻み3個(横位)
53	83	79	SI	06	QNW 不明	2層	7 1	8	深鉢	Ⅶ- 3 h	口縁～胴	−	−	(16.5)	0.7	波状口縁・突起(貫通孔1個)	地文→沈線(J字状区画)+磨消+ボタン状貼付(刺突・沈線上) 突起下に文様展開
54	83	79	SI	06	QNE QNW 不明	1層 3層上面	7 3 2	12	深鉢	Ⅵ F3l	口縁	21.0	−	(9.0)	0.8	平縁・山形突起4単位(穿孔各1個)・内面に鍔状突起	ナデ(横) 黒斑有
55	84	79	SI	06	QNW QNE QNW 不明	3層上位 1層 3層上面 2層下位	29 24 3 1 14	71	深鉢	Ⅸ C1e	口縁～胴下半	27.3	−	(43.0)	0.9	平縁	地文 輪積(上凸、下凹 輪積幅4.5～5.0cm)
56	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅴ- 1 b	口縁	−	−	(6.0)	0.8	平縁	地文→頸:隆線貼付2条(横位)→隆線貼付部はナデ(横)
57	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 2 b	口縁	−	−	(7.5)	0.8	大波状・口端内外面貼付による複合口縁(肥厚)	沈線3条(横位・平行)
58	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(3.5)	0.8	平縁・内外面肥厚	地文→隆線による文様帯区画(隅丸方形)→文様帯内隆帯際に沈線2条
59	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 l	口縁	−	−	(2.9)	1.1	平縁・内面肥厚	地文→口端直下に隆線1条(横位・直線)
60	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(4.2)	0.6	平縁・突帯状・内面肥厚	隆線2条(横位・平行)→沈線2条(横位・弧状)2段配置
61	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(3.5)	1.0	平縁	沈線1条(横位・太)+沈線3条以上(文様状・綱)
62	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 h	口縁	−	−	(3.5)	0.6	平縁	沈線2条(横位・平行)の中に連続刺突(縦位)充填→文様帯と地文の間に沈線(横位・弧状)
63	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅴ -2・4b	口縁	−	−	(7.9)	0.7	大波状・橋状突起(粗か)・内面複合口縁	橋状突起→地文→隆線(文様区画) 短隆線を多様
64	84	79	SI	06		床直上		1	深鉢	Ⅶ- 1 a	口縁	−	−	(3.9)	0.8	平縁	地文→口縁無文帯→無文帯と地文の間に連鎖状隆線1条(横位・直線)+直下に沈線1条(横位・直線)
65	84	79	SI	06	QNW	床直上		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	−	−	(5.3)	0.7	大波状	地文→口端隆線2条(横位・平行)+隆線際に沈線(陰沈線)→波頂部に渦巻文
66	84	79	SI	06	QNW	床直上		1	深鉢	Ⅳ F1a	口縁	−	−	(4.5)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁上に沈線(横位・連弧状・太)
67	84	79	SI	06	QSW 不明	床直上	1 1	2	深鉢	Ⅳ - 1 i	口縁	−	−	(6.0)	0.7	平縁・内面粘土貼付→複合口縁	地文→隆帯+隆線1条(横位・直線)・隆帯上に原体側圧(縦位)→文様帯と非文様帯の間に沈線(横位・弧状)
68	84	79	SI	06	QSE	床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 m	口縁	−	−	(4.5)	1.1	平縁・内外面複合口縁	地文→粘土貼付1個(指頭痕有)
69	85	80	SI	07	炉 QNW 不明	埋設土器 3層上位	31 4 1	36	深鉢	Ⅶ E1m	口縁～胴下半	(32.5)	−	(34.3)	1.0	平縁	地文 輪積(外下、内上・輪積幅5.0～6.5cm)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の縒り	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	網代(ⅠⅠ)	−	−	−	−	−	−	透3 細礫多	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/2 にぶい明褐灰	100	
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	−	単軸絡条体第1類(R)	右	斜	−	−	透2 金3	5YR 7/4 にぶい橙	5YR 6/4 にぶい橙	100	
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透1	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 5/6 明褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左 横	横 縦 斜	−	−	白1 透1	10YR 7/6 明黄褐	10YR 6/6 明黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススク少量	無節(L)	右 横	横 斜	3.0	−	透1	5YR 4/2 灰褐	5YR 4/3 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	4.5	−	白2 透5 金1 黒1	10YR 7/4 にぶい黄橙	7YR 7/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白1 透2 金1 黒1	7.5YR 7/3 にぶい橙	7.5YR 5/1 褐灰		容量5.91ℓ
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	−	−	金2	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 4/2 灰黄褐		
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	−	LR	左	縦	2.5	−	白1 透2	5YR 6/6 橙	5YR 4/1 褐灰	100	
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	3.0	−	透1	5YR 6/6 橙	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(縦)	−	外面口縁付近ススク多量	LR	左	縦	3.2	−	白1 金1	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(縦)	網代(ⅠB1)	−	LR	右 左	横 縦	3.5	−	白5 透2 金1 黒1	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙	100	
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	有(Z)	白1 透1	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.3	−	透2	10YR 4/3 にぶい黄褐	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ミガキ(縦)	−	外面ススク少量	LR	左	横	2.5	−	透1	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	2.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左 横	縦 斜	4.5	−	白3 金2 黒1	10YR 4/2 灰黄褐	10YR 4/2 灰黄褐		容量20.69ℓ
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.1	−	透1	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 4/2 灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 6/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透1	10YR 4/4 褐	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	RL	左	横	−	−	透1	5YR 7/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1	10YR 5/2 灰黄褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)・剥落	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 7/6 橙	5YR 5/6 明赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透1	7.5YR 4/1 褐灰	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	−	−	白1 透1 割れ口に多	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	LR	左	縦	1.8	−	透1	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 7/4 にぶい橙		
剥落	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1	5YR 5/6 明赤褐	5YR 6/8 橙		
ナデ(横)	−	−	側圧LR LR	−	−	−	−	透3 金2	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.5	−	白1 透1 金3	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/3 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	外面上半ススク、下半飛んでいる	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	4.0	−	白5 透1 金1 砂多	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/4 にぶい黄橙		容量20.47ℓ

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	接合破片数		器種	分類	残存位置	法量(cm)				口端部	外面調整・施文など
			番号	番号	位置(グリッド)		内訳数	総数				口径	底径	器高	厚さ		
70	84	79	SI	08		堆積土		1	深鉢	Ⅶ- 3 f	口縁	−	−	(8.7)	0.7	山形突起	地文→口縁無文帯→無文帯と地文の間に沈線1条(横位)→沈線(楕円形区画)→磨消→刺突(竹管) 山形突起直下に文様展開
71	84	79	SI	08		堆積土下位		1	深鉢	VC1c	口縁	−	−	(3.5)	0.7	平縁	地文→キャリパー形口縁の口端と頸部に隆沈線2条(横位・平行)
72	84	79	SI SI	08 06	QNW	床直上 堆積土上位	1 1	2	深鉢	V- 1 b	口縁	−	−	(7.4)	0.6	平縁・複合口縁	地文→文様帯と非文様帯の間に隆線1条(横位)→文様帯に平行して隆線1条(横位)と複合口縁の間に隆線1条(波状+隆線上に原体回転)を充填
73	84	79	SI	08		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	−	−	(4.4)	0.8	平縁	沈線2+1条(横位平行)の間に短沈線(弧状)を充填
74	84	79	SI	08		床直上		1	深鉢	Ⅸ- - e	胴	−	−	(5.3)	0.9	−	地文
75	84	80	SI	08	QNE 不明	床直上	22 2	24	深鉢	ⅨA 2e	口縁～底	(19.5)	9.0	22.9	0.7	大波状	地文 輪積(外下、内上・輪積幅2.0～2.5cm) 黒斑有
76	84	79	SI	08		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 a	口縁	−	−	(4.2)	0.9	平縁・複合口縁・口端上面刻み	複合口縁上短沈線(縦位)
77	84	79	SI	08	QNE	床面		2	深鉢	Ⅶ- 3 f	口縁	−	−	(9.9)	0.7	山形突起	地文→口縁無文帯→無文帯と胴部文様帯の間に隆線1条(横位)+山形突起から垂下する隆線との交点にボタン状貼付→ここを起点に沈線(楕円形区画)する→磨消(完全に磨消されない)
78	84	79	SI	08		貼床中		1	深鉢	Ⅳ D2e	口縁	−	−	(5.3)	0.6	大波状(4単位)	沈線1条(横位・直線・押引)+沈線1条(横位・山形)を2段配置→波頂部下に隆線1条(縦位)+隆線上に刻み(横位)
79	85	80	SI	08	不明	炉	1 1	2	深鉢	Ⅸ- - e	底	−	12.0	(6.3)	0.7	−	地文→底付近ナデ(横)
80	85	80	SI	09		堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 b	口縁	−	−	(4.5)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)+沈線4条(横位・山形)
81	85	80	SI	09		堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ- 4 n ①	口縁	−	−	(2.9)	0.5	平縁・山形突起・折り返し口縁	地文
82	85	80	SI	09		床直上		1	深鉢	ⅣA 1 f ②	口縁	−	−	(4.2)	0.9	平縁	沈線2+1条(横位・平行)の間に短沈線(斜位右傾)を充填
83	85	80	SI	09		床直上		1	深鉢	ⅣA 1 f ②	口縁	−	−	(3.0)	0.7	平縁	沈線各1条(横位・平行)の間に上下から交互刺突(縦位)
84	85	80	SI	09		床直上		1	深鉢	Ⅳ- - k	胴上半	−	−	(5.3)	0.7	−	地文→沈線1条(横位・直線・半裁竹管)
85	85	80	SI	10・15		堆積土上位		2	深鉢	Ⅳ B1k	口縁	−	−	(5.5)	0.7	平縁・複合口縁	地文→沈線各2条(横位・平行)の間に沈線による方形区画→文様帯と地文の間に沈線1条(横位・弧状)で区画
86	85	80	SI	10・15		堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 n ②	口縁	−	−	(4.7)	0.9	平縁	地文→沈線1条(横位・直線)
87	85	80	SI	10・15		堆積土上位		1	深鉢	V- 1 b	口縁	−	−	(6.9)	0.9	平縁・突帯状	地文→隆線1条(横位・直線)+隆線1条(縦位・波状)→縦位隆線際ナデ調整(地文磨り消される)→口縁隆帯貼付(横位・突帯状・渦巻)
88	85	80	SI	10・15		堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	−	−	(4.4)	0.9	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(縦位・弧状)を充填、中央に円形貼付
89	85	80	SI	10・15		堆積土上位		1	小形	ⅦG 1 e	口縁～底	(3.2)	2.6	6.4	0.4	平縁	地文→沈線(J字状に区画・口縁は無文帯)→磨消→口縁に連続穿孔(横位)
90	85	80	SI	10・15		堆積土上～中位		2	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(7.9)	1.0	平縁・内面肥厚	地文→隆帯(Y字状)→沈線1条(半裁竹管)による三角形文様帯区画
91	85	80	SI	10・15		堆積土上～中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 a	口縁	−	−	(8.4)	0.8	平縁・複合口縁	地文→複合口縁+貼付上押圧(連続指頭痕)→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み→沈線1条(横位・波状)→補修孔1個
92	85	80	SI	10・15	p31	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 2 k	口縁	−	−	(4.3)	0.9	大波状・複合口縁	沈線(横位・平行+山形)
93	85	80	SI	10・15		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	−	−	(3.0)	0.6	平縁・口端内面複合口縁(肥厚)	地文→沈線2+1条か(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填
94	85	80	SI	10・15		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 i	口縁	−	−	(4.9)	0.5	平縁・肥厚	隆線1条(横位・直線)+隆線に沿う原体側圧上下各1条→原体側圧2条(横位・平行)
95	85	81	SI	10・15		堆積土中～下位		1	深鉢	V- 1 c	口縁	−	−	(5.8)	0.7	平縁・内面肥厚	地文→隆沈線(横位)+沈線(横位・弧状)
96	85	81	SI	10・15		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	−	−	(4.4)	0.6	平縁・複合口縁	地文→沈線2条(横位・直線+弧状)の間に短沈線(縦位)を充填、短沈線中央には渦巻文(単位区画か)
97	85	81	SI	10・15		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 a	口縁	−	−	(5.1)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁上沈線3条(横位)→連続刺突(横位・半裁竹管)
98	85	81	SI	10・15		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅸ- - e	胴	−	−	(7.1)	0.8	−	地文
99	85	81	SI	10・15		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ E- f ④	胴	−	−	(7.0)	0.8	−	地文(隣の原体との間に無文帯)→細沈線による文様表現→文様帯と非文様帯の間に隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)
100	85	81	SI	10・15		3層		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ③	口縁	−	−	(6.8)	0.8	平縁・複合口縁	地文→沈線2+1条(横位・平行)の間に沈線(横位・波状)・文様帯と非文様帯の間に隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位) 黒斑有
101	85	81	SI	10・15		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 2 k	口縁	−	−	(7.2)	0.8	大波状・内外面突起(内面C字状)	地文→波頂部突帯状→波頂部突起中心に文様展開→沈線(太)で三角形を基調としたモチーフ
102	86	81	SI	10・15		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 n ①	口縁	−	−	(7.2)	0.8	平縁・複合口縁	地文(複合口縁上右傾、胴部左傾・隣の原体との間に無文帯)→円形粘土貼付(指頭で成形)
103	86	81	SI	10・15		床直上		1	深鉢	V-4 b・c	口縁	−	−	(7.3)	0.5	平縁・突起＋隆線1条(横位・小波状)・内面肥厚	地文→隆線2条(横位・平行)+隆線間原体側圧→隆沈線1条(横位・山形)
104	86	81	SI	10・15		床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 i	口縁	−	−	(4.4)	0.6	平縁・複合口縁・山形突起	地文→複合口縁上に原体側圧(縦位) 黒斑有
105	86	81	SI	10・15		床直上		1	深鉢	Ⅳ- - f ③	口縁付近	−	−	(5.7)	0.6	−	地文→隆沈線2条(横位・平行)の上下に沈線各1条(横位・弧状)
106	86	81	SI	10・15		床直上		1	深鉢	V - 1 b	口縁	−	−	(3.7)	0.5	平縁・肥厚	地文→隆線1条(横位)+沈線1条(横位・弧状)
107	86	81	SI	10・15	p15直上 不明	堆積土下位	3 1	4	深鉢	V F1b	口縁～胴	(13.1)	−	(12.1)	0.4	平縁	地文→隆線1条(横位・直線)→隆線と口端間はナデ(横)→隆線から繋がる突起(中空)有(1単位か) 黒斑有

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	無節(L)	左	縦	−	−	透2	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	RL	左	横	−	−	白2	5YR 6/8橙	5YR 5/6 明赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.5	−	白1	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 7/2 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	−	白1 透2 金3	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄褐		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	RL	右	縦	2.8	−	白2 透1 金1	10YR 4/2 灰黄褐	10YR 2/3 黒褐	90	容量3.78ℓ
ナデ(横)・剥落	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1	7.5YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	2.2	−	白2 黒2	7.5YR 4/3 褐	5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	5YR 4/3にぶい赤褐	5YR 4/6 赤褐		
ナデ(横)	箆(Ⅲ)→ナデ(Ⅳ)・凹有	−	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	3.0	−	透2	10YR 8/3 浅黄橙	10YR 7/2 にぶい黄橙	100	容量0.04ℓ
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2	7.5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	内面口端ス ス微量	LR	右	横	−	−	透1	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 金1	5YR 3/2 暗赤褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 4/3 褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	透1	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 4/1 褐灰		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透2	5YR 4/3 にぶい赤褐	5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	外面口縁ス ス少量	単軸絡条体第1類(r)	左	縦	−	−	透2	5YR 4/2 灰褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.2	−	透2	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	外面口端ス ス少量	−	−	−	−	−	白1 透3	5YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	LR	左	縦	−	−	透5 金1	2.5YR 5/6 黄褐	2.5YR 5/6 黄褐	100	容量0.89ℓ
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	−	透2 金2	5YR 3/1 黒褐	7.5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	有(Z)	透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ナデ(横)・剥落	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	外面口縁ス ス微量	LR	右	横	−	−	白1 透1	5YR 4/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR側圧	−	−	−	−	透1	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 4/3 褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	透2	5YR 6/6 橙	7.5YR 7/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LRL	右	横	−	−	透1	7.5YR 3/3 暗褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/6 橙		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量	LR	横	斜	3.0	−	透1	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.4	有(Z)両端にあり	透2 黒1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 4/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	−	有(S)	透2	7.5YR 5/2 灰褐	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	−	−	−	−	透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 4/1 褐灰		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	2.2	−	白1 透1 金1	5YR4/3にぶい赤褐	7.5YR4/2灰褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	−	透1	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段)	右	横	2.0	−	白2 透1	5YR 6/6 橙	10YR 5/2 灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	透1	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	外面コゲ少量	LR	左	縦	2.2	−	白1 透1 金1	10YR 8/6 黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.2	−	透1	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	出土地点 番号	出土地点 位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
108	86	81	SI SI	10·15 25	14C22	床面 床直上 2層 I層下位	6 1 1 2	10	深鉢	VB4b ②	口縁～胴	(41.3)	−	(22.0)	0.9	平縁·S字状突起	地文→渦巻·懸垂文を描く隆線+垂下する隆線縦位·波状)→突起下·懸垂文下から出る 輪積(外下、内上·輪積幅5.0cm)
109	86	81	SI	10·15		床面		1	深鉢	IVA2k	口縁	−	−	(4.1)	0.8	大波状か	地文→沈線2条(横位·上が直線、下が弧状)
110	86	81	SI	10·15		床面		1	深鉢	IVA1f ②	口縁	−	−	(4.4)	0.7	平縁·複合口縁	地文→沈線2条(横位·平行)で区画された文様帯に短沈線(斜位·左傾)を充填
111	86	81	SI	10·15		床面		1	深鉢	IV- - j	口縁付近	−	−	(3.4)	0.7	−	沈線(横位+斜位·押引·半裁竹管)による文様表現
112	86	81	SI	11		堆積土上位		2	深鉢	IV- 1 k	口縁	−	−	(7.7)	0.8	平縁·内面粘土貼付→複合口縁	地文→沈線2+隆沈線1条(横位·平行)の間に沈線(蕨状)モチーフを充填(斜位)
113	86	81	SI	11		堆積土上位		1	深鉢	IV- 2 k	口縁	−	−	(5.8)	0.8	大波状·内外面突起	波頂部粘土貼付により突帯状、直下に沈線(蕨状)
114	86	81	SI	11		堆積土上位		1	深鉢	IV- 1 k	口縁	−	−	(2.6)	0.8	平縁	沈線2条(横位+斜位)
115	86	81	SI	11		堆積土上位		1	深鉢	IV- 2 k	胴上半	−	−	(3.7)	0.8	大波状か	沈線1条(横位)→沈線2条以上(横位·山形)
116	86	81	SI	11		堆積土上位		1	深鉢	IVA2m	口縁	−	−	(6.1)	0.9	大波状·内面肥厚	地文→沈線2条(横位·上が直線、下が弧状)→沈線(弧状)直下に楕円形粘土貼付(刻み縦位2個)
117	86	81	SI	11		堆積土上位		1	深鉢	IV- - n ①	胴	−	−	(13.1)	0.9	−	地文→沈線1条(縦位)
118	86	81	SI	11		堆積土中位		1	深鉢	IV- - f ③	胴	−	−	(5.3)	0.9	−	地文→沈線1条(横位·直線)+沈線3条(横位·波状)
119	86	81	SI	11		堆積土中位		1	深鉢	IVC2k	口縁	−	−	(10.9)	1.0	大波状	地文→沈線2条(文様区画·平行)→内側に沈線1条(波状)が沿う→頸·文様区画沈線上に粘土貼付(刻み有)
120	86	81	SI	11		床直上		1	深鉢	IV- 2 l	口縁	−	−	(4.4)	0.7	大波状·内面複合口縁	地文→隆線1条(縦位)→隆沈線1条(文様区画)+隆線上に刻み
121	86	81	SI	11		床直上		1	深鉢	IVA1f ②	口縁	−	−	(6.4)	0.9	平縁·折り返し状	地文→沈線2条(横位·平行+弧状)の上に短沈線(斜位·左傾)を充填→沈線(横位·弧状)の各弧接点から沈線(縦位)が垂下する
122	86	81	SI	11		床直上		1	深鉢	IV- 1 i	口縁	−	−	(4.0)	0.6	平縁·内外面複合口縁	地文→複合口縁上に原体側圧(縦位)
123	86	81	SI	11		床直上		1	深鉢	IV- - k	胴	−	−	(3.4)	0.8	−	地文→沈線2～3条(文様区画)→内側に沈線1条(弧状)が沿う
124	86	82	SI	12	不明	堆積土	6 6	12	深鉢	IVF1a	口縁	(26.9)	−	(16.8)	1.0	平縁·複合口縁	地文→粘土帯貼付による複合口縁が文様帯→短沈線(縦位·太)3～4条と円形押圧が交互に巡る
125	87	82	SI	12	不明	堆積土中位	1 1	2	深鉢	IVF1b	口縁	−	−	(6.3)	1.1	平縁·複合口縁·口端上面連続刺突(円形·垂直方向)	複合口縁上短沈線(縦位·太)充填→頸:沈線各1条(横位·直線·半裁竹管)の間に沈線4条(横位·波状·半裁竹管)を充填
126	87	82	SI	12		堆積土下位		1	深鉢	IV- 1 n ①	口縁	−	−	(11.6)	1.1	平縁·肥厚	地文
127	87	82	SI	12		堆積土下位		1	深鉢	IV- 2 k	口縁	−	−	(4.2)	1.2	大波状·肥厚	波頂部小波状2個→波頂部下に円形押圧→沈線4条(横位·平行·半裁竹管)
128	87	82	SI	12	不明	堆積土下位	3 1	4	深鉢	IVF1a	口縁	−	−	(8.8)	1.1	平縁·複合口縁	地文→複合口縁上短沈線(縦位·太)充填→頸:沈線2条(横位·弧状)
129	87	82	SI	12	不明	堆積土中～下位 一括	8 1	9	深鉢	IX- - e	胴下半～底	−	12.3	(10.0)	1.0	−	地文→底付近ナデ(横)
130	87	82	SI SI	12 38	QSE 15D11	堆積土下位 一括 堆積土中～下位 一括 堆積土下位 III層下位	7 2 1 1	11	深鉢	IVF2b	口縁～胴下半	(25.0)	−	(34.3)	0.8	大波状(4単位)· 複合口縁	地文(予め文様帯には施文しない)→複合口縁上沈線2条(横位·波状)→頸·文様帯と非文様帯(地文)の間に沈線1条(横位)→文様帯沈線5～6条(横位·波状)を充填 沈線はいずれも半裁竹管·黒斑有
131	88	82	SI SI	12 32	QNW 不明	堆積土下位一括 堆積土中位一括 堆積土上位	5 1 1 1	8	深鉢	IVG2a	口縁～胴下半	(30.9)	−	(42.5)	1.1	大波状(4単位)· 複合口縁	地文→複合口縁上沈線1条(横位·山形·太)
132	87	82	SI	12		堆積土下位一括		1	深鉢	IV- - c	胴上半	−	−	(7.3)	0.9	−	地文→沈線2条(横位、縦位·山形·深)
133	87	82	SI	12		堆積土下位一括		1	深鉢	IX- - e	胴下半	−	−	(5.4)	1.5	−	地文→底付近ナデ(横)
134	87	83	SI	12		堆積土 床直上	1 1	2	深鉢	IVJ2a	口縁	(16.2)	−	(9.7)	0.8	大波状·複合口縁	地文→波頂部には円形押圧→複合口縁上は短沈線(縦位·太)と沈線(横位·太)を交互に施文→頸:沈線4条(横位·山形·半裁竹管)
135	87	83	SI	12		床直上		1	深鉢	IVC - e	胴	−	−	(11.8)	1.0	−	地文
136	87	83	SI	13		堆積土上位		1	深鉢	IV- 1 n ①	口縁	−	−	(3.4)	0.8	平縁·肥厚	地文
137	87	83	SI	13		堆積土上～中位		1	深鉢	IV- 1 n ①	口縁	−	−	(6.2)	0.7	平縁·複合口縁	地文(複合口縁上は右傾、その他は左傾·胴隣の原体との間は無文帯)
138	87	83	SI	13	不明	堆積土上～中位	1 1	2	深鉢	IV- - f ②	口縁付近	−	−	(3.9)	0.8	−	地文→沈線2条(横位·平行)の間に短沈線(斜位左傾)を充填→沈線(斜位·平行)だが不明
139	87	83	SI SI	13 14	QSW	堆積土上～中位 床直上	1 1	2	深鉢	IVF2b	口縁付近	−	−	(8.7)	1.0	大波状·肥厚	地文→頸部に沈線2条(横位·平行)で文様帯区画→これを挟んで上4条·下2条の沈線(横位·波状)を充填→波頂部形に沿って沈線3条を三角形に施文 いずれも半裁竹管·黒斑有
140	87	83	SI	13		堆積土中位		1	深鉢	IV- - l	口縁	−	−	(3.8)	0.5	大波状·内外面突起	棒状工具による格子目文→波頂部に円形貼付(中央凹み)→貼付から垂下する隆線1条(縦位·波状)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	糸の撚き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.5	−	白1 透1	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/1 褐灰		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	透3	5YR 3/2 暗赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	透1	5YR 5/1 褐灰	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	5YR 6/6 橙	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	−	白1 2	5YR 5/3 にぶい赤褐	7.5YR 6/3 にぶい褐		
降線1条(横位・直線)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	5YR 5/6 明赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	5YR 4/3 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 4/6 褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	有(Z)	白1 透1 金2 黒1	5YR 6/8 橙	5YR 6/8 橙		
ナデ(横)	−	−	羽状(結束1種LR・RL)	−	縦	3.0	−	透1 金1	5YR 4/2 灰褐	7.5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	透2 金3	5YR 5/6 暗赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	5.0	有(Z)	白1 透2 金3	7.5YR 5/6 明褐	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.0	−	透2	7.5YR 4/6 褐	7.5YR 3/3 暗褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.5	−	白1 透1 金2	7.5YR 5/2 灰褐	10YR 5/2 灰黄褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	LR圧痕 LR	左	縦	2.0	−	透2 金1 細礫多	5YR 7/8 橙	7.5YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(斜)	−	内面ス ス微量	RL	横	斜	−	−	白1 透1 金1	5YR 6/6 橙	5YR 5/6 明赤褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	無節(L)	横	斜	3.5	−	透2	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/3 にぶい橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 8/6 浅黄橙		
ナデ(横)・指頭圧痕	−	−	LR	左	縦	2.5	−	透3	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	RL	左	横	−	−	白1 透2	5Y 7/1 灰白	10YR 4/4 褐		
ナデ(横)	指頭圧痕・果実痕か	内面底付近コゲ少量	単軸絡条体第1類(1)	直立	縦	3.0	−	透3	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 8/2 灰白	100	
ナデ(口縁→横・胴→縦)・黒斑有	−	−	羽状(結束1種LR・LR)	直立	縦	6.5	−	白1 透3 黒1	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		容量10.17ℓ
指頭圧痕・ナデ(口縁・横・胴→縦)	−	−	LR	横	斜	3.0	−	白2 透3	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		容量15.35ℓ
ナデ(縦)	−	−	RL	左	横	3.0	−	透5	5YR 7/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(縦)	−	−	LR	右	−	−	−	白1 透2	5YR 7/8 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	4.0	−	透5	10YR 4/1 褐灰	10YR 4/1 褐灰		
指頭圧痕・ナデ(斜)	−	−	LR	左	縦	2.5	−	白1 透2 金1	2.5YR 6/8 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.2	−	透1 割れ口に多	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	−	−	透1 金1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透1 金1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	白1 透2	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 6/2 灰黄褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
141	87	83	SI	13		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- - k	口縁付近	-	-	(3.5)	1.0	-	沈線1条(横位・直線・押引)→沈線(横位・山形・押引)→連続刺突(縦位・貼付剥落か)
142	87	83	SI	13		堆積土中位		1	深鉢	Ⅸ- - f	底	-	11.5	(1.6)	1.6底部	-	ナデ(横)
143	87	83	SI	13		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ- - k	胴上半	-	-	(6.3)	0.8	-	地文→沈線1条(横位・弧状)から垂下する沈線(J字状)→沈線(縦位)もあり文様帯区画か
144	87	83	SI	13		床直上		1	深鉢	Ⅳ- - l	胴上半	-	-	(8.3)	0.9	-	垂下する隆線2条(縦位・波状)→ここから斜位に出る隆線2条(うち1条には半裁竹管押圧あり)
145	87	83	SI SD	13 04	ベルトA(W側) 15D2	床直上 堆積土下位	1 1	2	深鉢	ⅣA 1 f ①	口縁	-	-	(6.3)	0.9	平縁	地文→沈線各2条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・弧状)を充填・接点には渦巻文もしくは粘土貼付(刻み3個)→沈線1条(横位・弧状)→補修孔1個
146	87	83	SI	13	ベルトC(S側)	堆積土下位		1	深鉢	Ⅴ -1 b	口縁	-	-	(7.7)	0.9	平縁	地文→隆線2条(横位・平行・太)→口縁側隆線には隆線(S字状)が付く(4単位か)→隆沈線1条(文様方形区画・太)一部隅に渦巻文
147	88	83	SI	14		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ - - n ①	胴	-	-	(4.8)	0.9	-	地文
148	88	83	SI	14		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ - - n ①	胴	-	-	(6.7)	0.8	-	地文
149	88	83	SI	14	QSW	堆積土下位		1	深鉢	Ⅴ- - b	胴上半	-	-	(12.3)	1.1	-	地文→隆線2条(横位・平行・太)→隆線3条(方形区画・太)
150	88	83	SI	14	QSW	堆積土下位		1	深鉢	Ⅴ C1c	口縁	-	-	(4.5)	0.7	平縁	地文→口端隆沈線2条(横位・平行)→隆沈線2条(円形)・黒斑有
151	88	83	SI	14	QSW	堆積土下位		1	深鉢	Ⅴ C3c	口縁	-	-	(5.6)	0.8	小波状・複合口縁	地文→複合口縁下沈線1条(横位・直線)→隆沈線2条(文様表現)
152	88	83	SI	14	QSW	堆積土下位		2	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	-	-	(7.6)	0.6	大波状	地文→波頂部3個1対か→波頂部隆線1条(横位)から出る渦巻文あり、内面には粘土貼付→頸隆線2条(横位・平行)→磨消(完全に磨消されない)
153	88	83	SI	14	QSW サブトレW	堆積土下位 堆積土中位	5 1	6	深鉢	Ⅴ- - b	胴	-	-	(15.2)	0.9	-	地文→隆線3条1組(縦位・クランク・文様表現)・上半黒斑有
154	88	83	SI	14	QSW	床直上		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	-	-	(5.5)	0.6	大波状・肥厚	地文→波頂部円形隆線→肥厚口縁上隆線1条(横位・波状)
155	88	83	SI	14	QSW	床直上		1	深鉢	Ⅴ C1b ①	口縁	-	-	(4.6)	0.7	平縁・内面突帯状	地文→隆線各2条(横位・平行)の間に隆線(横位・蕨状)を充填
156	88	83	SI	14	QSW	床直上		1	深鉢	Ⅳ F1a	口縁	-	-	(3.7)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁上短沈線(横位・連弧状)→沈線2条(横位・押引・平行・左から右へ)
157	88	83	SI	14	サブトレW	床直上		1	深鉢	Ⅴ D4a	口縁	-	-	(6.5)	0.6	平縁・突起・複合口縁・内面突帯状	地文→突起間に刻み(縦位)充填→頸:沈線3条(横位・平行)→胴:沈線(文様)
158	88	83	SI	13·14	QNW	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ①	口縁	-	-	(5.8)	0.8	平縁・内面肥厚	地文→隆沈線2条(横位・半裁竹管)の間に沈線2条(横位・弧状)を充填→胴:沈線1条(横位・直線)+沈線2条(横位・弧状)
159	88	83	SI	13·14	サブトレW	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ A1k	口縁	-	-	(8.3)	1.0	平縁・複合口縁	地文→口:沈線2条(横位・平行・半裁竹管)→その下に沈線1条(横位・山形)+山形の接点から垂下する沈線(縦位)・黒斑有
160	88	83	SI	13·14	サブトレE	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ -1 n ①	口縁	-	-	(8.4)	0.7	平縁・複合口縁	地文
161	88	83	SI	13·14	QSE	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ A1f ②	口縁	-	-	(6.5)	0.6	平縁	地文→沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→沈線(横位・弧状か)→刻み(2個)
162	88	83	SI	13·14	QNW	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ -2 m	口縁	-	-	(7.6)	1.1	大波状・棒状突起(刻み)	器面はミガキ(横)→波頂部下に粘土貼付1個(指頭成形)
163	89	84	SI	13·14	QSW	堆積土中位		2	深鉢	Ⅳ A1f ②	口縁	-	-	(7.7)	0.6	平縁・内面肥厚	地文→文様帯と非文様帯の間に沈線2条(横位・平行)→沈線上に粘土貼付(刻み3個有)と沈線(C字状)が交互→この部分の沈線が三角形状に上がり、この傾きに倣って左右に短沈線が充填される→粘土貼付部分は渦巻文が付けられる
164	89	84	SI	13·14	ベルトA(中央)	堆積土下位		1	浅鉢	Ⅸ E1e	口縁	-	-	(4.0)	0.6	平縁	地文・外面黒斑有
165	89	84	SI	13·14 16	QSW サブトレW ベルトC(中央) サブトレS QSW QNW	堆積土上位 堆積土中位 堆積土中位 堆積土中位 堆積土下位 床直上 床直上 8層下位	7 2 2 1 1 1 1 1	16	深鉢	Ⅴ E2a	口縁～胴	(20.7)	-	(21.1)	0.6	大波状(4単位)・肥厚	口:波頂部には円形押圧1個→左右に沈線(横位・深め) 頸:沈線2+3条(横位・平行)の間に沈線1条(横位・波状) 胴:沈線で縦位・横位(蕨状)・渦巻などを描き構成 地文は頸～胴部で、口縁部は無し
166	89	84	SI	13·14	焼失焼土	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ - 1 f ②	口縁	-	-	(6.9)	0.6	平縁・内面肥厚	地文→隆線1条(横位)+隆線上交互刺突→隆線直下沈線1条(横位)→隆線と口端の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→隆線上に粘土貼付
167	89	84	SI	15	炉	埋設土器		8	深鉢	Ⅸ - - e	胴下半～底	-	8.5	(11.9)	0.6	-	地文→底付近ナデ(横)
168	89	84	SI	16	QSW QNW QSE 不明	3層下位 7層下位 8層下位	1 1 3 1 1	7	深鉢	Ⅵ C2b	口縁～胴上半	-	-	(10.9)	0.8	大波状	沈線(区画・太)→区画内地文充填 波頂部下には縦長の文様区画、波頂部間は長方形と方形の文様区画が交互に配置される・黒斑有
169	89	84	SI	16	QNE	7層下位		1	深鉢	Ⅵ C2j	口縁	-	-	(5.3)	0.7	大波状	波頂部下に隆線(円形・文様区画)を縦に2個連結
170	89	84	SI	16	QNW	8層上位		1	深鉢	Ⅳ -1 j	口縁	-	-	(3.6)	0.8	平縁・複合口縁	沈線1条(横位・弧状)とこれに沿う連続刺突(縦位・垂直方向・半裁竹管)→頸:沈線1条(横位・直線・半裁竹管)
171	89	84	SI	16	p5 p6 QNE ベルトA(E側) 不明	堆積土 堆積土 8層上位 7層中位 12a層中位	19 8 14 3 7 4	55	深鉢	Ⅵ C2a	口縁～底付近	20.3	-	(22.9)	0.9	大波状(2単位)	地文→頸:沈線2条(横位・平行)→胴:沈線(縦位・U字状)・円形押圧

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 6/6 橙	5YR 6/8 橙		
ナデ	指頭圧痕・ナデ	−	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	100	
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.0	有(Z)	透7 金1	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	2.5YR 5/6 明赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	5YR 7/6 橙	10YR 5/3 にぶい黄褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	LR	右	横	2.3	−	透2 細礫多い	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	1.7	−	透2 金1	7.5YR4/4褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.2	有(S)	透3 黒1	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 8/3 浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	有(Z)	透3	5YR 3/3 暗赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.8	−	白1 透3 黒1	5YR6/8橙	5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.8	−	透2	10YR7/6明黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR4/6褐	7.5YR4/6褐		
ナデ(横)	−	外面ス少量	LR	左	縦	2.2	−	透1	7.5YR4/2灰褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	−	−	RLR	右	縦	4.5	−	透2 黒1 白2 透1 金1	5YR5/8明赤褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	RLR	右	縦	2.5	−	割れ口に多い	7.5YR4/3褐	7.5YR3/2黒褐		
ナデ(横)	−	口端コゲ少量	RL	左	横	−	−	白2	7.5YR6/6橙	10YR4/1褐灰		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透5 黒1	7.5YR2/2黒褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	口端コゲ多量・外面ス多量	LR	左	縦	2.2	−	白1 透1 黒1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR4/3褐		
ナデ(横)	−	内面ス少量	LR	右	横	−	−	白1 金1 黒1	10YR3/3暗褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.7	−	白1 透2 金1 黒1	5YR6/8橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横・一部縦)	−	−	LR	右	横	2.0	−	白2 透2 金1	5YR7/8橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.7	−	白1 透1 金3	10YR4/3にぶい黄褐	１０ＹＲ		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	外面ス少量	LR	右	横	2.5	−	白2 透1 金1 黒1	5YR3/2暗赤褐	5YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.2	−	白1 透1	10YR6/6明黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.0	−	白1 透1	5YR5/4にぶい赤褐	5YR4/3にぶい赤褐		容量2.98ℓ
ナデ(横)	−	外面ス少量	LR圧痕 LR	右	横	2.5	−	透2 金1 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	−	LR	右	横	−	有(Z)	白2 透5 黒1	10YR 7/6 明黄褐	10YR 7/4 にぶい黄橙	100	
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.8	−	白1 透2 透1	10YR4/2灰黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)・剥落	−	−	−	−	−	−	−	白3	10YR2/2黒褐	10YR4/4褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 金1	7.5YR5/8明褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白2 透2	10YR8/3浅黄橙	10YR8/4浅黄橙		容量3.75ℓ、重量1.200g

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
172	89	84	SI	16	QSE	8層下位		1	深鉢	Ⅳ-1f②	口縁	−	−	(3.7)	0.7	平縁	沈線2条(横位・三角形・半裁竹管)の間に短沈線(縦位・半裁竹管)充填
173	89	84	SI	16	QSW	8層下位		2	深鉢	Ⅸ D1f	口縁	−	−	(3.1)	0.6	平縁	ナデ(横)
174	89	84	SI	16	QSW	8層下位		3	深鉢	Ⅳ-1j	口縁	−	−	(6.4)	0.8	平縁	地文→沈線1条(横位)+沈線2条(横位・押引・左から右へ)→隆線1〜2条(縦位・文様構成か)
175	89	84	SI	16	QNW	8層下位		2	深鉢	Ⅵ C2j	口縁	−	−	(5.2)	0.7	大波状	沈線(円形区画)→区画内地文充填 摩滅著しい
176	89	84	SI	16	QSW	8層下位		1	深鉢	Ⅵ B1d	口縁	−	−	(4.9)	0.5	平縁	地文→沈線(縦長区画)→磨消
177	89	84	SI	16	QSW	8層下位		3	深鉢	Ⅵ C-b	胴	−	−	(5.1)	0.7	−	沈線(縦長区画)→区画内地文充填→隆沈線(縦位) 摩滅著しい
178	89	84	SI	16	ベルトA(E側)	11層中位		1	深鉢	Ⅳ-1f②	口縁	−	−	(3.1)	0.5	平縁・複合口縁	複合口縁上短沈線(斜位・左傾)→直下に隆線1条(横位)+下方向から押し上げるような連続刺突(山形隆線にする効果)
179	89	84	SI	16	QSE QNE ベルトA(E側)	8層最下位 7層下位 8層下位 12a層中位	6 2 2 1	11	深鉢	Ⅵ B2b	口縁〜胴上半	(17.1)	−	(11.2)	0.8	大波状(3単位)	沈線(縦長区画)→区画内地文充填 文様が波頂部に規制されない 補修孔3個
180	89	85	SI	16	QSE ベルトA(E側)	7層下位 12a層中位	1 1	2	深鉢	Ⅳ-4i	口縁	−	−	(6.0)	1.0	平縁・山形突起(2個)・肥厚	原体側圧8条(横位・4条目と5条目の間は圧痕なく隆線化)→沈線(横位・弧状か)
181	89	85	SI	16	ベルトA(W側)	13層中位		1	深鉢	Ⅸ C1d	口縁	−	−	(4.0)	1.1	平縁	地文(口縁は1.5cm施文なし)
182	89	85	SI	16	ベルトB(S側) ベルトA(W側) QSW	12a層中位 13層中位 8層下位	1 1 1	3	深鉢	Ⅵ E1j	口縁	−	−	(11.2)	0.9	平縁	地文→沈線(区画)→磨消→隆線2条(横位・平行)→連続刺突(上斜方向から)充填→橋状突起(4単位か)→沈線(横位・上隆線直上)
183	89	85	SI	16	p1	堆積土		2	深鉢	Ⅵ B1a	口縁	−	−	(5.0)	0.7	平縁	地文→隆沈線2条(縦位・弧状)
184	89	85	SI	16	p7	堆積土		2	深鉢	Ⅵ B2a	口縁	−	−	(9.2)	0.8	大波状	隆沈線3条(横位・波頂部形に沿う・3条目は渦巻文のち垂下する)
185	90	85	SI	16	p8	堆積土		1	深鉢	Ⅵ C2b	口縁	−	−	(4.4)	0.7	大波状	波頂部下に沈線1条(縦長区画)→内部にも沈線1条が沿う
186	90	85	SI	16	p9	堆積土		7	深鉢	Ⅵ E1j	口縁	−	−	(10.5)	1.0	平縁	地文→沈線(区画)→磨消→隆線2条(横位・平行)→連続刺突(上斜方向から)充填→橋状突起(4単位か)→沈線(横位・上隆線直上)
187	90	85	SI	16	p10	堆積土		1	深鉢	Ⅵ C1b	口縁	−	−	(4.7)	0.7	平縁	沈線(縦長区画)→区画内地文充填 摩滅著しい
188	90	85	SI	16 不明	QSW	堆積土下位	5 6	11	深鉢	Ⅸ − e	胴下半〜底	−	8.4	(6.4)	0.6	−	地文→底付近ナデ(横)
189	90	85	SI	16 23	炉SW側 炉NE側	床面 一括 床面	14 3	17	深鉢	Ⅵ B1a	口縁〜胴上半	−	−	(3.8)	0.8	平縁	地文→口唇隆沈線2条(横位・平行)→隆沈線(縦位・渦巻文)
190	90	85	SI	17 不明		堆積土	1 1	2	深鉢	Ⅵ B1i	口縁	−	−	(6.8)	0.7	平縁・複合口縁	複合口縁上連続刺突(円形・垂直方向・竹管)+隆線2条(斜位・直線)の間に原体側圧→胴地文
191	90	85	SI	17	ベルトB(S側)	1層下位		1	深鉢	Ⅵ − h	胴	−	−	(9.8)	0.8	−	爪形工具による連続刺突(7段以上・まくれ返り)
192	90	85	SI	17	QSE	堆積土上〜中位		7	深鉢	Ⅶ E3f	口縁〜胴上半	−	−	(12.6)	0.9	平縁・山形突起(刻み2個)	地文→沈線(J字状・文様区画)→磨消→突起下円形盲孔(2個と3個が交互に施される)
193	90	85	SI	17	QNE ベルトA(E側) 不明	堆積土上〜中位 堆積土最下位 3層上位	14 1 7 1	23	深鉢	Ⅶ E3g	口縁〜胴下半	(31.8)	−	(32.1)	0.7	大波状・中空突起(4単位)・突帯状	地文→沈線(楕円形・Y字状・倒卵形・文様表現)→磨消→突起下に盲孔2個・突起に十字になるように盲孔・中央に貫通孔→沈線(外:逆ハート形、内:A字状・文様表現)
194	91	86	SI	17 不明	QSE ベルトB(S側)	堆積土上〜中位 堆積土最下位 1層下位 堆積土下位	47 2 1 4 5	59	深鉢	Ⅶ C2h	口縁〜胴下半	(23.2)	−	(29.5)	0.8	大波状(4単位)・波頂部に刻み(2個)	地文→沈線(文様区画)→磨消→接点・屈曲点などにボタン状貼付(波頂部下も)・輪積(外下、内上・輪積幅2.0〜4.0cm)
195	91	85	SI	17	QSE QNE	堆積土上〜中位 堆積土上位	2 1	3	深鉢	Ⅸ D1f	口縁〜胴上半	(6.2)	−	(4.7)	0.5	平縁	ナデ(横)・黒斑有
196	91	86	SI SD	17 04	QNE 16D2 15D3	堆積土上〜中位 堆積土上位 堆積土上位	1 2 1	4	深鉢	Ⅴ C1b①	口縁	−	−	(8.7)	1.1	平縁・内面肥厚	地文→頸付近隆線2条(横位・平行)→楕円形突起→突起から隆線2条(斜位)が出る・下線は突起下で渦巻文となる
197	91	87	SI	17 不明		堆積土	20 6	26	深鉢	Ⅴ − a	胴下半〜底	−	(17.4)	(20.1)	1.1	−	地文→沈線(文様区画)→磨消・輪積(外下、内上・輪積幅2.5〜3.0cm)
198	92	88	SI	17 不明	炉N側	床面 一括 堆積土	72 62 5	139	深鉢	Ⅶ E2i	略完形	(27.5)	−	(34.1)	0.8	大波状(8単位)	地文→隆線(弧状・文様区画)→磨消→弧状モチーフ接点にボタン状貼付→波頂部下に円孔1個+円形盲孔2〜3個を縦位に配置→隆線上原体側圧(一部)・輪積(外下、内上・輪積幅2.5cm)
199	91	86	SI	17	炉N側	床面		1	小型	Ⅸ − f	胴下半〜底	−	4.0	(4.0)	0.4	−	ナデ(横)・輪積(外上、内下)
200	92	89	SI	17	QNE ベルトA(E側) ベルトB(N側)	堆積土上〜中位 2層 3層上位 1層 堆積土下位	25 10 2 1 6	44	深鉢	Ⅵ D3k	略完形	22.2	11.0	30.8	0.9	平縁・山形突起(4単位)	地文→口縁ナデ(横・口縁から4.5cm施文なし)・輪積(外下、内上・輪積幅3.0cm)・黒斑有
201	93	86	SI	17	QNE QNW	堆積土上〜中位 堆積土上〜中位 堆積土最下位	7 2 1	10	深鉢	Ⅶ -1h	口縁〜胴上半	−	−	(22.9)	0.9	平縁	地文→沈線(J字状・文様区画)→磨消→文様末端ボタン状貼付
202	92	86	SI	17	QNW	堆積土中〜下位 堆積土最下位	1 3	4	深鉢	Ⅵ B1e	口縁	−	−	(8.1)	0.8	平縁	地文→沈線(J字状・文様区画)→磨消
203	92	86	SI	17	HE	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ A1f②	口縁	−	−	(5.5)	0.7	平縁	地文→沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→沈線上に粘土貼付→沈線1条(横位・山形)
204	92	86	SI	17	QSW QNW	堆積土上〜中位 堆積土最下位 堆積土最下位 2層	1 9 3 1	14	深鉢	Ⅶ B2j	口縁〜胴下半	(22.5)	−	(23.6)	1.0	大波状(4単位)	地文→沈線(J字状・三角形文様区画)→磨消→文様接点などに沈線(S字状)→沈線(縦位・連続S字状→蛇行懸垂文には成りきれてない)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2	5YR7/6橙	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2	10YR2/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	白3 透5	5YR5/8明赤褐	7.5YR5/8明褐		
ナデ(横)	−	−	RLか	直立	斜	−	−	白3 透2	10YR3/1黒褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.0	−	白1 透1	10YR4/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LRか	−	−	−	−	白2 透3	7.5YR5/8明褐	7.5YR5/8明褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1	10YR4/2灰黄褐	10YR7/2にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.5	−	透2	2.5YR4/3にぶい赤褐	2.5YR2/1赤黒		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕	−	−	−	−	透2 金1 黒1	7.5YR7/8黄橙	7.5YR3/2黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.3	−	白2 透2 割れ口に多い	7.5YR3/3暗褐	7.5YR5/8明褐		
ナデ(横)	−	−	RLR	直立	斜	2.2	−	白3 透2	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	透2	7.5YR4/3褐	7.5YR2/1黒		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白5 透2	5YR5/8明赤褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)	−	内面ススコゲ少量	−	−	−	−	−	白1	10YR8/4浅黄橙	10YR4/4褐		
ナデ(横)	−	−	RLR	右	縦	2.4	−	白2 透1	10YR3/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	2.0	−	白2 透2	7.5YR7/6橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	内面ススコゲ少量	無節(L)	左	縦	−	−	白3 透2 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/3にぶい黄褐	100	
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.8	−	白3 透2 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	3.0	−	白1 透1 金2 黒2	5YR6/6橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 金1 細礫多	10YR8/4浅黄橙	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段LR)	左	縦	3.5	−	割れ口に多	7.5YR6/6橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	外面ススコゲ少量	RL	右	縦	5.0	−	白3 透1 金1 黒1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR3/3暗褐		容量11.09ℓ
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白1 透3 金1 黒2	5YR7/4にぶい橙	5YR7/3にぶい橙		容量11.61ℓ
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透1 金1	5YR6/6橙	5YR7/4にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.5	−	白1 透1 金1 黒1	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)・黒斑有	網代(ⅠJ1)	−	無節(L) RL	左 右	縦 縦	3.5	−	白2 透1 金2 黒1	5YR 6/6 橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	75	容量15.85ℓ
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	外面ススコゲ少量(上半濃く下半飛んでいる)	LR	左	縦	3.5	−	白1 透2	10YR 6/4 にぶい黄褐	10YR 7/6 明黄褐	100	容量15.55ℓ、重量4,100g
ナデ(横)	笹(Ⅲ)	内外面ススコゲ多量	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR1.7/1黒	100	
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	外面ススコゲ少量・内面ススコゲ多量	RL	右	縦	5.0	−	白2 透1 金1	5YR6/6橙	5YR7/2明褐灰	100	容量6.83ℓ、重量2,100g
ナデ(横)	−	外面ススコゲ多量	無節(L)	左	縦	3.0	−	白1 透2 金2	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/6明黄褐		
ナデ(縦)	−	外面コゲ少量	RL	右	縦	4.5	−	白2 透1 金1	10YR2/2黒褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.8	有(末端に環の付いた縄2つ捻り	白2 透1 金1	10YR4/1褐灰	10YR2/1黒		
ミガキ(口縁→横・胴→縦)	−	外面ススコゲ少量	LR	左	縦	2.2	−	白1 透3 金1	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐		容量4.08ℓ

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
205	93	89	SI	17 13·14	QNW QSW	堆積土上～中位 堆積土最下位 堆積土上位	3 6 1	10	深鉢	Ⅳ D3e	略完形	(12.5)	6.2	16.5	0.7	平縁·山形突起(4単位)	地文→沈線(L字状·文様区画)山形突起に規制される(起点は突起)→磨消 L字状モチーフ連結しない
206	93	90	SI	17	ベルトA(E側) ベルトB(S側) 炉E側 炉	堆積土下位 堆積土上～中位 3層下位 3層下位 床面 埋設土器	22 3 3 1 1 1	31	深鉢	Ⅸ C1e	口縁～胴下半	(25.1)	－	(47.5)	0.8	平縁(歪み有り)	地文
207	93	86	SI	17	QNE	堆積土最下位		1	深鉢	Ⅳ D2e	口縁	－	－	(4.7)	0.7	大波状(4単位)·内面突帯状	口端に沿って隆線(縦位刻み有り)→波頂部は貼付しない→隆線2条(縦位·横位刻み有り)
208	93	86	SI	17	QSW	堆積土最下位		1	深鉢	Ⅶ C1j	口縁～胴上半	－	－	(10.3)	0.6	平縁	地文→円形盲孔1個→沈線(円形盲孔を起点とする文様区画)→磨消→沈線(縦位·連続S字状→蛇行懸垂文に成りきれてない)
209	93	91	SI	17	QNW QSE ベルトB(N側) 炉E側 15C16 15C区	堆積土上位 堆積土上～中位 堆積土上～中位 堆積土下位 焼失焼土中直下 床面 Ⅱ層中位 Ⅰ層中位	2 3 1 6 1 2 1 7	23	深鉢	Ⅶ E1m	口縁～胴	(25.5)	－	(14.4)	0.7	平縁	地文(口縁2cm施文なし)
210	93	87	SI	17	HW	堆積土下位(焼土下)		1	深鉢	Ⅶ E3g	口縁	－	－	(10.1)	0.8	大波状·中空突起(4単位)·突帯状	地文→沈線(文様区画)→磨消→ボタン状貼付→突起内面沈線1条(の字状)
211	94	87	SI	17	QSW HS QNW 炉 不明	堆積土上～中位 堆積土下位(焼土下) 堆積土下位 埋設土器	11 8 1 5 3	28	深鉢	Ⅸ C1e	口縁～胴下半	－	－	(28.0)	0.9	平縁	地文
212	94	88	SI	17	HW 19B23 不明	堆積土下位(焼土下) Ⅲ層	1 12 1	14	深鉢	Ⅶ E3f	口縁～胴上半	－	－	(11.0)	0.8	平縁·山形突起	地文→沈線(J字状·倒卵形区画)→磨消→突起下円形刺突(2個)→渦巻文
213	94	91	SI SX	17 06	炉E側 QNW 不明	床面 2層 堆積土下位 1層最下位	12 2 1 2 2	19	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	－	11.0	(18.7)	0.9	－	地文→底付近ナデ(横)
214	94	88	SI	17	炉N側 不明	床面一括	14 3	17	深鉢	Ⅶ -3m	口縁～胴上半	－	－	(21.3)	0.7	平縁·山形突起	地文(口縁3.5cm施文なし)
215	95	89	SI	17	炉N側	床面一括		7	深鉢	Ⅸ C1e	口縁～胴上半	－	－	(23.8)	0.8	平縁	地文
216	95	89	SI	17	炉直上	焼土面上一括		5	深鉢	Ⅶ -1m	口縁～胴上半	－	－	(16.0)	1.0	平縁	地文→口縁無文帯と地文の間に沈線1条(横位·直線)
217	95	87	SI	17	炉W側	床面		4	深鉢	Ⅶ E3i	口縁	－	－	(7.8)	0.8	大波状·中空突起か·突帯状	地文→隆線(文様区画)→磨消
218	95	90	SI	17 13·14	QNW ベルトB(S側) 炉 ベルトB(S側)	堆積土上～中位 堆積土最上位 堆積土下位 埋設土器 堆積土上位	9 2 6 2 4	23	深鉢	Ⅶ A1e	口縁～胴上半	(28.2)	－	(17.7)	1.0	平縁	地文→沈線(文様帯方形区画)+文様帯と非文様帯を区画する沈線1条(横位)→磨消→ボタン状貼付·輪積(外下、内上·輪積幅2.0cm)
219	95	87	SI	17	QNE	床面		1	深鉢	Ⅳ -1f ①	口縁	－	－	(5.3)	0.8	平縁·内面肥厚	地文→沈線1+2条(横位·平行)の間に沈線(弧状·平行)+渦巻文→空白に刺突を充填
220	95	89	SI	17	炉 不明	埋設土器	19 2	21	深鉢	Ⅸ - - e	胴下半～底	－	12.0	(9.8)	0.9	－	地文→底付近ナデ(横)
221	95	88	SI	18	ベルトB(N側)	2層下位		1	深鉢	Ⅳ -1k	口縁	－	－	(5.0)	0.8	平縁·複合口縁·内面肥厚	隆線1条(文様区画)の内側に沿うように沈線2条(文様区画·半裁竹管)→地文充填→渦巻文か
222	95	90	SI	18	ベルトA(W側) 不明	2層下位	4 1	5	浅鉢	Ⅸ E1e	口縁～底	11.0	4.3	6.8	0.6	平縁	地文
223	95	91	SI	18	ベルトA(W側) QNW ベルトB(N側)	2層上位 2層上位 5層上位	1 2 2	5	深鉢	Ⅳ -3i	口縁	－	－	(5.6)	0.8	小波状·突起·突起部で段差有り·肥厚	隆線(横位·楕円形文様帯区画)の間に原体側圧(横位)を充填→突起部は原体側圧による渦巻文
224	95	90	SI	18	ベルトA(W側)	2層		1	深鉢	Ⅳ A1g	口縁	－	－	(5.4)	0.7	平縁	地文→沈線2条(横位·平行)の間に交互刺突文(上下に斜方向から刺突)→沈線2条(横位·直線+弧状)→粘土貼付(刻み3個有)
225	95	90	SI SX	18 03	ベルトB(N側) QNW QNE QSW 20B6 不明	2層 床直上 3層 6層下位 Ⅱ層下位	7 5 1 1 1 1	16	深鉢	Ⅳ A4m	口縁～胴上半	－	－	(19.1)	0.7	平縁·突起·折り返し口縁	地文→粘土貼付(刻み有·4単位か)+突起下の粘土貼付には山形隆線を伴い正三角形文となる
226	96	90	SI	18	ベルトB(N側)	5層上位		10	深鉢	Ⅶ A3a	口縁～胴下半	－	－	(21.5)	0.8	平縁·突起	地文→連鎖状隆線1条(横位)+突起部から垂下する連鎖状隆線(縦位)+交点にボタン状貼付→隆線上口縁部は無文帯
227	96	91	SI SX	18 03	炉付近 QSE 16C区	床面 床面 Ⅰ層	1 3 1	5	深鉢	Ⅵ C2d	口縁～胴上半	－	－	(14.7)	1.0	大波状	地文→沈線(縦位·楕円形区画)→磨消→波頂部から渦巻隆線(縦位·楕円形)が垂下する
228	96	90	SI SX	18 03	炉付近 QSE	床面 床面	2 1	3	深鉢	Ⅵ B-j	口縁付近	－	－	(9.7)	0.6	－	隆線(円形·楕円形·文様区画)→区画内地文充填→垂下する渦巻沈線(縦位·楕円形)
229	96	92	SI	19	炉	埋設土器		25	深鉢	Ⅵ C1d	口縁～胴上半	23.0	－	(11.4)	0.7	平縁	地文→沈線(縦位·楕円形文様区画)+渦巻沈線(縦位·楕円形)を交互に配置→磨消
230	96	91	SI	18·19	QNW 不明	堆積土上位(壁面)一括 2層中位	34 1 1	36	深鉢	Ⅵ B21	略完形	19.0	10.0	(25.5)	0.6	大波状(2単位)	地文→隆線1条(横位)→隆線よりも上は無文帯→波頂部下の隆線(横位)から懸垂状隆線(縦位·波状·4単位)
231	96	91	SI	18·19	QNE	2層中位		1	深鉢	Ⅳ -2b	口縁	－	－	(5.0)	1.1	大波状·複合口縁	複合口縁上沈線7条(横位·平行)
232	96	91	SI	18·19	QNW	2層中位		1	深鉢	Ⅳ -1f ①	口縁	－	－	(9.1)	0.7	平縁·複合口縁	沈線各2条(横位·平行)の間に沈線2条(横位·弧状)+渦巻文を充填→頸:沈線1条(横位·山形)
233	96	92	SI	18·19	QNW	2層中～下位 2層下位	1 1	2	深鉢	Ⅳ -1i	口縁	－	－	(6.5)	0.6	平縁·折り返し口縁	地文→原体側圧3条(横位)→隆沈線1条(横位)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	内面コゲ少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.0	−	白1 透1 金1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	100	容量0.93ℓ
ナデ(横)・黒斑有	−	外面上半ススス多量、下半は飛んでいる	0段多条(2段LR)	左	縦	3.5	−	白2 透2	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR8/4浅黄橙		容量21.53ℓ、重量4,700g
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 金1 黒1	7.5YR6/6橙	10YR6/6明黄褐		
ナデ(横)	−	内外面ススス少量	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	−	−	白1 透1	5YR5/4にぶい赤褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	外面ススス多量	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	4.5	−	白2 透3 黒1	5YR7/4にぶい橙	5YR5/6明赤褐		容量9.64ℓ
ナデ(横)	−	外面ススス少量	LR	右	横	−	−	白1 透2 金1	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.2	−	白1 透3	5YR6/8橙	10YR6/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段RL)	直立	斜	2.7	−	白1 透2 金3	7.5YR6/6橙	7.5YR8/8黄橙		
ナデ(横)	網代(ⅠA)→木葉・果実か	−	単軸絡条体第1類(R)	左	縦	3.0	−	白2 透2 金1 黒1	5YR6/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	100	
ナデ(縦)・黒斑有	−	−	0段多条(2段RL)	左右	横縦	4.2	−	白1 透3 金5 黒1	7.5YR6/8橙	10YR7/8黄橙		
ナデ(口縁→横・胴→縦)ナデ	−	外面ススス多量	無節(L)	左	縦	4.5	有(Z)	白1 透2	10YR3/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐		
(口縁→横・胴→横＋縦)・黒斑有	−	−	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	5.0	−	透2 金1 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段RL)	右	縦	3.5	−	白1 透1 金1	5YR3/3暗赤褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	−	外面ススス多量	無節(L)	左	縦	4.5	−	白1 透2	5YR7/4橙	5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3 金2 黒1	10YR3/3暗褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(縦)・黒斑有	木葉(Ⅱ)・剥落	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.2	−	白1 透2 金1	5YR6/6橙	5YR6/6橙	15	
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.0	−	白2 透1 金1	10YR4/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	外面ススス多量・内面ススス少量	LR	左	縦	2.2	−	白2 透1	10YR5/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	100	容量0.28ℓ
ナデ(横)	−	内面コゲ少量	LR圧痕	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR4/3褐	7.5YR5/2灰褐		
ナデ(横)	−	内面ススス少量	LR	右	横	−	−	白1 金1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	4.8	有(Z)	透1 金1 黒1	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/3にぶい赤褐		
ナデ(縦)	−	外面ススス多量	RL	右	縦	4.0	−	白2 透2 金1	5YR4/2灰褐	5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	内外面ススス少量	RL	右	縦	2.7	−	白1 透1	10YR4/2灰黄褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	RLR	直立	斜	2.5	−	白1 透2 黒2	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	内面ススス多量	LR	左	縦	2.7	−	白2 透1	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	外面上半ススス多量、下半は飛んでいる	RL	左	横	3.5	−	白3 透2 金1	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	90	容量2.60ℓ、重量1,260g
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.2	有(Z)	白1 金1 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	外面ススス少量	LR圧痕 LR	右	横	2.2	−	白1 透2 金1 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/2灰褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
234	96	92	SI	18·19	QNW	2層下位		7	深鉢	Ⅳ A 1 k	口縁	−	−	(9.2)	0.6	平縁	地文→沈線2条(横位·平行)+沈線1条(横位·弧状)
235	96	92	SI	18·19	QNE	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	口縁	−	−	(6.1)	0.8	平縁	地文→口端と沈線1条(横位)の間に短沈線(斜位·左傾)を充填→直下に沈線1条(横位·平行)あり垂下する
236	96	92	SI	18·19	QNE QNW	堆積土下位 堆積土下位 壁面堆積土	2 2 1	5	深鉢	Ⅳ C 3 f ①	口縁～胴上半	(22.4)	−	(9.8)	0.7	小波状＋平縁·内面肥厚	地文→隆沈線(方形区画)の中に沈線(横位·連弧状)を充填→区画間に粘土貼付(刻み2個有)→区画下に沈線2条あり粘土貼付直下で垂下する→沈線2条(横位·連弧状)+弧接点から沈線(縦位)垂下する
237	96	92	SI	18·19	QNE	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ - 1 f ③	口縁	−	−	(4.5)	0.8	平縁·複合口縁	沈線各2条(横位·平行)の間に沈線1条(横位·山形)を充填→粘土貼付部分の口端上面～直下にかけて刻み(縦位)
238	96	92	SI	18·19	QNW	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ - 1 i	口縁	−	−	(6.4)	0.7	平縁·肥厚	地文→原体側圧3条(横位)
239	97	92	SI SX	18·19 03	QNE QNE	堆積土下位 床直上 堆積土下位	30 2 7	39	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	略完形	19.4	9.5	30.1	0.7	平縁	地文→頸:沈線1条(横位·直線+粘土貼付間一部波状+沈線上粘土貼付(刻み有)→粘土貼付から沈線3条(縦位·平行)に垂下→沈線(方形文様区画)の中に短沈線(斜位·左傾+右傾)を充填→区画間に円文
240	97	92	SI	18·19	QNW	堆積土下位		7	浅鉢	Ⅳ L 4 i	口縁～底	(28.0)	(8.1)	11.2	0.7	平縁·山形突起(2個一対·4単位か)	地文→原体側圧3条(横位·平行)
241	97	92	SI	18·19 18	QNE QNW QNW 不明	床面一括 床直上 堆積土下位 床直上	30 1 1 5 32	69	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	口縁～胴下半	20.0	−	(23.8)	0.8	平縁	地文→沈線2条(横位·平行)の間に短沈線(縦位)を充填→沈線(横位·平行)下線上に粘土貼付(刻み有)→沈線1条(横位)から垂下する沈線(ト字状)+末端に沈線(横位·弧状1単位) 粘土貼付とト字状文が交互に配置される
242	97	93	SI	18·19	QNE	床直上一括		1	深鉢	Ⅳ - 1 n ①	口縁	−	−	(4.0)	0.8	平縁	地文
243	97	93	SI	18·19	QNE 不明	床直上一括 堆積土下位	17 1 14	32	深鉢	Ⅳ G 2 i	口縁～胴上半	(41.0)	−	(29.0)	1.2	大波状(2個1対·4単位)	地文→波頂部下の三角形スペースに隆線(三角形文様区画)+隆線内外と内部に原体側圧·渦巻文→文様区画間から隆線(縦位·矢印状)を垂下させ原体側圧を伴う
244	98	93	SI	18·19 18	QNE ベルトA(W側) QNW 不明	床直上一括 床直上 2層上位 床直上	7 9 1 1 1	19	深鉢	Ⅳ A 4 f ②	口縁～胴上半	−	−	(19.0)	0.7	平縁·一部波状＋突起·複合口縁	地文→沈線2条(横位·平行)の間に棒状工具による下方向からの連続刺突を充填 口端は複合口縁のための粘土帯貼付で一部に波状を伴う(1ヵ所は高くなり突起となる)
245	98	94	SI	18·19	QNE 不明	堆積土下位一括 床直上一括	37 13 6	56	深鉢	Ⅸ - - e	胴下半～底	−	16.2	(20.7)	0.9	−	地文→底付近ナデ(横)
246	98	93	SI	18·19 18	QNE QNW QNW 不明	堆積土下位一括 堆積土上位(壁面一括 堆積土下位	31 1 2 12	46	深鉢	Ⅳ B 4 i	口縁～胴下半	18.6	(23.3)	−	0.8	平縁·複合口縁·突起1個	地文→原体側圧3条(横位·平行)
247	98	93	SI	18·19	QNE 不明	堆積土下位一括	9 2	11	深鉢	Ⅸ - - e	胴下半～底	−	10.3	(5.8)	0.8	−	地文→底付近ナデ(横)
248	98	93	SI	18·19	QNE 不明	床面	1 1	2	深鉢	Ⅴ D 3·4 a	口縁～胴	−	−	(8.4)	0.5	小波状·突起	地文→沈線(横位·楕円形区画)→区画内棒状工具による連続刺突(円形·垂直方向·横位)を充填→沈線1条(横位)→沈線(ノ字状)
249	98	93	SI	20	p1	堆積土上位		2	深鉢	Ⅳ A 1 a	口縁	−	−	(7.0)	1.0	平縁·複合口縁	地文(摩滅のため観察できない)→複合口縁上、爪形工具による連続刺突(横位)
250	98	93	SI SX	20 06	ベルトA(W側) QSW	3層 2層最上位	1 1	2	深鉢	Ⅳ - 1 i	口縁	−	−	(2.4)	0.6	平縁	原体側圧3条(横位)·渦巻文→渦巻文上に原体側圧3条(縦位)
251	98	93	SI	20	ベルトA(E側)	2層		3	深鉢	Ⅳ - 2 b	口縁	−	−	(8.6)	0.9	大波状·複合口縁	地文→複合口縁上沈線1条(横位)→頸:沈線5条(横位·平行·半裁竹管) 文様帯は地文無し
252	98	94	SI SX	20 06	N側 ベルトB(N側) QNW	堆積土 堆積土下位 2層	3 1 4	9	深鉢	Ⅸ - - e	胴下半～底	−	9.4	(7.4)	1.1	−	地文→底付近ナデ(横·外側に張り出す)
253	98	94	SI	20	サブトレN	床直上		1	深鉢	Ⅲ - 1 a	口縁～胴上半	−	−	(10.2)	1.1	平縁	地文→隆線貼付(ハ字状·断面方形)+隆線上連続刺突→沈線(縦位·山形)を口縁から簇状に配置
254	98	94	SI	20	サブトレN	床直上		1	深鉢	Ⅸ - 1 e	口縁	−	−	(6.8)	1.1	平縁	地文
255	99	94	SI	20	QNE壁際	床直上		2	深鉢	Ⅸ - - e	底	−	(11.6)	(3.9)	1.1	−	地文→底付近ナデ(横)
256	99	94	SI	20	QNW	床面		12	深鉢	Ⅳ E 1 f ④	口縁～胴上半	−	−	(18.4)	0.9	平縁·複合口縁	地文→頸:隆線1条(横位)+隆線上爪形工具による連続刺突(縦位)→複合口縁粘土貼付にかけて弧状隆線+隆線上爪形工具による連続刺突(横位)→文様帯区画内沈線(細)による幾何学モチーフ
257	99	95	SI	21	ベルトA(E側)	1層上位		1	深鉢	Ⅸ - - e	底	−	−	(2.9)	1.2	−	地文
258	99	95	SI	21	炉直上	1層下位		1	深鉢	Ⅸ - - f	底	−	(11.0)	(2.8)	0.8	−	ナデ(横)
259	99	95	SI	21	ベルトB(N側)	2層		5	深鉢	Ⅸ - - e	胴下半～底	−	6.4	(8.1)	0.9	−	地文→底付近ナデ(横·外側に張り出す)
260	99	95	SI	21	ベルトB(N側)	2層		3	深鉢	Ⅳ K 1 c	口縁	−	−	(4.0)	0.8	平縁	沈線1条(横位·直線)+沈線3条(横位·山形)
261	99	95	SI	21	p3W側	床面		1	深鉢	Ⅸ - - e	底付近	−	−	(3.9)	1.2	−	地文
262	99	95	SI	22	ベルトB(S側)	1層上位		1	深鉢	Ⅳ A 1 g	口縁	−	−	(4.9)	0.7	平縁·複合口縁	沈線2条(横位·平行)の間に上下方向からの交互刺突(縦位)→直下に沈線1条(文様帯区画か)
263	99	95	SI	22	ベルトA(E側)	1層下位		1	深鉢	Ⅳ - 1 f ②	口縁	−	−	(4.2)	0.5	平縁·肥厚	頸:沈線1条(横位·文様帯区画)→沈線(横位)と口端の間に短沈線(斜位·左傾)を充填→地文
264	100	95	SI	22	複式炉内	埋設土器		20	深鉢	Ⅳ D - n ①	胴下半～底	−	9.8	(11.2)	0.6	−	地文→底付近ナデ(横)
265	99	95	SI	22	QNE	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ - 1 k	口縁	−	−	(3.6)	0.6	平縁·肥厚	地文→隆線1条(横位·直線)+沈線(横位·鈎状)
266	99	95	SI	22	p4	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ - 1 o	口縁	−	−	(2.6)	0.7	平縁·複合口縁	−
267	100	95	SI	22	QNE	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ - 2 a	口縁	−	−	(5.4)	0.8	大波状·複合口縁	波頂部に円形粘土貼付→直下に盲孔(指頭による)→粘土貼付から隆線2条(ハ字状)+隆線上連続刺突(円形·垂直方向)
268	99	95	SI	22	QNE	堆積土下位		2	深鉢	Ⅸ - - f	底	−	(12.8)	(2.7)	0.6	−	ナデ(横)
269	99	95	SI	22	QNE	堆積土下位		2	深鉢	Ⅸ - - f	底	−	(11.0)	(2.9)	0.7	−	ナデ(横)
270	100	95	SI	22	QSW 不明	堆積土最下位	1 1	2	深鉢	Ⅳ - - g	口縁付近	−	−	(3.5)	0.7	−	棒状工具による交互刺突(上下斜方向から)→沈線3条(横位·半裁竹管2組)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	LR LR	右 左	横 縦	2.8	有(Z)	透1 金1 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	−	白2 透2 金1	7.5YR3/2黒褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	外面ススク少量	LR	右	横	2.5	−	白1 透1 金1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/3にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	10YR3/2黒褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(縦)	−	−	LR圧痕 LR	右	横	3.2	有(Z)	白2 透2 金1 黒1	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)・果実か	外面ススク少量・内面底付近コゲ少量	0段多条 (2段LR)	右	横	4.0	有(末端に環の付いた縄)2つ捻り	白1 透1 金1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	85	容量5.16ℓ、重量1,600g
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	LR圧痕 LR	右	横	4.0	有(Z)	白1 透2 黒1	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/3にぶい褐	95	容量2.90ℓ
ナデ(横)	−	外面ススク少量	LR	右	横	4.0	有(末端に環の付いた縄)2つ捻り	白1 透3 金1	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	RL	横	横	2.5	有(Z)	白1 透2 黒2	5YR6/8橙	5YR3/2暗赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕 LR	右	横	3.0	有(Z)	白2 透1 金1	5YR3/2暗赤褐	5YR3/4暗赤褐		
ナデ(横)	−	外面ススク少量	LR	右	横	4.1	有(Z)	白1 透3 金1 黒1	7.5YR4/4褐	5YR6/6橙		
ナデ(横)・黒斑有	ナデ(Ⅳ)	−	LR	右	横	2.5	有(Z)	白1 透3 金1 黒1	5YR4/3にぶい赤褐	5YR1/2黒褐	100	
ナデ(横)	−	−	LR圧痕 LR	右	横	4.5	−	白1 透2 金1	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐		容量3.32ℓ
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	LR	右	横	2.0	−	白1 透2 金1	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR5/2灰褐	35	
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.2	−	白1 透2	5YR6/8橙	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	外面ススク少量	摩滅	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR3/4暗褐		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕	−	−	−	−	透1 金1 黒1	10YR8/6黄橙	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR7/8黄橙	10YR7/6明黄褐		
ナデ(縦)	ナデ(Ⅳ)	−	単軸絡条体第1類(R)	左	斜	2.0	−	透2 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR6/3にぶい褐	100	
ナデ(横)・指頭圧痕	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	−	−	透2 金1 黒1	5YR3/3暗赤褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)・指頭圧痕	−	外面ススク少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.0	−	透3	10YR4/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.5	−	白1 透3	5YR6/6橙	5YR6/6橙	10	
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	外面ススク少量	LR	左	縦	3.0	有(Z)	白1 透3	10YR7/8黄橙	10YR7/8黄橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	底コゲ少量	LR	左	縦	2.5	−	白1 透2 黒1	7.5YR7/6橙	10YR8/6黄橙	30	
ナデ(横)	網代(ⅠH)→ナデ(Ⅳ)	底コゲ少量	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	20	
ナデ(縦)	ナデ(Ⅳ)	内面コゲ少量	LR	横	斜	2.5	−	透2	7.5YR5/6明橙	7.5YR5/6明橙	100	
ナデ(横)	−	外面ススク少量	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	5YR6/6橙	5YR5/3にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.0	−	白1 透3 黒1	5YR6/8橙	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1 金1 黒1	7.5YR3/2黒褐	5YR3/4暗赤褐		
ナデ(縦)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 金1	10YR2/3黒褐	10YR3/4暗褐		
ナデ(横)	網代(ⅠA)	−	LR	右	横	3.5	有(Z)	白2 透3 金1 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	95	容量0.96ℓ
ナデ(横)	−	外面ススク少量	LR	−	−	−	−	白1 透2 金1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	−	−	透2 金1 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	−	−	−	−	−	−	透1 金1 黒1	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	15	
ナデ(横)	網代(ⅠG)	底コゲ少量	−	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR1/3黒褐	30	
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	5YR6/8橙	5YR6/8橙		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	出土地点 番号	出土地点 位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
271	100	95	SI	22	QSE	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ F1a	口縁	−	−	(3.9)	0.6	平縁・複合口縁	複合口縁上短沈線(斜位・左傾+横位)
272	100	95	SI	22	QNE 不明	床面	1 1	2	深鉢	Ⅳ-1f①	口縁	−	−	(4.9)	0.8	平縁	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線(横位)と口端の間に沈線3条(横位・平行だが一部山形)を充填
273	99	94	SI	22	E側 炉付近 19B23	堆積土一括 床直上 Ⅲ層中位	66 2 2	70	深鉢	Ⅳ E1e	略完形	24.8	12.2	34.9	1.0	平縁	地文(隣の原体との間に無文帯)→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上棒状工具による連続刺突(縦位)→口端から隆線(横位)にかけて隆線2条(縦位)+隆線上棒状工具による連続刺突(横位)を4単位で配置=口縁文様帯を4区画する効果→沈線3〜4条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・山形)を交互に挟む1区画と沈線3条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・山形)を交互に挟み最下段に連続刺突(横位・右方向から)3区画に分かれる
274	100	95	SI	22	S側	堆積土		7	深鉢	I- - -	口縁〜胴部	−	−	(10.9)	7.5	爪状工具による刻み	地文(口縁1.5cmに施文なし)
275	99	95	SI	22 23	E側 QNE ベルトA(E側) QNE 不明	堆積土 堆積土上位 1層 床直上	62 1 2 1 1	67	深鉢	Ⅳ A1f②	口縁〜底	20.7	13.2	33.8	0.8	平縁	地文→沈線1+2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→粘土貼付(4単位)
276	100	96	SI	23	QSE	2層下位		1	深鉢	V - - b	口縁付近	−	−	(5.9)	0.7	−	地文→隆線(文様区画)→文様区画間に橋状把手→棒状工具による交互刺突2段(上下に斜方向から)→把手下から隆線2条(縦位・平行)が垂下
277	100	96	SI	23	ベルトA(E側)	4層		2	深鉢	Ⅳ A1f②	口縁	−	−	(3.3)	0.7	平縁・内面肥厚	沈線2+1条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・中央をV字状とし両方向に左傾+右傾)
278	100	96	SI	16 23	QSW 炉NE側 QNE 不明	8層下位 床直上 床面 3層 床面堆積土	7 6 3 3 1 4	24	深鉢	Ⅳ B2a	口縁〜胴上半	−	−	(16.1)	0.7	大波状(2単位か)	地文→隆沈線による文様表現(縦位渦巻文+∩状文+A状文)・黒斑有
279	100	96	SI	23	QNE QSE ベルトA(E側) 炉NE側 QSE 不明	堆積土 2層 2層 床面 床面	1 1 3 4 3 1	13	深鉢	Ⅸ C1e	口縁〜胴上半	−	−	(15.3)	0.8	平縁	地文
280	100	96	SI	23	QSE	床面		2	深鉢	Ⅵ C-a	胴	−	−	(6.2)	0.6	−	地文→隆沈線(縦位)+渦巻文
281	100	96	SI	23	QSE	床面		1	深鉢	Ⅸ - - c	胴	−	−	(17.6)	0.8	−	地文→沈線(縦位)
282	101	96	SI	25	QSW	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ A2i	口縁	−	−	(8.1)	0.6	大波状	地文→原体側圧3条(横位・平行)→波頂部下突起か(剥落)→沈線(横位・弧状・文様帯区画)→突起下のみ接点から沈線が垂下する
283	101	96	SI	25	QSE	堆積土上〜下位		1	深鉢	Ⅳ-1f②	口縁	−	−	(4.1)	0.7	平縁・内面肥厚	沈線1条(横位・弧状)→沈線と口端の間に短沈線(縦位・直立)を充填
284	101	96	SI	25 25・26	中央 中央E ベルトE(E側) 炉E側 中央S QSE 不明	堆積土下位 堆積土中〜下位 堆積土下位 床面 堆積土下位 堆積土中位 堆積土下位	16 2 1 1 18 4 2 2	46	深鉢	Ⅸ A1e	口縁〜胴下半	(16.4)	−	(22.9)	0.8	平縁	地文
285	101	96	SI	25	ベルトB(N側)	堆積土		1	深鉢	Ⅳ - - f③	口縁付近	−	−	(3.4)	0.8	−	頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上指頭圧痕(指で摘む)→隆線より上文様帯→沈線3条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・山形)を交互に挟む
286	101	96	SI	25	中央E	堆積土中〜下位		1	深鉢	Ⅲ - - a	胴部上半	−	−	(4.9)	0.8	−	地文→隆線1条(縦位・直線)+隆線上原体回転→隆線1条(縦位・波状)
287	101	96	SI	25	ベルトA(N側)	堆積土下位		1	深鉢	Ⅵ B2b	口縁	−	−	(5.1)	0.7	大波状	沈線(縦位・楕円形+円形区画)→区画内地文充填
288	101	96	SI	25	ベルトB(N側) QSW 15C7	堆積土 堆積土下位 Ⅲ層下位	1 1 2	4	深鉢	Ⅳ A1f②	口縁	−	−	(7.8)	0.8	平縁・複合口縁	地文→沈線1条(横位・直線)→口端と沈線(横位)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→鉈行隆線文(縦位)で文様帯を4区画+中央に隆線(山形)を貼付→直下に沈線1条(横位)を配するが上位文様帯を意識して隆線(山形)部分は山形で他は大弧状
289	101	96	SI	25	QNW	床直上	1		深鉢	Ⅸ-2b	口縁	−	−	(7.4)	0.6	大波状	隆線(縦位・楕円形区画)→剥落
290	101	97	SI	25 26	QSW QSE 炉E側 サブトレN ベルトE(W側)	床面一括 床直上 床面 堆積土上〜下位 堆積土中位	20 1 1 1 2	25	深鉢(球胴形)	Ⅳ I2g	口縁〜胴上半	−	−	(19.0)	0.9	大波状	地文→沈線+隆沈線(W+M字状・文様区画)→渦巻文→部分的に交互刺突文→頸:隆沈線1条(横位・直線・上下2、程度無文帯 とし線強調)→口縁:隆沈線(横位・弧状)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1 黒2 白1	10YR3/2黒褐	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段RL)	左	横	−	−	透1 細礫多	7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	ナデ(Ⅳ)・指頭圧痕	外面ス ス少量	LR	直立	縦	4.4	有(S)両端にあり	白1 透3 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐		重量3,000g
地文・指頭圧痕	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	3.5	−	白2 透2 黒1	7.5YR6/6橙	10YR5/6黄褐		
ナデ(横)・黒斑有	ナデ(Ⅳ)	−	附加条(R＋R)	右	横	4.0	有(Z)	白2 透2 金1 黒1	7.5YR7/8黄橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	RL	直立	斜	−	−	透1	7.5YR4/1褐灰	7.5YR5/2灰褐		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量	−	−	−	−	−	透1 金1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	−	白1 透3 黒1	5YR6/8橙	7.5YR3/2黒褐		
ナデ(横)	−	−	RLR	直立	斜	2.8	−	白3 透3	5YR4/8赤褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量	単軸絡条体第1類(L)	右	斜	−	−	白2 透1 黒1	5YR7/8橙	10YR4/4褐		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	−	−	透1	10YR6/6明黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕 RLR	右	横	−	−	白1 透3 金1 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR3/1黒褐	7.5YR4/1褐灰		
ナデ(縦)	−	外面上半ス ス多量	LR	左	縦	3.5	−	白2 透1 黒1	5YR6/6橙	5YR5/2灰褐		容量3.34ℓ
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	外面コゲ多量	LR	−	−	−	−	白1 透1 金1 黒2	7.5YR3/1黒褐	7.5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量	RLR LR	右	縦	2.2 2.5	−	白1 透2 金2	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量	羽状(結束第1種LR・RL)	左	縦	4.0	−	白1 透1 金3 黒1	10YR3/1黒褐	10YR3/2黒褐		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量、内面コゲ少量	−	直立	縦	−	−	白1 透3	10YR4/3にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	外面ス ス少量	LR	− 右 左 直立	− 横 縦 斜	2.7	有(Z)	白2 透1 金1 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR3/3暗褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
291	101	97	SI	25	QNW QSE 不明	床面 堆積土上～中位	6 1 3	10	深鉢	VCla・c	口縁～胴下半	(15.6)	－	(17.7)	0.6	平縁	地文→口縁:隆沈線2＋1条(横位・平行)の間に隆沈線2条(横位・S字状＋棘状＋渦巻状)→頸:無文帯→沈線3条(横位・平行)→胴:沈線2～3条(横位・平行＋垂下＋渦巻状)
292	101	97	SI	25	QNW	床面		1	深鉢	Ⅳ E・f ③	口縁付近	－	－	(5.5)	1.1	－	沈線各2条1組(横位・平行)の間に沈線各2条1組(横位・波状)を充填
293	102	97	SI	25	QSW 不明	床面一括	16 2	18	深鉢	Ⅳ・1 i	口縁～胴下半	－	－	(18.5)	0.7	平縁	地文→口縁:原体側圧1条(横位)＋末端圧LR(縦位・連続)→粘土貼付
294	102	97	SI	26	QNE 不明	堆積土上位 堆積土上～中位 堆積土中位	6 2 1 1	10	浅鉢	Ⅸ E 1 f	口縁～底	(17.6)	9.4	7.0	0.7	平縁	ナデ(横)
295	102	97	SI	26	QNE 不明	堆積土上位	8 1	9	浅鉢	Ⅸ E 1 e	口縁～胴下半	－	－	(11.0)	0.5	平縁・内面粘土貼付→複合口縁	地文
296	102	97	SI	26	QSE QNE	堆積土上位 堆積土上位	1 1	2	深鉢	Ⅳ・1 f ①	口縁	－	－	(5.5)	0.6	平縁・複合口縁	地文→隆線1条(横位・直線)＋隆線上連続刺突(半裁竹管・右方向から)→口端から隆線(横位)に隆線貼付(縦位)＋両隆線の交点に粘土貼付(縦位刻み有)→口端と隆線(横位)の間(文様帯)に沈線(X＋V字状・半裁竹管)
297	102	97	SI	26	QNE	堆積土上～中位		1	深鉢	Ⅳ・4 k	口縁	－	－	(6.2)	0.7	平縁・突起・口端上面棒状工具による刻み・内面粘土貼付→複合口縁	隆線(L字状・文様区画)→区画線を挟んで内外に沈線(斜位・肋状・半裁竹管)→隆線1条(縦位)＋隆線上棒状工具による凹凸(指頭摘みか)
298	102	97	SI	26	QSE 壁面	堆積土上～中位		1	深鉢	Ⅳ・1 f ③	口縁	－	－	(4.7)	1.3	平縁・肥厚	沈線1＋2条(横位・平行)の間に沈線6条(半裁竹管3組・櫛状)を充填
299	102	97	SI	26	QNE	堆積土上～中位		1	深鉢	Ⅳ・1 j	口縁	－	－	(4.4)	1.0	平縁・複合口縁	沈線2条(横位・平行・押引を左から右方向へ)→沈線2条(文様表現)→頸:沈線2条(横位・平行)
300	102	97	SI	26	ベルトF(W側)	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ・1 f ③	口縁	－	－	(5.4)	0.7	平縁・複合口縁	地文→沈線2条(横位・平行)の間に沈線1条(横位・波状)を充填→隆線1条(横位・直線)→円形貼付
301	102	97	SI	26	ベルトC(S側)	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ・1 f ③	口縁	－	－	(3.8)	0.7	平縁・折り返し口縁	沈線2条(横位・山形・平行)
302	102	97	SI	26	ベルトE(E側)	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ・4 f ②	口縁	－	－	(5.0)	0.6	平縁・山形突起・複合口縁	地文→沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→直下に沈線2条(横位・平行)
303	102	97	SI	26	ベルトE(E側) ベルトB(S側)	堆積土下位 堆積土最下位	1 1	2	深鉢	V C1c	口縁	－	－	(5.1)	0.8	平縁・キャリパー形	地文→隆沈線1条(横位・隆線貼付後に同方向へ強く沈線を引く)
304	102	97	SI	26	炉W側	床直上一括		1	深鉢	V・1 d	口縁	－	－	(5.4)	0.7	平縁・内面粘土貼付→複合口縁	地文
305	102	98	SI	26	炉W側	床直上一括		1	深鉢	Ⅳ・1 f ②	口縁	－	－	(3.4)	0.5	平縁	地文→短沈線(斜位・左傾・半裁竹管)
306	102	98	SI	27	QNE	検出面		3	深鉢	Ⅳ・2 k	口縁	－	－	(6.8)	0.9	大波状・肥厚	口端連続指頭圧痕→沈線3条(横位・山形)
307	102	98	SI	27	QNE	検出面		1	深鉢	Ⅲ-3a・e	口縁	－	－	(3.7)	0.9	鋸歯状貼付	細隆線2条(横位・平行・山形)
308	102	98	SI	27	QNE 不明	検出面	1 1	2	深鉢	ⅣF 1 a	口縁	－	－	(3.6)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)→沈線と口端の間に短沈線(斜位・左傾)充填
309	102	98	SI	27	ベルトB(S側) ベルトB	1層 1層	2 1	3	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	－	(12.6)	(5.2)	0.7	－	地文→底付近ナデ(横・外側に張り出す)
310	102	98	SI	27	QNE	1層		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	胴	－	－	(6.2)	0.9	－	沈線4条(横位・平行・山形)→沈線2条(横位・弧状)
311	102	98	SI	27	ベルトB(S側)	1層		1	深鉢	Ⅳ・2 b	口縁	－	－	(4.1)	1.1	大波状・複合口縁	波頂部に円文1個→沈線(横位)
312	102	98	SI	27	ベルトB(S側)	1層		2	深鉢	Ⅳ・1 n ①	口縁	－	－	(6.1)	0.8	平縁	地文(口縁1.5cm施文なし)
313	102	98	SI	27		1層		2	深鉢	ⅣD・n ①	胴	－	－	(11.1)	0.7	－	無文帯を挟みながら地文(縦位)を施す
314	102	98	SI	27	ベルトB(N側) ベルトB(S側)	1層 1層	3 1	4	深鉢	Ⅳ・1 h	口縁	－	－	(5.6)	1.0	平縁・複合口縁	複合口縁上に連続刺突(円形・垂直方向・横位)→地文
315	102	98	SI	27	焼土1	1・2層		2	深鉢	Ⅸ・・f	底	－	－	(3.8)	0.7	－	ナデ(横)・指頭圧痕
316	103	98	SI	28	中央焼土 QNE ベルトA(E側) 不明	堆積土下位 1層 1層	6 8 1 2	17	深鉢	Ⅲ・・g	胴～底	－	(6.8)	－ (3.0) (6.6) (11.7)	1.1	－	地文
317	103	98	SI	28	QNE 中央焼土 不明	1層 直上	5 3 1	9	深鉢	ⅢC 2 e	口縁～胴	－	16.4	(20.5)	1.1	大波状・鋸歯状貼付(3単位か)	地文→隆線1条(横位・直線)＋隆線上連続刺突(円形・垂直方向・横位)→隆線より上は無文帯
318	103	98	SI	28	中央焼土	直上		1	深鉢	Ⅲ・・g	胴	－	－	(5.6)	(1.0)	－	地文
319	103	98	SI	28	中央焼土	直上		1	深鉢	Ⅳ・1 l	口縁	－	－	(4.3)	0.7	平縁	地文→隆線1条(横位・直線)＋隆線上刻み(縦位)
320	103	98	SI	28	QSW QNE	周溝内堆積土 1層	1 1	2	深鉢	Ⅳ・1 n ①	口縁	－	－	(7.4)	0.9	平縁	地文
321	103	98	SI	29		床面		2	深鉢	Ⅳ・・n ①	胴下半～底	－	－	(6.5)	0.9	－	地文
322	103	98	SI	29	QSW	6層上位		1	深鉢	Ⅸ・・e	胴	－	(6.8)	(6.5)	0.8	－	地文
323	103	98	SI	29	ベルトB(N側)	8層上位		2	深鉢	Ⅸ- - e	胴	－	－	(12.9)	0.9	－	地文
324	103	98	SI	29	QNE	8層		2	深鉢	ⅣE 4 f ④	口縁	－	－	(6.9)	0.8	平縁・突起	沈線各2条(横位・平行)の間に斜めに走る沈線2条(斜位・平行)を引く→空いたスペースに短沈線(弧状・中心は円状)を中心から両側へ波紋状になるように配置→中心は突起下にくるように配されている
325	103	98	SI	29	QSW	8層下位		2	深鉢	Ⅲ・1 d	口縁	－	－	(5.4)	1.2	突起(突帯状・波状・太)	地文
326	103	98	SI	29	QSW	8層下位		1	深鉢	Ⅳ・1 c	口縁	－	－	(5.4)	0.9	平縁	地文→沈線2条(横位・平行・山形)
327	103	98	SI	29	ベルトB(N側)	8層下位		1	浅鉢	Ⅳ L 1 n ①	口縁～胴	－	－	(6.7)	0.9	平縁	地文・黒斑有

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	外面上半ススス多量、下半は飛んでいる・内面コゲ少量	LR	右 左	横 縦	3.0	−	透3	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/2灰褐		容量2.64ℓ
ナデ(横)・剥落	−	−	−	−	−	−	−	透3 黒1	10YR2/3黒褐	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	外面ススス少量	LR圧痕・側圧LR	左	縦	3.0	−	白1 透3	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	網代(ⅠB2)	−	−	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR1/3黒褐	100	容量0.83ℓ
ナデ(横)	−	−	LR	右 横	横 斜	2.5	−	白1 透1 金1	10YR8/6黄橙	10YR4/1褐灰		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.2	有( )床縁に環のついた縄(2つ捻り)	白2 透3 金1	10YR2/2黒褐	10YR2/2黒褐		
ナデ(横)	−	外面ススス少量	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR4/2灰褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	10YR3/4暗褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	透2 黒2	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/6褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR8/6浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	LRL	左	−	−	−	白3 透1 金2	10YR3/2黒褐	10YR2/2黒褐		
ナデ(横)	−	−	RL	左	横	2.3	−	白1 透1	10YR8/8黄橙	10YR6/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白1 透2 金1 黒1	7.5YR2/2黒褐	7.5YR4/3褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	白1 透2	10YR4/2灰黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	10YR8/8黄橙	10YR8/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1 黒1	10YR6/6明黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	RL	左	横	3.0	−	白1 透3 黒1	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6明褐	20	
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3 黒3 細礫多	7.5YR7/8黄橙	7.5YR8/6浅黄橙		
ナデ(横)	−	内面ススス微量	−	−	−	−	−	白1 透3 黒1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR8/6浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	2.5	−	白2 透3 黒1	5YR4/3にぶい赤褐	5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	有(S・Z)両端に有	白1 透2 黒1	10YR3/2黒褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	4.0	−	白2 透3	10YR5/2灰黄褐	10YR7/8黄橙		
ナデ(横)	網代(ⅠG)	−	−	−	−	−	−	透3 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR8/6浅黄橙	40	
ナデ(口縁→横・胴→縦)	ナデ(Ⅳ)	−	LR	左	縦	3.5	−	白1 透3	5YR6/8橙	5YR1.7/1黒	20	
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	−	無節(L)	左	縦	3.5	−	白1 透3 黒1	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙		
剥落	−	−	RL	−	−	−	−	白2 透1 黒1 繊維含む	5YR5/8明赤褐	5YR4/3にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	外面ススス少量	LR	横	斜	−	−	白1 透2 黒1	5YR4/2灰褐	5YR4/2灰褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	斜	斜	2.5	−	白2 透2 黒1	10YR3/2黒褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(斜)	ナデ(Ⅳ)	内面底コゲ多量	LR	左	縦	3.0	−	白1 透2	5YR5/6明赤褐	5YR1.7/1黒	20	
ナデ(縦)	−	−	単軸絡条体第5類(L)	直立	縦	4.0	−	白1 透2	10YR5/3にぶい黄褐	10YR7/8黄橙		
ナデ(縦)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	3.5	−	白2 透2	7.5YR7/6橙	7.5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1	5YR4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	2.5	−	白3 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	RL	−	−	−	−	白2 透2 黒1	5YR5/4にぶい赤褐	5YR7/8橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左 直立	斜 縦	1.8	−	白3 透3	7.5YR7/8黄橙	7.5YR5/4にぶい褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
328	103	98	SI	29	p6	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- - k	胴	–	–	(4.0)	0.7	–	沈線(横位など・文様状)
329	103	98	SI	29	p7	堆積土中位		1	深鉢	Ⅸ - - e	胴	–	–	(9.5)	1.0	–	地文・黒斑有・輪積(外上、内下)
330	103	98	SI	29	QNE	床面		1	深鉢	Ⅸ - - e	胴	–	–	(5.2)	0.8	–	地文
331	103	99	SI	30	ベルトA(E側)	堆積土上位		5	深鉢	Ⅳ- 1 n ①	口縁～胴	–	–	(15.5)	0.8	平縁・棒状工具による刻み	地文
332	103	99	SI	30 25 34	焼土直上 ベルトA(E側) QSE ベルトB(S側)	床面 堆積土下位 堆積土上～中位 堆積土上位	7 1 1 1	10	深鉢	Ⅳ D - n ①	胴下半～底	–	11.2	(6.9)	1.0	–	地文
333	103	99	SI	30 31 32 SK	炉N側 炉E側 炉NE側 炉N側 QNE ベルトC(S側) QNW ベルトB(N側) QNW	床面 床面 堆積土下位 台石上 堆積土上位 堆積土中位 堆積土下位 堆積土下位 3層上位	16 9 11 5 1 1 1 1 1	46	深鉢	Ⅳ C 3 n ①	口縁～胴下半	(23.0)	–	(28.7)	0.8	小波状・一部に突起＋平縁	地文
334	104	99	SI	31	ベルトA	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ J - l	口縁付近	–	–	(5.0)	1.2	–	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)
335	104	99	SI	31	ベルトB(S側)	堆積土下位		6	深鉢	Ⅳ C 1 n ①	口縁～底	(9.6)	5.7	8.7	0.6	平縁(一部刻み有り)	地文
336	104	99	SI	32	QSW	堆積土上位		1	深鉢	Ⅸ - 1 c	口縁	–	–	(3.0)	0.6	平縁	地文→沈線1条(横位・直線)→連続刺突2段以上(円形・垂直方向・横位)
337	104	99	SI	32	QSE	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ - 1 a	口縁	–	–	(2.9)	0.8	平縁・複合口縁	複合口縁上に連続刺突(縦位・爪状)
338	104	99	SI	32	QSW	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ - 3 n ①	口縁	–	–	(4.4)	0.9	小波状(指頭による摘み)	地文
339	104	99	SI	32	QNW	堆積土中位		2	深鉢	Ⅳ - 1 a	口縁	–	–	(4.4)	0.7	平縁・複合口縁	地文→頸:沈線1条(横位・直線)→複合口縁上短沈線(縦位)を充填
340	104	99	SI	32	焼土W側	床面		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	–	–	(2.8)	0.8	平縁・折り返し口縁	短沈線(弧状)を充填
341	104	99	SI	32	QSW S側壁付近	床面		6	深鉢	Ⅳ - 1 n ①	口縁～胴上半	–	–	(17.3)	0.8	平縁・複合口縁	地文(複合口縁上は右傾、他は左傾)
342	104	99	SI	32	QSW	床面一括		1	深鉢	Ⅳ - - n ①	胴	–	–	(12.0)	1.3	–	地文
343	104	99	SI	32	QSW 焼土W側 15C12 不明	床面一括 床面 Ⅲ層下位	9 2 5 1	17	深鉢	Ⅳ C 2 l	口縁～胴下半	(19.0)	–	(17.8)	0.7	大波状(4単位)	地文→頸:沈線1条(横位・直線)＋沈線1条(横位・山形)→波頂部下に隆線による三角形モチーフ(中心にも縦位隆線)+隆線上連続刺突(縦位)→文様帯内連続刺突2～3段(横位)充填
344	104	99	SI	32	サブトレW	床直上		2	深鉢	Ⅳ J - h	口縁付近	–	–	(4.4)	0.9	–	地文→沈線1条(横位・直線・半裁竹管)+沈線上連続刺突(半裁竹管・縦位)の上に円文(竹管背側か)+沈線2条(V字状・半裁竹管)→連続刺突(横位・半裁竹管)
345	104	99	SI	32	QNE 15C8 C撹乱(宅地)	堆積土上位 Ⅲ層上位 堆積土	2 2 1	5	深鉢	Ⅳ F 1 a	口縁	–	–		1.0	平縁・複合口縁	地文→複合口縁上沈線(横位・連弧状)
346	104	100	SI	33		堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ③	口縁	–	–	(3.8)	0.6	平縁・複合口縁	沈線2条(横位・平行・山形)→円形貼付→粘土貼付から横位に連続刺突(円形・垂直方向・竹管)
347	104	100	SI	33		堆積土		2	深鉢	Ⅳ - 1 k	口縁	–	–	(4.8)	0.7	平縁・複合口縁	円形貼付→沈線2条(横位・平行・貼付部分は引かない)
348	104	100	SI	33		堆積土		1	深鉢	Ⅳ - 1 f ③	口縁	–	–	(3.6)	0.9	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に沈線1～2条(横位・山形)を充填
349	104	100	SI	33		堆積土		1	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	口縁	–	–	(3.9)	0.7	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・右傾+左傾)を充填
350	104	100	SI	33		堆積土		2	深鉢	Ⅳ E - f ③	胴部上半	–	–	(6.5)	0.7	–	地文→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→文様帯内に沈線2条(V字状)+沈線内刻み→その他を沈線3条以上(横位・平行・半裁竹管)で充填
351	104	100	SI	33		堆積土		3	深鉢	Ⅳ E 1 f ④	口縁	–	–	(10.4)	1.0	平縁	地文→沈線2+1条(横位・平行)の間に円文+沈線2条(横位・弧状)→その他を短沈線(縦位・弧状)で充填→頸:隆線2条(横位・平行)+隆線上刻み(縦位)
352	104	100	SI	33		堆積土		1	深鉢	Ⅳ F - n ①	胴部上半	–	–	(9.7)	1.0	複合口縁(剥落)	地文
353	104	100	SI	33		堆積土		1	深鉢	Ⅳ - - n ①	底	–	–	(7.0)	0.6	–	地文
354	104	100	SI	33	QNE	床直上		1	深鉢	Ⅳ - - n ①	底	–	–	(5.4)	0.9	–	地文→底付近ナデ(横)
355	104	100	SI	34	QNW	1層上位		2	浅鉢	Ⅳ L 4 o	口縁～胴	–	–	(9.2)	0.7	平縁・山形突起・内面肥厚	ナデ(横)・黒斑有
356	105	100	SI	26 34	炉W側 QSW ベルトB(S側) QNW ベルトA(W側) 15C11 不明	床直上一括 堆積土上位 堆積土中位 堆積土下位 1層上位一括 1層上位 堆積土上位 Ⅲ層下位	25 6 4 2 14 5 1 10 3	70	深鉢	Ⅳ A 1 m	口縁～胴下半	(29.0)	–	(31.3)	0.7	平縁・複合口縁・内面肥厚	地文→粘土貼付(刻み有り)・黒斑有
357	105	102	SI	34	ベルトA(E側) ベルトB(S側) ベルトB(N側) QSE	堆積土上位 堆積土上位 堆積土上位 堆積土中位	33 1 1 1	36	深鉢	Ⅳ C 1 f ③	口縁～胴下半	20.8	–	(25.5)	0.8	平縁・複合口縁	地文→沈線1+3条(横位・平行・押引・左から右へ)の間に沈線3～4条(横位・山形)を充填・黒斑有
358	105	100	SI	32 34	QSE焼土下 QSW S側壁付近 ベルトB(S側) 中央S	黄褐土(貼床か) 堆積土上位 堆積土下位 1層下位	3 1 1 2	7	深鉢	Ⅳ C 1 f ④	口縁～胴下半	–	–	(18.3)	0.7	平縁・肥厚	地文→沈線1+3条(横位・平行)の間に短沈線(横位・連弧状)+円文を充填
359	105	100	SI	34	QNW	1層下位		1	深鉢	Ⅳ- 4 g	口縁～胴	–	–	(12.2)	0.6	碗状・山形突起	地文→隆線(横位・長楕円形区画)→区画内交互刺突(下斜方向)を充填→碗状突起下懸垂文(縦位)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(斜)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透1	7.5YR7/8黄橙	7.5YR5/2灰褐		
ナデ(縦)	–	–	RL	直立	斜	3.0	–	白2 透1	10YR5/6黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(縦)	–	–	RL	右	縦	3.0	–	白2 透1 金2 黒1	5YR4/3にぶい赤褐	5YR4/6赤褐		
ナデ(口縁→横、胴→縦))	–	外面ス少量	RL	直立	斜	3.5	–	白2 透3	5YR4/3にぶい赤褐	5YR6/8橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)・指頭圧痕	–	0段多条(2段RL)	左	横	3.0	–	白1 透3 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	100	
ナデ(横)	–	–	RL	直立	斜	4.0	–	白2 透3 黒1	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/6橙		容量7.56ℓ
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	–	–	白1 透2 黒1	7.5YR5/3にぶい褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)・指頭圧痕	木葉(Ⅱ)→ナデ(Ⅳ)	内面底コゲ少量	LR	横	斜	2.5	–	白2 透2 金1 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR1/3黒褐	80	容量0.32ℓ
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透2 黒1	10YR8/6黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白2 透1 金1 黒1	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	LR	–	–	–	–	白2 透3 金1 黒1	7.5YR6/8橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	–	外面口縁コゲ少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.5	–	白1 透2	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/3褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2 金2	5YR5/3にぶい赤褐	5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	LR	右 左	横 縦	3.0	–	白1 透2 金1	10YR5/2灰黄褐	10YR7/6明黄褐		
ミガキ(縦)	–	外面ス少量	羽状(結束1種L) 0段多条(2段LR)	直立	縦	4.5	–	透2 黒1	7.5YR4/3褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)	–	内面口縁ス少量	LR 羽状(結束1種LR・RL)	左 直立	縦 縦	2.8 4.4	有(かた結び)	白1 透3 黒1 細礫多	7.5YR7/2明褐灰	7.5YR7/3にぶい橙		容量2.31ℓ
ナデ(横)	–	内面コゲ少量	LR	右	横	2.3	–	白1 透3	10YR5/3にぶい黄褐	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	羽状(結束第1種LR・RL)	直立	縦	3.5	–	白1 透2 黒1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白2 透2	7.5YR4/2灰褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透1 黒1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2 黒1	10YR3/2黒褐	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透1 金1	7.5YR4/3褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)	–	–	無節(L)	左	縦	2.6	有(Z)	白1 透2 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	–	RL	–	–	–	–	白2 透2 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	–	–	羽状(結束第1種LR・RL)	直立	縦	3.0	–	白1 透2	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	網代(Ⅰ)	内面コゲ少量	RL	左	縦	1.6	有(S)	透1	5YR6/8橙	5YR5/2灰褐	10	
ナデ(横)	網代(ⅠK)	内面コゲ多量	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	–	–	白2 透2	5YR6/8橙	5YR3/3暗赤褐	10	
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透1 金3	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	内面口縁ス少量	LR	右	横	4.0	有(Z)	白1 透1 金1 黒1	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙		容量13.85ℓ
ナデ(横)	–	–	羽状(結束第1種LR・L)	左	縦	3.5	–	白1 透2 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		容量6.12ℓ
ナデ(横)	–	–	綾目	–	–	–	–	白1 透1	7.5YR4/3褐	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	外面ス多量	LR	右	横	2.0	–	白1 透1 金1	10YR4/2灰褐	10YR4/1褐灰		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
360	105	100	SI	34	QNE	1層下位		2	深鉢	Ⅳ E 1 e	口縁	−	−	(7.8)	0.9	平縁・複合口縁	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上棒状工具による連続刺突(下斜方向から)→口端から隆線(横位)にかけて隆線2条(縦位)+隆線上棒状工具による刻み(横位)→沈線2条(横位・平行)と沈線2条(横位・山形)を交互に2段配置
361	105	101	SI	34	QNW	1層下位 1層中位 1層上位	20 9 1	30	深鉢	Ⅳ C 1 f ③	口縁～胴下半	(17.5)	−	(18.4)	0.7	平縁	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上棒状工具による刻み(縦位)→沈線1条(横位・直線)と沈線1条(横位・波状)を交互に3段配置
362	105	100	SI	34	ベルトC(中央)	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	−	−	(8.0)	0.7	平縁・内面肥厚	地文→沈線1条(横位・波状)→磨消→沈線1条(横位・直線)→口端と沈線(横位)の間に短沈線(斜位・右傾)を充填→短沈線上に沈線1条(横位・直線)
363	105	100	SI	34	ベルトB(N側)	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 n ②	口縁	−	−	(10.2)	0.6	平縁	地文(口縁2.5cm施文なし)・黒斑有
364	106	101	SI	34	ベルトB(N側)	堆積土中位		6	深鉢	Ⅳ A 4 f ②	口縁～胴	−	−	(15.7)	0.7	大波状(波頂部2個)・突起(ドーナツ状)	地文→頸:沈線1条(横位・波状・文様帯区画)→口端と沈線(横位)の間に短沈線(斜位・左傾)→短隆線1条(縦位)から続く突起(単位数不明)
365	106	101	SI	34	ベルトB(N側)	堆積土中位		9	浅鉢	Ⅳ L 4 g	口縁～底	(23.4)	(11.6)	9.9	0.5	平縁・山形突起(4単位か)	胴:ナデ(横)→隆線3条(横位・平行)の中央の隆線に交互刺突→突起下に円形貼付
366	106	101	SI	34	QSW	1層下位		1	深鉢	Ⅳ J 1 j	口縁	−	−	(6.1)	0.8	平縁	地文→沈線1条(横位・平行)と沈線1条(横位・押引・左から右へ)を交互に3段配置
367	106	101	SI	34	p28	堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 n ①	口縁	−	−	(4.3)	0.8	平縁・複合口縁	地文
368	106	101	SI	34	ベルトC(W側)	床直上		2	深鉢	Ⅳ F - b	口縁付近	−	−	(7.5)	0.9	−	沈線(横位・波状)・黒斑有
369	106	101	SI	34	中央N	床直上(焼失焼土下)		2	深鉢	Ⅳ- 1 b	口縁	−	−	(3.6)	0.7	平縁・複合口縁	沈線4条以上(横位・平行・半裁竹管)
370	106	101	SI	34	QNW	床直上(焼土層下)		2	深鉢	Ⅳ- 4 f ①	口縁	−	−	(9.3)	1.0	大波状・突起・複合口縁	波頂部に隆線貼付(渦巻+山形)+隆線上刻み→連続刺突(横位)→沈線2条(横位・平行)と沈線2条(横位・山形)を交互に2段配置か→隆線2条(縦位)+隆線上刻み(横位)
371	106	102	SI	34	中央S	床直上		12	深鉢	Ⅳ G 2 b	口縁～胴下半	(25.4)	−	(31.1)	1.0	大波状(4単位)・波頂部2個(凹状)	地文→頸:沈線2条(横位・平行)→沈線(山形・文様状)を充填・黒斑有
372	106	101	SI	34		床面		46	深鉢	Ⅳ C 1 f ②	略完形	22.4	12.0	28.6	0.8	平縁	地文→沈線各2条(横位・平行)の間に短沈線(横位・弧状)を充填→粘土貼付4単位(縦位刻み有)
373	107	102	SI	36	QNE	1層上位		1	深鉢	Ⅳ E 1 f ③	口縁	−	−	(9.4)	0.8	平縁	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(横位)→沈線3条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・山形)を交互に挟む→円形貼付
374	107	102	SI	36	QSE	1層		1	深鉢	Ⅳ- 2 k	口縁	−	−	(5.9)	0.9	大波状(4単位か)	波頂部に沿う沈線2条(斜位・平行)・剥落
375	107	102	SI	36	SI20E側 20C12 不明	2層 Ⅲ層	22 6 1	29	深鉢	Ⅳ A 1 c	口縁～底	(13.1)	8.0	17.4	0.7	平縁	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線4条(横位・山形)
376	107	102	SI	36	ベルトA(E側)	2層下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 l	口縁	−	−	(3.0)	0.9	平縁	隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(斜位・右傾)
377	107	102	SI	36	N側	周溝内		3	深鉢	Ⅳ- - k	口縁付近	−	−	(6.8)	0.7	−	平行沈線
378	107	102	SI	36	N側	周溝内		2	深鉢	Ⅳ E 1 f ②	口縁	−	−	(6.8)	0.8	平縁	沈線3条(横位・平行)の間に沈線1条(横位・押引・左から右へ)と短沈線(縦位・弧状)+円形貼付を充填・黒斑有
379	107	102	SI	36	N側	周溝内		2	深鉢	Ⅳ E 1 i	口縁	−	−	(5.3)	0.8	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に沈線1条(横位・押引・左から右へ)→短沈線(縦位・弧状)
380	107	102	SI	36	p13 SI20E側	堆積土 2層	2 1	3	深鉢	Ⅳ- 1 o	口縁	−	−	(4.3)	0.9	平縁・複合口縁	ナデ(横)・剥落
381	107	102	SI	36	p13	堆積土		1	深鉢	Ⅸ- - e	胴	−	−	(7.5)	0.9	−	地文
382	107	103	SI	37	HS	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 g	口縁	−	−	(2.4)	0.7	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に交互刺突(縦位・上下斜方向から)を充填
383	107	103	SI	37		堆積土上位 堆積土中位	2 1	3	深鉢	Ⅴ- - c	胴	−	−	(8.5)	0.7	−	地文→隆沈線(楕円形・文様状)→文様内部に沈線(文様モチーフに沿う)→沈線1条(縦位・山形)が垂下する
384	107	103	SI	37		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- - n ①	口縁	−	−	(6.3)	0.9	−	地文
385	107	103	SI	37	HS	堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ- 3 o	口縁	−	−	(2.1)	0.6	小波状・複合口縁	ナデ(横)
386	107	103	SI	37		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 g	口縁	−	−	(3.5)	0.7	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に交互刺突(縦位・上下斜方向から)+円文→沈線1条(横位・弧状)
387	107	103	SI	37	HS	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ- 2 n ①	口縁	−	−	(5.4)	0.8	大波状・内外面複合口縁	地文
388	107	103	SI	38	p26	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	−	−	(4.5)	0.8	平縁・複合口縁	複合口縁上:沈線(横位・直線+山形・押引)・黒斑有
389	107	103	SI	38	中央N 中央S	床直上～床面 堆積土下位(焼土、炭化物層上)	3 1	4	深鉢	Ⅳ- 1 o	口縁	−	−	(6.4)	0.8	平縁・内外面指頭圧痕	ナデ(横)
390	107	103	SI	38	QNW	堆積土上位		2	深鉢	Ⅳ- 1 a	口縁	−	−	(7.6)	0.8	平縁・複合口縁	地文→短沈線(縦位+横位を交互)→頸:連続刺突2段(縦位・やや右斜方向から半裁竹管)→胴:沈線(文様表現か)
391	107	103	SI	38	QSW	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(4.2)	1.0	平縁・肥厚	沈線4条(横位・平行)
392	107	103	SI	38	QSW	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 4 h	口縁	−	−	(8.0)	0.8	突起	地文→連続刺突(突起に沿って棒状工具2本1対で刺突)
393	107	103	SI	38	サブトレN	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(3.6)	0.9	平縁	沈線1条(横位・直線・半裁竹管)
394	107	103	SI	38	サブトレN	堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 n ①	口縁～胴	−	−	(12.5)	0.9	平縁	地文
395	107	103	SI	38	QSW	堆積土中～下位		2	深鉢	Ⅳ F 2 a	口縁	−	−	(7.8)	0.6	大波状・肥厚	口縁:波頂部円文+短沈線(縦位)充填→文様帯と非文様帯の境に隆線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(横位・右方向から)→沈線3条(横位・平行・半裁竹管)
396	107	103	SI	38	ベルトC(中央)	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	−	−	(3.5)	0.8	平縁・複合口縁	複合口縁上:連続刺突(横位・竹管背側右方向から)→隆線1条(横位・直線)+隆線上沈線1条(横位・押引・半裁竹管・左から右へ)
397	107	103	SI	38	QSW	床直上		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	−	−	(3.5)	0.7	平縁	沈線3条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・押引・左から右へ)を交互に挟む

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の施き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	5YR4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	−	RL	左	横	3.0	有(S)	白1 透1 金1	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		容量2.25ℓ
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	1.8	−	白1 透1 金1 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(縦)・黒斑有	−	外面ススク少量	LR	右	横	2.7	−	白1 透2 黒1	7.5YR7/8黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	35	
ナデ(横)	−	外面ススク少量	羽状(結束第1種LR・RL)	直立	縦	3.5	−	白1 透1 金1 黒1	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰褐		容量2.28ℓ
ナデ(横)	網代(ⅠJ1)→ナデ(Ⅳ)	−	−	−	−	−	−	白2 透1 金1 黒1	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR5/2灰褐		
ナデ(横)	−	−	RL	直立	斜	−	−	白1 透1	10YR3/1黒褐	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	−	−	透2 金1 黒1	7.5YR7/8黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR3/2黒褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/4褐		
ナデ(口縁→横・胴→縦)・黒斑有	−	−	L	右	横	4.5	有(Z)末端に環のついた縄(2つ捻り)	白1 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR8/4浅黄橙		容量10.56ℓ
ナデ(横)	網代(ⅠJ1)	内外面ススク少量	羽状(結束第2種LR・RL)	直立	縦	4.0	−	白2 透5 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	100	容量6.30ℓ、重量2,000g
ナデ(横)	−	−	摩耗	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR2/2黒褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR8/8黄橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	RL	右・直立	縦・斜	2.6	−	白1 透2 黒1	5YR6/6橙	5YR5/3にぶい赤褐	100	容量1.21ℓ、重量800g
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3 金1	5YR4/2灰褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	有(Z)	白1 透3 金1 黒1	5YR4/2灰褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3	7.5YR4/3褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR5/4にぶい褐	5YR7/8橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左斜	横縦	3.0	−	白1 透1	10YR5/3にぶい褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1	10YR5/3にぶい褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.7	−	白1 透1 金1	10YR4/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	縄につけられた結節	横	横	−	有(S・Z)末端に環のついた縄(1つ捻り)	白1 透2 黒1	7.5YR4/3褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1 金1 黒1	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 金1	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透1	7.5YR3/1黒褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	外面口縁コゲ少量	−	−	−	−	−	透2 黒1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3 黒1	7.5YR5/2灰褐	5YR7/8橙		
ナデ(横)	−	外面ススク多量	無節(L)	右	横	3.0	−	白1 透2	7.5YR3/2黒褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR2/2黒褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(縦)	−	−	LR	左	縦	2.5	−	白1 透3	7.5YR7/8黄橙	7.5YR5/3にぶい褐		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	−	LR	右横	横斜	1.7	−	透1 細礫多	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR8/6浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	10YR3/1黒褐	10YR4/1褐灰		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
398	107	103	SI	38	ベルトB(S側)	床直上		1	深鉢	Ⅳ-2b	口縁～胴上半	−	−	(16.1)	1.1	大波状・複合口縁	地文→波頂部円文+沈線(方形状・深)→沈線2条(横位・平行・半裁竹管)→沈線2条(横位・山形)
399	107	103	SI	38	中央S	床直上		3	深鉢	ⅣG1a	口縁	−	−	(9.6)	0.9	平縁・複合口縁	地文→円文1個→連続刺突2段(爪形状)・黒斑有
400	107	103	SI	38	QSW	床直上		1	深鉢	Ⅳ-−k	口縁付近	−	−	(3.2)	0.9	−	地文→頸:沈線4条(横位・山形・半裁竹管2組)
401	108	103	SX	01	QSE	検出面 1層	3 2	5	深鉢	Ⅳ-31	口縁	−	−	(9.2)	1.0	小波状(指頭による摘み)	隆線貼付(円形・文様状)+隆線上刻み(指頭)
402	108	103	SX	01	QSW	1層		1	深鉢	Ⅳ-1o	口縁	−	−	(3.5)	0.6	平縁・折り返し口縁	ナデ(横)
403	108	103	SX	01	QNE	2層		1	深鉢	ⅣF-b	胴部上半	−	−	(3.3)	0.7	−	頸:沈線(横位・山形・半裁竹管)
404	108	103	SX	01	QNE	1層		1	深鉢	Ⅳ-1n②	口縁～胴部上半	−	−	(8.1)	0.9	平縁	地文(口縁2.0cm施文なし)
405	108	103	SX	02	QNW	1層		1	深鉢	Ⅳ-1n①	口縁	−	−	(4.8)	0.7	平縁・折り返し口縁	地文
406	108	103	SX	03		堆積土上位		1	深鉢	Ⅲ-1f	口縁	−	−	(5.5)	1.0	平縁・連続刺突(円形・垂直方向・竹管)	沈線1条(横位・直線)→沈線(渦巻・文様状)の内外に沿って連続刺突(円形・垂直方向・竹管)
407	108	103	SX	03		堆積土上～中位		1	深鉢	ⅥC2d	口縁	−	−	(5.4)	0.7	大波状	波頂部円形盲孔(内面に張出)→地文→沈線(楕円形文様区画)→磨消→盲孔から垂下する沈線(縦位)
408	108	103	SX	03		堆積土上～中位		1	深鉢	ⅦE3f	口縁	−	−	(9.3)	0.7	山形突起(頂部刻み2個)	沈線1条(横位・直線)の上はナデ(横)、下は地文+文様帯→沈線(楕円形・倒卵状か)
409	108	103	SX	03		堆積土上～中位		1	深鉢	ⅤC1c	口縁	−	−	(5.6)	0.7	平縁	地文→隆沈線2条(隆線の上から強く沈線を引き隆線2条にする)→隆線1条(横位・波状)
410	108	103	SX	03	QNE QSE	3層 堆積土上～中位 堆積土下位	10 4 1	15	深鉢	ⅥC1d	口縁～胴上半	(24.3)	−	(14.2)	0.8	平縁	地文→沈線(縦位・楕円形区画)→磨消
411	108	103	SX	03	ベルトB(S側)	1・2層		3	深鉢	ⅥB1k	口縁	−	−	(8.3)	0.9	平縁	地文
412	108	104	SX	03	中央 ベルトA(E側) 不明	床面一括 2層	16 2 15	33	深鉢	ⅥA1k	口縁～胴上半	24.3	−	(20.5)	0.8	平縁	地文
413	108	103	SX	03	QNE	3層		2	深鉢	Ⅳ-1f①	口縁	−	−	(5.0)	0.6	平縁	地文→沈線(渦巻・文様状)→沈線(横位・弧状)
414	108	103	SX	03	QSE	3～4層下位		1	深鉢	Ⅳ-1b	口縁	−	−	(9.3)	0.9	平縁・口端内面肥厚	地文→隆線(縦位・楕円形区画)
415	108	103	SX	03	QSW	4～5層下位		1	深鉢	ⅣA1f②	口縁	−	−	(4.6)	0.6	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・右傾)を充填→粘土貼付
416	108	104	SX	04	QSW	検出面		1	深鉢	ⅦE3g	口縁	−	−	(3.6)	0.7	碗状・橋状突起	−
417	108	104	SX	04	QSW	検出面		2	深鉢	Ⅴ-1c	口縁	−	−	(4.6)	0.7	平縁	地文→隆沈線1条(横位・直線)
418	108	104	SX	04	QNE	2層下位		1	深鉢	Ⅵ-2h	口縁	−	−	(3.4)	0.7	大波状	爪形工具による連続刺突(2段以上・まくれ返り)
419	108	104	SX	04	QNW	2層最下位		1	深鉢	Ⅷ-−a	口縁付近	−	−	(4.5)	0.7	−	地文→連鎖状隆線1条(横位・直線)→ボタン状貼付 連鎖状隆線より上は無文帯
420	108	104	SX	04	QNW	2層最下位		1	深鉢	Ⅸ-1d	口縁	−	−	(5.4)	0.8	平縁	地文(口縁2.0cm施文なし)
421	108	104	SX	04	QNE	2層最下位		3	深鉢	Ⅸ-−e	胴下半～底	−	−	(9.9)	0.8	−	地文→底付近ナデ(横)
422	109	104	SX	05	QSE	堆積土		5	深鉢	ⅣC11	口縁～胴下半	(12.3)	−	(11.1)	0.8	平縁	ナデ(横)→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)
423	109	104	SX	05		堆積土		1	深鉢	Ⅳ-1h	口縁	−	−	(4.4)	0.8	平縁・複合口縁	地文→沈線2条(横位・山形)の間に連続刺突(円形・垂直方向・列状・竹管)
424	109	104	SX	05		堆積土		1	深鉢	Ⅳ-1n①	口縁	−	−	(4.3)	0.8	平縁・口端刻み(爪状)	地文
425	109	104	SX	06		1層上位		1	深鉢	Ⅳ-1k	口縁	−	−	(3.4)	0.6	平縁・突帯状	沈線3条(横位・平行) 3条目引き直しか
426	109	104	SX	06	QNE	1層中位		1	深鉢	ⅦE3g	口縁	−	−	(8.6)	0.9	大波状・中空突起(4単位か)	地文→沈線(弧状・文様表現か)→突起:沈線(逆ハート形)+円形盲孔2個
427	109	104	SX	06	QNW	1層下位		6	深鉢	Ⅳ-−n①	底	−	11.0	(5.9)	1.0	−	地文→底付近やや外側に張り出す
428	109	104	SX	06	QNW QSW 29C9	1層下位 1層下位 Ⅱ層下位	2 1 1	4	深鉢	ⅥC2d	口縁	−	−	(11.9)	0.8	大波状	波頂部隆沈線(渦巻)+沈線1条(縦位・弧状)が垂下→地文→沈線2条(楕円形区画)→磨消
429	109	104	SX	06	QNE	1層最下位		1	深鉢	Ⅳ-1h	口縁	−	−	(4.2)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁境に連続刺突(縦位・爪状)→沈線2条(横位・平行)+沈線1条(斜位・波状)
430	109	104	SX	06	QNW	1層最下位		1	深鉢	ⅣJ1h	口縁～胴上半	−	−	(8.8)	0.9	平縁・複合口縁	地文→連続刺突(横位・平行・右方向から)の間に沈線2条(横位・平行・半裁竹管)を充填
431	109	104	SX	06	QSW	2層上位		1	深鉢	Ⅳ-1j	口縁	−	−	(3.8)	0.7	平縁	隆線1条(縦位・直線)→隆線上も含めて沈線(縦位+横位・押引)を施文
432	109	104	SX	06	QNE	2層上位		1	深鉢	Ⅳ-1f②	口縁	−	−	(5.2)	1.1	平縁・内面肥厚	地文→沈線2条(横位・直線+弧状)の間に短沈線(縦位)を充填
433	109	104	SX	06	QNW	2層上位		3	深鉢	ⅣA1f②	口縁	−	−	(7.7)	0.7	平縁	地文→沈線(横位・方形区画)の中に短沈線(斜位・左傾)を充填→下沈線は一部垂下する
434	109	104	SX	06	QNW	2層下位 1層最下位	4 1	5	深鉢	Ⅳ-1n②	口縁～胴上半	−	−	(12.5)	0.8	平縁	地文(口縁2.0cm施文なし)
435	109	104	SX	06	QNW	2層下位		1	深鉢・金魚鉢	Ⅳ1-k	胴	−	−	(10.2)	1.0	−	地文→沈線1+2条ほか(文様表現・半裁竹管)
436	109	104	SX	06	QNW	2層下位		1	深鉢	Ⅲ-1f	口縁	−	−	(5.2)	0.9	平縁・連続刺突(円形・垂直方向・竹管)	沈線1条(横位・直線)→沈線(渦巻・文様状)の内外に沿って連続刺突(円形・垂直方向・竹管)
437	109	104	SX	06	QNW	2層下位		1	深鉢	Ⅳ-−f②	口縁付近	−	−	(3.0)	0.6	−	沈線4条以上(横位・直線)の間に短沈線(縦位・弧状)を充填
438	109	105	SX	06	壁側N QNW QSE QNE	床面一括 1層黒褐 2層中位 2層下位 2層最下位	25 1 1 1 1	29	深鉢	ⅣD4d	口縁～底	(22.6)	13.2	20.0	0.7	平縁・突起(碗状2+四角錐状2=4単位)	地文(隣の原体との間に無文帯)→頸:隆線1条(横位・直線)と沈線1条(横位・直線)の間に沈線(方形文様)を充填(隆線上に載る)→口端:刻み(縦位)
439	109	105	SX	06	QNW 15B23	2層下位 Ⅲ層下位	44 1	45	深鉢	ⅣF1n①	口縁～胴	(24.1)	−	(21.4)	0.8	平縁・複合口縁	複合口縁上沈線2条(横位・平行)の間に連続刺突(縦位・爪状)充填→地文(隣の原体との間に無文帯)・黒斑有
440	110	105	SX	06	QNW	2層最下位		1	深鉢	Ⅳ K-c	胴	−	−	(6.1)	1.1	−	地文→沈線(縦位+横位・山形・深)
441	110	105	SX SI	06 20	QNW QNWサブトレ内 QNW	2層上位 2層中位 2層下位 2層 床面	3 17 11 1 4	36	深鉢	ⅣD2e	略完形	(21.8)	10.8	24.3	0.7	大波状(4単位)・内面突帯状	地文→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(斜位・右傾)→波頂部下隆線1条(縦位・直線)+隆線上刻み(横位)に隆線(菱形)+隆線上刻みを配置→波頂部間沈線2条(横位・弧状・押引・左から右へ)+沈線(横位・押引・左から右へ)を充填→口端:刻み(縦位)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	4.5	−	白2 透3 黒1	5YR4/2灰褐	5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	L圧痕 単軸絡条体第1類(L)	直立 直立	縦 縦	− −	−	透2 金1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(縦)	−	−	LR	直立	斜	−	−	透1	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2	5YR 6/6 橙	5YR 6/8 橙		
ナデ(横)	−	外面ススク少量	−	−	−	−	−	透2	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 7/3 にぶい黄橙		
指頭圧痕→ナデ(横)	−	−	LR(圧痕有)	左	縦	2.0	−	白1 透2	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	外面ススク少量	LR	左	縦	−	有(Z)	白1 黒1	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3	5YR4/4にぶい赤褐	5YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	−	透2	10YR4/3にぶい黄褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段LR)	右	横	2.5	−	白1 透1 黒1	10YR3/2黒褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(縦)	−	−	RL	左	横	2.0	−	白1 透1	10YR8/6黄橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白1 透1 黒1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	4.0	−	白1 透2 金1	5YR6/8橙	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	3.0	−	白1 透1 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	−	透1	7.5YR4/2灰褐	5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.0	有(S)	白1	10YR3/2黒褐	10YR8/4黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1 金1 黒1	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左 右 直立	縦 横 斜	3.0	−	白1	7.5YR3/2黒褐	7.5YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透3 金1 黒1	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	3.0	−	白2 透1 金2 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.0	−	白1 透2 黒1 細礫多	10YR8/4浅黄橙	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(r)	直立	縦	2.5	−	白1 透2 黒1	10YR8/6黄橙	7.5YR6/3にぶい褐		容量0.52ℓ
ナデ(横)	−	内外面ススク微量	−	−	−	−	−	透1 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/2灰褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1 黒1	7.5YR3/2黒褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	左	斜	3.5	−	透2 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR5/3にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	10YR3/2黒褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	1.5	−	白3 透2 金2	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)・黒斑有	剥落	−	単軸絡条体第1類(R)	直立 左	縦 斜	3.0	−	白1 透1 金1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	0	
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	−	白1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/6明黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススク少量	LR	横	斜	3.2	−	白1 透2	10YR6/6明黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1	5YR6/8橙	10YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	0段多条(2段LR)	右	横	3.0	−	透1	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	羽状(結束第1種LR・LR)	右	横	4.0	−	白1 透1	10YR4/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
指頭圧痕・ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	外面ススク少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.5	−	白1 透2	10YR4/3にぶい黄褐	10YR5/6黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.5	−	白1 透1 黒1	7.5YR7/8黄橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1	5YR4/4にぶい赤褐	5YR3/3暗赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	網代(ⅠK)	内面口縁コゲ少量	LR	左	縦	2.5	有(Z)	白1 透2	10YR5/3にぶい黄褐	10YR2/2黒褐	80	容量2.39ℓ、重量1,200g
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	有(Z)末端に環のついた縄(1つ撚り)	白2 透3	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	75	容量8.19ℓ
ナデ(縦)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	3.0	−	白1 透2	5YR6/8橙	5YR4/3にぶい赤褐		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	網代(Ⅰ)・剥落	内面口縁コゲ多量	羽状(結束第2種LR・RL)	直立	縦	3.5	−	白1 透1	7.5YR6/6橙	7.5YR3/2黒褐		容量1.64ℓ、重量1,100g

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	接合破片数		器種	分類	残存位置	法量(cm)				口端部	外面調整・施文など
			種別	番号	位置(グリッド)		内訳数	総数				口径	底径	器高	厚さ		
442	110	105	SX	06	壁側N	床面一括		3	深鉢	Ⅳ-1g①	口縁～胴	−	−	(11.9)	1.0	平縁・複合口縁	地文(複合口縁上は右傾、その他は左傾)
443	110	105	SX	07	QSW	1層上～中位		1	深鉢	ⅨC1e	口縁	−	−	(8.2)	0.7	平縁	地文
444	110	105	SX	07	QSW	堆積土上位		1	深鉢	ⅨC1c	口縁	−	−	(6.0)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)→地文(沈線より下、上は無文帯)・黒斑有
445	110	106	SX	07		堆積土上～中位		1	深鉢	ⅣE1f③	口縁	−	−	(8.0)	1.0	平縁	沈線2条(横位・直線・平行)と沈線2条(横位・波状・平行)を交互に3段以上配置
446	110	106	SX	07		堆積土上～中位		1	深鉢	ⅣF1a	口縁	−	−	(4.0)	1.3	平縁・複合口縁	複合口縁上短沈線(斜位・左傾・長め)
447	110	106	SX	07	QSW 14C5 15C6	検出面 堆積土上位 1層上～中位 1層中位 1層下位 Ⅲ層上位 Ⅲ層上位	3 4 8 2 1 1 4	23	深鉢	ⅦE3g	口縁～胴	(19.3)	−	(20.8)	0.7	大波状・中空突起(4単位)・二重口縁	地文→沈線(倒卵形+J字状・文様表現)→磨消→ボタン状貼付(倒卵形の三角形頂部や隣接するモチーフとの接点に貼付)→山形突起に沈線(鈎状)=モチーフが把手ではなく突起を中心として倒卵形に展開している→突起中央に貫通孔・輪積(外下、内上・輪積幅2.0～3.0cm)
448	110	106	SX	07	QSW	堆積土上位 堆積土上～中位 1層上～中位 1層中～下位	14 23 1 4	42	深鉢	ⅦA3k	口縁～胴	(21.2)	−	(21.5)	0.7	大波状・突起(4単位)	地文→頸:沈線1条(横位・直線・一部蛇行懸垂文化)→沈線(方形区画)+屈曲点・起点に盲孔+隆線(縦位・やや弧状・縦位沈線により2条化)→突起(盲孔3個+中央に貫通孔1個)→突起下に文様展開(倒卵形)、突起間は蛇行懸垂文→沈線2条(横位・弧状)
449	111	107	SX SI	07 25	QNW ベルトD(W側)	堆積土上位一括 堆積土上位 堆積土上～中位 2層	25 1 1 1	28	深鉢	ⅥC3d	口縁～胴下半	−	−	(43.1)	0.9	平縁・山形突起(頂部刻み)	地文→沈線(横位S字状・渦巻・文様区画)→磨消→ボタン状貼付(屈曲点・起点)→連鎖状隆線(縦位・突起間)・黒斑有
450	110	106	SX	07	QNE	堆積土中位	2 2	2	深鉢	Ⅳ-1n②	口縁～胴	−	−	(12.3)	0.9	平縁	地文(口縁3.5cm施文なし)
451	110	106	SX	07	QNW	堆積土上～中位 1層中～下位		4	深鉢	ⅥA1f	口縁	−	−	(8.0)	0.8	平縁	地文→沈線(方形区画)→磨消
452	111	106	SX	07	ベルトA(W側)	1層		1	深鉢	Ⅳ-2n①	口縁	−	−	(5.9)	0.8	大波状	地文
453	111	106	SX	07	QNW	1層中位		7	深鉢	ⅦA3f	口縁～胴下半	−	−	(22.5)	0.8	平縁・突起(刻み2個)	地文→沈線(菱形区画)→磨消→ボタン状貼付(起点→突起下に配置)
454	111	106	SX	07	QNW	1層中位		1	深鉢	ⅦE3g	口縁	−	−	(6.6)	0.6	大波状・中空突起	地文→沈線(倒卵形・文様区画)→磨消→突起部に沈線(逆ハート形)+ボタン状貼付(起点)
455	111	106	SX	07	ベルトA(W側)	2層		1	深鉢	Ⅴ-2b	口縁～胴上半	−	−	(5.9)	0.6	大波状・碗状突起・内面肥厚	地文→突帯から左右に隆線(横位)+隆線上刻み有→隆線(縦位・弧状・文様表現)
456	111	106	SX	07	ベルトB(N側)	3層下位		1	深鉢	Ⅳ-1l	口縁	−	−	(5.6)	0.6	平縁・内面肥厚	地文→隆線(横U字状・文様表現)→隆線上刻み(下斜方向から・竹管)
457	111	106	SX	07	QNW	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-1k	口縁	−	−	(6.5)	0.6	平縁	地文→沈線2条(横位・平行)+沈線1条(横位・山形)口端は無文帯
458	111	106	SX	07	QNE	床面		2	深鉢	ⅥC1b①	口縁	−	−	(6.7)	0.6	平縁・キャリパー形	地文→隆線2条(横位・平行)=隆線貼付際はナデ→隆線の間を文様帯とし隆線(横S字状などを表現か)
459	112	106	SK	01		底面		14	深鉢	Ⅸ-−f	胴下半～底	−	9.0	(5.2)	0.7	−	ナデ(横)
460	112	106	SK	03		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(5.6)	0.8	−	地文
461	112	106	SK	04		堆積土		1	深鉢	Ⅴ-−a	胴	−	−	(5.8)	0.9	−	地文→沈線(縦位・文様表現)
462	112	106	SK	04		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(5.6)	0.8	−	地文
463	112	107	SK	06		堆積土		1	深鉢	Ⅴ-−a	胴	−	−	(4.1)	0.7	−	地文→沈線4条(縦位・平行)→枝状に沈線3条(両側・斜位・平行)・沈線3条(弧状)
464	112	107	SK	06	不明	堆積土	14 5	19	深鉢	Ⅴ-−d	胴下半～底	−	8.4	(14.8)	0.5	−	地文
465	112	107	SK	06		堆積土中位		1	深鉢	Ⅴ-−a	胴	−	−	(5.5)	0.8	−	地文→沈線3条(文様状)
466	112	107	SK	06		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ-−a	胴	−	−	(3.6)	0.7	−	地文→沈線4条(縦位・平行)→沈線(縦位)から斜位に沈線が出る(文様表現)
467	112	107	SK	06	不明	堆積土一括	7 6	13	鉢	VG1e	口縁～底	(12.0)	9.1	9.1	0.7	平縁	地文(口縁2.0cm施文なし)
468	112	107	SK	06		堆積土下位		1	深鉢	VD1b	口縁	−	−	(6.4)	0.6	平縁	地文→隆線2条(横位・平行)→下隆線の線上に円形刺突3個(横位)があり、ここから沈線(縦位・弧状)が垂下する
469	112	107	SK	06		5層		1	深鉢	Ⅸ-1d	口縁	−	−	(7.6)	0.7	平縁	地文(口縁3.0cm施文なし)
470	112	107	SK	06		堆積土下位		1	深鉢	VD-c	胴部上半	−	−	(4.6)	0.5	−	頸:隆沈線2条(横位・平行)から橋状突起へ(間はナデ調整)→沈線2条(横位・平行)+沈線(方形区画)の文様表現
471	112	107	SK	08		堆積土下位		1	深鉢	Ⅷ-3h	口縁	−	−	(5.2)	0.8	大波状・山形突起	ナデ(横)
472	112	107	SK	08		堆積土上位		1	深鉢	Ⅷ-1f	口縁	−	−	(3.3)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)→沈線2条(斜位・直線)
473	112	107	SK	09		堆積土		1	深鉢	VC-c	口縁付近	−	−	(4.1)	1.0	−	地文→隆沈線2+1条(横位・平行)
474	112	107	SK	10		堆積土中位		1	深鉢	Ⅴ-−a	胴	−	−	(3.7)	0.6	−	地文→沈線4条(縦位・平行)
475	112	107	SK	10		堆積土中位		1	深鉢	Ⅴ-−a	胴	−	−	(3.8)	0.7	−	地文→沈線2条(斜位・弧状)
476	112	107	SK	11		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅳ-−h	胴	−	−	(2.5)	0.8	−	爪形工具による連続刺突(2段以上・まくれ返り)
477	112	107	SK	11		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅴ-−a	口縁付近	−	−	(3.0)	−	−	地文→沈線(渦巻・文様表現)
478	112	107	SK	13		2層		1	深鉢	Ⅷ-−h	胴	−	−	(8.2)	1.1	−	地文→沈線2条(横位・弧状・文様区画)→磨消・黒斑有
479	112	107	SK	13		2層		1	深鉢	Ⅷ-−h	胴	(10.5)	−	(4.8)	0.9	−	地文→沈線2条(横位・平行)→磨消
480	112	107	SK	14	不明	堆積土	15 10	25	小型土器	ⅣH1i	略完形	−	(4.5)	13.3	0.7	平縁・キャリパー形	地文→キャリパー形部分を文様帯とする→隆線(V字状・文様表現)+隆線際に原体側圧(三角形・口端は2条横位平行)+中央に原体側圧による渦巻文
481	112	107	SK	15		堆積土		1	深鉢	Ⅳ-1m	口縁	−	−	(4.6)	0.9	平縁・山形突起・内外面複合口縁	地文→突起下粘土貼付(刻み4個有)
482	112	107	SK	16		堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ-3n①	口縁	−	−	(2.9)	0.5	小波状・複合口縁	地文
483	112	107	SK	16		堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ-1j	胴部上半		−	(2.2)	0.7	−	沈線1条(横位・直線)→沈線1条(横位・押引・左から右へ)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	糸の撚り	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)・指頭圧痕	−	外面ススやや多量	無節(L)	右 左	横 縦	2.5	−	白1 透2 黒1	5YR6/8橙	5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	RL	縦	斜	3.5	−	白1 透1 金1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	内面口縁ススやや少量	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	3.5	−	白1 透2 金1 黒1	5YR7/6橙	10YR3/2黒褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3 黒1	7.5YR4/2灰褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1 黒1	5YR7/8橙	5YR7/8橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	2.0	−	透3 黒1	5YR6/6橙	7.5YR2/2黒褐		容量3.93ℓ
ナデ(横)	−	内外面ススやや少量	0段多条(2段LR)	右	横	3.0	−	透3 黒2	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		容量4.51ℓ
ナデ(口縁→横・胴→縦)・黒斑有	−	外面上半ススやや多量、下半飛んでいる	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	4.0	−	白1 透5	10YR7/6明黄褐	2.5YR6/6橙		
ナデ(口縁→横・胴→縦)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.0	−	白3 透2 金1 細礫多	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	2.5	−	白1 透3	10YR8/6黄橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第5類(R)	左	斜	−	−	白1 透2 金1 黒1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	RLR	右	横	4.0	−	白2 透2 金1	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	外面ススやや少量・内面コゲ少量	RL	右	縦	2.2	−	白1 透2	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.5	−	透2 黒1	10YR3/3暗褐	10YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.5	−	白1 透1	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.5	−	白1 透2 金1	10YR3/3暗褐	10YR6/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススやや少量	LR LR	右 左	横 縦	2.0 2.0	−	透1	5YR4/3にぶい赤褐	5YR3/2暗赤褐		
ナデ(横)	笹(Ⅲ)	内面底コゲ多量	−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	100	アスファルト内蔵
ナデ(縦)	−	内面ススやや少量	無節(L)	直立	斜	−	−	透3	2.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 5/3 にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.5	−	白2 透5	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(縦)	−	−	LR	直立	斜	2.5	−	白2 透3	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	横	−	−	−	白1 透5	5YR 5/8 明赤褐	7.5YR 7/6 橙	100	容量0.84ℓ
ナデ(縦)	ナデ(Ⅳ)	−	LR	右 左	横 縦	2.5	−	透1 黒1	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/2 灰褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	3.5	−	透3	7.5YR 7/8 黄橙	5YR 3/3 暗赤褐		
ナデ(横)	−	外面ススやや少量	LR	左 横	横 斜	2.0	−	白1 透2	5YR 4/4 にぶい赤褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	100	
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	内外面ススごく微量	単軸絡条体第1類(R)	右	横	4.0	−	白3 透2	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 7/6 明黄褐		
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	透2 金2	10YR 7/2 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	内面ススやや少量	0段多条(3段RLR)	左	横	4.0	−	白2 透2	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	−	内面コゲ少量	−	−	−	−	−	白1	7.5YR 5/1 褐灰	7.5YR 6/1 褐灰		
ナデ(横)	−	外面ススやや少量	−	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 8/3 浅黄橙		
ナデ(横)	−	外面口縁ススやや少量	−	−	−	−	−	透2	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 4/3 褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	1.8	−	透2	7.5YR 7/4 にぶい橙	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	白1 透2 金1	5YR 4/2 灰褐	7.5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	−	LR	直立	斜	−	有(Z)	白1 透1	7.5YR 3/2 黒褐	7.5YR 2/1 黒		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	5YR 5/3 にぶい赤褐	7.5YR 8/3 浅黄橙		
指頭圧痕	−	−	RL	右	縦	−	−	透1	5YR 6/6 橙	5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.5	−	白1 透2	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	−	−	白1 透1 金1	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	剥落	−	LR圧痕 LR	左	縦	1.5	−	白1 透1 黒1	10YR 3/1 黒褐	10YR 3/1 黒褐	90	容量0.58ℓ
ナデ(横)	−	内面ススやや少量	LR	右	横	−	有(Z)	白1 透3 割れ口に多	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	内面口端ススやや少量	LR	右	横	1.5	−	透1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)・剥落	−	−	−	−	−	−	−	透1 金2	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
484	112	107	SK	16		堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ-2k	胴部上半	−	−	(6.6)	0.8	−	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線上に粘土貼付(X字状)
485	112	108	SK	17		堆積土中～下位		1	深鉢	Ⅴ-2a	口縁	−	−	(7.9)	0.9	大波状・突帯状	地文→沈線3条(横位・平行)→口端:突帯状貼付
486	112	108	SK	19		堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ-−h	胴部上半	−	−	(3.4)	0.8	−	沈線4条(横位・平行)の間の中央はナデ調整、上下スペースに連続刺突(斜位・左斜下方向から)を充填
487	112	108	SK	19	13C24	堆積土上位 Ⅲ層上面	14 2	16	深鉢	Ⅳ-1m	口縁～底	(17.8)	10.0	24.5	0.8	大波状(4単位)	波頂部2単位に隆帯貼付(M字状・波頂部2個)→他の波頂部2単位を含む口縁沿いに結節・底付近外側に張り出す
488	113	108	SK	20		底直上		1	深鉢	Ⅳ-1f①	口縁	−	−	(4.2)	0.6	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・弧状)を充填
489	113	108	SK	21		堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ-−c	胴	−	−	(5.0)	1.0	−	地文→隆沈線1条(縦位・直線)
490	113	108	SK	21		堆積土中位		1	深鉢	Ⅸ-1c	口縁	−	−	(4.5)	0.8	平縁	ナデ(横)→口縁:沈線1条(横位・直線)
491	113	108	SK	21		堆積土中位		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(4.9)	0.9	−	地文・輪積(外下、内上・輪積幅2.0cm)
492	113	108	SK	22		堆積土下位		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(2.0)	0.8	−	地文
493	113	108	SK	23		底直上		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(5.5)	0.7	−	地文
494	113	108	SK	24		1層		1	浅鉢	ⅨE1e	口縁	−	−	(4.3)	0.7	平縁・内面肥厚	地文
495	113	108	SK	24		1層		8	深鉢	ⅦE3h	口縁～胴上半	−	−	(19.8)	0.8	大波状・波頂部刻み1個	地文→隆線1条(横位・大波状に沿う)+隆線より上は無文帯→波頂部下沈線(倒卵形・文様状)→磨消
496	113	108	SK	24		5層		1	深鉢	ⅣB1i	口縁	−	−	(4.3)	0.6	平縁	隆線2条(横位・平行)の間はナデ(横)→地文
497	113	108	SI SK	25 24	15C7 14B20	堆積土上位 1層 5層 Ⅲ層上位 Ⅱ層下位	1 1 1 1 1	5	深鉢	ⅤD1a	口縁	(12.0)	−	(3.7)	0.6	平縁・複合口縁	沈線(横位・文様状4単位)→頸:沈線2条(横位・平行・半裁竹管か)の間に連続刺突(横位・円形)
498	113	108	SK	25		1層		4	深鉢	Ⅸ-−e	底付近	−	−	(8.4)	1.0	−	地文
499	113	109	SK SI SI P	26 22 16 303	一括 p29 p10	堆積土中位～下位一括 堆積土中位 堆積土 堆積土 7層中位 堆積土	53 1 1 1 1 1	58	深鉢	ⅣC4h	口縁～胴下半	21.3	−	(22.2)	1.2	突起・段差有り・複合口縁	地文→沈線1+2条(横位・平行)+1条(横位・山形)の間に沈線2条(斜位・平行・渦巻)+スペースに連続刺突(縦位・下斜方向から)→隆帯貼付2個(渦巻・刻み有) 貼付隆帯が文様正面となり、それぞれが段差の高い方と低い方の中央にくるように展開
500	113	109	SK SI	26 22	一括 p28	堆積土中～下位一括 堆積土中位 堆積土	20 1 1	22	深鉢	ⅣF1a	口縁～胴	19.8	−	17.0	0.7	平縁・複合口縁	地文→頸:沈線2条(横位・平行)→複合口縁上に沈線(横位・連弧状)
501	113	108	SK	27	QNW ベルトB	堆積土 1層	5 1	6	深鉢	Ⅳ-11	口縁	−	−	(9.5)	1.0	平縁	地文→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(指頭による摘み)
502	113	108	SK	27	QNW	1層		2	深鉢	Ⅳ-1n①	口縁	−	−	(5.3)	0.7	平縁・口端上面棒状工具による刻み	地文
503	113	108	SK	27	QNW	1層		1	深鉢	Ⅲ-1c	口縁	−	−	(8.4)	0.9	平縁・突起(M字状)	地文→隆沈線1条(横位・直線・隆線上同方向に沈線を強く引く)+突起下に隆沈線(V字状・隆線上同方向に沈線を強く引く)
504	114	108	SK	29		1層		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(5.4)	1.0	−	地文
505	114	108	SK	30		1層		1	深鉢	Ⅱ-−−	胴	−	−	(9.5)	0.9	−	地文
506	114	108	SK	31		堆積土		1	深鉢	Ⅳ-2a	口縁	−	−	(3.0)	0.8	大波状・肥厚	隆線1条(横位・直線)
507	114	108	SK	34	QNW	7層上位		2	深鉢	Ⅳ-−n①	胴下半	−	−	(10.0)	0.8	−	地文→底付近ナデ(横)
508	114	109	SK	34	中央 ベルト中央 QNE ベルトB(N側) ベルトA(E側)	底面一括 7層中位 1層上位 7層中～下位 5層	19 6 5 4 2	36	深鉢	ⅣF2b	口縁～胴下半	(12.4)	−	(18.9)	0.7	大波状(4単位)	地文→頸:沈線3条(横位・半行・半裁竹管)→頸部沈線より上部はナデ(横)→波頂部に楕円形盲孔1個→胴:沈線2～3条(横位・弧状)
509	114	108	SK	34	QNW	1層上位		1	深鉢	Ⅳ-−n①	胴	−	−	(4.4)	0.8	−	地文
510	114	108	SK	34	QNE	1層上位		1	深鉢	Ⅳ-−l	胴上半	−	−	(3.9)	0.7	−	隆線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(円形・垂直方向)→沈線4条以上(隆線から半月状に)
511	114	109	SK	34	QNE	1層上位		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(4.8)	0.7	−	地文
512	114	109	SK	34		検出面		1	深鉢	Ⅳ-−l	胴	−	−	(4.2)	(0.4)	−	隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→連続刺突2段以上(C字形・垂直方向)
513	114	109	SK	38	QSW 22B15	堆積土中～下位 Ⅰ層下位	2 1	3	深鉢	ⅦA3m	口縁～胴	−	−	(16.4)	0.9	平縁・山形突起	地文(口縁から2.5cm施文なし)
514	114	109	SK	39	QNW	1層 堆積土	19 3	22	深鉢	ⅣA3n①	口縁～胴下半	19.0	−	(19.6)	0.8	半縁＋小波状(交互に3単位)	地文
515	114	109	SK	39	QSW	1層		1	深鉢	Ⅸ-1e	口縁	−	−	(5.3)	0.9	平縁	地文
516	114	109	SK	39		2～3層		1	深鉢	Ⅱ-−−	胴	−	−	(6.4)	0.9	−	地文
517	114	109	SK	39	QSW	11層		2	深鉢	Ⅱ-−−	胴	−	−	(9.5)	1.1	−	地文
518	114	109	SK	39	QSW	11層		1	深鉢	Ⅱ-−−	胴	−	−	(6.4)	1.0	−	地文
519	114	109	SK	39		16層		1	深鉢	Ⅱ-−−	胴	−	−	(6.6)	0.9	−	地文
520	114	109	SK	40		底面		1	深鉢	Ⅱ-−k	胴上半	−	−	(5.7)	0.9	−	地文→沈線2条(横位・平行・半裁竹管)→沈線1条(弧状・半裁竹管)
521	114	109	SK	40		底面		1	深鉢	Ⅳ-−n①	胴	−	−	(5.2)	0.9	−	地文(隣の原体との間に無文帯)
522	114	110	SK	45		堆積土		2	深鉢	Ⅳ-−f	底	−	(7.6)	(2.9)	0.7	−	ナデ(横)
523	114	110	SK	47		堆積土下位		1	深鉢	Ⅸ-−e	胴	−	−	(4.6)	0.6	−	地文
524	114	110	SK	47		堆積土下位		1	深鉢	Ⅰ-−−	胴	−	−	(3.2)	0.6	−	地文
525	114	110	SK	47		堆積土下位		2	深鉢	Ⅰ-−−	胴	−	−	(5.1)	0.7	−	地文
526	115	110	SR	01	14C4 不明	埋設土器一括 堆積土 Ⅲ層下位	55 7 1 6	69	深鉢	ⅣA-j	口縁直下～底	−	14.6	(25.4)	0.8	−	地文→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→円形貼付→沈線3条(楠位・押引・左から右へ)→底付近ミガキ(横)
527	115	110	SR	01		堆積土 埋設土器 検出面 2層	16 1 1 1	19	深鉢	ⅣC-f③	口縁～胴下半	−	−	(31.0)	0.9	−	地文→沈線2条(横位・平行)の間に沈線3条(横位・山形)・黒斑有

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の撚り	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	−	透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	4.0	−	透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 6/4 にぶい黄橙		
指頭圧痕・ナデ(横)	網代(ⅠJ1)	−	RL	左 直立	横 斜	3.2	有(S)	透3 割れ口に多	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	95	容量2.39ℓ
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 金3	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白1 透3	5YR 3/4 暗赤褐	5YR 4/3 にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR 5/6 明褐	10YR 7/6 明黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.4	−	白1 透2	10YR 6/3 にぶい黄橙	5YR 6/8 橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(RL太R細)	−	−	−	−	透3	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(斜)	−	−	LR	左	縦	−	−	白1 透5	10YR 8/3 浅黄橙	7.5YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	4.5	有(Z)両端結び	透2 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	無節(L)	左	縦	3.5	−	透2 黒1	10YR4/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	外面ススコゲ少量	LR	左	縦	2.0	−	白1 透2 金1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	白1 透2 黒1	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	RL	右	縦	3.0	−	透2 黒1	7.5YR7/8黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.7	有(末端に環のついた縄2回捻り)	透3 黒1	7.5YR6/8橙	5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	有	白1 透2 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR6/8橙		
ナデ(横・ハケメ状)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	左	斜	3.5	−	透2 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(縦)	−	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.0	−	透2	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	3.5	−	白2 透2 黒1	7.5YR8/6浅黄橙	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	内外面ススコゲ微量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.5	−	白1 透3 金1	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙		
指頭圧痕・ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.5	有(末端に環のついた縄2回捻り)	白1 透1 繊維含む	10YR6/4にぶい黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−		透1 金1	10YR6/2灰黄褐	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	左・右(交差してる)	斜	2.0	−	白3 透3 金2 黒2	5YR6/8橙	5YR5/3にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	附加条(R+R)太Rと細Rを1に一緒に撚る	右	横	2.0	−	透3	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐		容量1.19ℓ
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(LR)	直立	縦	−	−	透2 黒1	5YR4/4にぶい赤褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3	7.5YR7/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1A類(R)	直立	縦	2.9	−	白1 透3	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐		
剥落	−	−	−	−	−	−	−	透2 金1	10YR5/3にぶい黄褐	−		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白2 透2 金1	7.5YR4/3褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	単軸絡条体第1類(R)	左 直立	斜 縦	3.5	−	白2 透5 黒1	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙		容量3.20ℓ
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.5	−	白1 透5 黒1	7.5YR3/3暗褐	7.5YR6/6橙		
指頭圧痕	−	−	RL	横	斜	3.5	−	白1 透3 黒1 繊維含む	5YR5/6明赤褐	−		
指頭圧痕	−	−	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	4.2	−	透3 黒2 繊維含む	10YR3/3暗褐	10YR4/2灰黄褐		
指頭圧痕	−	−	0段多条(2段RL)	横	斜	4.0	−	白1 透5 黒1 繊維含む	5YR6/8橙	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横・ハケメ状)	−	−	LR	左	縦	3.0	−	白1 透2 金1 黒1 繊維含む	7.5YR7/6橙	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススコゲ少量	LR	右	横	3.0	−	白1 透3	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(横・ハケメ状)	−	−	LR RL	左 右	縦 縦	2.6	−	透2 黒1	10YR5/1褐灰	10YR8/3浅黄橙		
ナデ(横)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	−	−	−	−	−	有(S)	白1 透2	5YR6/3にぶい橙	5YR5/1褐灰	30	
ナデ(横)	−	−	無節(R)	左	横	3.2	−	白1 透3 金1 黒1	7.5YR6/4にぶい橙	10YR5/3にぶい黄褐		
地文	−	−	LR	右	横	−	−	透3 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR4/3褐		
地文	−	−	RL	左	斜	−	−	透3 金1 繊維含む	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		
ナデ(口縁→横・胴→縦)・黒斑有	ナデ(Ⅳ)	外面ススコゲ少量	羽状(結束第1種LR・RL)	左	縦	3.5	−	透2 黒1	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	100	容量6.79ℓ、重量2,300g
ナデ(横)	−	外面ススコゲ少量	羽状(結束第2種LR・RL)	直立	縦	3.5	−	白1 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR6/8黄橙		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	出土地点 番号	出土地点 位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
528	115	111	SR	02	15C17	埋設土器一括 Ⅲ層上位	31 2	33	深鉢	Ⅳ C 2 i	口縁～底	(24.5)	10.1	(31.8)	0.7	大波状(4単位)・内外面肥厚	地文(隣の原体との間に無文帯)→頸:隆線1条(横位・直線)→隆線(楕円形区画・垂下するY字状)→隆線に沿う原体側圧→波頂間に円形貼付+原体側圧による渦巻文→底付近ナデ(横)
529	115	110	SD	04	16D1	検出面		1	深鉢	Ⅸ- 1 a	口縁	−	−	(5.9)	0.7	平縁	沈線(横位・斜位など・植物茎先端か)・ハケメ
530	115	110	SD	04	15C21	堆積土上位	1		深鉢	Ⅶ E 2 h	口縁	−	−	(10.5)	0.9	大波状	地文→隆線1条(横位・直線)→沈線(J字状・文様区画)→磨消
531	115	110	SD	04	15C25 15C10	堆積土上位 Ⅱ層上面	4 1	5	深鉢	Ⅸ B 1 d	口縁～胴	−	−	(12.9)	0.9	平縁	地文(口縁3.0cm施文なし・指頭圧痕)
532	115	110	SD	04	15C22	堆積土上位		1	深鉢	Ⅶ- 3 i	口縁	−	−	(5.6)	0.9	山形突起・突帯状	地文→隆線1条(横位・直線・突帯)→隆線(文様区画)→磨消→ボタン状貼付→突起下にボタン状貼付2個を隆沈線で結ぶ三日月形貼付を配置
533	115	110	SD	04	15C25 15C25	堆積土上位 堆積土上位	1 1	2	深鉢	Ⅳ J 1 j	口縁	−	−	(7.4)	0.8	平縁・口端上面棒状工具による刻み	連続刺突2～3条1単位(斜位・半裁竹管2～3組で角を浅く使用)→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(縦位・半裁竹管を垂直方向に施文)
534	116	110	SD	04	16C25	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 4 l	口縁	−	−	(6.2)	0.8	平縁・中空円形突起(ドーナツ状)・複合口縁	地文→突起から垂下する隆線(縦位)
535	116	110	SD	04	15C22	堆積土上位		3	深鉢	Ⅶ- 2 f	口縁	−	−	(9.0)	0.7	大波状	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線(文様区画)→磨消
536	116	110	SD	04	15D7	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	−	−	(5.2)	0.7	大波状	波頂部碗状突起+隆線(横位・突帯状)
537	116	110	SD	04	15C21	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ C 1 c	口縁	−	−	(5.1)	0.6	平縁・キャリパー形	地文→隆沈線2+1条(横位・平行)の間にボタン状貼付1個からL字に垂下する隆沈線1条→頸:キャリパー頸部に隆沈線1条(横位・直線)
538	116	110	SD	04	15D3	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	−	−	(5.5)	0.9	大波状	波頂部に隆線(渦巻)→口端に沿う隆線1条(横位・突帯状)
539	116	110	SD	04	15D2	堆積土上位		2	深鉢	Ⅴ C 1 c	口縁	−	−	(4.5)	0.7	平縁・キャリパー形	地文→隆沈線1条(横位・直線)→隆沈線(横位S字状)
540	116	110	SD	04	15D1	堆積土中位		1	深鉢	Ⅴ D - a	口縁付近	−	−	(5.7)	0.8	−	橋状突起→沈線(文様区画)
541	116	111	SD	04	16C22	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(3.4)	0.9	平縁・口端上面半裁竹管腹側による連続刺突	口縁:連続指頭圧痕→沈線1条(横位・直線・半裁竹管)+沈線1条(横位・山形・半裁竹管)
542	116	111	SD	04	15D1 15D7	堆積土中位 検出面	1 1	2	深鉢	Ⅴ C 1 c	口縁	−	−	(3.0)	0.6	平縁・キャリパー形	地文→隆沈線1条(口端横位・直線)→隆線(横位蛇状・左巻き)→文様分岐点に刺突(円形・深)
543	116	111	SD	04	15D2	堆積土中位		1	深鉢	Ⅵ B 1 b	口縁	−	−	(6.5)	1.0	平縁	沈線2条(横位・平行)→沈線(楕円形区画)→区画内地文充填
544	116	111	SD	04	15D1 15D2 不明	堆積土中位 堆積土中位 堆積土下位	1 1 1 1	4	深鉢	Ⅴ C 1 b ①	口縁～胴	−	−	(17.7)	1.2	平縁・内外面複合口縁・キャリパー形	地文(文様帯内のみ、頸～胴はナデ(横位)→キャリパー頸部に隆線(横位・直線)→区画内L字隆線1条(横位)
545	116	111	SD	04	15D2	堆積土中位 堆積土下位	2 1	3	片口付浅鉢	Ⅴ G 1 d	口縁	−	−	(4.2)	0.6	平縁・片口	地文
546	116	111	SD	04	15D2	堆積土中位		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	−	−	(8.0)	0.8	大波状・波頂部に円形突起(ドーナツ状)・肥厚	隆線2条(横位・平行)の間はナデ調整→隆線(文様区画)
547	116	111	SD	04	15D2 15D3	堆積土中位 堆積土下位 堆積土中位	2 1 1	4	深鉢	Ⅳ- - b	胴上半	−	−	(12.0)	0.7	−	地文→沈線5条(横位・平行)から垂直に沈線3条(縦位・直線)が垂下
548	116	111	SD SI	04 17	15D2 QNW	堆積土中位 堆積土最上位 堆積土上位	3 1 1	5	深鉢	Ⅳ- 1 b	口縁～胴	−	−	(17.0)	1.2	平縁	地文→沈線5条(横位・平行)から斜方向に沈線3条(斜位・弧状)が垂下→突帯状貼付2条(横位・平行)
549	116	111	SD	04	15D3	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ- 4 i	口縁	−	−	(5.3)	0.5	平縁・碗状突起・肥厚	地文→口縁原体側圧
550	116	111	SD	04	15D2	堆積土中位 堆積土下位	2 1	3	深鉢	Ⅶ E 3 g	口縁～胴	−	−	(12.4)	1.0	大波状・中空突起(4単位)・突帯状	地文→沈線(倒卵形・文様表現)→磨消→ボタン状貼付(倒卵形の三角形頂部や山形突起部に貼付)→山形突起に沈線(鉤状)=モチーフが把手ではなく突起を中心として倒卵形に展開している→中空突起に沈線(S字状)+刺突3個(円形・深)→山形突起と中空突起を結ぶように隆線1条(横位)+隆線上に原体側圧
551	116	111	SD	04	15D2	堆積土中位		1	深鉢	Ⅴ- 1 c	口縁	−	−	(4.3)	1.2	平縁・複合口縁	地文→隆沈線4条(横位・平行)→沈線1条(横位・山形)
552	116	111	SD	04	15D1	堆積土下位		3	深鉢	Ⅶ- 3 f	口縁	−	−	(8.7)	0.8	大波状・山形突起(刻み2個)	沈線1条(横位・直線)→沈線(三角形・文様表現)→磨消→起点にボタン状貼付2個
553	116	111	SD	04	15D2 不明	堆積土中位 堆積土下位	2 3 1	6	深鉢	Ⅶ- 2 m	口縁～胴	−	−	(15.6)	0.9	大波状	地文
554	117	112	SD	04	15D1	堆積土下位		2	深鉢	Ⅸ C 1 d	口縁	−	−	(6.5)	0.9	平縁	地文(口端は2.5cm施文なし)
555	117	112	SD	04	15D1	堆積土下位 堆積土中位	2 1	3	深鉢	Ⅴ D1a・b	口縁～胴	−	−	(9.5)	0.6	平縁	隆線2条(横位・平行)→沈線(文様表現)→磨消
556	117	113	SD P P	04 183 184	14D6 不明	堆積土上位 堆積土 堆積土	105 1 1 13	120	深鉢	Ⅴ D 1 a	口縁～底	(17.2)	(21.5)	66.5	1.2	平縁	地文→橋状突起(4単位・鍔状)→突起下に文様正面→沈線(渦巻・左巻き)を主文様とし沈線(渦巻・左巻き+右巻き)を副文様として挟む・黒斑有
557	117	112	SD	04	15D3	底面		1	深鉢	Ⅴ- 2 a	口縁	−	−	(5.9)	0.8	大波状・突帯状	地文→突帯貼付→突帯上沈線(横位S字状)
558	117	112	SD	04	14D10	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ- - h	胴上半	−	−	(5.9)	0.7	−	地文→爪形工具による連続刺突(3段・まくれ返り)
559	117	112	SD	04	14D5 14D10	堆積土上位 堆積土上位	2 2	4	深鉢	Ⅳ A 1 f ①	口縁	−	−	(7.7)	1.0	平縁・複合口縁	地文→沈線2条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・弧状)+沈線(渦巻)を充填→粘土貼付1個(縦位刻み3個有)→沈線1条(横位・弧状)
560	117	112	SD	04	14D4	不明		1	深鉢	Ⅳ- 2 k	口縁	−	−	(7.9)	0.9	大波状・複合口縁(剥落)	沈線3条以上(横位・山形・半裁竹管)
561	117	112	SD	04	15D6	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ- 4 -	口縁	−	−	(4.6)	0.7	大波状・中空突起・内面突帯状	内面隆帯貼付(横位)→中空突起(貫通孔2個)→口端:棒状工具による刻み
562	117	112	SD	04	14D10	堆積土上位		1	深鉢	Ⅶ E 3 g	口縁	−	−	(9.3)	0.8	大波状・中空突起	地文→沈線(渦巻・文様区画+内外面文様状)→連鎖状隆線→突起中央に貫通孔1個
563	117	112	SD	04	14D10	堆積土上位		1	深鉢	Ⅶ E 3 g	口縁	−	−	(6.7)	0.7	大波状・中空突起	地文→沈線(倒卵形区画)→磨消→突起部に沈線(文様状)→突起頂部内外面に刺突各1個(円形)→突起中央に貫通孔1個
564	117	112	SD	04	14D10	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ- 1 c	口縁	−	−	(5.3)	0.6	平縁	地文→隆沈線2条(横位・平行・隆線上に同方向の沈線を強く引く)
565	117	112	SD	04	14D9	堆積土上位		1	深鉢か	Ⅸ- - -	底	−	(10.0)	−	1.5(底部)	−	−

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	外面口端コゲ少量、胴スス少量	LR圧痕 LR	左	縦	2.5	–	白2 透2 金1 黒1	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	100	容量5.99ℓ
ナデ(横・ハケメ状)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/1褐灰		
ナデ(横)	–	–	0段多条(2段RL)	左	横	2.5	–	白2 透1 金2 黒1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐		
指頭圧痕・ナデ(横)	–	–	LR	横	斜	3.0	–	白1 透2 金1 黒1	10YR8/6黄橙	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白2 透1 金2	5YR2/1黒褐	5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白3 透2 細礫多	10YR7/4にぶい黄橙	–		
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	1.8	有 末端に輪のついた縄2つ捻り	白2 透1 金1 黒1	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	2.5	–	白1 透3	10YR3/2黒褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	外面スス少量	–	–	–	–	–	透1 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐		
ナデ(横)	–	–	RLR	左	横	1.5	–	白1 透1	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透1 金1 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	–	–	白1 透3	7.5YR8/6浅黄橙	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透2 金1 黒1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2 黒1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/8黄橙		
ナデ(横)	–	–	RL	左	横	1.5	–	透2 黒1	10YR4/2灰黄褐	10YR3/2黒褐		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	3.0	–	透3 黒1	7.5YR2/2黒褐	7.5YR4/3褐		
ナデ(横)	–	–	RL	左	横	2.8	–	白2 透3 黒1	7.5YR4/3褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	–	外面スス少量	LR	左 横	縦 斜	2.5	–	透3 黒1	7.5YR8/8黄橙	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透3 細礫多	5YR7/8橙	7.5YR8/6浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	附加条(R＋R)太Rと細Rをしに一緒に撚る	左	縦	2.0	–	透3	7.5YR8/8黄橙	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	2.0	–	白2 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	外面コゲ少量	LR圧痕 RL	左	横	2.0	有(S)	透1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR3/1黒褐		
ナデ(横)	–	–	RL	右	縦	2.5	–	白3 透2 金1	5YR6/4にぶい橙	5YR5/3にぶい赤褐		
ナデ(横)	–	–	LR	–	–	–	–	透2 黒1 細礫多	2.5YR7/8橙	2.5YR7/8橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白2 透2 黒1 細礫多	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(縦)	–	外面スス少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	1.5	–	白3 透3 黒1	5YR6/8橙	5YR5/4にぶい赤褐		
ナデ(横)	–	–	無節(L)	左	縦	3.5	–	白3 透2 金1	7.5YR4/2灰褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白2 透3 金2 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	網代か(残存部少ない)	–	0段多条(2段RL)	右	縦	5.0	–	白3 金2	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙	10	容量64.03ℓ
ナデ(横)	–	–	RL	右	縦	2.0	–	白1 透1 黒1	7.5YR4/3褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	2.5	–	白1 透2 金2	7.5YR 3/2 黒褐	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	2.5	–	透1 細礫多い	7.5YR 2/1 黒	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透1	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	外面スス多量	–	–	–	–	–	透1	7.5YR 4/1 褐灰	7.5YR 7/3 にぶい橙		
突起内面沈線(満巻)・ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透3 黒1 割れ口に多い	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐		
突起内面沈線(貫通孔を縁取る)・ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透3	5YR 6/8 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	外面スス少量	0段多条(2段LR)	左	横	1.5	–	白1	5YR 3/4 暗赤褐	5YR 6/6 橙		
–	網代(ⅠB1)	–	–	–	–	–	–	透3	10YR 7/4 にぶい黄橙	7.5YR 7/4 にぶい橙	80	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
566	117	112	SD	04	14D9	堆積土上位		1	深鉢	V-1b	口縁	−	−	(8.3)	0.9	平縁・隆線貼付により複合口縁化	隆線2条(横位・平行)→地文
567	117	112	SD	04	14D10	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ-5j	口縁	−	−	(5.0)	0.7	平縁・一部凹状	隆線1条(縦位・太)→沈線4条(横位・平行)と沈線3条(横位・押引・左から右へ)を交互に配置
568	117	112	SD	04	14D10	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ-・k	胴	−	−	(6.8)	1.1	−	ナデ(横)→沈線2条(横位・山形・半裁竹管)
569	117	112	SD	04	14D5	堆積土上位		1	深鉢	Ⅳ-1i	口縁	−	−	(4.3)	0.7	平縁	地文→沈線2条(横位・上線は直線、下線は下凹線)の間の下線に沿って沈線1条(横位・押引・左から右へ)
570	117	112	SD	04	15D1	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ-1f③	口縁	−	−	(3.9)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁境に連続刺突(縦位・半裁竹管)→沈線2条(横位・直線+波状・半裁竹管)
571	117	112	SD	04	13D5	堆積土中位		1	深鉢	Ⅳ-1b	口縁	−	−	(4.5)	0.8	平縁・複合口縁	複合口縁上口端に連続刺突(縦位・半裁竹管・垂直方向)+沈線(斜位+波状+弧状・半裁竹管)→頸:沈線2条以上(横位・平行・半裁竹管)
572	117	112	SD	04	14D4	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-2f②	口縁	−	−	(6.6)	1.0	大波状・波頂部2個	地文→沈線(方形区画)→区画内沈線(弧状・文様表現)
573	118	112	SD	04	15D1	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-1k	口縁	−	−	(4.8)	0.8	平縁・内外面肥厚	ナデ(横)→沈線2条(横位・平行)+沈線(の字状か)
574	118	112	SD	04	15D1	堆積土下位		1	深鉢	ⅦE-g	胴	−	−	(6.6)	0.7	−	地文→隆沈線2条(縦位・直線)→沈線(文様区画)→磨消
575	118	112	SD	04	14D3	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-1j	口縁	−	−	(5.1)	1.4	平縁・肥厚・キャリパー形	沈線2条(横位・山形・押引・半裁竹管先端角を使用・左から右へ)→頸:連続刺突(縦位・半裁竹管を垂直方向から使用)
576	118	112	SD	04	14D7	堆積土下位		1	深鉢	ⅦB1e	口縁	−	−	(6.9)	0.8	平縁	口端:沈線2条(横位・平行)→頸:沈線2条(横位・平行)→隆線1条(縦位・直線)と沈線との交点に刺突1個(垂直・深)→ナデ(横)
577	118	112	SD	04	14D4	堆積土下位		2	深鉢	V-1c	口縁	−	−	(10.1)	0.9	平縁	地文→隆線(直線+渦巻・右巻き+左巻き)→頸:竪沈線1条(横位・直線・貼り付けた隆線上に同方向の沈線を強く引く)から垂直に隆沈線1条(縦位・直線・貼り付けた隆線上に同方向の沈線を強く引く)
578	118	112	SD	04	14D4	堆積土下位		1	深鉢	Ⅵ-4f③	口縁	−	−	(5.8)	0.8	山形突起・複合口縁	複合口縁境に連続刺突(縦位・爪状)→沈線(縦位・平行・細)を施文後に沈線1条(横位・波状・半裁竹管)を上から重ねる
579	118	112	SD	04	14D7	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-・f③	胴上半	−	−	(4.5)	1.1	−	頸:沈線2条(横位・平行・半裁竹管)の間に沈線3〜4条(横位・山形・半裁竹管)を充填
580	118	112	SD	04	14D5	堆積土下位		1	深鉢	V-2c	口縁	−	−	(4.5)	0.9	大波状	地文→隆沈線2条(横位・平行)→沈線1条(横位・弧状)
581	118	112	SD	04	14D4	堆積土下位		1	深鉢	V-2b	口縁	−	−	(5.9)	0.7	大波状・突帯状	地文→突起から隆線1条(縦位・太)+隆線に沿う刺突→突起から口端に沿って隆線(突帯状)
582	118	112	SD	04	14D5	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-1f②	口縁	−	−	(3.3)	0.7	平縁・内外面肥厚	短沈線(斜位・右傾)→粘土貼付(縦位刻み2個)
583	118	112	SD	04	14D5	堆積土下位		1	深鉢	Ⅶ-1h	口縁	−	−	(5.2)	0.7	平縁	地文→口端:沈線1条(横位・直線)→沈線(文様区画)→磨消
584	118	112	SD	04	14D5	堆積土下位		1	深鉢	Ⅶ-3h	口縁	−	−	(3.7)	0.7	山形突起	頂部下に円形刺突(円形・垂直方向)
585	118	112	SD	04	14D5	堆積土下位		1	深鉢	Ⅳ-1h	口縁	−	−	(3.8)	0.7	平縁・折り返し口縁	粘土帯を上が最も厚くなるように3段貼り付け、その後押さえも兼ねて箆状工具による連続刺突(縦位)
586	118	112	SD	04	14D5	堆積土下位		1	深鉢	Ⅸ-1e	口縁	−	−	(5.0)	0.7	平縁	地文
587	118	112	SD	04	15D1	堆積土下位		1	深鉢	Ⅶ-1h	口縁	−	−	(9.3)	0.9	平縁	地文→沈線(倒卵形か・文様区画)→磨消
588	118	112	SD	04	15D1	堆積土下位		1	深鉢	Ⅸ-1e	口縁	−	−	(4.8)	0.8	平縁	地文
589	118	112	SD	04	14D3	堆積土下位		4	深鉢	Ⅸ-1d	口縁	−	−	(13.7)	1.1	平縁	地文(口端は2.0cm施文なし)
590	118	114	SD	04	14D5 14C25 不明	堆積土下位 Ⅰ層下位	14 7 1	22	深鉢	ⅨC1e	口縁〜胴	(20.7)	−	(31.4)	0.8	平縁	地文
591	118	112	SD	04	15D1	底直上		2	深鉢	VC1c	口縁	−	−	(5.8)	0.8	平縁・キャリパー形	地文→口端:隆沈線2条(横位)→隆沈線(横位S字状+棘状)
592	118	112	SD	07		1層		1	深鉢	Ⅸ-1e	口縁	−	−	(4.1)	0.9	平縁	地文
593	118	112	SD	07	N端	1層		1	深鉢	Ⅸ-・f	底	−	−	(3.0)	0.9	−	ナデ(横)
594	119	114	P	73		堆積土下位		1	深鉢	Ⅶ-・h	胴	−	−	(10.3)	1.0	−	地文→沈線(文様区画)→磨消
595	119	114	P	74		堆積土		1	深鉢	Ⅳ-1f①	口縁	−	−	(4.5)	0.8	平縁	地文→沈線2条(横位・弧状)→口端下連続刺突(下斜方向から)
596	119	114	P	75		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-・e	胴	−	−	(3.6)	1.0	−	地文
597	119	114	P	81		堆積土上位		1	深鉢	Ⅸ-・e	胴	−	−	(5.6)	0.9	−	地文
598	119	114	P	81		堆積土上位		1	深鉢	Ⅸ-・e	胴	−	−	(6.0)	0.7	−	地文
599	119	114	P	82		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-・e	胴	−	−	(4.0)	0.9	−	地文
600	119	114	P	82		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-3e	口縁	−	−	(7.1)	0.8	平縁・山形突起	地文
601	119	114	P	84		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-・f	底	−	(6.6)	(2.0)	0.5	−	ナデ(横)
602	119	114	P	84		堆積土		1	深鉢	Ⅶ-・h	胴	−	−	(6.3)	0.8	−	地文→沈線2〜3条(縦位・平行・文様区画か)→磨消
603	119	114	P	84	不明	堆積土一括	33 4	37	深鉢	Ⅸ-・e	胴下半〜底	−	11.2	(24.4)	0.9	−	地文→底付近ナデ(横)
604	119	114	P	85		堆積土上位		1	深鉢	ⅣA1-	口縁	−	−	(3.0)	0.9	平縁	沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填
605	119	114	P	85		堆積土上位		1	深鉢	ⅣA1f②	口縁	−	−	(3.1)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)→地文(沈線より下、上は無文帯)→短沈線(斜位・左傾)
606	119	114	P	87		堆積土		1	深鉢	Ⅵ-・e	胴	−	−	(7.9)	1.0	−	地文→沈線(文様区画)→磨消
607	119	114	P	121		堆積土		1	深鉢	V-1b	口縁	−	−	(2.3)	0.7	平縁	ナデ(横)→隆線2条(横位・平行)+上隆線に沈線1条(横位・直線)
608	119	114	P	142		堆積土上位		1	深鉢	ⅦE-g	口縁付近	−	−	(4.1)	0.8	−	突帯貼付→地文→沈線1条(横位・直線)
609	119	114	P	142		堆積土下位		1	深鉢	Ⅸ-・e	胴	−	−	(4.3)	0.7	−	地文
610	119	114	P	152		堆積土		1	深鉢	ⅦE3g	口縁	−	−	(5.7)	0.7	中空突起・内面突帯状	隆線(文様区画)→突起中央に貫通孔1個
611	119	114	P	164		堆積土中位		3	深鉢	Ⅸ-・e	胴	−	−	(15.6)	0.8	−	地文
612	119	114	P	164		堆積土下位		1	深鉢	Ⅶ-・h	胴	−	−	(8.8)	1.0	−	地文→沈線(し字状か・文様区画)→磨消(一部磨り消されず地文残る)
613	119	115	P	164		堆積土		1	深鉢	Ⅸ-・e	胴下半〜底	−	7.0	(6.0)	0.6	−	地文→底付近ナデ(横)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	2.2	有(Z)	透2	5YR 3/1 黒褐	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	–	–	透1 金1	7.5YR 3/1 黒褐	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	内外面ススコゲ少量	–	–	–	–	–	白1 透1 金1	5YR 4/2 灰褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	1.5	–	透1	10YR 3/1 黒褐	5YR 3/3 暗赤褐		
ナデ(横)	–	外面コゲ微量	–	–	–	–	–	透2	7.5YR 3/2 黒褐	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透3	5YR 5/3 にぶい赤褐	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透2 金1	10YR 8/3 浅黄橙	10YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2 金2	5YR 3/4 暗赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	–	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	4.2	–	透2 金2 割れ口に多い	10YR 8/2 灰白	10YR 8/3 浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透2	5YR 3/2 暗赤褐	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	外面口端ススコゲ少量、内面コゲ多量	LR	左	縦	2.8	–	白1 透1 黒1	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 4/6 褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透1	7.5YR 3/2 黒褐	5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透2	7.5YR 3/3 暗褐	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	–	LR	右	横	–	–	透2 金1	7.5YR 8/4 浅黄橙	7.5YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	3.5	–	透2 黒1	7.5YR 6/3 にぶい褐	10YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2 金1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	2.0	–	透3	7.5YR 6/3 にぶい褐	5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透2 金1 黒1	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	白1 透2	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	–	単軸絡条体第5類(LR)	直立	縦	–	–	透2 金1	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 7/3 にぶい橙		
ナデ(横)	–	–	無節(R)	左	横	2.5	–	透2 金2	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ナデ(横)	–	外面ススコゲ微量	無節(L)	左	縦	4.2	–	白1 透1 金1	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	–	–	LR	左右	縦横	3.0	–	透3	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	3.0	–	白1 透1 黒1	7.5YR 7/4 にぶい橙	5YR 5/6 明褐		容量9.47ℓ
ナデ(横)	–	内面ススコゲ少量	LR	右	縦	2.8	–	白1 透2	7.5YR 6/6 橙	10YR 6/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	–	–	白1 透3 黒1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR8/8黄橙		
ナデ(横)	網代(ⅠB2)	–	–	–	–	–	–	白2 透5	7.5YR6/8橙	7.5YR6/3にぶい褐	20	
ナデ(横)	–	–	単軸絡条体第1類(R)	左	縦	2.5	–	白1 透3 金2 割れ口に多	5YR 7/6 橙	10YR 7/2 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	–	RL	右	縦	–	有(Z)	白1 透1 金3	7.5YR 5/2 灰褐	10YR 5/3 にぶい黄褐		
ナデ(横)	–	–	0段多条(2段LR)	左	縦	–	–	白1 透2 割れ口に多い	5YR 3/4 暗赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(斜)	–	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	–	–	透1	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 7/3 にぶい橙		
ナデ(縦)	–	–	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	–	–	白1 透3	5YR 7/6 橙	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	–	–	単軸絡条体第1類(0段多条L＋無節L)	左	斜	–	–	透5	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.0	–	白1 透3	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	内面底コゲ多量	–	–	–	–	–	透3	5YR 6/6 橙	7.5YR 2/1 黒	40	
ナデ(横)	–	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第1類(R)	左	斜	1.8	–	白1 透3	10YR 3/2 黒褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	–	羽状(結束第1種無節L・RL)	直立	縦	3.5	–	透3 黒1	10YR 8/4 浅黄橙	10YR 4/1 褐灰	100	
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐		
ナデ(横)	–	–	LR	–	–	–	–	透1	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	–	–	RL	右	縦	–	–	透5	5YR 6/6 橙	5YR 6/8 橙		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透1	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	–	内面ススコゲ少量	LR	左	縦	2.5	–	白1 透2	7.5YR 3/2 黒褐	10YR 7/2 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	外面ススコゲ少量	LR	右	縦	–	–	透2 金1	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 3/1 黒褐		
ナデ(横)・隆線1条(横位・直線)	–	–	–	–	–	–	–	透2	7.5YR 7/3 にぶい橙	7.5YR 6/1 褐灰		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	3.3	–	白1 透3	7.5YR 6/6 橙	10YR 7/4 にぶい黄橙		
ナデ(横)	–	–	0段多条(2段RL)	右	横	3.0	–	透3	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	笹(Ⅲ)	–	RL	右	縦	3.0	–	白1 透2 金3 黒1	10YR 6/6 明黄褐	10YR 6/4 にぶい黄橙	100	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
614	119	115	P	178		堆積土		1	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	-	(12.6)	(13.5)	0.6	-	地文→底付近ナデ(横)
615	119	115	P	208		堆積土		1	深鉢	Ⅶ- - c	胴	-	-	(5.5)	0.7	-	地文→隆線(文様区画)→連鎖状隆線→磨消→ボタン状貼付(文様接点)
616	119	115	P	208		堆積土		1	深鉢	Ⅶ- - h	胴	-	-	(5.3)	0.8	-	地文→沈線(文様区画)→磨消
617	120	115			採掘坑(16C2)	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 2 a	口縁	-	-	(4.9)	0.6	大波状・複合口縁	複合口縁上沈線2条(横位・平行)と連続刺突2条(縦位・半裁竹管)を交互に2段配置→沈線1条(横位・山形・半裁竹管)→連続刺突(縦位・半裁竹管をやや右斜方向から)
618	120	115			採掘坑(16C2)	堆積土		1	深鉢	ⅣA 1 f ②	口縁	-	-	(3.7)	0.7	平縁	地文→沈線(横位・直線)・沈線より上が文様帯→隆線(二角形)を中央に短沈線(斜位・左傾+右傾)
619	120	115			採掘坑(16C2)	堆積土		1	深鉢	ⅤC - c	口縁付近	-	-	(4.6)	0.7	-	地文→隆沈線2条(横位・平行)→磨消→胴:ナデ(横)
620	120	115			採掘坑(16C2)	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ③	口縁	-	-	(3.8)	0.8	平縁・複合口縁	沈線1条(横位・直線・平行か)→沈線2条以上(横位・波状)
621	120	115			採掘坑(17D1)	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	-	-	(5.6)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)→短沈線(縦位)
622	120	115			採掘坑	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 4 k	口縁	-	-	(7.1)	0.7	平縁・突起(上面刻み)・内面突帯状・複合口縁	複合口縁上沈線2条(横位・山形・半裁竹管)の間に沈線1条(横位・直線・半裁竹管)+スペースに刺突(円形・垂直方向)
623	120	116			6E17撹乱 一括 不明		43 4	47	深鉢	ⅦA 1 l	略完形	(27.3)	12.5	39.0	1.0	平縁・複合口縁	複合口縁上に文様帯、下位は地文のみ→沈線(横位・方形区画)→方形区画の間の上下に刺突(円形・竹管・垂直方向から)・輪積(外下、内上・輪積幅2.5cm)
624	120	115			7D22 不明	Ⅰ層	31 6	37	深鉢	Ⅸ B - e	胴	-	-	(20.1)	0.7	-	地文
625	120	115			7D22 不明	Ⅰ層	40 4	44	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	-	(11.6)	22.4	0.8	-	地文→底付近ナデ(横)
626	120	115			13C23	Ⅰ層		1	深鉢	Ⅳ- 4 g	口縁	-	-	(6.8)	0.8	平縁(口端上面刻み)・内面肥厚・突起	地文→沈線2条(横位・平行・上線が半裁竹管腹側押引、下線が半裁竹管腹側直線)の間に交互刺突(半裁竹管か・上下斜方向から)
627	120	115			13C7	Ⅰ層		1	深鉢	ⅣA1 k	口縁	-	-	(4.7)	0.6	平縁・内面複合口縁(剥落)	地文→沈線2条(横位・平行)と沈線2条(横位・弧状)の間に沈線2条(横位・弧状)を充填
628	120	115			14C6	Ⅰ層中位		1	深鉢	ⅦE 2 f	口縁	-	-	(8.8)	1.0	大波状	波頂部貫通孔1個→口縁に沿う隆線1条(横位)→波頂部下に文様展開・沈線(倒卵形・文様表現)→磨消
629	121	116			13C7	Ⅰ層下位		2	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	-	-	(5.5)	0.7	平縁	沈線各2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾+右傾)を充填
630	121	116			14C6	Ⅰ層下位		1	深鉢	Ⅶ- 3 h	口縁	-	-	(5.7)	0.7	山形突起	突起下に連続刺突5個(縦位・円形・垂直方向から)+盲孔1個(円形)→沈線(文様区画)→磨消
631	121	117			13C5 14C1 Ⅱ区 T3～4 不明	Ⅰ層 Ⅰ層 1層 1層下位	36 1 2 2 3	44	深鉢	ⅤA1b ①	口縁～底	(25.0)	11.0	34.8	0.8	平縁・突帯状	地文→口縁に沿う隆線1条(横位・直線・断面三角形・突帯状)
632	121	116			14D3	Ⅰ層中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ①	口縁	-	-	(5.0)	0.8	平縁	地文→隆沈線2条(横位・平行)の間をナデ(横)・下線(沈線)はそのまま垂下→沈線2条(横位・弧状)+沈線(渦巻)
633	121	117			12C9	Ⅰ層下位		10	深鉢・球胴形	Ⅵ 4 b	口縁～胴	(23.5)	-	(13.8)	1.0	平縁・複合口縁・突起(頂部2個・4単位)	地文→沈線7条(横位・平行)→突起下を文様正面とする・粘土貼付(弧状・4単位)+貼付上沈線2条(弧状)
634	121	116			15B区	Ⅰ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 g	口縁	-	-	(4.2)	0.9	平縁・内面肥厚	地文→沈線2条(横位・平行・半裁竹管で文様帯外側を深く引く)→交互刺突(円形・棒状工具で上下斜方向から)→隆沈線1条(横位・直線)
635	121	116			15C13	Ⅰ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	-	-	(3.9)	0.8	平縁	沈線1条(横位・直線)と沈線1条(横位・押引・左から右へ)を交互に3段以上配置
636	121	116			16C11	Ⅰ層		1	深鉢	Ⅲ- - a	胴上半	-	-	(3.8)	0.7	-	地文→細隆線1条(横位・小波状)
637	121	116			19B21	Ⅰ層中位		1	深鉢	Ⅲ- 2 b	口縁付近	-	-	(3.6)	1.0	円形(ドーナツ状)突起	円形突起中央に盲孔1個→盲孔の周りに刺突2重(円形・垂直方向)
638	121	116			19B25	Ⅰ層中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 l	口縁	-	-	(7.0)	0.9	平縁・内面肥厚	隆線1条(横位・直線)+口端調整でやや隆線状→隆線1条(縦位・山形か)・黒斑有
639	121	116			19C15	Ⅰ層中位		1	深鉢	Ⅵ C 1 d	口縁	-	-	(5.9)	0.5	平縁	地文→沈線(縦位・楕円形区画)→磨消
640	121	116			15D15	Ⅰ層中～下位		1	深鉢	Ⅴ- 1 d	口縁	-	-	(6.3)	0.6	平縁・肥厚	地文→粘土貼付
641	121	116			16D11	Ⅰ層中～下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 h	口縁	-	-	(4.3)	0.9	平縁・隆線貼付部突起状	沈線1条(横位・平行)と連続刺突(斜位・爪状)を交互に3段配置→頸:沈線2条(横位・平行)+間に・・部刺突(縦位・爪状)→隆線2条(縦位・剥落し痕跡のみ残存)
642	121	116			20B24	Ⅰ層		1	深鉢	Ⅳ- 2 n ①	口縁	-	-	(7.1)	0.7	大波状・波頂部に円形突起	地文→円形突起中央には粘土粒を貼付
643	121	116			20B10	Ⅰ層下位		1	深鉢	Ⅶ- 1 e	口縁	-	-	(5.8)	0.7	平縁	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線3条(縦位・平行)→磨消→沈線接点に刺突1個(円形)
644	121	116			20B20	Ⅰ層下位		1	深鉢	ⅣK - c	胴	-	-	(4.0)	0.9	-	地文→沈線(縦位・山形)
645	121	116			16D11	Ⅰ層下位		1	深鉢	ⅣE 1 f ③	口縁	-	-	(5.3)	1.0	平縁	地文→沈線2条(横位・平行)→沈線1条(横位・山形)と沈線1条(横位・直線)を交互に2段配置→頸:隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)
646	121	116			15D10	Ⅰ層下位		4	深鉢	Ⅶ- 1 m	口縁	-	-	(7.5)	0.9	平縁	地文(口縁3.5cm施文なし)
647	121	116			19B19	Ⅱ層直上		1	深鉢	ⅣK - c	胴上半	-	-	(6.1)	0.9	-	地文→沈線4条以上(横位・山形)
648	121	116			25B15	Ⅱ層直上		5	壺	Ⅶ- - -	口縁・胴	-	-	(3.9)・(1.6)	(0.6)・(0.6)	平縁・口端上面刻み(斜位)	地文→隆沈線1条(横位・半裁竹管腹側)→沈線(変形工字文)→磨消→貼瘤1個
649	121	116			21B3	Ⅱ層上面		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	-	-	(4.1)	1.3	平縁・口端上面刻み	沈線1条(横位・押引・左から右へ)と沈線1条(横位・直線)を交互に2段以上配置
650	121	117			14C14	Ⅱ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 1 b	口縁	-	-	(7.4)	0.8	平縁	地文→連続刺突(横楕円形・横位・右斜方向から短沈線状に長め)→刺突より上はナデ調整
651	121	117			14B24	Ⅱ層上位		4	深鉢	Ⅶ- 3 h	口縁～胴上半	-	-	(8.5)	0.8	平縁・山形突起	地文→沈線1条(横位・直線)→沈線(文様表現)→磨消(一部完全に磨消されない)
652	122	117			20C20	Ⅱ層上位		6	深鉢	Ⅲ-3a・e	口縁～胴上半	-	-	(13.7)	1.2	小波状・鋸歯状貼付・肥厚	地文→細隆線4条(横位・小波状)→上下2条の間に細隆線2条による半円状文(剥落)
653	122	117			20C20	Ⅱ層上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ③	口縁	-	-	(5.3)	0.9	平縁	地文(口縁1.5cm施文なし)→沈線2条(横位・小波状)
654	122	117			14D	Ⅱ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 3 a	口縁	-	-	(5.0)	0.7	大波状・山形突起	突起中央に貫通孔1個→貫通孔から垂下と口縁に連鎖状隆線1条(横位・直線)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	内外面ススやや少量	LR	右 左 横	横 縦 斜	4.0	－	白3 透2 金3 黒2	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙	100	
ナデ(横)	－	－	RL	右	縦	－	－	透1 金2	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 4/3 にぶい赤褐		
ナデ(横)	－	－	LR	左	縦	－	－	白1 透1 割れ口に多	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白3 透2	10YR4/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	－	－	白1 透2	5YR4/2灰褐	5YR4/4にぶい赤褐		
ナデ(横)	－	－	RL	左	横	－	－	白1 透1	10YR4/1褐灰	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	透2 金1 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	透1 金1 黒1	10YR8/3浅黄橙	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透1 金2	7.5YR4/6褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)・焼けはじけ有	木葉	外面ススやや多量、内面口縁ススやや多量	LR	左	縦	3.2	有(Z)	白1 透1 金1 黒1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙	100	容量14.41ℓ、重量4.400g
ナデ(横)	－	外面ススやや多量、内面コゲ多量	LR 0段多条 (2段LR)	左 左	縦 横	1.8 2.5	－	白1 金2	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 4/1 褐灰		容量6.17ℓ
ナデ(横)	綱代(ⅠJ1)→ナデ(Ⅳ)	－	LR	右	横	3.5	有(Z)	白2 透5 金1 黒1	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	50	容量5.61ℓ
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	3.0	－	白1 金2	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/2 灰褐		
ナデ(横)	－	外面コゲ多量	RL	左	横	－	－	透1	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐		
ナデ(横)	－	外面ススやや少量	LR	左	縦	1.5	－	透1	10YR 5/2 灰褐	10YR 7/3 にぶい橙		
ナデ(横)	－	外面ススごく微量	－	－	－	－	－	透5	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	透1 黒1	10YR 3/3 暗褐	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(多方向・ケズリ状)	ナデ(Ⅳ)	外面ススやや多量	0段多条 (2段RL)	右	縦	2.8	－	白1 透1	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙	100	容量11.52ℓ
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	－	－	透2 金1 黒2	5YR 6/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	－	内面ススやや少量	RL	右	縦	2.5	有	透1 金3	7.5YR 4/1 褐灰	7.5YR 4/1 褐灰		
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	－	－	白2 透1 金1	10YR3/1黒褐	10YR4/1褐灰		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透3 金1	7.5YR4/2灰褐	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	－	－	RL	直立	斜	－	－	白1 透1	5YR3/1黒褐	5YR6/8橙		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透2 黒1	7.5YR7/8黄橙	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	3.2	－	白2 透3 黒1	7.5YR8/8黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	－	－	LR	左	縦	1.9	－	白1 透2 黒1	7.5YR4/3褐	7.5YR4/2灰褐		
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	2.5	－	白2 透2	5YR5/3にぶい赤褐	5YR4/8赤褐		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透2	10YR4/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	－	内外面ススやや多量	単軸絡条体 第5類(R)	直立	縦	3.5	－	透2 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR3/1黒褐		
ナデ(横)	－	－	LR	右	横	2.5	－	透2 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		
ナデ(斜)	－	内面コゲ多量	単軸絡条体 第5類(R)	左	斜	－	－	白1 透1	5YR7/6橙	5YR5/4にぶい赤褐		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透3 黒1	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	－	－	単軸絡条体 第5類(R)	直立	縦	3.5	－	白2 透2 黒1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(斜)	－	－	単軸絡条体 第1類(R)	直立	縦	3.2	－	白1 透1	7.5YR7/6橙	7.5YR7/8黄橙		
ミガキ(横)	－	－	LR	右	横	－	－	白1 透3	10YR3/2黒褐	10YR3/1黒褐		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透3 金1 黒1	5YR6/6橙	5YR6/8橙		
ナデ(横)	－	－	0段多条 (2段LR)	左	縦	3.3	－	透2 金1	10YR 6/4 にぶい黄褐	10YR 4/4 褐		
ナデ(横)	－	－	RL	右	縦	3.5	－	白2 透1 金1	7.5YR7/8黄橙	2.5YR5/8明赤褐		
ナデ(横)	－	－	LR	左 横	縦 斜	2.0	－	白1 透2 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	－	－	0段多条 (3段RLR)	右	横	2.4	－	白1 透2 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	5YR6/6橙		
ナデ(横)	－	－	－	－	－	－	－	白1 透1 金2	7.5YR 7/4 にぶい橙	10YR 5/2 灰黄褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	番号	位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	底径	器高	厚さ	口端部	外面調整・施文など
655	122	117			14B19	Ⅱ層中位		1	深鉢	Ⅳ- - k	胴	-	-	(4.8)	0.8	-	地文→沈線2条(横位・山形か・半裁竹管腹側)→沈線1条(横位・押引・左から右へ)
656	122	117			15C16	Ⅱ層中位		1	深鉢	Ⅶ- 1 h	口縁	-	-	(4.6)	0.7	平縁	沈線2条(横位・平行)の間をナデ(横)
657	122	117			20B25	Ⅱ層中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	-	-	(5.0)	0.9	平縁・内面肥厚	沈線2条(横位・平行)の間に沈線2条(斜位・平行)を施し、短沈線(縦位・やや弧状)を充填→隆線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(縦位・爪状)
658	122	117			21B9	Ⅱ層中位		1	深鉢	Ⅳ- - h	胴上半	-	-	(5.0)	0.9	-	地文→連続刺突2段(横位・円形・右下斜方向から)
659	122	117			22B11	Ⅱ層 Ⅱ層上位	3 1	4	深鉢	Ⅳ J 1 c	口縁～胴	-	-	(7.6)	0.9	平縁	地文→沈線3条(横位・山形)
660	122	117			21B5	Ⅱ層		5	深鉢	Ⅶ- 2 l	口縁～胴	-	-	(7.2)	0.7	大波状・折り返し口縁	地文→波頂部下に沈線(文様表現・深め)による波濤状モチーフ→磨消
661	122	117			23B3	Ⅱ層		1	壺	Ⅷ- - -	胴	-	-	(7.7)	0.8	-	地文→沈線(文様区画)→磨消
662	122	117			23B3	Ⅱ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	-	-	(4.3)	1.0	平縁・肥厚	短沈線(斜位・左傾)→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(斜位・左傾)
663	122	117			14B23	Ⅱ層下位		2	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	口縁	-	-	(5.3)	0.7	平縁	地文→沈線2条(横位・平行)の間に短沈線(斜位・左傾)を充填→隆線(文様状・三角形)+円文→沈線1条(横位・弧状)→粘土貼付(刻み2個以上有)
664	122	117			13C14	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅶ- 1 f	口縁	-	-	(7.3)	0.8	平縁	地文→沈線(文様区画)→磨消
665	122	118			13C15	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅶ- 1 h	口縁	-	-	(7.6)	0.9	平縁	地文→沈線(文様区画)→磨消
666	122	118			14B24	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅳ- 4 d	口縁	-	-	(5.0)	1.1	大波状・碗状突起(半円状)・肥厚	沈線(文様表現)→ナデ(横)
667	122	118			14C9	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 l	口縁	-	-	(7.6)	0.7	平縁・複合口縁	地文→隆線2条(横位・平行・間は無文帯)→隆線1条(横位・波状)+隆線上地文回転(ただし胴部地文とは回転方向に違い)
668	122	118			14C12	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅶ- - -	胴	-	-	(8.4)	0.9	-	ナデ(横)→沈線3条(文様状)
669	122	118			15C1	Ⅱ層下位		3	深鉢	Ⅸ C 1 d	口縁	-	-	(6.3)	0.7	平縁	地文(口縁2.0cm施文なし)
670	122	118			20C8	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅲ- 2 b	口縁	-	-	(6.9)	1.2	大波状・円形突起(ドーナツ状)→突起上面に連続刺突2段(横位・円形・垂直方向)	円形突起をドーナツ状に貼付→連続刺突(円形・垂直方向)→突起下に沿うように連続刺突2段(横位・円形・垂直方向)
671	122	118			20C9	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅸ- 1 e	口縁	-	-	(9.1)	0.7	平縁	地文
672	122	118			22B1	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 i	口縁～胴	-	-	(14.5)	0.5	平縁・山形突起(頂部2個)・内面肥厚	口縁下に段を設け隆線1条(横位・直線)との間に原体側圧(縦位・直立)を充填→地文(原体幅で縦回転し一部肥隙を開ける)
673	122	118			22B2	Ⅱ層下位		1	深鉢	Ⅵ C 1 b	口縁	-	-	(5.8)	0.7	平縁	ナデ(横)→沈線(縦位・楕円形区画)→区画内地文充填
674	122	118			21B3	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 l	口縁	-	-	(3.2)	1.0	平縁	ナデ(横)→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(斜位・右傾)
675	122	118			21B3	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅳ- - l	胴上半	-	-	(6.8)	0.8	-	頭隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→沈線2条(横位・平行)→地文
676	122	118			21B9	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 h	口縁	-	-	(5.9)	0.8	平縁・複合口縁	連続刺突2段(横位・円形・垂直方向)→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位・棒状工具)
677	123	118			21B9	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅳ F 1 a	口縁	-	-	(3.6)	1.0	平縁・複合口縁	複合口縁上連続刺突(縦位・下斜方向から)→沈線1条(横位・直線)
678	123	118			21B8	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ③	口縁	-	-	(6.0)	1.0	平縁	沈線1条(横位・直線)と沈線1条(横位・波状)を交互に4段か配置+2段目には沈線(波状)の変わりに連続刺突(縦位)を充填
679	123	118			21B8	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅸ- 1 d	口縁	-	-	(7.7)	0.9	平縁・口端上面爪状工具による刻み	地文(口縁2.5cm施文なし)
680	123	118			21B9	Ⅱ層最下位		5	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	-	-	(8.6)	0.7	平縁	地文→沈線3条(横位・平行)→粘土貼付2個(縦位・突起状)
681	123	118			22B12	Ⅱ層最下位		1	深鉢	Ⅲ- 2 b	口縁	-	-	(5.8)	0.9	大波状・円形突起(ドーナツ状)→突起上面に連続刺突2段(横位・円形・垂直方向)	円形突起中央に貫通孔1個→貫通孔の周りに刺突3重(円形・垂直方向)→垂下する隆線1条(斜位)+隆線上刺突(円形・垂直方向)
682	123	118			15C1	Ⅱ層下位～Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅵ B 2 b	口縁	-	-	(8.4)	1.0	大波状	隆線(文様区画)→区画内地文充填(充填後に区画内再ナデ)
683	123	119			20B24	Ⅱ層下位～Ⅲ層直上 Ⅱ層下位	2 1	3	深鉢	Ⅸ C 2 e	口縁～胴	-	-	(8.0)	0.7	大波状・複合口縁	地文
684	123	119			13C24	Ⅲ層上面		1	深鉢	Ⅶ- 1 c	口縁	-	-	(6.2)	0.8	平縁・突帯状	地文→連鎖状隆線(横位・斜位・文様区画)→隆線接点に刺突2個(円形・深)→磨消
685	123	118			14C16 14C17 14C11 不明	Ⅲ層上面一括 Ⅲ層上面一括 Ⅲ層上位	40 6 8 3	57	深鉢	Ⅶ D 3 e	口縁～胴下半	(29.0)	-	(45.0)	0.8	平縁・山形突起(頂部2個・4単位)	地文→沈線2条(横位・平行)の間に突起下は連鎖状隆線(縦位・直線・4単位)・隆線間は沈線2条(斜位・右傾)→それぞれの沈線・隆線の接点にボタン状貼付→突起から貼付間は隆線1条(縦位)+隆線上刻み(横位)・黒斑有
686	124	119			14C12 14C18 14C17 14C17 14C18 14C19 14C17 不明	Ⅲ層上面一括 Ⅲ層上面一括 Ⅲ層上面 Ⅲ層上位 Ⅲ層上位 Ⅲ層上位 Ⅲ層	28 15 1 3 3 2 1 10	63	深鉢	Ⅸ C 1 e	口縁～底(器形右傾)	25.3	14.4	43.8	0.8	平縁	地文・輪積(外下、内上・輪積幅5.0～5.5cm)・黒斑有
687	123	120			14C13 不明	Ⅲ層上面一括 Ⅲ層上位	12 6 4	22	深鉢	Ⅶ C 3 d	口縁～胴	-	-	30.6	0.7	平縁・山形突起(4単位か・突起上刻み3個)	地文→突起下から文様展開(4単位)・沈線(逆Y字状+渦巻・文様区画)→突起間に連鎖状隆線(縦位・直線・沈線間)→文様の起点・終点に刺突(円形・垂直方向)→磨消
688	124	119			14C13	Ⅲ層上面		1	深鉢	Ⅴ- 1 b	口縁	-	-	(2.9)	0.6	平縁・突帯状	口端隆線(横位・突帯状)→隆線1条(横位・直線)→隆線2条(縦位・文様区画)
689	124	119			14C17	Ⅲ層上面		1	深鉢	Ⅴ- 2 a	口縁	-	-	(5.3)	0.8	大波状・複合口縁	複合口縁(突帯状)上に沈線(横位渦巻・深)→地文
690	124	119			14C23	Ⅲ層上面		3	深鉢	Ⅸ- - f	底	-	12.0	(3.5)	0.8	-	ナデ(横)
691	124	120			14C13 不明	Ⅲ層上位一括 Ⅲ層下位	26 3 4	33	深鉢	Ⅸ C 1 e	口縁～胴	15.9	-	(18.3)	0.8	平縁	地文・輪積(外下、内上・輪積幅2.0cm)・黒斑有
692	124	119			13C15	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	-	-	(7.5)	0.7	大波状・中空突起	口縁突帯状の隆線(横位)から中空突起(上斜方向から貫通孔1個→地文→隆線(文様表現)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(縦)	−	−	羽状(結束第1種LR・RL)	直立	縦	5.0	−	白1 透2	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1 金1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/3にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 金1	5YR4/2灰褐	5YR5/6明赤褐		
指頭圧痕→ナデ(横)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透3	10YR4/3にぶい黄褐	−		
ナデ調整	−	−	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	3.0	−	白1 透3 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR3/2黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.5	−	白1 透2	5YR6/8橙	5YR6/8橙		
ナデ(横・ケズリ状)	−	−	LR	右	横	1.7	−	白1 透2	10YR6/4にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR3/2黒褐	5YR4/4にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.2	−	白2 透5 金1	10YR 3/2 黒褐	10YR 7/4 にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススき少量	RL	右	縦	3.0	−	透2	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	RL	左	横	3.0	−	透3	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透1 金2	7.5YR6/6橙	7.5YR3/4暗褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	2.0	−	透1 金1	10YR 5/4 にぶい黄褐	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	10YR 5/1 褐灰	10YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	−	外面ススき少量	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	3.5	−	白2 透2 金1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透2 黒1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/6橙		
指頭圧痕→ナデ(縦)	−	外面ススき多量	単軸絡条体第1類(R)	直立 右	縦 斜	2.0	−	透2 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR7/6明黄褐		
ミガキ(横)	−	−	L側圧 無節(L)	左	縦	1.8	−	透1	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	1.5	−	透1 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.0	有(Z)	白2 透2 黒1	7.5YR4/2灰褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透2 金1 黒1	10YR4/2灰黄褐	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	5YR6/8橙	5YR7/8橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3	10YR4/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
指頭圧痕→ナデ(横)	−		単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	2.5	−	白1 透2 黒1	5YR5/6明赤褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	羽状(結束第2種)	左	縦	3.0	−	白1 透2 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR6/6明黄褐		
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2	10YR4/1褐灰	10YR6/6明黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススき少量	0段多条(3段RLR)	直立	斜	−	−	透1 黒2	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	2.5	−	白3 透1 黒1	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	白1 透2	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	内面上半ススき多量、外面上半ススき少量	RLR	左	横	4.5	−	白1 透2 金1 黒1	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/2 灰黄褐		容量21.95ℓ
ナデ(横)・黒斑有	木葉(II)	−	LR	左	縦	4.0	−	白2 透2 細礫多い	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 7/3 にぶい橙	100	容量17.53ℓ
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	4.0	−	透5 黒1	7.5YR 3/2 黒褐	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	内面ススき微量	LR	左	縦	1.9	−	透1	5YR 6/6 橙	7.5YR 4/3 褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	透1	5YR 7/6 橙	5YR 7/6 橙		
ナデ(横)	木葉(II)	−	−	−	−	−	−	透3 金1 黒1	7.5YR 5/2 灰褐	7.5YR 6/3 にぶい褐	100	
ナデ(横)	−	内面ススき多量(喫水線有)	無節(L)	左	縦	4.0	−	透1 金1	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/2 灰褐		容量2.69ℓ
隆線1条(横位・直線・突帯状)・ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	7.5YR 5/2 灰褐	7.5YR 5/2 灰褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	出土地点 番号	出土地点 位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
693	124	119			13C19	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ C 1 l	口縁	−	−	(5.3)	0.8	平縁・複合口縁	複合口縁上地文→沈線(横位・方形区画)→沈線1条(横位・直線)→沈線(波浪状・文様表現)
694	124	119			13C20	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 1 f	口縁～胴	−	−	(12.5)	0.9	平縁	地文→沈線3条(横位・平行)→沈線3条(倒卵形・文様表現)→起点に刺突2個(円形・垂直方向)
695	124	119			13C23	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 2 j	口縁	−	−	(6.4)	1.3	大波状・肥厚(突帯状)	波頂部口縁に沿う沈線→波頂部に沈線(縦位・S字状文)
696	124	119			14C5	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ D1 f	口縁～胴	−	−	(4.9)	0.7	平縁	地文→沈線(文様区画)→磨消→屈曲点に刺突(円形・垂直方向)
697	124	119			14C8 不明	Ⅲ層上位	2 1	3	深鉢	Ⅳ A 4 g	口縁～胴	−	−	(5.8)	0.6	平縁・山形突起	沈線2条(横位・平行)の間に交互刺突(縦位・上下斜方向から)→沈線1条(横位・弧状)+接点から垂下する沈線1条(縦位・直線)
698	125	120			14C10	Ⅲ層上位		13	深鉢	Ⅴ B1・4 b②	口縁～胴	−	−	(29.7)	0.7	平縁→隆線＋突起(渦巻状)・内面肥厚	口端隆線2条(横位・平行)+突起(渦巻状)→地文→隆線2～3条(縦位・平行)+隆線(縦位)から右に隆線(棘状・渦巻状)モチーフを作出・黒斑有
699	125	120			14C10	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅴ- 2 b	口縁	−	−	(5.9)	0.9	大波状・内面肥厚	波頂部外面から内面にかけて隆線(渦巻状)貼付→隆線1条(横位・文様区画)→地文
700	125	121			14C13 14C8 14C9 不明	Ⅲ層上位 Ⅲ層中～下位 Ⅲ層	17 11 1 5	34	深鉢	Ⅶ B 3 a	口縁～胴	(37.7)	−	(24.8)	0.7	大波状・山形突起(6単位)	突起頂部刺突(1ヵ所・右斜方向から)→地文→口縁に沿う沈線1条(横位・直線)と連鎖状隆線1条(横位・直線)の間の突起下に連鎖状隆線2条(縦位・平行)のみか、連鎖状隆線2条(半円状)を加えたものを施文(残存3ヵ所の内1ヵ所のみ)・黒斑有
701	125	120			14C16	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 3 c	口縁	−	−	(6.5)	0.9	山形突起	地文→隆線+連鎖状隆線(文様区画)→ボタン状貼付→突起下に沈線(の字状)
702	126	121			14C17 不明	Ⅲ層上位一括 Ⅲ層上面	22 2 6	30	深鉢	Ⅶ E 3 g	口縁～胴	(23.0)	−	(24.0)	0.8	大波状・中空突起及び山形突起(各4単位)	地文→沈線(半円状・渦巻状・Y字状のモチーフで中空突起下を中心に展開)→磨消→ボタン状貼付(文様の起点・終点)→中空突起(上面は渦巻状・盲孔2個+貫通孔1個)で山形突起と交互に4単位ずつ配置→中空突起から延びる隆線1条が横位に繋がり突帯状となる
703	126	122			14C18～19 不明	Ⅲ層上位一括	71 4	75	深鉢	Ⅶ E 3 g	口縁～胴下半	(27.0)	−	(45.5)	1.0	大波状・中空突起及び山形突起(各4単位)	地文→沈線(渦巻状・Y字状のモチーフで中空突起下を中心に展開)→磨消→文様接点や山形突起下にボタン状貼付→中空突起(の字状・渦巻状+貫通孔1個)→山形突起(隆線2条縦位平行貼付)→中空突起から伸びる隆線1条が横位に繋がり突帯状となる・黒斑有
704	127	123			14C19 不明	Ⅲ層上位一括	41 10	51	深鉢	Ⅶ E 3 g	口縁～胴下半	(26.0)	−	(31.2)	0.8	大波状・中空突起及び山形突起(各4単位)	地文→沈線(半円状・渦巻状・Y字状・J字状のモチーフで中空突起下を中心に展開)→磨消(一部のみ磨消される)→屈曲点や山形突起下にボタン状貼付→中空突起(x字状・渦巻状・盲孔3個・刺突+貫通孔1個)→山形突起(垂下する隆線1条縦位貼付)→中空突起から伸びる隆線1条が横位に繋がり突帯状となる
705	126	23	Ⅶ		14C17 14C22 不明	Ⅲ層上位一括 Ⅲ層上位 Ⅲ層上面	32 7 6 18	63	深鉢	Ⅶ E3m	口縁～胴下半	19.5	−	(25.5)	0.6	平縁・山形突起(5単位)	地文(口縁2.0cm下に地文より前に隆線1条を施文)・輪積(外下、内上・輪積幅2.0～2.5cm)
706	127	124	Ⅶ		14C17 14C18 14C17 14C18 14C23 14C17 不明	Ⅲ層上位一括 Ⅲ層上面一括 Ⅲ層上面 Ⅲ層上位 Ⅲ層上位 Ⅱ層下位	28 5 3 5 1 1 12	55	深鉢	Ⅶ E1m	口縁～胴下半	(25.3)	−	(41.7)	0.7	平縁	口縁:沈線1条(横位・直線・口縁は無文帯)→地文・黒斑有
707	126	120			14C16	Ⅲ層上位		3	深鉢	Ⅶ- 1 f	口縁	−	−	(9.7)	0.8	平縁	地文→頸:沈線3条(横位・平行・上は無文帯)→沈線(倒卵形か・文様表現)
708	126	120			14C17	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 1 a	口縁	−	−	(7.8)	0.8	平縁	地文→連鎖状隆線1条(横位・直線・上は無文帯)
709	126	120			14C18	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅳ- 3 i	口縁	−	−	(9.9)	0.8	小波状	原体側圧3条(横位・平行)+波頂部下は原体側圧(V字状)が付く→地文
710	127	121			14C19 不明	Ⅲ層上位一括	5 2	7	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	−	11.0	(6.9)	0.7	−	地文→底付近ナデ(横)
711	127	120			14C19	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅴ- 4 b	口縁	−	−	(5.5)	1.0	大波状・突起(上面に横位S字状隆線貼付)・内面突帯状	隆線(横位・文様状+直線)
712	127	120			14C19	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 1 f	口縁	−	−	(4.3)	0.5	平縁	地文→隆線1条(横位・直線・上はナデ横)→沈線2～3条(弧状・文様表現)→ボタン状貼付(隆線と沈線の接点に配置)
713	127	120			14C19	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅴ- 1 a	口縁	−	−	(4.0)	0.7	平縁・肥厚	地文→隆線1条(横位・直線)+沈線3条(横位・平行)
714	127	120			14C21	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅴ- 4 e	口縁	−	−	(5.0)	0.6	平縁・山形突起	胴部粘土貼付→連続刺突2段以上(指頭による摘み)
715	127	122			14C21	Ⅲ層上位		3	深鉢	Ⅸ- - e	胴下半～底	−	9.3	(7.8)	0.8	−	地文→底付近ナデ(横)
716	128	122			15C6	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅳ A 3 f ②	口縁	−	−	(4.5)	0.8	小波状・円形突起	沈線(横位・方形区画)→方形区画内短沈線(斜位・左傾)充填→円形突起(内外面に縦位隆線1条が垂下)→外面に垂下する隆線はそのまま文様区画
717	128	122			15C6 15C6	Ⅲ層上位 Ⅲ層上面	3 1	4	深鉢	Ⅴ B2・4 b ②	口縁～胴	−	−	(17.8)	1.1	大波状(4単位か)＋山形・台形突起・内面突帯状	地文→渦巻・懸垂文を描く隆線+垂下する隆線(縦位・波状)→台形突起には隆線(渦巻)→山形突起には隆線(鉤状)
718	128	120			15C6 14C10	Ⅲ層上位 Ⅲ層中位	2 1	3	深鉢	Ⅴ-1・4 b	口縁	−	−	(7.1)	0.7	平縁・突起(渦巻状)	地文→隆線2条(横位・平行)の間に原体側圧(縦位・平行)→平行隆線から突起化(渦巻状)→突起下に沈線(C字状・文様表現)→隆沈線(縦位・楕円形区画)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	糸の撚き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	_	–	–	–	–	–	–	白2 透1 金1	10YR 6/4 にぶい黄橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	_	–	LR	右	横	–	–	白1 透2 黒1	7.5YR 4/3 褐	2.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	_	–	–	–	–	–	–	白2 透1 金1	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	_	外面ススト少量	LR	左	縦	–	–	透1 金1 黒1	5YR7/8橙	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	_	–	LR	右	横	2.0	有(Z)	白1 黒1	10YR 4/1 褐灰	10YR 5/2 灰黄褐		
ナデ(横)	_	–	0段多条(2段LR)	左	縦	3.2	–	白2 透2 黒1	7.5YR4/3褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	_	–	LR	右	横	2.0	–	透2 金1 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	_	–	単軸絡条体第1類(R)	右	斜横	3.5	–	透2 金1 細礫多	7.5YR 8/4 浅黄橙	7.5YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(横)	_	外面ススト少量	LR	横	斜	–	–	白2 透1 金1	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	_	–	LR	左	縦	3.5	–	透3	7.5YR 4/1 褐灰	7.5YR 4/1 褐灰		容量5.77ℓ
ナデ(口縁→横・胴→縦)	–	–	LR	左	縦	3.5	–	白2 透3	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 6/3 にぶい褐		容量17.36ℓ、重量4,700g
ナデ(横)	–	–	無節(L)	左	縦	3.3	–	白5 透2 金2	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐		容量10.74ℓ
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	3.0	–	透2 金1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 5/2 灰褐		容量4.06ℓ、重量1,200g
ナデ(口縁→横・胴→縦)	–	外面ススト少量	無節(L)	左	縦	4.0	–	透5 金1 黒1	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		容量19.15ℓ
ナデ(横)	–	外面ススト微量	LR	直立	斜	–	–	白1 透2 黒1	5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	–	–	0段多条(2段RL)	右	縦	–	–	白1 金1	10YR 3/1 黒褐	10YR 3/1 黒褐		
ナデ(横)	–	–	LR圧痕 LR	左	縦	1.5	–	白1 透2 金2	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 4/4 褐		
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	–	LR	左	縦	2.5	–	白2 透3	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 6/4 にぶい黄橙	100	
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	細礫2	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/1 褐灰		
ナデ(横)	–	内面ススト多量	–	–	–	–	–	透1 黒1	7.5YR 5/3 にぶい褐	5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	–	–	LR	左	縦	–	–	透2	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 4/3 褐		
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透3	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/4 にぶい褐		
ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	–	RL	直立	斜	–	–	白2 透5 金1 黒1	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 4/1 褐灰	100	
ナデ(横)	–	–	–	–	–	–	–	透1 金1 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	–	–	0段多条(2段LR)	左	縦	2.5	–	白1 金1	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	–	内外面ススト多量	LR圧痕 LR	左	縦	2.5	–	白2 透1 金5 黒1	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	出土地点 番号	出土地点 位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
719	128	121			15C12	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅳ E 1 f ④	口縁	−	−	(4.9)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁上刻み(縦位)+複合口縁貼付前にも口縁刻みか(縦位・複合口縁下に潜り込んでいる)→沈線1条(横位・直線)→沈線(文様区画)と沈線(葉脈状モチーフ)の組み合わせ→連続刺突(縦位・左下斜方向から)・いずれも棒状工具の先端を使った細沈線で描かれている
720	128	121			15C14	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅳ- 1 e	口縁	−	−	(4.7)	0.7	平縁・内外面複合口縁	隆線2条(縦位・平行)+隆線上地文→地文
721	128	121			15C18	Ⅲ層上位		5	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	−	−	(6.1)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁上沈線(円文・4単位)+沈線(押引・方形区画)→沈線1条(横位・直線)と沈線1条(横位・直線・押引)を交互に2段配置 沈線(押引)はいずれも左から右方向へ引く
722	128	121			16C12 16C12	Ⅲ層上位 Ⅲ層中位	3 1	4	深鉢	Ⅳ D 2 e	口縁	−	−	(9.3)	0.9	大波状(4単位か)	波頂部隆線2条(横位・弧状)+沈線3条(横位・弧状)→波頂部形に沿う沈線3条(横位・平行)+連続刺突(横位・下斜方向から)+沈線2条(縦位・平行)+連続刺突～短沈線(縦位・下斜方向から)+沈線2条(横位・直線+押引)→粘土貼付→橋状突起(突起上横位沈線)
723	128	122			16C12	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅳ- 2 f ③	口縁	−	−	(6.5)	0.7	大波状	甕隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→沈線2条(横位・平行)の間に刻み(縦位)を充填を1組とし、これを2組配置→間に沈線1条(横位・山形)
724	128	121			16C12	Ⅲ層上位		5	深鉢	Ⅳ A 1 l	口縁付近～胴	−	−	(10.2)	0.9	平縁・複合口縁	地文→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位・左傾+右傾を交互または多方向)→沈線1条(横位・直線)と連続刺突(横位・円形・竹管)を2段以上配置・黒斑有
725	128	122			16C12	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅳ- 2 e	口縁	−	−	(5.3)	1.0	大波状(4単位か)	波頂部から垂下する隆線1条(縦位・直線)+隆線上刻み(横位)→波頂部形に沿う沈線2条(横位・平行)と沈線1～2条(横位・平行)の間に短沈線(縦位・直線)を充填
726	128	122			20B25	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅵ B 1 d	口縁	−	−	(5.8)	0.8	平縁	地文→沈線(縦位・楕円形区画)→磨消
727	129	124			21B10 21B5 21B10	Ⅲ層上位 一括 Ⅲ層上位 Ⅲ層中位	38 1 1	40	深鉢	Ⅲ B - a	胴～底	−	(14.8)	(33.8)	1.0	−	地文→細隆線3条(横位・山形)+細隆線(幾何学文)
728	128	122			21B10	Ⅲ層上位 一括		6	深鉢	Ⅳ K 2 c	口縁～胴	−	−	(11.4)	0.8	大波状	口縁に沿う沈線1条(横位・弧状)→地文→沈線(縦位・山形区画)+沈線1条(縦位)充填
729	128	122			21B10	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅸ- 1 e	口縁	−	−	(5.0)	1.0	平縁・口端上面連続刺突(爪状)	地文
730	128	123			22B11 22B6	Ⅲ層上位 Ⅱ層 Ⅱ層最下位	23 1 1	25	深鉢	Ⅳ J 1 c	口縁～底	(23.8)	(8.6)	22.0	1.0	平縁	地文→沈線3条(横位・山形)
731	128	122			21B9	Ⅱ層上位		1	深鉢	Ⅸ- 1 d	口縁	−	−	(4.0)	0.7	平縁	地文(口縁2.0cm施文なし)
732	129	125			14C1 14C7 14C6 不明	Ⅱ層上～中位 Ⅰ層 Ⅲ層上位 Ⅲ層	12 1 2 1 7	23	深鉢	Ⅵ- 3 l	口縁～胴	(43.0)	−	(15.5)	1.0	平縁・突起(4単位)・内面複合、外面肥厚	地文→隆沈線(縦位・方形区画)→口端指頭による外面方向への摘み+原体圧痕2条(横位・直線+突起上も)と隆線1条(横位・直線)+隆線上指頭による連続摘み(横位)の間はナデ(横)→橋状突起(4単位)
733	128	125			14C13 14C19	Ⅲ層上位 Ⅲ層中～下位	1 1	2	深鉢	Ⅸ - - f	底	−	(14.5)	(3.5)	0.8	−	ナデ(横)
734	129	122			14C17	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- 3 m	口縁	−	−	(9.0)	0.8	平縁・山形突起	地文
735	129	122			14C22	Ⅲ層上位		1	深鉢	Ⅶ- - h	胴	−	−	(5.9)	0.9	−	地文→沈線(波涛状・文様区画)→磨消
736	129	123			14C23 不明	Ⅲ層上位	6 7	13	深鉢	Ⅶ- 2 h	口縁～胴	−	−	(14.5)	1.0	大波状	地文→沈線(J字状・Y字状か・文様区画)→磨消→ボタン状貼付(文様の起点・終点)
737	129	123			14C24	Ⅲ層上位		2	深鉢	Ⅴ C 1 b ①	口縁～胴	−	−	(12.4)	1.2	平縁・内面複合口縁・キャリパー形	地文(文様帯→右傾、胴→左傾)→隆線各2条(横位・平行・2条の間はナデ)の間に隆線2条(横位・弧状・2条の間はナデ)による弧状モチーフ→隆線1条(横位・直線)
738	129	123			14D1 不明	Ⅲ層上位	4 1	5	深鉢	Ⅶ A 3 m	口縁～胴	−	−	(14.1)	0.9	平縁・山形突起(刻み2個)	地文(口縁1.5cm施文なし)
739	130	124			14C13	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅴ C 1 b ①	口縁	−	−	(5.5)	0.8	平縁・キャリパー形	地文→隆線各2条(横位・平行)の間に隆線(縦位・弧状)
740	130	124			14C13	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 k	口縁	−	−	(6.7)	0.8	平縁・複合口縁	地文→沈線3条(横位・平行)→沈線2条か(縦位・平行)
741	130	124			14C16	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ- 1 l	口縁	−	−	(6.0)	0.7	平縁・肥厚	地文→隆線(横位・方形区画)→口端隆線(横位・小波状)
742	130	124			14C18	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅳ- 2 f ②	口縁	−	−	(6.2)	0.8	大波状(波頂部2個)・内面複合口縁	地文→隆線(横位・楕円形区画)→区画内短沈線(斜位・左傾)を充填→沈線2条(横位・平行)
743	130	124			14C19	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ A 1 f ①	口縁	−	−	(5.9)	0.7	平縁・複合口縁	沈線各2条(横位・平行)の間に沈線2条(横位・波状)+刻み2個を充填→沈線2条(横位・平行)の下に沈線1条(横位・弧状)を上は一部、下は直線で配置
744	130	124			14C23	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ J 1 n ②	口縁	−	−	(8.8)	0.9	平縁	地文(口縁2.5、施文 なし)・黒斑有
745	130	124			14C24	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ F 1 n ⓘ	口縁	−	−	(9.9)	1.1	平縁・複合口縁	地文(複合口縁上は施文なし)
746	130	124			14C24	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 b	口縁～胴	−	−	(19.6)	0.9	平縁・複合口縁剥落	地文→沈線2～3条(横位・平行・半裁竹管)→沈線1条(縦位・山形・半裁竹管)
747	130	125			14D10	Ⅲ層		7	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	口縁～胴	(19.4)	−	(17.0)	0.7	平縁・内面肥厚	地文→沈線各1条(横位・平行)の間に交互刺突(縦位・上下斜方向から)
748	130	125			14D10	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ A 1 f ②	口縁	−	−	(6.9)	0.6	平縁	沈線1条(横位・直線・半裁竹管)を引いた後、内部を交互刺突(縦位・上下斜方向から)→沈線各1条(横位・直線・半裁竹管)の間に短沈線(斜位・左傾・半裁竹管)を充填→ナデ(縦)
749	130	125			14D10	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ- 4 n ①	口縁	−	−	(5.1)	0.8	平縁・突起2個・複合口縁	地文→粘土貼付
750	130	125			14D	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅲ - - a	胴	−	−	(4.4)	0.9	−	地文→細隆線2条(文様状・平行・山形)
751	130	125			15C6	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅴ C 4 b ①	口縁	−	−	(5.9)	0.7	平縁・山形突起	地文→隆線各1条(横位・平行)の間に隆線(横位・弧状)を配置

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	10YR3/2黒褐	10YR3/4暗褐		
ナデ(横)	−	外面ススコゲ少量	隆帯 LR LR	左 右	縦 横	2.2	有(末端に環のついた縄(2つ捻り)	白1 透2 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3 金1	7.5YR4/3褐	7.5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透5 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透2 金1 黒1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	4.5	有(Z)	白1 透5 黒2	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR7/6橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3	7.5YR4/2灰褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	RLR	直立	斜	−	−	白1 透3	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR3/2黒褐		
ナデ(縦)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	2.5	−	白1 透5	7.5YR7/4にぶい橙	10YR4/3にぶい黄褐	25	
指頭圧痕→ナデ(横)	−	−	RL	右 左	縦 横	3.5	−	透2 黒1	10YR5/4にぶい黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(RL)	直立	縦	−	−	白1 透5 黒1	5YR5/6明赤褐	5YR5/8明赤褐		
ナデ(縦)	ナデ(Ⅳ)	−	単軸絡条体第1類(L)	左	斜	3.4	−	白1 透5 黒1	7.5YR7/6橙	7.5YR5/3にぶい褐	95	容量3.6ℓ
ナデ(横)	−	外面ススコゲ微量	LR	左	縦	2.0	−	白2 透1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/2灰褐		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕 LR	右	横	3.5	−	白1 透2 金2	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ナデ(横)	網代(Ⅰj1)	−	−	−	−	−	−	白2 透2	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 7/4 にぶい褐	70	
ナデ(横)	−	外面ススコゲ少量	RL	左	横	3.0	−	白1 透3 金1	5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	3.5	−	白1 透1 金1	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透1 細礫多	2.5YR 5/6 明赤褐	5YR 2/1 黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	3.5	−	白2 透1 金5	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(縦)	−	外面ススコゲ少量	単軸絡条体第5類(R)	直立	縦	4.5	−	透2 金1	2.5YR 6/6 橙	5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	外面ススコゲ少量	LR	右	横	2.0	−	白1 透1	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 3/2 黒褐		
ナデ(横)	−	外面ススコゲ微量	LR	右	横	1.8	−	白1 透2	10YR 3/3 暗褐	5YR 6/8 橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右 左	横 縦	2.8	−	白2 透1 金3	10YR 7/4 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	−	−	透2 金1 黒1 割れ口に多	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 3/4 暗褐		
ナデ(横)	−	−	LR	−	−	−	−	透1 金1 黒1	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい褐		
ナデ(LI縁→横・胴→縦)	−	−	羽状(結束第1種無節・LR)	直立	縦	5.5	−	透2 黒1	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	横 右	斜 横	2.6	−	透3	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 8/4 浅黄橙		
ナデ(縦)	−	−	羽状(結束第1種LR・LR)	直立	縦	4.2	−	透2 黒2	10YR 8/2 灰白	10YR 7/2 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.5	有(Z)縄に引けられた結節2個	白1 透1 金2	10YR 4/1 褐灰	10YR 4/1 褐灰		
ナデ(横)	−	内面コゲ少量	−	−	−	−	−	白1 透2 金1	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 3/3 暗褐		
ナデ(横)	−	外面ススコゲ微量	LR	右	横	2.0	−	透1 黒1	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/2 灰褐		
ナデ(縦)	−	−	LR	右	横	−	−	白1 透2 黒1	5YR 4/2 灰褐	7.5YR 6/3 にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	2.2	−	白1 透3 金3 黒1	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点 種別	出土地点 番号	出土地点 位置(グリッド)	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	分類	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
752	130	125			15C11 15C8	Ⅲ層中位 Ⅲ層上位	1 1	2	深鉢	Ⅳ-1g	口縁	−	−	(3.3)	0.7	平縁・複合口縁	沈線2条(横位・平行・上線は複合口縁状)→沈線下刻み(縦位・棒状工具)
753	130	125			15C18	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ-1a	口縁	−	−	(6.5)	0.9	平縁・複合口縁	複合口縁上連続刺突(縦位・爪状)→地文
754	130	125			15D7	Ⅲ層中位		1	深鉢	ⅣC1c	口縁	−	−	(4.9)	0.8	平縁	地文→隆沈線1〜2条(横位・平行)を3段以上配置
755	130	125			19B19	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ-1h	口縁	−	−	(4.9)	0.7	平縁・口端内面突帯状	円形貼付(ドーナツ状)→沈線3条以上(横位・平行)→連続刺突(縦位)
756	130	125			19B19	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ-2k	口縁	−	−	(6.5)	1.1	大波状・複合口縁	円形押圧→波頂部に沿う沈線(横位・弧状・太)
757	130	125			19B24	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ-1f ②	口縁	−	−	(6.8)	0.7	平縁・やや肥厚	地文→隆線1条(横位・直線)と口端ややや肥厚の間に短沈線(縦位・やや弧状・細)を施文後、沈線1条(横位・弧状・太)を引く
758	130	125			19B24	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ--k	胴	−	−	(7.6)	0.7	−	地文→垂下する沈線1条(縦位)
759	130	125			19B24	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅴ--a・c	胴	−	−	(4.9)	0.7	−	地文→沈線+隆沈線(文様区画)
760	130	125			19B24	Ⅲ層中位		1	浅鉢	Ⅶ--	口縁	−	−	(6.8)	0.7	小波状	沈線3条(横位・平行)の上から1・2線の間に連続刺突(円形・垂直方向)→粘土貼付→口端:陽刻波状
761	130	125			19C4	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅳ-1i	口縁	−	−	(3.5)	0.7	平縁・肥厚	原体側圧3条(横位・平行)→粘土貼付(刻み1個)
762	130	125			21B15	Ⅲ層中位		1	深鉢	ⅣJ1a	口縁	−	−	(8.3)	0.9	平縁・複合口縁	地文→複合口縁上連続刺突(横位・指頭圧痕)
763	130	125			21B15	Ⅲ層中位		2	深鉢	Ⅸ-1d	口縁	−	−	(8.3)	0.9	平縁・口端上面沈線1条(横位・直線)	地文(口縁3.0cm施文なし)・黒斑有
764	130	125			21B14	Ⅲ層中位		1	深鉢	Ⅸ-1e	口縁	−	−	(6.3)	0.9	平縁	地文
765	130	125			16C17	Ⅲ層中位		1	深鉢	ⅣF1a	口縁	−	−	(5.3)	0.7	平縁・複合口縁	沈線1条(横位・直線)→複合口縁上短沈線(縦位・弧状)→地文
766	130	125			14C11	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅴ--b ②	胴	−	−	(7.4)	0.7	−	地文→隆線(M字状・文様表現)・黒斑有
767	130	125			14C15	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅸ-1e	口縁	−	−	(5.8)	0.7	平縁・口端上面刻み(棒状工具)	地文
768	131	126			14C23 不明	Ⅲ層下位一括 Ⅲ層上〜中位	45 3 22	70	深鉢	ⅣC11	完形	25.4	10.0	33.8	0.7	平縁・内面肥厚・外面突帯状	地文→隆線2+1条(横位・平行)の間に隆線(ハ字状・文様区画)→上隆線2条の一部が突起となりその下に隆線(変形Y字状・文様表現・4単位)
769	131	126			14C23 不明	Ⅲ層下位一括 Ⅲ層	9 3 4	15	深鉢	ⅣF21	口縁〜胴	(20.0)	−	(16.6)	1.2	大波状(4単位)・複合口縁	地文→複合口縁上と隆線1条(横位・直線)の上に連続刺突(縦位・やや右斜方向から・半裁竹管先端)→波頂部と波頂間に円形貼付(一部貼付上に半裁竹管先端刺突)→沈線2条(横位・平行・半裁竹管)
770	131	126			14C23 不明	Ⅲ層下位一括 Ⅲ層	6 5 2	13	深鉢	ⅣF1a	口縁〜胴	(20.6)	−	(12.0)	0.8	平縁・複合口縁	地文→複合口縁上沈線(横位・連弧状・太)+弧状沈線間に円文→地文・黒斑有
771	131	126			14C23 不明	Ⅲ層下位	3 1	4	深鉢	ⅣG1n ①	口縁〜胴	−	−	(15.9)	1.1	平縁	地文(口縁のみ右傾、その他は横傾)
772	131	127			14C23 不明	Ⅲ層 Ⅲ層下位	2 2 1	5	深鉢・球胴形(算盤玉形)	ⅣI1j	口縁〜胴	(26.0)	−	(20.0)	1.5	平縁・肥厚	連続刺突各1条(縦位・垂直方向・半裁竹管先端)の間に沈線2条(横位・連弧状)を描き、スペースに連続刺突(縦位・垂直方向・半裁竹管先端)や沈線3〜4条単位(横位・直線+山形・右斜方向から浅く・半裁竹管腹側押引)→口縁:沈線(横位・波状・右斜方向から浅く・半裁竹管腹側押引)→円文(ドーナツ状)→地文
773	131	126			14C23	Ⅲ層下位		3	深鉢	ⅣG2b	口縁〜胴	−	−	(16.0)	1.0	大波状・複合口縁	地文→複合口縁状沈線1条(横位・山形)→沈線1条(横位・直線・半裁竹管)と複合口縁の間に沈線3〜4条(横位・山形・半裁竹管)・黒斑有
774	132	126			14C24 不明	Ⅲ層下位一括 Ⅲ層	26 1 5	32	深鉢	ⅣA-n ①	胴下半〜底	−	(11.6)	(25.4)	0.8	−	地文→底付近ナデ(横)
775	131	125			14D10	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅳ-2f ③	胴上半	−	−	(4.8)	0.9	大波状・複合口縁	沈線3+1条以上(横位・平行・半裁竹管)の間に沈線2条(横位・山形・半裁竹管)
776	131	125			14D14	Ⅲ層下位		3	深鉢	Ⅳ-1f ③	口縁	−	−	(7.7)	0.9	平縁・肥厚	肥厚口縁下に連続刺突(縦位・爪状)→沈線(縦位・平行・細)→縦位沈線上に沈線1条(横位・山形)+沈線2条(横位・直線)
777	131	125			15C7	Ⅲ層下位		1	深鉢	ⅣA1f ②	口縁	−	−	(6.5)	0.6	平縁・複合口縁	地文→複合口縁と隆沈線1条(横位・直線)の間に短沈線(斜位・右傾+左傾)充填→沈線1条(横位・弧状)
778	131	126			15C12	Ⅲ層下位		1	深鉢	ⅣC1f ③	口縁〜胴	−	−	(12.6)	0.8	平縁・複合口縁	隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位・爪状)→沈線1条(横位・直線)と隆線の間に沈線2条(横位・山形)→地文(縦回転し隣との間に無文帯を作る)
779	131	125			15C12	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅳ-1i	口縁	−	−	(6.3)	0.7	平縁・複合口縁	隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→沈線3条(横位・平行)
780	132	128			15C12 不明	Ⅲ層下位一括	4 1	5	深鉢	ⅣI2e	口縁〜胴	−	−	(19.6)	1.4	大波状・複合口縁	隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)→波頂部下隆線2条(縦位・平行)→横位隆線と複合口縁の間に沈線(縦位・平行・細)後に沈線(方形区画)→沈線2〜4条(横位・波状)を充填→地文(縦回転し隣との間に無文帯を作る)・黒斑有
781	132	126			15C13	Ⅲ層下位		1	深鉢	ⅣF1a	口縁	−	−	(5.3)	0.8	平縁・肥厚	短沈線(縦位・弧状)→地文
782	132	126			15C14	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅳ-1h	口縁	−	−	(6.5)	0.7	平縁・折り返し口縁	隆線1条(横位・直線)と折り返し口縁の間に沈線1条(横位・弧状)+連続刺突(斜位・右下斜方向から・竹管)→沈線3条(横位・平行)
783	132	127			15C15	Ⅲ層下位一括 Ⅲ層下位	71 3	74	深鉢	ⅣJ1i	口縁〜底	(17.8)	12.0	26.5	1.1	平縁	地文→隆線1+2条(横位・平行)の間に隆線(縦位・山形)+隆線上沈線(縦位・山形)・底付近外側に張り出す

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3 金3 黒1	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/8橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.8	−	透1 黒2	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	1.5	−	白5 透1 黒1	5YR7/8橙	5YR7/8橙		
隆線1条(横位・直線・突帯状)・ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/2灰褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3 黒1	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	縄(LR)につけられた結節	直立	縦	−	有(S)	白2 透3 黒1	10YR8/6黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.8	有 末端に環のついた縄(2つ捻り)	白2 透2 金1 黒1	5YR4/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	2.0	有 末端に環のついた縄(2つ捻り)	白2 透2 金3 黒1	5YR3/3暗赤褐	7.5YR4/2灰褐		
ミガキ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透2	7.5YR3/1黒褐	7.5YR4/1褐灰		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕	−	−	−	−	白1透2 黒1	10YR4/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススき少量	LR	左	縦	−	−	白1 透2 金1 黒1	5YR6/6橙	5YR5/3にぶい赤褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(r)	左	斜	3.5	−	白1 透2 金1	5YR6/8橙	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	3.0	−	白1 透3 金2	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/6橙		
ナデ(横)・黒斑有	−	−	無節(L)	右	横	2.0	−	白3 透1 金1 黒1	7.5YR4/3褐	7.5YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	RLR	右	縦	3.0	−	白1 透2	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 4/2 灰黄褐		
指頭圧痕→ナデ(横)	−	外面ススき微量	RL	直立	斜	2.5	−	透2 黒3	5YR4/2灰褐	5YR8/6橙		
ナデ(横)	ナデ(Ⅳ)	−	LR	左	縦	2.5	−	透3 金2	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 4/2 灰褐	100	容量7.28ℓ、重量2,000g
ナデ(横)・黒斑有	−	内面コゲ微量	単軸絡条体第1類(R)	横	横	3.5	−	白2 透2	10YR 6/4 にぶい黄褐	10YR 6/4 にぶい黄橙		
ナデ(斜)・黒斑有	−	−	無節(L)	横	斜	3.2	−	白2 透1	10YR 7/2 にぶい黄橙	10YR 7/2 にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右横	横斜	3.8	−	白1 透1	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	内面ススき微量	RL	左	横	3.0	−	白1 透5 黒1	7.5YR 6/2 灰褐	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(口縁→横・胴→縦)・黒斑有	−	−	0段多条(2段LR)	左	縦	3.5	−	白1 透2	10YR 7/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		
ナデ(縦)・黒斑有	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	−	羽状(結束第1種LR・RL)	直立	縦	4.0	−	透3	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	95	容量5.66ℓ
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透3	5YR 7/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3 黒1	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/6 橙		
ナデ(横)	−	外面ススき多量	LR	右	横	−	−	白1 透2 金3	10YR3/2黒褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススき少量	LR	左	縦	3.8	有(Z)	白1 透2 金2 黒1	10YR3/2黒褐	10YR4/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	RL	右	縦	3.2	有(Z)	白2 透1	10YR3/1黒褐	10YR5/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	3.5	有(Z)	白1 透7 黒1 細礫多	7.5YR5/3にぶい褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R)	直立	縦	2.2	−	白1 透3 黒1	10YR5/4にぶい黄褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	外面ススき少量	−	−	−	−	−	白1 透3	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/1褐灰		
指頭圧痕→ナデ(横)	木葉(Ⅱ)	−	LR	横左	斜縦	3.5	−	白2 透3 黒1	5YR7/3にぶい橙	5YR6/3にぶい橙	100	容量4.53ℓ

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	接合破片数		器種	分類	残存位置	法量(cm)				口端部	外面調整・施文など
			種別	番号	位置(グリッド)		内訳数	総数				口径	底径	器高	厚さ		
784	132	126			15C8 15C11 15C16	Ⅲ層上位 Ⅲ層下位 Ⅲ層下位	1 1 1	3	深鉢	ⅣE 2 e	口縁	−	−	(9.9)	1.0	大波状・複合口縁	隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(縦位)+連続刺突(円形・垂直方向)→波頂部下隆線1条(縦位・直線)+隆線上刻み(横位)→波頂部に縦位隆線と交わる短隆線(横位)+隆線上刻み(縦位)→横位隆線と複合口縁の間に沈線(縦位・平行・半裁竹管)後に沈線2条(横位・波状)+沈線2条(横位・平行)を充填
785	132	126			15C17	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅳ- 1 n ①	口縁	−	−	(5.4)	0.7	平縁・折り返し口縁	隆線1条(横位・弧状)→地文(複合口縁上→右傾・胴→横傾)
786	132	127			15C17 15C12	Ⅲ層下位 Ⅲ層下位	1 1	2	深鉢・球胴形(算盤玉形)	Ⅳ- 1 j	口縁	−	−	(9.9)	1.4	平縁・肥厚	頸:連続刺突(縦位・垂直方向・半裁竹管)→沈線(多方向に文様表現・押引・半裁竹管を斜方向から浅く使用→横位の場合は右斜方向、縦位の場合は下斜方向から施文)
787	132	127			16C12	Ⅲ層下位		3	深鉢	ⅣJ - k	胴	−	−	(10.8)	0.9	−	頸:沈線2条(横位・平行)→地文
788	132	127			14C3 不明	Ⅲ層	6 6	12	深鉢	ⅣH 2 i	口縁	−	−	(9.3)	1.0	大波状・内外面複合口縁・キャリパー形	原体側圧6条(横位・平行)+波頂間は方形貼付上に原体側圧による円形圧痕・キャリパー形口縁上が文様帯→隆線1条(横位・直線)→地文
789	132	126			19B19	Ⅲ層		1	深鉢	ⅣE 1 e	口縁	−	−	(6.2)	0.6	平縁・複合口縁	隆線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(やや角形・やや右斜方向)→複合口縁と横位隆線の間に隆線2条(縦位・平行)+隆線上連続刺突(縦位・円形・下斜方向)→沈線1条(横位・直線)と連続刺突(横位・円形・やや右斜方向)を3段配置
790	133	126			19B19	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 i	口縁	−	−	(5.2)	1.2	平縁・肥厚	沈線2条(横位・平行)→沈線1条(横位・山形)→沈線1条(横位・直線・押引・左から右へ)
791	133	127			19B23	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅲ- 1 d	口縁	−	−	(3.3)	1.2	平縁・肥厚・口端上面小波状	ナデ(横)
792	133	127			19C3	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅳ- 2 j	口縁	−	−	(7.2)	1.0	大波状・口端上面刺突(円形)+沈線(押引・右斜方向から)	波頂部:円文1個→口縁に沿う沈線2条(横位・押引・左から右へ半裁竹管を浅く引く)
793	133	126			19C4	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 m	口縁	−	−	(4.4)	0.6	平縁・内面肥厚	地文→粘土貼付(中央に刻み1個)
794	133	127			20B14	Ⅲ層		1	深鉢	Ⅳ- 1 f ②	口縁	−	−	(8.5)	0.7	平縁・複合口縁	地文→隆沈線(縦位・楕円形区画)
795	133	128			20B17	Ⅲ層		48	深鉢	Ⅲ A 1 c	口縁〜胴下半	(16.9)	−	(32.1)	0.8	平縁・突起(逆ハート形・1単位か)	地文
796	133	127			20B22	Ⅲ層直上		1	深鉢	Ⅳ- 2 i	口縁	−	−	(5.9)	1.0	大波状・複合口縁	複合口縁上刻み(斜位・左傾)→波頂部粘土貼付→隆線1条(横位・直線)+隆線上刻み(斜位・左傾)→波頂に沿う沈線2条(横位・山形・押引・左から右へ)+隆線に沿う沈線1条(横位・直線・押引・左から右へ)
797	133	128			20B15	Ⅲ層下位		11	深鉢(尖底)	Ⅰ- - -	胴下半〜底	−	−	(10.0)	0.7	−	地文・尖底部5.0cm黒斑有(焼成時に地面に差していたか)
798	133	128			24C20 排土場	Ⅳ層上面(To-Cu堆積層下位) Ⅲ層下位 不明	5 5 4	14	深鉢	Ⅱ- - -	口縁〜底	−	−	(10.3)・(5.7)・(11.4)・(1.3)	1.0	平縁・口端成形・突起1個(指頭による摘みで作出)	口縁部:縄につけられた結束→胴:地文
799	133	127			19C3	Ⅲ層下位		1	深鉢	Ⅳ- - f ①	口縁付近	−	−	(4.5)	0.9	−	沈線1条(横位・直線)→短沈線(縦位・やや弧状)
800	133	127			17C23撹乱	堆積土		1	深鉢	Ⅱ- - -	口縁	−	−	(4.1)	0.8	平縁	地文
801	133	127			17C23撹乱	堆積土		2	深鉢	Ⅱ- - -	胴	−	−	(5.5)	0.9	−	地文
802	133	128			17C22撹乱	堆積土		4	深鉢	Ⅴ D 4 b・c	口縁	9.3	−	(5.3)	0.7	平縁・突起2単位(台形状・刻み2個)	口端:隆線2条(横位・突帯状)→隆沈線1条か(横位・直線)
803	133	127			17D3撹乱	堆積土		2	深鉢	ⅣC 1 e	口縁	−	−	(8.6)	0.9	平縁・突起(隆線上端が突起状)	隆線1条(縦位・直線)→沈線4条(横位・平行)+沈線3条(縦位・平行)→胴:沈線1条(横位・波濤状・半裁竹管)
804	134	127			21B8撹乱	堆積土		3	深鉢	Ⅳ F 1 n ①	口縁	−	−	(8.1)	0.9	平縁・複合口縁	地文・黒斑有
805	134	127			21B8撹乱	堆積土		1	浅鉢	Ⅶ- - -	口縁	−	−	(3.3)	0.6	平縁・口端上面刻み	沈線4条(横位・平行)→沈線間の一部に刻み(縦位)
806	134	127			21B8撹乱	堆積土		2	深鉢	Ⅶ- - -	胴	−	−	(8.5)	0.5	−	地文
807	134	127			21B8撹乱	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 j	口縁	−	−	(5.4)	0.6	平縁・複合口縁・口端上面刻み(棒状工具)	複合口縁上連続刺突各1条(横位・右斜方向から・棒状工具先端)の間に沈線1条(横位・直線)→複合口縁下に連続刺突(横位・右斜方向から・棒状工具先端)→沈線2条(横位・山形・半裁竹管)
808	134	127			21B8撹乱	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- 1 g	口縁	−	−	(3.0)	0.6	平縁	地文→口端と沈線1条(横位・直線)の間に沈線1条(斜位・左傾・直線)を配し、上スペースに連続刺突(縦位・下斜方向から)と下スペースに連続刺突(縦位・上斜方向から)を充填
809	134	128			24D4撹乱	堆積土上位		1	深鉢	Ⅴ- - -	胴	−	−	(4.0)	0.8	−	沈線(方形区画)→刺突(円形・垂直方向)
810	134	128			24D4撹乱	堆積土上位		1	不明	Ⅳ- 3 l	不明	−	−	(4.4)	1.4	突起か	ナデ(横)
811	134	128			24D16撹乱	堆積土		1	深鉢	Ⅲ- 1 c	胴	−	−	(6.2)	0.8	−	地文→隆線(文様状)+隆線上沈線(隆線と同方向に走る)
812	134	128			25C7撹乱	堆積土		1	深鉢	Ⅳ- - k	口縁付近	−	−	(3.7)	0.7	−	刺突1個(円形・垂直方向)を中心に沈線8条以上(半円・同心円状)が波紋様に広がる
813	134	128			25C17	Ⅱ層か		2	深鉢	Ⅳ- 1 a	口縁	−	−	(4.8)	1.1	平縁・肥厚	肥厚口縁上沈線(渦巻)+沈線(縦位・弧状)
814	134	128			25C17	Ⅱ層か		2	深鉢	Ⅶ- - -	口縁	−	−	(5.3)	0.6	平縁・山形突起+突起左側に刻み2個	地文→沈線3条(横位・平行)
815	134	128			25C17撹乱	堆積土上位		1	深鉢	ⅣE 1 f ③	口縁	−	−	(4.0)	0.9	平縁・内外面複合口縁	沈線2条(横位・平行)→沈線1条(横位・山形)と沈線1条(横位・直線)を2段以上配置
816	134	128			30A17	Ⅱ層か		1	蓋	Ⅶ- - -	蓋上面	−	(7.2)	(2.7)	0.5	平縁	地文→沈線2条(横位・平行)→沈線1条(横位・弧状)+沈線1条(横位・直線)
817	134	128			25C区	Ⅱ層		5	深鉢	Ⅳ A 1 k	口縁〜胴	−	−	(9.3)	0.8	平縁	地文(口縁3.0cm施文なし)
818	134	128			C区排土場	不明		1	深鉢	Ⅴ- - a	胴	−	−	(6.5)	0.6	−	地文→隆沈線1条(横位・直線)+隆線上連続刺突(円形・右斜方向)→沈線2条(文様表現)
819	134	128			C区排土場	不明		1	壺	Ⅶ- - -	口縁	−	−	(3.2)	0.5	小波状	地文→沈線3条(横位・平行)

内面調整・施文など	底部痕跡	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	底部残存率(%)	備考
			地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節					
ナデ(横)	−	外面コゲ少量	−	−	−	−	−	白1 透7	10YR3/1黒褐	10YR3/2黒褐		
ナデ(横・ケズリ状)	−	−	LR	右	横	2.2	有(Z)	白1 透1 金1	10YR4/2灰黄褐	10YR4/1褐灰		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透3	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐		
ナデ(横)	−	外面ススク少量	単軸絡条体第1A類(L)	直立	縦	4.0	−	白1 透1 黒1	5YR4/3にぶい赤褐	10YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	LR圧痕 LR	右	横	2.0	−	白1 金1	5YR 6/6 橙	7.5YR 4/2 灰褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透5	10YR5/3にぶい黄褐	10YR7/6明黄褐		
ナデ(縦)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透5	7.5YR4/3褐	10YR6/3にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透7	10YR7/8黄橙	10YR7/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	羽状(結束第2種LR・LR)	直立	縦	3.0	有(Z)	白1 透3	10YR5/2灰黄褐	10YR8/8黄橙		
ナデ(横)	−	−	LR	右	横	3.0	有(Z)	白1 透3 黒1	10YR4/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	内面ススク少量	RLR	右	縦	2.5	−	白2 透5	5YR6/6橙	5YR4/2灰褐		
指頭圧痕→ナデ(縦)・黒斑有	−	−	RL	縦	斜	4.0	−	白2 透3 黒1	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR8/3浅黄橙		容量5.54ℓ
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3 金1	10YR3/2黒褐	7.5YR6/6橙		
指頭圧痕	尖底	−	単軸絡条体第1類(L)	左 右 直立	縦 横 斜	−	−	白1 透3 金1 黒1	10YR7/6明黄褐	10YR3/4暗褐		
ミガキ(横)	網代(Ⅰ)→ナデ(Ⅳ)	−	縄につけられた結節0段多条(2段LR)	横 右 左	横 横 縦	3.0 4.5	有(S)	白1 透2 繊維含む	7.5YR6/8橙	10YR3/3暗褐	40	
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白2 透2	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐		
ナデ(横)	−	−	縄につけられた結節	横	横	2.0	−	透2 金1 黒1 繊維含む	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	単軸絡条体第1類(R・L 2本一組)	右 左	斜 斜	4.0	有(S)	透1 黒1 繊維含む	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金1 黒1	10YR8/4浅黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透2 金1 黒1	7.5YR3/1黒褐	7.5YR6/6橙		
指頭圧痕→ナデ(横)	−	−	LR	右 横	横 斜	2.8	−	白1 透3	10YR8/6黄橙	10YR8/8黄橙		
ミガキ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2	10YR3/2黒褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	LR	横	斜	3.2	−	白1 透1	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	透2 黒1	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 金2 黒1	10YR4/3にぶい黄褐	10YR7/4にぶい黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透5	10YR7/6明黄褐	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1	10YR7/8黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	外面ススク多量	単軸絡条体第1類(L)	直立	縦	2.5	−	白1 透2 黒1	7.5YR4/2灰褐	10YR3/1黒褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白3 透3	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透3	10YR4/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐		
ミガキ(横)	−	−	LR	右	横	2.5	−	白1 透2	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐		
ナデ(横)	−	−	−	−	−	−	−	白1 透1 黒1 細礫多	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐		
ミガキ(横)	−	内外面ススク少量	LR	右	横	1.0	−	白1 透2	10YR8/8黄橙	10YR8/6黄橙		
ナデ(横)	−	−	無節(L)	左	縦	4.5	−	白5 透2 金1	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/3褐		
ナデ(横)	−	−	LR	左	縦	1.5	−	透1	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		
ミガキ(横)	−	外面ススク少量	LR	右	横	−	−	透2 黒1	10YR2/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	接合破片数		器種	残存位置	法量(cm)	底部痕跡	底部痕跡分類	底部残存率(%)
			種別	番号	位置(グリッド)		内訳数	総数			底径			
820	135	129	SX	04	QNW 14B20	1層中位 Ⅱ層下位	1 1	2	深鉢	底部	12.9	網代	ⅠA	95
821	135	129			14C19	Ⅲ層上位一括		5	深鉢	底部	11.2	網代	ⅠA	60
822	135	129	SI	26	QSE	堆積土下位		1	深鉢	底部	〔10.6〕	網代→ナデ	ⅠA→Ⅳ	20
823	135	129	SD	04	16D1	堆積土上位		1	深鉢	底部	10.3	網代→ナデ	ⅠA→Ⅳ	55
824	135	129			13D1	Ⅱ層下位		9	深鉢	底部	14.0	網代→ナデ	ⅠA→Ⅳ	100
825	135	129			B区T4	Ⅰ層 Ⅲ層上～中位	2 1	3	深鉢	底部	14.0	網代	ⅠB1	50
826	135	129	SI	25	カマSE側	床面		2	深鉢	底部	－	網代	ⅠB2	20
827	135	129	SI	34	中央N	床直上		1	深鉢	底部	－	網代→ナデ	ⅠB2→Ⅳ	60
828	135	129			15D14	Ⅰ層下位		1	深鉢	底部	12.8	網代→ナデ	ⅠB2→Ⅳ	55
829	135	129			11C区 12C11	Ⅰ層 Ⅰ層下位	3 3	6	深鉢	底部	12.6	網代	ⅠC	100
830	135	129			14C7	Ⅲ層上位		1	深鉢	底部	5.5	網代	ⅠD	80
831	135	129			14C・D区	Ⅲ層上～中位		5	深鉢	底部	12.2	網代	ⅠE	65
832	136	129			14C5	Ⅲ層上位一括 Ⅲ層上面	8 6	14	鉢	底部	8.5	網代	ⅠF	60
833	135	129			14C5	Ⅲ層上面 Ⅲ層上位	7 4	11	深鉢	底部	15.6	網代	ⅠG	45
834	135	129	SI	28	QNE	1層 焼土内N側	2 1	3	深鉢	底部	9.5	網代→ナデ	ⅠG→Ⅳ	50
835	135	129	SI	34	QSE	1層上位 1層中位	1 1	2	深鉢	底部	12.4	網代→ケズリ	ⅠG→Ⅳ	100
836	136	129	SD	04	16C24	堆積土上位		1	深鉢	底部	10.8	網代	ⅠJ1	100
837	136	129			14C25 不明	Ⅲ層	5 1	6	深鉢	底部	15.0	網代	ⅠJ2	70
838	136	129	SX	07	QSW	1層上～中位		3	深鉢	底部	13.6	網代	ⅠK	70
839	136	129			20B11	Ⅳ層直上		1	深鉢	底部	〔10.8〕	網代	ⅠL	50
840	136	130	SI	17	QSW	堆積土		3	深鉢	底部	12.8	網代→木葉→ナデ	Ⅰ→Ⅱ→Ⅳ	50
841	137	130	SX	07	QNW	1層中位		1	深鉢	底部	11.1	網代→木葉	Ⅰ→Ⅱ	70
842	137	130			14C21	Ⅲ層		7	深鉢	底部	11.4	網代→木葉	Ⅰ→Ⅱ	60
843	137	130	SI	04	QNW	堆積土下位		3	深鉢	底部	〔7.5〕	木葉	Ⅱ	30
844	137	130	SI	06	不明	1層	3 1	4	深鉢	底部	9.9	木葉	Ⅱ	50
845	137	130	SI	06	QNW QNE	Ⅲ層上位 1層	5 4	9	深鉢	底部	12.8	木葉	Ⅱ	100
846	137	130	SI	17	ベルトA(E側) QSE	3層下位 3層上位 堆積土上～中位 堆積土最下位	11 1 1 1	14	深鉢	底部	8.5	木葉	Ⅱ	90

第51表　土製品観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	器形	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など
			種別	番号	位置(グリッド)					最大長	最大幅	最大厚	重量(g)		
884	139	132	SD	04	15D3	堆積土中位	土製耳飾	滑車形	略完形	1.8	2.2	0.6	4.85	ナデ調整	ナデ調整
885	139	132	SI	07		堆積土下位	土器片円盤	円形	完形	(3.9)	(1.8)	0.6	4.5	ナデ調整	ナデ調整
886	139	132	SI	17		堆積土上～中位	土器片円盤	円形	完形	(4.8)	(4.2)	0.7	19.23	地文	ナデ調整
887	139	132	SI	17		3層上位	土器片円盤	円形	完形	(3.9)	(3.8)	0.6	8.5	地文	摩耗
888	139	132	SI	17		堆積土上～中位	土器片円盤	円形	完形	5.5	5.2	0.9	28.16	地文	ナデ調整
889	139	132	SX	03		1・2層	土器片円盤	円形	完形	3.6	3.5	0.9	10.91	地文→沈線区画	ナデ調整
890	139	132	SX	07		堆積土上位	土器片円盤	円形	完形	4.0	3.6	0.9	13.8	地文	ナデ調整
891	139	132	SD	04		堆積土中位	土器片円盤	円形	完形	2.5	2.4	0.7	4.6	細沈線か	ナデ調整
892	139	132			B区T3	Ⅰ層	土器片円盤	円形	完形	5.5	6.15	0.7	26.57	地文	ナデ調整
893	139	132			12C17	Ⅰ層下位	土器片円盤	円形	完形	4.0	3.45	0.6	8.26	摩耗	摩耗
894	139	132			14C11	Ⅰ層下位	土器片円盤	円形	完形	3.4	3.5	0.9	10.05	摩耗	摩耗
895	139	132			14C18～19	Ⅲ層上位	土器片円盤	円形	完形	4.05	4.5	0.9	17.13	地文	ナデ調整
896	139	132			15B24	堆積土上～中位	土器片円盤	円形	完形	3.9	3.7	0.9	13.45	摩耗	摩耗
897	139	132			21B5	Ⅲ層中位	土器片円盤	円形	完形	4.9	4.5	1.2	28.66	地文	摩耗
898	139	132			14C6	Ⅲ層	土器片円盤	円形	完形	4.6	4.15	0.6	12.0	地文・沈線	ナデ調整
899	139	132			14C17	Ⅲ層	土器片円盤	円形	完形	7.9	7.4	1.0	51.29	スダレ状圧痕	ナデ調整
900	139	132			20B14	Ⅲ層	土器片円盤	円形	完形	3.6	3.1	1.0	10.3	単軸絡条体	剥落
901	－	132	SI	17	サブトレ	堆積土上～中位	焼粘土塊	不整形	完形	2.8	1.9	1.6	6.19	－	－
902	－	132	SI	17	サブトレB(N側)	堆積土上～中位	焼粘土塊	不整形	完形	2.9	2.4	1.3	6.56	－	－
903	－	132			15D7	Ⅲ層上位	焼粘土塊	不整形	完形	4.9	3.4	2.6	24.6	－	－
904	－	132			15D10	Ⅲ層下位	焼粘土塊	不整形	完形	4.8	3.3	2.5	24.03	－	－
905	－	132			15D10	Ⅲ層下位	焼粘土塊	不整形	完形	2.1	2.2	1.4	4.23	－	－

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	接合破片数		器種	残存位置	法量(cm)	底部痕跡	底部痕跡分類	底部残存率(%)
			種別	番号	位置(グリッド)		内訳数	総数			底径			
847	137	130	SI	17	QNW	堆積土上～中位		3	深鉢	底部	−	木葉	Ⅱ	25
848	137	130	SI	17	QSW	堆積土		3	深鉢	底部	11.2	木葉	Ⅱ	100
849	137	130	SI	25	QNW	堆積土上～中位		1	深鉢	底部	−	木葉	Ⅱ	20
850	137	130	SI	26	ベルトC(S側)	堆積土下位		1	深鉢	底部	−	木葉	Ⅱ	20
851	137	130	SX	04	QSW	1層上位		7	深鉢	底部	〔13.0〕	木葉	Ⅱ	25
852	137	130	SX	07	QNW	堆積土下位		1	深鉢	底部	5.2	木葉	Ⅱ	100
853	137	130	SX	07	QNW 15C7	1層中～下位 Ⅱ層上面	1 2	3	深鉢	底部	〔10.4〕	木葉	Ⅱ	20
854	137	130	SD	04	15D2 15D1	堆積土中位 堆積土中位	1 1	2	深鉢	底部	11.4	木葉	Ⅱ	60
855	137	130			12D3	Ⅰ層		2	深鉢	底部	10.8	木葉	Ⅱ	90
856	137	130			14C16	Ⅱ層下位		1	深鉢	底部	14.5	木葉	Ⅱ	100
857	137	130			15C1	Ⅱ層下位		11	深鉢	底部	5.6	木葉	Ⅱ	100
858	137	130			13C15	Ⅲ層上位		1	深鉢	底部	6.2	木葉	Ⅱ	40
859	137	130			13C19	Ⅲ層上位		1	深鉢	底部	6.4	木葉	Ⅱ	60
860	137	130			14C13	Ⅲ層上位		1	深鉢	底部	6.6	木葉	Ⅱ	100
861	137	130			14C13	Ⅲ層上位		3	深鉢	底部	13.8	木葉	Ⅱ	70
862	137	130			14C18	Ⅲ層上位		1	深鉢	底部	5.2	木葉	Ⅱ	50
863	137	130			14C23	Ⅲ層上位		7	深鉢	底部	13.0	木葉	Ⅱ	40
864	138	130			B区T4 14C・D区	Ⅲ層上～中位		5	深鉢	底部	13.4	木葉	Ⅱ	80
865	138	131	SI	06	QNW	堆積土1層		1	深鉢	底部	〔11.4〕	木葉×2	Ⅱ	30
866	138	131			B区T3～4	Ⅰ層		1	深鉢	底部	12.7	木葉×2	Ⅱ	100
867	138	131	SI	06	QNE	堆積土1層		4	深鉢	底部	〔12.0〕	木葉→ナデ	Ⅱ→Ⅳ	50
868	138	131	SI	17	ｶｸW側 QSE	床面 堆積土最下位	11 3	14	深鉢	底部	7.7	木葉→ナデ	Ⅱ→Ⅳ	100
869	138	131			15C13	Ⅰ層		1	深鉢	底部	11.9	木葉→ナデ	Ⅱ→Ⅳ	100
870	138	131			14C18	Ⅲ層上位		2	深鉢	底部	〔12.0〕	木葉→ナデ	Ⅱ→Ⅳ	35
871	138	131			14B20	Ⅱ層下位		1	深鉢	底部	9.3	木葉→周縁部ケズリ	Ⅱ→Ⅳ	100
872	138	131	SD	04	14D6	堆積土上位		7	深鉢	底部	〔19.0〕	木葉＋笹か	Ⅱ＋Ⅲか	40
873	138	131	SI	17	ベルトA(E側)	3層下位		1	深鉢	底部	13.7	笹か	Ⅲか	90
874	138	131	SX	07	QSW	1層上位		4	深鉢	底部	8.0	笹か	Ⅲか	95
875	138	131	SD	04	15C22	堆積土上位		6	深鉢	底部	13.9	笹か	Ⅲか	80
876	138	131			11C区	Ⅰ層		10	深鉢	底部	10.8	笹	Ⅲ	100
877	138	131			14C14	Ⅱ層上位		2	深鉢	底部	13.3	笹か	Ⅲか	100
878	138	131			13C14	Ⅱ層下位		3	深鉢	底部	〔12.8〕	笹	Ⅲ	50
879	138	131			14C19	Ⅲ層上位		4	深鉢	底部	7.5	笹	Ⅲ	40
880	138	131			T4 E側	Ⅱ層		1	深鉢	底部	7.1	笹	Ⅲ	50
881	138	131	SI	17	QNE ベルトA(E側)	堆積土上～中位 3層上位	4 1	5	深鉢	底部	14.2	笹→ケズリ	Ⅲ→Ⅳ	65
882	138	131	SI	17	QNW	堆積土上～中位		3	深鉢	底部	〔14.0〕	笹かケズリ	ⅢorⅣ	40
883	138	131			24C10	Ⅱ層か		5	深鉢	底部	14.6	笹か板かケズリか	ⅢorⅣか	80

縄文原体					胎土	色調外面	色調内面	備考
地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
−	−	−	−	−	白1 透2	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	内面赤色顔料塗布か
−	−	−	−	−	白1 透2	10YR 8/4 浅黄橙	7.5YR 8/4 浅黄橙	中央に穿孔
RL	左	横	−	−	白1 透3 黒1	7.5YR8/3浅黄橙	10YR5/1褐灰	胴部破片から転用
単軸絡条体第1類(R)	横	横	−	−	白1 透3 黒1	7.5YR8/8黄橙	7.5YR8/8黄橙	胴部破片から転用
単軸絡条体第1類(LR)	横	横	−	−	白2 透3 金1 黒2	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	胴部破片から転用
単軸絡条体第1類(LR)	横	横	−	−	白1 透2 金1 黒1	10YR6/3にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	胴部破片から転用
RLR	右	縦	−	−	白2 透3 金1 黒1	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/8明赤褐	胴部破片から転用
−	−	−	−	−	透2 黒1	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR7/6橙	胴部破片から転用
LR	左	縦	3.5	無	白2 透2 黒1	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙	胴部破片から転用
−	−	−	−	−	白2 透2 金1	7.5YR 6/6 橙	5YR 4/4 にぶい赤褐	胴部破片から転用
−	−	−	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 7/6 橙	胴部破片から転用
RL	−	−	−	−	白1 透2 金1	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/1 褐灰	胴部破片から転用
−	−	−	−	−	白2 透5 黒1	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	胴部破片から転用
LR	横	斜	−	−	白1 透5 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	胴部破片から転用
LR	縦	−	−	−	透2 黒1	5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	胴部破片から転用
−	−	−	−	−	透2 黒1	5YR 5/6 明赤褐	10YR 5/2 灰黄褐	底部破片から転用
RL	横	斜	−	−	白1 透2 黒1	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	胴部破片から転用
−	−	−	−	−	−	7.5YR7/6橙	−	
−	−	−	−	−	−	10YR7/4にぶい黄橙	−	
−	−	−	−	−	−	5YR7/6橙	−	
−	−	−	−	−	−	5YR7/6橙	−	
−	−	−	−	−	−	5YR7/6橙	−	

第52表　尖頭器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						刃部		先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
			種別	番号	位置（グリッド）					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)				
906	161	133			13D2	Ⅲ層下位	尖頭器	ⅠA2	頁岩	12.05	3.96	1.75	3.04	0.44	85.35	先	62.0						
907	161	133	SI	10・15		床直上	尖頭器	ⅡA1	頁岩	(2.56)	(1.49)	0.71	－	－	2.45	－	－			先端・基部			
908	161	133	SD	04	14D4	堆積土上位	尖頭器	ⅡA2	頁岩	(3.95)	(2.51)	1.00	－	－	8.58	－	－			先端部			アスファルト装着痕
909	161	133			14D12	Ⅲ層中位	尖頭器	ⅡA2	頁岩	7.97	3.19	1.68	2.50	0.53	33.27	先	48.5	○	108.0				
910	161	133			20C2	Ⅰ層下位	尖頭器	ⅡA2	頁岩	9.60	2.65	1.18	3.62	0.45	29.28	先	69.5						
911	162	133			23C21	Ⅳ層直上	尖頭器	ⅡA2	頁岩	11.04	2.50	1.26	4.42	0.50	35.24	先	40.0						
912	162	133	SI	31	ベルトB(S側)	堆積土下位	尖頭器	ⅡB2	頁岩	13.50	3.15	1.41	4.29	0.45	52.13	先	39.0						
913	161	133	SX	02	QSW	3層上位	尖頭器	ⅡD2	頁岩	(3.93)	(2.26)	0.81	－	－	6.65	先	58.0			基部			
914	161	133	SD	04	14D2	堆積土上位	尖頭器	ⅡD2	頁岩	(3.85)	(2.03)	0.78	－	－	6.23	先	57.0			基部			
915	161	133			13D3	Ⅲ層上位	尖頭器	ⅡD2	頁岩	(4.72)	(2.42)	0.63	－	－	7.97	先	58.0			基部			
916	162	133	SX	02		堆積土中位	尖頭器	ⅢA2	頁岩	(5.22)	(3.91)	1.16	－	－	28.74	－	－			先端部			
917	162	133	SD	04	13D13	堆積土下位	尖頭器	ⅢB2	頁岩	6.50	3.13	1.19	2.09	0.38	23.80	先	52.0						
918	162	133			13C10	Ⅲ層上位	尖頭器	ⅢC1	頁岩	6.45	3.81	1.29	1.69	0.34	27.91	先	48.0						石鏃様
919	162	133	SD	04	14D8	堆積土下位	尖頭器	ⅣA	頁岩	(2.72)	(2.61)	0.81	－	－	5.56	－	－			先端部			
920	163	134	SI	13		堆積土下位	尖頭器	ⅣB2	頁岩	(2.21)	(2.42)	0.99	－	－	5.61	－	－	○	112.5	先端部			
921	163	134	SD	04	14D3	堆積土下位	尖頭器	ⅣC	赤色頁岩	(2.68)	(2.33)	0.81	－	－	5.18	－	－			先端部			
922	163	134	SI	06		1層	尖頭器	ⅣC	珪化木	(3.19)	(2.64)	1.05	－	－	9.79	－	－	○	105.0	先端部			

第53表　石鏃観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量								先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
			種別	番号	位置（グリッド）					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	抉り(cm)	抉り/長さ	重量(g)	形状	角度(°)				
923	163	134	SI	04	ベルトB(S側)	Ⅰ層	石鏃	ⅠA1a	頁岩	(1.88)	(1.13)	(0.30)	－	－	－	－	0.46	－	－	茎・側縁部			
924	163	134			19C3	Ⅲ層上位	石鏃	ⅠA2a	頁岩	4.60	2.60	1.16	1.77	0.45	－	－	11.22	先	59.5				
925	163	134			16B15	Ⅰ層	石鏃	ⅠA2a	頁岩	3.93	1.59	0.64	2.47	0.40	－	－	3.34	先	45.0				
926	163	134	SD	04	16C22	堆積土上位	石鏃	ⅠA2b	頁岩	(1.08)	1.15	0.31	－	0.27	－	－	0.37	－	－				
927	163	134			13D4	Ⅲ層中位	石鏃	ⅠA3a	赤色頁岩	(1.36)	(1.24)	(0.25)	－	－	－	－	0.28	－	－	先端部			
928	163	134			14C18	Ⅲ層上面	石鏃	ⅠB2	玉髄	2.31	1.80	0.68	1.28	0.38	－	－	2.36	先	63.0	先端部			
929	163	134			14C25	Ⅲ層上面	石鏃	ⅠB2	赤色頁岩	3.08	2.04	0.87	1.51	0.43	－	－	5.04	先	49.5				
930	163	134			21B21	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡA1	頁岩	2.44	1.42	0.39	1.72	0.27	－	－	0.93	先	35.5				
931	163	134	SI	04	QNE	堆積土下位	石鏃	ⅡA2	頁岩	(2.32)	1.13	0.38	－	0.34	－	－	1.10	－	－				
932	163	134	SI	19	QSE	床直上	石鏃	ⅡA2	頁岩	3.60	1.16	0.44	3.10	0.38	－	－	1.89	先	41.5	先端部			
933	163	134	SI	20	P23	堆積土中～下位	石鏃	ⅡA2	頁岩	3.85	2.04	0.44	1.89	0.22	－	－	2.38	先	35.5				
934	163	134	SI	29	P8	9層	石鏃	ⅡA2	頁岩	3.59	1.89	0.65	1.90	0.34	－	－	3.22	先	44.5	基部			
935	163	134	SD	04	14D5	堆積土下位	石鏃	ⅡA2	頁岩	1.69	1.34	0.57	1.26	0.43	－	－	1.05	先	45.0				
936	163	134			19C19	Ⅳ層直上	石鏃	ⅡA2	頁岩	4.04	1.25	0.34	3.23	0.27	－	－	1.52	先	31.0				
937	163	134			19C20	1層中位	石鏃	ⅡA2	頁岩	2.35	1.28	0.37	1.84	0.29	－	－	0.94	先	52.0				
938	163	134			20C1撹乱	堆積土	石鏃	ⅡA2	頁岩	3.26	1.05	0.36	3.10	0.34	－	－	1.16	先	34.0			被熱	焼けはじけ
939	163	134			A区撹乱	堆積土	石鏃	ⅡA2	頁岩	1.97	1.09	0.44	1.81	0.40	－	－	0.77	先	47.0				
940	163	134			20C23	Ⅳ層直上	石鏃	ⅡA4	頁岩	3.97	1.07	0.41	3.71	0.38	－	－	1.45	先	36.0				
941	163	134	SI	22	HE	1層下位	石鏃	ⅡB2	頁岩	(3.74)	1.81	0.65	－	0.36	－	－	3.11	先	28.0				
942	163	134	SI	32	ベルトB(N側)	堆積土上位	石鏃	ⅡB2	頁岩	2.81	1.95	0.90	1.44	0.46	－	－	4.33	先	55.0	先端部			
943	164	134	SD	04	15D2	堆積土中位	石鏃	ⅡB2	頁岩	3.61	2.79	1.04	1.29	0.37	－	－	7.65	先	80.0				
944	164	134	SD	04	15D2	堆積土中位	石鏃	ⅡB2	赤色頁岩	2.83	2.20	0.93	1.29	0.42	－	－	5.83	先	84.0				
945	164	134	SD	04	14D4	1層下位	石鏃	ⅡB2	頁岩	2.15	1.74	0.91	1.24	0.52	－	－	3.44	先	97.5				

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量								先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	抉り(cm)	抉り/長さ	重量(g)	形状	角度(°)				
946	164	134			14C16	Ⅲ層中位	石鏃	ⅡB2	赤色頁岩	2.29	1.92	0.46	1.19	−	−	−	2.02	先	88.0		○		
947	164	134	SI	04	QNW	堆積土下位	石鏃	ⅡC1a①	頁岩	3.08	1.68	0.52	1.83	0.31	0.09	0.03	1.80	先	46.0				
948	164	134	SI	06		床直上	石鏃	ⅡC1a②	頁岩	2.28	1.77	0.29	1.29	0.16	0.53	0.23	0.64	先	44.0				アスファルト装着痕
949	164	134	SI	29	QSE	1層	石鏃	ⅡC1a①	頁岩	3.10	1.94	0.63	1.60	0.32	0.45	0.15	2.29	先	42.0				
950	164	134	SI	38	QSE	堆積土下位	石鏃	ⅡC1a②	頁岩	2.88	2.09	0.34	1.38	0.16	0.63	0.22	1.51	先	50.5				
951	164	134	SK	10		堆積土中位	石鏃	ⅡC1a②	頁岩	1.54	1.34	0.24	1.15	0.18	0.36	0.23	0.34	先	48.5				
952	164	134	SD	04	15D1	堆積土上位	石鏃	ⅡC1a②	頁岩	2.00	(1.56)	0.23	−	−	0.56	0.28	0.40	先	46.0	脚部			
953	164	134	SD	04	15D2	堆積土中位	石鏃	ⅡC1a②	頁岩	1.65	1.32	0.22	1.25	0.17	0.29	0.18	0.28	先	43.0				
954	164	134			14C3	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC1a②	珪質頁岩	2.14	(1.39)	0.23	−	−	0.43	0.20	0.44	先	40.0	脚部			
955	164	134			14C12	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC1a②	赤色頁岩	2.10	1.37	0.37	1.53	0.27	0.41	0.20	0.54	先	36.0				
956	164	134			20B6	Ⅳ層直上	石鏃	ⅡC1a②	頁岩	2.18	1.95	0.43	1.12	0.22	0.47	0.22	1.06	先	53.0				
957	164	134	SX	06	QNE	2層上位	石鏃	ⅡC1a	頁岩	(3.40)	1.26	0.45	−	0.36	0.34	−	1.29	先	29.0	先端部			
958	164	134			17C24撹乱	堆積土	石鏃	ⅡC1a	黒曜石	1.42	1.08	0.28	1.31	0.26	−	−	0.26	先	48.5				
959	164	134			A区T7	Ⅰ層	石鏃	ⅡC1a	頁岩	(5.59)	1.65	0.47	−	0.28	1.02	−	2.69	先	27.0	先端部			
960	164	134	SI	28	QSW	周溝堆積土	石鏃	ⅡC1b②	頁岩	5.13	1.80	0.65	2.85	0.36	1.19	0.23	3.25	先	26.0				
961	164	134	SI	27	p13	堆積土	石鏃	ⅡC1c①	頁岩	3.45	2.25	0.50	1.53	0.22	0.45	0.13	2.20	先	35.5				
962	164	135			15D2	Ⅰ層	石鏃	ⅡC1c②	頁岩	2.00	1.27	0.23	1.57	0.18	0.33	0.17	0.40	先	38.5				
963	164	135			16C16	Ⅰ層	石鏃	ⅡC1c②	頁岩	3.68	2.28	0.56	1.61	0.25	0.66	0.18	3.09	先	50.0				
964	164	135	SI	06	QNE	堆積土中位	石鏃	ⅡC2a①	玉髄	1.51	0.92	0.32	1.64	0.35	0.06	0.04	0.33	先	49.0				
965	165	135	SI	13	ベルトC(S側)	堆積土上位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.01	2.17	0.47	1.39	0.22	0.26	0.09	2.21	先	62.5				
966	165	135	SI	16	QNE	7層	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.70	1.60	0.45	1.69	0.28	0.36	0.13	1.52	先	52.5				
967	165	135	SI	16	QSW	7層	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	1.96	1.29	0.38	1.52	0.29	0.14	0.07	0.59	先	49.5				
968	165	135	SI	16	QSE	8層下位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.86	1.31	0.40	2.18	0.31	0.19	0.07	1.39	先	46.5				
969	165	135	SI	16	ベルトA(W側)	13層	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	1.97	1.60	0.32	1.23	0.20	0.14	0.07	0.89	先	82.0				
970	165	135	SI	22	QNE	1層	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.71	2.06	0.89	1.32	0.43	0.22	0.08	4.07	先	57.5				
971	165	135	SI	22		堆積土	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.38	1.74	0.55	1.94	0.32	0.42	0.12	2.59	先	38.0				
972	165	135	SI	23	QSE	床面	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.09	1.67	0.55	1.85	0.33	0.13	0.04	3.08	先	42.0				石錐転用か
973	165	135	SI	27	ベルト(中央)	1層	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.23	1.88	0.53	1.72	0.28	0.33	0.10	2.56	先	51.0				
974	165	135	SI	34	中央S	床直上	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.85	2.12	0.40	1.82	0.19	0.22	0.06	2.28	先	39.0				
975	165	135	SI	36	E側	周溝堆積土	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.11	1.65	0.39	1.28	0.24	0.08	0.04	1.28	先	65.0				
976	165	135	SI	38	中央S	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	4.20	2.06	0.57	2.04	0.28	0.32	0.08	3.39	先	37.5				
977	165	135	SX	02	QNW	堆積土	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.40	1.25	0.73	1.92	0.58	0.05	0.02	1.66	先	43.5				
978	165	135	SX	06	QNW	床直上	石鏃	ⅡC2a①	珪質頁岩	2.57	1.69	0.48	1.52	0.28	0.24	0.09	1.65	先	52.5				
979	165	135	SK	39	QSW	1層上～中位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.27	1.83	0.65	1.79	0.36	0.39	0.12	2.60	先	44.0				
980	165	135	SD	04	14D8	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	1.72	1.88	0.68	0.91	0.36	0.12	0.07	1.73	先	75.0				
981	165	135	SD	04	15D10	堆積土上位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	1.54	1.31	0.41	1.18	0.31	0.19	0.12	0.51	先	58.5				
982	165	135	P	259		底面	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.95	1.93	0.50	1.53	0.26	0.09	0.03	2.36	先	49.5				
983	165	135			13C22	Ⅲ層上面	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	1.35	1.11	0.24	1.22	0.22	0.13	0.10	0.32	先	52.0				
984	165	135			14C12	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC2a①	黒曜石	1.53	1.03	0.22	1.49	0.21	0.19	0.12	0.23	先	54.0				里古屋－7
985	165	135			14C25	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.43	1.95	0.41	1.25	0.21	0.29	0.12	1.44	先	52.0		○		
986	165	135			14C8	Ⅲ層中～下位	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	4.09	1.89	0.58	2.16	0.31	0.48	0.12	3.63	先	41.5				
987	166	135			20C23	Ⅳ層直上	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	4.30	1.80	0.58	2.39	0.32	0.44	0.10	3.20	先	33.0				
988	166	135			A区	Ⅳ層直上	石鏃	ⅡC2a①	頁岩	3.49	1.61	0.45	2.17	0.28	0.42	0.12	2.10	先	50.0				
989	166	135			C区T4	Ⅰ層	石鏃	ⅡC2a①	赤色頁岩	1.76	1.25	0.30	1.41	0.24	0.22	0.13	0.48	先	51.0				
990	166	135			C区排土場		石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.96	1.55	0.49	1.91	0.32	0.23	0.08	1.59	先	40.0				
991	166	135			C区排土場		石鏃	ⅡC2a①	頁岩	2.91	1.51	0.41	1.93	0.27	0.42	0.14	1.37	先	53.0				
992	166	135	SI	02	QNW	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	3.47	1.98	0.49	1.75	0.25	0.81	0.23	2.10	先	48.0				
993	166	135	SI	02		床直上	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	1.76	1.32	0.40	1.33	0.30	0.45	0.26	0.43	先	48.5				
994	166	135	SI	06		床直上	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	2.21	1.60	0.41	1.38	0.26	0.58	0.26	0.76	先	54.0				

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量								先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
			種別	番号	位置（グリッド）					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	抉り(cm)	抉り/長さ	重量(g)	形状	角度(°)				
995	166	135	SI	08		堆積土中位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	2.25	1.35	0.24	1.67	0.18	0.43	0.19	0.59	先	53.0				
996	166	135	SI	10・15		堆積土上～中位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩(在地)	3.21	2.40	0.42	1.34	0.18	0.55	0.17	2.67	先	52.0				
997	166	135	SI	13	サブトレE	堆積土中位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	3.40	1.76	0.53	1.93	0.30	0.74	0.22	2.34	先	69.5	脚部			
998	166	135	SI	13・14	QNE	堆積土中位	石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.82	1.22	0.34	1.49	0.28	0.30	0.16	0.53	先	55.5				里古屋－57
999	166	135	SI	16	QNE	8層最下位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	2.50	2.00	0.51	1.25	0.26	0.74	0.30	1.57	先	73.0				
1000	166	135	SI	19	QNW	2層中～下位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	1.66	1.35	0.29	1.23	0.21	0.42	0.25	0.36	先	61.0				
1001	166	135	SI	19	QNW	2層下位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	1.63	1.55	0.27	1.05	0.17	0.53	0.33	0.35	先	61.0				
1002	166	135	SI	25	中央S	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.95	1.48	0.25	1.32	0.17	0.57	0.29	0.41	先	57.0				里古屋－65
1003	166	135	SI	27	ベルトB(N側)	1層	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	3.40	2.26	0.42	1.50	0.19	0.71	0.21	2.41	先	60.0				
1004	166	135	SD	04	14D4	7層上面	石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.66	1.35	0.49	1.23	0.36	0.32	0.19	0.73	先	62.0				里古屋－4
1005	166	135	SD	04	14D4	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	3.77	1.84	0.54	2.05	0.29	0.69	0.18	2.43	先	41.0				
1006	166	136	SD	04	15C25	堆積土上位	石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.80	1.39	0.35	1.29	0.25	0.50	0.28	0.47	先	58.0				里古屋－66
1007	166	136	P	211		堆積土	石鏃	ⅡC2a②	赤色頁岩	3.00	1.74	0.60	1.72	0.34	0.48	0.16	1.76	先	41.0				二重パティナ
1008	166	136			13C24	Ⅱ層下位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	2.27	1.27	0.45	1.79	0.35	0.39	0.17	0.87	先	53.0				
1009	166	136			14C10	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.50	1.28	0.31	1.17	0.24	0.41	0.27	0.33	先	59.0				里古屋－70
1010	167	136			14C21	Ⅲ層中位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	2.58	1.58	0.55	1.63	0.35	0.54	0.21	1.44	先	37.0				
1011	167	136			15C19	Ⅲ層下位	石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.92	1.54	0.36	1.25	0.23	0.31	0.16	0.68	先	60.0				里古屋－74
1012	167	136			16B21	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	3.39	2.07	0.60	1.64	0.29	0.64	0.19	2.36	先	38.0				
1013	167	136			21B14	Ⅲ層	石鏃	ⅡC2a②	頁岩	4.25	1.91	0.54	2.23	0.28	0.66	0.16	2.87	先	34.0				
1014	167	136			C区排土場		石鏃	ⅡC2a②	黒曜石	1.26	1.34	0.28	0.94	0.21	0.39	0.31	0.29	先	78.0				
1015	167	136	SI	20	ベルトA(E側)	1層	石鏃	ⅡC2a	頁岩	3.34	1.92	0.39	1.74	0.20	－	－	2.03	先	54.5				
1016	167	136	SI	22	QNE	1層	石鏃	ⅡC2a	黒曜石	1.19	0.92	0.31	1.29	0.34	0.16	0.13	0.21	先	48.0				里古屋－63
1017	167	136	SX	03	ベルトA(E側)	3層	石鏃	ⅡC2a	頁岩	(3.08)	1.78	0.51	－	0.29	0.59	－	2.00	先	48.0	先端部			
1018	167	136	SD	04	15D7	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a	頁岩	(3.21)	1.78	0.48	－	0.27	0.45	－	2.01	先	39.5	先端部			
1019	167	136	SD	04	14D5	堆積土下位	石鏃	ⅡC2a	黒曜石	(1.81)	(1.59)	0.46	－	－	0.45	－	0.73	先	55.0	先端・脚部			里古屋－5
1020	167	136			12D6～17	Ⅰ層下位	石鏃	ⅡC2a	頁岩	(2.07)	1.81	0.48	－	0.27	－	－	1.58	先	49.0	先端・脚部			
1021	167	136			22B6	Ⅱ層上位	石鏃	ⅡC2a	頁岩	(4.68)	1.91	0.63	－	0.33	0.84	－	3.44	先	31.0	先端部			
1022	167	136	SD	04	14D4	堆積土上位	石鏃	ⅡC2b②	頁岩	3.25	1.57	0.62	2.07	0.39	0.67	0.21	1.95	先	39.0				
1023	167	136	SI	27	QSW	1層	石鏃	ⅡC2c①	頁岩	2.81	1.49	0.27	1.89	0.18	0.33	0.12	1.03	先	39.5				
1024	167	136	SI	32	QSW	床直上	石鏃	ⅡC2c②	頁岩	2.25	1.70	0.50	1.32	0.29	0.37	0.16	1.57	先	63.0				
1025	167	136	SD	04	14D6	堆積土中位	石鏃	ⅡC3a②	頁岩	3.11	2.17	0.71	1.43	0.33	0.25	0.08	2.89	先	28.0	脚部			
1026	167	136	SD	04	15D2	堆積土上位	石鏃	ⅡC3a②	頁岩	3.37	1.80	0.37	1.87	0.21	0.63	0.19	1.85	先	27.0				
1027	167	136			21C1	Ⅱ層直上	石鏃	ⅡC3a②	頁岩	2.18	1.52	0.42	1.43	0.28	0.40	0.18	0.96	先	29.0	脚部			
1028	167	136	SX	04		堆積土上位	石鏃	ⅡC3b②	頁岩	3.25	1.90	0.53	1.71	0.28	0.51	0.16	1.66	先	38.0				石錐転用か
1029	167	136	SD	04	14D5	堆積土下位	石鏃	ⅡC4a①	頁岩	2.06	2.01	0.57	1.02	0.28	0.05	0.02	1.67	先	54.5				
1030	167	136	SD	04	15D5	堆積土上位	石鏃	ⅡC4a①	頁岩	1.54	1.71	0.27	0.90	0.16	0.10	0.06	0.55	先	77.5				
1031	167	136	SD	04	15D2	堆積土中位	石鏃	ⅡC4a①	珪質頁岩	1.92	1.61	0.27	1.19	0.17	0.10	0.05	0.67	先	61.5				
1032	167	136			14C13	Ⅲ層上位	石鏃	ⅡC4a①	玉髄	1.44	1.45	0.23	0.99	0.16	0.19	0.13	0.30	先	63.0				
1033	167	136			14C17	Ⅱ層下位	石鏃	ⅡC4②	頁岩	2.04	1.71	0.30	1.19	0.18	0.55	0.27	0.66	先	58.0				
1034	168	136	SI	06	QNE	堆積土上位	石鏃	ⅡC5a②	赤色頁岩	2.08	1.58	0.28	1.32	0.18	0.35	0.17	0.52	先	54.0				
1035	168	136	SD	04	15D1	堆積土中位	石鏃	ⅡC5a②	赤色頁岩	2.36	1.64	0.25	1.44	0.15	0.57	0.24	0.52	先	34.0				
1036	168	136	SD	04	14D5	堆積土下位	石鏃	ⅡC5a②	頁岩	2.15	1.67	0.26	1.29	0.16	0.49	0.23	0.43	先	33.0				
1037	168	136			13D2	Ⅱ層下位	石鏃	ⅡC5a②	頁岩	1.92	1.39	0.28	1.38	0.20	0.43	0.22	0.40	先	40.5				
1038	168	136			14C11	Ⅱ層下位	石鏃	ⅡC5a②	赤色頁岩	2.14	1.60	0.26	1.34	0.16	0.55	0.26	0.42	先	39.0				
1039	168	136			14C14	Ⅲ層下位	石鏃	ⅡC5a②	珪質頁岩	1.70	1.45	0.24	1.17	0.17	0.38	0.22	0.27	先	48.0				アスファルト装着痕
1040	168	136			15D区	Ⅰ層	石鏃	ⅡC5a②	頁岩	2.14	1.50	0.24	1.43	0.16	0.39	0.18	0.41	先	34.0				
1041	168	136	SI	25	QNW	堆積土上～中位	石鏃	ⅡC6a①	頁岩	2.64	1.60	0.31	1.65	0.19	0.40	0.15	0.66	先	30.5				アスファルト装着痕
1042	168	136	SI	26	QSE	堆積土上位	石鏃	ⅡC6a①	頁岩	4.07	1.58	0.55	2.58	0.35	0.63	0.15	2.00	先	43.0				
1043	168	136	SI	22	ベルトD(W側)	堆積土中位	石鏃	ⅡC6b②	頁岩	3.37	1.75	0.57	1.93	0.33	0.70	0.21	2.17	先	47.0				

第54表　石錐観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						先端角		剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)		
1044	168	136	SI	16	QSE	検出面	石錐	Ⅰ	頁岩	3.81	1.65	0.98	2.31	0.59	3.84	先	37.0				
1045	168	136	SI	16	QSW	7層	石錐	Ⅰ	頁岩	4.02	2.49	1.26	1.61	0.51	6.57	先	38.0				
1046	168	136	SI	17	QSE	堆積土最下位	石錐	Ⅰ	珪質頁岩	2.53	1.49	0.41	1.70	0.28	0.78	先	32.0				
1047	168	136	SD	04	14C25	1層下位	石錐	Ⅰ	頁岩	5.05	2.55	0.73	1.98	0.29	4.80	先	26.0				
1048	168	136			14C25	Ⅰ層下位	石錐	Ⅰ	頁岩	4.40	1.40	0.59	3.14	0.42	1.88	先	39.0				
1049	168	137			14D9	Ⅲ層中位	石錐	Ⅰ	頁岩	4.94	2.81	1.44	1.76	0.51	5.95	先	34.5			○	
1050	168	137			15C24	Ⅱ層上面	石錐	Ⅰ	珪化木	2.36	1.41	0.50	1.67	0.35	1.37	先	34.0				
1051	168	137			C区排土場		石錐	Ⅰ	頁岩	3.45	1.60	0.77	2.16	0.48	3.28	先	47.5	○	129.0		
1052	168	137	SI	17	ベルトB(N側)	堆積土上位	石錐	Ⅱ	頁岩	3.96	2.81	0.58	1.41	0.21	4.30	先	43.0				
1053	168	137	SI	17	QSW	堆積土上～中位	石錐	Ⅱ	黒曜石	1.95	1.89	1.03	1.03	0.54	3.07	先	84.0				里古屋－77
1054	169	137	SX	06	QNW	1層最下位	石錐	Ⅱ	頁岩	4.16	2.00	1.06	2.08	0.53	4.93	先	34.0				
1055	169	137	SD	04	14D4	堆積土下位	石錐	Ⅱ	頁岩	2.94	1.23	0.56	2.39	0.46	1.65	先	32.0	○	73.0		
1056	169	137	SD	04	15D1	堆積土中位	石錐	Ⅱ	頁岩	3.38	1.85	0.51	1.83	0.28	2.89	先	84.0	○	114.0		
1057	169	137			14D10	Ⅲ層下位	石錐	Ⅱ	頁岩	2.63	1.63	0.85	1.61	0.52	2.58	先	55.0				

第55表　石匙観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						刃部		剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)		
1058	169	137			4D1	Ⅳ層直上	石匙	ⅠA1	頁岩	7.00	2.00	0.76	3.50	0.38	8.67	片	63.0			○	
1059	169	137	SI	01	QNE	3層中位	石匙	ⅠA3	凝灰岩	7.88	2.43	1.02	3.24	0.42	17.85	両	65.0				
1060	169	137	SI	14	QSW	堆積土中位	石匙	ⅠA3	頁岩	8.32	1.93	1.14	4.31	0.59	19.33	両	84.0				
1061	169	137	SI	37	QNW	堆積土下位	石匙	ⅠA3	頁岩	8.00	1.99	0.83	4.02	0.42	12.60	両	64.0				二重パティナか
1062	169	137	SI	01	QNW	壁面	石匙	ⅠA4	頁岩	11.38	3.14	1.16	3.62	0.37	36.39	両	54.0				
1063	169	137	SI	12	QNE	堆積土上位	石匙	ⅠA4	頁岩	5.46	2.34	0.58	2.33	0.25	5.85	両	53.0				
1064	170	137	SD	04	14D9	堆積土下位	石匙	ⅠA4	頁岩	6.75	2.37	0.62	2.85	0.26	10.05	両	52.0				
1065	170	137	SX	06	QNE	2層中位	石匙	ⅠB2	頁岩	5.89	2.99	0.59	1.97	0.20	9.59	片	48.0				
1066	170	138			15D10	Ⅲ層下位	石匙	ⅠB2	頁岩	9.10	3.75	0.90	2.43	0.24	29.11	片	47.5	○	108.0		
1067	170	138	SI	02	QNE	床面	石匙	ⅠB3	頁岩	8.24	3.12	0.87	2.64	0.28	25.17	両	67.0	○	100.0	○	
1068	170	138	SK	39	QSE	1層中位	石匙	ⅠB3	頁岩	7.80	1.78	0.89	4.38	0.50	13.15	両	73.0				
1069	170	138			17D3撹乱	堆積土	石匙	ⅠB4	頁岩	5.65	2.44	0.52	2.32	0.21	7.29	両	57.0				
1070	170	138	SI	38	QSE	堆積土中位	石匙	ⅡA2	頁岩	4.32	1.77	0.37	2.44	0.21	3.41	片	52.0				
1071	170	138			19B区	表採	石匙	ⅡA2	頁岩	7.36	3.15	1.10	2.34	0.35	22.07	片	58.0	○	121.5		
1072	171	138	SI	23	QSE	1層	石匙	ⅡA3	頁岩	7.38	2.31	0.95	3.19	0.41	17.15	両	67.0			○	
1073	171	138			C区撹乱(宅地)	堆積土	石匙	ⅡA3	頁岩	4.33	4.65	0.70	0.93	0.15	15.75	両	64.5				
1074	171	138	SI	02		床直上	石匙	ⅡB2	頁岩	5.21	2.43	0.95	2.14	0.39	9.11	片	42.0	○	98.0		
1075	171	138			14C23	Ⅲ層下位	石匙	ⅡB2	頁岩	7.70	4.65	1.64	1.66	0.35	59.81	片	55.0			○	
1076	171	138			13C23	Ⅰ層	石匙	ⅡB3	頁岩(在地)	6.31	5.76	0.70	1.10	0.12	17.81	両	61.0	○	75.0	○	
1077	171	139			14C24	Ⅲ層中位	石匙	ⅡB3	頁岩	6.46	3.34	1.20	1.93	0.36	22.63	両	67.0				
1078	171	139	SX	07	QNW	堆積土下位	石匙	ⅡB4	頁岩	5.98	2.82	0.71	2.12	0.25	13.14	両	50.0				使用痕有
1079	171	139	SD	04	14D5	堆積土下位	石匙	ⅡB4	頁岩	5.25	4.96	0.94	1.06	0.19	12.39	両	54.0	○	101.5	○	
1080	172	139	SI	29	QSE	8層	石匙	ⅢA1	頁岩	2.84	5.83	0.63	0.49	0.11	8.43	片	64.0				
1081	172	139	SI	20	QSE	床面	石匙	ⅢA3	頁岩	5.59	7.49	1.47	0.75	0.20	44.01	両	66.0				

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						刃部		剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)		
1082	172	139	SD	04	15D1	底部	石匙	ⅢA3	頁岩	5.75	5.80	0.95	0.99	0.16	26.62	両	65.0			○	
1083	172	139	SI	10·15		堆積土中～下位	石匙	ⅢA4	赤色頁岩	3.21	5.02	0.81	0.64	0.16	10.43	両	59.0	○	113.0	○	
1084	172	139	SI	10·15		床直上	石匙	ⅢA4	頁岩	2.75	4.48	0.68	0.61	0.15	7.05	両	54.0				
1085	172	139	SI	11	QSW	床直上	石匙	ⅢA4	頁岩	4.99	6.72	1.10	0.74	0.16	17.17	両	54.0				
1086	173	139	SI	17	QNW	堆積土上位	石匙	ⅢA4	赤色頁岩	2.16	3.24	0.57	0.67	0.18	2.67	両	55.5				
1087	173	139			21B5	Ⅱ層中位	石匙	ⅢA4	頁岩	6.54	8.18	1.20	0.80	0.15	45.87	両	53.0	○	116.0		
1088	173	139			14C24	Ⅲ層中位	石匙	ⅢB1	頁岩	3.40	5.95	0.73	0.57	0.12	12.36	片	67.0				
1089	173	140			14C19	Ⅲ層下位	石匙	ⅢB3	頁岩	3.65	6.12	1.19	0.60	0.19	17.93	両	74.0				
1090	173	140			C区排土場	堆積土	石匙	ⅢB4	凝灰岩	2.84	4.24	0.96	0.67	0.23	8.26	両	48.5				

第56表　篦状石器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						刃部		剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)		
1091	174	140	SX	06	QNW	2層中位	篦状石器	ⅠB3	頁岩	6.70	2.90	1.31	2.31	0.45	29.92	両	73.0				
1092	174	140	SD	07	ベルトB	堆積土中位	篦状石器	ⅠB3	頁岩	6.75	2.31	1.13	2.92	0.49	22.86	両	87.0				
1093	174	140			13D4	Ⅲ層上位	篦状石器	ⅠB3	頁岩	7.83	3.22	1.46	2.43	0.45	42.93	両	75.0				二重パティナ
1094	174	140	SX	06	QNW	1層最下位	篦状石器	ⅡA2	頁岩	4.64	2.60	0.97	1.78	0.37	10.63	片	46.5				
1095	174	140	SD	04	14D5	堆積土上位	篦状石器	ⅡA3	頁岩	7.17	3.71	1.38	1.93	0.37	32.67	両	61.0	○	101.5		
1096	174	140	SX	02	QNW	堆積土下位	篦状石器	ⅡB3	頁岩	6.94	3.27	1.20	2.12	0.37	29.49	両	67.0				アスファルト付着
1097	175	140	SD	04	14D6	堆積土中位	篦状石器	ⅡC1	砂岩	9.09	4.25	1.92	2.14	0.45	101.37	片	75.0			○	亀の子型

第57表　楔形石器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	有無	角度(°)		
1098	175	140	SI	06	QNW	2層上面	楔形石器	Ⅰ	チャート	2.56	1.70	1.00	1.51	0.59	5.81			○	
1099	175	140	SI	38	QSW	床直上	楔形石器	Ⅰ	頁岩	2.90	2.31	0.75	1.26	0.32	5.59	○	128.0	○	
1100	175	140	SX	04	QSW	1層最下位	楔形石器	Ⅰ	頁岩	2.71	2.60	0.78	1.04	0.30	6.17				
1101	175	140	SD	04		堆積土	楔形石器	Ⅰ	頁岩	2.48	1.73	0.95	1.43	0.55	4.54				
1102	175	140			13C22	Ⅲ層上面	楔形石器	Ⅰ	黒曜石	1.35	1.71	0.51	0.79	0.30	5.32	○	97.0	○	里古屋－12
1103	175	140			14C21	Ⅲ層中位	楔形石器	Ⅰ	頁岩	3.53	3.25	0.85	1.09	0.26	11.11	○	96.0		
1104	175	140	SX	04	QSE	検出面	楔形石器	Ⅱ	頁岩	2.34	2.56	0.80	0.91	0.31	4.92	○	132.0		
1105	175	140	SD	04	15D2	堆積土中位	楔形石器	Ⅱ	頁岩	2.74	3.15	1.66	0.87	0.53	12.02				

第58表　スクレイパー類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						刃部		剥離角		欠損	自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)			
1106	176	141	SI	10·15	p4	堆積土	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	3.03	3.58	0.89	0.85	0.25	9.87	片	71.0	○	107.0		○	
1107	176	141	SX	06		検出面	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	8.38	2.27	1.61	3.69	0.71	21.35	片	62.5	○	110.5			
1108	176	141	SD	04	15D3	堆積土中位	スクレイパー類	ⅠA	赤色頁岩	5.08	2.47	0.90	2.06	0.36	12.75	片	69.0	○	97.0		○	
1109	176	141			14C18	Ⅲ層上位	スクレイパー類	ⅠA	頁岩(在地)	7.54	2.80	1.13	2.69	0.40	24.07	片	72.5				○	
1110	176	141			B区T3	Ⅰ層	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	4.47	3.62	0.66	1.23	0.18	12.96	片	61.0	○	118.0		○	
1111	176	141			C区排土場	堆積土	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	(4.63)	3.89	1.04	−	0.27	18.99	片	62.0			基部		
1112	176	141	SI	04	QNE	床直上	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	9.47	4.11	0.94	2.30	0.23	26.85	片	51.5	○	114.0		○	
1113	177	141	SI	22	QSE	堆積土下位	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	8.37	5.85	1.53	1.43	0.26	73.54	片	47.0	○	114.0			
1114	177	141	SX	06	QNE	1層中～下位	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	6.73	3.61	1.04	1.86	0.29	22.59	片	45.0					
1115	177	141			12C18	Ⅲ層下位	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	5.98	7.65	1.98	0.78	0.26	73.45	片	54.0					
1116	178	141			13C22	Ⅱ層下位	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	6.42	5.73	1.08	1.12	0.19	35.27	片	58.0	○	116.0		○	
1117	177	142			26B8	Ⅰ層	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	5.50	3.22	0.70	1.71	0.22	13.26	片	53.0	○	111.0		○	
1118	178	142	SI	02		床直上	スクレイパー類	ⅠC	頁岩	5.05	3.63	1.50	1.39	0.41	22.03	両	77.0				○	アスファルト付着
1119	178	142	SI	16	QNW	7層中位	スクレイパー類	ⅠC	頁岩	5.60	3.19	0.96	1.76	0.30	17.79	両	65.0	○	116.0			
1120	178	142	SI	17	QNW	堆積土上位	スクレイパー類	ⅠC	黒曜石	2.93	2.12	0.92	1.38	0.43	4.39	両	63.0					里古屋－79
1121	178	142	SD	04	14D7	堆積土下位	スクレイパー類	ⅠC	頁岩	4.62	3.93	1.61	1.18	0.41	26.52	両	63.0				○	
1122	178	142	SD	04	15D7	堆積土上位	スクレイパー類	ⅠC	頁岩	3.56	2.07	0.81	1.72	0.39	6.06	両	62.0					
1123	178	142	SI	02		床直上	スクレイパー類	ⅠD	頁岩	4.70	3.19	1.01	1.47	0.32	14.53	両	57.0					
1124	178	142	SX	07	ベルトB(N側)	3層下位	スクレイパー類	ⅠD	頁岩	5.05	3.24	1.00	1.56	0.31	19.81	両	45.0				○	
1125	179	142	SD	04	14D8	2層下位	スクレイパー類	ⅠD	頁岩	4.85	3.55	1.02	1.37	0.29	14.55	両	51.0	○	93.0		○	
1126	179	142			14B24	Ⅱ層下位	スクレイパー類	ⅠD	頁岩	5.77	3.58	1.17	1.61	0.33	31.09	両	58.5	○	115.0			
1127	179	142	SD	04	14D7	堆積土下位	スクレイパー類	ⅡB	頁岩	3.62	6.09	0.92	0.59	0.15	19.75	片	48.0	○	114.0		○	

第59表　二次加工ある剥片観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						刃部		剥離角		欠損	自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)			
1128	179	142	SD	04	15C22	堆積土上位	二次加工ある剥片	ⅠA	頁岩	4.83	4.23	0.88	1.14	0.21	18.09	片	67.0	○	120.0		○	
1129	180	142			14C18	Ⅱ層下位	二次加工ある剥片	ⅠA	頁岩(在地)	6.88	5.45	1.56	1.26	0.29	60.62	片	65.5				○	
1130	180	143	SX	02	QSW	堆積土下位	二次加工ある剥片	ⅠB	頁岩	6.44	6.25	0.81	1.03	0.13	27.50	片	57.0	○	104.0			
1131	180	143	SI	22	S側	堆積土	二次加工ある剥片	ⅠB	頁岩	5.14	2.54	0.72	2.02	0.28	10.41	片	50.0	○	104.0			
1132	180	143	SI	29	QSW	6層	二次加工ある剥片	ⅠB	頁岩	5.05	3.13	0.74	1.61	0.24	9.79	片	41.0	○	117.0			
1133	180	143	SI	38	QSW	堆積土中～下位	二次加工ある剥片	ⅠB	頁岩	5.87	5.85	1.16	1.00	0.20	35.71	片	45.0	○	110.0		○	
1134	180	143			C区撹乱(宅地)	堆積土	二次加工ある剥片	ⅠB	頁岩	6.47	5.00	1.14	1.29	0.23	42.68	片	48.0	○	121.0		○	
1135	181	143	SI	17	QSE	床面	二次加工ある剥片	ⅠC	頁岩	4.24	3.68	1.18	1.15	0.32	18.38	両	64.5				○	
1136	181	143	SI	34	ベルトC(W側)	堆積土中位	二次加工ある剥片	ⅠC	頁岩	6.72	4.62	1.14	1.45	0.25	35.34	両	72.5	○	118.5		○	
1137	181	143	SI	10·15	QNE	堆積土中位	二次加工ある剥片	ⅠD	頁岩	6.82	3.94	1.34	1.73	0.34	28.23	両	43.0	○	105.0			
1138	181	143	SI	06	QNW	堆積土中位	二次加工ある剥片	ⅡA	頁岩	2.99	4.24	0.83	0.71	0.20	8.80	片	60.0	○	108.0			
1139	181	143	SI	29	p23		二次加工ある剥片	ⅡA	頁岩	(4.24)	5.25	1.08	−	0.21	20.57	片	68.0			端部		
1140	182	144	SK	39	QNW	1層上位	二次加工ある剥片	ⅡA	頁岩	5.49	5.63	0.77	0.98	0.14	28.08	片	73.5	○	114.0		○	
1141	182	144	SD	07		1層	二次加工ある剥片	ⅡA	頁岩	4.79	5.27	1.15	0.91	0.22	24.28	片	61.0	○	113.0		○	
1142	182	144			14C10	Ⅲ層中位	二次加工ある剥片	ⅡA	頁岩	4.41	5.46	0.91	0.81	0.17	15.50	片	81.0	○	128.0		○	
1143	182	144	SI	24	QNE	床直上	二次加工ある剥片	ⅡB	頁岩	3.13	4.43	0.77	0.71	0.17	8.67	片	48.5				○	
1144	182	144			13D3	Ⅲ層下位	二次加工ある剥片	ⅡB	頁岩	4.07	5.86	0.98	0.69	0.17	19.05	片	58.5					
1145	182	144			14C18	Ⅲ層上位	二次加工ある剥片	ⅡC	頁岩	3.05	4.00	1.14	0.76	0.29	12.02	両	65.0	○	95.0			

第60表　微細剥離痕ある剥片観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	有無	角度(°)		
1146	183	144	SX	03	ベルトA(E側)	2層	微細剥離痕ある剥片	ⅠB	頁岩	5.78	5.08	1.68	1.14	0.33	29.72	○	113.0	○	
1147	183	144	SK	39	QSW	1層上～中位	微細剥離痕ある剥片	ⅠB	頁岩	(7.98)	2.84	0.75	－	0.26	18.62				
1148	183	144			T15	Ⅰ層	微細剥離痕ある剥片	ⅠB	頁岩	7.12	8.09	2.23	0.88	0.28	88.67	○	130.0	○	
1149	183	145	SI	27	QNE	1層	微細剥離痕ある剥片	ⅡB	頁岩	3.72	4.49	1.61	0.83	0.36	20.04	○	118.0	○	
1150	184	145			19C4	Ⅲ層中位	微細剥離痕ある剥片	ⅡB	頁岩	5.81	7.23	1.52	0.80	0.21	48.78	○	134.0		
1151	184	145			C区排土場	堆積土	微細剥離痕ある剥片	ⅡB	頁岩	4.34	5.29	1.35	0.82	0.26	27.85				

第61表　石核観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)		
1152	184	145	SI	11	ベルトA(E側)	堆積土中位	石核	Ⅶ	珪化木	2.99	2.41	1.59	1.24	0.66	10.02		
1153	184	145	SX	06	QNW	2層中位	石核	不可	珪質頁岩	3.77	6.92	3.26	0.54	0.47	76.36		
1154	185	145	SD	04	14D5	堆積土下位	石核	Ⅴ	頁岩	2.99	3.49	1.72	0.86	0.49	13.46		
1155	185	145	SD	04	14D4	堆積土下位	石核	Ⅴ	頁岩	3.84	4.36	1.44	0.88	0.33	23.61		
1156	185	146			14D10	Ⅲ層上位	石核	ⅥB	頁岩	2.01	3.06	1.80	0.66	0.59	8.58		
1157	185	146			14D15	Ⅲ層中位	石核	不可	頁岩	2.05	2.33	2.17	0.88	0.93	8.94		
1158	185	146			16C9	Ⅰ層中位	石核	不可	黒曜石	3.40	3.35	2.32	1.01	0.69	34.68		里古屋－81
1159	185	146			20C9	Ⅱ層中位	石核	Ⅲ	黒曜石	2.83	2.90	1.59	0.98	0.55	12.40	○	里古屋－82
1160	186	146			22B15	Ⅱ層	石核	ⅥC	頁岩	4.71	5.34	3.35	0.88	0.63	110.93		
1161	186	146			23D6	Ⅰ層	石核	Ⅰ	黒曜石	1.90	2.35	1.48	0.81	0.63	7.80	○	里古屋－83

第62表　剥片観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						剥離角		自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	有無	角度(°)		
1162	186	146	SI	06	QNE	1層	剥片	ⅠB	頁岩	4.77	3.50	1.74	1.36	0.50	17.10	○	110.0	○	アスファルト付着
1163	186	146	SI	06	QNE	1層	剥片	ⅡB	頁岩	3.05	4.28	1.01	0.71	0.24	11.10	○	115.0	○	アスファルト付着

第63表　石斧類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量								刃部			欠損	自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	基部幅	刃部幅	長さ/幅	厚さ/幅	基部幅/最大幅	重量(g)	形状 平面	形状 断面	角度(°)			
1164	187	147	SK	39	QSE	1層	石斧類	ⅠA1a	蛇紋岩	8.81	4.25	2.01	1.63	4.25	2.07	0.47	0.38	115.99	円	両	68.5	1(基部片面剥落)		
1165	187	147			12D18	Ⅰ層下位	石斧類	ⅠA1a	蛇紋岩	23.30	9.45	3.53	2.87	8.99	2.47	0.37	0.30	947.10	円	両	52.0	5(刃部片側ガジリ)		
1166	187	147			T2(12D区)	Ⅰ層	石斧類	ⅠA2e	細粒ハンレイ岩	8.45	(4.16)	2.44	1.52	－	－	－	－	133.14	直	両	68.0	5(刃基一部欠)		
1167	187	147			12D3	Ⅰ層下位	石斧類	ⅠA3a	細粒閃緑岩	12.94	4.30	2.72	－	3.85	3.01	0.63	－	222.33	円	両	68.0			
1168	187	147			14C22	Ⅲ層上位	石斧類	ⅠA-a	細粒閃緑岩	(11.01)	(5.25)	2.85	－	－	－	－	－	271.76	円	両	55.0	1(刃一部欠)		
1169	187	147	SX	04	ベルトA(W側)	2層	石斧類	ⅠA-c	ひん岩	(7.99)	3.62	2.14	－	3.62	－	0.59	－	105.18	偏	両	85.0	基部		
1170	188	147	SK	34	QSW	1層上位	石斧類	ⅠA-c	凝灰岩	(8.84)	4.83	2.87	－	4.83	－	0.59	－	208.14	偏	両	78.5	1		
1171	188	147	SD	04	15C24	堆積土上位	石斧類	ⅠB1e	砂岩	11.49	3.27	1.23	1.45	2.66	3.51	0.38	0.44	79.34	直	両	80.0			
1172	188	147			14C17	Ⅲ層上位	石斧類	ⅠB-a	細粒閃緑岩	21.49	5.42	3.32	1.48	3.74	3.96	0.61	0.27	677.88	円	両	44.0			
1173	188	147	SI	17	QSW	堆積土上位	石斧類	ⅡA-d	砂岩	11.92	6.17	2.87	－	－	1.93	0.47	－	299.61	偏	片	66.5		○	
1174	188	147	SI	17	QNW	1層中位	石斧類	ⅡB1a	頁岩(在地)	23.23	(9.55)	2.11	－	－	－	－	－	534.77	円	両	79.0	刃部	○	
1175	189	147	SD	04	15D3	堆積土上位	石斧類	ⅡB1a	頁岩(在地)	16.30	8.27	2.83	－	－	1.97	0.34	－	425.35	円	両	85.5			再加工
1176	189	147	SD	04	13D9	堆積土中位	石斧類	ⅡB1c	頁岩(在地)	21.55	6.77	2.14	－	－	3.18	0.32	－	382.69	偏	両	40.0		○	
1177	189	148			15C15	Ⅰ層下位	石斧類	ⅡB1c	頁岩(在地)	20.98	9.56	2.35	－	－	2.19	0.25	－	509.34	偏	両	94.5		○	
1178	189	148			24D4	Ⅱ層か	石斧類	ⅡB1d	頁岩(在地)	20.41	11.26	2.55	－	－	1.81	0.23	－	608.11	偏	片	54.0		○	
1179	190	148			T4	Ⅱ層	石斧類	ⅡB1f	頁岩(在地)	18.93	12.83	3.18	－	－	1.48	0.25	－	674.34	直	片	52.5		○	
1180	189	148	SI	25		堆積土上～中位	石斧類	ⅡB2d	頁岩(在地)	13.74	6.50	3.45	－	－	2.11	0.53	－	339.36	偏	片	71.5		○	
1181	190	148	SX	06	QNW	1層最下位	石斧類	ⅡB2f	頁岩(在地)	14.13	6.23	2.00	－	－	2.27	0.32	－	220.60	直	片	77.0		○	
1182	190	148	SI	18･19	QNW	2層中位	石斧類	ⅡD-b	頁岩(在地)	13.76	9.25	3.47	－	－	1.49	0.38	－	621.33	円	片	86.5		○	
1183	190	148	SI	18･19	QSW	床直上	石斧類	ⅡD-e	頁岩(在地)	12.10	10.88	4.50	－	－	1.11	0.41	－	648.98	直	両	88.5		○	

第64表　礫器類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						特徴
			種別	番号	位置（グリッド）					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	
1184	191	148			14C16	Ⅲ層上位	礫器類	ＩＡ	細粒閃緑岩	10.70	11.30	4.52	0.95	0.40	651.13	
1185	191	149	SI	25	QSW	床面	礫器類	ＩＢ	頁岩(在地)	16.45	10.05	3.65	1.64	0.36	681.68	
1186	191	149	SD	04	15D3	堆積土上位	礫器類	ＩＢ	頁岩(在地)	17.48	11.20	3.05	1.56	0.27	895.09	
1187	191	149			14C16	Ⅲ層中位	礫器類	ＩＣ	頁岩(在地)	10.38	7.00	2.67	1.48	0.38	240.67	
1188	192	149	SI	13･14	サブトレE	堆積土上位	礫器類	ＩＣ④	頁岩(在地)	13.98	9.02	3.54	1.55	0.39	627.40	特磨使用後、両端に刃部を形成
1189	192	149	SI	13	ベルトA(E側)	堆積土中～下位	礫器類	ＩＥ	頁岩(在地)	40.13	8.66	3.23	4.63	0.37	1428.62	握り部作出　打斧か
1190	193	149	SI	34	QNW	1層中位	礫器類	ＩＥ	頁岩(在地)	17.93	7.85	4.27	2.28	0.54	1052.31	
1191	191	149			14C18	Ⅲ層上位	礫器類	ＩＦ	頁岩(在地)	10.10	6.93	2.72	1.46	0.39	235.70	
1192	192	150	SI	04	QSW	堆積土下位	礫器類	ＩＧ	砂岩	13.77	7.87	3.38	1.75	0.43	399.71	素材長軸(側面)に刃部(二次加工)
1193	192	150	SX	06	QSE	1層中位	礫器類	ⅡＤ	頁岩(在地)	13.03	8.01	2.92	1.63	0.36	360.41	
1194	192	150			14C13	Ⅲ層上位	礫器類	ⅡＦ	頁岩(在地)	12.83	7.00	1.62	1.83	0.23	145.47	

第65表　敲磨器類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						機能部										欠損	特徴
			種別	番号	位置（グリッド）					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	磨面部				敲部				凹状				
																正	側	端	裏	正	側	端	裏	正	側	裏		
1195	193	150	SX	04	QSW	2層最下位	敲磨器類	ＩＡ２	頁岩(在地)	14.75	9.10	6.59	1.62	0.72	1166.08							2						
1196	193	150	SI	32	QSE		敲磨器類	ⅡＡ２	砂岩	19.65	6.91	4.00	2.84	0.58	811.89						1	2						
1197	193	150			A区撹乱	堆積土	敲磨器類	ⅡＡ２	頁岩(在地)	17.58	6.38	4.17	2.76	0.65	619.20							2						
1198	194	150			A区撹乱	堆積土	敲磨器類	ⅣＡ２	粘板岩	21.81	5.20	1.83	4.19	0.35	330.09						1							アバタ状
1199	194	150	SK	06		3層上面	敲磨器類	ＶＡ２	頁岩(在地)	19.07	4.25	3.82	4.49	0.90	334.97						2							
1200	194	150	SX	06	QNW	1層最下位	敲磨器類	ＩＢ１ａ	デイサイト	9.70	7.32	4.16	1.33	0.57	423.64	1			1	1							
1201	194	150	SI	34	中央S	2層最下位	敲磨器類	ＩＢ２ａ	頁岩(在地)	9.94	7.81	4.97	1.27	0.64	557.89	1			1			1					
1202	194	151			15D10		敲磨器類	ＩＢ２ａ	頁岩(在地)	9.04	9.41	3.44	0.96	0.37	439.83	1			1			1					
1203	194	151			13C9		敲磨器類	ⅡＣ２	砂岩	14.38	6.93	4.97	2.08	0.72	832.08						1			1		1		アバタ状(敲打)
1204	194	151			22B12		敲磨器類	ⅡＣ２	頁岩(在地)	15.37	5.78	3.38	2.66	0.58	389.94							1		3		4		
1205	195	151	SD	04	15D3	堆積土上位	敲磨器類	ⅢＣ２	砂岩	16.49	5.41	2.90	3.05	0.54	374.54						1	2		2		1		
1206	195	151	SX	06	QNW	2層中位	敲磨器類	ⅣＣ２	頁岩(在地)	20.74	5.06	3.11	4.10	0.61	501.96							2		3				
1207	195	151	SI	15	ベルトC(S側)		敲磨器類	ＩＤ１	ふん岩	9.51	7.21	4.99	1.32	0.69	456.82	1			1									
1208	195	151	SI	22	E側	堆積土	敲磨器類	ＩＤ１	砂岩	11.24	9.17	3.50	1.23	0.38	515.06	1												
1209	195	151	SX	04	QNE	1層	敲磨器類	ＩＤ１	礫岩	10.51	8.49	7.10	1.24	0.84	961.27	1												
1210	195	151	SD	04	14D4	堆積土下位	敲磨器類	ＩＤ１	頁岩(在地)	9.85	8.59	3.66	1.15	0.43	430.99	1												
1211	195	151	SD	04	16D1	堆積土中位	敲磨器類	ＩＤ１	安山岩	10.06	8.26	4.79	1.22	0.58	620.59	1			1									
1212	196	151			13C10	Ⅰ層下位	敲磨器類	ＩＤ１	斑岩	9.00	7.90	6.84	1.14	0.87	653.42	1			1									
1213	196	151			14C13		敲磨器類	ＩＤ１	凝灰岩	12.97	7.78	6.59	1.67	0.85	832.58	1												
1214	196	151	SI	22	S側	堆積土	敲磨器類	ＩＥ１ａ	砂岩	7.65	5.75	3.78	1.33	0.66	236.86	1			1					1		1		
1215	196	152	SI	27	p3	堆積土	敲磨器類	ＩＥ１ａ	ひん岩	10.20	8.27	4.15	1.23	0.50	567.61	1			1					2		2		アバタ状
1216	196	152			14D14		敲磨器類	ＩＥ１ａ	頁岩(在地)	9.87	7.88	6.15	1.25	0.78	796.18	1								1				アバタ状
1217	196	152			17B23撹乱	堆積土	敲磨器類	ＩＥ１ａ	砂岩	13.52	8.58	4.21	1.58	0.49	728.51	1			1					1		1		アバタ状
1218	196	152			14D14		敲磨器類	ＩＥ２ａ	砂岩	9.86	8.89	5.55	1.11	0.62	735.29	1	2		1					1		1		アバタ状
1219	197	152			12C23	Ⅰ層下位	敲磨器類	ＩＥ３ａ	砂岩	9.05	7.31	5.33	1.24	0.73	469.30	1	1							4		4		
1220	197	152	SI	17	ベルトB(W側)	3層上位	敲磨器類	ＩＦ１	閃緑岩	16.44	10.49	2.63	1.57	0.25	618.54									4		2		
1221	197	152			14C17		敲磨器類	ＩＦ１	ふん岩	9.72	6.86	6.64	1.42	0.97	561.83													石製品か
1222	197	152	SI	19	QNE	堆積土下位	敲磨器類	ＩＦ２	砂岩	13.23	8.07	3.57	1.64	0.44	438.10									1	1	3		

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						機能部										欠損	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	磨面部				敲部				凹状				
																正	側	端	裏	正	側	端	裏	正	側	裏		
1223	197	152			20C4		敲磨器類	ＩＦ２	砂岩	8.72	5.58	4.13	1.56	0.74	246.59									1	2	1		
1224	197	152	SD	04	14D2	堆積土下位	敲磨器類	ⅡＦ１	ふん岩	13.81	5.46	3.46	2.53	0.63	408.32									4		2		
1225	198	152	SX	02	QSW	1層	敲磨器類	ⅣＦ１	頁岩(在地)	23.73	6.36	1.96	3.73	0.31	434.02									6				
1226	198	153			14C12		敲磨器類	Ｆ１	頁岩(在地)	(19.66)	6.57	(2.87)	−	−	475.94									4以上			○	アバタ状
1227	198	153			13C2	Ⅰ層	敲磨器類	Ｆ２	砂岩	(15.63)	5.45	3.84	−	0.70	455.94									6	9?	4	○	アバタ状
1228	198	153	SK	06		堆積土中位	敲磨器類	ＩＧ	頁岩(在地)	11.49	7.83	5.55	1.47	0.71	646.97	1						1	1	2				アバタ状
1229	198	153			21B10		敲磨器類	ⅡＧ	頁岩(在地)	15.96	6.62	2.72	2.41	0.41	375.28	1			1			1	1	3		2		
1230	198	153			15D6		敲磨器類	Ｇ	頁岩(在地)	(12.30)	7.14	1.60	−	0.22	199.80	1					2			1				つまみ部か有
1231	199	153	SI	13·14	サブトレW	堆積土中位	敲磨器類	ＩＨ１ａ	安山岩	14.50	8.16	5.42	1.78	0.66	939.46		1											
1232	199	153	SX	06	QSE	1層中位	敲磨器類	ＩＨ１ｂ①	頁岩(在地)	13.15	7.37	4.40	1.78	0.60	689.78	1	1											使用面剥離多い
1233	199	153			21B14	Ⅱ層下位	敲磨器類	ＩＨ３ａ①	デイサイト	11.63	7.11	4.71	1.64	0.66	621.50	1	1											
1234	199	153			20C5	Ⅱ層上位	敲磨器類	ＩＨ３ｄ	砂岩	16.31	8.34	5.90	1.96	0.71	1095.53		2											1側面が主要な使用面、もう一方は部分的
1235	199	153	SI	32	QNE	堆積土上位	敲磨器類	ⅡＨ１ｂ	頁岩(在地)	17.52	7.44	3.53	2.35	0.47	667.29		1											半円状か・使用面磨痕少なく剥離多い
1236	199	153	SX	06	サブトレW	2層	敲磨器類	ⅡＨ１ｂ	砂岩	15.19	7.18	2.85	2.12	0.40	560.28		1											
1237	200	153	SI	17	ベルトA(E側)	3層下位	敲磨器類	ⅡＨ２ａ①	デイサイト	17.46	7.10	6.13	2.46	0.86	984.71		1					1	1					
1238	200	154	SD	04	15D3	堆積土上位	敲磨器類	ⅡＨ２ａ①②	閃緑岩	14.97	7.35	6.37	2.04	0.87	898.44	1	1		1			1	1					端部に敲打による潰れ痕
1239	200	154	SI	06	QNE	1層	敲磨器類	ⅡＨ２ｂ	砂岩	19.89	9.12	6.25	2.18	0.69	1279.08		1											
1240	200	154	SI	22	下層	堆積土	敲磨器類	ⅡＨ２ｂ①	珪岩	16.51	6.50	8.32	2.54	1.28	581.41							1	1					
1241	201	154	SI	37		堆積土下位	敲磨器類	ⅡＨ２ｂ①	砂岩	14.27	6.79	4.87	2.10	0.72	664.78		1					2	2					両端部に敲打による潰れ痕
1242	201	154			14D2	Ⅰ層中位	敲磨器類	ⅡＨ２ｂ②	砂岩	15.71	7.82	3.82	2.01	0.49	711.53	1	1	1										
1243	201	154			17C10撹乱	堆積土	敲磨器類	ⅡＨ３ｂ①	頁岩(在地)	17.51	7.34	7.16	2.39	0.98	1071.12		1					1	1					磨面端部側に敲打痕・敲打による潰れ痕、剥離
1244	201	154	SD	04	14D5	堆積土下位	敲磨器類	ⅢＨ３ｄ①	頁岩(在地)	19.42	5.72	4.00	3.40	0.70	615.03		1				1	1	1					端部に敲打痕・磨面は1側面が強く、もう一方は弱い
1245	201	154			14C24	Ⅲ層中位	敲磨器類	Ｈ２ｅ	頁岩(在地)	(15.37)	6.55	6.30	−	0.96	739.27		2										○端部	

第66表　砥石観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	石材	法量						特徴
			種別	番号	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	
1246	202	154	SD	04	14D5	堆積土下位	砥石	砂岩	12.42	6.41	1.79	1.94	0.28	240.43	正面長軸と同方向に擦痕・端部に敲打痕
1247	202	154			A区撹乱	堆積土	砥石	凝灰岩	10.88	10.48	5.60	1.04	0.53	898.05	正面に同一方向の擦痕・裏面はアバタ状の凹痕
1248	202	154			22B2	Ⅱ層中位	砥石	頁岩(在地)	11.07	6.40	5.00	1.73	0.78	470.79	正裏側面に擦痕・端部に敲打痕(1)

第67表　礫石錘観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						特徴
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	
1249	202	155	SD	04	14D5	堆積土下位	礫石錘	ＩＡ１	頁岩(在地)	7.41	9.70	1.84	0.76	0.19	184.33	紐掛け上1
1250	202	155			17B23撹乱	堆積土	礫石錘	ＩＡ１	砂岩	6.21	10.89	1.70	0.57	0.16	155.40	紐掛け上1
1251	202	155	SI	16	QSW	7層中位	礫石錘	ＩＡ２	頁岩(在地)	3.90	5.06	1.15	0.77	0.23	34.40	紐掛け上下各1
1252	202	155	SI	21	ベルトB	1層	礫石錘	ＩＡ２	頁岩(在地)	6.29	7.74	1.05	0.81	0.14	84.85	紐掛け上下各1
1253	202	155	SI	22	E側	堆積土	礫石錘	ＩＡ２	頁岩(在地)	6.82	9.98	2.11	0.68	0.21	210.72	紐掛け上下各1
1254	203	155	SX	06	QNW	1層最下位	礫石錘	ＩＡ２	頁岩(在地)	6.86	10.84	2.33	0.63	0.21	249.74	紐掛け上下各1
1255	203	155	SD	04	14D6	堆積土中位	礫石錘	ＩＡ２	頁岩(在地)	8.28	11.45	2.32	0.72	0.20	283.29	紐掛け上下各1・下は剥離多い
1256	203	155			13C15	Ⅱ層下位	礫石錘	ＩＡ２	頁岩(在地)	7.59	11.89	2.01	0.64	0.17	263.73	紐掛け上下各1,凹石から転用(正2・裏1)
1257	203	155			20C5	Ⅱ層下位	礫石錘	ＩＡ２	デイサイト	8.50	10.11	2.51	0.84	0.25	310.47	紐掛け上下各1
1258	202	155			C区排土場	表採	礫石錘	ＩＡ２	粘板岩	4.12	6.55	1.48	0.63	0.23	50.18	紐掛け上下各1
1259	203	155	SD	07	22B4〜5	堆積土下位	礫石錘	ＩＡ５	砂岩	6.58	10.37	2.24	0.63	0.22	231.33	紐掛け上2下1

第68表　石皿台石類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量						特徴	欠損
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)		
1260	204	155	SK	06		3層上面	石皿台石類	Ⅰ	砂岩	(12.70)	(8.90)	4.30	−	−	801.50	石皿	○
1261	204	155	SK	18		堆積土	石皿台石類	Ⅰ	凝灰岩	(30.20)	(17.50)	5.30	−	−	2590.69	石皿	○
1262	204	156	SD	04	15D1	1層下位	石皿台石類	Ⅰ	砂岩	(33.50)	(16.50)	5.60	−	−	4000.00	石皿	○
1263	205	156	SI	08	立石	床面	石皿台石類	Ⅱ	粘板岩	45.10	(30.00)	4.20	−	−	8500.00	台石	○
1264	204	156	SI	30	炉N側	床面	石皿台石類	Ⅱ	ひん岩	65.65	30.50	10.90	2.15	0.36	40500.00	台石・擦痕有り	

第69表　浮子観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	石材	法量				特徴	自然面	備考
			種別	番号	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1265	205	156	SI	17	QNE	堆積土中位	浮子	軽石	16.01	15.29	7.06	332.43	貫通孔1ヵ所	○	

第70表　石棒類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	法量				特徴	欠損	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1270	207	157			20B17	Ⅱ層上面	石棒類	Ⅰ	頁岩(在地)	(10.43)	3.59	0.88	58.26	両面磨痕		
1271	207	157			C区排土場		石棒類	Ⅰ	粘板岩	(8.91)	(3.76)	0.81	39.80	全面研磨	端部1/2	
1272	207	158	SD	04	15D5	堆積土下位	石棒類	Ⅰ	頁岩(在地)	(11.58)	3.14	1.31	46.86	両面磨痕.石剣	○	
1273	208	157			20B5	Ⅲ層上位	石棒類	Ⅰ	頁岩(在地)	40.17	9.46	2.70	1502.75	両面剥離.石剣	○	
1274	208	158	SD	04	14D4	堆積土上位	石棒類	Ⅱ	頁岩	6.49	1.13	1.00	8.42	全面研磨		
1275	208	158			A区攪乱	堆積土	石棒類	Ⅱ	粘板岩	(6.26)	(1.46)	(0.39)	4.48	全面研磨	側面のみ	
1276	208	158			19C2	Ⅲ層中位	石棒類	Ⅱ	頁岩(在地)	12.82	2.03	1.55	55.23	先端磨痕		
1277	209	158			T7斜面下側	Ⅰ層	石棒類	Ⅱ	粘板岩	(19.21)	3.38	2.96	270.67	成形のための敲打痕	基部	
1278	209	158	SI	18	15B24	床面	石棒類	Ⅱ	頁岩(在地)	43.06	5.03	3.05	971.78	両面剥離		

第71表　丸玉・玦状耳飾・不明抉入石器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	石材	法量					特徴	欠損	備考
			種別	番号	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	穿径(cm)	重量(g)			
1266	207	157			19B16	Ⅰ層下位	丸玉	滑石	2.02	2.06	1.06	0.60	6.22		○(ガジリ)	
1267	207	157	SI	21	ベルトB(N側)	2層	玦状耳飾	頁岩	3.10	(1.44)	0.37	0.87	2.35		○	
1268	207	157			20C3攪乱	堆積土	玦状耳飾	頁岩	(2.91)	(1.48)	0.38	0.86	2.62		○	
1269	207	157			13D9	Ⅰ層	不明抉入石器	頁岩	6.13	4.20	0.83	−	31.20	抉入部あり		

第72表　土師器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	種類	器種	残存位置	法量(cm)				外面調整	内面調整	外面色調	内面色調	胎土	備考
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	器厚						
1279	210	159	SI	35	QNE	床面	土師器	坏	体下半	－	－	(3.3)	0.4	回転ナデ	黒色処理・ミガキ調整	10YR6/2灰黄褐色	10YR3/1黒褐色	粉っぽい	

第73表　陶磁器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	器種	材質	出土地点			層位	残存部位	計測値(cm)			残存率(%)		装飾		産地	年代	備　考
					種別	番号	位置(グリッド)			器高	口径	底径	口径	底径	釉薬	絵付・文様			
1280	210	159	腰錆碗	陶器	SD	04	16C23	堆積土上位	口縁	(3.3)	－	－	5	0	灰釉＋鉄釉	螺旋状沈線	大堀相馬	18世紀代	
1281	210	159	天目茶碗	陶器	SD	07	ベルトB	6層	口縁	(1.0)	－	－	2	0	鉄釉		不明		
1282	210	159	丸碗	磁器			13D2	Ⅰ層下位	体	(1.9)	－	－	0	0	透明釉	海浜風景 or 草花文	肥前	大橋Ⅳ期	
1283	210	159	皿	磁器			16C4	Ⅰ層	底	(1.5)	－	7.6	0	20	透明釉	圏線	肥前	大橋Ⅳ期	内面蛇ノ目釉剥ぎ
1284	210	159	皿	磁器			15C21	Ⅰ層	口縁～底	3.0	13.2	4.0	2	45	透明釉		肥前	大橋Ⅳ期	内面蛇ノ目釉剥ぎ
1285	210	159	皿	磁器			文化課トレ	埋め戻し土	口縁	(1.8)	－	－	5	0	透明釉	草花文か	東北地方		
1286	210	159	擂鉢	陶器			16D1	Ⅰ層下位	体	(6.0)	－	－	0	0	鉄釉		東北地方		
1287	210	159	擂鉢	陶器			14C区	Ⅰ層下位	底	(3.1)	－	13.0	0	20	鉄釉		東北地方		
1288	210	159	擂鉢	陶器			15C21	Ⅰ層	底	(4.9)	－	10.6	0	20	鉄釉		東北地方		内面摩滅(使用痕)
1289	210	159	甕	陶器			19C19	Ⅰ層下位	口縁	(3.4)	－	－	0	0	鉄釉＋海鼠か		東北地方		
1290	210	159	花生か	磁器			27A区	排土場	底	(5.1)	－	3.8	0	100	透明釉	草花文か	東北地方		高台端部に砂目付着

第74表　金属製品観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	器種	出土地点			層位	法　量				備　考
				種別	番号	位置(グリッド)		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
1291	210	159	包丁			15C20	Ⅰ層下位	(17.3)	1.7～4.8	0.3～0.5	100.17	錆付着
1292	210	159	煙管(雁首)			21B9	Ⅰ層下位	(3.1)	1.5	0.10	2.94	銅製品

第75表　銭貨観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	法　量				材質	特　徴	欠損	初鋳年	備　考
			種別	番号	位置(グリッド)			直径(cm)	穿径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
1293	211	160	SD	04	15D5	堆積土上位	元豊通寶	2.32	0.64	0.13	2.05	銅			1078年	北宋
1294	211	160	SD	04	15D5	堆積土上位	不明	2.32	0.66	0.07	0.89	銅		○		1294～98固着
1295	211	160	SD	04	15D5	堆積土上位	永楽通寶	2.28	0.66	0.08	0.89	銅	裏なし(模鋳銭か)	○	1408年	1294～98固着
1296	211	160	SD	04	15D5	堆積土上位	永楽通寶	2.29	0.63	0.09	1.04	銅	線文太め(模鋳銭か)		1408年	1294～98固着
1297	211	160	SD	04	15D5	堆積土上位	永楽通寶	2.32	0.62	0.15	2.14	銅			1408年	1294～98固着
1298	211	160	SD	04	15D5	堆積土上位	不明	2.39	－	0.09	0.83	銅		○		1294～98固着
1299	211	160			C区撹乱(宅地)	堆積土	永楽通寶	2.36	0.53	0.11	1.82	銅			1408年	1299～1301固着
1300	211	160			C区撹乱(宅地)	堆積土	永楽通寶	2.34	0.53	0.11	2.25	銅			1408年	1299～1301固着
1301	211	160			C区撹乱(宅地)	堆積土	永楽通寶	2.33	0.55	0.10	1.76	銅			1408年	1299～1301固着
1302	211	160			24C17	Ⅱ層か	永楽通寶	2.51	0.55	0.16	2.35	銅			1408年	
1303	211	160	SD	04	14D5	堆積土上位	寛永通寶	2.27	0.53	0.14	2.41	銅			1636年	古寛永
1304	211	160			B区T3	Ⅰ層	寛永通寶	2.75	0.59	0.13	2.75	銅			1697年	新寛永
1305	211	160			C区撹乱(宅地)	堆積土	寛永通寶	2.55	0.59	0.11	2.93	銅			1636年	古寛永
1306	211	160			20D4	Ⅰ層下位	寛永通寶	2.81	0.59	0.11	3.66	真鍮	四文銭		1768年	11波
1307	211	160			A区撹乱	堆積土中位	祥符通寶	2.66	0.64	0.14	2.40	銅		○	1009年	北宋

第76表　産地同定黒曜石観察表

試料No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	石材	石材産地	法　量(cm)				備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ	幅	厚さ	重量(g)	
里古屋－1					14D3	Ⅲ層上位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	(3.26)	(1.09)	0.48	1.55	
里古屋－2					14C25	Ⅲ層上位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	(1.45)	(1.06)	0.37	0.57	
里古屋－3			SI	06		3層中	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.87	1.24	0.31	0.67	
里古屋－4	166	135	SD	04	14D4	7層上面	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.66	1.35	0.49	0.73	1004
里古屋－5	167	136	SD	04	14D5	堆積土下位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	(1.81)	(1.59)	0.46	0.73	1019
里古屋－6			SD	04	14D9	堆積土3層下位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	(1.41)	(0.84)	(0.20)	0.24	
里古屋－7	165	135			14C12	Ⅲ層上位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.53	1.03	0.22	0.23	984
里古屋－8					14D14	Ⅲ層中位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.57	1.27	0.64	0.92	
里古屋－9			SI	04	12C17	堆積土	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.20	1.07	0.20	0.15	
里古屋－10			SI	06	QNE	堆積土上位	石鏃	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.41	(1.63)	0.31	0.52	
里古屋－11			SI	01	QSE	3層下位	楔形石器	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.19	1.61	0.73	2.70	
里古屋－12	175	140			13C22	Ⅲ層上面	楔形石器	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.35	1.71	0.51	5.32	1102
里古屋－13			SD	04	14D3	堆積土下位	二次加工ある剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.30	1.64	0.42	0.48	
里古屋－14			SX	02	QNW	堆積土1層	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.06	1.01	0.17	0.31	
里古屋－15			SI	06	QNE	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.06	0.74	0.16	0.16	
里古屋－16			SI	10·15		堆積土中～下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.06	0.94	0.29	0.23	
里古屋－17			SI	10·15		堆積土中～下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.37	1.29	0.30	0.78	
里古屋－18			SI	13		堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.48	2.30	0.76	2.80	
里古屋－19			SI	13	QNW	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.37	0.90	0.35	0.27	
里古屋－20			SI	13	QNE	堆積土中位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.58	3.04	0.96	5.37	
里古屋－21			SI	13	QSE	床直上	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.76	0.96	0.43	0.68	
里古屋－22			SK	10		底面	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.84	1.34	0.30	0.43	
里古屋－23			SD	04	14C25	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.51	1.74	0.62	1.54	
里古屋－24			SD	04	14C25	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	0.79	0.58	0.22	0.06	
里古屋－25			SD	04	14C25	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.32	0.81	0.22	0.18	
里古屋－26			SD	04	14D3	堆積土下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.44	2.23	0.54	1.53	
里古屋－27			SD	04	14D5	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.04	0.69	0.27	0.14	
里古屋－28			SD	04	14D5	堆積土下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.65	0.92	0.56	0.69	
里古屋－29			SD	04	14D5	堆積土下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.62	2.29	0.62	2.19	
里古屋－30					14D7	Ⅲ層下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.24	0.78	0.21	0.16	
里古屋－31			SD	04	14D10	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.69	0.67	0.67	0.83	
里古屋－32			SD	04	14D8	堆積土上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.41	2.37	0.59	1.64	
里古屋－33					12C12	Ⅰ層下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	3.05	1.09	0.91	2.67	
里古屋－34					13C22	Ⅰ層下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.60	1.77	0.70	1.25	
里古屋－35					13C22	Ⅲ層上面	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	0.51	0.66	0.25	0.06	
里古屋－36					14C8	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	3.22	2.16	1.35	7.12	
里古屋－37					14C12	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	3.39	1.65	0.87	3.49	
里古屋－38					14C14	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.49	1.04	0.65	2.09	
里古屋－39					14C14	Ⅲ層中位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.03	1.25	0.26	0.22	
里古屋－40					14C16	Ⅲ層中位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.12	2.93	1.22	6.78	
里古屋－41					14C18	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.05	0.79	0.27	0.40	
里古屋－42					14C18	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.05	1.90	0.23	0.36	
里古屋－43					14C19	Ⅲ層直上	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	3.20	3.07	1.28	8.03	
里古屋－44					14C22	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.23	1.66	0.67	1.94	
里古屋－45					14C24	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.89	1.49	0.33	0.85	
里古屋－46					14C25	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	0.66	0.68	0.13	0.05	
里古屋－47					14D5	Ⅲ層下位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.40	1.89	0.45	0.86	
里古屋－48					14D9	Ⅲ層上位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.08	1.71	0.35	0.68	
里古屋－49					14D15	Ⅲ層中位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	2.22	1.09	0.33	0.65	
里古屋－50					14D15	Ⅲ層中位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.77	2.12	0.37	1.12	
里古屋－51					15D6	Ⅲ層中位	剥片	黒曜石	小赤沢(雫石)	1.04	0.40	0.15	0.03	
里古屋－53			SI	34	ベルトB-N	堆積土中位（3回目）	石鏃	黒曜石	月山系	1.90	(1.49)	0.55	1.16	
里古屋－54					15B16	Ⅱ層中位	石鏃	黒曜石	月山系	2.06	(1.35)	0.36	0.74	
里古屋－55			SX	04	QSE	黒色層上位	石鏃	黒曜石	月山系	1.47	(1.26)	0.34	0.33	
里古屋－56			SD	04	15C25	堆積土下位	石鏃	黒曜石	月山系	2.04	1.67	0.51	1.01	
里古屋－57	166	135	SI	13·14	QNE	堆積土中位	石鏃	黒曜石	月山系	1.82	1.22	0.34	0.53	998
里古屋－58			SI	26	ベルトE	堆積土上～中位	石鏃	黒曜石	月山系	(1.35)	1.53	0.47	0.78	
里古屋－59			SX	04	QNW	1層中位	石鏃	黒曜石	月山系	(0.98)	1.29	0.29	0.29	
里古屋－60			SX	07	QNW	黒褐色土下位	石鏃	黒曜石	月山系	(1.67)	1.45	0.48	0.72	
里古屋－61			SD	04	15D2	堆積土上位	石鏃	黒曜石	月山系	(2.25)	1.71	0.41	1.30	
里古屋－62					15C8	Ⅲ層上位	石鏃	黒曜石	月山系	1.94	(1.20)	0.44	0.63	
里古屋－63	167	136	SI	22	QNE	1層	石鏃	黒曜石	月山系	1.19	0.92	0.31	0.21	1016
里古屋－64			SI	22	QSE	1層	石鏃	黒曜石	月山系	1.51	(1.29)	0.33	0.41	
里古屋－65	166	135	SI	25	中央S	堆積土下位	石鏃	黒曜石	月山系	1.95	1.48	0.25	0.41	1002
里古屋－66	166	136	SD	04	15C25	堆積土上位	石鏃	黒曜石	月山系	1.80	1.39	0.35	0.47	1006
里古屋－67			SD	04	15D1	堆積土中位	石鏃	黒曜石	月山系	1.26	0.97	0.27	0.25	
里古屋－68			SD	04	15D1	堆積土中位	石鏃	黒曜石	月山系	2.06	(1.79)	0.65	1.36	
里古屋－69			SD	04	15D2	堆積土中位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	1.00	(1.04)	0.24	0.17	
里古屋－70	166	136			14C10	Ⅲ層上位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	1.50	1.28	0.31	0.33	1009
里古屋－71					15B16	Ⅲ層下位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	1.18	(1.07)	0.23	0.16	
里古屋－72					15B21	Ⅱ層下位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	1.44	0.98	0.26	0.31	
里古屋－73					15C7	Ⅲ層中位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	1.50	(0.96)	0.28	0.21	
里古屋－74	167	136			15C19	Ⅲ層下位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	1.92	1.54	0.36	0.68	1011

試料No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	石材	石材産地	法量(cm)				備考
			種別	番号	位置(グリッド)					長さ	幅	厚さ	重量(g)	
里古屋－75			SD	04	15D5	堆積土中位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	2.05	(1.14)	0.40	0.75	
里古屋－76			SI	14	QSE	堆積土上位	石錐	黒曜石	不明(未知)	(0.85)	(0.61)	0.32	0.11	
里古屋－77			SI	17	QSW	堆積土上～中位	石錐	黒曜石	不明(未知)	1.95	1.89	1.03	3.07	
里古屋－78			SI	16	QNW	8層	楔形石器	黒曜石	不明(未知)	1.95	1.29	0.60	1.27	
里古屋－79	178	142	SI	17	QNW	堆積土上位	スクレイパー類	黒曜石	不明(未知)	2.93	2.12	0.92	4.39	1120
里古屋－80			SI	18	QNW	堆積土下位	二次加工ある剥片	黒曜石	不明(未知)	1.79	1.09	0.38	0.76	
里古屋－81	185	146			16C9	Ⅰ層中位	石核	黒曜石	不明(未知)	3.40	3.35	2.32	34.68	1158
里古屋－82	185	146			20C9	Ⅱ層上位	石核	黒曜石	不明(未知)	2.83	2.90	1.59	12.40	1159
里古屋－83	186	146			23D6	Ⅰ層	石核	黒曜石	不明(未知)	1.90	2.35	1.48	7.80	1161
里古屋－84			SD	04	15D7	堆積土上位	石鏃	黒曜石	不明(未知)	(0.98)	(0.51)	(0.18)	0.07	

Ⅶ　調査のまとめ

1　遺　　構

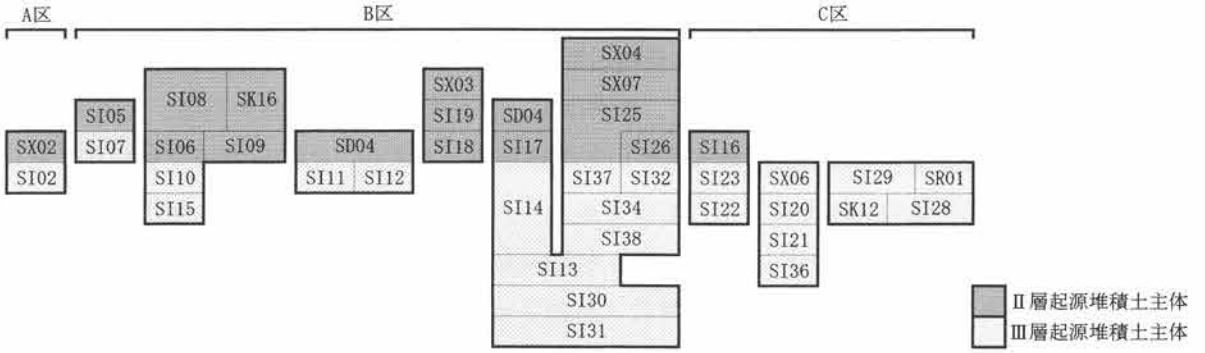
今回の3ヵ年に亘る調査で、竪穴住居跡38棟、住居状遺構8棟、土坑47基、焼土跡・炉跡24基、土器埋設遺構2基、配石遺構1基、墓坑2基、堀跡2条、溝跡5条、井戸跡1基、石組遺構1基、ピット326個、採掘坑3箇所が出土した。

この中で、特に縄文時代と平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡に関連する事項について触れる。

(1) 縄文時代

縄文時代の竪穴住居跡は計37棟出土している。区域ごとに見ると、A区3棟、B区25棟、C区9棟と分布しており、B区が全体の67.6%を占めている。

第212図に遺構重複関係図を示した。本調査ではⅤ検出遺構で述べたように、多くの遺構が重複関係を持って検出された。遺構の重複関係は、遺物を考慮しない先後関係を把握するのに有効である。



第212図　遺構重複関係図

ここではまず、主な遺構から新旧を明らかにする（旧<新）。

A区　SI02竪穴住居跡<SX02住居状遺構

B区　①SI15竪穴住居跡<SI10竪穴住居跡<SI06竪穴住居跡<SI08竪穴住居跡、SI09竪穴住居跡<SI08竪穴住居跡、SI09竪穴住居跡<SK16土坑　②SI11竪穴住居跡<SD04堀跡、SI12竪穴住居跡<SD04堀跡　③SI18竪穴住居跡<SI19竪穴住居跡<SX03住居状遺構　④SI31竪穴住居跡<SI30竪穴住居跡<SI13竪穴住居跡<SI14竪穴住居跡<SI17竪穴住居跡<SD04堀跡、SI31竪穴住居跡<SI30竪穴住居跡<SI13竪穴住居跡<SI38竪穴住居跡<SI34竪穴住居跡<SI37竪穴住居跡<SI25竪穴住居跡<SX07住居状遺構<SX04住居状遺構、SI38竪穴住居跡<SI34竪穴住居跡<SI32竪穴住居跡<SI26竪穴住居跡<SI25竪穴住居跡

C区　①SI22竪穴住居跡<SI23竪穴住居跡<SI16竪穴住居跡　②SI36竪穴住居跡<SI21竪穴住居跡<SI20竪穴住居跡<SX06住居状遺構　③SK12土坑<SI29竪穴住居跡、SI28竪穴住居跡<SI29

竪穴住居跡、SI28 竪穴住居跡<SR01 土器埋設遺構

最も多くの重複関係を持つのはＢ区④で、ほとんどが15Ｃ区を中心とする10×10ｍ強の範囲から出土している。最も旧いSI31 竪穴住居跡は遺構の大半をSD04 堀跡に切られており、残存する斜面上部のみからSI31 竪穴住居跡拡張前が推定450 ㎝、SI31 竪穴住居跡拡張後が残存615 ㎝の長方形プランを呈する。その後にSI30 竪穴住居跡がほぼ連続する時期に構築されたと見られ、長軸が残存740 ㎝の長方形プランを持つ。SI13 竪穴住居跡は東端でSI31 竪穴住居跡と重複しており、これよりも新期に位置付けられる。規模はこれもまたSD04 堀跡に切られており全形は把握できないが、残存803 ㎝の長方形プランを持つと思われる。

ここまでの３棟はいずれも長方形基調の住居形態を持つ。連続する時期に形成されたかは不明であるが、徐々に大型化する傾向がある。その後のSI14 竪穴住居跡はSI13 竪穴住居跡と異なり、残存475 ㎝の円形プランとなる（SD04 堀跡により半壊）。SI14 竪穴住居跡と直接的な重複関係を持つのは、廃棄後に完全に埋もれた段階で構築されたSI17 竪穴住居跡で、これもSD04 堀跡により半壊しているが、残存377 ㎝の円形プランとなる。もう一方の重複関係は、SI13 竪穴住居跡とSI38 竪穴住居跡で遺構南端が重複し、SI38 竪穴住居跡のほうが新期である。SI38 竪穴住居跡も残存678 ㎝の長方形プランをもつ住居形態であるが、他の長方形プランの竪穴住居跡が斜面に平行して（等高線に沿って）構築されているのに対して、この住居は斜面に直行して構築されている点で異なる。SI34 竪穴住居跡はSI38 竪穴住居跡によって掘り込まれた凹みを廃棄後に利用して、反復的に構築された住居であろう。形状は長楕円形で、SI38 と同様に斜面に直行して長軸が向けられている。規模は残存で554 ㎝であるが、本来はもっと長大であったと思われる。SI37 竪穴住居跡は、大半をSI25 竪穴住居跡に破壊されているため不明であるが、これは円形プランと考えられ、やはりSI34 廃棄後の凹みを利用したものであろう。SI25 竪穴住居跡とSI26 竪穴住居跡はほぼ連続した時期に構築されたと考えられ、堆積土の状況も相似性がある。推定600×500㎝ の楕円形プランであるSI26 竪穴住居跡を廃棄後に、斜面上部へ掘り広げて推定550×500 ㎝の円形プランであるSI25 竪穴住居跡を構築している。またSI32 竪穴住居跡は、SI34 とSI26 竪穴住居跡の間にあり、長軸545 ㎝ある楕円形プランである。SI25 廃棄後は、ほぼ同位置に円形プランのSX07 住居状遺構が作られ、また楕円形のSX04 住居状遺構もその後に形成される。

Ｃ区で特徴的な重複関係は①である。この3棟は同一箇所に反復して構築されたこと、いずれも異なる炉形態を有すること、焼失住居と思われる状況を示すことなどが上げられる。まず、最下層であるSI22 竪穴住居跡は、長軸が推定540 ㎝の円形プランで、床面中央には日字形土器埋設複式炉を持つ。廃棄後まもなく、人為的な整地が行われた可能性があり、SI22 炉を埋めて新たな床面が形成された。床面中央やや南寄りには廃棄後壊されたと見られる石囲炉1基を検出した。規模は推定440 ㎝の円形プランであるが、上層のSI16 に破壊されているため不明である。３棟の中で最も新期であるSI16 は下層２棟より形状を残しており、長軸520 ㎝の円形プランを形成している。炉は床面中央やや南寄りにあり、長方形の石囲炉を有する。３棟とも円形プランであるが、床面を再構築しながら、日字形土器埋設炉（中央）<長方形石囲炉（中央やや南）<長方形石囲炉（中央やや南）と変遷している。後2基は中央から南寄りへと位置が移るため、縄文時代中期後半に特徴

的な複式炉へと変化する過渡期の竪穴住居跡と考えられる。また、ほぼ連続的な床面の再構築、各面での炉の作り替えは、短期間での「改修」を示している。

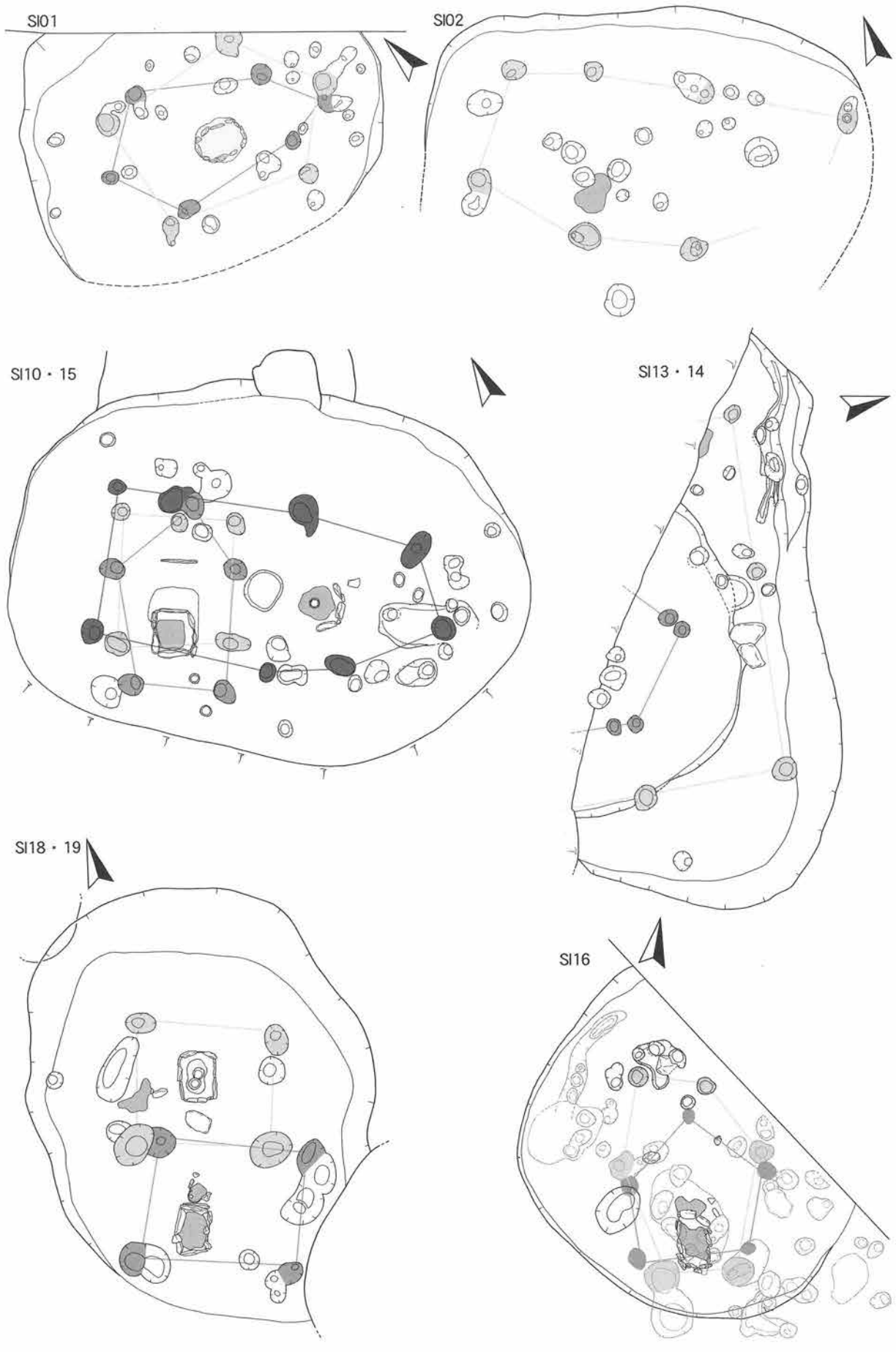
第212図遺構重複関係図には、主な遺構堆積土を合わせて示している。本遺跡から出土する遺構は、Ⅱ層黒褐色土を主体とする堆積土とⅢ層暗褐色土を主体とする堆積土のいずれかを廃絶後に堆積しており、含まれる遺物にも違いがある。Ⅱ層起源堆積土を主体とする遺構はA区SX02住居状遺構、B区SI05～09・17～19・25・26竪穴住居跡、SX03・04・07住居状遺構、SK16土坑、SD04堀跡、C区SI16竪穴住居跡、Ⅲ層起源堆積土を主体とする遺構はA区SI02竪穴住居跡、B区SI10～15・30～32・34・37・38竪穴住居跡、C区SI20～23・28・29・36竪穴住居跡、SX06住居状遺構、SK12土坑、SR01土器埋設遺構である。この他に重複関係を持たない主な遺構として、Ⅲ層起源堆積土を主体とする遺構はA区SI01・03竪穴住居跡、SX01住居状遺構、B区SI24・33竪穴住居跡、C区SI27竪穴住居跡、Ⅱ層起源堆積土を主体とする遺構はなく、SI04竪穴住居跡は堆積土が残存しておらず不明である。出土遺物と合わせて見ると、Ⅱ層起源堆積土を主体とする遺構からはⅤ～Ⅶ群土器主体に出土しており、Ⅲ層起源堆積土を主体とする遺構からはⅢ～Ⅳ群土器を主体とする傾向にある。

柱穴配置から住居変遷を観察するために、第213～215図柱穴配置想定図を作成した。SI01・02・10・13・14・15・16・18・19・20・22・25・26・28・29・30・31・34・36・38竪穴住居跡の計20棟を対象とする。

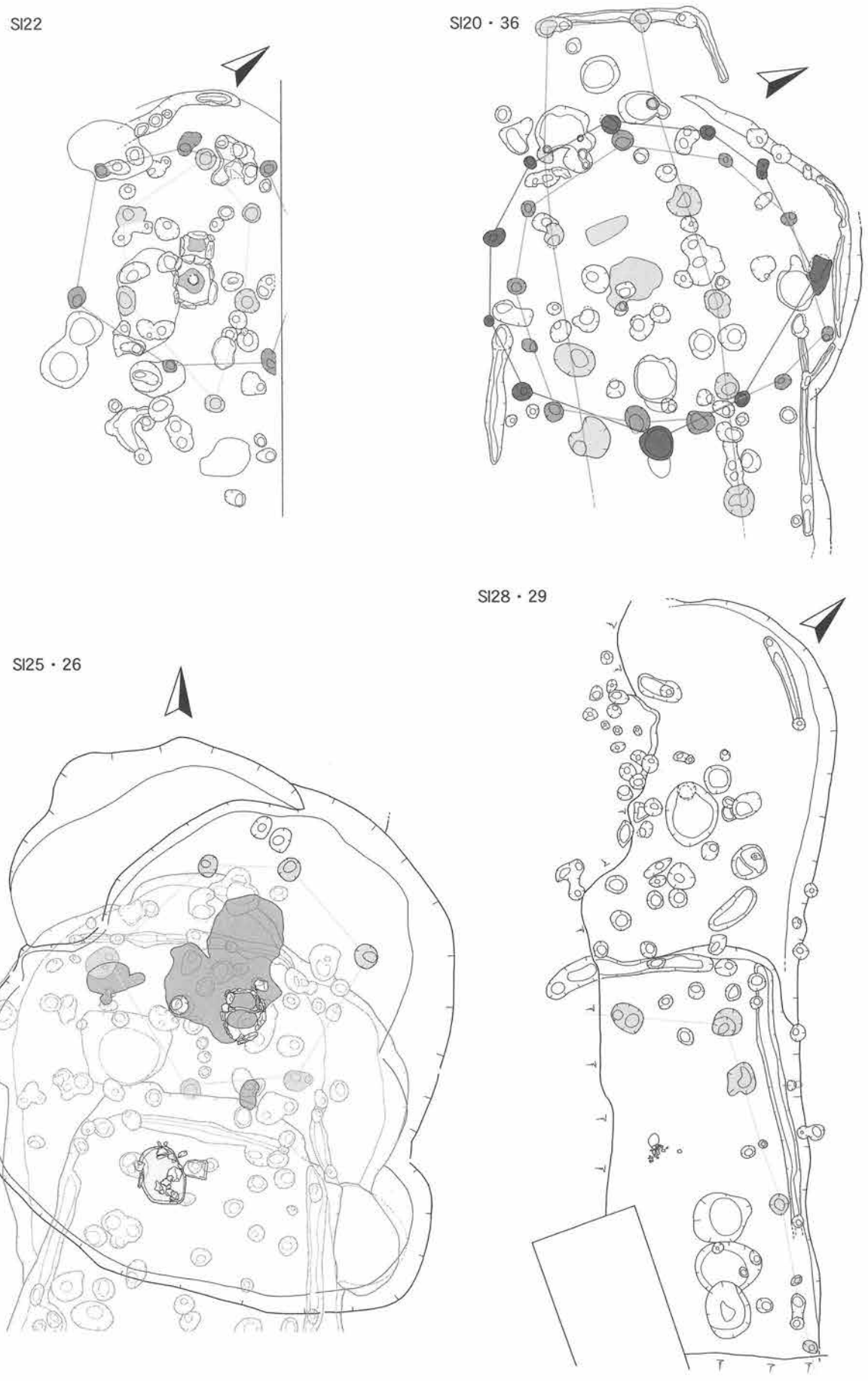
ここでまず、竪穴住居跡の重複関係を表す用語として、①「重複」→竪穴住居が偶然切り合うこと、②「反復」→旧竪穴住居の窪地を再利用すること、③「建て替え」→地点の新旧を問わず集落内での新築、④「拡張」→旧竪穴住居を連続使用しつつ手直しすること（赤山 1982）の4段階を示しておく。

A区は2棟が対象である。SI01竪穴住居跡は2段階の配置が想定される。第1段階を六角形、第2段階を五角形とすれば、拡張住居が想定される。SI02竪穴住居跡は柱穴8個を利用した、長方形配置が想定される。また廃棄後に、SX02住居状遺構が反復して同位置に構築されたと考えられる。

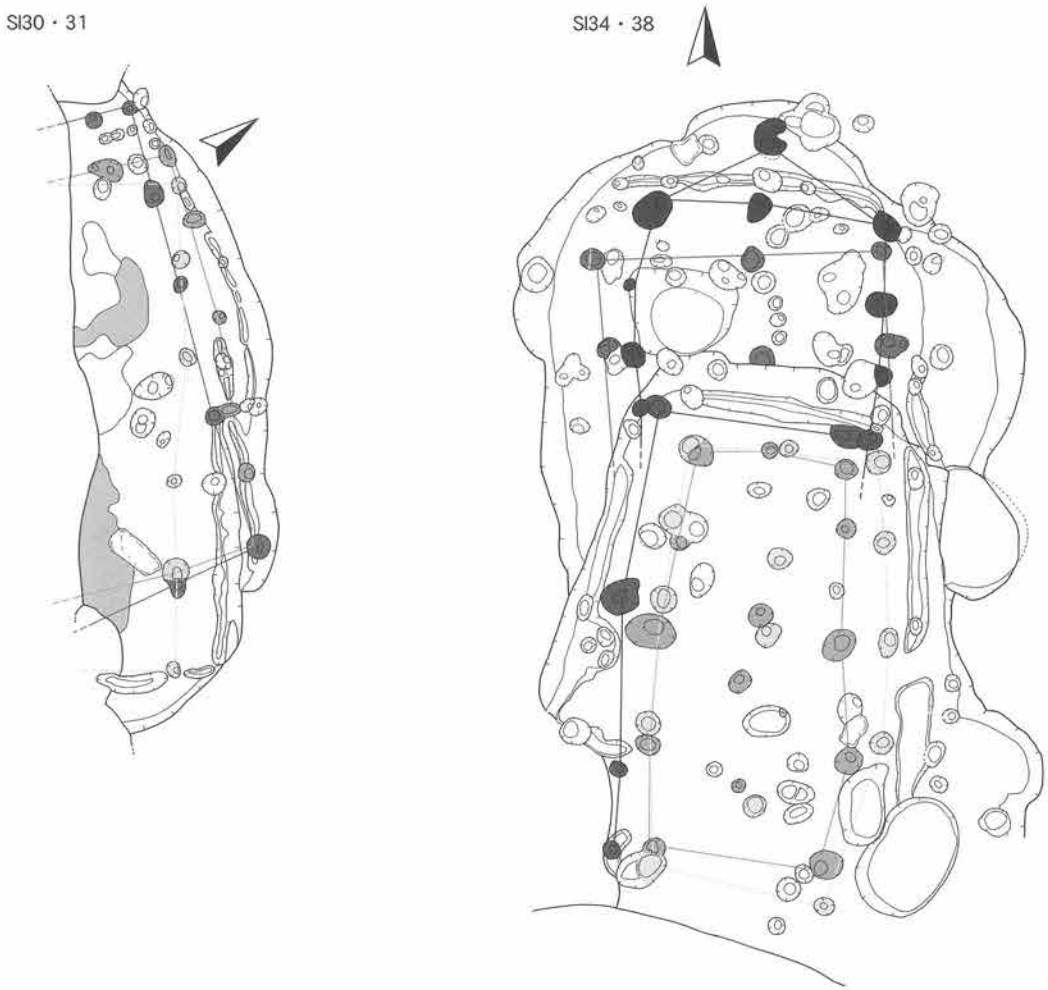
B区は12棟が対象である。SI10・15竪穴住居跡は重複関係にあり、先述からSI15竪穴住居跡<SI10竪穴住居跡が明らかである。SI15竪穴住居跡は柱穴8個を利用した、長方形配置が想定される。またSI10竪穴住居跡は2段階の配置が想定される。先後関係は不明であるが、方形と五角形の配置を想定できる。SI13・14竪穴住居跡は重複関係にあり、先述からSI13竪穴住居跡<SI14竪穴住居跡が明らかである。SI13竪穴住居跡は南半がSD04堀跡に破壊されているため不明だが、おそらく柱穴8個を使用した長方形配置であろう（2×2間）。SI14竪穴住居跡も同様で南半は不明であり、配置は推定不明である。SI18・19竪穴住居跡は重複関係にあり、SI18竪穴住居跡<SI19竪穴住居跡が分かっている。いずれも柱穴4個を使用した方形配置が想定される。SI25・26竪穴住居跡は重複関係にあり、SI26竪穴住居跡<SI25竪穴住居跡が分かっている。このうちSI25竪穴住居跡のみが配置を推定でき、柱穴6個を使用した六角形の配置が見出される。SI30・31竪穴住居跡は重複関係にあり、SI31竪穴住居跡<SI30竪穴住居跡が明らかである。SI31竪穴住居跡は2段階の配置が想定される。拡張前の第1段階は南半を欠いているが、おそらく柱穴14個を使用



第213図　竪穴住居跡柱穴配置想定図(1)



第214図　竪穴住居跡柱穴配置想定図(2)



第215図　竪穴住居跡柱穴配置想定図(3)

した長方形配置(2×5間)、拡張後の第2段階は同じく南半を欠いており、おそらく柱穴12個を使用した長方形配置(2×4間)と考えられ、拡張住居を呈している。またSI30竪穴住居跡も同様に南半を欠いているが、柱穴14個を使用した長方形配置(2×5間)の建て替え拡張使用と考えられる。SI34·38竪穴住居跡は最も重複の著しかった15C区最下層の遺構である。先述から、SI38竪穴住居跡<SI34竪穴住居跡が明らかである。SI38竪穴住居跡は3段階の配置が追えるが、先後関係は不明である。住居内の拡張を想定するならば、柱穴11個を使用した長方形配置(2×4間)が第1段階、やや大きめの柱穴11個を使用した長方形配置(2×4間)が第2段階、最終プランの壁付近に配置されたおそらく柱穴8個を使用した長方形配置(1×3間)の第3段階が読み取れる。SI34竪穴住居跡は精査手順の前後で、南半を欠いてしまったが、3段階の配置が想定される。いずれも長方形配置と考えられるが、第1段階と思われる柱穴5個以上を使用した2×?間の配置、第2段階は柱穴10個以上を使用した2×4間以上と短軸に柱穴1個分の張り出しを持つもの、第3段階は最も大きいプランで壁際に柱穴10個以上が巡るものである。

C区は6棟が対象である。SI16·22·23竪穴住居跡の3棟は重複関係にあり、先述からSI22竪穴住居跡<SI23竪穴住居跡<SI16竪穴住居跡が分かっている。しかし、配置が見出せたのはSI16·22竪穴住居跡の2棟である。SI22竪穴住居跡は2段階が想定され、第1段階は柱穴6個を使用し

た六角形配置、第2段階は北東は調査区外だが、柱穴7個を使用した七角形配置と思われる。SI16竪穴住居跡も2段階が想定され、柱穴5個を使用した五角形配置から、柱穴6個を使用した六角形配置の流れが考えられる。SI20･36は重複関係にあり、SI36竪穴住居跡<SI20竪穴住居跡が明らかである。SI36竪穴住居跡は柱穴11個以上を使用した長方形配置（1×6間以上）の長方形プランである。これに対して、SI20竪穴住居跡は2段階が想定されるがいずれも壁際に巡るタイプで、10個と11個の柱穴を使用している。SI28･29竪穴住居跡も重複関係にあり、SI28竪穴住居跡<SI29竪穴住居跡が分かっている。配置は見出せるのはSI28竪穴住居跡のみで、柱穴7個以上が長方形配置（1×5間以上）される。

ここまで、遺構の重複関係、主体堆積土の相違、住居内変遷について見てきたが、最後に出土遺物を合わせて里古屋遺跡の縄文時代の集落形態を想定したい。

本遺跡出土土器については、Ⅳ遺物分類において第Ⅰ～Ⅸ群の9区分を行った。このうち、Ⅸ群はいずれかに当てはまる不明土器で、実際は以下の第Ⅰ～Ⅷ群までの8区分となる。

第Ⅰ群　縄文時代早期末葉　→赤御堂式相当
第Ⅱ群　縄文時代前期初～前葉　→大木2式相当
第Ⅲ群　縄文時代前期後葉　→大木5式相当
第Ⅳ群　縄文時代前期末葉～中期前葉　→大木6～7式相当
第Ⅴ群　縄文時代中期中葉　→大木8式相当
第Ⅵ群　縄文時代中期後葉～末葉　→大木9～10式相当
第Ⅶ群　縄文時代後期初頭　→門前式相当
第Ⅷ群　縄文時代後期～晩期　→大洞式相当等

ここで、留意しておかなければならない点は、前時期の遺構が完全に埋没した後に、重複して後時期の遺構が構築された場合、前時期に比定される遺物が後時期の遺構から出土することはあり得るが、前時期の遺構に後時期に比定される遺物が出土することは基本的にはあり得ないということである。ただし、両遺構が連続する時期もしくは前時期の遺構の埋没速度が著しく遅く、窪地を再利用して「反復」した遺構が構築される場合、また後時期の攪乱による遺物混入などは考慮しなければならない。

これを踏まえて、各遺構の出土土器と帰属時期を区域ごとに概観すると以下のようになる。

A区
SI01竪穴住居跡　Ⅳ群主体　中期前葉
SI02竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉～中期前葉
SI03竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉
SX01住居状遺構　Ⅳ群主体　前期末葉
SX02住居状遺構　Ⅳ群出土　前期末葉～中期前葉

B区
SI04竪穴住居跡　Ⅳ･Ⅴ･Ⅶ･Ⅸ群出土で、Ⅶ群主体　後期初頭
SI05竪穴住居跡　Ⅳ･Ⅴ･Ⅶ群出土で、Ⅶ群主体　後期初頭

SI06 竪穴住居跡　Ⅳ～Ⅶ・Ⅸ群出土で、床直上はほぼⅣ群だが、Ⅶ群多い　後期初頭
SI07 竪穴住居跡　炉埋設土器がⅦ群　後期初頭
SI08 竪穴住居跡　Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅸ群出土でⅣ群多いが、床面出土がⅦ群　後期初頭
SI09 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　中期前葉
SI10 竪穴住居跡　Ⅳ～Ⅵ群主体　床面土器から中期中葉
SI11 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　中期前葉
SI12 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉
SI13 竪穴住居跡　Ⅳ・Ⅴ・Ⅸ群出土で、Ⅳ群主体　前期末葉～中期前葉
SI14 竪穴住居跡　Ⅳ・Ⅴ群出土で、Ⅴ群主体　中期中葉
SI15 竪穴住居跡　Ⅳ～Ⅵ群主体　中期前～中葉
SI17 竪穴住居跡　Ⅳ～Ⅶ・Ⅸ群出土で、Ⅶ群主体　後期初頭
SI18 竪穴住居跡　Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ群出土で、Ⅳ群主体（Ⅵ・Ⅶ群は重複するＳＩ19伴出か）中期前葉
SI19 竪穴住居跡　炉埋設土器がⅥ群　中期後葉
SI24 竪穴住居跡　縄文時代
SI25 竪穴住居跡　Ⅲ～Ⅵ・Ⅸ群出土で、Ⅳ群主体だが、床面からⅤ・Ⅵ群　中期中葉～後葉
SI26 竪穴住居跡　Ⅳ・Ⅴ・Ⅸ群出土で、Ⅳ群主体だが、床直上からⅤ群　中期中葉～後葉
SI30 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉
SI31 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉
SI32 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉～中期前葉
SI33 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　中期前葉
SI34 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　中期前葉
SI37 竪穴住居跡　Ⅳ群主体だが、堆積土中位からⅤ群　中期中葉
SI38 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉
SX03 住居状遺構　Ⅲ～Ⅶ群出土で、底面からⅥ群　中期後葉
SX04 住居状遺構　Ⅴ～Ⅶ・Ⅸ群出土で、Ⅶ群主体　後期初頭
SX05 住居状遺構　Ⅳ群主体　中期前葉
SX07 住居状遺構　Ⅳ～Ⅶ・Ⅸ群出土で、Ⅶ群主体　後期初頭
SK16 土坑　Ⅳ群主体　中期前葉

Ｃ区

SI16 竪穴住居跡　Ⅳ・Ⅵ・Ⅸ群出土で、Ⅵ群主体　中期後葉
SI20 竪穴住居跡　Ⅲ・Ⅳ・Ⅸ群出土で、Ⅳ群主体　中期初頭
SI21 竪穴住居跡　Ⅸ群主体で、Ⅳ群もある　前期末葉
SI22 竪穴住居跡　Ⅳ群主体　中期前葉
SI23 竪穴住居跡　Ⅳ～Ⅵ・Ⅸ群出土で、Ⅵ群主体　中期後葉
SI27 竪穴住居跡　Ⅲ・Ⅳ群出土で、Ⅳ群多い　前期後葉～中期前葉
SI28 竪穴住居跡　Ⅲ・Ⅳ群出土で、Ⅲ群多い　前期後葉～中期前葉

SI29竪穴住居跡　Ⅲ・Ⅳ・Ⅸ群出土で、Ⅳ群主体　中期前葉
SI36竪穴住居跡　Ⅳ群主体　前期末葉
SX06住居状遺構　Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ群出土で、Ⅳ群主体　中期前葉
SX08住居状遺構　縄文時代

各遺構の出土遺物を考慮して、先述した遺構重複関係を再考すると以下の通りとなる。

A区　SI02竪穴住居跡（前期末葉～中期前葉）<SX02住居状遺構（前期末葉～中期前葉）

B区　①SI15竪穴住居跡（中期前～中葉）<SI10竪穴住居跡（中期中葉）<SI06竪穴住居跡（後期初頭）<SI08竪穴住居跡（後期初頭）、SI09竪穴住居跡（中期前葉）<SI08竪穴住居跡（後期初頭）、SI09竪穴住居跡（中期前葉）<SK16土坑（中期前葉）　②SI11竪穴住居跡（中期前葉）<SD04堀跡（中世）、SI12竪穴住居跡（前期末葉）<SD04堀跡（中世）　③SI18竪穴住居跡（中期前葉）<SI19竪穴住居跡（中期後葉）<SX03住居状遺構（中期後葉）　④SI31竪穴住居跡（前期末葉）<SI30竪穴住居跡（前期末葉）<SI13竪穴住居跡（前期末葉～中期前葉）<SI14竪穴住居跡（中期中葉）<SI17竪穴住居跡（後期初～前葉）<SD04堀跡（中世）、SI31竪穴住居跡（前期末葉）<SI30竪穴住居跡（前期末葉）<SI13竪穴住居跡（前期末葉～中期前葉）<SI38竪穴住居跡（前期末葉）<SI34竪穴住居跡（中期前葉）<SI37竪穴住居跡（中期中葉）<SI25竪穴住居跡（中期中葉～後葉）<SX07住居状遺構（後期初頭）<SX04住居状遺構（後期初頭）、SI38竪穴住居跡（前期末葉）<SI34竪穴住居跡（中期前葉）<SI32竪穴住居跡（前期末葉～中期前葉）<SI26竪穴住居跡（中期中葉～後葉）<SI25竪穴住居跡（中期中葉～後葉）

C区　①SI22竪穴住居跡（中期前葉）<SI23竪穴住居跡（中期後葉）<SI16竪穴住居跡（中期後葉）　②SI36竪穴住居跡（前期末葉）<SI21竪穴住居跡（前期末葉）<SI20竪穴住居跡（中期初頭）<SX06住居状遺構（中期初頭）　③SK12土坑<SI29竪穴住居跡（中期前葉）、SI28竪穴住居跡（中期前葉）<SI29竪穴住居跡（中期前葉）、SI28竪穴住居跡（中期前葉）<SR01土器埋設遺構（中期前葉）

大半の場合は前時期<後時期、または同時期<同時期の流れとなっているが、B区④のSI13竪穴住居跡（前期末葉～中期前葉）<SI38竪穴住居跡（前期末葉）は一部出土遺物の時期が逆転している。これは堆積土中に他の重複遺構からの異なる時期の遺物が流入したものと判断される。

最後に住居内に設置された炉について言及したい。計37棟のうち、何らかの炉施設が構築された竪穴住居跡は28棟である。このうち、地床炉15棟、石囲炉7棟、複式炉1棟、土器埋設地床炉1棟、土器埋設石囲炉2棟、土器埋設複式炉2棟で、53.6％が地床炉である。

地床炉はSI02（前期末葉～中期前葉）・03（前期末葉）・06（後期初頭）・09（中期前葉）・13（前期末葉～中期前葉）・20（中期初頭）・21（前期末葉）・23（中期後葉）・27（前期末葉～中期前葉）・30（前期末葉）・31（前期末葉）・32（前期末葉～中期前葉）・33（中期前葉）・36（前期末葉）竪穴住居跡の15棟に見られる。圧倒的に前期末葉～中期前葉の竪穴住居跡に多く見られ、13棟がこの範疇に含まれる。

石囲炉はSI01（中期前葉）・05（後期初頭）・08（後期初頭）・10（中期中葉）・16（中期後葉）・18（中期前葉）・26（中期中葉～後葉）竪穴住居跡の7棟で見られる。最も古い中期前葉のSI01竪穴住居跡では床面中央に楕円形の石囲炉を設置している。中期中葉のSI10・26竪穴住居跡、中期後葉の

SI16竪穴住居跡になるとやや南寄りに設置され始め、後期初頭のSI05・08竪穴住居跡ではやや南西寄りとなる。SI05・08竪穴住居跡の石囲炉は類似性があり、同時存在または近い時期に構築された遺構の可能性がある。

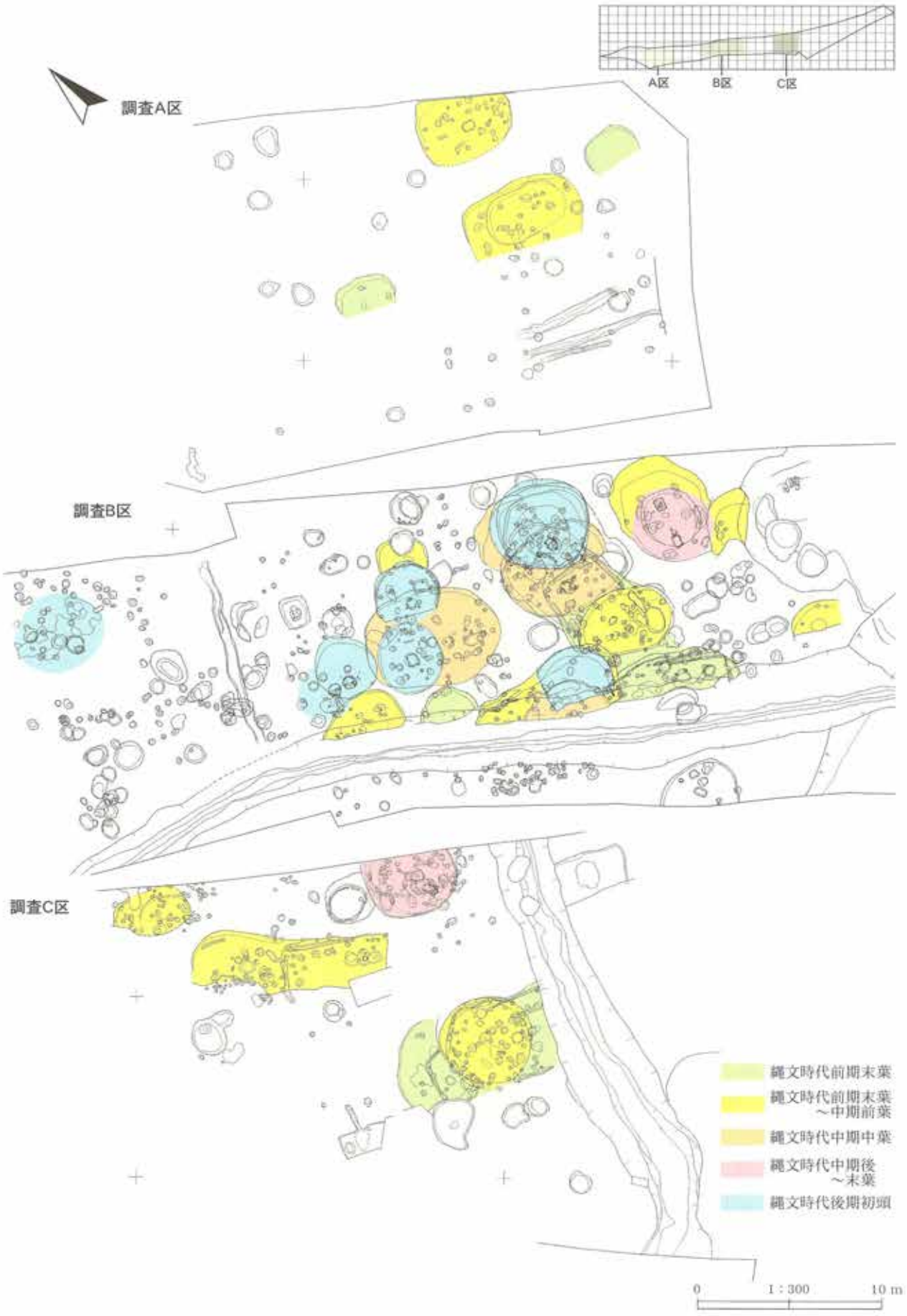
土器埋設石囲炉はSI07（後期初頭）・15（中期前～中葉）竪穴住居跡の2棟に見られる。中期前～中葉のSI15竪穴住居跡は土器下半のみを中央に設置するタイプで、ほぼ円形を呈している。後期前葉のSI07竪穴住居跡炉については、埋設というよりも「敷設」としたほうが適当かもしれない。破壊された炉のため、全形は不明であるが敷設土器の上に黄褐色粘土質土を貼り、円形に石囲いをしていたものと考えられる。これは後期初頭のSI17竪穴住居跡に見られる土器埋設地床炉の「土器を埋設（敷設）した後に土を被せる」ことと共通性がある。

複式炉及び土器埋設複式炉はSI19（中期後葉）・22（中期前葉）・25（中期中葉～後葉）竪穴住居跡の3棟で見られる。中期前葉のSI22竪穴住居跡に設置されている複式炉は燃焼部を2ヵ所持つ日字形を呈しており、一方に土器下半を埋設している。中期中葉～後葉のSI25竪穴住居跡炉はやや南寄りに設置され、燃焼部及び前庭部どちらも強変しており、範囲は炉外側床面に拡がっている。中期後葉のSI19竪穴住居跡はやや南西寄りに、石組前庭部の北側に土器上半のみを倒立させて設置している。埋設土器はⅥ群に含まれる。SI22とSI19・25では複式炉の形態に差異があり、前者は中央に構築されるのに対して、後者は南壁側に偏る傾向がある。これは時期差と捉えられよう。

第216図に時期別遺構配置図を示した。先述した土器分類第Ⅰ群～第Ⅷ群の8区分を用いて、比定される遺構の分布状況を表している。

A区は出土している竪穴住居跡3棟及び住居状遺構2棟すべてが前期末葉～中期前葉期の範疇に含まれる。分布はA区北～北東に集中しており、SI02竪穴住居跡及びSX01住居状遺構は遺構の規模・形状が類似している。

B区は最も遺構重複が著しい区域である。全部で竪穴住居跡25棟、住居状遺構4棟などを出土している。この中で前期末葉～中期前葉期に比定される遺構は竪穴住居跡11棟、住居状遺構1棟である。竪穴住居跡は円形基調のSI09（中期前葉）・12（前期末葉）・18（中期前葉）・33（中期前葉）竪穴住居跡、楕円形基調のSI11（中期前葉）・32（前期末葉～中期前葉）・34（中期前葉）竪穴住居跡、長方形基調のSI13（前期末葉～中期前葉）・30（前期末葉）・31（前期末葉）・38（前期末葉）竪穴住居跡、住居状遺構は円形基調のSX05（中期前葉）住居状遺構がある。前期末葉期では長方形基調のSI30・31・38竪穴住居跡を中心として、円形基調のSI12竪穴住居跡やSX05住居状遺構が付属的に分布し、その後、中期前葉期に至ると楕円形基調のSI11・32・34竪穴住居跡を中心として、円形基調のSI09・18・33竪穴住居跡が付属するような配置が想定される。中期中葉期に比定される遺構は竪穴住居跡4棟である。内訳はSI10・14・15・37竪穴住居跡であり、SI15以外は円形基調、SI15は楕円形基調となる。遺構分布は14～15C・D区の狭い範囲に限られる。中期後葉～末葉期に比定される遺構は竪穴住居跡3棟、住居状遺構1棟である。内訳は円形基調のSI19・25竪穴住居跡、SX03住居状遺構、楕円形基調のSI26竪穴住居跡である。SI19・SX03とSI25・26はそれぞれ重複関係にあるため、この区域を限定して考えれば、1時期の最大戸数は2棟である。区



第216図　時期別遺構配置図

域はＢ区の中でも15～16 Ｂ・Ｃグリッドの狭い範囲に限定される。後期初頭期に比定される遺構は竪穴住居跡６棟、住居状遺構2棟などであり、本遺跡でこの時期に比定される遺構はＢ区のみに限定される。遺構形態は円形基調のSI05･06･07･08･17竪穴住居跡、楕円形と思われるSI04竪穴住居跡で、SI05･07竪穴住居跡及びSI06･08竪穴住居跡は重複、またSI05･06竪穴住居跡は近接しているため、同時存在する可能性はSI04･17と前４棟のいずれかに限られる。また、SI06とSI17に関しては、遺構堆積土内に多量の遺物が見つかっており、通常の堆積では考えづらい。遺構廃棄後に「ゴミ捨て場」として投げ込まれた可能性がある。

Ｃ区は竪穴住居跡９棟、住居状遺構２棟が分布している。時期はⅢ～Ⅳ群期とⅥ群期に比定される。前期末葉～中期前葉期に比定される遺構は円形基調のSI20（中期初頭）･21（前期末葉）･22（中期前葉）竪穴住居跡、楕円形基調のSI27（前期後葉～中期前葉）竪穴住居跡、SX06（中期初頭）住居状遺構、長方形基調の28（前期後葉～中期前葉）･29（中期前葉）･36（前期末葉）竪穴住居跡である。SI28･29竪穴住居跡とSI20･21･36竪穴住居跡、SX06住居状遺構はそれぞれ重複関係にあるため、同時存在は不可能である。このうち同じ長方形基調の大型竪穴住居跡であるSI28とSI36竪穴住居跡は軸線も似通っており、同時存在した可能性がある。その後にSI21･27竪穴住居跡のような若干不整な形の遺構が構築され、中期初～前葉期に至りSI20･22竪穴住居跡、SX06住居状遺構のような円形の遺構が作られる傾向にある。中期後葉期に比定される遺構は、SI16･23竪穴住居跡の２棟のみであり、両者は先述したとおり連続した「改修」の可能性があり、前時期の窪地を利用した（SI22廃棄後）遺構である。

今回の調査は、里古屋遺跡の北半一部を調査したことになる。このため、遺跡全体の様相は調査成果から類推するしかないが、遺跡の占地と変遷についてまとめると以下の通りとなる。

① 前期末葉期→円形基調でやや小型の竪穴住居跡･住居状遺構が遺跡西側の沢を挟んで作られ（Ａ～Ｂ区東）、長方形基調の竪穴住居跡は調査区中央から東側（Ｂ区東～Ｃ区西）に長軸が等高線に沿うように作られる。地床炉が主体となる。

② 中期初～前葉期→楕円形･長方形基調の竪穴住居跡･住居状遺構が中心となり、その周辺に円形基調が作られるようになる。住居形態は円形が中心となりつつある。小単位のまとまりがそれぞれの区域に拡がる。

③ 中期中葉期→長方形基調の竪穴住居跡は姿を消し、楕円形は僅かで円形の竪穴住居跡が中心となる。分布はＢ区中央に集中し、範囲は小さくなる。

④ 中期後～末葉期→大半が円形基調の竪穴住居跡で、僅かに楕円形がある。分布はＢ区中央とＣ区西に限られる。複式炉主体となる。

⑤ 後期初頭期→ほぼ円形基調の竪穴住居跡となり、範囲もＢ区東～中央に限られる。

(2) 平　安　時　代

平安時代の遺構はSI35竪穴住居跡1棟のみである。Ｃ区西20Ｃ22に位置し、南半を削平された形で検出した。残存から、一辺３ｍ前後の方形と見られ、Ｎ－17°－Ｅと若干北西に煙道が設置されている。煙道は上面を削平されているため不明だが、底面の深さから掘り込み式と思われる。

遺構の存続年代と思われる出土遺物は、1279の内面黒色処理土師器坏片1点のみである。

他に同時期と思われる遺構は調査区内には見つかっていない。しかし、竪穴住居跡1棟のみが集落として形成されていたとは考えにくい。SI35竪穴住居跡の位置するC区西の斜面下位は他地点よりも傾斜が緩く、ほぼ平坦な箇所に遺構が構築されている。これは調査区外へもこの地形が続くことから、遺構が点在する可能性がある。

(3) 中　世　以　降

今回の調査で、中世及び中世以降と考えられる堀跡2条を検出した。B区を東西に走るSD04とC区を南北に走るSD07で、SD04堀跡は全長66m、幅3～7mで断面はV字形(薬研堀)、SD07堀跡は全長24.2m、幅2.19～4.43mで断面は逆台形(箱堀)を呈する。両者は堆積状況に相違点を持ち、SD04堀跡は主に斜面上位の縄文時代遺物包含層及び遺構堆積土から流入した黒褐色土主体であるのに対して、SD07堀跡は中礫などの黄褐色砂礫土を主体とする堆積を成している。出土遺物はいずれも縄文時代の土器･石器を含むが、それ以外としてはSD04堀跡が堆積土上位から18世紀代の大堀相馬産腰錆碗片、銭貨7点(元豊通寶･永楽通寶･寛永通寶など)を出土しているのに対して、SD07堀跡は6層から時期不明の鉄釉天目茶碗片などのみである。前項にも記したが、堆積状況･遺構形態から同時存在の可否は不明である。

第217図　調査区の周辺地形

第217図に本調査区を含む調査区北側の周辺地形を示した。山林の地権者である菊池隆氏のご厚意により、調査区外にも関わらず地形測量にご協力頂いた。記して感謝したい。

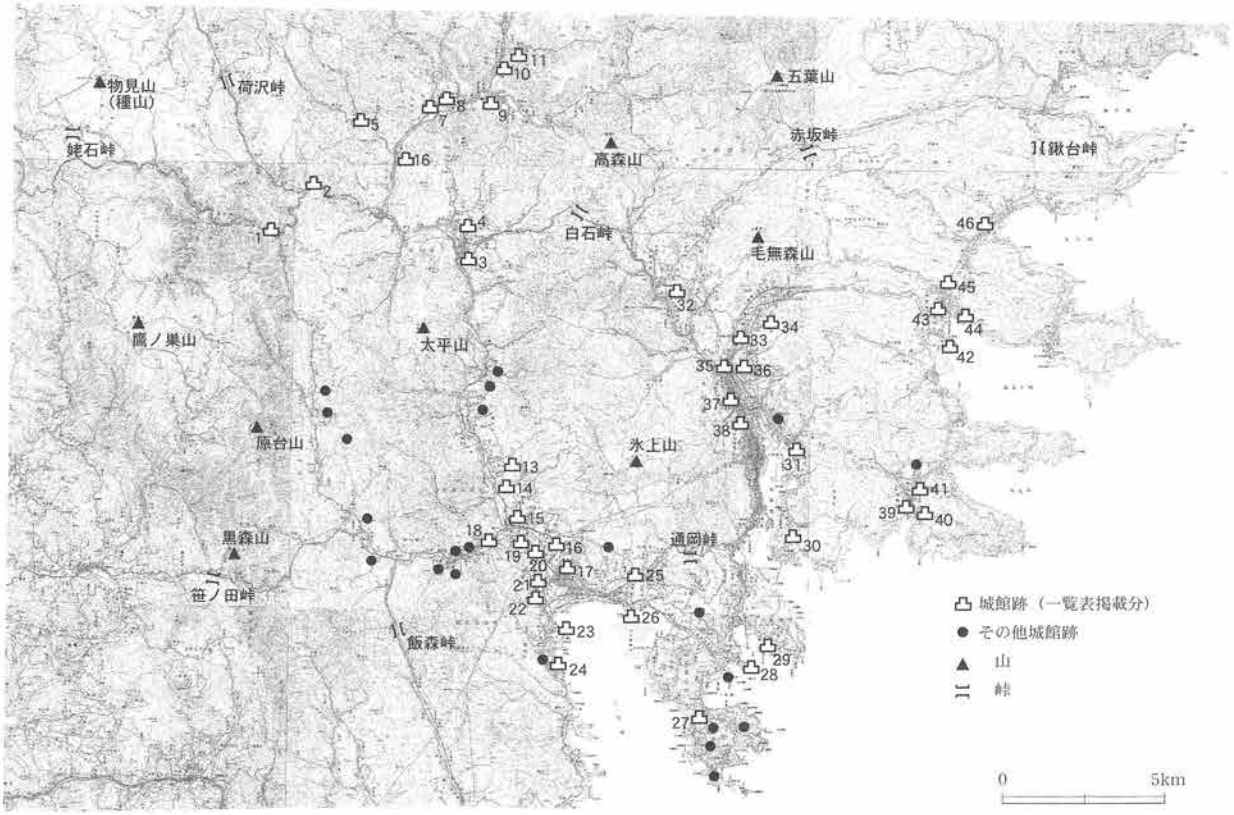
山林内には林道が縦横に走っており、社3ヵ所が祀られている。標高値が最高なのは最も大きな社の北側周辺で、ここを境に東へ下っていき、旧沢と思われる椎茸畑部分へ急斜度に落ちる。北側奥には緩やかに傾斜するやや広い部分があり、西側へと続いている。西側には「砦の形をした三段式の丘陵」(住田町 2000)と表される部分へと続いている。

地形測量を行った際に踏査を行ったが、現況からは城館を思わせる状況は確認できなかった。ただし、調査区北側はかなり入り組んだ地形を成しており、人為的と思われる箇所もいくつか見ることが出来る。しかし、これを即中世とするには根拠が弱い。今回の調査では堀跡2条を検出していることから、斜面上部である調査区北側に何らかの中世遺構が存在する可能性があるということに留めたい。

また、SD04堀跡の大半は等高線に沿って構築されているが、西側は斜面下側に向かって徐々にカーブしている。斜面下側には近世に大股の製鉄の頭領をしていた旧家である菊池家があることから、近世の屋敷を巡る堀である可能性もある。詳細は今後の調査に委ねたいと思う。

ここで、文献から読み取ることの出来る里古屋館に関する部分を列挙しておく。

①「天文七年(1538)、気仙郡高田の千葉胤継、矢作重村等は、江刺の伊手郷に侵入し江刺信重と合戦、矢作重村は討死した。世田米村の大股から木地山･種山ヶ原あたりが戦場となったらしく、地元では「伊手合戦」と呼んでいる。



第218図　気仙郡主要中世城館分布図

第77表　気仙郡主要中世城館

No	名称	別称	所在地	主な遺構	備考
1	黒古屋館	柳田城	住田町世田米	横堀・竪堀	
2	小屋館	紺野館	住田町世田米	郭・堀・腰郭	
3	世田米城	下　館	住田町世田米	三段造成・本丸？・腰郭	
4	上館原城	上　館	住田町世田米	本丸？・二の郭？・堀・腰郭	
5	日門城	判官館	住田町下有住	郭・堀	
6	和山館		住田町下有住	詳細不明	
7	外館城	下有住城	住田町下有住	本丸？・二の丸？・郭	
8	平田館	根岸城	住田町上有住	郭・腰郭	
9	上有住城	八幡館	住田町上有住	郭・堀・腰郭	
10	樋ノ口城	忠蘇館	住田町上有住	郭・腰郭	
11	狐石城	狐石館	住田町上有住	平場	
12	三日市館	外　館	陸前高田市横田町	郭・堀	
13	本宿館	横田城	陸前高田市横田町	主郭・堀・腰郭・土塁	
14	竜　館	竹駒城	陸前高田市竹駒町	主郭・堀・腰郭	
15	竹駒古館	廊本館	陸前高田市竹駒町	主郭・堀・腰郭	
16	滝ノ里館	花輪館	陸前高田市竹駒町	郭状平坦部	
17	東　館		陸前高田市気仙町	郭・堀・腰郭	
18	外　館		陸前高田市矢作町	主郭・堀・腰郭・土塁	
19	内　館	鶴崎城	陸前高田市矢作町	主郭・二の郭・堀・腰郭・井戸	
20	陣ヶ森館		陸前高田市気仙町		
21	今泉古館	陣ヶ森館	陸前高田市気仙町		
22	館腸城	館ヶ腸城	陸前高田市気仙町	堀	
23	三日市館	鶴飼館	陸前高田市気仙町	主郭・二の郭・堀・腰郭	
24	要谷館		陸前高田市気仙町	主郭・腰郭	
25	浜田城	月　館	陸前高田市米崎町	主郭・郭・堀・腰郭	
26	米ヶ崎城	浜田城	陸前高田市米崎町	郭・堀・腰郭・土塁	
27	広田城	高　館	陸前高田市広田町	主郭・堀・腰郭	
28	姥ヶ崎城	谷地館	陸前高田市小友	主郭・二の郭・堀・腰郭	
29	末崎城		大船渡市末崎町	主郭・二の郭・堀・腰郭	
30	森　館		大船渡市赤崎町	腰郭	
31	赤崎城	前　館	大船渡市赤崎町	詳細不明	
32	松　館		大船渡市日頃市町	主郭・二の郭・堀・腰郭	
33	堀内館	御狱古館	大船渡市立根町	主郭・堀・腰郭	
34	川原城		大船渡市立根町	主郭・堀・腰郭	
35	猪川館		大船渡市猪川町	平場・堀・土塁・柵列・掘立柱建物・竪穴建物・門跡など	岩理文第203集
36	迎　館	向　館	大船渡市猪川町	主郭・腰郭	
37	根ノ城	根岸館	大船渡市盛町	主郭・腰郭・堀（谷）	
38	旧茂山城		大船渡市盛町	腰郭	
39	観館城	観　館	大船渡市三陸町		
40	高館城	高　館	大船渡市三陸町		
41	平　館	平館城	大船渡市三陸町		
42	平田館	吉　館	大船渡市三陸町		
43	鹿森館	摺　城	大船渡市三陸町		
44	本丸城	本丸館	大船渡市三陸町		
45	小出館	小出城	大船渡市三陸町		
46	吉浜館	館	大船渡市三陸町		

※遺跡は大半が未調査であり、表面観察により城館と確認（推定）されたものである

「天文七年、江刺美濃守信重、気仙高田千葉大膳太夫胤継合戦之時、重村懸一陣、敵兵数多討取、振猛威於江刺郡伊手郷討死…　（気仙千葉大系図）」

千葉大膳太夫は「浜田大膳太夫胤継」のことで、天文十六年（1547）、五十九歳で没している。気仙勢は、気仙川筋の館主たちを中心に世田米の大股に結集（里古屋館か）、木地山からは江刺伊手村になだれ込み、伊手城を攻撃した。江刺側では、岩谷堂城主江刺美濃守信重を中心に迎え討つ。しかし気仙勢は次第に押され、大股まで敗退した。江刺勢は深追いせず、ここから引き揚げたので今の町域は穏やかであったという。」（住田町 2000・一部加筆）

②「天文七年の江刺氏対気諸族との衝突は、他の証を得ないが、伊手村合戦は世田米郷からの侵入であろうか？」（岩手県教育委員会 1961）

③「里古屋館址　世田米大股に里古屋がある。県道水沢、住田線のすぐそばの山地で、砦の形をした三段式の丘陵があり、これが里古屋の城址だと伝えられる。この地区の山麓に旧家「菊池本家」があり、大股の製鉄の頭領の役割を果たしているが、この館址とのかかわりについては不明である。応永年間（1394－1428）、気仙の浜田千葉氏が気仙川筋の館主たちを動員して江刺攻めをした。その折り、気仙勢が集結した所で、いわばその拠点になった館と考えられる。」（住田町 2000）

諸説あるが、残存する文献もほとんどなく、現存する文献にも「江刺攻め」に関する記述があるのみで、城館名などは皆無である。

最後に、第218図・第77表に現在の住田町を含む気仙郡域で確認されている中世城館を示した。約90の中世城館跡が存在するとされており（岩手県教育委員会 1961・1986）、このうち46遺跡を表した。確認された城館の分布をみると、気仙川・矢作川・盛川などの河川流域、広田湾・大船渡湾などの入り江に多く立地しており、交通の要衝となる箇所を選んで城館が構築されていることがわかる。

里古屋館は気仙郡域の中で最も西に位置しており、江刺郡と接する姥石峠から大股川沿いに下ってくる西との交通の要衝に存在することから、「境目の城」として機能していたのではないかと考えられる。

2 遺　　物

本調査では、縄文時代の土器･石器･土製品･石製品、平安時代の土器、近世以降の陶磁器･銭貨などが出土した。この中で特に最も出土量が多い縄文時代の土器と石器について触れる。

(1) 縄 文 土 器

前項に記した通り、本調査では第Ⅰ～Ⅸ群の計9区分に比定される土器が出土している。このうち、Ⅸ群はいずれかに当てはまる不明土器で、実際は以下の第Ⅰ～Ⅷ群までの計8区分となる。

第Ⅰ群　縄文時代早期末葉　→赤御堂式相当
第Ⅱ群　縄文時代前期初頭～前葉　→大木2式相当
第Ⅲ群　縄文時代前期後葉　→大木5式相当
第Ⅳ群　縄文時代前期末葉～中期前葉　→大木6～7式相当
第Ⅴ群　縄文時代中期中葉　→大木8式相当
第Ⅵ群　縄文時代中期後葉～末葉　→大木9～10式相当
第Ⅶ群　縄文時代後期初頭　→門前式相当
第Ⅷ群　縄文時代後期～晩期　→大洞式相当等

前項までは上記のような、やや幅を持った土器群を用いて遺構の帰属時期を想定した。本項では出土状況から、土器の共伴関係と先後関係を明らかにし、既存の土器型式と比較検討を行う。

今回の調査で検出した大半の遺構は幾つかの重複関係を持って出土している。そこから出土した土器は上位遺構が新期、下位遺構が旧期の土器を含んでいるのは当然のことであるが、考慮しなければならないのは前時期の遺構を破壊して、後時期の遺構が作られる、もしくは反復的に前時期の窪地を利用して後時期の遺構が作られているということである。つまり、重複が著しい箇所では後時期の遺構が廃絶された場合、斜面上部からの流入土や隣接して新築された遺構から掘り上げられた土に前時期の遺物が多量に含まれている可能性があり、それが堆積土となり後時期の遺構が埋没するという過程が考えられるのである。しかし、これは逆に考えれば、前項で示した「前時期の遺構が完全に埋没した後に、重複して後時期の遺構が構築された場合、前時期に比定される遺物が後時期の遺構から出土することはあり得るが、前時期の遺構に後時期に比定される遺物が出土することは基本的にはあり得ないということである。ただし、両遺構が連続する時期もしくは前時期の遺構の埋没速度が著しく遅く、窪地を再利用して「反復」した遺構が構築される場合、また後時期の攪乱による遺物混入などは考慮しなければならない」ことが言える。また、埋没速度は大抵の場合、大型の遺構は遅く、小型の遺構はそれと比べて早い。これは埋没する時間がかかればそれだけ長期間の遺物を含み、その時間が短ければより短期間の遺物のみが含まれる可能性が高くなるということである。また、床面及び底面からの一括廃棄遺物がより元位置を留めており、遺構の帰属時期に近いと言える。

ここで、前項の第212図遺構重複関係図を用いて、各遺構の出土状況から土器の共伴関係を概

観する。良好な共伴関係を示す遺構とは、第1に床面及び底面の一括廃棄土器（完形・略完形などの全形を想定できる土器）を出土する遺構、第2に同一層位での一括廃棄土器出土のこと、第3に遺構内外に関わらず一括出土状況を示すものである。

SI01 竪穴住居跡　6（床面・3層出土　ⅣB1i）

SI02 竪穴住居跡　9（床面　ⅣI5l）

SI06 竪穴住居跡　44（1層　ⅣA1n①）、45（1層　ⅦB3d）、54（1層・3層上面　ⅥF3l）、55（1層・3層上位　ⅨC1e）

SI07 竪穴住居跡　69（炉埋設土器　ⅦE1m）

SI10 竪穴住居跡　108（床面　ⅤB4b②）

SI12 竪穴住居跡　124（堆積土　ⅣF1a）、130（堆積土下位一括　ⅣF2b）、131（堆積土下位　ⅣG2a）

SI13・14 竪穴住居跡　165（堆積土上位・床直上　ⅤE2a）

SI16 竪穴住居跡　171（p5・6堆積土・7層中位・8層上位　ⅥC2a）、179（8層最下位　ⅥB2b）

SI17 竪穴住居跡　193（堆積土上～中位・3層上位　ⅦE3g）、198（床面一括ⅦE2i）、200（堆積土上～中位　ⅥD3k）、204（堆積土最下位　ⅦB2j）、205（堆積土最下位　ⅥD3e）、206（堆積土・床面　ⅨC1e）、209（堆積土下位・床面　ⅦE1m）、218（堆積土上～中位　ⅦA1e）

SI18・19 竪穴住居跡　230（堆積土上位一括　ⅣB2l）、236（堆積土下位　ⅣC3f①）、239（堆積土下位　ⅣA1f②）、240（堆積土下位　ⅣL4i）、241（床面一括・床直上　ⅣA1f②）、243（床直上一括　ⅣG2i）、246（堆積土下位一括　ⅣB4i）

SI19 竪穴住居跡　229（炉埋設土器　ⅥC1d）

SI22 竪穴住居跡　273（堆積土一括　ⅣE1e）、275（堆積土　ⅣA1f②）

SI23 竪穴住居跡　278（床面　ⅥB2A）

SI25 竪穴住居跡　290（床面一括　ⅣI2g）、291（床面　ⅤC1a・c）

SI28 竪穴住居跡　317（1層・中央焼土直上　ⅢC2e）

SI30 竪穴住居跡　333（床面・堆積土下位・台石上　ⅣC3n①）

SI32 竪穴住居跡　343（床面一括　ⅣC2l）

SI34 竪穴住居跡　356（1層上位一括・SI26床直上一括　ⅣA1m）、357（堆積土上位　ⅣC1f③）、361（1層中～下位　ⅣC1f③）、371（床直上　ⅣG2b）、372（床面　ⅣC1f②）

SX03 住居状遺構　410（3層・堆積土上～中位　ⅥC1d）

SX06 住居状遺構　438（床面一括　ⅣD4d）、439（2層下位　ⅣF1n①）、441（2層中～下位　ⅣD2e）

SX07 住居状遺構　447（1層上～中位他　ⅦE3g）、448（堆積土上～中位　ⅦA3k）

SK14 土坑　480（堆積土　ⅣH1i）

SK26 土坑　499（堆積土中～下位一括　ⅣC4h）、500（堆積土中～下位一括　ⅣF1a）

SK34 土坑　508（底面一括　ⅣF2b）

SR01 土器埋設遺構　526（埋設土器　ⅣC-f③）

SR02 土器埋設遺構　528（埋設土器　ⅣC2I）

SD04 堀跡　556（14D6堆積土上位　ⅤD1a）

14C区Ⅲ層上面　685(14C16･17Ⅲ層上面一括　ⅦD3e)、686(14C12･18Ⅲ層上面一括　ⅨC1e)
14C区Ⅲ層上位　691(14C13Ⅲ層上位一括　ⅨC1e)、700(14C13Ⅲ層上位　ⅦB3A)、702(14C17Ⅲ層上位一括　ⅦE3g)、703(14C18～19Ⅲ層上位一括　ⅦE3g)、704(14C19Ⅲ層上位一括　ⅦE3g)、705(14C17Ⅲ層上位一括　ⅦE3m)、706(14C17Ⅲ層上位一括　ⅦE1m)
14C区Ⅲ層下位　768(14C23Ⅲ層下位一括　ⅣC2l)、769(14C23Ⅲ層下位一括　ⅣF2l)、770(14C23Ⅲ層下位一括　ⅣF1a)、772(14C23Ⅲ層下位　ⅥI1j)
15C区Ⅲ層下位　783(15C15Ⅲ層下位一括　ⅣJ1l)
攪乱　623(6E17攪乱　ⅦA1l)

上記の中で、良好な共伴関係を持つ遺構(2個体以上の一括土器を出土する遺構)はSI12竪穴住居跡、SI16竪穴住居跡、SI17竪穴住居跡、SI18･19竪穴住居跡、SI22竪穴住居跡、SI34竪穴住居跡、SX06住居状遺構、SK26土坑、14C区Ⅲ層上面、14C区Ⅲ層上位、14C区Ⅲ層下位の11例がある。

これらの共伴関係と出土遺構の先後関係を基に、設定した第Ⅰ～Ⅷ群の詳細な位置付けを行う。なお検討する群に対応する一括土器がない場合は、特徴的な文様などを有する破片資料を用いる。

Ⅰ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅰ群土器については良好な共伴関係は認められず、また破片資料のみである。遺構内はSI22竪穴住居跡･SK47土坑から出土しており、いずれも表裏縄文である。唯一の尖底資料である797もある。SK47土坑出土の524･525は胎土中に繊維を含んでいる。特徴から、いずれも赤御堂式新段階に位置付けられる。

Ⅱ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅱ群土器については良好な共伴関係は認められない。出土地点は、遺構内はSK39土坑のみであり、計4点を出土しているがいずれも破片資料である。胎土にはいずれも繊維を含んでいる。特徴から、大木2a式に位置付けられる。

Ⅲ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅲ群土器については良好な共伴関係、先後関係は認められない。一括土器を出土する遺構としてはSI28竪穴住居跡の1例がある。SI28竪穴住居跡からは3点出土しているが、口縁を残存して全形を推定できるのは317のみである。この他に特徴的な307･727･795から、大木5式に位置付けられる。

Ⅳ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅳ群土器について良好な共伴関係を持つ遺構･地点はSI12竪穴住居跡、SI18･19竪穴住居跡、SI22竪穴住居跡、SI34竪穴住居跡、SX06住居状遺構、SK26土坑、14C区Ⅲ層下位の7例である。

SI12竪穴住居跡はⅣF1a・ⅣF2b・ⅣG2a、SI18・19竪穴住居跡はⅣB2l・ⅣC3f①・ⅣA1f②・ⅣL4i・ⅣA1f②・ⅣG2i・ⅣB4i、SI22竪穴住居跡はⅣE1e・ⅣA1f②、SI34竪穴住居跡はⅣA1m・ⅣC1f③・ⅣG2b・ⅣC1f②、SX06住居状遺構はⅣD4d・ⅣF1n①・ⅣD2e、SK26土坑はⅣC4h・ⅣF1a、14C区Ⅲ層下位はⅣC2l・ⅣF2l・ⅣF1a・ⅣI1jのⅣ群土器が出土しており、それぞれに共伴関係を持つ。

第78表　Ⅳ群土器共伴関係

遺構名	A類	B類	C類	D類	E類	F類	G類	I類	L類
SI12						ⅣF1a・ⅣF2b	ⅣG2a		
SI18・19	ⅣA1f②	ⅣB2l・ⅣB4i	ⅣC3f①				ⅣG2i		ⅣL4i
SI22	ⅣA1f②				ⅣE1e				
SI34	ⅣA1m		ⅣC1f②・ⅣC1f③			ⅣG2b			
SX06				ⅣD4d・ⅣD2e		ⅣF1n①			
SK26			ⅣC4h			ⅣF1a			
14C区Ⅲ層下位			ⅣC2l			ⅣF1a・ⅣF2l		ⅣI1j	

同一地点出土の土器は、それだけで共伴関係が指摘できる。また、異地点出土土器でも同一分類と考えられる土器がそれぞれから出土していれば、結びつけることが可能と思われる。この観点からすれば、例えばSI12竪穴住居跡とSK26土坑、14C区Ⅲ層下位はⅣF1aで結びつけられ、これらを合わせたⅣF1a・ⅣF2b・ⅣF2l・ⅣG2a・ⅣI1j・ⅣC4h・ⅣC2lが「地点間の共伴関係」とされる。これと同様に、SI18・19竪穴住居跡とSI22竪穴住居跡はⅣA1f②で結びつけられ、これらを合わせたⅣA1f②・ⅣB2l・ⅣB4i・ⅣC3f①・ⅣE1e・ⅣG2i・ⅣL4iが遺構間の共伴関係とできる。

Ⅳ群土器は縄文時代前期末葉～中期前葉（大木6～7式相当）とやや幅を持った土器群として捉えた。当初、土器型式を前提に各型式に相当する分類を行ったが、本遺跡出土土器は破片資料が大半で口縁などの文様特徴を持つものであっても、一部のみを観察して識別することは困難であり、誤認を増やす危険性を感じた。やむを得ず、幅を持った土器群として捉え、重複遺構間の時期決定に幅を持たせた形とした。しかし、分類には各型式の識別要素（メルクマール）を盛り込み、群内からも既存の土器型式を導き出せることを考慮した。このような過程は、結果的に今回出土した土器全体と出土遺構の関係性を考える上で、有効であったと考えている。

これを踏まえた上で、Ⅳ群土器として捉えた縄文時代前期末葉～中期前葉（大木6～7式相当）の中から、共伴関係に基づいて、既存の土器型式との比較を行う。

先述したSI12竪穴住居跡とSK26土坑、14C区Ⅲ層下位の共伴関係からⅣF1a・ⅣF2b・ⅣF2l・ⅣG2a・ⅣI1j・ⅣC4h・ⅣC2lが抽出された。器種はいずれも深鉢、器形はC・F・G・I類が見られる。口縁形態は1類平縁と2類大波状縁が大半を占め、4類突起有りもある。文様はa類複合口縁上に連弧状や縦位・弧状などの太い短沈線を施すもの、b類頸部に沈線による平行沈線や波状沈線を施すもの、h類連続刺突を施すもの、j類押引沈線を施すもの、l類隆線による文様表現を行うものがある。SI12竪穴住居跡に含まれるⅣF1a・ⅣF2b・ⅣG2aは、いずれも大木6式の特徴を持ち、また14C区Ⅲ層下位のⅣF1a・ⅣF2l・ⅣI1jについても同様である。しかし、14C区Ⅲ層下位のⅣC2l（768）については、大木7a式の特徴を持つ。同一の混在状況はSK26土坑にも見られ、ⅣF1a（500）は大木6式、ⅣC4h（499）は大木7a式と考えられる。

またSI18・19竪穴住居跡とSI22竪穴住居跡の共伴関係からⅣA1f②・ⅣB2l・ⅣB4I・ⅣC3f①・Ⅳ

E1e・ⅣG2i・ⅣL4iが抽出された。器種は深鉢主体で一部浅鉢、器形は深鉢A・B・C・E・G類、浅鉢L類が見られる。1類平縁と2類大波状縁が主体で、3類小波状縁、4類突起有りも見られる。文様はf①類平行沈線の間に文様を施すもの（弧状や渦状の文様を施すもの）、f②類平行沈線の間に文様を施すもの（縦位や斜位の短沈線を充填するもの）、I類原体圧痕を施すもの、l類隆線による文様表現を行うものがある。SI18・19竪穴住居跡に含まれるⅣA1f②・ⅣB2l・ⅣB4i・ⅣC3f①・ⅣG2i・ⅣL4iは、原体圧痕が施される243（ⅣG2i）・240（ⅣL4i）は大木7b式と考えられ、それ以外は大木7a式に比定されるため混在の状況を示している。SI22竪穴住居跡に含まれる273（ⅣE1e）と275（ⅣA1f②）はいずれも大木7a式に比定される。

SI34竪穴住居跡からは共伴関係としてⅣA1m・ⅣC1f②・ⅣC1f③・ⅣG2bが抽出された。器種はいずれも深鉢、器形はA・C・G類が見られる。1類平縁が主体で、2類大波状縁もある。文様はb類頸部に平行や波状の沈線を施すもの、f類②平行沈線の間に縦位や斜位の短沈線を充填させるもの、f類③平行沈線の間に波状や山形、刺突などの文様表現を行うもの、m類粘土貼付を行うものがある。この中でf類は大木7a式の特徴を持っており、その他も同型式に比定される。

SX06住居状遺構からは共伴関係としてⅣD4d・ⅣD2e・ⅣF1n①が抽出された。器種はいずれも深鉢、器形はD・F類が見られる。口縁形態は1類平縁、2類大波状縁、4類突起有りがある。文様はd類碗状突起を有するもの、e類縦位の棒状隆帯を貼付けるもの、n類①全体に縄文を施すものがある。いずれも大木7a式の特徴を持っている。438（ⅣD4d）と441（ⅣD2e）は本遺跡の中では類例がない異系統の形態を有しており、搬入品の可能性がある。

また、この他にⅣ群土器を一括出土する遺構は、SI01竪穴住居跡、SI02竪穴住居跡、SI06竪穴住居跡、SI30竪穴住居跡、SI32竪穴住居跡、SK14土坑、SR01土器埋設遺構、SR02土器埋設遺構、15C区Ⅲ層下位がある。SI30竪穴住居跡は333（ⅣC3n①）、15C区Ⅲ層下位は783（ⅣJ1l）で大木6式、SI01竪穴住居跡は6（ⅣB1i）、SI06竪穴住居跡は9（ⅣA1n①）、SI32竪穴住居跡は343（ⅣC2l）、SR01土器埋設遺構は526（ⅣC-f③）で大木7a式、SK14土坑は480（ⅣH1i）（Ⅴ類か）、SR02土器埋設遺構は528（ⅣC2i）で大木7b式に比定される。

以上のⅣ群土器出土遺構・地点の良好な先後関係は、SK26土坑<SI22竪穴住居跡に見られる。SK26土坑は500（ⅣF1a）が大木6式、499（ⅣC4h）が大木7a式の2点を出土しており、これより上層のSI22竪穴住居跡からは273（ⅣE1e）と275（ⅣA1f②）のいずれも大木7a式が出土している。ここから導き出せる先後関係はⅣF1a・ⅣC4h<ⅣE1e・ⅣA1f②で、同型式の中ではⅣC4hからⅣE1e・ⅣA1f②の流れが抽出できる。

Ⅴ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅴ群土器について良好な共伴関係、先後関係を持つ遺構は認められない。単独の一括土器を出土する遺構としては、SI10竪穴住居跡、SI14竪穴住居跡、SI25竪穴住居跡、SD04堀跡の4例がある。SI10竪穴住居跡はVB4b②、SI14竪穴住居跡はVE2a、SI25竪穴住居跡はVC1a・c、SD04堀跡はVD1aが抽出された。一括出土土器は、器種は深鉢形土器、器形はB～E類が見られる。口縁形態は1類平縁、2類大波状、4類突起有りがある。文様はa類沈線によって文様表現をする

もの、b②類隆線による文様表現を行う文様帯が胴部まで展開されるもの、c類隆沈線によって文様表現を行うものがある。上記はいずれも大木8b式に位置付けられる。

また、破片資料になるが、文様に隆沈線による渦巻文・蕨状・横位S字状などの曲線的モチーフを描く150・539・542・698・717、さらに棘状モチーフを合わせ持つ591などは大木8b式と見られ、107・146・149・152・153・577のように隆線によるクランク状文などの直線的モチーフを持つものや、文様帯が口縁部に集中するもの、頸部に横位隆線を持つものは大木8a式に位置付けられる。文様の特徴として、里古屋遺跡の大木8a式はb類の隆線による文様表現が多く、また大木8b式はa類の沈線による文様表現やc類の隆沈線による文様表現が多い傾向にある。

Ⅵ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅵ群土器について良好な共伴関係を持つ遺構として、SI16竪穴住居跡の1例が挙げられる。ⅥC2a(171)とⅥB2b(179)が共伴関係に有り、器種はいずれも深鉢、器形はB・C類が見られる。文様はa類沈線・隆沈線による文様表現が縦位に展開されるもの、b類沈線による方形や縦長区画内に地文が充填されるものであり、いずれも大木9c式古段階の特徴を持つ(池谷 1988)。

また、この他にⅥ群土器を一括出土する遺構は、SI19竪穴住居跡、SI17竪穴住居跡、SX03竪穴住居状遺構がある。SI19竪穴住居跡・SX03住居状遺構出土はいずれもⅥC1dで、大木9c式古段階に比定される。また破片資料であるが、SI18竪穴住居跡出土の227(ⅥC2d)・228(ⅥB-j)も大木9c式古段階と見られる。SI17竪穴住居跡からは205(ⅥD3e)・200(ⅥD3k)を出土しており、いずれも大木10b式第1段階(沈線系)に比定される(池谷 1988)。

以上のⅥ群土器出土遺構の先後関係はSI19竪穴住居跡<SX03住居状遺構があるが、同型式の範疇に含まれる。

Ⅶ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅶ群土器について良好な共伴関係を持つ遺構・地点として、SI17竪穴住居跡、14C区Ⅲ層上面、14C区Ⅲ層上位の3例がある。SI17竪穴住居跡はⅦA1e・ⅦB2j・ⅦE3g・ⅦE2i・ⅦE1m、ⅦD3e・ⅦD3k、ⅨC1e、14C区Ⅲ層上面はⅦD3e・ⅨC1e、14C区Ⅲ層上位はⅦB3a・ⅦE3g・ⅦE1m・ⅦE3m、ⅨC1eが出土しており、それぞれが共伴関係を持つ。

第79表　Ⅶ群土器共伴関係

遺構名	A類	B類	D類	E類	他群
SI17	ⅦA1e	ⅦB2j		ⅦE3g・ⅦE2i・ⅦE1m	ⅦD3e・ⅦD3k・ⅨC1e
14C区Ⅲ層上面			ⅦD3e		ⅨC1e
14C区Ⅲ層上位		ⅦB3a		ⅦE3g・ⅦE1m・ⅦE3m	ⅨC1e

先述の「同一地点出土の…」(以下前文参照)から、SI17竪穴住居跡と14C区Ⅲ層上位には地点間の共伴関係が指摘できる。これから、ⅦA1e・ⅦB2j・ⅦB3a・ⅦE3g・ⅦE2i・ⅦE1m・ⅦE3mが共伴関係を持つ。器種はいずれも深鉢、器形はA・B・E類が見られる。文様は、a類口縁に突起から垂下する連鎖状隆線を横位に展開するもの、g類突起を有し、二重口縁で胴部にY字状・倒卵形などの磨消技法による円形モチーフを展開するもの、i類隆線による文様区画をするもの、m類地文のみのものがある。熊谷氏の論攷(熊谷 1986)に依れば、218(ⅦA1e)は門前Ⅰ式(今村氏に依れば門前Ⅰ式に

先行する段階：以下（ ）内は今村編年）（今村 1977）、193・702～704（ⅦE3g）は門前Ⅲ式（門前Ⅰ式に後続する段階）、198（ⅦE2I）・204（ⅦB2j）・209・706（ⅦE1m）・700（ⅦB3A）・705（ⅦE3m）は門前Ⅳ式（門前Ⅱ式）となる。また、14C区Ⅲ層上面では685（ⅦD3e）が出土しており、中空突起を持たず、連鎖状隆線・ボタン状貼付を有することから門前Ⅲ式（門前Ⅰ式に後続する段階）、または及川氏の「後・門前式」（及川 1974）に含まれると思われるが、綱取Ⅰ式の影響も見受けられる。

この他にⅦ群土器を一括出土する遺構はSI06竪穴住居跡、SI07竪穴住居跡、SX07住居状遺構、6E17攪乱がある。SI06竪穴住居跡は45（ⅦB3d）、SI07竪穴住居跡は69（ⅦE1m）が出土しており、いずれも門前Ⅳ式（門前Ⅱ式）に比定される。6E17攪乱では623（ⅦA1l）が出土しており、門前Ⅳ式（門前Ⅱ式）に比定されるとも思われるが、類例がなく不明である。

以上のⅦ群土器出土遺構・地点に良好な先後関係は見出せない。

Ⅷ群土器の共伴関係と型式的位置付け

Ⅷ群土器についてはいずれも遺構外出土であり、良好な共伴関係、先後関係は認められない。また、いずれも破片資料であり、全形を想定できる資料は出土していない。668は後期前葉の土器、661・806・814は大洞B1式並行、805は大洞C1式、648・760・819は大洞C1～2式と思われ、また816は弥生時代の可能性があるが不明である。

(2) 石　　器

今回の調査で出土した石器の総数は6,917点である。第80表に石器石材別組成表を示した。出土石器のうち、最も多いのは剥片（砕片）で4,785点（89570.74g）を数え、全体の69.18%（重量中9.71%）、次いで石鏃568点（899.99g）で全体の8.21%（重量中0.1%）、敲磨器類375点（202779.73g）で全体の5.42%（重量中21.99%）である。重量中で多いのは、石皿台石類で69点（470584.66g）の重量中51.02%である。製品では石鏃の出土量が突出していることが分かる。

次に石材に着目すると、最も点数が多いのは頁岩で2,782点（17788.36g）を数え、全体の40.22%（重量中1.93%）である。次いで、頁岩（在地）が1,740点（288766.80g）で全体の25.16%（重量中31.31%）、赤色頁岩が854点（1854.73g）で全体の12.35%（重量中0.2%）である。重量で最も多いのは頁岩（在地）、次いで砂岩が173点（205288.82g）で重量中22.26%、ひん岩が21点（90782.95g）で重量中9.84%を占める。石材から見ると、やはり礫石器に用いられる原石はより遺跡に近い場所から運ばれていることが分かる。これに対して、剥片石器に用いられる石材は、剥片剥離に適する良質で硬質な原石を遺跡から離れた場所からも運んできている。中でも黒曜石を398点（360.36g）出土しているが、遺跡周辺では獲得できない石材と思われ、産地同定からは雫石町小赤沢、山形県月山、不明（数値は栃木県高原山に近似）の3ヵ所が得られている。同定出来なかった資料中には、宮城県湯ノ倉と思われるものも含まれるため（報告者の肉眼による）、不明とされたものもこの近傍に産出される未知の原石の可能性もある。いずれにしても、遺跡に何らかの手段で遠方から持ち込まれた石材であることが言える。

第80表　石器石材分類別組成表

石材	尖頭器	石鏃	石錐	石匙	篦状石器	楔形石器	スクレイパー類	二次加工ある剥片	微細剥離痕ある剥片	石核	剥片	石斧類	礫器類	敲磨器類	砥石	礫石錘	石皿台石類	球石	浮子	配石	合計
頁岩	20 (379.34)	429 (724.17)	48 (166.09)	96 (1204.38)	15 (499.83)	22 (171.84)	121 (1917.58)	199 (1655.37)	79 (938.66)	14 (2967.08)	1,736 (6245.68)			2 (657.17)		1 (261.17)					2782 (17788.36)
頁岩（在地）	4 (112.93)	3 (31.39)		2 (71.46)	1 (46.53)		5 (406.55)	9 (700.34)	4 (116.46)		1,310 (84354.52)	83 (28946.60)	82 (55067.78)	159 (75868.39)	1 (470.79)	68 (13650.30)	6 (22293.07)			3 (6629.69)	1740 (288766.80)
赤色頁岩	1 (5.18)	47 (62.13)	2 (8.61)	6 (32.47)		6 (20.60)	10 (78.56)	35 (151.45)	8 (39.15)	12 (139.54)	727 (1317.04)										854 (1854.73)
珪質頁岩		20 (18.57)	2 (1.08)	2 (10.11)		1 (1.58)	6 (73.17)	6 (32.37)	1 (0.63)	1 (76.36)	451 (1668.04)										490 (1881.91)
黒曜石		38 (21.03)	2 (3.17)			3 (9.29)	1 (4.39)	5 (3.66)		5 (72.65)	344 (246.17)										398 (360.36)
砂岩							1 (19.89)				4 (463.44)	6 (2994.00)	13 (8442.30)	111 (61956.42)	1 (240.43)	14 (3071.32)	21 (128038.93)	2 (62.09)			173 (205288.82)
凝灰岩		8 (8.61)		2 (26.11)			2 (12.17)	4 (6.05)	3 (15.38)		79 (197.01)	2 (236.49)		27 (10592.00)	1 (898.05)		6 (17625.09)			1 (2802.48)	135 (32419.44)
珪化木	1 (9.79)	5 (7.49)	1 (1.37)			1 (4.21)	3 (26.00)	5 (23.53)		3 (25.99)	83 (512.22)										102 (610.60)
玉髄		15 (12.75)		1 (5.75)		1 (2.74)		7 (70.93)	1 (4.38)	3 (123.58)	38 (34.22)										66 (254.35)
ふん岩														18 (10810.56)			14 (68420.00)				32 (79230.56)
ひん岩												2 (132.49)		9 (6242.62)		1 (269.67)	7 (77091.73)			2 (7046.44)	21 (90782.95)
デイサイト				2 (68.86)			1 (16.34)	2 (65.50)			1 (456.90)		2 (835.83)	7 (6984.73)		3 (702.56)	1 (2011.99)	1 (53.60)			20 (11196.31)
粘板岩		2 (12.07)					1 (133.03)	2 (74.72)				2 (556.81)		4 (1640.46)		3 (328.83)	3 (19070.00)				17 (21815.92)
花崗閃緑岩														10 (7102.64)			3 (32900.00)	3 (331.24)		1 (7000.00)	17 (47333.88)
石英		1 (1.74)									10 (110.58)										11 (112.32)
閃緑岩														8 (6936.53)			3 (53500.00)				11 (60436.53)
細粒閃緑岩											1 (202.89)	6 (1653.04)	1 (651.13)								8 (2507.06)
安山岩														8 (4929.89)							8 (4929.89)
斑糲岩												3 (447.53)		2 (1204.31)			1 (29500.00)				6 (31151.84)
斑岩														4 (2570.13)			2 (7410.00)				6 (9980.13)
チャート						1 (5.81)					1 (7.71)							1 (35.75)			3 (49.27)
細粒花崗閃緑岩												1 (124.72)		1 (436.19)			1 (12000.00)				3 (12560.91)
蛇紋岩												3 (1192.30)									3 (1192.30)
溶結凝灰岩																		3 (43.49)			3 (43.49)
火山礫凝灰岩														2 (7102.64)							2 (7102.64)
礫岩														2 (1269.18)							2 (1269.18)
細粒斑糲岩												1 (133.14)									1 (133.14)
玄武岩														1 (1108.06)							1 (1108.06)
花崗斑岩																	1 (723.85)				1 (723.85)
軽石																			1 (332.43)		1 (332.43)
合計	26 (507.24)	568 (899.99)	55 (180.32)	111 (1419.14)	16 (546.36)	35 (216.07)	151 (2687.68)	274 (2783.92)	96 (1114.66)	38 (3405.20)	4,785 (89570.74)	109 (36417.12)	98 (64997.04)	375 (202779.73)	3 (1609.27)	90 (18283.85)	69 (470584.66)	10 (526.17)	1 (332.43)	7 (23478.61)	6917 (922340.20)

終わりに

今回の調査で得られた資料は、遺構は竪穴住居跡38棟、住居状遺構8棟、土坑47基、焼土跡・炉跡24基、土器埋設遺構2基、配石遺構1基、墓坑2基、堀跡2条、溝跡5条、井戸跡1基、石組遺構1基、ピット326個、採掘坑3ヵ所、遺物は縄文土器84,669片(約1.37t)、石器6,917点(約0.92t)、石製品28点、土師器1点、陶磁器9号1袋、金属製品4点、銭貨15点、動物遺存体139.69g、植物遺存体65.58gの各種である。

中でも縄文時代の遺構・遺物が主であり、遺跡の性格は縄文時代前期後葉～後期初頭を中心として、断続的に営まれた集落跡とすることができる。大股川流域には同様に縄文時代前期中葉～中期末葉に断続的に営まれた集落跡である館遺跡(岩文振432集)があり、本遺跡の北東約2.3kmの距離に位置する。今回調査を行った里古屋遺跡と館遺跡の2遺跡について遺構・遺物を見比べると類似点が多く、各々の断絶期には遺跡間移動をしていたのではないかと思われる点もある。それが環境変化によるものか、また人為的な土地の選択によるのかは推測の域を出ない。

今回の調査から得られた情報量は膨大である。しかし、今回の報告書で提示し得たものは僅かに過ぎず、またデータ提示に終始し深く検討が及ばなかった。今後の課題としたい。　　(北田)

引用参考文献・論文

〔報告書〕

朝日村教育委員会　2002　『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ　アチヤ平遺跡上段』　朝日村教育委員会第21集

朝日村教育委員会　2002　『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ　元屋敷遺跡Ⅱ(上段)』　朝日村文化財報告書第22集

岩手県教育委員会　1982　『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ-2　(江釣子村鳩岡崎遺跡　遺物・要約・分析鑑定結果編)』　岩手県文化財調査報告書第70集

岩手県大槌町教育委員会　1974　『崎山弁天遺跡』

岩手県遠野市教育委員会　2002　『新田Ⅱ遺跡』　遠野市埋蔵文化財調査報告書第13集

岩手県立博物館　2000　『気仙郡住田町小松洞穴発掘調査報告書』　岩手県立博物館調査研究報告書第16冊

北上市教育委員会　1983　『滝ノ沢遺跡(1977～1982年調査)』　北上市文化財調査報告第33集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1977　『都南村　湯沢遺跡』　岩手県埋文センター文化財調査報告書第2集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1987　『和光6区遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第114集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1992　『林崎館遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第163集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1992　『本郷遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第164集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1994　『煤孫遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第196集

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1994　『猪川館跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第203集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2001　『清水ヶ野遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第351集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2002　『小松Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第392集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2002　『新田遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第405集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004　『館遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第432集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004　『小松Ⅰ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第433集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2005　『滝の沢地区遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第456集
(財)北海道埋蔵文化財センター　2004　『倉知川右岸遺跡』　(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第196集
仙台市教育委員会　1981　『六反田遺跡発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第34集
東北大学文学部考古学研究室　1979　『聖山』
新潟県教育委員会　1990　「清水上遺跡」『関越自動車道関係発掘調査報告書』　新潟県埋蔵文化財調査報告書第55集
新潟県教育委員会･(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団　1999　「和泉A遺跡」『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ』　新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集
新潟県教育委員会･(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団　2004　「青田遺跡」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ』　新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集
宮城県教育委員会　1986　「小梁川遺跡　遺物包含層土器編」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　宮城県文化財調査報告書第117集
宮城県教育委員会　1987　「小梁川遺跡」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　宮城県文化財調査報告書第122集
宮城県教育委員会　1988　「大梁川･小梁川遺跡(石器編)」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ』　宮城県文化財調査報告書第126集

〔文献･論文〕

赤山容造　1982　「竪穴住居」『縄文文化の研究』8　雄山閣
荒木ヨシ　1971　「縄文式時代の網代編み(第3報･完結)」『物質文化』17　物質文化研究会
荒木ヨシ　1995　「縄文時代に於ける分業の一考察」『物質文化』58　物質文化研究会
岩手県教育委員会　1961　「中世篇上」『岩手県史』第二巻
岩手県教育委員会　1986　『岩手県中世城館跡分布調査報告書』　岩手県文化財調査報告書第82集
池谷信之　1988　「東北地方における縄文時代中期末葉土器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12
今村啓爾　1977　「称名寺式土器の研究(下)」『考古学雑誌』63-2
及川千代松　1965　『遺跡を尋ねて』　社教シリーズ第13集　大船渡市教育委員会
熊谷常正　1986　「門前式土器の検討」『岩手県立博物館研究報告』　第4号
熊谷常正　1989　「北上川中流域における大木8a式土器」『岩手県立博物館研究報告』　第7号
興野義一　1968　「大木式土器理解のために(Ⅱ)」『考古学ジャーナル』16　ニュー･サイエンス社

興野義一　1969 「大木式土器理解のために(Ⅴ)」『考古学ジャーナル』32　ニュー・サイエンス社
興野義一　1970 「大木式土器理解のために(Ⅵ)」『考古学ジャーナル』48　ニュー・サイエンス社
住田町　1997 「自然考古編」『住田町史』第一巻
住田町　2000 「通史編」『住田町史』第二巻
芹沢長介・林謙作　1965 「岩手県住田町蛇王洞洞穴」『石器時代』7　pp.1-16
丹羽茂　1981 「中期の土器-大木式土器」『縄文文化の研究』4　雄山閣
丹羽茂　1989 「中期大木式土器様式」『縄文土器大観』1　小学館
松田光太郎　2003 「大木6式土器の変遷とその地域性」『神奈川考古』　第39号
山内清男　1979 『日本先史土器の縄紋』　先史考古学会
渡辺誠　1976 「スダレ状圧痕の研究」『物質文化』26　物質文化研究会

附編　自然科学分析

目次

1　火山灰同定分析……395
2　放射性炭素年代測定……400
3　黒曜石産地同定分析……402
4　炭化種実同定分析……412

1　火山灰同定分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

里古屋遺跡は岩手県気仙郡住田町の北西部に所在し、気仙川支流の大股川左岸の丘陵裾部に位置している。発掘調査の結果、縄文時代前～後期と考えられる竪穴住居跡、住居状遺構、土坑などが検出されており、土器や石器などの遺物も多数出土している。また、同遺跡では基本層序Ⅲ層から十和田中掫火山灰と考えられる堆積物も認められている。

本報告では、竪穴住居跡堆積土から検出された火山灰について、肉眼および顕微鏡による観察、火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率測定、火山ガラスのEPMA分析を実施し、検証を行う。また、十和田テフラを含めた広域火山灰との対比を行う。

1. 試料

試料は、SI12竪穴住居跡堆積土より採取された火山灰の薄層を挟む土壌ブロック試料1点である（図版１）。この土壌ブロックは全体的に土壌化しシルト質化している。当ブロックのほぼ中央に認められる火山灰の薄層は幅2cm前後で塊状無層理、径3mm以下程度の風化した軽石片を数%程度含む。分析試料は、この火山灰の薄層より採取し対象としている。

2. 分析方法

(1) テフラの検出同定・屈折率測定

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

また砕屑物中に火山ガラスおよび斜方輝石が含まれる場合は、火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率の測定を行い、テフラの同定をより確実なものとした。測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

(2) EPMA分析

分析には波長分散型4チャンネルEPMA　JXA-8800RL（日本電子製）を用いた。測定した成分は、SiO_2、TiO_2、Al_2O_3、FeO、MnO、MgO、CaO、Na_2O、K_2Oの9成分である。以下に処理手順を述べる。

1) 試料調整

火山ガラス試料をペトロポキシ154を用いてスライドガラス上に固定（恒温ホットプレート120℃で2時間）した後、アランダム（#1000、#3000）を使用しガラス板上で研磨する。鏡面研磨するためにDP（ダイヤモンドペースト）を使用し、DPクロス上で潤滑剤のルーブリカントを

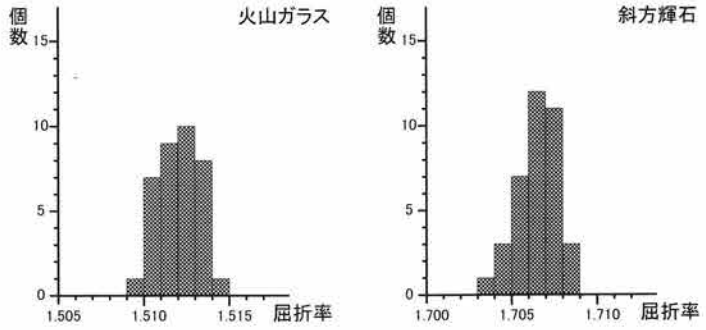
滴下しながら研磨する。鏡面研磨された試料は、真空蒸着装置を用いてカーボン蒸着を行う。

2）測定条件

上記のカーボン蒸着された試料をEPMA装置にセットして測定した。分析条件は、加速電圧15ｋＶ、試料電流3×10－9アンペア（on PCD）、およびビーム径は10ミクロンである。補正計算はＺＡＦ法に従った。

3. 分析結果

（1）テフラの検出同定・屈折率測定



試料は、細粒砂サイズの火山ガラスおよび斜長石を主体としている。重鉱物としては、斜方輝石および単斜輝石が微量程度含まれている。鉱物片の一部には火山ガラスの付着したものも散見される。

火山ガラスは、無色透明であり、軽石型が主体となっている。火山ガラスおよび斜方輝石の

表1. EPMA分析結果（測定データ）

No.	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
1	73.09	0.23	12.88	2.67	0.04	0.40	2.60	3.66	1.28	96.86
2	71.26	0.33	12.88	2.15	0.20	0.53	2.62	3.39	1.16	94.52
3	72.63	0.40	13.02	2.18	0.09	0.56	2.65	3.25	1.35	96.12
4	75.15	0.32	12.67	2.68	0.04	0.53	2.44	3.91	1.28	99.01
5	73.44	0.46	12.86	2.48	0.08	0.54	2.61	3.60	1.19	97.25
6	75.05	0.33	13.50	2.35	0.08	0.38	2.66	3.47	1.26	99.08
7	75.92	0.43	13.45	2.87	0.08	0.54	3.05	3.57	1.33	101.25
8	75.08	0.41	13.63	2.58	0.13	0.46	2.67	3.37	1.30	99.62
9	70.97	0.16	13.13	2.44	0.10	0.51	2.70	3.62	1.16	94.79
10	74.44	0.49	13.15	2.92	0.03	0.51	2.59	3.56	1.31	98.99
11	76.32	0.43	13.67	2.53	0.10	0.52	2.65	3.63	1.11	100.95
12	73.00	0.33	13.07	2.76	0.19	0.45	2.71	3.24	1.15	96.91
13	72.61	0.47	13.06	2.74	－	0.57	2.60	3.30	1.37	96.71
14	76.95	0.39	13.31	3.15	－	0.64	2.64	3.27	1.41	101.76
15	75.88	0.58	12.54	2.82	0.16	0.50	2.74	3.71	1.33	100.25
16	75.92	0.38	13.34	2.64	0.07	0.48	2.57	4.14	1.22	100.75
17	74.93	0.32	13.75	2.57	－	0.48	2.66	3.69	1.37	99.76
18	73.61	0.55	12.50	2.67	0.04	0.42	2.63	3.65	1.25	97.31
19	77.00	0.40	12.79	2.67	0.14	0.47	2.80	3.92	1.27	101.45
20	76.81	0.42	13.90	2.62	0.02	0.56	2.78	3.86	1.25	102.21
21	77.34	0.47	13.57	2.84	0.17	0.53	2.78	3.49	1.31	102.49
22	76.70	0.28	13.20	2.71	0.10	0.63	2.73	3.63	1.24	101.22
23	75.54	0.33	13.53	2.53	0.13	0.57	2.65	3.83	1.22	100.34
24	77.50	0.50	13.30	2.69	0.15	0.55	3.05	3.88	1.22	102.84
25	76.42	0.50	13.67	2.80	0.01	0.65	2.69	3.69	1.34	101.78

屈折率測定結果を図1に示す。火山ガラスのレンジは、1.510～1.514を示し、モードは1.512～1.513である。一方、斜方輝石のレンジは、1.704～1.709を示し、モードは1.707である。

(2) EPMA分析

火山ガラスについて25ポイントを測定した。各ポイントにおける測定データを表1に、トータルを無水で100wt.%に規格化した値を表2に示した。また、今回の測定データと柴ほか(2001)および青木・新井(2000)のデータを比較したものを表3に示した。本表には、測定データの分析ポイント数、最大値、最小値、平均値および標準偏差という統計値が示されている。

表2. EPMA分析結果（無水で100wt.%に規格化したデータ）

No.	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	Total
1	75.46	0.24	13.30	2.76	0.04	0.42	2.68	3.78	1.33	100.00
2	75.39	0.35	13.63	2.28	0.21	0.56	2.77	3.59	1.23	100.00
3	75.56	0.42	13.54	2.27	0.10	0.58	2.76	3.38	1.40	100.00
4	75.90	0.32	12.80	2.70	0.04	0.54	2.47	3.95	1.29	100.00
5	75.52	0.48	13.22	2.55	0.08	0.55	2.68	3.70	1.22	100.00
6	75.75	0.33	13.63	2.38	0.09	0.38	2.68	3.50	1.27	100.00
7	74.98	0.43	13.29	2.84	0.07	0.54	3.01	3.53	1.32	100.00
8	75.37	0.41	13.68	2.59	0.13	0.46	2.68	3.38	1.31	100.00
9	74.87	0.17	13.85	2.58	0.10	0.54	2.85	3.82	1.22	100.00
10	75.20	0.49	13.28	2.95	0.03	0.52	2.61	3.59	1.32	100.00
11	75.60	0.42	13.54	2.50	0.10	0.52	2.62	3.59	1.10	100.00
12	75.33	0.34	13.49	2.85	0.19	0.46	2.80	3.35	1.19	100.00
13	75.08	0.49	13.50	2.84	−	0.58	2.68	3.41	1.42	100.00
14	75.62	0.39	13.08	3.10	−	0.62	2.60	3.21	1.39	100.00
15	75.69	0.58	12.50	2.82	0.16	0.50	2.73	3.70	1.33	100.00
16	75.36	0.37	13.24	2.62	0.07	0.47	2.55	4.11	1.21	100.00
17	75.11	0.32	13.78	2.58	−	0.48	2.67	3.70	1.37	100.00
18	75.64	0.57	12.85	2.74	0.04	0.44	2.70	3.75	1.28	100.00
19	75.90	0.39	12.61	2.63	0.14	0.47	2.76	3.86	1.25	100.00
20	75.15	0.41	13.60	2.56	0.02	0.55	2.72	3.77	1.22	100.00
21	75.46	0.46	13.24	2.77	0.17	0.52	2.71	3.41	1.28	100.00
22	75.78	0.27	13.05	2.68	0.10	0.63	2.69	3.58	1.23	100.00
23	75.29	0.33	13.48	2.52	0.13	0.57	2.64	3.81	1.22	100.00
24	75.36	0.49	12.93	2.61	0.15	0.53	2.97	3.78	1.18	100.00
25	75.09	0.49	13.43	2.75	0.01	0.64	2.64	3.62	1.32	100.00

表3. 公表されている分析値との比較

今回の測定結果

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	分析点の数	Total
最小値	74.87	0.17	12.50	2.27	−	0.38	2.47	3.21	1.10		96.96
最大値	75.90	0.58	13.85	3.10	0.21	0.64	3.01	4.11	1.42		102.82
平均値	75.42	0.40	13.30	2.66	0.09	0.52	2.71	3.63	1.28	25	99.37
標準偏差	0.281	0.098	0.357	0.195	0.062	0.065	0.116	0.210	0.077		

柴ほか (2001)

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	分析点の数	Total
平均値	75.59	0.40	13.27	2.45	0.09	0.51	2.70	3.68	1.31	13	98.22
標準偏差	0.255	0.078	0.482	0.234	0.067	0.061	0.081	0.249	0.069		

青木・新井 (2000)

	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	分析点の数	Total
平均値	75.36	0.43	13.65	2.35	0.11	0.52	2.35	4.01	1.22	11	98.38

4. 考察

町田ほか（1981、1984）や町田・新井（2003）などにおける東北地方のテフラの研究成果によれば、今回のテフラは層位や層相、本遺跡の地理的位置から、完新世に噴出した十和田カルデラ起源のテフラと考えられる。主な完新世の十和田カルデラ起源のテフラは、十和田a（To-a）、十和田b（To-b）、十和田中掫（To-Cu）、十和田南部（To-Nb）などが挙げられる。今回のテフラは、火山ガラスの屈折率から、To-Cuが候補として挙げられる。町田・新井（2003）によると、To-Cuにおける火山ガラスの屈折率は1.508～1.512のレンジであり、今回の測定結果と重複している。また、斜方輝石の屈折率についても重複する値を示し、モードも一致している。

このTo-Cuを含め、上述の十和田テフラの主な軽石については、最近、柴ほか（2001）や青木・新井（2000）によりEPMAによる主成分化学組成値が公表されている。今回の分析値と柴ほか（2001）および青木・新井（2000）に示されているTo-Cuの分析値を比較したものを表3に示した。分析値（25ポイントの点分析値）から明らかなように、9元素について、青木・新井（2000）および柴ほか（2001）の分析値と極めてよく整合する。十和田カルデラ起源のテフラの化学組成的な特徴としてはK_2Oが1.5～1.2wt.%と低いことがあげられるが（柴ほか, 2001）、分析値は1.4～1.1wt.%の値を示しており、この点についても一致している。また、To-Cuの化学組成的な特徴は、SiO_2が75.0～76.0wt.%のきわめて狭い組成範囲を示すという点である（柴ほか, 2001）。今回の分析値は、SiO_2が74.9～75.9（平均75.4）wt.%という組成範囲を示しており、これらの点からもTo-Cu起源ということが示唆される。

以上の屈折率測定結果およびEPMA分析結果から、本試料はTo-Cuと判断される。なお、To-Cuの噴出年代は、Hayakawa（1985）によれば約5400年前とされている。一方、福田（1986）は、東北地方における縄文土器型式の前期に入るとしながらも、当該期の詳細な時期の特定には至っていない。今回の分析結果は、SI12竪穴住居跡の調査所見と堆積土中からTo-Cuが検出された状況から、遺構の年代観とTo-Cuの噴出年代についても概ね調和的な結果と言える。

引用文献

青木かおり・新井房夫, 2000, 三陸沖海底コアKH94-3, LM-8の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, 39, 2, 107-120,

藤縄明彦・鴨志田　毅, 1999, 吾妻火山－雄大な爆裂カルデラと中央火口丘を歩く－, 東北の火山－フィールドガイド　日本の火山<4>－, 築地書館, 89-104.

福田友之,1986,考古学からみた「中掫浮石」の降下年代.弘前大学考古学研究,3,4-15.

古澤　明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.

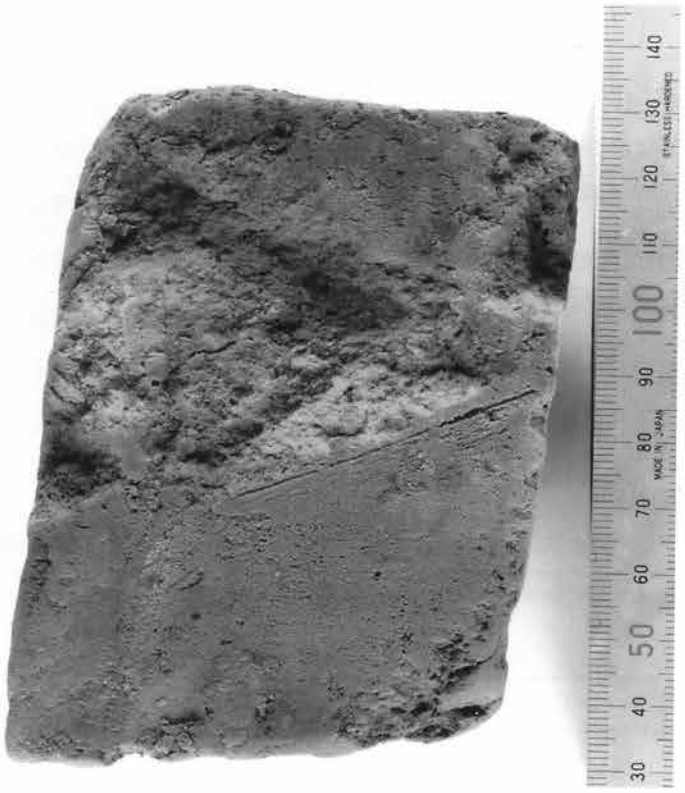
HAYAKAWA,Y.,1985,Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo,vol.60,507-592.

町田　洋・新井房夫, 2003, 新編　火山灰アトラス－日本列島とその周辺. 東京大学出版会, 336p.

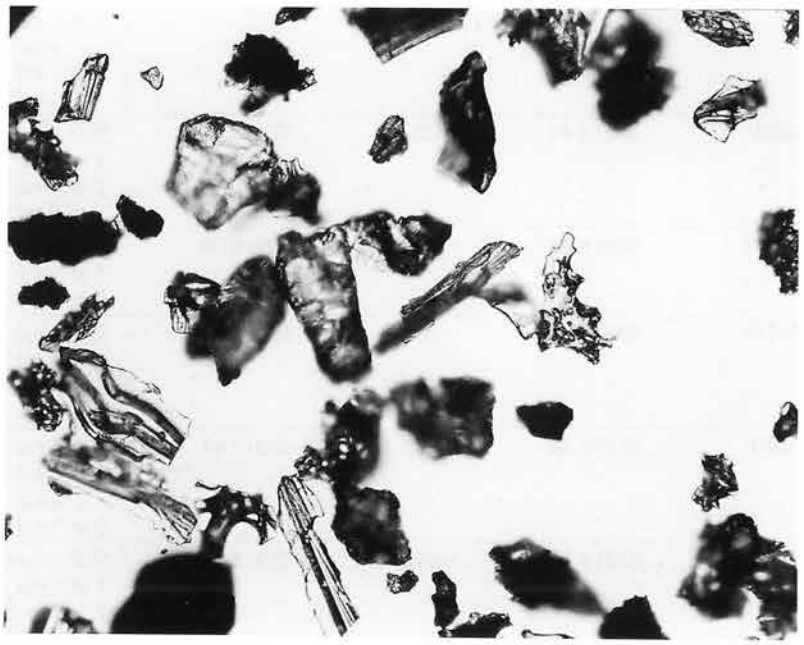
町田　洋・新井房夫・森脇　広, 1981, 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, 562-569.

町田　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－. 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学.865-928, 渡辺直経編, 同朋舎.

柴　正敏・中道哲郎・佐々木　実, 2001, 十和田火山, 降下軽石の化学組成変化－宇樽部の一露頭を例として－. 弘前大学理工学部紀要, 4, 11-17.



1．ブロック試料



2．十和田中掫テフラの火山ガラス

図版1　ブロック試料　火山ガラス

2　放射性炭素年代測定

株式会社古環境研究所

1. 試料と方法

試料名	遺構・資料名	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SI01住居跡床面出土炭化物	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄、石墨調整	AMS
No.2	SI15住居跡炉埋設土器167内焼土抽出炭化物	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄、石墨調整	AMS
No.3	SD04堀跡底面出土炭化物	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄、石墨調整	AMS
No.4	SI07炉埋設土器69付着炭化物（ス）	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄、石墨調整	AMS
No.5	14C18～19・Ⅲ層上位出土土器703付着炭化物	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄、石墨調整	AMS
No.6	SI19住居跡炉埋設土器229付着炭化物（おこげ）	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄	AMS
No.7	SX06住居状遺構出土土器441付着炭化物（おこげ）	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄	AMS
No.8	SI22住居跡炉内焼土抽出炭化物	炭化物	酸－ｱﾙｶﾘ－酸洗浄	AMS

※ AMS（Accelerator Mass Spectrometry）は加速器質量分析法

2. 測定結果

試料名	測定No.(Beta-)	^{14}C年代(年BP)	δ^{13}C (‰)	補正^{14}C年代	暦年代（西暦）
No.1	189015	4710±40	−29.6	4630±40	交点：cal BC 3370 1σ：cal BC 3500 ～ 3450, ：cal BC 3380 ～ 3360 2σ：cal BC 3510 ～ 3350
No.2	189016	4550±40	−26.2	4530±40	交点：cal BC 3340 1σ：cal BC 3350 ～ 3310, ：cal BC 3230 ～ 3110 2σ：cal BC 3360 ～ 3090
No.3	189017	3690±50	−27.0	3660±50	交点：cal BC 2030 1σ：cal BC 2130 ～ 2080, ：cal BC 2060 ～ 1950 2σ：cal BC 2190 ～ 2170, ：cal BC 2150 ～ 1900
No.4	189591	3800±40	−25.7	3790±40	交点：cal BC 2210 1σ：cal BC 2290 ～ 2140 2σ：cal BC 2330 ～ 2130, ：cal BC 2080 ～ 2060
No.5	189592	3850±60	−25.1	3850±60	交点：cal BC 2300 1σ：cal BC 2450 ～ 2210 2σ：cal BC 2470 ～ 2140
No.6	201815	4060±50	−26.9	4030±50	交点：cal BC 2570,2520,2500 1σ：cal BC 2590 ～ 2480 2σ：cal BC 2850 ～ 2820, ：cal BC 2670 ～ 2460
No.7	201816	4810±40	−25.5	4800±40	交点：cal BC 3640 1σ：cal BC 3640 ～ 3620, ：cal BC 3580 ～ 3530 2σ：cal BC 3660 ～ 3520
No.8	201817	4350±40	−24.8	4350±40	交点：cal BC 2920 1σ：cal BC 3010 ～ 2900 2σ：cal BC 3080 ～ 3060, ：cal BC 3040 ～ 2890

1) ^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は、国際的慣例に

よりLibbyの5,568年を用いた。

2) δ^{13}C測定値

試料の測定$^{14}C/^{12}C$比を補正するための炭素安定同位体比（$^{13}C/^{12}C$）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3) 補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、$^{14}C/^{12}C$の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（68%確率）と2σ（95%確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

3. 報告者所見

今回依頼した試料は上記に示した計8点である。各試料について触れる。No.1は、SI01竪穴住居跡の床面から出土した炭化物で、考古学的分析からは縄文時代中期前葉の住居跡と考えられる。No.2は、SI15竪穴住居跡炉埋設土器167(Ⅸ群)の中に堆積していた焼土から炭化物を抽出したもので、縄文時代中期前～中葉の竪穴住居跡と考えられる。No.3は、SD04堀跡の底面から出土した炭化物で、当初は遺構の帰属時期の推定を目的としていたが、結果は上記の通りとなった。No.4は、SI07竪穴住居跡の炉埋設土器69に付着していたススを採取したもので、土器はⅦ群に含まれる。No.5は、14C18～19･Ⅲ層上位から出土した土器703で、Ⅶ群に含まれる。No.6は、SI19竪穴住居跡の炉埋設土器229内面に付着していたおこげを採取したもので、土器はⅥ群に含まれる。No.7は、SX06住居状遺構の堆積土及びSI20竪穴住居跡床面から出土した土器441口端部に付着していたおこげで、土器はⅣ群に含まれる。No.8は、SI22竪穴住居跡の炉内焼土に含まれていた炭化物を抽出したもので、縄文時代中期前葉の竪穴住居跡と考えられる。

期待された数値、またはそうでないものもあるが、土器の器面に付着していた炭化物を採取したNo.4～7の4試料の数値は、考古学的な土器編年と比較を行えることで意義がある。（北田）

3　黒曜石産地同定分析

(株)第四紀地質研究所

1　分析試料の調整と実験条件

1-1　分析試料の調整

原産地黒曜石の分析試料は黒曜石の岩体では岩体のなかで5個所程度選択し、1個所で5～10試料を採取した。分析結果は岩体の中で選択した各個所について1分析値で代表させた。例えば、西餅屋の岩体では孔道内の4個所を4分析値で表示した。岩体が貧弱である場合には1岩体の中で10個以上を採取し、試料数分の分析結果を表示した。岩体が消滅しているものや、明確な岩体としての露頭が認められないものや河床の中の転石あるいは斜面に露出する堆積した黒曜石は10個以上採取し、試料数分の分析結果を表示した。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料を作成した。

1-2　実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製JSX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、6C～92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30kV、4mA）の採用で微量試料～最大290㎜φ×80㎜Hまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をX線照射範囲が約15㎜φの試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K,　P,　Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

岩石の化学組成を構成する主要元素と微量元素の中から、岩石の骨格となるSiとAl、有色鉱物の主要元素であるFe, Ca,無色鉱物の主要元素であるNaとKの関連からK、副成分鉱物のイルメナイトからFeとTi、微量元素ではRbとSrの各元素組み合わせにより黒曜石を分類する図を作製した（周藤他、2002）。基本的には主要元素の各元素が重複しない組み合わせとしたが、Fe, Mn, Tiは鉄質関連として相関性の高い元素であり、TiはFeとMnの2元素との対比となっている。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）でSiO_2-Al_2O_3,Fe_2O_3-TiO_2,K_2O-CaOの3組、積分強度でRb-SrOの組み合わせで図を作成した。

2　分析結果

1）里古屋遺跡より出土した黒曜石遺物は第1表化学分析表の原産地欄に示すように里古屋－1～51の51個は小赤沢産である。里古屋－53～68の16個は月山系と判別される。月山系と神津島は領域が近く、分別が難しいがRb-Srの相関では月山系の領域にあり、月山系と判別した。

2）里古屋－69～84の16個は不明とした。組成的には高原山の原石に近いもので、これほどまとまって高原山産が出土するのは珍しく、もしかすると、小赤沢に近いところに類似する組成を持つ未知の原石が存在するかもしれない。

引用文献

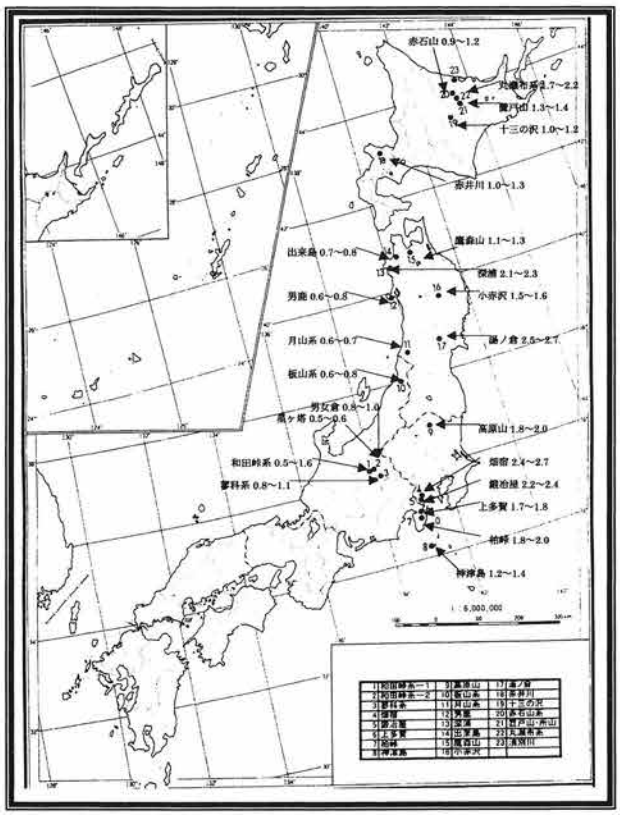
周藤賢治・小山内康人　2002　共立出版、記載岩石学上、5-20.

3　報告者所見

今回の調査で出土した黒曜石製石器は合計で398点(360.36g)であり、このうち報告者が肉眼観察を行い、製品を優先して83点(151.21g)について分析を行った。

分析によれば、試料1～51が岩手県雫石町小赤沢産、試料53～68が山形県月山系、試料69～84が栃木県高原山産という結果が得られた。

しかし、このうち試料69～84は他に類似する原石を産出する未知の場所が小赤沢周辺に存在する可能性もあることから、今回は「不明(未知)」という記載に留めた。また、分析を行わなかった遺物を再び観察したところ、宮城県湯ノ倉に見られる原石に近いものも数点認められた。



第１図原産地位置図

今回の分析試料に限ってみれば、小赤沢産には石器製作に伴う剥片が多く認められるのに対して、月山系と不明(未知)は大半が石鏃などの製品である。これは、原石のまま遺跡内に持ち込まれるか、または製品の状態で持ち込まれるかに関わる。

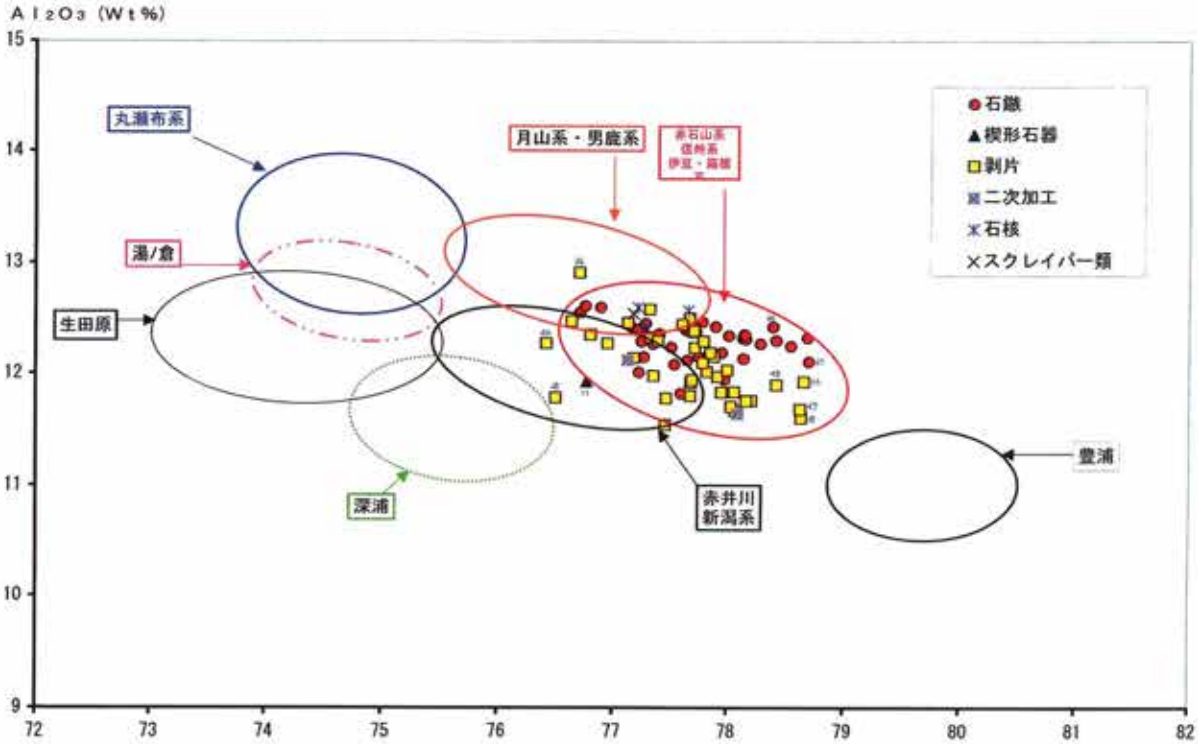
今回の結果をそのまま遺跡間交流や交易に結び付けるのは短絡的過ぎるが、遺跡近傍ではいまのところ明確な産地と呼べる場所は見つかっていない。現在知られている産地で最も近い岩手県水沢市折居産を全く出土しないことから考えても、少なくとも遺跡の存続時期である縄文時代前期後葉～後期初頭は遺跡の外に直接か間接かは明らかでないが、黒曜石の石材を獲得するために移動が行われていたのは確かであろう。　（北田）

第１表　黒曜石化学分析表

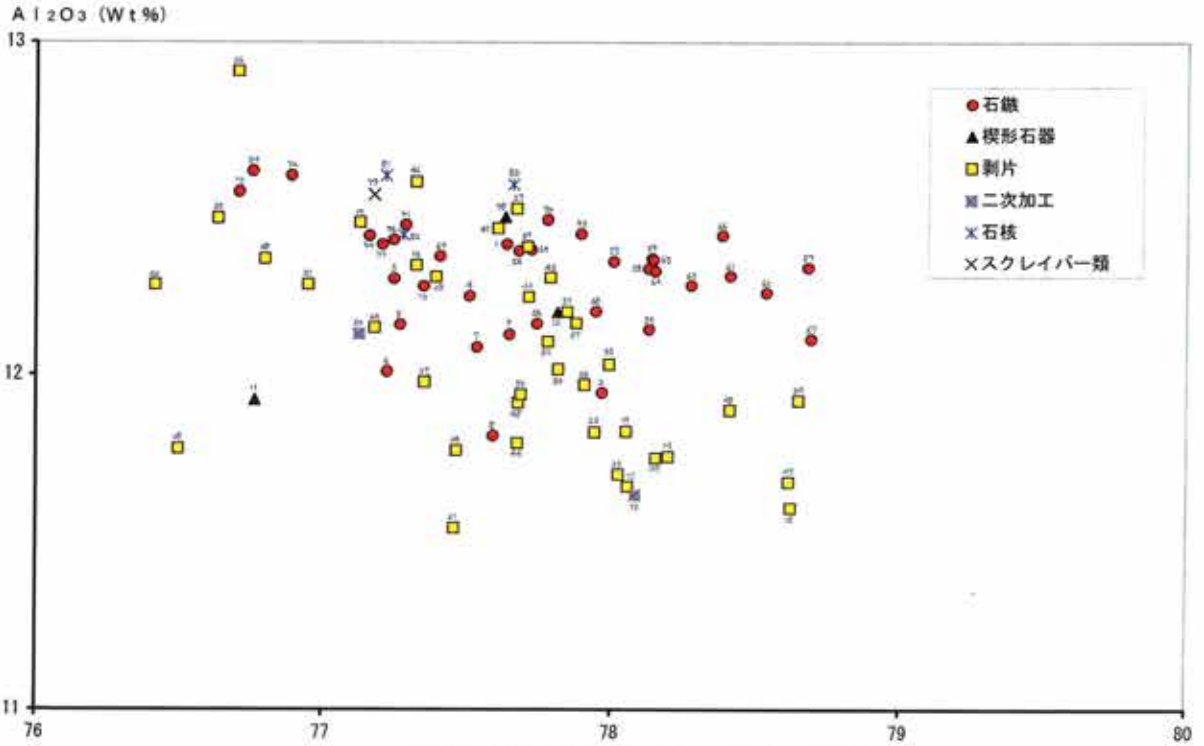
試料名	器種	時代	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	分析年度	備考
里古屋－1	石鏃	縄文時代	4.1204	0.0000	12.3954	77.6328	0.3381	2.6987	1.0556	0.1499	0.0620	1.4996	0.0087	0.0110	0.0054	0.0223	99.9999	645	803	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－2	石鏃	縄文時代	3.9122	0.0000	11.9480	77.9665	0.3921	2.7067	1.1560	0.1846	0.0664	1.6113	0.0112	0.0137	0.0091	0.0222	100.0000	824	988	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－3	石鏃	縄文時代	4.2710	0.0000	12.2901	77.2433	0.3505	2.7228	1.2023	0.1846	0.0798	1.6084	0.0090	0.0134	0.0048	0.0202	100.0002	681	992	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－4	石鏃	縄文時代	3.8092	0.0668	12.2371	77.5041	0.3785	2.8053	1.2549	0.1785	0.0811	1.6343	0.0078	0.0159	0.0061	0.0204	100.0000	552	1096	小赤沢（雫石）	H15	1004
里古屋－5	石鏃	縄文時代	4.1851	0.0000	12.1499	77.2648	0.3949	2.8882	1.1502	0.1830	0.0869	1.6502	0.0074	0.0089	0.0085	0.0220	100.0000	543	638	小赤沢（雫石）	H15	1019
里古屋－6	石鏃	縄文時代	4.5404	0.0000	12.0097	77.2205	0.1857	2.8560	1.2488	0.1827	0.0775	1.6424	0.0095	0.0090	0.0020	0.0157	99.9999	718	672	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－7	石鏃	縄文時代	4.0771	0.0000	12.0814	77.5314	0.2532	2.8220	1.2601	0.2014	0.0821	1.6442	0.0098	0.0121	0.0056	0.0195	99.9999	729	878	小赤沢（雫石）	H15	984
里古屋－8	石鏃	縄文時代	4.4072	0.0000	11.8212	77.5880	0.2935	2.6773	1.1936	0.1959	0.0816	1.6852	0.0127	0.0133	0.0053	0.0252	100.0000	877	893	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－9	石鏃	縄文時代	4.1782	0.0000	12.1200	77.6432	0.3481	2.7989	1.1202	0.1651	0.0724	1.5051	0.0132	0.0127	0.0039	0.0189	99.9999	1030	972	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－10	石鏃	縄文時代	3.9984	0.0000	12.2679	77.3452	0.4632	2.7069	1.1908	0.2153	0.0814	1.6786	0.0095	0.0129	0.0060	0.0239	100.0000	692	918	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－11	楔形石器	縄文時代	4.7131	0.0000	11.9269	76.7658	0.3734	3.0626	1.1751	0.1871	0.0768	1.6554	0.0102	0.0168	0.0085	0.0284	100.0001	656	1058	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－12	楔形石器	縄文時代	3.9003	0.0000	12.1879	77.8110	0.3180	2.7222	1.1414	0.1733	0.0833	1.6102	0.0096	0.0155	0.0062	0.0211	100.0000	676	1068	小赤沢（雫石）	H15	1102
里古屋－13	二次加工ある剥片	縄文時代	4.1704	0.0000	11.6424	78.0840	0.3513	2.7626	1.1053	0.1814	0.0708	1.5836	0.0106	0.0114	0.0068	0.0192	99.9998	785	823	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－14	剥片	縄文時代	4.2133	0.0000	11.7578	78.1992	0.2960	2.7239	1.0746	0.1588	0.0769	1.4635	0.0087	0.0079	0.0003	0.0190	99.9999	673	600	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－15	剥片	縄文時代	4.1899	0.0000	11.6681	78.0567	0.3290	2.7538	1.2084	0.1714	0.0716	1.5080	0.0070	0.0108	0.0092	0.0160	99.9999	543	827	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－16	剥片	縄文時代	4.2243	0.0000	12.3317	77.3191	0.4065	2.7385	1.1018	0.1725	0.0721	1.5848	0.0112	0.0095	0.0058	0.0220	99.9998	872	727	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－17	剥片	縄文時代	3.8292	0.0000	12.4611	77.1255	0.6145	2.8713	1.1479	0.2023	0.0722	1.6190	0.0122	0.0145	0.0085	0.0219	100.0001	876	1019	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－18	剥片	縄文時代	4.1999	0.0000	11.6023	78.6258	0.2239	2.5261	1.0381	0.1806	0.0789	1.4772	0.0093	0.0111	0.0067	0.0201	100.0000	620	723	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－19	剥片	縄文時代	3.8391	0.0000	11.8331	78.0511	0.3787	2.8213	1.1431	0.1761	0.0770	1.6386	0.0110	0.0106	0.0016	0.0187	100.0000	787	740	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－20	剥片	縄文時代	4.3916	0.0000	11.7768	77.4601	0.5003	2.8237	1.1093	0.1795	0.0825	1.6161	0.0097	0.0126	0.0092	0.0285	99.9999	704	897	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－21	剥片	縄文時代	4.6227	0.0000	11.5412	77.4529	0.5352	2.7785	1.1863	0.1796	0.0647	1.5897	0.0068	0.0126	0.0069	0.0231	100.0002	507	924	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－22	剥片	縄文時代	4.2145	0.0404	11.8307	77.9411	0.2441	2.8633	1.1334	0.1568	0.0687	1.4686	0.0094	0.0092	0.0023	0.0175	100.0000	761	730	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－23	剥片	縄文時代	4.2218	0.0129	11.7043	78.0240	0.2579	2.8487	1.1334	0.1729	0.0710	1.5095	0.0102	0.0101	0.0047	0.0184	99.9998	784	764	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－24	剥片	縄文時代	4.3848	0.0533	12.1401	77.1775	0.3622	2.8790	1.2123	0.1756	0.0723	1.5050	0.0095	0.0077	0.0022	0.0186	100.0001	796	626	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－25	剥片	縄文時代	4.3258	0.0176	12.2959	77.3873	0.0000	3.0400	1.1710	0.1707	0.0613	1.4993	0.0086	0.0100	0.0017	0.0108	100.0000	723	823	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－26	剥片	縄文時代	3.7256	0.0000	11.9711	77.9061	0.2119	2.8298	1.2703	0.1833	0.0834	1.7593	0.0074	0.0119	0.0092	0.0308	100.0001	496	776	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－27	剥片	縄文時代	3.1992	0.1602	12.5015	77.6667	0.2628	3.2453	1.1393	0.2063	0.0602	1.5172	0.0105	0.0129	0.0007	0.0172	100.0000	841	1009	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－28	剥片	縄文時代	1.2513	0.1186	11.7817	76.5000	0.0000	7.1627	1.1628	0.1920	0.0691	1.7032	0.0125	0.0137	0.0061	0.0263	100.0000	863	923	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－29	剥片	縄文時代	4.2125	0.3262	11.9788	77.3486	0.0000	2.8514	1.2640	0.1943	0.0696	1.7093	0.0088	0.0128	0.0041	0.0196	100.0000	665	946	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－30	剥片	縄文時代	4.4712	0.0000	12.0160	77.8140	0.0000	2.8295	1.1261	0.1666	0.0701	1.4686	0.0076	0.0129	0.0041	0.0134	100.0001	630	1045	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－31	剥片	縄文時代	4.8903	0.0714	12.2728	76.9483	0.0000	2.9150	1.1427	0.1654	0.0679	1.4850	0.0076	0.0086	0.0042	0.0208	100.0000	626	689	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－32	剥片	縄文時代	4.1936	0.1719	12.0980	77.7778	0.0000	2.7076	1.1853	0.1763	0.0623	1.5801	0.0089	0.0108	0.0045	0.0227	99.9998	701	835	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－33	剥片	縄文時代	4.2499	0.0000	12.0297	77.9906	0.0000	2.8040	1.1437	0.1733	0.0710	1.4960	0.0104	0.0085	0.0024	0.0205	100.0000	798	641	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－34	剥片	縄文時代	4.0081	0.0000	11.9246	78.6514	0.0000	2.6813	1.0296	0.1624	0.0606	1.4415	0.0098	0.0101	0.0002	0.0203	99.9999	702	706	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－35	剥片	縄文時代	4.5231	0.1244	12.4735	76.6372	0.0000	2.9833	1.2830	0.2070	0.1326	1.5867	0.0108	0.0107	0.0075	0.0202	100.0000	760	739	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－36	剥片	縄文時代	4.1625	0.1950	12.9112	76.7050	0.0000	2.8595	1.1950	0.2088	0.0696	1.6449	0.0083	0.0143	0.0025	0.0232	99.9998	603	1008	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－37	剥片	縄文時代	3.7821	0.0000	12.1534	77.8762	0.0000	3.0539	1.1766	0.1885	0.0785	1.6356	0.0132	0.0111	0.0061	0.0248	100.0000	938	770	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－38	剥片	縄文時代	4.4015	0.0000	12.3507	76.7999	0.0000	3.1444	1.2638	0.1855	0.0762	1.7271	0.0126	0.0119	0.0043	0.0221	100.0000	888	821	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－39	剥片	縄文時代	4.1029	0.0000	12.3883	77.7051	0.0000	2.8276	1.0430	0.2015	0.0732	1.6159	0.0083	0.0043	0.0098	0.0203	100.0002	595	302	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－40	剥片	縄文時代	4.5936	0.0000	12.2721	76.4171	0.0000	3.0689	1.4184	0.2132	0.0670	1.9006	0.0111	0.0154	0.0031	0.0194	99.9999	752	1022	小赤沢（雫石）	H15	

試料名	器種	時代	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	分析年度	備考
里古屋－41	剥片	縄文時代	4.0660	0.0771	12.4435	77.6020	0.0000	2.7308	1.2347	0.1845	0.0632	1.5531	0.0083	0.0132	0.0059	0.0177	100.0000	654	1021	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－42	剥片	縄文時代	4.1169	0.0000	12.2345	77.7104	0.0000	2.8210	1.2057	0.1981	0.0655	1.6112	0.0073	0.0100	0.0035	0.0159	100.0000	557	751	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－43	剥片	縄文時代	3.9617	0.0000	12.2933	77.7856	0.0000	2.7485	1.2179	0.1987	0.0648	1.6877	0.0069	0.0145	0.0053	0.0151	100.0000	510	1043	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－44	剥片	縄文時代	4.4502	0.0000	11.7987	77.6723	0.0000	2.8991	1.2673	0.1895	0.0689	1.6043	0.0085	0.0152	0.0033	0.0227	100.0000	645	1128	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－45	剥片	縄文時代	3.9695	0.0000	11.8962	78.4149	0.0000	2.7996	1.1196	0.1647	0.0672	1.5304	0.0074	0.0060	0.0017	0.0228	100.0000	549	437	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－46	剥片	縄文時代	4.1933	0.0000	12.5806	77.3176	0.0000	2.8655	1.2321	0.1876	0.0613	1.5265	0.0061	0.0098	0.0070	0.0125	99.9999	494	780	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－47	剥片	縄文時代	4.0040	0.0000	11.6814	78.6186	0.0000	2.8804	1.0569	0.1705	0.0753	1.4591	0.0096	0.0130	0.0072	0.0241	100.0001	737	982	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－48	剥片	縄文時代	4.3873	0.0000	11.9178	77.6744	0.2262	2.8036	1.1333	0.1791	0.0721	1.5575	0.0115	0.0076	0.0048	0.0248	100.0000	834	539	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－49	剥片	縄文時代	4.4492	0.0000	11.7533	78.1558	0.0000	2.8761	1.0199	0.1536	0.0718	1.4724	0.0108	0.0125	0.0070	0.0176	100.0000	838	948	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－50	剥片	縄文時代	2.8661	0.0000	11.9422	77.6839	0.0000	4.4139	1.1745	0.1816	0.0826	1.6104	0.0087	0.0115	0.0021	0.0225	100.0000	594	769	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－51	剥片	縄文時代	4.2972	0.0000	12.1881	77.8442	0.1105	2.9605	1.0464	0.1605	0.0643	1.2944	0.0074	0.0067	0.0040	0.0159	100.0001	572	508	小赤沢（雫石）	H15	
里古屋－53	石鏃	縄文時代	4.2734	0.0648	12.3754	77.6751	0.0000	3.6612	0.6954	0.1699	0.1335	0.9161	0.0114	0.0137	0.0038	0.0063	100.0000	819	964	月山系	H16	
里古屋－54	石鏃	縄文時代	4.1793	0.0000	12.1350	78.1297	0.0000	3.6381	0.6873	0.1546	0.1341	0.9007	0.0148	0.0106	0.0036	0.0121	99.9999	1083	761	月山系	H16	
里古屋－55	石鏃	縄文時代	3.9638	0.1513	12.3431	78.0047	0.0000	3.6263	0.6993	0.1571	0.1171	0.9008	0.0132	0.0134	0.0044	0.0055	100.0000	974	965	月山系	H16	
里古屋－56	石鏃	縄文時代	4.5145	0.1466	12.1523	77.7397	0.0000	3.5940	0.6503	0.1542	0.1246	0.8792	0.0131	0.0113	0.0046	0.0154	99.9998	981	830	月山系	H16	
里古屋－57	石鏃	縄文時代	3.3723	0.0000	12.3246	78.6807	0.0000	3.6713	0.7307	0.1444	0.1279	0.9048	0.0159	0.0144	0.0029	0.0101	100.0000	1159	1027	月山系	H16	998
里古屋－58	石鏃	縄文時代	3.9374	0.0000	12.3213	78.1268	0.0000	3.6446	0.7179	0.1548	0.1283	0.9278	0.0141	0.0154	0.0011	0.0105	100.0000	997	1064	月山系	H16	
里古屋－59	石鏃	縄文時代	3.8419	0.0000	12.3518	78.1392	0.0000	3.6812	0.7120	0.1752	0.1297	0.9220	0.0153	0.0173	0.0003	0.0141	100.0000	1076	1193	月山系	H16	
里古屋－60	石鏃	縄文時代	4.3288	0.0000	12.3782	77.7197	0.0000	3.6291	0.7005	0.1699	0.1284	0.8945	0.0168	0.0152	0.0053	0.0137	100.0001	1211	1074	月山系	H16	
里古屋－61	石鏃	縄文時代	3.6660	0.0000	12.2988	78.4135	0.0000	3.7155	0.7024	0.1541	0.1094	0.8954	0.0164	0.0153	0.0039	0.0094	100.0001	1165	1068	月山系	H16	
里古屋－62	石鏃	縄文時代	3.5369	0.0000	12.2472	78.5388	0.0000	3.7223	0.6801	0.1638	0.1264	0.9386	0.0144	0.0161	0.0049	0.0106	100.0001	1003	1099	月山系	H16	
里古屋－63	石鏃	縄文時代	3.8850	0.0000	12.2697	78.2779	0.0000	3.6293	0.7219	0.1533	0.1245	0.8835	0.0174	0.0128	0.0053	0.0194	100.0000	1240	891	月山系	H16	1016
里古屋－64	石鏃	縄文時代	3.9561	0.0000	12.3131	78.1507	0.0000	3.5821	0.7401	0.1649	0.1191	0.9232	0.0156	0.0153	0.0045	0.0155	100.0002	1098	1053	月山系	H16	
里古屋－65	石鏃	縄文時代	3.7603	0.0489	12.3469	78.1445	0.0000	3.6928	0.7263	0.1764	0.1251	0.9289	0.0168	0.0128	0.0071	0.0132	100.0000	1183	879	月山系	H16	1002
里古屋－66	石鏃	縄文時代	3.2435	0.0000	12.4223	78.3851	0.3064	3.6413	0.7038	0.1611	0.1308	0.9595	0.0155	0.0161	0.0034	0.0112	100.0000	1076	1091	月山系	H16	1006
里古屋－67	石鏃	縄文時代	3.5075	0.0000	12.1060	78.6928	0.0000	3.6656	0.7270	0.1656	0.1298	0.9536	0.0175	0.0157	0.0052	0.0137	100.0000	1206	1061	月山系	H16	
里古屋－68	石鏃	縄文時代	4.1556	0.0000	12.1899	77.9438	0.0000	3.7082	0.7398	0.1634	0.1273	0.9282	0.0146	0.0134	0.0040	0.0117	99.9999	1062	955	月山系	H16	
里古屋－69	石鏃	縄文時代	3.6136	0.0000	12.3586	77.4011	0.2786	2.6730	1.1944	0.2690	0.0995	2.0543	0.0117	0.0166	0.0078	0.0217	99.9999	802	1113	不明（未知）	H16	
里古屋－70	石鏃	縄文時代	3.0303	0.0000	12.4689	77.7745	0.3991	2.6626	1.2462	0.2403	0.0783	2.0527	0.0144	0.0098	0.0031	0.0199	100.0001	964	643	不明（未知）	H16	1009
里古屋－71	石鏃	縄文時代	3.5391	0.0000	12.4537	77.2827	0.3236	2.7352	1.2505	0.2439	0.0827	2.0376	0.0099	0.0137	0.0015	0.0261	100.0002	662	896	不明（未知）	H16	
里古屋－72	石鏃	縄文時代	3.6416	0.0815	12.5986	76.8888	0.4960	2.7004	1.2082	0.2347	0.0943	2.0054	0.0115	0.0110	0.0047	0.0233	100.0000	795	741	不明（未知）	H16	
里古屋－73	石鏃	縄文時代	2.8335	0.0000	12.4264	77.8908	0.4258	2.7158	1.2929	0.2405	0.0804	2.0417	0.0134	0.0122	0.0027	0.0242	100.0003	896	796	不明（未知）	H16	
里古屋－74	石鏃	縄文時代	3.4314	0.2677	12.4206	77.1577	0.4138	2.6596	1.2569	0.2388	0.0836	2.0129	0.0113	0.0163	0.0030	0.0264	100.0000	764	1084	不明（未知）	H16	1011
里古屋－75	石鏃	縄文時代	3.9469	0.0930	12.5515	76.7093	0.3210	2.7044	1.2496	0.2609	0.0776	2.0374	0.0092	0.0106	0.0090	0.0197	100.0001	619	703	不明（未知）	H16	
里古屋－76	石鏃	縄文時代	3.6284	0.0000	12.4089	77.2419	0.3641	2.6821	1.2417	0.2528	0.0930	2.0257	0.0111	0.0169	0.0038	0.0297	100.0001	744	1112	不明（未知）	H16	
里古屋－77	石鏃	縄文時代	3.5106	0.0000	12.3947	77.2028	0.4741	2.7262	1.2501	0.2677	0.0918	2.0221	0.0140	0.0168	0.0047	0.0243	99.9999	942	1103	不明（未知）	H16	
里古屋－78	楔形石器	縄文時代	3.0382	0.0163	12.4767	77.6268	0.3874	2.6972	1.3045	0.2570	0.0755	2.0672	0.0103	0.0176	0.0007	0.0247	100.0001	691	1155	不明（未知）	H16	
里古屋－79	スクレイパー類	縄文時代	3.3987	0.0000	12.5433	77.1742	0.4973	2.7090	1.2710	0.2555	0.0880	2.0093	0.0104	0.0131	0.0071	0.0231	100.0000	704	863	不明（未知）	H16	1120
里古屋－80	二次加工ある剥片	縄文時代	4.0227	0.0079	12.1208	77.1237	0.3057	2.7221	1.2573	0.2642	0.0844	2.0213	0.0126	0.0136	0.0134	0.0303	100.0000	847	893	不明（未知）	H16	
里古屋－81	石核	縄文時代	3.4323	0.0000	12.5993	77.2144	0.3065	2.6965	1.2679	0.2400	0.0907	2.0858	0.0133	0.0160	0.0086	0.0288	100.0001	881	1034	不明（未知）	H16	1158
里古屋－82	石核	縄文時代	3.2913	0.0657	12.4236	77.2740	0.4658	2.7708	1.2471	0.2529	0.0741	2.0782	0.0108	0.0162	0.0075	0.0220	100.0000	710	1036	不明（未知）	H16	1159
里古屋－83	石核	縄文時代	2.8551	0.0000	12.5732	77.6546	0.2919	2.8670	1.2826	0.2370	0.0907	2.0953	0.0128	0.0162	0.0072	0.0163	99.9999	834	1029	不明（未知）	H16	1161
里古屋－84	石鏃	縄文時代	3.9988	0.0460	12.6126	76.7558	0.3792	2.6170	1.1817	0.2305	0.0944	2.0353	0.0081	0.0137	0.0023	0.0246	100.0000	539	897	不明（未知）	H16	

※　試料№52は、石材がチャートであったため掲載せずに欠番とした。

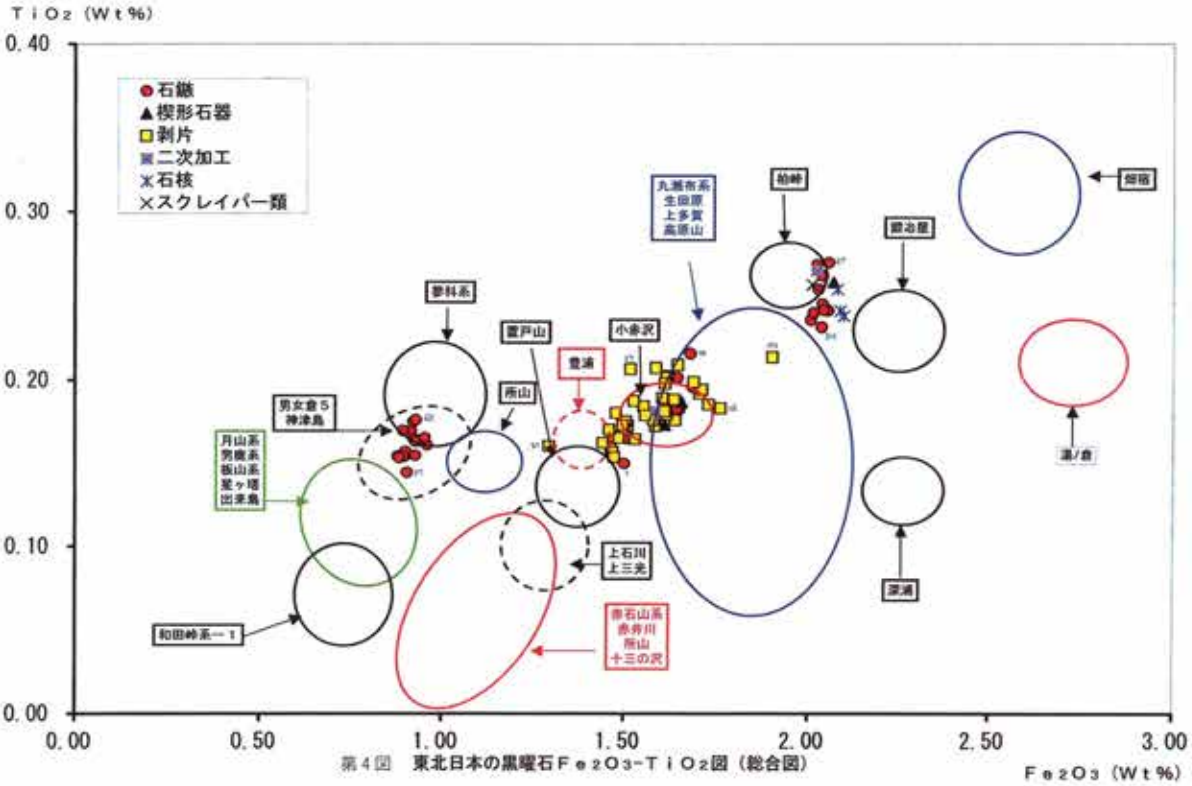


第2図　東北日本の黒曜石SiO2-Al2O3(総合図)

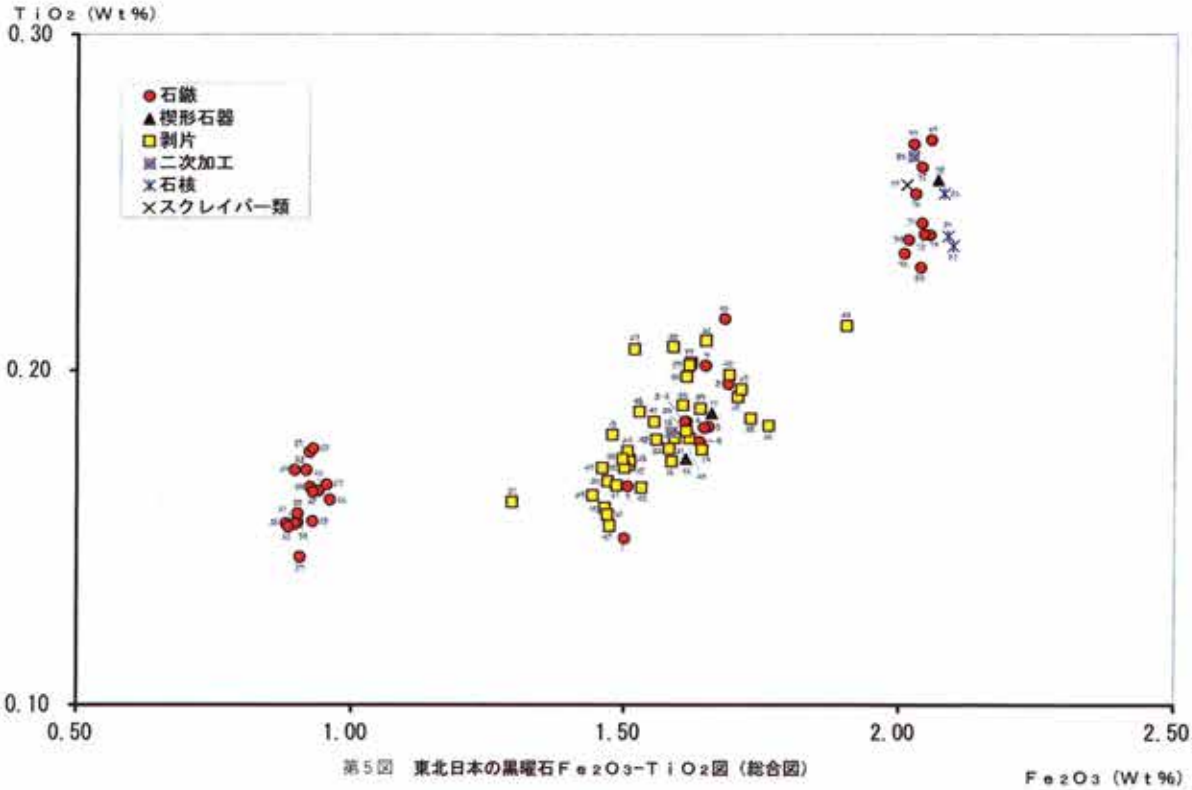


第3図　東北日本の黒曜石SiO2-Al2O3(総合図)

第２・３図　黒曜石主要元素散布図（1）

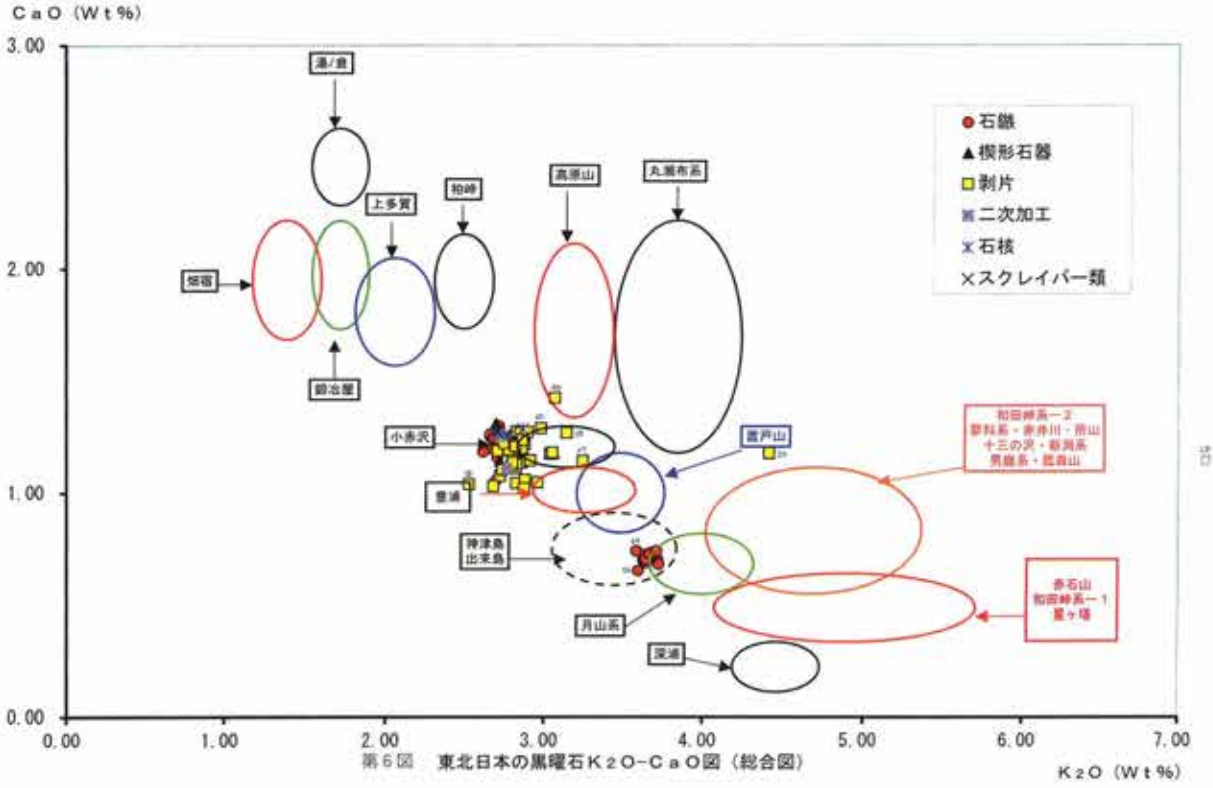


第4図　東北日本の黒曜石Fe2O3-TiO2図（総合図）

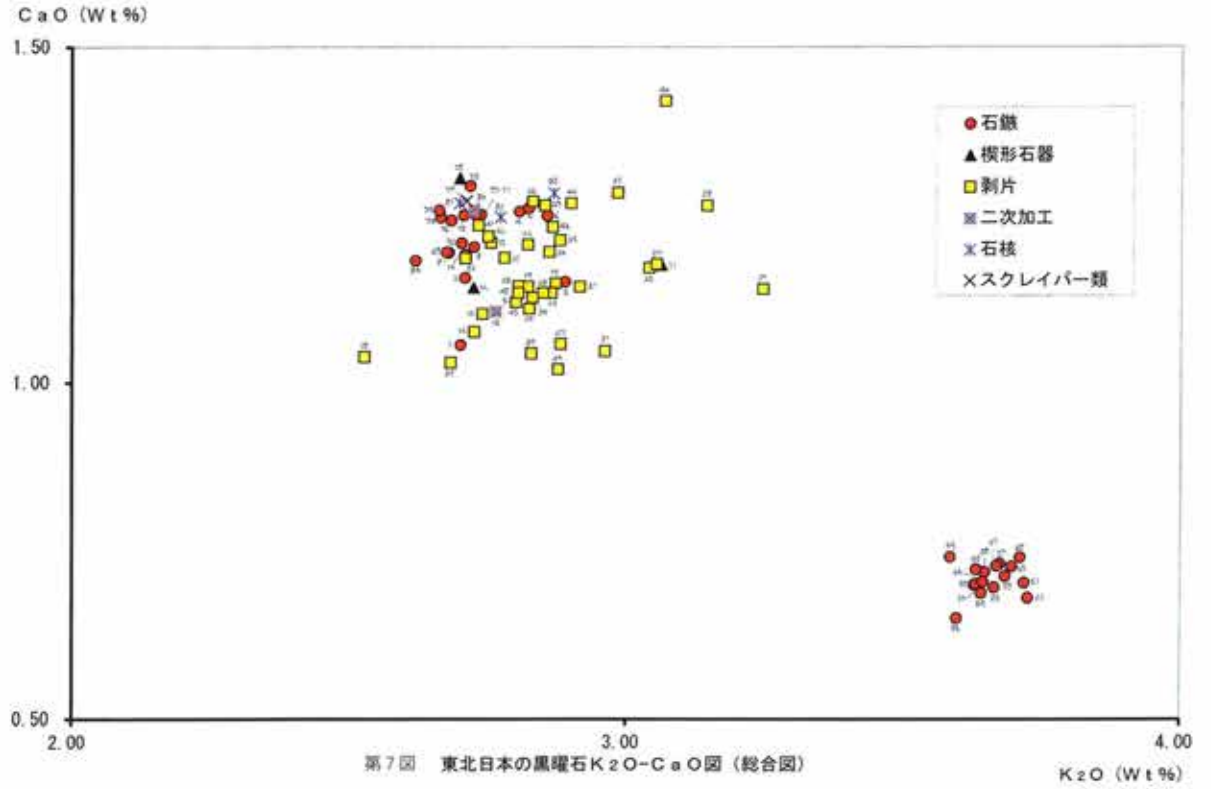


第5図　東北日本の黒曜石Fe2O3-TiO2図（総合図）

第4・5図　黒曜石主要元素散布図（2）

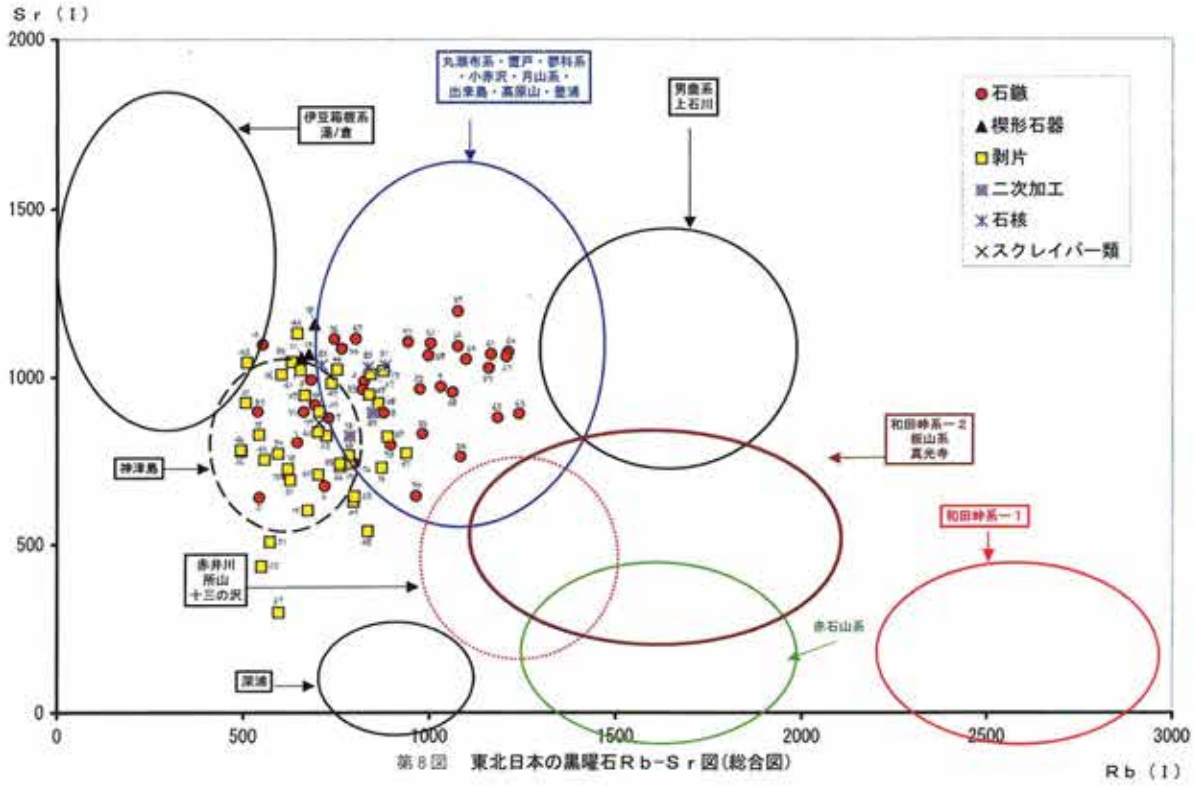


第6図　東北日本の黒曜石K2O-CaO図（総合図）

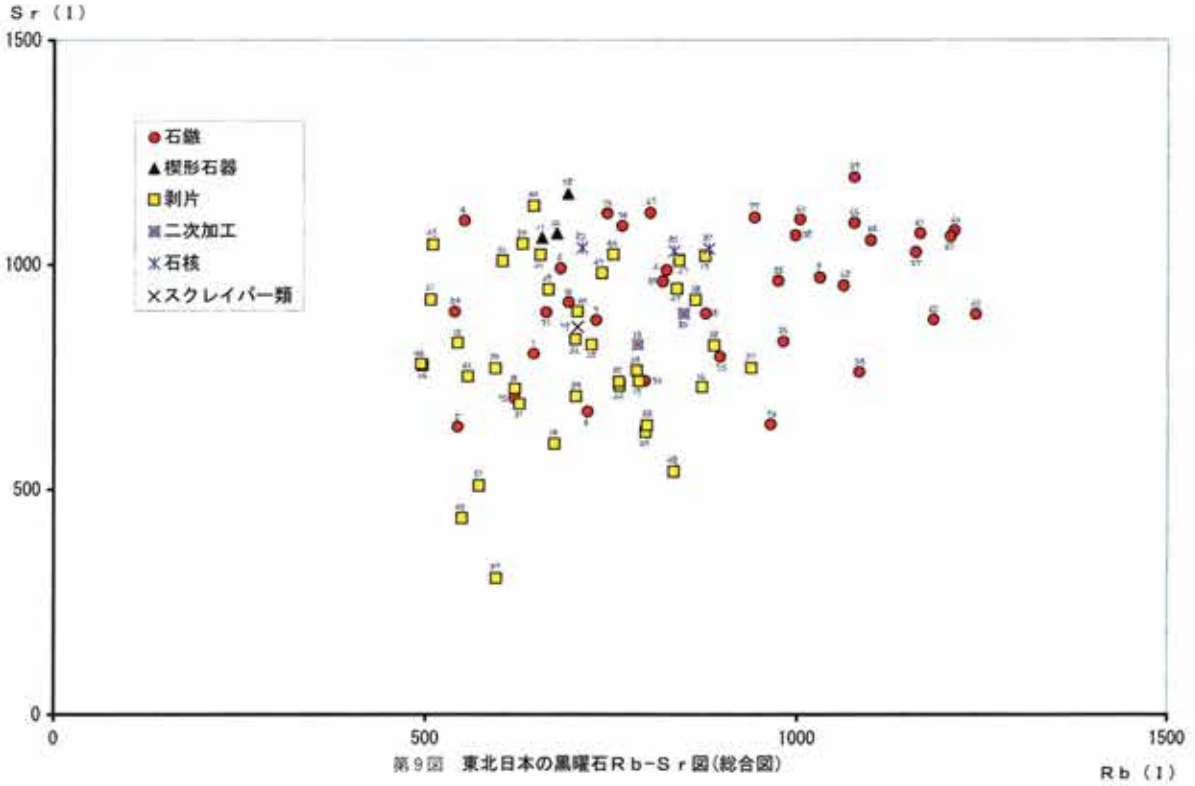


第7図　東北日本の黒曜石K2O-CaO図（総合図）

第6・7図　黒曜石主要元素散布図（3）



第8図　東北日本の黒曜石Ｒｂ−Ｓｒ図(総合図)



第9図　東北日本の黒曜石Ｒｂ−Ｓｒ図(総合図)

第８・９図　黒曜石主要元素散布図（4）

黒曜石産地同定試料（岩手県雫石町小赤沢産）

黒曜石産地同定試料（山形県月山系）

黒曜石産地同定試料（不明（未知））

炭化種実試料 No.3 SI16 炉堆積土出土

炭化種実試料 No.4 SI16 炉出土

炭化種実試料 No.3 SI16 炉堆積土出土

炭化種実試料 No.4 SI16 炉出土

4　炭化種実同定分析

吉川純子（古代の森研究舎）

1. 試料

里古屋遺跡は住田町気仙川支流の大股川左岸丘陵裾部斜面に位置する、縄文時代前期から近世にかけての複合遺跡である。本遺跡では縄文時代の竪穴住居跡や土坑、土器埋設遺構などが検出され、これらの遺構からおもに縄文中期を中心に担当者により炭化種実が選別された。このうち664粒について肉眼および実体顕微鏡で同定計数を行った。炭化したクリ子葉については計測可能な部位を計測した。

2. 分析結果及び考察

竪穴住居跡及び土器埋設遺構、土坑から出土した炭化種実の同定結果を表1にまとめた。縄文前期末葉では、焼失住居と推測されるSI38竪穴住居跡からオニグルミ内果皮破片を出土した。出土した破片は1試料5.8gであり、内果皮1個分には満たない。縄文中期前葉ではSR01及びSR02土器埋設遺構の土器内部からはオニグルミ内果皮破片とトチノキ種子破片をわずかに出土した。縄文中期前葉から中葉にかけてはSI15竪穴住居跡からオニグルミ内果皮破片をわずかに出土した。縄文中期中葉ではSK06土坑よりオニグルミの内果皮破片を出土した。縄文中期後葉では焼失住居とみられるSI16竪穴住居跡から多量の炭化種実を出土した。最も多いのはクリ子葉で、完形及び多数の破片を出土している。また、トチノキ種子の破片、オニグルミ内果皮破片も出土している。また、縄文時代後期初頭のSI17竪穴住居跡からはオニグルミ内果皮破片とクリ果皮破片を出土した。縄文時代のSK23土坑からはオニグルミの内果皮破片がまとまって出土した。

里古屋遺跡の縄文前期～中期において、前期末葉ではオニグルミのみ出土しているが、中期に入るとクリ、オニグルミとともにトチノキを出土する。トチノキを出土した住居はSI16竪穴住居跡1棟であるが、住居内の数地点から出土しており、利用目的で住居内に持ち込まれたクリやトチノキが火災焼失により炭化して残存したと考えられる。これらクリやトチノキは炭化して非常に硬くしまっているので、比較的低温で酸素の供給が少ない状態で炭化されたと考えられる。したがって、SI16竪穴住居跡で残存しているほとんどの炭化種実は、炉を使用していたときに日常的に生成されたものではなく、焼失による家屋の崩壊などで酸素の供給が断たれ

表1　里古屋遺跡より出土した炭化種実

No.	時期	出土遺構	地点	層位	オニグルミ内果皮破片	クリ種子 完形	クリ種子 半分	クリ種子 破片	クリ果皮破片	トチノキ種子破片	不明炭化物	炭化材石など
11	縄文前期末葉	SI38		床面	24	－	－	－	－	－	－	－
14	縄文中期前葉	SR01	埋設土器内	堆積土	5	－	－	－	－	－	－	－
15	縄文中期前葉	SR02	埋設土器内	堆積土	－	－	－	－	－	1	1	－
1	縄文中期前～中葉	SI15		床面	9	－	－	－	－	－	－	－
12	縄文中期中葉	SK06		底部焼土	7	－	－	－	－	－	1	－
2	縄文中期後葉	SI16	炉	焼土	2	－	－	6	－	3	－	－
3		SI16	炉	堆積土1層	6	－	－	76	－	11	6	2
4		SI16	炉		－	2	6	180	－	14	－	3
5		SI16	炉北側	床面焼土	1	－	－	19	1	－	－	2
6		SI16		床面	1	－	－	6	－	－	－	3
7		SI16	QSE	床面焼土	－	－	－	19	－	4	－	1
8		SI16	QSE	堆積土8層中	－	－	2	48	－	2	－	－
9		SI16	QNE	堆積土8層最下位	－	1	－	40	－	1	－	－
10	縄文後期初頭	SI17	15C16～17	焼土	9	－	－	－	15	－	－	－
13	縄文時代	SK23		堆積土下位底直	104	－	－	－	－	－	－	－

た際に形成されたと推測される。縄文時代においては中期末頃から食料としてのトチノキの利用が広域に確認されており（吉川ほか2005）、本遺跡においてもクリとともに食料としてのトチノキの利用があったと考えられる。後期初頭の炭化物については、オニグルミ内果皮とクリ果皮のみで、いずれも可食部分はなく、利用後の果皮を炉にくべた残存と考えられる。

3. 出土した炭化種実の形態記載

オニグルミ（*Juglans ailanthifolia* Carr.）：内果皮の破片を出土した。内果皮は壁が大変緻密で硬く、炉にくべて焼却しても比較的のこりやすい。内果皮外面は不規則でゆるやかなおうとつがあり、細い筋状の溝が入る。内果皮壁は内部に空隙があり、内面は大きく2室に分かれ、多数の曲面をもつ。

クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）：種子から種皮が脱落した状態である子葉の完形と破片、及び果皮破片を出土した。種子は三角形で外面全体に縦方向の細い溝が入いり、子葉は2つに割れる構造を持つ。果皮は加熱により燃えやすく、破片になりやすいが、細胞が縦に並ぶため、炭化しても縦方向の筋が確認できる。本遺跡で出土したクリ子葉の計測値を表2に示した。計測可能個数は少ないが、サイズがかなり小さく、中期出土クリ子葉としては北海道南茅部町（現函館市）の大船C遺跡から出土した炭化クリ計測値の平均値（長さ1.3cm、幅1.4cm）（南茅部町教育委員会2000）に近い。

表2　里古屋遺跡出土炭化クリ計測値

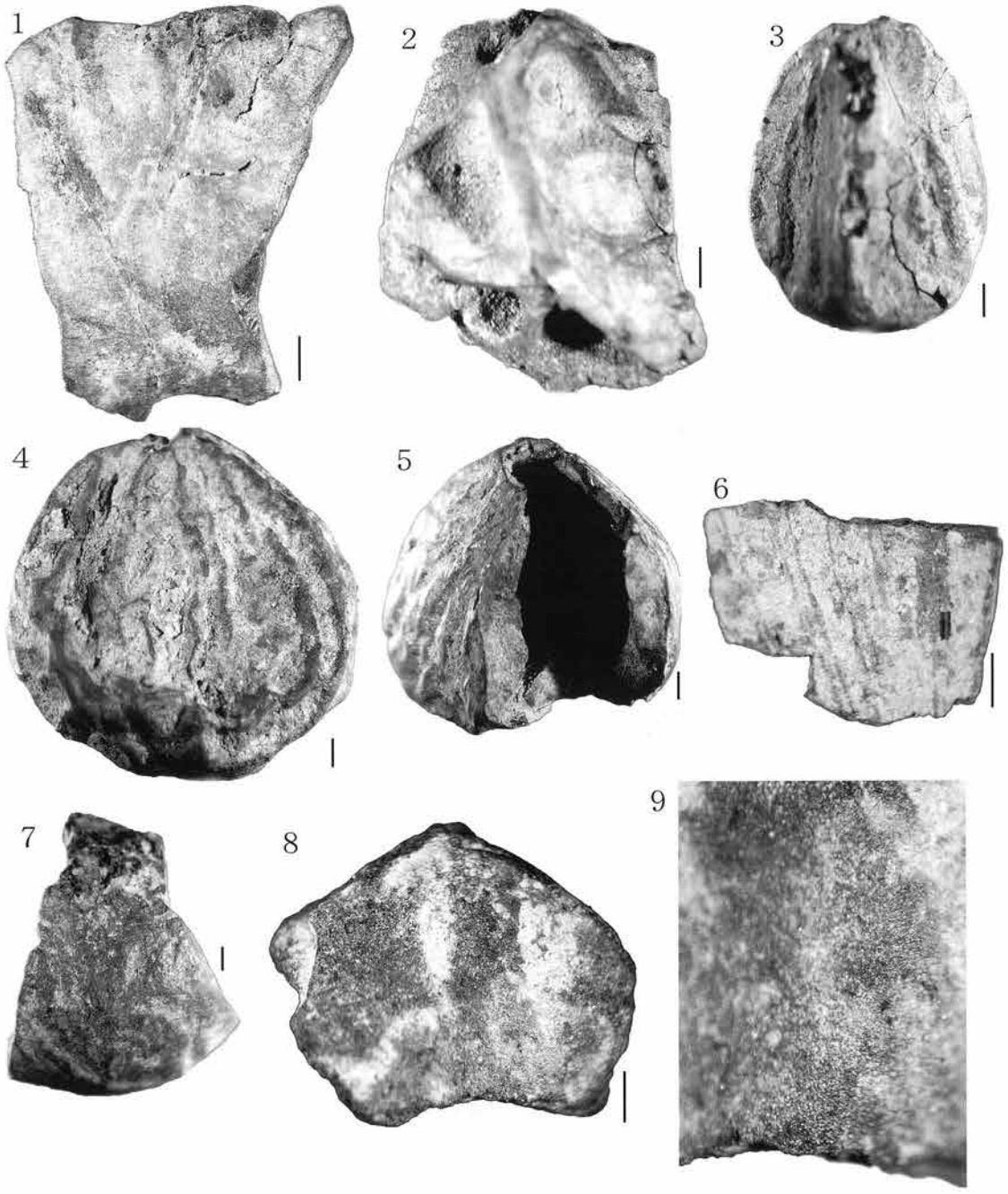
試料番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
4（完形）	13.2	13.2	6.3
4（完形）	11.6	(7.4)	7.0
4（半分）	11.0	12.0	8.3
4（半分）	10.6	12.2	−
4（半分）	12.4	13.6	−
4（半分）	10.2	11.0	−
4（半分）	10.7	12.9	−
4（半分）	10.5	−	−
8（半分）	10.3	9.2	−
8（半分）	9.8	8.7	−
9（完形）	11.0	11.1	7.5
9（破片）	14.0	−	−

トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）：炭化した種子の破片を出土した。種皮が部分的に付着しているものが多く認められる。種子は完形であればつぶれた球形を呈し、下半部を占める大きなへそがある。種皮は光沢があり、表面に指紋状、流紋状または点状の微細模様が認められる。種皮は細胞の配列に方向性がないので不規則な形に割れる。子葉の表面は不規則で緩やかなおうとつがあり、炭化すると不規則な割れ方をする場合が多い。

引用文献

南茅部町教育委員会．2000．Ⅱ章5節H-95検出のクリ炭化子葉．大船C遺跡．38-39．

吉川昌伸・吉川純子．2005．縄文時代中・後期の環境変化．日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集．日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会編．13-22．



図版1　里古屋遺跡より出土した炭化種実
1:オニグルミ内果皮破片外面 (試料1), 2:オニグルミ内果皮破片内面(試料1), 3,4,5:クリ子葉(試料4), 6:クリ果皮破片内面(試料10), 7:トチノキ子葉破片(試料4), 8:トチノキ種皮破片外面(試料15), 9:8表面の拡大　(スケールは1mm)

写 真 図 版

14C17～18　III層上面出土土器

遺跡遠景（南から）

遺跡近景（平成15年度調査区、西から）

写真図版１　調査区全景航空写真（H15年度）

遺跡近景（平成16年度調査区、真上から）

B区 遺構密集区（15～16グリッドライン）

写真図版２　調査区全景航空写真（H16年度） B区遺構密集区

調査前現況（A区）

調査前現況（C区）

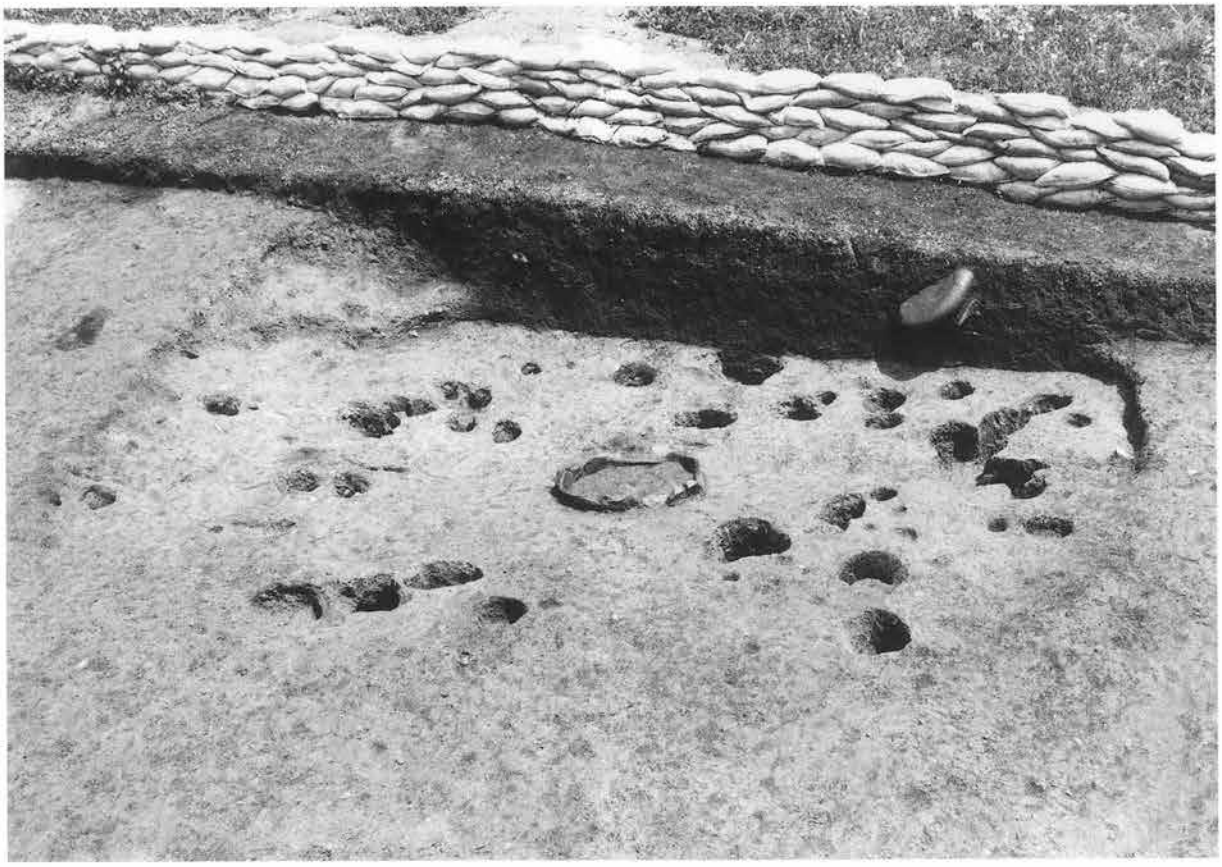
基本層序

基本層序

メインベルト３　（斜面上）

メインベルト３　（斜面下）

写真図版３　現況　基本層序



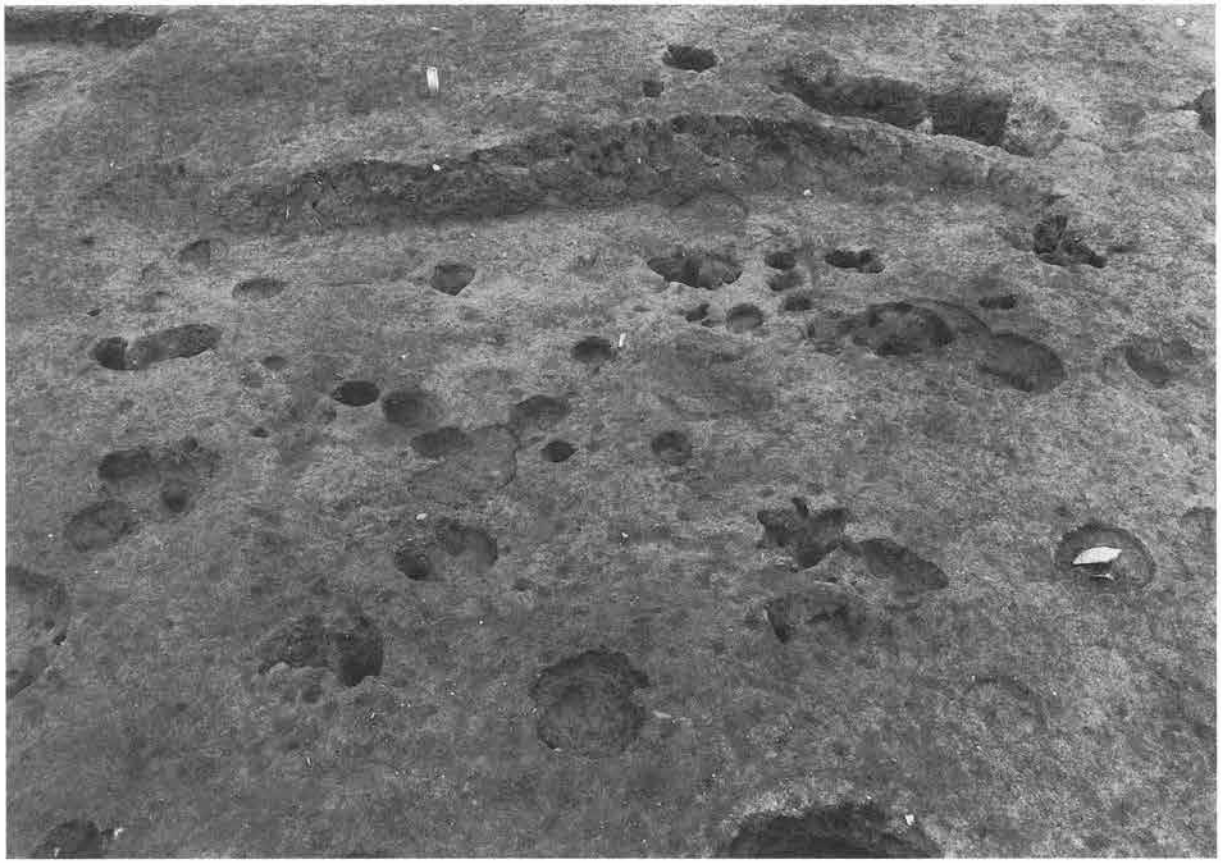
平　面

断　面（ベルトA）

炉平面

床面土器出土状況（6土器）

写真図版4　SI01 竪穴住居跡



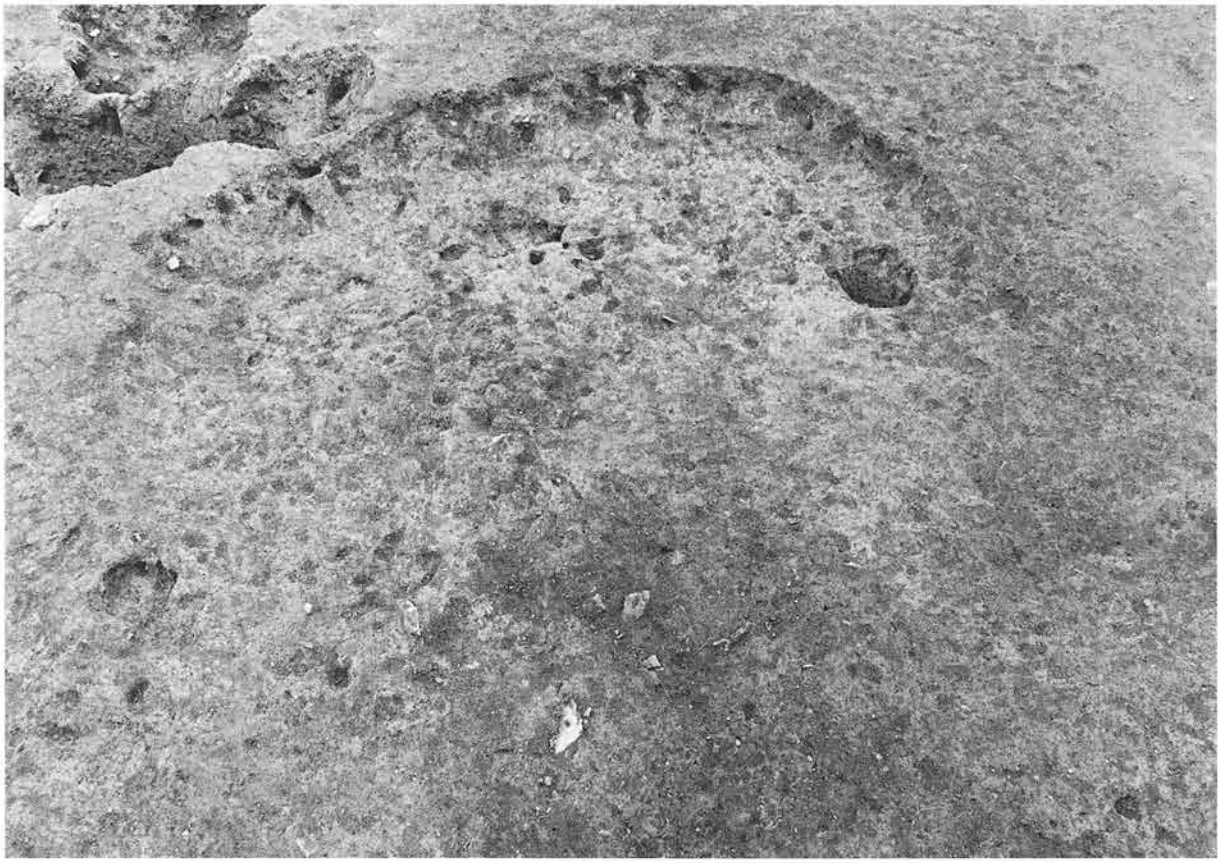
平　面

断　面（ベルトB）

炉平面

炉断面

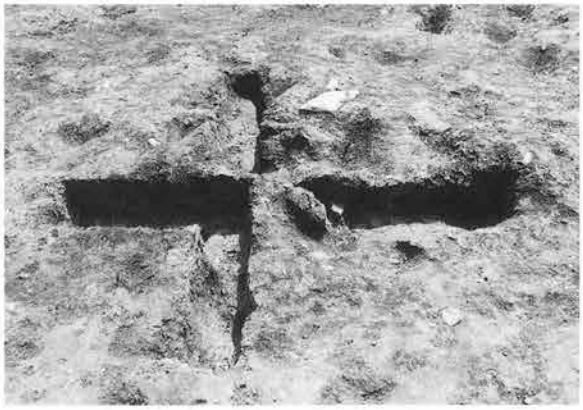
写真図版５　SI02 竪穴住居跡



平　面

断　面（ベルトA）

炉平面



炉断面

写真図版6　SI03 竪穴住居跡

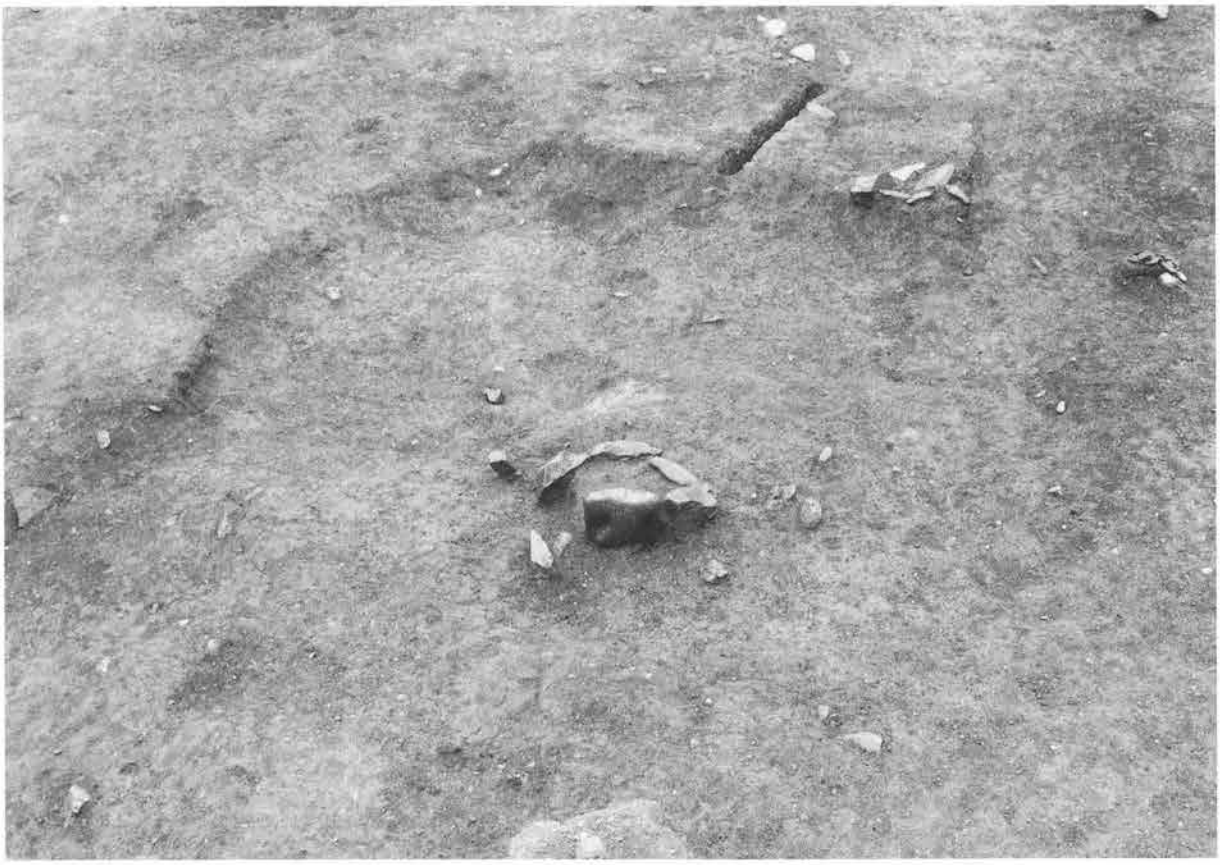
平　面

断　面（ベルトA）

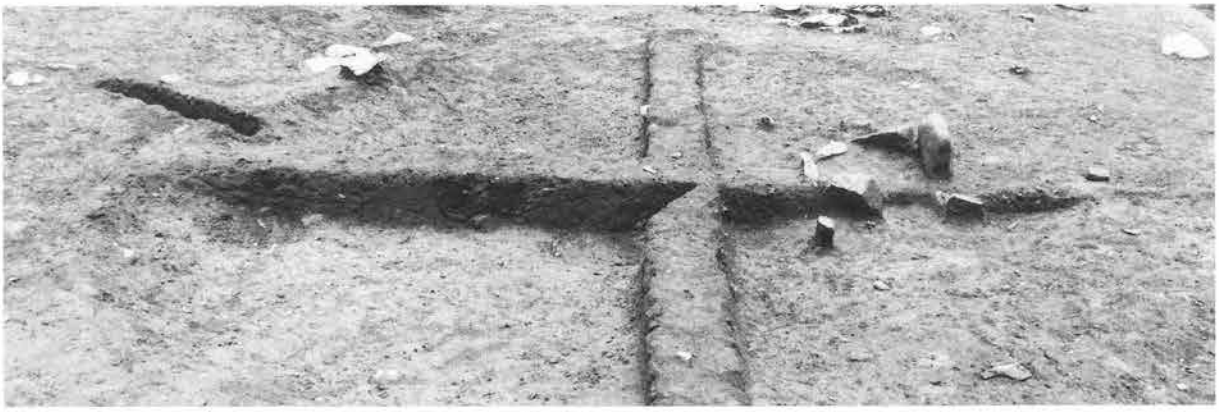
炉平面

遺物出土状況（36土器）

写真図版７　SI04 竪穴住居跡



平　面



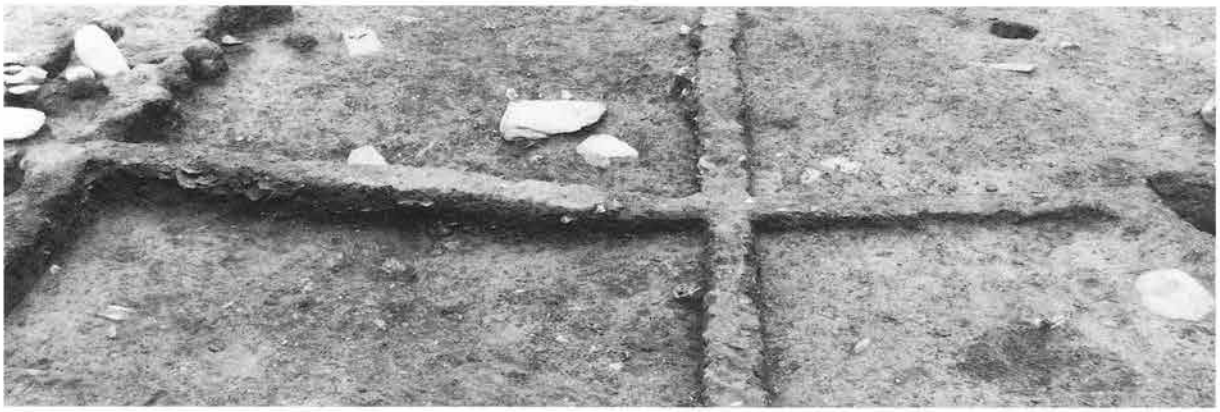
断　面（ベルトB）

炉平面

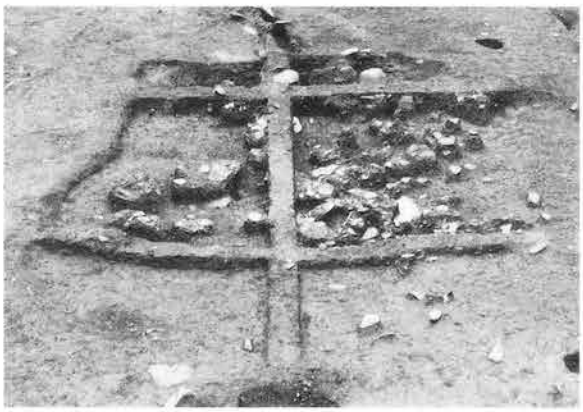
炉断面

写真図版８　SI05 竪穴住居跡

平　面（外線は推定プラン）



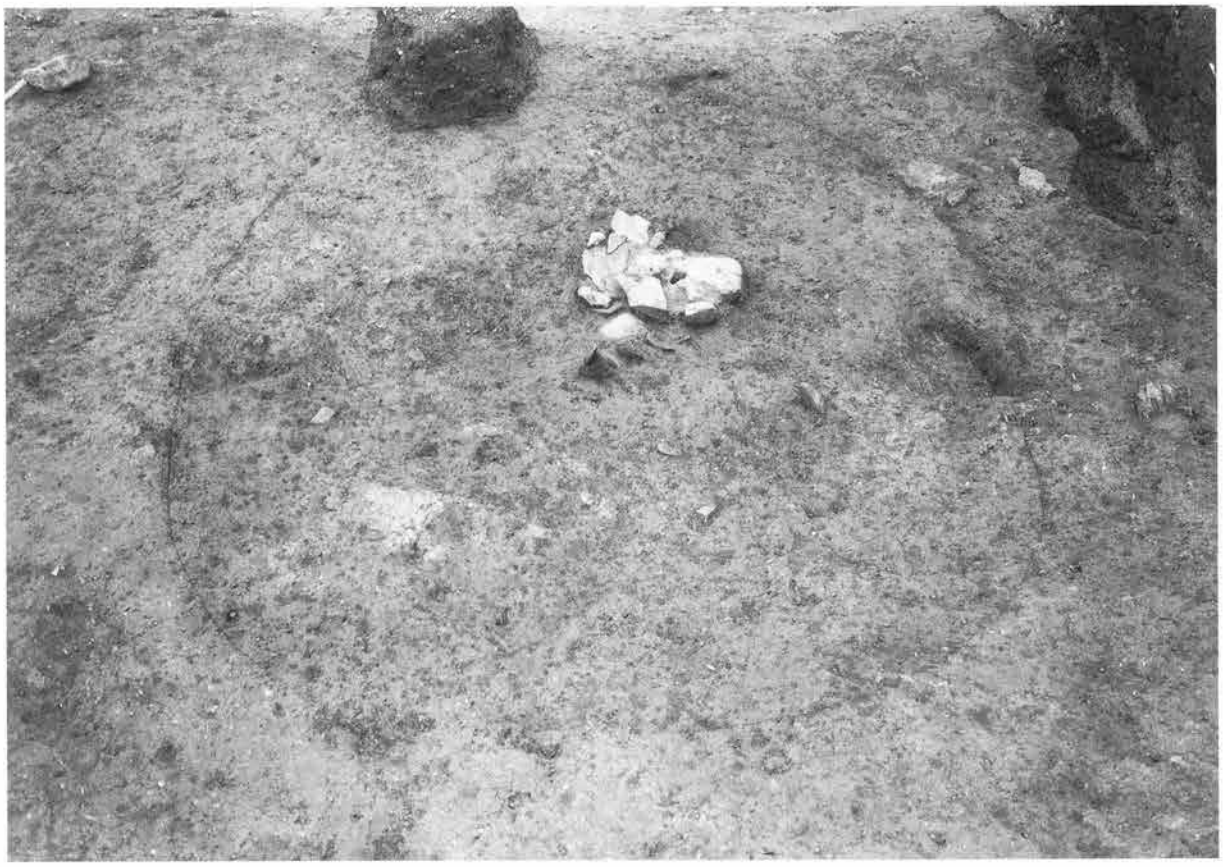
断　面（ベルトB）



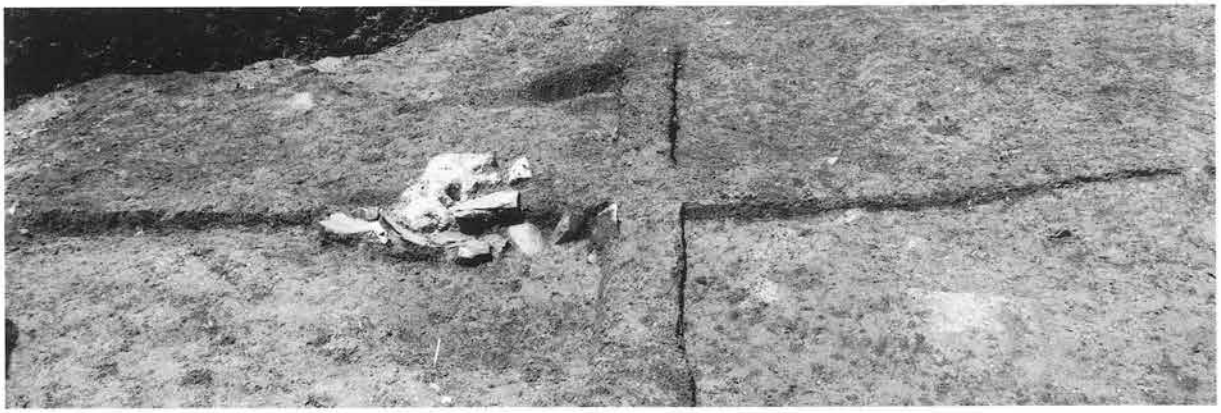
遺物出土状況

遺物出土状況（推積土下位）

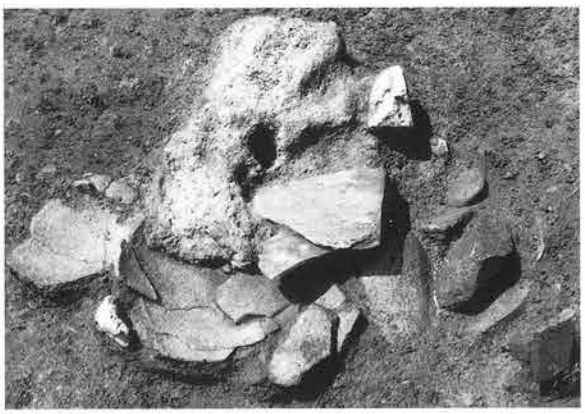
写真図版 9　SI06 竪穴住居跡



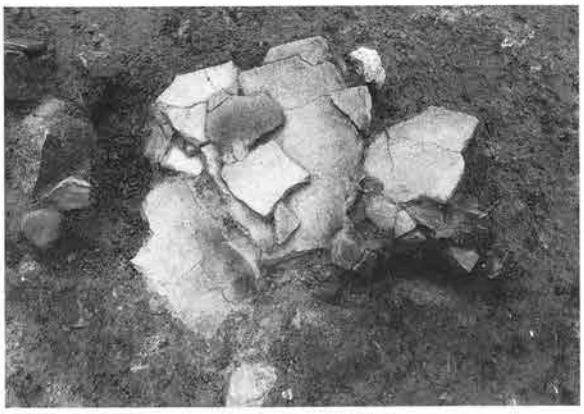
平　面（外線は推定プラン）



断　面



炉平面



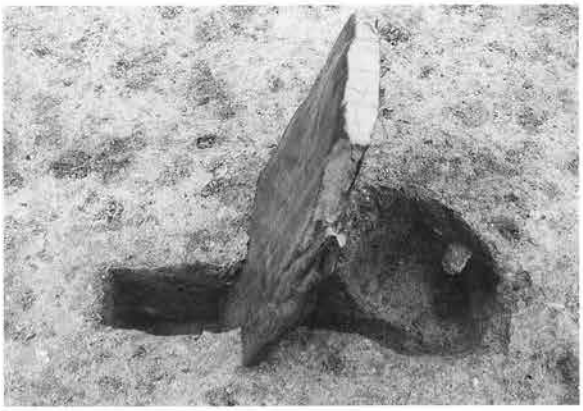
炉敷設土器（69土器）

写真図版10　SI07 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

炉平面

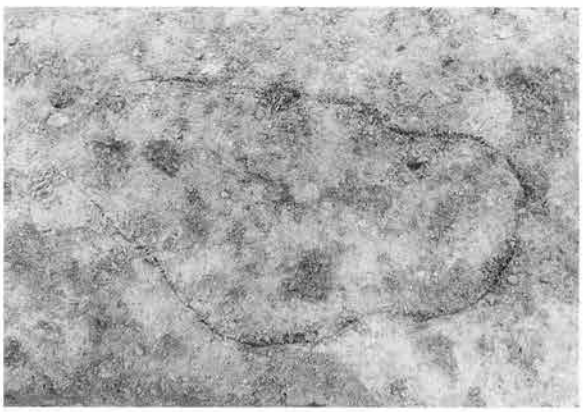


立石（1263）

写真図版11　SI08 竪穴住居跡

平　面

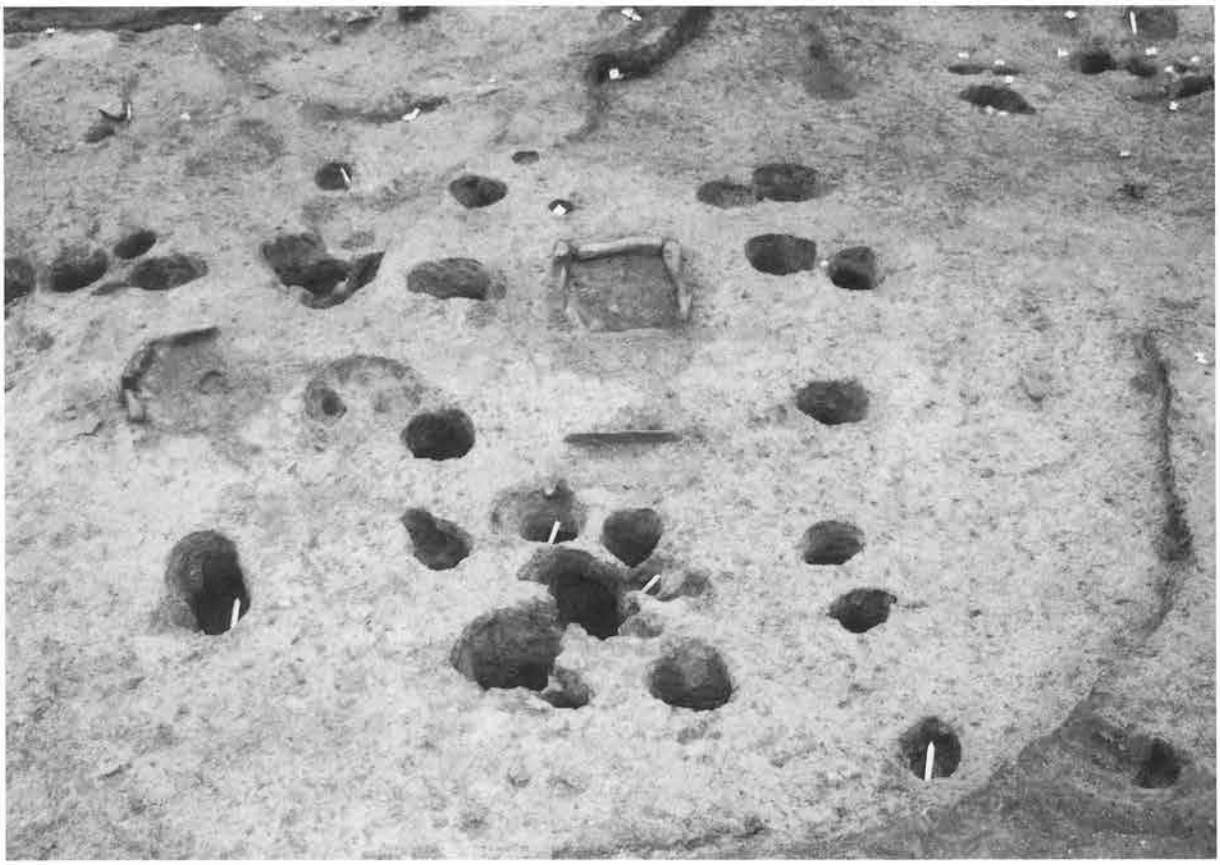
断　面（ベルトB）



炉平面

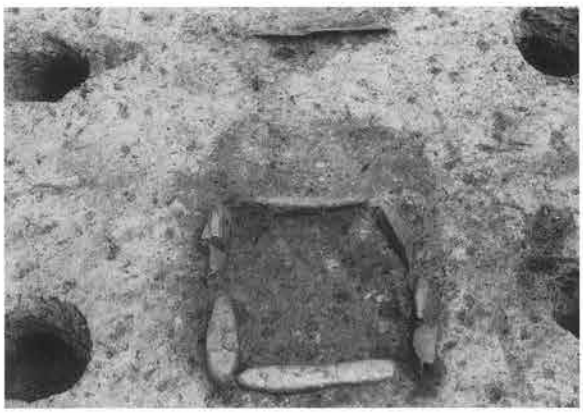
炉断面

写真図版12　SI09 竪穴住居跡



平　面

断　面（ベルトB）



炉平面

遺物出土状況（108土器）

写真図版13　SI10 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトA）

検出状況

焼土検出状況

写真図版14　SI11 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトA）

写真図版15　SI12 竪穴住居跡

平　面

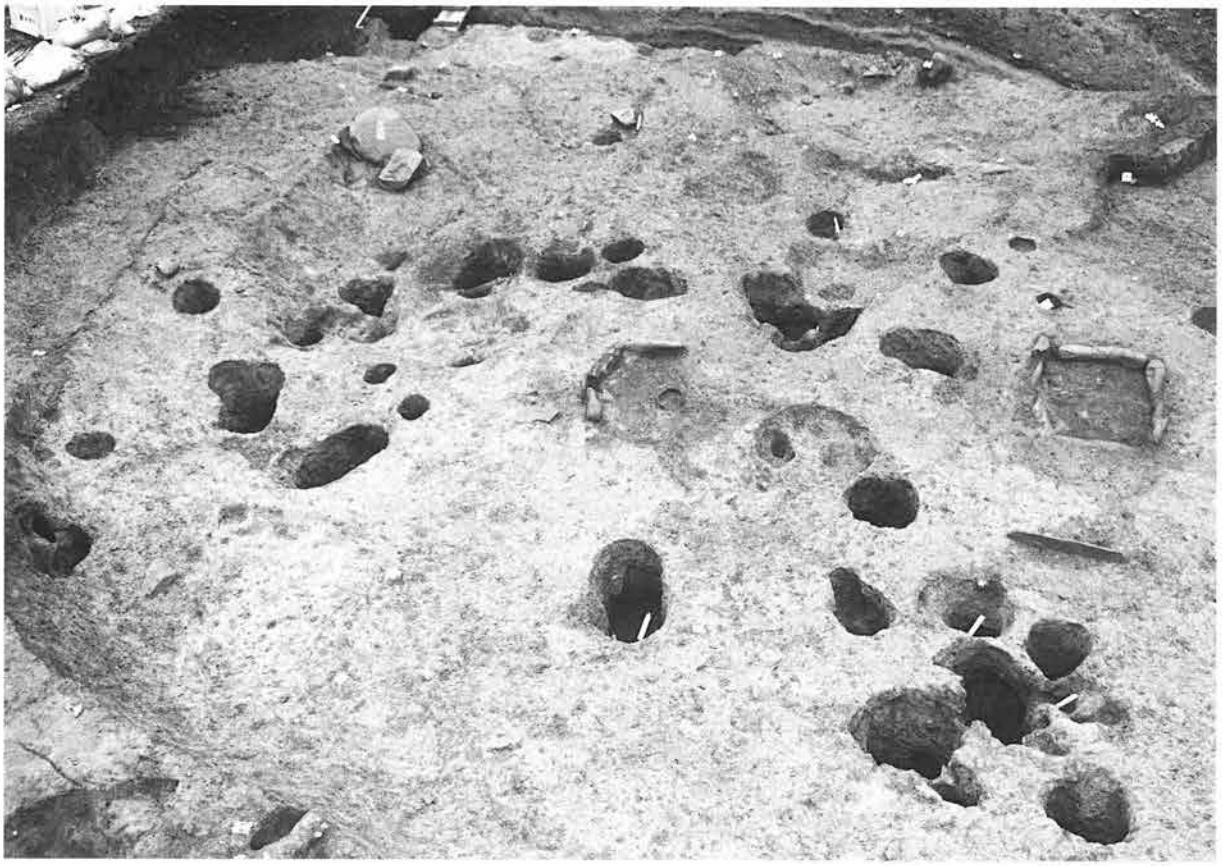
断面（ベルトA-W側）

断面（ベルトA-E側）

H15年度検出部分

炉平面

写真図版16　SI13・14 竪穴住居跡



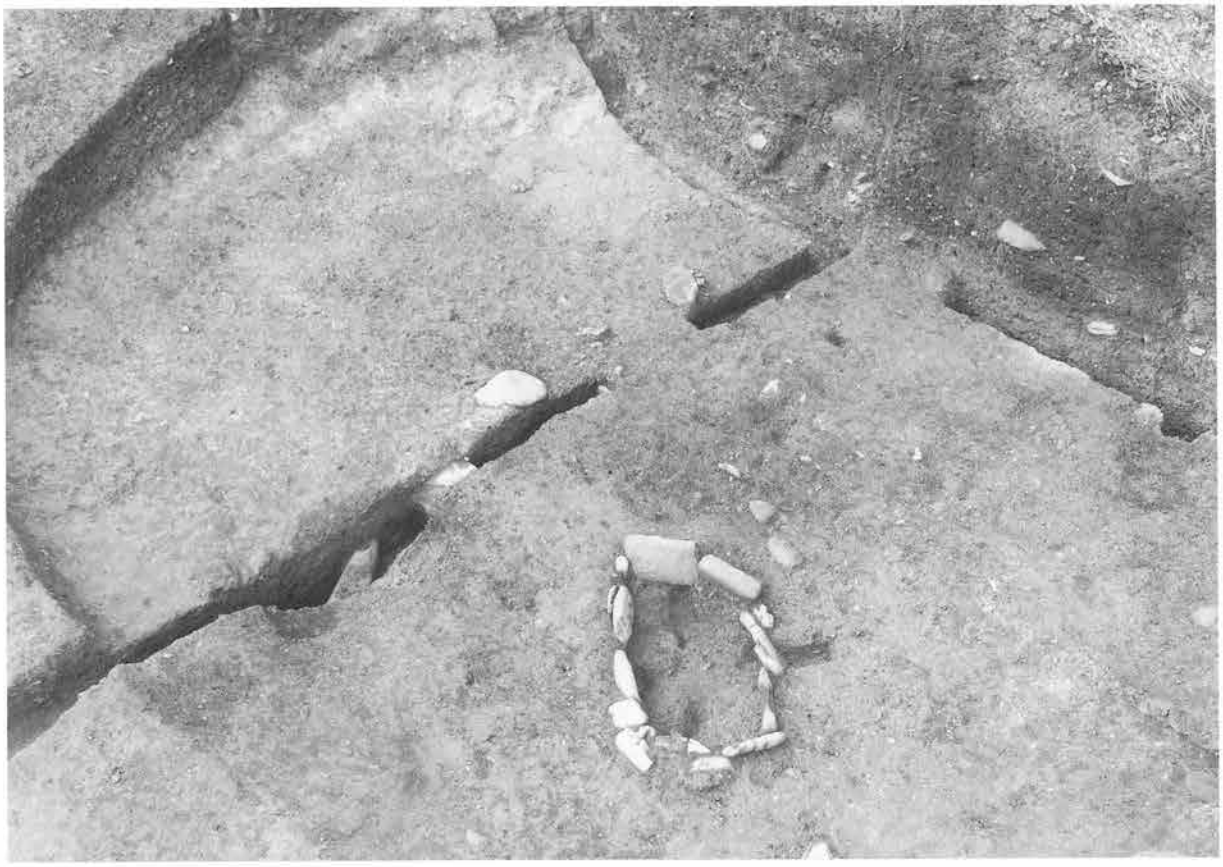
平　面

断　面（ベルトC）

炉平面

炉断面（167埋設土器）

写真図版17　SI15 竪穴住居跡



平　面

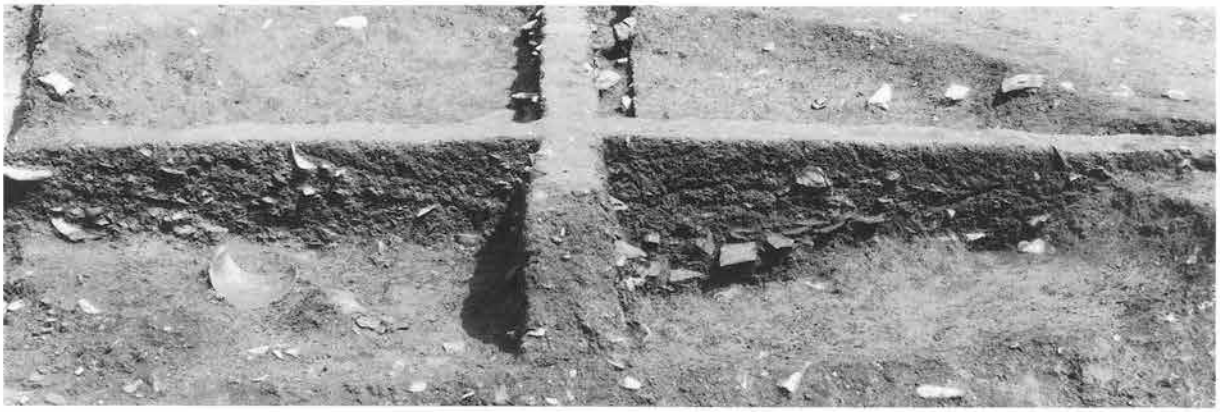
断　面（ベルトA）

炉平面

炉断面

写真図版18　SI16 竪穴住居跡

平　面



断　面（ベルトA）

炉平面（213土器など）

焼土・炭化物検出状況

写真図版19　SI17 竪穴住居跡

平　面

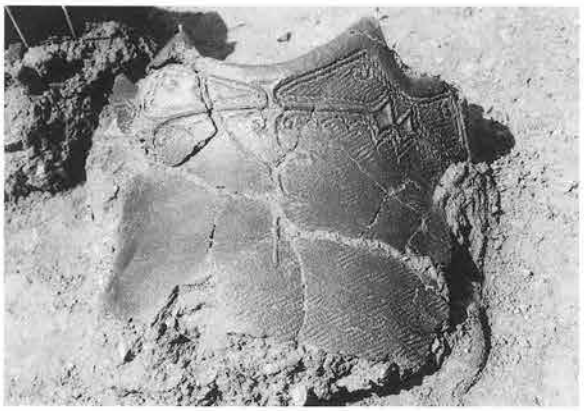
断　面（ベルトB）

写真図版20　SI18・19 竪穴住居跡（1）

SI18 炉平面

SI18 炉断面

SI18 炉土器据え痕



SI19 床面出土土器（243）

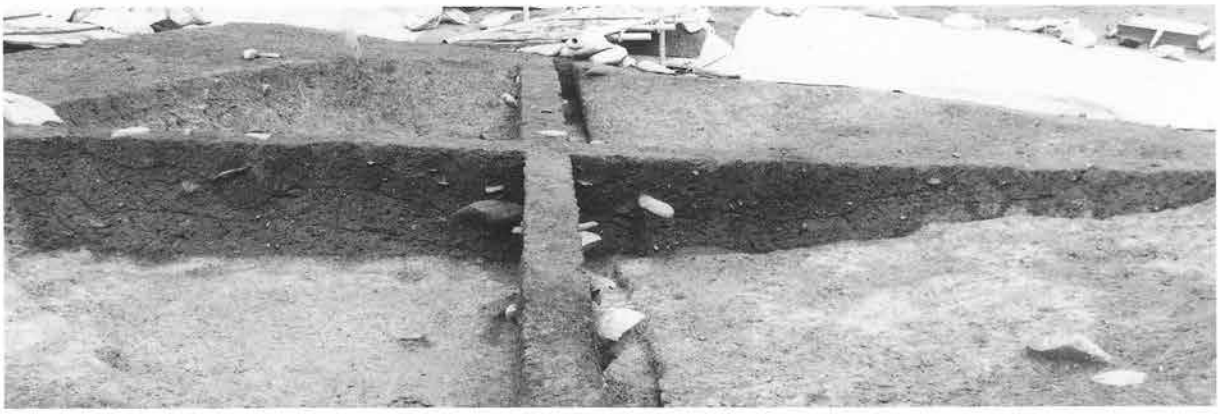
SI19 炉平面

SI19 炉断面

SI19 炉埋設土器（229）

写真図版21　SI18・19 竪穴住居跡(2)

平　面



断　面（ベルトB）

炉平面

炉断面

写真図版22　SI20 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトA）

写真図版23　SI21 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

写真図版24　SI22 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

写真図版25　SI23 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

写真図版26　SI24 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

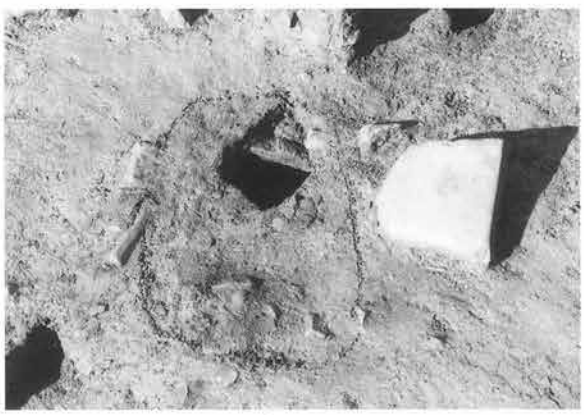
炉断面（N側）

炉平面

写真図版27　SI25 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトA）

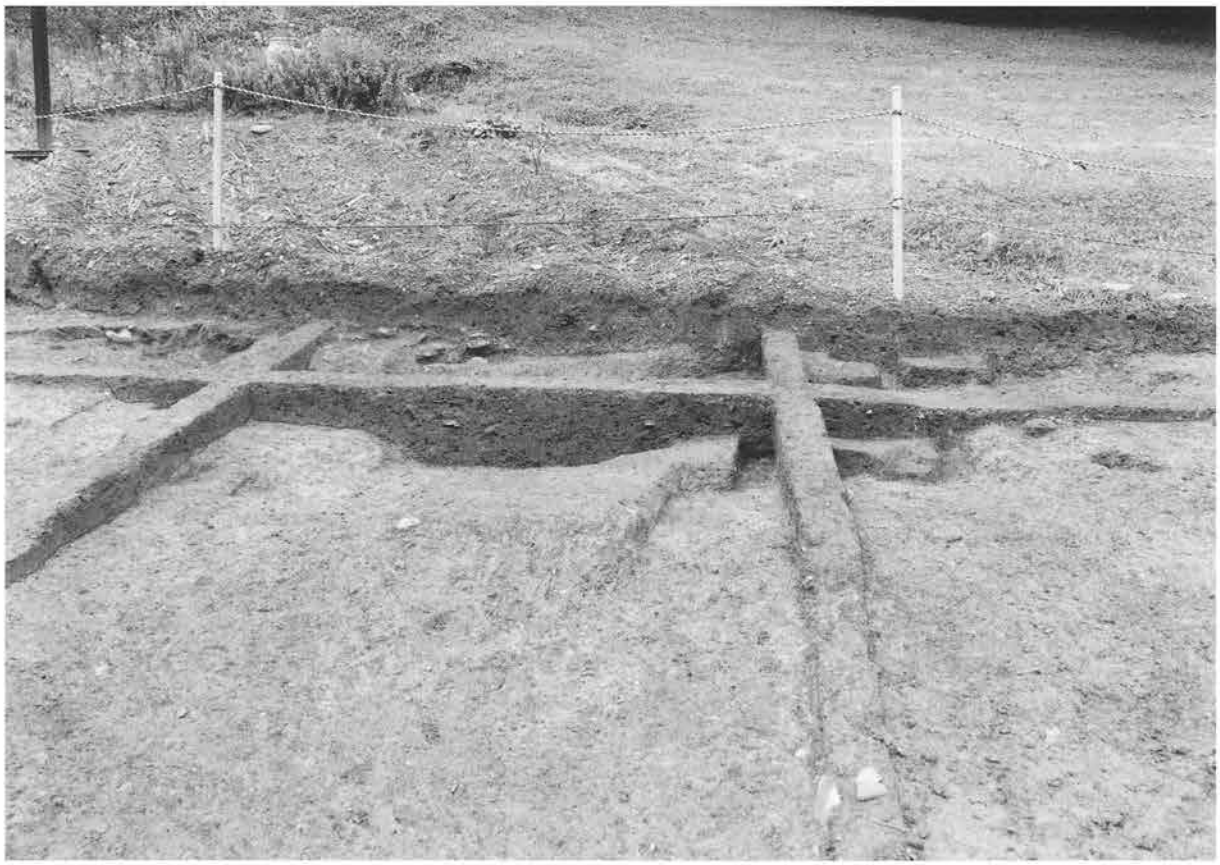


炉平面

炉断面

写真図版28　SI26 竪穴住居跡

平　面



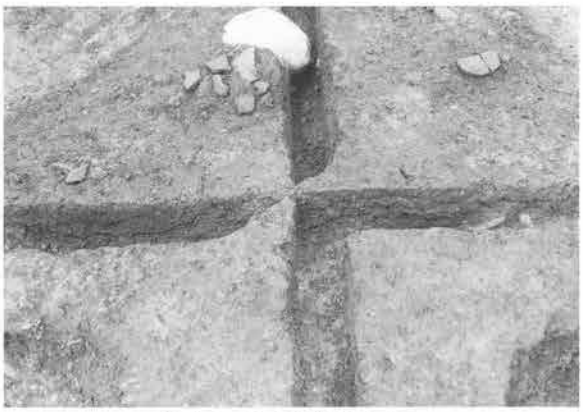
断　面（ベルトA）

写真図版29　SI27 竪穴住居跡

平面（中央は堆積土下位炭化物集中範囲）

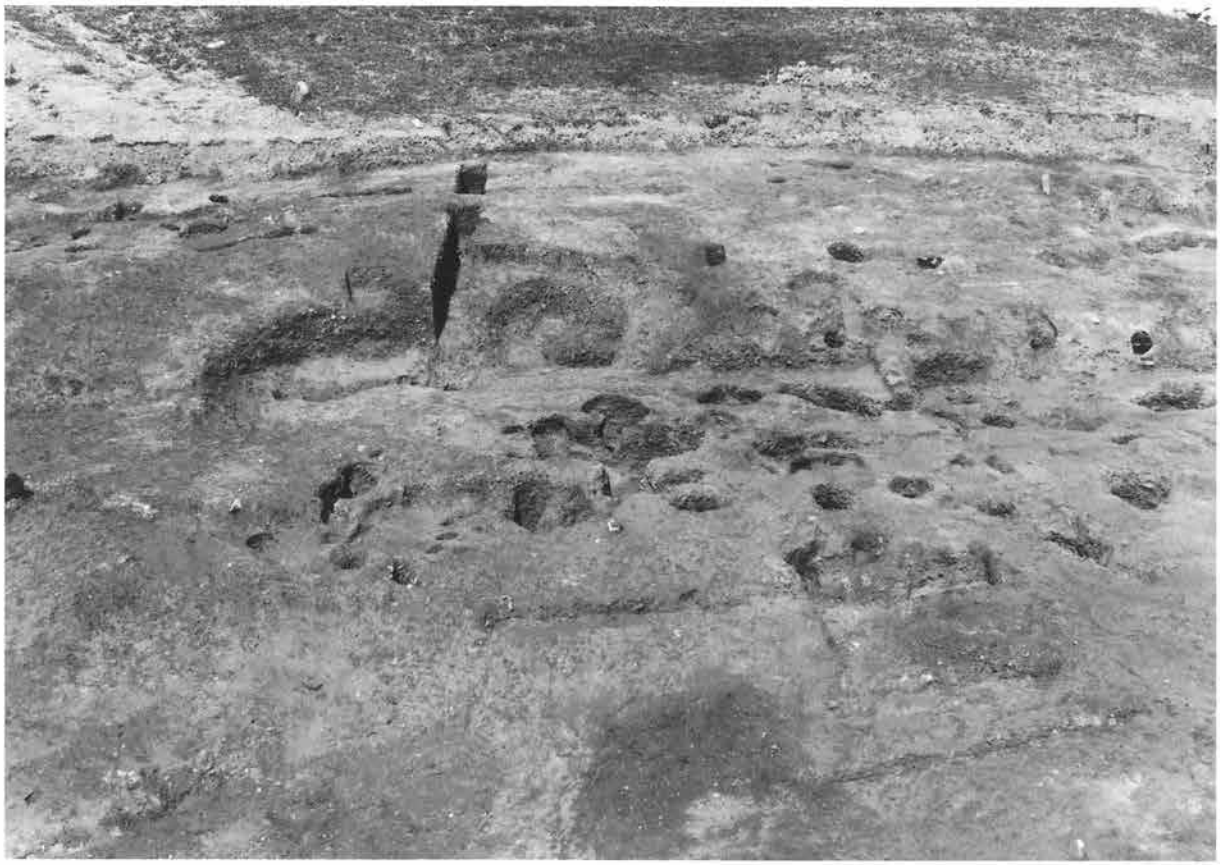
断　面（ベルトD）

堆積土下位炭化物集中平面



堆積土下位炭化物集中断面

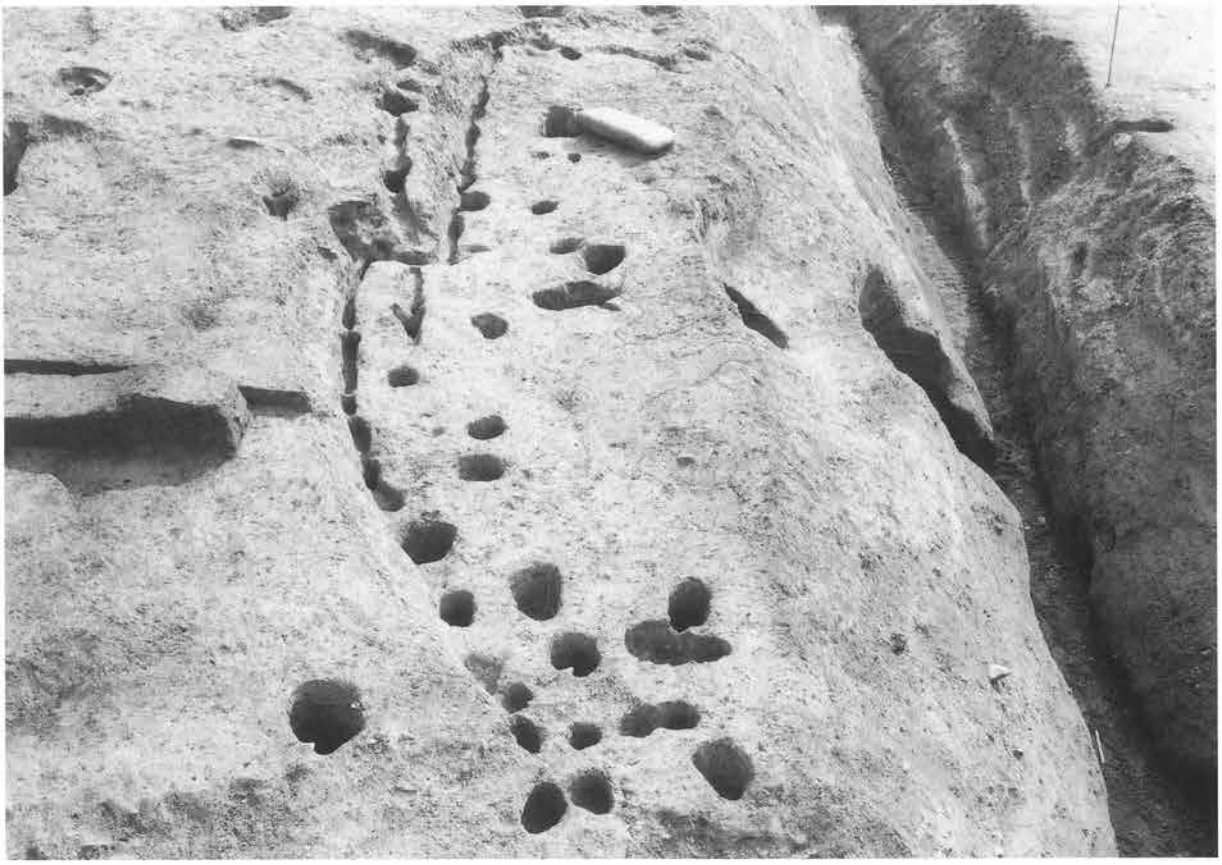
写真図版30　SI28 竪穴住居跡



平　面

断　面（ベルトB）

写真図版31　SI29 竪穴住居跡



平　面

断　面（ベルトA）

SI30炉平面（1264台石）

SI31炉平面

写真図版32　SI30・31 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

写真図版33　SI32 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB）

炉平面

炉断面

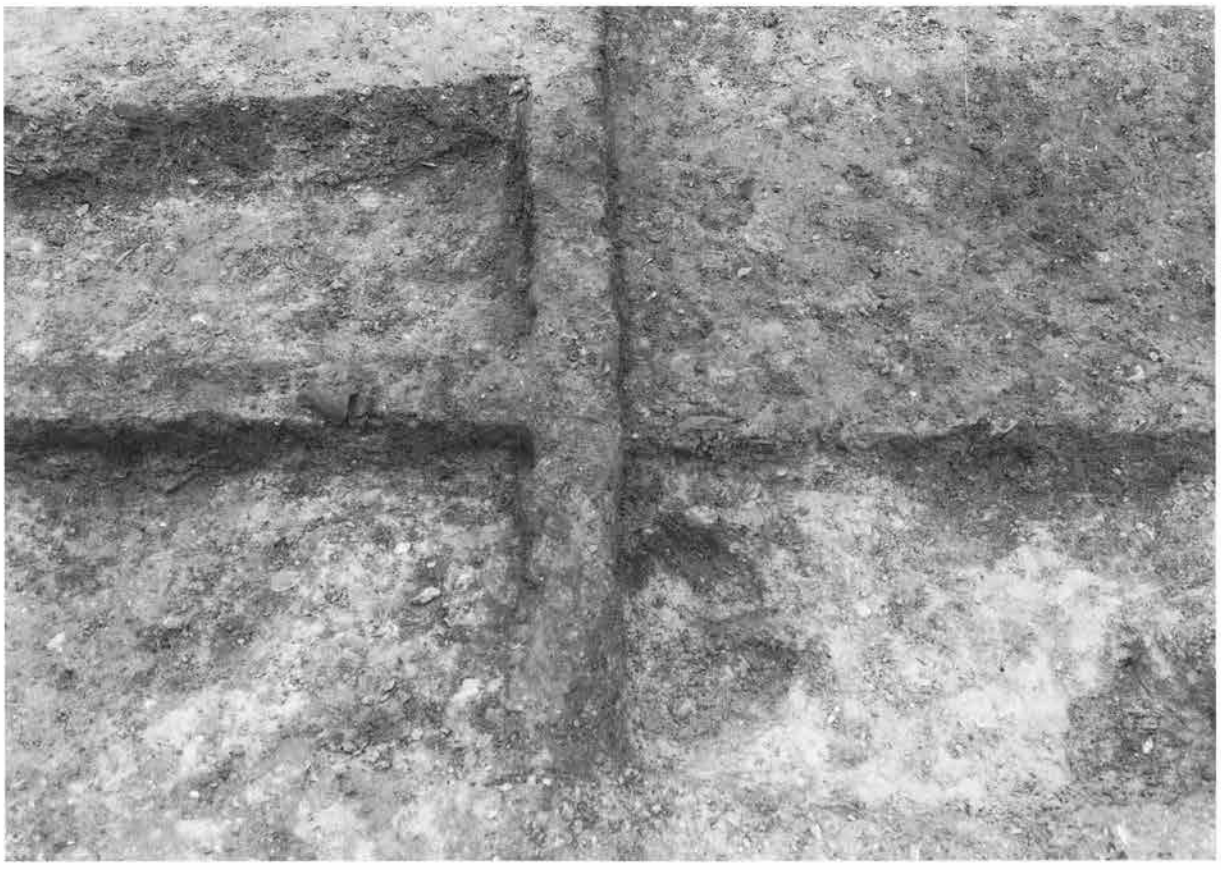
写真図版34　SI33 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトB・C）

写真図版35　SI34 竪穴住居跡

平　面



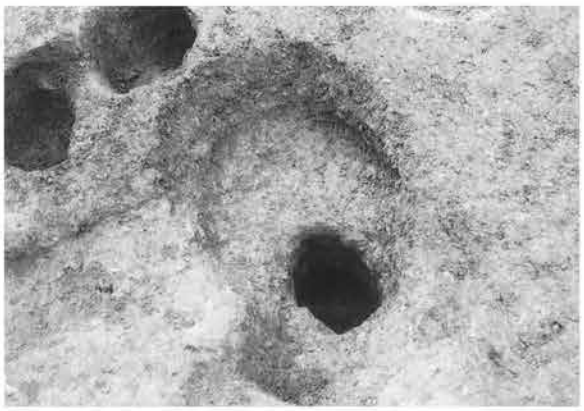
断　面（ベルトD）

写真図版36　SI35 竪穴住居跡

平　面

断面（W側）

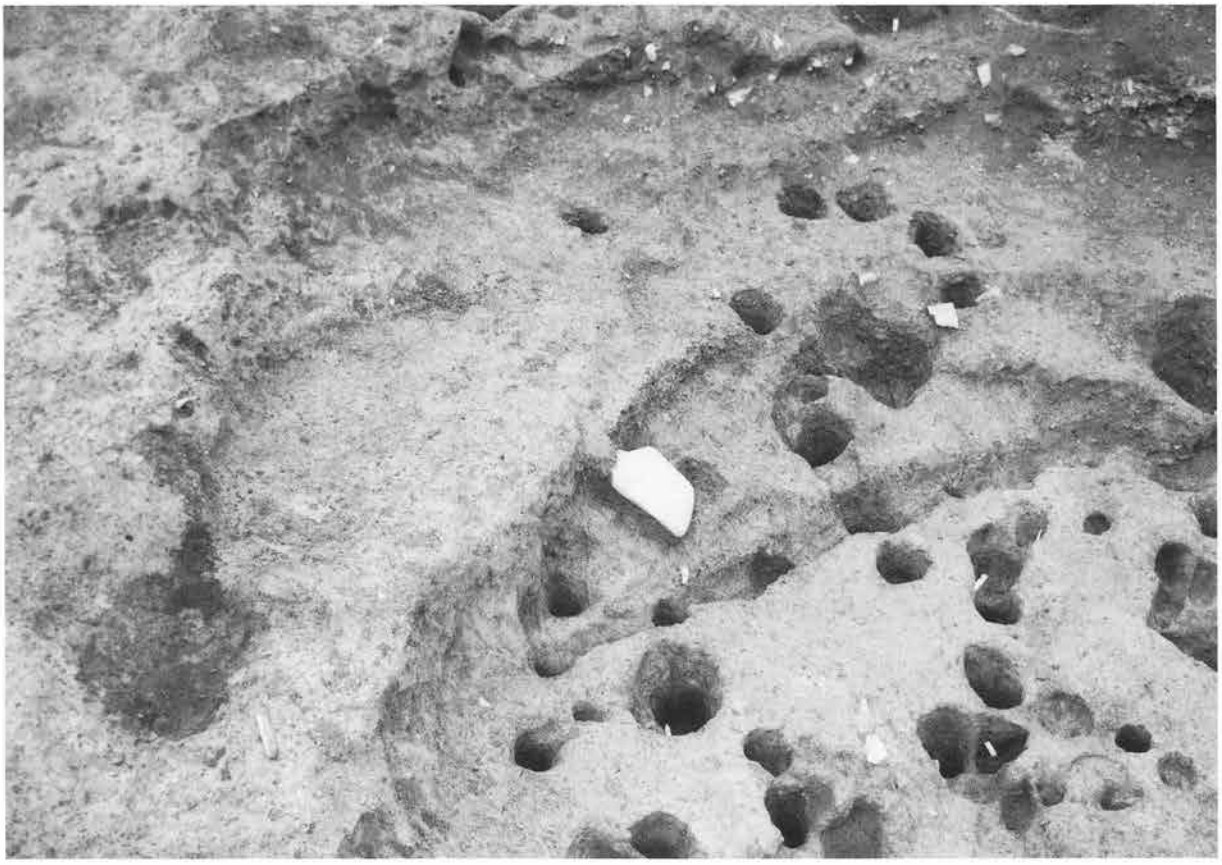
断面（ベルトA－E側）



p3　平面

p3　断面

写真図版37　SI36 竪穴住居跡



平　面

断　面（ベルトE）

写真図版38　SI37 竪穴住居跡

平　面

断　面（ベルトA）

写真図版39　SI38 竪穴住居跡(1)

SI13、25、26、30～32、34、37、38竪穴住居跡　重複状況

焼土検出状況

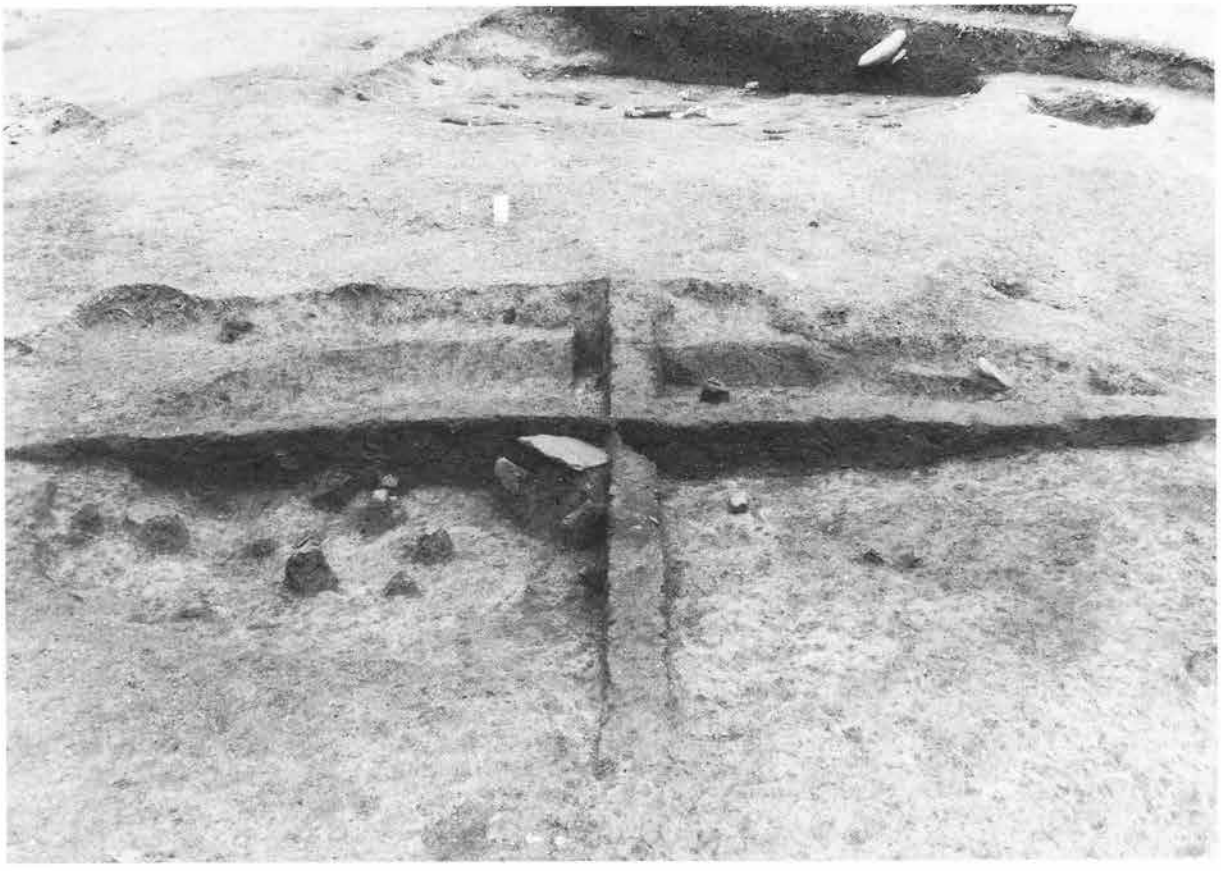
写真図版40　SI38 竪穴住居跡(2)

平　面

断　面（ベルトB）

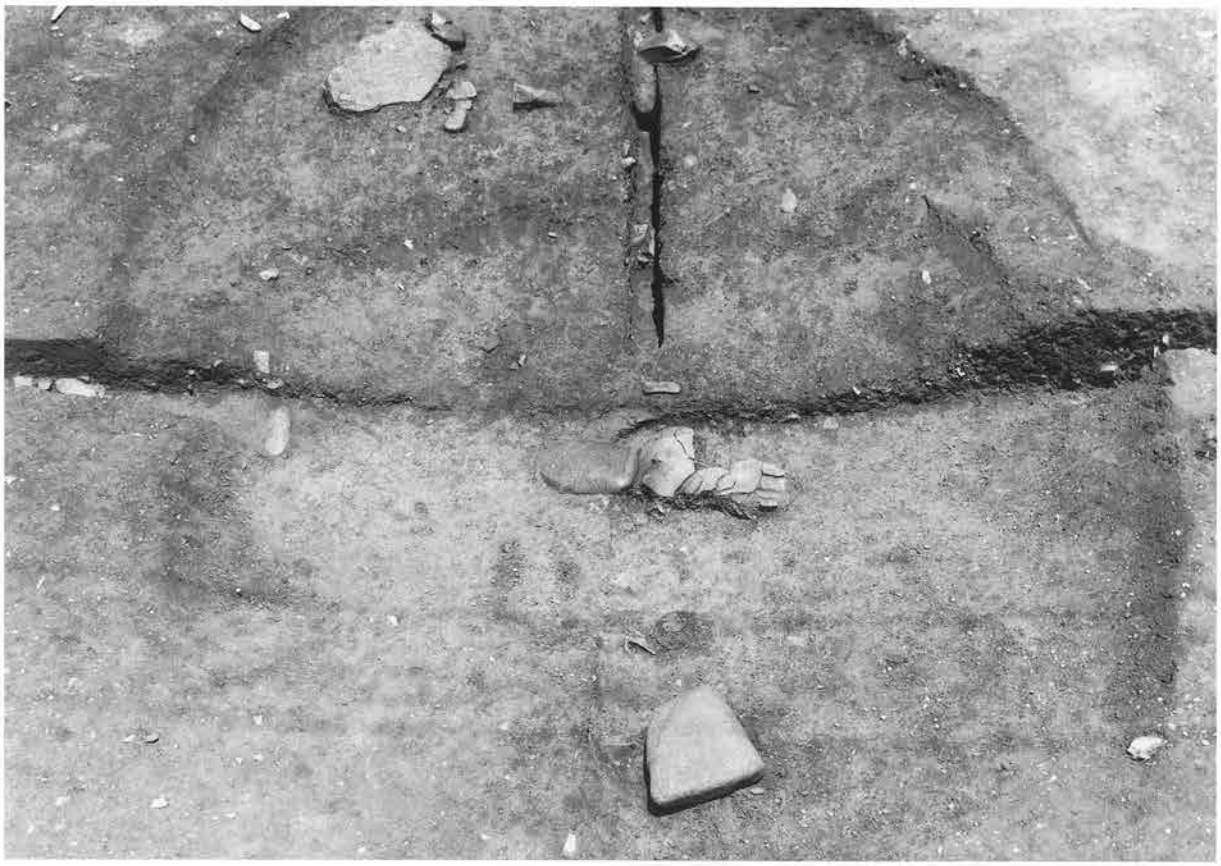
写真図版41　SX01 住居状遺構

平　面

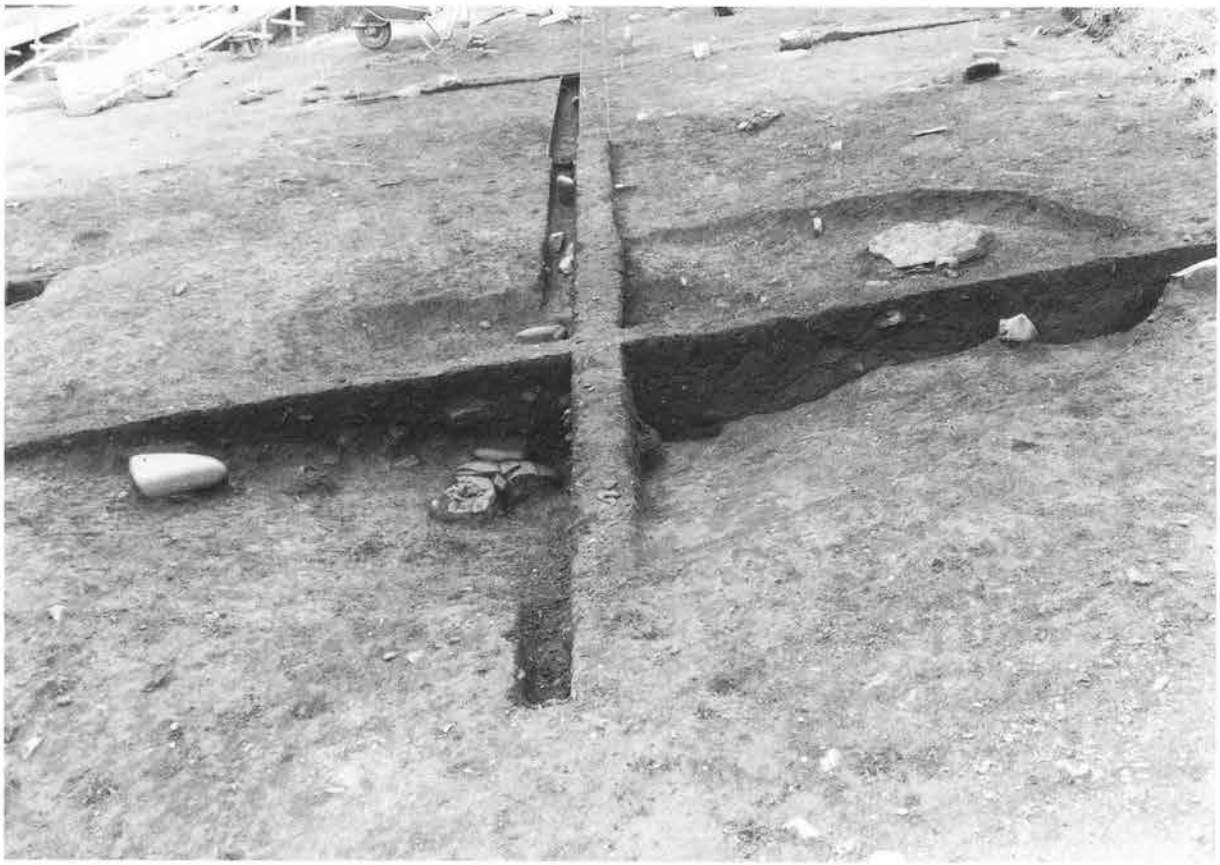


断　面（ベルトA）

写真図版42　SX02 住居状遺構

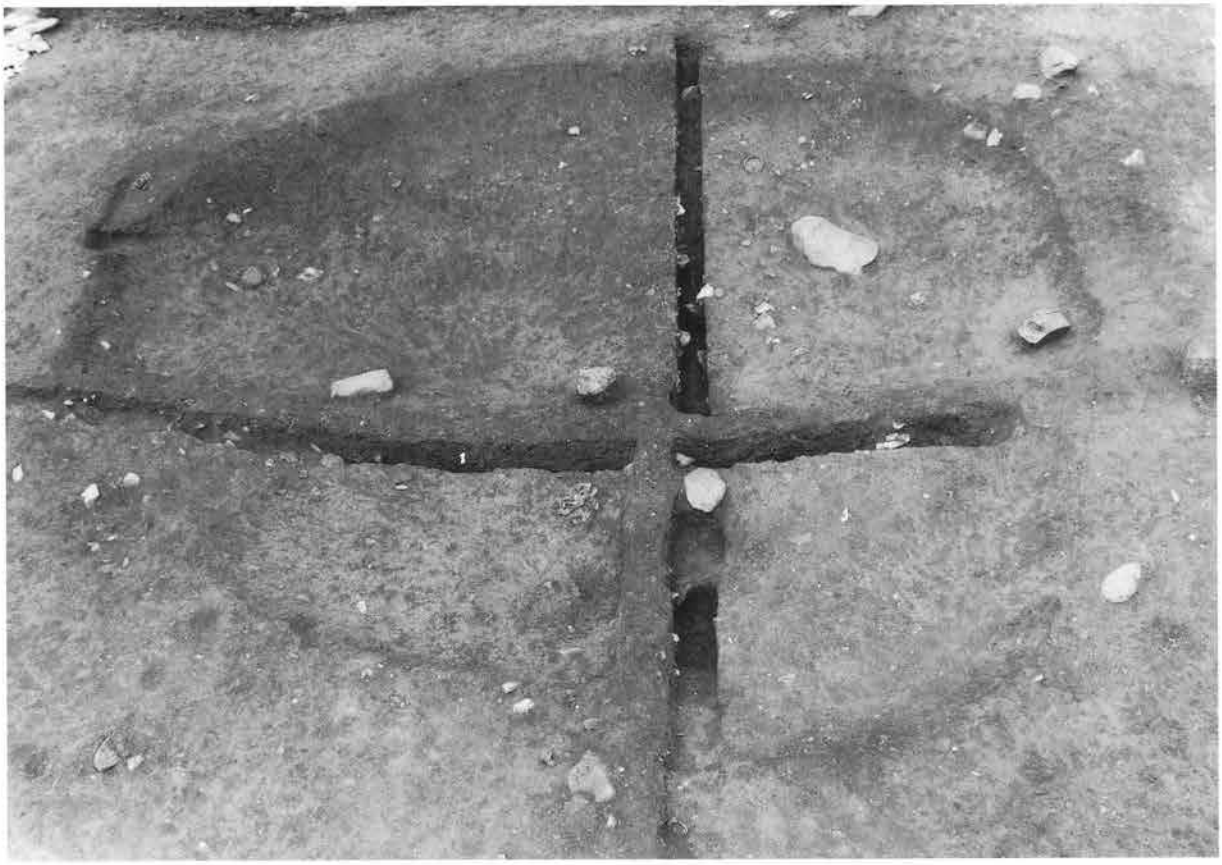


平　面（中央は412土器）

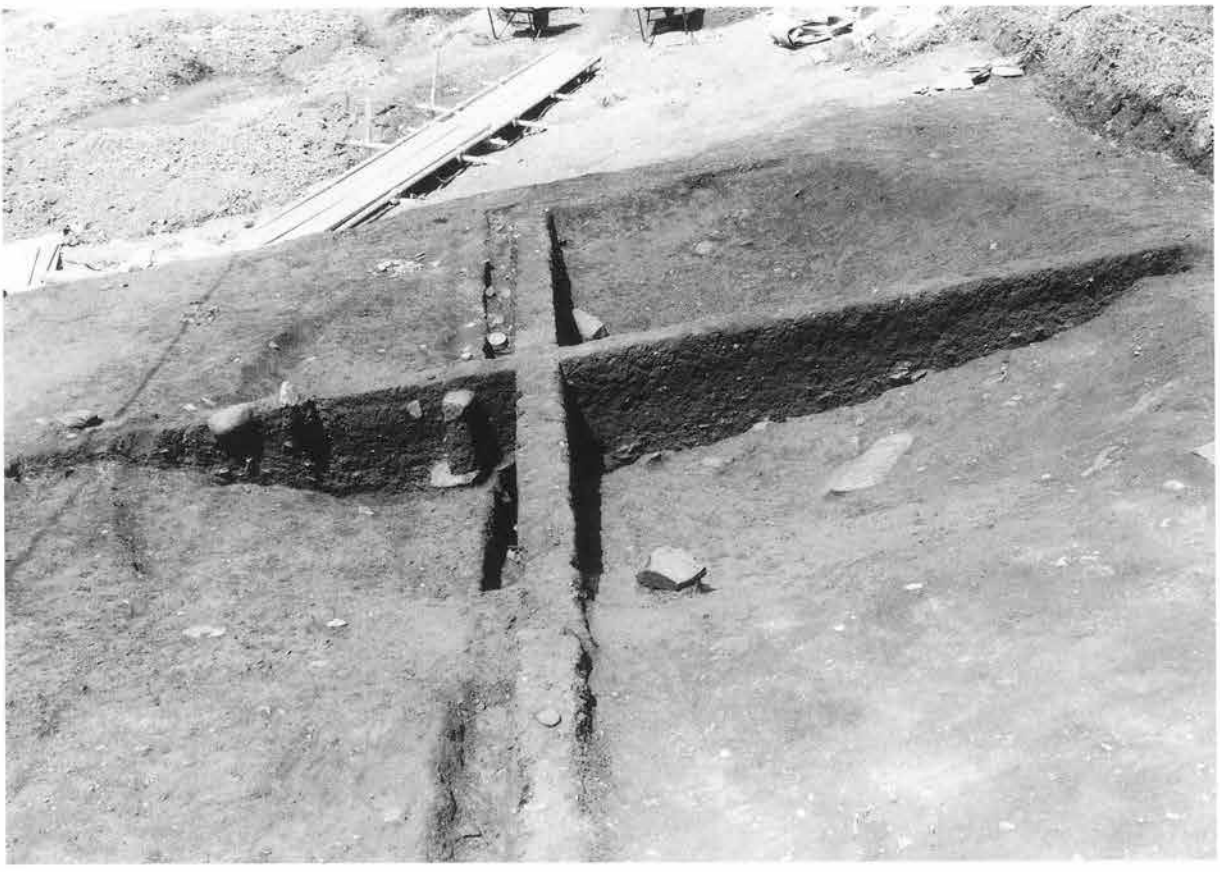


断　面（ベルトB）

写真図版43　SX03 住居状遺構



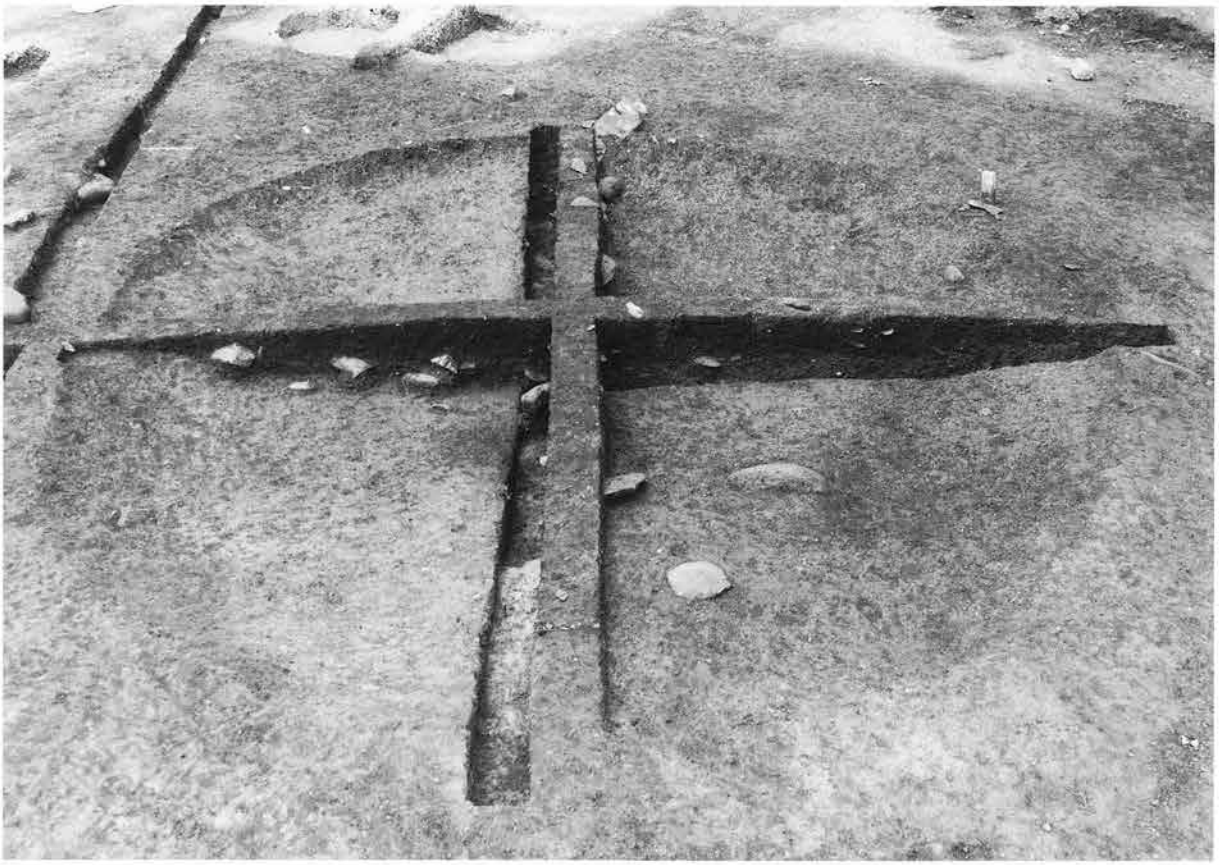
平　面



断　面（ベルトB）

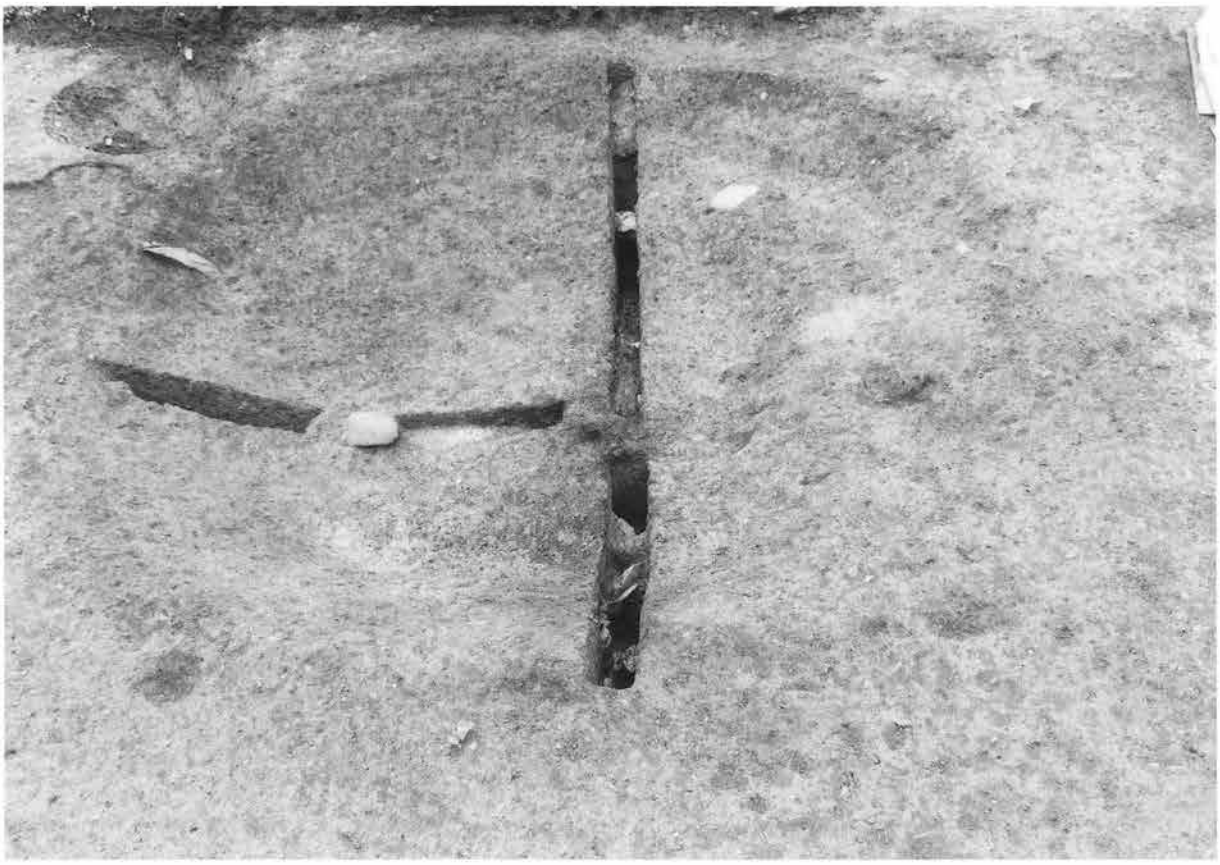
写真図版44　SX04 住居状遺構

SX05　平面

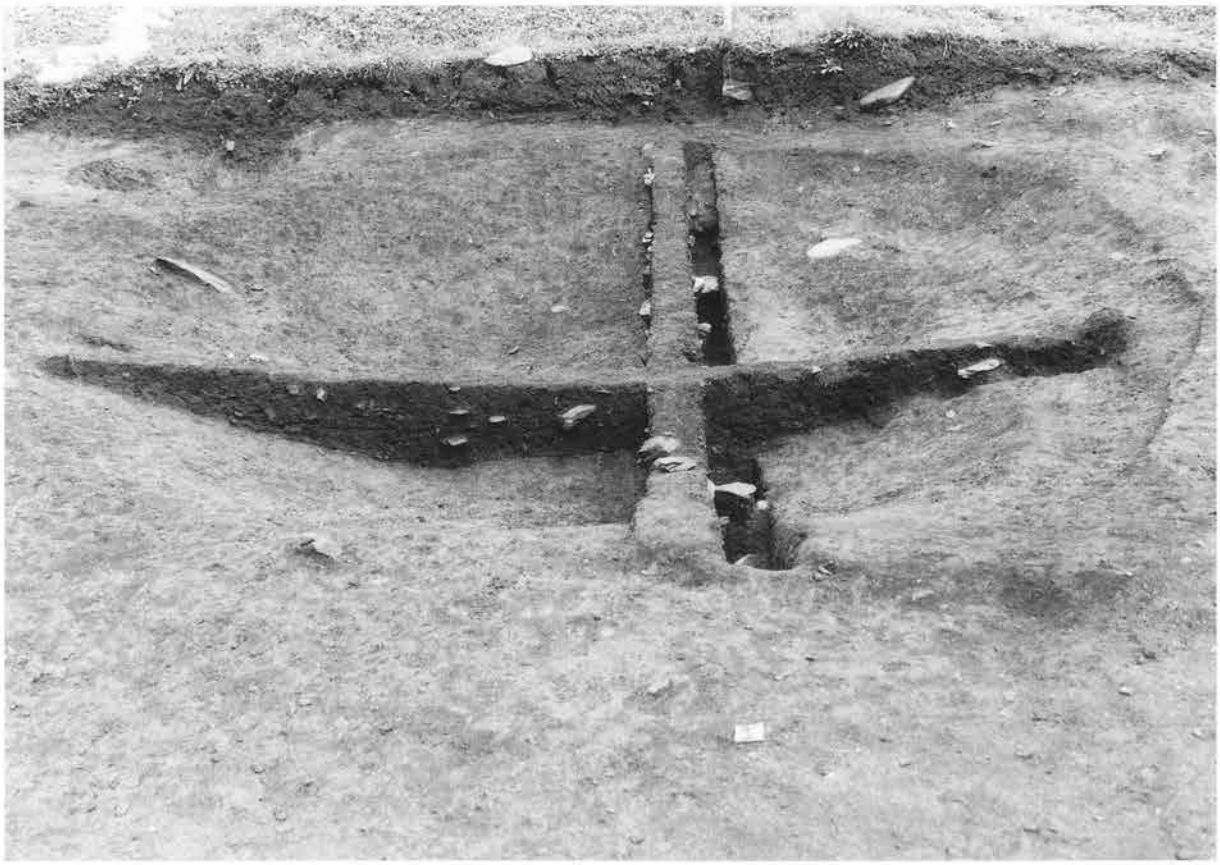


SX06　平・断面（ベルトB）

写真図版45　SX05・06 住居状遺構



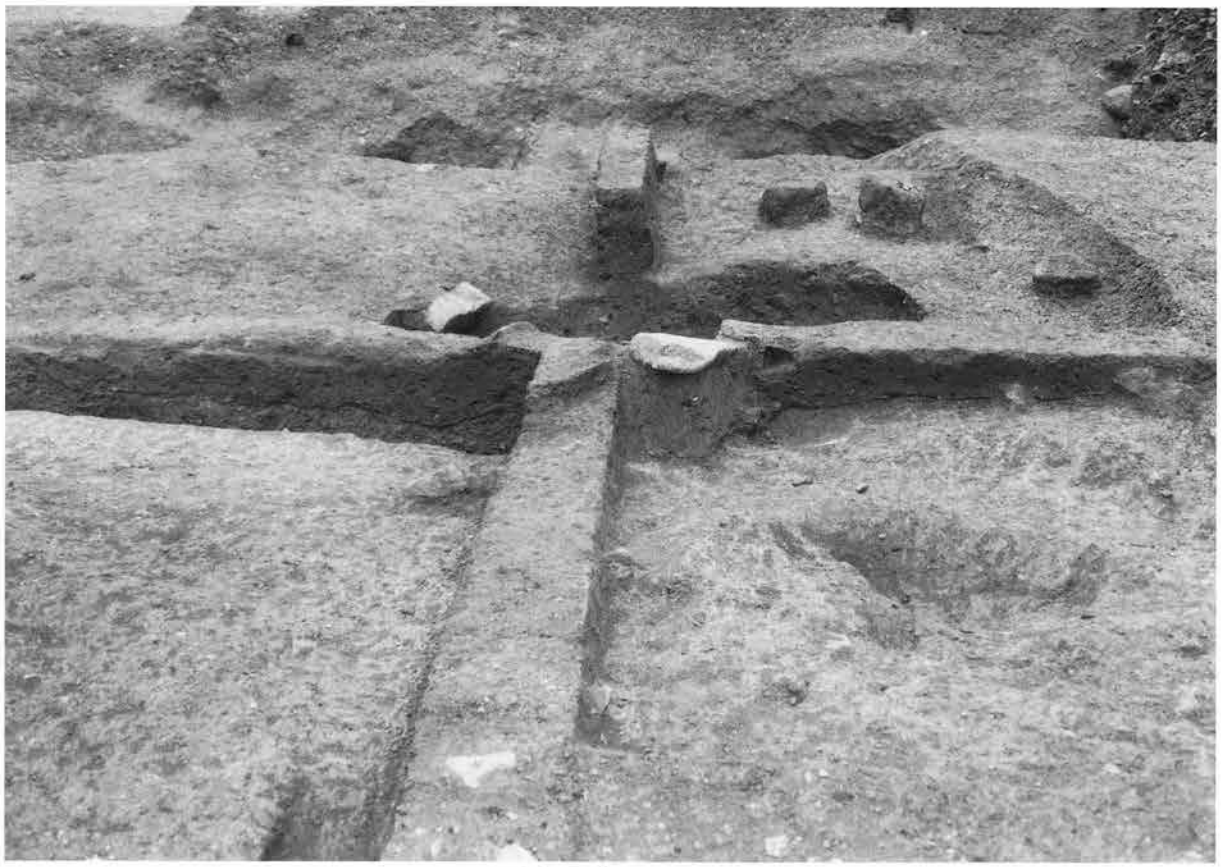
平　面



断　面（ベルトA）

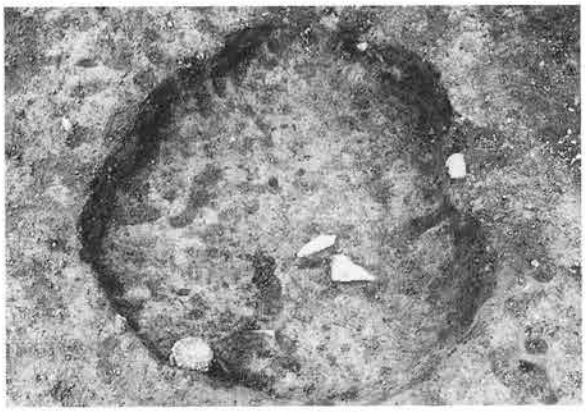
写真図版46　SX07 住居状遺構

平　面

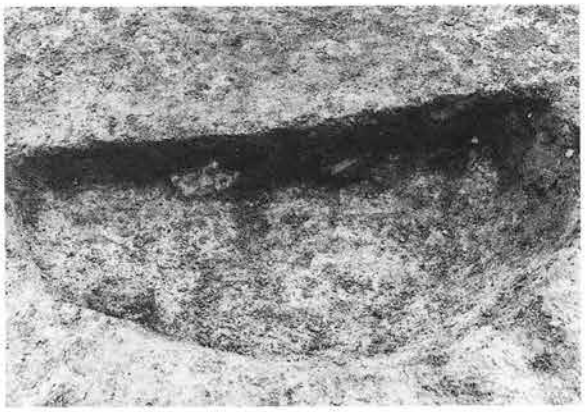


断　面（ベルトB）

写真図版47　SX08 住居状遺構



SK01　平面



SK01　断面

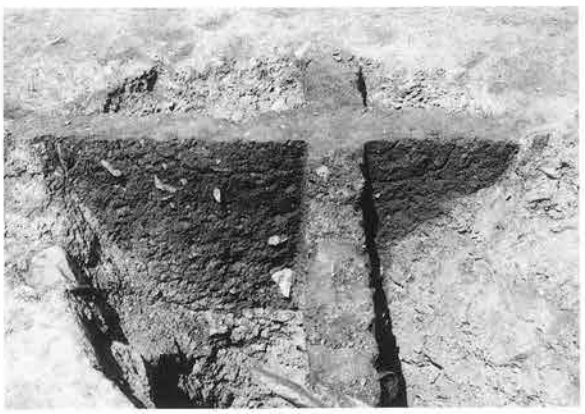
SK02　平面

SK01　遺物出土状況（459黒色物質入り土器）

SK03　平面

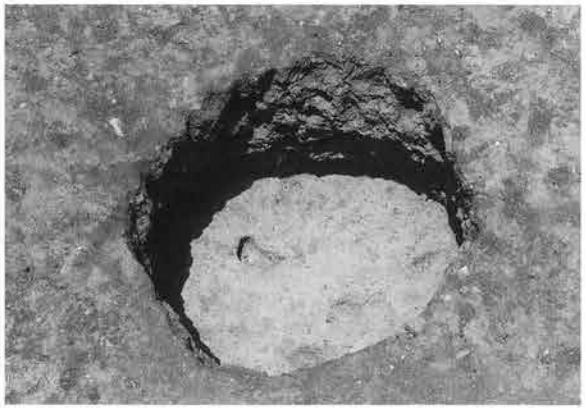
SK03　断面

SK04　平面

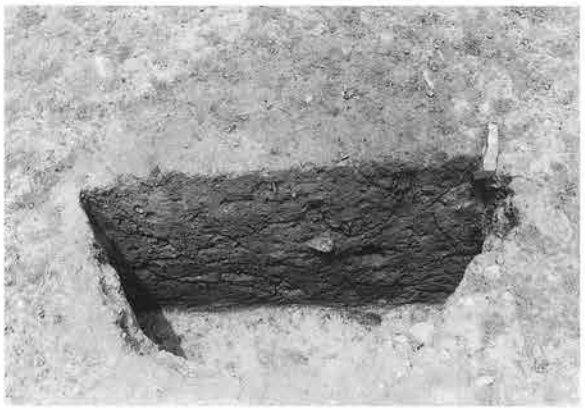


SK04　断面

写真図版48　SK01～04土坑



SK05　平面

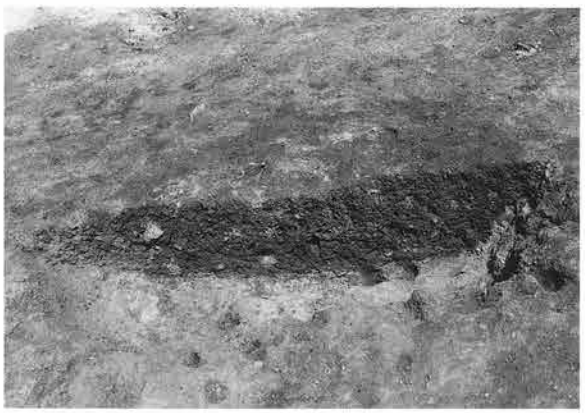


SK05　断面

SK06　平面

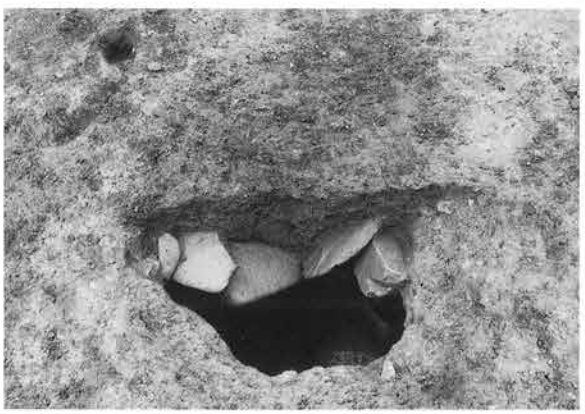
SK06　断面

SK07　平面



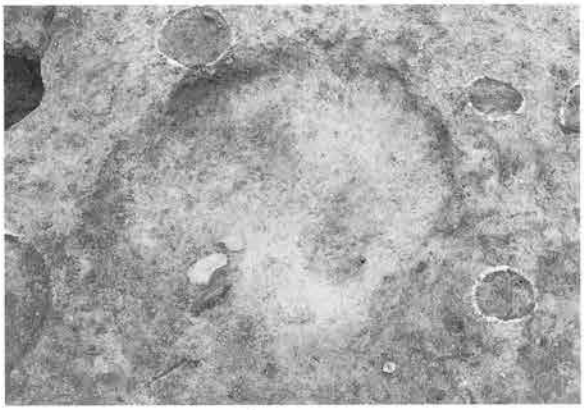
SK07　断面

SK08　平面

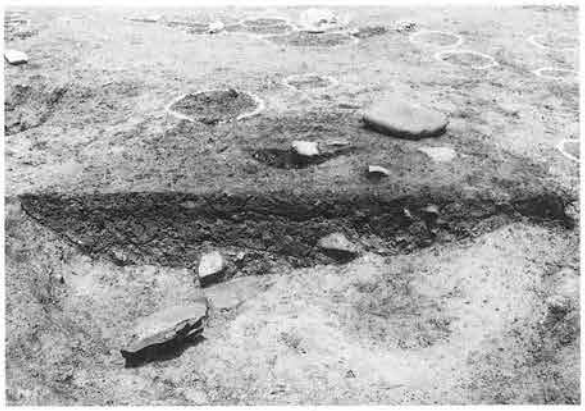


SK08　断面

写真図版49　SK05～08土坑

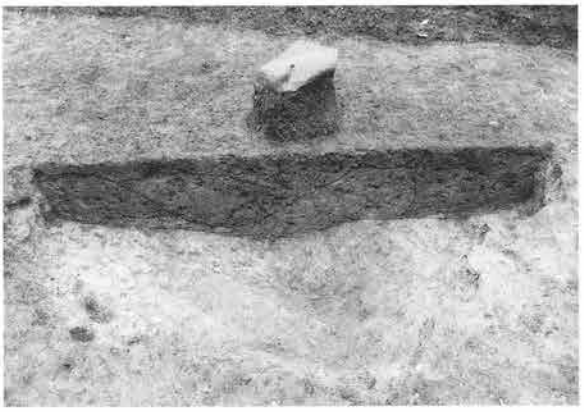


SK09　平面



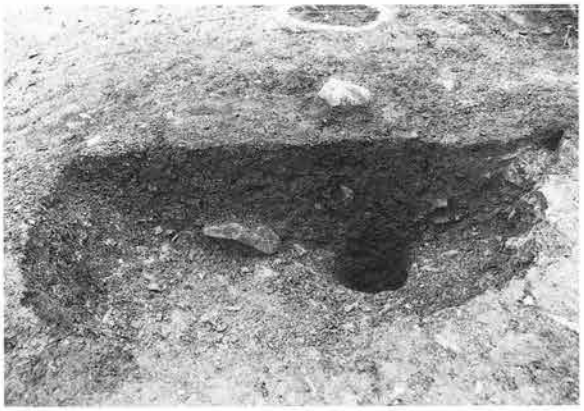
SK09　断面

SK10　平面



SK10　断面

SK11　平面

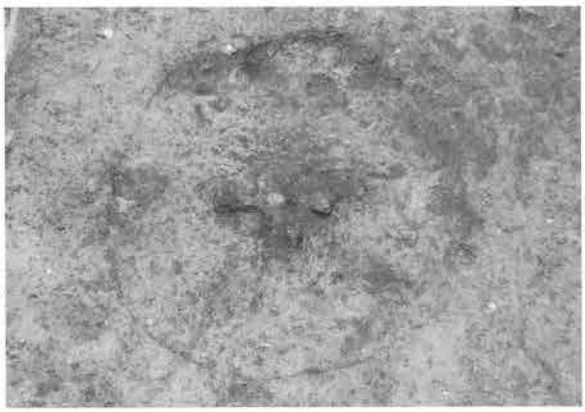


SK11　断面

SK12　平面

SK12　断面

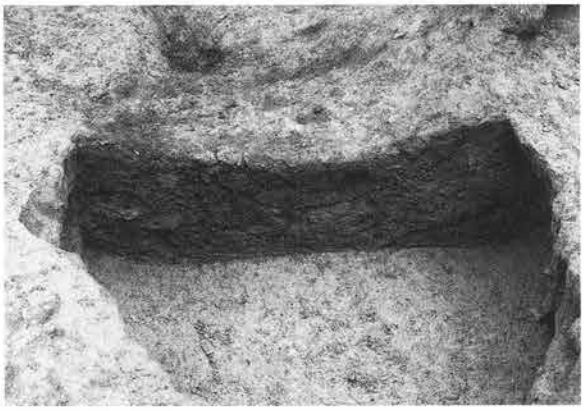
写真図版50　SK09～12土坑



SK13　平面

SK13　断面

SK14　平面



SK14　断面

SK15　平面

SK15　断面

SK16　平面

SK16　断面

写真図版51　SK13～16土坑

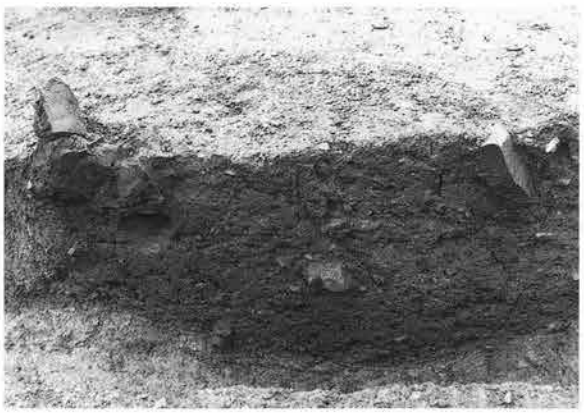
SK17　平面

SK17　断面

SK18　平面

SK18　断面

SK19　平面



SK19　断面

SK20　平面

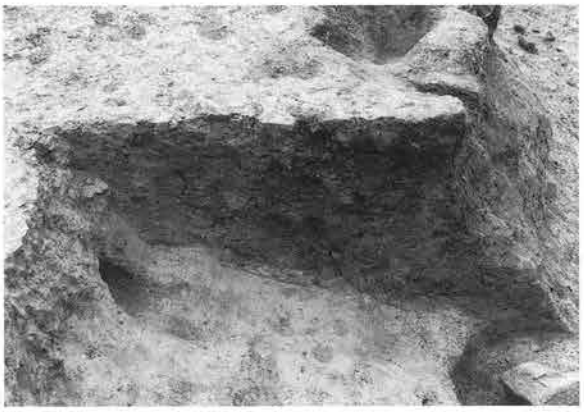
SK20　断面

写真図版52　SK17～20土坑

SK21　平面

SK21　断面

SK22　平面



SK22　断面

SK23　平面

SK23　断面

SK24　平面

SK24　断面

写真図版53　SK21～24土坑

SK25　平面

SK25　断面

SK26　平面

SK26　断面（499、500土器）

SK27　平面

SK27　断面

SK28　平面

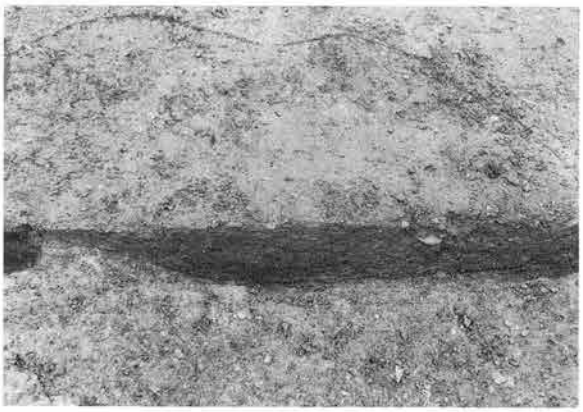
SK28　断面

写真図版54　SK25～28土坑

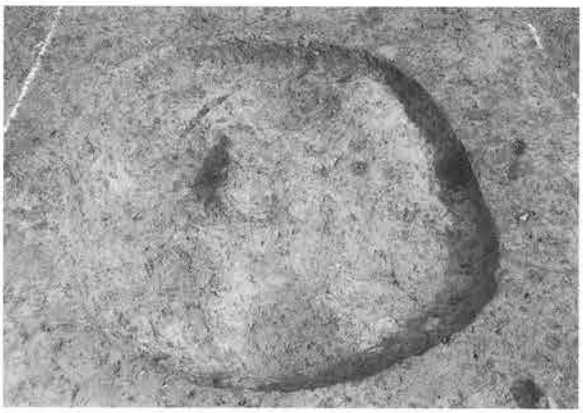
SK29　平面

SK29　断面

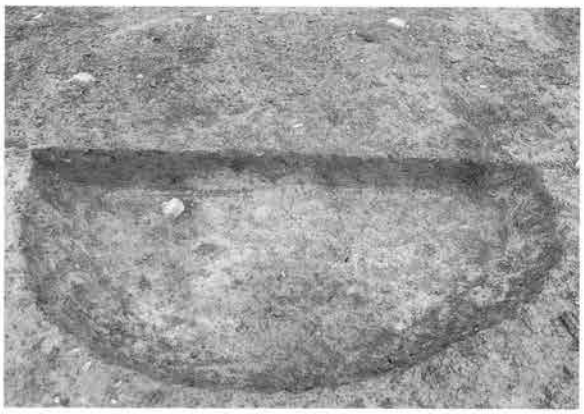
SK30　平面



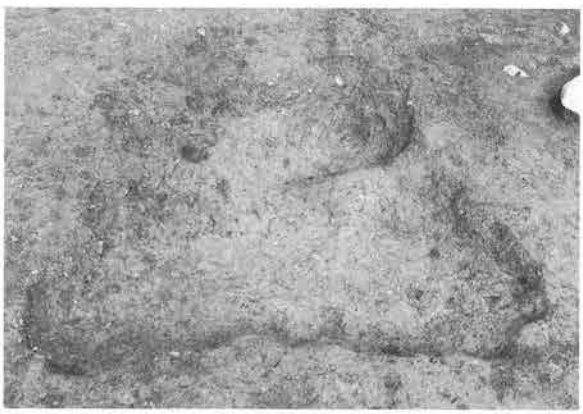
SK30　断面



SK31　平面



SK31　断面

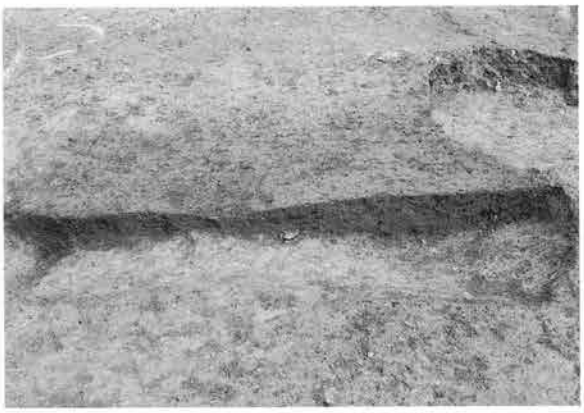


SK32　平面

SK32　断面

写真図版55　SK29～32土坑

SK33　平面

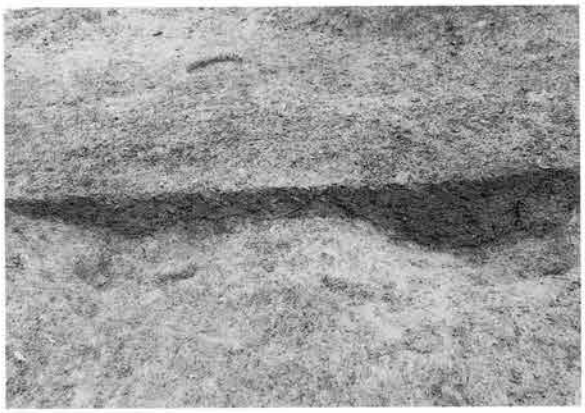


SK33　断面

SK34　平面

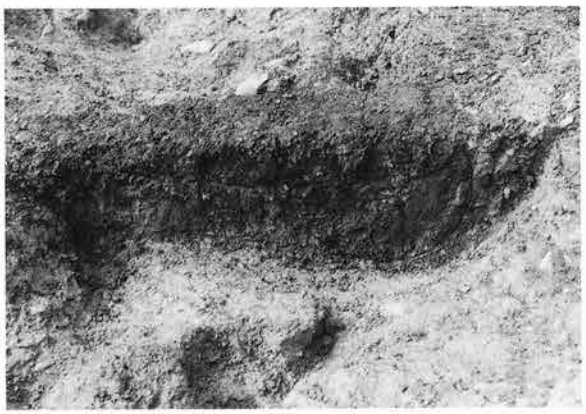
SK34　断面

SK35・36　平面



SK35・36　断面

SK37　平面



SK37　断面

写真図版56　SK33～37土坑

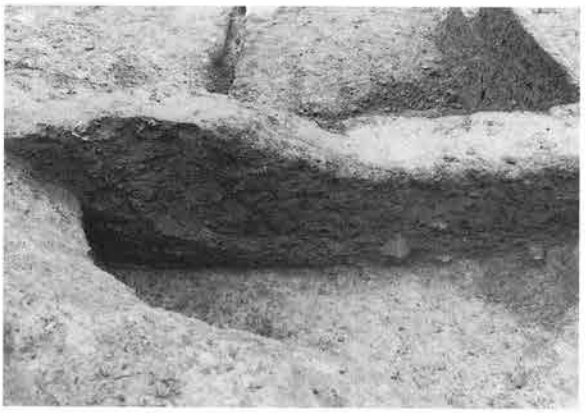
SK38　平面

SK38　断面

SK39　平面

SK39　断面

SK40　平面



SK40　断面

SK41　平面

SK41　断面

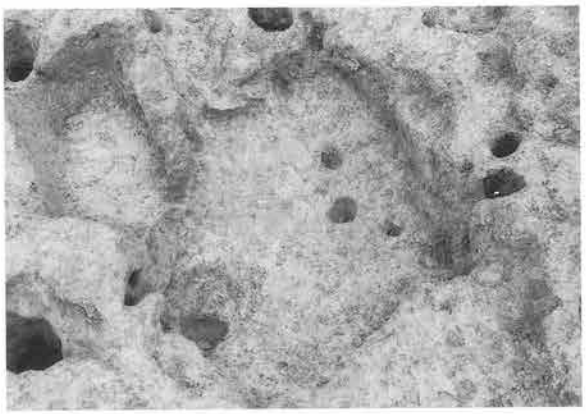
写真図版57　SK38～41土坑

SK42　平面

C区作業風景

SK44　平面

SK44　断面



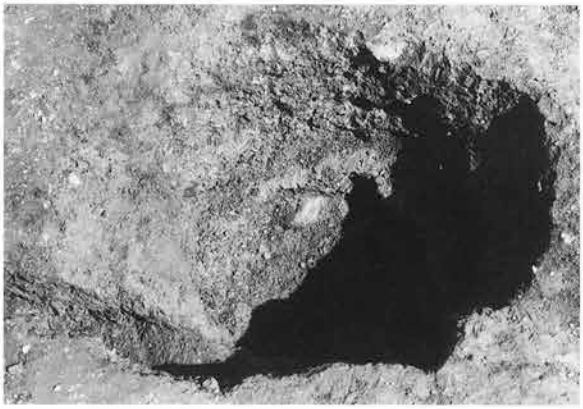
SK45　平面

SK45　断面

SK46　平面

SK46　断面

写真図版58　SK42～46土坑



SK47　平面

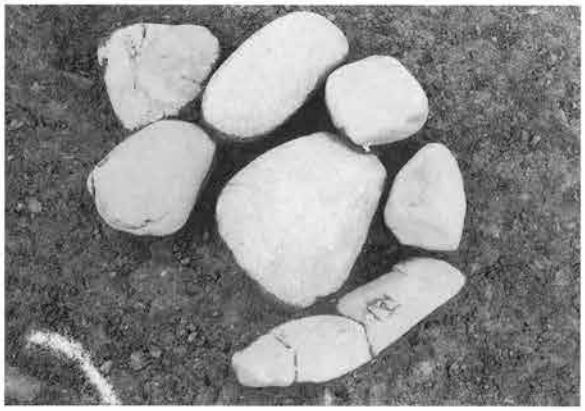
SK47　断面

SR01　平面

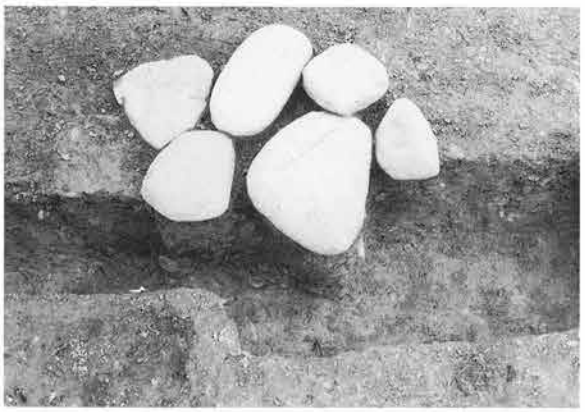
SR01　断面

SR02　平面

SR02　断面



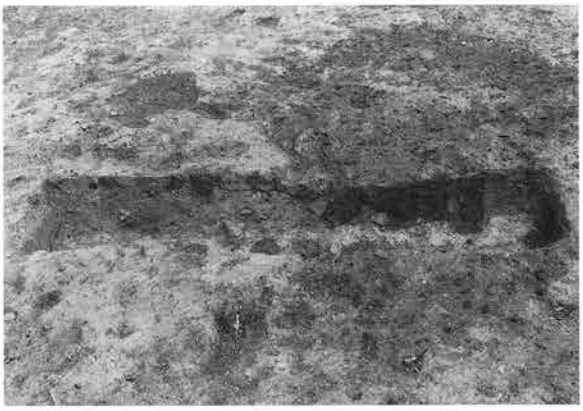
SH01　平面



SH01　断面

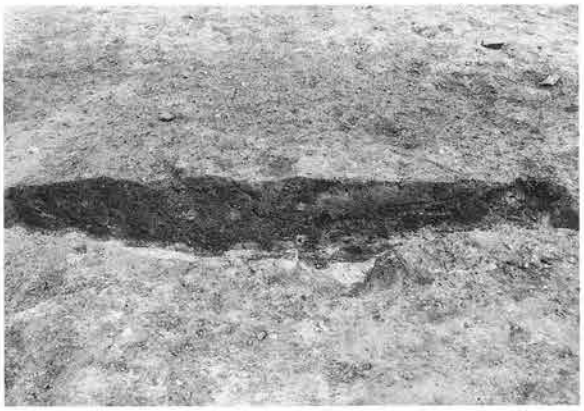
写真図版59　SK47土坑　SR01・02土器埋設遺構　SH01配石遺構

SF01　平面



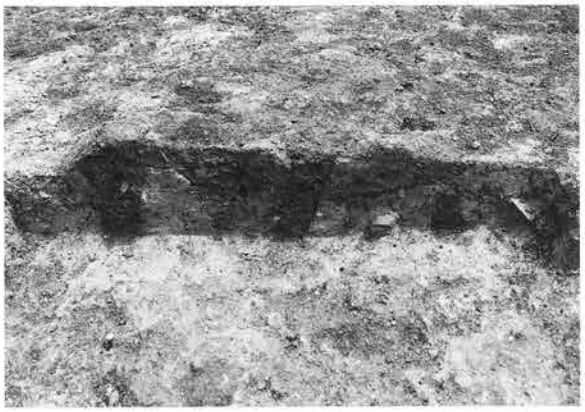
SF01　断面

SF02　平面



SF02　断面

SF03　平面

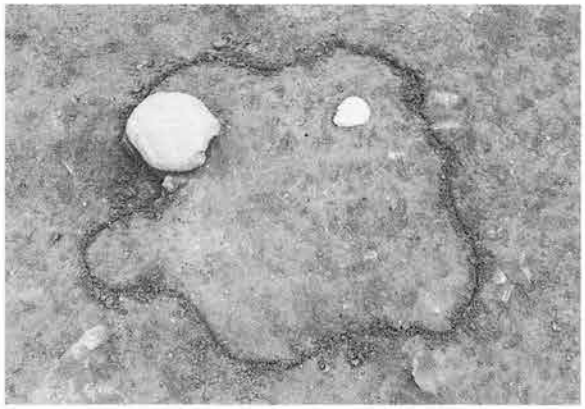


SF03　断面

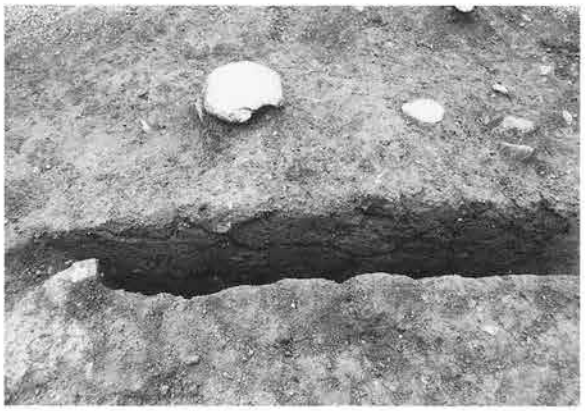
SF04　平面

SF04　断面

写真図版60　SF01～04焼土跡



SF05　平面

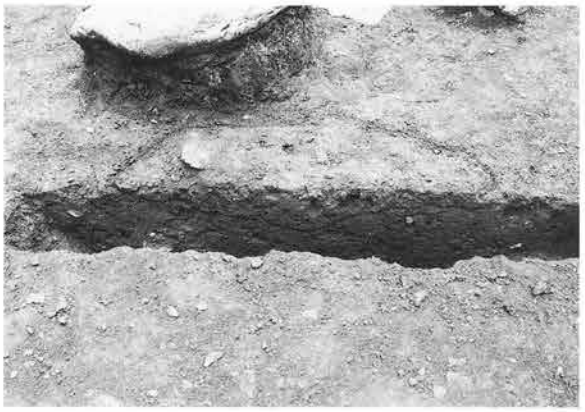


SF05　断面

SF06　平面

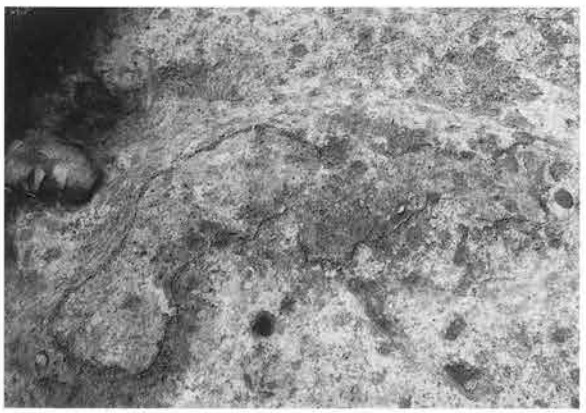
SF06　断面

SF07　平面



SF07　断面

SF08　平面



SF08　断面

写真図版61　SF05～08焼土跡

SF09　平面

SF09　断面

SF10　平面

SF10　断面

SF11　平面

SF11　断面

SF12　平面

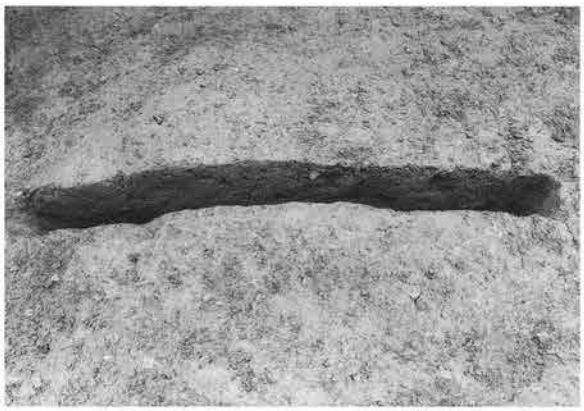
SF12　断面

写真図版62　SF09～11焼土跡・SF12炉跡

SF13　平面

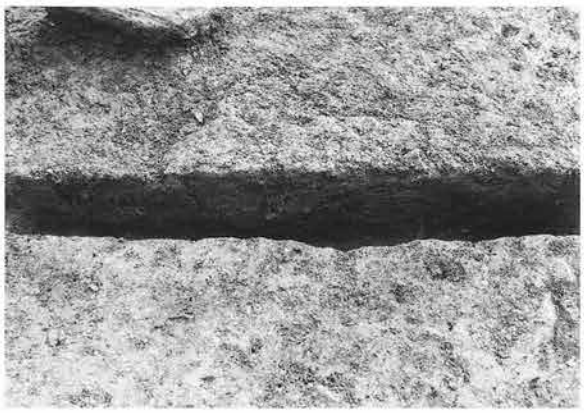
SF13　断面

SF14　平面



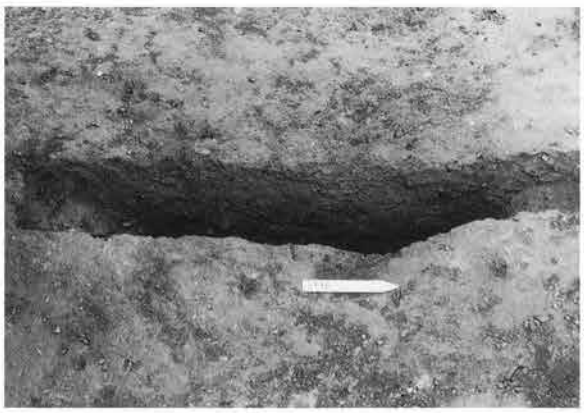
SF14　断面

SF15　平面



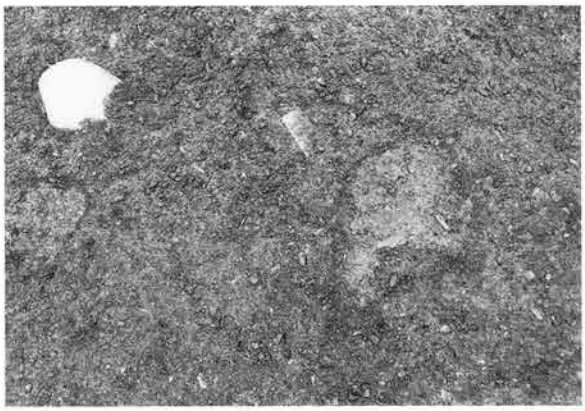
SF15　断面

SF16　平面

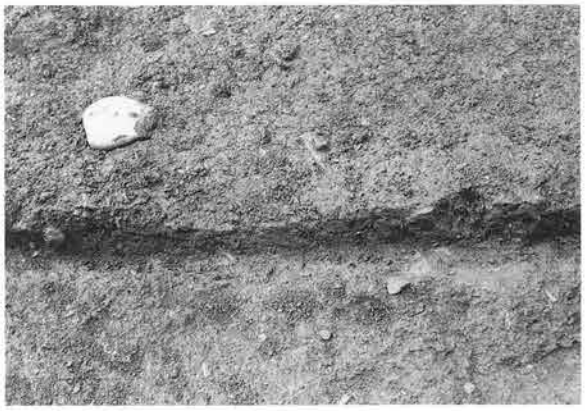


SF16　断面

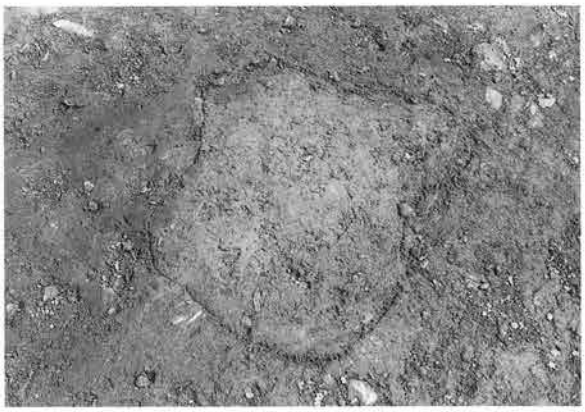
写真図版63　SF13～16焼土跡



SF17　平面



SF17　断面



SF18　平面

SF18　断面

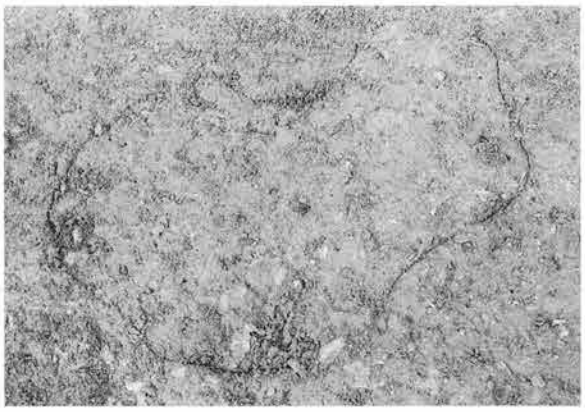
SF19　平面

SF19　断面

SF20　平面

SF20　断面

写真図版64　SF17～20焼土跡



SF21　平面

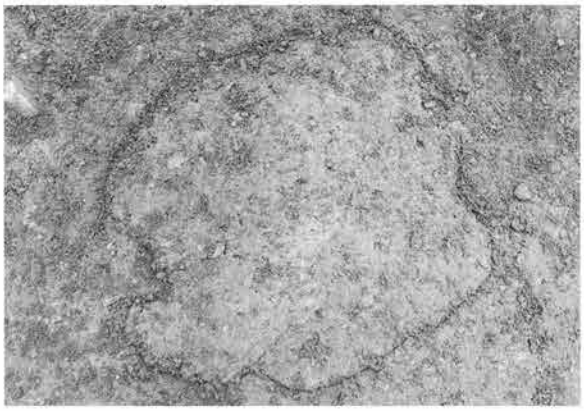
SF21　断面

SF22　平面

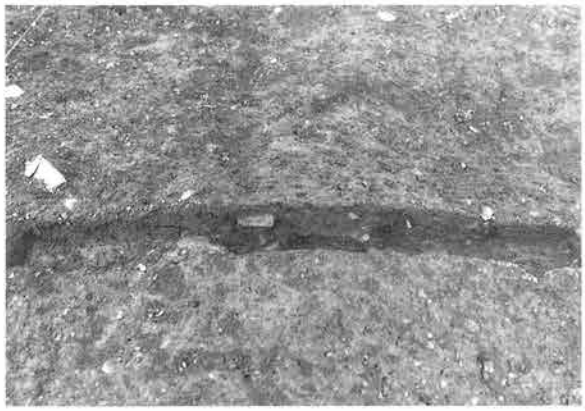
SF22　断面

SF23　平面

SF23　断面



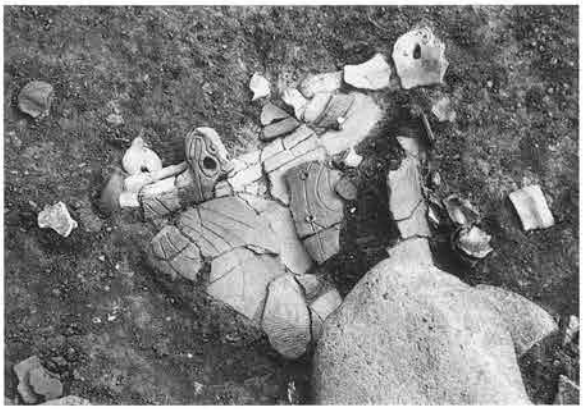
SF24　平面



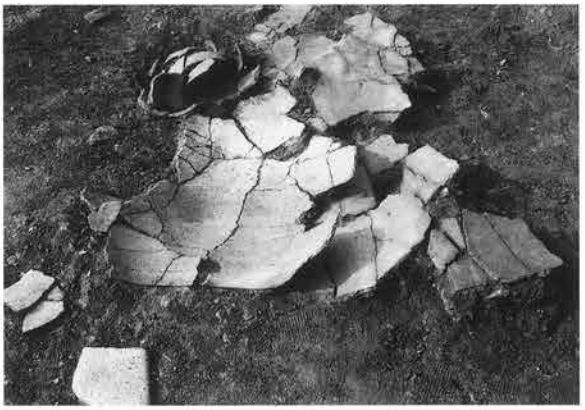
SF24　断面

写真図版65　SF21～24焼土跡

632土器（6E19Ⅱ層下位）



703土器（14C13～14Ⅲ層上面）



686土器（14C12Ⅲ層上面）

702土器（14C17～18Ⅲ層上面）

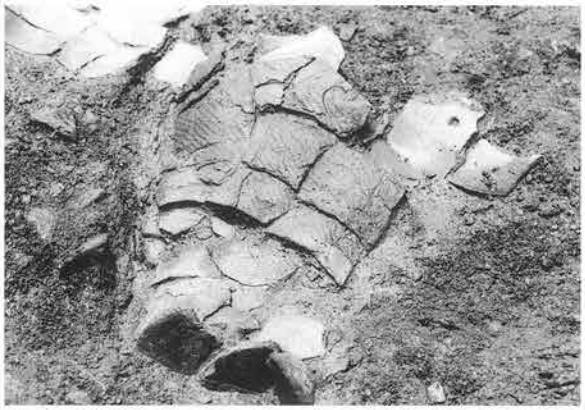
704土器（14C18Ⅲ層上面）

704土器（14C17～18Ⅲ層上面）

685土器（14C17～18Ⅲ層上面）

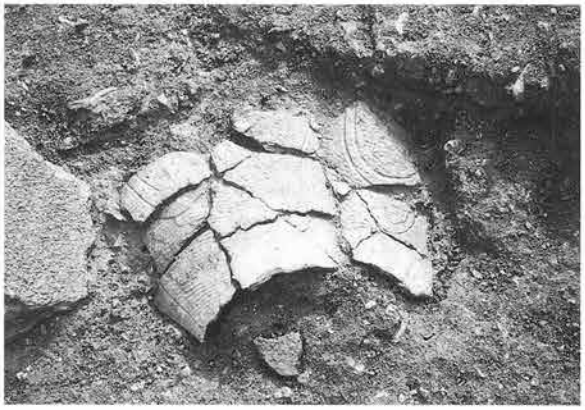
1172石斧類（14C17Ⅲ層下位）

写真図版66　遺物出土状況（1）



702土器（14C17～18II層下位）

705土器（14C17～18III層下位）



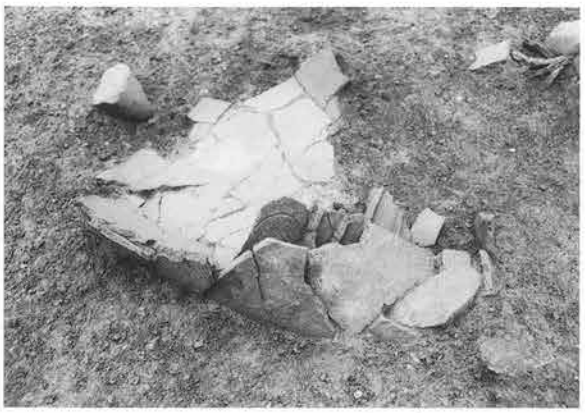
704土器（14C19III層上位）

772土器（14C23III層下位）

769土器（14C23III層下位）

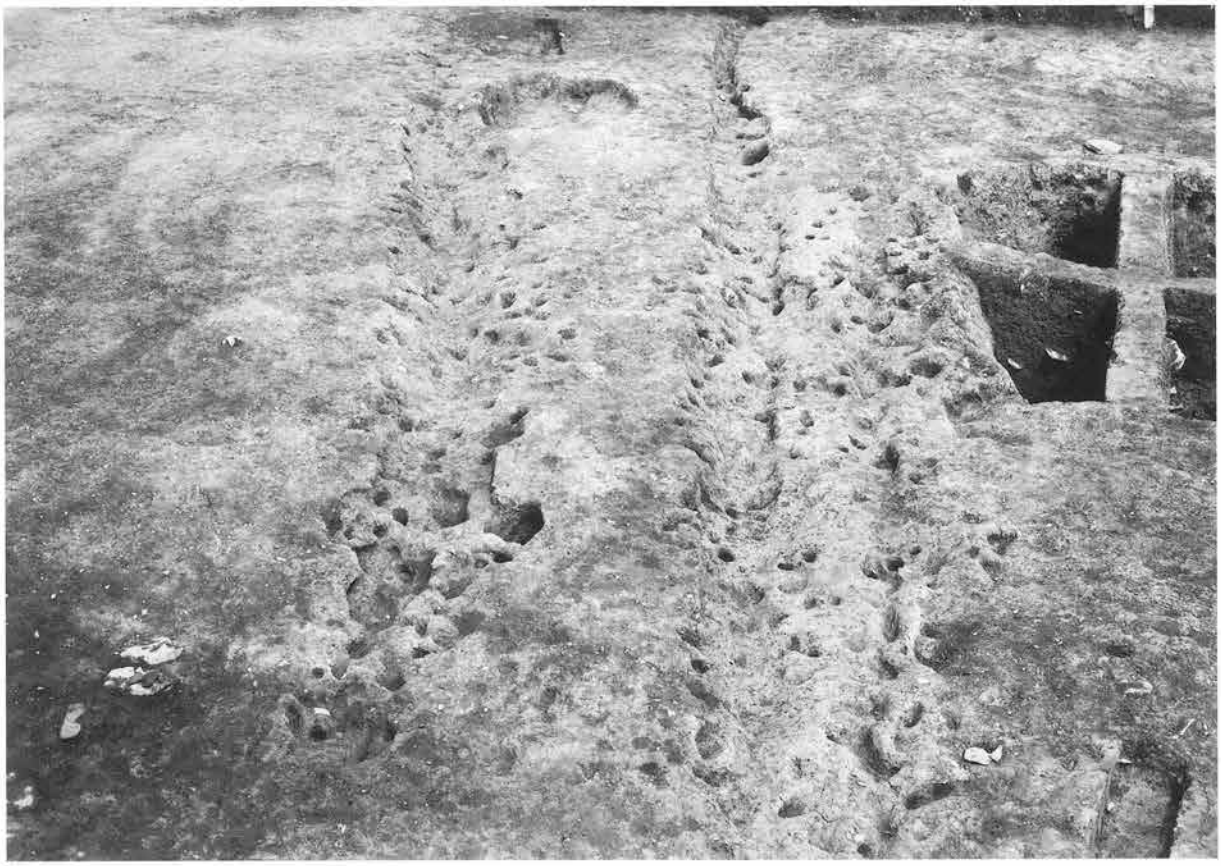
768土器（14C23III層下位）

774土器（14C24III層下位）

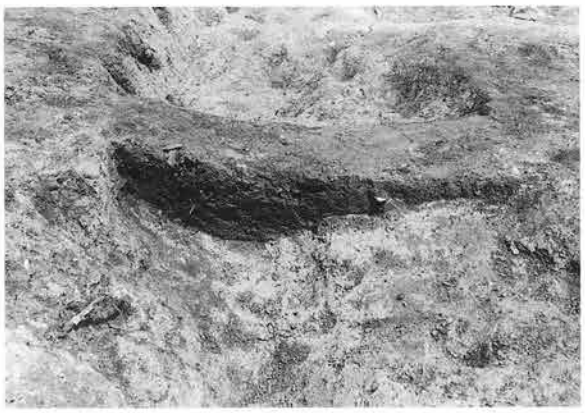


556土器（14D6　SD04内堆積土）

写真図版67　遺物出土状況(2)



SD01～03　平面



SD01　断面（ベルトB）

SD01　断面（ベルトA）

SD02・03　断面（ベルトB）

SD02・03　断面（ベルトA）

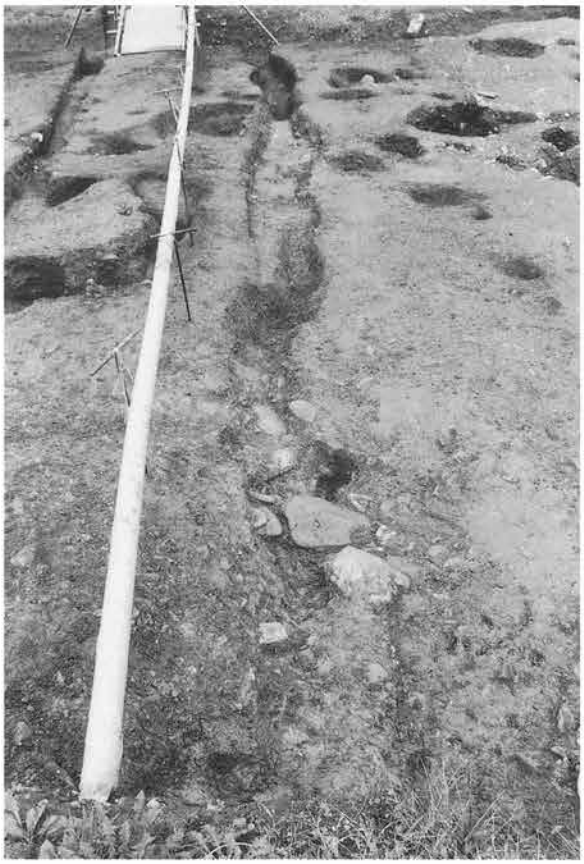
写真図版68　SD01～03 溝跡

写真図版69　SD04 堀跡(1)

断　面（ベルトA）

断　面（ベルトC）

写真図版70　SD04 堀跡(2)



SD05　平面

SD05　断面（ベルトB）

SD06　断面（ベルトC）

SD06　平面

写真図版71　SD05・06 溝跡

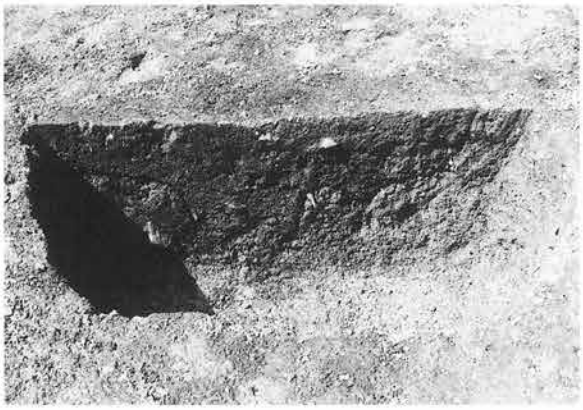
写真図版72　SD07 堀跡(1)

内部状況

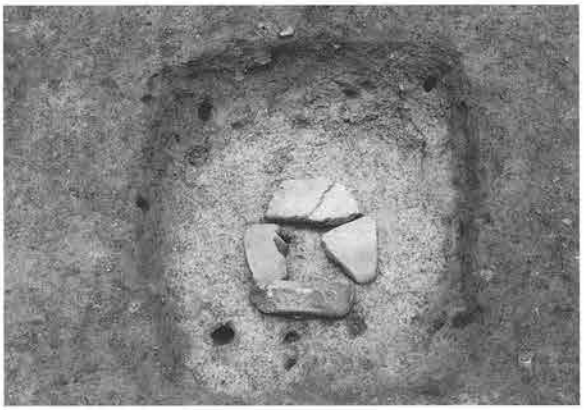
断　面（ベルトB）

写真図版73　SD07 堀跡(2)

SZ01　平面



SZ01　断面



SZ02　平面

SZ02　断面

試掘風景

D区国道沿い作業風景

H16年度　現地説明会

H16年度　現地説明会

写真図版74　SZ01・02 墓坑

26C区石組遺構　平面

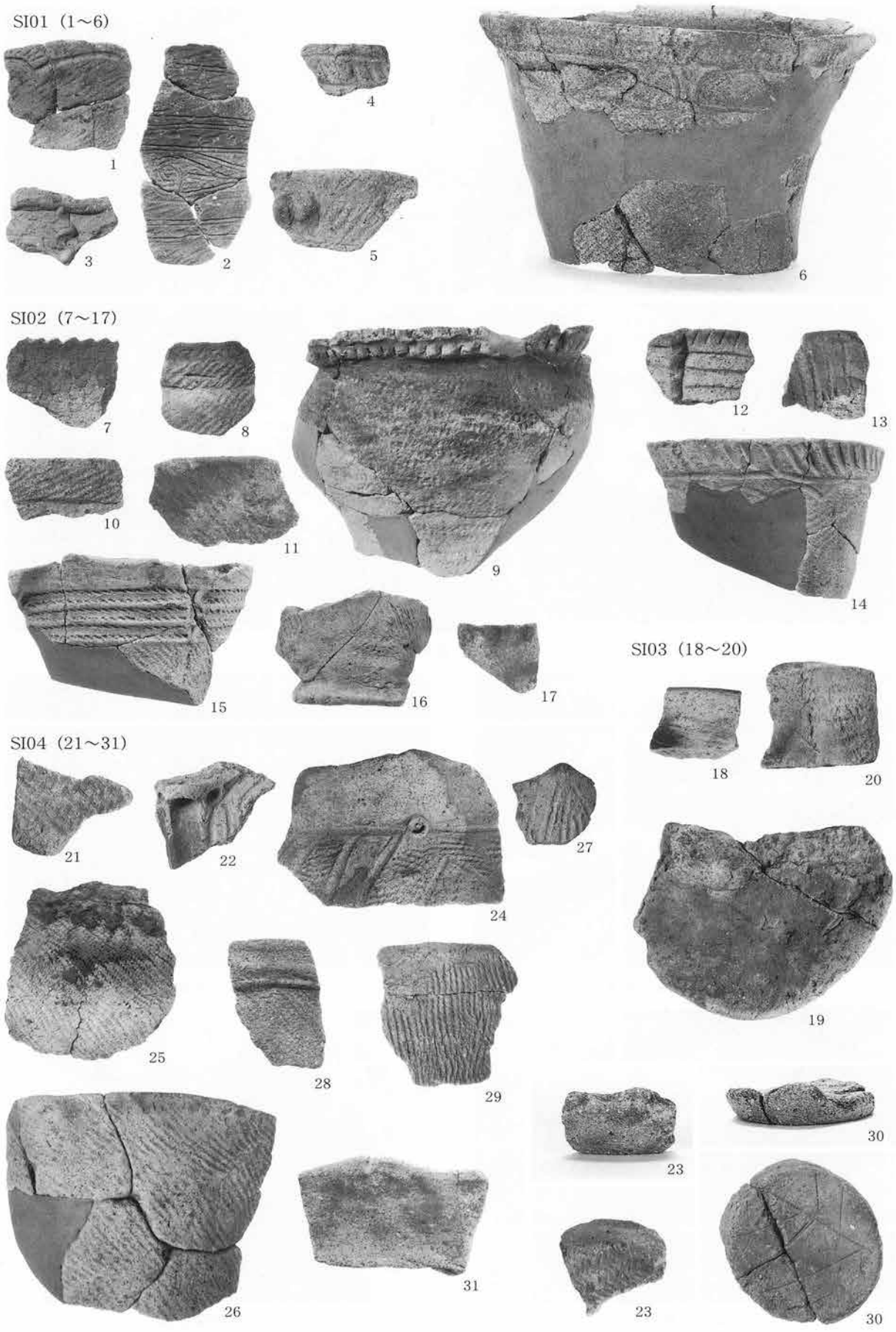
26C区石組遺構　断面

SE01　平面

SE01　断面

SE01　内部壁面

写真図版75　26C区石組遺構　SE01井戸跡



写真図版76　SI01～04 竪穴住居跡土器

SI04（32～38）

32

34

33a

33b

35

38

36

38

36

SI05（39～43）

39

42

40

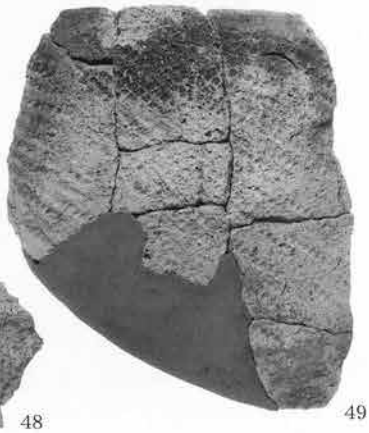
43

41

37

SI06（46・48・49）

46


49

48

37

写真図版77　SI04～06 竪穴住居跡土器

SI06 (44・45・47・50～52)

44

47

47

50

45

50

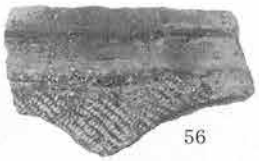
51

52

写真図版78　SI06 竪穴住居跡土器

SI06（53～68）

53


56

57

58

59

60

61

62

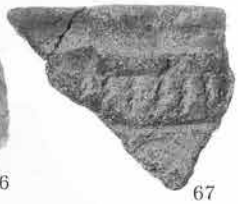
64

63

65

54

66


67

68

SI08（70～74・76～78）

70

71

73

72

74

76

78

77

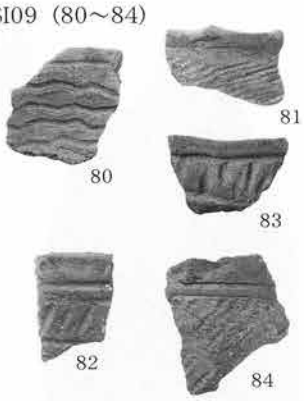
55

写真図版79　SI06・08 竪穴住居跡土器

SI07

69

SI09（80～84）



80　81　83　82　84

SI10・15（85～94）

85　86　87

SI08（75・79）

75

79

79

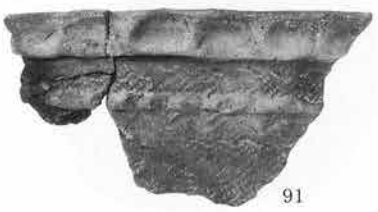
90

88

92　93

89

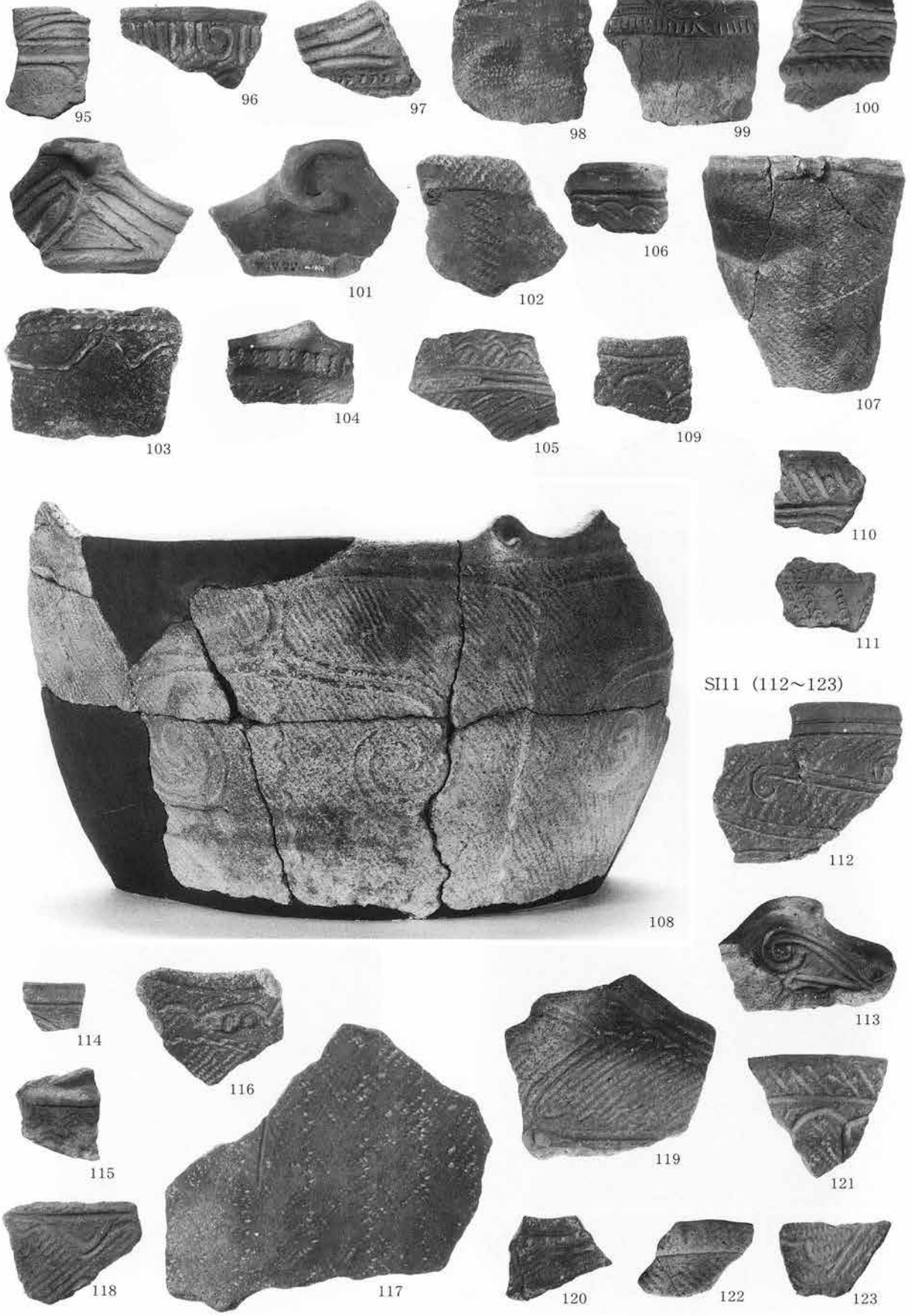
94



91

写真図版80　SI07～10・15 竪穴住居跡土器

SI10・15（95～111）



写真図版81　SI10・15・11 竪穴住居跡土器

SI12 (124～133)

124

125

128

126

127

132

133

129

130

131

写真図版82　SI12 竪穴住居跡土器

SI12（134・135）

134

135

SI13（136～146）

136

137

138

139

142

143

144

140

141

142

146

145

SI14（147～157）

147

148

149

152

154

150

151

155

156

157

SI13・14（158～162）

153

158

159

160

162

161

写真図版83　SI12～14 竪穴住居跡土器

SI13・14（163～166）

163

164

166

SI15

167

165

SI16（168～179）

168a

168b

169

170

172

173

174

175

176

177

178

171

179

写真図版84　SI13～16 竪穴住居跡土器

SI16（180～189）

180

181

182

189

183

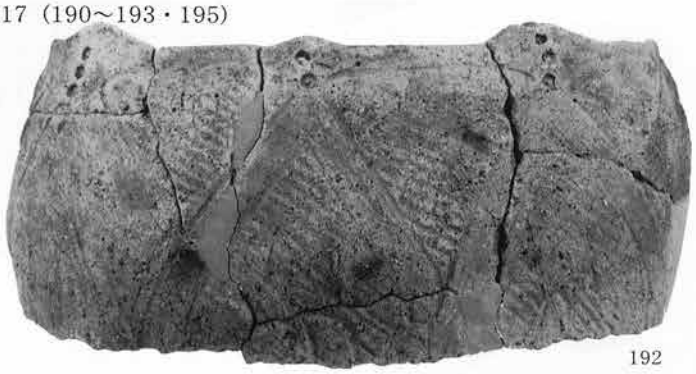
185

186

184

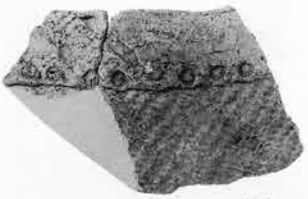
187

SI17（190～193・195）


192

188

193

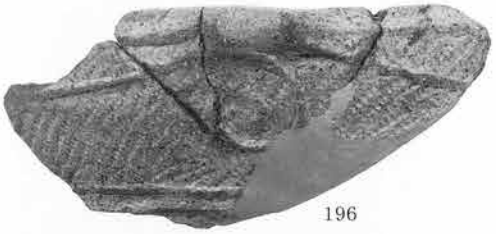

190

191

195

写真図版85　SI16・17 竪穴住居跡土器

SI17（194・196・199・201～204・207・208）


196

202

203

207

208

201

199

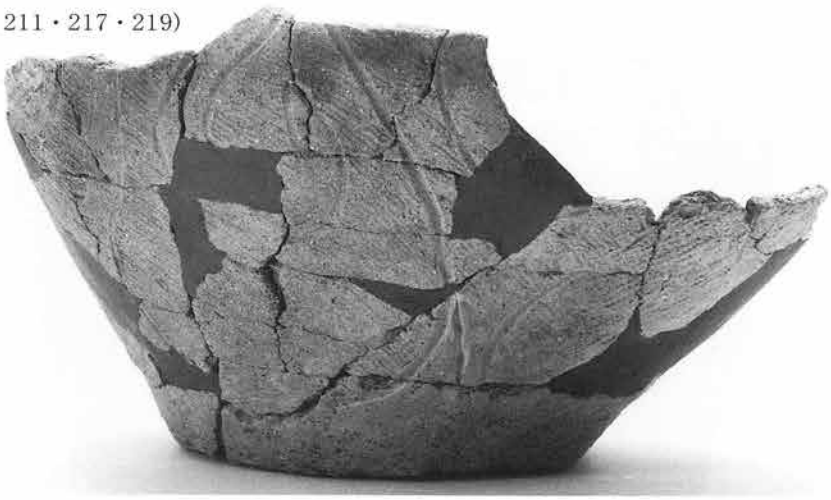
199

194

204

写真図版86　SI17 竪穴住居跡土器

SI17（197・210・211・217・219）



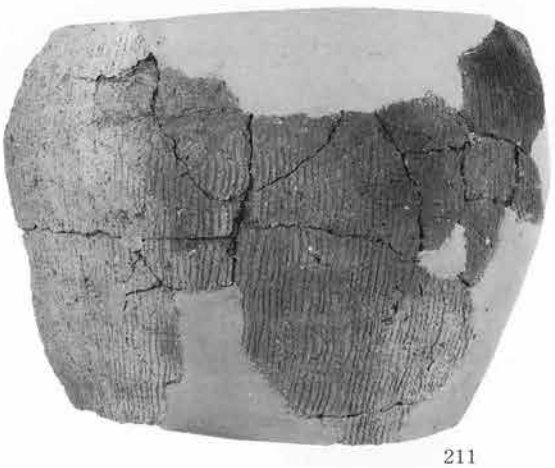
197

197

210

217

219



211

写真図版87　SI17 竪穴住居跡土器

SI17（198・212・214・221）

198

212

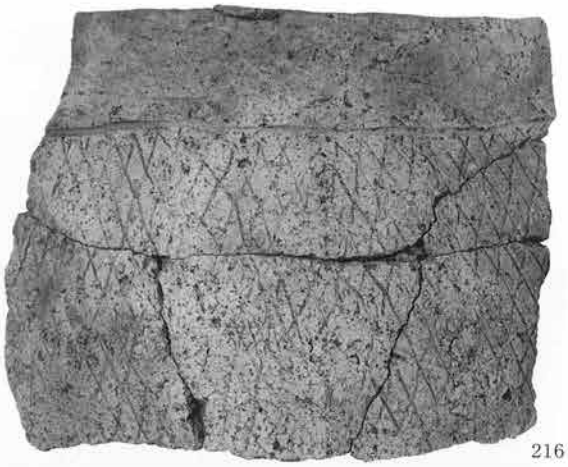
214

221

写真図版88　SI17 竪穴住居跡土器

SI17 (200・205・215・216・220)

215


216

200

205

205

220

200

写真図版89　SI17 竪穴住居跡土器

SI18（222・224～226・228）

206

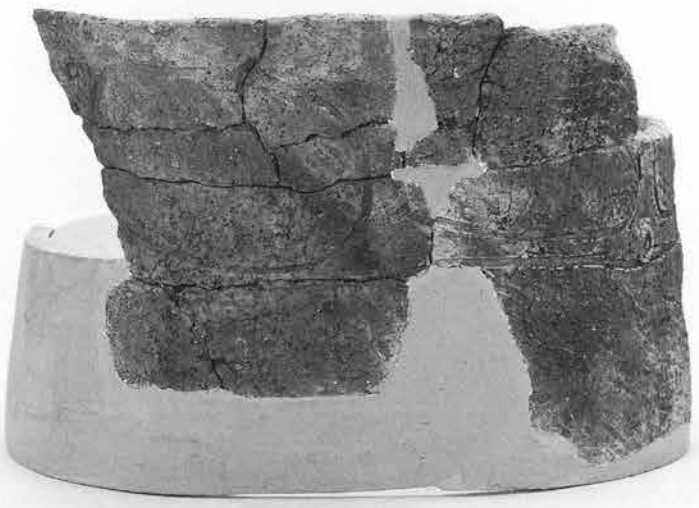
224

225

226

228

222



218

写真図版90　SI17・18 竪穴住居跡土器

SI17（209・213）

209

SI18（223・227）

223

227

SI18・19（230～232）

231

232

213

213

230

写真図版91　SI17～19 竪穴住居跡土器

SI19

229

236

240

241

SI18・19（233～241）

233

234

235

237

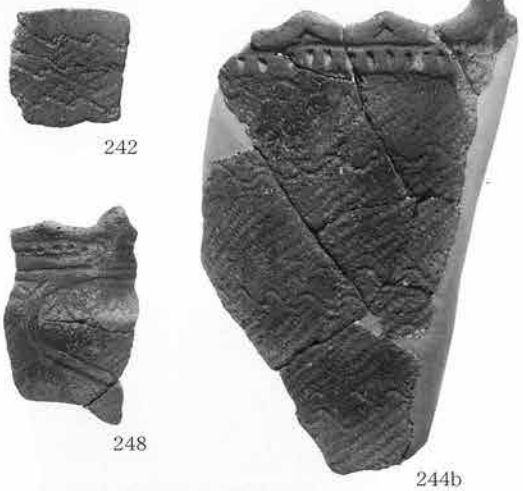
238

239

239

写真図版92　SI18・19 竪穴住居跡土器

SI18・19（242・244・246～248）



242

248

244b

246

244a

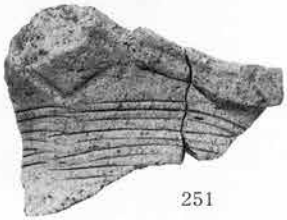
247

SI20（249～251）

243

249

250



251

写真図版93　SI18～20 竪穴住居跡土器

SI18・19

245

SI20（252～256）

253

254

256

SI22

273

252

252

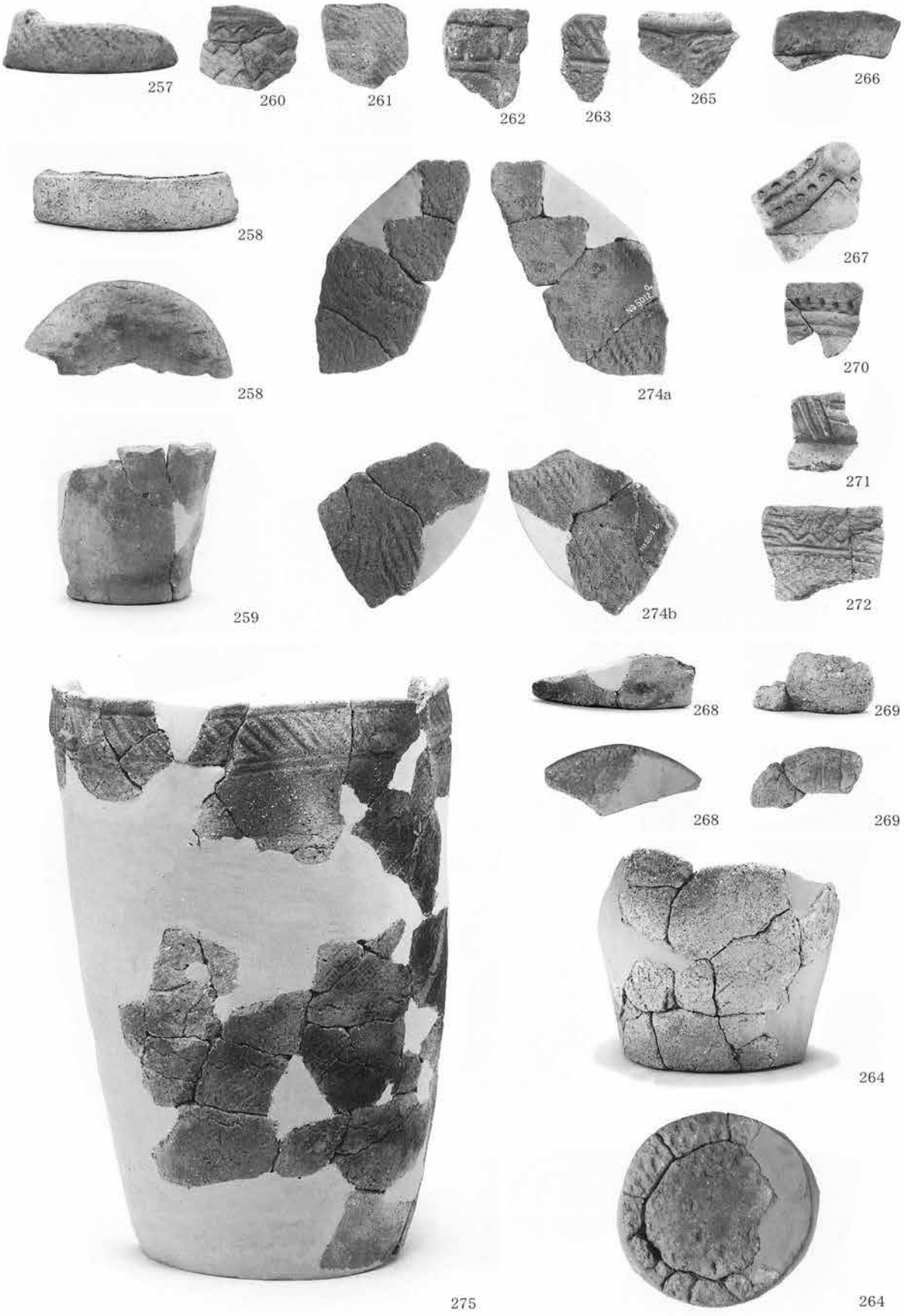
255

255

写真図版94　SI18～20・22 竪穴住居跡土器

SI21 (257～261)

SI22 (262～272・274・275)



写真図版95　SI21・22 竪穴住居跡土器

SI23（276～281）

276

277

280

281

279

278a

278b

SI25（282～289）

282

283

285

286

287

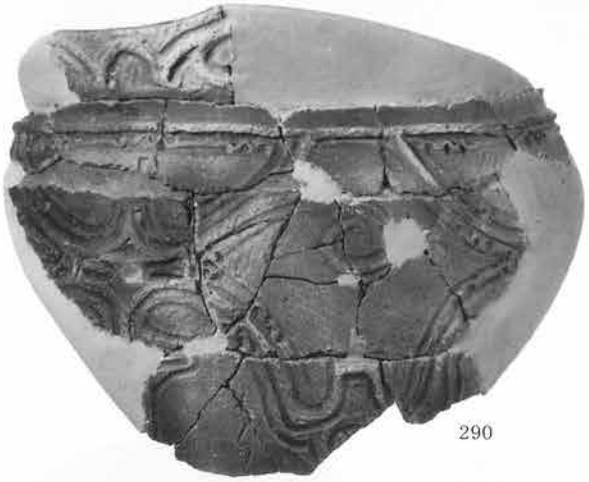
289

288

284

写真図版96　SI23・25 竪穴住居跡土器

SI25（290～293）


290

292

291

SI26（294～305）

293

295

296

297

294

298

299

294

300

301

302

303

304

305

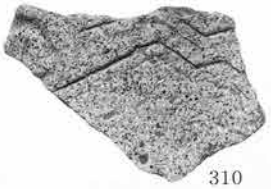
写真図版97　SI25・26 竪穴住居跡土器

SI27 (306～315)

306

307

308


310

311

313

309

315

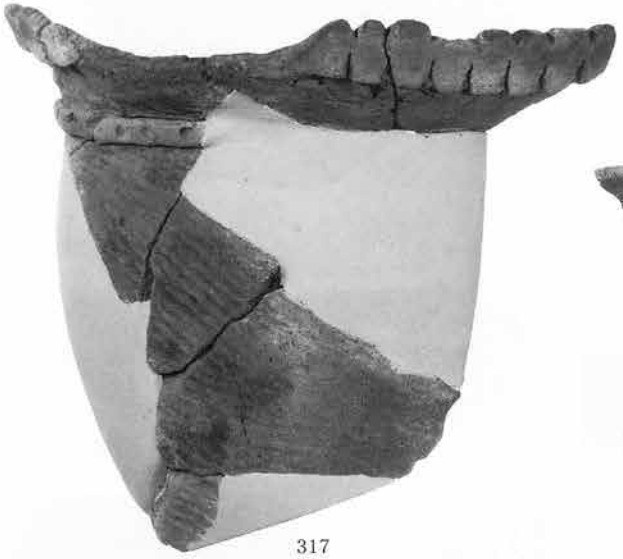
312

315

314

318

SI28 (316～321)


317

319

316

320

316

321

SI29 (322～330)

326

328

323

325

322

324

329

327

330

写真図版98　SI27～29 竪穴住居跡土器

SI30・31（331～335）

331

335

335

332

334

333

SI32（336～345）

341

336

337

338

340

344

342

345

339

343

写真図版99　SI30～32 竪穴住居跡土器

SI33（346～354）

346

347

348

349

350

351

352

353

354

SI34（355・356・358～360・362・363）

355

359

360

362

358

363

356

写真図版100　SI33・34 竪穴住居跡土器

SI34（361・364～370・372）

364

370

366

367

369

368

361

372

365

365

372

写真図版101　SI34 竪穴住居跡土器

SI34 (357・371)

SI36 (373～381)

357

373

374

376

377

378

379

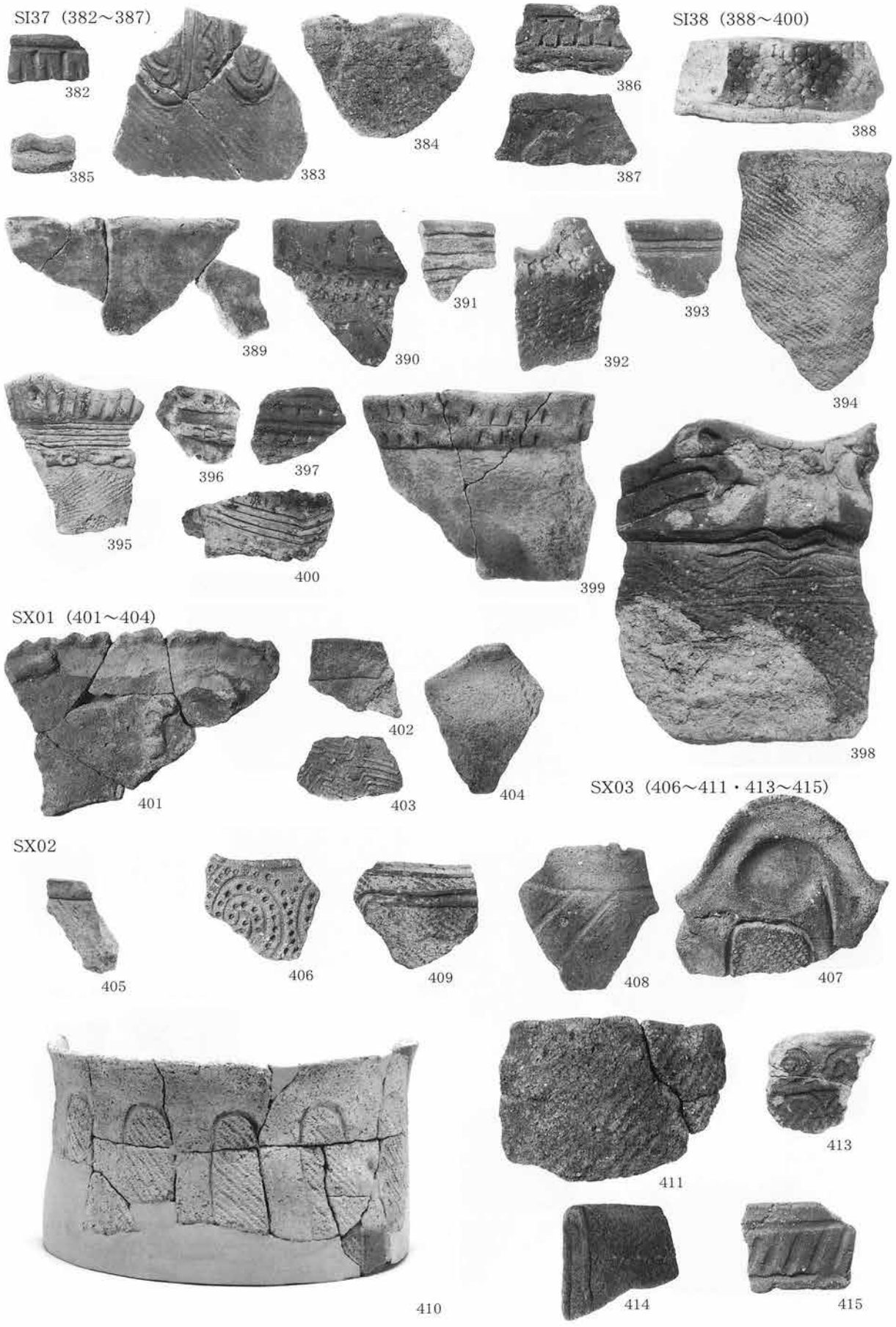
380

381

371

375

写真図版102　SI34・36 竪穴住居跡土器



写真図版103　SI37・38 竪穴住居跡　SX01～03住居状遺構土器

SX03（412）

412

SX04（416～421）

416

417

418

419

420

421

SX05（422～424）

422

423

424

SX06（425～437）

425

426

429

437

428

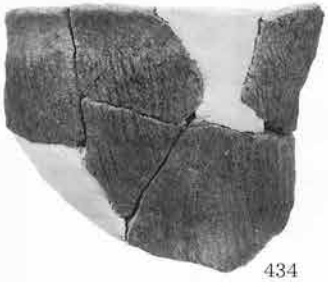
430

431

432

433

436



434

427

435

写真図版104　SX03～06 住居状遺構土器

SX06（438～442）

440

442

441

438

438

441

SX07（443・444）

443

444

439

写真図版105　SX06・07 住居状遺構土器

SX07（445～448・450～458）

445

446

452

450

454

455

451

456

457

453

458

447

448

SK01

459

459

SK03

460

SK04（461・462）

461

462

写真図版106　SX07住居状遺構　SK01・03・04土坑土器

SX07

449

SK06（463～470）

463

468

465

470

469

466

464

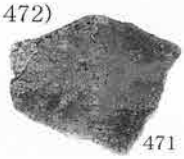
467

SK09

473

SK08（471・472）

472



471

SK15

481

SK14

480

SK10（474・475）

474

475

SK13（478・479）

479

478

SK11（476・477）

476 477

483

SK16（482～484）

482

484

写真図版107　SX06・07住居状遺構　SK08～11・13～16土坑土器

SK19（486・487）

486

SK20

488

SK21（489～191）

490

489

491

SK23

493

487

SK25（497・498）

497

498

SK17

485

SK27（501～503）

503

SK22

492

SK31

506

502

501

487

SK24（494～496）

494

496

SK29

504

SK30

505

495

SK34（507・509・510）

509

510

207

写真図版108　SK17・19～25・27・29～31・34 土坑土器

SK34（508・511・512）

511

512

508

SK39（514～519）

515

516

517

518

519

SK38

513

514

SK40（520・521）

520

521

SK26（499・500）

499

500

写真図版109　SK26・34・38～40 土坑土器

SK45

522

522

SK47（523～525）

523

524

525

SR01（526・527）

526

527

SD04（529～540）

529

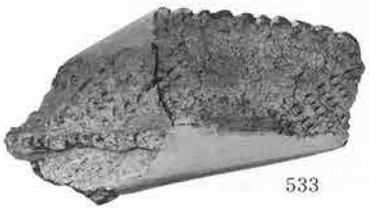
530

531

532

534

537



533

535

536

538

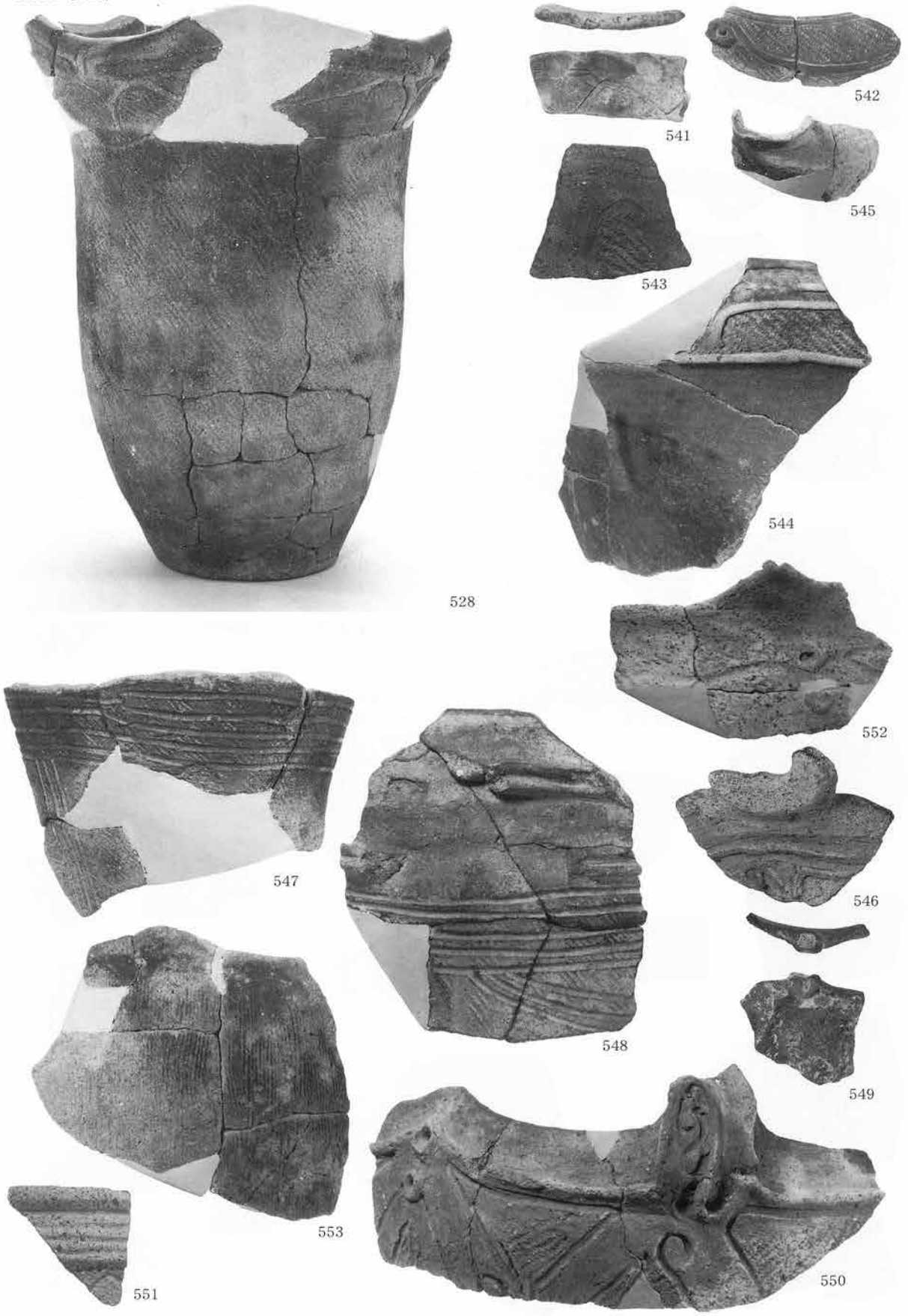
539

540

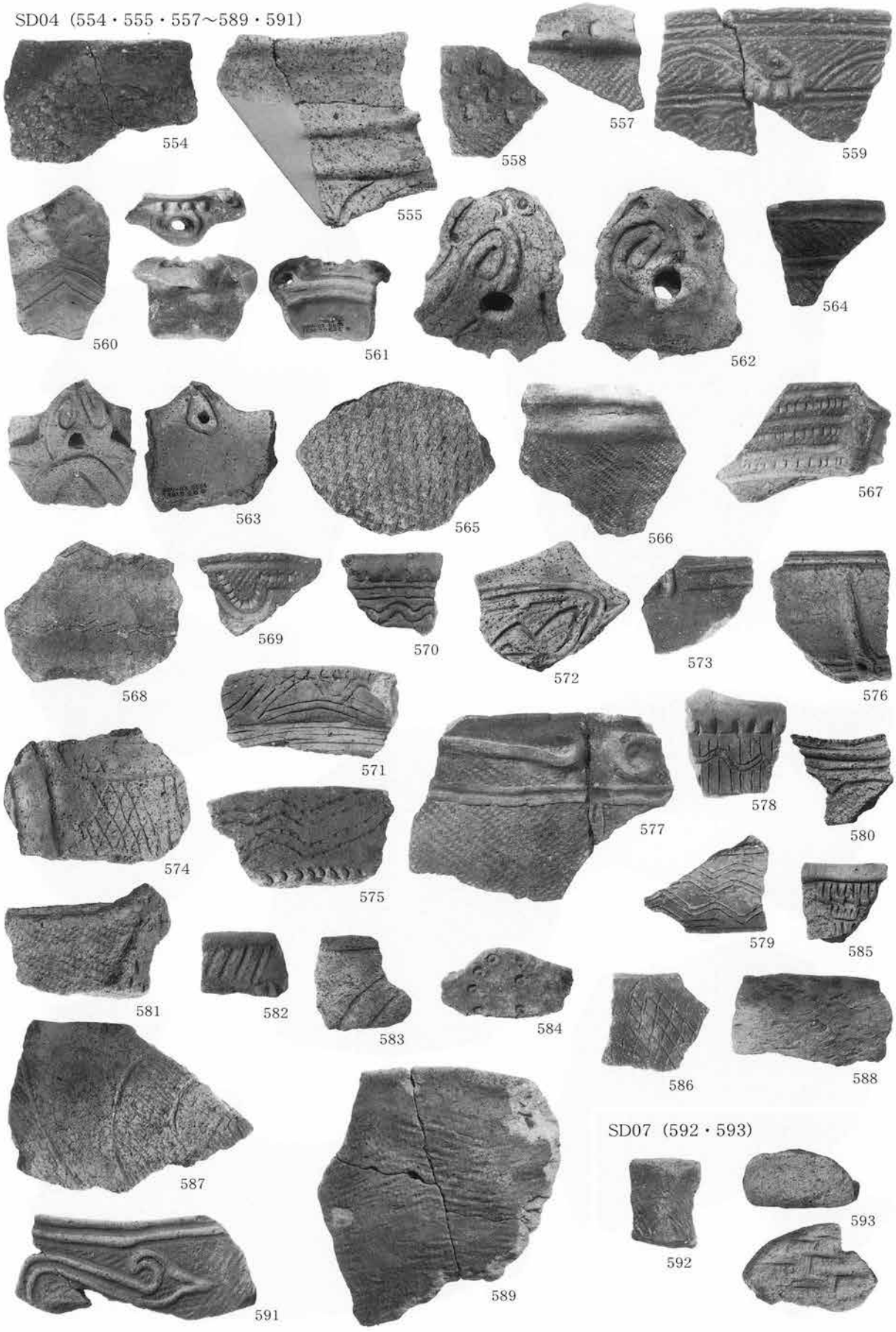
写真図版110　SK45・47土坑　SR01土器埋設遺構　SD04堀跡土器

SR02（528）

SD04（541～553）



写真図版111　SR02土器埋設遺構　SD04堀跡土器



写真図版112　SD04・07 堀跡土器

556

写真図版113　SD04 堀跡土器

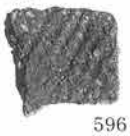
SD04

590

P73

594

P75



596

P121

607

P74

595

P142 (608・609)

608

609

P85(604・605)

604

605

P84 (601～603)

601

602

P81 (598・597)

598

597

P82 (599・600)

599

600

P87

606

612

P164 (611・612)

611

603

P152

610

写真図版114　SD04堀跡　P73～75・81・82・84・85・87・121・142・152・164ピット土器

P178

614

P208（615・616）

615

616

P164

613

614

613

I層（617～622・624～628）

617

618

619

620

621

628

622

626

627

625

624

625

写真図版115　P164・178・208ピット土器　Ⅰ層土器(1)

Ⅰ層（623・629・630・632・634～464）
Ⅱ層（647～649）

623

629

630

632

634

635

636

637

639

638

623

640

642

641

643

644

645

646

647

648a

648b

649

写真図版116　Ⅰ層土器(2)　Ⅱ層土器(1)

Ⅰ層（631・633）Ⅱ層（650～664）

631

650

651

652

653

654

655

656

633

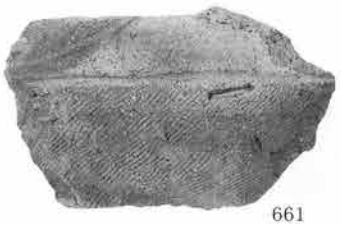
657

658

659

662

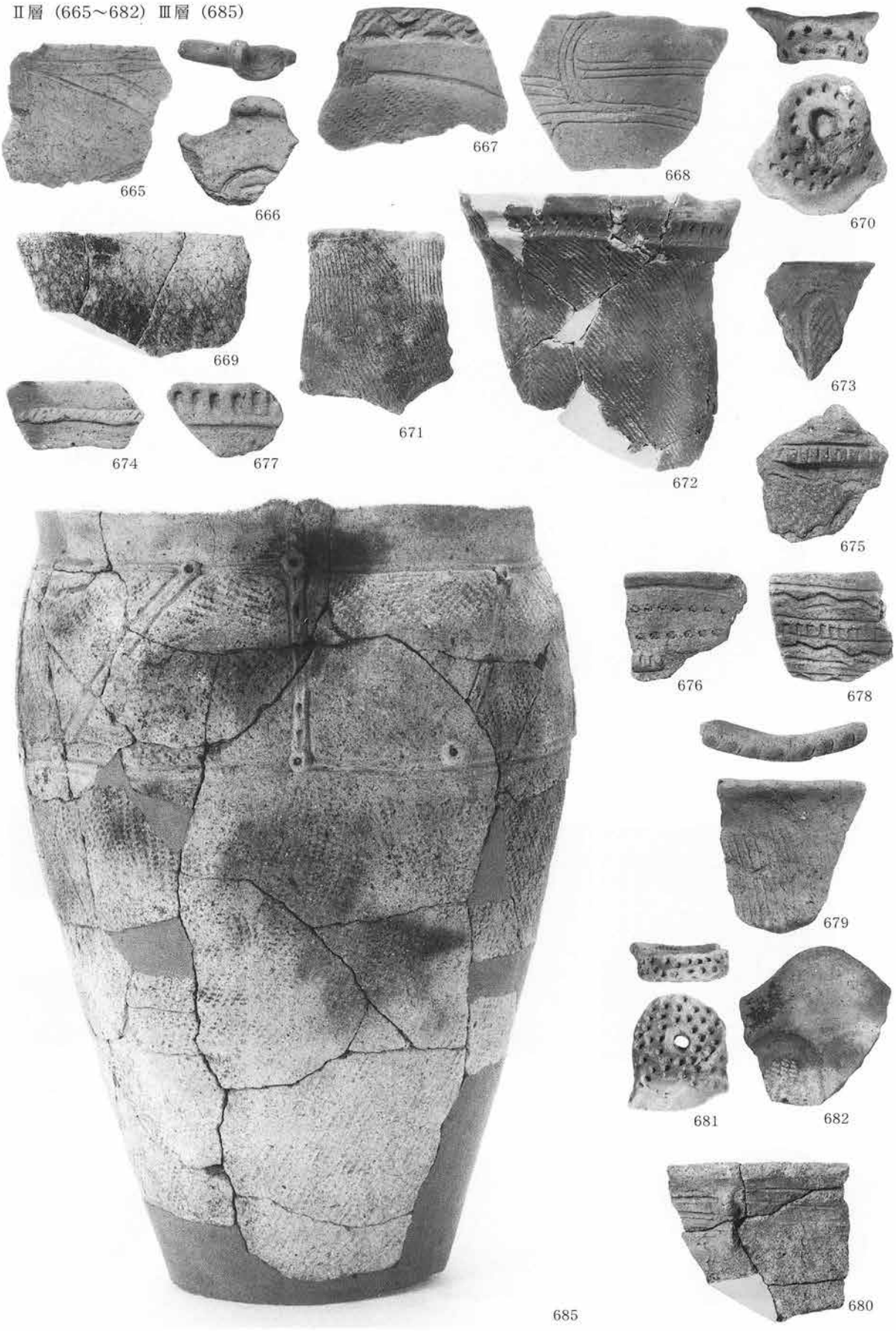
660


661

663

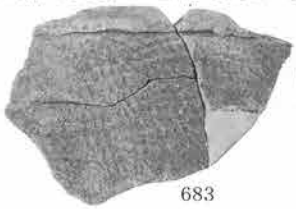
664

写真図版117　Ⅰ層土器(3)　Ⅱ層土器(2)



写真図版118　Ⅱ層土器(3)　Ⅲ層土器(1)

Ⅱ層（683）　Ⅲ層（684・686・688～690
692～697）


683

688

684

689

693

692

694

695

696

697

690

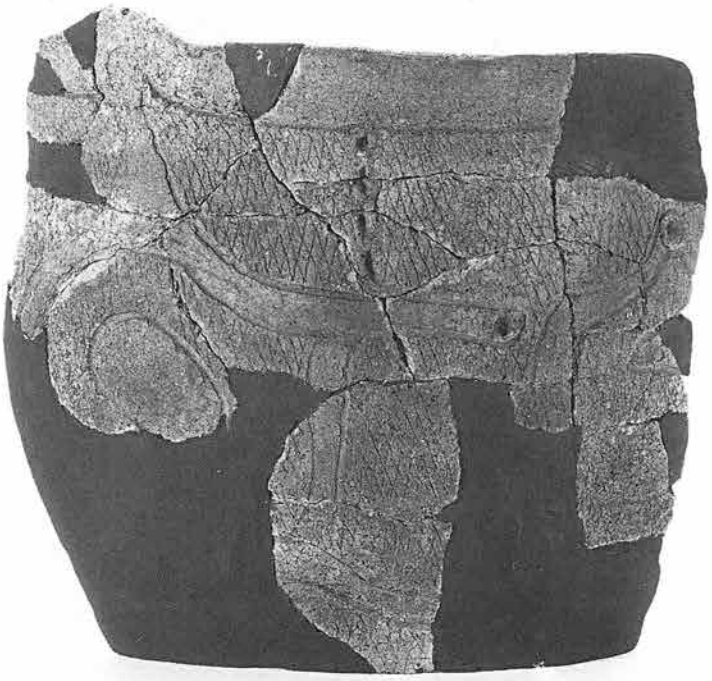
690

686

686

写真図版119　Ⅱ層土器(4)　Ⅲ層土器(2)

Ⅲ層（687・691・698・699・701・707～709・711～714・718）


687

701

708

707

709

711

691

699

712

698

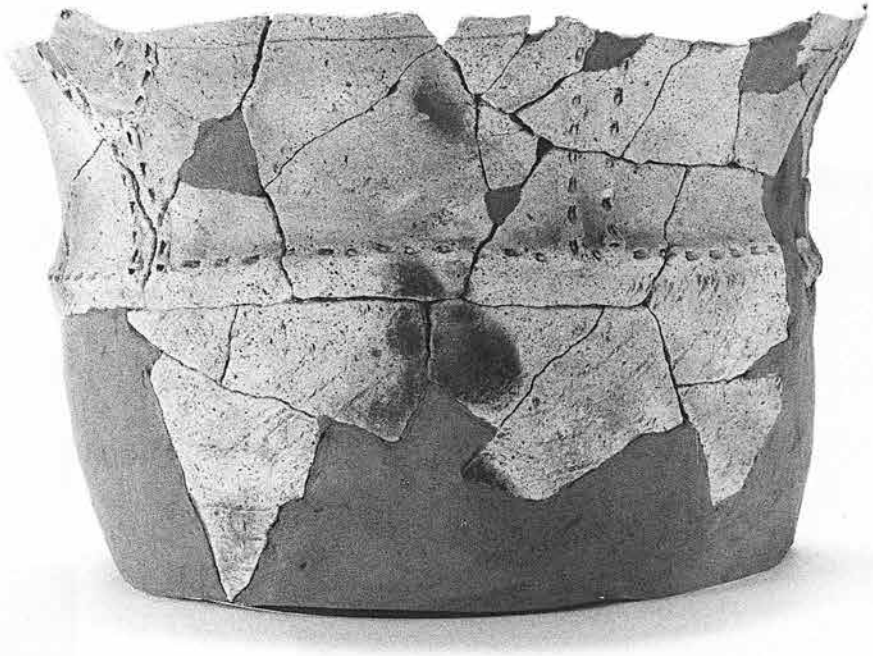
713

714

718

写真図版120　Ⅲ層土器(3)

Ⅲ層（700・702・710・719～722・724）



700

702

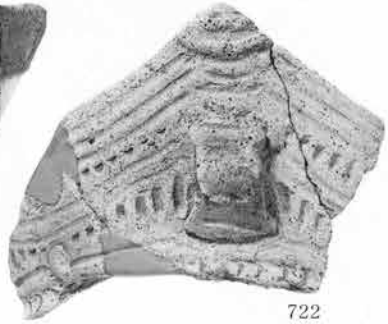
710

710

721

719

720



722

724

写真図版121　Ⅲ層土器(4)

Ⅲ層（703・715～717・723・725・726・728・729・731・734・735）

703

723

725

726

729

731

734

735

715

715

717

716

728

写真図版122　Ⅲ層土器(5)

Ⅲ層（704・705・730・736～738）

705

730

736

737

738

704

写真図版123　Ⅲ層土器(6)

Ⅲ層（706・727・739～746）

706

727a

727b

727c

746

739

740

727c

741

742

743

744

745

写真図版124　Ⅲ層土器(7)

Ⅲ層（732・733・747～767・775～777・779）

732

733

747

748

749

750

751

733

752

753

754

755

756

757

758

759

762

760

761

763

764

766

765

767

775

776

777

779

写真図版125　Ⅲ層土器(8)

Ⅲ層（768～771・773・774・778・781・782・784・785
789・790・793）

768

770

774

771

773

781

769

782

778

784

785

789

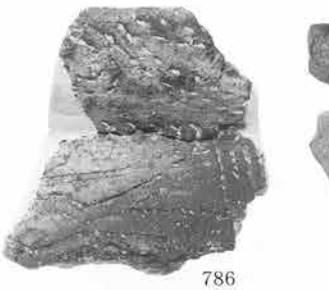
790

793

写真図版126　Ⅲ層土器(9)

Ⅲ層（772・783・786～788・791・792・794）
Ⅳ層直上（796・799）撹乱（800・801・803～808）

772


786

791

787

794

783

788

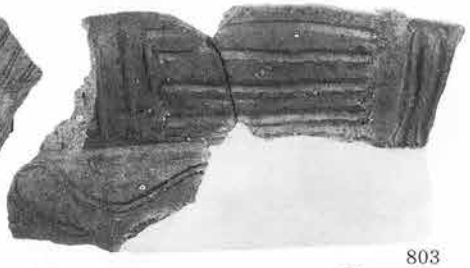
792

796

799

800

801


803

783

804

806

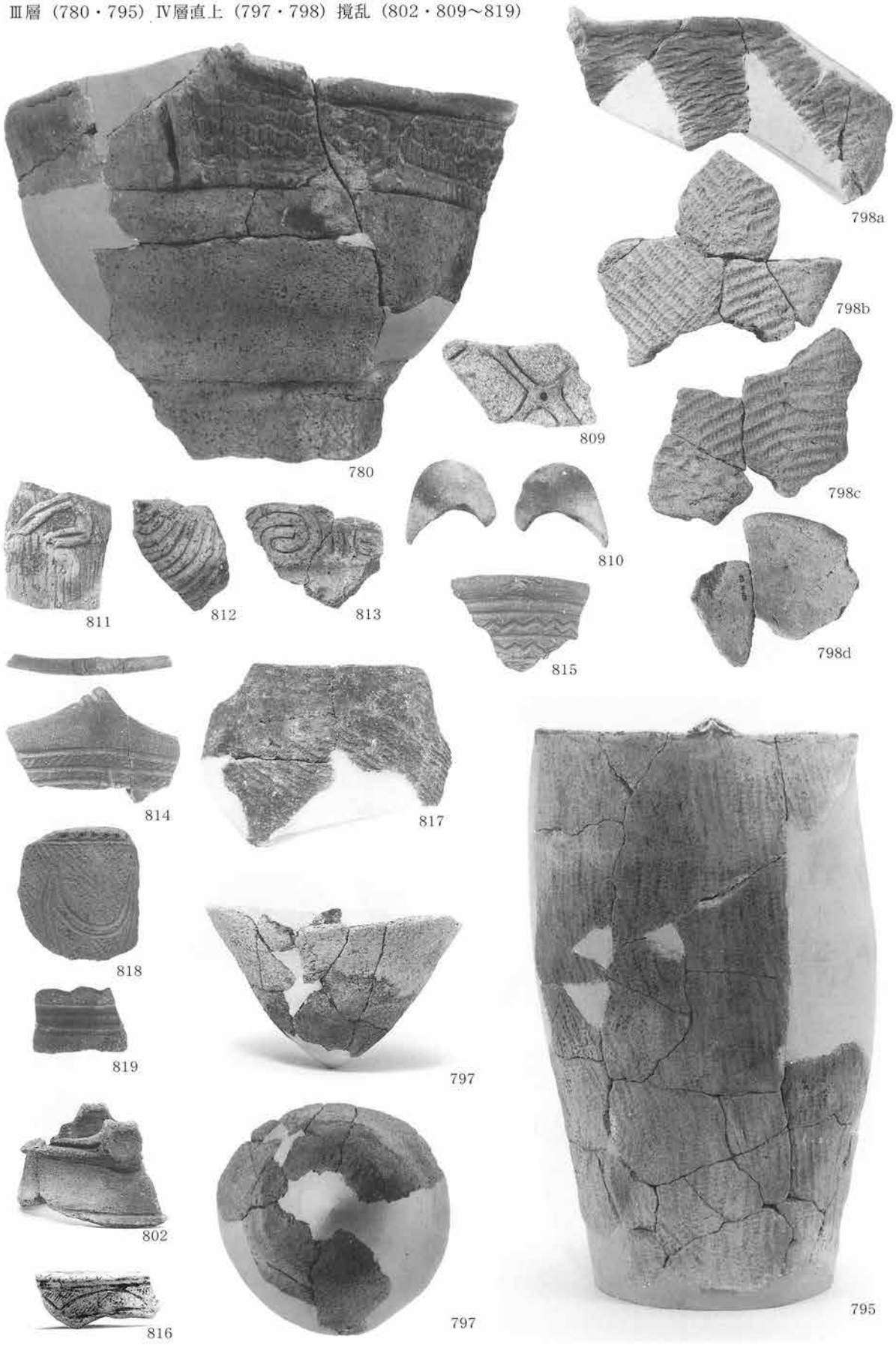
805

808

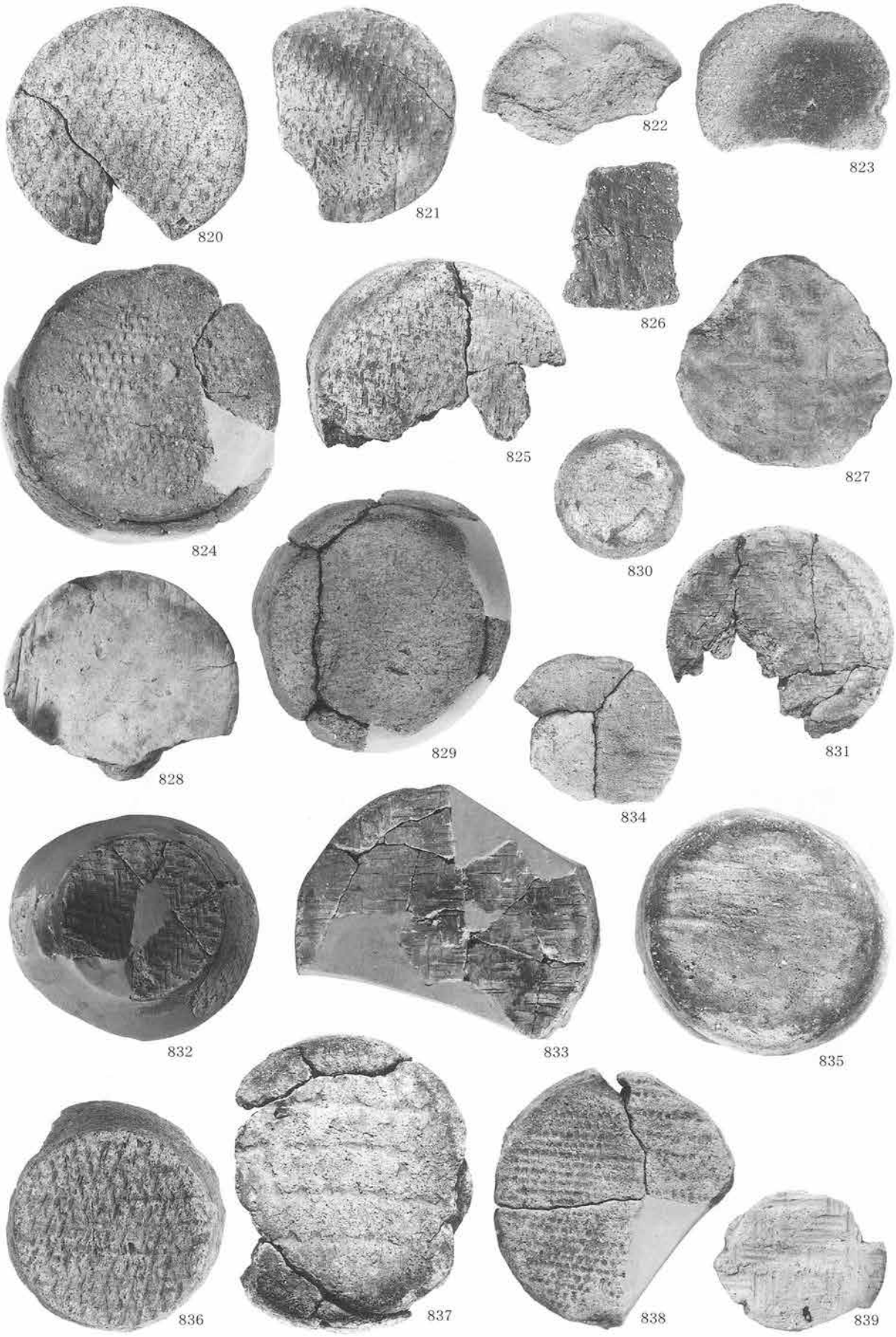
807

写真図版127　Ⅲ層土器(10)　Ⅳ層直上土器(1)　撹乱出土土器(1)

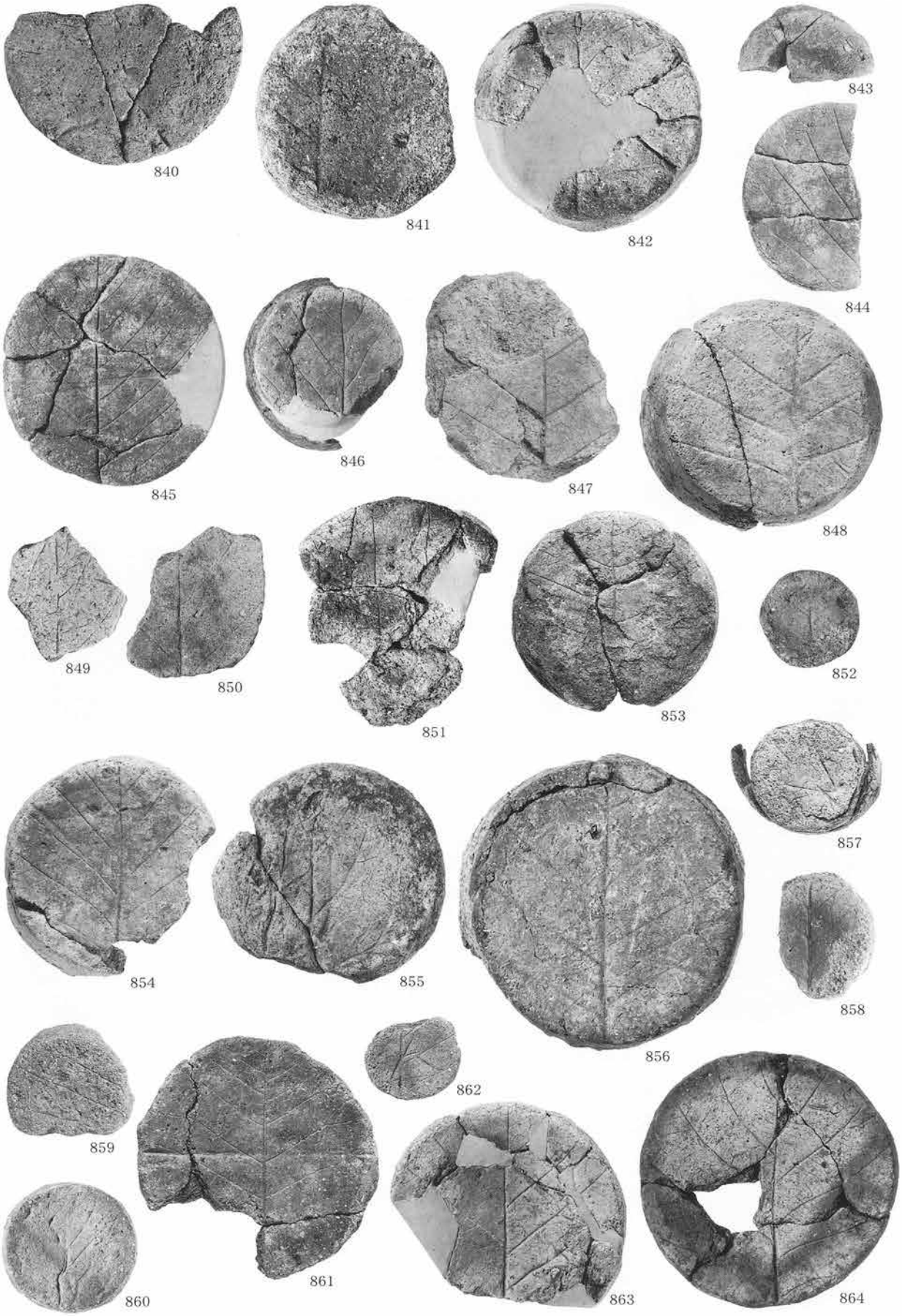
Ⅲ層（780・795）Ⅳ層直上（797・798）撹乱（802・809～819）



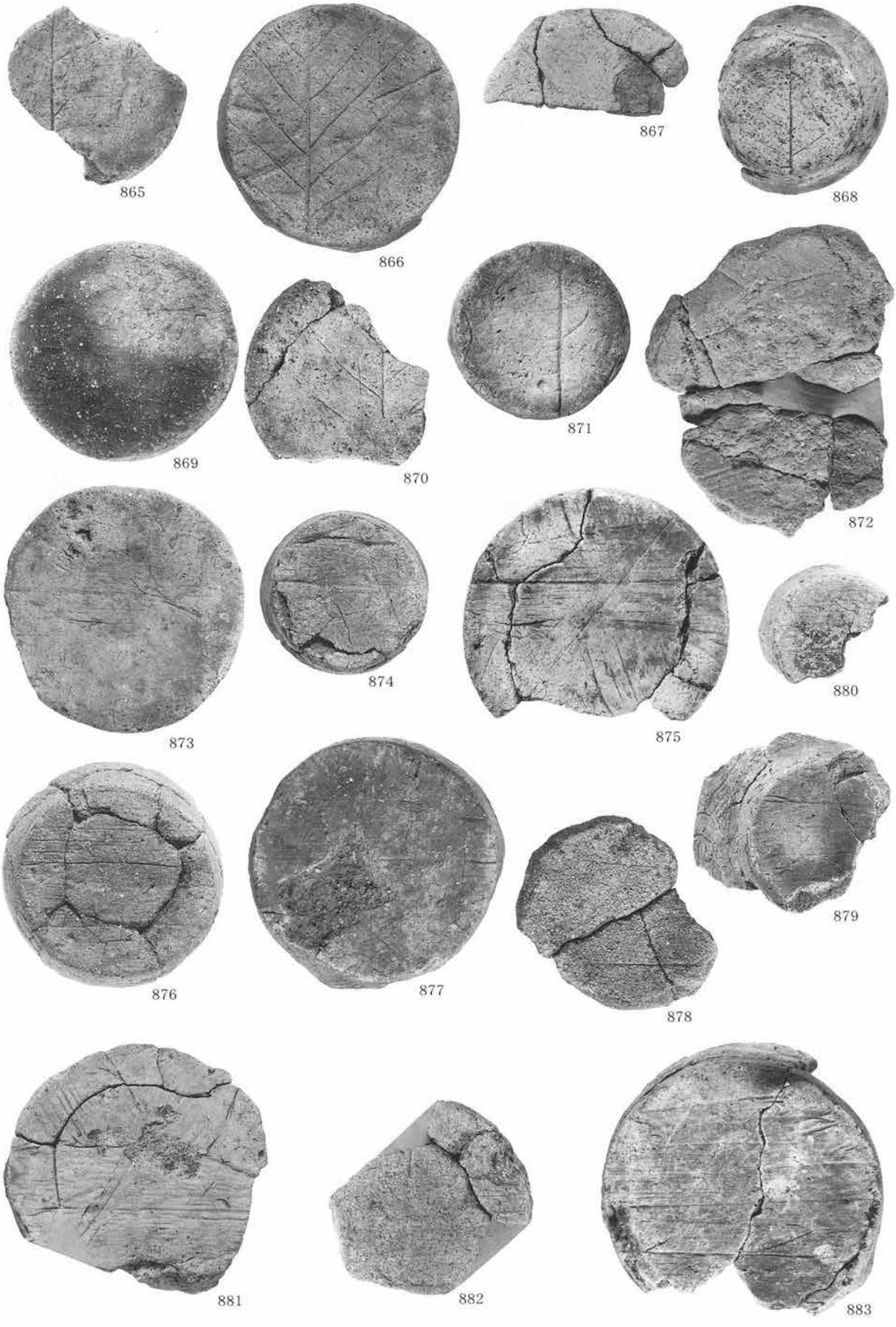
写真図版128　Ⅲ層土器(11)　Ⅳ層直上土器(2)　撹乱出土土器(2)



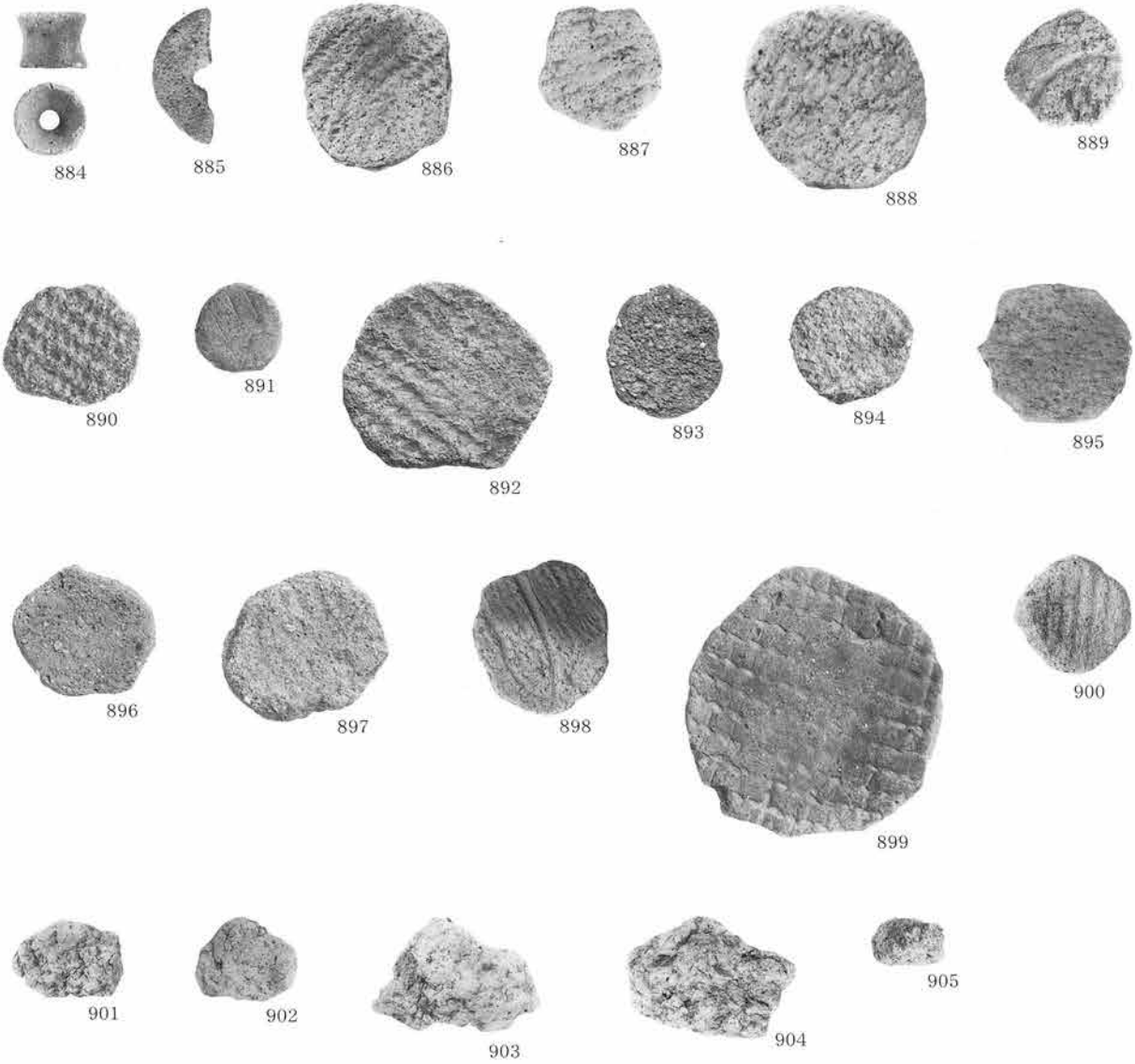
写真図版129　土器底部(1)



写真図版130　土器底部(2)

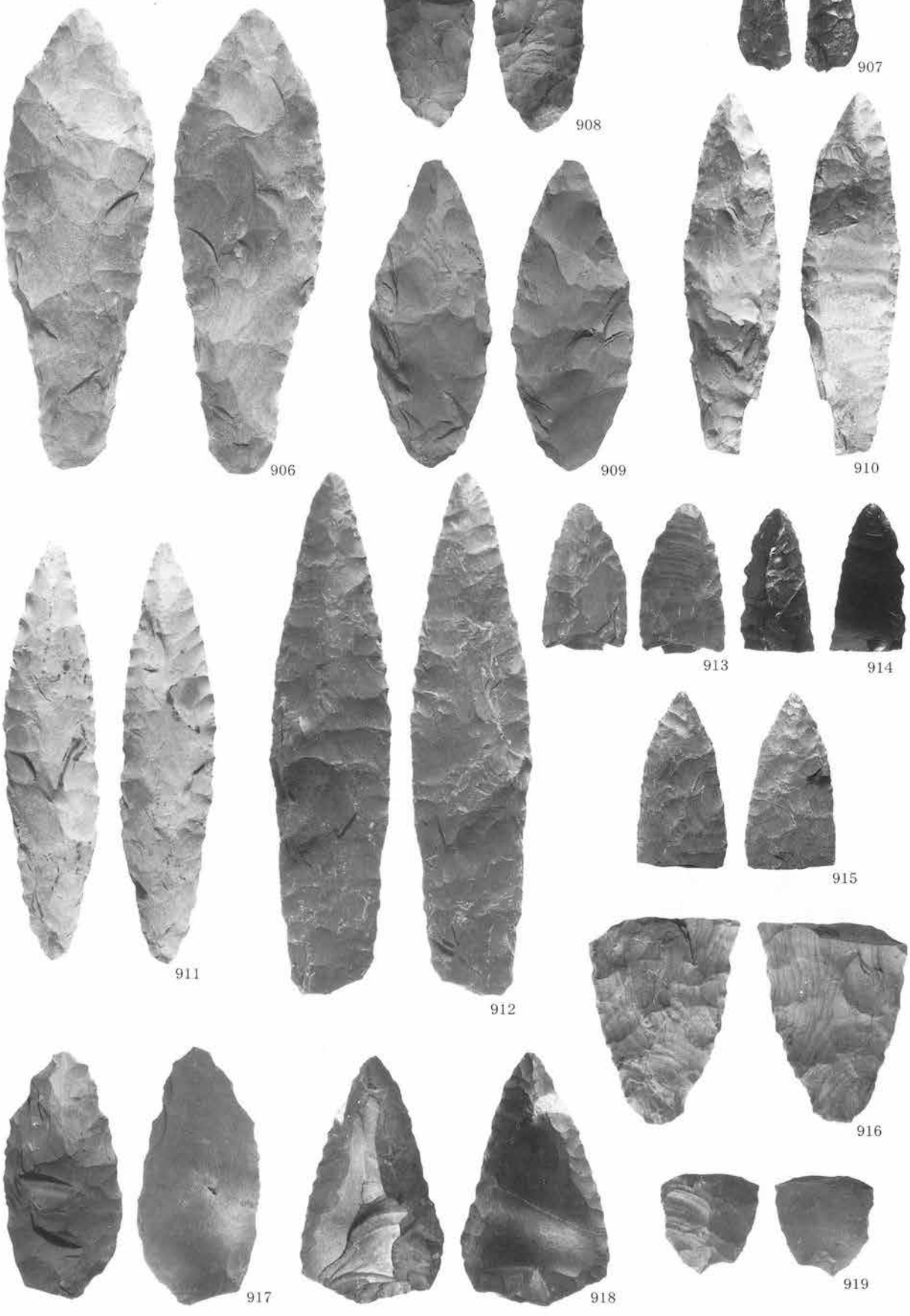


写真図版131　土器底部(3)


884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905

写真図版132　土製品

尖頭器



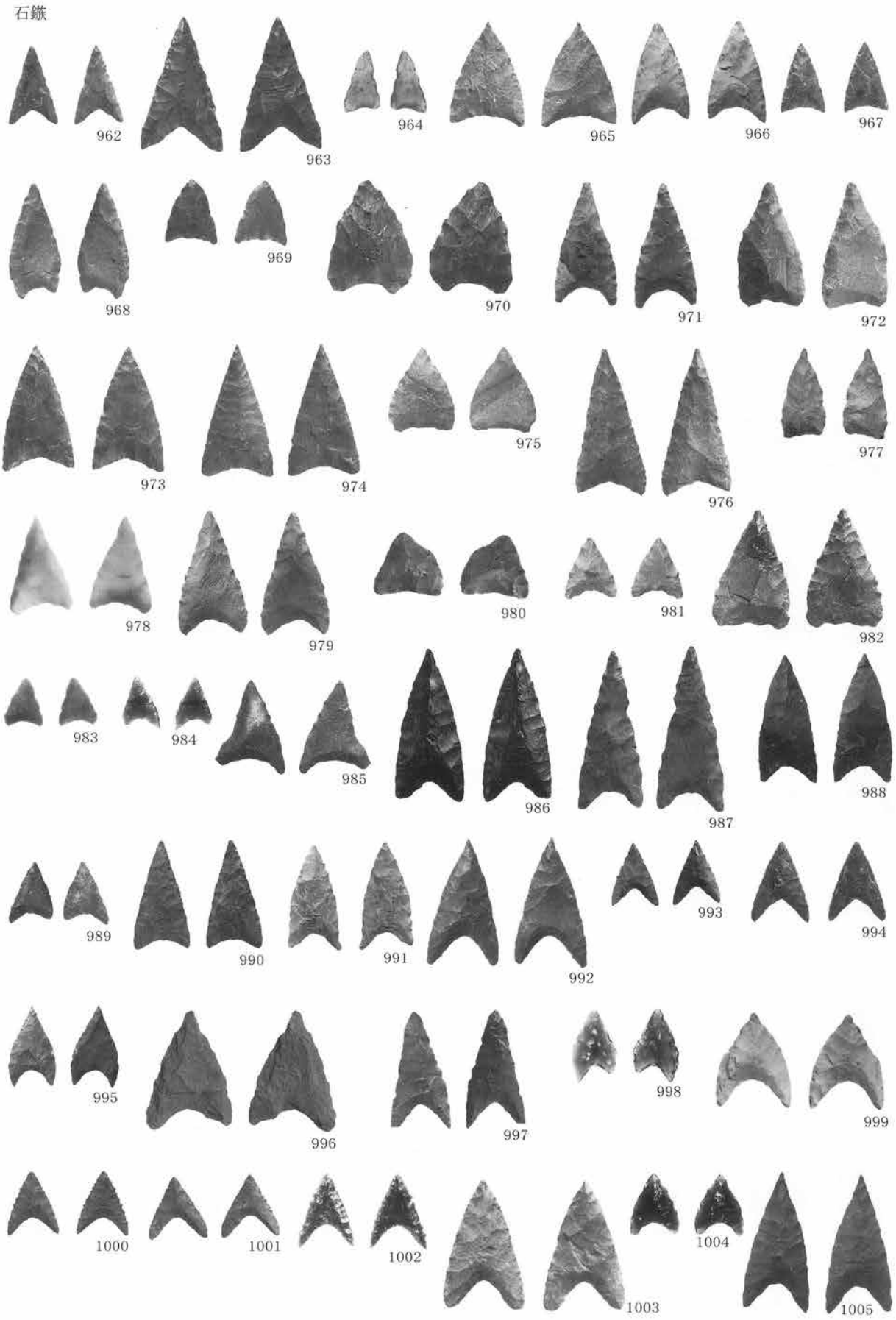
写真図版133　尖頭器(1)

尖頭器

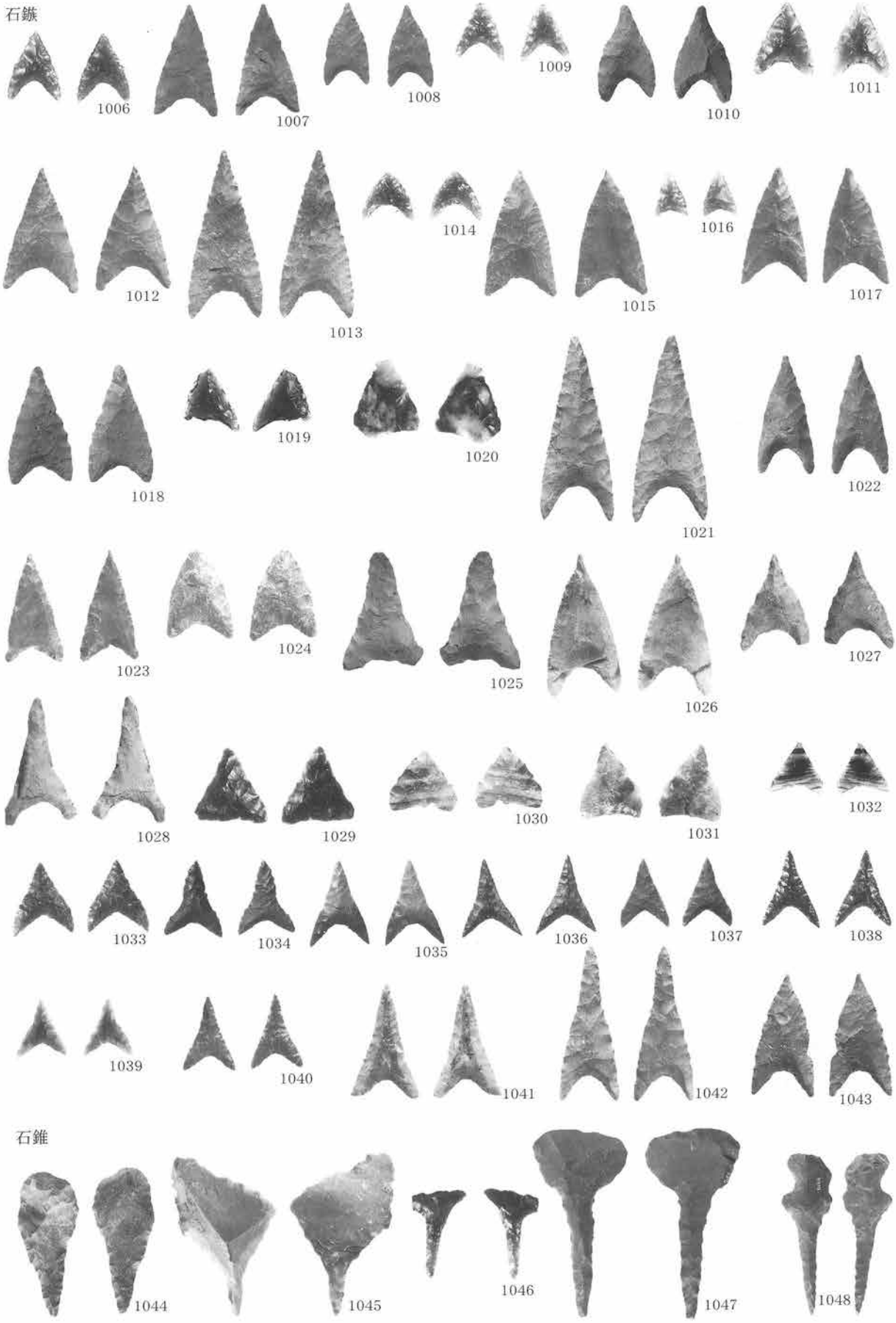
石鏃

写真図版134　尖頭器(2)　石鏃(1)

石鏃



写真図版135　石鏃(2)



写真図版136　石鏃(3)　石錐(1)

石錐

1049

1050

1051

1052

1053

1054

1055

1056

1057

石匙

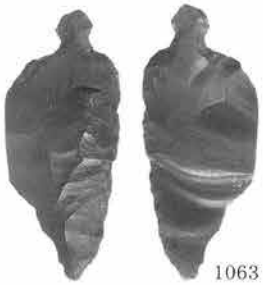
1058

1059

1060

1061

1062


1063

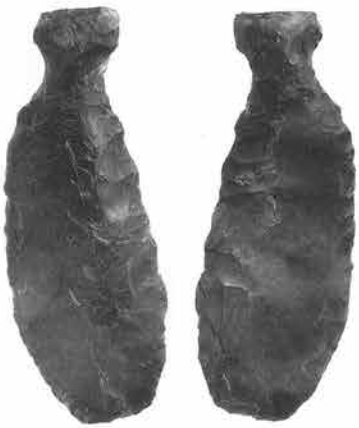
1064

1065

写真図版137　石錐(2)　石匙(1)

石匙

1066

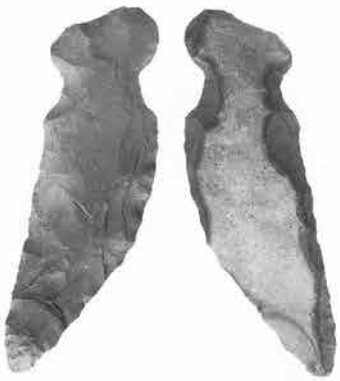


1067

1068

1069

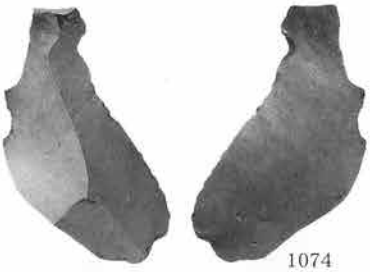
1071



1072

1070

1073

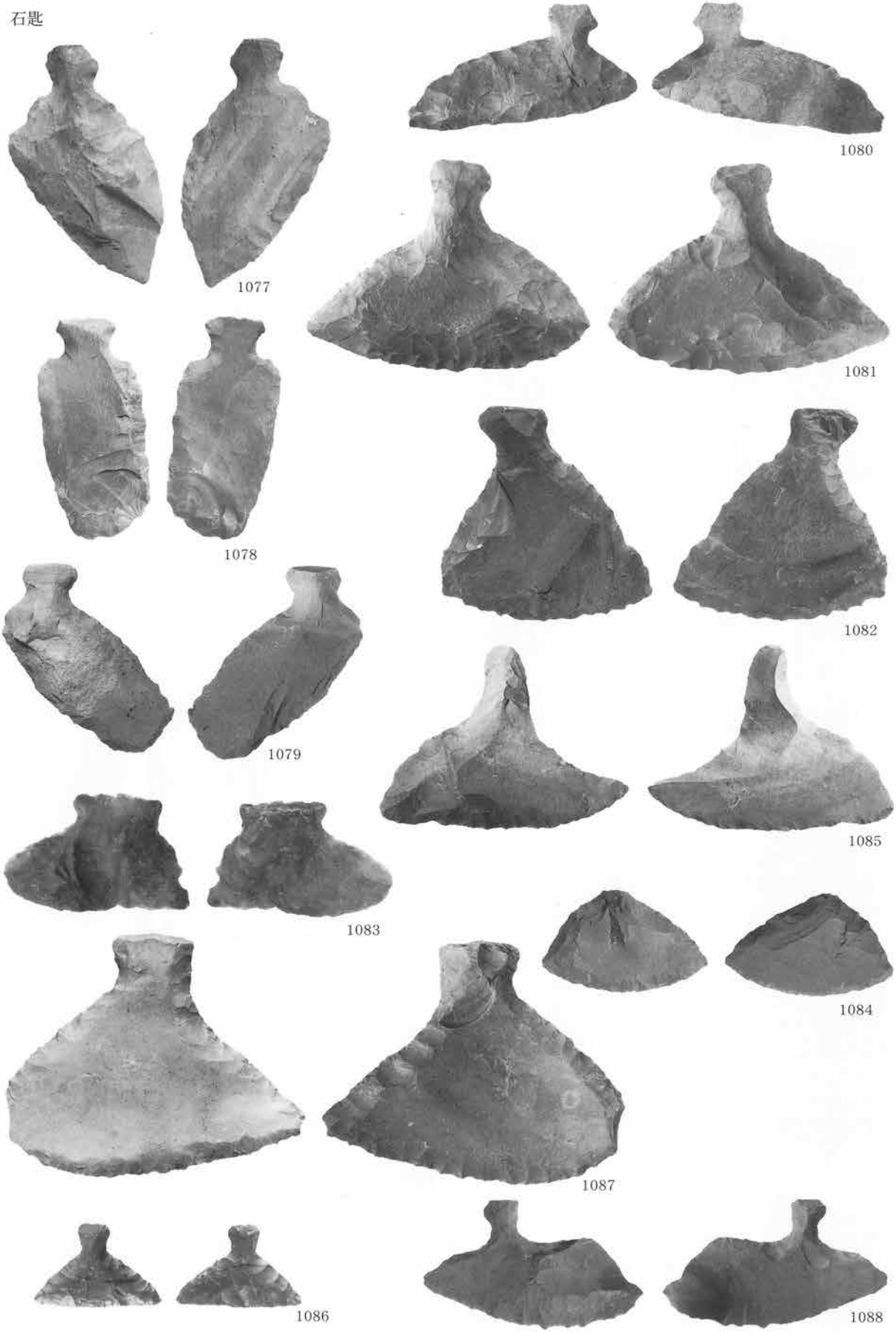


1074

1075

1076

写真図版138　石匙(2)



写真図版139　石匙(3)

石匙

1089

1090

篦状石器

1091

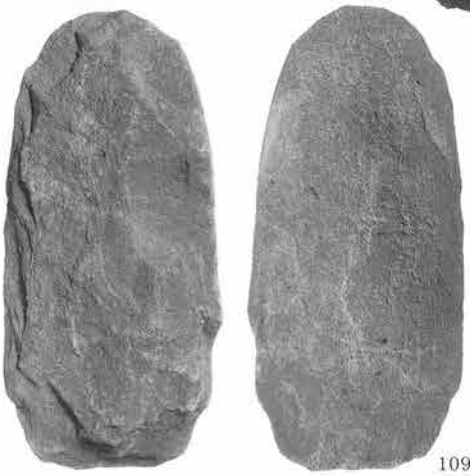
1092

1093

1094

1095

1096



1097

楔形石器

1098

1099

1101

1100

1102

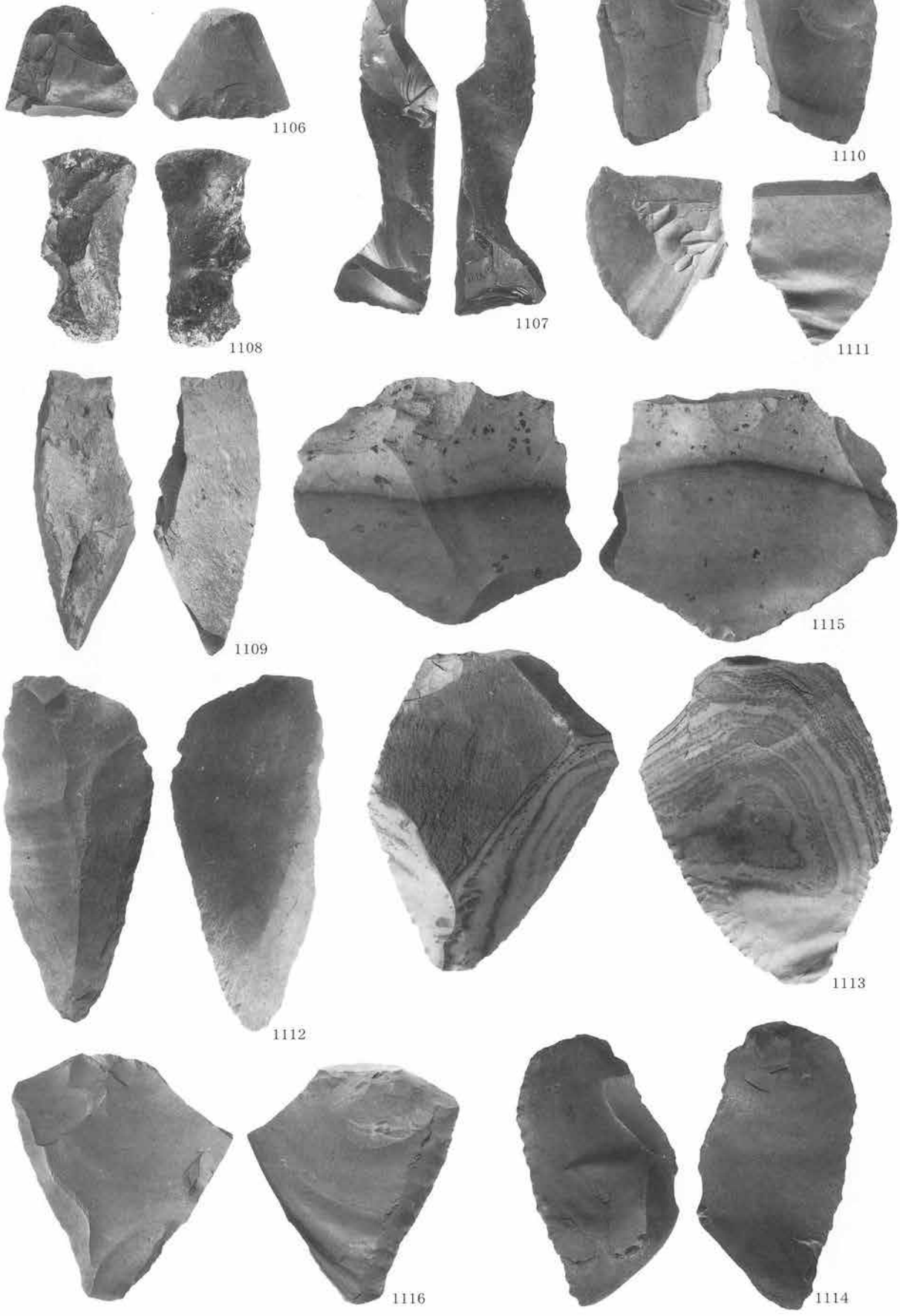
1103

1104

1105

写真図版140　石匙(4)　篦状石器　楔形石器

スクレイパー類

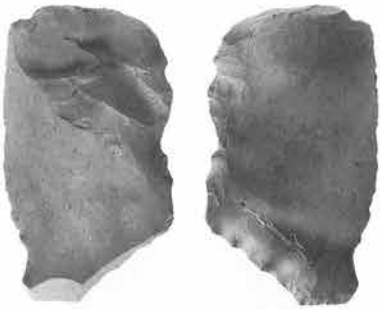


写真図版141　スクレイパー類(1)

スクレイパー類

1117

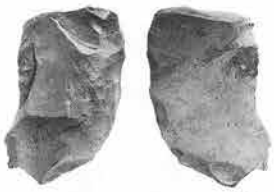
1118

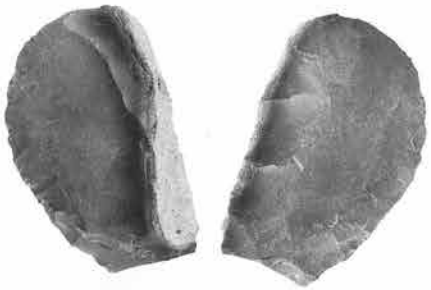

1119

1120

1121

1123


1122


1124

1125

1126

1127

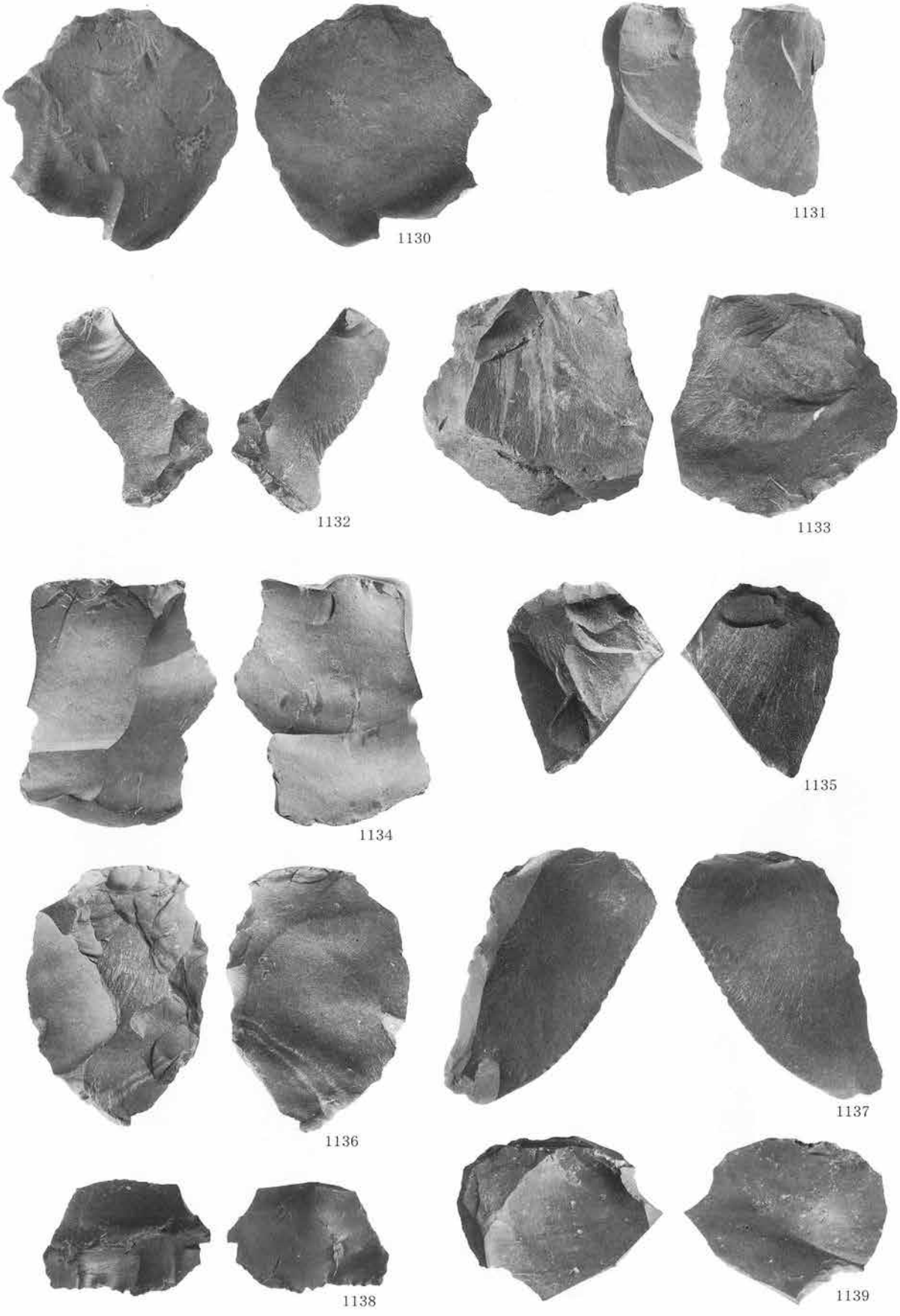
二次加工ある剥片

1128

1129

写真図版142　スクレイパー類(2)　二次加工ある剥片(1)

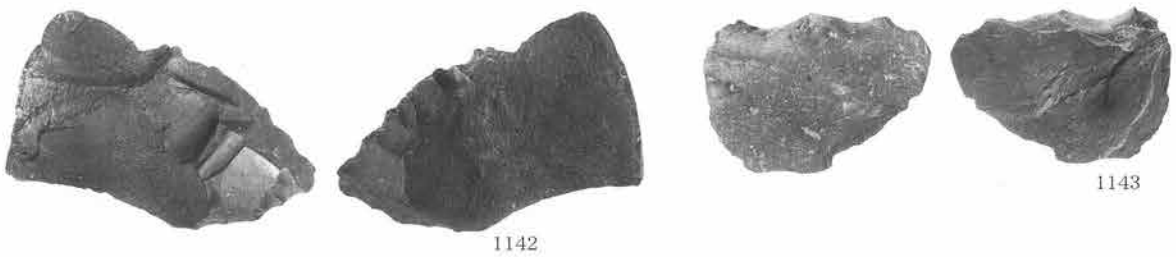
二次加工ある剥片



写真図版143　二次加工ある剥片(2)

二次加工ある剥片

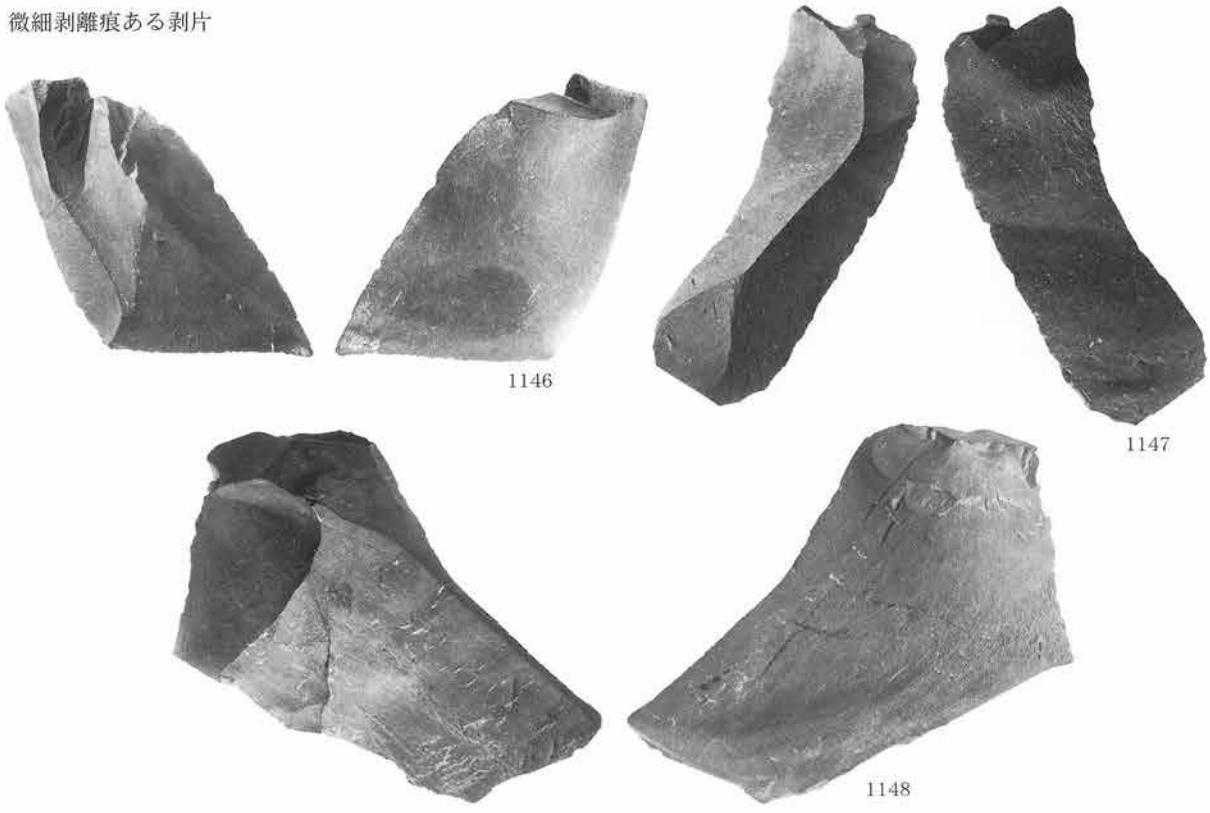
1140　1141



1142　1143

1144　1145

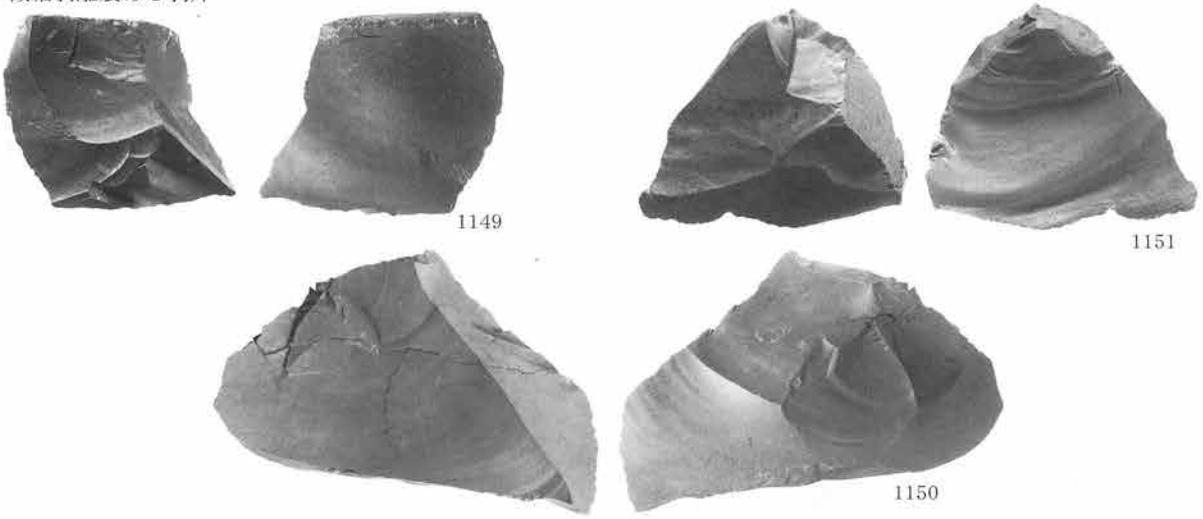
微細剥離痕ある剥片



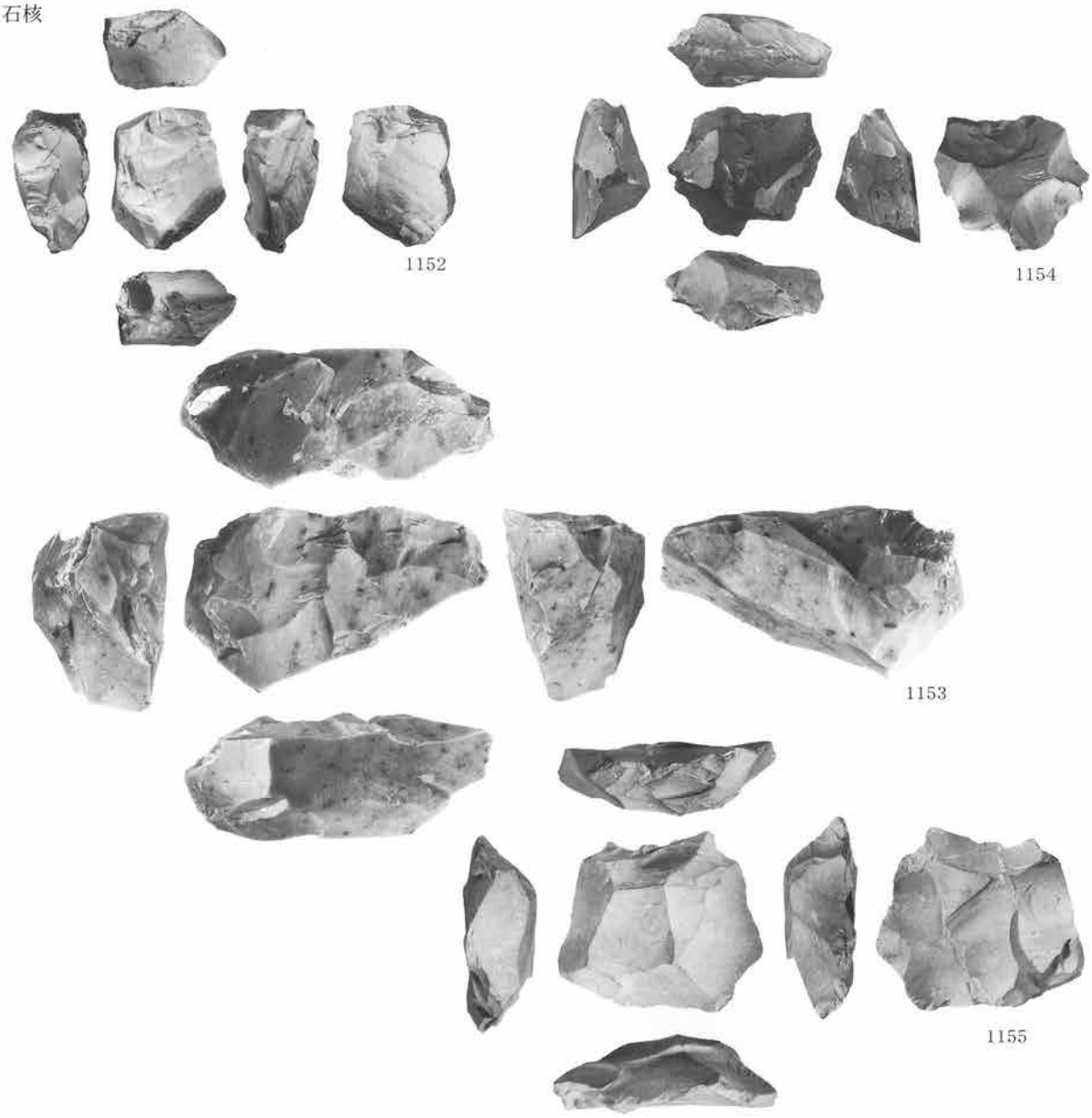
1146　1147　1148

写真図版144　二次加工ある剥片(3)　微細剥離痕ある剥片(1)

微細剥離痕ある剥片



石核



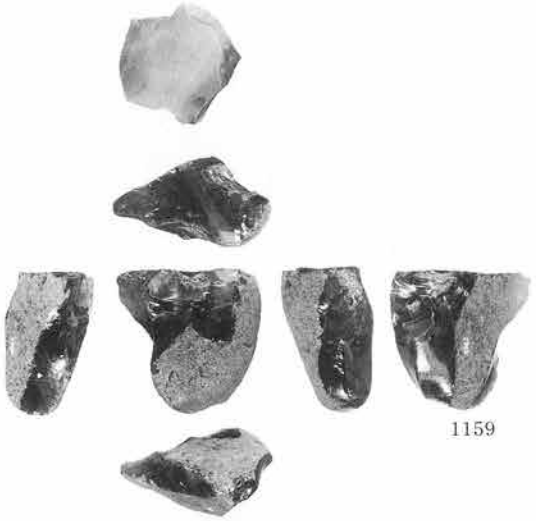
写真図版145　微細剥離痕ある剥片(2)　石核(1)

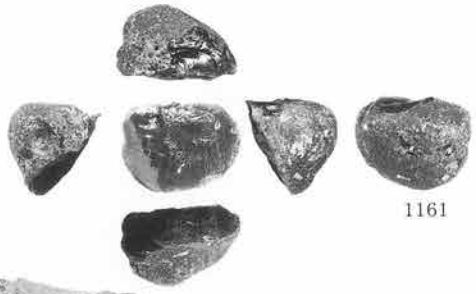
石核

1156

1157

1158

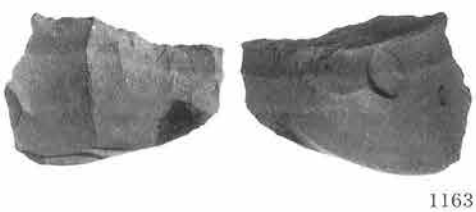

1159


1161

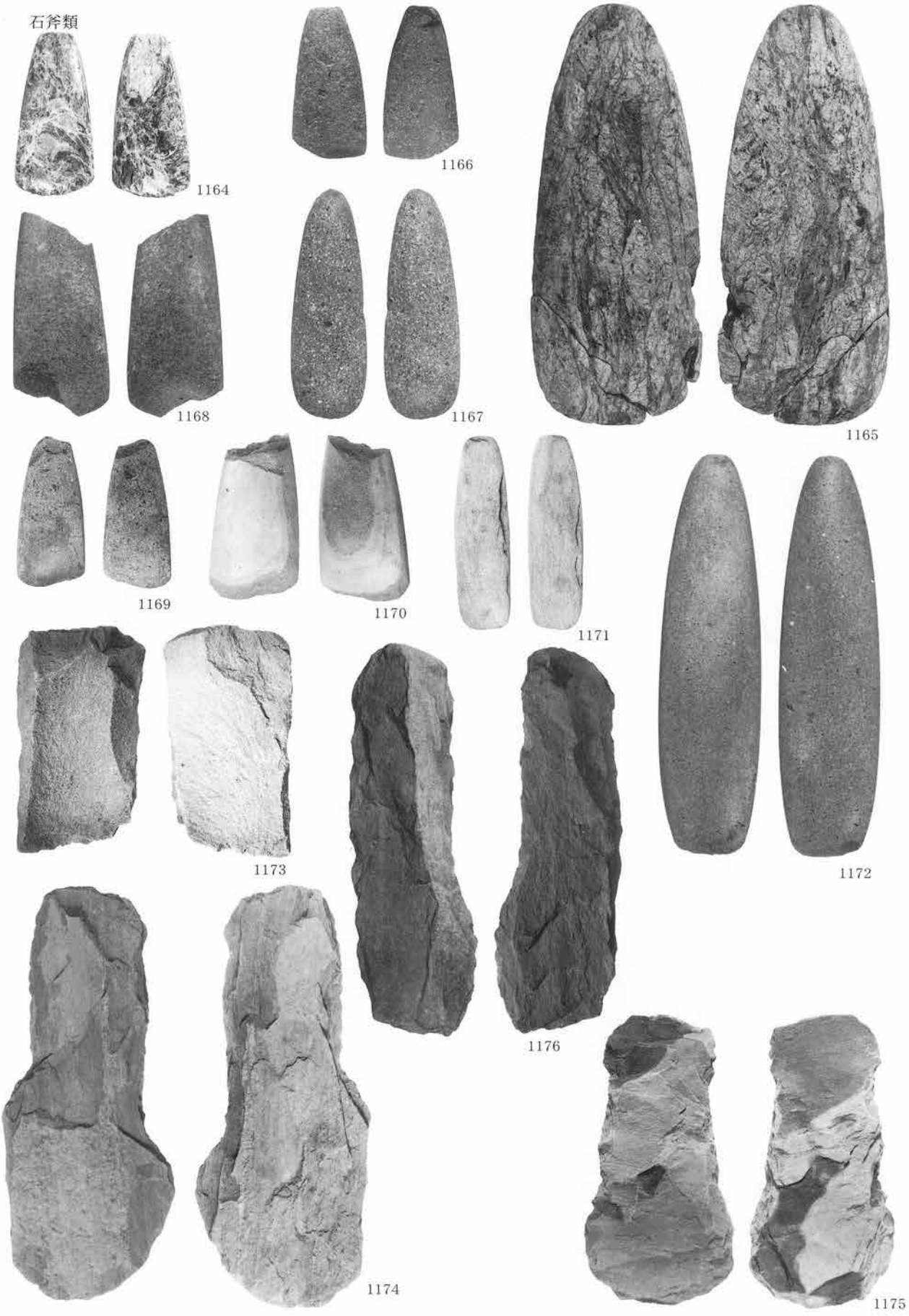
1160

剥片

1162


1163

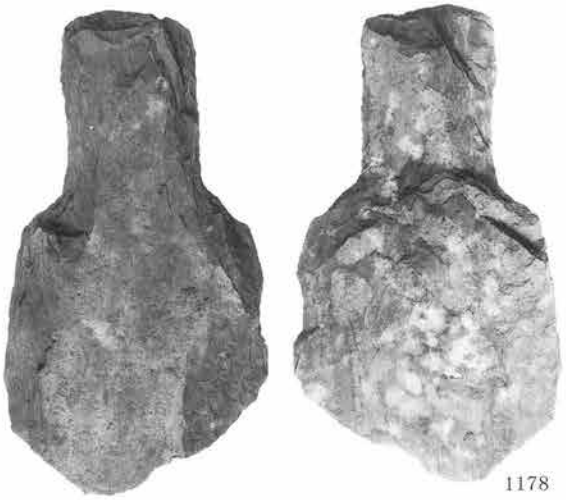
写真図版146　石核(2)　剥片

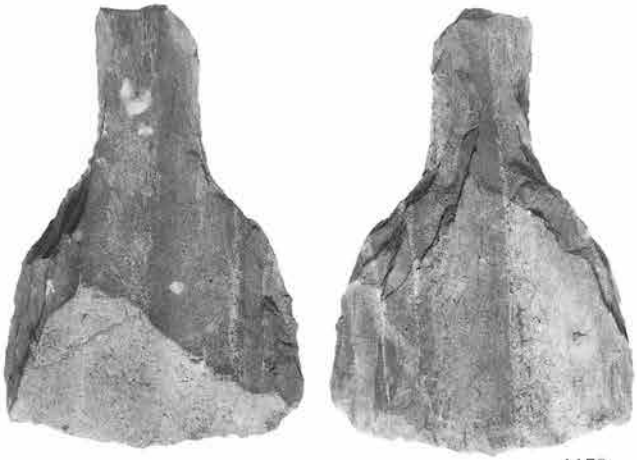


写真図版147　石斧類(1)

石斧類

1177


1178

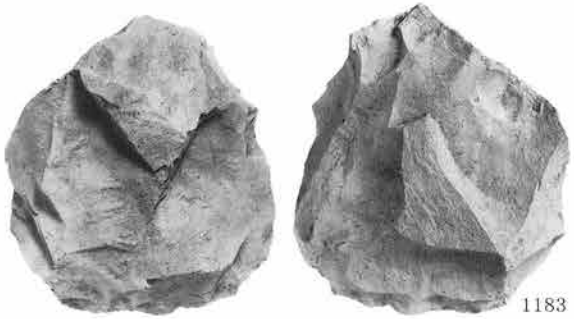

1179

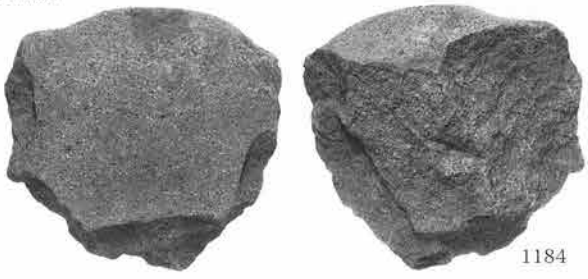
1180

1181

1182

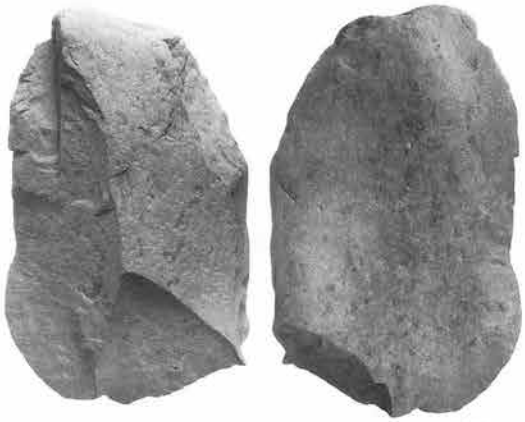
礫器類


1183

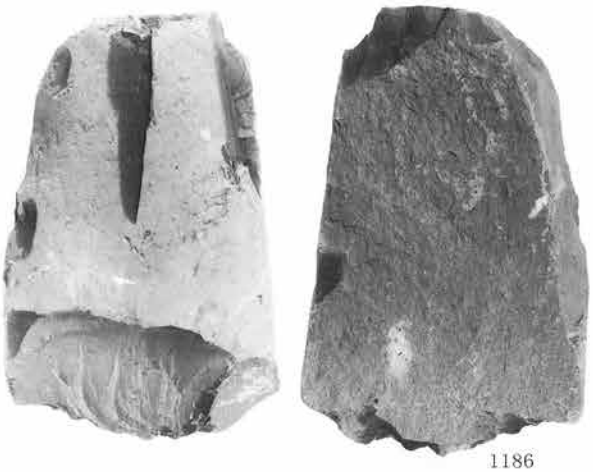

1184

写真図版148　石斧類(2)　礫器類(1)

礫器類



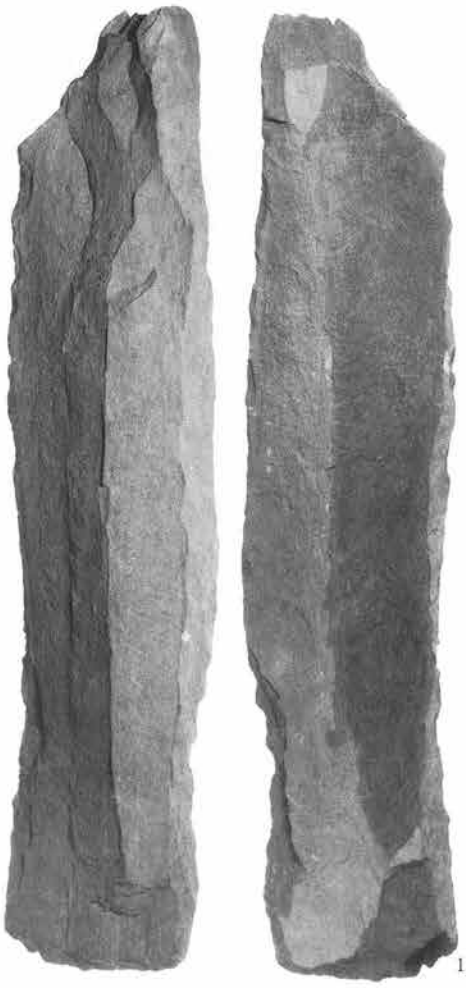
1185



1186

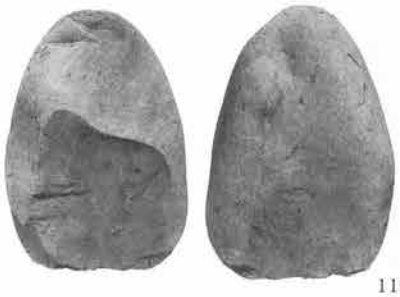
1187

1188



1189

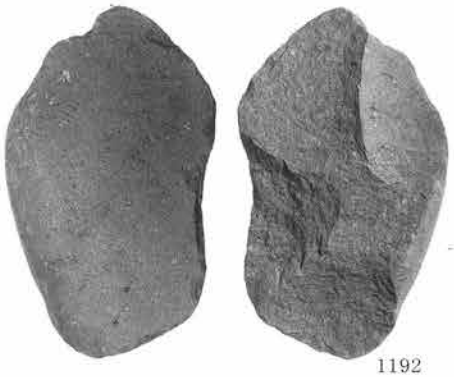
1190



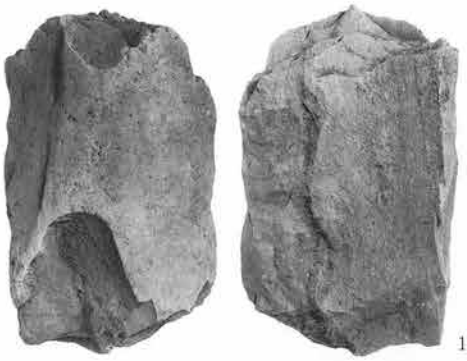
1191

写真図版149　礫器類(2)

礫器類

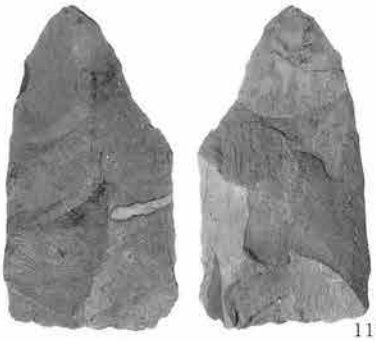


1192



1193

敲磨器類



1194

1195

1197

1196

1198

1199

1200

1201

写真図版150　礫器類(3)　敲磨器類(1)

敲磨器類

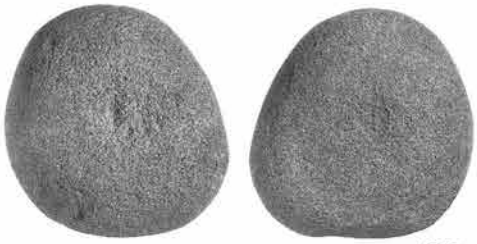
写真図版151　敲磨器類(2)

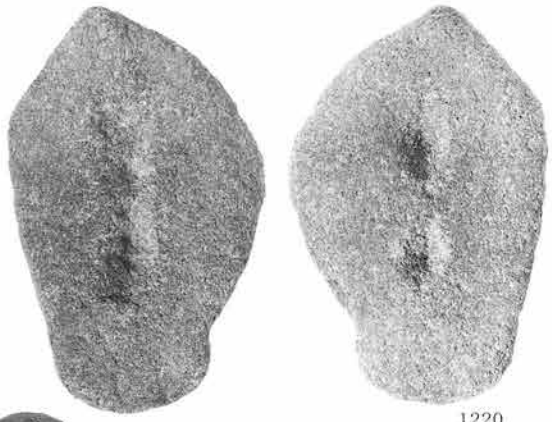
敲磨器類

1215

1216

1217


1218


1220

1219

1221

1223

1222

1224

1225

写真図版152　敲磨器類(3)

敲磨器類

写真図版153　敲磨器類(4)

敲磨器類

1238

1241

1244

1239

1240

1242

1243

1245

砥石

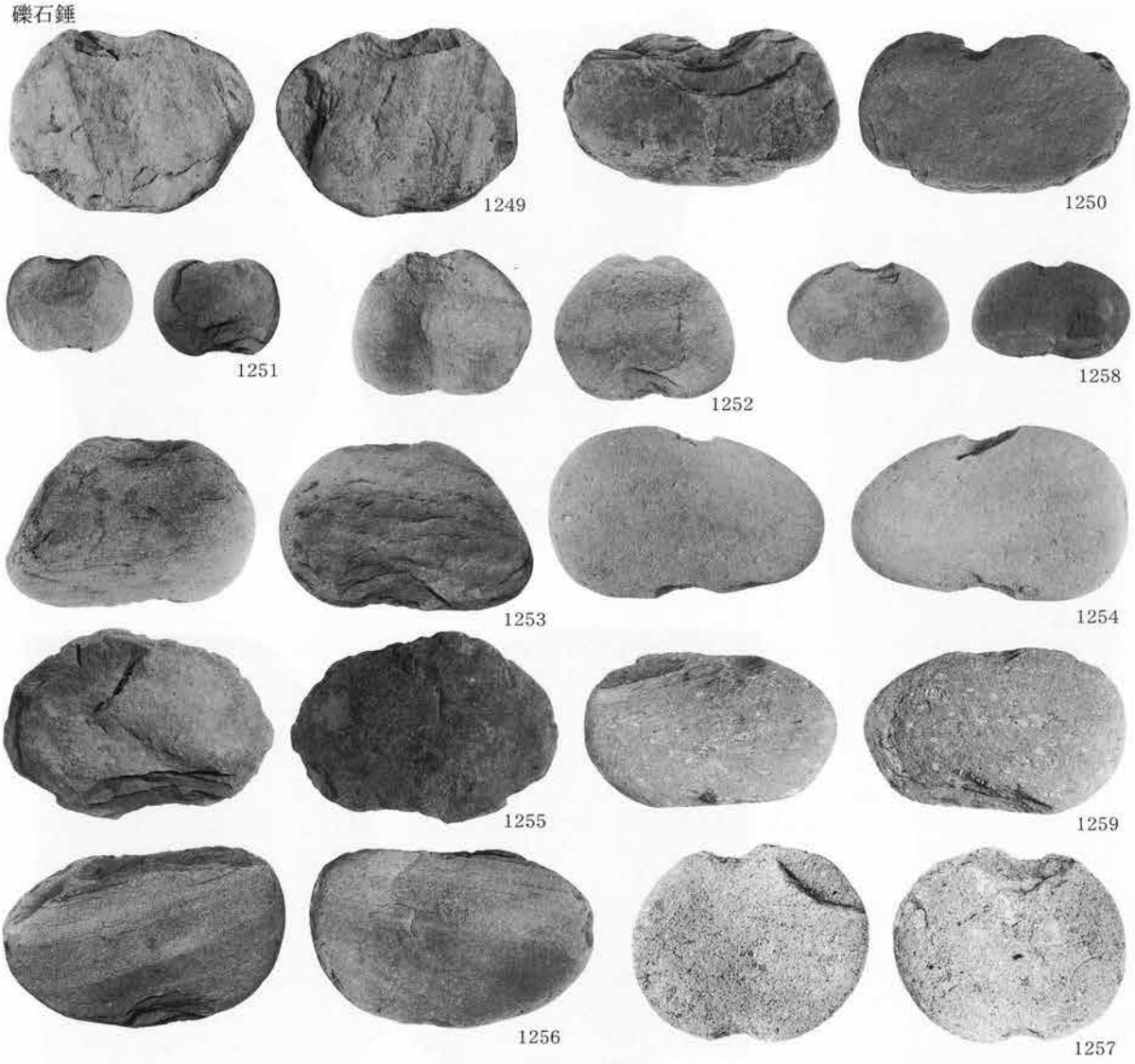
1246

1247

1248

写真図版154　敲磨器類(5)　砥石

礫石錘



石皿台石類

写真図版155　礫石錘　石皿台石類(1)

石皿台石類

1264

1262

1263

浮子

1265

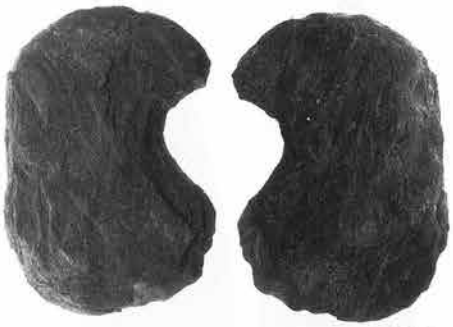
写真図版156　石皿台石類(2)　浮子

有孔垂飾・抉状耳飾・抉入石器

1266

1267

1268

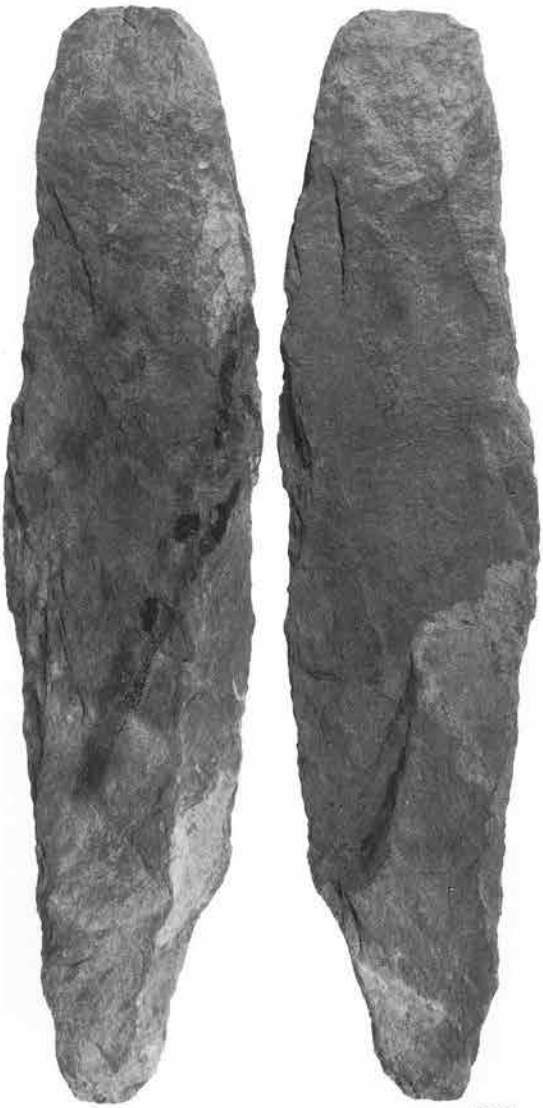


1269

石棒類

1270

1271



1273

写真図版157　石製品(1)

石棒類

1272

1274

1275

1276

1277

1278

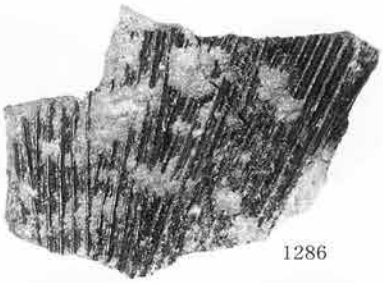
写真図版158　石製品(2)

1279

1280

1281

1282


1286

1283

1287

1285

1283

1287

1289

1288

1284

1290

1291

1288

1292

写真図版159　陶磁器　金属製品

1293

1294・1295

1294

1295

1296～1298

1296

1297

1298

1299

1300

1301

1302

1303

1304

1305

1306

1307

写真図版160　銭貨

報告書抄録

ふりがな	さとごやいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	里古屋遺跡発掘調査報告書
副書名	国道397号地域活性化支援事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第499集
編著者名	北田　勲・村田　淳・中村絵美・坂部恵造
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL　019-638-9001・9002
発行年月日	西暦2007年2月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
里古屋遺跡	岩手県気仙郡住田町世田米字里古屋8番地の2、11・12番地ほか	03441	NF14-2005	39度8分37秒	141度28分56秒	2003.04.11～09.16	2,288㎡	国道397号地域活性化支援事業に係る発掘調査
						2004.05.12～11.19	3,011㎡	
						2005.04.18～05.13、06.20～06.28	916㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
里古屋遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡37棟、住居状遺構8棟、土器埋設遺構2基、配石遺構1基、土坑46基、焼土跡23基	土器、石器（石鏃568点ほか）、石製品（石棒類24点、丸玉1点、玦状耳飾2点、不明抉入石器）、土製品（土製耳飾1点、土器片円盤16点）、焼粘土塊、動物遺存体植物遺存体	縄文時代早期末葉、前期初頭～前葉、前期後葉～後期初頭、後期～晩期	縄文時代前期後葉～後期初頭にかけて、継続的に営まれた集落跡	赤御堂式、大木2、5～10式、門前式、大洞式
		平安時代	竪穴住居跡1棟	土師器1片			
		中世	堀跡1条	銭貨		里古屋館跡に関連	
		近世	墓坑2基、井戸跡1基	陶磁器、銭貨			
		時期不明	土坑1基、炉跡1基、ピット326個、堀跡1条、溝跡5条、採掘坑3箇所				

要約　縄文時代前期後葉～後期初頭を中心とする集落跡である。遺構は大半が重複関係を持って見つかっており、遺跡が時間幅を持って営まれたことを示唆している。出土土器は、縄文時代早期末葉の赤御堂式、前期初頭～前葉の大木2式、前期後葉～中期末葉の大木5～10式、後期初頭の門前式、晩期の大洞式に各々が比定される。この他に、平安時代、中世、近世の遺構が見つかっており、特に中世と考えられる堀跡は調査区に隣接する里古屋館との関連が指摘できる遺構である。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書499集

里古屋遺跡発掘調査報告書

国道397号地域活性化支援事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成19年２月20日
発行　平成19年２月28日

発行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185
TEL（019）638－9001・9002
FAX（019）638－8563
印刷　(株)白ゆり
〒020-0122　岩手県盛岡市みたけ6丁目1－50
TEL（019）643－6060

©(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2007